西暦年	月 日	旧暦年	月 日	
1701年	1月1日	元禄13年	11月23日	陰晴 昨夜より時々雪 (金10両で米36俵半・1俵に付き14匁5分7厘)
1701年	1月2日	元禄13年	11月24日	晴 (全国の焼明立(灯台かな)の数7)
1701年	1月3日	元禄13年	11月25日	晴 (昨23日夜九つ頃浦町組大野村で火災)
1701年	1月4日	元禄13年	11月26日	晴 夜に入り雪 (昨日駒越組五代村で25・6男縊死)
1701年	1月5日	元禄13年	11月27日	晴 時々小雪 夜に入り雪
1701年	1月6日	元禄13年	11月28日	曇 今日より小寒に入る 昨夜より吹雪
1701年	1月7日	元禄13年	11月29日	曇 時々雪
1701年	1月8日	元禄13年	11月30日	陰晴 時々雪 夜に入り吹雪 (御徒の召抱え伺い:5尺5寸～5尺7寸、獄門1人)
1701年	1月9日	元禄13年	12月1日	昨夜吹雪 終夜に及ぶ
1701年	1月10日	元禄13年	12月2日	昨夜より時々吹雪 終日夜に及ぶ (13日振りの申付けに12日振りに江戸より飛脚到着・褒美100疋)
1701年	1月11日	元禄13年	12月3日	午の刻雨 申の刻に及ぶ
1701年	1月12日	元禄13年	12月4日	晴 (辰の下刻靱負(御家老)・辰の后刻木村杢之助大湯五左衛門(共に御用人)並びに大目付両人登 城:辰后刻より辰下刻の方が時刻的に後であることが分かる)
1701年	1月13日	元禄13年	12月5日	晴 (所々御門:御玄関前・武者屯・内南・大手の順(長勝寺参詣))
1701年	1月14日	元禄13年	12月6日	陰晴 昨夜より雪時々 終日 夜に及ぶ
1701年	1月15日	元禄13年	12月7日	曇 雪 終日終夜に及ぶ 又雪吹 (先月中1ヶ月碇関出人都合287人・同所入り人都合278人・出入り人数合565人)
1701年	1月16日	元禄13年	12月8日	時々吹雪 終日に及ぶ 夜に入り大吹雪
1701年	1月17日	元禄13年	12月9日	大吹 終夜に及ぶ (江戸より13日振りに仰せ付けの飛脚が道中大雪で16日振りに着く)
1701年	1月18日	元禄13年	12月10日	陰晴 小雪時々 (大間越町に売買米なし・御蔵米40俵願い・1俵に付き19匁2分で40俵御払い申付ける)
1701年	1月19日	元禄13年	12月11日	陰晴 辰の后刻小雪 時々雪 又夜に入り小雪
1701年	1月20日	元禄13年	12月12日	晴 (御家中の家来3人斬罪(欠落・脇道抜)・新城村の盗人斬罪・方々流浪もの斬罪・蔵破り磔・越山戻り磔・女房切り殺し斬罪)
1701年	1月21日	元禄13年	12月13日	曇 大雪降り終日 夜に及ぶ (弘前に飼い主がいない犬を在に送ることにする)
1701年	1月22日	元禄13年	12月14日	曇 雪時々 終夜に及ぶ
1701年	1月23日	元禄13年	12月15日	陰晴 未の中刻より小雪時々 (未の后刻耕春院本堂出火)
1701年	1月24日	元禄13年	12月16日	曇 小雪時々 (所々御門:御玄関前・武者屯・内東御門・外東御門(東照宮参詣))
1701年	1月25日	元禄13年	12月17日	晴 時々雪 (11月中碇関口出入り人数:出人都合287人・入り人都合278人・〆人数565人)
1701年	1月26日	元禄13年	12月18日	陰晴 小風
1701年	1月27日	元禄13年	12月19日	曇 大吹雪 (切支丹類族矢野某死去)
1701年	1月28日	元禄13年	12月20日	陰晴 小雪
1701年	1月29日	元禄13年	12月21日	晴 夜に入り小雪 (御能、19日大東風・内真辺前濱で破船1艘、飼い主のない犬160疋を在に・残り15疋)
1701年	1月30日	元禄13年	12月22日	陰晴 時々小雪 (19日の大荒れに伴い少なくとも破船4艘)
1701年	1月31日	元禄13年	12月23日	陰晴 時々雪 (秋元但馬守任官等に祝い書送る)
1701年	2月1日	元禄13年	12月24日	陰晴 時々小雪 終日夜に及ぶ
1701年	2月2日	元禄13年	12月25日	陰晴 昨夜より雪 巳の刻に及ぶ
1701年	2月3日	元禄13年	12月26日	晴
1701年	2月4日	元禄13年	12月27日	陰晴 夜に入り雪
1701年	2月5日	元禄13年	12月28日	陰晴 昨夜より小雪 卯の刻迄
1701年	2月6日	元禄13年	12月29日	晴 (水戸中納言死去・悔みの使者出す、25日廻関村百姓の婿自害)
1701年	2月7日	元禄13年	12月30日	晴
1701年	2月8日	元禄14年	正月1日	陰晴 小雪時々 夜に入り雪
1701年	2月9日	元禄14年	正月2日	曇 昨夜より雪 辰の中刻大吹雪 午の下刻止む (吉例として江戸へ200両差上げる)
1701年	2月10日	元禄14年	正月3日	曇 未の刻より雪 夜に入り大吹雪 (謡い初め)
1701年	2月11日	元禄14年	正月4日	曇 吹雪 終日夜に及ぶ
1701年	2月12日	元禄14年	正月5日	陰晴 未の刻雪時々
1701年	2月13日	元禄14年	正月6日	曇 辰の中刻より雪 終日夜に及ぶ
1701年	2月14日	元禄14年	正月7日	晴
1701年	2月15日	元禄14年	正月8日	曇 大吹雪 夜に及ぶ (3日朝六つ半時松神村沖にカミ切の女鯨(長さ6尋)寄せる)
1701年	2月16日	元禄14年	正月9日	快晴
1701年	2月17日	元禄14年	正月10日	晴 未の下刻雪 夜に及ぶ
1701年	2月18日	元禄14年	正月11日	陰晴 雪時々 夜に及ぶ
1701年	2月19日	元禄14年	正月12日	曇 辰の中刻雪 終日に及ぶ 夜に入り大寒 (能・狂言)
1701年	2月20日	元禄14年	正月13日	陰晴 昨夜より大雪 巳の下刻迄 申の下刻より雪 夜に及ぶ
1701年	2月21日	元禄14年	正月14日	陰晴 雪
1701年	2月22日	元禄14年	正月15日	晴
1701年	2月23日	元禄14年	正月16日	陰晴 雪時々 終日夜に及ぶ
1701年	2月24日	元禄14年	正月17日	曇 小雪 風時々 終日に及ぶ (去12月中碇関口出人数284人・同所入り人数208人)
1701年	2月25日	元禄14年	正月18日	陰晴 小雪時々 夜に入り小雪時々
1701年	2月26日	元禄14年	正月19日	曇 昨夜より雨 巳の刻に及び止む それより時々 夜に及ぶ
1701年	2月27日	元禄14年	正月20日	陰晴 亥の刻雷発す (江戸柳原中屋敷の坪数等)
1701年	2月28日	元禄14年	正月21日	陰晴 卯の刻より小雨 巳の中刻に及ぶ 辰の后刻雷発す 未の中刻より吹雪 夜に及ぶ

1701年　3月1日 元禄14年正月22日　陰晴　時々雪　夜に及ぶ
1701年　3月2日 元禄14年正月23日　陰晴　時々雪　終日に及ぶ　夜に入り雪
1701年　3月3日 元禄14年正月24日　陰晴　時々雪　夜に入り雪
1701年　3月4日 元禄14年正月25日　陰晴　昨夜より雪　午の刻止む
1701年　3月5日 元禄14年正月26日　晴
1701年　3月6日 元禄14年正月27日　快晴
1701年　3月7日 元禄14年正月28日　曇　寅の刻小雨　巳の刻より時々小雪　(昨夜常磐組柳村で女乞食が狼に喰われる)
1701年　3月8日 元禄14年正月29日　陰晴　卯の刻雪　亥の中刻に及ぶ　辰の中刻地震　時々小雪　夜に入る
1701年　3月9日 元禄14年正月30日　陰晴　昨夜より卯の中刻迄小風
1701年　3月10日 元禄14年　2月1日 陰晴　申の后刻小雨時々　夜に入り小雨
1701年　3月11日 元禄14年　2月2日 陰晴　時々雪　終日終夜に及ぶ　夜に入り風雪
1701年　3月12日 元禄14年　2月3日 曇　吹雪終日　夜に入り風止む
1701年　3月13日 元禄14年　2月4日 陰晴　昨夜より小雪時々　終日に及ぶ　夜に入り雪　(正月中御関所出入り都合8人・切手数3枚、御徒明跡の目論み3人・5尺5寸1分～5尺4寸)
1701年　3月14日 元禄14年　2月5日 陰晴　昨夜より雪時々　終日に及ぶ　夜に入り大雪
1701年　3月15日 元禄14年　2月6日 曇　小雪時々　終日に及ぶ
1701年　3月16日 元禄14年　2月7日 晴　卯の刻小雪　暫くして止む　(5日晩大鰐村で女乞食倒死)
1701年　3月17日 元禄14年　2月8日 晴　(土手後新町の男行方不明、3日朝今別で雪なて(雪崩のこと)・3人死亡、先月15日出火の耕春院が遠慮に及ばずとの事、6日藤代組北浮田村で40程男倒死)
1701年　3月18日 元禄14年　2月9日 曇　昨夜より雨　終夜に及ぶ　又夜に入り風　(先月中碇関口出人数113人・同入り人数184人・都合297人、古懸不動尊出汗)
1701年　3月19日 元禄14年　2月10日 晴
1701年　3月20日 元禄14年　2月11日 曇　卯の刻より雪　午の后刻雨　終日夜に及ぶ
1701年　3月21日 元禄14年　2月12日 陰晴　小雪時々　(組頭・番頭・奉行等の氏名あり)
1701年　3月22日 元禄14年　2月13日 曇　雪時々
1701年　3月23日 元禄14年　2月14日 晴　(千年山の福寿草咲く)
1701年　3月24日 元禄14年　2月15日 晴
1701年　3月25日 元禄14年　2月16日 晴　彼岸入り　(今10日夜東長町の2階より盗人入る)
1701年　3月26日 元禄14年　2月17日 快晴
1701年　3月27日 元禄14年　2月18日 曇
1701年　3月28日 元禄14年　2月19日 晴
1701年　3月29日 元禄14年　2月20日 快晴
1701年　3月30日 元禄14年　2月21日 晴　夜に入り小雪　(18日の雨で19日に柏木組で水湛・往来不能)
1701年　3月31日 元禄14年　2月22日 晴　(御徒全員の氏名あり)
1701年　4月1日 元禄14年　2月23日 晴　(御能、22日夜境堰渡し洪水)
1701年　4月2日 元禄14年　2月24日 陰晴
1701年　4月3日 元禄14年　2月25日 曇　卯の下刻小雪　則止む　午の中刻吹雪　則止む　(平川等の水被害の記述あり)
1701年　4月4日 元禄14年　2月26日 晴
1701年　4月5日 元禄14年　2月27日 晴　丑の上刻地震　　下から続く　　支配方99)・小荷駄7疋(内2疋支配方)・乗馬なし、1日早く12日振りに江戸から着いた飛脚に褒美100疋宛)
1701年　4月6日 元禄14年　2月28日 快晴　今朝霜見える　(切支旦宗門御改の覚:男1575人(上1165・下410)・女1256人(上1016・下240)・禅1872・浄土503・法花198・門徒182・天台28・真言48・家屋敷165軒(内　　上に続く
1701年　4月7日 元禄14年　2月29日 晴
1701年　4月8日 元禄14年　3月1日 晴
1701年　4月9日 元禄14年　3月2日 晴
1701年　4月10日 元禄14年　3月3日 晴
1701年　4月11日 元禄14年　3月4日 曇　寅の中刻雨時々　終夜に及ぶ　(去朔日晩鰺ヶ沢沖で2人死亡)
1701年　4月12日 元禄14年　3月5日 昨夜より雨　辰の下刻丸雪　暫くして又雨　夜に及ぶ
1701年　4月13日 元禄14年　3月6日 晴　(大人事異動)
1701年　4月14日 元禄14年　3月7日 未の刻より曇　同下刻より雨時々　終夜に及ぶ
1701年　4月15日 元禄14年　3月8日 辰の下刻より霙　風時々　終夜に及ぶ　戌の刻止む　(先月中碇関口出人数157人・同所入り人数258人・都合415人)
1701年　4月16日 元禄14年　3月9日 晴
1701年　4月17日 元禄14年　3月10日 陰晴　(3月9日水木村で男道心切り殺される)
1701年　4月18日 元禄14年　3月11日 晴　大霜
1701年　4月19日 元禄14年　3月12日 土用　午の四刻入る　(工藤嘉左衛門勘定所見習いに)
1701年　4月20日 元禄14年　3月13日 晴
1701年　4月21日 元禄14年　3月14日 晴　小風
1701年　4月22日 元禄14年　3月15日 風雨　巳の中刻より終日に及ぶ
1701年　4月23日 元禄14年　3月16日 時々小雨　夜に入り霙風
1701年　4月24日 元禄14年　3月17日 昨夜中より雪時々　終夜に及ぶ
1701年　4月25日 元禄14年　3月18日 小雨　雪時々
1701年　4月26日 元禄14年　3月19日 陰晴
1701年　4月27日 元禄14年　3月20日 陰晴　(3月8日江戸発の飛脚到着)
1701年　4月28日 元禄14年　3月21日 晴　(16日の大風で後潟組板木沢沖で破船1艘)
1701年　4月29日 元禄14年　3月22日 快晴
1701年　4月30日 元禄14年　3月23日 晴　夜に入り雨

1701年　5月1日 元禄14年　3月24日 陰晴　昨夜より雨時々　巳の刻に及び止む
1701年　5月2日 元禄14年　3月25日 晴　未の中刻小雨　則刻止む （成田某が水仙花差上げる）
1701年　5月3日 元禄14年　3月26日 晴
1701年　5月4日 元禄14年　3月27日 晴 （昨26日亀甲町で男自害）
1701年　5月5日 元禄14年　3月28日 晴
1701年　5月6日 元禄14年　3月29日 晴 （2月中碇関口他領への出人〆て9人）
1701年　5月7日 元禄14年　3月30日 曇
1701年　5月8日 元禄14年　4月1日 小風　巳の刻雨　則止む
1701年　5月9日 元禄14年　4月2日 晴
1701年　5月10日 元禄14年　4月3日 晴
1701年　5月11日 元禄14年　4月4日 晴　未の刻より戌の刻より(までの意の誤記か)雨
1701年　5月12日 元禄14年　4月5日 曇　昨夜より雨　午の刻に及ぶ　午の中刻より時々雨
1701年　5月13日 元禄14年　4月6日 曇 （昨5日古懸不動尊御出汗）
1701年　5月14日 元禄14年　4月7日 なし(天気の記述がない)
1701年　5月15日 元禄14年　4月8日 陰晴 （3月27日江戸発の飛脚到着）
1701年　5月16日 元禄14年　4月9日 晴　巳の刻まで曇　巳の刻過ぎより晴 （当3月中所々御関所出人31人・切手紙23枚）
1701年　5月17日 元禄14年　4月10日 晴
1701年　5月18日 元禄14年　4月11日 晴
1701年　5月19日 元禄14年　4月12日 晴 （当3月中碇関往還:出人178人・入り人243人・出入り人数合421人）
1701年　5月20日 元禄14年　4月13日 晴
1701年　5月21日 元禄14年　4月14日 晴
1701年　5月22日 元禄14年　4月15日 曇　巳の刻より小雨時々
1701年　5月23日 元禄14年　4月16日 曇
1701年　5月24日 元禄14年　4月17日 晴　今朝霜
1701年　5月25日 元禄14年　4月18日 陰晴　卯の中刻雨時々　巳の刻に及び止む （兵庫殿の子供佐内殿乱心の様子あり）
1701年　5月26日 元禄14年　4月19日 陰晴　辰の刻より雨時々　夜に入り風雨 （今日勧進能・見物者1200～1300人・この状態が数日続く）
1701年　5月27日 元禄14年　4月20日 昨夜より風雨 （昨夜四つ半頃高杉組高屋村で火災2軒(4間×5間と5間×6間:共に高無)）
1701年　5月28日 元禄14年　4月21日 晴 （御郡中惣人数調べを寺社奉行疋田某提案・申し渡し）
1701年　5月29日 元禄14年　4月22日 陰晴
1701年　5月30日 元禄14年　4月23日 晴 （昨22日酉の刻間宮十太夫死去）
1701年　5月31日 元禄14年　4月24日 晴　寅の刻地震
1701年　6月1日 元禄14年　4月25日 快晴
1701年　6月2日 元禄14年　4月26日 晴
1701年　6月3日 元禄14年　4月27日 晴
1701年　6月4日 元禄14年　4月28日 快晴 （26日四時過ぎ袰月高野崎へ死骸寄せる）
1701年　6月5日 元禄14年　4月29日 晴 （植初4月27日・去年4月17日・去去年5月9日、御徒召抱え3人(勢5尺4寸5分～5尺4寸・24歳～20歳)）
1701年　6月6日 元禄14年　5月1日 晴
1701年　6月7日 元禄14年　5月2日 晴
1701年　6月8日 元禄14年　5月3日 晴
1701年　6月9日 元禄14年　5月4日 陰晴　辰の后刻より雨時々　未の刻まで
1701年　6月10日 元禄14年　5月5日 晴
1701年　6月11日 元禄14年　5月6日 なし(天気の記述がない) （能）
1701年　6月12日 元禄14年　5月7日 午の刻より雨時々　終夜に及ぶ
1701年　6月13日 元禄14年　5月8日 陰晴　昨夜より雨時々 （昨夜新寺町の男新町川に身投げ死亡、同4月中御関所出人都合出入70人）
1701年　6月14日 元禄14年　5月9日 曇　午の刻小風　未の刻止む （御能、南溜池で網引・鮒2尺(1尺2寸余と6寸ほど)上がる、鯵ヶ沢から出た船(8日)明六つ前七つ石で破船・5人行方不明(12日に2人死亡2人行方不明)となる）
1701年　6月15日 元禄14年　5月10日 晴
1701年　6月16日 元禄14年　5月11日 快晴 （9日姥嶋村牛嶋沖で破船1艘）
1701年　6月17日 元禄14年　5月12日 晴 （代官氏名あり、米1俵値段18匁(内8分が沖役)、8日大風・鯵ヶ沢七つ石で死亡・行方不明各2人、11日昼赤石組石動村で火災1軒(3間×4間)米8斗、8日昼大間越と深浦で破船各1艘）
1701年　6月18日 元禄14年　5月13日 晴
1701年　6月19日 元禄14年　5月14日 晴 （8日秋田船川沖で破船3:この船も鯵ヶ沢から米を積んだもの）
1701年　6月20日 元禄14年　5月15日 快晴 （巳の上刻江戸へ御発駕）
1701年　6月21日 元禄14年　5月16日 陰晴　午の后刻甚だしい雨雪(雪と書いてある:雹か)　雷　同下刻則止む
1701年　6月22日 元禄14年　5月17日 卯の下刻雨　巳の刻止む （御家中の家来が行列に紛れて伊勢参宮を狙っていた者捕まる・後日牢舎）
1701年　6月23日 元禄14年　5月18日 快晴
1701年　6月24日 元禄14年　5月19日 快晴
1701年　6月25日 元禄14年　5月20日 快晴 （雨降がたく水不足・自費で雨祭したい→了）
1701年　6月26日 元禄14年　5月21日 晴　未の后刻より雨　夜に及ぶ
1701年　6月27日 元禄14年　5月22日 昨夜より雨時々　午の后刻に及び止む　夜に入り少し雨 （8日の破船に伴う濡れ米3599俵の値段あり・1俵に付き7匁6分6厘2毛など、初胡瓜5大鰐御菜園より上がる）
1701年　6月28日 元禄14年　5月23日 曇　昨夜より雨　未の中刻止む　夜に入り少し雨 （13日昼大間越の正道尻村沖に水船流れ寄せる）
1701年　6月29日 元禄14年　5月24日 曇　昨夜より少し雨時々 （2月9日藤崎渡しの仮橋流れる、暮六つ過ぎ御家中の下女縊死）
1701年　6月30日 元禄14年　5月25日 晴

1701年　7月1日 元禄14年　5月26日 快晴
1701年　7月2日 元禄14年　5月27日 陰晴　寅の中刻小雨　則止む　午の刻小雨　則止む
1701年　7月3日 元禄14年　5月28日 陰晴　昨夜より雨時々　午の刻甚だしい雨　雷暫く　同中刻晴
1701年　7月4日 元禄14年　5月29日 陰晴
1701年　7月5日 元禄14年　5月30日 今朝霞　夜に入り小雨　(28日の洪水被害、4月中碇関口出人297人・入り人274人・人数合571人)
1701年　7月6日 元禄14年　6月1日 曇　小雨時々
1701年　7月7日 元禄14年　6月2日 陰晴
1701年　7月8日 元禄14年　6月3日 陰晴
1701年　7月9日 元禄14年　6月4日 快晴　今朝霧　(お手筒の紛失などがあり弛んでいる、土地不案内を理由に狼打ちを断ったのも居たね)
1701年　7月10日 元禄14年　6月5日 陰晴　巳の下刻小雨　則止む
1701年　7月11日 元禄14年　6月6日 快晴
1701年　7月12日 元禄14年　6月7日 快晴
1701年　7月13日 元禄14年　6月8日 快晴　午の刻過ぎ地震　(本年の田植え面積は20,894.5町歩)
1701年　7月14日 元禄14年　6月9日 陰晴　小風　申の中刻より雨　夜に及ぶ
1701年　7月15日 元禄14年　6月10日 曇　昨夜の雨降続く
1701年　7月16日 元禄14年　6月11日 陰晴　(進藤庄兵衛が4月知行召上げ)
1701年　7月17日 元禄14年　6月12日 曇　巳の中刻より時々小雨　終日夜に及ぶ　(御家中知行米・御切米の内7月渡し分が16,571俵2斗余)
1701年　7月18日 元禄14年　6月13日 晴　(兵庫殿歩行不自由になる)
1701年　7月19日 元禄14年　6月14日 晴　夜に入り雨　戌の二刻土用入り　未の中刻東風
1701年　7月20日 元禄14年　6月15日 陰晴　昨夜より雨　辰の刻に及び止む　未の下刻より夜中雨　(岩木川洪水で流木あり)
1701年　7月21日 元禄14年　6月16日 曇　巳の中刻より時々雨　小風　(屋形様去2日江戸着)
1701年　7月22日 元禄14年　6月17日 曇　昨夜より雨時々　巳の中刻に及び止む
1701年　7月23日 元禄14年　6月18日 曇　(大鰐御菜園場より上がった初真瓜と茄子の粕漬けを江戸に送る、上野の古井戸に狼が入り死ぬ、兵庫殿死去、10日頃より東風)
1701年　7月24日 元禄14年　6月19日 曇　(一昨17日古懸不動尊・二童子とも御出汗・御山に祈祷仰せ付ける、頃日天気相悪敷稲へ虫多く付いたとの事)
1701年　7月25日 元禄14年　6月20日 陰晴
1701年　7月26日 元禄14年　6月21日 曇　小雨時々　終日に及ぶ
1701年　7月27日 元禄14年　6月22日 晴　(江戸よりの飛脚に山上源六、16日夜より17日まで蟹田川洪水・流木などあり、行列に紛れて関を抜けようとした御家中の家来(5月17日記述)を南部口追放)
1701年　7月28日 元禄14年　6月23日 曇　申の下刻小雨暫く　(巳の5月(今年の5月)中御関所出入り122人・切手数77枚、碇関口出入り都合1111人・入り人都合307人・都合出入り人数1418人)
1701年　7月29日 元禄14年　6月24日 快晴　(15日大光寺海道庄司川橋脇洪水で破損)
1701年　7月30日 元禄14年　6月25日 曇　卯の后刻小雨暫く　午の刻大雨
1701年　7月31日 元禄14年　6月26日 晴
1701年　8月1日 元禄14年　6月27日 陰晴　今朝卯の刻前より雨　東風吹く　卯の中刻止む
1701年　8月2日 元禄14年　6月28日 曇　巳の刻より大雨
1701年　8月3日 元禄14年　6月29日 晴
1701年　8月4日 元禄14年　7月1日 陰晴　(去月23日平館沖で破船1艘、15日鰺ヶ沢で洪水・流木32310挺(本))
1701年　8月5日 元禄14年　7月2日 陰晴　辰の后刻雨　則止む　午の后刻雨　則止む
1701年　8月6日 元禄14年　7月3日 曇　巳の刻少し雨時々　午の刻大雨　暫くして止む
1701年　8月7日 元禄14年　7月4日 晴　(先月29日碇関で橋など破損)
1701年　8月8日 元禄14年　7月5日 陰晴　卯の上刻小雨　則止む　(先月17・18日大間越に流木58本)
1701年　8月9日 元禄14年　7月6日 晴
1701年　8月10日 元禄14年　7月7日 晴　(去月24日轟村に流木10本)
1701年　8月11日 元禄14年　7月8日 晴
1701年　8月12日 元禄14年　7月9日 晴
1701年　8月13日 元禄14年　7月10日 快晴　残暑甚だしい　(小沢で200目の大筒15町・18町放つ、土用中の朝夕は綿入れを着用した・6日からは晴暖かくなる)
1701年　8月14日 元禄14年　7月11日 快晴　残暑甚だしい　(秋田領院内辺り洪水との事)
1701年　8月15日 元禄14年　7月12日 快晴　残暑大いに甚だしい(快晴　残暑大ニ甚)
1701年　8月16日 元禄14年　7月13日 快晴　残暑甚だしい　(6月17日蟹田川洪水(6月22日記述)の流木6142本上げる、会津から御蔵漆100目を7匁で買いたいとの事)
1701年　8月17日 元禄14年　7月14日 快晴　酉の下刻小風　早速大雨　則止む
1701年　8月18日 元禄14年　7月15日 晴
1701年　8月19日 元禄14年　7月16日 晴　(大鰐御菜園より初米上がる)
1701年　8月20日 元禄14年　7月17日 晴
1701年　8月21日 元禄14年　7月18日 曇　時々雨
1701年　8月22日 元禄14年　7月19日 晴
1701年　8月23日 元禄14年　7月20日 快晴　残暑甚だしい
1701年　8月24日 元禄14年　7月21日 晴　(門外村道之川の五右衛門から例年の初米上がる)
1701年　8月25日 元禄14年　7月22日 曇　時々雨
1701年　8月26日 元禄14年　7月23日 晴　残暑
1701年　8月27日 元禄14年　7月24日 快晴　残暑甚だしい
1701年　8月28日 元禄14年　7月25日 曇　辰の中刻雷大雨　巳の下刻止む
1701年　8月29日 元禄14年　7月26日 晴　残暑甚だしい
1701年　8月30日 元禄14年　7月27日 晴　(22日堤川の洪水で流木6万本余)
1701年　8月31日 元禄14年　7月28日 陰晴　午の中刻より雨　夜中に及ぶ

1701年　9月1日 元禄14年　7月29日 陰晴　昨夜より雨時々　巳の刻に及ぶ
1701年　9月2日 元禄14年　7月30日 曇　時々少し雨
1701年　9月3日 元禄14年　8月1日 晴
1701年　9月4日 元禄14年　8月2日 晴　(百沢寺より岩木山の苔の実上がる)
1701年　9月5日 元禄14年　8月3日 曇　寅の中刻より小雨時々　(下鍛冶町で男自害)
1701年　9月6日 元禄14年　8月4日 晴
1701年　9月7日 元禄14年　8月5日 陰晴
1701年　9月8日 元禄14年　8月6日 晴　辰の后刻より雨　終日　(当7月中野内出入り:出人〆73人・入り人〆103人・都合176人、7月中大間越出入り:出人37人・入り人98人・都合139人)
1701年　9月9日 元禄14年　8月7日 陰晴　昨日よりの雨時々　今日巳の中刻に及び止む　(6日よりの雨で今朝五時藤崎川洪水・仮橋引取り舟にて往還)
1701年　9月10日 元禄14年　8月8日 晴
1701年　9月11日 元禄14年　8月9日 晴　申の刻より小雨　(当7月碇関口出人267人小荷駄9疋・入り人数都合480人・出入り人都合747人)
1701年　9月12日 元禄14年　8月10日 曇　昨夜子の刻より大雨終日　夜に及ぶ
1701年　9月13日 元禄14年　8月11日 曇　昨夜よりの大雨　終日終夜に及ぶ　(平川・藤崎川洪水)　下から続く　・東長町の橋・薬王院の橋が落ちる、朔日暮に23男行方不明)
1701年　9月14日 元禄14年　8月12日 曇　未の刻雷発す　昨夜より大雨　今日も終日に及ぶ　夜に入り雨時々　(神明等7社に天気晴の祈祷を命ずる、洪水で奉行が各地を検分、土手町大橋・御徒町の橋　上に続く
1701年　9月15日 元禄14年　8月13日 陰晴
1701年　9月16日 元禄14年　8月14日 晴
1701年　9月17日 元禄14年　8月15日 陰晴　(9日から12日の洪水被害状況(鯵ヶ沢山崩・落橋、蟹田川近年覚えなき大洪水、大川筋残らず水湛、碇関街道橋多数落ちるなど))
1701年　9月18日 元禄14年　8月16日 陰晴　(小国新田の5町2反歩が川下・水押し、蟹田御材木流出1500本ほど)
1701年　9月19日 元禄14年　8月17日 曇　巳の刻より小雨　終日夜に及ぶ　下から続く　11町4反4畝・畑被害215町1反4畝)
1701年　9月20日 元禄14年　8月18日 小雨終日　未の刻止む　夜に入り小雨風　(平川の流木80000本(内33000本流失)・岩木川の流木15000本(内14060本流失)・計95000本(47940本上げ47060本失う)、田被害　上に続く
1701年　9月21日 元禄14年　8月19日 陰晴　昨夜より小雨時々　巳の刻に及び止む　巳の中刻小風　(平川の流木111300本(内64300本流失)に訂正、6月15日の洪水による流失は55000本)
1701年　9月22日 元禄14年　8月20日 晴
1701年　9月23日 元禄14年　8月21日 陰晴
1701年　9月24日 元禄14年　8月22日 陰晴　午の下刻小雨　則止む
1701年　9月25日 元禄14年　8月23日 陰晴　寅の中刻雨　卯の上刻止む　辰の后刻雨　則時止む　(金木組脇元村より初鮭1本上がる)
1701年　9月26日 元禄14年　8月24日 晴
1701年　9月27日 元禄14年　8月25日 晴
1701年　9月28日 元禄14年　8月26日 晴
1701年　9月29日 元禄14年　8月27日 晴　(大道寺隼人病死)　下から続く　門徒1・天台0・真言16・家屋敷23軒・小荷駄と乗馬0疋、御用人支配(小姓組みを含むのか否かは不明))切支丹……の覚え:　下の欄外(*)に続く
1701年　9月30日 元禄14年　8月28日 曇　昨夜より雨終日　(船中の米拝借願い1俵21匁5分で出す、小姓組支配中切支丹家門御改めの覚え:男204人(上82・下122)・女135(上70・下65)・禅227・浄土73・法花22・　上に続く
1701年　10月1日 元禄14年　8月29日 曇　昨夜より小雨時々　(赤石組赤石川より2番鮭上がる)
1701年　10月2日 元禄14年　9月1日 曇　終日時々雨　(今別の御蔵米1俵21匁5分で御用木積み船に御払い、当月12日の洪水に伴う川成等被害:田方9町8反7畝12歩・畑方6町6反5畝23歩)
1701年　10月3日 元禄14年　9月2日 晴
1701年　10月4日 元禄14年　9月3日 晴
1701年　10月5日 元禄14年　9月4日 晴　(1日鯵ヶ沢で破船1艘)
1701年　10月6日 元禄14年　9月5日 曇　雨　未の刻止む
1701年　10月7日 元禄14年　9月6日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ
1701年　10月8日 元禄14年　9月7日 陰晴
1701年　10月9日 元禄14年　9月8日 今朝初めて大雪(記述は「雪」であるが「霜」の誤りかもしれない・11月12日に10月8日に初雪との記述もある)見る　(造酒之丞殿5日より食事なし)
1701年 10月10日 元禄14年　9月9日 快晴　朝霜
1701年 10月11日 元禄14年　9月10日 晴　申の中刻雷数発　稲光甚だしい　小雨時々
1701年 10月12日 元禄14年　9月11日 晴
1701年 10月13日 元禄14年　9月12日 晴
1701年 10月14日 元禄14年　9月13日 晴
1701年 10月15日 元禄14年　9月14日 晴　(造酒之丞殿死去)
1701年 10月16日 元禄14年　9月15日 曇　今日始めて岩木山の頂上に雪見る
1701年 10月17日 元禄14年　9月16日 曇
1701年 10月18日 元禄14年　9月17日 曇
1701年 10月19日 元禄14年　9月18日 昨申の下刻より雨時々　終日に及ぶ
1701年 10月20日 元禄14年　9月19日 曇　午の下刻より少し雨　(8月12日の洪水の修復内容)
1701年 10月21日 元禄14年　9月20日 曇　少し風
1701年 10月22日 元禄14年　9月21日 曇　(三馬屋村から梨子上がる)
1701年 10月23日 元禄14年　9月22日 陰晴　時々小雨
1701年 10月24日 元禄14年　9月23日 晴
1701年 10月25日 元禄14年　9月24日 陰晴
1701年 10月26日 元禄14年　9月25日 曇
1701年 10月27日 元禄14年　9月26日 昨夜中より雨降　終日
1701年 10月28日 元禄14年　9月27日 陰晴
1701年 10月29日 元禄14年　9月28日 晴　大雪今朝見る(これも9月8日同様「大霜」の誤りかもしれない:ここ数日降水に関する記述もない・11月12日には10月8日に初雪との記述もある)
1701年 10月30日 元禄14年　9月29日 晴
1701年 10月31日 元禄14年　10月1日 晴　霜

(*)　惣人数2819人(この人数は男女比などで不自然)・男1768人(上男1169・下男699)・女951人(上女594・下女357)・禅1640・浄土505・法花403・門徒188・天台31・真言62・家屋敷53軒・同支配方103軒・小荷駄6疋・同支配方1疋・乗馬0匹、稲かかミ申さぬ(必ずしも実が入っていない:不作)村々多い)

1701年　11月1日 元禄14年　10月2日 晴
1701年　11月2日 元禄14年　10月3日 晴
1701年　11月3日 元禄14年　10月4日 晴 （9月中野内口出人66人馬3疋・入り人64人・都合130人）
1701年　11月4日 元禄14年　10月5日 曇 巳の下刻小雨時々　終日に及ぶ
1701年　11月5日 元禄14年　10月6日 曇 辰の下刻より雨　終日に及ぶ
1701年　11月6日 元禄14年　10月7日 曇 卯の下刻より霙終日　夜に入り雪
1701年　11月7日 元禄14年　10月8日 曇 昨夜より雪　二寸ほど積る　時々小雪　夜に入り止む
1701年　11月8日 元禄14年　10月9日 晴 （鮭留め入札:新田川御役銀5匁）
1701年　11月9日 元禄14年　10月10日 曇 昨夜より大雨　終日に及ぶ （7日夜相川村で57・8男倒死、8日後潟組で水船1艘）
1701年 11月10日 元禄14年　10月11日 昨夜中より雨時々　終日に及ぶ
1701年 11月11日 元禄14年　10月12日 曇 昨夜より雨時々　終日に及ぶ　夜に入り小雪
1701年 11月12日 元禄14年　10月13日 昨夜より時々霙　未の中刻止む
1701年 11月13日 元禄14年　10月14日 曇 時々雨　終日に及ぶ
1701年 11月14日 元禄14年　10月15日 曇 申の下刻より雨　終夜に及ぶ
1701年 11月15日 元禄14年　10月16日 曇 寅の刻より雨風　終日に及ぶ （9月中大間越御関所出人62人・入り人34人・都合96人）
1701年 11月16日 元禄14年　10月17日 曇 昨夜より時々雪霙　夜に及ぶ （10・11日の洪水の流失稲少なくとも11520束・1束は10杷・1杷は5合相当か、8月洪水による損耗高少なくとも2615石余）
1701年 11月17日 元禄14年　10月18日 曇 時々小雪
1701年 11月18日 元禄14年　10月19日 晴
1701年 11月19日 元禄14年　10月20日 曇 寅の下刻雷数々発す　昨夜より雨時々　終日終夜に及ぶ
1701年 11月20日 元禄14年　10月21日 晴 （今20日蟹田より初鱈上がる）
1701年 11月21日 元禄14年　10月22日 曇 小雨時々 （当月13日金木組小泊村で洪水・稲1570束流失）
1701年 11月22日 元禄14年　10月23日 晴
1701年 11月23日 元禄14年　10月24日 晴 午の下刻より小風
1701年 11月24日 元禄14年　10月25日 晴
1701年 11月25日 元禄14年　10月26日 晦 午の刻より小雨時々
1701年 11月26日 元禄14年　10月27日 晦 午の刻少し雪　則止む　中刻より雪　終夜に及ぶ
1701年 11月27日 元禄14年　10月28日 昨夜より雪時々　終日に及ぶ
1701年 11月28日 元禄14年　10月29日 午の刻丸雪時々
1701年 11月29日 元禄14年　10月30日 晴 夜に入り雪 （27日夜三馬屋の山役人自害）
1701年 11月30日 元禄14年　11月1日 曇 昨夜より雪　卯の上刻雨　終日夜に及ぶ
1701年　12月1日 元禄14年　11月2日 曇 昨夜より雨　未の刻に及び止む （小国新田の内上小国村で去月晦日晩火災5軒・馬の子1疋焼死）
1701年　12月2日 元禄14年　11月3日 晴 夜に入り小雨時々
1701年　12月3日 元禄14年　11月4日 曇 昨夜より雨時々
1701年　12月4日 元禄14年　11月5日 曇 卯の中刻より雪　巳の刻に及ぶ
1701年　12月5日 元禄14年　11月6日 陰晴 今朝小雪風 （当月朔日赤石組広戸村で塩竈1個焼失、朔日後潟組平館村に船1艘流れ着く）
1701年　12月6日 元禄14年　11月7日 晴 夜に入り小雨時々 （小国新田の晦日の火災の火元入寺・類火の者共には願いの通り御米3斗宛渡す）
1701年　12月7日 元禄14年　11月8日 曇 昨夜より小雨時々　終日に及ぶ
1701年　12月8日 元禄14年　11月9日 晴
1701年　12月9日 元禄14年　11月10日 晴
1701年 12月10日 元禄14年　11月11日 晴 夜に入り雪 （6日風合瀬で破船1艘・3人死亡、2日油川等で破船2艘、1石当たりの相場:御蔵米43匁7分5厘・大豆27匁3分7厘5毛・小豆26匁6分5厘・小麦64匁5分）
1701年 12月11日 元禄14年　11月12日 時々小雪風　終夜に及ぶ （10月8日の夜初雪少し降り……）
1701年 12月12日 元禄14年　11月13日 昨夜より雪風時々
1701年 12月13日 元禄14年　11月14日 昨夜の雪降り続く(昨夜之雪降つ〃具)
1701年 12月14日 元禄14年　11月15日 昨夜より雨
1701年 12月15日 元禄14年　11月16日 陰晴
1701年 12月16日 元禄14年　11月17日 陰晴 昨夜丑の中刻より寅の刻まで雷数発す　同刻より雨小風　午の刻に及ぶ
1701年 12月17日 元禄14年　11月18日 陰晴
1701年 12月18日 元禄14年　11月19日 曇 昨夜より大雨　終日　未の刻より雪　終夜に及ぶ
1701年 12月19日 元禄14年　11月20日 陰晴 昨夜中雪六寸ほど積る　辰の中刻まで時々雪　夜に入り小雪
1701年 12月20日 元禄14年　11月21日 曇 昨夜より雪時々　終日に及ぶ　夜に入り風雪 （17日小国新田の内南沢村で火災3軒と借家）
1701年 12月21日 元禄14年　11月22日 曇 昨夜より風雪　終日に及ぶ
1701年 12月22日 元禄14年　11月23日 陰晴 昨夜より雪時々　辰の刻に及ぶ （山漆の実6斗入り1俵に付き御米4斗入り1俵、来年御廻米上方へ36000石・江戸へ6000石）
1701年 12月23日 元禄14年　11月24日 陰晴
1701年 12月24日 元禄14年　11月25日 晴
1701年 12月25日 元禄14年　11月26日 快晴
1701年 12月26日 元禄14年　11月27日 陰晴 寅の下刻より小雨時々
1701年 12月27日 元禄14年　11月28日 曇 雨雪時々 （御払い米入札:東長町御蔵米金十両に沖役入れて27俵・金両替57匁6分、米1俵に付き21匁7分(内沖役8分)）
1701年 12月28日 元禄14年　11月29日 晴 （先月晦日の小国新田の火元の入寺赦免）
1701年 12月29日 元禄14年　12月1日 曇 午の下刻より時々雨　夜に及ぶ
1701年 12月30日 元禄14年　12月2日 晴
1701年 12月31日 元禄14年　12月3日 曇 午の刻より小雨時々

1702年　1月1日 元禄14年　12月4日 曇　昨日の雨打ち続く　夜に及ぶ
1702年　1月2日 元禄14年　12月5日 曇　辰の刻より雪　(御蔵米入札1俵値段:弘前22匁5分・青森24匁4分・両替58匁5分)
1702年　1月3日 元禄14年　12月6日 曇　雪　(先月17日南沢村の被災者に御米:家持3人に3斗宛借家に2斗)
1702年　1月4日 元禄14年　12月7日 曇　(常盤組福嶋村の百姓走る)
1702年　1月5日 元禄14年　12月8日 陰晴　昨夜より雪時々　(大間越の者共古米の拝領願い・1俵20目宛で30俵払出す、3日石浜村で東風強く破船1艘)
1702年　1月6日 元禄14年　12月9日 陰晴　卯の后刻より小寒入り　同刻より辰の中刻まで雪
1702年　1月7日 元禄14年　12月10日 陰晴
1702年　1月8日 元禄14年　12月11日 曇　昨夜より雪吹く　終日夜に及ぶ
1702年　1月9日 元禄14年　12月12日 曇
1702年　1月10日 元禄14年　12月13日 晴
1702年　1月11日 元禄14年　12月14日 快晴
1702年　1月12日 元禄14年　12月15日 曇　昨夜より風雨時々　終日夜に及ぶ　(11日十三で渡し舟遭難2人死亡)
1702年　1月13日 元禄14年　12月16日 陰晴　昨夜より風雪時々
1702年　1月14日 元禄14年　12月17日 晴　夜に入り雪
1702年　1月15日 元禄14年　12月18日 曇　昨夜より雪時々　風雪　終日夜に及ぶ
1702年　1月16日 元禄14年　12月19日 陰晴　昨夜より雪時々　終日　(大間越町に売買米なし・御蔵古米40俵を1俵19匁で御払い願い・20俵を現銭で払出す、今夜6半頃堀越組大和沢村で火災2軒牛1疋焼失)
1702年　1月17日 元禄14年　12月20日 晴
1702年　1月18日 元禄14年　12月21日 陰晴　午の下刻より雨　夜に入り丸雪　(米1俵値段:当8月御家中渡り米御買い上げ16匁3分・当月御家中渡り米御買上げ21匁・今20日町相場20目2分)
1702年　1月19日 元禄14年　12月22日 曇
1702年　1月20日 元禄14年　12月23日 陰晴
1702年　1月21日 元禄14年　12月24日 曇　時々小雪　夜に及ぶ　子の刻地震　(19日火災の被災者に対し先格では3俵渡しだが当年御米不足につき2俵下し置かれる)
1702年　1月22日 元禄14年　12月25日 曇　昨夜より終日雪　(22日大秋村猟師新兵衛赤石山で熊取る)
1702年　1月23日 元禄14年　12月26日 曇
1702年　1月24日 元禄14年　12月27日 曇　卯の中刻より雪時々　終日夜に及ぶ
1702年　1月25日 元禄14年　12月28日 曇　昨夜より雪時々　終日夜に及ぶ
1702年　1月26日 元禄14年　12月29日 曇　雪時々　終日に及ぶ
1702年　1月27日 元禄14年　12月30日 陰晴　時々少し雪
1702年　1月28日 元禄15年正月1日　曇　申の下刻より小雨　夜に入る　(三之御郭南御門らしい門を「大手御門」としている・その他の門は三之御郭東御門など場所名で開ける門は全部書いてある)
1702年　1月29日 元禄15年正月2日　曇　卯の中刻より風雪
1702年　1月30日 元禄15年正月3日　陰晴　昨夜より風雪　辰の中刻に及び止む　午の刻より時々雪
1702年　1月31日 元禄15年正月4日　陰晴　昨夜より風雪
1702年　2月1日 元禄15年正月5日　陰晴　昨夜より時々風雪　(12月29日朝五頃赤石組舮作村で火災2軒)
1702年　2月2日 元禄15年正月6日　陰晴　昨夜より時々雪　終日夜に及ぶ
1702年　2月3日 元禄15年正月7日　晴　午の刻より時々雪　終日夜に及ぶ
1702年　2月4日 元禄15年正月8日　曇　時々雪　終日夜に及ぶ
1702年　2月5日 元禄15年正月9日　陰晴　時々小雪
1702年　2月6日 元禄15年正月10日　陰晴　時々雪　終夜に及ぶ
1702年　2月7日 元禄15年正月11日　曇　時々小雪　終日に及ぶ
1702年　2月8日 元禄15年正月12日　曇　時々小雪
1702年　2月9日 元禄15年正月13日　晴
1702年　2月10日 元禄15年正月14日　曇　時々小雪　未の刻より大雪　夜に及ぶ
1702年　2月11日 元禄15年正月15日　曇　卯の中刻より風吹く　(当12月中碇関御関所御印紙による出人都合6人、同所御関所出人数235人・入り人数179人、大間越御関所出人数37人・入り人数46人)
1702年　2月12日 元禄15年正月16日　陰晴　昨夜より時々雪　終日終夜に及ぶ
1702年　2月13日 元禄15年正月17日　曇　昨夜より雪　辰の刻風雪　夜に及ぶ
1702年　2月14日 元禄15年正月18日　曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1702年　2月15日 元禄15年正月19日　快晴
1702年　2月16日 元禄15年正月20日　曇　昨夜より時々雪
1702年　2月17日 元禄15年正月21日　曇　昨夜より時々雪
1702年　2月18日 元禄15年正月22日　陰晴　時々小雪
1702年　2月19日 元禄15年正月23日　陰晴　亥の刻地震
1702年　2月20日 元禄15年正月24日　晴
1702年　2月21日 元禄15年正月25日　陰晴　昨夜より時々小雪　辰の后刻に及ぶ
1702年　2月22日 元禄15年正月26日　陰晴　昨夜より雪　辰の中刻に及ぶ　(22日大鰐村で熊取る・耳合いより尾際まで長さ4尺胴回り3尺1寸・胆長4寸廻り7寸)
1702年　2月23日 元禄15年正月27日　晴
1702年　2月24日 元禄15年正月28日　陰晴　(雉1羽2匁・雌1羽1匁5分、旧冬2月中野内御関所出入り64人・入り人54人・都合118人)
1702年　2月25日 元禄15年正月29日　曇　昨夜より風雪雨　終日に及ぶ
1702年　2月26日 元禄15年正月30日　晴　(川倉村で25日夜一家5人走る、26日金木組岩崎村で氏神堂焼失)
1702年　2月27日 元禄15年　2月1日 曇　辰の刻より雪　終日に及ぶ　(駒越組・尾崎組でそれぞれかもしか1疋取る、去年作毛宜しからずにつき……)
1702年　2月28日 元禄15年　2月2日 曇　時々雪　(熊の胆代が米1斗4升～1斗(銭4匁6分～3匁4分)・皮代が米7斗～2斗(銭23匁5分～6匁6分))

1702年　3月1日 元禄15年　2月3日 曇　昨夜より雪時々　終日終夜に及ぶ
1702年　3月2日 元禄15年　2月4日 曇　昨夜より雪時々　(駒越組桜庭村の猟師熊取る・長さ3尺5寸胴回り3尺・胆長3寸8歩廻り3寸5歩)
1702年　3月3日 元禄15年　2月5日 陰晴　時々小雪　吹雪　(米1俵相場23匁2分7厘8毛)
1702年　3月4日 元禄15年　2月6日 昨夜より時々吹雪　(渡し船1艘の代銭120目)
1702年　3月5日 元禄15年　2月7日 曇　昨夜より吹雪　午の刻に及ぶ　それより時々小雪　余寒甚だしい　古雪雪深し　外に頃日の雪1尺余　(藻川・鶴ヶ岡村の百姓救い米(1日1人2合)を申し立てる)
1702年　3月6日 元禄15年　2月8日 曇
1702年　3月7日 元禄15年　2月9日 晴
1702年　3月8日 元禄15年　2月10日 曇　昨夜より雪　巳の中刻に及ぶ　同刻より雨　午の刻より雪　申の刻風雪　(正月中碇関往還:出人101人・入り人148人・出入り合249人、正月中大間越:出人4人・入り人59人・都合63人)
1702年　3月9日 元禄15年　2月11日 晴　丑の后刻地震　昨夜より吹雪　辰の刻に及び止む　未の刻より吹雪時々　夜に及ぶ　(正月中野内:出人22人・入り人41人)
1702年　3月10日 元禄15年　2月12日 曇　昨夜より吹雪
1702年　3月11日 元禄15年　2月13日 曇　時々小雨　(石浜村で今朝破船1艘、8日赤石組追良瀬山で熊取る・耳合いより尾際まで6尺1寸胴回り5尺6寸・胆長4寸廻り5寸8歩)
1702年　3月12日 元禄15年　2月14日 晴　午の刻地震
1702年　3月13日 元禄15年　2月15日 快晴
1702年　3月14日 元禄15年　2月16日 晴
1702年　3月15日 元禄15年　2月17日 晴
1702年　3月16日 元禄15年　2月18日 曇　丑の中刻地震　巳の上刻より小雨時々　未の刻に及び止む
1702年　3月17日 元禄15年　2月19日 晴　酉の中刻より小雨時々
1702年　3月18日 元禄15年　2月20日 陰晴　小雨　時々小雪
1702年　3月19日 元禄15年　2月21日 陰晴　小風　昨夜中小雪
1702年　3月20日 元禄15年　2月22日 晴
1702年　3月21日 元禄15年　2月23日 陰晴　(19日赤石組轟村で熊取る・耳合いより尾脇まで3尺8寸胴回り3尺6寸・胆長3寸廻り4寸8歩、青森湊出入り御役銀の手形36・7貫目分の手形紛失)
1702年　3月22日 元禄15年　2月24日 晴　(当月はご家中に御金・御米・御切米のお定め月なのに御金一切なく……、昨23日辰の刻柏木村で火災1軒)
1702年　3月23日 元禄15年　2月25日 晴　昨夜中より雨雪少し　雷発す　(21日目屋の沢で熊取る・耳合いより尾先まで5尺胴回り3尺7寸・胆長4寸廻り3寸4歩)
1702年　3月24日 元禄15年　2月26日 辰の中刻より時々小雨　亥の刻より雨　雷電
1702年　3月25日 元禄15年　2月27日 晴　彼岸に入る　小風
1702年　3月26日 元禄15年　2月28日 陰晴
1702年　3月27日 元禄15年　2月29日 陰晴　昨夜中小雪
1702年　3月28日 元禄15年　3月1日　(ここ暫く保存されていない)
1702年　3月29日 元禄15年　3月2日
1702年　3月30日 元禄15年　3月3日
1702年　3月31日 元禄15年　3月4日
1702年　4月1日 元禄15年　3月5日
1702年　4月2日 元禄15年　3月6日
1702年　4月3日 元禄15年　3月7日 陰晴　午の刻小雨
1702年　4月4日 元禄15年　3月8日 晴　(2月中野内:出人72人・入り人34人・都合106人、4日駒越組百沢山で熊取る・耳合いより尾際まで3尺8寸胴回り3尺・胆長3寸5歩廻り7寸)
1702年　4月5日 元禄15年　3月9日 晴　(青森町同心警固山上作太夫を御印書きに)
1702年　4月6日 元禄15年　3月10日 晴
1702年　4月7日 元禄15年　3月11日 曇　昨夜より雨　巳の刻に及ぶ　午の刻より雨時々　(7日脇元村に長4尋の神切寄せ鯨、一昨9日朝赤石組沢辺村で差違い女即刻死亡・男半死)
1702年　4月8日 元禄15年　3月12日 曇　午の中刻より雨　終日に及ぶ
1702年　4月9日 元禄15年　3月13日 晴　小風　(8日後潟組で熊取る・胆長5寸2歩横3寸3歩、9日赤石組追良瀬沢で熊取る・胆長3寸廻り4寸、9日横内組で熊取る・胆長3寸8歩廻り7寸5歩、昨11日藤崎渡洪水・仮橋引取り船渡し)
1702年　4月10日 元禄15年　3月14日 陰晴
1702年　4月11日 元禄15年　3月15日 曇　巳の刻より小雨時々　(青森御蔵米1俵値段:沖口御役とも銭で17匁5分、11日湯口村で熊取る・胆長2寸8歩廻り4寸、10日尾崎組で熊取る・胆長4寸3歩廻り7寸)
1702年　4月12日 元禄15年　3月16日 曇　戌の刻より雨　辰の后刻より時々小雨　(後潟組奥平部村の狄共3人渇命・籾1俵宛拝借を申付ける)
1702年　4月13日 元禄15年　3月17日 晴
1702年　4月14日 元禄15年　3月18日 快晴　今朝雪(晴天が続いており「雪」は「霜」の誤記か)　(15日大鰐組で熊取る・胆長4寸廻り5寸2歩・堀越組で熊取る・胆長3寸5歩廻り6寸5歩、尾崎組で熊取る・胆長4寸廻り4寸)
1702年　4月15日 元禄15年　3月19日 快晴　(広田組宗川村308人に御救い米1人日2合宛)
1702年　4月16日 元禄15年　3月20日 快晴　(後方組平館村の19軒渇命・御救い米申し立てる、14日金木組で熊取る・胆長3寸5歩廻り6寸)
1702年　4月17日 元禄15年　3月21日　(ここ暫く保存されていない)
1702年　4月18日 元禄15年　3月22日
1702年　4月19日 元禄15年　3月23日
1702年　4月20日 元禄15年　3月24日
1702年　4月21日 元禄15年　3月25日
1702年　4月22日 元禄15年　3月26日
1702年　4月23日 元禄15年　3月27日
1702年　4月24日 元禄15年　3月28日
1702年　4月25日 元禄15年　3月29日
1702年　4月26日 元禄15年　3月30日
1702年　4月27日 元禄15年　4月1日
1702年　4月28日 元禄15年　4月2日
1702年　4月29日 元禄15年　4月3日
1702年　4月30日 元禄15年　4月4日

1702年　5月1日 元禄15年　4月5日　（ここ暫く保存されていない）
1702年　5月2日 元禄15年　4月6日
1702年　5月3日 元禄15年　4月7日
1702年　5月4日 元禄15年　4月8日
1702年　5月5日 元禄15年　4月9日
1702年　5月6日 元禄15年　4月10日
1702年　5月7日 元禄15年　4月11日 曇　未申の刻小雨　申の下刻より雨　終夜に及ぶ
1702年　5月8日 元禄15年　4月12日 晴
1702年　5月9日 元禄15年　4月13日 曇　巳の下刻小雨風　午の下刻雷発す　未の中刻丸雪暫く（蟹田御材木川流飯米として1俵23匁2分5厘で貸し出す、9日暮六つ半時分後潟組で野火(60間×50間)）
1702年　5月10日 元禄15年　4月14日 陰晴
1702年　5月11日 元禄15年　4月15日 晴
1702年　5月12日 元禄15年　4月16日 快晴（14日浪岡組で野火(2里×1里半)）
1702年　5月13日 元禄15年　4月17日 快晴（主のいない犬を在方に送る提案あり）
1702年　5月14日 元禄15年　4月18日 陰晴　今朝霜（江戸に732両と銀4匁を現銀で・江戸為替で300両を送る）
1702年　5月15日 元禄15年　4月19日 陰晴（江戸で3月26日晩御持ち鑓中間が喧嘩・一方死亡他方成敗）
1702年　5月16日 元禄15年　4月20日 陰晴（3月分野内御関所:出人54人・入り人86人・都合140人）
1702年　5月17日 元禄15年　4月21日 晴
1702年　5月18日 元禄15年　4月22日 曇　午の刻より雨（20日昼八頃高杉組十腰内村で火災4軒）
1702年　5月19日 元禄15年　4月23日 陰晴　小風　時々小雨　戌の刻雷発す
1702年　5月20日 元禄15年　4月24日 晴　小風
1702年　5月21日 元禄15年　4月25日 陰晴　巳の中刻小雨　則止む（頃日打ち続く強風吹き候につき最勝院に止み風祈祷を申付ける）
1702年　5月22日 元禄15年　4月26日 陰晴（長勝寺などに大風被害）
1702年　5月23日 元禄15年　4月27日 晴　下から続く　26・7男と24・5女落下・共に死亡）
1702年　5月24日 元禄15年　4月28日 晴（3月2日大鰐組・10日尾崎組・20日に熊(胆長4寸幅2寸6歩・3寸幅2寸4歩・2寸9歩幅2寸)それぞれ取る、この春鯵ヶ沢で生鯡9600駄取揚げる、25日夜大間越の脇道？から　上に続く
1702年　5月25日 元禄15年　4月29日 晴（2月21日大秋村の猟師(5匁5分胆長4寸幅2寸3歩)・3月9日(5匁5分3寸5歩幅2寸2歩)それぞれ熊取る）
1702年　5月26日 元禄15年　4月30日 曇　辰の上刻より雨　終日夜に及ぶ（新寺町溜池に35・6男投身？死亡）
1702年　5月27日 元禄15年　5月1日 陰晴　午の刻小雨　終日夜に及ぶ
1702年　5月28日 元禄15年　5月2日 曇　昨夜より雨　未の刻雷数発す　雨夜に及ぶ
1702年　5月29日 元禄15年　5月3日 昨夜より雨時々（在々にて狼荒れ狼打ち3組出す）
1702年　5月30日 元禄15年　5月4日 快晴　午の刻より曇　未の刻雷大雨　申の刻氷雨　夜に及ぶ（2日夜八つ時桑野木田組鶴田村で火災1軒、4月中大間越:出人29人・入り人53人・都合82人）
1702年　5月31日 元禄15年　5月5日 曇　昨夜より雨時々　未の刻止む（屋形様当月19日江戸御発駕予定）
1702年　6月1日 元禄15年　5月6日 陰晴（4月中碇関:出人都合359人乗馬2疋小荷駄3疋・入り人都合207人・合566人）
1702年　6月2日 元禄15年　5月7日 晴（4日大間越沖の龍満きで破船1艘1人死亡、3月15日・29日・2月26日・3月14日・4日・9日それぞれ熊取る）
1702年　6月3日 元禄15年　5月8日 快晴
1702年　6月4日 元禄15年　5月9日 晴
1702年　6月5日 元禄15年　5月10日 陰晴　午の后刻小雨（兵庫殿御息女自害）
1702年　6月6日 元禄15年　5月11日 晴
1702年　6月7日 元禄15年　5月12日 晴　昨夜より小風　終日に及ぶ
1702年　6月8日 元禄15年　5月13日 曇　午の刻より雨
1702年　6月9日 元禄15年　5月14日 晴
1702年　6月10日 元禄15年　5月15日 陰晴
1702年　6月11日 元禄15年　5月16日 晴
1702年　6月12日 元禄15年　5月17日 曇　辰の上刻小雨　則止む　それより時々雨　未の中刻止む（16日狼打ちが広田組で1疋打ち留める）
1702年　6月13日 元禄15年　5月18日 晴（漆6貫200目代銀527匁）
1702年　6月14日 元禄15年　5月19日 晴
1702年　6月15日 元禄15年　5月20日 晴
1702年　6月16日 元禄15年　5月21日 晴　小風
1702年　6月17日 元禄15年　5月22日 晴
1702年　6月18日 元禄15年　5月23日 晴　夜に入り雨（20日夜常盤組矢沢村で46・7男自害）
1702年　6月19日 元禄15年　5月24日 曇　昨夜より雨　今朝辰の刻に及び止む　夜に入り雨（関札打ち下着、22日金内ヶ沢村に折れ帆柱(12尋本口1尺5寸)流れ寄せる、駒越組代官から熊胆4・大鰐組代官から1上がる）
1702年　6月20日 元禄15年　5月25日 陰晴　午の刻小雨　則止む
1702年　6月21日 元禄15年　5月26日 陰晴　午の上刻小雨　則止む（24日元禄13年10月23日牢舎の男牢死、4月分野内:出人66人・入り人106人・都合172人）
1702年　6月22日 元禄15年　5月27日 曇　卯の中刻より雨（津出米1俵に付き21匁）
1702年　6月23日 元禄15年　5月28日 晴（23日小泊？で大東風・2人行方不明、25日夜九頃(横内組)松森村で火災1軒(高無:3間×5間)、大鰐御菜園所より初胡瓜7上がる、5月25日瀬辺地村で破船1艘）
1702年　6月24日 元禄15年　5月29日 晴
1702年　6月25日 元禄15年　6月1日 晴
1702年　6月26日 元禄15年　6月2日 晴　昨夜雨　今朝に及ぶ
1702年　6月27日 元禄15年　6月3日 晴（5月中碇関:出人130人・入り人188人・出入り都合318人、山形よりの飛脚:御道中御用金不足なので100両を湊の宿に送れ）
1702年　6月28日 元禄15年　6月4日 晴
1702年　6月29日 元禄15年　6月5日 晴　夜に入り甚だしい雨　暫くして止む（当月29日より行方不明の青森の男子(13歳)が作道で死骸で見つかる・19歳男捕まる）
1702年　6月30日 元禄15年　6月6日 卯の后刻より雨時々　午の刻止み晴

1702年　7月1日 元禄15年　6月7日 快晴 (屋形様信政着城)
1702年　7月2日 元禄15年　6月8日 快気
1702年　7月3日 元禄15年　6月9日 晴 亥の下刻より雨 子の中刻雷数発す (5月中大間越:出人53人・入り人67人・都合120人)
1702年　7月4日 元禄15年　6月10日 昨夜より雨 辰の下刻まで 則止む (5月中野内:出人58人・入り人57人・都合115人)
1702年　7月5日 元禄15年　6月11日 晴 戌の中刻より雷風雨 終夜に及ぶ
1702年　7月6日 元禄15年　6月12日 昨夜中大雨 雷数発す 雨今朝に及ぶ
1702年　7月7日 元禄15年　6月13日 巳の刻より大雨 午の下刻止む それより時々雨 終日終夜に及ぶ
1702年　7月8日 元禄15年　6月14日 晴
1702年　7月9日 元禄15年　6月15日 辰の下刻より雨時々 終日終夜に及ぶ
1702年　7月10日 元禄15年　6月16日 昨夜より雨時々 午の刻大雨時々 (青森町奉行の倅自害)
1702年　7月11日 元禄15年　6月17日 晴 夜に入り小雨
1702年　7月12日 元禄15年　6月18日 陰晴 卯の下刻少し雨 則止む 未の刻雨 暫くして止む (大鰐御菜園場より初なすひ7つ初白瓜2上げる)
1702年　7月13日 元禄15年　6月19日 晴 (16日小泊で破船1艘、15・16日金木・蟹田で洪水・流木、18日南内門近くで雨被害)
1702年　7月14日 元禄15年　6月20日 寅の下刻雷数 卯の中刻より雨 辰の中刻止み時々小雨
1702年　7月15日 元禄15年　6月21日 晴 夜に入り雨時々 (能・狂言)
1702年　7月16日 元禄15年　6月22日 辰の中刻より小雨時々 終日終夜に及ぶ
1702年　7月17日 元禄15年　6月23日 晴
1702年　7月18日 元禄15年　6月24日 辰の中刻より雨時々
1702年　7月19日 元禄15年　6月25日 晴
1702年　7月20日 元禄15年　6月26日 晴 丑の二刻土用 午の刻より陰晴
1702年　7月21日 元禄15年　6月27日 辰の上刻より雨 終日終夜に及ぶ
1702年　7月22日 元禄15年　6月28日 昨夜より雨 午の刻に及ぶ
1702年　7月23日 元禄15年　6月29日 晴
1702年　7月24日 元禄15年　6月30日 辰の刻より小雨時々 午の刻に及び止む 申の刻より雨
1702年　7月25日 元禄15年　7月1日 曇
1702年　7月26日 元禄15年　7月2日 晴
1702年　7月27日 元禄15年　7月3日 曇 辰の刻より雨 終日夜に及ぶ
1702年　7月28日 元禄15年　7月4日 曇 昨夜より雨時々 巳の刻に及び止み晴 戌の刻より雨 終夜
1702年　7月29日 元禄15年　7月5日 晴
1702年　7月30日 元禄15年　7月6日 曇 昨夜より雨時々 終日に及ぶ
1702年　7月31日 元禄15年　7月7日 快晴 (当6月中大間越:出人23人・入り人42人・都合65人)
1702年　8月1日 元禄15年　7月8日 陰晴
1702年　8月2日 元禄15年　7月9日 晴 (能)
1702年　8月3日 元禄15年　7月10日 快晴 甚だしく暑い
1702年　8月4日 元禄15年　7月11日 快晴 甚だしく暑い 午の中刻雷発す
1702年　8月5日 元禄15年　7月12日 陰晴 巳の刻小雨止む 午の刻より大雨 雷発す 申の刻止む (福村で5月11日に植えた四十日早稲が7月11日に出穂)
1702年　8月6日 元禄15年　7月13日 晴
1702年　8月7日 元禄15年　7月14日 陰晴
1702年　8月8日 元禄15年　7月15日 曇 昨夜より雨時々 (6月中碇関:出人351人小荷駄7疋・入り人879人・都合出入り合1230人)　下から続く　中大奉(40㎝×55㎝くらいの紙か)226枚代5匁6分5厘)
1702年　8月9日 元禄15年　7月16日 晴 (亥子両年(元禄8・9年)の餓死者の追善法要を貞昌寺等に仰せ付ける)　下から続く　引越し者男女とも19人、銀4枚と米5俵2斗5升(米代112匁5分)で銀284匁5分、　上に続く
1702年　8月10日 元禄15年　7月17日 曇 卯の中刻小雨 巳の后刻止む 夜に入り大雨時々 (今朝六つ時鯵ヶ沢で火災5軒・火元入寺)　下から続く　出人87人・入り人160人・都合147人・その他南部より　上に続く
1702年　8月11日 元禄15年　7月18日 曇 辰の下刻より雨 巳の后刻甚だしい雨 小風 (大鰐御菜園より真瓜13上がる、6月12～15日洪水、蒲田村で5月8日に植えた晩稲が7月15日に出穂、当6月中野内御関所:　上に続く
1702年　8月12日 元禄15年　7月19日 曇 昨夜より大雨 卯の刻より雨 巳の刻止む (御囃子)
1702年　8月13日 元禄15年　7月20日 晴
1702年　8月14日 元禄15年　7月21日 晴
1702年　8月15日 元禄15年　7月22日 快晴 (花火の記事・つつ物しかけ物あり)
1702年　8月16日 元禄15年　7月23日 曇 卯の中刻より小雨 終日に及ぶ (大鰐御菜園場より初米、御家中の家来乱気(後日の記述では酒を飲み自害))
1702年　8月17日 元禄15年　7月24日 陰晴
1702年　8月18日 元禄15年　7月25日 曇 寅の下刻より雨時々 終日夜に及ぶ
1702年　8月19日 元禄15年　7月26日 曇 寅の下刻より大雨 巳の刻に及び又雨時々 (11日小泊崎で大風・破船1艘、藤崎川洪水・橋落ちる・橋板は留め置く)
1702年　8月20日 元禄15年　7月27日 陰晴 申の刻より雷数発す 申の下刻より雨 終夜に及ぶ (古懸不動尊御託宣(出汗か))
1702年　8月21日 元禄15年　7月28日 曇 昨夜より雨 午の中刻止む 酉の刻小風 (御家中から熟瓜上がる)
1702年　8月22日 元禄15年　7月29日 曇 巳の中刻より雨風 終日に及ぶ 酉の刻より大風 (25日よりの大雨で飯詰・広田・高杉・堀越・和徳・藤代組の村々で水湛・田方239町歩余・畑方82町歩余)
1702年　8月23日 元禄15年　8月1日 陰晴 昨夜より雨 寅の刻止む (当年は鮎が上がらない)
1702年　8月24日 元禄15年　8月2日 陰晴 (一昨晩の大風被害・水梨子80ほどあった内3・40ほど残る(報告者福井角兵衛))
1702年　8月25日 元禄15年　8月3日 晴 (先月29日鯵ヶ沢で2艘・十三で4艘破船、28日舞戸川で洪水)
1702年　8月26日 元禄15年　8月4日 晴　下から続く　荷打ち(船を助けるため積荷を捨てること)、7月18日女鹿沢村で5人が熊にかけられる)
1702年　8月27日 元禄15年　8月5日 快晴 申の刻より小風 (赤石組より鮎85上がる、1日夜鯵ヶ沢で破船1艘、7月29日～近年覚えなき大波・深浦で破船1艘1人死亡・広須新田で1艘大間越で1艘破船・三馬屋で14艘　上に続く
1702年　8月28日 元禄15年　8月6日 曇 昨夜より風 巳の刻和らぐ 辰の刻より雨終日 (8月6日新田の内筒木坂村で一番狼(胴長4尺・面長8寸5歩・4足とも水かきあり)生け捕る、一昨夜夜七時分飯詰村で火災1軒、　下に続く
1702年　8月29日 元禄15年　8月7日 陰晴 巳の中刻小雨 午の刻に及び止む (能、千年山御菜園畑より初瓜15上がる)　上から続く　29日より1日の大風で稲に風当たり出穂並びに筒の内穂とも風向きの方黒くなる)
1702年　8月30日 元禄15年　8月8日 晴 午の中刻より陰 同下刻小雨暫く 夜に入り止む
1702年　8月31日 元禄15年　8月9日 陰晴 (7月11日大風・小泊崎で破船1艘)

1702年　9月1日 元禄15年　8月10日 陰晴　午の后刻より小雨　夜に入り止む　(3日門外村から初米)
1702年　9月2日 元禄15年　8月11日 曇　寅の下刻雷発す　則止む　辰の刻より小雨　午の后刻止み晴　(御家中より西瓜3つ差し上げる)
1702年　9月3日 元禄15年　8月12日 晴　巳の下刻小雨　則止む　夜に入り雨　(昨11日朝六半頃(浦町組)新町野・郷子沢村10匁玉(多分重さが10匁の鉛で球形の鉄砲玉:直径1.8cm相当)程の氷降る、4日夜飯詰村で火災1軒)
1702年　9月4日 元禄15年　8月13日 晴　申の中刻雨　酉の刻に及び止む　(小国で熊荒れ横内組の猟師出す、6日瀧浜(竜飛か)で破船2艘)
1702年　9月5日 元禄15年　8月14日 陰晴　(7月中碇関口:出人202人・入り人333人・都合535人、7月中大間越口:出人30人・入り人85人・都合115人)
1702年　9月6日 元禄15年　8月15日 曇　寅の中刻より小雨　暫くして止む　卯の中刻より雨　巳の上刻に及び止み晴　(御前様不快・快気の飛脚が江戸より9日・8日振りに着く・褒美を各1両遣わす、八幡宮祭礼が雨で延期)
1702年　9月7日 元禄15年　8月16日 晴　(藤代組に男倒・死、11日朝浦町組・横内組に雹被害:田方42町歩余・畑方50町歩余)
1702年　9月8日 元禄15年　8月17日 快晴　(只今町で米高値・対策指示)
1702年　9月9日 元禄15年　8月18日 快晴　(八幡宮祭礼)
1702年　9月10日 元禄15年　8月19日 晴　寅の刻大雨　暫くして止む　午の刻より雨時々　(去月29日の大風で松前城下で10軒余破損・破船25・6艘との風聞、長浜に帆柱(12尋程)流れ寄せる)
1702年　9月11日 元禄15年　8月20日 晴　(御用人支配中切死丹宗門御改之覚:男1863人(上1344・下519)・女1532人(上1170・下362)・禅男1232・女973・浄土320・286・法花123・118・天台19・17・　下の欄外(*)に続く
1702年　9月12日 元禄15年　8月21日 晴　申の中刻雷発す　雨時々　(15日夜後潟組濱名村で狄が熊取る)
1702年　9月13日 元禄15年　8月22日 陰晴　小風時々
1702年　9月14日 元禄15年　8月23日 晴　小風　(7月分野内御関所往還:出人84人・入り人93人・都合177人、20日横内組で熊荒れる、7月17日鯵ヶ沢の火元の入寺ご赦免を願い出る、御払い馬:2両から65匁)
1702年　9月15日 元禄15年　8月24日 晴　夜に入り雨　(7月29日鯵ヶ沢で破船2艘、7月17日の鯵ヶ沢の火元の入寺赦免)
1702年　9月16日 元禄15年　8月25日 曇　昨夜より雨
1702年　9月17日 元禄15年　8月26日 曇　昨日の雨時々降り続く　午の刻晴　夜に入り雨時々　(下之切筋等での作毛検分・早稲の分3が2がかがみ相見え申し候など、作毛悪く蕨根掘っているとの報告)
1702年　9月18日 元禄15年　8月27日 曇　午の刻より雨　(十三より初鮭1尺上がる)
1702年　9月19日 元禄15年　8月28日 曇
1702年　9月20日 元禄15年　8月29日 曇　卯の中刻より雨　終日終夜に及ぶ　(御家中が梨子差上る、十三町に売米なく御蔵米御払願、17日金木組深郷田村に56男道心倒・今朝死、碇関町の者共蕨堀願い、25日平館で破船1艘)
1702年　9月21日 元禄15年　8月30日 曇　昨夜より雨　終日終夜に及ぶ　但し夜に入り風雨
1702年　9月22日 元禄15年閏8月1日　昨夜より雨時々　終日に及ぶ　戌の刻止む　下から続く　高無)・女子死亡、一昨晦日飯詰・広田組で大風・稲等吹こぼれ、境関橋・藤崎仮橋に洪水被害)
1702年　9月23日 元禄15年閏8月2日　晴　彼岸に入る　未の下刻より雨時々　夜に及ぶ　同刻東北の間に大虹暫く　(向外瀬・清野袋間で熊被害・1死2傷、一昨夜広田組で大風・潰家2軒(4間×7間:百姓・2間×4間:　上に続く
1702年　9月24日 元禄15年閏8月3日　陰晴　辰の刻少し雨　則止む　午の后刻より雨時々　終日に及ぶ　(先月30日の大雨風で郷沢・蓬田村沖で破船2艘1人死亡、鯵ヶ沢に被害、1日津軽野村で熊(胆長5寸廻り5寸)　下に続く
1702年　9月25日 元禄15年閏8月4日　晴　(30日の大風で十三町被害、蟹田で破船1艘)　上から続く　取る、8月中大間越御関所:出人114人・入り人99人・出入り都合213人)
1702年　9月26日 元禄15年閏8月5日　快晴　(金木組高根村の百姓走る、先月晦日弘前に洪水・土手町大橋下流に被害、金木組薄市山で熊(胆長4寸8歩廻り4寸3歩)取る)
1702年　9月27日 元禄15年閏8月6日　陰晴　丑の刻より雨　(御家中が庭前の梨子差上げる、4日駒越組で熊(胆長2寸2歩廻り2寸)取る)　下から続く　で米1升に付き銭45文、南部大不作で銭100文に付き米9合宛とのこと)
1702年　9月28日 元禄15年閏8月7日　曇　昨夜より雨時々　(あふやう(芥子)出来、今別に商売米なく米払出願い・御蔵にもない、8月晦日三馬屋で破船5艘、4日猿賀組で熊(胆長1寸5歩廻り3寸)取る、大館(秋田県)　上に続く
1702年　9月29日 元禄15年閏8月8日　陰晴　昨夜より小雨時々　卯の后刻止む　午の中刻小雨　則止む　(領内不作・蕨の根を食べている)
1702年　9月30日 元禄15年閏8月9日　曇　午の刻より晴　(浅虫の御湯治に御発駕(行列344人))
1702年　10月1日 元禄15年閏8月10日　曇　辰の中刻より小雨時々　(鮭留入札:荒川55匁5分5厘・作道才蔵川4匁5分・横内原別川4匁6分)
1702年　10月2日 元禄15年閏8月11日　陰晴　(青森新田川と鯵ヶ沢前戸川に白魚を植えた(こんな表現です))
1702年　10月3日 元禄15年閏8月12日　晴　(5日和徳組で2疋(胆長2寸2歩廻り2寸2歩と胆長1寸8歩廻り1寸8歩)・金木組(胆長2寸5歩廻り2寸)・大鰐組(耳合より尾際まで4尺3寸胴回り4尺・胆長4寸廻り5寸)で熊取る)
1702年　10月4日 元禄15年閏8月13日　曇　卯の下刻小雨　則止む　巳の中刻より小雨　終日夜に及ぶ　(10・11日大鰐組で熊2疋(長3尺6寸胴回り2尺9寸・胆長3寸6歩廻り4寸2歩、2尺2寸1尺7寸・3寸5歩3寸2歩)取る)
1702年　10月5日 元禄15年閏8月14日　曇　昨夜より雨　酉の中刻に及び止む　(御前様不快を報ずる8日振りの早飛脚着く)
1702年　10月6日 元禄15年閏8月15日　晴　(正月から8月12日までに取った熊59疋、鮭留入札:新田川御役銀9匁・広瀬川15匁7分5厘、青女子村12軒に3升宛渡す、12日駒越組で熊(胆長4寸3歩廻り5寸5歩)取る、夜逃げ4軒)
1702年　10月7日 元禄15年閏8月16日　曇　寅の中刻より小雨時々　岩木山頂上に初めて雪見ゆる　高田(八甲田のこと)の嵩にも同断　(15日大鰐(胆長3寸廻り2寸5歩)・堀越組(4寸4寸)・14日横内組浅虫(2疋)で熊取る)
1702年　10月8日 元禄15年閏8月17日　陰晴　卯の下刻小雨　辰の中刻止む　(江戸に不足した飛脚用の足軽を送る手配をする)
1702年　10月9日 元禄15年閏8月18日　快晴　(閏8月10日岩崎村で熊(胆長3寸5歩廻り4寸7歩)取る)
1702年　10月10日 元禄15年閏8月19日　曇　辰の刻より雨　終日終夜に及ぶ　(最近の早飛脚で不足した足軽を江戸に送る)
1702年　10月11日 元禄15年閏8月20日　陰晴　昨夜より雨時々　夜に及ぶ　(17日大和沢村で熊取る)
1702年　10月12日 元禄15年閏8月21日　晴　申の后刻より雨時々　終夜に及ぶ　酉の中刻雷発す　(16日中里村で夜逃げ1軒、松前から米津出依頼、17日碇関方面で熊3疋(胆長2寸5歩廻り2寸6歩、2寸6歩3寸、2寸5歩3寸)取る)
1702年　10月13日 元禄15年閏8月22日　晴　(20日駒越組中畑村(4寸1歩4寸2歩)及び19日大鰐組大落前沢(2寸3歩2寸8歩)で熊取る)
1702年　10月14日 元禄15年閏8月23日　快晴
1702年　10月15日 元禄15年閏8月24日　晴
1702年　10月16日 元禄15年閏8月25日　曇　午の中刻より小雨時々　終夜に及ぶ　(20日堀越・尾崎組・22日駒越組・21日金木組でそれぞれ熊取る、19・21日広田・金木組で3軒走る、14日江戸屋敷で強風被害)
1702年　10月17日 元禄15年閏8月26日　曇　昨夜より雨　終日終夜に及ぶ　(今別町奉行が三厩より梨子102差し上げる、8月29日より閏8月朔日迄の大雨・大風の被害状況あり、浅虫村の東に40斗男・駒越組で36・7男縊死)
1702年　10月18日 元禄15年閏8月27日　曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り小雨時々　(22日夜金木組で4軒夜逃げ)
1702年　10月19日 元禄15年閏8月28日　曇　卯の中刻雨　辰の中刻止む　それより時々　終日に及ぶ　午の下刻小雷時々　未の下刻甚だしい風雨　それより小雨時々　夜に及ぶ
1702年　10月20日 元禄15年閏8月29日　陰晴　午の刻小雨　(今別町奉行に今年の梨子が小さいので接木を申付ける、25日砂子瀬山(胆長3寸5歩廻り1寸)・27日種里村(3寸5歩5寸)・24日砂子瀬山(4寸1寸)で熊取る)
1702年　10月21日 元禄15年　9月1日 快晴　今朝霜見る　(御家中が庭前の三馬屋梨子を差し上げる、南部大不作との事)
1702年　10月22日 元禄15年　9月2日 晴　寅の下刻小地震　今朝霜見る
1702年　10月23日 元禄15年　9月3日 晴　寅の刻雨　卯の中刻に及び止む　未の刻より小風
1702年　10月24日 元禄15年　9月4日 快晴
1702年　10月25日 元禄15年　9月5日 晴　霜今朝見る　(1日深浦で1軒6人走る)
1702年　10月26日 元禄15年　9月6日 晴　(人事異動)
1702年　10月27日 元禄15年　9月7日 曇　昨夜より雨時々　終日に及ぶ　(3日駒越組村市・5日同組桜庭山・3・4・4日相馬山で熊取る、閏8月中大間越:出人156人・入り人36人・都合192人)
1702年　10月28日 元禄15年　9月8日 快晴　(松前より52人(食なく)帰る)
1702年　10月29日 元禄15年　9月9日 晴
1702年　10月30日 元禄15年　9月10日 曇　寅の刻より雨　終日に及ぶ　(5日晩赤石組岩崎村で夜逃げ)
1702年　10月31日 元禄15年　9月11日 曇

(*)　真言39・37?・浄土真宗126・101・取持家63軒・支配方取持95軒・小荷駄6疋、19日夜常盤組五林村に馬盗人・1人死亡3疋盗まれる)

1702年　11月1日 元禄15年　9月12日 晴　四方山雪今朝見る
1702年　11月2日 元禄15年　9月13日 陰晴　辰の下刻より小雨時々　終夜に及ぶ （1～6日に金木組で6軒夜逃げ、閏8月中碇関往還:出人251人・入り人188人・都合439人）
1702年　11月3日 元禄15年　9月14日 晴 （金木組で8・9日に3軒・10日に広田組で3人走る）
1702年　11月4日 元禄15年　9月15日 晴
1702年　11月5日 元禄15年　9月16日 快晴 （14日浪岡組で熊（胆長3寸廻り3寸）取る）
1702年　11月6日 元禄15年　9月17日 午の上刻より曇小雨
1702年　11月7日 元禄15年　9月18日 晴　夜に入り雨時々 （御献上の鮭高覧、新田よりの初米3俵上がる）
1702年　11月8日 元禄15年　9月19日 曇　昨夜より雨時々　夜に及ぶ
1702年　11月9日 元禄15年　9月20日 陰晴　午の中刻より小雨時々　夜に及ぶ
1702年 11月10日 元禄15年　9月21日 陰晴　巳の中刻より時々小雨　終日に及ぶ　酉の刻雷数発す
1702年 11月11日 元禄15年　9月22日 曇　昨夜より雨風　終日に及ぶ　酉の刻より雷電風雨 （大川平村狄4軒から鮫漁後鮫油で返すとして12俵拝借願・御蔵米の内赤米2俵宛貸渡す、類似願が後潟組代官から多数・一応は対応）
1702年 11月12日 元禄15年　9月23日 曇　昨夜より雨　未の刻過ぎ雷数発す （能）
1702年 11月13日 元禄15年　9月24日 陰晴　昨夜より風雨雷電今朝まで時々　午の刻止む　丸雪降り少し見る （御材木場の手代の生活が困窮と見て御材木奉行が援助願い・それなりに対応）
1702年 11月14日 元禄15年　9月25日 陰晴　昨夜中の初雪今朝見る　辰の刻少し雪時々 （21日広田組の2人・13～16日金木組の5軒・18～19日後潟組で2軒走る）
1702年 11月15日 元禄15年　9月26日 陰晴　昨夜より雨時々　未の刻止む　夜に入り雨 （20日晩赤石組で1軒・16～21日金木組で3軒走る）
1702年 11月16日 元禄15年　9月27日 晴 （黄金10枚代金75両）
1702年 11月17日 元禄15年　9月28日 快晴
1702年 11月18日 元禄15年　9月29日 快晴　夜に入り雨
1702年 11月19日 元禄15年　10月1日 曇　辰の下刻より雨　夜に及ぶ
1702年 11月20日 元禄15年　10月2日 曇　辰の上刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り風大雨 （今晩初鱈御料理を仰せ付けられる）
1702年 11月21日 元禄15年　10月3日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　小風 （昨夜の大風被害、26・28日金木組で2人走る）
1702年 11月22日 元禄15年　10月4日 晴 （高杉組十腰内村に乞食体の40男倒死）
1702年 11月23日 元禄15年　10月5日 晴 （強風被害、3日平川洪水、29日後潟組浜名村で2人走る）
1702年 11月24日 元禄15年　10月6日 陰晴　巳の下刻より雨時々　夜に及ぶ （3日藤崎川洪水、深浦で破船3艘、広田組15村で田に9尺までの水湛、尾崎組で橋板流失、常盤組6村・柏木組で田に水・稲14万束水湛）
1702年 11月25日 元禄15年　10月7日 曇　巳の下刻より雨 （松前から米無心・4斗入り1万俵を5263両余（1俵34匁2分1厘・両替65匁）で買いたい）
1702年 11月26日 元禄15年　10月8日 曇 （9月中碇関:出人264人小荷駄2疋・入り人160人・都合424人、2日よりの雨で高杉組・藤代組で稲流失6500束）
1702年 11月27日 元禄15年　10月9日 晴　大雪今朝見る（「大雪」は大霜」か） 夜に入り小雨 （能）
1702年 11月28日 元禄15年　10月10日 陰晴　寅の刻雨暫く　巳の刻小雨時々 （2日夜三馬屋で破船2艘、3日小橋村で1人走る）
1702年 11月29日 元禄15年　10月11日 曇　午の刻より雨時々　終日終夜に及ぶ （5日夜金木組・9日夜横内組で夜逃げ（走る））
1702年 11月30日 元禄15年　10月12日 陰晴 （不作の南部から人が入ってきて……）
1702年　12月1日 元禄15年　10月13日 曇　卯の中刻より雨時々　夜に入り小雪　未の刻より小風夜に入る
1702年　12月2日 元禄15年　10月14日 陰晴　辰の下刻小雪　則止む　時々　夜に及び吹雪
1702年　12月3日 元禄15年　10月15日 陰晴　昨夜より風雪　巳の中刻に及ぶ （9月中野内御関所:出人77人・入り人78人・都合150？人、9月中大間越:出人100人・入り人31人・都合131人、8日夜金木組で2人走る）
1702年　12月4日 元禄15年　10月16日 曇　昨夜より小雪時々 （今日溜池土手に40斗男倒死、）
1702年　12月5日 元禄15年　10月17日 晴 （下級武士などに暮の御切米の先渡し、9月6日駒越組で熊取る、閏8月中野内御関所:出人149人・入り人106人・都合255人）　下から続く　日夜金木組嘉瀬村に強盗2人・捕まる）
1702年　12月6日 元禄15年　10月18日 曇　辰の后刻吹雪　同下刻止む　午の后刻より時々吹雪 （14日夜嵩の長次郎小屋火災、17日増館組十川村で40男倒死、14日金木組で夜逃げ、16日藤崎村に30斗男倒・死、15　上に続く
1702年　12月7日 元禄15年　10月19日 陰晴　昨夜より雪　午の下刻に及び止む （17日油川組三内村に南部者3人（父・男の子・女の子）・内1人（父）倒死）
1702年　12月8日 元禄15年　10月20日 晴 （鰺ヶ沢の6軒24人に御救い米（1.5合/人日）10日分貸し渡す、17日の大風で船流され1人死亡）
1702年　12月9日 元禄15年　10月21日 陰晴　夜に入り雨時々
1702年 12月10日 元禄15年　10月22日 曇　辰の后刻より雨時々 （深浦における米値段1俵32匁で御払い、利息100目に付き1ヶ月で1匁、百姓にも御蔵米を出すよう代官から申し立てあり）
1702年 12月11日 元禄15年　10月23日 陰晴　昨夜より時々小雪 （能、米値段1俵35匁・両替67匁5分、13日夜今別で2人・18日広田組で2人走る）
1702年 12月12日 元禄15年　10月24日 陰晴　申の下刻より小雨　夜に及ぶ （10月6日の御救い米に続く今別の99人に2度目の御救い米10日分（1.5合/人日）、19日記述の南部者の男子も死亡、金木組毘沙門村で男倒死）
1702年 12月13日 元禄15年　10月25日 曇 （このころ御蔵米払い出し願い・現銀での願い多し）
1702年 12月14日 元禄15年　10月26日 曇 （横内組で34・5男倒死）
1702年 12月15日 元禄15年　10月27日 陰晴 （足軽が同僚の扶持米を騙し取り欠落ち、鰺ヶ沢の165人に御救い米、19～22日金木組で4人走る）
1702年 12月16日 元禄15年　10月28日 曇　辰の后刻より雨　終日に及ぶ （知行米を三つ五歩・切米を五歩引きなどの不作対策始まる、23日夜四戸橋村で4人走る）
1702年 12月17日 元禄15年　10月29日 なし　（勘定奉行覚書:金1両が67匁・米1俵（多分4斗入り）が31匁8分、このころ御留山を明山へという要望多い）
1702年 12月18日 元禄15年　10月30日 なし　（25日夜広田組で3人走る）
1702年 12月19日 元禄15年　11月1日 晴　夜に入り雨 （先月20日蟹田で1軒6人走る）
1702年 12月20日 元禄15年　11月2日 晴　辰の刻小雪　暫くして止む
1702年 12月21日 元禄15年　11月3日 陰晴　午の中刻より小雪 （野内町で乞食男倒死、弘前相場米1俵32匁5分）
1702年 12月22日 元禄15年　11月4日 陰晴　冬に至る（冬ニ至）
1702年 12月23日 元禄15年　11月5日 曇　卯の下刻雨　霙時々　午の下刻に及び止む　申の刻より雨時々　夜に及ぶ （蟹田町の家数117軒、10月分野内御関所:出人79人・入り人98人・都合177人、10月29日金木村で走る）
1702年 12月24日 元禄15年　11月6日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ （御救米の既給者には正月過ぎまで勤番目付の立会いで救米出して良い事とする、大鰐組長峰村に50斗男倒死、2日尾崎組山之内で男吹倒れ）
1702年 12月25日 元禄15年　11月7日 曇　昨夜より小雪時々
1702年 12月26日 元禄15年　11月8日 陰晴 （10月中碇関往還:出人288人・入り人185人・出入り都合473人）
1702年 12月27日 元禄15年　11月9日 陰晴　夜に入り霙 （能）
1702年 12月28日 元禄15年　11月10日 曇　昨夜より霙
1702年 12月29日 元禄15年　11月11日 曇 （鰺ヶ沢町305軒に御蔵米305俵の延売り（のべうり:後払い）願い・代銭は春の相場で、4日金木組で3人・5日後潟組で1人・6日常盤組で1人走る）
1702年 12月30日 元禄15年　11月12日 晴　申の刻より霙時々　夜に及び風
1702年 12月31日 元禄15年　11月13日 曇　昨夜より丸雪　風 （13日妙堂崎村で火災1軒、青森で30男倒死、十三町拝借米の上納不能に付き延期等の願い・許す、同町で先年51俵を拝借した88軒中31軒死絶え11軒走っている）

1703年　1月1日 元禄15年　11月14日 快晴 （10日夜後潟村に46・7男と小橋村に5斗女子倒死）
1703年　1月2日 元禄15年　11月15日 快晴
1703年　1月3日 元禄15年　11月16日 陰晴　申の下刻より霙　夜に及ぶ
1703年　1月4日 元禄15年　11月17日 曇　卯の刻より雪　終日終夜に及ぶ
1703年　1月5日 元禄15年　11月18日 曇　昨夜より雪降り続く
1703年　1月6日 元禄15年　11月19日 小寒　午の四刻入る　曇　終日吹雪 （献上の鱈あり、両替67匁、後潟組清水村で火災1軒）
1703年　1月7日 元禄15年　11月20日 陰晴　酉の刻より小雨　終夜に及ぶ （10月中大間越:出人54人・入り人61人・都合115人、12日青森で男2人?倒死）
1703年　1月8日 元禄15年　11月21日 曇　午の中刻小雨　則止む
1703年　1月9日 元禄15年　11月22日 曇　昨夜より雨　霙時々　終日に及ぶ （五十石町と鷹匠町の境に捨子1人死亡）
1703年　1月10日 元禄15年　11月23日 晴 （19日青森中浜町に倒者・死亡）　下から続く　組原別村に24・5男倒死、16日駒越組村市で熊取る、浪岡組大釈迦村で67・8道心倒死、12日後潟組清水村で父娘倒れ19日父死亡）
1703年　1月11日 元禄15年　11月24日 陰晴 （金木組で11～13・16日に4軒走る・内12日は多分初の本百姓、弘前町預倒者覚え:男10人・女9人・捨子男5・8歳・女5歳、後潟組後潟村に男・小橋村に5歳女子倒死、横内　上に続く
1703年　1月12日 元禄15年　11月25日 快晴
1703年　1月13日 元禄15年　11月26日 晴 （23日赤石組舞戸新田町で44・5男倒死）
1703年　1月14日 元禄15年　11月27日 陰晴　昨夜丑の刻雨則刻止む　小風 （後潟組石浜村で44・5男倒死）
1703年　1月15日 元禄15年　11月28日 曇　辰の刻小雪　則止む
1703年　1月16日 元禄15年　11月29日 陰晴　午の下刻より小雪 （弘前街中で倒れ町預けになり医者に見てもらった比内(秋田県北部)の50男倒死、27日藤崎村毘沙門堂下に50男倒死）
1703年　1月17日 元禄15年　12月1日 晴　昨夜小雪 （11月25日横内組長森山で熊(長5尺胴回り4尺5寸・胆長6寸3歩廻り6寸2歩)取る）　下から続く　で走る、25日青森に50男倒死、26日蟹田町で火災1軒・馬1疋焼失）
1703年　1月18日 元禄15年　12月2日 昨夜より雪　巳の中刻迄　同刻より霙　午の下刻より雨　夜に入り雪 （1日船水村に50男倒死、1日長町に6歳男子捨子、11月12日蟹田で小舟行方不明、25日蟹田・中沢村(百姓)　上に続く
1703年　1月19日 元禄15年　12月3日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ （大鰐組石川村に4歳男子捨子、11月24日駒越組大沢山で熊(胆長3寸廻り5寸)取る、11月18日浅虫湊に水舟寄せる・乗員2人行方不明）
1703年　1月20日 元禄15年　12月4日 陰晴　昨夜より雪時々 （村民が牢に入れられると村が賄(食事代等)を出すが当月より来年8月までの賄として米1斗2升と銭6匁を出している、弘前に倒者2人）
1703年　1月21日 元禄15年　12月5日 曇　小雪時々
1703年　1月22日 元禄15年　12月6日 晴 （大間越に売り米なく御蔵米30俵御払い願い・1俵に付き38匁宛で御払い、駒越組大沢山で熊(胆長3寸5歩廻り5寸)取る、金木村で火災1軒・馬1疋）
1703年　1月23日 元禄15年　12月7日 陰晴　巳の下刻より曇　雪降る
1703年　1月24日 元禄15年　12月8日 曇　時々小雪 （江戸を23日発の飛脚が6日に到着）
1703年　1月25日 元禄15年　12月9日 陰晴　小雪　巳の中刻に及び止む　夜に入り霙又雪
1703年　1月26日 元禄15年　12月10日 陰晴　昨夜より雪　辰の刻に及ぶ （青森小見せ下に4斗男子倒死、先月中野内御関所:出人59人・入り人52人・都合111人、青森の乞食・非人の現在数が5・60人）
1703年　1月27日 元禄15年　12月11日 晴　夜に入り小雪 （弘前に27男倒者）
1703年　1月28日 元禄15年　12月12日 晴 （今年は寒雉子が114・5上がりもう十分との事、米1俵39匁）
1703年　1月29日 元禄15年　12月13日 陰晴　小雪時々　夜に入り雪 （11月中大間越:出人13人・入り人36人・出入り都合49人）
1703年　1月30日 元禄15年　12月14日 曇　昨夜より時々雪 （11日駒越組村市山で熊(胆長5寸廻り6寸)取る、8日に11月19日後潟組清水村で倒れた六つほどの女の子が死亡）
1703年　1月31日 元禄15年　12月15日 曇　時々小雪 （11月中碇関:出人94人小荷駄2疋・入り人179人・出入り都合373人）
1703年　2月1日 元禄15年　12月16日 曇　昨夜より小雪　卯の刻に及び時々雪 （14日青森で40男倒死）
1703年　2月2日 元禄15年　12月17日 陰晴　辰の下刻小雪 （13日駒越組村市山で(胆長6寸廻り4寸)・14日大鰐組で熊(6寸3寸)取る、16日蟹田町で40男乞食倒死）
1703年　2月3日 元禄15年　12月18日 晴 （能）
1703年　2月4日 元禄15年　12月19日 陰晴
1703年　2月5日 元禄15年　12月20日 曇　昨夜より雪
1703年　2月6日 元禄15年　12月21日 曇　卯の中刻風雪時々 （14日赤石組で漁師8人死亡）
1703年　2月7日 元禄15年　12月22日 晴
1703年　2月8日 元禄15年　12月23日 陰晴　午の刻より曇雨
1703年　2月9日 元禄15年　12月24日 曇　午の刻より雨　終日終夜に及ぶ　未の中刻雷発す （弘前各町(新町・紺屋町・親方町・亀甲町)に救い米）
1703年　2月10日 元禄15年　12月25日 曇　小雨時々　卯の刻より小風 （後潟組内真部村で36・7男倒死、後潟組清水村で閏8月より18日夜まで5度の点け火あり）
1703年　2月11日 元禄15年　12月26日 曇　小雪時々 （弘前各町(東長町・土手町・和徳町・鍛冶町)に救い米）
1703年　2月12日 元禄15年　12月27日 陰晴 （1両が71匁5分）
1703年　2月13日 元禄15年　12月28日 曇　昨夜より雪時々　午の刻より霙　夜に入り雪
1703年　2月14日 元禄15年　12月29日 曇　昨夜より雪時々　終日に及ぶ （26日駒越組村市山で熊(胆長3寸廻り4寸)取る）
1703年　2月15日 元禄15年　12月30日 陰晴　昨夜より時々雪
1703年　2月16日 元禄16年正月1日　陰晴
1703年　2月17日 元禄16年正月2日　曇 （吉例として江戸へ200両差し登）
1703年　2月18日 元禄16年正月3日　晴　夜に入り雪 （御家中の席順などあり、御謡初）
1703年　2月19日 元禄16年正月4日　曇　昨夜より雪　巳の中刻より霙　同刻大風　雪終夜に及ぶ
1703年　2月20日 元禄16年正月5日　曇　雪時々
1703年　2月21日 元禄16年正月6日　陰晴　夜に入り小雨
1703年　2月22日 元禄16年正月7日　曇　巳の刻より雨　午の下刻止む　申の刻より小雪時々　夜に及ぶ （26日江戸で大火・藩の上屋敷類焼）
1703年　2月23日 元禄16年正月8日　曇　小雪時々
1703年　2月24日 元禄16年正月9日　晴
1703年　2月25日 元禄16年正月10日　曇
1703年　2月26日 元禄16年正月11日　陰晴　卯の下刻雪　辰の后刻止む　辰の下刻地震 （1日青森で40男・3日青森で40男・6日青森で24・5男それぞれ倒死、6日青森で3斗男子死んで流れて来る）
1703年　2月27日 元禄16年正月12日　晴 （能、8日柏木町村で68男道心が打殺される）
1703年　2月28日 元禄16年正月13日　晴　酉の刻より雨　夜に入り大雨 （江戸屋敷の火災対策を指示、12月中大間越:出人11人・入り人20人・都合31人、8・9日青森で60男非人・40男非人倒死、昨夜高杉組植田村・　下に続く
上から続く　10日赤田組狐森村で火災(1間半×2間:高無)、7日碇関山・8日大秋山で熊取る、3日後潟組白沢村で漁船遭難1人死亡、11月12日高杉組大森村に倒れ男が5日に　下に続く
上から続く　死亡、6日後潟組左関村で40男倒死、12月30日尾崎組柏木村で男・横内組久栗坂村で44・5男それぞれ倒死、7日油川組新田村で34・5男・30日横内組久栗坂村に44・5男倒死）

1703年　3月1日 元禄16年正月14日　曇　昨夜より大雨　辰の下刻まで　それより霙　未の上刻止む
1703年　3月2日 元禄16年正月15日　陰晴　辰の后刻より時々雪　巳の上刻に及ぶ　夜に入り小雪　（小栗山より福寿草差上げる、南部・松前の不作につき夥しく餓死仕り候との事）
1703年　3月3日 元禄16年正月16日　晴　未の下刻より小雪　酉の刻より風吹く　雪終夜に及ぶ　（去年12月野内御関所:出人45人・入り人45人・都合90人）
1703年　3月4日 元禄16年正月17日　曇　昨夜より風雪
1703年　3月5日 元禄16年正月18日　晴　（17日弘前で男自害）
1703年　3月6日 元禄16年正月19日　曇　巳の中刻より小雨時々　申の刻に及び止む
1703年　3月7日 元禄16年正月20日　陰晴　（17日の風で橋雲寺に被害）
1703年　3月8日 元禄16年正月21日　陰晴　午の下刻小雨　（12月中碇関口:出人183人・入り人137人・出入り都合320人）
1703年　3月9日 元禄16年正月22日　晴　（米1俵に付き32匁3分、3日の大風で後潟組郷沢村の浜に船が打ち上げられる・1人死亡、稲の品種・特性たくさんあり、御郡中惣毛付高213325石余）
1703年　3月10日 元禄16年正月23日　陰晴　酉の刻より小雨　戌の后刻風　夜に入り大雨暫く　（御家中が家来を成敗、19日村市山で熊取る、21日新町で4歳女子捨子、御徒召抱え6人（5尺3寸1歩～5尺5寸3歩））
1703年　3月11日 元禄16年正月24日　曇　寅の刻より風　卯の中刻より大風丸雪　巳の刻より雪　卯の中刻より大風　酉の下刻に及び止む　（19日青森に50男非人倒死）
1703年　3月12日 元禄16年正月25日　陰晴　夜に入り時々小雨
1703年　3月13日 元禄16年正月26日　曇　巳の刻より雨　霙時々　（24日の大風被害、23日小国新田で火災・2人死亡・火元入寺・赦免、米1俵値段:32匁5分5厘、駒越組村市山で熊（胆長5寸廻り8寸）取る）
1703年　3月14日 元禄16年正月27日　曇　昨夜よりの雪午の刻に及び止む　又夜に入り雪　（24日の大風被害）
1703年　3月15日 元禄16年正月28日　曇　昨夜よりの雪終日に及ぶ　（青森で30斗男・50斗男非人倒死、駒越組村市山で2疋（3寸5歩7寸・4寸6寸5歩）・大沢山で1疋（3寸4寸）・横内組根井山で1疋（たて当たり胆なし）熊取る）
1703年　3月16日 元禄16年正月29日　陰晴　夜中よりの雪巳の刻に及び止む　（赤石組横山村で米・雑穀等を持ちながら救い米を申し立てた百姓を牢舎・庄屋を村預けとする）
1703年　3月17日 元禄16年　2月1日 晴　午の中刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り雪　（郡中御救い米は当月15日きり・その後は御救い米がないので……、青森に50女非人倒・60男倒死、24日の大風被害）
1703年　3月18日 元禄16年　2月2日 晴　今朝小雪少々　夜に入り風雪　（御拍子、上屋敷と上ヶ屋敷の例あり、29日青森に40男非人倒死）
1703年　3月19日 元禄16年　2月3日 晴
1703年　3月20日 元禄16年　2月4日 曇　卯の刻より雨時々
1703年　3月21日 元禄16年　2月5日 曇　寅の下刻より小雨時々　終日夜に及ぶ　（山に火打ち道具を持参した者をみつけ次第捕えろとの指示）
1703年　3月22日 元禄16年　2月6日 曇　昨夜より小雨時々　午の下刻より雪　（正月中野内御関所:出人33人・入り人15人・都合出入り48人）
1703年　3月23日 元禄16年　2月7日 陰晴　時々小雪　午の刻より風雪時々　夜に及ぶ　（能、3日大鰐組居土山・駒越組村市山で熊取る、2日赤石組赤井ヶ沢村で40男倒死）
1703年　3月24日 元禄16年　2月8日 陰晴　風雪終日　夜に及ぶ　（1日1人味噌15匁渡す場合もあるらしい）
1703年　3月25日 元禄16年　2月9日 陰晴　彼岸　卯の刻小雪　小風　夜に入り雪
1703年　3月26日 元禄16年　2月10日 陰晴　（先月中碇関御関所:出人151人・入り人195人・出入り人数346人、2日駒越組相馬山で熊取る、6日捨子死亡、弘前で28男倒れる）
1703年　3月27日 元禄16年　2月11日 曇　時々小雪　（猫右衛門町を松盛町に・その裏の新町を富田ということとする、銭1匁で稗（ひえ:稗とは書いていない）3升5合、正月中大間越:出人8人・入り人138人）
1703年　3月28日 元禄16年　2月12日 曇　卯の中刻雨　終日に及ぶ　夜に入り小風　（今年もあふよう御用けし畑3反歩仰せ付ける、取上で盗人2人を獄門・1人を斬罪）
1703年　3月29日 元禄16年　2月13日 陰晴　時々小雪小風　終日夜に及ぶ
1703年　3月30日 元禄16年　2月14日 陰晴　昨夜より時々小雪小風　　下から続く　　柳田村で走る、藤代組船水で40斗男乞食倒死）
1703年　3月31日 元禄16年　2月15日 晴　大霜今朝見る　（11日金木組川倉村に50余男倒死、13日大光寺組田中村で火災（4間×13間＋外馬屋:百姓）、12日青森に50斗男非人・40斗男・14・5男子倒死、5日赤石組　　上に続く
1703年　4月1日 元禄16年　2月16日 曇　巳の刻より雨　但し風添う　（15日までの御救い米を条件によっては引き伸ばし月末までとする）
1703年　4月2日 元禄16年　2月17日 晴　（吉良上野之助殿……）
1703年　4月3日 元禄16年　2月18日 曇　昨夜より雨風　終日に及ぶ　（大石郷右衛門（忠臣蔵の主役大石内蔵助の一族）に遠慮を命ず）
1703年　4月4日 元禄16年　2月19日 陰晴　夜に入り小雨時々
1703年　4月5日 元禄16年　2月20日 晴　（蟹田で60余男乞食倒死、鯵ヶ沢に30斗男乞食倒死、野内に20斗男倒死、14日駒越組砂子瀬山で熊（胆長5寸廻り7寸）取る、米1俵値段33匁5分・両替70目）
1703年　4月6日 元禄16年　2月21日 曇　今朝大霜見る　夜に入り小雨　（青森で18日30斗非人男・19日40斗非人男・21日12・3斗女子非人・21日40斗男非人倒死）
1703年　4月7日 元禄16年　2月22日 陰晴　小雨時々　午の刻止む
1703年　4月8日 元禄16年　2月23日 晴　小風　夜に入り雪　（御能、21日朝深浦町に付火）
1703年　4月9日 元禄16年　2月24日 曇　昨夜よりの雪今朝まで降る
1703年　4月10日 元禄16年　2月25日 晴　（三之御郭南御門を大手と言ったらしい例、24日碇関に女倒れこむ・男倒死、22日駒越組大秋山で・同日大鰐組で熊とる、22日横内組原別村で50斗男倒死、7日金木組深郷田村で走る）
1703年　4月11日 元禄16年　2月26日 快晴
1703年　4月12日 元禄16年　2月27日 陰晴　辰の下刻より曇
1703年　4月13日 元禄16年　2月28日 陰晴　（松前での米相場:4斗8升入り1俵が砂金8匁、江戸で材木が高値で売れて藩が一息？）
1703年　4月14日 元禄16年　2月29日 晴　（青森で15・6男・40斗男・大鰐組乳井村で57・8男倒死）
1703年　4月15日 元禄16年　2月30日 晴　（25日広田組藻川村で走る）
1703年　4月16日 元禄16年　3月1日 晴　午の中刻丸雪少し　則止む　（22日赤石組森山村で走る、猿賀組日沼村で60斗男倒死）
1703年　4月17日 元禄16年　3月2日 晴　（27・28日赤田組板屋之木村・菖蒲川村で3軒7人走る、先月28日大鰐組虹貝で熊（胆長4寸5歩廻り3寸7歩）取る、先月30日油川村で火災・20軒）
1703年　4月18日 元禄16年　3月3日 快晴　（大石郷右衛門遠慮御免:内蔵助が切腹したからか）
1703年　4月19日 元禄16年　3月4日 卯の下刻より小雨時々　終日夜に及ぶ
1703年　4月20日 元禄16年　3月5日 曇　昨夜より雨　終日夜に及ぶ　（先月中野内御関所:出人86人・入り人50人・都合136人、2日青森で50斗男非人倒死）
1703年　4月21日 元禄16年　3月6日 曇　雨時々　終日に及ぶ　（御能・狂言、石渡仮橋（108間幅6尺）中6間流失、当2月中碇関御関所:出人188人・入り人284人・出入り都合472人）
1703年　4月22日 元禄16年　3月7日 曇　辰の中刻より小雨時々　終日に及ぶ　（4日より駒越渡洪水・5日朝六頃より往還止める）
1703年　4月23日 元禄16年　3月8日 晴　今朝霜
1703年　4月24日 元禄16年　3月9日 陰晴　卯の下刻より小雨　則止む　小風
1703年　4月25日 元禄16年　3月10日 曇　卯の上刻より時々丸雪　終日に及ぶ　（6日鯵ヶ沢沖で破船1艘4人死亡、1日金木組深郷田村・4日同板割沢村・広田組沖館詰村（2人）で走る、駒越川・浅瀬石川洪水）
1703年　4月26日 元禄16年　3月11日 晴　今朝霜　（8日夜猿賀組日沼村に盗人・越山立ち返りの者で今朝死亡して見つかる）
1703年　4月27日 元禄16年　3月12日 快晴　今朝霜　（水仙開き差上げる、先月中大間越御関所:出人26・入り人165人、9日青森に40斗女非人倒死）
1703年　4月28日 元禄16年　3月13日 快晴　（昨晩本寺町に3斗女捨子、5日藤崎川洪水、10日晩小湊村で火災4軒）
1703年　4月29日 元禄16年　3月14日 陰晴　（4日金木組で洪水、後潟組で堤破損、秋田・庄内の米相場:1俵に付き35匁余）
1703年　4月30日 元禄16年　3月15日 曇　（屋形様御発駕）

1703年　5月1日 元禄16年　3月16日 晴 （14日昼八つ過ぎ上野に野火(5･6町×2･3町)、14日東長町に3斗女捨子）
1703年　5月2日 元禄16年　3月17日 陰晴
1703年　5月3日 元禄16年　3月18日 快晴
1703年　5月4日 元禄16年　3月19日 晴 巳の下刻小雨 則止む 夜に入り雨
1703年　5月5日 元禄16年　3月20日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ
1703年　5月6日 元禄16年　3月21日 陰晴 （昨夜平川洪水、浦町組八つ役村で27･8男倒死、和徳組で60男倒死）
1703年　5月7日 元禄16年　3月22日 晴 （大間越町奉行が町に買売り米なく20俵御払い願い･御蔵に御用米なく深浦から酒田米20俵を1俵に付き39匁で払出す）
1703年　5月8日 元禄16年　3月23日 晴 （赤石組舞戸村に34･5男乞食倒死、青森に40男乞食倒死）
1703年　5月9日 元禄16年　3月24日 曇 辰の中刻より小雨 巳の上刻則止む （18日青森に2斗女子捨子）
1703年　5月10日 元禄16年　3月25日 快晴
1703年　5月11日 元禄16年　3月26日 曇 卯の上刻より雨
1703年　5月12日 元禄16年　3月27日 陰晴 午の后刻より雨風 （先月30日油川の類火被災者に前格と違い(米がないので)百姓1軒に御米1俵宛･高無百姓1軒に2斗宛渡す）
1703年　5月13日 元禄16年　3月28日 八十八夜済み候えども今朝霜見る　下から続く　廻り6寸)取る、油川組安田村に60男乞食倒死）
1703年　5月14日 元禄16年　3月29日 晴 小風 （23日赤石組松神村で破船1艘、21日油川組寺内村で走る、油川組田沢村で野火(200間×50間)、駒越組兼平村で50男乞食倒死、23日浦町組荒川山で熊(胆長4寸　上に続く
1703年　5月15日 元禄16年　3月30日 晴 （青森牢屋で公金使い込みの御家中成敗）
1703年　5月16日 元禄16年　4月1日 快晴 （藤代組大川村に54･5男乞食倒死）
1703年　5月17日 元禄16年　4月2日 晴 小風 （浦町組金浜村で火災2軒、野内に17斗女乞食倒死、金木組嘉瀬村で2軒7人走る）
1703年　5月18日 元禄16年　4月3日 晴 小風 午の刻小雨 暫くして止む （2日夜藤代組廻関村で火災1軒）
1703年　5月19日 元禄16年　4月4日 晴 酉の刻西の方雷発す 小雨 止む （一昨晦日横内組金濱村で火災2軒）
1703年　5月20日 元禄16年　4月5日 晴 小風 （走り跡値段:3間×4間が銭5匁･同3間×４間が7匁、４日藤代組青女子村で火災(3間×2間:無高)、先月野内御関所:入り人56人･出人47人）
1703年　5月21日 元禄16年　4月6日 晴 （金木組深郷田村･川倉村で3人走る、楮町に50斗男倒死、桶屋町に3斗男子捨子、先月中碇関口:出人1174人馬24疋小荷駄9疋･入り人264人･出入り都合1438人）
1703年　5月22日 元禄16年　4月7日 晴 （3月24日から青森の男行方不明、3月中大間越:出人20人･入り人86人･都合106人）　下から続く　、5日油川組新城村で走る、3月27日藤代組林崎村で1軒3人走る）
1703年　5月23日 元禄16年　4月8日 快晴 小風 （早瀬野村で馬盗人捕える、青森で40斗女倒死、5日青森博労町で養育中の捨子死亡、尾崎組新屋村に4斗女子捨子･死亡、3日広田組種井村で走る、6日今別山火事　上に続く
1703年　5月24日 元禄16年　4月9日 快晴 小風
1703年　5月25日 元禄16年　4月10日 晴 （野内で30斗女倒死、浦町組新城村で野火(160間×60間)、大鰐組長嶺村で走る、3月2日から青森町で走った者34軒115人、6日青森で13･4男非人倒死、金木組岩崎村に2男捨子）
1703年　5月26日 元禄16年　4月11日 晴 小風 （7日横内組浅虫村で野火(70間×33間)、一昨9日申の下刻過ぎより浦町組入内村で野火(5町×3町)）
1703年　5月27日 元禄16年　4月12日 快晴 （一昨9日後潟組中沢村で野火）
1703年　5月28日 元禄16年　4月13日 快晴
1703年　5月29日 元禄16年　4月14日 晴 （米1俵35匁5分）
1703年　5月30日 元禄16年　4月15日 晴 （8日金木組嘉瀬村で走る、12日飯詰組金山村で火災、後潟組中沢村･四戸橋村で野火）
1703年　5月31日 元禄16年　4月16日 晴 夜に入り小雨
1703年　6月1日 元禄16年　4月17日 曇 昨夜より雨 卯の后刻止む 巳の刻より雨 （青森上濱町に20斗男倒死）
1703年　6月2日 元禄16年　4月18日 陰晴
1703年　6月3日 元禄16年　4月19日 晴
1703年　6月4日 元禄16年　4月20日 昨夜子の下刻より雨 今朝卯の刻止む
1703年　6月5日 元禄16年　4月21日 陰晴 （宇田より宇鉄までの狀は62軒）
1703年　6月6日 元禄16年　4月22日 晴 （増館村に5斗女捨子）
1703年　6月7日 元禄16年　4月23日 晴
1703年　6月8日 元禄16年　4月24日 晴
1703年　6月9日 元禄16年　4月25日 曇 昨夜より雨 巳の刻に及び止む
1703年　6月10日 元禄16年　4月26日 陰晴 夜に入り雨止む
1703年　6月11日 元禄16年　4月27日 入梅 陰晴 未の刻より時々小雨 （25日新町に4斗男捨子）
1703年　6月12日 元禄16年　4月28日 陰晴 巳の中刻より雷数発す （26日碇関山で熊被害）
1703年　6月13日 元禄16年　4月29日 晴 （22日赤田組前萢(やち)村で走る）
1703年　6月14日 元禄16年　5月1日 曇 今朝霧 （猿賀組尾上村に6つ女子捨子）
1703年　6月15日 元禄16年　5月2日 曇 午の刻小風 同刻より雨
1703年　6月16日 元禄16年　5月3日 陰晴 辰の刻より時々小雨 午の下刻雷数発す （先月中青森で9軒走る）
1703年　6月17日 元禄16年　5月4日 晴 （青森で60斗男非人倒死、今年の生鯡の記録29542駄）
1703年　6月18日 元禄16年　5月5日 快晴 朝霧 （浅虫村で村送り中の男倒死）
1703年　6月19日 元禄16年　5月6日 晴 （5日赤田組狐森村で倒死、2日朝金木新田豊岡村手代自害）
1703年　6月20日 元禄16年　5月7日 晴 夜に入り雨 酉の中刻雷 （当4月中碇関･大間越出入りを御家老中に報告）
1703年　6月21日 元禄16年　5月8日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ
1703年　6月22日 元禄16年　5月9日 曇 昨夜中より雨時々 夜に及ぶ
1703年　6月23日 元禄16年　5月10日 陰晴
1703年　6月24日 元禄16年　5月11日 晴 夜に入り雨 （4月中野内御関所:入り人137人･出人77人）
1703年　6月25日 元禄16年　5月12日 晴 昨夜より雨 終日に及ぶ （青森で5斗女子倒死、飯詰組で田畑水湛）
1703年　6月26日 元禄16年　5月13日 晴 申の刻より小雨 雷時々 夜に及ぶ （常盤組･増館組で田方水湛、常盤組水沼村で60男非人倒死）
1703年　6月27日 元禄16年　5月14日 曇 昨夜より雷雨時々 巳の中刻甚だしい雨 午の后刻止む （蟹田川洪水、昨日暮六つ新町で3つ斗男捨子、11日より油川組で洪水、油川組新田村で男が男を切り殺す）
1703年　6月28日 元禄16年　5月15日 晴 （11～12日赤石組で洪水、昨夜親方町に3･4才斗男子捨子、青森に50男非人･30女非人倒死）
1703年　6月29日 元禄16年　5月16日 快晴 （米小売値段:酒田米銭1匁に9合･秋田米銭1匁に1升･町米10目に付1斗1升、10日油川組新城村で走る）
1703年　6月30日 元禄16年　5月17日 陰晴 夜に入り雨 （13日浪岡組本郷村で走る、12日･14日碇関で大雨･洪水、11･12日赤石組で洪水被害）

1703年　7月1日 元禄16年　5月18日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り雨　(12日駒越組龍口村で洪水、12日の洪水で大間越方面に流木流れ寄せる、南部にて殊の外米高値:1両に5斗余)
1703年　7月2日 元禄16年　5月19日 陰晴　半夏丑の七刻　巳の下刻少し雨　則止む　(牧支配800人に味噌10匁宛貸す、高杉組熊島村で32・3女倒死)
1703年　7月3日 元禄16年　5月20日 曇　時々小雨
1703年　7月4日 元禄16年　5月21日 陰晴　今朝霧暫く
1703年　7月5日 元禄16年　5月22日 晴　(今朝早瀬野で馬盗人捕える)
1703年　7月6日 元禄16年　5月23日 曇　巳の刻より時々小雨　(赤石組久田村で走る、郡奉行の領分見分結果:元気に働いている・水温かく稲の成長能・畑作も能)
1703年　7月7日 元禄16年　5月24日 陰晴　卯の刻より霧小雨　暫くして止む　(藤崎村で44・5男非人倒死)
1703年　7月8日 元禄16年　5月25日 晴　卯の刻霧小雨　巳の刻止む
1703年　7月9日 元禄16年　5月26日 晴　(塩分町に5斗男子死亡(犬に喰われている))
1703年　7月10日 元禄16年　5月27日 晴　(昨夜百石町に6つ程男子捨子、16日駒籠山で男が殺される)
1703年　7月11日 元禄16年　5月28日 快晴　(大間越町に売り米なく御払い願い・1俵50目で10俵払出す、6月1日から青森正覚寺で粥を出すとの事、青森の男味噌100貫目差し上げる、青森で30斗男倒死)
1703年　7月12日 元禄16年　5月29日 晴　小風
1703年　7月13日 元禄16年　5月30日 なし(天気の記述なし)　(大光寺組で者倒死、今日土手町に3歳程男子捨子、28日青森に50斗女非人倒死、東長町に3斗女捨子)
1703年　7月14日 元禄16年　6月1日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(大鰐御菜園畑より初茄子差上げる)
1703年　7月15日 元禄16年　6月2日 曇　巳の下刻より雨　(銅屋町に3斗女子捨子、先月23日龍之口近所で17・8斗女倒死、板屋野木村で60斗女倒死)
1703年　7月16日 元禄16年　6月3日 曇　巳の上刻雨　則止む　夜に入り大雨　雷　(石渡川など各地に洪水、5月7日より青森で12軒・41人逐電、常盤・増館組で水湛)
1703年　7月17日 元禄16年　6月4日 曇　昨夜より雨時々　午の刻に及び止む　夜に入り雨　(石川等各地で大洪水・少なくとも1軒流失、1日夜横内組諏訪野沢村で火災、親方町に4斗男子捨子、板屋野木村に60斗男非人倒死)
1703年　7月18日 元禄16年　6月5日 曇　辰の刻より雨時々　終日夜に及ぶ
1703年　7月19日 元禄16年　6月6日 曇　昨夜よりの雨時々　終日に及ぶ
1703年　7月20日 元禄16年　6月7日 曇　昨日の雨時々打ち続く　土用　辰の初刻入る
1703年　7月21日 元禄16年　6月8日 陰晴　巳の下刻小雨　則止む　未の中刻より雨時々　夜に及ぶ　(碇関町の渇者38人・青森町の渇者614人に味噌10匁宛渡す)　下から続く　倒死、青森洪水被害、誓願寺前に60女倒死)
1703年　7月22日 元禄16年　6月9日 曇　昨夜よりの雨時々　終日に及ぶ　夜に入り雷電数　(御神楽を申付ける)　下から続く　洪水で死亡、青森で40男乞食・34・5女・44・5男乞食・15男乞食・50男乞食それぞれ　上に続く
1703年　7月23日 元禄16年　6月10日 曇　巳の刻より晴天　申の下刻より雨時々　夜に入り又大雨　(増館組十川村に40斗男倒死、御米値段金1両に付:庄内米6斗3升・秋田・新庄米6斗4升5合、3日猿賀組袋村で15男　上に続く
1703年　7月24日 元禄16年　6月11日 曇　昨夜より雨時々　(野内で7人逐電、青森で60男非人倒死、増館組吉野田村で45斗男非人倒死、岩木川洪水)
1703年　7月25日 元禄16年　6月12日 陰晴　卯の后刻大雨　巳の刻に及び止む　申の刻小雨　則止む　(大光寺村に40斗男非人倒死、浪岡組本郷村で村送り中の男倒死、浦町組上野村で火災、増館組水木村に4斗女子捨子)
1703年　7月26日 元禄16年　6月13日 曇　辰の上刻より雨
1703年　7月27日 元禄16年　6月14日 陰晴　寅の下刻雨　卯の刻止む　午の刻より小雨時々　(青森に44・5男非人倒死、御歩行町に5斗女子捨子)
1703年　7月28日 元禄16年　6月15日 晴　申の中刻小雨　則止む　戌の中刻雨　暫くして止む　(8日後方組長科村で百姓走る、猿賀組大袋村に50女倒死)
1703年　7月29日 元禄16年　6月16日 曇　卯の下刻より雨　辰の下刻より大雨　巳の下刻止む　(10日夜広田組川山村で逐電、五十石町原子所左衛門前橋下に40斗女倒死)
1703年　7月30日 元禄16年　6月17日 晴　未の刻雨　暫くして止む　(新町に4斗女子捨子、15日常盤組徳下村に55・6斗男倒死)
1703年　7月31日 元禄16年　6月18日 陰晴　甚だしく暑い(甚暑)　(今次(郎)兵衛前に2斗男子捨子)
1703年　8月1日 元禄16年　6月19日 快晴　甚暑　(15日青森で30斗男・50斗男倒死)
1703年　8月2日 元禄16年　6月20日 快晴　甚暑(日付が24日と記載されている。20日のところにあり、干支も20日なら整合するので20日と判定した)　(駒越組五代村に3斗不明捨子)
1703年　8月3日 元禄16年　6月21日 快晴　甚暑　(尾崎組で40斗男・赤田組板屋野木村で60斗男・16日青森で12斗男非人・17日青森で35斗男非人・50斗男非人・11斗男子非人・18日青森に50斗女非人倒死)
1703年　8月4日 元禄16年　6月22日 快晴　甚暑　(5月23日の報告と同じ郡奉行の報告が1ヶ月で変わっている:蕨の根穿に山に登るもの多い・飯米なし)
1703年　8月5日 元禄16年　6月23日 快晴　甚暑
1703年　8月6日 元禄16年　6月24日 快晴　甚暑　(町中(弘前)で預かっている捨て子25人・非人2人)
1703年　8月7日 元禄16年　6月25日 晴　甚暑　午の下刻より雨　未の中刻に及び止む　夜に入り小雨　(9日浦町組上野村で火災、高杉組高屋村に60斗女倒死、鯵ヶ沢で他国米750石7斗7升を87貫449匁で買い上げる)
1703年　8月8日 元禄16年　6月26日 晴　甚暑　(23日藤崎村で46・7尼縊死、柏木組常海橋村で30男・同組牡丹森村に44・5男倒死(持物の一つに「王川者:わつは」あり半濁点なし)、大鰐御菜園畑より初米・初真瓜上がる)
1703年　8月9日 元禄16年　6月27日 快晴　残暑　(24日夜浦町組高田村で火災)
1703年　8月10日 元禄16年　6月28日 曇　残暑　昨夜より雨　下から続く　3人・大鰐組長峰村で1軒2人走る、28日浪岡組中野村で男乞食・和徳組富田村で50斗男倒死)
1703年　8月11日 元禄16年　6月29日 晴　(大間越町に御蔵米10俵を50俵(匁か)で出す、青森の144人に御用味噌1日10匁7日分渡す、26日広田組種井村で逐電、24日赤田組板屋野木村で1軒4人・26日野木村で1軒　上に続く
1703年　8月12日 元禄16年　6月30日 晴　(去年10月17日亀甲町預かりの5歳捨子死亡、蟹田町で50余男・和徳組和徳村に50斗男倒死、浦町組高田村で火災(4間×7間:高無))
1703年　8月13日 元禄16年　7月1日 陰晴　巳の下刻より小雨時々　午の下刻まで時々雨　(門外村五右衛門初米上げる、亀甲町に6斗男捨子、他領に瓜・茄子出さないよう申し渡す、28日大鰐組長峰村で　下の欄外(*)に続く
1703年　8月14日 元禄16年　7月2日 曇　残暑　昨日よりの雨時々　終日に及ぶ　丑の刻大雨　(青森で非人30斗女・6斗男・50斗男・8斗男倒死)
1703年　8月15日 元禄16年　7月3日 曇　昨夜より雨　卯の后刻に及び止む　残暑　(28日・30日柏木組掛落林村・小幡村で2軒6人走る、和徳組大久保村に54・5斗男倒死)
1703年　8月16日 元禄16年　7月4日 晴　卯の中刻より小雨時々　(大円寺下に女倒死、油川組石神村で2軒2人走る、常盤組十川村に4斗女子捨子、28日鯵ヶ沢沖で破船1艘)
1703年　8月17日 元禄16年　7月5日 昨夜丑の中刻より雷電　寅の下刻まで数発　則雨止む　今朝辰の中刻小雨　卯の上刻より辰の下刻まで雨
1703年　8月18日 元禄16年　7月6日 晴　残暑　(12月に大光寺組小和森村に倒れていた女回復・能代へ、増館組久井名館村で14歳女子殺される、和徳村に50斗男倒死、飯詰村に4歳女・3歳女捨子、1日広田組川山村で2軒走る)
1703年　8月19日 元禄16年　7月7日 晴　残暑　9日から続く　川原に40斗男・常盤組榊村に40斗男・高杉組鬼沢村に42・3斗男倒死、どこかに3歳男捨子)
1703年　8月20日 元禄16年　7月8日 晴　残暑甚だしい　(鯵ヶ沢に40斗男・蟹田に30余斗男・6月29日青森に50斗男・8斗男・2日13斗男・40斗女・50斗女・14斗女・3日40斗男倒死、6日赤田組亀田村で1軒走る)
1703年　8月21日 元禄16年　7月9日 晴　残暑甚だしい　寅の下刻より大雨　卯の刻止む　午の刻より又雨時々　夜に及ぶ　(浦町組牛館村で火災、5日油川組新城村に雹、9日尾崎組柏木町村に40斗女・6日藤代組　7日に続く
1703年　8月22日 元禄16年　7月10日 昨夜より雨時々　夜に及ぶ　(弘前に5歳男・6歳女捨子、花火の種類あり、品川町に死骸あり)
1703年　8月23日 元禄16年　7月11日 昨夜より雨時々　終日に及び打ち続く　午の上刻地震　(今朝男・9日和徳組津軽野村に27位男・10日堀越組新里村に男・9日常盤組榊村に30男倒死、6月22日入牢の男牢死)
1703年　8月24日 元禄16年　7月12日 快晴　残暑甚だしい　(本銅屋町に34・5男・5日青森に13斗女・40斗男・7日10斗女・大光寺組本町村に50余男倒死、7日・8日鶴田村等で2軒6人走る、10日・11日常盤組　下に続く
1703年　8月25日 元禄16年　7月13日 快晴　残暑甚だしい　上から続く　増館組に大雨・水湛83町歩ほど、当月11日男牢死)
1703年　8月26日 元禄16年　7月14日 晴　残暑　(百石町川原に女倒死)
1703年　8月27日 元禄16年　7月15日 晴　残暑　午の后刻より小雨時々　未の刻止む
1703年　8月28日 元禄16年　7月16日 晴　残暑甚だしい　午の下刻小雨　則止む　未の下刻大雨　暫くして止む　下から続く　3軒・5～9日油川組新城村で5軒走る、後潟組内真部村に5歳男捨子)
1703年　8月29日 元禄16年　7月17日 晴　極暑　申の刻曇　(紺屋町で24・5男・藤代組蒲中村で37・8斗男・柏木組深味村に38斗女・13日和徳村に20斗女・40斗女・16日増館村に40男倒死、10日桑野木田組鶴田村で　上に続く
1703年　8月30日 元禄16年　7月18日 晴　残暑甚だしい　(15日広田組川山村で1軒走る、東長町橋下に女倒死)
1703年　8月31日 元禄16年　7月19日 陰晴　巳の后刻雷　暫くして止む　(15日広田組鶴が岡村で4軒12人走る、17日高杉組高屋村に30斗女・駒越組一町田村に31・2斗男倒死)
(*)　1軒3人走る、小国新田7か村38軒152人が渇命・1日1人に10匁の御用味噌を2日までの5日分渡したが10日まで続ける)

1703年　9月1日 元禄16年　7月20日 晴　未の中刻雷電雨　則止む　夜に入り雨　(19日増館組女鹿沢村に53・4男倒死、7日浦町組牛館村で火災(4間×14間:百姓))
1703年　9月2日 元禄16年　7月21日 陰晴　今朝霧暫く　(赤石組石野村に50斗男倒死)
1703年　9月3日 元禄16年　7月22日 晴　(常盤組徳下村?の山で男頓死)　24日から続く　葛野村に50男倒死、青森町で4月23日～27日の間に男3人・5月1日～28日に男4人・女3人倒死:二重かもしれない・要精査)
1703年　9月4日 元禄16年　7月23日 曇　巳の刻より時々小雨　(藤崎組横沢村に35・6斗男・和徳組津軽野村に15・6女・新寺町に40斗女非人倒死、18日紺屋町預けの捨子・もう1人死亡、先月17日油川組田沢で走る)
1703年　9月5日 元禄16年　7月24日 陰晴　卯の刻より霧小雨　暫くして止む　(20日大鰐組高畑村で・19・20日赤田組・桑野木田組鶴田村・強巻村で4軒走る、紺屋町に非人の男女・赤石組舞戸村に44・5男・常盤組　22日に続く
1703年　9月6日 元禄16年　7月25日 昨夜中少々雨　卯の下刻止む　夜に入り雨　(20～23日藤代・赤田・桑野木田・広田組で7軒走る、高杉組で45・6男倒死、東門堀に2斗女捨子、昨晩洪水)
1703年　9月7日 元禄16年　7月26日 晴　(22～25日赤田・桑野木田組で2軒8人・広田組4軒15人・赤石組1軒4人走る、6月19日町預かりの3歳捨子死亡)
1703年　9月8日 元禄16年　7月27日 晴　(昨日五林平村で男川流れ、5月に町預かりの3歳捨子死亡、東長町に4斗女・碇ヶ関山中に3人倒死、赤田組3軒10人・大間越で1軒5人走る、24日夜洪水)
1703年　9月9日 元禄16年　7月28日 快晴　(田方近年覚えなき上出来、17日駒越組で1軒4人・23日広田組で5軒14人・26日桑野木田組で3軒6人・去月16日上小国村で1軒5人走る、6月23日町預かりの　下の欄外(*)に続く
1703年　9月10日 元禄16年　7月29日 午の中刻雨　則止む　(27日広田組で6軒21人走る、25日持子沢村で27男水死)
1703年　9月11日 元禄16年　8月1日 曇　辰の中刻より雨暫く　(御家中宅前に3・4歳女子捨子、常盤組2村から初米御蔵に収める)　下から続く　西材木場川向に40斗男非人倒死、百沢寺が苔の実差し上げる)
1703年　9月12日 元禄16年　8月2日 晴　(次五兵衛預けの捨子死亡、金木村に女捨子、26日から金木組で1軒・藤崎組2軒・先月21日より20日まで(?)赤石組5軒・29日夜より昨晩迄赤田組・桑野木田組で5軒走る、　上に続く
1703年　9月13日 元禄16年　8月3日 晴　(油川組・横内組・後潟組の各地で走る、増館組赤茶村で37・8斗男倒死、御家中宅前に4斗捨子、赤石組田方に白水虫付く、藤崎渡で18男水死)
1703年　9月14日 元禄16年　8月4日 昨夜より雨　辰の后刻大雨暫く　それより雨　(3日藤崎組大田村で44・5男・7月1～23日青森で男3人・女6人倒死、浦町・広田・高杉組など各地で走る、三世寺渡で1人水死)
1703年　9月15日 元禄16年　8月5日 曇　(野内町で先月中10人走る、金木組高根村・尾別村で山崩れ・1人死亡、24日夜より広田組・赤石組で4軒走る)
1703年　9月16日 元禄16年　8月6日 曇　(3日飯詰組で1軒3人・2日・3日桑野木田組で5軒31人走る、赤石組嶋村から上初鮭1尺差上げる)
1703年　9月17日 元禄16年　8月7日 晴　夜に入り雨　(藤代組町田村の捨子死亡)
1703年　9月18日 元禄16年　8月8日 陰晴　(7月26日～8月8日の間各地で25軒36人走る、藤崎組川辺村に42・3男倒死、赤石組からの初鮭・岩木山の苔の実差登)
1703年　9月19日 元禄16年　8月9日 曇　(5日の大雨で金木組高根村で山崩れ、28～1日大雨・東風で後潟組の作毛不良、4日金木組洪水、大鰐組もちのき村で1軒3人・後潟組でも走る、駒越村に70斗女倒死)
1703年　9月20日 元禄16年　8月10日 晴　辰の刻小雨　則止む
1703年　9月21日 元禄16年　8月11日 陰晴　巳の中刻雨　則止む　未の刻雨時々　申の刻に及び止む　(1日から各地で30人走る、6日預けの倒女死亡、東長町預けの捨子女死亡)
1703年　9月22日 元禄16年　8月12日 陰晴　(9日から各地で7人走る、3日三世寺渡船より男落ち行方不明、11日鯵ヶ沢に52・3斗男・(今日)東長町に10斗男倒死)
1703年　9月23日 元禄16年　8月13日 快晴　(6日の洪水で金木組・広田組被害、柏木組大俵村に14・5男・尾崎組沖館村に50斗男倒死、青森漁師どもより二番鮭上がる)　下から続く　・家屋敷160軒・乗馬1疋・小荷駄7疋)
1703年　9月24日 元禄16年　8月14日 陰晴　(亀甲町に4斗女捨子、9日夜より赤田・桑野木田組で7人・油川組で1人走る)　下から続く　下男555(禅348・128・31・34・5・9)・下女377(禅229・95・19・25・0・7)　上に続く
1703年　9月25日 元禄16年　8月15日 陰晴　(13日藤代組で1人走る、御用人支配転切支丹人数:惣人数3477人・上男1359(禅922・浄土207・法花92・浄真95・天台17・真言26)・上女1186(禅794・177・102・78・14・21)　上に続く
1703年　9月26日 元禄16年　8月16日 曇　辰の刻より小雨時々　終夜に及ぶ　(15日高杉組高杉村の高無(稲盗人)縊死、11～13日赤田組で5人・赤石組で2人・駒越組で1人走る)
1703年　9月27日 元禄16年　8月17日 曇　卯の下刻より小雨時々　(浪岡組中野村預かりの捨子16日死亡、14日広田組などで3軒11人走る、尾崎組大坊村で3軒11人走る)
1703年　9月28日 元禄16年　8月18日 曇　昨夜より雨　終日終夜に及ぶ
1703年　9月29日 元禄16年　8月19日 昨夜より雨　卯の下刻止む　申の后刻より大風　夜に及ぶ　但し時々雨添える　午の中刻和らぐ　(鮭留入札:原別川御役銭350目・野内川183匁5分など、三番鮭鯵ヶ沢漁師どもより上がる)
1703年　9月30日 元禄16年　8月20日 陰晴　昨夜風　今朝少し和らぐ　小風雨時々　未の下刻に及び止む　(各所に大きな風被害)
1703年　10月1日 元禄16年　8月21日 曇　寅の下刻より雨時々　終夜に及ぶ　(各地の風被害・雨被害、19日赤田組板屋野木村で1軒4人・駒越組で1軒4人・広田組で3軒12人欠落ち)
1703年　10月2日 元禄16年　8月22日 陰晴　丑の下刻より雨時々　終夜に及ぶ　(19日の風被害の記述・青森で住家破損3・40軒)
1703年　10月3日 元禄16年　8月23日 申の下刻より雨時々　終夜に及ぶ　夜に入り雷発す　(19日の大風で川原平村で潰れ家1人死亡、その他家5軒潰れ・雑駄1疋斃)
1703年　10月4日 元禄16年　8月24日 陰晴　昨夜より雨　巳の中刻に及び止み小風　(9～16日浦町組で9軒34人・8～11日横内組で41人・21日広田組で4軒20人欠落ち)
1703年　10月5日 元禄16年　8月25日 陰晴　午の后刻雷雨風　(19日夜の大風で後潟組板木沢村で潰れ家1軒・その後出火、浦町組・横内組で2軒潰れる)
1703年　10月6日 元禄16年　8月26日 陰晴　小風
1703年　10月7日 元禄16年　8月27日 晴　(常盤組五林村に57・8斗男倒死、久井名館で娘を絞殺して先月19日牢舎の男牢死、24日広田組で百姓2軒欠落ち、19日被害のまとめらしい記述)
1703年　10月8日 元禄16年　8月28日 晴
1703年　10月9日 元禄16年　8月29日 寅の后刻より小雨時々　巳の刻に及び止む　(19日の大波で助け舟4艘?が破船)
1703年　10月10日 元禄16年　8月30日 晴
1703年　10月11日 元禄16年　9月1日 快晴　酉の后刻雷雨
1703年　10月12日 元禄16年　9月2日 晴　(出来嶋濱へ流木寄せる、去月27日広田組で4軒16人走る)
1703年　10月13日 元禄16年　9月3日 晴　小風　(駒越組二本木村で火災1軒・4歳女子死亡)
1703年　10月14日 元禄16年　9月4日 晴　小風
1703年　10月15日 元禄16年　9月5日 快晴　(目明し専四郎?……、牢舎中9人病者、御米一万石江戸請米・内3700石運賃米・6300石お江戸御手取り分・江戸で金1両に付米8斗宛)
1703年　10月16日 元禄16年　9月6日 陰晴　酉の刻より雨　終夜に及ぶ　(土手町に40女非人倒死、鯵ヶ沢に寄せ材木、8月28～9月4日迄走者:横内組16軒59人・浦町組5軒20人・油川組2軒2人・増館組1軒3人、御用金3300両登)
1703年　10月17日 元禄16年　9月7日 曇　昨夜より雨　夜に入る
1703年　10月18日 元禄16年　9月8日 曇　未の刻より雨時々　終夜に及ぶ　小風　(碇関の柵が大風雨で倒れる)
1703年　10月19日 元禄16年　9月9日 曇　昨夜より雨風　終日夜に及ぶ
1703年　10月20日 元禄16年　9月10日 陰晴　(荒町で町中お預けの捨子22人で苦労しているとの事、三馬屋梨子368(上210・中158)お台所に差し上げる・今年は小振り、4日深浦で2軒8人逐電)
1703年　10月21日 元禄16年　9月11日 快晴　霜　(此の度の大風で大間越に被害、7日飯詰組で2軒8人欠落ち)
1703年　10月22日 元禄16年　9月12日 快晴　(炭4斗入り1俵に付1匁1分5厘5毛)
1703年　10月23日 元禄16年　9月13日 晦　夜に入り雨
1703年　10月24日 元禄16年　9月14日 曇　昨夜より雨時々
1703年　10月25日 元禄16年　9月15日 陰晴　(大鰐組薬師堂村で50男倒死、広田組5ヶ村の124軒に救い米を出したが32軒走る・残る90軒?548人に1日1人3合宛の御救い米を6日から当月中渡すこととする)
1703年　10月26日 元禄16年　9月16日 晦　(男牢死)
1703年　10月27日 元禄16年　9月17日 晦　(御家中自害、熊島村で稲にを三つ(2000束余)焼失、11日長浜沖の大波で2人死亡)
1703年　10月28日 元禄16年　9月18日 快晴　夜に入り小雨
1703年　10月29日 元禄16年　9月19日 曇　昨夜より雨　辰の下刻に及ぶ
1703年　10月30日 元禄16年　9月20日 陰晴　(大組三番組並足軽が3月にお供で江戸登中道中刈和野で落馬……)
1703年　10月31日 元禄16年　9月21日 晴

(*)　3歳捨て子死亡、23日青森に23斗女倒死、24日の大雨で常盤組の田方水湛)

1703年　11月1日 元禄16年　9月22日 晴　霜（野内町(報告者から)で1軒3人走る）
1703年　11月2日 元禄16年　9月23日 曇　辰の下刻より小雨（16日高杉組熊島村で稲1184束焼く）
1703年　11月3日 元禄16年　9月24日 陰晴
1703年　11月4日 元禄16年　9月25日 晴　小風（22日藤代組床舞村で火災(2間半×4間:高無)）
1703年　11月5日 元禄16年　9月26日 曇　時々小雨（22日夜大鰐組長峰村で火災6軒）
1703年　11月6日 元禄16年　9月27日 陰晴　岩木山へ雪見る
1703年　11月7日 元禄16年　9月28日 曇　昨夜より小雨　卯の刻より霙　未の刻地震　則止む
1703年　11月8日 元禄16年　9月29日 陰晴（24日晩南広小路ではたかの男子倒死、25日金木組宮の沢で熊(胆長3寸5歩・廻り6寸5歩:8歳)取る）
1703年　11月9日 元禄16年　10月1日 昨夜より時々雨
1703年 11月10日 元禄16年　10月2日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り小雪
1703年 11月11日 元禄16年　10月3日 陰晴　昨夜より時々雪　小風　終日夜に及ぶ（去月28日今別で60斗男倒死）
1703年 11月12日 元禄16年　10月4日 陰晴　昨夜より雪時々　終日に及ぶ（27日石崎浜に帆柱流れ寄せる、銅屋町に16・7と12・3男2人倒死）
1703年 11月13日 元禄16年　10月5日 晴　今朝地初めて氷る　大雪(大霜ではないかと思うが)（常盤組水沼村に43・4女倒死、ただいま男牢死）
1703年 11月14日 元禄16年　10月6日 曇　今朝大霜見る
1703年 11月15日 元禄16年　10月7日 晴　夜に入り時々雨
1703年 11月16日 元禄16年　10月8日 晴（広田組5ヶ村の77軒420人への御救い米(普通1日1人に3合)を2合として9日より28日まで拝借を申付ける、6日藤代組で1軒3人走る、4日後潟組瀬戸子村に70斗女倒死）
1703年 11月17日 元禄16年　10月9日 晴（御小納戸金・御用金1200両差し登、9月4日牢舎の馬盗人牢死）
1703年 11月18日 元禄16年　10月10日 陰晴　午の刻より小雨時々　未の刻に及び止む（稲31714束が175石5升2合、磔3人(馬盗み脇道・偽文書)・獄門1人(盗人)・斬罪5人（殺人脇道など)・成敗(追放の立ち返り・種籾窃盗など)8人）
1703年 11月19日 元禄16年　10月11日 陰晴　今朝大霜　夜に入り雨
1703年 11月20日 元禄16年　10月12日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り小雪（尾崎組大坊村に60斗女倒死、9月中より青森で8軒34人欠落ち、8日朝鰺ヶ沢で破船1艘）
1703年 11月21日 元禄16年　10月13日 曇　申の刻より雪　終夜に及ぶ
1703年 11月22日 元禄16年　10月14日 陰晴（他国米14371石余入れている、牧方3軒に3月まで1日1人2合宛御救い米?）
1703年 11月23日 元禄16年　10月15日 晴（12日の大雨で石川の仮橋落ちる、青森毘沙門堂で60男縊死）
1703年 11月24日 元禄16年　10月16日 陰晴　卯の下刻雷発す　巳の刻より小雨時々　酉の刻雷電　夜に入り雨風　北の方虹見る（南部不作の由）
1703年 11月25日 元禄16年　10月17日 昨夜より雨風　辰の刻より霙風　終日夜に及ぶ（誓願寺前橋下に60斗男倒死）
1703年 11月26日 元禄16年　10月18日 晴（9月22日長峰村百姓6軒焼失に伴い稲7442束焼失・(年貢からの)御差し引き願い・了承、当年大豆高値につき……）
1703年 11月27日 元禄16年　10月19日 晴　今朝大霜見る　夜に入り雨　終夜に及ぶ
1703年 11月28日 元禄16年　10月20日 曇　小雨時々　北の方に少し虹見る
1703年 11月29日 元禄16年　10月21日 曇　小雪時々　夜に入り雪
1703年 11月30日 元禄16年　10月22日 曇　巳の刻小雨　夜に入り雪風
1703年　12月1日 元禄16年　10月23日 曇　昨夜の雪時々　風　終日夜に及ぶ　夜に入り雪風（不作対策案を書いているらしいが……）
1703年　12月2日 元禄16年　10月24日 陰晴　昨夜より雪時々　雪深さ六寸程
1703年　12月3日 元禄16年　10月25日 曇　戌の上刻地震　昨夜より雪　終日夜に及ぶ（今年の税の代銭米1俵が20目・これまでの御救米の代銭米1俵38匁、8月から深浦で4人走る、弘前御蔵米沖口とも金10両に付き34俵・青森31俵）
1703年　12月4日 元禄16年　10月26日 陰晴
1703年　12月5日 元禄16年　10月27日 晴
1703年　12月6日 元禄16年　10月28日 晴（25日藤代組で1軒・油川組で4軒10人走る、21日青森に20斗男非人倒死）
1703年　12月7日 元禄16年　10月29日 陰晴　辰の刻より小雨時々
1703年　12月8日 元禄16年　10月30日 曇　昨夜より風雪　今日も終日に及ぶ（広田組74軒341人に当月29日より来月中又増やして1日1人3合の御救い米、去月19日の大風で痛んだ木戸の記述）
1703年　12月9日 元禄16年　11月1日 陰晴　夜に入り雨（江戸へ御用金5000両差登・内3000両は作事料）
1703年 12月10日 元禄16年　11月2日 曇　昨夜より雨時々　夜に入り雪風（青森より初鱈1尾差上げる）
1703年 12月11日 元禄16年　11月3日 曇　昨夜より雪風時々　終日に及ぶ（先月27日油川組で1軒3人・29日尾崎組と藤代組で1軒2人・1軒3人走る）
1703年 12月12日 元禄16年　11月4日 陰晴　酉の中刻より霙（東長町大橋下に40斗男倒死、10月29日赤石組中村山で熊(胆長4寸・廻り3寸:5歳)取る）
1703年 12月13日 元禄16年　11月5日 陰晴　時々雪　終日夜に及ぶ（青森より2番鮭上がる）　下から続く　・稗4斗、御売貸米値段去る暮れ蟹田で1俵38匁・当6月平均45匁）
1703年 12月14日 元禄16年　11月6日 曇　昨夜より雪時々　終日に及ぶ（米1俵18匁(弘前)・20匁(浦々)・18匁5分(岡在)・以下10匁に付き:大豆2斗2升・小豆2斗3升・蕎麦3斗6升・小麦1斗1升・大麦2斗3升・粟3斗6升　上に続く
1703年 12月15日 元禄16年　11月7日 曇　昨夜より雨時々　終日夜に及ぶ（3日赤石組で熊取る）
1703年 12月16日 元禄16年　11月8日 晴（大円寺下に37・8男倒死、5日常盤組福嶋村で外馬屋(3間×4間)焼失、深浦町16軒48人に当月より2月末まで1日1人2合の御救い米）
1703年 12月17日 元禄16年　11月9日 晴（2日の大風で鰺ヶ沢に被害、駒越組目屋野沢で熊取る）
1703年 12月18日 元禄16年　11月10日 曇　昨夜より雪　今日終日夜に及ぶ（大鰐組長峰村に40男倒死）　下から続く　赤石組広戸村で狼が屋内で荒れる）
1703年 12月19日 元禄16年　11月11日 曇　巳の中刻より小雪時々　終夜に及ぶ（御用雑穀代米1升に付:次大豆9合・上大豆6合・上赤小豆6合・上蕎麦4合4夕・上餅粟7合・稗4升、10月から青森で8軒32人欠落、2日夜　上に続く
1703年 12月20日 元禄16年　11月12日 陰晴　小雪時々（初鱈と2番鱈の御褒美は10匁と4匁なのだそうな、8日駒越組目屋野沢で熊(胆長4寸2歩廻り7寸:6歳)取る）
1703年 12月21日 元禄16年　11月13日 申の后刻より雪　終日夜に及ぶ（10日夜飯詰組飯詰村で火災）
1703年 12月22日 元禄16年　11月14日 曇　雪時々　終日夜に及ぶ（駒越組で熊3疋(胆長4寸・廻り6寸:他はたてが当たり胆なし)取る）
1703年 12月23日 元禄16年　11月15日 申の刻より小雪時々　終夜に及ぶ（米1俵18匁・1両70目、駒越組で熊4疋(胆長4寸廻り7寸:5歳など)取る、6日横内組で3軒15人走る）
1703年 12月24日 元禄16年　11月16日 昨夜より雪時々　終日に及ぶ（12日駒越組目屋野沢で熊(胆長4寸廻り5寸:6歳)取る）
1703年 12月25日 元禄16年　11月17日 曇　雪時々（当月3日の大風金木組小泊村で2軒・30艘破損）
1703年 12月26日 元禄16年　11月18日 曇　昨夜より風雪　午の刻止む（14日駒越組大秋山で熊(胆長1寸8歩廻り2寸6歩:2歳)取る、6日から今日迄大光寺組で8軒走る）　下から続く　8合・次粟1升5合・稗4升）
1703年 12月27日 元禄16年　11月19日 陰晴　小雪時々　午の刻に及び止む　夜に入り雪（大間越に売買米なく御蔵米30俵を1俵21匁で払出す、米1升相当雑穀:次大豆9合・次小豆9合・次蕎麦1升2合・大麦1升・小麦　上に続く
1703年 12月28日 元禄16年　11月20日 陰晴　夜に入り雪
1703年 12月29日 元禄16年　11月21日 曇　昨夜より大雪　終日に及ぶ　夜に入り小雪
1703年 12月30日 元禄16年　11月22日 曇　時々雪（本年3月今別町の米相場1俵35匁・5月青森で44匁）
1703年 12月31日 元禄16年　11月23日 晴

1704年　1月1日 元禄16年　11月24日 陰晴　(深浦町の29軒97人に2月中まで1人1日2合の御救い米、21日駒越組相馬山で熊2疋(胆長4寸廻り7寸：6歳・3寸5歩7寸5歩：7歳)取る)
1704年　1月2日 元禄16年　11月25日 陰晴　未の刻より雨　酉の刻より雨風　戌の刻に及び止む　それより雪　(1駄の駄賃上がる：東長町一鯵ヶ沢1匁9分を2匁3分等)
1704年　1月3日 元禄16年　11月26日 曇　吹雪終日　(赤石組で熊(胆長4寸3歩廻り5寸：3歳)取る、14日・17日に青森で2軒9人走る)
1704年　1月4日 元禄16年　11月27日 晴
1704年　1月5日 元禄16年　11月28日 晴　午の刻小雨　則止む　(23日広田組鶴岡村で百姓1軒4人走る)
1704年　1月6日 元禄16年　11月29日 曇　小寒　酉の三刻　巳の中刻より雨　午の刻雪　(18日赤石組で大風被害・潰れ家1軒)
1704年　1月7日 元禄16年　12月1日 曇　昨夜より吹雪　終日夜に及ぶ
1704年　1月8日 元禄16年　12月2日 曇　雪時々
1704年　1月9日 元禄16年　12月3日 陰晴　(28日駒越組目屋野沢で熊2疋(胆長3寸8歩廻り7寸・4寸7寸5歩：5歳)取る、27日赤石組赤石山で熊(胆長3寸5歩廻り6寸)取る)
1704年　1月10日 元禄16年　12月4日 陰晴　(赤米1俵19匁、広田組78軒468人に來正月晦日まで1日1人3合の御救い米、11月10～25日柏木組・堀越組で9軒23人走る)
1704年　1月11日 元禄16年　12月5日 小雪時々　午の刻に及び止む　未の刻より雪　夜に及ぶ
1704年　1月12日 元禄16年　12月6日 曇　昨夜より大雪時々　終日夜に及ぶ　(取替え米値段1俵18匁5分、3日藤代組で2軒9人走る、紺屋町に18・9斗男倒死)
1704年　1月13日 元禄16年　12月7日 晴
1704年　1月14日 元禄16年　12月8日 晴　申の中刻より風　丸雪時々　酉の刻に及び止む
1704年　1月15日 元禄16年　12月9日 陰晴　午の下刻より小雪時々　夜に入り雪風　(11月22日江戸で夜八時過ぎ夥しい地震)　下から続く　紺屋町預かりの6歳捨子死亡)
1704年　1月16日 元禄16年　12月10日 曇　昨夜より小雪風　(大泊等の狄3軒17人に29日まで20日分の御救い米(1日1人1合5夕)、津出米が11万9千石余かな?、駒越組で熊2疋取る、5～7日常盤組で5軒17人走る、　上に続く
1704年　1月17日 元禄16年　12月11日 陰晴　夜に入り小雪
1704年　1月18日 元禄16年　12月12日 曇
1704年　1月19日 元禄16年　12月13日 陰晴　時々雪　終日夜に及ぶ　(12日藤代組北浮田村で火災(1間半×2間：高無)、12日藤代組藤代村で1軒5人走る)
1704年　1月20日 元禄16年　12月14日 曇　時々小雪
1704年　1月21日 元禄16年　12月15日 陰晴　時々雪　夜に入り風雪　(両替73匁、広田組70人に正月晦日までの御救い米、去月29日小石川水戸様屋敷から出火・江戸の中屋敷等類焼、去月22日江戸で大地震)
1704年　1月22日 元禄16年　12月16日 陰晴　昨夜中より風雪　巳の刻に及び止む　それより時々雪
1704年　1月23日 元禄16年　12月17日 陰晴　(御城の大門大門10ケ所……)
1704年　1月24日 元禄16年　12月18日 曇　辰の刻より雪　同下刻より雨　(10日駒越組菖蒲川村で1軒走る)
1704年　1月25日 元禄16年　12月19日 陰晴
1704年　1月26日 元禄16年　12月20日 晴　午の后刻より小雪
1704年　1月27日 元禄16年　12月21日 曇　小雪　夜に入り大雪
1704年　1月28日 元禄16年　12月22日 曇　時々小雪　夜に入り大雪　(深浦町の157人－αに1日1人2合の御救い米を2月中まで)
1704年　1月29日 元禄16年　12月23日 昨夜より雪時々　終日夜に及ぶ　(野内町の1軒4人に1日1人2合の御救い米を1月中まで)
1704年　1月30日 元禄16年　12月24日 昨夜より雪　終日に及ぶ　夜に入り吹風　(兼平三太夫宅の屋根が雪で大破、14日今別町で他人の女房を鐇(手斧か)で打擲・牢舎)
1704年　1月31日 元禄16年　12月25日 曇　昨夜より吹風　寒風終日夜に及ぶ　(22日藤代組廻関村で火災、17日駒越組桜庭村の猟師が熊2疋取る、17日後潟組瀬戸子村で40斗男・20日藤代組三世寺村に34・5男乞食倒死)
1704年　2月1日 元禄16年　12月26日 昨夜より雪風時々　終日に及ぶ　(23日飯詰組飯詰村の寺で火災、23日増館組福館村庄屋屋敷前に11位女倒・25日死)
1704年　2月2日 元禄16年　12月27日 陰晴　時々小雪　夜に入り雨　戌の刻雪　則止む
1704年　2月3日 元禄16年　12月28日 陰晴　小雪時々　終日夜に及ぶ
1704年　2月4日 元禄16年　12月29日 陰晴　小雪時々　(25日駒越組目屋野沢で熊(胆長4寸廻り7寸：4歳)取る、19～23日猿賀・大光寺組で8軒走る、25日藤代組(代官名から判定)で1軒走る)
1704年　2月5日 元禄17年正月1日　曇　時々雪　終日夜に及ぶ
1704年　2月6日 元禄17年正月2日　曇　昨夜より雪時々　終日夜に及ぶ　丑の刻地震暫く
1704年　2月7日 元禄17年正月3日　曇　元日より雪時々　終日終夜に及ぶ
1704年　2月8日 元禄17年正月4日　陰晴
1704年　2月9日 元禄17年正月5日　晴
1704年　2月10日 元禄17年正月6日　陰晴　辰の后刻小雪　則止む
1704年　2月11日 元禄17年正月7日　曇　卯の中刻より小雪時々　午の刻より大雪　申の中刻止む　又夜に入り小雪　但し酉の后刻地震　少しづつ間置き三度に及ぶ
1704年　2月12日 元禄17年正月8日　曇　昨夜より時々雪
1704年　2月13日 元禄17年正月9日　曇　卯の中刻より雪　夜に入り小雪
1704年　2月14日 元禄17年正月10日　晴　夜に入り大雪風
1704年　2月15日 元禄17年正月11日　曇　昨夜より大吹雪　終日に及ぶ　夜に入り時々小雪
1704年　2月16日 元禄17年正月12日　陰晴　時々小雪
1704年　2月17日 元禄17年正月13日　晴　申の下刻より雪　夜に及ぶ
1704年　2月18日 元禄17年正月14日　曇　辰の刻より雪
1704年　2月19日 元禄17年正月15日　晴
1704年　2月20日 元禄17年正月16日　快晴
1704年　2月21日 元禄17年正月17日　曇
1704年　2月22日 元禄17年正月18日　快晴
1704年　2月23日 元禄17年正月19日　陰晴　下から続く　・雪なた連のため、深浦町の5軒23人に2月15日まで1日1人2合の御救い米)
1704年　2月24日 元禄17年正月20日　陰晴　今朝霜見え　酉の中刻初雁渡る声聞く(初雁は秋だ)　(三之御郭火之見矢倉の東30間の土居外頬・火之見矢倉の西3間ほどの土居外頬・その13間西の土居外苞に崩れ　上に続く
1704年　2月25日 元禄17年正月21日　今朝大霜見る　(浪岡・駒越・金木組の猟師それぞれ熊(胆長3寸幅1寸5歩・胆長3寸廻り4寸・胆長4寸廻り6寸)取る、大間越町に1俵を23俵(匁？)値段で20俵御払い、青森で男牢死)
1704年　2月26日 元禄17年正月22日　晴　(御家中の家来縊死・下女自害)
1704年　2月27日 元禄17年正月23日　陰晴　卯の刻小雨　則止む　未の刻小雨　則時止む
1704年　2月28日 元禄17年正月24日　晴　酉の中刻より雨　終夜に及ぶ　(22日男牢死)
1704年　2月29日 元禄17年正月25日　晴　(21～23日藤代組で4軒12人走る、7日紺屋町で倒れた14・5男夜に死亡・2日に土手町で倒れた35男非人が5日に死亡・昨年10月東長町に倒れた4斗女子が15日に死亡)

1704年　3月1日 元禄17年正月26日　晴　戌の刻雨　同刻より雪終日　夜に及ぶ　(24日夜岩木川洪水、堀越組一野渡の猟師が熊3疋取る)
1704年　3月2日 元禄17年正月27日　陰晴　夜に入り小雪　(広田組88軒538人に2月朔日より15日まで1日1人3合宛御救い米、牢死男1人)
1704年　3月3日 元禄17年正月28日　晴　(24日飯詰組高野村で溜池が洪水で破れる)
1704年　3月4日 元禄17年正月29日　晴　夜に入り雨小雪　(脇道を通り秋田領に行こうとする者を3組捕える)
1704年　3月5日 元禄17年正月30日　陰晴　(野内町の20人に1日2合の御救い米、26日の洪水で石川の仮橋落ちる)
1704年　3月6日 元禄17年　2月1日 陰晴　夜に入り雨　(先月24日金木組薄市村で1軒3人走る、隠荷多い、後方組大川平村の狄5軒に米15俵貸す・代銭鮫油で)
1704年　3月7日 元禄17年　2月2日 晴　夜に入り雨雪　(赤石組で熊(胆長4寸廻り3寸:3歳)取る、一昨晦日浦町組大野村で乱気男が女房を打殺す、御郡中駄賃定めあり・1駄分とは36貫目)
1704年　3月8日 元禄17年　2月3日 晴　午の下刻より小風　(この冬取った熊34疋(牡31(昨年9月より12月に26・今年は5)・雌3(12月に2・正月に1):このような情報は余りないが精度を知る上で重要)
1704年　3月9日 元禄17年　2月4日 晴　(男牢死)
1704年　3月10日 元禄17年　2月5日 曇　卯の中刻より雨終日　夜に及ぶ　下から続く　横内組で熊3疋(胆長5寸廻り7寸:15歳・3寸7歩5寸:3歳・3寸5歩4寸7歩:6歳)取る)
1704年　3月11日 元禄17年　2月6日 陰晴　昨夜より小雨　辰の中刻に及ぶ　(深浦町の211人に当月中御救い米、5日の雨で藤崎川洪水、先月29日桑野木田組で2軒6人・1日大鰐組で2軒2人走る、堀越組・駒越組・　上に続く
1704年　3月12日 元禄17年　2月7日 晴　丑の下刻地震　申の下刻小雪
1704年　3月13日 元禄17年　2月8日 晴　卯の上刻地震
1704年　3月14日 元禄17年　2月9日 曇　未の下刻より雨　夜に入り雪　(松ヶ崎・藤山の狄6軒に18俵貸す・代銭は鮫油で)　下から続く　熊2疋(胆長3寸2歩廻り5寸・4寸5歩7寸4歩)取る、狄共貝の玉差上げる)
1704年　3月15日 元禄17年　2月10日 曇　時々小雪　(4～5日藤代組で3軒10人・4日大鰐組で1軒2人・5～7日常盤組で5軒17人・先月2～4日藤代組で3軒10人・正月26～2月1日大光寺組で8軒27人走る、駒越組・大鰐組で
1704年　3月16日 元禄17年　2月11日 晴　(6・7日赤石組で熊2疋取る)
1704年　3月17日 元禄17年　2月12日 晴　(鮫油1升が5匁5分)
1704年　3月18日 元禄17年　2月13日 陰晴　辰の中刻より小雨　則止む　申の刻より雨　終夜に及ぶ　下から続く　軒・乗馬1疋・小荷駄6疋)
1704年　3月19日 元禄17年　2月14日 曇　昨夜より雨霙　辰の刻に及ぶ(辰及刻)　(12日碇関山・駒越組目屋野沢で熊2疋取る)　下から続く　・29・35・7・3)・下女340(230・61・19・24・5・1)・家屋敷68軒・家屋敷92　上に続く
1704年　3月20日 元禄17年　2月15日 曇　午の刻雨　(御用人支配転切支丹惣人数3424人・上男1357(禅910・浄土209・法花96・浄土真105・真言26・天台11)・上女1169(773・183・106・77・17・13)・下男558(353・131　上に続く
1704年　3月21日 元禄17年　2月16日 晴　大霜今朝見る　夜に入り雨　(野内町3軒14人に1日2合の御救い米20日まで、13日高杉組で熊取る、10～13日増館組で8軒22人走る、山で吹かれ2人・なだれで1人死亡)
1704年　3月22日 元禄17年　2月17日 曇　辰の刻より小雪　(15日大鰐組で熊(胆長3寸廻り2寸5歩)取る)
1704年　3月23日 元禄17年　2月18日 陰晴　(広田組7か村538人に16日～29日まで1人1日3合の御救い米)
1704年　3月24日 元禄17年　2月19日 曇　ひかん(彼岸)に入る　卯の中刻より雨　終日に及ぶ　(9日岩木嵩に薪取りの男大吹で死亡)
1704年　3月25日 元禄17年　2月20日 陰晴　(小畑沢・入内村の7軒51人に1日2合の御救い米を当月中、17日大鰐組で熊(胆長4寸廻り6寸)取る、14日金木組で1軒8人・13～17日大光寺・猿賀組で8軒走る)
1704年　3月26日 元禄17年　2月21日 曇　辰の刻小雨　則止む　夜に入り小雨　暫くして止む　子の刻小雨
1704年　3月27日 元禄17年　2月22日 曇　午の刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り小雨
1704年　3月28日 元禄17年　2月23日 曇　(16日赤石組で1軒3人・11日和徳組で2軒8人・16～20日常盤組で8軒19人走る、18日大鰐組で熊取る)
1704年　3月29日 元禄17年　2月24日 陰晴　下から続く　広田261・柏木5・藤崎13・高杉33・駒越14・赤田184・桑野木田201・藤代53・金木41・赤石92、20日飯詰組で洪水)
1704年　3月30日 元禄17年　2月25日 曇　昨夜より雨　(昨年走った人数1642人(和徳組8・堀越88・大鰐47・尾崎19・大光寺22・猿賀38・田舎館3・浪岡2・常盤36・増館3・浦町109・横内243・油川92・後潟14・飯詰21・　上に続く
1704年　3月31日 元禄17年　2月26日 曇　卯の下刻より雨　辰の下刻より霙　午の刻より雨　終日夜に及ぶ　(赤石組で熊(胆長4寸7歩廻り7寸)取る)
1704年　4月1日 元禄17年　2月27日 晴　今朝霜
1704年　4月2日 元禄17年　2月28日 曇　昨夜より霙　今日午の刻に及ぶ　それより時々雨　(大間越で米1俵を25匁で20俵御払い)
1704年　4月3日 元禄17年　2月29日 晴
1704年　4月4日 元禄17年　3月1日 曇　巳の中刻雨風　終日に及ぶ　夜に入り雪
1704年　4月5日 元禄17年　3月2日 曇　昨夜より雪並びに霙　辰の刻に及び止む　それより小雨時々　(碇関山中に倒死者、稗・大豆の種子を中小国などの庄屋が拝借願い・貸す)
1704年　4月6日 元禄17年　3月3日 曇　昨夜より雨風　時々小雪
1704年　4月7日 元禄17年　3月4日 晴
1704年　4月8日 元禄17年　3月5日 陰晴　(猿賀組で熊(胆長4寸廻り5寸3歩)取る、金木組川倉村で火災(8日の記述では2間半×4間:高無))
1704年　4月9日 元禄17年　3月6日 快晴　(新町に4斗捨子、去年7月に鍋三ツ盗んだ男只今牢死)
1704年　4月10日 元禄17年　3月7日 快晴　(広田組7か村88軒538人に15日まで1日1人3合の御救い米、昨夜百沢村で火災)
1704年　4月11日 元禄17年　3月8日 快晴　(飯詰組羽野木沢村の御伝馬所の百姓3軒27人に1日より15日まで1日1人3合の御救い米、2月29日南部領で熊取るが胆袋にたて当たり胆なし)
1704年　4月12日 元禄17年　3月9日 晴　(1～2日の大風で2艘破損・2艘5人行方不明)
1704年　4月13日 元禄17年　3月10日 晴　(8日横内組萱立山へ野火(50間×40間)、5・6日駒越組相馬・目屋野沢で熊(胆長5寸廻り7寸・4寸7寸)取る)
1704年　4月14日 元禄17年　3月11日 晴
1704年　4月15日 元禄17年　3月12日 陰晴
1704年　4月16日 元禄17年　3月13日 晴　(横内組野内で野火)
1704年　4月17日 元禄17年　3月14日 晴
1704年　4月18日 元禄17年　3月15日 晴　申の刻少し雨　則止む　(7日横内組で1軒4人・6日高杉組で1軒走る、赤石組で熊(胆長6寸廻り7寸5歩)取る、5日駒越組百沢村で火災1軒、6日後潟組中沢村で火災1軒)
1704年　4月19日 元禄17年　3月16日 曇　卯の刻より雨終日　申の中刻止む　(昨夜九つ時分東長町から火災13軒、12日駒越組枯木平で熊(胆長4寸廻り6寸5歩)取る)
1704年　4月20日 元禄17年　3月17日 曇
1704年　4月21日 元禄17年　3月18日 曇　卯の刻雨　則止む　巳の刻より又雨終日　それより小雨　終日夜に及ぶ　(16日の東長町の火災に伴い男死亡)
1704年　4月22日 元禄17年　3月19日 陰晴
1704年　4月23日 元禄17年　3月20日 晴　(藤崎御蔵米を青森に下げる駄賃は1駄で2匁6分・雪中は4分増し)
1704年　4月24日 元禄17年　3月21日 晴　(大間越町に御蔵米30俵を1俵につき25匁2分で御払い)
1704年　4月25日 元禄17年　3月22日 晴
1704年　4月26日 元禄17年　3月23日 快晴
1704年　4月27日 元禄17年　3月24日 なし　(高倉主計死亡)　下から続く　沢村で1軒走る、会津から熊の胆25を売りに来る)
1704年　4月28日 元禄17年　3月25日 曇　卯の刻より小雨時々　終日に及ぶ　夜に入り雨　(駒越組相馬の沢で熊(胆長4寸5歩廻り7寸)取る、16日金木組で2軒2人・14日夜横内組深持村庄屋1軒6人・18日金木組宮野　上に続く
1704年　4月29日 元禄17年　3月26日 晴　辰の刻より風　終日に及ぶ　酉の刻より雨　終夜に及ぶ　(町中預けの捨子8人となる・1日1人1合5夕宛御米を下し置かれる・これを5合にして貰うよう頼む・4合とする)
1704年　4月30日 元禄17年　3月27日 陰晴　雨風時々

1704年　5月1日 元禄17年　3月28日 晴
1704年　5月2日 元禄17年　3月29日 晴
1704年　5月3日 元禄17年　3月30日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ（塩の町値段:2斗入り1俵で7匁2分）
1704年　5月4日 元禄17年　4月1日 曇　昨夜より辰の刻まで小雨時々（3月24～27日猿賀組で6軒15人走る、野内で狼荒れて馬3疋喰い殺される・から鉄砲打ち申しつける、野内村の東に50頃の男殺されている）
1704年　5月5日 元禄17年　4月2日 曇　昨夜より雨　辰の下刻止む
1704年　5月6日 元禄17年　4月3日 晴　未の后刻風雨　申の中刻止む
1704年　5月7日 元禄17年　4月4日 晴　夜小雷　則止む
1704年　5月8日 元禄17年　4月5日 晴
1704年　5月9日 元禄17年　4月6日 快晴
1704年　5月10日 元禄17年　4月7日 快晴
1704年　5月11日 元禄17年　4月8日 快晴
1704年　5月12日 元禄17年　4月9日 快晴　下から続く　百田村で18・9女乞食倒死）
1704年　5月13日 元禄17年　4月10日 晴　辰の下刻地震（牧支配猟師が熊（胆長3寸5歩廻り5寸）取る、油川組孫内村・浦町組新城村に野火、5日深浦で火災1軒、青森で正月29日～当月12軒44人走る、和徳組　上に続く
1704年　5月14日 元禄17年　4月11日 晴　小風（大鰐組早瀬野村に野火（500間×108間）、8・9日油川組3村に野火）
1704年　5月15日 元禄17年　4月12日 晴　小風（御鑓持召抱え:5尺8寸・4両1人半扶持と……）
1704年　5月16日 元禄17年　4月13日 陰晴　夜に入り小雨時々（6日浪岡組五本松村で野火（200間×100間））
1704年　5月17日 元禄17年　4月14日 陰晴　辰の刻小雨　則止む　小風
1704年　5月18日 元禄17年　4月15日 曇
1704年　5月19日 元禄17年　4月16日 快晴　夜に入り雨（昨夜増館村松枝村で火災（4間×14間:百姓））
1704年　5月20日 元禄17年　4月17日 曇　昨夜より雨時々（南横町で48歳女房自害）
1704年　5月21日 元禄17年　4月18日 晴　未の下刻より小雨時々（4・5日油川組飛鳥・田沢・羽白村に野火3件）
1704年　5月22日 元禄17年　4月19日 晴（18日大鰐組八幡館村に預けられていた早瀬野村の庄屋自害（11日記述の野火に関係するか））
1704年　5月23日 元禄17年　4月20日 快晴（18日今別で杣（そま:人工林の作業をする人夫か）が腹を切り自害）
1704年　5月24日 元禄17年　4月21日 晴
1704年　5月25日 元禄17年　4月22日 快晴　午の刻より曇　同下刻より雨　暫くして止む（19日岩木山で熊（胆長4寸廻り7寸）取る、去月晦日（江戸）城で3月晦日より宝永と改元を言い渡される）
1704年　5月26日 元禄17年　4月23日 快晴
1704年　5月27日 元禄17年　4月24日 快晴　午の中刻大地震　天水などこぼるる　その外二の御丸乗り物下馬倒る　それより少地震数十度　終日に及ぶ　夜に入り時々（嵩の硫黄山が地震で出火・消す）
1704年　5月28日 元禄17年　4月25日 快晴　辰の刻地震（報恩寺地震被害報告あり、弘前町中で7軒破損、大光寺・田舎館組で地割れ1尺5・6寸など）
1704年　5月29日 元禄17年　4月26日 晴　昨夜より小地震少しずつ3・4度　今日卯の刻より巳の刻までの内少しずつ5度（（24日の地震に関し）野代残らず焼失の風説、24日横内組蝦沼村で小家火災、大間越町で家3・4軒潰れる）
1704年　5月30日 元禄17年　4月27日 陰晴　小風　卯の后刻地震　29日から続く　山で作業中の6人行方不明、森山村で8軒半壊、黒崎村で1軒潰れ、久田村で1軒潰れ他は半壊・薪取り4人死亡）
1704年　5月31日 元禄17年　4月28日 快晴（浅瀬石・袋村で狼荒れ鉄砲打ち出す、（24日の地震に関し）野代で千四・五百軒中1100・1200軒焼失・飛根で家潰れ・南部長坂村で家300軒焼失・5・60人焼死などの風説）
1704年　6月1日 元禄17年　4月29日 晴（25日飯詰組で2軒8人・20日桑野木田組で1軒6人走る、（24日の地震に関し）赤石組広戸村で家潰れ・岩崎村で郷蔵潰れ・家8軒破損、大間越町で家2軒潰れ、松神村で　27日に続く
1704年　6月2日 宝永元年　5月1日 晴（先月27日藤代組で1軒4人走る、先月28日青森町で火災2軒・早速火元入寺）
1704年　6月3日 宝永元年　5月2日 晴（先月7・8日青森町で2軒8人走る）
1704年　6月4日 宝永元年　5月3日 晴（広須新田に狼打ち出す、今日七つ半過ぎ土手町になけ火、7月牢舎の盗人牢死）　下から続く　八森村では150・160軒中5・6軒残る・死亡者数不明、大間越で丸木伐り1人行方不明）
1704年　6月5日 宝永元年　5月4日 晴（熊胆16上がる、大間越の鉄砲5挺中2挺が地震で破損・家3軒潰れる、国境より黒崎村までの海が1丁ほど引く、野代の3分の1が残り7・80人死、（土崎）湊で6・7軒潰れる、　上に続く
1704年　6月6日 宝永元年　5月5日 晴　下から続く　・馬喰町・畑町は1500軒ほど残らず焼失、大町・上町・後町・鍛冶町・柳町・いなり町・荒町の2/3で32軒潰れ・1/3破損、野代の破損なしは2軒のみ　下の欄外(*)に続く
1704年　6月7日 宝永元年　5月6日 晴　卯の上刻少し地震　申の下刻雷　酉の下刻より雨　下から続く　今も6・70間引いている、深浦御仮屋の被害状況、野代の荒町・飛町・派町・御橋南町？・河端町・清助町　上に続く
1704年　6月8日 宝永元年　5月7日 晴（新田山崎村で28日に子が狼に喰われ朔日に死亡、24日の地震で高根御蔵の6割が26日潰れる、此の度の地震で深浦で家25軒蔵8軒破損、大間越より下黒崎村までの海が　上に続く
1704年　6月9日 宝永元年　5月8日 曇　巳の中刻より雨　終日に及ぶ
1704年　6月10日 宝永元年　5月9日 晴（6日夜打越内(後潟組か)に鯨寄せる、6日今別の増川山に火付け・つかまる、24日の地震による大間越御仮屋の被害状況）
1704年　6月11日 宝永元年　5月10日 晴（8日広須新田上福原村で火災1軒）
1704年　6月12日 宝永元年　5月11日 陰晴
1704年　6月13日 宝永元年　5月12日 晴
1704年　6月14日 宝永元年　5月13日 晴　卯の下刻地震
1704年　6月15日 宝永元年　5月14日 快晴　夜に入り雨
1704年　6月16日 宝永元年　5月15日 晴　昨夜より小雨　寅の下刻止む（12日後潟組石浜・蟹田で山火事(80間×20軒・60間×12間)）
1704年　6月17日 宝永元年　5月16日 晴（去年5月牢舎の男牢死、石浜・惣左衛門沢でまだ山火事続いている）
1704年　6月18日 宝永元年　5月17日 晴
1704年　6月19日 宝永元年　5月18日 曇　寅の刻山鳴り　少し地震　辰の刻より小雨　巳の中刻に及び止む　申の下刻より雨時々　夜に及ぶ
1704年　6月20日 宝永元年　5月19日 曇　夜に入り小雨（15日瀧沢山の山火事消したつもり）
1704年　6月21日 宝永元年　5月20日 晴
1704年　6月22日 宝永元年　5月21日 快晴（昨日藤崎組廻関村に22・3男死亡・怪我あり死因不明、18日までに後潟組石浜村瀧ヶ沢山火事(13丁×3町)と惣左衛門沢の山火事(15間×20間)打消す）
1704年　6月23日 宝永元年　5月22日 晴　申の下刻地震　酉の刻又地震（熊野神主長利惣太夫死亡、米値段(1俵)25匁5・6分）
1704年　6月24日 宝永元年　5月23日 晴
1704年　6月25日 宝永元年　5月24日 陰晴（熊胆26上がる）
1704年　6月26日 宝永元年　5月25日 未の后刻地震　申の下刻地震　夜に入り小雨　則止む（去年7月牢舎の男牢死）
1704年　6月27日 宝永元年　5月26日 (空欄:日記の保存なし・5月30日まで)
1704年　6月28日 宝永元年　5月27日
1704年　6月29日 宝永元年　5月28日
1704年　6月30日 宝永元年　5月29日

(*) で64・5人死亡、野代の御仮屋御蔵無事、4か寺焼失、比内？の森岡町・鶴賀田・飛根・鹿之〇・八森とも1/3潰れる、秋田領瀧之間より国境までの2里半が160間ほど海岸が引く、弘前藩の死者10人(薪取りと塩釜の丸木伐り)・全壊6軒半壊56軒・他に農地被害)

1704年　7月1日 宝永元年　5月30日
1704年　7月2日 宝永元年　6月1日 晴　甚だしく暑い(晴　甚暑)
1704年　7月3日 宝永元年　6月2日 晴　卯の上刻地震　甚だしく暑い
1704年　7月4日 宝永元年　6月3日 晴　今朝霧　辰の下刻より晴　甚だしく暑い
1704年　7月5日 宝永元年　6月4日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月6日 宝永元年　6月5日 晴　甚だしく暑い（金木組代官(8日の記述では3両2分2人扶持)自害、30日駒越組新法師村で野火出来(50間×25間)、横内組宮田村で火災2軒）
1704年　7月7日 宝永元年　6月6日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月8日 宝永元年　6月7日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月9日 宝永元年　6月8日 晴　午の上刻地震　未の刻雷数発す　大雨　申の中刻止む　甚だしく暑い（5日夜飯詰組野里村で狼が井戸に落ちる）
1704年　7月10日 宝永元年　6月9日 曇　午の刻雷発す　同刻少し地震　同中刻雷大いに発す　甚だしく暑い（8日青森安方町で火災・焼失132軒潰れ家4軒・1人死亡）
1704年　7月11日 宝永元年　6月10日 陰晴　未の刻小雨　同下刻雨　甚だしく暑い（4月28日青森の火元の入寺赦免）
1704年　7月12日 宝永元年　6月11日 陰晴　今朝霧　甚だしく暑い
1704年　7月13日 宝永元年　6月12日 晴　午の中刻雷　甚だしく暑い（上野御菜園所のあふゆう御用けしが長照で御用立てできないとの報告）
1704年　7月14日 宝永元年　6月13日 晴　未の刻雷雨　甚だしく暑い
1704年　7月15日 宝永元年　6月14日 陰晴　卯の上刻雨暫く　巳の下刻小雨　午の中刻止む　夜に入り小雨　甚だしく暑い（左内殿病死:越境した兵庫の子供死に絶える）
1704年　7月16日 宝永元年　6月15日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月17日 宝永元年　6月16日 快晴　甚だしく暑い（大間越で14日昼九つより2度・15日朝六つ過ぎ1度・同夜四つ半頃1度地震、藤代組小屋敷村で狼が荒れ13日9歳女食い殺す・狼打ち4組出す）
1704年　7月18日 宝永元年　6月17日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月19日 宝永元年　6月18日 晴　午七刻より土用入　甚だしく暑い
1704年　7月20日 宝永元年　6月19日 晴　未の上刻雷　甚だしく暑い（鰺ヶ沢町における御買米値段(1俵)26匁5分）
1704年　7月21日 宝永元年　6月20日 晴　甚だしく暑い（15日油川組新城村で1軒5人走る）
1704年　7月22日 宝永元年　6月21日 晴　申の上刻雨　則止む　甚だしく暑い（19日十三で野火）
1704年　7月23日 宝永元年　6月22日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月24日 宝永元年　6月23日 晴　甚だしく暑い
1704年　7月25日 宝永元年　6月24日 晴　甚だしく暑い（大間越で18日昼ごろ1度・20日2度地震）
1704年　7月26日 宝永元年　6月25日 晴　甚だしく暑い（屋形様7月1日江戸発駕の予定、八幡祭礼を今年は延引・来年に）
1704年　7月27日 宝永元年　6月26日 晴　甚だしく暑い（大鰐御菜園所より初真瓜11上がる）
1704年　7月28日 宝永元年　6月27日 晴　甚だしく暑い（青森における黒石御蔵米値段1俵27匁、今日新町橋の下で24男お本連（おぼれ）死亡）
1704年　7月29日 宝永元年　6月28日 晴　甚だしく暑い　　下から続く　　小泊村で野火（400間×300間））
1704年　7月30日 宝永元年　6月29日 曇　昨夜丑の中刻より時々雨　卯の上刻に及ぶ(卯上刻及)　巳の上刻より時々小雨　甚だしく暑い（飯詰山に火事跡（32間×30間）・小田川山に火事跡（7間×5間）・25日金木組　　上に続く
1704年　7月31日 宝永元年　6月30日 曇　卯の中刻より雨時々　甚だしく暑い
1704年　8月1日 宝永元年　7月1日 曇　昨夜より雨時々　終日に及ぶ（昨30日夜九つ時分藤代組浮田村で2歳の男子家の内から狼にくわえられて連れ去られる、狼打ち出す）
1704年　8月2日 宝永元年　7月2日 曇　甚だしく暑い（去月25日後潟組左関村で14歳男子狼に食い殺される、目屋野沢に石炭？大鰐御菜園場より初米上がる）
1704年　8月3日 宝永元年　7月3日 晴　甚だしく暑い（油川組新田村で狼を打殺す）
1704年　8月4日 宝永元年　7月4日 晴　甚だしく暑い
1704年　8月5日 宝永元年　7月5日 晴　甚だしく暑い
1704年　8月6日 宝永元年　7月6日 晴　辰の刻小雨　則止む　残暑甚だしい　未の刻甚だしい雷雨
1704年　8月7日 宝永元年　7月7日 晴（尾崎組原田村の孫兵衛から初米上がる）
1704年　8月8日 宝永元年　7月8日 陰晴（6月30日・7月1日・2日2度・3日2度のあわせて6度大間越で地震）
1704年　8月9日 宝永元年　7月9日 晴（2日朝油川組新田村で狼を打殺した事件の詳細な記録、藤代組に出した狼打ちを荒れないので引取る、駒越組宮地村に40斗女縊死）
1704年　8月10日 宝永元年　7月10日 晴
1704年　8月11日 宝永元年　7月11日 晴（御家中の母自害）
1704年　8月12日 宝永元年　7月12日 曇　巳の中刻小雨時々（後潟組村々で狼荒れる）
1704年　8月13日 宝永元年　7月13日 晴　残暑甚だしい（後潟組の鉄砲打ち引取る）
1704年　8月14日 宝永元年　7月14日 晴　残暑（8日金木組毘沙門村で12歳の娘行方不明・11日に狼に喰われた跡が見つかる）
1704年　8月15日 宝永元年　7月15日 晴　残暑甚だしい
1704年　8月16日 宝永元年　7月16日 晴　残暑甚だしい
1704年　8月17日 宝永元年　7月17日 晴　残暑甚だしい（江戸で先月末より洪水・3日夜に亀戸屋敷5尺余浸水・殿様など船で避難・1日下国予定が……、（利根川が栗橋で切れたのか）関東大洪水）
1704年　8月18日 宝永元年　7月18日 陰晴　残暑甚だしい（金木組で狼荒れる、今回は鉄砲打ちでなく狩を出す、江戸に500両を差登・早道之者小頭など5人：普通の飛脚は足軽2人のものです）
1704年　8月19日 宝永元年　7月19日 晴　残暑甚だしい（秋田に鉛値段を聞き合わせる:16貫目入り1固まりが120目余、元禄16年2月入牢の男牢死）
1704年　8月20日 宝永元年　7月20日 陰晴　残暑甚だしい
1704年　8月21日 宝永元年　7月21日 晴　午の下刻小雨　則止む
1704年　8月22日 宝永元年　7月22日 晴　残暑甚だしい
1704年　8月23日 宝永元年　7月23日 残暑甚だしい（19日・20日夜広田組七つ館村で2軒7人走る）
1704年　8月24日 宝永元年　7月24日 晴　残暑甚だしい
1704年　8月25日 宝永元年　7月25日 晴　残暑甚だしい
1704年　8月26日 宝永元年　7月26日 晴　残暑甚だしい
1704年　8月27日 宝永元年　7月27日 晴　辰の下刻小風（26日金木組川倉・宮野沢に山火事）
1704年　8月28日 宝永元年　7月28日 巳の中刻小雨　午の中刻より雨地震雷電　酉の刻より雨風　夜に及ぶ（去年8月牢舎の稲盗人男牢死）
1704年　8月29日 宝永元年　7月29日 晴　夜に入り雨　雷電（金木組中里の山火事続く・組頭・郡奉行などが出る、24日後潟組奥内村で14歳娘が狼に喰殺される、23日赤石組で2軒9人走る）
1704年　8月30日 宝永元年　8月1日 昨夜より雨降り続く　卯の下刻より大雷電大雨　巳の中刻止む　申の下刻雷電　夜に入り大雨（山火事下火に、今朝駒越組国吉村で落雷・1人死亡、駒越渡留める）
1704年　8月31日 宝永元年　8月2日 曇　昨夜より雨降続く　夜に及ぶ（昨夜駒越川9分の洪水、昨夜五時分岩木山大満ふ之沢（寺沢川の上流）で大水・大石とも押し出す・3人・馬3疋死亡・家3軒潰れる、　　下の欄外(*)に続く
(*)　大間越町で7月13日余程強い・16日・19日・23日2回と地震、雨もあり山火事はほぼ鎮火残り火対策中、油川組羽白村・滝ヶ瀬村で先月23日頃より熊荒れる）

1704年　9月1日 宝永元年　8月3日 曇　巳の刻より雨時々　未の刻止む（1日までの山火事は2里余×1里余、1日寺沢側土石流で2軒崩れ3人馬3疋死亡(昨日の報告と重複)、増館組で66町歩水湛・駒越組も同様）
1704年　9月2日 宝永元年　8月4日 晴　申の刻小雨　則止む　夜に入り小雨時々（1日の大雨で松代村で1軒潰れ・流木189500本中石渡までの回収は15764本）
1704年　9月3日 宝永元年　8月5日 晴（1日十三町で1人落雷死）
1704年　9月4日 宝永元年　8月6日 晴　残暑
1704年　9月5日 宝永元年　8月7日 晴（5日鯵ヶ沢で道心男縊死、流木189500本中149000本流失、朔日の洪水で鯵ヶ沢で土蔵1軒潰れる）
1704年　9月6日 宝永元年　8月8日 陰晴　未の下刻より雨　夜に及ぶ（昨6日昼八半時青森安方町に落雷、同日昼七時分横内組に夥しい雷・海表急に雲立ち雨交じりの大さ1寸余の氷(雹のこと)もありし由）
1704年　9月7日 宝永元年　8月9日 曇　巳の中刻より雨　午の中刻に及び止む　申の下刻より又雨　終夜に及ぶ（洪水で2日遅れの飛脚到着、屋形様当月朔日江戸御発駕）
1704年　9月8日 宝永元年　8月10日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ（先月28日油川組で1軒2人・2日猿賀組で1軒2人・5日大鰐組で1軒4人走る）
1704年　9月9日 宝永元年　8月11日 晴（亀之甲御門という用語あり、4日油川組で1軒4人走る）
1704年　9月10日 宝永元年　8月12日 陰晴　卯の刻小雨　暫くして止む
1704年　9月11日 宝永元年　8月13日 晴（11日尾崎組切明で熊(胆長4寸2歩・廻り5寸)・10日赤石組目内崎で熊(胆長2寸廻り3寸)取る）　下から続く　子供4人死亡・狄2人に狼を取るよう申付ける）
1704年　9月12日 宝永元年　8月14日 曇　卯の下刻より雨　終日夜に及ぶ　下から続く　・31・39・3・8)・下女376(236・90・17・28・1・6)・家屋敷164軒・乗馬1疋・小荷駄6疋、12日夜金木新田で4軒が狼に襲われ　上に続く
1704年　9月13日 宝永元年　8月15日 晴（御用人支配切支丹人数:惣人数3509人、上男1360(禅909・浄土779？・法花92・浄土真101・天台18・真言26)・上女1189(788・187・101・78・17・18)・下男583(359・143　上に続く
1704年　9月14日 宝永元年　8月16日 陰晴　未の后刻より雨　終夜に及ぶ
1704年　9月15日 宝永元年　8月17日 陰晴（飯詰組若山村で10日前後より熊荒れ猟師出す、13日駒越組相馬で熊(胆はたて当たりなし:熊を取る鑓が熊の胆嚢に傷をつけ胆汁を出してしまったので熊胆が取れない)取る）
1704年　9月16日 宝永元年　8月18日 快晴（御着城、米1俵につき21匁6分・24匁4分など）
1704年　9月17日 宝永元年　8月19日 曇　卯の后刻より雨終日　夜に及ぶ
1704年　9月18日 宝永元年　8月20日 曇　昨夜より雨　終日夜に及ぶ
1704年　9月19日 宝永元年　8月21日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ（一昨日の大雨で石川の仮橋落ちる）
1704年　9月20日 宝永元年　8月22日 陰晴（11日牧支配津軽坂村で熊(胆長3寸5歩廻り3寸5歩)取る）
1704年　9月21日 宝永元年　8月23日 陰晴　未の后刻小雨　終日夜に及ぶ（20日夜金木組薄市村で4歳男子狼に喰殺される）　下から続く　×60・浜松100×50・左関60×35・内真部110×20、4月9日　下の欄外(*)に続く
1704年　9月22日 宝永元年　8月24日 陰晴　昨夜より雨　巳の刻止む　同刻より小風（22日藤崎渡で洪水・37歳男水死）　下から続く　70×50・奥内250×100・瀬辺地200×50・六枚橋160×40・小橋170　上に続く
1704年　9月23日 宝永元年　8月25日 晴　夜に入り小雨　暫くして止む　下から続く　130×70・瀬辺地70×40・四戸橋30×40・清水10×10・30×20・80×40・前田130×50、4月4日～5日後潟組蓬田100×30・前田　上に続く
1704年　9月24日 宝永元年　8月26日 陰晴　下から続く　×100・飛鳥50×60、4月5日油川組羽白100×50、4月6日油川組新城170×80、4月3日～5日浪岡組五本松200×100・後潟組板木沢50×20・50×30・　上に続く
1704年　9月25日 宝永元年　8月27日 晴　夜に入り雨（今春の野火・山火事のまとめ:3月8日横内組野内50間×40間(以下間省略)、4月3日後潟組広瀬80×60・280×160・150×80・40×60、4月4日後潟組田沢30　上に続く
1704年　9月26日 宝永元年　8月28日 曇　辰の后刻小雨　則止む　未の中刻より雨　終夜に及ぶ
1704年　9月27日 宝永元年　8月29日 曇
1704年　9月28日 宝永元年　8月30日 曇　巳の刻より雨時々　午の中刻より小雪（25日金木組で熊(胆長3寸5歩廻り3寸7歩)取る）
1704年　9月29日 宝永元年　9月1日 晴
1704年　9月30日 宝永元年　9月2日 快晴
1704年　10月1日 宝永元年　9月3日 曇　卯の中刻より雨時々（初鮭一尺上がる）
1704年　10月2日 宝永元年　9月4日 晴
1704年　10月3日 宝永元年　9月5日 午の后刻より小雨時々　終日に及ぶ
1704年　10月4日 宝永元年　9月6日 晴　岩木山頂上へ初雪今朝見る（御着城御祝儀の御能・狂言）
1704年　10月5日 宝永元年　9月7日 晴　小風　夜に入り雨（2日金木組薄市村で6歳男が狼に喰殺される、4日新田豊嶋で14歳娘が狼に喰殺される・怪我人も出る）
1704年　10月6日 宝永元年　9月8日 曇　昨夜より雨時々（2番・3番鮭上がる、7月2日に熊手で狼を打殺した「まつ」は番人付きの預けになる）
1704年　10月7日 宝永元年　9月9日 陰晴　夜に入り雨
1704年　10月8日 宝永元年　9月10日 曇　巳の后刻小雨（6月19日より東長町預けの5歳捨子が9月9日病死、材木場に4・5歳男の子が倒死、浅虫へ御湯治・237人の行列）
1704年　10月9日 宝永元年　9月11日 晴（鮭留入札:荒川村川122匁←去年150匁・野内川85匁5分←183匁5分・横内前川10匁5分←2匁5分・作道才蔵川35匁←4匁・新田川19匁5分←15匁5分）
1704年 10月10日 宝永元年　9月12日 晴（3日金木組宮野沢で熊(胆長3寸4歩廻り4寸2歩)取る)、4・5日赤田組で2軒3人走る）
1704年 10月11日 宝永元年　9月13日 晴
1704年 10月12日 宝永元年　9月14日 曇
1704年 10月13日 宝永元年　9月15日 晴　夜に入り雨
1704年 10月14日 宝永元年　9月16日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　卯の后刻雷数　夜に入り雨（14日増館組樽沢村で4歳女狼に咥え去られる・12歳男子は怪我）
1704年 10月15日 宝永元年　9月17日 曇　昨夜より雨時々　今朝岩木山へ雪見える
1704年 10月16日 宝永元年　9月18日 曇　昨夜より雨　午の刻に及び止む
1704年 10月17日 宝永元年　9月19日 晴
1704年 10月18日 宝永元年　9月20日 曇　辰の中刻より小雨時々　午の后刻止む
1704年 10月19日 宝永元年　9月21日 曇　時々小雨　午の上刻雷発す（16日～18日の大雨で増館組59町歩常盤組24町歩余水湛・柏木組も水湛）
1704年 10月20日 宝永元年　9月22日 晴
1704年 10月21日 宝永元年　9月23日 晴
1704年 10月22日 宝永元年　9月24日 曇　卯の上刻より雨終日　夜に及ぶ（6月8日青森安潟の火元が25日に入寺御免）
1704年 10月23日 宝永元年　9月25日 陰晴　昨夜より風雨時々
1704年 10月24日 宝永元年　9月26日 晴（十三町で588人が飯米に難儀）
1704年 10月25日 宝永元年　9月27日 晴（4寸釘390本で1貫530目・3寸釘6000本で11貫870目、16日よりの大雨で広田組鶴ヶ丘・種井・川山・高瀬村で水湛）
1704年 10月26日 宝永元年　9月28日 快晴（工藤嘉左衛門が50石から100石・勘定奉行に、武田源左衛門が筆頭勘定奉行に返り咲く）
1704年 10月27日 宝永元年　9月29日 快晴（26日堀越組大和沢山で熊(たて当たり胆なし)・24日赤石組小森で熊(胆長4寸3歩廻り6寸1歩)取る）
1704年 10月28日 宝永元年　9月30日 曇
1704年 10月29日 宝永元年　10月1日 曇（30日夜飯詰川洪水）
1704年 10月30日 宝永元年　10月2日 陰晴（去年6月盗みで7月8日牢舎の男牢死、昨年12月に藤崎村預けの6歳女捨子病死、9月30日夜金木村の金木橋(長14間幅1間)流失）
1704年 10月31日 宝永元年　10月3日 陰晴　巳の中刻より小雨時々（9月30日夜浅虫川洪水・浅虫御本陣へ水4尺余上がる、浦町組・横内組洪水）

(*)　大鰐組早瀬野500×180、4月12日後潟組石浜15×20・100×250・150×200・300×200・蟹田15×3・30×8、30日駒越組新法師50×25、6月25日金木組小泊400×300・28日飯詰組飯詰30×35・金木組小田川15×11・赤石組松神50×30、30日横内組駒籠30×6・滝沢100×5、7月26日～金木組中里・宮野沢2里×25丁(この部分だけ単位に注意))

1704年　11月1日 宝永元年　10月4日 陰晴　辰の中刻より小雨時々　同下刻に及び止む （2日赤石組種里川洪水、2日浪岡組中野村で熊荒れ3人負傷）
1704年　11月2日 宝永元年　10月5日 晴 （30日金木組で洪水、2日浪岡組中野村で熊(胆長2寸8歩廻り4寸7歩)取る）
1704年　11月3日 宝永元年　10月6日 晴　夜に入り雷雨 （能・狂言）
1704年　11月4日 宝永元年　10月7日 曇　午の下刻より小雨　夜に入り風 （古米1俵値段:25匁(沖役入れて)）
1704年　11月5日 宝永元年　10月8日 なし(日記はあるが天気の記述なし)
1704年　11月6日 宝永元年　10月9日 岩木山5分目より頂上へ雪　昨夜より雨時々 （7日大光寺組小和森村で熊(胆長4寸5歩廻り3寸5歩)取る）
1704年　11月7日 宝永元年　10月10日 晴 （7日大光寺組本町・小和森村で熊荒れ5人負傷:この熊を取った）
1704年　11月8日 宝永元年　10月11日 陰晴
1704年　11月9日 宝永元年　10月12日 曇
1704年 11月10日 宝永元年　10月13日 陰晴　未の刻より小雨　終日に及ぶ
1704年 11月11日 宝永元年　10月14日 陰晴　昨夜より雨時々　辰の刻に及ぶ　又夜に入り雨 （今朝常盤組矢沢村で熊荒れ3人負傷）
1704年 11月12日 宝永元年　10月15日 陰晴　卯の刻より時々小雨
1704年 11月13日 宝永元年　10月16日 陰晴　午の中刻小雪 （11日赤石組一森山で熊(胆長3寸廻り2寸)取る）
1704年 11月14日 宝永元年　10月17日 陰晴　卯の刻より雨時々　巳の刻に及び止む （14日赤石組一森山・13日駒越組村市・中畑村で熊(胆長3寸5歩廻り5寸・胆長2寸廻り2寸5歩・胆長2寸廻り2寸5歩)取る、昨朝十三町で火災2軒）
1704年 11月15日 宝永元年　10月18日 晴　大霜　地初めて凍る
1704年 11月16日 宝永元年　10月19日 曇　卯の上刻雨　則止む　辰の中刻小雨
1704年 11月17日 宝永元年　10月20日 晴
1704年 11月18日 宝永元年　10月21日 晴 （金木組宮野沢村山で熊(胆長3寸5歩廻り5寸5歩)取る）
1704年 11月19日 宝永元年　10月22日 曇　夜に入り小雨
1704年 11月20日 宝永元年　10月23日 曇　昨夜より小雨　風 （8月11日牧支配津軽坂で熊(胆長4寸5歩長さ1寸5歩)取る(この部分は8月22日の記述と一致していないと思うが)）
1704年 11月21日 宝永元年　10月24日 曇　昨夜より雨打ち続く　卯の下刻より雨雪交じり降る　午の刻より雪時々　夜に及ぶ
1704年 11月22日 宝永元年　10月25日 陰晴　昨夜より小雨時々　辰の下刻に及び止む　子の下刻地震
1704年 11月23日 宝永元年　10月26日 曇
1704年 11月24日 宝永元年　10月27日 晴　午の上刻小雨 （22日浦町組入内の牧の草山に野火(300間×50間)）
1704年 11月25日 宝永元年　10月28日 陰晴　未の刻より風　終夜に及ぶ
1704年 11月26日 宝永元年　10月29日 陰晴　小風 （去年6月より高杉組十腰内村に介護していた捨子が昨晩病死）
1704年 11月27日 宝永元年　11月1日 陰晴　申の下刻雷発す　夜に入り雨 （例年は今日より火鉢出す・今年は雪もなく延期）
1704年 11月28日 宝永元年　11月2日 陰晴　午の刻より丸雪
1704年 11月29日 宝永元年　11月3日 陰晴　昨夜より時々雪　卯の下刻に及ぶ
1704年 11月30日 宝永元年　11月4日 晴
1704年　12月1日 宝永元年　11月5日 快晴　霜　酉の下刻地震　夜に入り小雨時々 （3日夜横内組筒井村で火災1軒）
1704年　12月2日 宝永元年　11月6日 曇
1704年　12月3日 宝永元年　11月7日 曇　昨夜より小雨 （10月29日横内組で1軒5人走る）
1704年　12月4日 宝永元年　11月8日 曇　昨夜より小雪時々　申の中刻より雪　終夜に及ぶ （3日夜猿賀組新山村で1軒3人・5日深浦で1軒5人走る）
1704年　12月5日 宝永元年　11月9日 曇　昨夜中より之雪　厚さ5寸ほど積る　時々小雪　　下から続く　　3分増し、11月6日板屋野木村で1軒1人走る）
1704年　12月6日 宝永元年　11月10日 陰晴　夜に入り小雨時々 （岡在の1俵値段:米19匁・大豆17匁・小豆19匁・小麦33匁5分・大麦9匁・蕎麦8匁5分・粟9匁・稗5匁・味噌1貫目に付き2匁、両濱浦々で各2匁増し・味噌
1704年　12月7日 宝永元年　11月11日 晴
1704年　12月8日 宝永元年　11月12日 曇 （米1升に付き:次大豆1升・上大豆7合・上赤小豆6合・上蕎麦8合・黒粒油5合・上餅粟1升・稗4升、米留めの足軽斬罪・盗人宿などで6人を南部口追放）
1704年　12月9日 宝永元年　11月13日 曇
1704年 12月10日 宝永元年　11月14日 陰晴　辰の后刻小雨　則止む （11日夜藤崎組で百姓2軒17人走る、横内組松森村の庄屋自害）
1704年 12月11日 宝永元年　11月15日 陰晴　巳の中刻小丸雪　則止む
1704年 12月12日 宝永元年　11月16日 曇　昨夜より雪降り続く　大雪 （米1升が:次大豆9合・次小豆8合・次蕎麦1升9合・次粟1升8合・大麦1升2合・小麦5合・稗4升、8日金木組今泉村を出た船が9日に遭難1人死亡）
1704年 12月13日 宝永元年　11月17日 陰晴　未の上刻より小雨時々　夜に入り雨
1704年 12月14日 宝永元年　11月18日 晴　辰の中刻小雨　則止む （10日大光寺組で1人走る、溜池樋下に40余男倒死）
1704年 12月15日 宝永元年　11月19日 曇　夜に入り雪
1704年 12月16日 宝永元年　11月20日 陰晴　昨夜よりの雪時々
1704年 12月17日 宝永元年　11月21日 晴　午の刻小雨　則止む
1704年 12月18日 宝永元年　11月22日 晴
1704年 12月19日 宝永元年　11月23日 陰晴　辰の上刻より小雨時々　夜に及ぶ
1704年 12月20日 宝永元年　11月24日 曇　昨夜中雨　今辰の中刻より霙　風
1704年 12月21日 宝永元年　11月25日 陰晴　夜に入り雪風　終夜に及ぶ （牢舎の全員(男11人)赦免）
1704年 12月22日 宝永元年　11月26日 曇　昨夜よりの風雪時々　終日に及ぶ　夜に入り小雪
1704年 12月23日 宝永元年　11月27日 陰晴
1704年 12月24日 宝永元年　11月28日 曇 （御能・狂言）
1704年 12月25日 宝永元年　11月29日 なし(日記はあるが天気の記述なし) （10月の野内御関所出人57人・入人52人・都合109人、御蔵米1俵値段:弘前23匁6分・青森26匁9分・鰺ヶ沢25匁1分6厘、25日堀越村の百姓1軒7人走る）
1704年 12月26日 宝永元年　11月30日 なし(日記はあるが天気の記述なし)
1704年 12月27日 宝永元年　12月1日 曇
1704年 12月28日 宝永元年　12月2日 曇　辰の下刻より雪 （11月25・27日蟹田の小国で3軒走る、紺屋町枡形御番所小見世に27・8男非人倒死、11月26日藤代組床舞村で火災1軒・男の子焼死）
1704年 12月29日 宝永元年　12月3日 曇　終日雪 （2日大鰐組石川村で50余男倒死）
1704年 12月30日 宝永元年　12月4日 昨夜より吹雪打ち続く
1704年 12月31日 宝永元年　12月5日 昨夜より雪　今朝辰の刻まで1尺5寸ほど降る　同刻より小雪時々

1705年　1月1日 宝永元年　12月6日 晴　夜に入り雪
1705年　1月2日 宝永元年　12月7日 曇　昨夜より雪打ち続く（紺屋町枡形の内に56・7女乞食倒死）
1705年　1月3日 宝永元年　12月8日 晴　卯の中刻小雪　則止む（5日駒越組目屋野沢で熊(胆長3寸5歩廻り5寸)取る）
1705年　1月4日 宝永元年　12月9日 晴　卯の刻小雪　則止む（明10日夜九つ寒に入る）
1705年　1月5日 宝永元年　12月10日 晴（10月10日高杉組長平で熊(胆長4寸幅広きところ2寸・7匁2分)取る・8月16日にも取る）
1705年　1月6日 宝永元年　12月11日 晴　夜に入り雪
1705年　1月7日 宝永元年　12月12日 晴　夜に入り小雪
1705年　1月8日 宝永元年　12月13日 曇　夜に入り小雪
1705年　1月9日 宝永元年　12月14日 晴　申の下刻より小雨（松前に出す米の値段:10両で29俵）
1705年　1月10日 宝永元年　12月15日 晴
1705年　1月11日 宝永元年　12月16日 陰晴　巳の刻小雨　則止む
1705年　1月12日 宝永元年　12月17日 晴
1705年　1月13日 宝永元年　12月18日 陰晴　巳の刻より時々雨雪（御能・狂言）
1705年　1月14日 宝永元年　12月19日 曇　卯の中刻より風雪　終日に及ぶ
1705年　1月15日 宝永元年　12月20日 曇　昨夜中より吹雪終日（土手鍛冶町に8斗非人倒死）
1705年　1月16日 宝永元年　12月21日 曇　終日　今朝未明少し地震
1705年　1月17日 宝永元年　12月22日 陰晴　時々雪
1705年　1月18日 宝永元年　12月23日 晴　夜に入り雪
1705年　1月19日 宝永元年　12月24日 陰晴
1705年　1月20日 宝永元年　12月25日 晴　未の上刻雪
1705年　1月21日 宝永元年　12月26日 晴　巳の刻小雪　暫くして止む　未の后刻より雪（紺屋町枡形御番所小見世に4・5の男子倒死）
1705年　1月22日 宝永元年　12月27日 曇　卯の下刻より雪終日　寅の下刻少し地震
1705年　1月23日 宝永元年　12月28日 晴
1705年　1月24日 宝永元年　12月29日 晴
1705年　1月25日 宝永2年　正月1日　晴
1705年　1月26日 宝永2年　正月2日　曇　寅の中刻山鳴り　辰の中刻より時々雪　終日に及ぶ　申の中刻又山鳴り
1705年　1月27日 宝永2年　正月3日　曇　昨夜より小雨　申の刻山鳴り（謡初、赤石組金井ヶ沢で亀(長2尺幅2尺2・3寸ほど)拾い取る）
1705年　1月28日 宝永2年　正月4日　陰晴　昨夜より雪　辰の下刻に及び晴
1705年　1月29日 宝永2年　正月5日　曇　時々雪
1705年　1月30日 宝永2年　正月6日　曇　時々雪
1705年　1月31日 宝永2年　正月7日　陰晴　小雪時々
1705年　2月1日 宝永2年　正月8日　曇　雪時々　終日に及ぶ
1705年　2月2日 宝永2年　正月9日　晴　申の下刻小雪　則止む　夜に入り雪
1705年　2月3日 宝永2年　正月10日　小雪時々　未の刻に及び止む（9日赤石組梅沢村に鯨寄せる）
1705年　2月4日 宝永2年　正月11日　曇
1705年　2月5日 宝永2年　正月12日　陰晴　夜に入り霙雨（能・祝言）
1705年　2月6日 宝永2年　正月13日　曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り雨風（去年7月油川組新田村で熊手で熊を取った「松」は江戸との打ち合わせの上預け御免）
1705年　2月7日 宝永2年　正月14日　曇　昨夜より風雨　申の中刻に及び止む
1705年　2月8日 宝永2年　正月15日　快晴（3月12日に屋形様御発駕と申し渡す）
1705年　2月9日 宝永2年　正月16日　晴（12月中の大間越出入り人数:出7人・入り24人・都合31人）
1705年　2月10日 宝永2年　正月17日　晴
1705年　2月11日 宝永2年　正月18日　快晴　朝寒甚だしい（与一様御婚礼の御祝儀中に御囃子あり）
1705年　2月12日 宝永2年　正月19日　曇　夜に入り雪
1705年　2月13日 宝永2年　正月20日　曇　昨夜より雪霙時々終日　夜に入り風
1705年　2月14日 宝永2年　正月21日　曇　昨夜より風雪時々　終日夜に及ぶ
1705年　2月15日 宝永2年　正月22日　曇　昨夜より吹雪時々終日　夜に及ぶ
1705年　2月16日 宝永2年　正月23日　曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1705年　2月17日 宝永2年　正月24日　陰晴　辰の中刻より小雪時々
1705年　2月18日 宝永2年　正月25日　曇　卯の刻より雪時々　終夜に及ぶ　夜に入り風雪
1705年　2月19日 宝永2年　正月26日　曇　昨夜より吹雪　終日夜に及ぶ（紺屋町枡形御番所小見世に70男非人倒死、22日夜高杉組で1軒3人走る・2歳女捨子が残される）
1705年　2月20日 宝永2年　正月27日　晴　昨夜より雪　辰の中刻止む
1705年　2月21日 宝永2年　正月28日　晴（26日に高杉組の捨子(22日)死亡）
1705年　2月22日 宝永2年　正月29日　晴（後潟組瀬戸子村沖で3人乗りの船遭難・1人死亡、後潟組大川平の狄が貝の玉と熊の皮を差上げる）
1705年　2月23日 宝永2年　正月30日　曇　辰の刻より小雪　それより霙　巳の中刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り小雪
1705年　2月24日 宝永2年　2月1日 曇　卯の后刻より雪時々　終夜に及ぶ
1705年　2月25日 宝永2年　2月2日 曇　昨夜より雪時々降り続く
1705年　2月26日 宝永2年　2月3日 晴（21～26日増館組で5軒・24日田舎館組で2軒走る、狄5人に18俵貸す・鯨油で上納のはず）
1705年　2月27日 宝永2年　2月4日 晴（狄共貝の玉・王しの尾(鷲の尾:多分矢羽に作る)を差上げる）
1705年　2月28日 宝永2年　2月5日 陰晴　辰の中刻より小雪　則止む（増館組で高無4軒が死に絶える）

1705年　3月1日 宝永2年　2月6日 陰晴　夜に入り小雪風 （小栗山より福寿草差上げる、今日駒越組相馬村に40頃男乞食倒死）
1705年　3月2日 宝永2年　2月7日 曇　昨夜より風雪時々　終日夜に及ぶ
1705年　3月3日 宝永2年　2月8日 曇　卯の刻より風雪　終日夜に及ぶ （鷲の尾3尾の値段:1尾12本で5匁・1尾11本で4匁4分、駒越組相馬村一野渡に40斗男倒死）
1705年　3月4日 宝永2年　2月9日 曇　卯の刻より雪風時々
1705年　3月5日 宝永2年　2月10日 曇　昨夜大風　卯の上刻和らぎ小雨　巳の下刻に及ぶ　則止み雪　終日夜に及ぶ （4～7日増館組で6軒24人走る）
1705年　3月6日 宝永2年　2月11日 曇　昨夜より風雪時々　終日夜に及ぶ （津軽玄蕃(信政の弟:家老)急死:香典は銀子10枚）
1705年　3月7日 宝永2年　2月12日 陰晴
1705年　3月8日 宝永2年　2月13日 曇　昨夜中より雪終日　夜に及ぶ　下から続く　家屋敷161軒、乗馬2疋、小荷駄6疋）
1705年　3月9日 宝永2年　2月14日 曇　巳の中刻より雪　終日に及ぶ　夜に入り大雪　下から続く　真言28・16、下男573・下女376・禅358・232、浄土140・94、法花33・18、浄土真宗32・23、天台2・1、真言8・8、　上に続く
1705年　3月10日 宝永2年　2月15日 曇　昨夜より雪　巳の下刻より晴 （御用人支配切支丹人数の覚え:惣人数3476人、上男1361・上女1166・禅912・780、浄土209・175、法華98・109、浄土真宗96・70、天台18・16、　上に続く
1705年　3月11日 宝永2年　2月16日 陰晴　夜に入り小雪 （野内御関所正月出入り:出29・入り7・都合36人）
1705年　3月12日 宝永2年　2月17日 曇　時々雪　終日夜に及ぶ
1705年　3月13日 宝永2年　2月18日 晴 （昨夜三之御郭火之見矢倉より西之方の土居外頬なたれ(雪崩)て崩れる、紺屋町枡形御番所小見世に37・8斗女非人倒死）
1705年　3月14日 宝永2年　2月19日 晴
1705年　3月15日 宝永2年　2月20日 曇　昨夜より雨　辰の下刻止む　巳の刻小雨　申の下刻風雨　終日に及ぶ　夜に入り雪
1705年　3月16日 宝永2年　2月21日 陰晴　昨夜より風
1705年　3月17日 宝永2年　2月22日 陰晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ
1705年　3月18日 宝永2年　2月23日 陰晴　昨夜より雨　巳の下刻に及び止む （昨日駒越組兼平村で火災1軒、石渡御蔵米2950俵代金870両但し御役入れて・10両に34俵(沖役差引き1俵が23匁3分余相当）
1705年　3月19日 宝永2年　2月24日 陰晴　卯の刻小雪
1705年　3月20日 宝永2年　2月25日 晴　夜に入り雪
1705年　3月21日 宝永2年　2月26日 曇　卯の中刻雨　辰の中刻止む　夜に入り雪 （24日夜桑野木田組菖蒲川村で火災(2間×4間:高無)、20～26日常盤組で5軒14人走る）
1705年　3月22日 宝永2年　2月27日 曇　昨夜より雪降り続く　終日夜に及ぶ
1705年　3月23日 宝永2年　2月28日 陰晴　昨夜より雪　辰の上刻に及ぶ　それより雪時々
1705年　3月24日 宝永2年　2月29日 曇　昨夜中雪三寸ほど積もる　辰の中刻より晴 （参勤用碇関道除雪人夫11628人を要すとの報告、26日駒越組で熊(胆長3寸5歩廻り6寸)取る）
1705年　3月25日 宝永2年　3月1日 晴　辰の后刻地震 （人事異動）
1705年　3月26日 宝永2年　3月2日 陰晴　午の中刻小雨時々　夜に及び大雨 （関札打ち出発、2月29日飯詰組高野村で雪を踏み外し川に落ち45・6男死亡）
1705年　3月27日 宝永2年　3月3日 曇　今朝霞　卯の刻より時々雨　未の下刻晴れ　夜に入り雨
1705年　3月28日 宝永2年　3月4日 曇　辰の后刻より雨時々　終日に及ぶ　夜に入り大雨 （岩木川・平川洪水、(6日の記述で)石川仮橋落ちる）
1705年　3月29日 宝永2年　3月5日 曇　昨夜より雨　巳の下刻少し丸雪　午の下刻より雨止み小風 （十三潟明候由代官申し立てる:潟明けの初見）
1705年　3月30日 宝永2年　3月6日 晴 （御能・狂言、人事異動）
1705年　3月31日 宝永2年　3月7日 晴 （石川仮橋工事で1人死亡）
1705年　4月1日 宝永2年　3月8日 曇　辰の中刻より風　巳の中刻丸雪　午の刻より雪　夜に入り雨
1705年　4月2日 宝永2年　3月9日 曇　昨夜より雨時々 （深浦に灯台をともす提案あり）
1705年　4月3日 宝永2年　3月10日 曇　卯の下刻小雨　則止む （再検地の覚えあり）
1705年　4月4日 宝永2年　3月11日 晴 （野内御関所2月の出入り:出48・入り32・都合80人）
1705年　4月5日 宝永2年　3月12日 晴 （今日巳の刻屋形様御発駕）
1705年　4月6日 宝永2年　3月13日 陰晴
1705年　4月7日 宝永2年　3月14日 晴　今朝辰の中刻まで曇 （11日桑野木田組鶴田村で火災2軒(4間×11間:百姓・2間×4間:借家)、大間越御関所2月の出入り:出8・入り208・都合216人）
1705年　4月8日 宝永2年　3月15日 陰晴　夜に入り雨
1705年　4月9日 宝永2年　3月16日 陰晴　昨夜より雨　巳の刻止み小雨時々　午の刻に及ぶ （大円寺土橋脇に20斗男非人倒死）
1705年　4月10日 宝永2年　3月17日 晴　小風
1705年　4月11日 宝永2年　3月18日 曇　辰の后刻より小雨　終日に及ぶ　夜に入り雨 （堀越組一野渡で川流れで(19日の記述で14・5男)死亡）
1705年　4月12日 宝永2年　3月19日 晴　小風
1705年　4月13日 宝永2年　3月20日 曇
1705年　4月14日 宝永2年　3月21日 陰晴 （横内組で熊・狼荒れ・鉄砲打ち申付ける）
1705年　4月15日 宝永2年　3月22日 晴　小風 （去去年鯵ヶ沢に灯明立の申し立て）
1705年　4月16日 宝永2年　3月23日 晴　小風　夜に入り小雨
1705年　4月17日 宝永2年　3月24日 曇　申の刻より雨　夜に入り雪
1705年　4月18日 宝永2年　3月25日 曇　昨夜より雪　申の后刻止む　それより小雨時々　終夜に及ぶ （24日浪岡組徳才子村で火災1軒(2間×4間:高無)、酸ヶ湯付近で積雪で7・8尺所により1丈ほど・昨年より約3尺多い）
1705年　4月19日 宝永2年　3月26日 晴　土用午の壱刻
1705年　4月20日 宝永2年　3月27日 晴 （紺屋町枡形御番所小見世に37・8男非人倒死）
1705年　4月21日 宝永2年　3月28日 快晴
1705年　4月22日 宝永2年　3月29日 陰晴
1705年　4月23日 宝永2年　4月1日 曇　午の上刻より雨　夜更けに及ぶ　桜〇〇(開申か)今日見る （蟹田御蔵米1俵につき26匁3分、当月14日後潟組南沢村で1軒4人走る、碇関御関所2月出入り:出122・入り263・都合385人）
1705年　4月24日 宝永2年　4月2日 曇　昨夜より雨降続く　下から続く　高杉組大森村で野火(20間×13・4間)）
1705年　4月25日 宝永2年　4月3日 晴　小風　申の后刻より雨　夜に及ぶ　御堀端にこれあり候蕪の花開き候を見る （3月20日赤石組村々で野火、大間越御関所3月中出入り:出7・入り167・都合174人、3月28日　上に続く
1705年　4月26日 宝永2年　4月4日 晴　桜開花初めて今日見る
1705年　4月27日 宝永2年　4月5日 晴　午の上刻より小風 （2日油川組孫内村で火災2軒・馬2疋焼失、3月26日高杉組で野火(100間×30～60間・100間余×10～50間)）
1705年　4月28日 宝永2年　4月6日 晴　小風 （牧方5箇所に狼打ち出す）
1705年　4月29日 宝永2年　4月7日 曇　辰の刻より雨　終日夜に及ぶ　小桜之花〇〇(昨今か)より咲 （3月28日大鰐組で1軒2人走る）
1705年　4月30日 宝永2年　4月8日 陰晴　小風　午の刻小雨　暫くして止む （代官の人事異動、7日朝鯵ヶ沢沖で4人乗り鯡漁船が転覆・3人死亡）

1705年　5月1日 宝永2年　4月9日 陰晴　卯の刻小雨　則止む　辰の中刻雨　同下刻止む
1705年　5月2日 宝永2年　4月10日 快晴　今朝霧　夜に入り雨
1705年　5月3日 宝永2年　4月11日 曇　昨夜より雨　巳の中刻に及び止む
1705年　5月4日 宝永2年　4月12日 晴　辰の上刻より西風強し
1705年　5月5日 宝永2年　4月13日 晴　小風　(屋形様当月朔日江戸御着座)
1705年　5月6日 宝永2年　4月14日 晴
1705年　5月7日 宝永2年　4月15日 快晴　昨今花これ盛り　(3月中出入り:碇関出1090・入り265・計1355人、野内出77・入り54・計131人、10日夜横内組諏訪沢村に野火(50間×20余間))
1705年　5月8日 宝永2年　4月16日 快晴　(今日大鰐組島田で野火、13・14日蟹田の山に野火(100間×200間))
1705年　5月9日 宝永2年　4月17日 快晴　(碇関で野火、今朝碇関津かり沢・4時過ぎ大石沢・昨16日4時碇沢より野火、尾崎組新屋村で野火(800間×50間余)、碇関山火事に組頭2人など多数が出る)
1705年　5月10日 宝永2年　4月18日 曇　昨夜より雨時々　終日夜に及ぶ　(碇関の山火事鎮火(600間×17・8丁、15・6丁×7・8丁))　下から続く　横内組に雪水洪水被害あり)
1705年　5月11日 宝永2年　4月19日 陰晴　小風　四方平山の雪大方消え高山にばかり雪見る　(16日蟹田村(20間×15間)・15日(金木)新田・横内組大矢沢で野火(250間×170間・200間×150余間)、11日の雨で　上に続く
1705年　5月12日 宝永2年　4月20日 陰晴　午の中刻小風雨　夜に及ぶ
1705年　5月13日 宝永2年　4月21日 曇　小雨時々　申の刻に及び止む
1705年　5月14日 宝永2年　4月22日 陰晴　午の中刻より小雨時々　夜に及ぶ
1705年　5月15日 宝永2年　4月23日 陰晴　午の刻小雨　則止む　(御菜園場にある農作物(けし、百合草、大和芋、くこ、ほうれん草、ほうつき草、ふき等々)あり)
1705年　5月16日 宝永2年　4月24日 陰晴　申の后刻雷発す　同中刻より雨　夜に及ぶ
1705年　5月17日 宝永2年　4月25日 晴　卯の后刻より霞　辰の后刻に及び止む　(23日広田組種井村で火災(4間×7間)、17日飯詰組原子村で・13日赤石組3か村で野火)
1705年　5月18日 宝永2年　4月26日 曇
1705年　5月19日 宝永2年　4月27日 晴　今朝霞　暈
1705年　5月20日 宝永2年　4月28日 晴　卯の刻より霧　辰の后刻晴　暈　下から続く　(600間×150間)、深浦で野火)
1705年　5月21日 宝永2年　4月29日 晴　巳の后刻曇　雷数発す　中刻より雨　終夜に及ぶ　(24日浪岡組徳才子村で火災(2間×4間:高無)・秋大豆1斗・稗2斗5升・籾4斗5升・折敷5枚など焼失、去23日高杉組で野火　上に続く
1705年　5月22日 宝永2年　4月30日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(元禄15年の不作に青森で渇命・10月より翌年6月までの御救い米は819軒3512人に米261石余・籾6石余・味噌195貫余・これを20年年賦　下の欄外(*)に続く
1705年　5月23日 宝永2年　閏4月1日　晦
1705年　5月24日 宝永2年　閏4月2日　陰晴
1705年　5月25日 宝永2年　閏4月3日　晴　卯の刻より霧　下刻晴
1705年　5月26日 宝永2年　閏4月4日　晴
1705年　5月27日 宝永2年　閏4月5日　快晴
1705年　5月28日 宝永2年　閏4月6日　晴　戌の中刻より雨　終夜に及ぶ
1705年　5月29日 宝永2年　閏4月7日　曇　昨夜より雨　未の刻止む　夜に入り風
1705年　5月30日 宝永2年　閏4月8日　曇　昨夜より風　終日に及ぶ　卯の上刻より小雨時々
1705年　5月31日 宝永2年　閏4月9日　晴　(弘前廻りの日用銭(ひようせん:日雇いの賃金)が昔8分であったが未年(一昨年)10月より1匁になり……)
1705年　6月1日 宝永2年　閏4月10日　晴　(田の打ち立ての期日が示されている、8日赤石組長平で野火(半里×10丁)、昨8日夜赤石組赤石村磯辺に弁才船流れ寄せる)
1705年　6月2日 宝永2年　閏4月11日　陰晴　小風　午の上刻小雨　則止む　(8日の大風で赤石村に加賀船磯に寄せ4人行方不明:昨日の報告と同じか)
1705年　6月3日 宝永2年　閏4月12日　晴　寅の下刻小雨　則止む
1705年　6月4日 宝永2年　閏4月13日　晴　(8日の南大風で大間越で2艘破船1人死亡・赤石組沢辺と岩崎村で5艘破船4人行方不明・藤崎組飯田村で火災(4間×8間:百姓))
1705年　6月5日 宝永2年　閏4月14日　曇　未の后刻より小雨時々
1705年　6月6日 宝永2年　閏4月15日　晴　小風　(10日広須新田長浜に8人乗りの破船流れ寄せる、11日広須新田玉清水村で火災(3間×4間:庄屋)・馬2疋焼死、先月の御関所出入り:野内144人・碇関494人)
1705年　6月7日 宝永2年　閏4月16日　曇　卯の刻より小雨時々　東風添える
1705年　6月8日 宝永2年　閏4月17日　晴　(飛脚の路銀10・11・12日ぶりの場合39匁8分5厘2毛(10里につき2匁1分6厘)・標準29匁8分8厘9毛(10里につき1匁6分2厘))
1705年　6月9日 宝永2年　閏4月18日　曇　午の上刻より雨時々
1705年　6月10日 宝永2年　閏4月19日　陰晴
1705年　6月11日 宝永2年　閏4月20日　陰晴　(神明宮で明日から天気相の祈祷)
1705年　6月12日 宝永2年　閏4月21日　快晴
1705年　6月13日 宝永2年　閏4月22日　晴　申の刻雷発す　大雨　(21日金木組金木村で火災(百姓))
1705年　6月14日 宝永2年　閏4月23日　曇　卯の中刻雨　午の刻止む
1705年　6月15日 宝永2年　閏4月24日　晴
1705年　6月16日 宝永2年　閏4月25日　晴
1705年　6月17日 宝永2年　閏4月26日　陰晴　卯の中刻より雨　辰の上刻に及び止む
1705年　6月18日 宝永2年　閏4月27日　晴　東風平生より烈しく冷たい
1705年　6月19日 宝永2年　閏4月28日　晴　辰の刻より東風冷たい
1705年　6月20日 宝永2年　閏4月29日　晴　(昨晩東外門付近に風被害)
1705年　6月21日 宝永2年　5月1日 晴　午の刻暈　(鞘師町で女房縊死)
1705年　6月22日 宝永2年　5月2日 晴　東風　未の下刻暈
1705年　6月23日 宝永2年　5月3日 晴　小風
1705年　6月24日 宝永2年　5月4日 晴　未の刻暈
1705年　6月25日 宝永2年　5月5日 晴
1705年　6月26日 宝永2年　5月6日 陰晴
1705年　6月27日 宝永2年　5月7日 晴
1705年　6月28日 宝永2年　5月8日 晴
1705年　6月29日 宝永2年　5月9日 晴
1705年　6月30日 宝永2年　5月10日 晴　(今昼藤代組青女子で50程男倒死、6日夜後潟組左関で火災)
(*)　で上納の予定、宝永元年12月15日牧支配雲谷で熊(胆長3寸9歩幅2寸6歩目方14匁8分)取る、28日赤石組嶋村で火災7軒)

1705年　7月1日 宝永2年　5月11日 晴（御小納戸に熊の胆4つ上げる）
1705年　7月2日 宝永2年　5月12日 陰晴　辰の后刻小雨　則止む　未の刻雨時々　申の刻に及ぶ
1705年　7月3日 宝永2年　5月13日 陰晴　卯の中刻雨　則止む
1705年　7月4日 宝永2年　5月14日 陰晴
1705年　7月5日 宝永2年　5月15日 晴
1705年　7月6日 宝永2年　5月16日 今朝霧深し（9日若殿様江戸御発駕）
1705年　7月7日 宝永2年　5月17日 晴　午の刻より小雨（南袋御菜園場の樹木(丸めろん等)あり）
1705年　7月8日 宝永2年　5月18日 曇　辰の后刻より雨　終日夜に及ぶ（熊の皮入札:91枚で77匁5厘）
1705年　7月9日 宝永2年　5月19日 曇　昨夜より雨　巳の下刻に及び止む（閏4月の出入り:碇関出154・入り198・計352人、大間越出45・入り64・計109人、野内出97・入り31・計129人）
1705年　7月10日 宝永2年　5月20日 晴　小風（材木10本値段(三世寺渡しか):2間5寸角が17匁・2間6寸角が23匁・2間7寸角が30匁・2間8寸角が35匁）
1705年　7月11日 宝永2年　5月21日 晴
1705年　7月12日 宝永2年　5月22日 晴
1705年　7月13日 宝永2年　5月23日 晴（初木瓜の粕漬けを江戸に送っている:粕漬けより初木瓜の方が大切なのに書いていない）
1705年　7月14日 宝永2年　5月24日 晴　今朝霧
1705年　7月15日 宝永2年　5月25日 晴
1705年　7月16日 宝永2年　5月26日 晴　今朝霧　巳の刻に及び晴　申の中刻雨（若殿様御着城）
1705年　7月17日 宝永2年　5月27日 快晴
1705年　7月18日 宝永2年　5月28日 晴　小風　夜に入り小雨
1705年　7月19日 宝永2年　5月29日 曇　酉の下刻より土用に入る
1705年　7月20日 宝永2年　5月30日 曇　昨夜より雨　卯の刻に及び止む　小風
1705年　7月21日 宝永2年　6月1日 曇（今晩御拍子・狂言・仕舞）
1705年　7月22日 宝永2年　6月2日 曇　午の中刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り又雨
1705年　7月23日 宝永2年　6月3日 晴　丑の刻より雨　辰の刻に及び止む（5月22日江戸発の飛脚着、5月14日和歌山で紀伊中納言死去、昨日の雨で今朝岩木川2尺5・6寸の洪水・仮橋引取る）
1705年　7月24日 宝永2年　6月4日 陰晴
1705年　7月25日 宝永2年　6月5日 なし（紀伊中納言の死去は4日か）
1705年　7月26日 宝永2年　6月6日 晴　夜に入り雨
1705年　7月27日 宝永2年　6月7日 陰晴　昨夜より雨　今日辰の刻に及び止む
1705年　7月28日 宝永2年　6月8日 晴
1705年　7月29日 宝永2年　6月9日 晴
1705年　7月30日 宝永2年　6月10日 曇　辰の后刻より雨
1705年　7月31日 宝永2年　6月11日 夜に入り雨（5月中大間越出入り:出70・入り54・計124人、6日鯵ヶ沢で雨・7日洪水・5・6万本材木流出・28039本回収）
1705年　8月1日 宝永2年　6月12日 陰晴（11日の雨で藤崎川洪水・橋引取る、山本三郎兵衛が城中に立花）
1705年　8月2日 宝永2年　6月13日 曇
1705年　8月3日 宝永2年　6月14日 晴天
1705年　8月4日 宝永2年　6月15日 晴
1705年　8月5日 宝永2年　6月16日 今朝霧
1705年　8月6日 宝永2年　6月17日 晴（尾崎組原田村から早稲上がる）
1705年　8月7日 宝永2年　6月18日 晴　昼の内暑気　夜に入り冷たし（柏木組で狼荒れ鉄砲打ちを出す、13日夜駒越組枯木平で鉄砲で狼1疋取る）
1705年　8月8日 宝永2年　6月19日 晴　今朝白露有り　未の后刻北風　夜に入り冷たし
1705年　8月9日 宝永2年　6月20日 曇　辰の中刻より雨
1705年　8月10日 宝永2年　6月21日 陰晴　寅の刻より雨　巳の刻又雨　則止む
1705年　8月11日 宝永2年　6月22日 晴
1705年　8月12日 宝永2年　6月23日 晴
1705年　8月13日 宝永2年　6月24日 晴（柏木組の狼打ちは庄屋たちの申し入れで出さないこととする）
1705年　8月14日 宝永2年　6月25日 晴
1705年　8月15日 宝永2年　6月26日 晴　卯の下刻小雨　則止む　夜に入り又雨時々
1705年　8月16日 宝永2年　6月27日 曇　昨夜より雨　卯の刻に及び止む(「卯及刻」なのだが)　巳の中刻より雨　終夜に及ぶ（広田組高瀬村で熊(胆長3寸廻り4寸)取る）
1705年　8月17日 宝永2年　6月28日 曇　昨夜より雨終日　夜に入り大風雨
1705年　8月18日 宝永2年　6月29日 晴（23日より駒越組砂小瀬村で火災12軒、岩木川洪水・駒越渡の仮橋板引取る）
1705年　8月19日 宝永2年　7月1日 晦
1705年　8月20日 宝永2年　7月2日 曇　午の刻より雨（6月26日～28日蟹田町で東風被害）
1705年　8月21日 宝永2年　7月3日 晴（大鰐御菜園場より初米4箱差上げる）
1705年　8月22日 宝永2年　7月4日 晴（一位様6月22日薨去、広須新田沼館村で2歳娘狼に連れ去られ死亡、6月26日大間越で大風被害）
1705年　8月23日 宝永2年　7月5日 晴　夜に入り雨
1705年　8月24日 宝永2年　7月6日 曇　昨夜より雨終日　夜に及ぶ（6月27・28日油川・後潟組で大東風被害・稲の葉先赤くなる）
1705年　8月25日 宝永2年　7月7日 曇　昨夜より雨終日　夜に及ぶ
1705年　8月26日 宝永2年　7月8日 曇
1705年　8月27日 宝永2年　7月9日 晴（6日尾崎組原田村の百姓孫兵衛より例年のとおり初米上がる）
1705年　8月28日 宝永2年　7月10日 陰晴
1705年　8月29日 宝永2年　7月11日 陰晴（9日夜藤崎組藤崎村で火災）
1705年　8月30日 宝永2年　7月12日 卯の下刻より雨時々　終日に及ぶ　午の中刻前少し地震
1705年　8月31日 宝永2年　7月13日 陰晴　岩木山頂上に雪ー昨日まで見え申し候　今日は見え申さぬように之ある

1705年　9月1日 宝永2年　7月14日 陰晴　卯の下刻小雨　辰の刻に及ぶ
1705年　9月2日 宝永2年　7月15日 晴（広須組上古川村で狼荒れる・木造新田の福原村で猟師が狼1疋取る）
1705年　9月3日 宝永2年　7月16日 晴　酉の后刻小雨　則止む（13日鰺ヶ沢で和徳町の男縊死）
1705年　9月4日 宝永2年　7月17日 晴
1705年　9月5日 宝永2年　7月18日 晴
1705年　9月6日 宝永2年　7月19日 晴　申の下刻より小雨　夜に入る
1705年　9月7日 宝永2年　7月20日 晴　昨夜より雨　辰の下刻まで（6月中出入り:碇関出185馬45匹・入り221人・野内出118・入り76・計194人、18日柏木組梅田村で12歳男子が狼に食い殺される）
1705年　9月8日 宝永2年　7月21日 晴
1705年　9月9日 宝永2年　7月22日 晴　午の后刻小雨　則止む（柏木組に狼打ちを申付ける・1月ほど前に決めたが庄屋たちの意見を聞き止めていたもの）
1705年　9月10日 宝永2年　7月23日 晴　午の中刻より雨　則止む　酉の上刻より東風　終夜に及ぶ
1705年　9月11日 宝永2年　7月24日 晴
1705年　9月12日 宝永2年　7月25日 晴　昨日より冷たい東風　未だ相止まず
1705年　9月13日 宝永2年　7月26日 曇　東風（先月の大間越出入り:計92人）
1705年　9月14日 宝永2年　7月27日 曇　午の后刻小雨　則止む（22日桑野木田組花巻村(後の下中野村)で6月に生まれたばかりの女の子が母の懐中より狼に咥えだされ行方不明）
1705年　9月15日 宝永2年　7月28日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ（現銭を領外に出すのを制限している・例えば商売の売り上げ840目の持ち出し申し立てに家老たちが相談して200目を認めている）
1705年　9月16日 宝永2年　7月29日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1705年　9月17日 宝永2年　7月30日 晴
1705年　9月18日 宝永2年　8月1日 晴
1705年　9月19日 宝永2年　8月2日 晴
1705年　9月20日 宝永2年　8月3日 快晴
1705年　9月21日 宝永2年　8月4日 曇　巳の上刻より雨　夜に及ぶ
1705年　9月22日 宝永2年　8月5日 曇　辰の中刻より雨時々（去年3月に茂森町に預けられた捨子(太郎六つ)が昨夜死亡）
1705年　9月23日 宝永2年　8月6日 陰晴　午の刻より小雨時々（八幡宮祭礼を8月15日に行う）
1705年　9月24日 宝永2年　8月7日 曇
1705年　9月25日 宝永2年　8月8日 晴
1705年　9月26日 宝永2年　8月9日 晴
1705年　9月27日 宝永2年　8月10日 陰晴
1705年　9月28日 宝永2年　8月11日 晴（八幡宮祭礼の町々の山を通すために畏町御門・南御門等の改修内容あり）
1705年　9月29日 宝永2年　8月12日 晴　夜に入り小雨
1705年　9月30日 宝永2年　8月13日 陰晴　辰の中刻小雨　則止む　夜に入り雨　　下から続く　13・4、家屋敷152軒、乗馬1疋、小荷駄6疋）
1705年　10月1日 宝永2年　8月14日 晴（7月出入り:碇関566人・大間越84人・野内146人）　下から続く　真言28・15、下男589・下女386、禅361・229、浄土138・97、法花37・23、浄土真宗36・31、天台4・2、真言　上に続く
1705年　10月2日 宝永2年　8月15日 晴　午の后刻より雨　未の下刻止み陰（御用人支配転び切支丹総人数3547人:上男1373・上女1199、禅915・805、浄土222・181、法花95・107、浄土真宗97・77、天台16・14、　上に続く
1705年　10月3日 宝永2年　8月16日 晴　未の刻より小雨時々　終日夜に及ぶ
1705年　10月4日 宝永2年　8月17日 晴（鮭留の入札:野内川が185匁3分・荒川が144匁5分5厘・新田川が21匁5分・横内出川？が12匁5分9厘・造道才蔵川が5匁7分）
1705年　10月5日 宝永2年　8月18日 晴　申の刻雨時々　夜に及ぶ
1705年　10月6日 宝永2年　8月19日 陰晴　午の下刻より雨時々　夜に入る
1705年　10月7日 宝永2年　8月20日 曇　昨夜中より雨終日　夜に入り時々雨（柏木組の狼あれ止み狼打ち引取る）
1705年　10月8日 宝永2年　8月21日 曇　岩木山頂上今朝雪見る　雨時々　午の后刻雷発す　卯の下刻西の方虹これあり　夜に入り雷発す（6月26日横内組宮崎村で8つ男子行方不明）
1705年　10月9日 宝永2年　8月22日 晴　午の刻小雨　則止む　岩木山頂上に今朝もまた雪見る（14日広須新田上福原村で猟師が狼取る、22日夜和徳町で小人が乳飲み子差殺し自害・(9月4日の記述で)晦日死亡）
1705年 10月10日 宝永2年　8月23日 陰晴　小雨時々
1705年 10月11日 宝永2年　8月24日 晴（平内領不作）
1705年 10月12日 宝永2年　8月25日 晴
1705年 10月13日 宝永2年　8月26日 晴（25日大鰐組大沢村で55・6男坊主倒死）
1705年 10月14日 宝永2年　8月27日 曇　午の刻雨時々　終夜に及ぶ（鰺ヶ沢御蔵米沖役入れて1俵につき28匁で御払い仰せ付けられたく……）
1705年 10月15日 宝永2年　8月28日 曇　昨夜より雨切々　終日に及ぶ（平内への御救い米の通行の求めあり）
1705年 10月16日 宝永2年　8月29日 陰晴
1705年 10月17日 宝永2年　8月30日 晴
1705年 10月18日 宝永2年　9月1日 快晴
1705年 10月19日 宝永2年　9月2日 晴　夜に入り雨（猿賀組村々走り人27人・大光寺組村々14人）
1705年 10月20日 宝永2年　9月3日 曇　昨夜より雨時々　午の刻より風雨　夜に及ぶ
1705年 10月21日 宝永2年　9月4日 陰晴　昨夜より雨時々　巳の下刻に及び止む（8月中碇関出入り:出240・入り368・計608人）
1705年 10月22日 宝永2年　9月5日 晴　夜に入り雨
1705年 10月23日 宝永2年　9月6日 曇　昨夜より雨　終日終夜に及ぶ
1705年 10月24日 宝永2年　9月7日 陰晴　昨夜より雨時々　夜に及ぶ（後潟・油川組当作不足）
1705年 10月25日 宝永2年　9月8日 晴
1705年 10月26日 宝永2年　9月9日 晴
1705年 10月27日 宝永2年　9月10日 快晴
1705年 10月28日 宝永2年　9月11日 曇　巳の刻より雨時々　夜に及ぶ
1705年 10月29日 宝永2年　9月12日 晴　今朝岩木山に雪見る　昨夜より雨時々　夜に及ぶ
1705年 10月30日 宝永2年　9月13日 曇　東の嵩(八甲田山のこと)に今朝雪見る
1705年 10月31日 宝永2年　9月14日 陰晴　夜に入り雨（11日夜広須新田家調村で落雷・1軒馬1疋焼失、8月中大間越出入り:117人）

1705年　11月1日 宝永2年　　9月15日 曇　昨夜より雨時々　夜に及ぶ（江戸の御作事料が出せず御用金募集など）
1705年　11月2日 宝永2年　　9月16日 陰晴　昨夜より雨時々　巳の刻初めて里え小丸雪降る　則止む
1705年　11月3日 宝永2年　　9月17日 曇　今朝初めて四方山え雪見る　申の刻より雨時々　夜に及ぶ
1705年　11月4日 宝永2年　　9月18日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1705年　11月5日 宝永2年　　9月19日 陰晴
1705年　11月6日 宝永2年　　9月20日 陰晴
1705年　11月7日 宝永2年　　9月21日 陰晴　岩木山下野まで雪見る
1705年　11月8日 宝永2年　　9月22日 快晴　今朝霜　井の溜り水に氷はる
1705年　11月9日 宝永2年　　9月23日 晴　夜に入り小雨時々（24日広須新田吉出村で火災2軒）
1705年 11月10日 宝永2年　　9月24日 陰晴
1705年 11月11日 宝永2年　　9月25日 陰晴（先月中野内関所出入り:計246人）
1705年 11月12日 宝永2年　　9月26日 晴（21日大鰐組野里村で4歳男子狼に咥え出される）
1705年 11月13日 宝永2年　　9月27日 陰晴　夜に入り風雨
1705年 11月14日 宝永2年　　9月28日 曇　岩木山下野まで雪あり　昨夜より時々風雨　今朝霙時々（金木組新田で稲青かれ等）
1705年 11月15日 宝永2年　　9月29日 晴　午の刻より雪風　終日夜に及ぶ
1705年 11月16日 宝永2年　　10月1日 晴　今朝大霜　夜に入り雨
1705年 11月17日 宝永2年　　10月2日 快晴　巳の下刻より雨（先月28日の大風被害）
1705年 11月18日 宝永2年　　10月3日 晴
1705年 11月19日 宝永2年　　10月4日 快晴　今朝大雪(霜の間違いかな)
1705年 11月20日 宝永2年　　10月5日 晴　申の中刻雨　夜に及ぶ（9月中大間越出入り:出34・入り45・計79人）
1705年 11月21日 宝永2年　　10月6日 晴（初鮭かな、昨夜古懸不動尊御出汗）
1705年 11月22日 宝永2年　　10月7日 曇
1705年 11月23日 宝永2年　　10月8日 曇　小雪時々（朽米入札:1俵12匁・土米1俵4匁8分5厘、碇関先月出入り:計380人）
1705年 11月24日 宝永2年　　10月9日 曇　昨夜より雪時々風　終日夜に及ぶ（青森御蔵米10両につき28.5俵）
1705年 11月25日 宝永2年　10月10日 曇　小雪時々（郡奉行3人連名で当年不作の申し立て）
1705年 11月26日 宝永2年　10月11日 陰晴　申の下刻雨　終夜に及ぶ
1705年 11月27日 宝永2年　10月12日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ（昨夜よりの雨で駒越渡止める、8日夜長勝寺に山門に住む盗人）
1705年 11月28日 宝永2年　10月13日 晴（昨12日平川洪水で石川渡の柱抜ける）
1705年 11月29日 宝永2年　10月14日 晴　未の下刻より曇　小雪時々　夜に及ぶ（田舎館組堂野前村に者倒死）
1705年 11月30日 宝永2年　10月15日 曇　少々夜に入り丸雪
1705年　12月1日 宝永2年　10月16日 曇　昨夜より雪時々　終日夜に及ぶ
1705年　12月2日 宝永2年　10月17日 陰晴　昨夜より小雪時々　巳の下刻に及ぶ
1705年　12月3日 宝永2年　10月18日 曇　今朝より小雪時々　終日に及ぶ
1705年　12月4日 宝永2年　10月19日 晴（昨18日八つ時分大光寺組大光寺村で火災・1軒と外馬屋1軒）
1705年　12月5日 宝永2年　10月20日 曇　時々小雨　終日夜に及ぶ（青森で御蔵米10両につき28俵(御役付き)、鰺ヶ沢御蔵米1俵26匁2分、9月中野内出入り:出81・入り85・計166人）
1705年　12月6日 宝永2年　10月21日 曇　小雪時々　午の刻に及ぶ　同刻風　終日夜に及ぶ（今晩御囃子・仕舞・能・狂言）
1705年　12月7日 宝永2年　10月22日 曇　雪今日より降る　雪風終日に及ぶ
1705年　12月8日 宝永2年　10月23日 曇　吹雪　終日夜に及ぶ
1705年　12月9日 宝永2年　10月24日 曇　雪時々　終日夜に及ぶ（先月27日夜浅虫で大風被害、22日朝金井沢湊で破船1艘）
1705年 12月10日 宝永2年　10月25日 曇　今朝より卯の刻まで時々雨
1705年 12月11日 宝永2年　10月26日 曇　辰の刻より雪　巳の中刻より霙　巳の下刻地震　少し雪　終日に及ぶ（鰺ヶ沢で今朝40余男乞食倒死、22日十三で大風被害）
1705年 12月12日 宝永2年　10月27日 曇　雪時々　終日夜に及ぶ
1705年 12月13日 宝永2年　10月28日 陰晴　雪時々
1705年 12月14日 宝永2年　10月29日 晴（丁銀50枚で38両、青森で御蔵米10両につき27.5俵、籾納・大豆納等の願い多し、21～23日鰺ヶ沢・小泊で大風被害）
1705年 12月15日 宝永2年　10月30日 陰晴　巳の中刻より小雪　終日夜に及ぶ
1705年 12月16日 宝永2年　　11月1日 曇　雪時々　終日夜に及ぶ
1705年 12月17日 宝永2年　　11月2日 陰晴　時々小雪（初鱈蟹田より上がる）
1705年 12月18日 宝永2年　　11月3日 快晴（今別町の者より御蔵米50俵御払い願い・1俵を25匁5分で払出す、一昨朔日常盤組小畑村で火災1軒、12日の大風で赤田組大巻村の渡し船が破損）
1705年 12月19日 宝永2年　　11月4日 晴（目明し専四郎が盗人団を見つけ3人捕える）
1705年 12月20日 宝永2年　　11月5日 曇　巳の中刻より小雨（先月晦日駒越組目屋野沢で熊取る）
1705年 12月21日 宝永2年　　11月6日 曇　昨夜より雨時々（10月中大間越出入り:出43・入り35人）
1705年 12月22日 宝永2年　　11月7日 曇　子の四刻冬至　午の上刻より小雨
1705年 12月23日 宝永2年　　11月8日 曇　辰の刻小雨時々　終日に及ぶ（駒越組目屋野沢で熊(胆長3寸廻り2寸5歩)取る）
1705年 12月24日 宝永2年　　11月9日 曇　時々小雪
1705年 12月25日 宝永2年　11月10日 曇　雪時々　申の下刻小雨時々　夜に及ぶ
1705年 12月26日 宝永2年　11月11日 曇　卯の下刻より時々小雨
1705年 12月27日 宝永2年　11月12日 陰晴　卯の后刻より小雪　午の刻止む　戌の后刻地震（狼荒れが止み当春より出していた鉄砲打ちを返す）
1705年 12月28日 宝永2年　11月13日 陰晴　夜に入り雪　終夜に及ぶ（米1升に付き:次大豆1升3合・上大豆8合・上蕎麦5合・次蕎麦1升8合・上餅粟7合・上小麦6合・稗4升、10月野内出入り:出82・入り86・計168人）
1705年 12月29日 宝永2年　11月14日 曇　辰の刻より小雨時々又風　夜に入り雪
1705年 12月30日 宝永2年　11月15日 陰晴　昨夜より雪時々　夜に入り風雪（11月9日駒越組目屋野沢で熊(耳合いより尾際まで長6尺)取る）
1705年 12月31日 宝永2年　11月16日 曇　昨夜より大風　雪降り続く

1706年　1月1日 宝永2年　11月17日 晴（浪岡組竹鼻村で20斗男倒死、14日蟹田町で破船1艘）
1706年　1月2日 宝永2年　11月18日 晴　午の中刻雨　終日夜に及ぶ　夜に入り風
1706年　1月3日 宝永2年　11月19日 陰晴　昨夜より風　雪交（先月中碇関口出入り:計404人、浪岡組竹ヶ鼻で22・3斗男乞食倒死）
1706年　1月4日 宝永2年　11月20日 曇　昨夜より雪時々
1706年　1月5日 宝永2年　11月21日 曇　未の后刻より大雪　夜に及ぶ
1706年　1月6日 宝永2年　11月22日 曇　卯の一刻小寒に入る　昨夜より大雪　終日夜に及ぶ
1706年　1月7日 宝永2年　11月23日 陰晴　雪辰の刻まで
1706年　1月8日 宝永2年　11月24日 陰晴　巳の中刻小雨　午の刻に及び止む
1706年　1月9日 宝永2年　11月25日 陰晴　時々小雪　巳の中刻より快晴（8日鰺ヶ沢町に盗人・捕まる）
1706年　1月10日 宝永2年　11月26日 晴
1706年　1月11日 宝永2年　11月27日 申の刻より雪　夜に入る（23日夜牧支配蔵沢村で火災1軒・母駄1疋焼死、18・9日赤石組長平村で22男大吹雪で倒死）
1706年　1月12日 宝永2年　11月28日 曇　昨夜より雪風時々　午の中刻に及び止み雪時々（27日親方町で乱心者自害）
1706年　1月13日 宝永2年　11月29日 陰晴　小雪時々　　下から続く　　2升7合3夕・次稗4升）
1706年　1月14日 宝永2年　11月30日 陰晴　時々雪（7月24日青森より初鮭・10月2日二番鱈上がる、米1升代雑穀:次大豆2升1合2夕・次小豆1升4合5夕・次粟1升8合2夕・次蕎麦2升6合7夕・次小麦9合1夕・次大麦　　上に続く
1706年　1月15日 宝永2年　12月1日 曇　昨夜より小雪時々　午の刻に及び又雪　夜中大吹雪（深浦町で船頭から4月26日～10月20日の燈明銭571匁取る、駒越組目屋の沢で熊2疋(胆長2寸5歩廻り3寸・長1寸5歩廻り1寸)取る）
1706年　1月16日 宝永2年　12月2日 曇　昨夜より大吹雪　晴れ間なし
1706年　1月17日 宝永2年　12月3日 陰晴　卯の刻より時々雪
1706年　1月18日 宝永2年　12月4日 陰晴　時々雪　終日夜に及ぶ　　下から続く　　大麦9匁1分6厘・10匁6分9厘、蕎麦9匁7分8厘・11匁4分1厘、粟10匁4分7厘・17匁5厘、稗6匁6分8厘・7匁7分）
1706年　1月19日 宝永2年　12月5日 曇　昨夜吹雪　夜に及ぶ　戌の刻地震（米雑穀1俵値段(岡在・濱):米24匁3分・28匁、大豆12匁2分2厘・13匁8分6厘、小豆17匁6分・20匁5分3厘、小麦32匁5分9厘・37匁4分9厘、　　上に続く
1706年　1月20日 宝永2年　12月6日 陰晴　甚だ寒い　辰の下刻より大吹雪　午の后刻止む　それより時々雪
1706年　1月21日 宝永2年　12月7日 曇　大寒巳の六刻　甚だ寒い　昨夜より風雪　晴れ間なし（3日夜桑野木田組亀田村で火災(4間×9間:百姓)）
1706年　1月22日 宝永2年　12月8日 陰晴　昨夜より雪時々　巳の刻に及び止む　午の刻より雪　終夜に及ぶ（狼打ちに持ち出した鉄砲3丁が壊れて帰る）
1706年　1月23日 宝永2年　12月9日 陰晴　時々小雪　終日夜に及ぶ
1706年　1月24日 宝永2年　12月10日 陰晴　時々雪　巳の下刻に及び止む　それより天気吉　申の下刻時々雪（紺屋町材木場に女非人倒死）
1706年　1月25日 宝永2年　12月11日 陰晴　小雪時々　終日夜に及ぶ（江戸勝手物成:米1俵に付き23匁8分）
1706年　1月26日 宝永2年　12月12日 陰晴　雪時々（11月大間越口出入り:出16・入り25・計41人）
1706年　1月27日 宝永2年　12月13日 陰晴　雪時々
1706年　1月28日 宝永2年　12月14日 晴　午の下刻より時々雪
1706年　1月29日 宝永2年　12月15日 陰晴
1706年　1月30日 宝永2年　12月16日 晴
1706年　1月31日 宝永2年　12月17日 快晴
1706年　2月1日 宝永2年　12月18日 晴（昨夜橋雲寺門前の2月生まれの女の子が狼に咥えだされ喰い殺される）
1706年　2月2日 宝永2年　12月19日 晴（先月野内口出入り:計116人）
1706年　2月3日 宝永2年　12月20日 曇（18日朝高杉組独鈷村で2歳の男の子が狼に喰い殺される、他に5村で狼に食いつかれる）
1706年　2月4日 宝永2年　12月21日 晴
1706年　2月5日 宝永2年　12月22日 曇　卯の后刻より時々小雨（高杉組・駒越組で狼が荒れたことを受けて狼打ちと立会いを派遣する）
1706年　2月6日 宝永2年　12月23日 陰晴　申の中刻より雪　終夜に及ぶ（20日夜柏木組梅田村で40斗男道心倒死）
1706年　2月7日 宝永2年　12月24日 曇　雪
1706年　2月8日 宝永2年　12月25日 曇　昨夜吹雪打ち続く　終日夜に及ぶ（掃除小人28人減少(暇を出す)）
1706年　2月9日 宝永2年　12月26日 陰晴（22日夜広須新田稲森村で6歳の男の子が狼に食い殺される）
1706年　2月10日 宝永2年　12月27日 陰晴（23日広須新田岡部里村で火災）
1706年　2月11日 宝永2年　12月28日 陰晴（御囃子）
1706年　2月12日 宝永2年　12月29日 曇
1706年　2月13日 宝永3年　正月1日　快晴　申の下刻小雨　則止む　夜に入り雨
1706年　2月14日 宝永3年　正月2日　曇　昨夜より雨雪　終日に及ぶ
1706年　2月15日 宝永3年　正月3日　陰晴（御謡初）
1706年　2月16日 宝永3年　正月4日　晴
1706年　2月17日 宝永3年　正月5日　曇　昨夜より雪降り続く
1706年　2月18日 宝永3年　正月6日　曇　昨夜より大吹雪　終日夜に及ぶ
1706年　2月19日 宝永3年　正月7日　曇　昨夜より雪　終日夜に及ぶ
1706年　2月20日 宝永3年　正月8日　陰晴　時々小雪　終日夜に及ぶ
1706年　2月21日 宝永3年　正月9日　晴
1706年　2月22日 宝永3年　正月10日　曇　昨夜より吹雪終日　夜に及ぶ
1706年　2月23日 宝永3年　正月11日　陰晴　昨夜より小雪時々　終日に及ぶ（6日夜鰺ヶ沢の御蔵に盗人・米4俵ほど盗む、3日暮土手町十文字木戸番小屋に27・8男非人転げ込み死亡）
1706年　2月24日 宝永3年　正月12日　晴　未の刻より小雪　夜に及ぶ（御囃子）
1706年　2月25日 宝永3年　正月13日　曇　昨夜より雪　夜に入り大吹雪
1706年　2月26日 宝永3年　正月14日　曇　昨夜より大吹雪　終日夜に及ぶ
1706年　2月27日 宝永3年　正月15日　曇　風雪　午の刻より晴天（御発駕3月11日の予定）
1706年　2月28日 宝永3年　正月16日　晴（染屋町番所前に坊主倒死）

1706年　3月1日 宝永3年 正月17日　快晴 （大鰐組蔵館に52・3女倒死）
1706年　3月2日 宝永3年 正月18日　晦 未の刻より小雪 同中刻より霙 同下刻より雨 夜に及ぶ
1706年　3月3日 宝永3年 正月19日　曇 昨夜より大吹雪 西風吹く 巳の刻より丸雪添える 未の上刻より大風雪 終日夜に及ぶ
1706年　3月4日 宝永3年 正月20日　曇 昨夜より大風雪 巳の刻に及ぶ それより吹雪 終日夜に及ぶ
1706年　3月5日 宝永3年 正月21日　曇 昨夜より吹雪 終日夜に及ぶ （渡辺清右衛門与力に山上長次郎あり）
1706年　3月6日 宝永3年 正月22日　晴
1706年　3月7日 宝永3年 正月23日　曇 辰の下刻小雪 午の中刻より小雪 夜に入り吹雪
1706年　3月8日 宝永3年 正月24日　曇 昨夜より吹雪強し 終日夜に及ぶ
1706年　3月9日 宝永3年 正月25日　曇 吹雪時々 終夜に及ぶ （18日藤崎組山崎村で18歳男が狼に食い殺される、19日油川組で破船1艘・1人死亡）
1706年　3月10日 宝永3年 正月26日　曇 吹雪時々 終日夜に及ぶ （元禄15年8月27日に鰺ヶ沢前戸川と油川組新田川に白魚の種植える、去年12月大間越出入り:計41人・野内出入り:48人）
1706年　3月11日 宝永3年 正月27日　曇 吹雪時々 巳の刻に及び止む それより小雪時々 夜に及ぶ （金木組小泊に鯨寄せる）
1706年　3月12日 宝永3年 正月28日　陰晴 昨夜より雪時々
1706年　3月13日 宝永3年 正月29日　陰晴
1706年　3月14日 宝永3年 正月30日　晴 今朝大霜初めて見る 申の中刻より雪 終日夜に及ぶ （昨夜藤代組町田村で火災1軒）
1706年　3月15日 宝永3年　2月1日 晴
1706年　3月16日 宝永3年　2月2日 晴 今朝霜 巳の下刻雪 （先月14日江戸で火災・与一様屋敷類焼）
1706年　3月17日 宝永3年　2月3日 曇 午の刻より雨時々 夜に及ぶ （去月16日長寿院様御遠行）
1706年　3月18日 宝永3年　2月4日 陰晴 巳の刻小雪時々 未の中刻止む
1706年　3月19日 宝永3年　2月5日 曇 小風時々
1706年　3月20日 宝永3年　2月6日 曇 昨夜より風 小雨纏(僅か)に時々添う 午の下刻より大風雨 夜に及び同雪(大雪風か)
1706年　3月21日 宝永3年　2月7日 陰晴 寅の后刻より雪 辰の中刻に及び止む ただし小風 夜に入り雪時々 （正月19日の大風で国吉村の神社の松に被害）
1706年　3月22日 宝永3年　2月8日 曇 午の中刻より雪 終日夜に及ぶ （昨日の風で和徳組小沢村の百姓家潰れ馬1疋死ぬ）
1706年　3月23日 宝永3年　2月9日 曇 昨夜より雪時々 夜に及ぶ
1706年　3月24日 宝永3年　2月10日 曇 昨夜より雪時々 夜に入り雪三寸ほど積り （取上村で斬罪(男)3人・内2人は越山者の立ち帰り、6日の強風被害）
1706年　3月25日 宝永3年　2月11日 陰晴 彼岸入り （御用米・御用金不足につき金持ち等に割付:米7万千俵と3千両、6日赤石組で大風被害、6日大鰐組碇関で熊(胆長5寸。廻り4寸)取る））
1706年　3月26日 宝永3年　2月12日 陰晴 今朝霜
1706年　3月27日 宝永3年　2月13日 晴
1706年　3月28日 宝永3年　2月14日 陰晴 巳の中刻小雪 則止む 又夜に入り雪 終夜に及ぶ （10日藤崎川洪水被害）
1706年　3月29日 宝永3年　2月15日 曇 今朝雪三四寸ほど降るを見る 昨夜中より雪時々 終日夜に及ぶ
1706年　3月30日 宝永3年　2月16日 陰晴 昨夜より雪二寸四五歩ほど積もる 巳の中刻より吹雪 下から続く 大間越:出18・入り80・計98人）
1706年　3月31日 宝永3年　2月17日 晴 昨夜中の雪二寸余見る 卯の后刻雪少し止む （広田組藻川村で火災1軒、彼岸入り又は中日に潟明けの十三潟がまだ明けない、正月中碇関出入り:出56・入り212・計268人、 上に続く
1706年　4月1日 宝永3年　2月18日 晴
1706年　4月2日 宝永3年　2月19日 晴 卯の后刻丸雪少し降る 則止む 町中日向計り雪消え 土少しづつ見る
1706年　4月3日 宝永3年　2月20日 晴
1706年　4月4日 宝永3年　2月21日 晴 八十八夜 （御拍子・仕舞・狂言）
1706年　4月5日 宝永3年　2月22日 晴 （酒値段1升が1匁2分以下）
1706年　4月6日 宝永3年　2月23日 曇 辰の后刻より雨 巳の中刻に及び止む （17・18日頃より十三潟の一部氷明け）
1706年　4月7日 宝永3年　2月24日 曇 巳の上刻より丸雪 （17日広須新田で百姓走る・6人馬2疋、21日夜俵元新田で火災1軒馬2疋焼失）
1706年　4月8日 宝永3年　2月25日 晴 未の中刻風吹く （昼四時和徳町で8軒・飛び火で和徳村に2軒火災）
1706年　4月9日 宝永3年　2月26日 晴 （狂言）
1706年　4月10日 宝永3年　2月27日 陰晴 所々御堀の水昨日より解け候 尤も所々千鳥懸(がけ)草履道に成り候
1706年　4月11日 宝永3年　2月28日 晴 （正月野内出入り:出56・入り16・計72人）
1706年　4月12日 宝永3年　2月29日 曇 辰の下刻より雨時々 夜に及ぶ （去極月から大鰐組石川村に倒れていた万太(番太:ばんた:村に雇われた番人で身分は非人)を御救い米を受けて養っていたが22日に死亡）
1706年　4月13日 宝永3年　3月1日 曇 昨夜より雨時々
1706年　4月14日 宝永3年　3月2日 陰晴 申の中刻より小雨時々 夜に及ぶ （2月28日大鰐組八幡館村で田打ち始まる）
1706年　4月15日 宝永3年　3月3日 陰晴 昨夜より小雨時々 （2月27日牧支配新町野村の猟師が熊(胆長4寸廻り7寸)取る）
1706年　4月16日 宝永3年　3月4日 晴 小風 （3日東長町預かりの22・3者死亡、2月29日大鰐組碇関で熊取る）
1706年　4月17日 宝永3年　3月5日 曇 巳の中刻より小雨時々 酉の刻より風 戌の刻より大風 （2月28日十三潟残らず明ける、昨夜藤崎組前田屋敷村で火災2軒、2月29日金木組高根村で娘2人(11歳と2歳)狼に食い殺される）
1706年　4月18日 宝永3年　3月6日 曇 昨夜より風雨 寅の下刻止む 辰の刻より小風雨時々 （先月中大間越出入り:計529人）
1706年　4月19日 宝永3年　3月7日 晴 小風
1706年　4月20日 宝永3年　3月8日 晴 今朝鶯の声初めて聞く 巳の中刻曇 午の下刻丸雪 雷電数発す それより雨時々 夜に及ぶ
1706年　4月21日 宝永3年　3月9日 陰晴 昨夜より雨 巳の中刻に及ぶ （碇関脇道で3人発見・生鯡など・全員逃亡、碇関出入り:出133・入り242・計375人）
1706年　4月22日 宝永3年　3月10日 晦
1706年　4月23日 宝永3年　3月11日 曇 昨夜より小雨時々 辰の刻より小雪少々交じる （若殿様御発駕）
1706年　4月24日 宝永3年　3月12日 陰晴 卯の中刻小雪暫く それより丸雪時々 巳の中刻に及び止む 小風
1706年　4月25日 宝永3年　3月13日 快晴 （鰺ヶ沢に初鯡15600駄揚がる）
1706年　4月26日 宝永3年　3月14日 晴 夜に入り小雨時々 下から続く 109・34・20、浄土真宗100・78・39・29、天台14・16・4・2、真言29・15・8・5、家屋敷162軒・乗馬2疋・小荷駄10疋）
1706年　4月27日 宝永3年　3月15日 陰晴 （12日広須新田平滝村で火災1軒、御用人支配切支丹惣人数3644人・上男1391・上女1292・下男585・下女376、禅925・796・369・220、浄土227・191・131・100、法花96・ 上に続く
1706年　4月28日 宝永3年　3月16日 快晴
1706年　4月29日 宝永3年　3月17日 曇 巳の刻より小雨時々 夜に及ぶ
1706年　4月30日 宝永3年　3月18日 晴

1706年　5月1日 宝永3年　3月19日 曇　巳の刻より雨
1706年　5月2日 宝永3年　3月20日 陰晴（16日浪岡村大橋が雪水で破損）
1706年　5月3日 宝永3年　3月21日 晴　小雨　夜に入り雷電数々発す　雨風添う
1706年　5月4日 宝永3年　3月22日 晴
1706年　5月5日 宝永3年　3月23日 晴　昨今世上の梅の花桜花初めて開く初めて見る（昨夜茂森町で殺人か）
1706年　5月6日 宝永3年　3月24日 晴　小風（2月分野内出入り:出108・入り64・計172人）
1706年　5月7日 宝永3年　3月25日 陰晴　立夏（20日広須新田の猟師熊(胆長3寸廻り4寸)取る）
1706年　5月8日 宝永3年　3月26日 晴　夜に入り雨
1706年　5月9日 宝永3年　3月27日 曇　昨夜より小雨時々　終日に及ぶ　夜に入り風
1706年　5月10日 宝永3年　3月28日 曇　風時々（尾崎組新館村に44・5男縊死）
1706年　5月11日 宝永3年　3月29日 晴　小風（28日の大風で舮作沖で破船1艘・2人死亡、去月？28日の大風で十三・小泊でそれぞれ破船1艘）
1706年　5月12日 宝永3年　4月1日 快晴
1706年　5月13日 宝永3年　4月2日 曇　辰の刻より雨
1706年　5月14日 宝永3年　4月3日 陰晴　午の下刻より雨　未の下刻止む
1706年　5月15日 宝永3年　4月4日 陰晴
1706年　5月16日 宝永3年　4月5日 晴　小風（朔日夜広須新田今市村で火災1軒、米1俵に付き22匁5分）
1706年　5月17日 宝永3年　4月6日 快晴　大霜　小溝の水薄氷　夜に入り雨
1706年　5月18日 宝永3年　4月7日 曇　昨夜より雨　終日夜に及ぶ（昨晩紺屋町に2歳斗女の子捨子）
1706年　5月19日 宝永3年　4月8日 晴　午の后刻より陰　小風（金・米に困っている・2月11日割付の御用金・御用米の1～2割しか集まらない）
1706年　5月20日 宝永3年　4月9日 晴　小風
1706年　5月21日 宝永3年　4月10日 快晴　小風（6日夜飯詰組神山村で火災1軒）
1706年　5月22日 宝永3年　4月11日 快晴（浪岡組柳久保村に60余男倒死）
1706年　5月23日 宝永3年　4月12日 陰晴　申の中刻小雨時々　夜に及ぶ（8日後方組小橋村で火災1軒、9日暮金木組嘉瀬村で火災1軒）
1706年　5月24日 宝永3年　4月13日 曇　昨夜より雨　終日夜に及ぶ（3月中大間越出入り:出41・入り152・計193人、浪岡組竹鼻村で火災1軒）
1706年　5月25日 宝永3年　4月14日 曇
1706年　5月26日 宝永3年　4月15日 晴
1706年　5月27日 宝永3年　4月16日 晴（若殿様先月28日に御参府、3月中野内出入り:出89・入り80・計169人）
1706年　5月28日 宝永3年　4月17日 快晴　霧深し
1706年　5月29日 宝永3年　4月18日 快晴
1706年　5月30日 宝永3年　4月19日 快晴　霞少々
1706年　5月31日 宝永3年　4月20日 快晴　申の下刻西の方虹見る（広須新田下古川村で狼荒れ・12日に狼取る）
1706年　6月1日 宝永3年　4月21日 快晴
1706年　6月2日 宝永3年　4月22日 快晴
1706年　6月3日 宝永3年　4月23日 快晴
1706年　6月4日 宝永3年　4月24日 快晴（20日夜今別町で殺人・自害？男女2人死亡）
1706年　6月5日 宝永3年　4月25日 快晴　霧　巳の刻晴
1706年　6月6日 宝永3年　4月26日 快晴　霧　辰の刻晴
1706年　6月7日 宝永3年　4月27日 曇　午の下刻小雨　則止む（27日碇関町で火災23軒）
1706年　6月8日 宝永3年　4月28日 曇　辰の下刻より小雨
1706年　6月9日 宝永3年　4月29日 曇　昨日より雨　終日に及ぶ
1706年　6月10日 宝永3年　4月30日 曇
1706年　6月11日 宝永3年　5月1日 晴
1706年　6月12日 宝永3年　5月2日 晴
1706年　6月13日 宝永3年　5月3日 晴（昨2日夫食米(ふじきまい:農作業のための食料)20000俵を才覚(何とか手に入れる)するよう町人22人に飲ませ・食わせて申付ける）
1706年　6月14日 宝永3年　5月4日 晴　今朝霧雨
1706年　6月15日 宝永3年　5月5日 陰晴　今朝霧雨
1706年　6月16日 宝永3年　5月6日 晴　今朝霧雨
1706年　6月17日 宝永3年　5月7日 晴　今朝霧雨　申の刻より時々雨　夜申の中刻に及ぶ
1706年　6月18日 宝永3年　5月8日 晴　申の中刻寅の方より巳の方へ虹見る　時々小雨　芍薬花少々初めて開く（朔日油川組沖館・新田村の境で追剥・搦捕る）
1706年　6月19日 宝永3年　5月9日 陰晴（屋形様当月18日江戸御発駕）
1706年　6月20日 宝永3年　5月10日 陰晴　巳の后刻より雨
1706年　6月21日 宝永3年　5月11日 晴　昨夜より雨　卯の刻雷大雨風添う　巳の刻止む（新銅屋町に4歳女子捨子、5月2日申し付けの米500・500・700俵集まる・値段は弘前相場に駄賃を加えて）
1706年　6月22日 宝永3年　5月12日 晴
1706年　6月23日 宝永3年　5月13日 晴
1706年　6月24日 宝永3年　5月14日 快晴（4月中大間越出入り:出363・入り42・計405人、碇関:出235・入り259・計459人？）
1706年　6月25日 宝永3年　5月15日 曇　卯の下刻より雨　午の下刻止む（4月19日から柏木組で男行方不明）
1706年　6月26日 宝永3年　5月16日 陰晴
1706年　6月27日 宝永3年　5月17日 快晴（夫食米を頼んだ者その他に歌舞伎・狂言を見せている）
1706年　6月28日 宝永3年　5月18日 晴
1706年　6月29日 宝永3年　5月19日 快晴
1706年　6月30日 宝永3年　5月20日 曇　寅の刻小雨　卯の中刻より雨（屋形様6月6日御着城のはず、14日朝浦町組浜田村で火災1軒）

1706年　7月1日 宝永3年　5月21日 曇　昨夜より雨　午の上刻に及ぶ　同后刻晴
1706年　7月2日 宝永3年　5月22日 曇　今日半夏
1706年　7月3日 宝永3年　5月23日 快晴　(先月中野内出入り:計201人)
1706年　7月4日 宝永3年　5月24日 曇　今朝霧
1706年　7月5日 宝永3年　5月25日 快晴　今朝霧
1706年　7月6日 宝永3年　5月26日 曇　巳の下刻小雨　夜に及ぶ　(2月25日の和徳の火元入寺御免)
1706年　7月7日 宝永3年　5月27日 晴　昨夜より雨　卯の下刻に及び止む　(昨日よりの雨で石渡川水7分・橋落ちる)
1706年　7月8日 宝永3年　5月28日 陰晴　午の上刻より雨時々　申の刻に及び止む　(25日浦町組高田村で50男乞食病死)
1706年　7月9日 宝永3年　5月29日 晴　(26日藤代組各村で洪水・水湛)
1706年　7月10日 宝永3年　6月1日 陰　(去月26日より夜中までの雨で金木組・駒越組・高杉組・和徳組村々に水湛等の被害)
1706年　7月11日 宝永3年　6月2日 晴　(去月27日後潟組・広田組・藤崎組・柏木組で水湛)
1706年　7月12日 宝永3年　6月3日 曇　巳の中刻より雨時々　終日夜に及ぶ　(先月27日赤石組村々に洪水被害、4月22日に仰付けより1日早く着いた飛脚に褒美金子200疋宛、5月27日の岩木川流木108900本・内31588本流失)
1706年　7月13日 宝永3年　6月4日 曇　昨夜より雨時々　夜に入り小雨　則止む
1706年　7月14日 宝永3年　6月5日 晴
1706年　7月15日 宝永3年　6月6日 快晴　(屋形様午の下刻御着座)
1706年　7月16日 宝永3年　6月7日 今朝霧　巳の刻より上がる
1706年　7月17日 宝永3年　6月8日 曇　辰の下刻より小雨時々　(赤石組舞戸村に25・6男乞食倒死)
1706年　7月18日 宝永3年　6月9日 陰晴
1706年　7月19日 宝永3年　6月10日 晴　今朝霧
1706年　7月20日 宝永3年　6月11日 快晴　子の六刻土用　暑気　(3・4日の雨で後潟組田畑被害、先月26日の洪水被害のまとめ(田方518町など)、5月中碇関出入り:出165・入り180・計345人)
1706年　7月21日 宝永3年　6月12日 快晴　暑気
1706年　7月22日 宝永3年　6月13日 晴　卯の中刻曇り　后小風　暫くして止む　それより小雨　未の刻大雨　夜に及ぶ
1706年　7月23日 宝永3年　6月14日 曇　昨夜より雨終日　夜に及ぶ　(13日の雨で城内に被害あり)
1706年　7月24日 宝永3年　6月15日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(去去年地震で金木組小泊村の道崩れ狭く改修申付ける、8日駒越組で熊(胆長3寸廻り2寸6歩)取る、13日よりの雨で高杉組村々で水湛)
1706年　7月25日 宝永3年　6月16日 昨夜より雨降続く　申の刻止む　(風雨止祈祷を小野若狭に申付ける、常盤組・増館組で水湛、14日暮頃より藤崎川水拾分・船渡し、5月中野内出入り:出127・入り82・計209人)
1706年　7月26日 宝永3年　6月17日 晴
1706年　7月27日 宝永3年　6月18日 快晴　(堀越組境関村に40女乞食倒死)
1706年　7月28日 宝永3年　6月19日 曇　卯の刻より雨　終日に及ぶ　(大間越町に飯米なく町奉行が御蔵米40俵御払い願い・1俵32匁で出す)
1706年　7月29日 宝永3年　6月20日 曇　昨夜より雨　終日夜に及ぶ　(15日の洪水で岩木川の流木67600本)
1706年　7月30日 宝永3年　6月21日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(19日夜の東風で金木組中柏木村の庄屋の家(4間×7間)潰れ14歳娘死亡、今日亀甲町で25歳女房を差殺し28歳男が自害)
1706年　7月31日 宝永3年　6月22日 曇　細雨　(16日金木組で洪水被害)
1706年　8月1日 宝永3年　6月23日 陰晴　(御本城天井の狐を百沢に送る、19日昼後潟組奥内村で3歳男子狼に食い殺される、21日藤崎川洪水・川拾分)
1706年　8月2日 宝永3年　6月24日 晴　(21日の洪水で各組各村で洪水被害)
1706年　8月3日 宝永3年　6月25日 陰晴　夜に入り雨
1706年　8月4日 宝永3年　6月26日 曇　昨夜より雨時々
1706年　8月5日 宝永3年　6月27日 曇　昨夜より少し雨時々　終日夜に及ぶ　(4月15日出来嶋沖で破船1艘)
1706年　8月6日 宝永3年　6月28日 陰晴　昨夜より雨時々　岩木山頂上今日まで雪少し見る
1706年　8月7日 宝永3年　6月29日 陰晴　(赤石組舞戸村に25・6男倒死、去年8月9日牢舎の男昨日病死、21日飯詰組及び蟹田町で洪水被害)
1706年　8月8日 宝永3年　7月1日 快晴　(先月20・21日の洪水で飯詰組野里村に被害)
1706年　8月9日 宝永3年　7月2日 曇　辰の刻雨　終日に及ぶ　(先月26日後潟組蓬田村で18男狼に食い殺される)
1706年　8月10日 宝永3年　7月3日 晴　(御拍子三番・仕舞十番を仰せ付ける)
1706年　8月11日 宝永3年　7月4日 晴
1706年　8月12日 宝永3年　7月5日 曇　未の下刻雷発す　則止む　小雨　則止む
1706年　8月13日 宝永3年　7月6日 陰晴　午の中刻纔(わずか)雨　則止む　又間之有り　雷発し雨降る　暫くして止む　(久しぶりに濁点「太布之ぞうきん」直後に「太布之そうきん」)
1706年　8月14日 宝永3年　7月7日 快晴
1706年　8月15日 宝永3年　7月8日 岩木山頂上右御肩沢に雪まだ見る　弘前三王堂近辺の田甫(田圃か)晩稲穂先見る　(先月中大間越出入り:出27・入り24・計51人)
1706年　8月16日 宝永3年　7月9日 曇　昨夜より雨終日　夜に及ぶ
1706年　8月17日 宝永3年　7月10日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(4日昼横内組四石村で8歳女子が狼に食い殺される・その他も負傷・代官が狼狩り申し立てる)
1706年　8月18日 宝永3年　7月11日 快晴
1706年　8月19日 宝永3年　7月12日 晴　(御能・狂言、大鰐組原田村から初米上がる、8日の大風で赤石組沢部村沖で破船1艘)
1706年　8月20日 宝永3年　7月13日 快晴　(10日広須新田長浜で破船1艘)
1706年　8月21日 宝永3年　7月14日 快晴　岩木山頂上御右肩沢会いに雪まだ少々見る
1706年　8月22日 宝永3年　7月15日 快晴
1706年　8月23日 宝永3年　7月16日 陰晴　東風　午の后刻雨　辰の刻に及び止む　夜に入り晴　(昨夜駒越組兼平村で火災1軒)
1706年　8月24日 宝永3年　7月17日 快晴　在々稲穂なべて三ヶ二之由
1706年　8月25日 宝永3年　7月18日 晴
1706年　8月26日 宝永3年　7月19日 陰晴　午の上刻より雨　則止む　申の刻より雨　夜に及ぶ
1706年　8月27日 宝永3年　7月20日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(常盤組榊村に40男乞食倒死)
1706年　8月28日 宝永3年　7月21日 晴　残暑甚だしい　(棟方金右衛門が江戸より連行される)
1706年　8月29日 宝永3年　7月22日 晴　(棟方金右衛門を預け、藤崎川渡し船で男1人行方不明)
1706年　8月30日 宝永3年　7月23日 晴　(御能・狂言、棟方金右衛門成敗)
1706年　8月31日 宝永3年　7月24日 晴　寅の刻雨　卯の刻小雨　則止む

1706年　9月1日 宝永3年　7月25日 快晴
1706年　9月2日 宝永3年　7月26日 晴　辰の中刻より涼風　(御前様御不快・江戸への飛脚を8日振りに着くよう申し付ける)
1706年　9月3日 宝永3年　7月27日 晴
1706年　9月4日 宝永3年　7月28日 曇　昨夜中霧雨　巳の中刻小雨　暫くして止む　申の刻より又雨　酉の后刻に及び止む　(上々石切の労賃:1日2匁)
1706年　9月5日 宝永3年　7月29日 陰晴　辰の刻雨　則止む
1706年　9月6日 宝永3年　7月30日 晴
1706年　9月7日 宝永3年　8月1日 陰晴　巳の中刻少し雨止む
1706年　9月8日 宝永3年　8月2日 快晴　(7月中碇関口出人:計9人)
1706年　9月9日 宝永3年　8月3日 快晴　(溜池樋之口下に男非人倒死)
1706年　9月10日 宝永3年　8月4日 晴
1706年　9月11日 宝永3年　8月5日 晴　酉の后刻少し雨止む
1706年　9月12日 宝永3年　8月6日 快晴
1706年　9月13日 宝永3年　8月7日 快晴　残暑甚だしい　(下桶屋町に37・8男乞食倒死、先月中野内出入り:計163人、大間越:計108人、碇関:計507人)
1706年　9月14日 宝永3年　8月8日 曇　巳の刻より小雨　同中刻より雨　だんだん雨　夜に及び時々小雨
1706年　9月15日 宝永3年　8月9日 晴　(8日平川洪水・石川渡し橋落ちる)
1706年　9月16日 宝永3年　8月10日 快晴　夜に入り雨　(御前様(御屋形信政の妻)1日夜丑の刻過ぎ御逝去)
1706年　9月17日 宝永3年　8月11日 曇　昨夜より雨時々　終日　(田舎館組田舎館村に6月末頃から夜々盗人・野内口追放者を7日に搦捕る)
1706年　9月18日 宝永3年　8月12日 晴　夜に入り雨　(8日・9日浪岡組馬場尻村で洪水被害)
1706年　9月19日 宝永3年　8月13日 陰晴　時々小雨小風　午の中刻に及び止む　(11日晩横内組滝野沢牧で鉄砲打ちが狼を打殺す、大間越町に売買米なし・御蔵米20俵を1俵につき34匁で御払い)
1706年　9月20日 宝永3年　8月14日 陰晴　夜に入り雨
1706年　9月21日 宝永3年　8月15日 陰晴　雨　辰の中刻に及び止む
1706年　9月22日 宝永3年　8月16日 曇　辰の中刻より雨時々　酉の中刻より小風　雨添う　戌の刻より大風　子の刻より風雨止む
1706年　9月23日 宝永3年　8月17日 晴　(16日夜の風雨被害(城中・神明宮・最勝院・薬王院で杉など倒れる))
1706年　9月24日 宝永3年　8月18日 晴　(土米5斗5升で18匁3分3厘3毛・1匁3升替え、16日の風雨で鯵ヶ沢町の被害記述、松ヶ崎の狀・濱名村の高無屋根の葺き替え願い・扱いが若干違うか、初鮭1尺赤石村より上がる)
1706年　9月25日 宝永3年　8月19日 晴　酉の中刻より雨　夜に及ぶ　(16日夜赤石組金井ヶ沢晴山濱・驫木村濱・瀧野沢濱で破船各1艘・1人死亡、百沢寺で塀など破損、小泊湊で破船1艘)
1706年　9月26日 宝永3年　8月20日 曇　昨夜より雨時々　夜に及ぶ　(16日吉田塩消御蔵御番所破損、岩崎村より二番鮭1尺上がる、16日夜和徳組向外瀬で柳4本倒れる)
1706年　9月27日 宝永3年　8月21日 晴　小風　夜に入り雷数発す　雨少々　(16日の風で十三町の被害記述)
1706年　9月28日 宝永3年　8月22日 曇　小雨時々　(16日十三町外れの家で2歳娘狼に取られる)
1706年　9月29日 宝永3年　8月23日 陰晴　夜に入り雨少々　(大坂へ四万俵送り3万両余を受け取る計画、16日の風被害:高杉組鬼沢村で桐2本・蒔苗村で立ち木2本・増館組・広田組でも)
1706年　9月30日 宝永3年　8月24日 晴　(20日金木組で熊(胆長3寸4歩廻り3寸8歩)取る)　　下から続く　　、浄土真宗101・79・30・22、天台19・16・3・3、真言30・20・5・4、173軒、乗馬2疋、小荷駄8疋)
1706年　10月1日 宝永3年　8月25日 晴　(石川で橋が流される、当秋切支丹宗門改:惣人数3864人、上男1493・上女1249・下男599・下女478、禅1001・816・379・324、浄土236・209・147・106、法花104・109・35・19　　上に続く
1706年　10月2日 宝永3年　8月26日 晴
1706年　10月3日 宝永3年　8月27日 快晴　(25日朝大鰐組古懸村で40男縊死)
1706年　10月4日 宝永3年　8月28日 晴
1706年　10月5日 宝永3年　8月29日 晴
1706年　10月6日 宝永3年　8月30日 快晴　(鮭留入札:野内川245匁・荒川175匁6分・横内前川11匁5分)
1706年　10月7日 宝永3年　9月1日 晴　戌の上刻雷電　丑の上刻雷電小雨　則止む
1706年　10月8日 宝永3年　9月2日 陰晴　午の中刻より風・小雨時々　(駒越組国吉村で70不明道心倒死、8月25日夜金木組高根村で2ヶ月の女児が狼に食い殺される)
1706年　10月9日 宝永3年　9月3日 曇　昨夜より小雨時々　小風添う　未の下刻止む　岩木山頂上へ初雪降る
1706年　10月10日 宝永3年　9月4日 快晴　岩木山頂上に雪今朝も見る
1706年　10月11日 宝永3年　9月5日 快晴　今朝霜初めて見る　(為信100回忌法要・牢舎内の22人赦免、2日広田組広田村など4か村に強風・丸雪・ひょう被害)
1706年　10月12日 宝永3年　9月6日 快晴
1706年　10月13日 宝永3年　9月7日 晴　(藤崎組前田屋敷村で30男が狼に食い殺される)
1706年　10月14日 宝永3年　9月8日 陰晴
1706年　10月15日 宝永3年　9月9日 晴　(8月12日晩瀧野沢村馬立場で狼を鉄砲で打殺す)
1706年　10月16日 宝永3年　9月10日 快晴　(御本城埋御門？)
1706年　10月17日 宝永3年　9月11日 曇　昨夜より小雨時々　巳の刻より雨　午の中刻雷数々発す　雨終夜に及ぶ(雨終夜及)
1706年　10月18日 宝永3年　9月12日 曇　昨夜より雨降続く　岩木山下野まで雪降る　四方山へも雪少々見る　(先月中碇関出入り:計462人)
1706年　10月19日 宝永3年　9月13日 陰晴
1706年　10月20日 宝永3年　9月14日 曇　未の下刻より雨時々　夜に及ぶ
1706年　10月21日 宝永3年　9月15日 曇　昨夜より小雨時々　夜入る　申の刻地震　(金木組宮野沢村で猟師が熊(胆長3寸2歩幅4寸)取る)
1706年　10月22日 宝永3年　9月16日 曇　昨夜雨時々　終日に及ぶ　未の上刻丸雪
1706年　10月23日 宝永3年　9月17日 曇　昨今寒気　朝の内曇　四つ過ぎより晴
1706年　10月24日 宝永3年　9月18日 晴　小風　今朝大霜
1706年　10月25日 宝永3年　9月19日 晴
1706年　10月26日 宝永3年　9月20日 晴　(御徒歩3人(5尺5寸～5尺5寸6歩)召しだす)
1706年　10月27日 宝永3年　9月21日 晴
1706年　10月28日 宝永3年　9月22日 晴
1706年　10月29日 宝永3年　9月23日 快晴　(御能、20日に女房を百石町川原で切り殺した普請方杖突(足軽相当の技術者)を籠前で打ち首)
1706年　10月30日 宝永3年　9月24日 晴　(8月中野内出入り:出81・入り104・計185人)
1706年　10月31日 宝永3年　9月25日 陰晴

1706年　11月1日 宝永3年　　9月26日 晴　今朝水に氷初めて見る
1706年　11月2日 宝永3年　　9月27日 曇　昨夜より小雨時々　巳の刻より雨　終日夜に及ぶ　(12日振りと命じられた江戸よりの飛脚が11日振りに着き褒美金子100疋宛)
1706年　11月3日 宝永3年　　9月28日 陰晴　昨夜より雨　卯の下刻に及び止む
1706年　11月4日 宝永3年　　9月29日 晴　今朝霜　巳の上刻晴　申の下刻山鳴り　酉の刻より雨　終夜に及ぶ　但夜に入り雷電　(9月中碇関出人:32人、紺屋町・亀甲町間の橋の長さ30間幅3間、本年の洪水による損耗の覚え)
1706年　11月5日 宝永3年　　10月1日 曇　昨夜より雨終日　夜に及ぶ　巳の中刻霙　(先月28日古懸不動尊出汗)
1706年　11月6日 宝永3年　　10月2日 陰晴　昨夜より雨時々　今朝四方山下野まで雪見る　(先月15日夜四時江戸で余程(天水こほれる程)の地震)
1706年　11月7日 宝永3年　　10月3日 巳の中刻より雨風
1706年　11月8日 宝永3年　　10月4日 曇　昨夜より小雪霏雨(しゅう雨か)　風添う
1706年　11月9日 宝永3年　　10月5日 晴　夜に入り雨
1706年 11月10日 宝永3年　　10月6日 晴　(29日夜より朔日晩まで鯵ヶ沢大荒れ・鯵ヶ沢沖で破船1艘6・7人死亡、他に3艘が行方不明)
1706年 11月11日 宝永3年　　10月7日 晴
1706年 11月12日 宝永3年　　10月8日 陰晴
1706年 11月13日 宝永3年　　10月9日 晴　今日より十五日まで藤田四郎右衛門をして読み合わせる(今日より以下は殴り書きで、多分左のように書いてある)　(国上寺の不動尊御出汗)
1706年 11月14日 宝永3年　　10月10日 晴　(紺屋町材木場に30女非人倒死)
1706年 11月15日 宝永3年　　10月11日 曇　巳の刻より小雨時々
1706年 11月16日 宝永3年　　10月12日 陰晴　昨夜より初雪里へ今朝見る　風雪終日　夜に及ぶ
1706年 11月17日 宝永3年　　10月13日 陰晴　昨夜より小雪時々　亥の下刻より雷風雨　終夜に及ぶ　(御献上の塩鮭を高覧)
1706年 11月18日 宝永3年　　10月14日 陰晴　昨夜より雨　辰の后刻に及び止む　夜に入り雪
1706年 11月19日 宝永3年　　10月15日 陰晴　昨夜より雨時々　終日夜に及ぶ
1706年 11月20日 宝永3年　　10月16日 曇　雪時々　終日夜に及ぶ
1706年 11月21日 宝永3年　　10月17日 曇　雪時々　終日夜に及ぶ
1706年 11月22日 宝永3年　　10月18日 曇　時々雪　申の刻より大吹雪　終夜に及ぶ　(昨日御能か、赤田組板屋野木村に30余女倒死)
1706年 11月23日 宝永3年　　10月19日 曇　雪時々　(御能・狂言、11月御用金1000両の内500両を江戸へ差し登す)
1706年 11月24日 宝永3年　　10月20日 曇　時々雪終日　夜に及ぶ
1706年 11月25日 宝永3年　　10月21日 晴　申の后刻雪暫く
1706年 11月26日 宝永3年　　10月22日 晴　(先月中野内出入り:計195人)
1706年 11月27日 宝永3年　　10月23日 晴
1706年 11月28日 宝永3年　　10月24日 晴　辰の刻より小雨時々　巳の中刻止み晴　乾の方に虹見る
1706年 11月29日 宝永3年　　10月25日 陰晴　夜に入り小雨
1706年 11月30日 宝永3年　　10月26日 陰晴　小雪時々霏　夜に及ぶ　(先月中碇関出入り:計357人、町中有人(人口:ただし条件不明)13354人(男7299・女6055)
1706年　12月1日 宝永3年　　10月27日 陰晴　小雪霏　夜に入り雪
1706年　12月2日 宝永3年　　10月28日 晴　昨夜の雪卯の下刻晴れる　夜に入り雨
1706年　12月3日 宝永3年　　10月29日 陰晴　寅の刻より雷　昨夜より風雨巳の刻に及ぶ　夜に入り雨　(19日赤石組野添村で23娘行方不明)
1706年　12月4日 宝永3年　　10月30日 曇　寅の刻少し雷度々発す　昨夜より雨終日　申の下刻より風　暫くして止む　夜に入り吹雪　(藤崎組前田屋敷村と赤田組石野村で火災各1軒)
1706年　12月5日 宝永3年　　11月1日 曇　昨夜より雪終日　夜に及ぶ　(例年の通り朔日より城中の番所に火鉢出す)
1706年　12月6日 宝永3年　　11月2日 曇　昨夜より雪五・六寸積り未だ止まず　(在々へ貸渡しの味噌値段1匁当たり:岡在は1貫目・外濱は900目とする)
1706年　12月7日 宝永3年　　11月3日 陰晴　昨夜より雪　巳の刻まで降り続く時々
1706年　12月8日 宝永3年　　11月4日 晴
1706年　12月9日 宝永3年　　11月5日 曇　昨夜より雨　夜に及ぶ
1706年 12月10日 宝永3年　　11月6日 曇　卯の上刻大吹雪終日　夜に及ぶ
1706年 12月11日 宝永3年　　11月7日 曇　昨日より大吹雪　風は今朝より和らぎ　雪は止まず　(3日晩牧の内油川組大谷村で火災1軒馬4疋焼死、4日夜尾崎組沖館村で火災1軒(2間×2間半:高無))
1706年 12月12日 宝永3年　　11月8日 曇　昨夜より吹雪　終日夜に及ぶ　(当月朔日より十三潟大川湊まで氷張る、先月18日園明寺から木造新田床舞村に行く21男行方不明、染屋町材木場に女乞食倒死)
1706年 12月13日 宝永3年　　11月9日 曇　時々小雪　終日に及ぶ　(青森の漁師が6月より10月26日までに鰯を3591駄揚げる・1駄につき値段7匁5分)
1706年 12月14日 宝永3年　　11月10日 快晴
1706年 12月15日 宝永3年　　11月11日 曇　巳の下刻より小雨　(米1升を雑穀で上納する際の換算:次大豆1升9合・小豆1升5合・粟1種9合・蕎麦2升2合・小麦7合・大麦1升9合・稗4升)
1706年 12月16日 宝永3年　　11月12日 曇　午の后刻より雪時々　夜に及ぶ　(御徒2人(5尺3寸6歩・5尺2寸5歩)召抱える、先月中野内出入り:計180人)
1706年 12月17日 宝永3年　　11月13日 曇　辰の后刻より時々吹雪
1706年 12月18日 宝永3年　　11月14日 陰晴　今朝雪
1706年 12月19日 宝永3年　　11月15日 曇　卯の后刻より雪時々　夜に入り吹雪　(6日三馬屋湊で破船3艘)
1706年 12月20日 宝永3年　　11月16日 曇　昨夜より吹雪打ち続く　終日夜に及ぶ　(8日駒越組大秋村で熊2疋(胆長3寸5歩廻り6寸7歩・3寸2歩4寸5歩)取る、10月中大間越出入り:出57・入り48・計105人)
1706年 12月21日 宝永3年　　11月17日 晴　今朝小雪　辰の刻より止む
1706年 12月22日 宝永3年　　11月18日 曇　夜に入り雪　(6日夜三馬屋湊で破船4艘、松ヶ崎で1艘・3人行方不明、16日柏木組せら沢で56・7道心倒死)
1706年 12月23日 宝永3年　　11月19日 曇　昨夜より雪　(御能)
1706年 12月24日 宝永3年　　11月20日 曇　申の下刻より吹雪　夜に及ぶ　(二の御丸馬場に狼出る・捕え・殺し・目立たないように埋め・担当者に口止め:生類憐みの令の中であることに注意)
1706年 12月25日 宝永3年　　11月21日 曇　時々雪
1706年 12月26日 宝永3年　　11月22日 曇　時々小雪　終日に及ぶ　未の中刻雷発す　酉の中刻より風雪　終夜に及ぶ
1706年 12月27日 宝永3年　　11月23日 曇　昨夜より雪風　終日夜に及ぶ
1706年 12月28日 宝永3年　　11月24日 曇　昨夜より雪風降り続く　終日　夜に及ぶ
1706年 12月29日 宝永3年　　11月25日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1706年 12月30日 宝永3年　　11月26日 曇　雪　(17日尾崎組小国山で熊(胆長4寸4歩廻り5寸5歩)取る)
1706年 12月31日 宝永3年　　11月27日 快

1707年　1月1日 宝永3年　11月28日 陰晴 (御献上の鱈を高覧、24日常盤組福島村で火災1軒馬2疋焼死)
1707年　1月2日 宝永3年　11月29日 快晴 (御用金870両を江戸へ仕送り)
1707年　1月3日 宝永3年　11月30日 快晴 夜に入り小雨 (御徒10人(5尺1寸6歩～5尺5寸3歩)召抱える、南部大畑より欠け落ちの殺人者を南部に渡すために搦捕る、21日夜今別沖で破船1艘)
1707年　1月4日 宝永3年　12月1日 陰晴 昨夜より小雨時々 卯の刻より風
1707年　1月5日 宝永3年　12月2日 曇 昨夜より吹雪時々 終日に及ぶ (大光寺組荒田村で火災1軒馬屋も1軒)
1707年　1月6日 宝永3年　12月3日 陰晴 昨夜より雪時々終日 夜に及ぶ (人事異動)
1707年　1月7日 宝永3年　12月4日 曇 昨夜より小雪時々 終日
1707年　1月8日 宝永3年　12月5日 なし
1707年　1月9日 宝永3年　12月6日 晴 (11月晦日大光寺組岩田村で火災1軒)
1707年　1月10日 宝永3年　12月7日 快晴 (龍濱(竜飛)から鰤3本上がる、一番鱈は銭2貫文・二番鱈は金1歩・三番鱈は700文、去月14日江戸で初雪)
1707年　1月11日 宝永3年　12月8日 快晴
1707年　1月12日 宝永3年　12月9日 快晴
1707年　1月13日 宝永3年　12月10日 曇 昨夜より雪時々 辰の刻に及び止む 巳の下刻より小雨時々 終日夜に及ぶ (6日大鰐組猟師熊(胆長3寸9歩廻り5寸)取る)
1707年　1月14日 宝永3年　12月11日 曇 昨日より雨時々打ち続く
1707年　1月15日 宝永3年　12月12日 曇 辰の下刻より雪
1707年　1月16日 宝永3年　12月13日 晴
1707年　1月17日 宝永3年　12月14日 曇 (9日後潟組広瀬村の前浜に鯨寄せる)
1707年　1月18日 宝永3年　12月15日 曇 昨夜より吹雪 卯の上刻より辰の下刻まで大吹雪 夜に入り雪
1707年　1月19日 宝永3年　12月16日 陰晴 午の中刻より雪 (藤代組三世寺に55・6男倒死)
1707年　1月20日 宝永3年　12月17日 快晴
1707年　1月21日 宝永3年　12月18日 晴 (御能・狂言)
1707年　1月22日 宝永3年　12月19日 曇 昨夜より小雨時々 終日夜に及ぶ (12日駒越組相馬山で熊取る、紺屋町枡形御番所に14・5斗男倒死)
1707年　1月23日 宝永3年　12月20日 曇 昨日より雨 終日に及ぶ (11月中碇関:出179・入り123・計298人、野内:出35・入り18・計53人)
1707年　1月24日 宝永3年　12月21日 晴 (昨日よりの雨で岩木川洪水・往還相止む・今日より船で往還、昨夜藤崎組大田村で火災1軒)
1707年　1月25日 宝永3年　12月22日 晴 未の刻より小雨 夜に入り雪 (18日後潟組平館村で亀(長2尺5寸幅2尺3寸)上げる、19日の大雨で岩木川洪水・20日朝仮橋引取る)
1707年　1月26日 宝永3年　12月23日 曇 昨夜より時々雪 終日に及ぶ 夜に入り雪風 (青森から去月20日三馬屋に向かった2人乗りの船が行方不明)
1707年　1月27日 宝永3年　12月24日 曇 昨夜より雪風 (22日夜赤石組中村で火災1軒)
1707年　1月28日 宝永3年　12月25日 陰晴 昨夜より風雪時々 夜に及ぶ (19日東風により蟹田沖で破船2艘)
1707年　1月29日 宝永3年　12月26日 陰晴 昨夜より風雪時々 終日夜に及ぶ (10日に1疋・18日に2疋・不明日に3疋・20日に3疋各地で熊取る・内2疋は「たて」(猟師用の鑓)が胆に当たり胆なし))
1707年　1月30日 宝永3年　12月27日 陰晴 (22日後潟組野田沖で破船1艘・死亡1人)
1707年　1月31日 宝永3年　12月28日 晴
1707年　2月1日 宝永3年　12月29日 曇 小雪時々 終日に及ぶ (22日牧支配大秋の猟師が赤石山で熊取る、27日飯詰組平町村で火災1軒)
1707年　2月2日 宝永3年　12月30日 陰晴 時々雪風
1707年　2月3日 宝永4年　正月1日 陰晴 昨夜より時々雪風 終日夜に及ぶ
1707年　2月4日 宝永4年　正月2日 曇 昨夜より吹雪 終日夜に及ぶ
1707年　2月5日 宝永4年　正月3日 曇 昨夜より吹雪時々 終日 夜に及ぶ (御能初め)
1707年　2月6日 宝永4年　正月4日 曇 昨夜より雪 (江戸への飛脚14日ぶりに申付ける・御吉例の200両を差登)
1707年　2月7日 宝永4年　正月5日 曇
1707年　2月8日 宝永4年　正月6日 晴 夜に入り小雨 時々風添う
1707年　2月9日 宝永4年　正月7日 曇 申の刻吹雪 夜に入る
1707年　2月10日 宝永4年　正月8日 曇 卯の刻吹雪 辰の上刻止む それより時々
1707年　2月11日 宝永4年　正月9日 曇 昨夜より吹雪時々 終日に及ぶ (7日夜碇関町で火災1軒)
1707年　2月12日 宝永4年　正月10日 陰晴 時々雪 終日に及ぶ 夜に入り雪 (8日堀越組取上村で62・3男吹倒死)
1707年　2月13日 宝永4年　正月11日 曇 昨夜より雪 終日に及ぶ 午の刻より風添う
1707年　2月14日 宝永4年　正月12日 曇 昨夜より風吹く 終日夜に及ぶ (御年始の御能・狂言)
1707年　2月15日 宝永4年　正月13日 陰晴 小雪時々
1707年　2月16日 宝永4年　正月14日 陰晴 風少々
1707年　2月17日 宝永4年　正月15日 曇 昨夜より雨終日 (当年の御参府は3月15日御発駕予定、去12月中の出入り:大間越:出26・入り45・計71人、碇関:出177・入り139・計316人)
1707年　2月18日 宝永4年　正月16日 曇 巳の刻より雪 終日終夜に及ぶ
1707年　2月19日 宝永4年　正月17日 曇 昨夜より打ち続く(前後から「雪が」か:福眞)
1707年　2月20日 宝永4年　正月18日 曇 時々吹雪 夜に入り雪
1707年　2月21日 宝永4年　正月19日 陰晴 昨夜より時々雪 午の刻より吹雪 終日夜に及ぶ
1707年　2月22日 宝永4年　正月20日 陰晴 吹雪時々 (3日紺屋町御材木場に50男非人倒死)
1707年　2月23日 宝永4年　正月21日 陰晴 夜に入り雪
1707年　2月24日 宝永4年　正月22日 陰晴 時々小雪 午の中刻雨 則止む 申の刻霙暫く 夜に入り雪 (銀22匁で米1俵)
1707年　2月25日 宝永4年　正月23日 曇 小雪時々 (14日駒越組目屋野沢で熊(胆長5寸廻り7寸)取る)
1707年　2月26日 宝永4年　正月24日 晴 (御米お値段(弘前にて)金10両につき31俵)
1707年　2月27日 宝永4年　正月25日 晴 夜に入り雨 暫くして止む
1707年　2月28日 宝永4年　正月26日 曇 巳の刻より小雪 (20日夜松前城下で大火65軒焼失)

1707年　3月1日 宝永4年 正月27日　曇 昨夜より小雪時々 （15日に江戸御上屋敷類焼、狄がオットセイを上げる・御米2俵の外御褒美として青銅2貫文、21日金木組喜良市山で熊（胆長2寸8歩廻り3寸5歩）取る）
1707年　3月2日 宝永4年 正月28日　晴 辰の上刻小雪 則止む （15日江戸屋敷類焼の詳細）
1707年　3月3日 宝永4年 正月29日　曇 昨夜より雪時々 夜に及ぶ （小栗山から福寿草上がる、12月野内関所：出60・入り36・計96人）
1707年　3月4日 宝永4年　2月1日 陰晴 昨夜中より雪 厚さ1尺余積もる
1707年　3月5日 宝永4年　2月2日 晴 （先月19日松前の火災67軒・内18軒は侍屋敷）
1707年　3月6日 宝永4年　2月3日 陰晴 夜に入り雨 （正月27日駒越組大秋村で熊2疋（胆長4寸5歩廻り5寸・3寸5歩3寸）取る、熊の胆下1個が銭1匁7分6厘）
1707年　3月7日 宝永4年　2月4日 晴 申の下刻より東風 夜に入り大風 寅の刻より和らぐ （11日十三町奉行が弘前に出した使いが行方不明・木造新田吹原の骨斗の死者がそれか）
1707年　3月8日 宝永4年　2月5日 曇 辰の下刻小雪
1707年　3月9日 宝永4年　2月6日 曇 辰の后刻小雨時々 夜に入り小雪 （武田源左衛門を上方に派遣：江戸屋敷焼失などに伴う借金の繰り延べかな？）
1707年　3月10日 宝永4年　2月7日 陰晴 午の刻より小雪時々 （米1俵に付き銀22匁・金1両に付き銀87匁）
1707年　3月11日 宝永4年　2月8日 陰晴
1707年　3月12日 宝永4年　2月9日 陰晴 申の刻より小雪時々 夜に及ぶ
1707年　3月13日 宝永4年　2月10日 晴 （大鰐組で熊2疋取る）
1707年　3月14日 宝永4年　2月11日 晴
1707年　3月15日 宝永4年　2月12日 晴 （9日小国新田で庄屋家火災2軒焼失馬5疋焼死）
1707年　3月16日 宝永4年　2月13日 曇 巳の下刻小雪 則止む
1707年　3月17日 宝永4年　2月14日 晴 酉の中刻過ぎ小雨 夜に入り小雪　下から続く　・10）・下女411（238・105・32・24・4・8）・73と97軒・乗馬1疋・小荷駄6疋）
1707年　3月18日 宝永4年　2月15日 晴 （御用人支配切支丹惣人数4264人・上男1971（禅970・浄土730・法花150・浄土真59・天台19・真言36）・上女1275（835・177・141・84・16・23）・下男608（378・138・36・42・4　上に続く
1707年　3月19日 宝永4年　2月16日 晴 終日小風 夜に入り小雨 （大鰐組森山（胆長4寸廻り5寸9歩）・油川組新城山（胆長4寸廻り5寸）熊取る、新鍛冶町で男倒死）
1707年　3月20日 宝永4年　2月17日 曇 昨夜より小雨時々 辰の刻止む 卯の下刻雷発す
1707年　3月21日 宝永4年　2月18日 晴 （御能・狂言、油川組新田川で白魚一切揚らず）
1707年　3月22日 宝永4年　2月19日 陰晴 小風 夜に入り大丸雪
1707年　3月23日 宝永4年　2月20日 晴 夜に入り小雪
1707年　3月24日 宝永4年　2月21日 陰晴 午の中刻雷発す 雪丸雪時々
1707年　3月25日 宝永4年　2月22日 晴
1707年　3月26日 宝永4年　2月23日 晴 今朝霜
1707年　3月27日 宝永4年　2月24日 晴 （大間越の小売米として御蔵米30俵を1俵25匁で御払い、御米御値段弘前にて金10両に付き31俵）
1707年　3月28日 宝永4年　2月25日 晴 小風 未の下刻より雨 夜に及ぶ
1707年　3月29日 宝永4年　2月26日 晴 （御徒2人（5尺5寸2歩と5尺3寸1歩）を召抱える、牢（前？）で殺人者成敗）
1707年　3月30日 宝永4年　2月27日 曇 申の刻より小雨時々 夜に及ぶ （一昨夜土淵川洪水）
1707年　3月31日 宝永4年　2月28日 曇 霜今朝見る 巳の后刻雨時々 同下刻より止む　下から続く　藤崎組三世寺村で道路冠水、駒越組で3・大鰐組で2・横内組で1疋熊取る、赤石組舞戸村古川でも白魚一切取れない）
1707年　4月1日 宝永4年　2月29日 陰晴 小風 午の刻より雨 夜に入り吹雪 （23日十三潟が金木組高根村のほうまで開ける、広田組十川尻無橋流失、25・6日の洪水で駒越・藤崎・石川・境関洪水・渡り止め、　上に続く
1707年　4月2日 宝永4年　2月30日 陰晴 小風
1707年　4月3日 宝永4年　3月1日 陰晴 小風 （前田野目川・十川の合流から高野村などで水湛・床上2尺5寸など）
1707年　4月4日 宝永4年　3月2日 曇 卯の上刻より雨時々 （常盤組葛野村で狼に喰われたらしい乞食・性別不明）
1707年　4月5日 宝永4年　3月3日 陰晴
1707年　4月6日 宝永4年　3月4日 曇 昨夜より小風 小雪時々 （2月30日猿賀組で（胆長4寸廻り6寸5歩）1日大鰐組碇関山で熊（胆長4寸廻り7寸5歩）取る）
1707年　4月7日 宝永4年　3月5日 曇 辰の下刻より雪 午の刻に及び止む 但し雪厚1寸余程 それより雪時々 夜に及ぶ （関札打ち発足、2月13日仙台で火災千軒ほど焼失、20日にも大火・残らず焼失）
1707年　4月8日 宝永4年　3月6日 陰晴 昨夜より雪 厚さ1寸余積もるを今朝見る （御能・狂言）
1707年　4月9日 宝永4年　3月7日 曇 午の中刻地震
1707年　4月10日 宝永4年　3月8日 曇 昨夜より卯の上刻山鳴り 巳の中刻より霙 雪夜に入る
1707年　4月11日 宝永4年　3月9日 曇 昨夜より雪3寸余積もる それより雪霙 （5日大鰐組長峰村で火災1軒）
1707年　4月12日 宝永4年　3月10日 曇 昨夜より雨 辰の上刻霙交じる 巳の刻より止む （先月中碇関出入り：392人・大間越出入り464人、大鰐組大鰐村・浪岡組徳才子村の猟師熊（胆長3寸8歩廻り4寸8歩・3寸4寸3歩）取る）
1707年　4月13日 宝永4年　3月11日 晴 今朝霜
1707年　4月14日 宝永4年　3月12日 晴 午の下刻小風 （11日桑野木田組大姓村で火災1軒）
1707年　4月15日 宝永4年　3月13日 晴 今朝西の方二重虹見る
1707年　4月16日 宝永4年　3月14日 晴 午の刻より小風
1707年　4月17日 宝永4年　3月15日 晴 小風 （巳の刻御発駕）
1707年　4月18日 宝永4年　3月16日 卯の中刻より小雨交じる 丸雪時々 午の上刻に及ぶ
1707年　4月19日 宝永4年　3月17日 快晴
1707年　4月20日 宝永4年　3月18日 晴 午の后刻より小風 （15日牧支配大秋山で猟師が熊取る）
1707年　4月21日 宝永4年　3月19日 陰晴 辰の刻小雨 丸雪少し 則止む 終日小風 （熊胆の値段：向後熊胆1匁に付き銀4分5厘に定める）
1707年　4月22日 宝永4年　3月20日 曇 小風終日
1707年　4月23日 宝永4年　3月21日 陰晴 辰の刻より小雨時々 巳の后刻より止む 小風
1707年　4月24日 宝永4年　3月22日 曇 巳の中刻より小雨 夜に入る （14・15日蟹田領で野火）
1707年　4月25日 宝永4年　3月23日 曇 昨夜より雨終日 （御手廻り中川治太夫（早道の頭中川小隼人の子供か）知行召し放ち、駒越組桜庭の猟師2人が熊2疋（胆長4寸5歩廻り9寸・3寸5歩5寸）取る）
1707年　4月26日 宝永4年　3月24日 晴 小風 午の中刻より小雨時々
1707年　4月27日 宝永4年　3月25日 晴 小風 夜に入り小雨 則止む （尾崎組大坊村で45・6出家倒死）
1707年　4月28日 宝永4年　3月26日 晴 （南部境へ参り候男3人を碇関で成敗・獄門）
1707年　4月29日 宝永4年　3月27日 晴
1707年　4月30日 宝永4年　3月28日 晴 夜に入り雨

1707年　5月1日 宝永4年　3月29日 曇　昨夜中より雨　午の下刻止む
1707年　5月2日 宝永4年　4月1日 晴　今朝霜　(去月22日江戸に向かう屋形様が洪水のため尾花沢の手前萩袋に一宿)
1707年　5月3日 宝永4年　4月2日 晴　(先月24日十三で洪水)
1707年　5月4日 宝永4年　4月3日 晴　世上花盛り
1707年　5月5日 宝永4年　4月4日 晴　(魚油1升につき3匁5分、古切支丹類族中田庄三郎死去(時鐘撞き))
1707年　5月6日 宝永4年　4月5日 晴
1707年　5月7日 宝永4年　4月6日 晴　東風
1707年　5月8日 宝永4年　4月7日 曇　午の刻より雨　(米1俵に付き23匁、先月中大間越:出入り計653人・野内:出入り175人)
1707年　5月9日 宝永4年　4月8日 曇
1707年　5月10日 宝永4年　4月9日 晴　小風　(6日金木新田芦部村で火災1軒、後潟浜で破船1艘)
1707年　5月11日 宝永4年　4月10日 晴
1707年　5月12日 宝永4年　4月11日 晴　(今朝金木組磯松浜で破船1艘)
1707年　5月13日 宝永4年　4月12日 晴　小風　(赤石組一つ森村の猟師熊(胆長2寸廻り3寸)取る)
1707年　5月14日 宝永4年　4月13日 曇　巳の中刻より小雨時々
1707年　5月15日 宝永4年　4月14日 陰晴　(昨日の雨で雪水が強く出て岩木川洪水・駒越往還止める)
1707年　5月16日 宝永4年　4月15日 晴　小風
1707年　5月17日 宝永4年　4月16日 晴　小風　(屋形様3日に江戸着)
1707年　5月18日 宝永4年　4月17日 曇　昨夜より雨　午の上刻止む　午の下刻地震発す　(6日今別で大風被害、12日浦町組入内村で野火が2か所)
1707年　5月19日 宝永4年　4月18日 曇　午の后刻小雨　申の下刻より雨　上刻まで雷電数発す　大雨夜に入る
1707年　5月20日 宝永4年　4月19日 曇　昨夜より雨　午の上刻に及ぶ　夜に入る
1707年　5月21日 宝永4年　4月20日 曇　昨夜より雨時々　辰の后刻止む　午の下刻より晴　夜に入り雨
1707年　5月22日 宝永4年　4月21日 曇　昨夜より雨時々
1707年　5月23日 宝永4年　4月22日 晴
1707年　5月24日 宝永4年　4月23日 晴
1707年　5月25日 宝永4年　4月24日 晴　夜に入り雨
1707年　5月26日 宝永4年　4月25日 曇　昨夜より雨　昼過ぎより東風
1707年　5月27日 宝永4年　4月26日 曇　昨夜より雨打ち続く　夜に入る　昼頃より東風　(23日窃盗団・14日高杉組に盗人)
1707年　5月28日 宝永4年　4月27日 曇　東風　冷気強し
1707年　5月29日 宝永4年　4月28日 曇　巳の后刻雨　冷たし　大東風
1707年　5月30日 宝永4年　4月29日 陰晴　巳の后刻より東風　昨今事の他冷気強し
1707年　5月31日 宝永4年　5月1日 陰晴　岩木山頂上へ雪降今朝見る　(去28日の大風で碇関道の松2本倒れる)
1707年　6月1日 宝永4年　5月2日 晴　今朝霜　(若殿様御下向御用金1000両と4月仕送り金339両差登)
1707年　6月2日 宝永4年　5月3日 晴　今朝も水霜見る
1707年　6月3日 宝永4年　5月4日 晴　(去月27・29日野内川洪水、当月中碇関口出入り:564人・大間越口出入り:489人)
1707年　6月4日 宝永4年　5月5日 晴　(松前の米値段:4斗8升入り1俵が44匁・金1歩に付き19匁2分、岩木山なべかた?の上に野火)
1707年　6月5日 宝永4年　5月6日 晴
1707年　6月6日 宝永4年　5月7日 曇　小雨時々
1707年　6月7日 宝永4年　5月8日 晴　午の刻より小風
1707年　6月8日 宝永4年　5月9日 晴　小風
1707年　6月9日 宝永4年　5月10日 晴　夜に入り小雨時々
1707年　6月10日 宝永4年　5月11日 陰晴　午の刻より雷数発す　未の刻より雨時々　申の下刻晴　(今別町奉行が町に売買米なく御蔵米50俵御払い申し立て・1俵31匁5分＋変動分かで払出す)
1707年　6月11日 宝永4年　5月12日 晴　(猿賀組追子野木村に40余女道心倒死)
1707年　6月12日 宝永4年　5月13日 晴
1707年　6月13日 宝永4年　5月14日 曇　辰の后刻より小雨時々　午の下刻より雨　雷発す
1707年　6月14日 宝永4年　5月15日 陰晴　小風
1707年　6月15日 宝永4年　5月16日 晴
1707年　6月16日 宝永4年　5月17日 晴　巳の下刻小雨　則止む　(深浦町の米値段を1俵に付き30目とする)
1707年　6月17日 宝永4年　5月18日 晴　寅の中刻小雨　則止む　巳の中刻前雷　小風　(大間越町で米1俵が31匁、南部領で雪降り沙汰)
1707年　6月18日 宝永4年　5月19日 晴
1707年　6月19日 宝永4年　5月20日 晴
1707年　6月20日 宝永4年　5月21日 曇　昨夜より雨　巳の下刻に及ぶ　申の刻より雨時々　夜に及ぶ
1707年　6月21日 宝永4年　5月22日 曇　卯の刻より小雨時々　辰の中刻に及び止む　午の刻より陰晴
1707年　6月22日 宝永4年　5月23日 晴
1707年　6月23日 宝永4年　5月24日 晴　暖気
1707年　6月24日 宝永4年　5月25日 晦　午の刻より晴
1707年　6月25日 宝永4年　5月26日 晴
1707年　6月26日 宝永4年　5月27日 晴　夜に入り雨
1707年　6月27日 宝永4年　5月28日 陰晴　卯の上刻より小雨時々　辰の中刻に及ぶ　(九つ半過ぎ若殿様御着座)
1707年　6月28日 宝永4年　5月29日 陰晴
1707年　6月29日 宝永4年　5月30日 曇　午の上刻雨時々　夜に及ぶ
1707年　6月30日 宝永4年　6月1日 晴

1707年　7月1日 宝永4年　6月2日 曇
1707年　7月2日 宝永4年　6月3日 曇 （大鰐御菜園場より初胡瓜5差上げる）
1707年　7月3日 宝永4年　6月4日 晴
1707年　7月4日 宝永4年　6月5日 曇 卯の中刻より雨時々 午の下刻に及ぶ （先月27日より当月2日までに青森で鰯3390駄取る・但し1駄に1200入）
1707年　7月5日 宝永4年　6月6日 晴
1707年　7月6日 宝永4年　6月7日 曇 未の下刻より雨 （御慰の相撲）
1707年　7月7日 宝永4年　6月8日 陰晴 夜に入り事の外暖気 （当月4日昼前十三川渡し場で男行方不明、明朝江戸へ1400両差登・内500両は為替）
1707年　7月8日 宝永4年　6月9日 晴 夜に入り雨
1707年　7月9日 宝永4年　6月10日 陰晴 午の后刻細雨 （当4月24日晩より同27日昼頃迄青森前浜における鰯2560駄・但し1駄に3000疋・銭2貫800目、碇関出入り:972人）
1707年　7月10日 宝永4年　6月11日 陰晴
1707年　7月11日 宝永4年　6月12日 陰晴 巳の下刻少し雨暫く （10日鯵ヶ沢町で34・5男倒死）
1707年　7月12日 宝永4年　6月13日 晴
1707年　7月13日 宝永4年　6月14日 曇 辰の中刻より雨 夜に及ぶ
1707年　7月14日 宝永4年　6月15日 曇 巳の下刻より雨 夜に入り大雨
1707年　7月15日 宝永4年　6月16日 曇 昨夜より雨 （大鰐御菜園場より真桑瓜・茄子・白瓜差し上げる、明17日江戸へ7月分の御用金2000両差登）
1707年　7月16日 宝永4年　6月17日 晴
1707年　7月17日 宝永4年　6月18日 晴
1707年　7月18日 宝永4年　6月19日 陰晴
1707年　7月19日 宝永4年　6月20日 曇 午の中刻より小雨時々
1707年　7月20日 宝永4年　6月21日 陰晴 卯の五刻より土用入り （冷気で稲も育ちかね神明宮にお神楽申付ける）
1707年　7月21日 宝永4年　6月22日 陰晴 午の刻まで暑気 同中刻より東風冷気
1707年　7月22日 宝永4年　6月23日 晴
1707年　7月23日 宝永4年　6月24日 晴 未の中刻より雨時々 夜に及ぶ
1707年　7月24日 宝永4年　6月25日 曇 夜に入り小雨時々
1707年　7月25日 宝永4年　6月26日 曇 昨夜より小雨 午の中刻に及ぶ 未の上刻雷発す 大雨終夜に及ぶ
1707年　7月26日 宝永4年　6月27日 曇 （7月の御用金779両など1079両を差登）
1707年　7月27日 宝永4年　6月28日 晴 今朝事の外寒し （15日に深浦に入った船の水主が病死）
1707年　7月28日 宝永4年　6月29日 晴
1707年　7月29日 宝永4年　7月1日 快晴
1707年　7月30日 宝永4年　7月2日 晴
1707年　7月31日 宝永4年　7月3日 快晴 （切支丹類族久保田数馬病死）
1707年　8月1日 宝永4年　7月4日 快晴
1707年　8月2日 宝永4年　7月5日 快晴 卯の下刻まできり 午の下刻雷発す 夜に入り小雨時々
1707年　8月3日 宝永4年　7月6日 陰晴 甚だしく暑い 辰の刻小雨 則止む 巳の刻より小雨時々 終夜に及ぶ
1707年　8月4日 宝永4年　7月7日 晴
1707年　8月5日 宝永4年　7月8日 曇 雨終日 午の上刻雷電数々発す 夜に入り大雨 甚だしい雷
1707年　8月6日 宝永4年　7月9日 陰晴 昨夜より雷雨 巳の刻に及ぶ （江戸の火消し受命・足軽20人警固2人増派準備、洪水で小栗山大橋・境関渡・藤崎仮橋・岩木川仮橋・藤崎渡・石川仮橋・飯田川渡仮橋が流される）
1707年　8月7日 宝永4年　7月10日 曇 辰の刻より雨 雷数発す （久渡寺観音堂後崩れる・薬王院大橋流失しない・相馬川洪水で田畑に石砂入る、先月中大間越出入り:124人・碇関出入り:523人）
1707年　8月8日 宝永4年　7月11日 陰晴 午の刻小雨 則止む
1707年　8月9日 宝永4年　7月12日 晴 暑気 （8日大鰐組三目内村で流失1軒・潰れ家1軒、金木組小泊村で山崩れで潰れ家2軒、金木組村々で狼あれ男女2人死亡2人負傷・代官が狼打ち派遣を頼む）
1707年　8月10日 宝永4年　7月13日 陰晴 未の下刻より小雨 申の刻雷電 雨夜に及ぶ （岩木川流木45500本（板屋野木までに上げた数13193・流失32307））
1707年　8月11日 宝永4年　7月14日 曇 小雨時々 申の下刻冷風
1707年　8月12日 宝永4年　7月15日 晴
1707年　8月13日 宝永4年　7月16日 晴
1707年　8月14日 宝永4年　7月17日 曇 午の上刻より小雨
1707年　8月15日 宝永4年　7月18日 曇 （狼打ちを金木組に出す、御用金200両を差登、11日石渡渡で流死1人、14日広須組蓮沼村で男縊死）
1707年　8月16日 宝永4年　7月19日 晴 岩木山の右の方に今日まで雪二ヶ所に見る 夜に入り小雨 下から続く ・1丈1尺角3匁4分）
1707年　8月17日 宝永4年　7月20日 曇 未の下刻より雨 夜に入り甚だしい雨 雷発す （大鰐組御菜園場より初米上米、13日尾崎組石郷村の百姓が飯田川渡で流死、材木値段:4間1尺角代銀14匁・1丈8寸角1匁7分 上に続く
1707年　8月18日 宝永4年　7月21日 曇 時々小雨 （駒越川今朝より洪水・川止め、11日野代川洪水・材木流出）
1707年　8月19日 宝永4年　7月22日 陰晴
1707年　8月20日 宝永4年　7月23日 晴 （先月中野内出入り:169人）
1707年　8月21日 宝永4年　7月24日 晴
1707年　8月22日 宝永4年　7月25日 快晴 残暑甚だしい
1707年　8月23日 宝永4年　7月26日 快晴 残暑甚だしい
1707年　8月24日 宝永4年　7月27日 快晴
1707年　8月25日 宝永4年　7月28日 快晴 卯の上刻小雨 則止む 夜に入り小雨 則止む
1707年　8月26日 宝永4年　7月29日 快晴 残暑甚だしい （27日浪岡組で熊（胆長2寸4歩廻り3寸）取る）
1707年　8月27日 宝永4年　8月1日 陰晴 卯の刻小雨 則止む 巳の中刻小雨 則止む
1707年　8月28日 宝永4年　8月2日 晴 小風
1707年　8月29日 宝永4年　8月3日 曇 申の中刻小雨時々 酉の刻に及び止む
1707年　8月30日 宝永4年　8月4日 快晴 岩木山の雪右御方の方に消え残りあい見得候ところ 今日は残らず消え申し候様相見え申し候 （去月28日横内組瀧沢村で熊取る）
1707年　8月31日 宝永4年　8月5日 陰晴 小風 （昨夜お目付宅に投げ火、1日桑野木田組で狼に子供2人が食い殺される、2日夜大鰐組宿河原村で40男倒死・この男の所持品に「わつば」:わっぱかな？）

1707年　9月1日 宝永4年　8月6日 陰晴　夜に入り雨 （駒越組砂子瀬村で熊(胆長3寸5歩廻り6寸)取る）
1707年　9月2日 宝永4年　8月7日 曇　昨夜より雨終日
1707年　9月3日 宝永4年　8月8日 晴　申の中刻より雨　夜に及ぶ （広須新田松岡・下野崎村で一昨夜狼に子供男女2人取られる）
1707年　9月4日 宝永4年　8月9日 曇　昨申の下刻より雨　今日辰の下刻に及ぶ （5日夜広須新田下相野村で狼に子供が取られ・6日夜桑野木田組花巻村で女子負傷、先月中大間越出入り:67人）
1707年　9月5日 宝永4年　8月10日 曇
1707年　9月6日 宝永4年　8月11日 陰晴
1707年　9月7日 宝永4年　8月12日 曇　時々小雨 （赤石組広戸沖で破船1艘、桑野木田組・広須新田に狼打ち出す）
1707年　9月8日 宝永4年　8月13日 曇　酉の刻より小雨　夜に及ぶ （金木組に7月21日に出した狼打ち1疋も取らず帰る）
1707年　9月9日 宝永4年　8月14日 陰晴　夜に入り雨
1707年　9月10日 宝永4年　8月15日 曇
1707年　9月11日 宝永4年　8月16日 晴　未の上刻雨　則止む　夜に入り小雨　則止む
1707年　9月12日 宝永4年　8月17日 晴
1707年　9月13日 宝永4年　8月18日 快晴
1707年　9月14日 宝永4年　8月19日 卯の下刻より雨　巳の中刻に及ぶ　それより小風　未の下刻より風雨　夜に及ぶ　亥の下刻より大風　初めは日方　明け方真西になり少し和らぐ
1707年　9月15日 宝永4年　8月20日 曇　西風　西の方虹見る　夜に入り雨　昨夜大風 （昨19日未の刻過ぎより風雨強く今朝辰の刻過ぎまで、石渡川・岩木川川止め、三の丸御屋敷等破損、9日増館組吉野田村で殺人・犯人捕まる）
1707年　9月16日 宝永4年　8月21日 曇　小風　昨夜より雨時々
1707年　9月17日 宝永4年　8月22日 晴 （20日朝広須新田長浜沖で破船2艘）
1707年　9月18日 宝永4年　8月23日 晴 （今晩御囃子）
1707年　9月19日 宝永4年　8月24日 晴 （9月分御用金369両など799両2分を江戸へ差登、7月分野内出入り:出96・入り81人）
1707年　9月20日 宝永4年　8月25日 曇　午の刻小雨　則止む　夜に入り雨
1707年　9月21日 宝永4年　8月26日 陰晴　夜に入り雨
1707年　9月22日 宝永4年　8月27日 曇　昨夜より雨時々 （今朝江戸へ御用金2300両差し登）
1707年　9月23日 宝永4年　8月28日 曇　晦　夜に入り雨　下から続く　倒木4737本・田方24857町余・畑方7136町余）
1707年　9月24日 宝永4年　8月29日 晴　小風　下から続く　・104・41・49・3・12)・下女415(234・113・26・29・3・10)、家屋敷77軒支配方に101軒、小荷駄6疋、20日の風害に関する郡奉行書付:潰れ家192軒、　上に続く
1707年　9月25日 宝永4年　8月30日 晴　今朝霜見る （御用人支配切支丹惣人数3717人:上男1439(禅964・浄土213・法花114・浄土真99・天台18・真言35)・上女1276(819・215・120・86・15・21)・下男587(378　上に続く
1707年　9月26日 宝永4年　9月1日 なし(天気の記述がない)
1707年　9月27日 宝永4年　9月2日 午の刻より雨　夜に及ぶ
1707年　9月28日 宝永4年　9月3日 小風
1707年　9月29日 宝永4年　9月4日 陰晴　小風
1707年　9月30日 宝永4年　9月5日 曇　夜に入り雨 （小河茂右衛門が草生津之油半分くれるなら取り出すと申し立てる、先月19日の大風で南部は殊の外不作）
1707年　10月1日 宝永4年　9月6日 曇　巳の中刻より雨終日　夜に及ぶ （先月中大間越出入り:86人）
1707年　10月2日 宝永4年　9月7日 晴　夜に入り雨 （1日後潟組平館村で火災3軒）
1707年　10月3日 宝永4年　9月8日 曇　昨夜よりの雨時々　夜に及ぶ
1707年　10月4日 宝永4年　9月9日 晴
1707年　10月5日 宝永4年　9月10日 曇　辰の下刻より雨　午の上刻止む　それより晴小風　夜に入り雨 （御慰の御能、先月中野内出入り:231人）
1707年　10月6日 宝永4年　9月11日 晴 （10月分御用金450両と未の年？御吉例金200両を差し登）
1707年　10月7日 宝永4年　9月12日 曇　辰の下刻より雨　夜に入り大雨
1707年　10月8日 宝永4年　9月13日 曇　昨夜より雨　巳の下刻に及ぶ　それより小風
1707年　10月9日 宝永4年　9月14日 陰晴
1707年 10月10日 宝永4年　9月15日 晴　夜に入り雷電雨 （鮭留入札:野内川180目・網不知川50目5分5厘・原別川416匁5分8厘・横内前川14匁5分・新田川32匁5分1厘・荒川126匁7分8厘・造道才蔵川5匁5分）
1707年 10月11日 宝永4年　9月16日 晴　未の中刻小雨　則止む　夜に入り雨
1707年 10月12日 宝永4年　9月17日 晴 （15日昼金木村に盗人・搦捕る）
1707年 10月13日 宝永4年　9月18日 晴 （当月21日渡しの御扶持米御座なく候に付き……）
1707年 10月14日 宝永4年　9月19日 晴 （表御金蔵御当用差し支え申し候間両浜役銭の内六貫目を表御金蔵に……）
1707年 10月15日 宝永4年　9月20日 晴　未の下刻より小雨　暮に及び止む
1707年 10月16日 宝永4年　9月21日 晴　今朝霜見る
1707年 10月17日 宝永4年　9月22日 晴 （熊の皮1枚に付き1匁3分より6分）
1707年 10月18日 宝永4年　9月23日 晴　今朝霜見る （12日の大雨で久渡寺つきの百姓に被害）
1707年 10月19日 宝永4年　9月24日 曇　未の中刻より雨　終夜に及ぶ
1707年 10月20日 宝永4年　9月25日 曇　昨夜より雨　午の后刻に及ぶ
1707年 10月21日 宝永4年　9月26日 晴
1707年 10月22日 宝永4年　9月27日 晴　今朝大霜見る　巳の后刻より曇　午の刻より雨　雷発す
1707年 10月23日 宝永4年　9月28日 晴　今朝岩木山初雪見る　酉の下刻より雷光　戌の中刻大風　則止む　下刻より雷雨時々　終夜に及ぶ
1707年 10月24日 宝永4年　9月29日 曇　今朝岩木山へ雪見る　昨夜よりの雨時々
1707年 10月25日 宝永4年　10月1日 (10月中日記の保存なし)
1707年 10月26日 宝永4年　10月2日
1707年 10月27日 宝永4年　10月3日
1707年 10月28日 宝永4年　10月4日
1707年 10月29日 宝永4年　10月5日
1707年 10月30日 宝永4年　10月6日
1707年 10月31日 宝永4年　10月7日

1707年　11月1日 宝永4年　　10月8日（10月中日記の保存なし）
1707年　11月2日 宝永4年　　10月9日
1707年　11月3日 宝永4年　10月10日
1707年　11月4日 宝永4年　10月11日
1707年　11月5日 宝永4年　10月12日
1707年　11月6日 宝永4年　10月13日
1707年　11月7日 宝永4年　10月14日
1707年　11月8日 宝永4年　10月15日
1707年　11月9日 宝永4年　10月16日
1707年 11月10日 宝永4年　10月17日
1707年 11月11日 宝永4年　10月18日
1707年 11月12日 宝永4年　10月19日
1707年 11月13日 宝永4年　10月20日
1707年 11月14日 宝永4年　10月21日
1707年 11月15日 宝永4年　10月22日
1707年 11月16日 宝永4年　10月23日
1707年 11月17日 宝永4年　10月24日
1707年 11月18日 宝永4年　10月25日
1707年 11月19日 宝永4年　10月26日
1707年 11月20日 宝永4年　10月27日
1707年 11月21日 宝永4年　10月28日
1707年 11月22日 宝永4年　10月29日
1707年 11月23日 宝永4年　10月30日
1707年 11月24日 宝永4年　　11月1日 曇　昨夜より西風　辰の下刻より霙　終日に及ぶ　（当7月より当月（10月か）25日まで青森沖で鰯2283駄引き上げ・但し小数207駄39600）
1707年 11月25日 宝永4年　　11月2日 陰晴
1707年 11月26日 宝永4年　　11月3日 晴　申の下刻小雨　暫くして止む
1707年 11月27日 宝永4年　　11月4日 曇　午の下刻小雨　申の下刻より風雨　夜に及ぶ
1707年 11月28日 宝永4年　　11月5日 曇　昨夜より雪雨　今日まで時々　夜に入り雪　（高杉組百姓が検見の先立ち仕らず・庄屋が不調法として先月一日より他村預け・赦免：検見に不満があり百姓がストライキ・庄屋が罰を受けた）
1707年 11月29日 宝永4年　　11月6日 曇　昨夜より雪時々　三寸程積もる
1707年 11月30日 宝永4年　　11月7日 曇　昨夜より雨雪続く　（明日の飛脚で江戸の米屋へ300両差し登）
1707年　12月1日 宝永4年　　11月8日 陰晴
1707年　12月2日 宝永4年　　11月9日 曇　未の上刻より雪
1707年　12月3日 宝永4年　11月10日 陰晴　夜に入り雨
1707年　12月4日 宝永4年　11月11日 曇　昨夜より時々雨
1707年　12月5日 宝永4年　11月12日 曇　巳の中刻より雨時々　夜に及ぶ
1707年　12月6日 宝永4年　11月13日 曇　昨夜より雨　卯の中刻より〇（霙にも見えにくいが霙か）　夜に入り雪　（7日の強風で浅虫に破船1艘、当月中？野内出入り：208人・大間越出入り：99人）
1707年　12月7日 宝永4年　11月14日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1707年　12月8日 宝永4年　11月15日 曇
1707年　12月9日 宝永4年　11月16日 晴
1707年 12月10日 宝永4年　11月17日 曇　（雑穀相場米1升に付き：上大豆0.6升・次大豆1.5升・上蕎麦0.3升・次蕎麦1.7升・上黒小豆0.5升・次黒小豆1.4升・上小麦0.3升・次小麦0.8升？、45歳南部男溜池で死亡）
1707年 12月11日 宝永4年　11月18日 曇　辰の刻より雪時々　（江戸へ作事料金1000両差し登）
1707年 12月12日 宝永4年　11月19日 曇　（米代銀（1俵につき）：岡在の分27匁・西の浜28匁・外浜29匁）
1707年 12月13日 宝永4年　11月20日 陰晴　昨夜より小雪時々　巳の刻に及ぶ　夜に入り雨　（和徳組和徳村に40男倒死）
1707年 12月14日 宝永4年　11月21日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り雪　（青森安方に火災）
1707年 12月15日 宝永4年　11月22日 曇　昨夜より雪時々　夜に及ぶ　（20日夜中子の刻過ぎ青森町安方に火災12軒焼失・潰れ家3軒・馬5疋焼死）
1707年 12月16日 宝永4年　11月23日 曇　昨夜よりの雪時々　夜に及ぶ　（10月中碇関出入り：出121・入り192・計411人）
1707年 12月17日 宝永4年　11月24日 曇　昨夜より雪　夜に入り時々雪
1707年 12月18日 宝永4年　11月25日 曇　昨夜より時々雪　終日　夜に及ぶ
1707年 12月19日 宝永4年　11月26日 陰晴　昨夜より時々小雪
1707年 12月20日 宝永4年　11月27日 曇
1707年 12月21日 宝永4年　11月28日 曇　午の刻より雨　夜に入る　　下から続く　　13.83・14.32、蕎麦12.12・13.56・13.03、稗6.76・7.01・7.26、粟なし・13.83・14.32、当月15～28日の平均相場：米1俵27匁4分・金1両が82匁3分）
1707年 12月22日 宝永4年　11月29日 陰晴　卯の中刻小雪　（雑穀値段（岡在・西の浜・外浜の順の1俵当たり匁）：米27・28・29、大豆18.18・18.85・19.53、小豆18.18・18.33・19.53、小麦28.57・29.63・30.68、大麦13.33・　　上に続く
1707年 12月23日 宝永4年　11月30日 陰晴　（江戸への極月御用金1000両差し登）
1707年 12月24日 宝永4年　　12月1日 曇　夜に入り雪
1707年 12月25日 宝永4年　　12月2日 晴　昨夜より時々小雪　辰の中刻に及ぶ　夜に入り小雪
1707年 12月26日 宝永4年　　12月3日 晴
1707年 12月27日 宝永4年　　12月4日 晴　卯の上刻より雨　夜に入り吹雪
1707年 12月28日 宝永4年　　12月5日 曇　昨夜より吹雪　終日夜に及ぶ
1707年 12月29日 宝永4年　　12月6日 曇　昨夜より吹雪
1707年 12月30日 宝永4年　　12月7日 曇　昨日よりの雪打ち続く
1707年 12月31日 宝永4年　　12月8日 曇　昨夜よりの雪時々　夜に入る

1708年　1月1日 宝永4年　12月9日 曇　昨夜より雪時々　夜に及ぶ （当月分碇関出入り:計367人）
1708年　1月2日 宝永4年　12月10日 曇　昨夜より大吹雪　終日夜に及ぶ （御献上鱈、藤代組木筒村に60女倒死）
1708年　1月3日 宝永4年　12月11日 曇　昨夜より吹雪　終日終夜に及ぶ （駒越組目屋野沢で熊(胆長3寸廻り5寸)取る）
1708年　1月4日 宝永4年　12月12日 陰晴
1708年　1月5日 宝永4年　12月13日 晴　午の刻より陰晴　時々雪
1708年　1月6日 宝永4年　12月14日 陰晴
1708年　1月7日 宝永4年　12月15日 晴　申の下刻より小雨　夜に及ぶ
1708年　1月8日 宝永4年　12月16日 晴　午の中刻小雨　則止む
1708年　1月9日 宝永4年　12月17日 晴
1708年　1月10日 宝永4年　12月18日 曇　昨夜中より時々雨　終日に及ぶ
1708年　1月11日 宝永4年　12月19日 陰晴　辰の刻小雪　則止む （松前城内米不足で津出申し込まれ断る、増館組十川村に乞食倒死、15日上磯沖で破船・3人死亡）
1708年　1月12日 宝永4年　12月20日 晴 （17日広須新田上遠山村で火災1軒）
1708年　1月13日 宝永4年　12月21日 曇　卯の上刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り小風 （今朝御囃子、赤石組小森村の猟師熊取る、11月23・4日頃より十三潟氷結）
1708年　1月14日 宝永4年　12月22日 曇　時々小雪 （駒越組桜庭の猟師熊取る、昨日古懸不動尊御出汗）
1708年　1月15日 宝永4年　12月23日 曇　卯の刻より雪小風　夜に及ぶ
1708年　1月16日 宝永4年　12月24日 曇　昨夜より雪時々降り続く
1708年　1月17日 宝永4年　12月25日 晴　夜に入り小雨
1708年　1月18日 宝永4年　12月26日 曇　昨夜より小雨時々　夜に入り風 （九ヶ所町奉行に申し遣わし候・当年不作に付き御郡中米御払底に之あり候……）
1708年　1月19日 宝永4年　12月27日 昨夜よりの風雨時々　卯の刻より吹雪　終夜に及ぶ
1708年　1月20日 宝永4年　12月28日 曇　昨夜より雪時々
1708年　1月21日 宝永4年　12月29日 晴　戌の上刻より雨　終夜に及ぶ
1708年　1月22日 宝永4年　12月30日 曇　昨夜より雨降続く
1708年　1月23日 宝永5年　正月1日　曇　申の刻より雪時々　夜に及ぶ　勝れて寒し(勝而寒)
1708年　1月24日 宝永5年　正月2日　陰晴　申の刻小雪　則止む
1708年　1月25日 宝永5年　正月3日　陰晴　時々小雪 （御謡初御囃子）
1708年　1月26日 宝永5年　正月4日　晴　霜見る
1708年　1月27日 宝永5年　正月5日　晴　大霜橋々に今朝見る
1708年　1月28日 宝永5年　正月6日　陰晴　申の下刻より雪　夜に及ぶ
1708年　1月29日 宝永5年　正月7日　曇　巳の刻より風雪　酉の刻止む
1708年　1月30日 宝永5年　正月8日　晴
1708年　1月31日 宝永5年　正月9日　陰晴　申の刻より小雪時々　夜に及ぶ
1708年　2月1日 宝永5年　正月10日　陰晴　酉の中刻より雪時々 （馬屋町の橋の下に15・6男子倒死）
1708年　2月2日 宝永5年　正月11日　陰晴　午の上刻より時々小雪 （夕飯後御囃子）
1708年　2月3日 宝永5年　正月12日　曇　小雪時々
1708年　2月4日 宝永5年　正月13日　曇　小雪時々
1708年　2月5日 宝永5年　正月14日　晴　夜に入り雪
1708年　2月6日 宝永5年　正月15日　晴
1708年　2月7日 宝永5年　正月16日　晴　今朝大霜見る　夜に入り小雨
1708年　2月8日 宝永5年　正月17日　晴
1708年　2月9日 宝永5年　正月18日　陰晴　午の中刻より雪　夜に及ぶ （松前から津出依頼あり2000石出すと回答、11月20日青森安方町の火元の入寺赦免）
1708年　2月10日 宝永5年　正月19日　曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1708年　2月11日 宝永5年　正月20日　曇　昨夜より吹雪　終日夜に及ぶ （駒越組相馬村(15日)・中畑村(4日)・田代村(7日)・大鰐組一森村(5日)・唐竹村(11日)の猟師それぞれ熊取る）
1708年　2月12日 宝永5年　正月21日　曇　雪時々　巳の中刻小雨 （男斬罪か）
1708年　2月13日 宝永5年　正月22日　晴　寅の中刻山鳴り　同下刻山鳴り　夜に入り雪風
1708年　2月14日 宝永5年　正月23日　陰晴　昨夜より小雪時々 （御囃子）
1708年　2月15日 宝永5年　正月24日　曇　小雪時々 （駒越組田代村の猟師熊取る）
1708年　2月16日 宝永5年　正月25日　晴
1708年　2月17日 宝永5年　正月26日　曇　辰の上刻より雨時々 （24日藤代組種市村で火災1軒、23日碇関脇道を抜けた30男と20女の二人が捕まり剃刀で自害）
1708年　2月18日 宝永5年　正月27日　陰晴　小雪時々　亥の下刻地震 （松前に2000石出すといったが米なく1000石とする）
1708年　2月19日 宝永5年　正月28日　陰晴　昨夜より雪時々　夜に及ぶ （浪岡組上十川村に50斗男乞食倒死）
1708年　2月20日 宝永5年　正月29日　陰晴　夜に入り小雪時々
1708年　2月21日 宝永5年　正月30日　陰晴　昨夜より小雪時々
1708年　2月22日 宝永5年　閏正月1日　晴　夜に入り雪
1708年　2月23日 宝永5年　閏正月2日　晴　午の中刻より雪時々　夜に及ぶ
1708年　2月24日 宝永5年　閏正月3日　晴 （去11月に青森から初鱈から三番鱈まで差上げる・初鱈10匁・二番鱈4匁・三番鱈町買い上げ値段）
1708年　2月25日 宝永5年　閏正月4日　晴
1708年　2月26日 宝永5年　閏正月5日　晴　夜に入り小雪
1708年　2月27日 宝永5年　閏正月6日　晴　未の刻より小雪時々
1708年　2月28日 宝永5年　閏正月7日　陰晴　巳の中刻より小雪
1708年　2月29日 宝永5年　閏正月8日　陰晴　申の中刻より小雨　夜に入り雨

1708年　3月1日 宝永5年 閏正月9日 陰晴 昨夜よりの雨 今朝辰の下刻に及ぶ
1708年　3月2日 宝永5年 閏正月10日晴 (御家中の家来が下女を殺し自害、正月10日南部八戸で青森船破船7人中5人死亡)
1708年　3月3日 宝永5年 閏正月11日曇 (1日横内組瀧沢村から筒井村への道で堰に落ち男死亡)
1708年　3月4日 宝永5年 閏正月12日晴 (去年8月9日の殺人男取上で獄門・追放立帰男斬罪)
1708年　3月5日 宝永5年 閏正月13日曇 卯の刻小雪 (11日大鰐組唐竹村の猟師熊取る)
1708年　3月6日 宝永5年 閏正月14日快晴 酉の刻より小風 子の中刻より大風 雨添う
1708年　3月7日 宝永5年 閏正月15日曇 昨夜よりの風雨 辰の中刻に及ぶ それより雨時々 午の刻より雪風 夜に及ぶ (東長町北横町から三王堂への橋下に男女2人倒死)
1708年　3月8日 宝永5年 閏正月16日陰晴 昨夜より小風 辰の刻小雪 夜に及ぶ (13日大鰐組碇関山で猟師熊取る)
1708年　3月9日 宝永5年 閏正月17日晴 夜に入り雨 (11日横内組駒籠村で熊取る)
1708年　3月10日 宝永5年 閏正月18日曇 昨夜より雨 辰の后刻に及ぶ それより小雪時々
1708年　3月11日 宝永5年 閏正月19日晴
1708年　3月12日 宝永5年 閏正月20日晴 夜に入り小雨 (金1両に付き87匁6分・米1俵に付き31匁5分、今昼石渡桝形御番所近くに30斗男倒死、11日蟹田湊で南部船1人行方不明)
1708年　3月13日 宝永5年 閏正月21日昨夜より小雨 今朝辰の刻に及ぶ それより時々小雨 (14日の大風雨で百沢寺に被害)
1708年　3月14日 宝永5年 閏正月22日晴 (元寺町に12・3女子倒死)
1708年　3月15日 宝永5年 閏正月23日晴 夜に入り雨 風添う　下から続く　古懸不動尊御出汗)
1708年　3月16日 宝永5年 閏正月24日陰晴 昨夜より風雨時々 卯の刻より南風強く吹く 申の下刻止む (今朝江戸への飛脚・御用金1500両差し登、8日本行寺へ3斗男子捨子、22日夜和徳組で火災2軒馬1疋焼死、　上に続く
1708年　3月17日 宝永5年 閏正月25日晴
1708年　3月18日 宝永5年 閏正月26日晴 申の上刻より小雨時々 酉の刻に及び止む (24日新田沖で間掛り中の1艘破損3人死亡、17日広須組下古河村に5斗女子捨子)
1708年　3月19日 宝永5年 閏正月27日晴
1708年　3月20日 宝永5年 閏正月28日晴
1708年　3月21日 宝永5年 閏正月29日晴 今朝霜見る (25日駒越組田代村の猟師熊取る)
1708年　3月22日 宝永5年　2月1日 晴 午の中刻より風 夜に入り小雨風
1708年　3月23日 宝永5年　2月2日 陰晴 (閏正月23～24日大間越で強風被害、紺屋町に2斗女子捨子、先月26日尾崎組唐竹村の猟師熊(胆長4寸廻り4寸6歩)取る)
1708年　3月24日 宝永5年　2月3日 快晴 (江戸へ飛脚・御上納金840両差し登)
1708年　3月25日 宝永5年　2月4日 陰晴
1708年　3月26日 宝永5年　2月5日 陰晴 卯の上刻より小雪時々 (1日夜油川組細越村で火災2軒、1日赤石組小森村の猟師熊取る、1日茂森町に投げ火有り)
1708年　3月27日 宝永5年　2月6日 陰晴 (駒越組中畑村の猟師赤石山で熊取る)
1708年　3月28日 宝永5年　2月7日 陰晴 夜に入り小雨 (十三潟閏正月27日より明ける)
1708年　3月29日 宝永5年　2月8日 曇 昨夜より小雨時々 (昨日山本長兵衛が預かる弘前の町内に4歳位女子捨子、3日大鰐組森山村の猟師三目内山で熊取る)
1708年　3月30日 宝永5年　2月9日 晴 夜に入り雨
1708年　3月31日 宝永5年　2月10日 陰晴 昨夜の雨時々 巳の中刻に及ぶ (8日広田組姥菟村で火災1軒)
1708年　4月1日 宝永5年　2月11日 曇 卯の下刻小雪時々 夜に入る (10日夜常盤組常盤村で火災1軒、当月分御用金294両3歩江戸へ差し登)
1708年　4月2日 宝永5年　2月12日 陰晴 昨夜より雪降り続く時々 午の中刻に及ぶ
1708年　4月3日 宝永5年　2月13日 陰晴 小風 未の下刻より小雨 夜に入る
1708年　4月4日 宝永5年　2月14日 晴 昨夜の雨時々 卯の中刻に及ぶ　下から続く　88・15・24)・下男612(371・139・43・47・3・9)・下女397(224・110・23・31・1・8)・家屋敷80軒と122軒・乗馬1疋・小荷駄2疋)
1708年　4月5日 宝永5年　2月15日 晴 (11日浦町組新町野村の猟師熊取る、御用人支配切支丹総人数:3732人・上男1458(禅979・浄土222・法花113・浄土真宗100・天台17・真言27)・上女1267(817・199・124・　上に続く
1708年　4月6日 宝永5年　2月16日 晴 申の下刻小雨 暫くして止む
1708年　4月7日 宝永5年　2月17日 快晴 今朝霜見る
1708年　4月8日 宝永5年　2月18日 晴
1708年　4月9日 宝永5年　2月19日 曇 辰の下刻より雨 未の下刻まで 巳の上刻雷発す 申の上刻水雪 夜に入る (17日夜青森柳町で火災1軒)
1708年　4月10日 宝永5年　2月20日 陰晴 辰の上刻より小雪 午の下刻大吹雪 則時 未の上刻より小雪小風時々 (17日油川組新城山で熊取る)
1708年　4月11日 宝永5年　2月21日 曇 昨夜より小雪小風時々打ち続く 午の中刻風雪 則止む 小雪小風夜に入る (17日青森柳町の火元入寺・10日で免、猿賀組袋村の猟師熊取る、大鰐組大沢山で30男縊死)
1708年　4月12日 宝永5年　2月22日 晴
1708年　4月13日 宝永5年　2月23日 曇 辰の刻より小雨時々終日 夜に及ぶ
1708年　4月14日 宝永5年　2月24日 曇 昨夜より小雨時々打ち続く (高杉組賀田村で昨夜火災1軒)
1708年　4月15日 宝永5年　2月25日 晴 (20日深浦間沖で鯡漁船破船5人中4人死亡)
1708年　4月16日 宝永5年　2月26日 曇
1708年　4月17日 宝永5年　2月27日 陰晴 夜に入り小雨 (昨暮六時過ぎ新鍛冶町に捨子)
1708年　4月18日 宝永5年　2月28日 曇 時々小雨 (只今までの新銭相場:金1両に銭3貫900文より4貫文まで)
1708年　4月19日 宝永5年　2月29日 陰晴 昨日の小雨時々小風 酉の中刻雨風　下から続く　油川組新田川に白魚一切なし)
1708年　4月20日 宝永5年　2月30日 晴 酉の上刻風雨 暫くして止む 戌の刻より時々電光小風 子の后刻雷雨 風添う それより小風雨時々 終夜に及ぶ (昨暮六半頃馬喰町に投げ火、2月19日より26・7日まで　上に続く
1708年　4月21日 宝永5年　3月1日 陰晴 昨夜より小風雨時々 夜に及ぶ
1708年　4月22日 宝永5年　3月2日 晴 小風
1708年　4月23日 宝永5年　3月3日 晴 午の中刻より小風 (尾崎組唐竹村の猟師熊取る、藤代組種市村で火災2軒・馬2疋焼失)
1708年　4月24日 宝永5年　3月4日 晴 (2日浦町組芝橋村で火災1軒・駒2疋・駄10疋焼失、当月碇関出入り:計352人・野内103人)
1708年　4月25日 宝永5年　3月5日 陰晴
1708年　4月26日 宝永5年　3月6日 陰晴 小風 巳の中刻小雪時々 申の中刻より風雪 夜に及ぶ 甚だ寒し (東大工町に11・2男子倒者)
1708年　4月27日 宝永5年　3月7日 曇 昨夜中の風雪 今日まで時々 寒甚だし (昨6日朝鯵ヶ沢で鯡漁船から落ちた3人死亡、前戸川で白魚少し取れる)
1708年　4月28日 宝永5年　3月8日 陰晴 小風 巳の下刻地震 則止む
1708年　4月29日 宝永5年　3月9日 晴 夜に入り雨 (若殿様三之丸御発駕)
1708年　4月30日 宝永5年　3月10日 曇 昨夜の雨打ち続く (今朝紺屋町材木場に34・5女倒死)

1708年　5月1日 宝永5年　3月11日 晴　今朝大霜見る（先月中大間越出入り:計142人）
1708年　5月2日 宝永5年　3月12日 曇　辰の刻より雨時々
1708年　5月3日 宝永5年　3月13日 晴　北の方虹見る　午の下刻より風雨　夜に及ぶ　酉の刻より大風　則刻止む
1708年　5月4日 宝永5年　3月14日 曇　巳の下刻より雨時々　午の下刻雷
1708年　5月5日 宝永5年　3月15日 陰晴　卯の下刻より小雨時々　辰の刻雷
1708年　5月6日 宝永5年　3月16日 晴　小風　午の下刻より小雨　未の上刻止む（一昨夜和徳組門外村で火災1軒）
1708年　5月7日 宝永5年　3月17日 曇　小風　今朝霜（13日広須新田玉清水村で火災2軒）
1708年　5月8日 宝永5年　3月18日 晴　今朝霜
1708年　5月9日 宝永5年　3月19日 晴
1708年　5月10日 宝永5年　3月20日 曇　卯の刻より雨終日
1708年　5月11日 宝永5年　3月21日 陰晴（18日桑野木田組姥嶋村で火災1軒、広須新田玉清水村の火元の他村預けは耕作の時分であり赦免）
1708年　5月12日 宝永5年　3月22日 晴
1708年　5月13日 宝永5年　3月23日 陰晴　夜に入り小雨
1708年　5月14日 宝永5年　3月24日 曇　昨夜より小雨時々　それより小風　午の后刻より小雨時々　夜に及ぶ（8日京都禁裏より出火、尾崎組唐竹村の猟師熊取る、山道の小路に3斗・東長町御蔵前に4歳斗女子それぞれ捨子）
1708年　5月15日 宝永5年　3月25日 陰晴　昨夜より雨　今朝卯の上刻に及ぶ（8日の火災で京都御屋敷焼失）
1708年　5月16日 宝永5年　3月26日 晴　小風　夜に入り雨
1708年　5月17日 宝永5年　3月27日 曇　昨夜より雨　午の刻に及ぶ
1708年　5月18日 宝永5年　3月28日 晴（熊胆の目形10匁6分:長3寸7歩幅2寸9歩）
1708年　5月19日 宝永5年　3月29日 晴　夜に入り雨　戌の刻雷電数発す
1708年　5月20日 宝永5年　4月1日 曇　昨夜より雨時々　辰の中刻に及ぶ　午の刻より小風　辰の上刻西北の角に虹見る
1708年　5月21日 宝永5年　4月2日 晴（赤田組菖蒲川村で14・5男縊死、五所川原御蔵土米入札:1俵15匁1分5厘、去月29日深浦蔵町で火災53軒・借家18軒焼失、昨夜飯詰組飯詰村で火災5軒）
1708年　5月22日 宝永5年　4月3日 晴　夜に入り雨
1708年　5月23日 宝永5年　4月4日 曇　昨夜より雨時々　終日に及ぶ
1708年　5月24日 宝永5年　4月5日 晴　午の刻より小風（弘前で商売米1俵に付き35・6匁、濁音(さけび)の記述あり、3月分野内出入り:出96・入り83人）
1708年　5月25日 宝永5年　4月6日 陰晴　小風　申の下刻より雨丸雪　氷満ちり降る(氷交じり降る)　則止む
1708年　5月26日 宝永5年　4月7日 晴
1708年　5月27日 宝永5年　4月8日 快晴
1708年　5月28日 宝永5年　4月9日 晴（今年は酒の沖だし停止・鯡も取れなかった、7日朝横内組大矢沢村で火災2軒、8日和徳組高崎村で火災2軒）
1708年　5月29日 宝永5年　4月10日 晴（3月中大間越出入り:出76・入り74人）
1708年　5月30日 宝永5年　4月11日 晴　夜に入り小雨（8日夜後潟組三馬屋町で火災2軒）
1708年　5月31日 宝永5年　4月12日 曇　昨夜より小雨　辰の刻に及ぶ（和徳組高崎村で34・5男縊死）
1708年　6月1日 宝永5年　4月13日 陰晴
1708年　6月2日 宝永5年　4月14日 晴（江戸への上納米6歩5・御運賃3歩5）
1708年　6月3日 宝永5年　4月15日 晴　申の下刻より小雨　夜に及ぶ（報恩寺境内で六つ七つばかりの女子切り殺される）
1708年　6月4日 宝永5年　4月16日 曇　昨夜より小雨　巳の刻に及ぶ
1708年　6月5日 宝永5年　4月17日 晴（8日三馬屋町の火元の村預けを赦免）
1708年　6月6日 宝永5年　4月18日 陰晴
1708年　6月7日 宝永5年　4月19日 晴（3日より村預けの金木村の火元の村預け赦免）
1708年　6月8日 宝永5年　4月20日 晴
1708年　6月9日 宝永5年　4月21日 曇　午の后刻より纔(わずかに)雨　申の中刻より雨時々　夜に及ぶ
1708年　6月10日 宝永5年　4月22日 曇（今別町奉行が御蔵米5俵御払い願い・1俵代銭40目で了承する）
1708年　6月11日 宝永5年　4月23日 晴
1708年　6月12日 宝永5年　4月24日 晴　未の下刻より雨　夜に及ぶ
1708年　6月13日 宝永5年　4月25日 陰晴　夜に入り雨
1708年　6月14日 宝永5年　4月26日 曇　昨夜より雨時々　夜に及ぶ（8日高杉村の火元の他村預け耕作の時分から赦免）
1708年　6月15日 宝永5年　4月27日 曇　昨夜より雨降続く
1708年　6月16日 宝永5年　4月28日 曇　昨夜より雨　則止む　辰の中刻より陰晴
1708年　6月17日 宝永5年　4月29日 晴
1708年　6月18日 宝永5年　5月1日 晴
1708年　6月19日 宝永5年　5月2日 晴　午の后刻小風
1708年　6月20日 宝永5年　5月3日 陰晴　夜に入り小雨（広須新田弓袋村で姉弟(11歳4歳)小橋より落下・死亡）
1708年　6月21日 宝永5年　5月4日 晴
1708年　6月22日 宝永5年　5月5日 陰晴　未の后刻雷雨　則止む
1708年　6月23日 宝永5年　5月6日 晴　小風（浦町組の男新田村で倒死）
1708年　6月24日 宝永5年　5月7日 曇　冷風（4月中大間越出入り:計62人）
1708年　6月25日 宝永5年　5月8日 晴
1708年　6月26日 宝永5年　5月9日 晴
1708年　6月27日 宝永5年　5月10日 晴　未の中刻より雷雨　申の中刻に及ぶ
1708年　6月28日 宝永5年　5月11日 晴
1708年　6月29日 宝永5年　5月12日 晴
1708年　6月30日 宝永5年　5月13日 曇　卯の上刻小雨　則止む　夜に入り雨

1708年　7月1日 宝永5年　5月14日 曇　巳の下刻より小雨時々　夜に及ぶ
1708年　7月2日 宝永5年　5月15日 曇
1708年　7月3日 宝永5年　5月16日 陰晴　酉の刻より雨　夜中　(土器町に18・9斗女倒生き)
1708年　7月4日 宝永5年　5月17日 陰晴　夜に入り雨
1708年　7月5日 宝永5年　5月18日 陰晴
1708年　7月6日 宝永5年　5月19日 晴
1708年　7月7日 宝永5年　5月20日 晴
1708年　7月8日 宝永5年　5月21日 晴
1708年　7月9日 宝永5年　5月22日 曇　巳の中刻より雨時々　夜に及ぶ
1708年　7月10日 宝永5年　5月23日 陰晴　午の刻より小雨時々　夜に及ぶ　(子の3月(今年で2月の誤りか)11日に浦町組新町野村の猟師が取った熊胆を差上げる)
1708年　7月11日 宝永5年　5月24日 陰晴
1708年　7月12日 宝永5年　5月25日 晴
1708年　7月13日 宝永5年　5月26日 曇　卯の上刻より雨　暫くして止む　午の中刻より大雨　(3月に御家中の倅行方不明、北横町堰脇に55・6男倒死)
1708年　7月14日 宝永5年　5月27日 晴
1708年　7月15日 宝永5年　5月28日 晴　(この日屋形様が江戸発、今日男牢死)
1708年　7月16日 宝永5年　5月29日 晴　(初真瓜と初胡瓜の粕漬けを差上げる)
1708年　7月17日 宝永5年　5月30日 曇　卯の刻より雨　終日に及ぶ
1708年　7月18日 宝永5年　6月1日 晴　(先月中碇関出入り:計350人)
1708年　7月19日 宝永5年　6月2日 陰晴　今日より土用　戌の刻稲妻　寅の中刻より雷電大雨
1708年　7月20日 宝永5年　6月3日 曇　昨夜より大雨雷電　卯の上刻に及ぶ　それより時々小雨　(先月晦日岩木川洪水・流木36000本余・失木20972本)
1708年　7月21日 宝永5年　6月4日 晴　(3日の洪水でいくつかの大橋落ちる)
1708年　7月22日 宝永5年　6月5日 晴　(関札役到着、深浦大火(3月29日)の火元の親類預け御免)
1708年　7月23日 宝永5年　6月6日 晴
1708年　7月24日 宝永5年　6月7日 快晴　(宝永3年9月10日入牢の織座役人牢死)
1708年　7月25日 宝永5年　6月8日 快晴
1708年　7月26日 宝永5年　6月9日 陰晴　(23日の洪水で浅瀬石川の御番所など破損、藤代組川原に2人捨子、5月26日後潟組奥平部の男が絞め殺される)
1708年　7月27日 宝永5年　6月10日 晴　(先月中碇関出入り:計275人・大間越出入り:計47人、和徳組百田村に40男乞食倒死)
1708年　7月28日 宝永5年　6月11日 晴　夜に入り東風　大風　(9日夜藤代組三世寺村に5斗女子捨子)
1708年　7月29日 宝永5年　6月12日 晴　昨夜より東風　終日に及ぶ　夜に入り和らぐ　(先月中野内出入り:計160人)
1708年　7月30日 宝永5年　6月13日 晴　辰の刻より東風　小風なり
1708年　7月31日 宝永5年　6月14日 晴　(一昨晩の風で長勝寺に被害)
1708年　8月1日 宝永5年　6月15日 晴　(先月28日江戸発の屋形様着城)
1708年　8月2日 宝永5年　6月16日 晴　大暑気
1708年　8月3日 宝永5年　6月17日 晴　大暑気
1708年　8月4日 宝永5年　6月18日 陰晴　卯の上刻南方虹見る　小雨　則止む　午の刻より小雨時々　未の中刻に及び止む　戌の下刻より雷発す　大雨風添う　終夜に及ぶ
1708年　8月5日 宝永5年　6月19日 陰晴
1708年　8月6日 宝永5年　6月20日 晴
1708年　8月7日 宝永5年　6月21日 晴　(4月1日飯詰村火災火元の入寺を赦免)
1708年　8月8日 宝永5年　6月22日 曇
1708年　8月9日 宝永5年　6月23日 曇　昨夜より雨降続く　午の下刻止む　夜に入り大雨　(熟瓜25上がる)
1708年　8月10日 宝永5年　6月24日 陰晴
1708年　8月11日 宝永5年　6月25日 晴
1708年　8月12日 宝永5年　6月26日 晴
1708年　8月13日 宝永5年　6月27日 陰晴　頃日昼夜ともに残暑甚だしく打ち続く　夜に入り雨　(24日赤石組金沢村で熊(胆長3寸廻り1寸5歩)取る)
1708年　8月14日 宝永5年　6月28日 曇　昨夜より雨　午の上刻に及び止む　それより時々　夜に入る　未の下刻雷
1708年　8月15日 宝永5年　6月29日 昨夜より雨時々
1708年　8月16日 宝永5年　7月1日 陰晴　未の下刻より雨　夜に及ぶ
1708年　8月17日 宝永5年　7月2日 陰晴　昨夜より雨　午の上刻に及ぶ
1708年　8月18日 宝永5年　7月3日 陰晴　(御囃子、尾崎組原田村の孫兵衛から初米上がる・4月7日植付)
1708年　8月19日 宝永5年　7月4日 晴　残暑甚だしい　(先月分野内出入り:計204人・大間越出入り:58人・碇関出入り:1578人)
1708年　8月20日 宝永5年　7月5日 晴　残暑昨日より強い　(与一様25日逝去・この飛脚は8日振り、旅費が改定されたらしい記述有り)
1708年　8月21日 宝永5年　7月6日 晴　午の刻雷発す
1708年　8月22日 宝永5年　7月7日 晴　暑気甚だしい　未の上刻小雨　則止む
1708年　8月23日 宝永5年　7月8日 晴　暑気甚だしい
1708年　8月24日 宝永5年　7月9日 晴
1708年　8月25日 宝永5年　7月10日 晴　申の中刻雷雨　暫くして止む
1708年　8月26日 宝永5年　7月11日 晴　申の下刻より雨　(去月11日より三世寺村で捨子を養育してきたが1日1人に2合の扶持米を渡すようにする)
1708年　8月27日 宝永5年　7月12日 曇　昨夜よりの雨時々　夜に及ぶ　((蟹田で)杣人が口論し切り殺される)
1708年　8月28日 宝永5年　7月13日 陰晴　昨夜の雨時々　辰の上刻に及ぶ
1708年　8月29日 宝永5年　7月14日 晴
1708年　8月30日 宝永5年　7月15日 快晴　残暑甚だしい
1708年　8月31日 宝永5年　7月16日 陰晴　辰の中刻より雨時々　下刻に及ぶ　(13日朝鯵ヶ沢で入港中の水主病死)

1708年　9月1日 宝永5年　7月17日 曇　辰の中刻小雨　則止む
1708年　9月2日 宝永5年　7月18日 陰晴　午の上刻雨　暫くして止む（今日は誕生日に御座候）
1708年　9月3日 宝永5年　7月19日 陰晴　未の后刻より雷電大雨　夜に及ぶ
1708年　9月4日 宝永5年　7月20日 陰晴　昨夜より雨　辰の中刻に及ぶ（御菜園所より熟瓜20差上、下桶屋町溜池道添に8・9女子・広須新田仁為田村に50男倒死、12日の雨で金木組小泊村で山崩れ・4間×3間半の家押し潰す）
1708年　9月5日 宝永5年　7月21日 曇　巳の中刻雷雨（寺社奉行篠塚は留守居組に）
1708年　9月6日 宝永5年　7月22日 晴（18日駒越組砂子瀬村で熊（胆長3寸廻り3寸5歩）取る）
1708年　9月7日 宝永5年　7月23日 陰晴　夜に入り小雨時々（青森安方町に50男乞食倒死）
1708年　9月8日 宝永5年　7月24日 曇　午の刻より雨時々　夜に及ぶ
1708年　9月9日 宝永5年　7月25日 曇　昨夜より雨降続く　夜に入り風雨
1708年　9月10日 宝永5年　7月26日 曇　昨夜より雨　申の上刻に及び止む（4月22日村市村の次右衛門に預けた3歳女子捨子は今朝虫出し死亡）
1708年　9月11日 宝永5年　7月27日 晴　小風　申の下刻より小雨　夜に及ぶ
1708年　9月12日 宝永5年　7月28日 晴　昨夜の雨寅の下刻に及ぶ　午の刻雨　暫くして止む（御着城御祝儀の御能・狂言、後潟組村々で狼荒れる・横内組の猟師を遣わす）
1708年　9月13日 宝永5年　7月29日 陰晴
1708年　9月14日 宝永5年　8月1日 陰晴　卯の中刻小雨　則止む　酉の刻雨　暫くして止む
1708年　9月15日 宝永5年　8月2日 卯の下刻小雨　則止む（赤石組・駒越組で虫害）
1708年　9月16日 宝永5年　8月3日 晴　辰の后刻小雨　巳の下刻小雨　暫くして止む（鮎鮨・西瓜差上、早道の者某御扶持切米召し放ち・返誓詞:隠術並びに勤め方のことと隠具拵え様に関し一生の内堅く口外仕りまじく……）
1708年　9月17日 宝永5年　8月4日 晴
1708年　9月18日 宝永5年　8月5日 曇　昨夜より雨終日（赤石組小森村・駒越組田代村・横内組（村不明）の猟師それぞれ熊取る）
1708年　9月19日 宝永5年　8月6日 晴
1708年　9月20日 宝永5年　8月7日 晴（去年8月22日入牢の男牢死）
1708年　9月21日 宝永5年　8月8日 晴
1708年　9月22日 宝永5年　8月9日 晴
1708年　9月23日 宝永5年　8月10日 晴　下から続く　1匁2分、昨晩笹森町木戸下に8歳男子捨子）
1708年　9月24日 宝永5年　8月11日 陰晴　卯の下刻少し雷　それより夜に入る迄時々雷数発す　午の中刻小風　申の刻より雨時々　夜に入る（3月に土手町預けの3歳女子捨子死亡、酒の値段:1升が1匁5分又は　上に続く
1708年　9月25日 宝永5年　8月12日 陰晴　昨夜より雨打ち続く時々　卯の下刻雷　夜に入り風雨（藤崎組真名板袋で狼荒れる・依頼を受け猟師を派遣する）
1708年　9月26日 宝永5年　8月13日 曇　昨夜の雨時々　夜に及ぶ
1708年　9月27日 宝永5年　8月14日 晴（今別町より初鮭差上げる、新町に2斗男子捨子・町預け）　下から続く　真言:36・24・9・8・天台:15・7・4・2・家屋敷78軒支配方に127軒・乗馬1疋・小荷駄2疋）
1708年　9月28日 宝永5年　8月15日 晴（今日御祭礼、御用人支配切支丹:惣人数3849人・禅:上男1060・上女837・下男379・下女228・浄土:263・162・146・110・浄土真:118・76・44・30・法花:122・101・45・23・　上に続く
1708年　9月29日 宝永5年　8月16日 晴（小納戸金:在国年1500両・在江戸年3000両/年、飯詰組太刀打村に80斗男倒死）
1708年　9月30日 宝永5年　8月17日 晴（12日よりの大風で赤石組の稲被害:稲こほれ塩きり当たり（稲こぼれ潮霧当たり）……、13日朝赤石組関で破船1艘・西大風で深浦で破船9艘、12日真名板袋に派遣の猟師返す）
1708年　10月1日 宝永5年　8月18日 晴（鮭留入札:野内川265匁5分・造道才蔵川250匁3分・綱不知川155匁7分・原別川472匁1分・荒川86匁7分8厘・新田川29匁・広瀬川18匁3分・横内村前川13匁5分6厘）
1708年　10月2日 宝永5年　8月19日 陰晴
1708年　10月3日 宝永5年　8月20日 曇　辰の下刻より雨終日
1708年　10月4日 宝永5年　8月21日 晴（17日駒越組村市山で猟師が熊（胆長1寸5歩廻り2寸）取る）
1708年　10月5日 宝永5年　8月22日 晴
1708年　10月6日 宝永5年　8月23日 陰晴　寅の下刻地震　巳の下刻雷雨　則止む（御能）
1708年　10月7日 宝永5年　8月24日 晴
1708年　10月8日 宝永5年　8月25日 晴（24日朝7月8日町内預けの捨子死亡）
1708年　10月9日 宝永5年　8月26日 晴
1708年　10月10日 宝永5年　8月27日 晴　酉の上刻より雷電時々　夜に入り雨時々
1708年　10月11日 宝永5年　8月28日 陰晴　巳の上刻小雨　夜に入る
1708年　10月12日 宝永5年　8月29日 陰晴　昨夜より雪風（記述は正しいが他の記述から雪ではなかろう）（高杉組蒔苗村に50位男倒死）
1708年　10月13日 宝永5年　8月30日 陰晴（笹森町木戸脇の10日晩の8斗男子捨子死亡、6月藤代組三世寺村の女捨子28日に死亡）
1708年　10月14日 宝永5年　9月1日 陰晴　辰の刻小雨　則止む　午の刻より雨（先月23日津軽坂牧で狼が荒れ狼打ちを出す、先月30日夜本寺町で8歳非人が犬に食い殺される）
1708年　10月15日 宝永5年　9月2日 曇　戌の下刻より小雨時々　終日　夜に及ぶ
1708年　10月16日 宝永5年　9月3日 曇　昨夜の雨打ち続く　卯の中刻霙（8月の大風で時鐘所に被害、当月碇関出入り:計521人）
1708年　10月17日 宝永5年　9月4日 晴（八つ半時分本町四丁目から出火・8軒焼失、先月29日の大風で赤石組月屋村で1軒潰れる、先月28日金木組宮野沢村の猟師熊取る）
1708年　10月18日 宝永5年　9月5日 陰晴　未の后刻より雨　終夜に及ぶ
1708年　10月19日 宝永5年　9月6日 曇　昨夜よりの雨時々　夜に及ぶ（3日駒越組一ノ渡村・広須新田大館村の猟師熊取る）
1708年　10月20日 宝永5年　9月7日 晴
1708年　10月21日 宝永5年　9月8日 晴（5日堀越組大和沢村で一渡村の猟師熊取る）
1708年　10月22日 宝永5年　9月9日 快晴　今朝より大霜見る（6日木造新田長浜に破船1艘、先月29日広須新田兼館村に龍下がり（たつ巻きか）屋根巻き上げる）
1708年　10月23日 宝永5年　9月10日 快晴　今朝霜見る
1708年　10月24日 宝永5年　9月11日 曇　卯の下刻より雨　夜に入り大風雨（6日昼過ぎ深浦で西風により破船1艘、先月中大間越出入り:都合118人）
1708年　10月25日 宝永5年　9月12日 陰晴　昨夜丑の下刻より風　寅の上刻大風　同下刻止む　卯の下刻より辰の上刻大風　同中刻和らぐ　それより小風
1708年　10月26日 宝永5年　9月13日 晴
1708年　10月27日 宝永5年　9月14日 晴　今朝霜見る（11日夜深浦で破船1艘）
1708年　10月28日 宝永5年　9月15日 晴（12日昼九つ時分鯵ヶ沢で破船1艘）
1708年　10月29日 宝永5年　9月16日 曇　昨夜七つ時分より雨　辰の中刻に及ぶ　午の上刻より風　但し中刻より大風　未の后刻止む　申の中刻雷数発し雷光る　夜に入り大風
1708年　10月30日 宝永5年　9月17日 晴　小風　午の后刻より止む（昨日古懸不動尊御出汗、6日晩鯵ヶ沢の大風で破船1艘・2人死亡）
1708年　10月31日 宝永5年　9月18日 晴

1708年　11月1日 宝永5年　　9月19日 陰晴　卯の下刻雷数発す　則刻小風　辰の刻小雨　則刻西の方虹見る
1708年　11月2日 宝永5年　　9月20日 陰晴　昨夜より雪　午の刻に及ぶ　(13日堀越組一野渡村の猟師・16日・17日・不明日に相馬村の猟師熊取る、16日の風で今別町八幡の木8本倒れる)
1708年　11月3日 宝永5年　　9月21日 晴　(16日深浦の南大風で破船2艘(沢部村と岩崎村)、16日沢部で破船1艘・2人死亡、16日大風で碇関の塀が倒れる)
1708年　11月4日 宝永5年　　9月22日 晴　(木造御蔵米値段1俵に付き沖役とも16匁5分・1両は81匁)
1708年　11月5日 宝永5年　　9月23日 曇
1708年　11月6日 宝永5年　　9月24日 曇　昨夜より雷雨
1708年　11月7日 宝永5年　　9月25日 曇　夜に入り小雪
1708年　11月8日 宝永5年　　9月26日 晴　(16日の大風で大光寺組大光寺村五知如来の杉1本倒れる)
1708年　11月9日 宝永5年　　9月27日 晴　(16日野内の大風で41軒潰れる)
1708年 11月10日 宝永5年　　9月28日 曇　昨夜より雨時々
1708年 11月11日 宝永5年　　9月29日 晴　大霜今朝見る　(16日の大風で青森神明被害、大鰐組苦木村の猟師熊取る)
1708年 11月12日 宝永5年　　10月1日 晴　夜に入り電雨　大霜今朝見る　(御献上の鮭高覧)
1708年 11月13日 宝永5年　　10月2日 晴　夜に入り雪
1708年 11月14日 宝永5年　　10月3日 曇　昨夜より雪今朝見る
1708年 11月15日 宝永5年　　10月4日 陰晴　(代官町に者倒死)
1708年 11月16日 宝永5年　　10月5日 晴
1708年 11月17日 宝永5年　　10月6日 曇　辰の中刻小雨　則止む　午の中刻丸雪　則止む　(赤石組壱森村の猟師熊(胆長3寸廻り2寸5歩)取る)
1708年 11月18日 宝永5年　　10月7日 曇　昨夜中の雪今朝見る
1708年 11月19日 宝永5年　　10月8日 晴　(3日藤崎組の猟師熊取る)
1708年 11月20日 宝永5年　　10月9日 曇
1708年 11月21日 宝永5年　　10月10日 陰晴　(当月大間越出入り:計172人)
1708年 11月22日 宝永5年　　10月11日 快晴
1708年 11月23日 宝永5年　　10月12日 曇　巳の刻より雨
1708年 11月24日 宝永5年　　10月13日 陰晴　辰の下刻暫く小雪
1708年 11月25日 宝永5年　　10月14日 陰晴
1708年 11月26日 宝永5年　　10月15日 曇　昨夜より小雪　(当月分御用金100両銀8貫目差し登・金子一切之無に付き銀相添差し登)
1708年 11月27日 宝永5年　　10月16日 曇　昨日より雪時々　巳の中刻より雪吹く
1708年 11月28日 宝永5年　　10月17日 晴　夜に入り小雪　(昨晩御家中宅に投げ火)
1708年 11月29日 宝永5年　　10月18日 曇　昨夜より小雪時々　(去月16日の風で大光寺組46石猿賀組44石の被害・浦町組横内組でも)
1708年 11月30日 宝永5年　　10月19日 陰晴　(鉄値段:銭(銀)100匁に鉄30貫)
1708年　12月1日 宝永5年　　10月20日 曇　巳の中刻より小雪時々
1708年　12月2日 宝永5年　　10月21日 曇　昨夜より霙時々　酉の后刻より風雨　終夜に及ぶ
1708年　12月3日 宝永5年　　10月22日 曇　辰の刻雷　但し鰰神鳴(はたはたかみなり?)之由　巳の下刻雨
1708年　12月4日 宝永5年　　10月23日 曇　今朝霜見る　(寺社奉行に塩崎任命、15日常盤組福嶋村の百姓走る)
1708年　12月5日 宝永5年　　10月24日 晴　(9月碇関出入り:出192・入り174・計366人)
1708年　12月6日 宝永5年　　10月25日 晴　今朝霜見る
1708年　12月7日 宝永5年　　10月26日 晴　昨夜より小雪
1708年　12月8日 宝永5年　　10月27日 曇　昨夜より時々小雪　(25日朝藤崎組深味村で用水堰に落ち人馬とも死亡)
1708年　12月9日 宝永5年　　10月28日 曇　昨夜中の雪深さ八・九寸程降るを今朝見る　時々雪
1708年 12月10日 宝永5年　　10月29日 晴
1708年 12月11日 宝永5年　　10月30日 陰晴　昨日よりの風雪　時々打ち続く　(家老瀧川平右衛門・寺社奉行岡三太左衛門を御役召し放ち・閉門、龍浜(竜飛)の鰤2本上がる)
1708年 12月12日 宝永5年　　11月1日 晴　(金井ヶ沢より初鱈1本差上げる)
1708年 12月13日 宝永5年　　11月2日 晴
1708年 12月14日 宝永5年　　11月3日 曇　夜に入り雷風雨　終夜に及ぶ　(当月中大間越出入り:計469人)
1708年 12月15日 宝永5年　　11月4日 曇　昨夜よりの雨降続く
1708年 12月16日 宝永5年　　11月5日 陰晴　卯の刻より小雪時々　(米4斗入り1俵に付き18匁8分)
1708年 12月17日 宝永5年　　11月6日 陰晴　昨夜より時々小雪　(用人大湯五左衛門を御役召し放ち・閉門)
1708年 12月18日 宝永5年　　11月7日 陰晴　小風　夜に入り雨　(身上召し放ち2人・閉門1人)
1708年 12月19日 宝永5年　　11月8日 陰晴　時々雪
1708年 12月20日 宝永5年　　11月9日 陰晴　時々小雪　夜に及ぶ　(4日夜後潟組小橋村で闇討ち・死亡・犯人不明)
1708年 12月21日 宝永5年　　11月10日 陰晴　小雪　小風時々　夜に及ぶ　(今日より冬至)
1708年 12月22日 宝永5年　　11月11日 晴　時々小雪　　下から続く　　上蕎麦4合・次赤小豆3合・上小麦3合・上餅粟4合)
1708年 12月23日 宝永5年　　11月12日 晴　申の下刻より大風雪　終夜に及ぶ　(両替85匁7分、鯵ヶ沢御蔵米金10両に付き沖役共に36俵・1俵23匁8部(内2匁沖役)、雑穀代米米1升に付き:上大豆6合・次大豆1升2合・　　上に続く
1708年 12月24日 宝永5年　　11月13日 曇　昨夜より雪時々　(御能・狂言)
1708年 12月25日 宝永5年　　11月14日 晴
1708年 12月26日 宝永5年　　11月15日 陰晴　時々雪　夜に及ぶ
1708年 12月27日 宝永5年　　11月16日 晴　昨夜よりの雪今朝辰の上刻に及ぶ
1708年 12月28日 宝永5年　　11月17日 曇　時々吹雪
1708年 12月29日 宝永5年　　11月18日 曇　時々吹雪　(大風波により12日岩崎湊で破船2艘・後潟組石浜村・杉村沖で破船各1艘、親方町に60斗男非人倒死、先月11日夜浪岡組赤坂村で稲焼失・火元の入寺赦免)
1708年 12月30日 宝永5年　　11月19日 曇　時々雪　　下から続く　　添番55・手木打40・石渡橋守11・所々橋守12・博労町16・山伏4・座当1)
1708年 12月31日 宝永5年　　11月20日 晴　丑の刻雷電　(弘前町家数2080軒・その内火事に出動できない家数635軒:御扶持人167・名主12・月行事39・五人組頭94・名主小遣い42・自身番58・旗番25・木戸番59・　　上に続く

1709年　1月1日 宝永5年　11月21日 晴　申の刻より小雨　夜に及ぶ　酉の刻雷電 （4日藤崎の仮橋から落ちて男行方不明、17日牧支配大秋村の猟師熊取る）
1709年　1月2日 宝永5年　11月22日 陰晴　昨夜雨後より時々小雪　今日辰の中刻に及ぶ （紺屋町材木場に8斗男子と10斗女子倒死）
1709年　1月3日 宝永5年　11月23日 晴
1709年　1月4日 宝永5年　11月24日 なし （10月碇関出入り:出248・入り160・計408人）
1709年　1月5日 宝永5年　11月25日 陰晴　昨夜より時々雪
1709年　1月6日 宝永5年　11月26日 陰晴　小雪時々
1709年　1月7日 宝永5年　11月27日 晴
1709年　1月8日 宝永5年　11月28日 曇　昨夜より吹雪　今朝卯の中刻に及び時々　夜に及ぶ （御献上鱈高覧、去年御領分不作に付き……ご返済方多く只今までこれなき不勝手お差支えにつき……知行・役料渡し方等を変える）
1709年　1月9日 宝永5年　11月29日 陰晴　昨日よりの吹雪時々打ち続く （諸手当を大幅に減らす、24日夜大風で油川で破船1艘）
1709年　1月10日 宝永5年　11月30日 陰晴　昨日よりの風雪時々打ち続く （獄門4人・成敗7人）
1709年　1月11日 宝永5年　12月1日 曇　昨夜より吹雪打ち続く
1709年　1月12日 宝永5年　12月2日 陰晴　昨夜より雪時々打ち続く （先月28日金木新田豊岡村で火災1軒、先月24日北風強く蟹田で破船3艘、桶屋町に女倒死、紺屋町に15・6女倒死）
1709年　1月13日 宝永5年　12月3日 陰晴　昨夜より小雪時々 （御能・狂言）
1709年　1月14日 宝永5年　12月4日 陰晴　昨夜より雪時々降り続く （一町田族之助御役御免）
1709年　1月15日 宝永5年　12月5日 晴　申の上刻雨　夜に入る （先月平均値段:米1俵で17匁9分・金1両が87匁3分）
1709年　1月16日 宝永5年　12月6日 曇　今朝雪時々 （親方町に倒れていた非人が今朝死亡）
1709年　1月17日 宝永5年　12月7日 晴　夜に入り雪 （先月27日南部川内に破船1艘・3人死亡(津軽の事件ではない)、後潟組左堰村で雪倒）
1709年　1月18日 宝永5年　12月8日 陰晴　時々雪
1709年　1月19日 宝永5年　12月9日 陰晴　昨夜より時々雪　夜に及ぶ
1709年　1月20日 宝永5年　12月10日 陰晴　昨夜より小雪時々　夜に及ぶ
1709年　1月21日 宝永5年　12月11日 曇　昨夜よりの雪終日に及ぶ　夜に入る （11日牧支配大秋山で猟師が熊取る）
1709年　1月22日 宝永5年　12月12日 晴 （大間越で御蔵米1俵25匁で御払い）
1709年　1月23日 宝永5年　12月13日 晴　夜に入り雪 （家老杉山八兵衛病死）
1709年　1月24日 宝永5年　12月14日 陰晴　小雪時々 （9日駒越組村市山で猟師が熊取る、11月中大間越出入り:出83・入り109・計192人）
1709年　1月25日 宝永5年　12月15日 曇　昨夜より雪時々　夜に入り大雪 （御用金200両これを発す）
1709年　1月26日 宝永5年　12月16日 曇　昨夜より大雪　終日に及ぶ　夜に入り小雪 （岩田半次郎御役御免）
1709年　1月27日 宝永5年　12月17日 陰晴　昨夜よりの小雪時々 （杉山勘左衛門(恐らく八兵衛の子)方へ香典・白銀3枚）
1709年　1月28日 宝永5年　12月18日 晴　夜に入り小雪 （人事異動:御用人に堀・今井・郡奉行に工藤嘉左衛門など、御囃子、当月4日(9月4日の誤り)横大工町の火元の入寺赦免）
1709年　1月29日 宝永5年　12月19日 曇　昨夜より小雪時々　巳の中刻より大風吹　終日に及ぶ　夜に入り小雪
1709年　1月30日 宝永5年　12月20日 陰晴　昨夜より雪時々 （多数(100人以上か)に暇を遣わす・切米等の切下げ多数）
1709年　1月31日 宝永5年　12月21日 晴　夜に入り風雪 （大道寺隼人が家老に、紺屋町材木場に10斗女子倒死）
1709年　2月1日 宝永5年　12月22日 曇　昨夜より風雪時々
1709年　2月2日 宝永5年　12月23日 晴
1709年　2月3日 宝永5年　12月24日 晴 （去る19日の吹雪にて(金木新田で)吹き倒れ12人）
1709年　2月4日 宝永5年　12月25日 晴
1709年　2月5日 宝永5年　12月26日 晴　午の中刻より雪 （10日牧支配大秋村の猟師熊取る、24日浦町組浦町村で火災1軒・小荷駄3疋焼死、先月中野内出入り:出50・入60・計110人、11月碇関出入り:出136・入141・計277人）
1709年　2月6日 宝永5年　12月27日 曇　昨夜より風雪終日　夜に及ぶ （20日十三渡し場近所に男倒死、23日駒越組目屋野沢で猟師熊取る）
1709年　2月7日 宝永5年　12月28日 曇　昨夜より風雪時々　夜に及ぶ （25日駒越組目屋野沢で猟師熊取る）
1709年　2月8日 宝永5年　12月29日 曇　昨夜より風雪時々　夜に及ぶ
1709年　2月9日 宝永5年　12月30日 陰晴　昨夜より風雪時々 （27日朝広須新田芦沼村で火災1軒・馬3疋・鶏2羽死亡）
1709年　2月10日 宝永6年　正月1日　陰晴　昨夜より時々小雪
1709年　2月11日 宝永6年　正月2日　晴　昨夜酉の下刻地震　巳の下刻小雪　則止む （江戸へ吉例で金200両差し登）
1709年　2月12日 宝永6年　正月3日　晴　卯の中刻小雪　則止む
1709年　2月13日 宝永6年　正月4日　曇　辰の下刻より雪
1709年　2月14日 宝永6年　正月5日　曇　昨夜より小雪時々　夜に及ぶ
1709年　2月15日 宝永6年　正月6日　曇　昨夜より雪時々　夜に及ぶ
1709年　2月16日 宝永6年　正月7日　晴
1709年　2月17日 宝永6年　正月8日　晴　夜に入り小雪
1709年　2月18日 宝永6年　正月9日　曇
1709年　2月19日 宝永6年　正月10日　陰晴　小風 （旧臘(きゅうろう:去年12月)27日の夜中に青森から乗り出した8艘破船）
1709年　2月20日 宝永6年　正月11日　陰晴　巳の下刻より小雪
1709年　2月21日 宝永6年　正月12日　陰晴　辰の下刻より時々小雪　夜に入り雨 （御能・狂言）
1709年　2月22日 宝永6年　正月13日　陰晴　今朝小雪　辰の下刻に及ぶ （広須新田長浜村に鯨寄せる、尾崎組切明村の猟師が熊取る）
1709年　2月23日 宝永6年　正月14日　晴
1709年　2月24日 宝永6年　正月15日　晴 （長浜村の鯨流失・十三に寄せる・半分は御用分・残り半分の三ヶ一は長浜の者へ三ヶ二は十三の者へとする、藤崎組林崎村に40程男吹倒れ）
1709年　2月25日 宝永6年　正月16日　晴
1709年　2月26日 宝永6年　正月17日　晴　夜に入り雨
1709年　2月27日 宝永6年　正月18日　曇　昨夜より雨　辰の后刻に及ぶ （11日大間越に鯨寄せる）
1709年　2月28日 宝永6年　正月19日　曇　辰の下刻小雨

1709年　3月1日 宝永6年 正月20日　曇 小風 巳の后刻より雪終日 夜に及ぶ （去12月24日浦町村の火元の他村預け赦免、18日大鰐組石川村で庄屋家火災1軒・馬2疋焼斃・火元入寺）
1709年　3月2日 宝永6年 正月21日　陰晴 昨夜より小雪時々 巳の刻に及ぶ
1709年　3月3日 宝永6年 正月22日　曇 巳の后刻より雪 未の下刻より小雨時々 夜に及ぶ （漆の値段:100目に付き代銭8匁、不動尊御出汗）
1709年　3月4日 宝永6年 正月23日　晴 （17日堀越組小比内村の庄屋行方不明）
1709年　3月5日 宝永6年 正月24日　晴 （10日(先月)公方様(五代将軍綱吉)御他界）
1709年　3月6日 宝永6年 正月25日　晴
1709年　3月7日 宝永6年 正月26日　曇 巳の后刻より雨終日 夜に及ぶ
1709年　3月8日 宝永6年 正月27日　曇 昨夜よりの雨打ち続く 雪交る 終日雨 （石渡橋・藤崎川橋落ち候、米1俵に付き18匁5分）
1709年　3月9日 宝永6年 正月28日　曇 （一昨晩よりの雨で境関・駒越・石渡渡しの仮橋引取る）
1709年　3月10日 宝永6年 正月29日　晴
1709年　3月11日 宝永6年　2月1日 曇 夜に入り雨
1709年　3月12日 宝永6年　2月2日 曇
1709年　3月13日 宝永6年　2月3日 曇 巳の后刻より雨 （旧臘26日夜夏泊沖で破船1艘5人死亡、正月28日金木組金木村の猟師熊取る）
1709年　3月14日 宝永6年　2月4日 曇 夜に入り小雨
1709年　3月15日 宝永6年　2月5日 陰晴 小風
1709年　3月16日 宝永6年　2月6日 晴 夜に入り雨 （23日に記述の小比内の庄屋は欠落、正月18日出火に伴い弘前で入寺中の石川村庄屋を返す）
1709年　3月17日 宝永6年　2月7日 曇 昨夜より水雪 （千年山より福寿草上がる）
1709年　3月18日 宝永6年　2月8日 曇 巳の刻より時々雪 夜に入る （昨日高杉組横町村で火災1軒、先月中大間越出入り:計145人、6日夜後潟組蓬田村で火災3軒・母駄2疋小荷駄1疋・種籾12俵焼失）
1709年　3月19日 宝永6年　2月9日 晴 申の下刻より時々小雪 夜に及ぶ （7日古懸不動尊御出汗）
1709年　3月20日 宝永6年　2月10日 晴 （先月中野内出入り:計70人）
1709年　3月21日 宝永6年　2月11日 晴 （2月6日牧支配合子沢村の猟師熊(胆長2寸5歩廻り3寸)取る）
1709年　3月22日 宝永6年　2月12日 晴 （7日横内組横内村の猟師熊2疋取る）
1709年　3月23日 宝永6年　2月13日 晴
1709年　3月24日 宝永6年　2月14日 晴　下から続く　真言:23・20・9・7・天台:14・10・6・3、家屋敷82軒支配方に101軒、乗馬1疋、小荷駄1疋）
1709年　3月25日 宝永6年　2月15日 曇 午の下刻より小雪 （御用人支配切支丹:惣人数3165人・禅:上男857・上女731・下男250・下女153・浄土:231・212・52・59・門徒:100・90・47・19・法花:97・110・43・22・　上に続く
1709年　3月26日 宝永6年　2月16日 陰晴 昨夜より雪 今朝五・六寸降る見る （14日小山内某薬園近所に10斗男子(倒)死、13日赤石組大童子山で猟師熊取る、15日東長町に60斗女倒死）
1709年　3月27日 宝永6年　2月17日 晴 （10日尾崎組切明山で猟師が熊取る）
1709年　3月28日 宝永6年　2月18日 曇 午の后刻より雨
1709年　3月29日 宝永6年　2月19日 陰晴 夜に入り雪
1709年　3月30日 宝永6年　2月20日 曇 昨夜より雪 時々小雪 夜に及ぶ
1709年　3月31日 宝永6年　2月21日 曇 昨夜よりの小雪時々 夜に及ぶ （大鰐組苦木村の猟師・17日尾崎組唐竹村の猟師それぞれ熊取る）
1709年　4月1日 宝永6年　2月22日 陰晴 昨夜の雪今朝五・六寸見る 時々小雪 終日に及ぶ （紺屋町穢多屋敷付近に50斗男倒死・7斗男子町預け）
1709年　4月2日 宝永6年　2月23日 晴 （御台様薨御）
1709年　4月3日 宝永6年　2月24日 晴 夜に入り雪
1709年　4月4日 宝永6年　2月25日 曇 昨夜雪 今朝六寸ほど見る 時々小雪 終日
1709年　4月5日 宝永6年　2月26日 晴 申の下刻より小雨時々 夜に入り雨
1709年　4月6日 宝永6年　2月27日 曇 昨夜より雨時々 午の刻より小雪 風添う 夜に入り大吹雪 （(公定か)利息:100両に対し月に1両、24日碇関山で苦木村の猟師熊取る）
1709年　4月7日 宝永6年　2月28日 曇 昨夜より吹雪終日 夜に及ぶ
1709年　4月8日 宝永6年　2月29日 陰晴 昨夜より吹雪 辰の后刻に及ぶ 巳の中刻より小雨時々 （蓬田村の火元(8日記述)の他村預け免）
1709年　4月9日 宝永6年　2月30日 晴 （25日蟹田町で火災14軒、十三の潟25日までに残らず開ける、紺屋町御番所前に30余女倒死）
1709年　4月10日 宝永6年　3月1日 陰晴 小風
1709年　4月11日 宝永6年　3月2日 晴 （2月30日駒越組桜庭村の猟師が熊取る）
1709年　4月12日 宝永6年　3月3日 快晴 今朝霜見る
1709年　4月13日 宝永6年　3月4日 曇 昨夜より小雪時々 辰の下刻に及ぶ
1709年　4月14日 宝永6年　3月5日 晴 （去年4月から兼平村に預けていた捨子死亡）
1709年　4月15日 宝永6年　3月6日 陰晴 夜に入り小雪時々 （19日御発駕、御家中樋口某自害）
1709年　4月16日 宝永6年　3月7日 晴 夜に入り雨 風添う （郡奉行工藤嘉左衛門倅三之助の前髪執り願い）
1709年　4月17日 宝永6年　3月8日 晴 （赤石組壱森村の猟師熊取る）
1709年　4月18日 宝永6年　3月9日 曇 小風 午の后刻より雨 夜に及ぶ
1709年　4月19日 宝永6年　3月10日 晴 小風 （代官大幅入れ替え）
1709年　4月20日 宝永6年　3月11日 晴 （10日夜鯵ヶ沢で破船1艘）
1709年　4月21日 宝永6年　3月12日 晴
1709年　4月22日 宝永6年　3月13日 晴 （10日和徳組百姓夫婦自害）
1709年　4月23日 宝永6年　3月14日 晴 午の下刻より小雨時々 夜に及ぶ （硫黄嵩に火が付く）
1709年　4月24日 宝永6年　3月15日 陰晴 辰の后刻西方に虹見る
1709年　4月25日 宝永6年　3月16日 晴 午の刻より小雨
1709年　4月26日 宝永6年　3月17日 晴 今朝雪
1709年　4月27日 宝永6年　3月18日 晴 今朝雪 巳の下刻少し地震
1709年　4月28日 宝永6年　3月19日 晴 （屋形様四時御発駕）
1709年　4月29日 宝永6年　3月20日 晴 （14日横内組矢田前村の猟師熊取る）
1709年　4月30日 宝永6年　3月21日 晴 （14日大豆ヶ坂海道に野火(100間×30間)・かれい沢村(10町×50間)にも、18日後潟組四戸橋村で火災1軒）

1709年　5月1日 宝永6年　3月22日 晴
1709年　5月2日 宝永6年　3月23日 晴 (19日浪岡組馬場尻村の猟師熊取る)
1709年　5月3日 宝永6年　3月24日 晴 夜に入り雨
1709年　5月4日 宝永6年　3月25日 陰晴 昨夜の雨辰の下刻に及ぶ (21日松前城下に火災160軒余・借家7・80軒焼失・3人焼死、減俸23人、去月25日蟹田火災の火元の入寺御免、横内組野尻村で百姓家(4間×7間)火災)
1709年　5月5日 宝永6年　3月26日 晴
1709年　5月6日 宝永6年　3月27日 晴 小風
1709年　5月7日 宝永6年　3月28日 晴 夜に入り雨 戌の下刻亥の上刻雷発す (27日高杉組楢木村で火災1軒・鯵ヶ沢への下げ米20俵・種籾24俵・駒1疋焼失)
1709年　5月8日 宝永6年　3月29日 曇 昨夜よりの雨 辰の上刻に及ぶ (28日大光寺組金屋村で火災(百姓:3間×10間))
1709年　5月9日 宝永6年　3月30日 陰晴 夜に入り小雨 (28日増館組樽沢村で火災1軒)
1709年　5月10日 宝永6年　4月1日 晴 申の下刻より小雨時々 夜に及ぶ
1709年　5月11日 宝永6年　4月2日 晴
1709年　5月12日 宝永6年　4月3日 晴
1709年　5月13日 宝永6年　4月4日 晴 (牧方村々で狼荒れ鉄砲打ちと目付を出す)
1709年　5月14日 宝永6年　4月5日 晴
1709年　5月15日 宝永6年　4月6日 晴 酉の刻より小雨時々 夜に及ぶ (狼打ちに貸し出した筒に傷があり直すこととする)
1709年　5月16日 宝永6年　4月7日 曇 巳の刻より小雨時々 夜に及ぶ
1709年　5月17日 宝永6年　4月8日 曇 昨夜より雨 卯の下刻に及び時々 夜に及ぶ
1709年　5月18日 宝永6年　4月9日 曇 昨夜より雨時々 午の下刻に及ぶ (2月15日から3月29日酸ヶ湯の入湯者数627人(弘前領478・黒石領36・南部領113)、和徳組悪戸村に50位男倒死)
1709年　5月19日 宝永6年　4月10日 晴
1709年　5月20日 宝永6年　4月11日 陰晴
1709年　5月21日 宝永6年　4月12日 曇 今朝卯の中刻雨 則止む (3月分野内出入り:出73・入り107・計180人、碇関:出1269・入り240・計1509人)
1709年　5月22日 宝永6年　4月13日 晴
1709年　5月23日 宝永6年　4月14日 晴
1709年　5月24日 宝永6年　4月15日 晴
1709年　5月25日 宝永6年　4月16日 晴
1709年　5月26日 宝永6年　4月17日 晴 (15日柏木組高増村に火災1軒、3月大間越出入り:出60・入り86・計146人)
1709年　5月27日 宝永6年　4月18日 晴
1709年　5月28日 宝永6年　4月19日 晴 (15日赤石組金井ヶ沢村・晴山村で破船2艘)
1709年　5月29日 宝永6年　4月20日 晴 午の下刻より小風
1709年　5月30日 宝永6年　4月21日 陰晴 小風
1709年　5月31日 宝永6年　4月22日 陰晴
1709年　6月1日 宝永6年　4月23日 晴 (牢賄が1日米4合4夕)
1709年　6月2日 宝永6年　4月24日 晴 (3月27日高杉組楢木村の火元の入寺・28日増館組樽沢村の火元の村預け・4月4日金木新田富野村の火元の村預けをそれぞれ御免とする)
1709年　6月3日 宝永6年　4月25日 晴
1709年　6月4日 宝永6年　4月26日 晴
1709年　6月5日 宝永6年　4月27日 晴 子の下刻地震 (23日駒越組相馬山で猟師が熊取る)
1709年　6月6日 宝永6年　4月28日 陰晴
1709年　6月7日 宝永6年　4月29日 曇 寅の中刻より小雨時々 辰の中刻に及ぶ 申の下刻より雨時々 終夜に及ぶ (4月3日夜金木新田富野村で火災は5軒)
1709年　6月8日 宝永6年　5月1日 曇 昨夜より雨時々
1709年　6月9日 宝永6年　5月2日 晴
1709年　6月10日 宝永6年　5月3日 晴
1709年　6月11日 宝永6年　5月4日 晴
1709年　6月12日 宝永6年　5月5日 晴
1709年　6月13日 宝永6年　5月6日 晴
1709年　6月14日 宝永6年　5月7日 晴 夜に入り小雨 (5日塗師大江宇右衛門逐電)
1709年　6月15日 宝永6年　5月8日 晴
1709年　6月16日 宝永6年　5月9日 晴 (大江宇右衛門の女房と娘を入牢、4月15日柏木組高増村の火元の村預け御免)
1709年　6月17日 宝永6年　5月10日 曇 申の刻より雨 夜に入り大風雨 但し北風
1709年　6月18日 宝永6年　5月11日 曇 昨晩の雨降続く 但し風寅の刻より止む
1709年　6月19日 宝永6年　5月12日 晴 小風
1709年　6月20日 宝永6年　5月13日 曇 申の上刻小雨時々 夜に及ぶ
1709年　6月21日 宝永6年　5月14日 晴 卯の后刻小雨 則止む 夜に入り雨
1709年　6月22日 宝永6年　5月15日 陰晴 卯の中刻より雨 辰の下刻止む
1709年　6月23日 宝永6年　5月16日 晴 (5月1日将軍宣下)
1709年　6月24日 宝永6年　5月17日 曇 午の刻小雨 (11日三馬屋湊で水船1艘)
1709年　6月25日 宝永6年　5月18日 曇 卯の下刻より小雨数日 (江戸からの指示により牧方狼打ちから目付を返す)
1709年　6月26日 宝永6年　5月19日 晴 (増館組十川村で水争い・一方死亡・他方入牢)
1709年　6月27日 宝永6年　5月20日 晴
1709年　6月28日 宝永6年　5月21日 晴 (藩の雇い船2艘が10日昼九つ過ぎ酒田小湊浜・上中浜で破船・前者で手伝いの住民等13人・後者で船頭1人が死亡、21日大鰐村より初胡瓜上がる・去年は16日、昨夜親方町に投げ火)
1709年　6月29日 宝永6年　5月22日 晴
1709年　6月30日 宝永6年　5月23日 晴

1709年　7月1日 宝永6年　5月24日 陰晴　寅の下刻雨　卯の中刻に及ぶ
1709年　7月2日 宝永6年　5月25日 曇　寅の刻より巳の上刻まで南西の間より風吹く　辰の中刻より少々小雨間々に　申の中刻に及ぶ
1709年　7月3日 宝永6年　5月26日 陰晴　夜に入り雨
1709年　7月4日 宝永6年　5月27日 曇　昨夜より雨　終日降り続く
1709年　7月5日 宝永6年　5月28日 曇　小雨時々　夜に及ぶ　(猪・しか・狼が荒れたら伺いなしに玉込め鉄砲を……)
1709年　7月6日 宝永6年　5月29日 陰晴　昨夜より時々雨　巳の刻に及ぶ　(27日常盤組・増館組で洪水・水湛)
1709年　7月7日 宝永6年　6月1日 晴
1709年　7月8日 宝永6年　6月2日 晴　(大鰐より青瓜3上がる、去月27日赤石組晴山村の洪水で庄屋水死)
1709年　7月9日 宝永6年　6月3日 陰晴　辰の刻より雨　巳の刻に及ぶ
1709年　7月10日 宝永6年　6月4日 晴　午の中刻より曇雨　申の下刻に及ぶ
1709年　7月11日 宝永6年　6月5日 晴　巳の中刻小雨　則止む　午の下刻大雨　雷発す
1709年　7月12日 宝永6年　6月6日 晴
1709年　7月13日 宝永6年　6月7日 晴　甚だしく暑い　(大鰐村より初茄子10上がる、碇関隠荷4固まり捨てて4人逃げる)
1709年　7月14日 宝永6年　6月8日 晴　甚だしく暑い
1709年　7月15日 宝永6年　6月9日 晴　甚だしく暑い
1709年　7月16日 宝永6年　6月10日 晴　甚だしく暑い
1709年　7月17日 宝永6年　6月11日 晴　甚だしく暑い
1709年　7月18日 宝永6年　6月12日 晴　大暑気
1709年　7月19日 宝永6年　6月13日 晴　大暑気　酉の三刻より土用に入る
1709年　7月20日 宝永6年　6月14日 晴　大暑気　午の下刻より未の中刻まで間ありて雷四五度
1709年　7月21日 宝永6年　6月15日 晴　大暑気
1709年　7月22日 宝永6年　6月16日 晴　大暑気
1709年　7月23日 宝永6年　6月17日 晴　大暑気　未の下刻雷
1709年　7月24日 宝永6年　6月18日 曇　今朝未明より小雨　則止む　巳の中刻より纔(わずか)の雨
1709年　7月25日 宝永6年　6月19日 晴　小風　午の上刻小雨　則止む
1709年　7月26日 宝永6年　6月20日 晴　大暑気
1709年　7月27日 宝永6年　6月21日 晴　大暑気
1709年　7月28日 宝永6年　6月22日 晴　大暑気
1709年　7月29日 宝永6年　6月23日 晴　大暑気
1709年　7月30日 宝永6年　6月24日 晴　大暑気　昨夜丑の刻小雨　則止む　夜に入り大雨
1709年　7月31日 宝永6年　6月25日 曇　昨夜より大雨　卯の下刻に及ぶ　巳の下刻雨
1709年　8月1日 宝永6年　6月26日 晴
1709年　8月2日 宝永6年　6月27日 晴　(松前より青森お蔵の赤餅米を沖役添えて1俵21匁で求められ出す)
1709年　8月3日 宝永6年　6月28日 晴
1709年　8月4日 宝永6年　6月29日 曇　巳の刻より雨終日　夜に及ぶ
1709年　8月5日 宝永6年　6月30日 曇　昨夜よりの雨打ち続く
1709年　8月6日 宝永6年　7月1日 晴
1709年　8月7日 宝永6年　7月2日 晴
1709年　8月8日 宝永6年　7月3日 晴　(大鰐組大鰐村から初米差上げ)
1709年　8月9日 宝永6年　7月4日 晴
1709年　8月10日 宝永6年　7月5日 晴　甚だしく暑い　(本町二丁目に盗人)
1709年　8月11日 宝永6年　7月6日 晴　残暑甚だしい　(尾崎組原田村から初米・4月22日植付・72日で出来)
1709年　8月12日 宝永6年　7月7日 晴　残暑甚だしい　(6月中不明御関所出人数都合69人)
1709年　8月13日 宝永6年　7月8日 晴　申の下刻より小雨時々　夜に及ぶ
1709年　8月14日 宝永6年　7月9日 晴
1709年　8月15日 宝永6年　7月10日 晴
1709年　8月16日 宝永6年　7月11日 晴　残暑甚だしい　(6月中大間越出入り:出32・入り38・計70人)
1709年　8月17日 宝永6年　7月12日 曇　昨夜丑の刻より雷電雨　寅の下刻止む　雷は止まず時々　巳の后刻より雨
1709年　8月18日 宝永6年　7月13日 晴　未の后刻より曇　大雨雷電数発す　申の下刻に及び止む
1709年　8月19日 宝永6年　7月14日 晴　残暑甚だしい　(塩鰤2本龍浜(竜飛)の狄上げる)
1709年　8月20日 宝永6年　7月15日 晴　残暑甚だしい
1709年　8月21日 宝永6年　7月16日 晴　残暑甚だしい
1709年　8月22日 宝永6年　7月17日 晴　残暑甚だしい
1709年　8月23日 宝永6年　7月18日 晴　残暑甚だしい
1709年　8月24日 宝永6年　7月19日 晴　残暑甚だしい
1709年　8月25日 宝永6年　7月20日 晴　残暑甚だしい
1709年　8月26日 宝永6年　7月21日 晴　残暑甚だしい　(先月中碇関:出300・入り209・計509人、野内:出93・入り125・計218人)
1709年　8月27日 宝永6年　7月22日 晴　残暑甚だしい　小風　(20日駒越組桜庭村の猟師熊取る)
1709年　8月28日 宝永6年　7月23日 晴　残暑甚だしい　昨夜丑の下刻地震　午の下刻より小雨時々
1709年　8月29日 宝永6年　7月24日 晴
1709年　8月30日 宝永6年　7月25日 晴　未の上刻小雨　則止む
1709年　8月31日 宝永6年　7月26日 晴　午の中刻小雨　(6月分御小納戸金400両を江戸登りのご家中に持参させる)

1709年　9月1日 宝永6年　7月27日 晴　残暑甚だしい
1709年　9月2日 宝永6年　7月28日 晴　残暑甚だしい （23日後潟組平館村の百姓が今別への駄賃付けの帰りに馬に乗っている(多分武家以外の乗馬はご法度)のを見かけた御家中が宇田湊で切りつける・生死不明）
1709年　9月3日 宝永6年　7月29日 晴　（7月中所々御関所出人都合32人）
1709年　9月4日 宝永6年　8月1日 晴　残暑甚だしい
1709年　9月5日 宝永6年　8月2日 晴　残暑甚だしい　未の下刻曇大雨　夜に及ぶ
1709年　9月6日 宝永6年　8月3日 晴
1709年　9月7日 宝永6年　8月4日 晴　残暑
1709年　9月8日 宝永6年　8月5日 晴　残暑甚だしい　未の下刻より雨時々　夜に及ぶ
1709年　9月9日 宝永6年　8月6日 晴　昨日より雨　終日夜に及ぶ
1709年　9月10日 宝永6年　8月7日 晴
1709年　9月11日 宝永6年　8月8日 晴　残暑甚だしい　午の上刻雨　（7月中大間越出入り:計35人・野内:出90・入り90・計180人、今8日昼7月23日に切られた平館村の百姓死亡）
1709年　9月12日 宝永6年　8月9日 晴
1709年　9月13日 宝永6年　8月10日 晴
1709年　9月14日 宝永6年　8月11日 晴　（将軍宣下の大赦）
1709年　9月15日 宝永6年　8月12日 晴
1709年　9月16日 宝永6年　8月13日 陰晴　昨夜寅の刻雷大風雨　卯の刻又雷風雨　辰の中刻　（龍濱遠見御番所2間×3間）
1709年　9月17日 宝永6年　8月14日 陰晴
1709年　9月18日 宝永6年　8月15日 晴
1709年　9月19日 宝永6年　8月16日 晴　（12～13日の北風で深浦で破船4艘、12日赤石組で作毛に大風被害）
1709年　9月20日 宝永6年　8月17日 陰晴
1709年　9月21日 宝永6年　8月18日 晴　午の下刻より小風
1709年　9月22日 宝永6年　8月19日 晴
1709年　9月23日 宝永6年　8月20日 晴　昨夜戌の中刻より夜中時々雨　（御払塩値段1俵に付き5匁宛）
1709年　9月24日 宝永6年　8月21日 晴
1709年　9月25日 宝永6年　8月22日 晴　申の中刻より雷　小雨時々　終夜に及ぶ
1709年　9月26日 宝永6年　8月23日 曇　卯の上刻雷数発す　昨夜よりの小雨打ち続く　（今日今別より初鮭塩にて差上げる・傷があり返す）　下から続く　疋、小荷駄2疋、御姫様御中間に新田村弥兵衛2両2人扶持）
1709年　9月27日 宝永6年　8月24日 曇　昨夜よりの雨打ち続く　今朝岩木山に雪見る　下から続く　95・24・10)・下男400(253・64・30・36・11・6)・下女236(139・46・26・17・6・2)、家屋敷79軒と105軒、乗馬1　上に続く
1709年　9月28日 宝永6年　8月25日 晴　夜に入り小雨　則止む　（御用人支配当丑切支丹改人数の覚え:惣人数3264人・上男1400(禅900・浄土244・法花98・門徒107・真言37・天台14)・上女1228(766・223・110・　上に続く
1709年　9月29日 宝永6年　8月26日 陰晴　（初鮭1尺金ヶ沢より差上げる、増館組郷山前村に女倒死）
1709年　9月30日 宝永6年　8月27日 晴　午の上刻小風　（24日駒越組田代村の猟師熊取る）
1709年　10月1日 宝永6年　8月28日 曇　夜に入り雨
1709年　10月2日 宝永6年　8月29日 陰晴　昨夜よりの雨時々　卯の中刻に及ぶ　（鮭留運上入札:原別川542匁・綱不知川175匁）
1709年　10月3日 宝永6年　9月1日 晴
1709年　10月4日 宝永6年　9月2日 晴
1709年　10月5日 宝永6年　9月3日 陰晴
1709年　10月6日 宝永6年　9月4日 晴
1709年　10月7日 宝永6年　9月5日 晴
1709年　10月8日 宝永6年　9月6日 晴　（御国の米俵が他国のものより長いんだそうな・規格をあわせるように指導等をする）
1709年　10月9日 宝永6年　9月7日 晴　夜に入り雨時々
1709年 10月10日 宝永6年　9月8日 晴　昨夜雨時々　辰の刻に及び止む　未の刻小雨　則止む
1709年 10月11日 宝永6年　9月9日 晴　（10両に付き米38俵）
1709年 10月12日 宝永6年　9月10日 曇　午の后刻小雨
1709年 10月13日 宝永6年　9月11日 曇　昨夜より雨時々　辰の刻より巳の刻まで雷数発す
1709年 10月14日 宝永6年　9月12日 晴　小風
1709年 10月15日 宝永6年　9月13日 晴　夜に入り雨
1709年 10月16日 宝永6年　9月14日 曇
1709年 10月17日 宝永6年　9月15日 曇　辰の后刻より時々雨　時々小風　亥の后刻より大風　（今日酉の刻ころより風強い・九つころ大風なり・夜明け方吹き止み申し候）
1709年 10月18日 宝永6年　9月16日 陰晴　（昨夜中の強風で被害・報告）
1709年 10月19日 宝永6年　9月17日 晴　戌の仲刻より雨　終夜に及ぶ
1709年 10月20日 宝永6年　9月18日 曇　昨夜より雨打ち続く　（8月分碇関口:出366・入り229・計595人）
1709年 10月21日 宝永6年　9月19日 晴　（25日小泊村で破船1艘）
1709年 10月22日 宝永6年　9月20日 晴　巳の刻より雨少しずつ降る
1709年 10月23日 宝永6年　9月21日 晴
1709年 10月24日 宝永6年　9月22日 晴　（御用金120両差し登）
1709年 10月25日 宝永6年　9月23日 晴　申の刻雷雨暫く
1709年 10月26日 宝永6年　9月24日 晴
1709年 10月27日 宝永6年　9月25日 晴　小風　申の刻より雷時々　終夜に及ぶ
1709年 10月28日 宝永6年　9月26日 曇　昨夜より雨時々　巳の上刻　未の上刻より雨　酉の下刻に及ぶ
1709年 10月29日 宝永6年　9月27日 晴
1709年 10月30日 宝永6年　9月28日 曇　未の刻より時々雨　夜に及ぶ　（8月大間越出入り:出52・入り26・計78人）
1709年 10月31日 宝永6年　9月29日 晴　未の刻より雨時々　夜に及ぶ

1709年　11月1日 宝永6年　　9月30日 晴 （和徳組清野袋村で1人走る、8月野内出入り:出78・入り88・計166人）
1709年　11月2日 宝永6年　　10月1日 晴 大霜今朝見る
1709年　11月3日 宝永6年　　10月2日 晴 （酒値段1升に付き7分に）
1709年　11月4日 宝永6年　　10月3日 陰晴 申の上刻雨
1709年　11月5日 宝永6年　　10月4日 曇 岩木山に雪半分ほど今朝見る 昨夜雨時々打ち続く
1709年　11月6日 宝永6年　　10月5日 晴
1709年　11月7日 宝永6年　　10月6日 曇 昨夜より雨時々 終日夜に及ぶ （不動尊御出汗）
1709年　11月8日 宝永6年　　10月7日 晴
1709年　11月9日 宝永6年　　10月8日 曇 卯の刻より雨 雷発す
1709年 11月10日 宝永6年　　10月9日 晴 夜に入り雪
1709年 11月11日 宝永6年　　10月10日 曇 昨夜より雪降り続く
1709年 11月12日 宝永6年　　10月11日 晴
1709年 11月13日 宝永6年　　10月12日 曇 雨雪
1709年 11月14日 宝永6年　　10月13日 曇 昨亥の下刻地震 昨夜の雪六七歩降り敷く今朝見る 昨夜の雪時々 夜に及ぶ （9月中大間越出入り:出78・入り12・計90人）
1709年 11月15日 宝永6年　　10月14日 曇
1709年 11月16日 宝永6年　　10月15日 晴 （山口勝右衛門の報告では9月中関の出:5人）
1709年 11月17日 宝永6年　　10月16日 晴 （先月碇関:出159・入り191・計350人、野内:出69・入り60・計129人、8月12日青森から出た船が鳥井崎(大間崎)で破船1艘）
1709年 11月18日 宝永6年　　10月17日 陰晴
1709年 11月19日 宝永6年　　10月18日 陰晴 午の中刻より小雨 則止む
1709年 11月20日 宝永6年　　10月19日 晴
1709年 11月21日 宝永6年　　10月20日 晴
1709年 11月22日 宝永6年　　10月21日 陰晴 雨時々
1709年 11月23日 宝永6年　　10月22日 曇 巳の下刻より霙時々 夜に入り雪 （雑穀代米米1升に付き:次大豆1升2合5夕・次赤小豆3合5夕）
1709年 11月24日 宝永6年　　10月23日 陰晴 昨夜の雪厚1寸ほど今朝見る 時々小雪 夜に及ぶ
1709年 11月25日 宝永6年　　10月24日 陰晴 昨夜より雪時々 （油川組の酒は弘前より1分増の8分とする）
1709年 11月26日 宝永6年　　10月25日 晴 今朝端々の水溜り氷見る （柏木組柏木村で口論喧嘩・24日死亡）
1709年 11月27日 宝永6年　　10月26日 陰晴 大霜今朝見る 申の中刻より小雨時々に及ぶ 御堀え薄氷初めて見る （米1000俵代銭17貫目・金1両に付き83匁6分、初鱈は15匁、酒値段(1升に付き)8分にする）
1709年 11月28日 宝永6年　　10月27日 曇 昨夜より雨時々 終日に及ぶ
1709年 11月29日 宝永6年　　10月28日 曇 卯の刻より小雪 夜に及ぶ
1709年 11月30日 宝永6年　　10月29日 曇 昨夜の雪時々 終日夜に及ぶ （代替上納(米1升に付き):次大豆1升7合・次蕎麦3升3合・次粟2升8合・次黒小豆1升5合・次赤小豆1升・次小麦5合・次白黒粒油9合・稗4升）
1709年　12月1日 宝永6年　　11月1日 陰晴 昨夜より雪 巳の下刻に及ぶ 午の后刻より時々雪 夜に及ぶ （御城中に前々のように火鉢出す）
1709年　12月2日 宝永6年　　11月2日 陰晴 昨夜より雪時々
1709年　12月3日 宝永6年　　11月3日 陰晴 昨夜より雪時々
1709年　12月4日 宝永6年　　11月4日 陰晴 卯の后刻より小雪時々 夜に入り吹雪 （10月分御小納戸金400両などを差し登、昨晩東長町に2歳斗男子捨子）
1709年　12月5日 宝永6年　　11月5日 曇 昨夜より大吹雪終日 夜に及ぶ
1709年　12月6日 宝永6年　　11月6日 陰晴 （去秋より当秋まで10万石ほど津出し・来年は13万2000石余の津出しを要す）
1709年　12月7日 宝永6年　　11月7日 晴 夜に入り小雪 （5日高杉組独鈷村で火災(3間×6間:高無)、3日深浦で乞食小屋が火災・1人死亡）
1709年　12月8日 宝永6年　　11月8日 晴 夜に入り雨 （4日野内で大風・番所に被害、10月野内:出57・入り54・計111人）
1709年　12月9日 宝永6年　　11月9日 曇 昨夜より雨終日 夜に入り風雨強し （青森より初鱈1尾差上げる）
1709年 12月10日 宝永6年　　11月10日 曇 昨夜より霙時々 （10月中大間越:出55・入り74人）
1709年 12月11日 宝永6年　　11月11日 陰晴 辰の中刻山大キに鳴る 巳の中刻より山鳴り 同刻雷 未の刻より雨 （大間越御蔵米1俵に付き12匁5分で売貸願い・1俵15匁で、駒越組杉ヶ沢村の猟師熊取る）
1709年 12月12日 宝永6年　　11月12日 曇 雨雪 （米代1俵に付き:岡在16匁・西浜17匁・外浜17匁）
1709年 12月13日 宝永6年　　11月13日 曇 昨日の雪雨打ち続く
1709年 12月14日 宝永6年　　11月14日 曇 雪時々 夜に及ぶ
1709年 12月15日 宝永6年　　11月15日 晴
1709年 12月16日 宝永6年　　11月16日 晴 （11日広須新田稲盛村で火災、駒越組大秋山で熊取る）
1709年 12月17日 宝永6年　　11月17日 晴 （原別川運上42匁3分・綱不知川同13匁5分）
1709年 12月18日 宝永6年　　11月18日 陰晴 （転び切支丹出生の覚え）
1709年 12月19日 宝永6年　　11月19日 晴 （10月中碇関:出174・入り221・計395人）
1709年 12月20日 宝永6年　　11月20日 曇 卯の下刻より雨 （赤石組沢部村で火災1軒）
1709年 12月21日 宝永6年　　11月21日 晴 申の下刻より雨 夜に及ぶ （米値段1俵に付き:14匁3分9厘・金1両に付き83匁6分8厘、駒越組大秋村の猟師熊取る）
1709年 12月22日 宝永6年　　11月22日 曇 昨夜より雨打ち続く （大鰐組碇関山で猟師が熊(胆長4寸1歩廻り6寸3歩)取る）
1709年 12月23日 宝永6年　　11月23日 曇 卯の刻より小雪 辰の中刻まで雪降る （20日朝から東風強く青森で破船3艘）
1709年 12月24日 宝永6年　　11月24日 陰晴
1709年 12月25日 宝永6年　　11月25日 曇 卯の上刻より雪 終日に及ぶ （金木新田収納米87俵2斗3升9合4夕の代銭1貫138匁7分8厘・但し1俵に付き13匁宛）
1709年 12月26日 宝永6年　　11月26日 晴
1709年 12月27日 宝永6年　　11月27日 晴 （24日駒越組杉ヶ沢の猟師が熊取る）
1709年 12月28日 宝永6年　　11月28日 晴
1709年 12月29日 宝永6年　　11月29日 晴 夜に入り雨 （24日大秋山で駒越組大秋村の猟師が熊取る）
1709年 12月30日 宝永6年　　11月30日 曇 昨夜より雨 辰の刻に及ぶ それより霙 （当月中碇関:出13人）
1709年 12月31日 宝永6年　　12月1日 曇 昨夜より大吹雪 夜に及ぶ

1710年　1月1日 宝永6年　12月2日 曇　昨夜より大吹雪 （米1俵に付き:鯵ヶ沢19匁7分4厘・弘前18匁7分9厘・青森20目2分5厘、金両替83匁9分）
1710年　1月2日 宝永6年　12月3日 曇　昨夜よりの大吹雪打ち続く （金10両に付き沖御役共42俵半で買い受けたいとの申し入れ）
1710年　1月3日 宝永6年　12月4日 昨夜よりの雪時々終日　夜に及ぶ
1710年　1月4日 宝永6年　12月5日 陰晴　昨夜より雪終日 （赤石組舞戸で火災）
1710年　1月5日 宝永6年　12月6日 晴 （11月大間越:出19・入り33・計52人、3日鯵ヶ沢舞戸で火災（6軒・借家4軒・土蔵1個焼失:昨日の記述と同じかも）、4日駒越組目屋野沢で猟師が熊取る）
1710年　1月6日 宝永6年　12月7日 曇　夜に入り雪　今日より小寒に入る
1710年　1月7日 宝永6年　12月8日 曇　昨夜より雪降り続く　終日 （1日浅虫沖で破船1艘）
1710年　1月8日 宝永6年　12月9日 陰晴　昨夜より雪降り続く （御献上雉子60羽差上げる:生類憐れみの間はやらなかったのではないか）
1710年　1月9日 宝永6年　12月10日 陰晴　小雪時々
1710年　1月10日 宝永6年　12月11日 曇　纔（わずか）雪
1710年　1月11日 宝永6年　12月12日 晴
1710年　1月12日 宝永6年　12月13日 晴　未の下刻より小雪時々　夜に及ぶ
1710年　1月13日 宝永6年　12月14日 晴
1710年　1月14日 宝永6年　12月15日 曇　未の下刻より雨　夜に及ぶ （駒越組杉ヶ沢村の猟師が熊取る）
1710年　1月15日 宝永6年　12月16日 曇　夜に入り雪
1710年　1月16日 宝永6年　12月17日 陰晴　時々小雪
1710年　1月17日 宝永6年　12月18日 曇　吹雪 （11月野内:出55・入り37・計92人）
1710年　1月18日 宝永6年　12月19日 陰晴　昨夜より時々雪　夜に及ぶ （11月碇関:出124・入り143・計267人）
1710年　1月19日 宝永6年　12月20日 陰晴　昨夜より雪時々 （17日大鰐組湯野川原村で火災・家半分ほどと馬3疋焼死、同日浦町組八役村で火災1軒）
1710年　1月20日 宝永6年　12月21日 晴　申の下刻より雪　夜に及ぶ （11日蟹田町で火災・火元の入寺赦免）
1710年　1月21日 宝永6年　12月22日 晴　昨夜よりの雪時々
1710年　1月22日 宝永6年　12月23日 陰晴　小雪
1710年　1月23日 宝永6年　12月24日 陰晴　昨夜の雪今朝見る
1710年　1月24日 宝永6年　12月25日 晴
1710年　1月25日 宝永6年　12月26日 陰晴
1710年　1月26日 宝永6年　12月27日 陰晴　卯の下刻より大雪　午の下刻より止む　それより時々小雪
1710年　1月27日 宝永6年　12月28日 晴　夜に入り雪 （24日駒越組大秋山で猟師が熊取る、8月24日に駒越組田代村の猟師が取った熊の胆の目方は1匁2分）
1710年　1月28日 宝永6年　12月29日 陰晴　時々小雪 （25日駒越組目屋野沢山で猟師が熊取る、十三潟が当月2日より氷はり・23日より往行す）
1710年　1月29日 宝永6年　12月30日 曇　昨夜中よりの大吹雪　終夜に及ぶ
1710年　1月30日 宝永7年　正月1日　晴
1710年　1月31日 宝永7年　正月2日　晴
1710年　2月1日 宝永7年　正月3日　陰晴　辰の中刻より雪終日　夜に及ぶ
1710年　2月2日 宝永7年　正月4日　曇　昨日よりの雪打ち続く　夜に及ぶ
1710年　2月3日 宝永7年　正月5日　曇　昨日の雪打ち続く　未の下刻止む　夜に入り雪
1710年　2月4日 宝永7年　正月6日　晴
1710年　2月5日 宝永7年　正月7日　曇　昨夜より雪降り続く
1710年　2月6日 宝永7年　正月8日　晴
1710年　2月7日 宝永7年　正月9日　晴
1710年　2月8日 宝永7年　正月10日　晴　夜に入り小雪
1710年　2月9日 宝永7年　正月11日　陰晴　時々小雪
1710年　2月10日 宝永7年　正月12日　晴 （生類憐れみの令に関して元禄5年8月10日に新島へ流罪になっていた飯詰組石田坂村の百姓次兵衛が将軍宣下の大赦により遠島御免となる）
1710年　2月11日 宝永7年　正月13日　晴
1710年　2月12日 宝永7年　正月14日　曇　巳の后刻より雪終日
1710年　2月13日 宝永7年　正月15日　晴 （石田坂村の百姓次兵衛到着、12月中碇関:出93・入り83・計176人）
1710年　2月14日 宝永7年　正月16日　晴　夜に入り小雪 （南部口越山とした百姓次兵衛の同類（2人）・妻子（3人）の計5人の居所を調べ呼び戻すよう郡奉行え申し渡す:下記の枠外の「注」参照）
1710年　2月15日 宝永7年　正月17日　晴
1710年　2月16日 宝永7年　正月18日　晴
1710年　2月17日 宝永7年　正月19日　晴
1710年　2月18日 宝永7年　正月20日　晴 （15日駒越組目屋野沢で・14日田舎館組馬場尻村の猟師がそれぞれ熊取る、2日木作村で雪で蔵?がつぶれる）
1710年　2月19日 宝永7年　正月21日　晴
1710年　2月20日 宝永7年　正月22日　陰晴　小風
1710年　2月21日 宝永7年　正月23日　陰晴　小風　夜に入り雨 （21日尾崎組新館村で火災1軒）
1710年　2月22日 宝永7年　正月24日　曇　小雪時々　東北の間の風終日　夜に入る （去年は豊作なのだそうな）
1710年　2月23日 宝永7年　正月25日　曇
1710年　2月24日 宝永7年　正月26日　陰晴　時々小雪
1710年　2月25日 宝永7年　正月27日　曇　時々小雪 （昨夜御家中の家来が縊死）
1710年　2月26日 宝永7年　正月28日　晴 （18日金木組宮野沢村の猟師・24日駒越組大秋山で猟師熊取る、12月野内:出30・入り26・計56人、12月3日舞戸新田村の火元の村預けを要望により御免）
1710年　2月27日 宝永7年　正月29日　曇　辰の中刻より小雪時々 （当月中碇関:都合11人）
1710年　2月28日 宝永7年　2月1日 晴　時々小雪　夜に及ぶ

「注」 越山は領外追放で、死罪に継ぐ刑罰である。他領で守られたとは考えられない。弘前藩庁日記にも出した記録が多いが、受け入れた記録は見えない。まして、元禄9年の飢饉があり、多くの死者を出している。その影響は南部藩（青森県東部と岩手県北部）にも現れたと見られる。5人の関係者が見つかったという記録はない。

1710年　3月1日 宝永7年　2月2日 晴
1710年　3月2日 宝永7年　2月3日 晴　夜に入り小雪
1710年　3月3日 宝永7年　2月4日 晴　申の刻雪　暫くして止む　夜に入り雪　(2日駒越組杉ヶ沢村の猟師が熊取る)
1710年　3月4日 宝永7年　2月5日 陰晴　巳の中刻雪
1710年　3月5日 宝永7年　2月6日 晴　(3日大鰐組碇関山で苦木村の猟師熊取る)
1710年　3月6日 宝永7年　2月7日 晴
1710年　3月7日 宝永7年　2月8日 晴
1710年　3月8日 宝永7年　2月9日 晴
1710年　3月9日 宝永7年　2月10日 晴
1710年　3月10日 宝永7年　2月11日 晴
1710年　3月11日 宝永7年　2月12日 晴
1710年　3月12日 宝永7年　2月13日 曇　未の上刻より小雨時々
1710年　3月13日 宝永7年　2月14日 晴　下から続く　・9・25)・下男378(238・57・33・34・6・10)・下女224(126・48・25・15・3・7)、家屋敷191軒・小荷駄3疋)
1710年　3月14日 宝永7年　2月15日 曇　巳の中刻より小雪終日　夜に及ぶ　(御用人支配中切支丹:惣人数3243人・上男1411(禅907・浄土246・法花95・門徒111・天台14・真言38)・上女1230(765・226・104・101　上に続く
1710年　3月15日 宝永7年　2月16日 曇　昨夜より雪風　夜に及ぶ
1710年　3月16日 宝永7年　2月17日 晴　(9日金木組宮野沢村の猟師が熊取る)
1710年　3月17日 宝永7年　2月18日 晴
1710年　3月18日 宝永7年　2月19日 曇　時々吹雪
1710年　3月19日 宝永7年　2月20日 曇　巳の下刻より丸雪　(15・16日大鰐組三目内山で居土村の猟師が熊取る)
1710年　3月20日 宝永7年　2月21日 陰晴
1710年　3月21日 宝永7年　2月22日 晴　(17日駒越組大秋村の猟師が熊取る)
1710年　3月22日 宝永7年　2月23日 晴
1710年　3月23日 宝永7年　2月24日 晴　午の后刻地震　則止む
1710年　3月24日 宝永7年　2月25日 晴　(21日広田組姥菟村・喰川村の橋が雪水で流失)
1710年　3月25日 宝永7年　2月26日 曇　寅の上刻地震
1710年　3月26日 宝永7年　2月27日 曇　(24日田舎館組馬場尻村の猟師が熊取る)
1710年　3月27日 宝永7年　2月28日 晴　夜に入り雨　(十三潟21日晩に明ける)
1710年　3月28日 宝永7年　2月29日 曇　昨夜雨　巳の下刻に及ぶ　(尾崎組切明村・堀越組一野渡村の猟師がそれぞれ熊取る)
1710年　3月29日 宝永7年　2月30日 晴　(水論で相手を打殺した男が取上で斬罪)
1710年　3月30日 宝永7年　3月1日 晴　今朝大霜見る
1710年　3月31日 宝永7年　3月2日 曇　子の下刻地震　則止む　(先月28日大鰐組関山で唐牛村の猟師が熊取る)
1710年　4月1日 宝永7年　3月3日 晴　今朝大霜見る
1710年　4月2日 宝永7年　3月4日 晴　夜に入り小雨
1710年　4月3日 宝永7年　3月5日 陰晴　小風時々　夜に入り小雨　(3日大鰐組苦木村の・2月29日駒越組相馬村の猟師・2月29日広須新田大館村の猟師がそれぞれ熊取る)
1710年　4月4日 宝永7年　3月6日 曇　昨夜よりの雨
1710年　4月5日 宝永7年　3月7日 晴　(2日牧支配の猟師が熊取る、鯵ヶ沢町で米1俵が17匁7分4厘)
1710年　4月6日 宝永7年　3月8日 晴
1710年　4月7日 宝永7年　3月9日 晴　巳の下刻より曇　(今日雨降南風で山の雪消え洪水、石渡橋・紺屋町・馬屋町・荒町の橋が落ちる、2月分御小納戸金200両差し登、6日尾崎組切明山・7日駒越組相馬山で猟師が熊取る)
1710年　4月8日 宝永7年　3月10日 晴　午の下刻より小雨　未の中刻より大雨　夜に及び小風　戌の下刻より岩木川洪水　亥の上刻紺屋町橋・荒町橋・石渡橋落ちる
1710年　4月9日 宝永7年　3月11日 晴　(7日昼前十三領牛潟村で野火(1800間×600間余))
1710年　4月10日 宝永7年　3月12日 晴　(11日増館組増館村で火災3軒、9日の洪水で石川仮橋33間落ち・藤崎川仮橋板8枚流れる、8日昼浦町組入内で野火(50間×30間))
1710年　4月11日 宝永7年　3月13日 陰晴　(2月碇関:出105・入り230・計335人)
1710年　4月12日 宝永7年　3月14日 晴
1710年　4月13日 宝永7年　3月15日 陰晴　(13日夜青森で火災12軒土蔵1つ焼く、12日尾崎組切明山で唐竹村の猟師が熊取る)
1710年　4月14日 宝永7年　3月16日 曇　昨夜の雨巳の中刻に及ぶ時々
1710年　4月15日 宝永7年　3月17日 晴　巳の下刻より小風
1710年　4月16日 宝永7年　3月18日 晴　(2月中野内:出72・入り37人、駒越組田代村の猟師が熊取る)
1710年　4月17日 宝永7年　3月19日 曇　巳の刻小雨　小風時々　(7日夜油川組岩渡村で火災1軒)
1710年　4月18日 宝永7年　3月20日 晴　(17日広須新田岡部里村で庄屋家火災1軒)
1710年　4月19日 宝永7年　3月21日 晴　夜に入り雨
1710年　4月20日 宝永7年　3月22日 陰晴
1710年　4月21日 宝永7年　3月23日 曇　辰の下刻より小雨　小風　未の下刻に及ぶ　(18日駒越組目屋野沢で田代村の猟師が熊取る)
1710年　4月22日 宝永7年　3月24日 陰晴　小風　午の中刻大風　則止む　未の下刻震動　申の上刻山鳴り　(20日浦町組金濱村で火災(2間×3間)・家内5人行方不明)
1710年　4月23日 宝永7年　3月25日 晴
1710年　4月24日 宝永7年　3月26日 晴
1710年　4月25日 宝永7年　3月27日 晴　(21日飯詰組太刀内村で種蒔初め、21日浦町組入内で野火(10町×4町)、上方登りの米4万石・運賃米を含めると4万6千石)
1710年　4月26日 宝永7年　3月28日 曇
1710年　4月27日 宝永7年　3月29日 曇　午の下刻より風雨　(26日油川組津軽坂村に野火(70間×30間)、2月中大間越:出15・入り92・計107人)
1710年　4月28日 宝永7年　3月30日 晴　夜に入り雨
1710年　4月29日 宝永7年　4月1日 曇　昨夜中より雨　辰の中刻雷時々　下刻に及ぶ　巳の上刻雷電数発す　(3月29日大風で鯵ヶ沢間で御用船1艘破船・積んだ米1200俵残らず捨り申し候)
1710年　4月30日 宝永7年　4月2日 陰晴

1710年　5月1日 宝永7年　4月3日 曇　未の下刻より雨　夜に及ぶ （先月29日の大雨で大間越の橋破損、頃日青森町に投げ火）
1710年　5月2日 宝永7年　4月4日 曇　小風 （御用船破船の荷代の負担の例か?、1日大鰐組虹貝山で居土村の猟師が熊取る）
1710年　5月3日 宝永7年　4月5日 晴
1710年　5月4日 宝永7年　4月6日 陰晴　夜に入り雨
1710年　5月5日 宝永7年　4月7日 曇　昨夜よりの雨打ち続く　時々 （3月17日火災の広須新田岡部里村の庄屋の預け御免・耕作に付き、3月中大間越:出14・入り211・計225人）
1710年　5月6日 宝永7年　4月8日 曇　昨日よりの雨打ち続く　時々
1710年　5月7日 宝永7年　4月9日 晴 （例年の通り狼おどしの鉄砲を牧方に渡す）
1710年　5月8日 宝永7年　4月10日 晴　夜に入り雨
1710年　5月9日 宝永7年　4月11日 曇　昨夜よりの風雨　午の刻に及ぶ
1710年　5月10日 宝永7年　4月12日 陰晴 （11日の難風で鯵ヶ沢間(ま)で破船2艘(1500俵宛積)・16人行方不明・他に水船2艘）
1710年　5月11日 宝永7年　4月13日 晴　夜に入り時々小雨 （野内番所に鉄砲10・鑓10あり・何れも見苦しい）
1710年　5月12日 宝永7年　4月14日 曇　時々雨　風添う （12日大鰐組碇関で野火、11日深浦間で破船1艘）
1710年　5月13日 宝永7年　4月15日 晴
1710年　5月14日 宝永7年　4月16日 晴 （不明日飯詰組金山村に野火）
1710年　5月15日 宝永7年　4月17日 晴
1710年　5月16日 宝永7年　4月18日 曇　辰の中刻より小風　雨終日 （3月中野内:出93・入り37・計130人、16日青森町で家来が主人の子を殺し自害(17日死亡)、12日振りの申し付けに1日早着の飛脚に褒美2歩宛）
1710年　5月17日 宝永7年　4月19日 曇　巳の中刻少し雨　則止む　夜に入り風雨
1710年　5月18日 宝永7年　4月20日 晴　小風　辰の上刻地震
1710年　5月19日 宝永7年　4月21日 曇　小雨時々 （18日の大風で野内町・横内・浦町組に被害）
1710年　5月20日 宝永7年　4月22日 晴
1710年　5月21日 宝永7年　4月23日 晴　巳の下刻雨　午の后刻に及ぶ （18日の風被害内容あり、広須組野木村で火災1軒）
1710年　5月22日 宝永7年　4月24日 晴 （米値段1俵に付き14匁5分）
1710年　5月23日 宝永7年　4月25日 曇　昨夜より震動時々　卯の刻より雨　巳の下刻に及ぶ
1710年　5月24日 宝永7年　4月26日 晴
1710年　5月25日 宝永7年　4月27日 晴
1710年　5月26日 宝永7年　4月28日 曇
1710年　5月27日 宝永7年　4月29日 曇　午の中刻雨 （当月中碇関:出計50人、11日赤石組岩崎・松神村から出た船5艘が嶋鹿?で破船・2人死亡、23日浪岡で御国廻り様のためのたたみさしが頭を切り殺し自害(25日に死亡)）
1710年　5月28日 宝永7年　5月1日 晴 （先月26日広須新田南広森村で火災3軒）
1710年　5月29日 宝永7年　5月2日 晴 （3月11日の増館村の火元の村預け御免）
1710年　5月30日 宝永7年　5月3日 晴 （4月中野内:出95・入り83・計178人）
1710年　5月31日 宝永7年　5月4日 晴 （屋根に菖蒲を飾る、4月15日付の武家諸法度有り(将軍かかわるたびに武家諸法度を出しなおし御国廻り様を派遣するらしい)）
1710年　6月1日 宝永7年　5月5日 晴　未の下刻より小雨　申の下刻に及ぶ
1710年　6月2日 宝永7年　5月6日 晴
1710年　6月3日 宝永7年　5月7日 曇　今夜寅の下刻より小雨時々
1710年　6月4日 宝永7年　5月8日 晴
1710年　6月5日 宝永7年　5月9日 曇　卯の中刻より小雨
1710年　6月6日 宝永7年　5月10日 晴 （4月中大間越:出127・入り92・計218人）
1710年　6月7日 宝永7年　5月11日 曇
1710年　6月8日 宝永7年　5月12日 曇　巳の下刻より小雨　午の上刻に及ぶ(午及上刻:こんなのざら)　申の下刻より小雨　夜に及ぶ
1710年　6月9日 宝永7年　5月13日 曇　昨夜より雨降続く　夜に及ぶ
1710年　6月10日 宝永7年　5月14日 曇　昨夜より雨　卯の下刻に及ぶ
1710年　6月11日 宝永7年　5月15日 曇　昨夜より時々雨　終日に及ぶ
1710年　6月12日 宝永7年　5月16日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1710年　6月13日 宝永7年　5月17日 曇　昨夜より雨終日　時々纔(わずか)に雨
1710年　6月14日 宝永7年　5月18日 陰晴　夜に入り雨
1710年　6月15日 宝永7年　5月19日 陰晴
1710年　6月16日 宝永7年　5月20日 曇　昨夜より雨時々 （米1俵沖口共18匁9分5厘(平米15匁5分＋沖出御役3匁4分5厘)）
1710年　6月17日 宝永7年　5月21日 晴
1710年　6月18日 宝永7年　5月22日 陰晴　午の上刻より雨　則刻止む
1710年　6月19日 宝永7年　5月23日 晴
1710年　6月20日 宝永7年　5月24日 晴
1710年　6月21日 宝永7年　5月25日 曇
1710年　6月22日 宝永7年　5月26日 晴
1710年　6月23日 宝永7年　5月27日 晴　巳の刻より曇　午の后刻雨
1710年　6月24日 宝永7年　5月28日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1710年　6月25日 宝永7年　5月29日 晴　午の上刻より曇　雨　則刻止む （昨日の雨で石渡仮橋残らず流れる、石川橋の18間も同様、湯口村の相馬川で男2人流死）
1710年　6月26日 宝永7年　5月30日 陰晴 （当月中不明関:計49人）
1710年　6月27日 宝永7年　6月1日 晴　夜に入り小雨時々
1710年　6月28日 宝永7年　6月2日 陰晴　時々曇　小雨
1710年　6月29日 宝永7年　6月3日 晴
1710年　6月30日 宝永7年　6月4日 晴 （浪岡の御国廻り様の宿修復に行く御家中が切り合い負傷）

1710年　7月1日 宝永7年　6月5日 晴
1710年　7月2日 宝永7年　6月6日 晴
1710年　7月3日 宝永7年　6月7日 晴 (5月中野内:出107・入り115・計222人、大間越:出189・入り43・計232人)
1710年　7月4日 宝永7年　6月8日 晴 (幕府御国廻り3人碇関着)
1710年　7月5日 宝永7年　6月9日 曇 昨夜より雨 卯の下刻に及ぶ 卯の中刻より下刻までのうち電雷四五度 巳の上刻小雨
1710年　7月6日 宝永7年　6月10日 晴 午の后刻小雨 則止む 未の刻より曇大雨 夜に及ぶ
1710年　7月7日 宝永7年　6月11日 陰晴
1710年　7月8日 宝永7年　6月12日 陰晴
1710年　7月9日 宝永7年　6月13日 曇 卯の中刻小雨 則止む
1710年　7月10日 宝永7年　6月14日 陰晴 未の刻より雨 夜に及ぶ
1710年　7月11日 宝永7年　6月15日 陰晴 申の下刻より雨時々 夜に及ぶ
1710年　7月12日 宝永7年　6月16日 晴
1710年　7月13日 宝永7年　6月17日 晴
1710年　7月14日 宝永7年　6月18日 陰晴
1710年　7月15日 宝永7年　6月19日 陰晴 昨夜より雨 辰の刻 酉の刻より小雨
1710年　7月16日 宝永7年　6月20日 晴 (4月26日広須新田南広森村で火災の火元の他村預け赦免)
1710年　7月17日 宝永7年　6月21日 晴
1710年　7月18日 宝永7年　6月22日 陰晴
1710年　7月19日 宝永7年　6月23日 晴 夜に入り雨
1710年　7月20日 宝永7年　6月24日 曇 昨夜より雨降続く
1710年　7月21日 宝永7年　6月25日 曇 辰の中刻纔(わずか)雨
1710年　7月22日 宝永7年　6月26日 陰晴 昨夜の雨卯の上刻に及ぶ
1710年　7月23日 宝永7年　6月27日 晴
1710年　7月24日 宝永7年　6月28日 晴
1710年　7月25日 宝永7年　6月29日 晴 巳の下刻小雨 則止む 午の刻電雷雨 夜に及ぶ (当月中関所:52、大間越:出74・入り31人)
1710年　7月26日 宝永7年　7月1日 陰晴 暑気甚だしい
1710年　7月27日 宝永7年　7月2日 晴 辰の上刻小雨 則止む 暑気甚だしい
1710年　7月28日 宝永7年　7月3日 晴 暑気甚だしい (3月13日青森浜町火災12軒の火元入寺御免)
1710年　7月29日 宝永7年　7月4日 陰晴 暑気甚だしい (屋形様当月9日御発駕予定)
1710年　7月30日 宝永7年　7月5日 陰晴
1710年　7月31日 宝永7年　7月6日 陰晴
1710年　8月1日 宝永7年　7月7日 晴 暑気甚だしい
1710年　8月2日 宝永7年　7月8日 晴 暑気甚だしい 申の下刻雨 則止む
1710年　8月3日 宝永7年　7月9日 晴 卯の后刻より雨 巳の中刻に及ぶ
1710年　8月4日 宝永7年　7月10日 晴
1710年　8月5日 宝永7年　7月11日 晴 暑気甚だしい
1710年　8月6日 宝永7年　7月12日 晴
1710年　8月7日 宝永7年　7月13日 晴 巳の下刻小雨風 未の刻に及ぶ
1710年　8月8日 宝永7年　7月14日 晴 卯の上刻雨 則刻止む 未の下刻雨 申の上刻止む 戌の上刻より雨 中刻に及ぶ
1710年　8月9日 宝永7年　7月15日 晴 卯の上刻雨 則刻止む 辰の刻雨時々 巳の下刻より大雨 午の上刻雷電数発す 未の刻に及ぶ
1710年　8月10日 宝永7年　7月16日 晴 卯の中刻より少し雨 巳の下刻に及ぶ (15日昼夜大雨に付き今朝五時過ぎ小山内新右衛門屋敷前北東角土居中段より二の郭御堀の水漏れ出す)
1710年　8月11日 宝永7年　7月17日 晴 (一昨15日大光寺組荒田村で草刈中男倒死、9日江戸発の関札打到着)
1710年　8月12日 宝永7年　7月18日 陰晴
1710年　8月13日 宝永7年　7月19日 陰晴
1710年　8月14日 宝永7年　7月20日 陰晴 昨夜より雨時々 巳の刻に及ぶ
1710年　8月15日 宝永7年　7月21日 晴 (初米23日に上げる、17日広須新田片田岡村で木造村の12歳娘流死)
1710年　8月16日 宝永7年　7月22日 晴 (6月中碇関:出264・入り280・計544人、野内:出86・入り111・計197人)
1710年　8月17日 宝永7年　7月23日 晴
1710年　8月18日 宝永7年　7月24日 晴
1710年　8月19日 宝永7年　7月25日 晴
1710年　8月20日 宝永7年　7月26日 晴 申の刻より曇 同下刻雷暫く 戌の刻より大雨 雷電数発す 子の刻に及ぶ (屋形様御着城)
1710年　8月21日 宝永7年　7月27日 曇 巳の上刻雨 暫くして止む 午の上刻雨時々
1710年　8月22日 宝永7年　7月28日 晴 残暑
1710年　8月23日 宝永7年　7月29日 晴 残暑
1710年　8月24日 宝永7年　7月30日 陰晴 残暑 卯の中刻雨 則刻止む
1710年　8月25日 宝永7年　8月1日 曇 残暑 卯の下刻より雨時々
1710年　8月26日 宝永7年　8月2日 晴 残暑 (先月29日藤崎組真那板袋に男縊死)
1710年　8月27日 宝永7年　8月3日 晴 残暑
1710年　8月28日 宝永7年　8月4日 曇 巳の下刻より雨 未の刻より大風雨 雷発す 未の刻に及ぶ 酉の中刻小雨 則止む
1710年　8月29日 宝永7年　8月5日 晴 酉の下刻地震
1710年　8月30日 宝永7年　8月6日 陰晴
1710年　8月31日 宝永7年　8月7日 晴

1710年　9月1日 宝永7年　8月8日 晴
1710年　9月2日 宝永7年　8月9日 晴
1710年　9月3日 宝永7年　8月10日 曇　卯の中刻より雨　夜に及ぶ
1710年　9月4日 宝永7年　8月11日 晴　昨夜の雨時々　巳の刻に及ぶ
1710年　9月5日 宝永7年　8月12日 晴　(能あり・役職名有り)
1710年　9月6日 宝永7年　8月13日 陰晴　酉の刻より雨　夜に及ぶ　(4月14日入牢の盗み男牢死、広須新田南広森村で男縊死)
1710年　9月7日 宝永7年　8月14日 晴　下から続く　・上女1218(10・25・754・226・101・102)・下男386(7・8・238・70・29・34)・下女225(3・6・128・49・26・13)・家屋敷188軒・小荷駄1疋)
1710年　9月8日 宝永7年　8月15日 曇　卯の中刻より小雨　辰の中刻より雨纔　(先月中大間越:出31・入り47・計78人、切支丹御改:惣人数3231人・上男1402(天台14・真言37・禅905・浄土252・法花83・門徒111)　上に続く
1710年　9月9日 宝永7年　8月16日 晴
1710年　9月10日 宝永7年　8月17日 晴　(家老木村木工之助死去)
1710年　9月11日 宝永7年　8月18日 晴　(17日駒越組中畑村の猟師が熊取る)
1710年　9月12日 宝永7年　8月19日 晴　(木村木工之助宅に香典銀3枚)
1710年　9月13日 宝永7年　8月20日 曇　酉の中刻前地震　(17日駒越組相馬山で相馬村の猟師が熊取る)
1710年　9月14日 宝永7年　8月21日 陰晴　卯の上刻より小雨時々　巳の上刻に及ぶ
1710年　9月15日 宝永7年　8月22日 晴　昨夜雨　巳の刻地震
1710年　9月16日 宝永7年　8月23日 陰晴　(御能)
1710年　9月17日 宝永7年　8月24日 晴　(20日広須新田車力村で熊(胆長1寸5歩廻り2寸5歩)・21日浪岡組相沢村で熊(胆長3寸廻り2寸5歩)・21日駒越組目屋野沢村で熊(胆長1寸5歩廻り1寸)取る)
1710年　9月18日 宝永7年　8月25日 晴
1710年　9月19日 宝永7年　8月26日 晴　(当5月碇関:出522・入り210・計732人、7月中碇関:出247・入り41他にお供の面々・計1463人)
1710年　9月20日 宝永7年　8月27日 曇　巳の后刻より雨　雷少し発す
1710年　9月21日 宝永7年　8月28日 晴　(転び切支丹土手町はる(77歳)病死・檀那寺は禅宗月峰院・20枚40ページにわたり記述)
1710年　9月22日 宝永7年　8月29日 陰晴　(鰺ヶ沢で佐渡の船頭病死)
1710年　9月23日 宝永7年　閏8月1日　陰晴　彼岸に入る　(川越を用人・棟方を大目付に)
1710年　9月24日 宝永7年　閏8月2日　晴
1710年　9月25日 宝永7年　閏8月3日　曇　卯の上刻纔(わずか)地震　同中刻より小雨時々　(誰かが庭前の菊の花を差上げる)
1710年　9月26日 宝永7年　閏8月4日　曇　卯の刻より雨　辰の刻に及ぶ　巳の下刻より晴
1710年　9月27日 宝永7年　閏8月5日　曇　卯の下刻小雨時々
1710年　9月28日 宝永7年　閏8月6日　晴　(先月25日横内組戸崎村で6歳娘行方不明)
1710年　9月29日 宝永7年　閏8月7日　晴　(田舎館村に40男倒死、赤石組赤石村で火災1軒、先月中大間越:計44人)
1710年　9月30日 宝永7年　閏8月8日　陰晴　午の中刻小雨　則止む
1710年　10月1日 宝永7年　閏8月9日　曇　昨夜より雨
1710年　10月2日 宝永7年　閏8月10日　曇　昨夜より小雨時々
1710年　10月3日 宝永7年　閏8月11日　曇　昨夜よりの雨時々　午の刻に及ぶ
1710年　10月4日 宝永7年　閏8月12日　曇　巳の中刻より小雨時々　夜に入り小雨　暫くして止む
1710年　10月5日 宝永7年　閏8月13日　晴
1710年　10月6日 宝永7年　閏8月14日　陰晴　未の下刻より雨　夜に及ぶ　(鰯漁師青森堤川尻沖で熊取る)
1710年　10月7日 宝永7年　閏8月15日　曇
1710年　10月8日 宝永7年　閏8月16日　晴
1710年　10月9日 宝永7年　閏8月17日　晴
1710年　10月10日 宝永7年　閏8月18日　晴
1710年　10月11日 宝永7年　閏8月19日　晴
1710年　10月12日 宝永7年　閏8月20日　晴
1710年　10月13日 宝永7年　閏8月21日　晴
1710年　10月14日 宝永7年　閏8月22日　晴　夜に入り大雨　(16日に鉄砲を大館の男に売った男牢死、19日に広須新田町居田村の庄屋家火災1軒)
1710年　10月15日 宝永7年　閏8月23日　曇　昨夜よりの雨　辰の下刻止む　巳の刻より雨終日　夜に及ぶ　(御能・狂言)
1710年　10月16日 宝永7年　閏8月24日　曇　夜に入り雨
1710年　10月17日 宝永7年　閏8月25日　晴　下から続く　同日尾崎組一野坪村(胆長2寸5歩廻り2寸3歩)・18日金木組宮野沢山(胆長3寸5歩廻り7寸6歩)・21日浪岡組徳才子村(犬が食い胆なし)でそれぞれ熊取る)
1710年　10月18日 宝永7年　閏8月26日　晴　(8月中野内:出117・入り65・計182人、6日駒越組田代村(胆長2寸廻り1寸8歩)・8日金木組宮野沢(胆長2寸7歩廻り2寸2歩)・16日浪岡組相沢村(胆長3寸8歩廻り5寸4歩)・　上に続く
1710年　10月19日 宝永7年　閏8月27日　曇　昨夜より小風雨終日　夜に及ぶ
1710年　10月20日 宝永7年　閏8月28日　曇　夜に入り雨時々
1710年　10月21日 宝永7年　閏8月29日　陰晴　巳の中刻小雨　則止む　酉の上刻雷電　(当月中関所出入り数計27人)
1710年　10月22日 宝永7年　9月1日 陰晴　午の刻より晴　申の下刻より雨　終夜に及ぶ　下から続く　7歩廻り4寸)・同日金木組宮野沢山(胆長2寸8歩廻り6歩)・同日駒越組大和沢(胆長4寸5歩廻り5寸)でそれぞれ熊取る)
1710年　10月23日 宝永7年　9月2日 曇　夜に入り雨時々　(21日大鰐組碇関山(胆長4寸廻り7寸)・22日同組長峰村(胆長2寸5歩廻りなし)(胆長1寸5歩廻り1寸)(胆長2寸廻り2寸3歩)・24日大鰐組碇関山(胆長3寸　上に続く
1710年　10月24日 宝永7年　9月3日 晴　(先月17日浪岡組細野村で徳才子の猟師熊取る)
1710年　10月25日 宝永7年　9月4日 晴
1710年　10月26日 宝永7年　9月5日 晴
1710年　10月27日 宝永7年　9月6日 曇　午の刻より時々小雨　夜に及ぶ
1710年　10月28日 宝永7年　9月7日 曇
1710年　10月29日 宝永7年　9月8日 陰晴　夜に入り大雨
1710年　10月30日 宝永7年　9月9日 晴　今朝霜見る
1710年　10月31日 宝永7年　9月10日 晴　(1日金木組宮野沢で宮野沢村の猟師熊取る)

1710年　11月1日 宝永7年　　9月11日 晴　申の下刻より雷雨　夜に入り大雨
1710年　11月2日 宝永7年　　9月12日 曇　昨夜より雨時々　巳の后刻に及ぶ　(8日鯵ヶ沢で火災15軒)
1710年　11月3日 宝永7年　　9月13日 晴　未の刻小雨　暫くして止む
1710年　11月4日 宝永7年　　9月14日 晴
1710年　11月5日 宝永7年　　9月15日 晴　巳の中刻小雨　則止む　未の中刻雨時々　酉の刻雷　(庭前の菊花差上げる)
1710年　11月6日 宝永7年　　9月16日 陰晴　午の中刻初めて丸雪　纔(わずか)に見る　(広須新田上福原村・金木組宮野沢村でそれぞれ熊取る)
1710年　11月7日 宝永7年　　9月17日 曇　(13日浪岡組徳才子の猟師熊取る、閏8月中野内:出129・入り91・計220人)
1710年　11月8日 宝永7年　　9月18日 晴　今朝大霜見る　(昨夜九つ過ぎ藤代組大川村で稲7500束ほど焼失)
1710年　11月9日 宝永7年　　9月19日 晴　今朝霜　夜に入り雷雨　(15日鯵ヶ沢で朱之丸御印(御公儀御用の印)の船が破船)
1710年 11月10日 宝永7年　　9月20日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1710年 11月11日 宝永7年　　9月21日 晴　(閏8月5日赤石組金沢村の火元の村預けが赦免)
1710年 11月12日 宝永7年　　9月22日 陰晴　巳の下刻より辰の上刻まで雨
1710年 11月13日 宝永7年　　9月23日 陰晴　(御能)
1710年 11月14日 宝永7年　　9月24日 晴　今朝大霜見る
1710年 11月15日 宝永7年　　9月25日 曇　辰の刻より雨　終日夜に及ぶ
1710年 11月16日 宝永7年　　9月26日 曇　昨夜より小雨　卯の下刻に及ぶ
1710年 11月17日 宝永7年　　9月27日 曇　辰の下刻より雨時々　夜に入り霙交る
1710年 11月18日 宝永7年　　9月28日 曇　卯の刻纔(わずか)に雨　雪交る　(24日御玄関前御門番が喧嘩)
1710年 11月19日 宝永7年　　9月29日 晴　霜今朝見る
1710年 11月20日 宝永7年　　9月30日 晴　霜今朝見る　夜に入り小雨　(当月中所々御関所出人数計23人・切手16枚)
1710年 11月21日 宝永7年　　10月1日 曇　昨夜中より小雨時々　(御献上の鮭5本を高覧)
1710年 11月22日 宝永7年　　10月2日 晴　巳の下刻より曇　午の刻より雨
1710年 11月23日 宝永7年　　10月3日 陰晴
1710年 11月24日 宝永7年　　10月4日 陰晴
1710年 11月25日 宝永7年　　10月5日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1710年 11月26日 宝永7年　　10月6日 曇　昨夜中より小雪時々　(先月17日に大川村で稲乳焼失して村預けを赦免)
1710年 11月27日 宝永7年　　10月7日 曇　昨夜より雪　辰の刻に及ぶ　(炭1俵につき1匁)
1710年 11月28日 宝永7年　　10月8日 曇　昨夜より小雪時々　午の下刻に及ぶ　(9月15日横内組矢田前村の猟師が熊取る)
1710年 11月29日 宝永7年　　10月9日 晴　昨夜小雪　(9月27日横内組野田村で熊(胆長1寸廻り1寸3歩)取る、閏8月22日野州和嶋(能登の国輪島)沖で1600俵積みの(御用)船破船、去月24日の喧嘩の当事者2人成敗)
1710年 11月30日 宝永7年　10月10日 陰晴　大雪今朝見る
1710年　12月1日 宝永7年　10月11日 曇　(東長町大橋下に22・3男倒死)
1710年　12月2日 宝永7年　10月12日 陰晴
1710年　12月3日 宝永7年　10月13日 曇　巳の刻より雪時々　夜に入り雪
1710年　12月4日 宝永7年　10月14日 曇　昨夜より雪　(今朝御家中屋敷垣根に付け火)
1710年　12月5日 宝永7年　10月15日 曇　巳の下刻より雪
1710年　12月6日 宝永7年　10月16日 晴　昨夜雪　(稲4331束3把の米は12石5斗7升8合)
1710年　12月7日 宝永7年　10月17日 晴　夜に入り雪　(雑穀代米米1升に付き:次大豆1升2合・次赤小豆2合・上蕎麦4合5夕)
1710年　12月8日 宝永7年　10月18日 曇　昨夜より雪時々　(屋形様(信政)五つ過ぎ胸痛む・まもなく逝去)
1710年　12月9日 宝永7年　10月19日 晴　夜に入り雪
1710年 12月10日 宝永7年　10月20日 曇　昨夜より雨時々　夜に及ぶ
1710年 12月11日 宝永7年　10月21日 曇　卯の上刻小雪時々
1710年 12月12日 宝永7年　10月22日 曇　昨夜より雪時々　終日　夜に及ぶ
1710年 12月13日 宝永7年　10月23日 晴　(11日大光寺村で火災)
1710年 12月14日 宝永7年　10月24日 晴　午の刻雪時々　夜に入り雪
1710年 12月15日 宝永7年　10月25日 陰晴　昨夜より雪　巳の刻に及ぶ
1710年 12月16日 宝永7年　10月26日 曇　卯の刻雪　巳の刻に及ぶ　午の刻小雨暫く
1710年 12月17日 宝永7年　10月27日 陰晴
1710年 12月18日 宝永7年　10月28日 晴
1710年 12月19日 宝永7年　10月29日 曇　昨夜より雪雨　(閏8月中碇関:出入り499人、9月中大間越:出入り114人)
1710年 12月20日 宝永7年　　11月1日 曇　昨夜より吹雪　終日に及ぶ　(昨夜の洪水で石渡川の橋108間のうち20間流れる、なぜか各組の与力に20俵ずつ与える)
1710年 12月21日 宝永7年　　11月2日 陰晴
1710年 12月22日 宝永7年　　11月3日 曇　夜に入り雪
1710年 12月23日 宝永7年　　11月4日 曇　午の刻より雪暫く
1710年 12月24日 宝永7年　　11月5日 陰晴　夜に入り雪
1710年 12月25日 宝永7年　　11月6日 晴　昨夜より雪　辰の中刻に及ぶ　夜に入り雪　(9月21日赤石組沢部村の類火の者共上納不能と代官に申し立て・了解される)
1710年 12月26日 宝永7年　　11月7日 申の刻より雪
1710年 12月27日 宝永7年　　11月8日 晴　夜に入り雪
1710年 12月28日 宝永7年　　11月9日 曇　昨夜より雪　終夜に及ぶ　(鯵ヶ沢に男旅人倒れて死亡)
1710年 12月29日 宝永7年　11月10日 晴　(当月大間越:出40・入り35・計70？人)
1710年 12月30日 宝永7年　11月11日 晴
1710年 12月31日 宝永7年　11月12日 晴　辰の刻より小雨　巳の刻に及ぶ　(早飛脚の江戸からの路銀1人5両)

1711年　1月1日 宝永7年　11月13日 晴
1711年　1月2日 宝永7年　11月14日 晴（御本城御出棺、4月5日に新寺町の橋の金物盗んだ男牢死）
1711年　1月3日 宝永7年　11月15日 陰晴　未の刻より時々小雪（13日朝広須新田大館村で百姓家(2間半×4間)火災、牢賄1か月分:米1斗3升2合・銭6匁、先月中碇関:出入り148人）
1711年　1月4日 宝永7年　11月16日 曇　卯の下刻より雪終日
1711年　1月5日 宝永7年　11月17日 曇　終日吹雪
1711年　1月6日 宝永7年　11月18日 晴　夜に入り雪
1711年　1月7日 宝永7年　11月19日 曇　昨晩より雪　午の中刻に及ぶ（秋田から目屋野沢金山に来ていた34・5男が尾崎組沖館村で倒れる）
1711年　1月8日 宝永7年　11月20日 陰晴
1711年　1月9日 宝永7年　11月21日 曇　卯の刻濡れ雪　終日（御献上の鱈・鮭）
1711年　1月10日 宝永7年　11月22日 曇　昨夜より時々雪　終日に及ぶ
1711年　1月11日 宝永7年　11月23日 晴
1711年　1月12日 宝永7年　11月24日 晴
1711年　1月13日 宝永7年　11月25日 曇
1711年　1月14日 宝永7年　11月26日 陰晴　申の中刻より小雨時々　夜に及ぶ
1711年　1月15日 宝永7年　11月27日 曇　卯の中刻より雪時々　夜に及ぶ
1711年　1月16日 宝永7年　11月28日 曇　昨夜より雪　終日夜に及ぶ
1711年　1月17日 宝永7年　11月29日 晴　夜に入り小雪
1711年　1月18日 宝永7年　11月30日 曇　昨夜より時々小雪終日　夜に及ぶ
1711年　1月19日 宝永7年　12月1日 曇　昨夜より時々小雪
1711年　1月20日 宝永7年　12月2日 曇　巳の下刻より小雨時々　夜に及ぶ
1711年　1月21日 宝永7年　12月3日 陰晴　卯の刻小雪小風　夜に入り雪（青森御蔵米値段:金10両に付き沖御役共36俵）
1711年　1月22日 宝永7年　12月4日 曇　昨夜より雪時々　午の刻より晴
1711年　1月23日 宝永7年　12月5日 晴　夜に入り小雪
1711年　1月24日 宝永7年　12月6日 曇　昨夜より雪時々　午の下刻より晴　夜に入り雪（近習坊主が4日の葬送中同僚を切り殺す）
1711年　1月25日 宝永7年　12月7日 陰晴　昨夜より雪時々　夜に及ぶ
1711年　1月26日 宝永7年　12月8日 晴　昨夜より雪　辰の下刻に及ぶ　申の刻より雪　夜に及ぶ（和徳新町で昨夜火災）
1711年　1月27日 宝永7年　12月9日 陰晴　昨夜より時々雪　夜に及ぶ
1711年　1月28日 宝永7年　12月10日 晴
1711年　1月29日 宝永7年　12月11日 晴（鰺ヶ沢御蔵米値段沖口御役共:金10両に付き37俵4歩）
1711年　1月30日 宝永7年　12月12日 曇　巳の下刻より雪時々　夜に及ぶ
1711年　1月31日 宝永7年　12月13日 曇　昨夜より雪時々　終日
1711年　2月1日 宝永7年　12月14日 曇　巳の下刻より雪時々　夜に及ぶ
1711年　2月2日 宝永7年　12月15日 曇　昨夜より時々小雪　午の下刻に及ぶ　夜に入り雪
1711年　2月3日 宝永7年　12月16日 陰晴　昨夜より雪時々　夜に入り雪（十三潟11月10日晩より氷張り・12月5日より往行、寒雉子献上など130余差登）
1711年　2月4日 宝永7年　12月17日 陰晴　昨夜より雪時々　終日　夜に入り雪
1711年　2月5日 宝永7年　12月18日 陰晴　夜に入り小雪（追善として大湯五左衛門など赦免・11人の牢舎御赦免）
1711年　2月6日 宝永7年　12月19日 陰晴　昨夜より小雪時々　夜に及ぶ
1711年　2月7日 宝永7年　12月20日 晴
1711年　2月8日 宝永7年　12月21日 晴
1711年　2月9日 宝永7年　12月22日 晴
1711年　2月10日 宝永7年　12月23日 陰晴　夜に入り雪（20日大鰐組碇関山で唐牛村の猟師が熊2疋取る、鱈50本押さえる、17日赤石組津軽坂で猟師が熊2疋取る）
1711年　2月11日 宝永7年　12月24日 曇　昨夜より雪終日　夜に入り小雪（9日大秋山で熊2疋・13日広須新田嵩白沢で熊取る）
1711年　2月12日 宝永7年　12月25日 晴　夜に入り雪
1711年　2月13日 宝永7年　12月26日 陰晴　昨夜より吹雪　巳の下刻に及ぶ（寒雉子値段1羽:雄3匁・雌2匁5分、24日青森の大風で破船3艘、24日赤田組久田村で庵焼失）
1711年　2月14日 宝永7年　12月27日 晴
1711年　2月15日 宝永7年　12月28日 晴（鰺ヶ沢米値段:10両に付き沖御役共39俵、先月14日夜藤崎組川部村の百姓走る）
1711年　2月16日 宝永7年　12月29日 曇　昨夜より雪風　終日に及ぶ（19日屋形様御家督）
1711年　2月17日 宝永8年　正月1日　曇　午の上刻地震二度　夜　牛の(牛にしか見えない)上刻地震一度　昨夜中より小雪小風時々　夜に及ぶ
1711年　2月18日 宝永8年　正月2日　曇　昨夜より小雪　巳の刻に及ぶ
1711年　2月19日 宝永8年　正月3日　晴　夜に入り雪
1711年　2月20日 宝永8年　正月4日　曇　昨夜より吹雪
1711年　2月21日 宝永8年　正月5日　晴　夜に入り雪
1711年　2月22日 宝永8年　正月6日　曇　昨夜より吹雪
1711年　2月23日 宝永8年　正月7日　晴　未の刻より雪　申の下刻に及ぶ
1711年　2月24日 宝永8年　正月8日　曇　昨夜より雪時々
1711年　2月25日 宝永8年　正月9日　晴
1711年　2月26日 宝永8年　正月10日　晴　夜に入り小雪
1711年　2月27日 宝永8年　正月11日　陰晴（7日の大風で沖館川尻瀬に乗り上げ破船1艘）
1711年　2月28日 宝永8年　正月12日　陰晴　卯の中刻より午の中刻まで時々雪

1711年　3月1日 宝永8年 正月13日　晴
1711年　3月2日 宝永8年 正月14日　曇 巳の刻より雨 午の刻より霙(霧かも) 申の刻より小風
1711年　3月3日 宝永8年 正月15日　晴 丑の刻雪雨風 寅の刻霙(昨日と同じ)
1711年　3月4日 宝永8年 正月16日　陰晴
1711年　3月5日 宝永8年 正月17日　晴 夜に入り雨 卯の刻に及ぶ
1711年　3月6日 宝永8年 正月18日　陰晴 午の刻より時々小雪 夜に入り風雨雪
1711年　3月7日 宝永8年 正月19日　陰晴 卯の刻吹雪 それより申の刻吹雪
1711年　3月8日 宝永8年 正月20日　陰晴 (佐々木小大膳が小姓組頭をはずされる)
1711年　3月9日 宝永8年 正月21日　曇 卯の上刻雨 夜に入り吹雪 (9日金木組金木山・後潟組小国山で猟師が熊(胆長2寸廻り2寸5歩・3寸2歩5寸3歩)取る、12月中碇関:出入り719人)
1711年　3月10日 宝永8年 正月22日　陰晴 昨夜より吹雪 巳の下刻 夜に及ぶ
1711年　3月11日 宝永8年 正月23日　晴 (大鰐組蔵館村の猟師が熊(胆長3寸8歩廻り6寸)取る、12月中野内:出入り49人)
1711年　3月12日 宝永8年 正月24日　晴
1711年　3月13日 宝永8年 正月25日　晴
1711年　3月14日 宝永8年 正月26日　陰晴 夜に入り小雨 (江戸より申し来り候小納戸金の割:正・2・3月:150両・4月:200両・7・9・11月:150両・12月:200両・翌年正・4月:100両、計1500両)
1711年　3月15日 宝永8年 正月27日　曇 昨夜より雨 終日に及ぶ
1711年　3月16日 宝永8年 正月28日　陰晴 巳の下刻より小雨時々 夜に及ぶ
1711年　3月17日 宝永8年 正月29日　陰晴 夜に入り雨 (江戸へ御小納戸金150両差し登)
1711年　3月18日 宝永8年 正月30日　晴 (赤石組一森山で熊取る)
1711年　3月19日 宝永8年　2月1日 卯の中刻より雨終日 夜に及ぶ (西坂門脇土居が雪水で崩れる)
1711年　3月20日 宝永8年　2月2日 晴
1711年　3月21日 宝永8年　2月3日 曇 卯の后刻より雨 巳の下刻に及ぶ (正月中碇関:出人都合25人)
1711年　3月22日 宝永8年　2月4日 晴 夜に入り雨
1711年　3月23日 宝永8年　2月5日 曇 昨夜より雨時々終日 夜に及ぶ
1711年　3月24日 宝永8年　2月6日 晴 (1日浦町組牧支配合子沢村の猟師が熊取る)
1711年　3月25日 宝永8年　2月7日 晴 夜に入り雨
1711年　3月26日 宝永8年　2月8日 曇 昨夜より雨時々降り続く
1711年　3月27日 宝永8年　2月9日 陰晴 夜に入り雪
1711年　3月28日 宝永8年　2月10日 陰晴 昨夜より時々小雪 夜に入り小雪
1711年　3月29日 宝永8年　2月11日 晴
1711年　3月30日 宝永8年　2月12日 陰晴 時々小雪 夜に入り雨
1711年　3月31日 宝永8年　2月13日 曇 昨夜より雨時々 (12日碇関山で40男縊死、10日大鰐組蔵館村・長峰村の・7日赤石組一森村の各猟師熊取る、10日油川組岡町村で百姓家火災)
1711年　4月1日 宝永8年　2月14日 陰晴 夜に入り小雨
1711年　4月2日 宝永8年　2月15日 陰晴 昨夜より少し雪時々 (十三潟7日に残らず明ける)
1711年　4月3日 宝永8年　2月16日 晴 今朝霜 酉の下刻より小雪
1711年　4月4日 宝永8年　2月17日 晴 (青森博労町で火災12軒、13日横内組横内村・駒越組田代村の猟師それぞれ熊(胆長3寸7歩廻り5寸2歩・たて当たり胆なし)取る)
1711年　4月5日 宝永8年　2月18日 晴 今朝大霜見る
1711年　4月6日 宝永8年　2月19日 晴 今朝大霜見る
1711年　4月7日 宝永8年　2月20日 晴 今朝霜
1711年　4月8日 宝永8年　2月21日 陰晴 (尾崎組唐竹村の猟師熊取る)
1711年　4月9日 宝永8年　2月22日 晴
1711年　4月10日 宝永8年　2月23日 晴
1711年　4月11日 宝永8年　2月24日 陰晴 辰の中刻小雨 則止む 夜に入り雨
1711年　4月12日 宝永8年　2月25日 陰晴 巳の上刻小雨
1711年　4月13日 宝永8年　2月26日 晴
1711年　4月14日 宝永8年　2月27日 晴 (24日金木組尾別村で火災1軒(3間×2間半))
1711年　4月15日 宝永8年　2月28日 晴
1711年　4月16日 宝永8年　2月29日 晴 午の中刻より小雨時々 夜に及ぶ
1711年　4月17日 宝永8年　2月30日 曇 (御小納戸金150両差し登)
1711年　4月18日 宝永8年　3月1日 晴
1711年　4月19日 宝永8年　3月2日 晴 夜に入り風雨
1711年　4月20日 宝永8年　3月3日 曇 昨夜より強い東風 雨終日
1711年　4月21日 宝永8年　3月4日 曇 昨日より雨時々 午の上刻に及ぶ 風昨日より吹き続く
1711年　4月22日 宝永8年　3月5日 陰晴
1711年　4月23日 宝永8年　3月6日 晴 夜に入り雨 (碇関:出358・入り259・計617人、野内:出71・入り19・計90人、大間越:出21・入り85・計106人)
1711年　4月24日 宝永8年　3月7日 曇 昨夜より雨 終日夜に及ぶ
1711年　4月25日 宝永8年　3月8日 晴 夜に入り雨
1711年　4月26日 宝永8年　3月9日 曇 昨夜より雨 巳の刻止む
1711年　4月27日 宝永8年　3月10日 晴 今朝大霜 未の刻より南風 申の下刻に及ぶ
1711年　4月28日 宝永8年　3月11日 曇
1711年　4月29日 宝永8年　3月12日 晴 今朝大霜
1711年　4月30日 宝永8年　3月13日 陰晴 申の刻より雨 夜に及ぶ

1711年　5月1日 宝永8年　3月14日 陰晴　昨夜より雨　卯の中刻に及ぶ
1711年　5月2日 宝永8年　3月15日 陰晴
1711年　5月3日 宝永8年　3月16日 晴　夜に入り小雨
1711年　5月4日 宝永8年　3月17日 晴　(14日金木組新田桜井村で火災1軒(2間×4間)、深浦御仮屋に鉄砲30挺準備されている)
1711年　5月5日 宝永8年　3月18日 曇　巳の后刻より雨時々　午の下刻に及ぶ　(先月中野内:出入り98人、碇関:出入り228人)
1711年　5月6日 宝永8年　3月19日 晴　今朝霜
1711年　5月7日 宝永8年　3月20日 晴
1711年　5月8日 宝永8年　3月21日 陰晴
1711年　5月9日 宝永8年　3月22日 晴
1711年　5月10日 宝永8年　3月23日 晴　(宝永5年9月16日の大風で尾崎組新屋村八幡境内の杉36本倒れる)
1711年　5月11日 宝永8年　3月24日 晴
1711年　5月12日 宝永8年　3月25日 曇　巳の上刻より小雨　未の下刻に及び時々
1711年　5月13日 宝永8年　3月26日 曇　辰の刻より雨　午の下刻に及ぶ
1711年　5月14日 宝永8年　3月27日 曇　昨夜より雨時々　午の下刻に及ぶ
1711年　5月15日 宝永8年　3月28日 晴
1711年　5月16日 宝永8年　3月29日 晴
1711年　5月17日 宝永8年　3月30日 晴
1711年　5月18日 宝永8年　4月1日 陰晴　夜に入り雨
1711年　5月19日 宝永8年　4月2日 曇　昨夜より雨　卯の下刻に及ぶ
1711年　5月20日 宝永8年　4月3日 曇
1711年　5月21日 宝永8年　4月4日 曇　卯の中刻より雷雨風　未の中刻まで時々　但し未の刻雷電　申の下刻より風止む
1711年　5月22日 宝永8年　4月5日 陰晴
1711年　5月23日 宝永8年　4月6日 陰晴　今朝大霜
1711年　5月24日 宝永8年　4月7日 晴
1711年　5月25日 宝永8年　4月8日 晴　(当月2日大間越近くの黒崎浜で破船1艘)
1711年　5月26日 宝永8年　4月9日 晴
1711年　5月27日 宝永8年　4月10日 なし(天気の記述がない)　(2月中大間越:出入り236人)
1711年　5月28日 宝永8年　4月11日 曇　巳の上刻より雨終日　夜に及ぶ
1711年　5月29日 宝永8年　4月12日 曇
1711年　5月30日 宝永8年　4月13日 曇　卯の中刻より小雨　午の上刻に及ぶ　夜に入り雷雨
1711年　5月31日 宝永8年　4月14日 晴
1711年　6月1日 宝永8年　4月15日 曇　巳の下刻より雨
1711年　6月2日 宝永8年　4月16日 陰晴　(3日赤石組黒崎で破船1艘)
1711年　6月3日 宝永8年　4月17日 晴
1711年　6月4日 宝永8年　4月18日 陰晴　(青森馬喰町出火の火元の入寺赦免)
1711年　6月5日 宝永8年　4月19日 曇　午の下刻より時々雨　酉の刻に及ぶ
1711年　6月6日 宝永8年　4月20日 曇　(17日赤石組中村村で火災1軒)
1711年　6月7日 宝永8年　4月21日 晴　(19日金木新田神原村で火災1軒)
1711年　6月8日 宝永8年　4月22日 晴
1711年　6月9日 宝永8年　4月23日 曇
1711年　6月10日 宝永8年　4月24日 晴
1711年　6月11日 宝永8年　4月25日 晴　(一昨年・昨年の米相場・利息あり、一昨年十月の町米相場:1匁に4升・昨年十月:1匁に3升5合)
1711年　6月12日 宝永8年　4月26日 晴　(昨年12月4日に同僚を切殺した近習坊主は成敗)
1711年　6月13日 宝永8年　4月27日 晴　(24日広須新田出崎村で火災1軒、24日浪岡組浪岡村で火災1軒、17日赤石組中村村の火元の村預け赦免)
1711年　6月14日 宝永8年　4月28日 曇　巳の下刻より小雨時々　申の下刻に及ぶ
1711年　6月15日 宝永8年　4月29日 陰晴
1711年　6月16日 宝永8年　5月1日 晴
1711年　6月17日 宝永8年　5月2日 晴
1711年　6月18日 宝永8年　5月3日 晴　夜に入り雨
1711年　6月19日 宝永8年　5月4日 陰晴
1711年　6月20日 宝永8年　5月5日 陰晴　卯の中刻より時々小雨　卯の下刻より辰の上刻まで申酉の間虹見る)
1711年　6月21日 宝永8年　5月6日 晴　(御留守居組頭樋口衛門死去)
1711年　6月22日 宝永8年　5月7日 晴
1711年　6月23日 宝永8年　5月8日 晴
1711年　6月24日 宝永8年　5月9日 晴
1711年　6月25日 宝永8年　5月10日 晴
1711年　6月26日 宝永8年　5月11日 晴　(御手廻り組頭一町田権之進御家老に・400石加増)
1711年　6月27日 宝永8年　5月12日 曇　辰の上刻より雨　終日に及ぶ
1711年　6月28日 宝永8年　5月13日 陰晴
1711年　6月29日 宝永8年　5月14日 陰晴
1711年　6月30日 宝永8年　5月15日 陰晴　卯の上刻より霧霞　辰の下刻まで　(11日高杉組北浮田村で火災2軒、12日金木組宮野沢村の猟師が熊取る、3月分野内:出78・入り85・計163人、4月中大間越:出入り104人)

1711年　7月1日 宝永8年　5月16日 晴　夜に入り雨 （先月中野内:出入り174人、碇関先月中:出入り34人）
1711年　7月2日 宝永8年　5月17日 晴
1711年　7月3日 宝永8年　5月18日 陰晴
1711年　7月4日 宝永8年　5月19日 曇　昨夜より小雨 （当月朔日より正徳と改元の飛脚到着）
1711年　7月5日 宝永8年　5月20日 晴 （15日に記述の北浮田村の火元赦免）
1711年　7月6日 宝永8年　5月21日 陰晴
1711年　7月7日 宝永8年　5月22日 晴　卯の中刻小雨　夜に及ぶ
1711年　7月8日 宝永8年　5月23日 曇　昨夜より雨　終夜に及ぶ
1711年　7月9日 宝永8年　5月24日 曇　昨夜より雨　今日巳の刻より陰晴 （馬廻り組頭佐々木刑部左衛門病死）
1711年　7月10日 宝永8年　5月25日 曇
1711年　7月11日 宝永8年　5月26日 晴
1711年　7月12日 宝永8年　5月27日 曇　昨夜より時々雨　終日に及ぶ
1711年　7月13日 宝永8年　5月28日 曇　辰の下刻小雨　午の中刻より大雨　申の上刻に及ぶ
1711年　7月14日 宝永8年　5月29日 晴
1711年　7月15日 宝永8年　5月30日 陰晴
1711年　7月16日 正徳元年　6月1日 曇　昨夜より時々雨　終日に及ぶ
1711年　7月17日 正徳元年　6月2日 晴 （5月中碇関:出265・入り338・計603人）
1711年　7月18日 正徳元年　6月3日 曇 （金木組代官より狼荒れ鉄砲玉渡したいとの申し入れ・了）
1711年　7月19日 正徳元年　6月4日 晴
1711年　7月20日 正徳元年　6月5日 晴 （今月中大間越:出入り96人）
1711年　7月21日 正徳元年　6月6日 晴 （1日夜岩崎沖で破船・2人死亡）
1711年　7月22日 正徳元年　6月7日 陰晴　卯の上刻纔(わずか)雨　則止む
1711年　7月23日 正徳元年　6月8日 陰晴 （昨日土手町の切支丹類族死亡）
1711年　7月24日 正徳元年　6月9日 晴 （当4月碇関:出257・入り239・計496人）
1711年　7月25日 正徳元年　6月10日 晴
1711年　7月26日 正徳元年　6月11日 晴
1711年　7月27日 正徳元年　6月12日 晴
1711年　7月28日 正徳元年　6月13日 陰晴
1711年　7月29日 正徳元年　6月14日 陰晴 （切支丹類族毛内有助の妹病死）
1711年　7月30日 正徳元年　6月15日 曇　昨夜雷稲妻強雨　卯の上刻に及ぶ （後潟組蓬田村などで熊荒れる・鉄砲を持つ猟師に玉と薬を渡すよう代官が求める・了）
1711年　7月31日 正徳元年　6月16日 陰晴
1711年　8月1日 正徳元年　6月17日 晴　午の刻雷
1711年　8月2日 正徳元年　6月18日 晴　夜に入り雷稲妻　大雨降る　午の刻雷　申の刻雷 （尾崎組原田村孫兵衛から初米上がる）
1711年　8月3日 正徳元年　6月19日 曇　昨夜の雨続く　巳の中刻(に及ぶ)　卯の下刻雷 （5月中関所出人:計63人）
1711年　8月4日 正徳元年　6月20日 晴 （先月中野内:出入り228人）
1711年　8月5日 正徳元年　6月21日 晴
1711年　8月6日 正徳元年　6月22日 晴
1711年　8月7日 正徳元年　6月23日 晴 （足軽目付葛西某返誓詞）
1711年　8月8日 正徳元年　6月24日 陰晴
1711年　8月9日 正徳元年　6月25日 晴　亥の下刻より南風　小雨添う
1711年　8月10日 正徳元年　6月26日 曇　昨夜丑の刻より風小雨　今日巳の刻止む　それより陰晴　夜に入り小雨 （昨夜の大風で百沢に被害）
1711年　8月11日 正徳元年　6月27日 晴　昨夜の小雨時々　卯の上刻に及ぶ
1711年　8月12日 正徳元年　6月28日 晴　申の刻より時々雨　夜に及ぶ
1711年　8月13日 正徳元年　6月29日 陰晴　昨夜雨
1711年　8月14日 正徳元年　7月1日 陰晴
1711年　8月15日 正徳元年　7月2日 曇　辰の刻より小雨時々
1711年　8月16日 正徳元年　7月3日 晴　申の上刻より雨　酉の刻より大雨
1711年　8月17日 正徳元年　7月4日 晴　夜に入り雨
1711年　8月18日 正徳元年　7月5日 陰晴 （6月1日から29日の大間越:出74・入り60・計134人、6月中所々関所出人計42人・切手数30枚）
1711年　8月19日 正徳元年　7月6日 晴 （取上で謀判(ほうはん:にせ印)の御家中磔）
1711年　8月20日 正徳元年　7月7日 曇　申の下刻より雨　夜に及ぶ
1711年　8月21日 正徳元年　7月8日 陰晴　昨夜より雨時々　巳の刻に及ぶ　未の下刻より酉の上刻まで大雨 （当月御小納戸金150両中100両差し登）
1711年　8月22日 正徳元年　7月9日 晴 （昨夜の洪水で神明宮境内の橋4箇所落ちる）
1711年　8月23日 正徳元年　7月10日 晴　巳の下刻小雨　則止む
1711年　8月24日 正徳元年　7月11日 晴
1711年　8月25日 正徳元年　7月12日 陰晴　午の刻小雨　暫くして止む
1711年　8月26日 正徳元年　7月13日 晴
1711年　8月27日 正徳元年　7月14日 陰晴　午の上刻より小雨　則止む
1711年　8月28日 正徳元年　7月15日 晴
1711年　8月29日 正徳元年　7月16日 晴
1711年　8月30日 正徳元年　7月17日 晴
1711年　8月31日 正徳元年　7月18日 晴

1711年　9月1日 正徳元年　7月19日 晴
1711年　9月2日 正徳元年　7月20日 晴 (8日の洪水で流木154650本)
1711年　9月3日 正徳元年　7月21日 晴
1711年　9月4日 正徳元年　7月22日 晴
1711年　9月5日 正徳元年　7月23日 陰晴
1711年　9月6日 正徳元年　7月24日 晴
1711年　9月7日 正徳元年　7月25日 晴 寅の下刻より雨降
1711年　9月8日 正徳元年　7月26日 曇 昨夜寅の下刻より雨 昼午の下刻より晴
1711年　9月9日 正徳元年　7月27日 晴 (切支丹類族時鐘撞き七兵衛が6月7日に死亡したのに伴い妻娘に半分の2人扶持を渡すようにする)
1711年　9月10日 正徳元年　7月28日 曇 (6月野内:出107・入り132・計239人、6月碇関:出296・入り234・計530人)
1711年　9月11日 正徳元年　7月29日 陰晴
1711年　9月12日 正徳元年　7月30日 陰晴 (8日の洪水で浅瀬石川の刻印打ちの番所が破損)
1711年　9月13日 正徳元年　8月1日 晴
1711年　9月14日 正徳元年　8月2日 晴
1711年　9月15日 正徳元年　8月3日 晴
1711年　9月16日 正徳元年　8月4日 曇 巳の下刻より雨 雷発す
1711年　9月17日 正徳元年　8月5日 晴 (先月中御関所出人計28人・切手数20枚)
1711年　9月18日 正徳元年　8月6日 晴
1711年　9月19日 正徳元年　8月7日 晴 (2日材木に乗って川を引き回し中に落下し男1人死亡)
1711年　9月20日 正徳元年　8月8日 曇
1711年　9月21日 正徳元年　8月9日 陰晴 (7月碇関:出277・入り307・計584人、7月大間越:出43・入り44・計87人)
1711年　9月22日 正徳元年　8月10日 曇 巳の下刻より雨
1711年　9月23日 正徳元年　8月11日 陰晴
1711年　9月24日 正徳元年　8月12日 陰晴
1711年　9月25日 正徳元年　8月13日 陰晴 夜に入り雨 雷電
1711年　9月26日 正徳元年　8月14日 陰晴 (9日駒越組杉ヶ沢村の庄屋が中畑村で水あび中おぼれ死亡、一昨12日夜赤石組田浦村で小火、先月中野内:出入り161人)
1711年　9月27日 正徳元年　8月15日 陰晴 (浮田村の庄屋牢死)
1711年　9月28日 正徳元年　8月16日 曇 夜に入り雨
1711年　9月29日 正徳元年　8月17日 曇 昨夜より雨 (15日夜金木新田芦部村で火災1軒・馬4疋焼死)
1711年　9月30日 正徳元年　8月18日 陰晴 卯の下刻より辰の上刻まで時々小雨 (桶屋町に70斗尼倒死)
1711年　10月1日 正徳元年　8月19日 晴
1711年　10月2日 正徳元年　8月20日 晴 (当月3日・8日の洪水で浦町組野沢村・牛館村に被害)
1711年　10月3日 正徳元年　8月21日 曇 (二番鮭差上げる)
1711年　10月4日 正徳元年　8月22日 曇
1711年　10月5日 正徳元年　8月23日 曇 辰の上刻より時々雨
1711年　10月6日 正徳元年　8月24日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ
1711年　10月7日 正徳元年　8月25日 晴
1711年　10月8日 正徳元年　8月26日 晴 (去年5月の大赦で牢を出た盗人が再犯し磔・盗人斬罪)
1711年　10月9日 正徳元年　8月27日 晴
1711年 10月10日 正徳元年　8月28日 晴
1711年 10月11日 正徳元年　8月29日 晴
1711年 10月12日 正徳元年　9月1日 陰晴 今朝大霜見る 未の下刻より雨時々 夜に及ぶ
1711年 10月13日 正徳元年　9月2日 曇 岩木山頂に雪見る
1711年 10月14日 正徳元年　9月3日 曇 昨夜より雨時々 終日に及ぶ (切支丹類族七兵衛の跡にその後家の弟(これも類族)をあてる、9日振りと申付けられた飛脚が8日振りに着き1人に1両下される)
1711年 10月15日 正徳元年　9月4日 晴 (2日柏木組大俵村で火災1軒)
1711年 10月16日 正徳元年　9月5日 曇
1711年 10月17日 正徳元年　9月6日 晴 (先月23日の洪水で碇関の仮橋流れる)
1711年 10月18日 正徳元年　9月7日 陰晴 申の下刻より雨 夜に及ぶ
1711年 10月19日 正徳元年　9月8日 曇 巳の下刻より雨 (切支丹類族時鐘撞き嘉平次死亡)
1711年 10月20日 正徳元年　9月9日 曇 西北に虹見る 昨夜より雨時々
1711年 10月21日 正徳元年　9月10日 曇 雨降 午の下刻晴 夜に入る 則止む
1711年 10月22日 正徳元年　9月11日 晴 (先月所々御関所出人28人・切手数22枚)
1711年 10月23日 正徳元年　9月12日 晴 (8月分碇関:出196・入り512・計708人、江戸よりの路金あり:若党5両・中間3両など)
1711年 10月24日 正徳元年　9月13日 晴
1711年 10月25日 正徳元年　9月14日 晴 今朝大霜見る
1711年 10月26日 正徳元年　9月15日 曇 巳の下刻暫く雨降る それより晴
1711年 10月27日 正徳元年　9月16日 晴
1711年 10月28日 正徳元年　9月17日 曇 時々
1711年 10月29日 正徳元年　9月18日 陰晴 申の下刻より雨 夜に及ぶ (先月中大間越:出入り81人)
1711年 10月30日 正徳元年　9月19日 晴 夜に入り雨
1711年 10月31日 正徳元年　9月20日 晴

1711年　11月1日 正徳元年　 9月21日 晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ
1711年　11月2日 正徳元年　 9月22日 曇　昨夜より雨
1711年　11月3日 正徳元年　 9月23日 曇　近山に大分雪見る
1711年　11月4日 正徳元年　 9月24日 陰晴　夜に入り雨
1711年　11月5日 正徳元年　 9月25日 晴　(和徳組小沢村･湯口村に昨年植えた朝鮮人参ができる)
1711年　11月6日 正徳元年　 9月26日 晴　夜に入り風雨
1711年　11月7日 正徳元年　 9月27日 曇　昨夜より風雨
1711年　11月8日 正徳元年　 9月28日 晴
1711年　11月9日 正徳元年　 9月29日 晴　今朝大霜見る　(26日夜後潟組上小国村で火災12軒)
1711年 11月10日 正徳元年　 10月1日 (10月･11月と日記が存在しない)
1711年 11月11日 正徳元年　 10月2日
1711年 11月12日 正徳元年　 10月3日
1711年 11月13日 正徳元年　 10月4日
1711年 11月14日 正徳元年　 10月5日
1711年 11月15日 正徳元年　 10月6日
1711年 11月16日 正徳元年　 10月7日
1711年 11月17日 正徳元年　 10月8日
1711年 11月18日 正徳元年　 10月9日
1711年 11月19日 正徳元年　10月10日
1711年 11月20日 正徳元年　10月11日
1711年 11月21日 正徳元年　10月12日
1711年 11月22日 正徳元年　10月13日
1711年 11月23日 正徳元年　10月14日
1711年 11月24日 正徳元年　10月15日
1711年 11月25日 正徳元年　10月16日
1711年 11月26日 正徳元年　10月17日
1711年 11月27日 正徳元年　10月18日
1711年 11月28日 正徳元年　10月19日
1711年 11月29日 正徳元年　10月20日
1711年 11月30日 正徳元年　10月21日
1711年　12月1日 正徳元年　10月22日
1711年　12月2日 正徳元年　10月23日
1711年　12月3日 正徳元年　10月24日
1711年　12月4日 正徳元年　10月25日
1711年　12月5日 正徳元年　10月26日
1711年　12月6日 正徳元年　10月27日
1711年　12月7日 正徳元年　10月28日
1711年　12月8日 正徳元年　10月29日
1711年　12月9日 正徳元年　10月30日
1711年 12月10日 正徳元年　 11月1日
1711年 12月11日 正徳元年　 11月2日
1711年 12月12日 正徳元年　 11月3日
1711年 12月13日 正徳元年　 11月4日
1711年 12月14日 正徳元年　 11月5日
1711年 12月15日 正徳元年　 11月6日
1711年 12月16日 正徳元年　 11月7日
1711年 12月17日 正徳元年　 11月8日
1711年 12月18日 正徳元年　 11月9日
1711年 12月19日 正徳元年　11月10日
1711年 12月20日 正徳元年　11月11日
1711年 12月21日 正徳元年　11月12日
1711年 12月22日 正徳元年　11月13日
1711年 12月23日 正徳元年　11月14日
1711年 12月24日 正徳元年　11月15日
1711年 12月25日 正徳元年　11月16日
1711年 12月26日 正徳元年　11月17日
1711年 12月27日 正徳元年　11月18日
1711年 12月28日 正徳元年　11月19日
1711年 12月29日 正徳元年　11月20日
1711年 12月30日 正徳元年　11月21日
1711年 12月31日 正徳元年　11月22日

1712年　1月1日 正徳元年　11月23日
1712年　1月2日 正徳元年　11月24日
1712年　1月3日 正徳元年　11月25日
1712年　1月4日 正徳元年　11月26日
1712年　1月5日 正徳元年　11月27日
1712年　1月6日 正徳元年　11月28日
1712年　1月7日 正徳元年　11月29日（10月・11月と日記が存在しない）
1712年　1月8日 正徳元年　12月1日 昨夜より吹雪
1712年　1月9日 正徳元年　12月2日 陰晴　時々小雪
1712年　1月10日 正徳元年　12月3日 陰晴　時々小雪　夜に入り小雨（御献上の塩鱈10本……、先月1日冨田村の火元の押籠置赦免、11月17日青森の鱈漁船遭難6人死亡）
1712年　1月11日 正徳元年　12月4日 陰晴　時々小雪（先月27日赤石組種里村で猟師が熊取る、当年雉子281・山鳥11羽御台所に上げる）
1712年　1月12日 正徳元年　12月5日 曇　辰の下刻より吹雪
1712年　1月13日 正徳元年　12月6日 陰晴　時々小雪
1712年　1月14日 正徳元年　12月7日 曇　昨夜より雪　辰の下刻より吹雪
1712年　1月15日 正徳元年　12月8日 曇　辰の下刻より午の上刻まで吹雪
1712年　1月16日 正徳元年　12月9日 晴
1712年　1月17日 正徳元年　12月10日 曇　辰の上刻より雪　暮に及び大吹雪
1712年　1月18日 正徳元年　12月11日 曇　昨夜より吹雪
1712年　1月19日 正徳元年　12月12日 陰晴（11月中大間越:出77・入り101・計178人、碇関:出133・入り132・計265人）
1712年　1月20日 正徳元年　12月13日 晴
1712年　1月21日 正徳元年　12月14日 晴　巳の中刻より雪　夜に及ぶ
1712年　1月22日 正徳元年　12月15日 曇　昨夜より吹雪　巳の上刻に及ぶ　午の上刻より晴（当月9日碇関脇道で押さえた荷物:塩引271本・鰤52本・鱈50本・鯨12貫目）
1712年　1月23日 正徳元年　12月16日 陰晴　午の刻より時々小雪　夜に及ぶ
1712年　1月24日 正徳元年　12月17日 陰晴　辰の刻より大雪（14日夜増館組冨柳村の百姓家(3間半×5間)火災）
1712年　1月25日 正徳元年　12月18日 晴
1712年　1月26日 正徳元年　12月19日 晴（14日駒越組大秋村の猟師熊(胆長3寸5歩廻り4寸)取る）
1712年　1月27日 正徳元年　12月20日 晴（当月中大間越:出52・入り32人、野内:出66・入り50人、碇関:出147・入り131人）
1712年　1月28日 正徳元年　12月21日 曇　卯の下刻より時々雪
1712年　1月29日 正徳元年　12月22日 曇　昨夜より雪時々　夜に及ぶ
1712年　1月30日 正徳元年　12月23日 晴　昨夜より雪時々　巳の下刻に及ぶ
1712年　1月31日 正徳元年　12月24日 陰晴（11月中野内:出38・入り56・計94人）
1712年　2月1日 正徳元年　12月25日 曇　昨夜より雪雨　終日に及ぶ
1712年　2月2日 正徳元年　12月26日 曇　昨日より雨打ち続く
1712年　2月3日 正徳元年　12月27日 陰晴　昨日より雪時々（正月2日御吉例の200両を例年通り差し登）
1712年　2月4日 正徳元年　12月28日 陰晴　昨夜よりの雪時々　夜に及ぶ
1712年　2月5日 正徳元年　12月29日 陰晴　昨日より雪時々
1712年　2月6日 正徳元年　12月30日 曇　昨日より雪時々　終日に及ぶ
1712年　2月7日 正徳2年　正月1日　陰晴　昨日よりの雪時々　終日に及ぶ
1712年　2月8日 正徳2年　正月2日　曇　小雪時々
1712年　2月9日 正徳2年　正月3日　陰晴　小雪時々
1712年　2月10日 正徳2年　正月4日　陰晴　午の下刻小雪　則止む
1712年　2月11日 正徳2年　正月5日　晴天
1712年　2月12日 正徳2年　正月6日　晴天
1712年　2月13日 正徳2年　正月7日　曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1712年　2月14日 正徳2年　正月8日　曇　昨夜より雪　未の下刻に及ぶ　申の刻より晴
1712年　2月15日 正徳2年　正月9日　晴天　殊の外寒甚だしい
1712年　2月16日 正徳2年　正月10日　晴　夜に入り小雪
1712年　2月17日 正徳2年　正月11日　晴　午の下刻雪　申の下刻まで時々
1712年　2月18日 正徳2年　正月12日　晴
1712年　2月19日 正徳2年　正月13日　曇　辰の刻より雪　未の刻止む
1712年　2月20日 正徳2年　正月14日　曇　卯の下刻より雪降　終日　夜に及ぶ
1712年　2月21日 正徳2年　正月15日　陰晴　昨夜より雪時々
1712年　2月22日 正徳2年　正月16日　陰晴　昨日よりの雪打ち続く　夜に入り大吹雪
1712年　2月23日 正徳2年　正月17日　晴　夜に入り大雪
1712年　2月24日 正徳2年　正月18日　陰晴　昨夜より雪時々　終日に及ぶ
1712年　2月25日 正徳2年　正月19日　陰晴　昨日より雪時々　夜に及ぶ
1712年　2月26日 正徳2年　正月20日　陰晴　小雪時々（2日大姫様逝去）
1712年　2月27日 正徳2年　正月21日　晴　夜に入り小雪（尾崎組切明村・横内組浅虫村・大鰐組長峰村の各猟師が熊取る）
1712年　2月28日 正徳2年　正月22日　晴　未の下刻より小雨
1712年　2月29日 正徳2年　正月23日　晴　未の下刻より雨　夜に及ぶ　酉の刻雷

1712年　3月1日 正徳2年 正月24日　曇 卯の下刻雪降 終日 終夜に及ぶ
1712年　3月2日 正徳2年 正月25日　曇 昨日より雪
1712年　3月3日 正徳2年 正月26日　曇 時々雪
1712年　3月4日 正徳2年 正月27日　曇 昨日より吹雪 巳の下刻地震 則止む
1712年　3月5日 正徳2年 正月28日　曇 時々雪 （武田源左衛門の家屋敷・知行召上げ）
1712年　3月6日 正徳2年 正月29日　曇 昨日より雪
1712年　3月7日 正徳2年　2月1日 晴 午の下刻より時々小雪 （去月28日金木組金木村土場の細工小屋潰れる・2人死亡）
1712年　3月8日 正徳2年　2月2日 陰晴 時々小雪 （旧臘(きゅうろう:昨年12月)7日坊主小頭が外厩より出火・先月29日に遠慮御免）
1712年　3月9日 正徳2年　2月3日 晴 夜に入り雪 子の刻小雨 暫くして止む
1712年　3月10日 正徳2年　2月4日 陰晴 昨夜の小雪 時々小雨
1712年　3月11日 正徳2年　2月5日 曇 昨夜より雪 卯の下刻より大吹雪 夜に及び大雪
1712年　3月12日 正徳2年　2月6日 晴 夜に入り吹雪 （先月中大間越:出入り計138人）
1712年　3月13日 正徳2年　2月7日 曇 昨夜より大吹雪終日 夜に及ぶ
1712年　3月14日 正徳2年　2月8日 陰晴 時々小雪 終日 夜に及ぶ （6月中碇関山中の土橋が雪で落ちる、御用人川越清左衛門病死）
1712年　3月15日 正徳2年　2月9日 晴 （大鰐組虹貝村の猟師が熊取る）
1712年　3月16日 正徳2年　2月10日 晴
1712年　3月17日 正徳2年　2月11日 晴
1712年　3月18日 正徳2年　2月12日 曇 時々小雨 午の刻よりミそれ(霙) （武田源左衛門・その子次郎左衛門成敗(と記録されているが介錯人がつき切腹の形式)・長柄奉行石山喜太夫切腹）
1712年　3月19日 正徳2年　2月13日 晴　下から続く　下男500(7・10・312・105・38・27)・下女291(7・6・166・22・35・15)・家屋敷205軒・小荷駄4疋）
1712年　3月20日 正徳2年　2月14日 晴 夜に入り小雪　下から続く　覚え:惣人数3591人・上男1516(天台17・真言39・禅966・浄土271・法花108・浄土真宗115)・上女1284(17・28・788・241・125・95)・　上に続く
1712年　3月21日 正徳2年　2月15日 陰晴 昨夜より小雪時々 巳の下刻に及ぶ （10日増館組吉野田村で山守3人が薪取り14・5人に木株などで打ちのめされる、御用人支配切支丹御改め一紙証文の　上に続く
1712年　3月22日 正徳2年　2月16日 陰晴 時々小雪
1712年　3月23日 正徳2年　2月17日 晴 午の下刻より時々小雪 夜に入り少し雪
1712年　3月24日 正徳2年　2月18日 晴 辰の下刻より巳の上刻まで時々小雪 （大鰐組三免内山で猟師が熊取る）
1712年　3月25日 正徳2年　2月19日 陰晴 時々小雪 午の下刻より止む （駒越組相馬村の猟師が熊取る）
1712年　3月26日 正徳2年　2月20日 晴 今朝霜見る
1712年　3月27日 正徳2年　2月21日 陰晴 酉の下刻より雨降 （酒値段1升7匁）
1712年　3月28日 正徳2年　2月22日 曇 昨夜より雨時々 申の下刻より大風雨 夜に及ぶ
1712年　3月29日 正徳2年　2月23日 曇 昨夜より大風雨 終日に及ぶ 夜に入り止む （19日大鰐組三目内山で猟師が熊取る）
1712年　3月30日 正徳2年　2月24日 晴 （8日夜浅草で火災・四つ目の江戸下屋敷焼失）
1712年　3月31日 正徳2年　2月25日 晴 （19日赤石組一森村・18日岩崎村の猟師が熊取る）
1712年　4月1日 正徳2年　2月26日 曇 卯の刻より雨 巳の下刻に及ぶ 夜に入り雪
1712年　4月2日 正徳2年　2月27日 曇 昨夜よりの雪 未の下刻に及ぶ　下から続く　湊出御役米:米1石に付き御役5匁・その他多くの移出品目あり）
1712年　4月3日 正徳2年　2月28日 晴 夜に入り雨 （元禄6酉年深浦で山崩れ・少なくとも2軒潰れる、26日の大風雨で大和沢脇道御番所なてつき(なだれが当りの意か)潰れる、大和沢大橋と稲苅川止まる、　上に続く
1712年　4月4日 正徳2年　2月29日 曇 昨夜より雨時々
1712年　4月5日 正徳2年　2月30日 晴
1712年　4月6日 正徳2年　3月1日 晴 （2月28日尾崎組小国山で切明村の猟師が熊(胆長4寸7歩廻り8寸2歩)取る）
1712年　4月7日 正徳2年　3月2日 晴 （2月30日尾崎組尾崎村で火災1軒、赤石組驫木村の猟師が熊取る）
1712年　4月8日 正徳2年　3月3日 陰晴 午の刻より小雨時々 夜に入り小雨
1712年　4月9日 正徳2年　3月4日 晴 （赤石組驫木村の猟師が熊取る）
1712年　4月10日 正徳2年　3月5日 晴
1712年　4月11日 正徳2年　3月6日 晴
1712年　4月12日 正徳2年　3月7日 晴 夜に入り小雨
1712年　4月13日 正徳2年　3月8日 曇 ワツカ(纔)雨 （4日暮大川洪水で金木新田神原村と川口村の境が破損）
1712年　4月14日 正徳2年　3月9日 晴 霜今朝見る （4日雪水で広田組・飯詰組の村々で水湛・橋2箇所押し流す）
1712年　4月15日 正徳2年　3月10日 晴 今朝霜見る （4日・？日猿賀村の猟師が2疋・4日大鰐組居土村の猟師が熊取る、8日大鰐雑湯の内に40頃の男倒死、先月29日頃より木造新田長浜村東方の沼より水押上げ御仮屋被害）
1712年　4月16日 正徳2年　3月11日 晴 夜に入り雨 （所々御関所出切手正月13人・2月46人、4日横内組駒籠村・6日浪岡組相沢村で熊(胆長2寸5歩廻り5寸・胆長3寸5歩廻り6寸)取る、2月中大間越:出25・入り141　下に続く
1712年　4月17日 正徳2年　3月12日 曇 昨夜より雨時々　上から続く　人、2月中野内:出81・入り36人）
1712年　4月18日 正徳2年　3月13日 曇 夜に入り雨 （10日駒越組中畑村の猟師が熊(胆長3寸5歩廻り5寸)取る、11日夜報恩寺の衆徒が縊死）
1712年　4月19日 正徳2年　3月14日 曇 昨夜より雨時々 夜に及ぶ （先月13日江戸発の荷物が昨晩着・大石田付近の雪水・強風で遅れる）
1712年　4月20日 正徳2年　3月15日 陰晴 夜に入り小雨 （金1両に付き久保田銀で78匁くらい……）
1712年　4月21日 正徳2年　3月16日 晴
1712年　4月22日 正徳2年　3月17日 晴 （赤石組小森村の猟師が熊(胆長6寸廻り5寸)取る）
1712年　4月23日 正徳2年　3月18日 晴
1712年　4月24日 正徳2年　3月19日 陰晴 夜に入り雨
1712年　4月25日 正徳2年　3月20日 曇 昨夜より雨時々 終日 夜に及ぶ （堀越組一ノ渡村・金木組金木村・尾崎組唐竹村・大鰐組虹貝村・赤石組小森村の各猟師が熊取る）
1712年　4月26日 正徳2年　3月21日 曇 昨夜より雨
1712年　4月27日 正徳2年　3月22日 晴 （17日横内組駒籠村で猟師が熊取る、17日駒越組砂子瀬村で火災1軒）
1712年　4月28日 正徳2年　3月23日 晴 （先月8日の本所大火の消火に付き褒美を貰う）
1712年　4月29日 正徳2年　3月24日 晴 （20日駒越組目屋野沢山で中畑村の猟師が熊取る）
1712年　4月30日 正徳2年　3月25日 晴 夜に入り雨

1712年　5月1日 正徳2年　3月26日 陰晴　夜に入り雨
1712年　5月2日 正徳2年　3月27日 晴
1712年　5月3日 正徳2年　3月28日 陰晴　夜に入り雨風
1712年　5月4日 正徳2年　3月29日 曇　昨夜より雨　(24日赤石組一森山で熊(胆長3寸5歩廻り5寸)取る)
1712年　5月5日 正徳2年　3月30日 晴　(広田組広田村十川大橋が雪水で押流れる)
1712年　5月6日 正徳2年　4月1日 晴
1712年　5月7日 正徳2年　4月2日 晴
1712年　5月8日 正徳2年　4月3日 晴
1712年　5月9日 正徳2年　4月4日 晴　卯の上刻より小風　(先月23日酢湯で馬場尻村の猟師が熊取る)
1712年　5月10日 正徳2年　4月5日 晴
1712年　5月11日 正徳2年　4月6日 晴　(江戸留守勤の中に御徒山上五郎右衛門)
1712年　5月12日 正徳2年　4月7日 晴
1712年　5月13日 正徳2年　4月8日 陰晴
1712年　5月14日 正徳2年　4月9日 曇　午の刻より雨　則止む　夜に入り雨
1712年　5月15日 正徳2年　4月10日 陰晴
1712年　5月16日 正徳2年　4月11日 晴
1712年　5月17日 正徳2年　4月12日 晴　(4日昼浦町組入内村の一野沢山から野火(70間×50間))
1712年　5月18日 正徳2年　4月13日 陰晴　夜に入り雨風　(11日油川組石神村で火災1軒)
1712年　5月19日 正徳2年　4月14日 晴　昨日より風　終日終夜に及ぶ
1712年　5月20日 正徳2年　4月15日 晴　昨日より風　終日に及ぶ
1712年　5月21日 正徳2年　4月16日 晴　(10日堀越組大和沢山で一野渡村の猟師が熊(胆長5寸廻り6寸:たて少々当たり痛め申し候)取る)
1712年　5月22日 正徳2年　4月17日 晴　(駒籠山火事、15日の大風で百沢寺に少し被害)
1712年　5月23日 正徳2年　4月18日 晴　(14日柏木組松倉村で火災1軒、駒籠山火事14日までに消す(11間×6間))
1712年　5月24日 正徳2年　4月19日 晴
1712年　5月25日 正徳2年　4月20日 曇　辰の下刻より雨　巳の下刻に及ぶ
1712年　5月26日 正徳2年　4月21日 晴　小風
1712年　5月27日 正徳2年　4月22日 晴
1712年　5月28日 正徳2年　4月23日 晴　申の中刻より地震
1712年　5月29日 正徳2年　4月24日 晴　辰の刻地震
1712年　5月30日 正徳2年　4月25日 晴　(21日津軽坂村で野火(250間×70間))
1712年　5月31日 正徳2年　4月26日 晴
1712年　6月1日 正徳2年　4月27日 陰晴　卯の下刻雨　則止む　(26日昼橋雲寺境内で10歳男が狼に喰殺される)
1712年　6月2日 正徳2年　4月28日 晴　(足軽が喧嘩・一方阿房払い・他方五里四方御追放……、狼荒れに対し玉込めなしの鉄砲足軽派遣)
1712年　6月3日 正徳2年　4月29日 晴
1712年　6月4日 正徳2年　5月1日 晴　未の下刻小雨　則止む
1712年　6月5日 正徳2年　5月2日 曇　辰の上刻より時々雨　午の刻止む　(3月中大間越:出37・入り131人、野内:出69・入り66人)
1712年　6月6日 正徳2年　5月3日 晴　(3月17日砂子瀬村・4月11日石神村・4月14日松倉村の火元の押込めを赦免、先月28日浪岡組五本松村の庄屋家(4間×6間)火災1軒)
1712年　6月7日 正徳2年　5月4日 曇　未の下刻より雨時々　夜に及ぶ　(例年のごとくお屋敷に菖蒲飾り……)
1712年　6月8日 正徳2年　5月5日 陰晴　巳の刻小雨　未の下刻小雨　則止む　(金木組村々で狼あれ鉄砲打ち派遣の申し立て・玉込め鉄砲を使うようにする、3日田舎館村で火災1軒)
1712年　6月9日 正徳2年　5月6日 晴
1712年　6月10日 正徳2年　5月7日 陰晴　未の下刻より時々小雨　夜に及ぶ　(御武具蔵に鉄砲玉之無きの由御武具奉行申し上げ候に付き……)
1712年　6月11日 正徳2年　5月8日 曇　昨夜より雨　午の上刻止む
1712年　6月12日 正徳2年　5月9日 陰晴　(人足の日当1日1人分8分・300人なら240目)
1712年　6月13日 正徳2年　5月10日 晴　(先月より当月に至るまで風激しく雨降申さず候ゆえ……無住の百沢寺と国上寺を除く五山と神明宮に五穀成就の祈祷を申付ける)
1712年　6月14日 正徳2年　5月11日 晴
1712年　6月15日 正徳2年　5月12日 晴　(御小姓組頭佐々木小大膳を罷免・留守居組に)
1712年　6月16日 正徳2年　5月13日 晴　申の下刻より雨　夜に及ぶ
1712年　6月17日 正徳2年　5月14日 陰晴　昨夜より雨　巳の刻まで時々　午の上刻より風　(屋形様13日江戸発駕日光回りで帰るとのこと)
1712年　6月18日 正徳2年　5月15日 晴　(4月中野内:出109・入り82・計191人、大間越:出40・入り53・計101人、碇関:出1141・入り641・計1782人)
1712年　6月19日 正徳2年　5月16日 陰晴　夜に入り雨
1712年　6月20日 正徳2年　5月17日 曇　昨夜より雨　午の上刻まで　時々止む　(五本松村庄屋(4月28日出火)・田舎館村の百姓(3日出火)の押込め赦免・耕作の時分にもあり)
1712年　6月21日 正徳2年　5月18日 陰晴
1712年　6月22日 正徳2年　5月19日 陰晴　(家老一町田族之助を改名西館刑部に)
1712年　6月23日 正徳2年　5月20日 晴
1712年　6月24日 正徳2年　5月21日 晴　(16日赤石組舮作沖で船1艘乗り上げる、3月16日金木組中柏木村で1人走る)
1712年　6月25日 正徳2年　5月22日 晴　申の下刻小雨　則止む　(関札打ち到着)
1712年　6月26日 正徳2年　5月23日 陰晴　夜に入り雨
1712年　6月27日 正徳2年　5月24日 晴
1712年　6月28日 正徳2年　5月25日 晴
1712年　6月29日 正徳2年　5月26日 晴
1712年　6月30日 正徳2年　5月27日 晴　夜に入り雨　(松平越前守様に縁組の姫痘瘡で死去)

1712年　7月1日 正徳2年　5月28日 晴
1712年　7月2日 正徳2年　5月29日 陰晴
1712年　7月3日 正徳2年　5月30日 陰晴　夜に入り雨 （当月分野内:出100・入り118・計218人、大間越:出47・入り56・計103人）
1712年　7月4日 正徳2年　6月1日 曇　昨夜より雨　卯の上刻止む
1712年　7月5日 正徳2年　6月2日 晴 （御宿割御手回り組2人到着）
1712年　7月6日 正徳2年　6月3日 晴 （御屋形様御機嫌よく今日九時過ぎ御着城）
1712年　7月7日 正徳2年　6月4日 曇　雨　卯の下刻より夜に及ぶ
1712年　7月8日 正徳2年　6月5日 曇　昨夜より雨
1712年　7月9日 正徳2年　6月6日 陰晴　未の下刻雷小雨　則止む
1712年　7月10日 正徳2年　6月7日 曇　巳の下刻より雨
1712年　7月11日 正徳2年　6月8日 晴 （領地目録が江戸より届く）
1712年　7月12日 正徳2年　6月9日 晴
1712年　7月13日 正徳2年　6月10日 晴
1712年　7月14日 正徳2年　6月11日 晴
1712年　7月15日 正徳2年　6月12日 晴
1712年　7月16日 正徳2年　6月13日 晴 （3日夜後潟組浜名村で駄馬3疋狼に喰い殺される・上磯の狄共4人に狼取りを申付ける）
1712年　7月17日 正徳2年　6月14日 晴
1712年　7月18日 正徳2年　6月15日 晴　酉の上刻より雨
1712年　7月19日 正徳2年　6月16日 曇　昨夜よりの雨　午の下刻雷
1712年　7月20日 正徳2年　6月17日 曇　土用に入る　昨夜より雨　辰の下刻雷
1712年　7月21日 正徳2年　6月18日 曇　昨日より雨時々　卯の下刻に及ぶ
1712年　7月22日 正徳2年　6月19日 陰晴　昨日の雨打ち続く　但し巳の后刻雨止む （御能:入部祝いか5日続く）
1712年　7月23日 正徳2年　6月20日 晴 （御能）
1712年　7月24日 正徳2年　6月21日 晴 （御能、大鰐村百姓初真瓜差上げる）
1712年　7月25日 正徳2年　6月22日 晴 （御能、大鰐村より初茄子5差上げる）
1712年　7月26日 正徳2年　6月23日 陰晴 （御能、3人扶持は大の月1ヶ月で米4斗5升（搗減共1日1人で5合:玄米である））
1712年　7月27日 正徳2年　6月24日 晴
1712年　7月28日 正徳2年　6月25日 晴 （家老森岡民部が20日に死去）
1712年　7月29日 正徳2年　6月26日 晴
1712年　7月30日 正徳2年　6月27日 晴 （家老大道寺隼人が霍乱気で登城せず）
1712年　7月31日 正徳2年　6月28日 晴 （熊胆目形:大18～25匁・中11.5～17匁、24日後潟組小橋村で火災3軒）
1712年　8月1日 正徳2年　6月29日 晴
1712年　8月2日 正徳2年　7月1日 晴 （御能）
1712年　8月3日 正徳2年　7月2日 曇　巳の下刻雨　則止む （勘定奉行申し立:米1俵に付き14匁5分、金1両に付き63匁2分替え）
1712年　8月4日 正徳2年　7月3日 晴
1712年　8月5日 正徳2年　7月4日 晴
1712年　8月6日 正徳2年　7月5日 晴
1712年　8月7日 正徳2年　7月6日 晴
1712年　8月8日 正徳2年　7月7日 晴
1712年　8月9日 正徳2年　7月8日 晴
1712年　8月10日 正徳2年　7月9日 晴　小風 （御留守居組頭小倉作左衛門知行召し放ち・追放）
1712年　8月11日 正徳2年　7月10日 晴
1712年　8月12日 正徳2年　7月11日 晴 （御囃子、25日金木組川倉村で50位男道心倒れ昨日死亡）
1712年　8月13日 正徳2年　7月12日 晴
1712年　8月14日 正徳2年　7月13日 晴
1712年　8月15日 正徳2年　7月14日 晴　午の下刻雨暫く　申の刻に及ぶ
1712年　8月16日 正徳2年　7月15日 晴　夜に入り雨
1712年　8月17日 正徳2年　7月16日 陰晴　巳の下刻より小雨時々
1712年　8月18日 正徳2年　7月17日 陰晴　午の下刻小雨　則止む
1712年　8月19日 正徳2年　7月18日 陰晴　申の刻より雨　夜に及ぶ
1712年　8月20日 正徳2年　7月19日 曇　昨夜より雨 （18日高杉組鬼沢村で11歳女子が狼に取られる）
1712年　8月21日 正徳2年　7月20日 晴 （大鰐村加賀助が初米上げる）
1712年　8月22日 正徳2年　7月21日 晴
1712年　8月23日 正徳2年　7月22日 晴
1712年　8月24日 正徳2年　7月23日 晴
1712年　8月25日 正徳2年　7月24日 晴　午の下刻より亥の刻まで雷数発す
1712年　8月26日 正徳2年　7月25日 陰晴　午の中刻より雷　同下刻より雨
1712年　8月27日 正徳2年　7月26日 晴 （金木組で毘沙門村の人足溺死）
1712年　8月28日 正徳2年　7月27日 晴　未の下刻より雷　申の下刻より雨　夜に及ぶ （青森毘沙門の祭礼は例年通り8月3日）
1712年　8月29日 正徳2年　7月28日 曇　昨夜よりの雨時々
1712年　8月30日 正徳2年　7月29日 曇　昨夜よりの雨時々
1712年　8月31日 正徳2年　7月30日 陰晴

1712年　9月1日 正徳2年　8月1日 陰晴　巳の下刻より時々小雨
1712年　9月2日 正徳2年　8月2日 晴　(隣松寺が西瓜・百沢寺より苔実差上げる)
1712年　9月3日 正徳2年　8月3日 陰晴　(薬王院が熟瓜差上げる)
1712年　9月4日 正徳2年　8月4日 曇　辰の下刻より雨　午の下刻止む
1712年　9月5日 正徳2年　8月5日 曇　巳の下刻小雨　(7月分大間越:出23・入り41・計64人、米1俵に付き27匁4分値段)
1712年　9月6日 正徳2年　8月6日 陰晴　(御用人堀五郎左衛門を御家老に・御手廻り組頭津軽大蔵を御城代に)
1712年　9月7日 正徳2年　8月7日 晴　(1日後潟組中沢沖で破船1艘)
1712年　9月8日 正徳2年　8月8日 陰晴
1712年　9月9日 正徳2年　8月9日 曇　辰の下刻より雨　終日　夜に及ぶ
1712年　9月10日 正徳2年　8月10日 曇　辰の下刻より雨　申の下刻より大風雨
1712年　9月11日 正徳2年　8月11日 晴
1712年　9月12日 正徳2年　8月12日 晴
1712年　9月13日 正徳2年　8月13日 曇　(10日夜油川沖で破船1艘)
1712年　9月14日 正徳2年　8月14日 曇　昨夜より雨　終日　(8日夜より9日までの雨で蟹田川で洪水・流木8000余上がり流出が3万本ほど)
1712年　9月15日 正徳2年　8月15日 晴　(昨日まで雨天で八幡祭礼延期、御囃子・仕舞)
1712年　9月16日 正徳2年　8月16日 晴　(八幡祭礼)
1712年　9月17日 正徳2年　8月17日 晴
1712年　9月18日 正徳2年　8月18日 晴　(御家中自害)
1712年　9月19日 正徳2年　8月19日 曇　辰の下刻より雨　夜に及ぶ
1712年　9月20日 正徳2年　8月20日 晴　(4日夜和徳組高崎村で51女行方不明・まもなく出てくる、今朝高杉組独鈷村で11男狼に喰殺される)
1712年　9月21日 正徳2年　8月21日 陰晴　(役職者名あり)
1712年　9月22日 正徳2年　8月22日 晴　(武官の役職者名あり)
1712年　9月23日 正徳2年　8月23日 晴
1712年　9月24日 正徳2年　8月24日 晴　(20日朝赤石組沢部沖で破船1艘)
1712年　9月25日 正徳2年　8月25日 晴　(14日の風で三の丸南門土居の塀倒れる)
1712年　9月26日 正徳2年　8月26日 晴　　下から続く　　家屋敷85軒・同下屋敷3軒・同乗馬3疋・同小荷駄1疋・又支配家屋敷117軒、御家老堀五郎左衛門が弾正と改名等の改名あり)
1712年　9月27日 正徳2年　8月27日 晴　　下から続く　　・浄土268・法花100・浄土真宗112)・上女1290(9・24・806・238・115・98)・下男437(5・7・267・91・37・30)・下女258(9・4・143・54・34・14)・直支配　　上に続く
1712年　9月28日 正徳2年　8月28日 晴　(人事異動、26日広須新田隠里村で8歳男狼に喰殺される・鉄砲打ち出す、御用人支配中切支丹御改之一枚証文の覚え:惣人数3521人・上男1536(天台15・真言32・禅1009　　上に続く
1712年　9月29日 正徳2年　8月29日 曇　卯の刻小雨
1712年　9月30日 正徳2年　8月30日 曇　巳の上刻より時々小雨　(19日夜大雨で(横内組か)瀧澤山で山崩れ4人死亡)
1712年　10月1日 正徳2年　9月1日 晴　(両替75両6分2厘・米値段20目5分4厘、先月27日広須新田大館村で3つ男子が狼に取られ死亡)
1712年　10月2日 正徳2年　9月2日 曇
1712年　10月3日 正徳2年　9月3日 晴
1712年　10月4日 正徳2年　9月4日 晴
1712年　10月5日 正徳2年　9月5日 曇　午の刻小雨
1712年　10月6日 正徳2年　9月6日 曇　辰の刻より時々小雨　夜に入る　(3・4日駒越組百沢村・新法師村で狼荒れる・打ち殺すために鉄砲打ちを仰せ付ける)
1712年　10月7日 正徳2年　9月7日 曇　昨夜より雨
1712年　10月8日 正徳2年　9月8日 晴　(7月分碇関:出235・入り356人、6月分野内:出120・入り172人、8月分大間越:出33人、3両2分(足軽相当の文官に多い切米)が21俵(4斗入りか)2斗5升に相当する)
1712年　10月9日 正徳2年　9月9日 晴
1712年 10月10日 正徳2年　9月10日 陰晴　夜に入り風
1712年 10月11日 正徳2年　9月11日 陰晴　夜に入り雨
1712年 10月12日 正徳2年　9月12日 陰晴　辰の下刻雨　則止む
1712年 10月13日 正徳2年　9月13日 陰晴　(御囃子)
1712年 10月14日 正徳2年　9月14日 曇　午の下刻小雨　岩木山頂上に雪見る　(9日大鰐組大鰐村で火災2軒)
1712年 10月15日 正徳2年　9月15日 晴
1712年 10月16日 正徳2年　9月16日 晴　未の下刻雷　(14日大鰐組石川村で子供が狼に喰殺される、13日の大風で小泊湊で破船1艘)
1712年 10月17日 正徳2年　9月17日 陰晴
1712年 10月18日 正徳2年　9月18日 晴　今朝大雪見る(雪とはなっているがお寺への参詣などに大雪関係記事なく誤報か)
1712年 10月19日 正徳2年　9月19日 陰晴　(御能)
1712年 10月20日 正徳2年　9月20日 陰晴　夜に入り雨　(8月中大間越:出55・入り34人、18日木造新田車力村で火災・火元村預け)
1712年 10月21日 正徳2年　9月21日 曇　昨夜より雨
1712年 10月22日 正徳2年　9月22日 陰晴　昨夜より雨
1712年 10月23日 正徳2年　9月23日 陰晴　昨日より雨　午の刻に及ぶ　(19日夜金木組喜良市村で火災1軒)
1712年 10月24日 正徳2年　9月24日 晴
1712年 10月25日 正徳2年　9月25日 晴　(昨昼過ぎ堀越組小栗山村の5歳男子が狼に喰われて死亡)
1712年 10月26日 正徳2年　9月26日 晴　(当月21日・22日の大雨風で百沢寺に被害)
1712年 10月27日 正徳2年　9月27日 晴　(8月中野内:出96・入り100人)
1712年 10月28日 正徳2年　9月28日 晴
1712年 10月29日 正徳2年　9月29日 晴
1712年 10月30日 正徳2年　10月1日 (15日まで保存なし)
1712年 10月31日 正徳2年　10月2日

1712年　11月1日 正徳2年　　10月3日
1712年　11月2日 正徳2年　　10月4日
1712年　11月3日 正徳2年　　10月5日
1712年　11月4日 正徳2年　　10月6日
1712年　11月5日 正徳2年　　10月7日
1712年　11月6日 正徳2年　　10月8日
1712年　11月7日 正徳2年　　10月9日
1712年　11月8日 正徳2年　　10月10日
1712年　11月9日 正徳2年　　10月11日
1712年 11月10日 正徳2年　　10月12日
1712年 11月11日 正徳2年　　10月13日
1712年 11月12日 正徳2年　　10月14日
1712年 11月13日 正徳2年　　10月15日 (1日から保存なし)
1712年 11月14日 正徳2年　　10月16日 晴　今朝大霜
1712年 11月15日 正徳2年　　10月17日 晴
1712年 11月16日 正徳2年　　10月18日 曇　昨夜雨
1712年 11月17日 正徳2年　　10月19日 曇　卯の上刻より雨 (御囃子)
1712年 11月18日 正徳2年　　10月20日 晴
1712年 11月19日 正徳2年　　10月21日 晴　朝大霜見ゆる　今朝御堀の水氷る
1712年 11月20日 正徳2年　　10月22日 曇　未の上刻より雨　夜に及ぶ
1712年 11月21日 正徳2年　　10月23日 曇　昨夜より雨 (14日六代将軍家宣御他界、岩木川が洪水で石渡の橋落ちる・船渡しもできない)
1712年 11月22日 正徳2年　　10月24日 曇　小雪時々
1712年 11月23日 正徳2年　　10月25日 晴
1712年 11月24日 正徳2年　　10月26日 晴　亥の刻より雨
1712年 11月25日 正徳2年　　10月27日 陰晴　昨夜より雨時々 (野内の猟師が小猿差上げる)
1712年 11月26日 正徳2年　　10月28日 曇　未の上刻より丸雪
1712年 11月27日 正徳2年　　10月29日 曇　終日小雪
1712年 11月28日 正徳2年　　10月30日 陰晴 (9月中碇関:出346・入り679人)
1712年 11月29日 正徳2年　　11月1日 陰晴
1712年 11月30日 正徳2年　　11月2日 晴
1712年　12月1日 正徳2年　　11月3日 雪
1712年　12月2日 正徳2年　　11月4日 曇　雪少し降る　夜に入り風
1712年　12月3日 正徳2年　　11月5日 晴
1712年　12月4日 正徳2年　　11月6日 曇
1712年　12月5日 正徳2年　　11月7日 曇 (日雇い:上1匁・中8分・下6分)
1712年　12月6日 正徳2年　　11月8日 曇　みそ連(霙)　午の上刻地震 (今日青森より発鱈差上げる、献上鮭10本など)
1712年　12月7日 正徳2年　　11月9日 曇　霰少々降る (二番鱈2本差上げる)
1712年　12月8日 正徳2年　　11月10日 晴
1712年　12月9日 正徳2年　　11月11日 晴 (昨10日大光寺組平田森村で火災1軒)
1712年 12月10日 正徳2年　　11月12日 陰晴　巳の上刻より雨 (元禄10年11月より日記の清書が出来ていない・物書き4人を6人にする)
1712年 12月11日 正徳2年　　11月13日 陰晴
1712年 12月12日 正徳2年　　11月14日 曇　昨夜より小雪
1712年 12月13日 正徳2年　　11月15日 曇　昨夜小雪
1712年 12月14日 正徳2年　　11月16日 晴 (9月21日十三沖で大風により1艘行方不明)
1712年 12月15日 正徳2年　　11月17日 晴
1712年 12月16日 正徳2年　　11月18日 晴
1712年 12月17日 正徳2年　　11月19日 晴
1712年 12月18日 正徳2年　　11月20日 曇　未の上刻雪降
1712年 12月19日 正徳2年　　11月21日 雪
1712年 12月20日 正徳2年　　11月22日 昨夜より今朝辰の上刻まで雪降　今日陰
1712年 12月21日 正徳2年　　11月23日 晴 (今晩七半時分時計屋焼失)
1712年 12月22日 正徳2年　　11月24日 晴
1712年 12月23日 正徳2年　　11月25日 曇
1712年 12月24日 正徳2年　　11月26日 吹雪 (18日より十三潟氷張る・去る卯の年(去年)は11月26日に氷張る・日数8日早く節に引き合い10日早い)
1712年 12月25日 正徳2年　　11月27日 昨夜より今朝四つ頃まで吹雪　それより小雪
1712年 12月26日 正徳2年　　11月28日 曇　辰の刻小雨　午の下刻止む (22日駒越組目屋野沢山で猟師が熊(胆長2寸5歩廻り5寸)取る、当月中碇関:出人都合27人・切手数18枚)
1712年 12月27日 正徳2年　　11月29日 晴 (26日青森町虹貝の鱈漁船遭難・7人死亡)
1712年 12月28日 正徳2年　　12月1日 晴
1712年 12月29日 正徳2年　　12月2日 晴
1712年 12月30日 正徳2年　　12月3日 晴 (藤代組廻関村で火災1軒・馬1疋、酒1升値段変更:これまでの7分から弘前8分・青森・油川・蟹田・鰺ヶ沢・舞戸村で9分)
1712年 12月31日 正徳2年　　12月4日 晴

1713年　1月1日 正徳2年　12月5日 晴 （当8月中碇関:出入り120人、9月中大間越:出入り187人、10月中大間越:出125人、10月中碇関:出956人、同月中野内:出入り120人、11月29日駒越組目屋野沢山で熊　下に続く
1713年　1月2日 正徳2年　12月6日 晴 （4日広須新田沖中野村の庄屋家(4間×11間)火災・稲2500束・米8俵余・馬5疋等焼失・火元庄屋は他村庄屋預け）　上から続く　（胆長2寸3歩廻り3寸)取る）
1713年　1月3日 正徳2年　12月7日 晴
1713年　1月4日 正徳2年　12月8日 晴 （1日藤代組廻関村の火元の押籠を赦免）
1713年　1月5日 正徳2年　12月9日 晴 （米1升に付き次の大豆1升3合・大麦7合・米の相場15匁）
1713年　1月6日 正徳2年　12月10日 陰晴 （11月中野内:出58・入り47人、当月中大間越:出47・入り33人）
1713年　1月7日 正徳2年　12月11日 陰晴
1713年　1月8日 正徳2年　12月12日 曇 寅の下刻地震 （……の馬代646貫853匁5分＝米16171石3斗3升7合＝40428俵1斗3升7合・但し1俵16匁値段）
1713年　1月9日 正徳2年　12月13日 陰晴 時々雪 （御用炭5貫目俵1俵に付き1匁5分5厘）
1713年　1月10日 正徳2年　12月14日 陰晴
1713年　1月11日 正徳2年　12月15日 陰晴 夜に入り少々雨 （御献上の鱈高覧）
1713年　1月12日 正徳2年　12月16日 曇
1713年　1月13日 正徳2年　12月17日 晴
1713年　1月14日 正徳2年　12月18日 晴 （先月中碇関:出入り342人）
1713年　1月15日 正徳2年　12月19日 陰晴
1713年　1月16日 正徳2年　12月20日 晴 （19日飯詰組原子村で火災1軒）
1713年　1月17日 正徳2年　12月21日 曇 （御能）
1713年　1月18日 正徳2年　12月22日 雪 終日に及ぶ
1713年　1月19日 正徳2年　12月23日 昨夜中雪
1713年　1月20日 正徳2年　12月24日 晴 （16日後潟組一本木村奥平辺湊で破船1艘）
1713年　1月21日 正徳2年　12月25日 晴 昨夜九つ半頃地震 （11月10日大光寺組平田森村・12月1日藤代組廻関村・4日広須新田沖中野村・19日飯詰組原子村の火元の村預けを28日に免ずる）
1713年　1月22日 正徳2年　12月26日 陰晴 酉の刻より雨 終夜に及ぶ （22日駒越組目屋野沢山で猟師が熊(胆長3寸廻り7寸)取る）
1713年　1月23日 正徳2年　12月27日 時々小雨
1713年　1月24日 正徳2年　12月28日 曇 午の上刻より吹雪
1713年　1月25日 正徳2年　12月29日 陰晴 昨夜より吹雪時々 （日記の清書遅れ元禄10年11月より・担当4人を6人に:この件は11月11日にも記載あり配置もすんでいる）
1713年　1月26日 正徳3年　正月1日　吹雪
1713年　1月27日 正徳3年　正月2日　雪降
1713年　1月28日 正徳3年　正月3日　晴 （御揺初）
1713年　1月29日 正徳3年　正月4日　晴
1713年　1月30日 正徳3年　正月5日　晴 戌の刻より雨 終夜に及ぶ
1713年　1月31日 正徳3年　正月6日　小雪 辰の中刻止む
1713年　2月1日 正徳3年　正月7日　晴
1713年　2月2日 正徳3年　正月8日　晴
1713年　2月3日 正徳3年　正月9日　晴
1713年　2月4日 正徳3年　正月10日　晴
1713年　2月5日 正徳3年　正月11日　時々吹雪
1713年　2月6日 正徳3年　正月12日　晴 （御能）
1713年　2月7日 正徳3年　正月13日　晴 申の下刻より雨 終夜に及ぶ （当春御発駕に伴う関札80枚入用なんだと）
1713年　2月8日 正徳3年　正月14日　大風 吹雪 （風強く寄場に集まる）
1713年　2月9日 正徳3年　正月15日　昨夜より吹雪 辰の刻止む
1713年　2月10日 正徳3年　正月16日　晴
1713年　2月11日 正徳3年　正月17日　昨夜より雪 終日に及ぶ
1713年　2月12日 正徳3年　正月18日　陰晴 （14日の大風被害・柾5万枚余・広須組小橋村で制札落ちる）
1713年　2月13日 正徳3年　正月19日　雪 巳の刻止む
1713年　2月14日 正徳3年　正月20日　時々雪 （16日駒越組相馬山で・8日目屋野沢山で熊(胆長4寸廻り6寸・胆長4寸5歩廻り4寸5歩)取る）
1713年　2月15日 正徳3年　正月21日　雪時々 午の刻より晴 （14日の強風で和徳組小沢村の杉(本口4尺)倒れる）
1713年　2月16日 正徳3年　正月22日　晴
1713年　2月17日 正徳3年　正月23日　晴
1713年　2月18日 正徳3年　正月24日　晴
1713年　2月19日 正徳3年　正月25日　晴
1713年　2月20日 正徳3年　正月26日　霰 午の后刻より （御囃子）
1713年　2月21日 正徳3年　正月27日　陰晴 昨夜より吹雪
1713年　2月22日 正徳3年　正月28日　晴
1713年　2月23日 正徳3年　正月29日　晴 （給地百姓と御蔵百姓との仕事が異なる）
1713年　2月24日 正徳3年　正月30日　卯の上刻より雪 辰の上刻止む
1713年　2月25日 正徳3年　2月1日 晴
1713年　2月26日 正徳3年　2月2日 晴
1713年　2月27日 正徳3年　2月3日 今朝雪 申の刻霰
1713年　2月28日 正徳3年　2月4日 今朝霜 （御拍子）

1713年　3月1日 正徳3年　2月5日 申の后刻より雪　終夜に及ぶ （正月中大間越:出22・入り49人）
1713年　3月2日 正徳3年　2月6日 晴 （3日金木組喜良市山で猟師が熊(胆長3寸5歩廻り4寸5歩)取る、去月30日後潟組石浜沖で破船3艘）
1713年　3月3日 正徳3年　2月7日 陰晴　申の下刻より雪
1713年　3月4日 正徳3年　2月8日 昨夜より雪　終日に及ぶ （5日和徳組湯口山で猟師が熊(胆長5寸3歩廻り5寸)取る）
1713年　3月5日 正徳3年　2月9日 陰晴　夜に入り雪　終日に及ぶ
1713年　3月6日 正徳3年　2月10日 陰晴　昨夜より雪時々　終日に及ぶ
1713年　3月7日 正徳3年　2月11日 晴
1713年　3月8日 正徳3年　2月12日 晴
1713年　3月9日 正徳3年　2月13日 曇　夜中雪　卯の中刻より雨降　午の下刻霰少々降る （江戸で正月17日初雪、目明し専四郎？）
1713年　3月10日 正徳3年　2月14日 時々雪 （8日浪岡組飯詰山で猟師が熊(胆長4寸廻り3寸)取る）
1713年　3月11日 正徳3年　2月15日 陰晴 （御能）
1713年　3月12日 正徳3年　2月16日 晴
1713年　3月13日 正徳3年　2月17日 曇 （魚油1斗7升入り1樽60目・但し1升に付き3匁5分）
1713年　3月14日 正徳3年　2月18日 晴 （先代様御発駕の節道中御用金600両と丁銀40枚を大納戸役が持参した）
1713年　3月15日 正徳3年　2月19日 晴 （唐牛甚右衛門を御用人になどの大幅な人事異動、先月中碇関:出入り387人）
1713年　3月16日 正徳3年　2月20日 晴
1713年　3月17日 正徳3年　2月21日 雨 （昨日赤石組舞戸村で火災1軒）
1713年　3月18日 正徳3年　2月22日 陰晴 （江戸の御給金:若党上3両・中2両3歩・下2両2歩、同中間上2両1歩・中2両・下1両3歩、御国給銭若党上130目・中120・下110目、同中間上100目・中90目・下80目）
1713年　3月19日 正徳3年　2月23日 巳の中刻より丸雪時々
1713年　3月20日 正徳3年　2月24日 昨夜より終日雪
1713年　3月21日 正徳3年　2月25日 時々吹雪
1713年　3月22日 正徳3年　2月26日 陰晴
1713年　3月23日 正徳3年　2月27日 晴 （22日大鰐組碇関山で猟師が熊3疋(胆長3寸3歩廻り4寸9歩・2寸3寸3歩・2寸5歩3寸5歩)取る、油川組田沢山で猟師が熊(胆長1寸5歩廻り1寸7歩)取る）
1713年　3月24日 正徳3年　2月28日 晴　丑の刻より雨　終日に及ぶ （25日金木組加瀬村と中柏木村の間に50斗男座当倒死）
1713年　3月25日 正徳3年　2月29日 曇　巳の下刻小雨時々　下から続く　（4・5・281・85・28・31)・下女235(3・4・133・51・12・32)・家屋敷197・下屋敷1軒・乗馬1疋）
1713年　3月26日 正徳3年　3月1日 陰晴 （御用人支配切支丹宗門改めの覚え:惣人数3376人・上男1469(天台15・真言32・禅965・浄土248・門徒115・法花94)・上女1238(11・26・797・208・98・102)・下男434　上に続く
1713年　3月27日 正徳3年　3月2日 快晴 （先月28日広田組姥萢村で雪水で橋流れ・広田村でも畑が川成り）
1713年　3月28日 正徳3年　3月3日 陰晴
1713年　3月29日 正徳3年　3月4日 陰晴　昨夜戌の刻よりの雨終日に及ぶ
1713年　3月30日 正徳3年　3月5日 晴　昨日よりの雨　辰の下刻に及ぶ
1713年　3月31日 正徳3年　3月6日 晴 （御屋形様家老宅から戌の中刻帰城）
1713年　4月1日 正徳3年　3月7日 快晴 （4日より十三潟明ける）
1713年　4月2日 正徳3年　3月8日 晴　辰の中刻地震　則時止む　夜に入り小雨 （先月中大間越:出入り87人、先月29日の洪水で流木4・5千本）
1713年　4月3日 正徳3年　3月9日 晴 （昨夜の雨で岩木川洪水・往還まかりならず）
1713年　4月4日 正徳3年　3月10日 快晴 （駒越組中畑村で火災2軒）
1713年　4月5日 正徳3年　3月11日 曇　巳の下刻より雨
1713年　4月6日 正徳3年　3月12日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　辰の下刻地震　未の上刻雷発す （御発駕御祝儀の御能）
1713年　4月7日 正徳3年　3月13日 昨夜より巳の刻まで雪　午の后刻地震 （23日御発駕・関札打ち今日発足）
1713年　4月8日 正徳3年　3月14日 辰の刻より雨　終日に及ぶ （11日の雨で岩木川洪水・12日朝より駒越渡止め・藤崎川も洪水馬船通らず長船のみ通用、大和沢川橋落ちる、11日の風で後潟組内間部村で破船1艘・4人死亡）
1713年　4月9日 正徳3年　3月15日 陰晴 （13日飯詰組金山村で67・8男道心倒死・持ち物に王つ者(わつは:わっぱ(器:食器))あり、渡辺将監が閉門）
1713年　4月10日 正徳3年　3月16日 晴 （11日赤石組赤石山川で大秋村の猟師熊(胆長4寸廻り4寸5歩)取る、2月中碇関:出148・入り239人）
1713年　4月11日 正徳3年　3月17日 晴　小風
1713年　4月12日 正徳3年　3月18日 陰晴　雨　昨夜子の後刻より風雨　雷発す （12日赤石組驫木村沖で破船1艘、16・17日大鰐組で猟師2組が熊2疋(胆長2寸8歩廻り4寸8歩・胆長5寸5歩廻り7寸5歩)取る）
1713年　4月13日 正徳3年　3月19日 曇　卯の中刻丸雪　則刻止む
1713年　4月14日 正徳3年　3月20日 晴
1713年　4月15日 正徳3年　3月21日 晴
1713年　4月16日 正徳3年　3月22日 快晴
1713年　4月17日 正徳3年　3月23日 晴 （御発駕:参勤のため）
1713年　4月18日 正徳3年　3月24日 陰晴　午の下刻より雨降 （御家中の家来乱心・殺人・乱心者成敗）
1713年　4月19日 正徳3年　3月25日 曇　小風 （20日浪岡組浪岡山で熊(胆長3寸5歩廻り？)取る、11日藤崎組林崎村で46男行方不明）
1713年　4月20日 正徳3年　3月26日 晴
1713年　4月21日 正徳3年　3月27日 晴　小風　夜に及ぶ　戌の上刻より雨 （2月中野内:出86・入り39人）
1713年　4月22日 正徳3年　3月28日 戌の上刻より雨
1713年　4月23日 正徳3年　3月29日 晴　小風 （昨晩の雨で岩木川洪水・駒越・石渡とも往還止める、水は川十分・流木夥しい）
1713年　4月24日 正徳3年　3月30日 曇　卯の刻より辰の刻まで雨小風 （2月19日赤石組舞戸村・当月9日駒越組中畑村の村預けを耕作の時節ゆえ御免）
1713年　4月25日 正徳3年　4月1日 晴
1713年　4月26日 正徳3年　4月2日 晴
1713年　4月27日 正徳3年　4月3日 晴　小風
1713年　4月28日 正徳3年　4月4日 快晴 （3月中碇関:出1930・入り811人）
1713年　4月29日 正徳3年　4月5日 陰晴　午の下刻より雨　則止む （2日尾崎組切明山で熊(胆長5寸廻り7寸)取る）
1713年　4月30日 正徳3年　4月6日 陰晴　卯の下刻雨

1713年　5月1日 正徳3年　4月7日 陰晴
1713年　5月2日 正徳3年　4月8日 快晴 (2日横内組駒籠村で熊(胆長3寸)取る、3月中大間越:出18・入り160人)
1713年　5月3日 正徳3年　4月9日 小風
1713年　5月4日 正徳3年　4月10日 陰晴
1713年　5月5日 正徳3年　4月11日 快晴
1713年　5月6日 正徳3年　4月12日 快晴
1713年　5月7日 正徳3年　4月13日 晴
1713年　5月8日 正徳3年　4月14日 晴 (3日柏木組高増村で火災1軒・耕作の時分で村預け御免、11日赤田組亀田村の百姓乱気・自害)
1713年　5月9日 正徳3年　4月15日 陰晴 夜に入り雨
1713年　5月10日 正徳3年　4月16日 昨夜より雨 終日に及ぶ (将軍宣下の報届く)
1713年　5月11日 正徳3年　4月17日 陰晴
1713年　5月12日 正徳3年　4月18日 晴
1713年　5月13日 正徳3年　4月19日 陰晴
1713年　5月14日 正徳3年　4月20日 曇 卯の上刻より雨時々
1713年　5月15日 正徳3年　4月21日 卯の刻より小風 終日に及ぶ
1713年　5月16日 正徳3年　4月22日 晴
1713年　5月17日 正徳3年　4月23日 快晴 (先月29日岩木川洪水にて流木110159本失木、昨20日後潟組中沢村で火災1軒、当時の消火道具あり)
1713年　5月18日 正徳3年　4月24日 陰晴 (屋形様が12日四時前江戸着・千住より直ぐ御老中様廻りか、今日20日横内組長森山で熊(胆長2寸5歩廻り3寸)取る)
1713年　5月19日 正徳3年　4月25日 曇 昨夜より雨 巳の刻に及ぶ 同午の刻雹 (12日駒越組目屋野沢海道で野火・小松110本余漆10本等焼失、増館組吉野田村と浪岡組高屋敷村にも野火)
1713年　5月20日 正徳3年　4月26日 晴
1713年　5月21日 正徳3年　4月27日 晴
1713年　5月22日 正徳3年　4月28日 晴
1713年　5月23日 正徳3年　4月29日 陰晴 申の下刻より小雨
1713年　5月24日 正徳3年　5月1日 陰晴
1713年　5月25日 正徳3年　5月2日 陰晴
1713年　5月26日 正徳3年　5月3日 陰晴 (先月28日横内組雲谷山で熊(胆長4寸)取る)
1713年　5月27日 正徳3年　5月4日 曇 午の刻より小雨降
1713年　5月28日 正徳3年　5月5日 曇 終日雨
1713年　5月29日 正徳3年　5月6日 快晴
1713年　5月30日 正徳3年　5月7日 晴 今朝霜 (御茶道方坊主に山上古林)
1713年　5月31日 正徳3年　5月8日 曇 小雨時々
1713年　6月1日 正徳3年　5月9日 晴
1713年　6月2日 正徳3年　5月10日 晴 (4月中碇関:出543・入り138人、野内:出143・入り140人)
1713年　6月3日 正徳3年　5月11日 陰晴 寅の下刻小雨 (10日百沢で馬が人を噛み殺す)
1713年　6月4日 正徳3年　5月12日 晴　下から続く　小7匁・鶴の子500文、4月中大間越:出102・入り92人、江戸留守の御徒に山上五郎右衛門)
1713年　6月5日 正徳3年　5月13日 辰の上刻より雨 終日に及ぶ (活丹頂鶴1羽代100目・真鶴80目・黒鶴60目・斃丹頂大65匁小60匁・真那鶴大70目小65匁・黒鶴大60目小50目・活白鳥20目・斃白鳥大13匁　上に続く
1713年　6月6日 正徳3年　5月14日 昨夜より雨 終日に及ぶ
1713年　6月7日 正徳3年　5月15日 曇
1713年　6月8日 正徳3年　5月16日 快晴 (三上仁・小笠原作・横島彦・佐藤庄を五里四方追放)
1713年　6月9日 正徳3年　5月17日 快晴
1713年　6月10日 正徳3年　5月18日 晴 (13日の大雨で赤石組中村川洪水・流木大分海に押し流す・(東)風で海辺に吹き寄せる)
1713年　6月11日 正徳3年　5月19日 晴
1713年　6月12日 正徳3年　5月20日 晴
1713年　6月13日 正徳3年　5月21日 快晴 申の刻より雨 (佐々木源五里四方追放)
1713年　6月14日 正徳3年　5月22日 曇 昨夜より雨
1713年　6月15日 正徳3年　5月23日 陰晴 (21日赤石組館村で火災1軒)
1713年　6月16日 正徳3年　5月24日 晴
1713年　6月17日 正徳3年　5月25日 快晴
1713年　6月18日 正徳3年　5月26日 快晴
1713年　6月19日 正徳3年　5月27日 陰晴
1713年　6月20日 正徳3年　5月28日 陰晴 辰の下刻小雨 則止む
1713年　6月21日 正徳3年　5月29日 快晴
1713年　6月22日 正徳3年　5月30日 陰晴 夜に入り雨 (28日駒越組新法師村で火災1軒(2間×3間:高無))
1713年　6月23日 正徳3年　閏5月1日　昨晩より雨時々
1713年　6月24日 正徳3年　閏5月2日　晴
1713年　6月25日 正徳3年　閏5月3日　晴
1713年　6月26日 正徳3年　閏5月4日　快晴
1713年　6月27日 正徳3年　閏5月5日　快晴 (3月中野内:出62・入り75人、5月中大間越:出37・入り44人)
1713年　6月28日 正徳3年　閏5月6日　曇 小風
1713年　6月29日 正徳3年　閏5月7日　陰晴 卯の刻より辰の刻まで小雨 (この度御用立金:1000両余を180人くらいから・江戸の増上寺の修復を幕府に命じられた資金の調達か)
1713年　6月30日 正徳3年　閏5月8日　辰の下刻雨

1713年　7月1日 正徳3年 閏5月9日　曇　時々雨　終日に及ぶ
1713年　7月2日 正徳3年 閏5月10日 曇　午の中刻地震　同下刻より雨降　(堀弾正を堀主計に改名)
1713年　7月3日 正徳3年 閏5月11日 晴
1713年　7月4日 正徳3年 閏5月12日 晴
1713年　7月5日 正徳3年 閏5月13日 午の中刻時雨　同下刻より快晴　(5月中野内:出78・入り88人、碇関:出151・入り338人)
1713年　7月6日 正徳3年 閏5月14日 晴　(初胡瓜5大鰐村より上がる)
1713年　7月7日 正徳3年 閏5月15日 晴　巳の後刻より小雨　則止む
1713年　7月8日 正徳3年 閏5月16日 曇　時々小雨　終日に及ぶ　(御用米不足・抜け米多いらしい、大間越御蔵米1俵に付き銭20匁)
1713年　7月9日 正徳3年 閏5月17日 陰晴　午の下刻より雨　終日に及ぶ　(熊胆の目形:14匁2分など、深浦湊に病死者を乗せた船着岸)
1713年　7月10日 正徳3年 閏5月18日 曇　昨日より雨　(昨17日晩岩木川洪水・流木300本ほど・石渡川止め)
1713年　7月11日 正徳3年 閏5月19日 陰晴　(5月22日館村・同日中里村・5月29日新法師村の火元を差免、昨日の洪水で境関渡・石川渡相止)
1713年　7月12日 正徳3年 閏5月20日 陰晴
1713年　7月13日 正徳3年 閏5月21日 陰晴
1713年　7月14日 正徳3年 閏5月22日 昨夜より雨　今朝まで降
1713年　7月15日 正徳3年 閏5月23日 晴　(7歳黒牛の値段:1疋110目)
1713年　7月16日 正徳3年 閏5月24日 昨夜中より大雨　終日に及ぶ　(雨天続くに付き五穀成就の御祈祷仰せ付ける、岩木川流木流れかね?往還相止める)
1713年　7月17日 正徳3年 閏5月25日 陰晴　時々霧雨　(大鰐組大鰐村で山崩れ、藤崎川洪水で仮橋落ちる、赤田組・広須組で田115町歩・畑25町歩余水湛)
1713年　7月18日 正徳3年 閏5月26日 陰晴　昨夜より時々小雨　(一昨24日駒越川流木取りの男溺死、尾崎組で53町歩余・大鰐組にも稲筒虫発生・被害)
1713年　7月19日 正徳3年 閏5月27日 卯の上刻より雷発す時々　終日に及ぶ　酉の刻より土用に入る
1713年　7月20日 正徳3年 閏5月28日 曇　昨日より雨
1713年　7月21日 正徳3年 閏5月29日 晴　昨夜雨
1713年　7月22日 正徳3年　6月1日 快晴
1713年　7月23日 正徳3年　6月2日 晴
1713年　7月24日 正徳3年　6月3日 晴　(祈祷申付ける、大鰐村より初瓜・初茄子上がる)
1713年　7月25日 正徳3年　6月4日 快晴
1713年　7月26日 正徳3年　6月5日 快晴
1713年　7月27日 正徳3年　6月6日 卯の中刻より雨　辰の后刻に及び止む
1713年　7月28日 正徳3年　6月7日 晴　(弘前市只今の相場:塩1升に付き2分6厘・大間越では1分8厘余、月不明野内:出106・入り101人)
1713年　7月29日 正徳3年　6月8日 晴　今朝霧
1713年　7月30日 正徳3年　6月9日 晴　今朝霧
1713年　7月31日 正徳3年　6月10日 晴
1713年　8月1日 正徳3年　6月11日 晴　(5月碇関:出335・入り395人)
1713年　8月2日 正徳3年　6月12日 晴　午の后刻より雷発す　(9日夜十三町の男入水死)
1713年　8月3日 正徳3年　6月13日 快晴
1713年　8月4日 正徳3年　6月14日 晴　午の后刻雷発す
1713年　8月5日 正徳3年　6月15日 快晴
1713年　8月6日 正徳3年　6月16日 晴
1713年　8月7日 正徳3年　6月17日 快晴　(6日まで駒越村で90350本・川合村で68000本の流木上げる、屋形様この度増上寺の御普請御手伝い仰せ付けられ御用金差上げる・鰺ヶ沢100両・深浦10両・十三11両)
1713年　8月8日 正徳3年　6月18日 晴　辰の下刻地震
1713年　8月9日 正徳3年　6月19日 陰晴　昨夜より雨　今朝辰の刻止む　終日時々雨　(昨18日碇関で火災43軒)
1713年　8月10日 正徳3年　6月20日 曇　巳の下刻より雨
1713年　8月11日 正徳3年　6月21日 晴　(昨夜九つ時分長勝寺で中門出火・早速相鎮める、昨朝高杉組前坂村で7歳女子が狼に取られる)
1713年　8月12日 正徳3年　6月22日 曇　卯の中刻より雨　辰の下刻雷時々発す　午の下刻まで時々雨　同刻より少し晴
1713年　8月13日 正徳3年　6月23日 晴
1713年　8月14日 正徳3年　6月24日 午の下刻暫く小雨　則刻止む
1713年　8月15日 正徳3年　6月25日 晴　(23日駒越組兼平村で3歳男子・同日同組女来瀬村で11歳男子・15日藤代組中崎村で6歳女子狼に喰殺される:正確には後2者は喰れ候とあり生死不明確)
1713年　8月16日 正徳3年　6月26日 晴
1713年　8月17日 正徳3年　6月27日 快晴　夜に入り雨　寅の刻止む　(碇関に鉄砲20挺準備してあった)
1713年　8月18日 正徳3年　6月28日 晴　午の后刻雷発す　(藤崎に3足の白鶏生まれる、23日和徳組湯口村で10歳娘狼に喰われる)
1713年　8月19日 正徳3年　6月29日 昨夜より雨　巳の刻に及び止む
1713年　8月20日 正徳3年　6月30日 晴　(昨夜小栗山村の百姓が女房差殺し自害・死に切れず)
1713年　8月21日 正徳3年　7月1日 晴　(大鰐組大鰐村の加賀助より初米3箱上がる)
1713年　8月22日 正徳3年　7月2日 快晴
1713年　8月23日 正徳3年　7月3日 曇　午の上刻地震　(尾崎組原田村の弥(孫か)兵衛より初米3箱上がる)
1713年　8月24日 正徳3年　7月4日 晴　午の下刻より小風
1713年　8月25日 正徳3年　7月5日 晴　巳の中刻より風　申の下刻大風小雨　亥の下刻に及び止む　(6月中大間越:出33・入り42・計75人)
1713年　8月26日 正徳3年　7月6日 曇　巳の下刻小雨　(昨日未の後刻より西風強く吹き出し暮れ頃より今朝まで吹き続く、後潟組根岸・平館・名崎・奥平辺で狼荒れ玉薬・賄などを手配する)
1713年　8月27日 正徳3年　7月7日 晴
1713年　8月28日 正徳3年　7月8日 快晴　(和徳組小沢村に熊が死んでいる・埋める)
1713年　8月29日 正徳3年　7月9日 快晴　小風
1713年　8月30日 正徳3年　7月10日 快晴
1713年　8月31日 正徳3年　7月11日 陰晴　午の刻小雨　則止む　(9日駒越組相馬山で熊(胆長3寸廻り2寸)取る、高杉組鬼沢村で熊(胆長4寸廻り7寸)取る)

1713年　9月1日 正徳3年　7月12日 晴　夜に入り雨時々　未の刻より止む　(13日より16日夜九つ時まで(お盆につき)町中の木戸を開放する、5･6日の風被害、11日駒越組か高杉組で13歳女子が狼に喰殺される)
1713年　9月2日 正徳3年　7月13日 陰晴
1713年　9月3日 正徳3年　7月14日 曇　午の中刻より大風　申の下刻に及び止む　大虹小雨暫く
1713年　9月4日 正徳3年　7月15日 晴　小風　(報恩寺等に大風被害)
1713年　9月5日 正徳3年　7月16日 晴　(昨15日駒越組兼平村で子供が狼に喰殺される)
1713年　9月6日 正徳3年　7月17日 陰晴　(14日の強風で城内被害、16日浪岡組杉沢村で火災1軒、15日藤崎組横沢村で火災1軒)
1713年　9月7日 正徳3年　7月18日 辰の上刻より雨　終日に及ぶ
1713年　9月8日 正徳3年　7月19日 曇　時々小雨　午の刻に及び止む　(碇関火災(6月18日)の火元入寺御免)
1713年　9月9日 正徳3年　7月20日 快晴　(当6月中碇関:出入り597人)
1713年　9月10日 正徳3年　7月21日 陰晴　(16日横内組横内村の猟師が熊(胆長2寸6歩廻り3寸9歩)取る)
1713年　9月11日 正徳3年　7月22日 晴　(長泉院病死)
1713年　9月12日 正徳3年　7月23日 快晴　(大間越から熊が荒れて鉄砲打ちの申し入れあり･貸し出す、飛脚中の足軽落馬)
1713年　9月13日 正徳3年　7月24日 晴
1713年　9月14日 正徳3年　7月25日 陰晴　(21日駒越組で猟師左衛門三郎が熊(胆長2寸廻り4寸5歩)取る)
1713年　9月15日 正徳3年　7月26日 曇　昨夜より雨　午の中刻雷発す　雨終日に及ぶ　申の下刻東の方虹
1713年　9月16日 正徳3年　7月27日 曇　雨時々　終日に及ぶ
1713年　9月17日 正徳3年　7月28日 晴　(23日横内組･24日浪岡組徳才子村･25日浦町組新町野村の猟師がそれぞれ熊(胆長3寸6歩廻り3寸6歩･胆長3寸廻り2寸5歩･胆長4寸3歩廻り4寸)取る)
1713年　9月18日 正徳3年　7月29日 陰晴
1713年　9月19日 正徳3年　7月30日 陰晴　(28日浦町組新町野村の猟師が熊(胆長5寸廻り5寸)取る、27日油川組岩渡村で火災1軒)
1713年　9月20日 正徳3年　8月1日 晴　(浪岡組徳才子村の猟師が熊取る)
1713年　9月21日 正徳3年　8月2日 晴　戌の下刻地震
1713年　9月22日 正徳3年　8月3日 陰晴　巳の下刻小雨小風　西の方虹
1713年　9月23日 正徳3年　8月4日 晴
1713年　9月24日 正徳3年　8月5日 曇　卯の中刻より雨　終日に及ぶ　(当月分御扶持米不足･御用達町人に才覚を申付ける、大和沢山で盗木･3人牢舎)
1713年　9月25日 正徳3年　8月6日 陰晴　昨夜の雨辰の后刻まで
1713年　9月26日 正徳3年　8月7日 曇　終日小雨
1713年　9月27日 正徳3年　8月8日 曇　雨　(2日夜十三湊水戸脇で破船1艘)
1713年　9月28日 正徳3年　8月9日 陰晴　小風
1713年　9月29日 正徳3年　8月10日 快晴　(赤石組代官より初鮭差上げる)
1713年　9月30日 正徳3年　8月11日 晴
1713年　10月1日 正徳3年　8月12日 曇　午の下刻少々地震　(今日二番鮭差上げる、高杉組鬼沢村で鉄砲打ち足軽が熊取る)
1713年　10月2日 正徳3年　8月13日 雨　終日に及ぶ　(7日大間越で同心が鉄砲で熊取る、12日駒越組新法師村で7歳男子狼に喰われる、4日今別領山崎の狄が熊取る、7日大和沢山で熊(胆長4寸2歩廻り3寸5歩)取る)
1713年　10月3日 正徳3年　8月14日 晴　昨夜より雨　辰の上刻まで　辰の中刻より晴
1713年　10月4日 正徳3年　8月15日 昨夜より雨　辰の下刻申酉の間虹　(例年のように八幡御神楽)
1713年　10月5日 正徳3年　8月16日 陰晴　(当巳の年駒越町･平岡町に上がった流木は313470本)
1713年　10月6日 正徳3年　8月17日 陰晴　(7月中碇関:出237･入り399人、同大間越:出45･入り46人、閏5月大間越:出48･入り36人)
1713年　10月7日 正徳3年　8月18日 晴
1713年　10月8日 正徳3年　8月19日 陰晴
1713年　10月9日 正徳3年　8月20日 晴　辰の下刻より曇
1713年　10月10日 正徳3年　8月21日 晴
1713年　10月11日 正徳3年　8月22日 晴
1713年　10月12日 正徳3年　8月23日 卯の刻より雨　終日　(藤崎組横沢村(7月15日)･浪岡組杉沢村(7月16日)･牧支配岩渡村(7月27日)の火元の村預け赦免)
1713年　10月13日 正徳3年　8月24日 辰の刻より曇　小風
1713年　10月14日 正徳3年　8月25日 曇　小風　申の下刻雷発す　雨則止む　(21日堀越組一野渡村･20日金木組宮野野沢村の猟師がそれぞれ熊(胆長2寸5歩廻り3寸5歩･胆長4寸5歩廻り4寸5歩)取る)
1713年　10月15日 正徳3年　8月26日 晴　今朝初めて岩木山江雪見る　夜に入り雨
1713年　10月16日 正徳3年　8月27日 曇　昨夜より雨　山々江雪見る　水雪　(鮭留入札:原別村1貫172匁←去年837匁･綱不知川403匁←125匁･野内川105匁2分←105匁)
1713年　10月17日 正徳3年　8月28日 晴　(深浦町奉行が熊荒れて鉄砲打ちを求める･町同心に鉄砲を貸渡す)
1713年　10月18日 正徳3年　8月29日 曇　今朝霜　小風　下から続く　それぞれ熊(胆長5寸廻り6寸･胆長4寸廻り5寸･胆長5寸廻り7寸･胆長4寸廻り3寸5歩)取る)
1713年　10月19日 正徳3年　9月1日 曇　終日小風雨　夜に入り東風　寅の刻止む　則刻より雨　同下刻止む　(8月28日飯詰組一野坪村の小三郎･27日浪岡組徳才子村の定右衛門(2疋)･駒越組中村村の彦左衛門　上に続く
1713年　10月20日 正徳3年　9月2日 曇　時々小雨　(昨晩の風で南御門番所に被害、1日駒越組中畑村の仁助が熊(胆長2寸廻り1寸)取る)
1713年　10月21日 正徳3年　9月3日 曇　時々雨　(町奉行山内･勘定奉行佐々御免)
1713年　10月22日 正徳3年　9月4日 曇　時々雨
1713年　10月23日 正徳3年　9月5日 晴　(1日の風で赤石組に稲被害･再検見を申し立てる)
1713年　10月24日 正徳3年　9月6日 晴
1713年　10月25日 正徳3年　9月7日 曇　(3日浪岡組徳才子村の定右衛門･5日駒越組桜庭村の喜右衛門がそれぞれ熊(胆長4寸廻り6寸･胆長2寸廻り1寸5歩)取る)
1713年　10月26日 正徳3年　9月8日 曇　夜に入り時々雨　(29～3日沖合で破船1艘、1日の風で赤石組正道尻村に破船1艘、たつひ(竜飛)崎沖で強風に船から落ち1人行方不明)
1713年　10月27日 正徳3年　9月9日 晴　(4日飯詰組一野坪村の彦次郎が熊(胆長4寸5歩廻り5寸6歩)取る、8月中大間越:出39･入り39人)
1713年　10月28日 正徳3年　9月10日 曇　巳の下刻より雨
1713年　10月29日 正徳3年　9月11日 曇　未の后刻より雪少し降る　(長尾が御用人に･丹野が用人兼帯)
1713年　10月30日 正徳3年　9月12日 晴　昨夜雪一寸ほど降
1713年　10月31日 正徳3年　9月13日 晴　昨夜子の下刻より雨　寅の刻に及ぶ　(尾崎組唐竹村の惣助･駒越組相馬村の左衛門次郎がそれぞれ熊(胆長2寸廻り3寸5歩･胆長1寸8歩廻り1寸)取る)

1713年　11月1日 正徳3年　　9月14日 晴 （神明で天気上げの御祈祷）
1713年　11月2日 正徳3年　　9月15日 昨夜雪雨時々 （屋形様と豊五郎様熱海に御湯治、当秋御用人支配切支丹宗門惣人数:3289人・家屋敷88軒・乗馬1疋・又支配家屋敷108軒）
1713年　11月3日 正徳3年　　9月16日 曇
1713年　11月4日 正徳3年　　9月17日 曇 （8月中碇関:出259・入り317人、7月中野内:出104・入り105人、8月中野内:出92・入り100人）
1713年　11月5日 正徳3年　　9月18日 快晴
1713年　11月6日 正徳3年　　9月19日 晴 （昨夜8時親方町に付け火、一昨17日長勝寺林に熊出る）
1713年　11月7日 正徳3年　　9月20日 巳の下刻より雨
1713年　11月8日 正徳3年　　9月21日 晴 （14日金木組金木村の四郎三郎が熊（胆長2寸3歩廻り3寸）取る）
1713年　11月9日 正徳3年　　9月22日 快晴
1713年 11月10日 正徳3年　　9月23日 曇 午の下刻小雨 則止む 夜に入り雨
1713年 11月11日 正徳3年　　9月24日 陰晴 昨夜より雨 辰の刻に及ぶ
1713年 11月12日 正徳3年　　9月25日 晴 今朝大雪 （21日金木組宮野沢村の彦左衛門が・20日横内組横内村の左衛門四郎がそれぞれ熊（胆長4寸5歩廻り4寸・胆長3寸廻り4寸）取る）
1713年 11月13日 正徳3年　　9月26日 曇 （丸太の相場・10匁に付き:大大丸太3～4本・大木8～9本・雑木11～14本・中丸太14～18本）
1713年 11月14日 正徳3年　　9月27日 陰晴
1713年 11月15日 正徳3年　　9月28日 曇 卯の中刻より雨 午の刻に及ぶ （大鰐組長峰村の嘉之助が・同組仁兵衛がそれぞれ熊取る、深浦で荒れた熊退治）
1713年 11月16日 正徳3年　　9月29日 晴
1713年 11月17日 正徳3年　　9月30日 陰晴 今朝大雪
1713年 11月18日 正徳3年　　10月1日 （空欄:14日まで保存なし）
1713年 11月19日 正徳3年　　10月2日
1713年 11月20日 正徳3年　　10月3日
1713年 11月21日 正徳3年　　10月4日
1713年 11月22日 正徳3年　　10月5日
1713年 11月23日 正徳3年　　10月6日
1713年 11月24日 正徳3年　　10月7日
1713年 11月25日 正徳3年　　10月8日
1713年 11月26日 正徳3年　　10月9日
1713年 11月27日 正徳3年　　10月10日
1713年 11月28日 正徳3年　　10月11日
1713年 11月29日 正徳3年　　10月12日
1713年 11月30日 正徳3年　　10月13日
1713年　12月1日 正徳3年　　10月14日
1713年　12月2日 正徳3年　　10月15日 曇 申の刻より雪 夜に入り雪吹く （馬値段1疋:2歳馬65匁5分5厘・45匁3分5厘など、去る11日の強風で青森御仮屋廻り所々破損）
1713年　12月3日 正徳3年　　10月16日 陰晴 今朝雪2寸ほど 辰の中刻より雪暫く降る
1713年　12月4日 正徳3年　　10月17日 晴
1713年　12月5日 正徳3年　　10月18日 曇 巳の下刻小雨 夜中雨降
1713年　12月6日 正徳3年　　10月19日 終日雨 夜に入り雪
1713年　12月7日 正徳3年　　10月20日 曇 時々雪 夜中雪
1713年　12月8日 正徳3年　　10月21日 晴 今朝少々雪
1713年　12月9日 正徳3年　　10月22日 陰晴
1713年 12月10日 正徳3年　　10月23日 晴 （19日牧支配浦町組新町野村の助兵衛が熊（胆長4寸9歩廻り5寸）取る）
1713年 12月11日 正徳3年　　10月24日 晴 昨夜雪
1713年 12月12日 正徳3年　　10月25日 曇 子丑の後刻雷 卯の刻より雪 巳の下刻止む
1713年 12月13日 正徳3年　　10月26日 曇 卯の刻雷 同中刻雷 昨夜より雪
1713年 12月14日 正徳3年　　10月27日 曇 今朝より雪終日 夜に入り雪 （9月中碇関:出776・入り715人）
1713年 12月15日 正徳3年　　10月28日 快 今朝少し雪
1713年 12月16日 正徳3年　　10月29日 晴
1713年 12月17日 正徳3年　　10月30日 快晴 夜に入り雪 （一番鱈4本青森より差上げる）
1713年 12月18日 正徳3年　　11月1日 曇 小吹雪 昨夜雪 （知行を2割くらい借り上げ）
1713年 12月19日 正徳3年　　11月2日 陰晴 今朝雪 則時止む 夜に入り雪
1713年 12月20日 正徳3年　　11月3日 曇 時々雪
1713年 12月21日 正徳3年　　11月4日 晴
1713年 12月22日 正徳3年　　11月5日 晴 （御切米渡し候節の相場:金1両が54匁9分・米1俵が17匁）
1713年 12月23日 正徳3年　　11月6日 晴
1713年 12月24日 正徳3年　　11月7日 快晴 （10月中大間越:出86・入り52人）
1713年 12月25日 正徳3年　　11月8日 晴
1713年 12月26日 正徳3年　　11月9日 曇 昨夜雪 （雉子狩:雄3・雌2・山鳥1羽）
1713年 12月27日 正徳3年　　11月10日 曇
1713年 12月28日 正徳3年　　11月11日 晴
1713年 12月29日 正徳3年　　11月12日 陰晴 時々雨
1713年 12月30日 正徳3年　　11月13日 快晴 （米1升に付き:上小麦4合・上大麦5合・次大豆1升4合・馬大豆1升5合、8日夜染屋町の井戸に狼が落ちて死ぬ、10月中碇関:出259・入り226人）
1713年 12月31日 正徳3年　　11月14日 快晴

1714年　1月1日 正徳3年　11月15日 晴 （藤代組で昨(辰)年10月18日夜・今年2月25日・5月19日・6月15日・6月20日・6月29日にそれぞれ走った者がある）
1714年　1月2日 正徳3年　11月16日 卯の刻より雪　辰の刻より雨
1714年　1月3日 正徳3年　11月17日 曇　昨夜小風　時々雪 （駒越組桜庭村の喜右衛門が熊取る）
1714年　1月4日 正徳3年　11月18日 陰晴
1714年　1月5日 正徳3年　11月19日 陰晴
1714年　1月6日 正徳3年　11月20日 寅三つ刻より寒に入る （鰤5本今別より上がる）
1714年　1月7日 正徳3年　11月21日 晴 （16日駒越組杉ヶ沢村の惣左衛門が熊(胆長3寸5歩廻り6寸)取る、10月中野内:出56・入り78人）
1714年　1月8日 正徳3年　11月22日 曇　午の中刻より雨　戌の刻雪
1714年　1月9日 正徳3年　11月23日 曇
1714年　1月10日 正徳3年　11月24日 晴　未の刻より小雪
1714年　1月11日 正徳3年　11月25日 昨夜雪　午の刻小雪 （20・21日駒越組中畑村の仁助・同組彦左衛門がそれぞれ熊取る）
1714年　1月12日 正徳3年　11月26日 晴
1714年　1月13日 正徳3年　11月27日 陰晴　巳の上刻小雨　則止む （御家中の若党自害）
1714年　1月14日 正徳3年　11月28日 曇　巳の刻より午の下刻まで吹雪　夜に入り小風
1714年　1月15日 正徳3年　11月29日 晴 （雉子値段1羽:雄3匁・雌2匁5分、山鳥1羽:雄1匁5分・雌1匁）
1714年　1月16日 正徳3年　12月1日 今朝　夜に入り小雪
1714年　1月17日 正徳3年　12月2日 晴
1714年　1月18日 正徳3年　12月3日 快晴
1714年　1月19日 正徳3年　12月4日 曇　辰の下刻吹雪 （大間越の蔵米30俵を飯米にとの申し立てあり・(1俵)19匁5分で下げ渡す）
1714年　1月20日 正徳3年　12月5日 快晴
1714年　1月21日 正徳3年　12月6日 曇　夜に入り少し雪
1714年　1月22日 正徳3年　12月7日 快晴
1714年　1月23日 正徳3年　12月8日 陰晴 （桧1本値段:3間丸太1匁2分・2間丸太6分）
1714年　1月24日 正徳3年　12月9日 晴　小風
1714年　1月25日 正徳3年　12月10日 晴 （11月中碇関:出153・入り137人、同月大間越:出69・入り74人）　下から続く　・次小麦(28.6・30.8・32.1)・次大麦(5.0・5.4・ー)・次粟・次蕎麦(6.7・7.2・7.5)・次稗(4.5・4.8・5.0)）
1714年　1月26日 正徳3年　12月11日 曇　午の下刻より少々降る　夜に入り吹雪 （米と雑穀1俵値段(近在・西之浜十三・外浜の順):米(18匁・19匁4分・20匁2分)・次大豆(11.1・12.0・12.4)・次小豆(15.4・16.6・17.3）　上に続く
1714年　1月27日 正徳3年　12月12日 晴
1714年　1月28日 正徳3年　12月13日 曇　巳の刻より吹雪
1714年　1月29日 正徳3年　12月14日 曇　夜に入り雪
1714年　1月30日 正徳3年　12月15日 曇　巳の下刻雪
1714年　1月31日 正徳3年　12月16日 晴
1714年　2月1日 正徳3年　12月17日 曇　時々小雪
1714年　2月2日 正徳3年　12月18日 陰晴　時々小雪
1714年　2月3日 正徳3年　12月19日 巳の下刻少々雪　夜に入り大雪
1714年　2月4日 正徳3年　12月20日 曇　節分　今朝より雪　終日に及ぶ　夜に入り風
1714年　2月5日 正徳3年　12月21日 終日曇　未の五刻より正月節に至る
1714年　2月6日 正徳3年　12月22日 陰晴
1714年　2月7日 正徳3年　12月23日 快晴　今朝霞見候 （大間越町から御蔵米30俵御払い願い・1俵を19匁8分宛で出す、20日尾崎組唐竹村の甚左衛門が熊(胆長4寸3歩廻り6寸)取る）
1714年　2月8日 正徳3年　12月24日 晴　午の下刻より吹雪　夜に入り吹雪
1714年　2月9日 正徳3年　12月25日 晴
1714年　2月10日 正徳3年　12月26日 曇　時々雪
1714年　2月11日 正徳3年　12月27日 晴 （19日金木組金木村の四郎三郎が熊(胆長3寸2歩廻り5寸)取る、11月中野内:出44・入り58人）
1714年　2月12日 正徳3年　12月28日 陰晴
1714年　2月13日 正徳3年　12月29日 陰晴
1714年　2月14日 正徳3年　12月30日 曇　卯の刻より小雨終日　終夜に及ぶ
1714年　2月15日 正徳4年　正月1日　陰晴　昨夜大雨風
1714年　2月16日 正徳4年　正月2日　今朝雪降　辰の下刻晴
1714年　2月17日 正徳4年　正月3日　時々雪降　夜に及ぶ （一昨夜中の雨で洪水・尾崎組飯田渡し橋と小杉村の仮橋押し流す・境関渡しと藤崎川の仮橋破損）
1714年　2月18日 正徳4年　正月4日　雪　辰の刻より晴
1714年　2月19日 正徳4年　正月5日　時々雪　午の下刻晴
1714年　2月20日 正徳4年　正月6日　晴　夜に入り小雪
1714年　2月21日 正徳4年　正月7日　陰晴　卯の后刻より吹雪　丑の中刻丸雪
1714年　2月22日 正徳4年　正月8日　晴
1714年　2月23日 正徳4年　正月9日　晴
1714年　2月24日 正徳4年　正月10日　晴　未の下刻小雪　夜に入り風 （12月22日江戸下谷地から出火・柳原の中屋敷残らず焼失）
1714年　2月25日 正徳4年　正月11日　晴　卯の下刻より小雪 （9日大鰐組居土村の弥左衛門が熊(胆長3寸5歩廻り4寸5歩)取る）
1714年　2月26日 正徳4年　正月12日　晴　夜中雪　五寸程
1714年　2月27日 正徳4年　正月13日　陰晴
1714年　2月28日 正徳4年　正月14日　晴

1714年　3月1日 正徳4年 正月15日　陰晴　巳の刻雪　則止む　午の刻晴　寅の刻小雪 （本年江戸登りの御茶道方に山上古林）
1714年　3月2日 正徳4年 正月16日　陰晴　巳の刻より小雪
1714年　3月3日 正徳4年 正月17日　晴　雪降　巳の下刻より晴 （12月中関所出入り人数計12人、12日駒越組中畑村の彦左衛門が熊2疋（胆長4寸廻り7寸・胆長2寸廻り2寸）取る、去る12月碇関:出105・入り84人）
1714年　3月4日 正徳4年 正月18日　昨夜中雪　巳の刻晴
1714年　3月5日 正徳4年 正月19日　昨夜中　雪四寸程
1714年　3月6日 正徳4年 正月20日　快晴
1714年　3月7日 正徳4年 正月21日　辰の下刻小雨　則止む　巳の下刻晴　申の后刻雨 （大間越町庄屋が御蔵米50俵お払い願い・1俵21匁宛で出す、横内組長森村の助左衛門が熊取る）
1714年　3月8日 正徳4年 正月22日　曇　卯の后刻小雪　夜中に及ぶ
1714年　3月9日 正徳4年 正月23日　雪　卯の刻晴　午の下刻より雨
1714年　3月10日 正徳4年 正月24日　晴
1714年　3月11日 正徳4年 正月25日　快晴　戌の下刻雨　午の刻より風
1714年　3月12日 正徳4年 正月26日　昨夜より風雨時々　夜に入り雪風 （昨夜中より風雨で岩木川洪水・石渡船渡し往還止める、去る12月中野内:出45・入り47人）
1714年　3月13日 正徳4年 正月27日　晴 （昨夜中の雨で岩木川洪水・駒越渡し今日四つ前より往還相止める）
1714年　3月14日 正徳4年 正月28日　曇　午の下刻雨　夜に及ぶ （一昨夜の大風で高岡に被害）
1714年　3月15日 正徳4年 正月29日　曇　辰の刻小風　巳の下刻雨時々　申の中刻雪風　戌の下刻止む
1714年　3月16日 正徳4年　2月1日 晴
1714年　3月17日 正徳4年　2月2日 晴
1714年　3月18日 正徳4年　2月3日 晴 （先月25日の風で紺屋町枡形の柵と織座際の柱倒れる）
1714年　3月19日 正徳4年　2月4日 小風　夜に及ぶ
1714年　3月20日 正徳4年　2月5日 陰晴　今朝小雪　巳の下刻小雨　未の下刻小雪 （魚油値段1升に付き:去年3匁5分・今年3匁8分）
1714年　3月21日 正徳4年　2月6日 曇　終日雪雨
1714年　3月22日 正徳4年　2月7日 曇　時々雪
1714年　3月23日 正徳4年　2月8日 晴　今朝少し霜
1714年　3月24日 正徳4年　2月9日 晴
1714年　3月25日 正徳4年　2月10日 曇　昨夜より卯の下刻まで雨　同巳の下刻より雨　則止む （狄共が米221俵拝借願い・鮟油で払うよう申付ける、先月中大間越:出入り230人、去る巳の年12月中大間越:出43・入り36人）
1714年　3月26日 正徳4年　2月11日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　亥の刻より雨 （岩木川洪水・石渡船渡しも今晩七つ頃より留める）
1714年　3月27日 正徳4年　2月12日 曇　小風時々雨　堀水凍る （打船1艘の値段150匁等、金木組岩崎村に男乞食倒死、8日浦町組合子沢村の弥左衛門が熊（胆長4寸8歩廻り7寸8歩）取る）
1714年　3月28日 正徳4年　2月13日 晴　小風　　下から続く　　（2・4・141・64・26・14）・家屋敷203軒）
1714年　3月29日 正徳4年　2月14日 晴　小風 （正月中碇関:出396・入り348人）　　下から続く　　浄土252・法花91・浄土真123）・上女1203（6・26・758・213・97・103）・下男421（3・9・280・73・32・24）・下女251　　上に続く
1714年　3月30日 正徳4年　2月15日 快晴　今朝大霜 （先頃の雨で十川洪水・柏木組常海橋村と夕顔関村の道が水湛、正月中野内:出48・入り28人、御用人支配惣人数:3317人・上男1442（天台14・真言31・禅931・　　上に続く
1714年　3月31日 正徳4年　2月16日 快晴　亥の刻より雨 （12日大鰐組唐子村の治兵衛が熊（胆がたてに当たり壊れる）取る、2月12日十三潟が高根沖まで明ける・去年は3月6日で彼岸と比較（太陽暦で比較）している）
1714年　4月1日 正徳4年　2月17日 曇　巳の下刻雨止む（巳下刻止雨）
1714年　4月2日 正徳4年　2月18日 曇 （14日堀越組一ノ渡村の藤十郎が熊（胆長5寸5歩廻り7寸）取る）
1714年　4月3日 正徳4年　2月19日 晴　今朝霜
1714年　4月4日 正徳4年　2月20日 晴 （米値段1俵に付き:弘前20目3分・青森26匁1分・鰺ヶ沢21匁5分・蟹田26匁5分・今別27匁1分・深浦22匁・十三21匁5分、鉄30貫で100目）
1714年　4月5日 正徳4年　2月21日 晴　巳の下刻より小風
1714年　4月6日 正徳4年　2月22日 曇　未の中刻より雨　酉の下刻霙　夜に入り雪 （大間越町庄屋が御蔵米50俵御払い願い・値段1俵24匁5分宛で申し付ける）
1714年　4月7日 正徳4年　2月23日 今朝雪三寸ほど　終日雪吹く　申の下刻より雪風　則刻止む
1714年　4月8日 正徳4年　2月24日 外堀氷張る （駒越組田代村の藤左衛門が熊取る）
1714年　4月9日 正徳4年　2月25日 陰晴　巳の刻より小風　申の下刻より小雨　夜に及ぶ （正月10日青森の船が松前小島で破船・1人死亡）
1714年　4月10日 正徳4年　2月26日 昨夜より雨　巳の下刻止む
1714年　4月11日 正徳4年　2月27日 快晴　今朝霜
1714年　4月12日 正徳4年　2月28日 晴
1714年　4月13日 正徳4年　2月29日 快晴　今朝霜
1714年　4月14日 正徳4年　3月1日 曇　小風
1714年　4月15日 正徳4年　3月2日 晴　今朝寅の刻小雨小風
1714年　4月16日 正徳4年　3月3日 快晴　今朝霜
1714年　4月17日 正徳4年　3月4日 晴
1714年　4月18日 正徳4年　3月5日 晴　小風 （先月27日駒越組桜庭村の茂助が熊（胆長2寸廻り4寸）取る）
1714年　4月19日 正徳4年　3月6日 陰晴 （日時不明だが金木組今泉村の男が酒狂い殺人・これを斬罪）
1714年　4月20日 正徳4年　3月7日 晴 （赤石組岩崎村の猟師が熊取る、先月中碇関:出入り407人、先月中大間越:182人）
1714年　4月21日 正徳4年　3月8日 快晴
1714年　4月22日 正徳4年　3月9日 晴　亥の下刻より雨降
1714年　4月23日 正徳4年　3月10日 昨夜より雨　終日に及ぶ （5日碇関で山火事）
1714年　4月24日 正徳4年　3月11日 曇　昨夜霧雨降る （5日昼頃横内組瀧野沢村で野火（600間×500間））
1714年　4月25日 正徳4年　3月12日 曇　今朝霧 （赤石組小福浦村・月屋村・沢部村・岩崎村に野火）
1714年　4月26日 正徳4年　3月13日 晴
1714年　4月27日 正徳4年　3月14日 陰晴　辰の中刻雨　則刻止む　同戌の刻より雨
1714年　4月28日 正徳4年　3月15日 陰晴　昨夜より雨小風 （（銀）1匁当たりの荏粒油の値段の急変:卯年黒粒油2升7合5夕・辰年1升8合・巳年（昨年）1升3合6夕）
1714年　4月29日 正徳4年　3月16日 陰晴 （2月20日江戸で奥女中が若子様を産む・内証で御七夜祝いをした:将来のお家騒動の元ですな）
1714年　4月30日 正徳4年　3月17日 卯の下刻雨時々　戌の后刻雨雷　暫くして止む　申の下刻より月赤し （14日浪岡組徳才子村の定右衛門が熊（胆長1寸7歩廻り3寸）取る、2月中野内:出91・入り53人）

1714年　5月1日 正徳4年　3月18日 陰晴　申の下刻より月赤し(黄砂か大規模な火山噴火でしょうか)
1714年　5月2日 正徳4年　3月19日 今朝大雪(確かに雪であるがそれらしい記録なし・いかにも古文書らしいとでもいえよう)
1714年　5月3日 正徳4年　3月20日 晴　申の下刻より月赤し
1714年　5月4日 正徳4年　3月21日 晴　今朝小霜相見る
1714年　5月5日 正徳4年　3月22日 快晴　夕日赤し　月赤し
1714年　5月6日 正徳4年　3月23日 晴　朝日夕日赤し
1714年　5月7日 正徳4年　3月24日 晴　申の后刻より雨　終日に及ぶ
1714年　5月8日 正徳4年　3月25日 曇　未の下刻より雨　(大間越町奉行が御蔵米50俵を求める・12俵しか出せず後は自分で……、12日加瀬村で火災3・4軒・火元村預けは赦免)
1714年　5月9日 正徳4年　3月26日 陰晴　夕日赤し
1714年　5月10日 正徳4年　3月27日 巳の刻より晴　夕日赤し　(米留衆活躍する)
1714年　5月11日 正徳4年　3月28日 快晴　夕日赤し　(御城米東廻り仰せ付けられる)
1714年　5月12日 正徳4年　3月29日 晴　酉の后刻小雨　同中刻止む
1714年　5月13日 正徳4年　3月30日 陰晴　夕日赤し　(当年江戸御留守勤めの御茶道方に山上古林)
1714年　5月14日 正徳4年　4月1日 今朝霜　朝日赤　申の下刻地震　則止む
1714年　5月15日 正徳4年　4月2日 陰晴
1714年　5月16日 正徳4年　4月3日 陰晴　未の上刻雨　暫くして止む
1714年　5月17日 正徳4年　4月4日 曇　卯の下刻雨　則止む　時々雨
1714年　5月18日 正徳4年　4月5日 曇　昨夜よりの雨時々　(3月中御関所出人計98人:進藤三郎兵衛の報告)
1714年　5月19日 正徳4年　4月6日 曇
1714年　5月20日 正徳4年　4月7日 快晴　(先月中碇関:出入り計406人、先月中大間越:出入り計128人)
1714年　5月21日 正徳4年　4月8日 曇　(先月21日浪岡村の半助が今別の帰りに行方不明)
1714年　5月22日 正徳4年　4月9日 陰晴　(大間越のもの共御蔵米30俵御払い願い・大間越になく深浦の御蔵から手配する)
1714年　5月23日 正徳4年　4月10日 陰晴
1714年　5月24日 正徳4年　4月11日 快晴　夕日赤し　(昨夜五つ半頃最勝院焼失)
1714年　5月25日 正徳4年　4月12日 快晴
1714年　5月26日 正徳4年　4月13日 快晴　小風　(後潟組後潟村の海水岸に52・3男変死流れ寄せる)
1714年　5月27日 正徳4年　4月14日 陰晴　夜に入り小雨
1714年　5月28日 正徳4年　4月15日 卯の中刻より小雨　暫くして止む
1714年　5月29日 正徳4年　4月16日 なし(天気の記述がない)　(飯詰組原子村で狼荒れる・鉄砲打ち2人出す、13日深浦町大火・町中残らず焼失、先月中野内:出入り239人)
1714年　5月30日 正徳4年　4月17日 曇
1714年　5月31日 正徳4年　4月18日 晴　卯の下刻より大風　終日に及ぶ　申の下刻止む　(今朝六つ半時分より南風・御本城(弘前城本丸のこと)屋根など所々剥げる・八つ半頃相止む)
1714年　6月1日 正徳4年　4月19日 陰晴　西南の間今朝虹見る　午の下刻小風
1714年　6月2日 正徳4年　4月20日 なし(天気の記述がない)　(18日夜目付相馬某の馬屋小火・火元遠慮)
1714年　6月3日 正徳4年　4月21日 曇　巳の刻より小雨　則止む　(今13日昼九つ時深浦町で165軒焼失・内138軒の山働きに御救い米)
1714年　6月4日 正徳4年　4月22日 晴
1714年　6月5日 正徳4年　4月23日 今朝霧　巳の上刻晴
1714年　6月6日 正徳4年　4月24日 曇　辰の下刻より小雨　終日に及ぶ　小風　夜に入り大風　(20日金木組今泉村から十三町への船が火災、18日の風で破船2艘(報告者名が金木組代官))
1714年　6月7日 正徳4年　4月25日 曇　巳の刻より時々雨　(18日夜の火元の相馬某の遠慮御免)
1714年　6月8日 正徳4年　4月26日 快晴　夜中少々風
1714年　6月9日 正徳4年　4月27日 陰晴
1714年　6月10日 正徳4年　4月28日 陰晴
1714年　6月11日 正徳4年　4月29日 晴　(18日の大風で山王宮・薬王院・神明宮に被害、後潟組の狀が暮に鮫油を上納するとして米20俵拝借願い・半分を申付ける)
1714年　6月12日 正徳4年　5月1日 快晴　(屋形様は5月12日江戸御発駕の予定、4月中所々御関所出人計112人、去年9月熊荒れ・出した鉄砲打ちが熊1つ打ち止める)
1714年　6月13日 正徳4年　5月2日 曇　未の下刻より雨　(昨夜八つ時分和徳新町に投げ火、大川村渡洪水で飛脚遅れる)
1714年　6月14日 正徳4年　5月3日 陰晴　卯の刻雨　則止む　午の下刻より小風　(18日の大風で報恩寺の塀倒れる)
1714年　6月15日 正徳4年　5月4日 晴　(江戸中屋敷の御作事に人を上げる)
1714年　6月16日 正徳4年　5月5日 午の下刻より時々雨　未の下刻止む
1714年　6月17日 正徳4年　5月6日 晴　(飯詰組一野坪村に男倒死)
1714年　6月18日 正徳4年　5月7日 快晴
1714年　6月19日 正徳4年　5月8日 卯の上刻より雨時々　終日に及ぶ　(6日昼八つ過ぎ後潟組蓬田村(9軒)・阿弥陀川村(5軒)で火災、先月中大間越:出入り61人)
1714年　6月20日 正徳4年　5月9日 晴　(大間越町の飯米として御蔵米30俵の払い出しを申し立てるが半分だけ出し残りは自分で探せとのこと)
1714年　6月21日 正徳4年　5月10日 晴　朝の内曇
1714年　6月22日 正徳4年　5月11日 晴　(6日後潟組の火災・蓬田村で8軒・阿弥陀川村で寺など5軒・計14軒、先月中野内:出108・入り135・計243人)
1714年　6月23日 正徳4年　5月12日 陰晴　卯の刻小雨
1714年　6月24日 正徳4年　5月13日 巳の下刻より雨　終日に及ぶ　(一昨11日の晩飯詰組原子村で葛西木工右衛門が狼を打ち留める、2日大鰐組薬師堂村で男が行方不明)
1714年　6月25日 正徳4年　5月14日 晴
1714年　6月26日 正徳4年　5月15日 快晴
1714年　6月27日 正徳4年　5月16日 曇　巳の中刻より晴　小風
1714年　6月28日 正徳4年　5月17日 晴
1714年　6月29日 正徳4年　5月18日 未の刻雷発す　大雨　申の中刻止む　(津軽坂村等に熊荒れ鉄砲2挺を代官に渡す)
1714年　6月30日 正徳4年　5月19日 晴　卯の刻より巳の刻まで曇　(先月中碇関:出入り756人)

1714年　7月1日 正徳4年　5月20日 晴　蝉の声聞く（関札打ち到着）
1714年　7月2日 正徳4年　5月21日 晴（大鰐より初胡瓜差上げる、大鰐組薬師堂村の行方不明者は尾崎組小国山で倒死・傷なし）
1714年　7月3日 正徳4年　5月22日 快晴
1714年　7月4日 正徳4年　5月23日 快晴
1714年　7月5日 正徳4年　5月24日 曇
1714年　7月6日 正徳4年　5月25日 卯の下刻雨　則止む　酉の下刻雷発す　則刻止む
1714年　7月7日 正徳4年　5月26日 曇　時々小雨
1714年　7月8日 正徳4年　5月27日 曇　午の刻大雨　則刻止む（21日山形まみが崎川など洪水・屋形様の行程も遅れる）
1714年　7月9日 正徳4年　5月28日 晴
1714年　7月10日 正徳4年　5月29日 晴
1714年　7月11日 正徳4年　5月30日 辰の刻より雨　巳の中刻止む　未の下刻風　則時止む（屋形様12日江戸発・今日午の中刻着城、江戸より御供の御徒に山上羽根右衛門あり）
1714年　7月12日 正徳4年　6月1日 晴（大鰐御菜園より真瓜五つ差上げる）
1714年　7月13日 正徳4年　6月2日 快晴
1714年　7月14日 正徳4年　6月3日 今朝辰の下刻より雨降　夜に及ぶ（5月中所々御関所出人:112人、南溜池に30斗身投げ女死亡）
1714年　7月15日 正徳4年　6月4日 昨夜より雨　巳の下刻晴（大鰐より御菜園初茄子7つ差上げる、先月中野内:入り出267人）
1714年　7月16日 正徳4年　6月5日 快晴　酉の刻より雨　則止む　夜に入り雨
1714年　7月17日 正徳4年　6月6日 陰晴　夜に入り雨
1714年　7月18日 正徳4年　6月7日 晴　卯の上刻より雨　巳の下刻止む（当5月中碇関:出474乗馬1疋・入り344・計880人、5月中大間越:出74・入り60・計134人）
1714年　7月19日 正徳4年　6月8日 快晴　亥の下刻より土用入り
1714年　7月20日 正徳4年　6月9日 曇　昨夜寅の刻より雨　雷少し発す　雨終日
1714年　7月21日 正徳4年　6月10日 陰晴　昨夜より雨　卯の下刻止む
1714年　7月22日 正徳4年　6月11日 晴（6日夜九つ過ぎ深浦で南風による破船1艘）
1714年　7月23日 正徳4年　6月12日 曇　卯の刻より雨
1714年　7月24日 正徳4年　6月13日 晴
1714年　7月25日 正徳4年　6月14日 陰晴　午の刻小雨　則止む
1714年　7月26日 正徳4年　6月15日 晴（当月朔日御用の氷2斗代銭6匁）
1714年　7月27日 正徳4年　6月16日 陰晴
1714年　7月28日 正徳4年　6月17日 晴
1714年　7月29日 正徳4年　6月18日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　卯の下刻雷発す
1714年　7月30日 正徳4年　6月19日 快晴（尾崎組原田村の弥兵衛今年4月23日植付6月17日出穂・去年5月11日植付(閏5月あり)6月13日出穂、新田代官阿部某五里四方追放）
1714年　7月31日 正徳4年　6月20日 晴（5月6日蓬田村の火元の村預け御免）
1714年　8月1日 正徳4年　6月21日 陰晴　巳の下刻小雨時々
1714年　8月2日 正徳4年　6月22日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1714年　8月3日 正徳4年　6月23日 曇　巳の下刻雷発す　午の刻大風雨　雷発す　同中刻晴（4月13日深浦火元の入寺御免）
1714年　8月4日 正徳4年　6月24日 快晴（昨日の風雨で大善院の塀倒れる）
1714年　8月5日 正徳4年　6月25日 なし(天気の記述がない)
1714年　8月6日 正徳4年　6月26日 快晴
1714年　8月7日 正徳4年　6月27日 昨夜より雨（大間越町奉行が御蔵米30俵の御払いを申し立てる・15俵を1俵26匁6分払うように申付ける）
1714年　8月8日 正徳4年　6月28日 陰晴　夜に入り小雨
1714年　8月9日 正徳4年　6月29日 快晴　今朝岩木山雪見る　亥の刻雷光　雨時々
1714年　8月10日 正徳4年　7月1日 晴　午の刻小雨
1714年　8月11日 正徳4年　7月2日 晴　辰の下刻まで曇　午の下刻少々地震
1714年　8月12日 正徳4年　7月3日 快晴
1714年　8月13日 正徳4年　7月4日 快晴
1714年　8月14日 正徳4年　7月5日 快晴
1714年　8月15日 正徳4年　7月6日 辰の下刻雨　西の方に虹見る　午の刻より晴
1714年　8月16日 正徳4年　7月7日 晴（正徳の金銀割合戻しに関する幕命あり）
1714年　8月17日 正徳4年　7月8日 寅の刻より雨　終日に及ぶ
1714年　8月18日 正徳4年　7月9日 陰晴（6月中野内:出75・入り131人）
1714年　8月19日 正徳4年　7月10日 卯の上刻より雨　巳の刻止む　それより快晴（山漆の実100石から生蝋燭150貫取れるらしい）
1714年　8月20日 正徳4年　7月11日 陰晴　巳の刻小雨　雷一度発す　則刻雨晴　戌の下刻雨　夜中に及ぶ　下から続く　将監の閉門御免・役儀召し放ち、8日夜秋田本町3丁目から大火(町名あり))
1714年　8月21日 正徳4年　7月12日 昨夜よりの雨　午の下刻に及ぶ（尾崎組原田村の弥兵衛が初米4箱上げる・2箱は高岡に、明方より大雨四つ時まで降続く・百石町橋流落・駒越町へ水上がる、御手廻組頭渡辺　上に続く
1714年　8月22日 正徳4年　7月13日 曇　昨夜より雨
1714年　8月23日 正徳4年　7月14日 曇　戌の刻より雨
1714年　8月24日 正徳4年　7月15日 曇　昨夜より雨
1714年　8月25日 正徳4年　7月16日 曇　昨夜より雨
1714年　8月26日 正徳4年　7月17日 曇（昨12日夜十三の川尻で破船1艘）
1714年　8月27日 正徳4年　7月18日 陰晴（大道寺隼人より西舘刑部「様」宛の手紙あり、6月中碇関:出389・入り363人、藤崎川17日から渡す）
1714年　8月28日 正徳4年　7月19日 陰晴　辰の刻より小雨　辰の下刻晴　夜に入り雨
1714年　8月29日 正徳4年　7月20日 晴
1714年　8月30日 正徳4年　7月21日 快晴（岩城家城下町亀田で西大工町の男病死・その持ち物に「王川者:わつは」(わっぱと読み食器のこと)あり）
1714年　8月31日 正徳4年　7月22日 快晴（大間越町奉行から熊が荒れたので去年どおり番筒を町同心に貸し渡すよう願い出・了承する）

1714年　9月1日 正徳4年　7月23日 快晴
1714年　9月2日 正徳4年　7月24日 午の下刻より小雨
1714年　9月3日 正徳4年　7月25日 辰の刻より雨　巳の刻より晴
1714年　9月4日 正徳4年　7月26日 快晴　(栗毛3歳馬入札:銀135匁9分)
1714年　9月5日 正徳4年　7月27日 陰晴　午の刻小雨　則止む　夜に入り雨
1714年　9月6日 正徳4年　7月28日 陰晴　午の下刻より小雨
1714年　9月7日 正徳4年　7月29日 昨夜より雨　則刻止む　(12日の大雨被害・石渡川と久渡寺坂元の橋など、藤崎堰神禰宜が昨夏出生の三つ足の白鶏御覧に入れる)
1714年　9月8日 正徳4年　7月30日 子の下刻大雨　雷発す　終夜に及ぶ　(28日鯵ヶ沢町同心警固自害)
1714年　9月9日 正徳4年　8月1日 快晴　子の刻より雨降　(御家中が庭前の梨差上げる)
1714年　9月10日 正徳4年　8月2日 巳の后刻より雨　終日　夜に及ぶ　(百沢寺より苔の実差上げる、7月中御関所出人都合38人)
1714年　9月11日 正徳4年　8月3日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1714年　9月12日 正徳4年　8月4日 陰晴　小風　(革秀寺より東瓜(翌日冬瓜と記述:とうがんと読みかぼちゃのこと)3差し上げる、一昨日までの雨で藤崎川拾分・長船で往還)
1714年　9月13日 正徳4年　8月5日 陰晴　(4日藤崎組林崎村に45・6男倒死)
1714年　9月14日 正徳4年　8月6日 晴　(先月中大間越:出入り51人)
1714年　9月15日 正徳4年　8月7日 曇　時々雨終日　夜に及ぶ　(先月中碇関:出入り430人)
1714年　9月16日 正徳4年　8月8日 昨夜より雨　則刻止む　夜に入り時々
1714年　9月17日 正徳4年　8月9日 昨夜より雨　未の刻より晴　申の刻地震　(巳の刻前風強く所々破損)
1714年　9月18日 正徳4年　8月10日 陰晴　昨夜よりの雨　辰の刻晴　則刻西の方虹　巳の刻小雨　則晴　(7日藤崎組林崎村で馬屋1軒と小荷駄1疋焼失、米1俵に付き26匁2分)
1714年　9月19日 正徳4年　8月11日 陰晴
1714年　9月20日 正徳4年　8月12日 陰晴
1714年　9月21日 正徳4年　8月13日 曇　辰の上刻より雨　未の下刻晴　(10日十三川尻で破船1艘)
1714年　9月22日 正徳4年　8月14日 曇　卯の刻より雨降　辰の刻晴　(9日鯵ヶ沢湊で破船2艘)
1714年　9月23日 正徳4年　8月15日 曇　午の中刻小雨　則止む　(八幡宮で御神楽)
1714年　9月24日 正徳4年　8月16日 快晴
1714年　9月25日 正徳4年　8月17日 曇　(15日郡奉行関治助病死)
1714年　9月26日 正徳4年　8月18日 曇　昨夜より雨　辰の刻晴　午の刻雨　同下刻晴
1714年　9月27日 正徳4年　8月19日 曇　申の下刻より雨降　(織座役人欲賀庄三郎昨夜病死)
1714年　9月28日 正徳4年　8月20日 晴　(広田組漆川村に盗人・刺され逃亡・死亡)
1714年　9月29日 正徳4年　8月21日 快晴　(9日の大風で赤石組の村々の稲ふし……・外浜4か組先月晦日より当月9日まで東風吹き続き作毛殊の外悪しく……)
1714年　9月30日 正徳4年　8月22日 快晴　(初鮭1尺赤石組より差上げる)
1714年　10月1日 正徳4年　8月23日 快晴　(赤石組より二番鮭差上げる)
1714年　10月2日 正徳4年　8月24日 曇　申の刻より雨　(他国者が外南御門に・戸田能登守の御家来というのを押しとどめ宿へ案内する)
1714年　10月3日 正徳4年　8月25日 昨夜より雨　辰の刻晴
1714年　10月4日 正徳4年　8月26日 快晴　今朝水霜降る
1714年　10月5日 正徳4年　8月27日 曇　子の下刻より雨　終夜に及ぶ　(鮭留入札:原別川1貫257匁5分←1貫172匁・綱不知川453匁5分←403匁・野内川151匁9分9厘←105匁2分、昨夜の雨で藤崎川今昼過ぎ水が出て往還止める)
1714年　10月6日 正徳4年　8月28日 陰晴　申の刻より雨
1714年　10月7日 正徳4年　8月29日 曇　昨日よりの雨時々　(御家中が舞茸差し上げる、28日和徳組黒滝村で火災1軒(2間×3間)、24日記述の戸田家家臣は敵討ち?の者)
1714年　10月8日 正徳4年　8月30日 晴　卯の中刻より小雨　(所々御関所当月分出人都合51人・切手35枚)
1714年　10月9日 正徳4年　9月1日 晴　(7月中野内:出69・入り102・計171人、御禿2人に申付ける)
1714年　10月10日 正徳4年　9月2日 陰晴　未の下刻より雨　(神某庭前の梨差上げる)
1714年　10月11日 正徳4年　9月3日 昨夜より雨　今朝岩木山頂上雪降る　(渡辺将監遠慮御免)
1714年　10月12日 正徳4年　9月4日 卯の中刻小雨
1714年　10月13日 正徳4年　9月5日 曇　卯の中刻より小雨　終日に及ぶ
1714年　10月14日 正徳4年　9月6日 晴　(24日に来た戸田家家臣の事情)
1714年　10月15日 正徳4年　9月7日 晴　(今13日駒越組田代村の次右衛門が熊(胆長3寸廻り2寸5歩)取る)
1714年　10月16日 正徳4年　9月8日 晴　(8月中大間越:入り31・出70・都合101人)
1714年　10月17日 正徳4年　9月9日 なし(天気の記述がない)
1714年　10月18日 正徳4年　9月10日 曇　時々雨　(8月中野内:出68・入り111人)
1714年　10月19日 正徳4年　9月11日 岩木山下の野辺まで雪降
1714年　10月20日 正徳4年　9月12日 曇　未の刻より雨
1714年　10月21日 正徳4年　9月13日 陰晴
1714年　10月22日 正徳4年　9月14日 晴　今朝大霜　(御茶道頭役:御手廻格・御坊主頭と御茶道役:御馬廻格・御近習坊主役:御中小姓格・御茶道方役:御徒格・表坊主小頭役:足軽警固格・御用所坊主役:足軽格)
1714年　10月23日 正徳4年　9月15日 晴　酉の刻雨
1714年　10月24日 正徳4年　9月16日 晴
1714年　10月25日 正徳4年　9月17日 晴　辰の中刻小雨　(当8月碇関:出241・入り338人)
1714年　10月26日 正徳4年　9月18日 晴
1714年　10月27日 正徳4年　9月19日 晴　(酒1升値段9分から1匁・在々浦々も1分増、浦町組新町野村の助三郎・駒越組相馬村の才門三郎が熊(胆長4寸5歩廻り4寸6歩・胆長3寸廻り3寸5歩)取る、御家中が庭前の梨差上げる)
1714年　10月28日 正徳4年　9月20日 晴　巳の刻小雨
1714年　10月29日 正徳4年　9月21日 快晴　今朝霜　未の刻雨　則止む　(広須新田芦沼村の助左衛門・金木組宮野沢村の彦左衛門熊(胆長2寸廻り1寸5歩・胆長6寸5歩廻り4寸5歩)取る)
1714年　10月30日 正徳4年　9月22日 晴
1714年　10月31日 正徳4年　9月23日 快晴　(昨夜暮六つ過ぎ和徳組小沢海道で火災1軒)

1714年　11月1日 正徳4年　9月24日 快晴 （先月28日黒滝村の火元の村預け赦免、先月23日駒越組相馬村の左衛門三郎熊(胆長3寸廻り2寸)取る）
1714年　11月2日 正徳4年　9月25日 陰晴 卯の中刻小雨 則止む
1714年　11月3日 正徳4年　9月26日 陰晴
1714年　11月4日 正徳4年　9月27日 陰晴 今朝大霜
1714年　11月5日 正徳4年　9月28日 晴 夜中風雨 雷三四度発す 卯の刻より晴
1714年　11月6日 正徳4年　9月29日 曇 （駒越組一野渡村の彦次郎が熊2疋(胆長4寸廻り3寸7歩・胆長3寸5歩廻り3寸2歩)取る）
1714年　11月7日 正徳4年　10月1日 晴 戌の下刻より雨 雷発す
1714年　11月8日 正徳4年　10月2日 昨夜よりの雨 終日に及ぶ
1714年　11月9日 正徳4年　10月3日 曇 昨夜より雨 今朝遠山に雪見る
1714年 11月10日 正徳4年　10月4日 曇 今朝小雪 （当9月中大間越:出110・入り71人、1日浪岡組徳才子村の定右衛門が熊(胆長2寸廻り1寸)取る、城中に火鉢出す）
1714年 11月11日 正徳4年　10月5日 晴 夜中雨 （大間越の米値段:駄賃込みで1俵28匁3分）
1714年 11月12日 正徳4年　10月6日 曇 （人足値段:1日1匁、4日夜金木組相内村で火災・村残らず焼失）
1714年 11月13日 正徳4年　10月7日 晴 （大鰐組長峰村の清兵衛が熊(胆長4寸5歩廻り2寸6歩)取る）
1714年 11月14日 正徳4年　10月8日 快晴 （13日浪岡組徳才子村の定右衛門が熊(胆長3寸廻り2寸)取る）
1714年 11月15日 正徳4年　10月9日 快晴
1714年 11月16日 正徳4年　10月10日 晴 辰の刻西の方虹見る 則刻小雨 則止む （9月20日金木組の九左衛門・7日浪岡組徳才子村の定右衛門が熊(胆長3寸廻り4寸5歩・胆長2寸5歩廻り1寸5歩)取る）
1714年 11月17日 正徳4年　10月11日 晴 卯の刻小雨 則止む 申の刻西の方虹見ゆる
1714年 11月18日 正徳4年　10月12日 晴 今朝霜 （先月中碇関:計534人、堀越組一野渡村の彦次郎が熊取る、百沢寺境内で66・7男道心突倒死）
1714年 11月19日 正徳4年　10月13日 陰晴 （4日相内村及び板割沢村に置ける火災:庄屋家1・御蔵百姓3・高無18・給地百姓1・借家6・馬5疋焼失、9日横内組横内村の左衛門四郎が熊取る）
1714年 11月20日 正徳4年　10月14日 曇 終日雨 酉の刻より風雨 戌の下刻大風雨
1714年 11月21日 正徳4年　10月15日 曇 雨雪 終日に及ぶ
1714年 11月22日 正徳4年　10月16日 曇 昨夜より風雨小雪 辰の下刻少し晴 それより曇 申の刻より雨 夜中に及ぶ （4日相内村における焼失:稲籾12930束・大豆6斗3升・蕎麦1斗3升等）
1714年 11月23日 正徳4年　10月17日 今朝小雨 午の下刻より晴 それより曇 （14日の風雨で長勝寺の塀等破損・青森で破船2艘、9月中野内:出75・入り104・計179人）
1714年 11月24日 正徳4年　10月18日 曇 今朝雪少し それより雨 午の刻より晴 （14日の大風で鰺ヶ沢で町屋など破損）
1714年 11月25日 正徳4年　10月19日 曇
1714年 11月26日 正徳4年　10月20日 今朝初雪 終日丸雪降る
1714年 11月27日 正徳4年　10月21日 晴 （10匁で大木75本・中木83本又は小木95本、12日駒越組相馬村の左衛門三郎が熊(胆長3寸廻り4寸)取る）
1714年 11月28日 正徳4年　10月22日 晴 夜中雨 （16日浪岡組徳才子村の定右衛門(60歳)が熊取る、14日の大風で賀田の塩消蔵の壁が落ちる）
1714年 11月29日 正徳4年　10月23日 晴
1714年 11月30日 正徳4年　10月24日 昨夜風雨 辰の刻戌亥の方虹見る （献上鮭高覧）
1714年　12月1日 正徳4年　10月25日 晴
1714年　12月2日 正徳4年　10月26日 晴 今朝御堀水氷る
1714年　12月3日 正徳4年　10月27日 晴
1714年　12月4日 正徳4年　10月28日 今朝御堀水氷る 子の刻より午の下刻まで大風雨
1714年　12月5日 正徳4年　10月29日 昨夜大風雨 今朝卯の刻より晴
1714年　12月6日 正徳4年　10月30日 陰晴 昨夜より小風 辰の上刻まで それより時々雪 夜中小風 （所々御関所当月中出人都合20人）
1714年　12月7日 正徳4年　11月1日 晴
1714年　12月8日 正徳4年　11月2日 陰晴 （去月30日茂森新町の男首括り）
1714年　12月9日 正徳4年　11月3日 曇 巳の刻少々雪 則止む （和徳組樹木新田の9月22日の火元の村預け御免）
1714年 12月10日 正徳4年　11月4日 曇 卯の下刻雨 則止む それより陰晴 午の刻より雨少し 申の刻雷発す （金子1両:大館(秋田県)で43匁7・8分なのに弘前では49匁2・3分）
1714年 12月11日 正徳4年　11月5日 陰晴
1714年 12月12日 正徳4年　11月6日 陰晴 夜に入り西風 （4日後潟組濱松村で火災2軒・馬1疋焼失）
1714年 12月13日 正徳4年　11月7日 曇 辰の上刻より雪時々 西風 （当10月大間越:入り36・出56人）
1714年 12月14日 正徳4年　11月8日 陰晴 夜に入り小雪 （今夜碇関町で火災17軒、当夏より当秋までの古米値段平均1俵に付き23匁6分）
1714年 12月15日 正徳4年　11月9日 陰晴 昨夜より小雪時々 （7日油川組新城村に34・5男倒死）
1714年 12月16日 正徳4年　11月10日 曇 昨夜中より小雨 終日に及ぶ 夜中風 （10月中碇関:出245・入り184人）
1714年 12月17日 正徳4年　11月11日 曇 時々小雪
1714年 12月18日 正徳4年　11月12日 陰晴 辰の上刻より時々丸雪 （青森より初鱈差上げる）
1714年 12月19日 正徳4年　11月13日 快晴 今朝霜 御堀氷張る
1714年 12月20日 正徳4年　11月14日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ 夜に入り雪
1714年 12月21日 正徳4年　11月15日 陰晴 時々雪 夜に及ぶ （御家老堀主計御奉公遠慮、今夜四つ時二の丸蔵焼失、仙台屋の家来が牢屋で病死）
1714年 12月22日 正徳4年　11月16日 陰晴 雪 辰の下刻止む
1714年 12月23日 正徳4年　11月17日 陰晴 （碇関町奉行所の火消し道具数あり）
1714年 12月24日 正徳4年　11月18日 晴 今朝小雪 （三番鱈青森より差上げる、先月29日の後潟組平館村の火災の火元の村預け差許す）
1714年 12月25日 正徳4年　11月19日 曇 昨夜雪一尺ほど降る 巳の刻より又々雪
1714年 12月26日 正徳4年　11月20日 陰晴
1714年 12月27日 正徳4年　11月21日 晴 夜に入り小雪
1714年 12月28日 正徳4年　11月22日 陰晴 昨夜より小雪時々
1714年 12月29日 正徳4年　11月23日 曇 終日小雨 （御用人等の人事異動あり）
1714年 12月30日 正徳4年　11月24日 陰晴 今朝西の方虹張る
1714年 12月31日 正徳4年　11月25日 陰晴 夜中雪

1715年　1月1日 正徳4年　11月26日 晴　昨夜の雪　辰の上刻降る　則止む （津軽内膳御家老に）
1715年　1月2日 正徳4年　11月27日 陰晴　時々小雪 （十三潟当月20日氷張る）
1715年　1月3日 正徳4年　11月28日 晴
1715年　1月4日 正徳4年　11月29日 晴
1715年　1月5日 正徳4年　11月30日 晴　午の下刻小雨 （御徒5人新抱:勢5尺5寸0～4歩、10月4日後潟組相内村の火元の村預け御免）
1715年　1月6日 正徳4年　12月1日 陰晴　夜に入り雨
1715年　1月7日 正徳4年　12月2日 陰晴　今夜中より雨　終日に及ぶ （酒値段1升:1匁2分諸白は1匁5分←1匁・青森で1匁3分←1匁1分・原料の米が下値になれば値下げ、金木組脇元村で近年覚えなき鰰漁）
1715年　1月8日 正徳4年　12月3日 晴
1715年　1月9日 正徳4年　12月4日 陰晴　未の下刻より雪　　下から続く　　大間越:出116・入り58・都合174人、妻が法度の衣類を着て外出した御手廻成田某が閉門）
1715年　1月10日 正徳4年　12月5日 陰晴　終日雨降 （11月4日後潟組濱松村の火元の村預け赦免、駒越組大秋村の新兵衛・相馬村の左衛門三郎が熊（胆長3寸5歩廻り3寸・胆長4寸廻り3寸5歩）取る、当11月中　　上に続く
1715年　1月11日 正徳4年　12月6日 終日雪降 （妻が法度衣類で他出の御馬廻組頭逼塞、米1俵値段:近在で23匁8分・西浜と十三で25匁2分・外浜で26匁、主人の蔵破り・越山戻り・妻切り殺し・密通の女房の4人を籠前で斬罪）
1715年　1月12日 正徳4年　12月7日 陰晴 （大間越町奉行から御蔵米50俵の払い出し願い・30俵を1俵につき25匁9分で出すこととする）
1715年　1月13日 正徳4年　12月8日 陰晴　終日雪
1715年　1月14日 正徳4年　12月9日 晴 （小泊港に神切鯨寄る、8日夜藤崎組飯田村で火災（3間×2間:借家）1軒）
1715年　1月15日 正徳4年　12月10日 晴　夜中雪少々
1715年　1月16日 正徳4年　12月11日 曇　夜に入り西風 （この度の御減少……）
1715年　1月17日 正徳4年　12月12日 曇　昨夜より西風丸雪 （先月中碇関:出入り計487人）
1715年　1月18日 正徳4年　12月13日 曇　今朝より吹雪
1715年　1月19日 正徳4年　12月14日 曇　辰の下刻小雪　則止む
1715年　1月20日 正徳4年　12月15日 曇 （来年の江戸お供に御徒山上五郎右衛門あり、4日閉門の成田某知行召し放ちとなる）
1715年　1月21日 正徳4年　12月16日 陰晴　夜に入り風雪　未の七刻より大雪
1715年　1月22日 正徳4年　12月17日 昨夜より雪風時々　午の下刻より晴
1715年　1月23日 正徳4年　12月18日 快晴
1715年　1月24日 正徳4年　12月19日 曇 （御茶道頭久田某成敗・坊主頭等永の暇、御停止の川船で江戸に着いた足軽警固成敗）
1715年　1月25日 正徳4年　12月20日 終日小雪　夜中まで
1715年　1月26日 正徳4年　12月21日 昨夜の雪　終日に及ぶ （年忘れの御囃子）
1715年　1月27日 正徳4年　12月22日 陰晴　昨夜より時々雪
1715年　1月28日 正徳4年　12月23日 快晴 （20日大鰐組虹貝村の長右衛門が熊取る）
1715年　1月29日 正徳4年　12月24日 晴
1715年　1月30日 正徳4年　12月25日 終日雨
1715年　1月31日 正徳4年　12月26日 晴
1715年　2月1日 正徳4年　12月27日 晴　辰の上刻雪　則止む
1715年　2月2日 正徳4年　12月28日 晴
1715年　2月3日 正徳4年　12月29日 卯の中刻より終日雨　雷少々発す
1715年　2月4日 正徳5年　正月1日　晴
1715年　2月5日 正徳5年　正月2日　昨夜より雪　辰の下刻晴　申の下刻より未申の風　夜中大雪吹く
1715年　2月6日 正徳5年　正月3日　昨夜より大雪吹く　辰の中刻より止む　時々雪 （御囃子）
1715年　2月7日 正徳5年　正月4日　晴　辰の刻より時々雪　夜に及ぶ
1715年　2月8日 正徳5年　正月5日　小雪　辰の中刻より晴　巳の刻より雪
1715年　2月9日 正徳5年　正月6日　快晴　夜中小雪 （御台所に差上げた七色種:豆もやし・せり・夏な・葉にら・祢き・婦きのとう）
1715年　2月10日 正徳5年　正月7日　曇　午の下刻より雪降　夜に及ぶ
1715年　2月11日 正徳5年　正月8日　曇
1715年　2月12日 正徳5年　正月9日　陰晴 （御囃子、駒越川雪にて水湛・往還相止）
1715年　2月13日 正徳5年　正月10日　晴
1715年　2月14日 正徳5年　正月11日　晴　午の刻より雪
1715年　2月15日 正徳5年　正月12日　陰晴
1715年　2月16日 正徳5年　正月13日　陰晴 （御囃子）
1715年　2月17日 正徳5年　正月14日　陰晴　午の刻より雪降　夜中大雪八寸ほど
1715年　2月18日 正徳5年　正月15日　晴
1715年　2月19日 正徳5年　正月16日　陰晴
1715年　2月20日 正徳5年　正月17日　終日雪降
1715年　2月21日 正徳5年　正月18日　陰晴
1715年　2月22日 正徳5年　正月19日　曇　辰の下刻より雨
1715年　2月23日 正徳5年　正月20日　曇　終日小雪 （去年12月中大間越:出26・入り36・計62人）
1715年　2月24日 正徳5年　正月21日　晴　夜中雪降 （御能）
1715年　2月25日 正徳5年　正月22日　終日雪降 （大間越町奉行が御蔵米50俵の払い出しを求め・半分を1俵28匁9分で申付く、20日浦町組高田村で火災1軒馬6疋焼失、先月中野内:出入り83人）
1715年　2月26日 正徳5年　正月23日　曇 （11日柏木組夕顔関村で庵を焼失した道心を赦免）
1715年　2月27日 正徳5年　正月24日　晴 （12月分の小納戸金を渡している）
1715年　2月28日 正徳5年　正月25日　晴　昨夜少々雪 （去年12月（11月のミス:福眞）8日より入寺の碇関大火の火元赦免（標準50日を忘れて家老にしかられる）、12月中碇関:出入り402人）

1715年　3月1日 正徳5年 正月26日　陰晴　午の上刻より雪　夜中吹雪
1715年　3月2日 正徳5年 正月27日　夜中の吹雪終日に及ぶ
1715年　3月3日 正徳5年 正月28日　なし(天気の記述なし)
1715年　3月4日 正徳5年 正月29日　昨夜より雪　終日に及ぶ
1715年　3月5日 正徳5年 正月30日　陰晴　時々小雪　(駒越組中畑村の彦左衛門が熊(胆長3寸廻り6寸)・大鰐組森山村の弥左衛門が熊(胆長5寸6歩廻り6寸7歩)取る)
1715年　3月6日 正徳5年　2月1日 陰晴
1715年　3月7日 正徳5年　2月2日 陰晴
1715年　3月8日 正徳5年　2月3日 曇　昨夜風吹く　夜に入り雪
1715年　3月9日 正徳5年　2月4日 晴　(御囃子)
1715年　3月10日 正徳5年　2月5日 晴　(大間越町奉行から塩の押し売り・3斗入り1俵を4匁で買う)
1715年　3月11日 正徳5年　2月6日 辰の中刻西の方虹見る　今朝霜降　午の下刻少し雨　則刻止む　(3日夜後潟組石浜前に破船1艘)
1715年　3月12日 正徳5年　2月7日 晴　(7日藤崎御蔵の南の方(3間×25間)倒れる)
1715年　3月13日 正徳5年　2月8日 快晴
1715年　3月14日 正徳5年　2月9日 陰晴　(正月中大間越:出16・入り62・計89人、正月中野内:出40・入り21・計61人、正月中碇関:出392・入り356・都合748人)
1715年　3月15日 正徳5年　2月10日 陰晴　辰の下刻雨　(去月20日浦町組高田村の火元を差許す、7日十三で氷を踏み抜き男死亡)
1715年　3月16日 正徳5年　2月11日 曇　昨夜より風　終日に及ぶ　亥の刻より雨　(堀主計閉門)
1715年　3月17日 正徳5年　2月12日 曇　昨夜より雨時々　(尾崎組原田村の弥兵衛から毎年初米上がっていたが勝手不如意になり御免・当年より岩崎村庄屋より上げることとする、魚油1升値段:銭5匁4分5厘)
1715年　3月18日 正徳5年　2月13日 晴　申の刻小雪
1715年　3月19日 正徳5年　2月14日 晴　(日時記述ないが油川で破船1艘)
1715年　3月20日 正徳5年　2月15日 晴
1715年　3月21日 正徳5年　2月16日 晴　今朝霜　申の下刻小雪
1715年　3月22日 正徳5年　2月17日 晴　(千年山より福寿草差上げる)
1715年　3月23日 正徳5年　2月18日 晴　夜に入り雨小雪
1715年　3月24日 正徳5年　2月19日 曇　午の刻小雨
1715年　3月25日 正徳5年　2月20日 晴　彼岸に入る(暦が間違っていたか?:福眞)
1715年　3月26日 正徳5年　2月21日 昨夜雪　卯の刻より雨雪　終日に及ぶ　(16日横内組浅虫村の弥助猪獅子取る)
1715年　3月27日 正徳5年　2月22日 陰晴　昨夜より午の刻まで雪降
1715年　3月28日 正徳5年　2月23日 晴
1715年　3月29日 正徳5年　2月24日 陰晴　小風　(昨年7月14日蟹田川洪水)
1715年　3月30日 正徳5年　2月25日 快晴
1715年　3月31日 正徳5年　2月26日 快晴　堀氷解ける　(二の丸御蔵焼失の責任者の知行召上げ・追放)
1715年　4月1日 正徳5年　2月27日 晴
1715年　4月2日 正徳5年　2月28日 晴　夜に入り時々小雨　(当月23日十三潟残らず明ける)
1715年　4月3日 正徳5年　2月29日 陰晴　酉の下刻雷発す　時々小雨　丸雪降る　(当月所々御関所出人都合34人・切手20枚、猿賀組袋村・赤石組驫木村の猟師それぞれ熊取る)
1715年　4月4日 正徳5年　3月1日 快晴
1715年　4月5日 正徳5年　3月2日 曇　巳の中刻より小雪　終日に及ぶ
1715年　4月6日 正徳5年　3月3日 曇　昨夜より雪今朝迄
1715年　4月7日 正徳5年　3月4日 快晴　今朝霜　(大間越町奉行御蔵米50俵払い出しを申し出・1俵29匁7分で30俵払い出しを申付ける)
1715年　4月8日 正徳5年　3月5日 曇　午の中刻小雨
1715年　4月9日 正徳5年　3月6日 陰晴　(御手廻組頭800石津軽平十郎を家老1000石津軽監物に)
1715年　4月10日 正徳5年　3月7日 終日雨降
1715年　4月11日 正徳5年　3月8日 曇　午の中刻より雨少々　則刻雷発す
1715年　4月12日 正徳5年　3月9日 晴　終日小風　(先月中野内:出入り133人、先月中大間越:出入り164人)
1715年　4月13日 正徳5年　3月10日 快晴　(今別町奉行が御蔵米150俵の払い出しを申し出・1俵31匁5分で50俵払出す、先月中碇関:出入り263人)
1715年　4月14日 正徳5年　3月11日 快晴
1715年　4月15日 正徳5年　3月12日 快晴
1715年　4月16日 正徳5年　3月13日 曇
1715年　4月17日 正徳5年　3月14日 快晴
1715年　4月18日 正徳5年　3月15日 快晴　(毛内安兵衛を千葉安兵衛に・他の毛内はそのまま)
1715年　4月19日 正徳5年　3月16日 快晴
1715年　4月20日 正徳5年　3月17日 快晴
1715年　4月21日 正徳5年　3月18日 曇　今朝辰の刻より巳の刻まで雨　(昨15日碇関山に野火)
1715年　4月22日 正徳5年　3月19日 曇　巳の上刻より雨
1715年　4月23日 正徳5年　3月20日 曇　今朝時々小雨
1715年　4月24日 正徳5年　3月21日 快晴　今朝霜　亥の中刻地震
1715年　4月25日 正徳5年　3月22日 曇　午の刻より小雨　則止む　終日小風　未の下刻雷　(大間越町から御蔵米50俵払い出し願い・30俵払出す・値段不明)
1715年　4月26日 正徳5年　3月23日 曇　昨日より雨風　午の后刻丸雪　夜中時々雨　(西舘刑部が家老を依願免)
1715年　4月27日 正徳5年　3月24日 曇　(22日(27日の記述による)夜金木組薄市村で男が縊死)
1715年　4月28日 正徳5年　3月25日 晴　巳の下刻より風　午の刻に及び大風　丑の刻地震　(今日昼前より西風強く城内屋根飛ぶ、29日ころ長勝寺の花盛り)
1715年　4月29日 正徳5年　3月26日 曇　(側用人佐藤求馬を300石加増し家老に)
1715年　4月30日 正徳5年　3月27日 晴　(御家中が桜を差上げている)

1715年　5月1日 正徳5年　3月28日 曇 （長勝寺が明29日に桜花盛りと報告）　下から続く　相馬村の左衛門三郎(3寸廻り6寸)・2月27日同組田代村の治右衛門(3寸廻り5寸)・1日大鰐組蔵館村の　下の欄外の(*)に続く
1715年　5月2日 正徳5年　3月29日 晴 午の刻より曇 （25日の大風で北御門番所屋根など破損、13日猿賀組袋村の助右衛門(胆長3寸廻り4寸)・2月28日堀越組一野渡村の彦次郎(6寸廻り6寸5歩)・4日駒越組　上に続く
1715年　5月3日 正徳5年　4月1日 曇 （3月中所々御碇所(こう書いてあるのです)出人49人・切手34枚）
1715年　5月4日 正徳5年　4月2日 快晴
1715年　5月5日 正徳5年　4月3日 曇
1715年　5月6日 正徳5年　4月4日 快晴 （3月21日小泊で鯡漁中の大風で行方不明1人、朔日病死者が乗った船が十三に着岸）
1715年　5月7日 正徳5年　4月5日 晴
1715年　5月8日 正徳5年　4月6日 晴 （西之御郭に御家中が寄付した桜25本を植えつける）
1715年　5月9日 正徳5年　4月7日 曇 巳の刻より雨 則止む 午の刻より雨 終日に及ぶ （先月中野内:出80・入り89・都合169人）
1715年　5月10日 正徳5年　4月8日 なし(天気の記述がない) （6日昼過ぎより高杉組鬼沢村で野火、先月中大間越:出34・入り85・都合119人）
1715年　5月11日 正徳5年　4月9日 快晴 （3日鯵ヶ沢よりの船3艘が十三川尻で破損、駒越組白沢村で火にまかれ男子(13歳)と女子(14歳)が死亡）
1715年　5月12日 正徳5年　4月10日 陰晴
1715年　5月13日 正徳5年　4月11日 快晴
1715年　5月14日 正徳5年　4月12日 快晴 （赤石組村々・深浦・大間越町内に御蔵米から122俵貸し出す）
1715年　5月15日 正徳5年　4月13日 快晴
1715年　5月16日 正徳5年　4月14日 快晴 小風 夜に入り雨 （油川組油川・三内・石上村で狼が荒れ鉄砲打ちを仰せ付ける、金木組喜良市で山火事・打消すよう申付ける）
1715年　5月17日 正徳5年　4月15日 曇
1715年　5月18日 正徳5年　4月16日 曇 （13日喜良市山火事の火消し帰る）
1715年　5月19日 正徳5年　4月17日 陰晴 （御馬廻組頭杉山勘左衛門の御役召し放ち）
1715年　5月20日 正徳5年　4月18日 曇 辰の刻雨 則止む 午の刻小雨 則止む
1715年　5月21日 正徳5年　4月19日 陰晴 辰の下刻小雨
1715年　5月22日 正徳5年　4月20日 曇 終日小雨 （当月6日昼過ぎ高杉組鬼沢村で野火・松400本余焼く）
1715年　5月23日 正徳5年　4月21日 陰晴 （人事異動）
1715年　5月24日 正徳5年　4月22日 曇 巳の刻より雨 （3月中碇関:出入り526人）
1715年　5月25日 正徳5年　4月23日 曇 辰の中刻より雨 （15日の大風で野内関所破損町中小家まで34軒潰れ・漁船45隻行方不明:「拾」がないので3又は4・4又は5の意味か:福眞）
1715年　5月26日 正徳5年　4月24日 陰晴
1715年　5月27日 正徳5年　4月25日 晴 （飯詰・金木組で狼荒れ・鉄砲打ち出す）
1715年　5月28日 正徳5年　4月26日 快晴
1715年　5月29日 正徳5年　4月27日 午の刻・亥の上刻雷発す それより雨 終夜に及ぶ(午刻亥上刻雷発夫ヨリアメ及終夜) （23日後潟組中沢村で火災1軒）
1715年　5月30日 正徳5年　4月28日 曇 午の上刻小雨
1715年　5月31日 正徳5年　4月29日 陰晴
1715年　6月1日 正徳5年　4月30日 陰晴
1715年　6月2日 正徳5年　5月1日 晴 （先月29日十三で破船1艘、先月12日駒越組大秋村の新兵衛が(胆長2寸5歩廻り)・先月9日同組桜庭村の次郎三郎(胆長2寸廻り2寸)熊取る）
1715年　6月3日 正徳5年　5月2日 快晴 （去月30日十三で破船1艘）
1715年　6月4日 正徳5年　5月3日 快晴
1715年　6月5日 正徳5年　5月4日 晴
1715年　6月6日 正徳5年　5月5日 辰の刻小雨 未の下刻東虹 戌の下刻雷 雨暫く 小風
1715年　6月7日 正徳5年　5月6日 陰晴 巳の刻小雨時々 西の方に虹 終日小風 （今朝より風・西の郭土居の柳1本倒れる、赤石組小森村の兵三郎が田植え初め）
1715年　6月8日 正徳5年　5月7日 陰晴 （大間越町奉行から御蔵米70俵の払い出し申し出で・1俵30匁7分で30俵の払い出しを申付ける）
1715年　6月9日 正徳5年　5月8日 晴
1715年　6月10日 正徳5年　5月9日 快晴
1715年　6月11日 正徳5年　5月10日 快晴 （先月中碇関:出入り705人）
1715年　6月12日 正徳5年　5月11日 晴
1715年　6月13日 正徳5年　5月12日 曇 午の刻より雨 （4月中大間越:出入り94人、御供登お雇い日用賃1人分:添肩4両・御家中陸尺3両2歩10匁・平人3両1歩10匁）
1715年　6月14日 正徳5年　5月13日 曇
1715年　6月15日 正徳5年　5月14日 快晴 （6日友の助様逝去）
1715年　6月16日 正徳5年　5月15日 陰晴
1715年　6月17日 正徳5年　5月16日 陰晴
1715年　6月18日 正徳5年　5月17日 快晴 申の下刻より雨 （4月中野内:出112・入り145・都合257人）
1715年　6月19日 正徳5年　5月18日 曇 午の中刻より雨 （大間越町奉行が御蔵米50俵の払い出しを申し入れる・1俵31匁8分で20俵払出す）
1715年　6月20日 正徳5年　5月19日 曇 時々小雨 （御家中などより庭前の芍薬差上げる）
1715年　6月21日 正徳5年　5月20日 曇
1715年　6月22日 正徳5年　5月21日 巳の刻まで曇 それより晴
1715年　6月23日 正徳5年　5月22日 曇 昨夜より雨 辰の中刻まで （3日前に土手町に倒死者あり）
1715年　6月24日 正徳5年　5月23日 曇 午の刻より雨 亥の刻地震
1715年　6月25日 正徳5年　5月24日 昨夜の雨巳の刻まで 巳の下刻より晴
1715年　6月26日 正徳5年　5月25日 曇 時々小雨 （21日より駒越町の娘行方不明・川に身投げで見つかる）
1715年　6月27日 正徳5年　5月26日 陰晴 昨夜中より辰の下刻まで雨 午の下刻より晴
1715年　6月28日 正徳5年　5月27日 陰晴 （後潟組5カ村から代官を通じて払い米申し出・値段は仰せ付け次第でとのこと・青森値段と運賃を合わせ1俵33匁1分3厘で払出す）
1715年　6月29日 正徳5年　5月28日 快晴 （人事異動）
1715年　6月30日 正徳5年　5月29日 快晴 （18日藤代組小友村で水湛60町歩、4月23日の後潟組中沢村の火元の村預け赦免）

(*) 弥左衛門(3寸3歩廻り3寸8歩)・18日浪岡組徳才子村の定右衛門と弥次郎(3寸廻り5寸・3寸3歩5寸5歩)・11日駒越組で(5寸1歩廻り6寸)・23日浦町組新町野村で介兵衛(3寸廻り4寸)・11日田舎館組馬場尻村の左次兵衛(4寸廻り6寸5歩)それぞれ熊取る)

1715年　7月1日 正徳5年　6月1日 晴 （大鰐村の加賀助から初胡瓜7上がる）
1715年　7月2日 正徳5年　6月2日 晴
1715年　7月3日 正徳5年　6月3日 晴　午の下刻より曇　雷時々発す （御自身御能）
1715年　7月4日 正徳5年　6月4日 昨夜寅の刻より雨　巳の中刻止む　それより小風
1715年　7月5日 正徳5年　6月5日 晴
1715年　7月6日 正徳5年　6月6日 晴
1715年　7月7日 正徳5年　6月7日 晴 （先月中野内:出入り211人）
1715年　7月8日 正徳5年　6月8日 快晴 （5日の風で長濱領で破船1艘）
1715年　7月9日 正徳5年　6月9日 快晴
1715年　7月10日 正徳5年　6月10日 快晴 （大鰐より真瓜・茄子差上げる、大間越から御蔵米50俵払い出しの申請・1俵31匁8分で20俵払出す）
1715年　7月11日 正徳5年　6月11日 快晴 （堀主計閉門御免・200石に、江戸からの飛脚が洪水で2日遅れで到着）
1715年　7月12日 正徳5年　6月12日 快晴
1715年　7月13日 正徳5年　6月13日 快晴　酉の上刻暫く雨 （参勤出発）
1715年　7月14日 正徳5年　6月14日 快晴
1715年　7月15日 正徳5年　6月15日 快晴
1715年　7月16日 正徳5年　6月16日 快晴
1715年　7月17日 正徳5年　6月17日 快晴 （先月中大間越:出入り56人、先月中碇関:出入り511人）
1715年　7月18日 正徳5年　6月18日 曇
1715年　7月19日 正徳5年　6月19日 曇　卯の下刻小雨　則止む
1715年　7月20日 正徳5年　6月20日 快晴　寅の七刻土用入り （大光寺・猿賀組の田方に水なし・青虫が付く、最勝院に虫札を申付ける）
1715年　7月21日 正徳5年　6月21日 晴 （13日今別町で火災1軒(3間×4間:高無)）
1715年　7月22日 正徳5年　6月22日 快晴　夜に入り少々雨 （駒越組田方168丁2反歩余が今月6・7日頃より用水なし・藤崎組・柏木組・三新田も旱魃）
1715年　7月23日 正徳5年　6月23日 卯の刻より雨　巳の中刻晴 （大間越町奉行が御蔵米20俵払い出し申請・1俵32匁6分で払出す）
1715年　7月24日 正徳5年　6月24日 午の刻小雨　則止む　申の下刻雨　東の方虹見る
1715年　7月25日 正徳5年　6月25日 晴 （鰺ヶ沢に病死水主を乗せた船が入る）
1715年　7月26日 正徳5年　6月26日 晴
1715年　7月27日 正徳5年　6月27日 卯の下刻より小雨時々 （21日赤石組森山村で大風・破船1艘）
1715年　7月28日 正徳5年　6月28日 陰晴　巳の下刻小雨　則止む　午の下刻晴　未の刻雷発す　大雨
1715年　7月29日 正徳5年　6月29日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1715年　7月30日 正徳5年　7月1日 曇　昨夜より時々雨　巳の下刻に及び止む
1715年　7月31日 正徳5年　7月2日 曇 （昨夜の洪水で田舎館組堂野前村の留め切り破れる、藤崎川洪水・仮橋落ちる）
1715年　8月1日 正徳5年　7月3日 快晴
1715年　8月2日 正徳5年　7月4日 快晴　午の刻より晴 （米値段32匁7分?、去月29日の浅瀬石川の洪水で流木4万5・6千本）
1715年　8月3日 正徳5年　7月5日 晴　辰の后刻地震
1715年　8月4日 正徳5年　7月6日 晴　未の中刻少し雨　雷発す　則止む （朔日の洪水で青森博労町入り口橋・塩町入り口橋が流れる、4日駒越組村市村で火災1軒）
1715年　8月5日 正徳5年　7月7日 快晴　未の下刻より時々雨
1715年　8月6日 正徳5年　7月8日 晴　申の下刻雨 （22日鰺ヶ沢出来嶋沖に龍巻・破船1艘、先月中大間越:出入り95人）
1715年　8月7日 正徳5年　7月9日 晴　卯の刻より雨　巳の刻に及び止む
1715年　8月8日 正徳5年　7月10日 曇　辰の刻より雨　午の刻に及び止む （大間越の者共御蔵米50俵払い出しの申し出で・1俵33匁8分で20俵を払出す）
1715年　8月9日 正徳5年　7月11日 曇　巳の刻強雨暫く　則止み晴 （昨朝の雨で西之郭に被害、脇道番人が押えた馬の入札:32～66匁、不勝手につき役料不払い・中間など305人に暇）
1715年　8月10日 正徳5年　7月12日 快晴　下から続く　足の辺りに落ちた穀物)米1升5合・古ノ大麦3升・古蕎麦5升3合・父〇(部か)大豆1升8合7夕9才・餅粟足元2升3合・大麦足元3升5合・麦粉1升9合　下の欄外(*)に続く
1715年　8月11日 正徳5年　7月13日 快晴 （雑穀の入札銭1匁に付き:五合減白米1升1合4夕・上粉米1升4合8夕・餅上粉米1升7合・餅下粉米2升3合・古ノ白小麦2升5合・下粉米2升6合・餅足元(あしもと:脱穀の時に　上に続く
1715年　8月12日 正徳5年　7月14日 快晴
1715年　8月13日 正徳5年　7月15日 快晴
1715年　8月14日 正徳5年　7月16日 快晴　未の中刻雷雨暫く　則時止む （先月中野内:出入り319人、16日朝藤崎組藤崎村に男倒死）
1715年　8月15日 正徳5年　7月17日 快晴 （頃日後潟組算用師から宇鉄までに松前より渡り熊あり・13日までに牛4疋引さく・狄共30人余を出し取るべく命ず）
1715年　8月16日 正徳5年　7月18日 快晴 （先月16日今別火災の火元の村預け御免、なぜか御城当番が2人になっている）
1715年　8月17日 正徳5年　7月19日 快晴 （屋形様2日着府、大鰐組大鰐村の加賀助と尾崎組岩館村の弥助が初米各3箱上げる）
1715年　8月18日 正徳5年　7月20日 曇　卯の刻より雨　終日に及ぶ
1715年　8月19日 正徳5年　7月21日 曇　昨夜より雨　午の刻に及び止む
1715年　8月20日 正徳5年　7月22日 曇
1715年　8月21日 正徳5年　7月23日 快晴
1715年　8月22日 正徳5年　7月24日 晴　卯の刻少し雨 （後潟組の渡り熊の件・狄に毒矢を許す）
1715年　8月23日 正徳5年　7月25日 曇　辰の中刻小雨 （藤代組出来嶋村の百姓の子が伊勢がえりに路銀を江戸屋敷から3歩拝借、佐竹大膳太夫様が19日に御遠行）
1715年　8月24日 正徳5年　7月26日 晴　辰の中刻小雨　則止む （先月中碇関:出入り606人）
1715年　8月25日 正徳5年　7月27日 快晴
1715年　8月26日 正徳5年　7月28日 晴
1715年　8月27日 正徳5年　7月29日 晴 （御菜園畑に夏梨子2本あり時分の様に見える）
1715年　8月28日 正徳5年　7月30日 晴　午の下刻雷発す　未の刻雨　下刻に及び止む （当月中碇関御関所出人都合31人、公方様御不例）
1715年　8月29日 正徳5年　8月1日 晴
1715年　8月30日 正徳5年　8月2日 晴 （百沢寺が岩木山の苔の実差上げる）
1715年　8月31日 正徳5年　8月3日 晴
(*) ・荒〇(ほしいい:糯か)3匁で10俵・古白大麦2升5合）

1715年　9月1日 正徳5年　8月4日 子の刻より辰の刻まで小雨　午の刻より雨 （大間越で熊荒れ鉄砲の使用を許可）
1715年　9月2日 正徳5年　8月5日 晴 （先月中大間越:出37・入り55・都合92人、先月4日村市村の火元の村預けを差許す、7月中碇関:出184・入り324・都合508人）
1715年　9月3日 正徳5年　8月6日 曇　辰の刻より小雨
1715年　9月4日 正徳5年　8月7日 曇　昨夜より雨時々
1715年　9月5日 正徳5年　8月8日 陰晴
1715年　9月6日 正徳5年　8月9日 晴 （監物と帯刀がもめている?、去月1日青森堤大橋が破損、脇道で押えた馬入札:41～77匁）
1715年　9月7日 正徳5年　8月10日 晴
1715年　9月8日 正徳5年　8月11日 曇　辰の中刻より雨
1715年　9月9日 正徳5年　8月12日 陰晴 （先月中野内:出88・入り196・都合284人）
1715年　9月10日 正徳5年　8月13日 晴
1715年　9月11日 正徳5年　8月14日 快晴　未の中刻雨　則止む
1715年　9月12日 正徳5年　8月15日 陰晴
1715年　9月13日 正徳5年　8月16日 曇　終日雨
1715年　9月14日 正徳5年　8月17日 昨夜より雨時々　終日に及ぶ （浦町組・横内組の稲に枯れ穂出来）
1715年　9月15日 正徳5年　8月18日 陰晴　申の下刻大風　酉の刻止む （今日昼八つ半時分より西南の風・七つ頃より大風・家中が登城し暮前に帰る、昨今の水で多くの橋が破損）
1715年　9月16日 正徳5年　8月19日 晴 （昨晩大風の被害、油川組細越村など10カ村で枯穂・穂疵の報告、13日十三の川尻で破船1艘）
1715年　9月17日 正徳5年　8月20日 曇 （御菜園にある紅梅へいじの梨子105が一昨晩の風で落ちる、18日の大風で碇関海道等の松並木が倒れる）
1715年　9月18日 正徳5年　8月21日 晴 （18日の大風の寺社被害、7月1日横内組野尻村で橋が流される、18日七つ下刻より南大風・金井ヶ沢湊で破船1艘・出来嶋磯で破船2艘）
1715年　9月19日 正徳5年　8月22日 陰晴 （御用人支配当秋切支丹証文人数書:惣人数2759人・上男1144(天台16・真言30・禅710・浄土199・浄土真101・法花89)・上女989(8・27・607・166・79・102)・下男　欄外(*)に続く
1715年　9月20日 正徳5年　8月23日 快晴 （18日の大風で今別町赤根沢崎で破船1艘・小泊湊で破船1艘）
1715年　9月21日 正徳5年　8月24日 陰晴 （18日の強風被害）
1715年　9月22日 正徳5年　8月25日 曇　巳の中刻より雨 （切子鉄値段:銭100目に付き鉄25貫目）
1715年　9月23日 正徳5年　8月26日 陰晴　子の刻より雨
1715年　9月24日 正徳5年　8月27日 彼岸に入る　昨夜より雨時々
1715年　9月25日 正徳5年　8月28日 終日小雨 （雑穀入札:餅米1俵15匁・大豆1俵10匁、17日の洪水の被害を羅列）　下から続く　彦左衛門が(胆長3寸廻り5寸)それぞれ熊とる）
1715年　9月26日 正徳5年　8月29日 昨夜より雨　辰の刻迄　午の刻より晴 （18日の強風で碇関海道の松並木41本倒れる、16日赤石組蠶木村の五郎右衛門が(胆長3寸8歩廻り5寸4歩)・13日駒越組中畑村の　上に続く
1715年　9月27日 正徳5年　8月30日 晴 （当月中所々御関所出人33人・切手26枚、十三の濱より初鮭1尺差上げる）
1715年　9月28日 正徳5年　9月1日 陰晴　未の下刻より雨　夜に及ぶ （御徒3人召し放ち）
1715年　9月29日 正徳5年　9月2日 晴
1715年　9月30日 正徳5年　9月3日 晴
1715年　10月1日 正徳5年　9月4日 曇　午の下刻小雨　則止む （8月中大間越:出46・入り39人）
1715年　10月2日 正徳5年　9月5日 曇　昨夜より雨　終日　夜に及ぶ
1715年　10月3日 正徳5年　9月6日 晴　昨夜よりの雨　辰の上刻止む
1715年　10月4日 正徳5年　9月7日 快晴 （8月中碇関:出233・入り346・都合579人、町から男逐電）
1715年　10月5日 正徳5年　9月8日 陰晴 （入札結果:牛小屋32坪が123匁5分・身欠きにしん千本4匁8分）　下から続く　横内前川71匁5分・才蔵川3匁7分5厘・新田川178匁6分5厘・広瀬川7匁1分5厘、羽鯡950本代4匁1部）
1715年　10月6日 正徳5年　9月9日 陰晴 （赤石組鴨村から二番鮭差上げる、和徳組和徳村に40位女死骸・後日の記事から5日のこと、鮭留入札:原別川1貫849匁・網不知川205匁・野内川196匁・荒川101匁5分5厘・　上に続く
1715年　10月7日 正徳5年　9月10日 昨夜より雨　巳の刻に止む
1715年　10月8日 正徳5年　9月11日 晴
1715年　10月9日 正徳5年　9月12日 曇　時々小雨
1715年 10月10日 正徳5年　9月13日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ （金木組脇元村より三番鮭2尺差上げる）
1715年 10月11日 正徳5年　9月14日 晴　丑の下刻地震　亥の下刻雨 （6月28日出来嶋村沖に龍巻・破船1艘）
1715年 10月12日 正徳5年　9月15日 晴 （日用賃1人につき1匁3分3厘(上)・1匁2分(中)・1匁(下)・外に朝晩両度の御賄銭1日1人6分6厘6毛）
1715年 10月13日 正徳5年　9月16日 曇　小雨時々　岩木山に今朝雪見る
1715年 10月14日 正徳5年　9月17日 曇 （8月中野内:出128・入り145・都合273人）
1715年 10月15日 正徳5年　9月18日 晴
1715年 10月16日 正徳5年　9月19日 快晴　昨夜雷五・六度　雨時々 （33人召し放ち、御菜園前の今別梨子差上げる）
1715年 10月17日 正徳5年　9月20日 曇　小雨時々
1715年 10月18日 正徳5年　9月21日 晴 （入札:米4俵90匁4分(1俵22匁6分)・鯵ヶ沢御蔵米40俵1貫366匁(1俵34匁1分5厘)）
1715年 10月19日 正徳5年　9月22日 終日小雨　午の刻雷　寅の刻地震
1715年 10月20日 正徳5年　9月23日 卯の刻地震　辰の刻より雨　稲妻　雷　申の刻地震
1715年 10月21日 正徳5年　9月24日 辰の刻雨　巳の刻晴　今朝岩木山に雪見る
1715年 10月22日 正徳5年　9月25日 晴　今朝岩木山雪見る
1715年 10月23日 正徳5年　9月26日 快晴
1715年 10月24日 正徳5年　9月27日 快晴　辰の中刻西方虹見る （朝鮮人参を各地に植えている）　下から続く　只今新米値段1俵22匁・古米1俵31匁、当月中所々御関所出人25人・切手17枚）
1715年 10月25日 正徳5年　9月28日 快晴 （松前米相場12俵で11両余の高値・南部でも、2日和徳組から青森に行った男・小栗山の男行方不明）　下から続く　左衛門三郎(2寸5歩廻り2寸)それぞれ熊取る、　上に続く
1715年 10月26日 正徳5年　9月29日 晴 （17日金木組宮野沢村の彦左衛門が(胆長3寸5歩廻り2寸8歩)・不明日同人が3疋(3寸5歩廻り3寸5歩・2寸5歩廻り2寸5歩・2寸3歩廻り2寸5歩)・15日駒越組相馬村の　上に続く
1715年 10月27日 正徳5年　10月1日 終日小雨　夜に入り雨
1715年 10月28日 正徳5年　10月2日 曇　巳の中刻より雨
1715年 10月29日 正徳5年　10月3日 晴
1715年 10月30日 正徳5年　10月4日 晴　今朝霜 （三馬屋梨子74内24御登）
1715年 10月31日 正徳5年　10月5日 曇　辰の中刻雨　巳の下刻雷発す　今朝西の方虹見る

(*) 403(2・13・274・75・19・30)・下女213(2・4・125・45・13・24)・家屋敷93軒・下屋敷2軒・小荷駄1疋・又支配家屋敷66軒、18日十三で破船1艘、18日十三・鯵ヶ沢・深浦で番所等破損）

1715年　11月1日 正徳5年　　10月6日 曇 （先月24日小栗山の行方不明者死体で発見）
1715年　11月2日 正徳5年　　10月7日 陰晴 （今日四時頃報恩寺御霊屋塀の外に熊・門番負傷・鉄砲打ちを派遣、1日の大風で後潟組野田の濱に破船1艘、去月大間越:出入り都合181人）
1715年　11月3日 正徳5年　　10月8日 晴 今朝霜
1715年　11月4日 正徳5年　　10月9日 陰晴 申の刻雷 （江戸柳原の中屋敷出来）
1715年　11月5日 正徳5年　10月10日 曇 今朝雨 巳の下刻止む 午の下刻雷発す 夜中雨 （広田組平井村で33歳の仮子が主人を鐇で打ち・まもなく死亡・犯人欠落・人相書きあり）
1715年　11月6日 正徳5年　10月11日 陰晴 辰の刻より雨時々 午の刻より晴
1715年　11月7日 正徳5年　10月12日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ 巳の刻初雪
1715年　11月8日 正徳5年　10月13日 曇 昨夜より雨時々 夜に及ぶ
1715年　11月9日 正徳5年　10月14日 晴 申の刻雨 （屋形様先月24日より持病の下血……、先月中碇関:出入り489人・先月中野内:226人）
1715年 11月10日 正徳5年　10月15日 曇 辰の刻小雨　　下から続く　　雲谷・入内・瀧澤で熊荒れる、堀越組一野渡村の猟師共長勝寺林から堀越村まで熊を追いかけて取る）
1715年 11月11日 正徳5年　10月16日 晴 辰の中刻雨 巳の下刻晴 （松前の魚油持参船に鯵ヶ沢御蔵米を10両につき20.5俵・1俵につき34匁で売る、昨15日七つ時より駒越川仮橋引取る・馬船・長船で渡す、　　上に続く
1715年 11月12日 正徳5年　10月17日 快晴 夜に入り小雨 （昨日の熊取に褒美）
1715年 11月13日 正徳5年　10月18日 陰晴
1715年 11月14日 正徳5年　10月19日 陰晴 時々小風 （16日の熊(胆長4寸5歩廻り5寸)一野渡村の彦次郎が取る）
1715年 11月15日 正徳5年　10月20日 快晴 今朝大霜
1715年 11月16日 正徳5年　10月21日 陰晴
1715年 11月17日 正徳5年　10月22日 陰晴
1715年 11月18日 正徳5年　10月23日 晴
1715年 11月19日 正徳5年　10月24日 快晴 今朝霜 亥の刻雨 雷発す
1715年 11月20日 正徳5年　10月25日 晴 夜に入り時々雨降 （米20俵代金11両1歩と9匁9分4厘・但し金10両に付き17俵4歩値段）
1715年 11月21日 正徳5年　10月26日 曇 （油川組・後方組の御収納米代銭納の申し立て・了承、屋形様御不快）
1715年 11月22日 正徳5年　10月27日 曇 （23日夜九つ時に金木組金木村で火災1軒・火元村預け）
1715年 11月23日 正徳5年　10月28日 曇 終日小雨
1715年 11月24日 正徳5年　10月29日 曇 （南部領有戸に浅虫村のから船寄せる・行方不明2人）
1715年 11月25日 正徳5年　10月30日 なし(天気の記述がない)
1715年 11月26日 正徳5年　　11月1日 陰晴 夜に入り小雨 （この頃毎日屋形様不快関連記事）
1715年 11月27日 正徳5年　　11月2日 晴
1715年 11月28日 正徳5年　　11月3日 曇
1715年 11月29日 正徳5年　　11月4日 快晴 今朝霜 堀水氷る 夜に入り時々雨
1715年 11月30日 正徳5年　　11月5日 曇 午の下刻雨
1715年　12月1日 正徳5年　　11月6日 晴 今朝大霜 夜に入り小雨
1715年　12月2日 正徳5年　　11月7日 曇
1715年　12月3日 正徳5年　　11月8日 曇 （先頃古懸不動尊御出汗、9月5日和徳組和徳村の変死女の身元判明、先月中野内:出83・入り153人、先月中大間越:出137・入り31・都合168人）
1715年　12月4日 正徳5年　　11月9日 曇 昨夜よりの雨 終日に及ぶ （粒油値段1匁に付き1升5合、米値段:青森34匁9分・鯵ヶ沢31匁6分・板屋の木31匁7分）
1715年　12月5日 正徳5年　10月10日 曇 子の刻より風雨 終日に及ぶ
1715年　12月6日 正徳5年　11月11日 曇 夜に入り雨
1715年　12月7日 正徳5年　11月12日 11月の節寅の七刻に入る 未の刻より亥の刻まで大吹雪 （収納米銭納値段:1俵が25匁）
1715年　12月8日 正徳5年　11月13日 曇 時々小雪 午の刻より晴
1715年　12月9日 正徳5年　11月14日 晴 夜に入り亥の刻より雨 子の刻雷発す （11日広須新田中福原村で火災1軒・小荷駄1疋焼失）
1715年 12月10日 正徳5年　11月15日 曇 昨夜よりの雨 終日に及ぶ
1715年 12月11日 正徳5年　11月16日 晴 夜に入り雪 （12日飯詰組松野木村で吹き倒死1人、12日小泊で破船1艘、12日深浦で破船1艘、12日大間越黒崎で破船1艘、屋形様病重い）
1715年 12月12日 正徳5年　11月17日 晴 午の刻より小雪
1715年 12月13日 正徳5年　11月18日 快晴 夜に入り小雪
1715年 12月14日 正徳5年　11月19日 快晴
1715年 12月15日 正徳5年　11月20日 快晴 巳の下刻雷発す 夜に入り雨
1715年 12月16日 正徳5年　11月21日 曇 昨夜雨
1715年 12月17日 正徳5年　11月22日 晴 （子供が生まれて必用な物・乳母の食事等記述）
1715年 12月18日 正徳5年　11月23日 曇 巳の刻小雨 夜に入り小雪 （青森より初鱈差上げる）
1715年 12月19日 正徳5年　11月24日 陰晴 夜に入り雨
1715年 12月20日 正徳5年　11月25日 陰晴 夜に入り雨 戌の刻地震 （米1俵に付き27匁2分替え）
1715年 12月21日 正徳5年　11月26日 曇 夜に入り吹雪 （20日夜後潟組深泊沖で破船1艘）
1715年 12月22日 正徳5年　11月27日 曇 冬至巳の四刻入る 吹雪時々
1715年 12月23日 正徳5年　11月28日 曇 巳の刻より雪少々 午の中刻より雨 夜に及ぶ 酉の刻雷発す
1715年 12月24日 正徳5年　11月29日 曇 吹雪
1715年 12月25日 正徳5年　11月30日 晴
1715年 12月26日 正徳5年　　12月1日 陰晴 辰の中刻雪降 則止む
1715年 12月27日 正徳5年　　12月2日 曇 卯の刻より吹雪 終日終夜に及ぶ （昨夜大光寺組大光寺村で火災2軒）
1715年 12月28日 正徳5年　　12月3日 曇 雪 終日に及ぶ
1715年 12月29日 正徳5年　　12月4日 曇 時々雪
1715年 12月30日 正徳5年　　12月5日 曇 夜に入り雪 （昨3日朝和徳組和徳村堅田辺りに変死者1人、12月1日朝十三潟に氷張る）
1715年 12月31日 正徳5年　　12月6日 曇 午の刻より雨 （なぜか御城当番が1人に、去月晦日夜の大光寺村の火災で庄屋家(板屋5間×5間とかや家4間×6間・収穫米上納米消費米など焼失)などの被害状況）

1716年　1月1日 正徳5年　12月7日 曇　辰の下刻より雨
1716年　1月2日 正徳5年　12月8日 曇　時々小雪　(11月中野内:出72・入り97人)
1716年　1月3日 正徳5年　12月9日 陰晴　時々雪　(広須新田田成村の百姓走る)　下から続く　小麦(25・26.7・27.6)・稗(5.25・5.6・5.8)・米1俵21匁)
1716年　1月4日 正徳5年　12月10日 陰晴　(雑穀1俵に付き:次大豆(近在13匁3分・西浜十三14匁2分・外浜14匁7分)・小豆(12.8・13.7・14.2)・粟(10・13.7・11)・蕎麦(10・--・11)・大麦(11.1・大豆?11.8・12.3)・　上に続く
1716年　1月5日 正徳5年　12月11日 快晴　夜に入り雨
1716年　1月6日 正徳5年　12月12日 陰晴　申の一刻より小寒に入る　(元字金10両に付き青森御蔵米15俵(沖役入れて:以下同じ)・乾字金10両に付き14俵7歩・元字金10両に付き17俵半など)
1716年　1月7日 正徳5年　12月13日 曇　雪時々　終日に及ぶ　(金1両に付き4貫文のはずが当4月の江戸で2貫890文)
1716年　1月8日 正徳5年　12月14日 快晴　(先月中大間越:出入り179人、和徳組和徳村で行方不明男1人)
1716年　1月9日 正徳5年　12月15日 陰晴
1716年　1月10日 正徳5年　12月16日 晴　(11月晦日十三潟氷張る)　下から続く　大間越町奉行が御蔵米払い出しを申しこす・1俵23匁7分5厘で払出す)
1716年　1月11日 正徳5年　12月17日 陰晴　(両替48匁5分、米1俵弘前で27匁7分5厘・内沖役2匁・平米25匁7分1厘4毛、青森で32匁3分3厘3毛・平米30匁3分3厘3毛、鯵ヶ沢で28匁9分2厘・平米26匁9分2厘、　上に続く
1716年　1月12日 正徳5年　12月18日 陰晴　終日小雪　(人足の1日賃金1匁または9分)
1716年　1月13日 正徳5年　12月19日 陰晴　時々雪
1716年　1月14日 正徳5年　12月20日 曇
1716年　1月15日 正徳5年　12月21日 終日雪　夜に及ぶ
1716年　1月16日 正徳5年　12月22日 曇
1716年　1月17日 正徳5年　12月23日 曇　時々小雪　夜に入り1尺余積る　(盗人家業の2人の指名手配:人相書きあり・せい5尺3寸位5尺4・5寸位)
1716年　1月18日 正徳5年　12月24日 陰晴　(11月碇関:出262・入り137人)
1716年　1月19日 正徳5年　12月25日 辰の刻雪　則止み晴
1716年　1月20日 正徳5年　12月26日 終日雪降　大寒に入る　(4月16日に木刀で撲殺した2人を成敗)
1716年　1月21日 正徳5年　12月27日 陰晴
1716年　1月22日 正徳5年　12月28日 陰晴　時々小雪
1716年　1月23日 正徳5年　12月29日 晴　子の刻より小雨　寅の刻止む　(屋形様回復)
1716年　1月24日 正徳5年　12月30日 曇　(26日駒越組田代村の藤右衛門(胆長3寸5歩廻り7寸)・中畑村の仁助熊(胆長3寸廻り7寸)取る)
1716年　1月25日 正徳6年　正月1日　晴　昨夜寅の刻より同下刻まで雨
1716年　1月26日 正徳6年　正月2日　晴　巳の中刻より雪時々
1716年　1月27日 正徳6年　正月3日　曇　辰の中刻より吹雪
1716年　1月28日 正徳6年　正月4日　曇
1716年　1月29日 正徳6年　正月5日　陰晴　辰の中刻吹雪　則止む
1716年　1月30日 正徳6年　正月6日　曇　午の中刻より小雪　暮まで及ぶ
1716年　1月31日 正徳6年　正月7日　陰晴
1716年　2月1日 正徳6年　正月8日　晴
1716年　2月2日 正徳6年　正月9日　曇　吹雪終日に及ぶ(曇吹雪終日及)
1716年　2月3日 正徳6年　正月10日　曇　吹雪終日
1716年　2月4日 正徳6年　正月11日　卯の刻より辰の中刻まで吹雪　それより雪時々
1716年　2月5日 正徳6年　正月12日　曇　時々雪降　但し節分立春
1716年　2月6日 正徳6年　正月13日　曇　午の中刻少し雪
1716年　2月7日 正徳6年　正月14日　晴
1716年　2月8日 正徳6年　正月15日　曇　時々小雪　(元禄金の通用停止)
1716年　2月9日 正徳6年　正月16日　快晴
1716年　2月10日 正徳6年　正月17日　曇　時々小雪　(小人町で上家雪潰)
1716年　2月11日 正徳6年　正月18日　陰晴　時々雪
1716年　2月12日 正徳6年　正月19日　陰晴　時々雪
1716年　2月13日 正徳6年　正月20日　陰晴　時々雪
1716年　2月14日 正徳6年　正月21日　晴
1716年　2月15日 正徳6年　正月22日　快晴　(去12月中碇関:出155・入り138・都合293人)
1716年　2月16日 正徳6年　正月23日　曇　時々雪　(転び切支丹類族油布宇太夫59歳で病死)
1716年　2月17日 正徳6年　正月24日　時々小雪　(12月中大間越:出82・入り41・都合123人)
1716年　2月18日 正徳6年　正月25日　晴　(去年12月中野内:出59・入り46・都合105人、18日浪岡組から油川組岡町村に向かう70斗老女倒死)
1716年　2月19日 正徳6年　正月26日　快晴
1716年　2月20日 正徳6年　正月27日　快晴
1716年　2月21日 正徳6年　正月28日　陰晴　酉の刻より寅の刻まで雨　(23日蟹田町石浜で破船1艘)
1716年　2月22日 正徳6年　正月29日　曇　今朝より終日小雨　(22日大鰐村の喜右衛門が熊2疋(胆長4寸5歩廻り6寸・胆長2寸廻り4寸)・10日尾崎組唐竹村の甚左衛門熊(胆長5寸6歩廻り6寸8歩)取る)
1716年　2月23日 正徳6年　2月1日 曇　時々雪吹
1716年　2月24日 正徳6年　2月2日 晴
1716年　2月25日 正徳6年　2月3日 晴
1716年　2月26日 正徳6年　2月4日 陰晴　時々雪　(正月12日暮六つ時江戸で乾風・大火中屋敷近くまで延焼、同月18日昼九時にも江戸で大火・上屋敷類焼)
1716年　2月27日 正徳6年　2月5日 陰晴　午の刻より小雪時々
1716年　2月28日 正徳6年　2月6日 陰晴
1716年　2月29日 正徳6年　2月7日 曇　終日丸雪　風時々

1716年　3月1日 正徳6年　2月8日 曇　昨夜より雪降
1716年　3月2日 正徳6年　2月9日 晴　(正月碇関:出31・入り95人)
1716年　3月3日 正徳6年　2月10日 陰晴　(正月中野内:出15・入り26人)
1716年　3月4日 正徳6年　2月11日 晴　(当正月中大間越:出9・入り23・合32人)
1716年　3月5日 正徳6年　2月12日 曇　寅の刻より終日雨
1716年　3月6日 正徳6年　2月13日 曇　巳の刻より小雪　終日に及ぶ　(大組足軽1組に鉄砲50挺)
1716年　3月7日 正徳6年　2月14日 曇　2月の節に入る　巳の刻より小雪　午の刻晴
1716年　3月8日 正徳6年　2月15日 陰晴
1716年　3月9日 正徳6年　2月16日 快晴
1716年　3月10日 正徳6年　2月17日 晴　(大間越庄屋申し立て:御蔵米50俵を1俵23匁7分5厘で払い出しを→了)
1716年　3月11日 正徳6年　2月18日 曇　終日雪　夜に入り吹雪　(魚油の値段:1斗7升入りの樽で73匁)　下から続く　6)・下男401(273・76・28・2・21・1)・下女215(130・42・25・2・13・3)・家屋敷直支配92軒・又支配56軒)
1716年　3月12日 正徳6年　2月19日 曇　今朝より終日大吹雪　(御用人支配当春切支丹証文人数書:惣人数2419人・上男1133(禅707・浄土199・法花89・天台30・門徒98・真言10)・上女670(300・165・98・27・74・　上に続く
1716年　3月13日 正徳6年　2月20日 曇　終日小雪
1716年　3月14日 正徳6年　2月21日 晴
1716年　3月15日 正徳6年　2月22日 快晴
1716年　3月16日 正徳6年　2月23日 曇　時々小雪
1716年　3月17日 正徳6年　2月24日 晴
1716年　3月18日 正徳6年　2月25日 晴
1716年　3月19日 正徳6年　2月26日 曇　辰の刻小雨　午の下刻晴
1716年　3月20日 正徳6年　2月27日 晴　夜に入り雨　雷発す
1716年　3月21日 正徳6年　2月28日 曇　今朝雨少し　雷発す
1716年　3月22日 正徳6年　2月29日 曇　春分　昨夜より雨　雷発す　小雨時々　下から続く　・16日金木組金木村の九郎次郎(4寸廻り5寸)・16日赤石組一森村の孫右衛門(2寸5歩廻り3寸3歩)それぞれ熊取る)
1716年　3月23日 正徳6年　2月30日 曇　時々小雪　(10日駒越組中畑村の彦左衛門(胆長3寸廻り4寸)・正月29日大鰐組虹貝村の長右衛門(4寸2歩廻り6寸7歩)・26日横内組浅虫村の弥助(3寸8歩廻り5寸7歩)　上に続く
1716年　3月24日 正徳6年　閏2月1日　曇　今朝より吹雪
1716年　3月25日 正徳6年　閏2月2日　曇　終日雪降
1716年　3月26日 正徳6年　閏2月3日　曇　今朝少々雪　(白鳥値段:大13匁・小7匁)
1716年　3月27日 正徳6年　閏2月4日　陰晴　辰の上刻雪降　下刻より晴
1716年　3月28日 正徳6年　閏2月5日　陰晴　(柳嶋上屋敷修復出来)
1716年　3月29日 正徳6年　閏2月6日　晴　今朝霜　(先月23日広須新田大館村の金助が熊(胆長1寸5歩廻り1寸)取る)
1716年　3月30日 正徳6年　閏2月7日　晴　(2月中大間越:出24・入り79人)
1716年　3月31日 正徳6年　閏2月8日　晴
1716年　4月1日 正徳6年　閏2月9日　快晴
1716年　4月2日 正徳6年　閏2月10日　なし(天気の記述がない・但し降水があったか気温が高かったか)　(藤崎川仮橋が雪水で落ちる、先月中野内:出80・入り37人)
1716年　4月3日 正徳6年　閏2月11日　曇　辰の刻より雨
1716年　4月4日 正徳6年　閏2月12日　曇　今朝小雪　午の刻より晴　(平川昨暮川八分の洪水で境関仮橋の中の3間落ちる・藤崎川でも洪水)
1716年　4月5日 正徳6年　閏2月13日　晴　申の下刻小雪
1716年　4月6日 正徳6年　閏2月14日　陰晴　夜に入り風　戌の刻雷発す　(去る10日昼過ぎ赤石組本深浦之沢で男流死)
1716年　4月7日 正徳6年　閏2月15日　晴
1716年　4月8日 正徳6年　閏2月16日　快晴　(14日浦町組野沢村で火災3軒)
1716年　4月9日 正徳6年　閏2月17日　快晴　(先月晦日後潟組大川平村で庵焼失、2月中碇関:出254・入り320人)
1716年　4月10日 正徳6年　閏2月18日　快晴　(蟹田町の日用取り45人に赤米2斗宛救い米)
1716年　4月11日 正徳6年　閏2月19日　快晴　(十三の人数884人分の飯米計算あり、十三潟が一昨16日に明ける)
1716年　4月12日 正徳6年　閏2月20日　曇　辰の下刻より小雨　夜に入り風　(浦町組・横内組代官が種籾78石9斗7合拝借願い・了、三新田も、一昨16日十三潟明ける、藤崎川雪水で通行留め)
1716年　4月13日 正徳6年　閏2月21日　晴　時々小風
1716年　4月14日 正徳6年　閏2月22日　晴　今朝霜　(19日昼九時横内組宮田村で火災2軒(庄屋家4間×13間等)焼失、横内組久栗坂山で熊の子2つ打殺す)
1716年　4月15日 正徳6年　閏2月23日　快晴
1716年　4月16日 正徳6年　閏2月24日　陰晴　申の刻より小雨
1716年　4月17日 正徳6年　閏2月25日　陰晴　終日小風　(十三潟が19日に残らず明ける・16日には3ヶ1明けた)
1716年　4月18日 正徳6年　閏2月26日　陰晴　終日小風　(14日の野沢村と19日の宮田村の火元の押し込め御免)
1716年　4月19日 正徳6年　閏2月27日　晴　寅の初刻より土用入り
1716年　4月20日 正徳6年　閏2月28日　快晴
1716年　4月21日 正徳6年　閏2月29日　曇　昨夜寅の刻より雨終日　申の下刻より大風　(当月御関所出人41人・切手28枚、当月横内・浦町・大鰐・尾崎・猿賀・駒越・浪岡組で熊都合20疋取る)
1716年　4月22日 正徳6年　3月1日 曇　終日小風
1716年　4月23日 正徳6年　3月2日 陰晴　(去月29日の大風で碇関・高岡・城中に破損、同日黒石領田沢村沖で破船1艘)
1716年　4月24日 正徳6年　3月3日 晴　(2日常盤組榊村八幡宮で50斗者道心病死)
1716年　4月25日 正徳6年　3月4日 曇　巳の刻より雨降　小雨時々　(29日の強風被害百沢寺・革秀寺・国上寺、先月27日夜十三の南に野火(200間×8・9丁、40間×4・5丁))
1716年　4月26日 正徳6年　3月5日 晴　終日小風　(29日の大風で高杉組鬼沢村の百姓家(4間×10間)潰れる、並木の松等も被害)
1716年　4月27日 正徳6年　3月6日 晴　(赤石組広瀬村の濱に60程男の死骸が流れ寄せる)
1716年　4月28日 正徳6年　3月7日 快晴　(5日後潟組広瀬村で火災1軒雑駄1疋種籾4俵焼失、先月29日石渡大橋が洪水で押し流される)
1716年　4月29日 正徳6年　3月8日 晴　終日小風　(6日十三で火災18軒・火元入寺、閏2月中野内:出58・入り57人)
1716年　4月30日 正徳6年　3月9日 晴　終日小風

1716年　5月1日 正徳6年　3月10日 晴 （8日大鰐組嶋田村で火災7軒）
1716年　5月2日 正徳6年　3月11日 曇
1716年　5月3日 正徳6年　3月12日 晴
1716年　5月4日 正徳6年　3月13日 晴
1716年　5月5日 正徳6年　3月14日 曇 時々小雨 午の刻より小風 （5日後潟組広瀬村で火災1軒）
1716年　5月6日 正徳6年　3月15日 曇 今朝小雨 午の刻より晴 （8日浦町組高田村で野火（150間×300間）、昨夜大風雨で藤崎川十分）
1716年　5月7日 正徳6年　3月16日 曇 終日小風 （閏2月中碇関:出111・入り150・都合261人）
1716年　5月8日 正徳6年　3月17日 快晴 （閏2月中大間越:出44・入り152人）
1716年　5月9日 正徳6年　3月18日 曇 巳の刻より雨
1716年　5月10日 正徳6年　3月19日 陰晴 申の下刻雨
1716年　5月11日 正徳6年　3月20日 晴 （代官のみの人事異動、18日新田木作村で火災35軒）
1716年　5月12日 正徳6年　3月21日 陰晴
1716年　5月13日 正徳6年　3月22日 快晴
1716年　5月14日 正徳6年　3月23日 快晴 （21日昼常盤組西中野目村で火災1軒（百姓家3間×7間）、5日広瀬村・8日大鰐村（10日の嶋田村?）の火元の村預け・他村預け（類焼があったため?）赦免）
1716年　5月15日 正徳6年　3月24日 曇 卯の刻より雨 終日に及ぶ （十三で破船1艘）
1716年　5月16日 正徳6年　3月25日 陰晴
1716年　5月17日 正徳6年　3月26日 快晴 （13日十三で水船1艘）
1716年　5月18日 正徳6年　3月27日 快晴
1716年　5月19日 正徳6年　3月28日 陰晴 （23日横内組四つ石村で野火（200間×600間）、27日飯詰組神山村で男1人縊死）
1716年　5月20日 正徳6年　3月29日 晴 時々小風 （大間越町の者共より御蔵米50俵御払い願い→20俵申付ける）　下から続く　徳才子村の定右衛門（2寸廻り1寸8歩）それぞれ熊取る）
1716年　5月21日 正徳6年　4月1日 陰晴　下から続く　横内組長森村の助左衛門（胆なし）・3月1日浦町組新町野村で助兵衛（5寸廻り6寸）・23日横内組横内村の左衛門四郎（4寸2歩廻り4寸9歩）・18日浪岡組　上に続く
1716年　5月22日 正徳6年　4月2日 陰晴 申の刻より雨 夜に及ぶ （牢死男1人、3月10日浪岡組徳才子村の定右衛門・弥七郎（胆長3寸廻り2寸3歩）・11日駒越組相馬村の左衛門三郎（4寸廻り5寸）・2月28日　上に続く
1716年　5月23日 正徳6年　4月3日 曇 午の下刻より小雨
1716年　5月24日 正徳6年　4月4日 曇 雨終日に及ぶ 午の刻より雷発す 大雨 （先月21日大鰐組古懸村の男行方不明、先月23日西中野村の火元の押籠御免）
1716年　5月25日 正徳6年　4月5日 曇 終日小雨
1716年　5月26日 正徳6年　4月6日 曇 今朝霧雨降る 巳の中刻晴
1716年　5月27日 正徳6年　4月7日 晴 風吹 （先月中大間越:出入り86人）
1716年　5月28日 正徳6年　4月8日 今朝より終日風雨 午の刻雷発す 未の上刻丸雪 （昨年12月23日手配の男を浦町組高田村で搦捕る）
1716年　5月29日 正徳6年　4月9日 晴 終日小風 （先月中碇関:出入り701人）
1716年　5月30日 正徳6年　4月10日 晴 終日小風 （先月6日?の十三の火元の入寺赦免）
1716年　5月31日 正徳6年　4月11日 快晴 （3月中野内:出133・入り104・都合237人）
1716年　6月1日 正徳6年　4月12日 快晴
1716年　6月2日 正徳6年　4月13日 曇 昨夜子の刻より雷風雨 卯の刻晴 巳の刻時々雨
1716年　6月3日 正徳6年　4月14日 曇
1716年　6月4日 正徳6年　4月15日 曇 終日小風
1716年　6月5日 正徳6年　4月16日 晴
1716年　6月6日 正徳6年　4月17日 曇 5月の節戌の三刻入る
1716年　6月7日 正徳6年　4月18日 曇 （16日金木新田宮川村で火災2軒）
1716年　6月8日 正徳6年　4月19日 晴
1716年　6月9日 正徳6年　4月20日 快晴 小風 （大間越松神濱へ船からと材木流れ寄せる）
1716年　6月10日 正徳6年　4月21日 快晴 （今月8日大風あり八戸沖で破船1艘、長勝寺境内の林に女縊死・子供2人も首くくり）
1716年　6月11日 正徳6年　4月22日 快晴 （赤石組小森村などで19日・20日田植え初め、21日浪岡組長沼村で火災1軒）
1716年　6月12日 正徳6年　4月23日 快晴 （大間越から蔵米50俵払い出し申請・1俵24匁2分5厘で払出す）
1716年　6月13日 正徳6年　4月24日 陰晴 未の下刻雨少々
1716年　6月14日 正徳6年　4月25日 曇 夜に入り雨
1716年　6月15日 正徳6年　4月26日 曇
1716年　6月16日 正徳6年　4月27日 快晴
1716年　6月17日 正徳6年　4月28日 快晴 （男牢死）
1716年　6月18日 正徳6年　4月29日 快晴
1716年　6月19日 正徳6年　4月30日 快晴 （去年9月に女房を切り殺した男が牢死・斬罪に極まっていたので死体の首を切る）
1716年　6月20日 正徳6年　5月1日 陰晴
1716年　6月21日 正徳6年　5月2日 陰晴
1716年　6月22日 正徳6年　5月3日 快晴 （1日尾崎組小国村で火災5軒・火元高無2間半×8間・他村預け）
1716年　6月23日 正徳6年　5月4日 陰晴 申の刻より雨 （2日後潟組蓬田村で火災4軒）
1716年　6月24日 正徳6年　5月5日 曇 時々雨
1716年　6月25日 正徳6年　5月6日 陰晴
1716年　6月26日 正徳6年　5月7日 快晴
1716年　6月27日 正徳6年　5月8日 快晴 （先月中大間越:出入り95人）
1716年　6月28日 正徳6年　5月9日 快晴 雲谷辰の中刻より上る
1716年　6月29日 正徳6年　5月10日 曇 午の下刻より雨 （17日横内組宮崎村で火災1軒、公方様（七代将軍家継）御他界の報あり）
1716年　6月30日 正徳6年　5月11日 曇 （2日江戸発の飛脚が9日振りで昨夜着・公方様4月30日御他界）

1716年　7月1日 正徳6年　5月12日 快晴
1716年　7月2日 正徳6年　5月13日 快晴　半夏 （大間越の者共より御蔵米御払い願い→20俵御払い申付ける）
1716年　7月3日 正徳6年　5月14日 快晴
1716年　7月4日 正徳6年　5月15日 酉の中刻雷雨　時々小雨　曇
1716年　7月5日 正徳6年　5月16日 快晴
1716年　7月6日 正徳6年　5月17日 快晴
1716年　7月7日 正徳6年　5月18日 曇　辰の刻西南の方虹見る　時々雨　午の下刻雷発す
1716年　7月8日 正徳6年　5月19日 快晴 （大鰐村より初黄瓜5差上げる）
1716年　7月9日 正徳6年　5月20日 曇　巳の下刻より雨　終日に及ぶ （碇関で34・5男自殺、先月中野内:出入り都合237人）
1716年　7月10日 正徳6年　5月21日 曇　昨夜より雨終日 （19日までに在々田植え仕舞）
1716年　7月11日 正徳6年　5月22日 陰晴 （御在国中の御用金年間1000両・月別内訳あり）
1716年　7月12日 正徳6年　5月23日 晴
1716年　7月13日 正徳6年　5月24日 晴　申の下刻より雨
1716年　7月14日 正徳6年　5月25日 曇　昨夜より雨　辰の下刻まで　巳の上刻より晴　午の下刻より雨
1716年　7月15日 正徳6年　5月26日 曇　昨夜より小雨終日
1716年　7月16日 正徳6年　5月27日 曇　昨夜より雨　午の刻迄時々 （岩木への湯治停止、晴天の祈祷を大円寺でも行うよう仰せ付ける、岩木川水昨夜の雨で7分となり往還留める）
1716年　7月17日 正徳6年　5月28日 曇　終日小雨
1716年　7月18日 正徳6年　5月29日 晴　夜に入り雨
1716年　7月19日 正徳6年　6月1日 晴　巳の刻より土用に入る　午の下刻より曇　それより小雨　夜中小雨
1716年　7月20日 正徳6年　6月2日 曇　昨夜の雨今朝辰の刻まで小雨 （先月12日江戸発の御家中が洪水で今日着、昨晩初茄子・真瓜大鰐より差上げる）
1716年　7月21日 正徳6年　6月3日 曇　巳の中刻小雨　それより時々　　下から続く　　・付ヶ木・銭27匁8分等を持つ不審男捕える）
1716年　7月22日 正徳6年　6月4日 曇　巳の中刻過ぎより小雨　それより時々 （大間越町に蔵米30俵払出す、先月27日蟹田で洪水・流木48500本捨り、同日の洪水で革秀寺境内に被害、板屋野木村で火打ち箱　　上に続く
1716年　7月23日 正徳6年　6月5日 卯の后刻小雨　巳の下刻より晴
1716年　7月24日 正徳6年　6月6日 快晴 （蟹田町で船渡しから落ち14女死亡）
1716年　7月25日 正徳6年　6月7日 快晴 （和徳稲荷社主毎内を山辺に苗字変更）
1716年　7月26日 正徳6年　6月8日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り雨 （今別で南部船破船:昔の話か）
1716年　7月27日 正徳6年　6月9日 曇 （新田靱負去月23日江戸で病死）
1716年　7月28日 正徳6年　6月10日 晴 （後潟組の狄共が鮟油で返すとして米30俵の拝借願い・半分15俵を申付ける、8日金木新田桜井村(後の藤枝村)の百姓新八兄弟3人が川倉村で山守を殺し大暴れ）
1716年　7月29日 正徳6年　6月11日 快晴
1716年　7月30日 正徳6年　6月12日 快晴
1716年　7月31日 正徳6年　6月13日 快晴
1716年　8月1日 正徳6年　6月14日 快晴
1716年　8月2日 正徳6年　6月15日 快晴 （江戸に発つ御徒に山上羽右衛門）
1716年　8月3日 正徳6年　6月16日 快晴 （5月27日の洪水で蟹田川より材木流出）
1716年　8月4日 正徳6年　6月17日 快晴
1716年　8月5日 正徳6年　6月18日 快晴
1716年　8月6日 正徳6年　6月19日 快晴 （先月20日よりの雨で25日より田428町歩余水湛、12月11日牢舎の博打男牢死、5月中野内:出91・入り142人、先月中大間越:出78・入り43人、先月中碇関:出316・入り396人）
1716年　8月7日 正徳6年　6月20日 快晴
1716年　8月8日 正徳6年　6月21日 今朝卯の中刻雨　それより晴
1716年　8月9日 正徳6年　6月22日 快晴 （去る8月青森入牢の男牢死）
1716年　8月10日 正徳6年　6月23日 陰晴
1716年　8月11日 正徳6年　6月24日 晴 （18日御家中の下女が2歳女子を堰へ投入れ殺す）
1716年　8月12日 正徳6年　6月25日 晴　夜中小雨　夜四つ前少々地震
1716年　8月13日 正徳6年　6月26日 晴　今朝少々雨降
1716年　8月14日 正徳6年　6月27日 曇　昨夜より雨　今朝卯の中刻まで　それより少し晴
1716年　8月15日 正徳6年　6月28日 晴
1716年　8月16日 正徳6年　6月29日 晴
1716年　8月17日 正徳6年　7月1日 快晴 （一昨27日赤石組金井ヶ沢村で火災5軒）
1716年　8月18日 正徳6年　7月2日 快晴
1716年　8月19日 正徳6年　7月3日 快晴
1716年　8月20日 正徳6年　7月4日 快晴
1716年　8月21日 正徳6年　7月5日 快晴 （先月碇関:出入り902人）
1716年　8月22日 正徳6年　7月6日 巳の刻より曇　午の刻小雨
1716年　8月23日 正徳6年　7月7日 曇
1716年　8月24日 正徳6年　7月8日 曇　終日小雨　戌の下刻小雨暫く
1716年　8月25日 正徳6年　7月9日 陰晴　夜に入り雨
1716年　8月26日 正徳6年　7月10日 晴　終日小風
1716年　8月27日 正徳6年　7月11日 晴　丑の上刻雨降 （大鰐組大鰐村の加賀助と尾崎組岩館村の孫助から初米上る）
1716年　8月28日 正徳6年　7月12日 晴 （鯵ヶ沢御蔵米沖役入れて元ノ字金10両に付き18俵半宛、6月中大間越:出入り66人）
1716年　8月29日 正徳6年　7月13日 雨　昨夜より雨　申の上刻晴 （7月1日から年号が享保となる）
1716年　8月30日 正徳6年　7月14日 曇　岩木山に雪今日より見え申さず候
1716年　8月31日 正徳6年　7月15日 晴　残暑 （12日金木組尾別村の百姓(の婿)自害）

1716年　9月1日 正徳6年　7月16日 晴　残暑
1716年　9月2日 正徳6年　7月17日 陰晴　残暑　亥の中刻より夜中時々小雨　(去る16日野内町御蔵百姓火災1軒)
1716年　9月3日 正徳6年　7月18日 晴　残暑　(6月中野内:出113・入り158人)
1716年　9月4日 正徳6年　7月19日 快晴　残暑　未の下刻雷一両度発す　小雨
1716年　9月5日 正徳6年　7月20日 快晴　残暑強い　丑の刻ヒカタ風吹く　雨少々降る
1716年　9月6日 正徳6年　7月21日 陰晴　残暑
1716年　9月7日 正徳6年　7月22日 晴　残暑
1716年　9月8日 正徳6年　7月23日 快晴　残暑
1716年　9月9日 正徳6年　7月24日 快晴　残暑　(阿芙蓉等が入った薬かな)
1716年　9月10日 正徳6年　7月25日 曇　午の下刻より大雨
1716年　9月11日 正徳6年　7月26日 曇　午の下刻より小雨
1716年　9月12日 正徳6年　7月27日 曇　昨夜より雨　(目明し専四郎の擬作は1ヵ年お米4石5斗(月割り))
1716年　9月13日 正徳6年　7月28日 曇　今朝より雨　西の方虹見る
1716年　9月14日 正徳6年　7月29日 陰晴　(28日の風雨で三新田・藤代組・御本城などに被害)
1716年　9月15日 正徳6年　7月30日 晴
1716年　9月16日 享保元年　8月1日 陰晴
1716年　9月17日 享保元年　8月2日 曇　終日雨　(百沢寺が苔の実差上げる、去月16日野内の火元の入寺御免)
1716年　9月18日 享保元年　8月3日 晴
1716年　9月19日 享保元年　8月4日 陰晴　(当年作毛宜しからず……)
1716年　9月20日 享保元年　8月5日 晴
1716年　9月21日 享保元年　8月6日 快晴　(14日青森町で男が首かかり・死亡)
1716年　9月22日 享保元年　8月7日 曇　卯の下刻小雨　則止む　午の刻雨止む小風　(先月中野内:出97・入り147人)
1716年　9月23日 享保元年　8月8日 晴　彼岸に入る
1716年　9月24日 享保元年　8月9日 晴
1716年　9月25日 享保元年　8月10日 陰晴　午の刻小雨　則刻止む　(7日鯵ヶ沢などで破船5艘)
1716年　9月26日 享保元年　8月11日 陰晴　(赤石組大宮村より初鮭1尺差し上げる、斬罪5人(盗み4・喧嘩殺人1)・越山9人)
1716年　9月27日 享保元年　8月12日 快晴　夜に入り雨
1716年　9月28日 享保元年　8月13日 曇　昨夜より雨　(赤石組種里村より二番鮭1尺差上げる)
1716年　9月29日 享保元年　8月14日 陰晴　時々小雨　下から続く　・31・16)・下女235(3・2・142・47・29・12)・家屋敷169軒・小荷駄1疋・牛なし)
1716年　9月30日 享保元年　8月15日 晴　(御用人支配切死丹宗門改め惣人数:2664人・上男1110(天台14・真言27・禅693・浄土196・法花81・浄土真99)・上女945(9・25・590・165・78・78)・下男374(3・6・254・64　上に続く
1716年　10月1日 享保元年　8月16日 快晴
1716年　10月2日 享保元年　8月17日 快晴　今朝霧降る　夜中雨降る　(7月中碇関:出133・入り446人、7月中大間越:出38・入り48人)
1716年　10月3日 享保元年　8月18日 曇　(昨夜御手廻の妻自害)
1716年　10月4日 享保元年　8月19日 晴
1716年　10月5日 享保元年　8月20日 晴　今朝岩木山初雪見る
1716年　10月6日 享保元年　8月21日 快晴　(16日赤石組金井ヶ沢で南風に遭い破船1艘)
1716年　10月7日 享保元年　8月22日 晴
1716年　10月8日 享保元年　8月23日 終日小雨　(一粒金丹の調合を和田玄良に仰せ付ける)
1716年　10月9日 享保元年　8月24日 晴　今朝岩木山に雪見る
1716年　10月10日 享保元年　8月25日 曇　卯の中刻雨　終日に及ぶ　西の方虹見る
1716年　10月11日 享保元年　8月26日 晴　大霜　(来月中御家中御扶持米1200俵ほど不足とのこと・来月20日までに新米を納めるよう申付ける)
1716年　10月12日 享保元年　8月27日 晴　今朝霜
1716年　10月13日 享保元年　8月28日 晴　今朝大雪(大霜の誤りか、9月23日に初雪の記述があり、今日の本文中には雪の記述がない)　(幕府から鷹を5居ほど献上依頼あり・鷹匠4人で6居を送り出す)
1716年　10月14日 享保元年　8月29日 晴
1716年　10月15日 享保元年　9月1日 晴
1716年　10月16日 享保元年　9月2日 曇　夜に入り雨
1716年　10月17日 享保元年　9月3日 昨夜の雨辰の刻まで　巳の刻より晴
1716年　10月18日 享保元年　9月4日 晴
1716年　10月19日 享保元年　9月5日 陰晴
1716年　10月20日 享保元年　9月6日 曇　夜に入り雨　(藤代・柏木・田舎館組村々の田畑が頃日に至り強い霜にて……)
1716年　10月21日 享保元年　9月7日 曇　昨夜よりの雨　終日に及ぶ
1716年　10月22日 享保元年　9月8日 晴　未の刻雷一両度発す　申の中刻より雨
1716年　10月23日 享保元年　9月9日 曇　終日雨
1716年　10月24日 享保元年　9月10日 晴
1716年　10月25日 享保元年　9月11日 快晴　今朝大雪(これも大霜の誤りか)　昨夜雨　(三馬屋村勘兵衛が今別町奉行を通じて「三馬屋御梨子」は去月28日までに残らず落ちたと報告)
1716年　10月26日 享保元年　9月12日 曇　申の中刻より雨　夜中時々　四方山雪見る　(8月中野内:出111・入り144人)
1716年　10月27日 享保元年　9月13日 曇　昨日より雨時々　午の下刻雷発す　東の方虹見る
1716年　10月28日 享保元年　9月14日 曇　昨夜より雨時々小風　(昨夜の風で西之郭に被害)
1716年　10月29日 享保元年　9月15日 快晴
1716年　10月30日 享保元年　9月16日 陰晴　午の刻小雨
1716年　10月31日 享保元年　9月17日 陰晴　(一昨15日駒越組大秋村で火災1軒・火元村預け)

1716年　11月1日 享保元年　9月18日 快晴 （13日夜大風で野内(浅虫)の番所破損）
1716年　11月2日 享保元年　9月19日 快晴 午の中刻小風 （十三町の人口は903人）
1716年　11月3日 享保元年　9月20日 晴 小風 （11日夜松前城下唐津内町で火災35軒）
1716年　11月4日 享保元年　9月21日 曇 （15日大秋村の火元の村預け御免）
1716年　11月5日 享保元年　9月22日 晴 子の上刻雷雨 小風
1716年　11月6日 享保元年　9月23日 午の上刻より初雪少々 今朝小雨降る 夜に入り雨風
1716年　11月7日 享保元年　9月24日 今朝より終日雪
1716年　11月8日 享保元年　9月25日 晴
1716年　11月9日 享保元年　9月26日 晴 （一昨24日尾崎組尾崎村で火災1軒）
1716年 11月10日 享保元年　9月27日 曇 巳の中刻まで雪並びに雨時々 （24日の風雨で被害）
1716年 11月11日 享保元年　9月28日 晴 今朝少々雪 夜に入り雪 （御朱印箱を南内外の大門を開き江戸に送りだす）
1716年 11月12日 享保元年　9月29日 曇 終日雪 （24日大風・広須組石館・千年村・木造新田丸山村に被害・代官が税の減免申し立てる、8月中碇関:出199・入り267人）
1716年 11月13日 享保元年　9月30日 曇 小雪
1716年 11月14日 享保元年　10月1日 曇
1716年 11月15日 享保元年　10月2日 曇 終日雪 （24日大風・赤石組黒崎と松神で破船2艘その他の被害、23日江戸発の飛脚が洪水で2日遅れで到着）
1716年 11月16日 享保元年　10月3日 晴
1716年 11月17日 享保元年　10月4日 曇 巳の中刻より雨降 西方虹見る
1716年 11月18日 享保元年　10月5日 陰晴 （9月10日駒越組桜庭村の喜右衛門(胆長5寸2歩廻り8寸3歩)・20日飯詰組若山村の半兵衛(4寸3寸)それぞれ熊取る）
1716年 11月19日 享保元年　10月6日 陰晴
1716年 11月20日 享保元年　10月7日 晴
1716年 11月21日 享保元年　10月8日 曇
1716年 11月22日 享保元年　10月9日 晴 （7日晩茂森町で掃除小人縊死）
1716年 11月23日 享保元年　10月10日 曇
1716年 11月24日 享保元年　10月11日 晴 今朝御堀氷張る
1716年 11月25日 享保元年　10月12日 曇 終日小雨風 夜中風雨 （先月24日尾崎村の火元の村預け御免）
1716年 11月26日 享保元年　10月13日 晴 （6日金木組中里村で50男道心縊死）
1716年 11月27日 享保元年　10月14日 快晴
1716年 11月28日 享保元年　10月15日 曇 （浪岡御蔵目付が御蔵升取を討つ・聢とは(しかとは:確実には)討ち留めず）
1716年 11月29日 享保元年　10月16日 曇 終日雨 雷発す 亥の刻大風雨
1716年 11月30日 享保元年　10月17日 曇 終日雷 夜に入り小雨 （先月中野内:出98・入り134人）
1716年　12月1日 享保元年　10月18日 曇 未の中刻より雪降 （16日の風で俵元新田・長勝寺・和徳稲荷・常盤組葛野村で百姓家潰れるなど各地に被害）
1716年　12月2日 享保元年　10月19日 曇 （荏之油(えのあぶら:エゴマを搾った油)値段1匁に付き1升8合5夕、16日の風で赤石組関で破船1艘）
1716年　12月3日 享保元年　10月20日 曇 小雪 （16日の大風で深浦町浜町で大波39軒大破・破船7艘）
1716年　12月4日 享保元年　10月21日 曇 小雪 （16日大風駒越組宮地村等で被害・常盤組矢沢・松枝村・広須新田兼館村・高杉組十面沢村で潰れ家各1軒）
1716年　12月5日 享保元年　10月22日 晴
1716年　12月6日 享保元年　10月23日 晴
1716年　12月7日 享保元年　10月24日 曇 （小倉作左衛門200俵・小笠原・横島・佐藤の三人を各100俵で召し返す）
1716年　12月8日 享保元年　10月25日 曇
1716年　12月9日 享保元年　10月26日 曇
1716年 12月10日 享保元年　10月27日 曇 小雪 夜に入り雷発す 夜中小雪 （三上を100俵で召し返す、後潟組代官から御救米110俵の申し出・赤米55俵を出す、米1俵の銭納値段は24匁5歩）
1716年 12月11日 享保元年　10月28日 陰晴 夜に入り雪
1716年 12月12日 享保元年　10月29日 終日小雪
1716年 12月13日 享保元年　10月30日 曇 （11日浪岡組徳才子村の定右衛門(胆長4寸廻り5寸2歩)・27日横内組馬場尻村の左次兵衛(胆長4寸5歩廻りはたて当たり不明)それぞれ熊取る）
1716年 12月14日 享保元年　11月1日 快晴
1716年 12月15日 享保元年　11月2日 晴 夜中少々雨 （青森より二番鱈1つ差上げる）
1716年 12月16日 享保元年　11月3日 今朝より昼時まで雨降 夜に入り風 （御救い山の申し立てと了承が多い、三番鱈が蟹田より上る）
1716年 12月17日 享保元年　11月4日 曇 終日吹雪
1716年 12月18日 享保元年　11月5日 曇 終日雪 （押え米入札:15俵1斗3升8合が307匁6分6厘7毛・1俵当たり20.05匁で先月27日の銭納値段より安い、各地の米留めが押えた闇米を入札したもの）
1716年 12月19日 享保元年　11月6日 曇 今朝小雪 （十三潟が10月28日に氷張る）
1716年 12月20日 享保元年　11月7日 晴 （10月晦日に青森より初鱈上る、金木組今泉村の5軒21人に御救い米）
1716年 12月21日 享保元年　11月8日 曇 申の三刻冬至 時々小雨
1716年 12月22日 享保元年　11月9日 曇 午の刻より雪降
1716年 12月23日 享保元年　11月10日 曇 （10月中大間越:出78・入り71人）
1716年 12月24日 享保元年　11月11日 曇 今朝より時々雪 夜中小雪 （磔2人(6月8日に御留山に入り山守を殺した)・獄門3人(銭を貰って養子を取り養子を殺した女など)・斬罪2人(脇道を取ったなど)）
1716年 12月25日 享保元年　11月12日 曇 （栩(一般的にはクヌギ・しかし栩内と書いてトチナイと読む場合もあるのでトチかも知れない)の実1升代銭1匁）
1716年 12月26日 享保元年　11月13日 晴 （先月中大間越:出入り惣人数159人、11日夜浮田村で御家中が女房を切り殺し自害、先月中野内:出入り257人）
1716年 12月27日 享保元年　11月14日 晴 （油川・後方・浪岡組から御収納米代銭願い・米で納めろと申し遣わす）
1716年 12月28日 享保元年　11月15日 曇 （西舘刑部が隠居・その子内紀に）
1716年 12月29日 享保元年　11月16日 曇 夜中雪降 （収納米1俵値段:岡在26匁・外浜28匁2分・西濱27匁4分・金木組26匁2分、藤代組からも銭納願い・一部認め1俵26匁に）
1716年 12月30日 享保元年　11月17日 巳の下刻より雨降 （10月中碇関:出208・入り187人）
1716年 12月31日 享保元年　11月18日 晴

1717年　1月1日 享保元年　11月19日 快晴
1717年　1月2日 享保元年　11月20日 曇　寅の刻小雪　巳の刻より雨 （転切支丹小泉又左衛門死亡49歳）
1717年　1月3日 享保元年　11月21日 曇　辰の刻小雪　それより晴 （金木組今泉村に救い山開放を認める）
1717年　1月4日 享保元年　11月22日 午の上刻より雨降
1717年　1月5日 享保元年　11月23日 曇　時々小雪　寒亥の初刻入る
1717年　1月6日 享保元年　11月24日 曇　終日雪　夜に入り大雪
1717年　1月7日 享保元年　11月25日 晴 （十三の屋敷物成代銭(1俵につき)27匁4分）
1717年　1月8日 享保元年　11月26日 曇
1717年　1月9日 享保元年　11月27日 晴　　下から続く　　10.6・8.5・9.4・38.5・6.4匁）、外之濱（15.0・22.9・10.9・8.7・9.7・39.6・6.5匁）
1717年　1月10日 享保元年　11月28日 陰晴　夜に入り水雪 （収納雑穀銭納値段(1俵に付き)：近在（次大豆13匁8分・小豆21匁・粟10匁・蕎麦8匁・大麦8匁9分・小麦36匁4分・稗6匁1分）、西之濱と十三（14.6・22.2・　　上に続く
1717年　1月11日 享保元年　11月29日 曇　終日吹雪　夜に入り雪吹く
1717年　1月12日 享保元年　11月30日 曇　今朝より終日雪降 （昨日の風で御本城に被害）
1717年　1月13日 享保元年　12月1日 曇　辰の刻小雪
1717年　1月14日 享保元年　12月2日 曇 （新田の作が悪く村別に減税を認めている）
1717年　1月15日 享保元年　12月3日 陰晴 （先月30日浪岡組徳才子村の定右衛門が熊1疋取る、去る8日駒越組相馬村の左衛門三郎が熊1疋取る、先月28日の風により青森で破船2艘）
1717年　1月16日 享保元年　12月4日 曇　時々吹雪 （先月29日の大風により百沢寺で被害・赤石組関村で2軒が波にさらわれる）
1717年　1月17日 享保元年　12月5日 曇　終日小雪
1717年　1月18日 享保元年　12月6日 快晴　丑の一刻土用入り （4日広須新田鶴田村で火災1軒）
1717年　1月19日 享保元年　12月7日 晴　夜に入り小雪 （5日夜藤代組廻関村で火災1軒・馬4疋、29日の大風で鯵ヶ沢町にも大波被害）
1717年　1月20日 享保元年　12月8日 曇　夜中雪少々
1717年　1月21日 享保元年　12月9日 曇 （11月28日青森湊で破船1艘、先月中野内：出入り227人）
1717年　1月22日 享保元年　12月10日 曇　終日雪 （青森町蜆貝の漁師63軒に米1俵宛拝借申付ける、先月中大間越：出入り166人）
1717年　1月23日 享保元年　12月11日 陰晴 （先月20日出火の猿賀組尾上村の火元の村預け御免、青森安方町の96軒に御米50俵拝借を申付ける・来秋の返済を申付ける）
1717年　1月24日 享保元年　12月12日 陰晴 （9日の大風により(南部領のどこかで)船頭など3人死亡）
1717年　1月25日 享保元年　12月13日 曇　巳の刻より時々小雪　夜中雪
1717年　1月26日 享保元年　12月14日 終日雪 （10日の大風により破船2艘行方不明2人、金木組今泉村の26人に御救い米・先月21日より45日分、後潟・油川組でも渇命対策始まる）
1717年　1月27日 享保元年　12月15日 曇 （青森の漁師たちに渇命対策(借り米)始まる、元の字金10両で沖役とも米弘前17俵半・青森14俵5分・鯵ヶ沢16俵2分）
1717年　1月28日 享保元年　12月16日 巳の刻より雪 （先月29日の大風・鯵ヶ沢に被害）
1717年　1月29日 享保元年　12月17日 曇　夜に入り小雪
1717年　1月30日 享保元年　12月18日 陰晴 （4日赤田組鶴田村で火災1軒・火元村預け）
1717年　1月31日 享保元年　12月19日 晴 （青森御蔵米沖役入れて金10両に14俵半、16日金木組尾別村で火災1軒・13女子死亡）
1717年　2月1日 享保元年　12月20日 曇　夜に入り吹雪 （野内町・後潟・油川組に渇命対策）
1717年　2月2日 享保元年　12月21日 曇　昨夜より吹雪 （先月中碇関：出入り503人）
1717年　2月3日 享保元年　12月22日 曇　吹雪
1717年　2月4日 享保元年　12月23日 節分　今朝雪少々　曇
1717年　2月5日 享保元年　12月24日 曇　時々小雪 （22日より浅瀬石川に氷張り往還止める、青森本町塩町28軒109人に御救い米、20日青森で破船41艘）
1717年　2月6日 享保元年　12月25日 曇 （江戸からの飛脚が大雪で21日振りに到着）
1717年　2月7日 享保元年　12月26日 晴 （後潟組三馬屋村の70軒に渇命対策として2俵宛貸す、広須新田の165人にも御救い米3合/人日）
1717年　2月8日 享保元年　12月27日 曇　吹雪　夜中雪 （油川組新田村・古川村・油川村の高無127人に御蔵米から籾を渡す）
1717年　2月9日 享保元年　12月28日 曇　今朝雪
1717年　2月10日 享保元年　12月29日 曇　今朝小雪 （26日駒越組の猟師・7日大鰐組森山村の弥左衛門・11日駒越組の仁助・4日金木組の四郎三郎・23日大鰐組居土村の弥左衛門がそれぞれ熊取る）
1717年　2月11日 享保2年　正月1日　快晴
1717年　2月12日 享保2年　正月2日　曇　辰の下刻吹雪
1717年　2月13日 享保2年　正月3日　曇　小雪
1717年　2月14日 享保2年　正月4日　晴
1717年　2月15日 享保2年　正月5日　曇　午の刻より時々雪
1717年　2月16日 享保2年　正月6日　陰晴　巳の下刻より水雪
1717年　2月17日 享保2年　正月7日　晴　午の刻より吹雪
1717年　2月18日 享保2年　正月8日　晴　未の刻より雨
1717年　2月19日 享保2年　正月9日　晴 （旧冬27日後潟組六枚橋村の薪取り4人が「なてつき」(なだれ)雪の下で死亡、後潟組石浜村で渇者794人に郷（文字は「江」）蔵の籾渡す）
1717年　2月20日 享保2年　正月10日　快晴
1717年　2月21日 享保2年　正月11日　今朝卯の中刻雷四度発す　未申強風終日
1717年　2月22日 享保2年　正月12日　なし(天気の記述がない)
1717年　2月23日 享保2年　正月13日　陰晴　今朝雪　巳の刻晴 （11日大鰐組蔵館村で湯治男自害、高杉組前坂村で男倒死）
1717年　2月24日 享保2年　正月14日　晴
1717年　2月25日 享保2年　正月15日　晴
1717年　2月26日 享保2年　正月16日　曇　夜に入り雪 （蟹田町に60余男乞食倒死）
1717年　2月27日 享保2年　正月17日　なし(天気の記述がない) （広須新田の村々の236人に御救い米・3合/人日・16日から2月5日までの分）
1717年　2月28日 享保2年　正月18日　晴

1717年　3月1日 享保2年 正月19日　晴
1717年　3月2日 享保2年 正月20日　曇 今朝大雪 (去る12月碇関:出159・入り170人)
1717年　3月3日 享保2年 正月21日　快晴 (広須・高杉・浦町・横内・常盤・増館・浪岡組から籾納願い・だめ)
1717年　3月4日 享保2年 正月22日　曇 丑の中刻強風 吹雪終日に及ぶ (去る申の年12月(昨年12月)大間越:出入り都合49人)
1717年　3月5日 享保2年 正月23日　晴 夜中雪降 (大間越町奉行から御蔵米50俵払い出しの申し出で・20俵を1俵28匁1分で払出す)
1717年　3月6日 享保2年 正月24日　晴 (油川・後潟組の174人・藤代組長浜・出来嶋村の32人に御救い米、昨年12月野内:出入り118人)
1717年　3月7日 享保2年 正月25日　晴 (20日分の御救い米を出した広須新田の者共にさらに20日分の御救い米)
1717年　3月8日 享保2年 正月26日　曇 辰の刻より雪 巳の下刻晴 (22日鯵ヶ沢沖で破船1艘)
1717年　3月9日 享保2年 正月27日　巳の刻より雨フル 未の刻晴 (24日深浦町で火災1軒・夫が出稼ぎ中で残された女房が消せなかったが預け赦免)
1717年　3月10日 享保2年 正月28日　晴
1717年　3月11日 享保2年 正月29日　晴 (各地から御救い米拝借願いあり)
1717年　3月12日 享保2年 正月30日　曇 (26日後潟組大川原村で火災1軒・70余男病人焼死)
1717年　3月13日 享保2年　2月1日 曇 亥の上刻地震 (古懸不動尊出汗)　下から続く　弥右衛門それぞれ熊取る)
1717年　3月14日 享保2年　2月2日 曇 今朝小雨 (昨夜藤崎渡しが雪ざい(氷)の水で破損、駒越組田代村の藤左衛門・同組大秋村の新兵衛・大鰐組虹貝村の長右衛門・猿賀組袋村の助左衛門・赤石組一森村の　上に続く
1717年　3月15日 享保2年　2月3日 陰晴 今朝小雪 則止む
1717年　3月16日 享保2年　2月4日 晴
1717年　3月17日 享保2年　2月5日 快晴 朝霜降
1717年　3月18日 享保2年　2月6日 快晴 今朝雪降
1717年　3月19日 享保2年　2月7日 快晴 今朝霜 (3日広田組長橋村に60余男吹倒死)
1717年　3月20日 享保2年　2月8日 晴 (御救い米願い2件、御内分金から2000両銭100貫目を当分借りたいとの申し出で・1000両と15貫目を貸し出す)
1717年　3月21日 享保2年　2月9日 晴 未の上刻地震暫く 未の下刻より雨 (後潟組平館村の53軒・油川組36軒に御救い米)
1717年　3月22日 享保2年　2月10日 快晴 未の下刻雷発す 夜中雪 (2月中大間越:出18・入り49人)
1717年　3月23日 享保2年　2月11日 曇 昨夜よりの水それ(霙)辰の下刻まで それより雨時々 (石渡橋守渇命救い米2斗渡す、後潟組狄共に油の前銭代米として青森御蔵より200俵渡す、後潟組の442人渇命)
1717年　3月24日 享保2年　2月12日 陰晴 (後潟組平館村の47軒と三新田の31軒(163人)に御救い米)
1717年　3月25日 享保2年　2月13日 晴 (先月22日江戸の本郷丸山辺りから出火・神田橋より御郭の内への大火)
1717年　3月26日 享保2年　2月14日 曇 巳の下刻小雨 それより晴 (13日十三潟大湊明ける、藤代組長濱村・出来嶋村に追加御救い米、後潟組三馬屋村の70軒に2俵宛渡すよう申し出・検分するよう申し渡す)
1717年　3月27日 享保2年　2月15日 曇 未の下刻雪 それより雨 丑の下刻大風雨 卯の刻止む (正月中碇関:出入り531人)
1717年　3月28日 享保2年　2月16日 曇 終日小風 午の刻雨少々 (14日田舎館組馬場尻村の水除け堤破損・岩木川・石渡川の洪水で橋破損)　下から続く　・又支配家屋敷57・屋敷10・牛馬0)
1717年　3月29日 享保2年　2月17日 晴 (15日よりの雨で境関の仮橋落ちる、正月21日の大東風で三馬屋沖で2人行方不明)　下から続く　・43・16・2・8)・下女232(144・45・25・8・3・3)、家屋敷91・下屋敷2軒　上に続く
1717年　3月30日 享保2年　2月18日 陰晴 午の刻より時々雨 夜中に及ぶ 北の方虹見る (16日の洪水で藤崎渡しの仮橋押し流す、藤代組種市村の広須海道水穿)　下から続く　77・8・25)・下男389(253・67　上に続く
1717年　3月31日 享保2年　2月19日 曇 辰の刻小雪 (油川組渇者28人に6軒31人が加わる、正月中野内:出69・入り26人)　下から続く　浄土185・法花77・門徒91・天台13・真言26)・上女928(583・156・79・　上に続く
1717年　4月1日 享保2年　2月20日 曇 昨夜中より雪 小風 終日に及ぶ 夜中雪少々降る (平内町の惣人数2885人、10日後潟組平館で破船・1人死亡、転び切支丹改め覚え:惣人数2623人・上男1074(禅682・　上に続く
1717年　4月2日 享保2年　2月21日 晴 (19日夜藤代組出来嶋村で火災1軒)
1717年　4月3日 享保2年　2月22日 晴
1717年　4月4日 享保2年　2月23日 曇 辰の下刻地震
1717年　4月5日 享保2年　2月24日 終日曇
1717年　4月6日 享保2年　2月25日 晴 (見分が疎かな御救い米願いがあり代官等が処分される)
1717年　4月7日 享保2年　2月26日 陰晴 三月の節寅の六刻に入る (旧冬浪岡御蔵で理不尽に升取を切った(10月15日に記述)御蔵目付弘前追放)
1717年　4月8日 享保2年　2月27日 曇 時々小雨 (大間越庄屋が御蔵米50俵の払い出しを求める・駄賃運賃を加え1俵29匁で20俵を払出す、一昨25日常盤組矢沢村で火災1軒)
1717年　4月9日 享保2年　2月28日 快晴 (昨昼よりの雨で岩木川で水出る・駒越渡は馬・長船とも往還不可)
1717年　4月10日 享保2年　2月29日 晴 (27日赤田組胡桃館村で火災1軒)　下から続く　・大鰐組唐牛村の次兵衛・7日横内組の助左衛門・油川組で津軽坂村の太兵衛・10日堀越組一野渡の彦次郎・　下の欄外(*)に続く
1717年　4月11日 享保2年　2月30日 曇 (藤崎組真名板袋に65・6男死亡、1月26日大鰐組苦木村の仁兵衛・2月2日大鰐組長峰村の清兵衛・駒越組の彦左衛門・3日赤石組岩崎村の左衛門四郎・4日駒越組の仁助　上に続く
1717年　4月12日 享保2年　3月1日 快晴 夜中雨 (先月15日添田儀左衛門が家老に)
1717年　4月13日 享保2年　3月2日 昨夜雨 辰の刻まで降る それより曇 (金木組小泊沖に鯨が流れ寄せる)
1717年　4月14日 享保2年　3月3日 快晴 (屋形様が先月18日に熱海に)
1717年　4月15日 享保2年　3月4日 晴 (1日広須新田大湯村で火災1軒)
1717年　4月16日 享保2年　3月5日 晴 未の下刻雷
1717年　4月17日 享保2年　3月6日 晴 午の刻より小風 (この頃から御救い米が収まる)
1717年　4月18日 享保2年　3月7日 晴 辰の下刻より小風 (藤代組長浜村28人・出来嶋村32人・北浮田村6人に正月26日より当月5日までの御救い米:これで終了)
1717年　4月19日 享保2年　3月8日 快晴
1717年　4月20日 享保2年　3月9日 晴
1717年　4月21日 享保2年　3月10日 晴
1717年　4月22日 享保2年　3月11日 晴 辰の下刻より小風 (8日後潟組板木沢村で火災3軒)
1717年　4月23日 享保2年　3月12日 曇 申の刻小雨 (当2月大間越:出62・入り112人、2月中野内:出77・入り68人)
1717年　4月24日 享保2年　3月13日 終日小風 申の刻雪少し降ル
1717年　4月25日 享保2年　3月14日 陰晴 今朝寅の刻雷発す 夜中雨 卯の刻晴
1717年　4月26日 享保2年　3月15日 陰晴 小風 巳の刻暫く雨
1717年　4月27日 享保2年　3月16日 晴 小風 (内真部村・小橋村の2軒に御救い米)
1717年　4月28日 享保2年　3月17日 快晴 取りの中刻地ノ震少し (2月中碇関:出103・入り155人、12日赤石組田野沢に破船1艘)
1717年　4月29日 享保2年　3月18日 晴 未の刻小雨小風
1717年　4月30日 享保2年　3月19日 晴 小風

(*) 13日浦町組合子沢村の矢左衛門・同組新町野村の助兵衛・14日堀越組一野渡村の彦次郎・23日田代村で治右衛門・26日大鰐組居土村の矢左衛門がそれぞれ熊取る)

1717年　5月1日 享保2年　3月20日 晴　小風 （深浦のお寺に又救い米を出している）
1717年　5月2日 享保2年　3月21日 陰晴　申の刻より雨 （18日後潟組後潟村で火災8軒・翌月4日の記述では1人死亡）
1717年　5月3日 享保2年　3月22日 曇　時々雨 （8日板木沢村の火元の他村預け赦免）
1717年　5月4日 享保2年　3月23日 陰晴　申の刻より雨　寅の刻雷発す
1717年　5月5日 享保2年　3月24日 今朝辰の中刻まで雨　それより晴
1717年　5月6日 享保2年　3月25日 快晴
1717年　5月7日 享保2年　3月26日 晴　巳の下刻より小風
1717年　5月8日 享保2年　3月27日 曇　午の刻小雨
1717年　5月9日 享保2年　3月28日 晴 （江戸詰め1番立ち73人発）　下から続く　赤石組小森村の新次郎(3寸2歩4寸3歩)）
1717年　5月10日 享保2年　3月29日 晴 （松浦治左衛門の江戸までの駕籠料4両1分ずつ、13日十三で者倒死）　下から続く　・飯詰組若山村の半兵衛(3寸2寸)・大鰐組森山村の弥左衛門(3寸8歩5寸2歩)・　上に続く
1717年　5月11日 享保2年　4月1日 晴　小風 （2番立ち55人発、(多分先月)熊取る:猿賀組袋村の助左衛門(胆長3寸2歩廻り6寸)・浪岡組徳才子村の定右衛門(2寸6歩3寸8歩)・油川組津軽坂村の太兵衛(4寸5寸）　上に続く
1717年　5月12日 享保2年　4月2日 快晴
1717年　5月13日 享保2年　4月3日 快晴　未の刻地震　天水こぼれ申し候(こ本連申候）（3番立ち66人発、1日夜常盤組福嶋村で火災1軒・農作業時で早く火元を赦免するよう郡奉行に指示）
1717年　5月14日 享保2年　4月4日 曇　昨夜の雨辰の刻晴 （先月18日後潟村の火元の他村預け御免:多分農作業に忙しい時期だから）
1717年　5月15日 享保2年　4月5日 快晴
1717年　5月16日 享保2年　4月6日 陰晴
1717年　5月17日 享保2年　4月7日 快晴 （2月に博打の17人を所追放、5日横内組原別村で火災5軒）
1717年　5月18日 享保2年　4月8日 快晴
1717年　5月19日 享保2年　4月9日 快晴 （6日昼横内組浅虫村に紋付着用し50両余持参の死人流れ着く）
1717年　5月20日 享保2年　4月10日 晴　小風 （浅虫に流れ着いた死人は12月10日の破船に伴う男と判明:4ヶ月も形状が残るかな、1日の福嶋村の火元赦免）
1717年　5月21日 享保2年　4月11日 曇　終日雨 （武家諸法度届く、大間越町庄屋から御蔵米50俵払い出しの申し出・1俵28匁6分で30俵出す、横内組宮田村で火災4軒・火元村預け、金木組相内村で野火(500間×50間)）
1717年　5月22日 享保2年　4月12日 晴
1717年　5月23日 享保2年　4月13日 快晴　酉の刻過ぎより雨
1717年　5月24日 享保2年　4月14日 陰晴　小風
1717年　5月25日 享保2年　4月15日 快晴
1717年　5月26日 享保2年　4月16日 快晴 （去る5日昼喜郎市山で山火事(40間×50間)）
1717年　5月27日 享保2年　4月17日 晴　申の下刻より雨　夜中
1717年　5月28日 享保2年　4月18日 曇　昨夜中の雨　今朝迄降り止む
1717年　5月29日 享保2年　4月19日 陰晴 （18日より高杉組四戸野沢村で田植え始める）
1717年　5月30日 享保2年　4月20日 晴 （先月中野内:出入り237人、先月中大間越:出入り111人）
1717年　5月31日 享保2年　4月21日 快晴 （御銚子酒1升:2匁8分から2匁7分に）
1717年　6月1日 享保2年　4月22日 陰晴　辰の刻小雨　夜中小雨 （20日昼九時過ぎ蟹田町で大火・西風烈しく4・5丁焼失:26日の記述によると93軒）
1717年　6月2日 享保2年　4月23日 曇　巳の刻より小雨少々 （17日夜の大風により大間越湊で助け舟破損）
1717年　6月3日 享保2年　4月24日 曇　卯の下刻より小雨　終日に及ぶ
1717年　6月4日 享保2年　4月25日 曇　未の下刻より雨降 （桜井村(？)・宮田村(11日)の火元の村預け赦免）　下から続く　20日蟹田町の火災93軒・蔵13焼失・1人死亡）
1717年　6月5日 享保2年　4月26日 曇 （12日長濱湊に破船あり湊目付が出向く・鯡取りが紛れ込みどこの者か聞くと手向かう・庄屋に斬りつけられ湊目付が近づくと海に飛び込み死亡、西大工町の女房殺し男斬罪、　上に続く
1717年　6月6日 享保2年　4月27日 曇　夜に入り雨 （蟹田町に御蔵米50俵を出す）
1717年　6月7日 享保2年　4月28日 曇　辰の刻まで雨降　それより晴
1717年　6月8日 享保2年　4月29日 曇　時々雨　今朝岩木山頂上雪見る （3月29日金木組相内村で金木組宮野沢村の弥左衛門・4月3日駒越組田代村で同村の藤右衛門がそれぞれ熊取る）
1717年　6月9日 享保2年　5月1日 曇
1717年　6月10日 享保2年　5月2日 曇　終日小雨 （先月29日大光組館田村で火災1軒）
1717年　6月11日 享保2年　5月3日 曇　午の下刻大雨暫く　それより小雨
1717年　6月12日 享保2年　5月4日 晴
1717年　6月13日 享保2年　5月5日 晴
1717年　6月14日 享保2年　5月6日 曇　辰の下刻より雨終日 （家老大道寺隼人病死、(広田組)鶴岡村に男倒死）
1717年　6月15日 享保2年　5月7日 快晴　小風 （油川組新城村に火災2軒）
1717年　6月16日 享保2年　5月8日 晴　今朝蝉の声聞く （小国新田大平村の庄屋が4月20日に走る、当4月中大間越:出39・入り64人）
1717年　6月17日 享保2年　5月9日 快晴　申の下刻雨終日 （表御蔵に御金御銭払底に付き……）
1717年　6月18日 享保2年　5月10日 曇　昨夜より雨 （4月27日十三間で破船3艘・1人死亡）
1717年　6月19日 享保2年　5月11日 快晴 （4月中碇関:出入り731人）
1717年　6月20日 享保2年　5月12日 快晴 （先月中野内:出入り202人）
1717年　6月21日 享保2年　5月13日 晴 （博打をした足軽2人召し放ち・弘前追放）
1717年　6月22日 享保2年　5月14日 晴
1717年　6月23日 享保2年　5月15日 陰晴　夜中雨
1717年　6月24日 享保2年　5月16日 昨夜の雨　終日に及ぶ （深浦のお寺にまだ御救い米を出す）
1717年　6月25日 享保2年　5月17日 曇　卯の下刻地震　夜に入り雨
1717年　6月26日 享保2年　5月18日 陰晴　昨夜より雨　辰の下刻まで　それより晴 （5日油川組新城村の火元の村預け赦免）
1717年　6月27日 享保2年　5月19日 快晴 （大鰐村より初胡瓜5上がる、26日夜五つ過ぎ深浦町浜町に28・9男倒死）
1717年　6月28日 享保2年　5月20日 快晴
1717年　6月29日 享保2年　5月21日 晴 （4月29日大光寺組の火元の村預け赦免）
1717年　6月30日 享保2年　5月22日 陰晴

1717年　7月1日 享保2年　5月23日 快晴 （時疫御祈祷を百沢寺に仰せ付ける）
1717年　7月2日 享保2年　5月24日 曇 卯の上刻より雨 終日に及ぶ（4月18日から5月23日で田植え仕舞い）
1717年　7月3日 享保2年　5月25日 曇 辰の后刻雨少々 それより小風
1717年　7月4日 享保2年　5月26日 晴 夜に入り雨 小風
1717年　7月5日 享保2年　5月27日 晴 辰の中刻地震 則止む（蟹田町の16人に来月10日まで1日1人2合の御救い米）
1717年　7月6日 享保2年　5月28日 快晴
1717年　7月7日 享保2年　5月29日 曇 午の刻小雨（25日朝赤石組森山湊前浜で破船1艘）
1717年　7月8日 享保2年　5月30日 昨夜中より雨 終日に及ぶ 酉の下刻地震
1717年　7月9日 享保2年　6月1日 陰晴 小風時々 夜に入り雨（用人丹野病気で御役御免）
1717年　7月10日 享保2年　6月2日 曇 昨夜より雨時々
1717年　7月11日 享保2年　6月3日 曇 時々小雨
1717年　7月12日 享保2年　6月4日 陰晴 巳の刻雨降る それより晴 時々小風（先月6日死去の御家老大道寺隼人の香典は白銀3枚）
1717年　7月13日 享保2年　6月5日 陰晴（4月20日出火の蟹田町の火元の入寺赦免）
1717年　7月14日 享保2年　6月6日 陰晴 小風
1717年　7月15日 享保2年　6月7日 陰晴 辰の下刻小雨 今朝東方虹見る（去月13・14日頃からはやり風邪で労働力なし・15日まで1人1日2合の御救い米出す）
1717年　7月16日 享保2年　6月8日 曇 小雨 小風 夜中雨
1717年　7月17日 享保2年　6月9日 午の中刻より雨降（大鰐村より初真瓜5・初茄子5上る）
1717年　7月18日 享保2年　6月10日 曇 終日雨 夜に及ぶ（巡見使3人弘前到着）
1717年　7月19日 享保2年　6月11日 曇 終日小雨 午の刻大雨 土用申の后刻入る
1717年　7月20日 享保2年　6月12日 曇 辰の刻雨 未の刻止む 夜中雨（11日傷寒で足軽死亡）
1717年　7月21日 享保2年　6月13日 陰晴（家老添田発熱、9日四つ時分より10日朝まで青森大雨・橋落ち所々水押しあがる、蟹田では3万5千本ほどの流木が沖に流される）
1717年　7月22日 享保2年　6月14日 快晴 暑気強し（天気揚げの祈祷を申し渡す）
1717年　7月23日 享保2年　6月15日 曇 辰の中刻より大雨 終日に及ぶ
1717年　7月24日 享保2年　6月16日 陰晴 午の下刻雷発す 申の下刻雨
1717年　7月25日 享保2年　6月17日 陰晴
1717年　7月26日 享保2年　6月18日 陰晴 午の刻少々雨降
1717年　7月27日 享保2年　6月19日 快晴（当年在々所々悪敷病時花?……、昨昼(9日のこと)江戸小伝馬町より出火・南風強く中屋敷類焼）
1717年　7月28日 享保2年　6月20日 快晴 子の刻雷五・六度発す 雨甚だしい（深浦町のお寺に御救い米）
1717年　7月29日 享保2年　6月21日 曇 終日雨
1717年　7月30日 享保2年　6月22日 曇 終日雨
1717年　7月31日 享保2年　6月23日 巳の后刻より雨降
1717年　8月1日 享保2年　6月24日 曇（石渡川洪水の注進）
1717年　8月2日 享保2年　6月25日 晴 巳の刻小雨（御家老佐藤帯刀の荷物が……(公用便を私用に使ったのかな)）
1717年　8月3日 享保2年　6月26日 晴 巳の刻より時々小雷発す
1717年　8月4日 享保2年　6月27日 陰晴
1717年　8月5日 享保2年　6月28日 晴 未の下刻より雨（御家中が他の御家中の家来を手打ち：家来が馬の口をつかまずに荷を運んでいた・道路交通法上危険と御家中が言ったのに無視・斬られた主人も納得）
1717年　8月6日 享保2年　6月29日 曇 昨日の雨 終夜に及ぶ 大雨
1717年　8月7日 享保2年　7月1日 晴
1717年　8月8日 享保2年　7月2日 晴
1717年　8月9日 享保2年　7月3日 快晴
1717年　8月10日 享保2年　7月4日 快晴
1717年　8月11日 享保2年　7月5日 快晴
1717年　8月12日 享保2年　7月6日 快晴
1717年　8月13日 享保2年　7月7日 快晴
1717年　8月14日 享保2年　7月8日 晴
1717年　8月15日 享保2年　7月9日 終日雨
1717年　8月16日 享保2年　7月10日 快晴
1717年　8月17日 享保2年　7月11日 快晴（岩館村の弥兵衛が初米6箱上げる・忌中の加賀助の分も）
1717年　8月18日 享保2年　7月12日 快晴
1717年　8月19日 享保2年　7月13日 未の刻より雨時々 東方虹見る 夜中雨
1717年　8月20日 享保2年　7月14日 昨夜より雨 巳の刻より晴
1717年　8月21日 享保2年　7月15日 晴
1717年　8月22日 享保2年　7月16日 快晴
1717年　8月23日 享保2年　7月17日 曇 辰の刻より雨 夜子の刻雨
1717年　8月24日 享保2年　7月18日 晴
1717年　8月25日 享保2年　7月19日 快晴
1717年　8月26日 享保2年　7月20日 晴（神宮寺が昨日逐電・手配）
1717年　8月27日 享保2年　7月21日 晴
1717年　8月28日 享保2年　7月22日 晴
1717年　8月29日 享保2年　7月23日 曇 午の刻より雨
1717年　8月30日 享保2年　7月24日 晴
1717年　8月31日 享保2年　7月25日 晴 夜に入り雨（深浦町のお寺にまだ御救い米、深浦町に1俵28文目で米）

1717年　9月1日 享保2年　7月26日 晴
1717年　9月2日 享保2年　7月27日 晴 （今日八半時2歳女子牢死）
1717年　9月3日 享保2年　7月28日 晴
1717年　9月4日 享保2年　7月29日 陰晴
1717年　9月5日 享保2年　8月1日 昨夜中より雨終日 （7月中出切手出人都合39人、7月中大間越:出入り105人、6月中碇関:出入り387人、6月中野内:出入り224人）
1717年　9月6日 享保2年　8月2日 卯の下刻より時々雨 （29日金木組金木村で百姓の弟が女房突殺し自害）
1717年　9月7日 享保2年　8月3日 晴
1717年　9月8日 享保2年　8月4日 晴
1717年　9月9日 享保2年　8月5日 曇 （先月29日より今月1日夜まで浦町組・横内組で大東風・粟稗吹こ保し(こぼし)蕎麦大豆吹たを連(たおれ)る）
1717年　9月10日 享保2年　8月6日 晴 小風
1717年　9月11日 享保2年　8月7日 晴
1717年　9月12日 享保2年　8月8日 晴 今夜中小雨
1717年　9月13日 享保2年　8月9日 曇 辰の中刻小雨 則止む （3日の大風により赤石組松神・森山で破船2艘、7月中大間越:出35・入り46人）
1717年　9月14日 享保2年　8月10日 快晴 未の下刻雷発す （郡所物書きに福眞清右衛門を置く・推薦郡奉行工藤嘉左衛門）
1717年　9月15日 享保2年　8月11日 曇
1717年　9月16日 享保2年　8月12日 晴 午の下刻雨 （郡方物書き福眞清右衛門評定所で誓詞・前書きも郡役所で認(したた)める）
1717年　9月17日 享保2年　8月13日 晴
1717年　9月18日 享保2年　8月14日 快晴 （先月27日牢死の女子の母親が牢死）
1717年　9月19日 享保2年　8月15日 快晴 （赤石組赤石村より初鮭1本差上げる）
1717年　9月20日 享保2年　8月16日 曇 終日雨
1717年　9月21日 享保2年　8月17日 昨夜より風雨 辰の刻まで それより晴 （米止めが押えた米と土米7俵2斗7升3合を入札:代金150匁7分4厘2毛:19.62匁/俵）
1717年　9月22日 享保2年　8月18日 陰晴
1717年　9月23日 享保2年　8月19日 曇 小風 彼岸に入る （7月中野内:出入り192人）
1717年　9月24日 享保2年　8月20日 曇
1717年　9月25日 享保2年　8月21日 快晴 初雁渡る
1717年　9月26日 享保2年　8月22日 晴
1717年　9月27日 享保2年　8月23日 晴 夜に入り雨
1717年　9月28日 享保2年　8月24日 今朝より時々風雨 西方虹見る （追良瀬村より二番鮭差上げる）
1717年　9月29日 享保2年　8月25日 快晴　下から続く　・27・16・3・11)・下女240(152・45・26・11・2・4)、家屋敷90軒・屋敷10・下屋敷2・乗馬1疋・小荷駄1疋、又支配家屋敷56軒・屋敷10・牛馬0)
1717年　9月30日 享保2年　8月26日 晴 （御用人支配切支丹宗門改め覚え:惣人数2623人・上男1066(禅660・浄土196・法花82・浄土真89・天台14・真言25)・上女926(569・164・85・75・8・25)・下男391(259・75　上に続く
1717年　10月1日 享保2年　8月27日 快晴 卯の上刻小雨 則止む
1717年　10月2日 享保2年　8月28日 晴
1717年　10月3日 享保2年　8月29日 快晴 （3日赤石組森山浜に破船1艘、24日十三川尻で破船1艘）
1717年　10月4日 享保2年　8月30日 晴 今朝小雨 則止む （横内組横内村の左衛門次郎(胆長4寸5歩廻り6寸)・飯詰組若山村の半兵衛(4寸4寸5歩)それぞれ熊取る）
1717年　10月5日 享保2年　9月1日 陰晴 時々小雨 （先月16日江戸大風で柳島屋敷の長屋など潰れる）
1717年　10月6日 享保2年　9月2日 晴
1717年　10月7日 享保2年　9月3日 快晴
1717年　10月8日 享保2年　9月4日 曇 未の上刻より小風
1717年　10月9日 享保2年　9月5日 晴
1717年 10月10日 享保2年　9月6日 快晴
1717年 10月11日 享保2年　9月7日 快晴 （大間越で熊荒れる・町同心に奉行所の鉄砲を持たせる）
1717年 10月12日 享保2年　9月8日 卯の刻より雨 午の上刻まで降 （先月中大間越:出入り79人、先月中野内:出入り200人）
1717年 10月13日 享保2年　9月9日 曇
1717年 10月14日 享保2年　9月10日 曇 辰の刻より時々小雨
1717年 10月15日 享保2年　9月11日 曇
1717年 10月16日 享保2年　9月12日 晴
1717年 10月17日 享保2年　9月13日 曇 巳の刻より雨
1717年 10月18日 享保2年　9月14日 曇
1717年 10月19日 享保2年　9月15日 曇 岩木山に今朝初雪見る （鮭留め入札:広瀬川9匁5分5厘）
1717年 10月20日 享保2年　9月16日 夜中より雨 今日終日
1717年 10月21日 享保2年　9月17日 曇 小雨時々
1717年 10月22日 享保2年　9月18日 曇 未の下刻より晴 （三馬屋梨子取時分になり今別町奉行が行き43箱入仕り台所に差上げる）
1717年 10月23日 享保2年　9月19日 午の刻より小風
1717年 10月24日 享保2年　9月20日 曇 終日小雨 夜中雨降る
1717年 10月25日 享保2年　9月21日 昨夜中雨 終日に及ぶ
1717年 10月26日 享保2年　9月22日 昨夜より雨 終日に及ぶ
1717年 10月27日 享保2年　9月23日 曇 終日小雨 岩木山雪見る （22日朝青森町安方に者倒死）
1717年 10月28日 享保2年　9月24日 晴 （一昨日駒越川で馬子1人流死）
1717年 10月29日 享保2年　9月25日 晴
1717年 10月30日 享保2年　9月26日 快晴
1717年 10月31日 享保2年　9月27日 晴

1717年　11月1日 享保2年　　9月28日 曇 （青森町奉行所にある火消し道具あり、江戸送りの荷物に三馬屋梨子31あり）
1717年　11月2日 享保2年　　9月29日 曇 未の刻少々雨 （堀越組一野渡村の猟師が4疋・駒越組桜庭村と田代村の猟師が4疋・後潟組津軽坂村の猟師が1疋の熊取る）
1717年　11月3日 享保2年　　10月1日 曇 時々小雨
1717年　11月4日 享保2年　　10月2日 晴 午の中刻小雨
1717年　11月5日 享保2年　　10月3日 晴
1717年　11月6日 享保2年　　10月4日 今朝辰の刻より時々小雨 終日に及ぶ
1717年　11月7日 享保2年　　10月5日 晴
1717年　11月8日 享保2年　　10月6日 巳の刻より時々雨降 （当年は十三の鮭留に鮭が上っていない）
1717年　11月9日 享保2年　　10月7日 晴
1717年 11月10日 享保2年　　10月8日 晴
1717年 11月11日 享保2年　　10月9日 今朝より雨降 夜戌の下刻大雨 （9月中野内:出104・入り120人）
1717年 11月12日 享保2年　10月10日 晴 小風終日に及ぶ
1717年 11月13日 享保2年　10月11日 曇
1717年 11月14日 享保2年　10月12日 辰の刻小雨 同下刻より相止む 陰晴 夜中大風雨 雷発す
1717年 11月15日 享保2年　10月13日 曇 今朝岩木山萱の館まで雪見ゆる 里々も少々雪見ゆる 小風
1717年 11月16日 享保2年　10月14日 快晴
1717年 11月17日 享保2年　10月15日 快晴 （尾崎組新館村に者倒死、先月16日三馬屋沖で破船1艘）
1717年 11月18日 享保2年　10月16日 曇 今朝丸雪降 申の刻より初雪時々 夜中に及ぶ
1717年 11月19日 享保2年　10月17日 陰晴 昨夜雪1寸ほど降 夜中雪降
1717年 11月20日 享保2年　10月18日 曇
1717年 11月21日 享保2年　10月19日 曇 （木造御蔵の古米入札:沖役入り1俵23匁3分）
1717年 11月22日 享保2年　10月20日 晴 （7月12日入牢の男牢死）
1717年 11月23日 享保2年　10月21日 晴 夜に入り風 （悪病時花家により五七人相果てる・小家死に絶える）
1717年 11月24日 享保2年　10月22日 曇 雪風 （時疫はやり大円寺に御祈祷申付ける）
1717年 11月25日 享保2年　10月23日 晴
1717年 11月26日 享保2年　10月24日 晴 （田舎館組境松村に男倒死、今別町の役人が三馬屋湊目付の手附を手討）
1717年 11月27日 享保2年　10月25日 快晴
1717年 11月28日 享保2年　10月26日 曇 巳の下刻より時々雨
1717年 11月29日 享保2年　10月27日 今朝より終日雨降
1717年 11月30日 享保2年　10月28日 曇　　下から続く　　（4寸2寸8歩）・油川組津軽坂村の太兵衛（3寸2寸）・駒越組松ヶ沢村の惣左衛門（3寸5歩3寸）田代村の次右衛門（4寸2歩4寸5歩）それぞれ熊取る）
1717年　12月1日 享保2年　10月29日 曇 夜中雪 （堀越組一野坪村の彦次郎（胆長6寸廻り4寸）小三郎（5寸4寸）・大鰐組虹貝村の長右衛門2疋（2寸3歩3寸3歩・2寸3歩3寸2歩）・浪岡組徳才子村の定右衛門　　上に続く
1717年　12月2日 享保2年　10月30日 今朝御堀の水氷 今朝雪
1717年　12月3日 享保2年　　11月1日 晴
1717年　12月4日 享保2年　　11月2日 曇 時々雨 （大円寺の時疫の御祈祷札を九浦の者共に渡す、先月29日赤石組岩崎村で大火・家数37軒中32軒焼失小荷駄1疋:岩館村と書いた脇に虫眼鏡で読める程度に「崎」と筆で記入）
1717年　12月5日 享保2年　　11月3日 快晴 （疫病で稼げない青森安方の漁師42軒138人に1人1日3合の御救い米を10日分出す）
1717年　12月6日 享保2年　　11月4日 快晴 （当年時疫で死んだ数を書き出すよう命ず）
1717年　12月7日 享保2年　　11月5日 晴
1717年　12月8日 享保2年　　11月6日 曇 終日雨 夜中まで雨
1717年　12月9日 享保2年　　11月7日 今朝より小風雨 （石渡川洪水・往還相止める）
1717年 12月10日 享保2年　　11月8日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ
1717年 12月11日 享保2年　　11月9日 曇 夜に入り小雪 （小比内村の男盗みと博打で斬罪、6日深浦沖で破船1艘、8日古懸不動尊御出汗）
1717年 12月12日 享保2年　10月10日 曇
1717年 12月13日 享保2年　11月11日 曇 （先月29日岩崎村の火災焼失:制札2（切支丹・捨馬）・家32（庄屋1・百生15・高無16）・米69俵・稲10680束・籾42俵・大豆28俵・粟25俵・小荷駄1疋）
1717年 12月14日 享保2年　11月12日 曇 終日雪
1717年 12月15日 享保2年　11月13日 晴 （9日記述の斬罪を実施）
1717年 12月16日 享保2年　11月14日 陰晴
1717年 12月17日 享保2年　11月15日 時々小雪
1717年 12月18日 享保2年　11月16日 快晴
1717年 12月19日 享保2年　11月17日 晴 （酒1升1匁3分を1匁1分に変更）
1717年 12月20日 享保2年　11月18日 晴 （1匁に付き米2升5夕・次大豆2升8合・上大麦2升）
1717年 12月21日 享保2年　11月19日 終日小雪
1717年 12月22日 享保2年　11月20日 晴 （青森より初鱈差上る）
1717年 12月23日 享保2年　11月21日 卯の刻小雨 巳の下刻晴
1717年 12月24日 享保2年　11月22日 今朝雪 午の刻雷発す
1717年 12月25日 享保2年　11月23日 快晴 （昨日八幡宮境内に変死、金木組毘沙門村で火災1軒（高無）・馬2疋収納米3俵稲120束焼失）
1717年 12月26日 享保2年　11月24日 曇 （22日浪岡組で火災2軒）
1717年 12月27日 享保2年　11月25日 曇 夜に入り吹雪
1717年 12月28日 享保2年　11月26日 曇 終日雪 夜中まで （1匁に付き米2升5夕・小麦1升5合）
1717年 12月29日 享保2年　11月27日 終日雪
1717年 12月30日 享保2年　11月28日 午の刻地震 それより雪降る
1717年 12月31日 享保2年　11月29日 終日雪 （大川筋氷張る）

1718年　1月1日 享保2年　11月30日 終日夜中雪降る （御家中の家来を成敗:盗み・欠落ち、大鰐組虹貝村の長右衛門・浦町組合子沢村の弥左衛門それぞれ熊取る）
1718年　1月2日 享保2年　12月1日 陰晴　午の下刻雪降　夜中少々雪 （狐森村の「いのこ」牢死、当10月碇関:往還332人、当11月大間越:出入り92人、当10月野内:出入り240人）
1718年　1月3日 享保2年　12月2日 時々小雪　夜中少々雪
1718年　1月4日 享保2年　12月3日 晴　申の下刻地震　夜中小雨
1718年　1月5日 享保2年　12月4日 曇　終日小雨　　下から続く　　鯵ヶ沢26匁8分8厘5毛(3・23.885・18.3)、両替49匁2分）
1718年　1月6日 享保2年　12月5日 終日雪降　丑の八刻より寒に入る （1俵当たり米相場:弘前25匁1分6毛(沖役3匁・平米22匁1分6毛・乾字金10両当たり19俵5分9厘7毛)、青森30匁6分8毛(3・27.608・16.074)、　　上に続く
1718年　1月7日 享保2年　12月6日 陰晴 （疫病で働けない対策あり……、雑穀1俵値段(近在・西ノ浜と十三・外浜):次大豆(14匁3分・15匁3分・15匁9分)、小豆(14.8・15.9・16.4)、粟(8.9・9.5・9.9)、　　下の欄外(*)に続く
1718年　1月8日 享保2年　12月7日 快晴 （御献上鱈は蟹田からだったが今年は払底し青森・野内からも上げる）
1718年　1月9日 享保2年　12月8日 陰晴　午の刻小雨 （去月20日毘沙門村の火元の村預け御免、5日大鰐組大鰐村の明家に40位男倒死）
1718年　1月10日 享保2年　12月9日 晴　今朝雪
1718年　1月11日 享保2年　12月10日 曇　時々小雪 （11月24日より十三潟氷張る・船往来できない・昨年は10月28日）
1718年　1月12日 享保2年　12月11日 快晴
1718年　1月13日 享保2年　12月12日 終日小雪
1718年　1月14日 享保2年　12月13日 晴
1718年　1月15日 享保2年　12月14日 快晴
1718年　1月16日 享保2年　12月15日 曇　時々雪
1718年　1月17日 享保2年　12月16日 曇　時々吹雪
1718年　1月18日 享保2年　12月17日 曇
1718年　1月19日 享保2年　12月18日 曇　未の刻雪　夜に入り雨
1718年　1月20日 享保2年　12月19日 曇 （今別より鰤1本上がる）
1718年　1月21日 享保2年　12月20日 曇
1718年　1月22日 享保2年　12月21日 曇　時々雪
1718年　1月23日 享保2年　12月22日 曇　終日吹雪 （去11月中碇関:出115・入り45・都合260人、当11月中大間越:出30・入り40・都合70人、当11月中野内:出60・入り70・都合130人）
1718年　1月24日 享保2年　12月23日 晴
1718年　1月25日 享保2年　12月24日 時々雪降
1718年　1月26日 享保2年　12月25日 時々小雪　夜九時少し地震
1718年　1月27日 享保2年　12月26日 晴
1718年　1月28日 享保2年　12月27日 晴
1718年　1月29日 享保2年　12月28日 曇　終日雪
1718年　1月30日 享保2年　12月29日 晴
1718年　1月31日 享保3年　正月1日　曇
1718年　2月1日 享保3年　正月2日　陰晴
1718年　2月2日 享保3年　正月3日　陰晴
1718年　2月3日 享保3年　正月4日　陰晴
1718年　2月4日 享保3年　正月5日　陰晴　節分
1718年　2月5日 享保3年　正月6日　陰晴　正月の節
1718年　2月6日 享保3年　正月7日　陰晴
1718年　2月7日 享保3年　正月8日　陰晴　未の刻より雪　夜に入る
1718年　2月8日 享保3年　正月9日　曇
1718年　2月9日 享保3年　正月10日　曇　今朝より時々小雪
1718年　2月10日 享保3年　正月11日　晴　昨夜大雪　一尺五六寸 （8日後潟組六枚橋村沖で破船1艘死者1人）
1718年　2月11日 享保3年　正月12日　曇　時々小雪 （昨夜暮六時本大工町の男自害）
1718年　2月12日 享保3年　正月13日　曇　卯の下刻より辰の刻まで雪 （駒越組大秋村の新兵衛が熊(胆長3寸2歩廻り2寸2歩)取る）
1718年　2月13日 享保3年　正月14日　曇　卯の下刻より雪　辰の刻より雨
1718年　2月14日 享保3年　正月15日　快晴 （江戸登り予定の御徒に山上五郎右衛門）
1718年　2月15日 享保3年　正月16日　曇 （藤崎組前田屋敷村に男倒死・狼食い散らし年比不明）
1718年　2月16日 享保3年　正月17日　快晴
1718年　2月17日 享保3年　正月18日　晴
1718年　2月18日 享保3年　正月19日　晴
1718年　2月19日 享保3年　正月20日　卯の下刻より雪　午の下刻より晴
1718年　2月20日 享保3年　正月21日　曇 （大間越から米30俵お払い願い・1俵21匁で20俵払出す）
1718年　2月21日 享保3年　正月22日　快晴
1718年　2月22日 享保3年　正月23日　快晴 （この頃も病死者多い）
1718年　2月23日 享保3年　正月24日　快晴
1718年　2月24日 享保3年　正月25日　快晴　夜中雨
1718年　2月25日 享保3年　正月26日　終日雨　小風
1718年　2月26日 享保3年　正月27日　快晴
1718年　2月27日 享保3年　正月28日　小雪
1718年　2月28日 享保3年　正月29日　快晴 （去2月牢舎のご家中の倅牢死）
(*)　蕎麦(7.3・7.8・8.1)、大麦(10.0・10.7・11.1)、小麦26.7・28.6・29.7)、稗(4.9・5.2・5.4)、当年時疫死者数5217人:御手廻り1・御家中56(男33女23)・又者20(男14女6)・その他5140(男2680女2452))

1718年　3月1日 享保3年　正月30日　快晴　今朝雪降 （大鰐組居土村・虹貝村・苦木村と駒越組相馬村の猟師がそれぞれ熊取る）
1718年　3月2日 享保3年　2月1日 晴　今朝雨少し降 （油川組津軽坂村の太兵衛が熊（胆長3寸廻り5寸5歩）取る、古懸不動尊御出汗）
1718年　3月3日 享保3年　2月2日 曇　今朝雨少々降 （昨日石渡川洪水）
1718年　3月4日 享保3年　2月3日 曇　昨夜より今朝まで少々小雪 （鯵ヶ沢御蔵米乾ノ字金10両に付き沖役とも18俵3歩で600両分出す）
1718年　3月5日 享保3年　2月4日 晴
1718年　3月6日 享保3年　2月5日 卯の刻より雨降
1718年　3月7日 享保3年　2月6日 陰晴
1718年　3月8日 享保3年　2月7日 今朝より終日雪降
1718年　3月9日 享保3年　2月8日 小風 （魚油値段1斗6升入り1樽67匁：1升につき4匁1分9厘）
1718年　3月10日 享保3年　2月9日 快晴
1718年　3月11日 享保3年　2月10日 陰晴　夜中小雨 （去年8月に大間越に橋船1艘流れ着く・半年過ぎたので拾った者に遣わす）
1718年　3月12日 享保3年　2月11日 終日小雨　夜中大風 （当月7日より上川之湊より十三の潟明・去年は2月13日・高根村の方は未だ明けず、9日藤崎組中嶋村で道心倒死）
1718年　3月13日 享保3年　2月12日 陰晴　今朝雨少々降　大風 （昨夜の風で禰宜町などで被害）
1718年　3月14日 享保3年　2月13日 曇　終日小雪降 （一昨夜の風で碇関・高岡などに被害）
1718年　3月15日 享保3年　2月14日 曇　小雨終日 （11日の風で百沢寺・長勝寺に被害）
1718年　3月16日 享保3年　2月15日 曇　時々小雨 （11日の強い東風で青森・今別・三馬屋で破船12艘・内1艘の5人死亡、13日青森町安方に60余男の死体上る）
1718年　3月17日 享保3年　2月16日 晴　午の刻より曇小風 （去る12月中大間越：出入り73人、去る12月中野内：出入り68人）
1718年　3月18日 享保3年　2月17日 曇
1718年　3月19日 享保3年　2月18日 曇　終日小風　丸雪
1718年　3月20日 享保3年　2月19日 曇　昨夜中雪六七寸降
1718年　3月21日 享保3年　2月20日 陰晴　　下から続く　・22・13・1・4）、家屋敷98軒・下屋敷2軒・乗馬1疋、家屋敷55軒・屋敷12軒・牛馬なし）
1718年　3月22日 享保3年　2月21日 曇　今朝雪少々　夜中も雪 （紺屋町で子供が火遊び・親押し込め）　　下から続く　・上女910（573・163・79・62・9・24）・下男395（252・85・21・25・3・4）・下女188（102・46　　上に続く
1718年　3月23日 享保3年　2月22日 陰晴　今朝卯の上刻地震　則止む （外浜善知鳥・安方の由来、御支配中切支丹宗門改めの覚え：惣人数2572人・上男1080（禅680・浄土200・法花77・門徒79・天台15・真言22）　　上に続く
1718年　3月24日 享保3年　2月23日 快晴 （魚油値段1升に付き4匁5分）
1718年　3月25日 享保3年　2月24日 曇　午の中刻雨時々　彼岸入り （徒山上五郎右衛門病気）
1718年　3月26日 享保3年　2月25日 快晴
1718年　3月27日 享保3年　2月26日 快晴 （在々にて時疫はやり五山に祈祷仰せ付ける、今別の疫病による渇命者24軒103人に1日1人3合の御救い米、大間越町庄屋が御蔵米50俵御払い願い・1俵21匁2分で30俵払出す）
1718年　3月28日 享保3年　2月27日 曇　昼のうち少々雨降
1718年　3月29日 享保3年　2月28日 晴 （26日夜八時青森町で火災4軒・火元入寺、熊胆の目形：2匁6分から3匁1分）
1718年　3月30日 享保3年　2月29日 陰晴　巳の刻小雨　小風 （20日の紺屋町の火災の火元押し込め赦免）
1718年　3月31日 享保3年　2月30日 陰晴　小風
1718年　4月1日 享保3年　3月1日 曇
1718年　4月2日 享保3年　3月2日 晴　夜中風
1718年　4月3日 享保3年　3月3日 曇
1718年　4月4日 享保3年　3月4日 晴　夜に入り雨
1718年　4月5日 享保3年　3月5日 曇　昨夜より雨　時々小風
1718年　4月6日 享保3年　3月6日 晴　夜寅の刻大風
1718年　4月7日 享保3年　3月7日 曇 （惣代官より3880石の夫食（ぶじき：農作業用の食料）願い・2500石を申付ける）
1718年　4月8日 享保3年　3月8日 曇　小風
1718年　4月9日 享保3年　3月9日 曇　終日小雨
1718年　4月10日 享保3年　3月10日 晴
1718年　4月11日 享保3年　3月11日 巳の后刻より時々雨降
1718年　4月12日 享保3年　3月12日 陰晴 （女房打殺し罪を婿に押し付けようとした男取上で獄門）
1718年　4月13日 享保3年　3月13日 晴
1718年　4月14日 享保3年　3月14日 曇　終日雨 （先月碇関：出入り493人、先月中野内：122人）
1718年　4月15日 享保3年　3月15日 曇　午の下刻雷発す　時々雨
1718年　4月16日 享保3年　3月16日 辰の下刻暫く風雨　それより晴 （14日昼八時頃浦町組青森大工町に64・5男倒死）
1718年　4月17日 享保3年　3月17日 晴　時々小風
1718年　4月18日 享保3年　3月18日 晴 （13日昼広須新田大関村で野火（100間余×30間ほど））
1718年　4月19日 享保3年　3月19日 快晴
1718年　4月20日 享保3年　3月20日 晴　夜中雨
1718年　4月21日 享保3年　3月21日 巳の刻雨　それより晴 （今別町で時疫の御救い米（102人（2月26日には103だが）−26人（快気者数）＋50人（新たな罹患者数））を1日2合10日分渡す）
1718年　4月22日 享保3年　3月22日 晴　小風
1718年　4月23日 享保3年　3月23日 晴　申の下刻雨　夜中時々雨
1718年　4月24日 享保3年　3月24日 曇　午の中刻雨時々　彼岸入り
1718年　4月25日 享保3年　3月25日 快晴 （深浦大善院に御救い米）
1718年　4月26日 享保3年　3月26日 晴　辰の刻雨時々小風　それより晴
1718年　4月27日 享保3年　3月27日 曇　時々小雨 （今日四時前御家中屋敷から火の手上る）
1718年　4月28日 享保3年　3月28日 快晴
1718年　4月29日 享保3年　3月29日 陰晴　卯の下刻より小雨　巳の下刻より晴　終日小風　夜中風雨 （27日の火の手の元が遠慮伺い・不要）
1718年　4月30日 享保3年　4月1日 曇 （去年2月牢舎の男去月29日牢死、先月28日飯詰組金山村で20頃男縊死、浦町組新町野村の助兵衛・横内組横内村の左衛門四郎・同組野内村の惣十郎・赤石組　　欄外(*)に続く
(*)　小森村の小三郎・駒越組田代村の治右衛門・同組桜庭村の茂助がそれぞれ熊取る）

1718年　5月1日 享保3年　4月2日 晴
1718年　5月2日 享保3年　4月3日 晴
1718年　5月3日 享保3年　4月4日 卯の刻より雨　辰の刻雷五六度発す　辰の刻より晴
1718年　5月4日 享保3年　4月5日 快晴　(時疫で掃除小人昨日死亡、横内組宮田村で野火(150間×50間ほど)・松159本焼失)
1718年　5月5日 享保3年　4月6日 晴
1718年　5月6日 享保3年　4月7日 晴　午の下刻小風
1718年　5月7日 享保3年　4月8日 卯の刻より終日大風　申の刻止む　(大間越から御蔵米払い出し願い・1俵を21匁2分で30俵を申付ける)
1718年　5月8日 享保3年　4月9日 晴　小風
1718年　5月9日 享保3年　4月10日 晴　小風
1718年　5月10日 享保3年　4月11日 晴　小風　(8日の大風で長勝寺・大鰐組石川村の松並木に被害)
1718年　5月11日 享保3年　4月12日 晴　(蟹田・今別で時疫の御救い米続く)
1718年　5月12日 享保3年　4月13日 晴　午の后刻小雨　(11日赤石組支配出来嶋村で破船1艘、8日十三潟で大風に伴う荷打ち・水船、8日の風で城内傷む)
1718年　5月13日 享保3年　4月14日 晴　(昨年11月に飯詰組野里村の百姓家内14人中9人が時疫で死亡、11日夜金木組小田川村で野火(5丁×3丁ほど))
1718年　5月14日 享保3年　4月15日 陰晴　巳の刻風　夜に入り雨　(10日赤石組小森村で野火(杉51本))
1718年　5月15日 享保3年　4月16日 終日小雨　亥の下刻地震
1718年　5月16日 享保3年　4月17日 快晴　夜に入り小風　(9日より時疫で15日に長柄の者死亡)
1718年　5月17日 享保3年　4月18日 卯の刻より巳の刻まで小雨　それより晴　(4日朝広須新田下木作村で婿行方不明)
1718年　5月18日 享保3年　4月19日 晴
1718年　5月19日 享保3年　4月20日 快晴　終日小風　(深浦大善院へ御救い米)
1718年　5月20日 享保3年　4月21日 快晴
1718年　5月21日 享保3年　4月22日 晴　終日小風　(本町に投げ火あり)
1718年　5月22日 享保3年　4月23日 晴　(投げ火の注進に褒美をかける)
1718年　5月23日 享保3年　4月24日 快晴　(一昨22日晩七つ半碇関山碇沢に野火(3町×50町))
1718年　5月24日 享保3年　4月25日 快晴
1718年　5月25日 享保3年　4月26日 快晴　(後潟組野田村で山火事)
1718年　5月26日 享保3年　4月27日 陰晴　戌の下刻雨降　(蟹田町に時疫の御救い米出す、投げ火の御注進あり)
1718年　5月27日 享保3年　4月28日 昨夜より雨　午の刻まで降　(浦町組荒川村で野火(300間×200間ほど))
1718年　5月28日 享保3年　4月29日 昨夜より終日に及ぶ雪(雪と見えるが雷かも)時々　(上磯小館村に山火事・26日昼過ぎ消火)
1718年　5月29日 享保3年　4月30日 辰の下刻雨　それより止む　終日小風　夜中雨　(飯詰組一野坪村の彦次郎・浪岡組徳才子村の定右衛門それぞれ熊取る)
1718年　5月30日 享保3年　5月1日 曇　今朝少々雨
1718年　5月31日 享保3年　5月2日 快晴　(去月27日深浦町で縊死)
1718年　6月1日 享保3年　5月3日 快晴　(鮭留御役銭入札:荒川27匁3分5厘)
1718年　6月2日 享保3年　5月4日 晴　時々小雨発す　(米留押え米141俵余の入札:55両余、赤石組小森・金沢・目内先・種里村で田3日に植え初め)
1718年　6月3日 享保3年　5月5日 快晴　(屋形様が15日に御発駕予定)
1718年　6月4日 享保3年　5月6日 快晴
1718年　6月5日 享保3年　5月7日 卯の上刻より辰の下刻まで小雨　それより晴　(去月29日昼四過ぎ大間越町に丸雪降る、町米4石3斗4合代128匁4分7厘)
1718年　6月6日 享保3年　5月8日 快晴　(大間越町奉行から御蔵米30俵払い出しの申し立て・その通り申付ける)
1718年　6月7日 享保3年　5月9日 快晴　申の下刻雨　夜に及ぶ　(8日昼猿賀組追子野木村で火災2軒)
1718年　6月8日 享保3年　5月10日 曇　昨夜より雨　午の下刻まで
1718年　6月9日 享保3年　5月11日 晴　夜に入り少し雨　(2月26日の青森火災の火元の入寺赦免)
1718年　6月10日 享保3年　5月12日 陰晴
1718年　6月11日 享保3年　5月13日 快晴　(碇関町から御蔵米14・5俵払い出しの申し立て・6・7俵申付ける)
1718年　6月12日 享保3年　5月14日 曇　終日雨　(蟹田町奉行より時疫御救い米の申し立て・申し立ての通り申しつける、野内:出入り135人)
1718年　6月13日 享保3年　5月15日 晴　下から続く　去々年秋頃より碇関で時疫・御救い米拝借25俵を命ずる、赤石組黒崎・松神・森山村では近年鯡漁なし・生活上杣取りを申し立てる)
1718年　6月14日 享保3年　5月16日 晴　(5月6日横内組瀧沢村・8日猿賀組追子野木村・11日駒越組中畑村の火元の村預けそれぞれ御免・早いが植付の時節ゆえ、11日山口越脇道番人が時疫・15日病死、　上に続く
1718年　6月15日 享保3年　5月17日 晴　(佐藤某宅に投げ火、11日七時晩金木組中里村で山火事(60間×4間ほど)
1718年　6月16日 享保3年　5月18日 快晴　申の下刻雨　則晴　(大間越町から払い出し追加20俵申し立てる・払出す)
1718年　6月17日 享保3年　5月19日 晴　午の下刻雨
1718年　6月18日 享保3年　5月20日 晴
1718年　6月19日 享保3年　5月21日 晴
1718年　6月20日 享保3年　5月22日 快晴
1718年　6月21日 享保3年　5月23日 快晴　午の下刻雷数発す　(関札打ち到着)
1718年　6月22日 享保3年　5月24日 曇　午の下刻雷　同刻より雨降
1718年　6月23日 享保3年　5月25日 陰晴　午の刻より雨　則止む　申の刻大雨雷発す　則止む
1718年　6月24日 享保3年　5月26日 晴　(柴15〆但し1丈縄にて(5尺縄以外は初見)、22日今別町で男縊死)
1718年　6月25日 享保3年　5月27日 快晴　(23日の交代中(弘前に向かっている)の湯原から道中金不足との飛脚到着)
1718年　6月26日 享保3年　5月28日 晴　(申の刻少し雨　(不足金200両送る)
1718年　6月27日 享保3年　5月29日 晴
1718年　6月28日 享保3年　6月1日 午の刻より雨降　夜に及ぶ
1718年　6月29日 享保3年　6月2日 曇　昨夜より雨時々　夜戌の刻地震　(先月28日俵元新田福山村で火災1軒)
1718年　6月30日 享保3年　6月3日 晴　辰の刻小雨　(今朝大道寺下屋敷に40男縊死)

1718年　7月1日 享保3年　6月4日 快晴 （屋形様御着城）
1718年　7月2日 享保3年　6月5日 快晴
1718年　7月3日 享保3年　6月6日 陰晴 （先月28日俵元新田福山村の火元の村預け差免、和徳組和徳村で34・5男倒死）
1718年　7月4日 享保3年　6月7日 時々小雨 （時疫の薬を作らせる）
1718年　7月5日 享保3年　6月8日 昨夜より雨　辰の刻まで雨　それより晴 （岩木山の氷御用に付き今晩取りに遣る、大間越町奉行が御蔵米払い出しの申し立て・1俵21匁2分で今月も30俵申付ける）
1718年　7月6日 享保3年　6月9日 晴 （大鰐より初胡瓜上る）
1718年　7月7日 享保3年　6月10日 曇
1718年　7月8日 享保3年　6月11日 晴 （御能）
1718年　7月9日 享保3年　6月12日 時々大雨　雷発す （青森町中時疫やまず、平岡町に投げ火）
1718年　7月10日 享保3年　6月13日 陰晴　巳の下刻小雨　一両度雷発す　夜に及ぶ （四時以前より時疫の薬を渡しているのか）
1718年　7月11日 享保3年　6月14日 曇　昨日より雨 （石渡・駒越渡しが洪水で止める、広田組漆川村に40男倒死）
1718年　7月12日 享保3年　6月15日 陰晴　夜に入り雨
1718年　7月13日 享保3年　6月16日 曇　昨日より雨 （大鰐より初茄子・真瓜差上げる、12日夜碇関山中の橋が流れる）
1718年　7月14日 享保3年　6月17日 陰晴　辰の下刻より曇小雨　時々小風
1718年　7月15日 享保3年　6月18日 曇　昨夜より雨時々
1718年　7月16日 享保3年　6月19日 陰晴 （15日夜よりの雨で16日蟹田川洪水・家2軒流失など）
1718年　7月17日 享保3年　6月20日 陰晴 （近年八幡宮の祭礼なし？、16日雨天で金木・飯詰・赤田・広須組・広須・金木新田に洪水・水湛）
1718年　7月18日 享保3年　6月21日 陰晴 （疫病薬2350袋出来）
1718年　7月19日 享保3年　6月22日 晴　夜亥の刻土用入り （西之御郭で相撲高覧、五穀成就の御祈祷を五山と神明に仰せ付ける）
1718年　7月20日 享保3年　6月23日 晴 （剣術高覧）
1718年　7月21日 享保3年　6月24日 陰晴　午の下刻小雨 （時疫で切支丹類族と水主死亡）
1718年　7月22日 享保3年　6月25日 晴　未の下刻雨　則止む
1718年　7月23日 享保3年　6月26日 陰晴
1718年　7月24日 享保3年　6月27日 快晴 （24日昼九時分大光寺組で大雨八時分はれ　新里村の川原西の方より龍上がり川水巻き上げる・それより苗生松村へ通り3軒破損等）
1718年　7月25日 享保3年　6月28日 晴
1718年　7月26日 享保3年　6月29日 曇　巳の刻より雨 （疫病の死者深浦湊の船で4人）
1718年　7月27日 享保3年　6月30日 快晴
1718年　7月28日 享保3年　7月1日 曇
1718年　7月29日 享保3年　7月2日 終日雨降 （天気悪く五穀成就の祈祷を行わせる、時疫薬1418包を郡奉行に渡す）
1718年　7月30日 享保3年　7月3日 曇　時々小雨 （時疫薬5598袋を各町奉行に渡す）
1718年　7月31日 享保3年　7月4日 陰晴　岩木山に今以て雪見る
1718年　8月1日 享保3年　7月5日 陰晴　暑気強し
1718年　8月2日 享保3年　7月6日 快晴　暑気強し （鑓高覧）
1718年　8月3日 享保3年　7月7日 曇　巳の刻より雨降 （御能）
1718年　8月4日 享保3年　7月8日 陰晴 （6月中大間越:出44・入り29人）
1718年　8月5日 享保3年　7月9日 晴 （6月中碇関:出434・入り186人、6月中野内:出70・入り118人）
1718年　8月6日 享保3年　7月10日 晴
1718年　8月7日 享保3年　7月11日 陰晴 （浅虫湯治の御供都合120人・徒に山上羽右衛門）
1718年　8月8日 享保3年　7月12日 曇　辰の下刻より雨時々 （今17日の大風にて赤石組森山沖で破船1艘）
1718年　8月9日 享保3年　7月13日 快晴　残暑甚だしい
1718年　8月10日 享保3年　7月14日 快晴　残暑甚だしい
1718年　8月11日 享保3年　7月15日 快晴　残暑甚だしい
1718年　8月12日 享保3年　7月16日 快晴　残暑強い
1718年　8月13日 享保3年　7月17日 晴　時々小風
1718年　8月14日 享保3年　7月18日 曇　辰の刻より小雨時々　午の刻止む
1718年　8月15日 享保3年　7月19日 今朝霧降　巳の刻晴　残暑強
1718年　8月16日 享保3年　7月20日 快晴　残暑甚だしい （男牢死）
1718年　8月17日 享保3年　7月21日 快晴　甚だしく暑い
1718年　8月18日 享保3年　7月22日 快晴　甚だしく暑い （船中の病死者あり、切支丹類族が乱心者に殺される・乱心者も打ち留められる）
1718年　8月19日 享保3年　7月23日 晴　巳の下刻より雨　午の中刻まで　それより晴
1718年　8月20日 享保3年　7月24日 晴　小風
1718年　8月21日 享保3年　7月25日 曇　今朝雨時々　巳の下刻より陰晴
1718年　8月22日 享保3年　7月26日 陰晴 （去月16日の大風で平館湊番所の門が倒れる）
1718年　8月23日 享保3年　7月27日 陰晴
1718年　8月24日 享保3年　7月28日 快晴 （尾崎組岩館村の弥助と大鰐組大鰐村の加賀助が初米上げる）
1718年　8月25日 享保3年　7月29日 陰晴
1718年　8月26日 享保3年　8月1日 陰晴　残暑甚だしい
1718年　8月27日 享保3年　8月2日 晴　夜に入り雨降
1718年　8月28日 享保3年　8月3日 曇　昨夜の雨時々　午の刻より晴 （歌舞伎高覧）
1718年　8月29日 享保3年　8月4日 晴 （当年鰯余程御座候）
1718年　8月30日 享保3年　8月5日 晴
1718年　8月31日 享保3年　8月6日 晴 （7月22日に乱心者を打ち留めた御留守居組頭とその子供達が御役御免・閉門）

1718年　9月1日 享保3年　8月7日 晴 （2日夜広須新田野田村で34・5男倒死、7月中大間越:出34・入り45人）
1718年　9月2日 享保3年　8月8日 陰晴　午の下刻雨降
1718年　9月3日 享保3年　8月9日 晴 （7月中碇関:出208・入り205人、7月中野内:出127・入り82人）
1718年　9月4日 享保3年　8月10日 快晴 （青森より長5尺8寸のさわら上る）
1718年　9月5日 享保3年　8月11日 小雨 （類族生死の届けは六代までだがもっと少なくするのかな、御家中の家来が中間を切り殺す）
1718年　9月6日 享保3年　8月12日 晴 （6月16日の洪水で蟹田町の御制札所流れる）
1718年　9月7日 享保3年　8月13日 曇　辰の中刻雨降　それより晴
1718年　9月8日 享保3年　8月14日 曇　未の中刻雨降
1718年　9月9日 享保3年　8月15日 晴 （人事異動、男牢死）
1718年　9月10日 享保3年　8月16日 陰晴 （御徒山上五郎右衛門が病気で永の暇）
1718年　9月11日 享保3年　8月17日 曇　時々小雨 （15日夜鯵ヶ沢町で小火）
1718年　9月12日 享保3年　8月18日 陰晴
1718年　9月13日 享保3年　8月19日 快晴
1718年　9月14日 享保3年　8月20日 午の下刻より雨降　夜に入り雷発す （鯵ヶ沢の時疫24人煩い5人死亡）（本日の日記の干支として「丙申」:公式の暦と合っている）
1718年　9月15日 享保3年　8月21日 晴　小風 （馬入札:3匁～55匁8分）（本日8月21日から日記の干支が「丁戌」と公式の暦とずれる・「丁戌」はありえない組み合わせ・途中でまたずれこのことは年末まで続く）
1718年　9月16日 享保3年　8月22日 陰晴　夜中雨　下から続く　（259・84・13・25・4・8）・下女223（158・30・9・21・0・5）、家屋敷141・屋敷18・下屋敷1軒、牛馬0疋）
1718年　9月17日 享保3年　8月23日 終日雨降 （切支丹宗門改めの覚え:惣人数2636人・上男1089（禅681・浄土226・門徒60・法花87・天台13・真言22）・上女931（588・164・52・96・8・23）・下男393　上に続く
1718年　9月18日 享保3年　8月24日 陰晴　夜に入り大雨
1718年　9月19日 享保3年　8月25日 快晴
1718年　9月20日 享保3年　8月26日 快晴 （新規召出し御徒11人の中に山上長太夫・与力山上長次郎の弟・11人の勢5尺3寸5分から5尺5寸9分）
1718年　9月21日 享保3年　8月27日 陰晴
1718年　9月22日 享保3年　8月28日 快晴
1718年　9月23日 享保3年　8月29日 晴
1718年　9月24日 享保3年　9月1日 曇　小雨 （人事異動）
1718年　9月25日 享保3年　9月2日 快晴　午の刻過ぎより陰晴
1718年　9月26日 享保3年　9月3日 曇
1718年　9月27日 享保3年　9月4日 快晴　申の中刻地震
1718年　9月28日 享保3年　9月5日 快晴
1718年　9月29日 享保3年　9月6日 曇　時々小雨 （郡奉行が庭前の梨子差上げる、男牢死）
1718年　9月30日 享保3年　9月7日 晴 （歌舞伎高覧）
1718年　10月1日 享保3年　9月8日 晴 （胞衣御用（男子2・女子3）求める）
1718年　10月2日 享保3年　9月9日 晴
1718年　10月3日 享保3年　9月10日 陰晴 （大間越町奉行より蔵米30俵払い出し申し出、その通りに、大間越町で町同心8人・町の者113人が時疫）
1718年　10月4日 享保3年　9月11日 陰晴 （8月中大間越:出39・入り50・都合89人）
1718年　10月5日 享保3年　9月12日 陰晴　夜中雨
1718年　10月6日 享保3年　9月13日 曇　今朝雨風　午の下刻まで　それより晴　夜寅の刻より強風　則止み雨 （大間越で熊が荒れ町同心に鉄砲を持たせる）
1718年　10月7日 享保3年　9月14日 陰晴　昨晩より小雨　則止む　辰の刻西の方に虹見ゆる
1718年　10月8日 享保3年　9月15日 陰晴　卯の中刻雨　西の方に虹見る　夜中大雨 （2匁7分6厘が166文・2匁4分4厘が146文・1両が平均46匁2分）
1718年　10月9日 享保3年　9月16日 今朝卯の後刻雨　雷発す
1718年 10月10日 享保3年　9月17日 巳の下刻晴 （米1俵只今16匁・両替41匁、関札打ち出発・参府は22日）
1718年 10月11日 享保3年　9月18日 晴 （鮭留御役銭入札:原別川と網不知川で1貫50目・野内川168匁7分・荒川50匁8分7厘・新田川373匁9分6厘・横内前川33匁5分・才蔵川3匁9分1厘、8月中碇関:出200・入り317人）
1718年 10月12日 享保3年　9月19日 晴 （十三より初鮭差上げる、御囃子、14日の大風により横内組浅虫前浜に破船1艘）
1718年 10月13日 享保3年　9月20日 晴 （宿札打ち出発）
1718年 10月14日 享保3年　9月21日 陰晴
1718年 10月15日 享保3年　9月22日 陰晴 （屋形様発駕）
1718年 10月16日 享保3年　9月23日 晴
1718年 10月17日 享保3年　9月24日 曇　午の刻小雨　同刻丸雪　下から続く　南大風雨、金木・飯詰組でも）
1718年 10月18日 享保3年　9月25日 曇　午の刻過ぎ雨　岩木山頂上に初雪見る （13日より12日まで油川・後潟組で大風・大雨、12日夜九つ頃より朝五つ頃まで東大風雨・13日夜九つ頃より14日朝四つ頃迄　上に続く
1718年 10月19日 享保3年　9月26日 晴　明け方小雨 （鮭留御役銭入札:広瀬川17匁2分8厘）
1718年 10月20日 享保3年　9月27日 晴 （13日の大風で十三の町奉行所など破損）
1718年 10月21日 享保3年　9月28日 晴 （21日夜油川組浪館村で火災（4間×6間）1軒・馬4匹焼死・火元他村預り）
1718年 10月22日 享保3年　9月29日 晴　夜中小雨
1718年 10月23日 享保3年　9月30日 曇　今朝小雨
1718年 10月24日 享保3年　10月1日 なし（天気の記述なし:但し他の記述はある）
1718年 10月25日 享保3年　10月2日 陰晴
1718年 10月26日 享保3年　10月3日 晴
1718年 10月27日 享保3年　10月4日 快晴　今朝霜 （御家中が庭前の丸め路ん（丸メロンかマルメロかも）差上げる、深浦大善院に御救い米:弘前の大行院が申し立てているので大善院とは修験道の寺院か）
1718年 10月28日 享保3年　10月5日 快晴 （後潟組増川山の山中に33・4男病死・時疫か）
1718年 10月29日 享保3年　10月6日 辰の上刻より雨　終日に及ぶ
1718年 10月30日 享保3年　10月7日 快晴　今朝霜
1718年 10月31日 享保3年　10月8日 快晴

1718年　11月1日 享保3年　　10月9日 陰晴
1718年　11月2日 享保3年　　10月10日 曇　今朝より雨時々
1718年　11月3日 享保3年　　10月11日 晴　岩木山雪見ゆる
1718年　11月4日 享保3年　　10月12日 快晴
1718年　11月5日 享保3年　　10月13日 快晴　夜に入り雨 （先月21日油川組浪館村の火元の所預け赦免）
1718年　11月6日 享保3年　　10月14日 陰晴　小風
1718年　11月7日 享保3年　　10月15日 快晴
1718年　11月8日 享保3年　　10月16日 快晴　今朝大霜降る
1718年　11月9日 享保3年　　10月17日 快晴 （15日夜後潟組上小国村で火災(3間×4間)1軒、9月中所々御関所出人都合50人切手29枚、9月中碇関:出人都合906人・外出人283・入り273人、9月中野内:出93・入り111人）
1718年 11月10日 享保3年　　10月18日 快晴　午の下刻村雨降る　酉の刻雷発す　夜中雨降
1718年 11月11日 享保3年　　10月19日 夜中よりの雨今朝辰の下刻まで　それより晴　酉の刻過ぎ雷発す
1718年 11月12日 享保3年　　10月20日 曇　時々雨
1718年 11月13日 享保3年　　10月21日 曇　夜中雨 （8日金木組高根の御蔵大風で潰れる）
1718年 11月14日 享保3年　　10月22日 曇　辰の刻水それ(霙)雪少し降る　四方山々雪見ゆる
1718年 11月15日 享保3年　　10月23日 曇
1718年 11月16日 享保3年　　10月24日 晴　今朝大霜 （深浦大善院？に御救い米続ける）
1718年 11月17日 享保3年　　10月25日 晴
1718年 11月18日 享保3年　　10月26日 晴 （御屋形様11日着府）
1718年 11月19日 享保3年　　10月27日 晴 （諸手足軽に山上源六）
1718年 11月20日 享保3年　　10月28日 曇　午の刻より雨 （9月中野内:出108・入り113人、同月大間越:出48・入り21人）　　下から続く　　15日上小国村の火元赦免）
1718年 11月21日 享保3年　　10月29日 終日小雨　丸雪降る （15日広須新田上福原村の彦八等3人が熊2疋(胆長2寸5歩廻り3寸・3寸4寸3歩)取る、堀越組一ノ渡村のまたき2人が牛打ち留めの指示は困ると申立てる、　　上に続く
1718年 11月22日 享保3年　閏10月1日　辰の下刻暫く雪降
1718年 11月23日 享保3年　閏10月2日　夜に入り初雪降る
1718年 11月24日 享保3年　閏10月3日　曇　時々小雨
1718年 11月25日 享保3年　閏10月4日　夜中雪一寸ほど降　陰晴
1718年 11月26日 享保3年　閏10月5日　晴
1718年 11月27日 享保3年　閏10月6日　曇　午の刻より雨降 （手付の者を切殺した三馬屋湊方(御馬廻り)と変死者対応の指図が不適切だった代官を追放）
1718年 11月28日 享保3年　閏10月7日　晴
1718年 11月29日 享保3年　閏10月8日　晴 （御米入札:40俵が代銭626匁）
1718年 11月30日 享保3年　閏10月9日　快晴 （10月中所々御関所出人16人・切手紙12通、沖ノ口入れて米1俵に付き16匁8分7厘）
1718年　12月1日 享保3年　閏10月10日今朝より時々雨　小風
1718年　12月2日 享保3年　閏10月11日曇 （取上で男(村人を鑓で突き殺す)斬罪）
1718年　12月3日 享保3年　閏10月12日曇
1718年　12月4日 享保3年　閏10月13日陰晴
1718年　12月5日 享保3年　閏10月14日晴
1718年　12月6日 享保3年　閏10月15日今朝より巳の刻過ぎまで曇　それより晴 （10月中野内:出71・入り100・都合171人、10月中大間越:出67・入り17・都合86人）
1718年　12月7日 享保3年　閏10月16日曇　終日雨時々 （赤石組の収納米370石を銭納とする）
1718年　12月8日 享保3年　閏10月17日曇　時々小雨
1718年　12月9日 享保3年　閏10月18日快晴 （出来嶋村でまだ時疫）
1718年 12月10日 享保3年　閏10月19日快晴
1718年 12月11日 享保3年　閏10月20日快晴
1718年 12月12日 享保3年　閏10月21日曇 （濱松村で時疫・1家5人中4人死亡、16日の大荒れにて上磯平館村で破船1艘、初鱈1本青森より・鰤1本今別より上がる）
1718年 12月13日 享保3年　閏10月22日曇　時々小雨　夜中大風雨
1718年 12月14日 享保3年　閏10月23日晴 （1升当たり酒値段:昨年11月に1匁1分・米が値下がりしたので9分にしたい・7分にする）
1718年 12月15日 享保3年　閏10月24日曇 （12日に小泊に入った船の水主が時疫・21日死亡）
1718年 12月16日 享保3年　閏10月25日陰晴 （21日夜十三町の萱垣出火・火元押し込め、先月中碇関:出149・入り210・都合359人、入札結果:1尺8寸の脇差2匁6分・闕所物諸色(御手廻595匁・代官188匁・町民？3匁)）
1718年 12月17日 享保3年　閏10月26日陰晴 （昨夜八つ時分広須新田菖蒲川村で火災(2間×2間)焼死1人）
1718年 12月18日 享保3年　閏10月27日今朝より丸雪降る
1718年 12月19日 享保3年　閏10月28日晴 （22日の大風で野内の番所の屋根被害、小館(村)で出火・村預け・御収納の節であり御免）
1718年 12月20日 享保3年　閏10月29日曇　時々雨
1718年 12月21日 享保3年　閏10月30日今朝暫く小雪降る　それより晴
1718年 12月22日 享保3年　　11月1日 晴　冬至に入る （当月4日金木組宮野沢村の弥左衛門が熊(胆長2寸5歩廻り4寸)取る、先月27日木作新田坂本(後の畔屋)で火災1軒）
1718年 12月23日 享保3年　　11月2日 曇　小風　雪少々降る
1718年 12月24日 享保3年　　11月3日 晴
1718年 12月25日 享保3年　　11月4日 時々吹雪
1718年 12月26日 享保3年　　11月5日 快晴 （先月21日の十三町の火元の押し込め御赦免、先達て古賭不動尊の出汗）
1718年 12月27日 享保3年　　11月6日 快晴
1718年 12月28日 享保3年　　11月7日 陰晴　時々小雪 （4日九時浪岡組中野村で火災柾家1軒・米28俵・大豆2俵・小麦1俵・粟6俵・蕎麦5斗入り6俵焼失）
1718年 12月29日 享保3年　　11月8日 雪午の上刻より降る　それより晴　夜中雪 （11月2日十三潟氷張る・昨年は11月24日、閏10月分の小納戸金100両・初鱈3本江戸に送る）
1718年 12月30日 享保3年　　11月9日 晴　夜中雪
1718年 12月31日 享保3年　　11月10日 曇　昨夜より雪 （8日広田組五所川原村で火災1軒・火元村預け）

1719年　1月1日 享保3年　11月11日 晴　時々雪　(先月中大間越:出45・入り47・都合92人)
1719年　1月2日 享保3年　11月12日 時々雪降り　(閏10月中御関所出人10人・切手紙8枚)
1719年　1月3日 享保3年　11月13日 陰晴　時々小雪　(次大豆1俵が14匁余・小麦1俵が19匁5分余・米1升に付き次大豆9合7夕小麦7合・→米1俵が14匁弱となるな)
1719年　1月4日 享保3年　11月14日 晴
1719年　1月5日 享保3年　11月15日 晴　(9日柏木組常海橋村で堰に落ち男死亡)
1719年　1月6日 享保3年　11月16日 晴　辰の七刻小寒に入る　(酒1升の値段7分を9分にしたいとの提案・検討の上8分とする)
1719年　1月7日 享保3年　11月17日 晴　昼頃少々雪　(22日の強風で浪岡八幡宮の桜(廻り6尺長さ3間半)倒れる、6日赤石組風合瀬村の塩釜屋1軒落ちる)
1719年　1月8日 享保3年　11月18日 陰晴
1719年　1月9日 享保3年　11月19日 陰晴
1719年　1月10日 享保3年　11月20日 時々小雪
1719年　1月11日 享保3年　11月21日 晴
1719年　1月12日 享保3年　11月22日 晴　夜に入り雨　大雷三四度発す
1719年　1月13日 享保3年　11月23日 曇　時々風雪　(米値段近年覚えなき下値)
1719年　1月14日 享保3年　11月24日 晴
1719年　1月15日 享保3年　11月25日 終日雪
1719年　1月16日 享保3年　11月26日 晴
1719年　1月17日 享保3年　11月27日 晴　亥の刻雷発す　　下から続く　　死に絶え入札の家数23軒(横内組13・金木組9(内小泊村8)・飯詰組1))
1719年　1月18日 享保3年　11月28日 昨夜中今日まで雨雪　(23日広田組で火災(2間半×5間:高無)・小荷駄1疋焼失、昨晩高杉組賀田村で火災1軒(3間×4間:高無)、大間越町に蔵米20俵払出す、時疫で　　上に続く
1719年　1月19日 享保3年　11月29日 時々雪　(閏10月中野内:出70・入り88・都合158人、同碇関:出155・入り303・都合458人、25日駒越組大秋村の新兵衛が熊(胆長4寸5歩廻り6寸2歩)取る)
1719年　1月20日 享保3年　12月1日 陰晴　(乾字金通用停止:若干の猶予期間あり)
1719年　1月21日 享保3年　12月2日 陰晴
1719年　1月22日 享保3年　12月3日 時々雪降
1719年　1月23日 享保3年　12月4日 陰晴　(時疫で死に絶えた家数:18(広須新田2・横内組3・後潟組8など))
1719年　1月24日 享保3年　12月5日 曇　雨降
1719年　1月25日 享保3年　12月6日 曇　時々雪風
1719年　1月26日 享保3年　12月7日 曇　時々雪風　(昨夜の風で長勝寺の杉倒れる)
1719年　1月27日 享保3年　12月8日 晴
1719年　1月28日 享保3年　12月9日 陰晴　時々小雪　夜に入り雪
1719年　1月29日 享保3年　12月10日 陰晴
1719年　1月30日 享保3年　12月11日 陰晴　夜中雪降
1719年　1月31日 享保3年　12月12日 終日雪降　(弘前の米相場1俵当たり12匁8分、青森・鰺ヶ沢平米1俵19匁8分・15匁2分5厘・沖役共に1匁2分・計21匁・16匁4分5厘・両替共に42匁・乾字金10両に付き20俵・25俵5歩3厘2毛)
1719年　2月1日 享保3年　12月13日 晴
1719年　2月2日 享保3年　12月14日 陰晴　(深浦町の大善院に御救い米・5人×3合×20日分)
1719年　2月3日 享保3年　12月15日 晴　夜中雪降
1719年　2月4日 享保3年　12月16日 終日大吹雪
1719年　2月5日 享保3年　12月17日 曇　時々雪
1719年　2月6日 享保3年　12月18日 曇　　下から続く　　・大麦(8匁9分・9.8・10.2)・小麦(18匁2分・20.1・21.0)・稗(3匁6分・4.0・4.2)、16日の大荒で後潟組広瀬・板木沢村に40男・50男の死骸、同組四戸橋村等に破船7艘)
1719年　2月7日 享保3年　12月19日 曇　時々雪　(雑穀等1俵値段(近在・西浜十三・外浜):米(14匁3分・15.7・16.5)・次大豆(13匁8分・15.2・15.9)・小豆(15匁4分・17.0・17.7)・粟(8匁・8.8・9.2)・蕎麦(6匁1分・6.7・7.0)　　上に続く
1719年　2月8日 享保3年　12月20日 晴　(16日の東風で鰺ヶ沢に破船1艘流れ着く)
1719年　2月9日 享保3年　12月21日 快晴　(16日後潟組板木沢村前浜に破船1艘、三馬屋で破船17艘2人死亡)
1719年　2月10日 享保3年　12月22日 快晴　夜に入り雨降　(16日？青森？で破船7艘、一昨夜紺屋町大橋下に乱気女死亡)
1719年　2月11日 享保3年　12月23日 今朝より巳の刻まで雨降　夜中雪
1719年　2月12日 享保3年　12月24日 終日吹雪　(先達て仰せ付けられた胞衣5差上)
1719年　2月13日 享保3年　12月25日 吹雪　(11月4日中野村・同8日五所川原村・同月23日広田村・同27日賀田村の火元の村預けそれぞれ赦免)
1719年　2月14日 享保3年　12月26日 晴　(盗人・越山立ち帰りの男2人を牢舎前で斬罪、三馬屋に死者が2人上る)
1719年　2月15日 享保3年　12月27日 時々雪降
1719年　2月16日 享保3年　12月28日 晴
1719年　2月17日 享保3年　12月29日 陰晴　(大鰐組長峰村の彦左衛門(胆長3寸5歩廻り4寸)・駒越組田代村の次右衛門(4寸6歩廻り記入なし)それぞれ熊取る)
1719年　2月18日 享保3年　12月30日 陰晴　(本日の日記の干支として「辛酉」:8月からここまでずれがある)
1719年　2月19日 享保4年　正月1日　快晴　夜中小雪　(本日の日記の干支として「甲戌」:当時の暦に戻る)
1719年　2月20日 享保4年　正月2日　快晴
1719年　2月21日 享保4年　正月3日　曇　小雪降
1719年　2月22日 享保4年　正月4日　陰晴　夜中大雪降
1719年　2月23日 享保4年　正月5日　時々小雪
1719年　2月24日 享保4年　正月6日　晴
1719年　2月25日 享保4年　正月7日　陰晴　雪少々降
1719年　2月26日 享保4年　正月8日　晴　(12月22日以降青森より黒石行きの男が吹倒死、6日盗人の母が牢死)
1719年　2月27日 享保4年　正月9日　曇　終日雪
1719年　2月28日 享保4年　正月10日　陰晴　時々小雪

1719年　3月1日 享保4年 正月11日　陰晴 （4日の大風で東外門破損）
1719年　3月2日 享保4年 正月12日　陰晴 時々小雪 未の下刻地震
1719年　3月3日 享保4年 正月13日　晴
1719年　3月4日 享保4年 正月14日　晴
1719年　3月5日 享保4年 正月15日　曇 時々雪
1719年　3月6日 享保4年 正月16日　晴
1719年　3月7日 享保4年 正月17日　晴 未の上刻より雨降 終夜に及ぶ （碇関:出106・入り79・都合185人）
1719年　3月8日 享保4年 正月18日　快晴 巳の下刻より時々小風
1719年　3月9日 享保4年 正月19日　晴
1719年　3月10日 享保4年 正月20日　陰晴 時々小雪
1719年　3月11日 享保4年 正月21日　陰晴 巳の下刻より時々小雪 （18日横内組浅虫前浜に破船1艘）
1719年　3月12日 享保4年 正月22日　終日雪降
1719年　3月13日 享保4年 正月23日　陰晴 （紙・楮の値段・品質などの記録）
1719年　3月14日 享保4年 正月24日　陰晴
1719年　3月15日 享保4年 正月25日　陰晴
1719年　3月16日 享保4年 正月26日　晴
1719年　3月17日 享保4年 正月27日　晴
1719年　3月18日 享保4年 正月28日　晴
1719年　3月19日 享保4年 正月29日　終日雪 （大間越町庄屋から蔵米50俵払出しの申し出・1俵16匁9分で30俵払出す）　下から続く　組津軽坂村の太兵衛(2寸2寸)・19日赤石組一森村の喜六(2寸5寸)それぞれ熊取る）
1719年　3月20日 享保4年 正月30日　晴 （24・4日大鰐組虹貝村の長右衛門(胆長3寸8歩廻り6寸・4寸3尺？)・17日猿賀組袋井村の介左衛門(4寸7寸)・去年12月30日広須新田上福原村の彦八(4寸5寸)・9日油川　上に続く
1719年　3月21日 享保4年　2月1日 曇 今朝より吹雪
1719年　3月22日 享保4年　2月2日 晴 （当正月中御関所出人都合9人・切手紙6枚）
1719年　3月23日 享保4年　2月3日 快晴 （油川組油川村の洗湯で加賀の男(7日の記述で70余)が湯まくれ死亡）
1719年　3月24日 享保4年　2月4日 曇 辰の下刻より終日雨
1719年　3月25日 享保4年　2月5日 曇 時々小雪 小風 彼岸入り （昨晩の水で石渡橋の橋板・杭流れる）
1719年　3月26日 享保4年　2月6日 曇 時々小雪 （狼が徘徊し空鉄砲を夜中3度ばかりずつ打たせる・大円寺近所・新町後・五十石町川原・外瀬・薬王院後の川添え）
1719年　3月27日 享保4年　2月7日 曇 時々小雪 （大間越の狼対策として例年通り町同心に御番筒を打たせる）
1719年　3月28日 享保4年　2月8日 快晴
1719年　3月29日 享保4年　2月9日 昨夜雨 明け前晴 それより快晴 夜中雨
1719年　3月30日 享保4年　2月10日 終日雨 （魚油1升につき6匁1分7厘とする、正月23日なたれつきこめられ男6人死亡）
1719年　3月31日 享保4年　2月11日 陰晴 （藤崎組の川橋雪水で押し流される、広須新田広須村付近で増水した堰に落ち男1人死亡）
1719年　4月1日 享保4年　2月12日 卯の下刻より雨 午の下刻まで晴 （当正月中碇関:出70・入り221人）
1719年　4月2日 享保4年　2月13日 今朝より終日小雨降
1719年　4月3日 享保4年　2月14日 晴 （11日駒越組国吉村で火災(2間×2間半)1軒）
1719年　4月4日 享保4年　2月15日 晴 （深浦町の大善院に御救い米）
1719年　4月5日 享保4年　2月16日 曇 時々小雨 夜に入り雨時々 （10日の雨で蟹田川の古橋・仮橋が流される）
1719年　4月6日 享保4年　2月17日 午の下刻雨降 （東長町の屋敷裏の井戸に狼が落ち死ぬ、当正月中野内:出73・入り38・都合111人）
1719年　4月7日 享保4年　2月18日 二之御郭御堀氷解ける 終日小雨 （十三潟大川尻より十三湊まで15日に川筋の氷明ける・去年2月7日潟明け・彼岸に比べると……）
1719年　4月8日 享保4年　2月19日 快晴
1719年　4月9日 享保4年　2月20日 陰晴 夜に入り風雨 （大間越町庄屋から御蔵米払い出し願い・1俵16匁9分で50俵出す）
1719年　4月10日 享保4年　2月21日 晴 （昨夜中の雨で駒越川雪水・往還止める）
1719年　4月11日 享保4年　2月22日 快晴
1719年　4月12日 享保4年　2月23日 晴 （19日金木新田川口村(後の「蒔田」)で火災1軒））
1719年　4月13日 享保4年　2月24日 快晴　下から続く　・下男403(5・9・260・85・29・15)・下女236(0・6・155・45・20・10)、家屋敷145軒・屋敷20軒・下屋敷2軒・乗馬1疋・牛馬0匹）
1719年　4月14日 享保4年　2月25日 なし(天気の記述なし) （御用人支配中切支丹改めの覚え:惣人数2625人・上男1071(天台14・真言22・禅669・浄土197・法花93・門徒76)・上女915(11・22・567・160・98・57)　上に続く
1719年　4月15日 享保4年　2月26日 巳の下刻より雨降る(20日の日付となっているが干支(己巳)から26日）
1719年　4月16日 享保4年　2月27日 曇 時々小雨 （5日大湯五左衛門の下屋敷守の娘2人が狼に喰い殺される）
1719年　4月17日 享保4年　2月28日 快晴 （25日和徳組悪戸村で9才男子が狼に食い殺される、堀越組小栗山村で男子2人が狼で怪我）
1719年　4月18日 享保4年　2月29日 快晴 （25・26・28日和徳組黒滝村・小比内村・悪戸村で男子3人が狼で怪我）　下から続く　森山村の弥左衛門(3寸5寸)・5日同組唐竹村の甚左衛門(3寸5寸)　下の欄外(*)に続く
1719年　4月19日 享保4年　2月30日 快晴 （和徳組一野渡村の彦次郎・小三郎が熊2つ生け捕り・26日駒越組大秋村の新兵衛(胆長4寸5歩廻り3寸8歩)・22日大鰐組虹貝村の長右衛門(4寸6寸)・10日同組　上に続く
1719年　4月20日 享保4年　3月1日 快晴 （2月中御関所出人34人・切手紙23枚、御家中の養子が乱心自害）
1719年　4月21日 享保4年　3月2日 陰晴 夜に入り雨 （23日大間越の右兵衛熊取る、先月23日金木組相内山で野火(25町×14町)）
1719年　4月22日 享保4年　3月3日 曇 今朝雨 （昨2日御手筒足軽警固が狼2打ち留める）
1719年　4月23日 享保4年　3月4日 晴 時々小風 （浪岡組徳才子村の定右衛門が小熊1疋持参）
1719年　4月24日 享保4年　3月5日 晴 小風 （御手筒足軽須藤某が小栗山村で狼打ち留める、鉄砲で打ち留めた狼7つを通りに「はつつけ」の案もあったがやめる）
1719年　4月25日 享保4年　3月6日 陰晴 （4日駒越組大秋村の新兵衛が熊の子2疋生け捕る、2月中野内:出72・入り39人）
1719年　4月26日 享保4年　3月7日 曇 辰の上刻小雨 巳の刻より晴 それより小風 夜に入り風雨
1719年　4月27日 享保4年　3月8日 曇 今朝丸雪少し降る 午の下刻晴 （5日横内組野尻村で火災1軒）
1719年　4月28日 享保4年　3月9日 快晴 （昨日小栗山で須藤某が狼1疋打ち留める、活き小熊差上げの猟師に褒美:一野渡の彦次郎2貫文・徳才子の定右衛門1貫文・大秋村の新兵衛2貫文・これら5匹を城内に飼っている）
1719年　4月29日 享保4年　3月10日 快晴 （2月中大間越:出14・入り49人）
1719年　4月30日 享保4年　3月11日 快晴 （御家中の倅が行方不明）
(*) ・12日赤石組追子野木？の藤右衛門(4寸5歩3寸5歩)・当正月27日飯詰組若山村の半兵衛(4寸6寸)それぞれ熊取る）

1719年　5月1日 享保4年　3月12日 快晴 （昨日原ヶ平村で御弓？足軽須藤某が狼1疋打ち留める）
1719年　5月2日 享保4年　3月13日 快晴 （2月19日金木新田川口村の火元の村預け御免）
1719年　5月3日 享保4年　3月14日 快晴 （昨12日夜高杉組(八幡)で火災2軒(4間×7間・3間×5間:共に百姓)）
1719年　5月4日 享保4年　3月15日 卯の刻より辰の刻まで雨　同刻雷一度発す　巳の刻より晴
1719年　5月5日 享保4年　3月16日 晴　小風 （昨日堀越組門外村に者倒死1人）
1719年　5月6日 享保4年　3月17日 晴　午の下刻より雨　雷発す　終夜に及ぶ （昨朝和徳組和徳村に狼見る・八幡崎村で討留、大間越庄屋から御蔵米30俵払出し願い・駄賃込み1俵16匁9分5厘で20俵払出す）
1719年　5月7日 享保4年　3月18日 曇　申の下刻小雨 （2月中碇関:出229・入り176人）
1719年　5月8日 享保4年　3月19日 終日小雨　午の中刻より陰晴
1719年　5月9日 享保4年　3月20日 陰晴 （山上羽右衛門御徒代目付に、去年疫病で田畑荒れた）
1719年　5月10日 享保4年　3月21日 快晴
1719年　5月11日 享保4年　3月22日 曇
1719年　5月12日 享保4年　3月23日 快晴 （19日赤石組赤石村で狼8疋(内7疋は子)殺す、去月21日藤代組床舞村の溜池堤が洪水で押し流される）
1719年　5月13日 享保4年　3月24日 陰晴　午の刻晴　小風
1719年　5月14日 享保4年　3月25日 曇　昨夜雨　巳の下刻まで降る　則止む （岩木川七八分の洪水・駒越・石渡とも往還止める、大光寺組で去年暮から2月までに5軒が時疫で死に絶える）
1719年　5月15日 享保4年　3月26日 曇　午の上刻暫く小雨 （昨24日青森で癩病の女房が縊死）
1719年　5月16日 享保4年　3月27日 快晴　　下から続く　　長四郎(2寸5歩4寸)それぞれ熊取る）
1719年　5月17日 享保4年　3月28日 快晴 （昨昼外瀬の川原で須藤某が狼を打ち留める）　　下から続く　　浪岡組徳才子村の定右衛門(2寸5歩3寸)・飯詰組若山村の半兵衛(4寸2歩3寸)・赤石組岩崎村の　　上に続く
1719年　5月18日 享保4年　3月29日 快晴 （当月中御関所出人都合44人・切手紙28枚、駒越組大秋村の新兵衛(胆長4寸2歩廻り5寸・4寸2歩5寸)・飯詰組一野坪村の彦次郎と小三郎(5寸5歩6寸・5寸1歩5寸)・　　上に続く
1719年　5月19日 享保4年　4月1日 曇　時々小雨 （3月25日油川村の船と2人行方不明）
1719年　5月20日 享保4年　4月2日 陰晴
1719年　5月21日 享保4年　4月3日 卯の刻より終日雨降
1719年　5月22日 享保4年　4月4日 晴
1719年　5月23日 享保4年　4月5日 陰晴 （先月23日朝五つより松前で出火）
1719年　5月24日 享保4年　4月6日 曇　午の下刻時々小雨
1719年　5月25日 享保4年　4月7日 快晴 （閉門中の棟方角左衛門死去、先月23日松前で大火・300軒焼失、先達て向外瀬村に女相果てる）
1719年　5月26日 享保4年　4月8日 陰晴
1719年　5月27日 享保4年　4月9日 陰晴
1719年　5月28日 享保4年　4月10日 曇　午の刻雨降
1719年　5月29日 享保4年　4月11日 晴 （3月中大間越:出18・入り47・都合65人）
1719年　5月30日 享保4年　4月12日 快晴 （昨夕御馬屋下乗りが馬の口取りを手打ちにする）
1719年　5月31日 享保4年　4月13日 曇　時々小雨 （大間越町庄屋が蔵米50俵払い出し願い・20俵払出し申しつける、昨朝五つ時松野木村で庵焼失）
1719年　6月1日 享保4年　4月14日 曇　時々小雨
1719年　6月2日 享保4年　4月15日 晴
1719年　6月3日 享保4年　4月16日 快晴
1719年　6月4日 享保4年　4月17日 曇 （3月中野内:出96・入り100人）
1719年　6月5日 享保4年　4月18日 今朝雨　夜に入り雨 （15日金木新田宮川村で聟が舅の百姓を打ち殺す・入牢）
1719年　6月6日 享保4年　4月19日 曇　今朝より雨降 （江戸へ発足の御徒に山上長太夫、3月中碇関:出334・入り169人、昨17日より赤石組で田植え初め・昨年は5月3日）
1719年　6月7日 享保4年　4月20日 曇
1719年　6月8日 享保4年　4月21日 曇　今朝より雨時々
1719年　6月9日 享保4年　4月22日 曇　午の下刻より雨時々降 （油川・後潟組で狼が荒れ鉄砲打ち1人を申付ける、大和沢川の橋が落ちたとのこと）
1719年　6月10日 享保4年　4月23日 晴　未の下刻雷発す （金子只今の両替91匁6分）
1719年　6月11日 享保4年　4月24日 曇　時々小雨　巳の下刻より雷時々発す
1719年　6月12日 享保4年　4月25日 陰晴
1719年　6月13日 享保4年　4月26日 陰晴　午の刻より晴 （去年11月-4月に青森・鰺ヶ沢からの津出米計14219石6斗(35549俵)・青森8941石2斗・、鰺ヶ沢5278石4斗)、目鹿沢村で狼2疋打ち殺す）
1719年　6月14日 享保4年　4月27日 晴　時々小風　夜に入り雨
1719年　6月15日 享保4年　4月28日 曇　終日雨 （26日昼九時全昌寺で40斗男自害、8日藤崎堰神の社人が尾崎組石郷村の弁財天で神楽の節怪我し20日に死亡）
1719年　6月16日 享保4年　4月29日 陰晴
1719年　6月17日 享保4年　4月30日 晴 （当月中御関所出人都合73人・切手紙43枚、20日金木組宮野沢村の清兵衛・源七が熊(胆長2寸4歩廻り2寸8歩)取る）
1719年　6月18日 享保4年　5月1日 なし(天気の記述なし)
1719年　6月19日 享保4年　5月2日 曇　終日雨
1719年　6月20日 享保4年　5月3日 晴
1719年　6月21日 享保4年　5月4日 晴 （大光寺組李平村で火災1軒）
1719年　6月22日 享保4年　5月5日 今朝より雨　午の刻まで　それより晴
1719年　6月23日 享保4年　5月6日 快晴
1719年　6月24日 享保4年　5月7日 晴 （当4月中大間越:出35・入り39・都合74人）
1719年　6月25日 享保4年　5月8日 晴　午の刻過ぎ小風
1719年　6月26日 享保4年　5月9日 晴
1719年　6月27日 享保4年　5月10日 卯の刻霧　巳の刻まで　則刻止む
1719年　6月28日 享保4年　5月11日 晴 （油川・後潟組の狼打ち2人を引取る）
1719年　6月29日 享保4年　5月12日 午の下刻雷　未の刻大雨　申の下刻晴
1719年　6月30日 享保4年　5月13日 卯の刻より曇　巳の下刻晴 （大鰐より胡瓜5上る）

1719年　7月1日 享保4年　5月14日 晴
1719年　7月2日 享保4年　5月15日 曇　終日小風
1719年　7月3日 享保4年　5月16日 曇　午の刻少し雨　（当月中碇関:出582・入り244・都合826人、当4月中野内:出116・入り人都合210人）
1719年　7月4日 享保4年　5月17日 晴　（12日千歳山付近で死亡事故・雷はあったが「てんかん」のためか）
1719年　7月5日 享保4年　5月18日 晴
1719年　7月6日 享保4年　5月19日 午の刻雨
1719年　7月7日 享保4年　5月20日 曇　今朝より雨　（19日までに領内の田植え仕舞い）
1719年　7月8日 享保4年　5月21日 快晴　（去年の植付5月3日より・同じく仕舞いは6月13日）
1719年　7月9日 享保4年　5月22日 快晴
1719年　7月10日 享保4年　5月23日 快晴　（大鰐より初真瓜5上る）
1719年　7月11日 享保4年　5月24日 晴
1719年　7月12日 享保4年　5月25日 今朝辰の刻まで曇　それより晴
1719年　7月13日 享保4年　5月26日 巳の刻雨　則刻止む
1719年　7月14日 享保4年　5月27日 陰晴　小風
1719年　7月15日 享保4年　5月28日 陰晴
1719年　7月16日 享保4年　5月29日 昨夜より雨　巳の刻雷　時々雨　（5日4日大光寺組李平村の火元の村預け御免、当月中御関所出人46人）
1719年　7月17日 享保4年　6月1日 快晴（初茄子5大鰐より差上げる）
1719年　7月18日 享保4年　6月2日 快晴
1719年　7月19日 享保4年　6月3日 快晴
1719年　7月20日 享保4年　6月4日 快晴（大間越町に御蔵米30俵払出す）
1719年　7月21日 享保4年　6月5日 陰晴　酉の下刻より雷雨稲光
1719年　7月22日 享保4年　6月6日 曇　昨夜より雨　雷時々　午の刻強い雨　則止む（赤田組・広須組の田の稲に虫付く）
1719年　7月23日 享保4年　6月7日 曇　終日雨　（5月中大間越:出35・入り33人）
1719年　7月24日 享保4年　6月8日 曇　小雨　（4月24日十三湊沖で破船1艘、6月2日？金木組板割沢村で密懐の男と女房が夫に打殺される）
1719年　7月25日 享保4年　6月9日 快晴　（6日から7日の大雨で増館・常盤組の64町歩が水湛、5月中碇関:出171・入り434人）
1719年　7月26日 享保4年　6月10日 巳の中刻より晴
1719年　7月27日 享保4年　6月11日 午の刻まで小雨少し　（棟方角左衛門が闕所（家財没収））
1719年　7月28日 享保4年　6月12日 晴
1719年　7月29日 享保4年　6月13日 陰晴　今朝より雨　巳の刻過ぎより晴
1719年　7月30日 享保4年　6月14日 晴　（天気揚げの祈祷を仰せ付ける）
1719年　7月31日 享保4年　6月15日 晴
1719年　8月1日 享保4年　6月16日 快晴　（5月中野内:出114・入り125人）
1719年　8月2日 享保4年　6月17日 快晴
1719年　8月3日 享保4年　6月18日 快晴
1719年　8月4日 享保4年　6月19日 快晴　甚だしく暑い
1719年　8月5日 享保4年　6月20日 快晴
1719年　8月6日 享保4年　6月21日 快晴　（初物献上値段:当年は下値だがなすひ1つ3分・胡瓜1つ2分6厘・真瓜1つ8分を大鰐村の者共に下し置かれる）
1719年　8月7日 享保4年　6月22日 快晴
1719年　8月8日 享保4年　6月23日 快晴
1719年　8月9日 享保4年　6月24日 快晴　少々小風
1719年　8月10日 享保4年　6月25日 辰の刻より雨終日　午の上刻雷発す　（24日浪岡組高館村で水浴び中の男1人水死）
1719年　8月11日 享保4年　6月26日 晴
1719年　8月12日 享保4年　6月27日 快晴
1719年　8月13日 享保4年　6月28日 晴
1719年　8月14日 享保4年　6月29日 快晴　（青森御蔵米値段:乾字金10両に付き沖御役入れて23俵3歩・1俵に付き18匁4歩ほどに相当）
1719年　8月15日 享保4年　6月30日 晴
1719年　8月16日 享保4年　7月1日 曇　辰の中刻より雨時々
1719年　8月17日 享保4年　7月2日 昨夜より雨　終夜に及ぶ　（昨昼頃よりの雨で岩木川洪水・駒越渡往還止める、堀越組境関渡も止める）
1719年　8月18日 享保4年　7月3日 曇　今朝少々小雨　則止む　戌の上刻小雨　（石渡川水が下り往来が可能となる、広須新田越水村の男が酒狂いで百姓を突き殺す・入牢）
1719年　8月19日 享保4年　7月4日 快晴　残暑強い　（境関川が2日より船渡しが可能となる）
1719年　8月20日 享保4年　7月5日 晴　夜に入り雨　（3日木作新田木作村で火災4軒・火元五人組預け）
1719年　8月21日 享保4年　7月6日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ　雷発す　（駒越川洪水で往還留める）
1719年　8月22日 享保4年　7月7日 洪水にて往還止める　昨日より雨降　巳の刻止む　申の刻より風烈しい　（昨日並びに夜中大雨につき岩木川洪水）
1719年　8月23日 享保4年　7月8日 曇　終日雨
1719年　8月24日 享保4年　7月9日 曇　時々小風　酉の刻より夜中雨　（6月中関所出人29人、大鰐村の嘉賀助・岩館村の弥助が初米3箱宛上げる、此の度の洪水で駒越川で男1人水死）
1719年　8月25日 享保4年　7月10日 卯の刻より辰の刻過ぎまで時々雨　それより時々小風　（7日の洪水で広田組鶴岡村で家4軒押し破る、大間越町に御蔵米40俵を1俵17匁5分2厘で払出す、7日暮前鯵ヶ沢で　欄外(*)に続く
1719年　8月26日 享保4年　7月11日 曇　昨夜亥の刻より雨　（7日深浦で日之丸印船が破船、6月中碇関:出196・入り215・合411人）
1719年　8月27日 享保4年　7月12日 曇　午の下刻より雨　（今別町で材木が6・7日の洪水で流失、7日今別で破船1艘、鯵ヶ沢で破船10艘・荷打ち4艘、赤石組森山に破船2艘、御家中の家来が中間を刺し殺す・殺人者は成敗）
1719年　8月28日 享保4年　7月13日 終日雨降
1719年　8月29日 享保4年　7月14日 晴
1719年　8月30日 享保4年　7月15日 晴
1719年　8月31日 享保4年　7月16日 曇　時々小雨
(*)　大風・破船9艘、今朝駒越渡しで男1人流死）

1719年　9月1日 享保4年　7月17日 晴　昨夜中雨少々 （6月中野内:出108・入り127人）
1719年　9月2日 享保4年　7月18日 辰の下刻より小雨降　夜に入り雨　雷発す （6月中大間越:出20・入り39人、五山に天気揚げの祈祷申付ける）
1719年　9月3日 享保4年　7月19日 陰晴　未の刻雨　夜に及ぶ
1719年　9月4日 享保4年　7月20日 曇
1719年　9月5日 享保4年　7月21日 陰晴　未の下刻より時々雨 （7日の洪水で水田1387町歩・畑456町歩・橋25ケ所・家19軒流失など・男1人流死など、今朝堤川洪水防護成功）
1719年　9月6日 享保4年　7月22日 今朝より時々雨　午の刻より晴　夜に入り稲光　雷発す
1719年　9月7日 享保4年　7月23日 陰晴 （9日金木新田芦野村で堤破損・家3軒流れる）
1719年　9月8日 享保4年　7月24日 曇　亥の刻より夜中雨
1719年　9月9日 享保4年　7月25日 終日風雨甚だしい
1719年　9月10日 享保4年　7月26日 昨夜より雨　終日降
1719年　9月11日 享保4年　7月27日 晴 （風雨上げ五山の御祈祷済み守り札を渡す）
1719年　9月12日 享保4年　7月28日 快晴
1719年　9月13日 享保4年　7月29日 陰晴 （7日の洪水で蟹田川川欠け）
1719年　9月14日 享保4年　8月1日 曇　終日雨　夜に入り雨 （7月中御関所出人都合21人）
1719年　9月15日 享保4年　8月2日 今朝より時々雨 （百沢寺より苔の実上る）
1719年　9月16日 享保4年　8月3日 陰晴 （7月24日朝碇関町年寄花岡某川流れで死亡）　下から続く　打つよう申付ける、7月中大間越:出64・入り52人）
1719年　9月17日 享保4年　8月4日 晴 （先月7日鶴田組鶴岡・藻川村で堤が破れて浸水の百姓に1俵高無に2斗宛都合27俵の拝借を申付ける、大間越町奉行が熊狼荒れ対策の鉄砲打ち申し出・番筒を町同心が　上に続く
1719年　9月18日 享保4年　8月5日 快晴 （大間越町に1俵17匁5分2厘で30俵の御蔵米を払いだす、深浦町大善院に御救い米5人分3合ずつ20日分出す、広田組川山村の渇者に米30人分）
1719年　9月19日 享保4年　8月6日 晴
1719年　9月20日 享保4年　8月7日 曇　終日雨降 （6月24日出火の青森上新町の火元の押し込め赦免）
1719年　9月21日 享保4年　8月8日 曇　時々雨 （7月26日(秋田県)能代で大洪水）
1719年　9月22日 享保4年　8月9日 晴
1719年　9月23日 享保4年　8月10日 曇　午の刻より小雨降 （先月7日より25日の大風で赤石組村々の田畑が塩きり・風に当たり200町歩の作毛痛む）
1719年　9月24日 享保4年　8月11日 曇
1719年　9月25日 享保4年　8月12日 卯の刻雨　巳の刻より止む　曇
1719年　9月26日 享保4年　8月13日 晴　小風
1719年　9月27日 享保4年　8月14日 午の刻雨少し （先月26日の洪水で金木新田芦野村の堤破損・明家2軒流）
1719年　9月28日 享保4年　8月15日 曇　夜中雨度々
1719年　9月29日 享保4年　8月16日 陰晴　夜に入り雨 （7月3日木作村の火元の村預け赦免）
1719年　9月30日 享保4年　8月17日 晴　夜に入り雨　雷時々発す
1719年　10月1日 享保4年　8月18日 陰晴　昨夜よりの雨辰の下刻まで （7月中野内:出108・入り131人）
1719年　10月2日 享保4年　8月19日 曇　終日小雨 （7月中碇関:出135・入り212人）
1719年　10月3日 享保4年　8月20日 曇　酉の下刻少し雨降
1719年　10月4日 享保4年　8月21日 曇 （金木組脇本村より初鮭差上げる）
1719年　10月5日 享保4年　8月22日 晴 （17日十三町で西風強く破船1艘、三馬屋村の例年御用の勘兵衛梨子は先月7・8日の大風で残らず落果）
1719年　10月6日 享保4年　8月23日 快晴　午の刻より段々曇
1719年　10月7日 享保4年　8月24日 晴
1719年　10月8日 享保4年　8月25日 陰晴 （野内川鮭留入札:186匁5分）
1719年　10月9日 享保4年　8月26日 曇　寅の刻より時々雨 （赤石組金井ヶ沢より二番鮭差上げる、4月15日舅を打ち殺した婿を取上で磔・盗人を斬罪）
1719年 10月10日 享保4年　8月27日 快晴　今朝霧　子の下刻地震
1719年 10月11日 享保4年　8月28日 終日雨降
1719年 10月12日 享保4年　8月29日 昨夜風　雨終日(昨夜風雨　終日　かも知れない:古文書とはこんなもの） 当月御関所出人14人、2日駒越組桜庭村の茂助が熊(胆長4寸9歩廻り7寸)取る、15日金木組小泊村で男縊死）
1719年 10月13日 享保4年　9月1日 陰晴　岩木山江雪見ゆる
1719年 10月14日 享保4年　9月2日 晴
1719年 10月15日 享保4年　9月3日 陰晴　時々小雨
1719年 10月16日 享保4年　9月4日 晴　夜中雨 （8月中大間越:入り57・出125人、2日夜大光寺組杉館村で火災1軒・五人組預け）
1719年 10月17日 享保4年　9月5日 昨夜の雨終日降　酉の刻雷発す
1719年 10月18日 享保4年　9月6日 曇　時々雨　岩木山江雪　遠山にも見ゆる
1719年 10月19日 享保4年　9月7日 晴　小風
1719年 10月20日 享保4年　9月8日 晴
1719年 10月21日 享保4年　9月9日 快晴 （8日昼飯詰組高野村で火災1軒(2間×3間:高無)・五人組預け）
1719年 10月22日 享保4年　9月10日 晴　夜に入り雨少し降 （三番鮭差上げる）
1719年 10月23日 享保4年　9月11日 晴
1719年 10月24日 享保4年　9月12日 晴
1719年 10月25日 享保4年　9月13日 曇　今朝少々小雨　夜中雨
1719年 10月26日 享保4年　9月14日 晴 （去月26日将軍宣下、8月中野内:出166・入り110・都合276人）
1719年 10月27日 享保4年　9月15日 曇　時々小雨
1719年 10月28日 享保4年　9月16日 晴 （玉清水村の男を殺した(7月3日記述)越水村の男の申し訳が立ち出牢:当時の牢は刑務所とは異なり犯罪を取り調べる施設である）
1719年 10月29日 享保4年　9月17日 快晴 （4日昼油川組津軽坂村に4・5歳女子捨子）
1719年 10月30日 享保4年　9月18日 快晴 （2日大光寺組杉館村・8日飯詰組高野村の火元の村預け許す）
1719年 10月31日 享保4年　9月19日 曇　酉の下刻より雷発す　雨 （駒越川合拾歩一御流木34324本・この内27612本を御家中江御割付(売りつけ)）

1719年　11月1日 享保4年　　9月20日 晴 （8月中碇関:出150・入り256人）
1719年　11月2日 享保4年　　9月21日 曇
1719年　11月3日 享保4年　　9月22日 陰晴　時々小雨　今夜大雷夥しく発す
1719年　11月4日 享保4年　　9月23日 曇　午の刻より初雪ふる （20日小泊に鯨の骨寄せる、米1俵15匁とする）
1719年　11月5日 享保4年　　9月24日 陰晴　昨夜大風　時々雷発す （金木組代官小使が和徳組堅田村で死亡）
1719年　11月6日 享保4年　　9月25日 晴
1719年　11月7日 享保4年　　9月26日 快晴　　下から続く　　竜巻・潰れ家4軒女2人死亡、23日小泊湊で破船1艘、今朝東長町で男縊死）
1719年　11月8日 享保4年　　9月27日 晴　午の刻過ぎ小風 （23日の大風で横内・油川組・三新田で嶋立稲などに被害、23日晩七半頃より大風雨・広須新田山崎・仁為田村で潰れ家2軒、同夜四過ぎ同組玉清水村で　　上に続く
1719年　11月9日 享保4年　　9月28日 曇　昨夜よりの雨夜中に及ぶ （入札:米1俵15匁1分）
1719年 11月10日 享保4年　　9月29日 曇
1719年 11月11日 享保4年　　9月30日 曇　辰の刻より風　未の刻雪少々 （当月中御関所並びに湊口出人都合18人、（多分23日頃）袰月湊で破船1艘・荷打ち2艘）
1719年 11月12日 享保4年　　10月1日 快晴
1719年 11月13日 享保4年　　10月2日 陰晴 （23日夜宇鉄沖で破船1艘）
1719年 11月14日 享保4年　　10月3日 晴
1719年 11月15日 享保4年　　10月4日 晴　昼の内小丸雪　則止む
1719年 11月16日 享保4年　　10月5日 晴　申の下刻より雨　夜に入り少し雷
1719年 11月17日 享保4年　　10月6日 曇　巳の刻雨
1719年 11月18日 享保4年　　10月7日 岩木山加屋立まで雪降　終日小風
1719年 11月19日 享保4年　　10月8日 晴　夜中雨　則止む （米1俵に付き17匁2分、先月中大間越:入り40・出78人）
1719年 11月20日 享保4年　　10月9日 晴
1719年 11月21日 享保4年　　10月10日 晴　今朝大雨 （鰺ヶ沢で近年鰰漁夥しい）
1719年 11月22日 享保4年　　10月11日 快晴　夜に入り雨 （9月中野内:出111・入り173人、9日横内組久栗坂村で火災1軒・稲300束雑駄1疋焼失）
1719年 11月23日 享保4年　　10月12日 晴 （9月中碇関:出202・入り188人）
1719年 11月24日 享保4年　　10月13日 曇　終日小風
1719年 11月25日 享保4年　　10月14日 曇　小雨時々降
1719年 11月26日 享保4年　　10月15日 晴 （13日大鰐組長峰村に火災1軒）
1719年 11月27日 享保4年　　10月16日 晴　巳の刻地震
1719年 11月28日 享保4年　　10月17日 晴　昨夜中雨 （14日時疫で碇関山役人病死）
1719年 11月29日 享保4年　　10月18日 曇　小雨
1719年 11月30日 享保4年　　10月19日 晴
1719年　12月1日 享保4年　　10月20日 晴
1719年　12月2日 享保4年　　10月21日 曇　昨夜より大吹雪
1719年　12月3日 享保4年　　10月22日 曇　昨夜中雪
1719年　12月4日 享保4年　　10月23日 今朝雪降　申の刻雷
1719年　12月5日 享保4年　　10月24日 晴　昨夜小雪
1719年　12月6日 享保4年　　10月25日 晴　御堀氷張る （9日久栗坂村の火元の村預け免ず、来月末は水氷り船自由(こんな言葉があったのか)にまかりならず候……、昨日藤崎組藤崎村に36・7女倒死）
1719年　12月7日 享保4年　　10月26日 晴
1719年　12月8日 享保4年　　10月27日 晴　申の刻雷三四度　夜に入り小風　小雪
1719年　12月9日 享保4年　　10月28日 曇　時々雪
1719年 12月10日 享保4年　　10月29日 曇　昨夜中大雪　終日小雪 （当月中御関所出人都合8人、7月より10月5日までに三新田で13軒走る）
1719年 12月11日 享保4年　　11月1日 晴
1719年 12月12日 享保4年　　11月2日 終日雪降
1719年 12月13日 享保4年　　11月3日 曇
1719年 12月14日 享保4年　　11月4日 晴　昨夜大雪 （青森安方町より初鱈壱本差上げる）
1719年 12月15日 享保4年　　11月5日 曇　雪降 （11月1日より十三潟氷り張る・昨年は11月2日、昨暮坂本町で70斗男が湯まくれ死亡）
1719年 12月16日 享保4年　　11月6日 快晴 （10月中大間越:出81・入り27・都合108人）
1719年 12月17日 享保4年　　11月7日 曇　時々小雨 （うとふという鳥について幕府から問い合わせ、青盛安方町より二番・三番鱈差上げる）
1719年 12月18日 享保4年　　11月8日 晴 （御蔵の升取(年貢の品質・量を検査する役人)に袖の下・適切に報告し升取に褒美）
1719年 12月19日 享保4年　　11月9日 晴
1719年 12月20日 享保4年　　11月10日 晴 （9月29日に南部から青森に帰る漁船(4人乗り)が行方不明・10月24日南部奥内村浜に船だけ流れ着く）
1719年 12月21日 享保4年　　11月11日 曇　今朝少し雨　午の刻より小雪
1719年 12月22日 享保4年　　11月12日 快晴　巳の刻より冬至 （雑穀の代米1升に付き:大豆1升4合・上大麦9合2夕6才・小麦7合2夕4才とする:年貢は米の量で決っている・雑穀で払う場合の換算である）
1719年 12月23日 享保4年　　11月13日 曇　小雨
1719年 12月24日 享保4年　　11月14日 曇　時々小雨　夜に入り雪 （大鰐組石川村より堀越組取上村まで狼が荒れる）
1719年 12月25日 享保4年　　11月15日 陰晴 （10月中碇関:出264・入り268・都合532人）
1719年 12月26日 享保4年　　11月16日 晴 （14日常盤組久井名館村に30程乞食女倒死）
1719年 12月27日 享保4年　　11月17日 晴 （13日青森町に破船3艘、先月中野内:出150・入り175人）
1719年 12月28日 享保4年　　11月18日 曇
1719年 12月29日 享保4年　　11月19日 晴
1719年 12月30日 享保4年　　11月20日 快晴
1719年 12月31日 享保4年　　11月21日 曇　時々雪

1720年　1月1日 享保4年　11月22日 今朝より終日雪降（東長町御蔵の升取に東光寺村の百姓が悪米10俵持参し升取に銭1匁あまりを渡す・この次はお仕置きとして百姓を赦免・升取には褒美）
1720年　1月2日 享保4年　11月23日 快晴
1720年　1月3日 享保4年　11月24日 陰晴　昨晩少々雪
1720年　1月4日 享保4年　11月25日 曇　小雪
1720年　1月5日 享保4年　11月26日 終日雪（深浦町大善院に御救い米、24日暮六頃浪岡組浪岡村に19位かったい乞食男倒死、当10月初め頃より飯詰組高野村で家内が時疫で残らず死亡）
1720年　1月6日 享保4年　11月27日 陰晴　少々小雪　小寒未の六刻に入る
1720年　1月7日 享保4年　11月28日 晴（大間越町奉行から40俵払い出しの申し出に20俵とする・値段は後で、26日大沢村で狼打ちの手筒組が狼1疋打つ）
1720年　1月8日 享保4年　11月29日 晴　今朝より巳の刻まで雪降　それより晴
1720年　1月9日 享保4年　11月30日 曇　終日雪降（当月所々御関所出人10人、20日駒越組大秋村？の新兵衛3疋（胆長3寸5歩廻り4寸8歩・4寸2歩5寸3歩・3寸7歩3寸）・9日飯詰組の半兵衛（4寸5歩5寸）それぞれ熊取る）
1720年　1月10日 享保4年　12月1日 曇　終日吹雪
1720年　1月11日 享保4年　12月2日 今朝より終日雪降り
1720年　1月12日 享保4年　12月3日 曇　時々雪（11月27日夜八つ過ぎ床舞御蔵焼失）
1720年　1月13日 享保4年　12月4日 晴（飯詰村高1382石8斗・165軒）
1720年　1月14日 享保4年　12月5日 晴
1720年　1月15日 享保4年　12月6日 晴
1720年　1月16日 享保4年　12月7日 曇　時々小雪（大鰐組早瀬野村に満たき（またぎ）なし、長五郎に満たき仰せ付ける）
1720年　1月17日 享保4年　12月8日 曇　亥の下刻地震　則止む
1720年　1月18日 享保4年　12月9日 曇
1720年　1月19日 享保4年　12月10日 曇　時々雪（11月中大間越：出36・入り44・都合80人、同月野内：出101・入り121・都合222人）
1720年　1月20日 享保4年　12月11日 曇　時々雪
1720年　1月21日 享保4年　12月12日 晴　午の刻過ぎ小雪　夜に入り大雪
1720年　1月22日 享保4年　12月13日 曇　時々雪
1720年　1月23日 享保4年　12月14日 曇
1720年　1月24日 享保4年　12月15日 時々雪
1720年　1月25日 享保4年　12月16日 晴　夜に入り雪（14日の大雪で薬王院に被害）
1720年　1月26日 享保4年　12月17日 曇　終日雪（11月中碇関：出161・入り165人）
1720年　1月27日 享保4年　12月18日 曇　時々雪　夜中大雪三尺ほど降
1720年　1月28日 享保4年　12月19日 曇　終日大雪　三尺ほど降
1720年　1月29日 享保4年　12月20日 曇　終日雪（？日藤崎組藤崎村に40ほど男乞食倒死、18日夜八頃駒越組又は浪岡組中野村で後の山より雪走り3軒潰れ13人が雪下になる）
1720年　1月30日 享保4年　12月21日 曇　時々雪（18日後潟組左堰村で火災1軒（4間×10間：百姓））
1720年　1月31日 享保4年　12月22日 陰晴　夜に入り小雪（雪で長勝寺の松に被害）
1720年　2月1日 享保4年　12月23日 晴　今朝きり雨少し降　則止む（18日夜八時中野村池田ヶ沢で雪崩、法立寺で火災死亡1人）
1720年　2月2日 享保4年　12月24日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ（18日よりの大雪で駒越組で死者行方不明者が40人余・前記の中野村で死者12人雑駄5匹死亡・家3軒潰れる、20日猿賀組で雪崩・家1軒女子2人馬1疋死亡）
1720年　2月3日 享保4年　12月25日 陰晴　今朝より雪　巳の下刻まで時々降
1720年　2月4日 享保4年　12月26日 曇　終日雪降　夜に入り雪
1720年　2月5日 享保4年　12月27日 曇　昨夜よりの雪終日に及ぶ　下から続く　2寸8歩3寸9歩）それぞれ熊取る、雪の深さ：弘前近在5・6尺～8・9尺、下の切村里3・4尺～5・6尺、外浜西浜村里　下の欄外(*)に続く
1720年　2月6日 享保4年　12月28日 晴（3日大鰐組唐牛村の次郎兵衛（胆長3寸3歩廻り5寸5歩）・9日同組尾崎村の十兵衛（3寸5歩廻り不明）・6日同組居土村の弥左衛門（4寸5歩5寸5歩・2寸8歩3寸9歩・　上に続く
1720年　2月7日 享保4年　12月29日 晴　今朝小雪　則止む　申の后刻地震
1720年　2月8日 享保5年　正月1日　曇　昨夜中より吹雪　未の中刻に及ぶ
1720年　2月9日 享保5年　正月2日　卯の后刻より小雪　同中刻より晴　午の后刻より時々雪
1720年　2月10日 享保5年　正月3日　陰晴
1720年　2月11日 享保5年　正月4日　陰晴　時々小雨
1720年　2月12日 享保5年　正月5日　曇　時々小雨
1720年　2月13日 享保5年　正月6日　陰晴　小風
1720年　2月14日 享保5年　正月7日　晴
1720年　2月15日 享保5年　正月8日　陰晴　時々小雨
1720年　2月16日 享保5年　正月9日　快晴（在々御救い米：広田組2村2軒7人・広須組新田145軒697人に、代官の申出(確認後支給)：後潟組1村広田組5村金木組6村の古田の79軒323人・金木新田広須新田の22軒89人に必要）
1720年　2月17日 享保5年　正月10日　快晴　午の后刻より小雨　申の中刻止む
1720年　2月18日 享保5年　正月11日　陰晴　時々小雪（金木組新田村々の49軒230人に郷蔵から1人1日6合の籾を渡す）
1720年　2月19日 享保5年　正月12日　小雨（阿芙蓉御用・昨年出来の一倍(現代の用法では2倍のこと)作れとのこと）
1720年　2月20日 享保5年　正月13日　曇　風雪終日に及ぶ
1720年　2月21日 享保5年　正月14日　陰晴
1720年　2月22日 享保5年　正月15日　曇　今朝より雪（御救い米：広須新田25村163軒778人・金木新田55軒257人）
1720年　2月23日 享保5年　正月16日　曇　時々雪
1720年　2月24日 享保5年　正月17日　陰晴　時々雪（広須組高根村の8軒27人に御救い米）
1720年　2月25日 享保5年　正月18日　快晴
1720年　2月26日 享保5年　正月19日　時々雪
1720年　2月27日 享保5年　正月20日　晴（去年12月大間越：出15・(入りか)17・都合32人、御救い米続く）
1720年　2月28日 享保5年　正月21日　巳の刻より曇　それより時々雪（広田組173人に20日分の御救い米、金木組321人・金木両新田697人にも御救い米）
1720年　2月29日 享保5年　正月22日　曇　終日雪降
(*) 2・3尺～5・6尺、弘前が普段と違いまわりより深い・元禄5年くらいの雪、一昨夜柏木組沢田村に40ほど男倒死）

1720年　3月1日 享保5年 正月23日　陰晴（御徒山上羽右衛門御徒目付(6両2人扶持)に）
1720年　3月2日 享保5年 正月24日　夜に入り今朝まで大雪一尺余降　終日雪（広須新田38軒200人に郷蔵より1日6合を申付ける、南袋の芥子2反歩を上野に3反歩南袋に2反歩蒔くように増やす）
1720年　3月3日 享保5年 正月25日　曇　時々小雪（大間越町から御蔵米40俵御払い願い・1俵21匁1分5厘で30俵出す、金木新田49軒230人・横内組5軒15人に御救い米、15日今別町で小屋焼失）
1720年　3月4日 享保5年 正月26日　晴（広須新田車力村59人・金木組村々67人に今月18日より来2月7日まで1日1人籾6合づつ20日分の御救い米、14日龍浜(竜飛)沖で落船1人行方不明）
1720年　3月5日 享保5年 正月27日　快晴　夜に入り少々小雨（深浦町243軒中172軒に各3俵拝借の申し出・米の代わりに御救い山を開放する、御救い米：11歳以上3合／日・4～10歳で2合／日・3歳以下は0・後日返す）
1720年　3月6日 享保5年 正月28日　曇　今朝より時々小雨（油川組79人に御救い米）
1720年　3月7日 享保5年 正月29日　曇　午の中刻より雪降（広田組川山・種井村の55人に御救い米）
1720年　3月8日 享保5年 正月30日　陰晴（御救い米：金木組村々613人・広須新田村々213人・広須金木新田村々654人）
1720年　3月9日 享保5年　2月1日 晴（油川組22軒102人・後潟組1軒8人・広田組322人に御救い米、正月晦日広須組野木村で火災1軒(4間×12間：百姓)・火元村預け）
1720年　3月10日 享保5年　2月2日 時々小雪（先月24日夜板屋野木の御蔵大雪で潰れる）
1720年　3月11日 享保5年　2月3日 快晴（今夜八時頃石渡川雪水・橋板流れ往還相止める）
1720年　3月12日 享保5年　2月4日 晴（24日夜龍浜で破船1艘）
1720年　3月13日 享保5年　2月5日 午の刻より雨降　夜中風雨
1720年　3月14日 享保5年　2月6日 晴
1720年　3月15日 享保5年　2月7日 曇　終日吹雪
1720年　3月16日 享保5年　2月8日 曇　時々雪（魚油の値段1升：2匁9分4厘、4日の雨で大川洪水・桑野木田村の堤破損・新田13か村床上(浸水)、御家中の井戸で田舎館村の乱気女房自害？）
1720年　3月17日 享保5年　2月9日 快晴（当正月中大間越：出13・入り146人）
1720年　3月18日 享保5年　2月10日 晴（深浦の大善院へ御救い米）
1720年　3月19日 享保5年　2月11日 曇　午の上刻より雨（江戸よりの飛脚が大深雪で3日遅れで到着）
1720年　3月20日 享保5年　2月12日 終日雨　戌の刻雷一度発す
1720年　3月21日 享保5年　2月13日 晴
1720年　3月22日 享保5年　2月14日 晴
1720年　3月23日 享保5年　2月15日 曇　時々雪降る
1720年　3月24日 享保5年　2月16日 曇　時々雪（飯詰組・金木組に種籾350石貸し出す）
1720年　3月25日 享保5年　2月17日 曇　夜に入り雪四五寸降る（正月晦日野木村の火元の村預け赦免）
1720年　3月26日 享保5年　2月18日 晴
1720年　3月27日 享保5年　2月19日 卯の后刻より雨　終日に及ぶ
1720年　3月28日 享保5年　2月20日 曇　終日吹雪時々（昨夜中の東南の強風被害あり、19日暮和徳組撫牛子村に50くらい男道心倒れ庄屋家で死亡）
1720年　3月29日 享保5年　2月21日 時々雪（正月中野内：出37・入り25・都合62人）
1720年　3月30日 享保5年　2月22日 晴（19日夜の大風被害あり）
1720年　3月31日 享保5年　2月23日 快晴（19日夜の碇関の風被害）
1720年　4月1日 享保5年　2月24日 巳の下刻より雨降る　終日に及ぶ
1720年　4月2日 享保5年　2月25日 晴
1720年　4月3日 享保5年　2月26日 陰晴　巳の刻雨降
1720年　4月4日 享保5年　2月27日 晴
1720年　4月5日 享保5年　2月28日 快晴
1720年　4月6日 享保5年　2月29日 曇　巳の刻雪　それより雨　終日に及ぶ　　下から続く　　同組の勘兵衛(3寸5歩5寸)・27日同組の太兵衛(4寸5歩4寸)それぞれ熊取る）
1720年　4月7日 享保5年　2月30日 晴（4日古懸不動尊御出汗・五山で17日間の御祈祷、23日横内組の左衛門四郎(胆長4寸廻り5寸)・24日同組弥左衛門(4寸2寸5歩)・16日尾崎組唐竹村の惣介(3寸5寸)・12日　　上に続く
1720年　4月8日 享保5年　3月1日 曇　今朝より時々雪（先月28日大川湊より十三まで潟明・去年は15日潟明・彼岸と比べて今年は2日遅い）
1720年　4月9日 享保5年　3月2日 晴　三ノ郭御堀氷解ける（大間越町で狼荒れ例年通り御番筒で町道心に打たせることとする）
1720年　4月10日 享保5年　3月3日 快晴　卯の中刻地震　則止む
1720年　4月11日 享保5年　3月4日 陰晴
1720年　4月12日 享保5年　3月5日 晴
1720年　4月13日 享保5年　3月6日 快晴　今日天水桶上げる（本二三丸御堀氷今日までに消える）
1720年　4月14日 享保5年　3月7日 曇（正月中碇関：出64・入り169人）
1720年　4月15日 享保5年　3月8日 快晴（5日飯詰組金山村に50位男乞食倒死）
1720年　4月16日 享保5年　3月9日 曇　終日雨降
1720年　4月17日 享保5年　3月10日 晴（今朝女牢死）
1720年　4月18日 享保5年　3月11日 晴（2月中碇関：出99・入り186・出人都合285人）
1720年　4月19日 享保5年　3月12日 快晴（御茶道付き山上古林先達て死亡）
1720年　4月20日 享保5年　3月13日 快晴
1720年　4月21日 享保5年　3月14日 曇（2月中大間越：出13・入り49・都合62人、同月野内：出79・入り72人）
1720年　4月22日 享保5年　3月15日 陰晴　辰の刻雨　則止む　それより晴
1720年　4月23日 享保5年　3月16日 陰晴　卯の上刻より時々雨雪　終日　小風　夜雪降（今朝寒く雪降った、積るほどではなく・落ちて間もなく解けて消えた）
1720年　4月24日 享保5年　3月17日 陰晴　巳の刻より曇　雨降　午の刻止む　それより陰晴　小風
1720年　4月25日 享保5年　3月18日 晴
1720年　4月26日 享保5年　3月19日 巳の下刻より雨降（17日朝広須新田川崎村で火災1軒（3間半×12間：百姓）焼失）
1720年　4月27日 享保5年　3月20日 曇　時々雨
1720年　4月28日 享保5年　3月21日 曇（松前米相場：4斗8升入りで30匁・新金1歩で1貫200文位）
1720年　4月29日 享保5年　3月22日 曇　辰の上刻雨　午の刻雷数度発す　大雨　終日に及ぶ
1720年　4月30日 享保5年　3月23日 辰の刻より雨時々　未の中刻雷数度発す　夜雨風

1720年　5月1日 享保5年　3月24日 陰晴　午の刻より晴　小風　夜中雨
1720年　5月2日 享保5年　3月25日 曇　時々小雨
1720年　5月3日 享保5年　3月26日 曇　　下から続く　　それぞれ熊取る、日付及び胆の大きさの記述なし)
1720年　5月4日 享保5年　3月27日 曇　　下から続く　　同組唐竹村の甚左衛門(2つ)・横内組合子沢村の弥十郎・同組の左衛門四郎・堀越組一野渡村の彦次郎・飯詰組若木？村の半兵衛・新田上福原村の彦八　　上に続く
1720年　5月5日 享保5年　3月28日 曇　辰の刻過ぎまで雨　巳の刻過ぎより晴　(駒越組田代村の次右衛門・同組中畑村の仁助・同組大秋村の新兵衛(2つ)・同組桜場村の喜右衛門・大鰐組虹貝村の長右衛門・　　上に続く
1720年　5月6日 享保5年　3月29日 晴　(御茶道方山上古林の遺族妻子4人に御救い米)
1720年　5月7日 享保5年　4月1日 晴　終日小風
1720年　5月8日 享保5年　4月2日 快晴　(長船(長6尋1尺幅2尺)1艘の代銭185匁)
1720年　5月9日 享保5年　4月3日 晴　巳の刻より陰晴　風吹く
1720年　5月10日 享保5年　4月4日 曇　卯の中刻より雨　昼の内暫く晴　午の刻より雨
1720年　5月11日 享保5年　4月5日 曇　辰の刻過ぎ雨少し巳の中刻より(意味不明:福眞)
1720年　5月12日 享保5年　4月6日 陰晴　少々雨風　(先月17日広須新田川崎村の火災の火元の村預け赦免)
1720年　5月13日 享保5年　4月7日 夜に入り丑の中刻より雨　巳の刻小風　(後潟組大川平村で狼荒れ手筒足軽を出す)
1720年　5月14日 享保5年　4月8日 曇
1720年　5月15日 享保5年　4月9日 曇　今朝より雨　辰の中刻過ぎまで　それより段々晴
1720年　5月16日 享保5年　4月10日 快晴　(3月中大間越:出33・入り80人)
1720年　5月17日 享保5年　4月11日 陰晴　少々雨降
1720年　5月18日 享保5年　4月12日 晴　(五穀成就の祈祷を四社で)
1720年　5月19日 享保5年　4月13日 曇　雨降
1720年　5月20日 享保5年　4月14日 快晴
1720年　5月21日 享保5年　4月15日 晴　(4月6日茂森町・3月24日土手町で男家出)
1720年　5月22日 享保5年　4月16日 曇　辰の上刻少し雨　午の刻より晴　入日赤し　(3月中碇関:出239・入り175人)
1720年　5月23日 享保5年　4月17日 快晴　(桧皮2尺縄にて……:五尺縄以外はほとんどなし)
1720年　5月24日 享保5年　4月18日 快晴　午の中刻より小風
1720年　5月25日 享保5年　4月19日 今朝曇　辰の刻より快晴
1720年　5月26日 享保5年　4月20日 曇　午の刻より段々晴　(3月中野内:出78・入り94人)
1720年　5月27日 享保5年　4月21日 曇　巳の下刻より段々晴
1720年　5月28日 享保5年　4月22日 快晴　卯の上刻雨少々降
1720年　5月29日 享保5年　4月23日 快晴
1720年　5月30日 享保5年　4月24日 快晴　(駒越組近名村で川漁中男1人事故死)
1720年　5月31日 享保5年　4月25日 曇　辰の下刻雨少し　則止む　午の下刻雨　則止む　(17日夜大鰐組石川村で火災1軒・火元今日村預け御免)
1720年　6月1日 享保5年　4月26日 快晴　小風　夜に入り雨
1720年　6月2日 享保5年　4月27日 今朝卯の刻前より雨　雷発す　同下刻より段々晴　(江戸登りの御徒目付に山上羽右衛門、23日浪岡組？柳久保で野火(200間×100間・240間×200間・700間×400間))
1720年　6月3日 享保5年　4月28日 晴　辰の下刻小雨　則止む
1720年　6月4日 享保5年　4月29日 快晴　午の下刻より小風　(山上古林の子清次郎(19歳)を表坊主に新規召抱え、御徒10人(5尺5寸4歩～5尺4寸1歩)を召抱える)
1720年　6月5日 享保5年　4月30日 快晴　小風　(27日尾崎組唐竹村の惣助が熊(胆長4寸8歩廻り6寸5歩)取る)
1720年　6月6日 享保5年　5月1日 快晴　小風
1720年　6月7日 享保5年　5月2日 終日雨
1720年　6月8日 享保5年　5月3日 快晴
1720年　6月9日 享保5年　5月4日 曇　(1日夜九つ半頃油川組飛鳥村で火災2軒(6間×8間:御蔵百姓・6間×7間半:給地百姓)・火元他村預け)
1720年　6月10日 享保5年　5月5日 曇　巳の刻過ぎより小雨降
1720年　6月11日 享保5年　5月6日 曇　午の刻雨
1720年　6月12日 享保5年　5月7日 曇　(先月中大間越:出57・入り44人)
1720年　6月13日 享保5年　5月8日 陰晴　(4月?19日横内組滝沢に平内領から類火(40軒×32間))
1720年　6月14日 享保5年　5月9日 曇　(金木組中里村・相内村・板割沢村の30軒に5俵宛拝借願い・1俵宛て申し付ける)
1720年　6月15日 享保5年　5月10日 曇　卯の中刻風雨　終日　(大間越町への払出し米先月分1俵に付き22匁5分の筈が御払い米代の上納が滞る)
1720年　6月16日 享保5年　5月11日 曇　終日小風　(4月24日江戸発の関札打到着・御屋形様5月2日江戸発20日振りの予定)
1720年　6月17日 享保5年　5月12日 快晴　東風　(各組代官から夫食米拝借の申し出あり・それなりに対応)
1720年　6月18日 享保5年　5月13日 快晴　小風　(植付のための夫食米拝借願い多し)
1720年　6月19日 享保5年　5月14日 晴　夜中雨　(4月中野内:出129・入り146・都合275人、10日夜蟹田川洪水、5日より東風10日朝より大東風・小泊湊・蟹田湊で破船3艘、頃日米値段少々上る)
1720年　6月20日 享保5年　5月15日 曇　巳の下刻雨　(青森蜆貝の漁船が7日から行方不明・から船が漂着したので5人全員死亡か、金木組相内村の磯に30男倒死)
1720年　6月21日 享保5年　5月16日 曇
1720年　6月22日 享保5年　5月17日 快晴
1720年　6月23日 享保5年　5月18日 晴　終日小風　(16日夜野内町で庄屋の家から出火・1軒半焼失)
1720年　6月24日 享保5年　5月19日 曇　今朝雨少し
1720年　6月25日 享保5年　5月20日 陰晴　(五穀成就の祈祷をさせる)
1720年　6月26日 享保5年　5月21日 曇　(油川・後潟組中4日より東風昼夜吹きやまず・苗を植えかねている)
1720年　6月27日 享保5年　5月22日 今朝巳の刻まで雨　それより晴
1720年　6月28日 享保5年　5月23日 曇　終日東風
1720年　6月29日 享保5年　5月24日 曇　終日東風
1720年　6月30日 享保5年　5月25日 快晴　(宿札勤到着)

1720年　7月1日 享保5年　5月26日 辰の刻より晴
1720年　7月2日 享保5年　5月27日 快晴
1720年　7月3日 享保5年　5月28日 快晴 （御屋形様午の下刻御着城）
1720年　7月4日 享保5年　5月29日 晴　終日東風 （当4月中碇関:出400・入り238人）
1720年　7月5日 享保5年　5月30日 快晴 （当月中御関所出人都合32人、9日から10日まで十三で大風・御蔵破損、当月1日から植初め・未だ時疫で遅れもある）
1720年　7月6日 享保5年　6月1日 快晴　戌の上刻雨降　終夜に及ぶ
1720年　7月7日 享保5年　6月2日 昨夜の雨今日午の下刻まで降 （今朝高杉組十腰内村で火災(3間×4間:高無)・火元村預け）
1720年　7月8日 享保5年　6月3日 晴 （大鰐村より初胡瓜5上がる）
1720年　7月9日 享保5年　6月4日 快晴 （当5月中大間越:出29・入り31・都合60人）
1720年　7月10日 享保5年　6月5日 終日雨
1720年　7月11日 享保5年　6月6日 巳の刻過ぎより雨晴 （御能初め、昨日駒越川洪水）
1720年　7月12日 享保5年　6月7日 晴
1720年　7月13日 享保5年　6月8日 曇　巳の下刻雨降 （十三町の3軒10人に15日分の御救い米）
1720年　7月14日 享保5年　6月9日 曇　巳の刻より快晴
1720年　7月15日 享保5年　6月10日 晴 （御手廻組(上士である)が藩から米を借りている、先月16日野内町の火元庄屋の村預け差免、先月中野内:出98・入り114人）
1720年　7月16日 享保5年　6月11日 晴 （三之丸で歌舞妓）
1720年　7月17日 享保5年　6月12日 陰晴 （大間越町庄屋が御蔵米40俵御払い願い・半分申付ける、尾太銅・鉛山の様子あり）
1720年　7月18日 享保5年　6月13日 晴　時々小雨
1720年　7月19日 享保5年　6月14日 時々小雨　巳の二刻土用に入る （十三町の3軒12人に御救い米）
1720年　7月20日 享保5年　6月15日 晴 （御能）
1720年　7月21日 享保5年　6月16日 快晴 （深浦町大善院に御救い米）
1720年　7月22日 享保5年　6月17日 快晴　甚だしく暑い
1720年　7月23日 享保5年　6月18日 快晴　未の刻より雨　夜中に及ぶ （17日水稽古中の御徒が溺死1人）
1720年　7月24日 享保5年　6月19日 昨夜より雨　終日に及ぶ （十三町の11軒39人に御救い米）
1720年　7月25日 享保5年　6月20日 陰晴 （深浦町年寄りから御蔵米御払い願い・代物上納次第1俵を28匁9分5厘で払出す）
1720年　7月26日 享保5年　6月21日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ （駒越川お玉渕で筏から落ちて男1人死亡）
1720年　7月27日 享保5年　6月22日 曇 （大鰐より初茄子5・初真瓜3上る、5月中碇関:お供を除く入り353・出193・出入り都合546人）
1720年　7月28日 享保5年　6月23日 陰晴 （御能、2日高杉組十腰内村の火元の村預け御免）
1720年　7月29日 享保5年　6月24日 曇　巳の刻地震　同中刻より快晴 （四時少し過ぎ地震少々強く永ゆり、鯵ヶ沢町から米拝借願いがあり・ことわられる）
1720年　7月30日 享保5年　6月25日 快気　巳の刻より申の刻までの内地震少々ずつ五度ゆる
1720年　7月31日 享保5年　6月26日 晴　暑気　巳の下刻過ぎ地震 （千年山で煎茶・together with 茶筅:現代の常識では煎茶に茶筅は用いない・元禄7年7月13日の茶の会にも煎茶と茶筅が同時に出てくる　下の欄外(*)に続く
1720年　8月1日 享保5年　6月27日 快晴 （今朝高杉組十腰内村で火災1軒(庄屋家)・火元押し込め）
1720年　8月2日 享保5年　6月28日 快晴　未の中刻過ぎ小雨　則止む （御狂言、松前の金相場1両に付き4貫800文・米1俵に付き40目）
1720年　8月3日 享保5年　6月29日 晴 （今日の米値段1俵に付き27匁5分、3日広須新田芦沼村の助左衛門が熊3疋取る）
1720年　8月4日 享保5年　7月1日 快晴　暑気強し
1720年　8月5日 享保5年　7月2日 快晴　暑気強し
1720年　8月6日 享保5年　7月3日 快晴　巳の下刻雨少し　それより晴
1720年　8月7日 享保5年　7月4日 晴　残暑強し
1720年　8月8日 享保5年　7月5日 快晴　暑気強し （深浦町の22軒98人に御蔵米25日より5日分渡す）
1720年　8月9日 享保5年　7月6日 快晴　酷暑
1720年　8月10日 享保5年　7月7日 快晴　残暑強く
1720年　8月11日 享保5年　7月8日 快晴 （当6月中大間越:出57・入り47人、当6月中野内:出99・入り121人）
1720年　8月12日 享保5年　7月9日 快晴 （尾崎組岩楯村の弥助が5月2日植付・7月8日まで66日で出穂）
1720年　8月13日 享保5年　7月10日 快晴　残暑強し （先月27日久世大和守卒去）
1720年　8月14日 享保5年　7月11日 快晴　残暑強し　岩木山雪2尺ほど見ゆる
1720年　8月15日 享保5年　7月12日 曇　卯の刻雷発す　同刻過ぎより雨　昼の内少し晴　午の中刻雨 （高杉組高杉村の百姓48軒中30軒が米拝借申し出る・断られる、150石以上の武士は藩に独立して百姓を守る責任があった）
1720年　8月16日 享保5年　7月13日 快晴　未の上刻雨少々降
1720年　8月17日 享保5年　7月14日 快晴　巳の中刻地震少々 （深浦町から御救い米の願い・8月までとして認める）
1720年　8月18日 享保5年　7月15日 快晴
1720年　8月19日 享保5年　7月16日 快晴
1720年　8月20日 享保5年　7月17日 陰晴　未の下刻大雨　則止む （昨朝飯詰組原子村で火災1軒・火元押籠）
1720年　8月21日 享保5年　7月18日 辰の下刻雨少し　それより晴
1720年　8月22日 享保5年　7月19日 快晴　岩木山雪見ゆる
1720年　8月23日 享保5年　7月20日 快晴
1720年　8月24日 享保5年　7月21日 快晴
1720年　8月25日 享保5年　7月22日 寅の下刻より雨降　それより晴　午の刻少し　則止む
1720年　8月26日 享保5年　7月23日 晴
1720年　8月27日 享保5年　7月24日 快晴
1720年　8月28日 享保5年　7月25日 快晴 （6月中碇関:出366・入り260・出入り都合626人）
1720年　8月29日 享保5年　7月26日 晴　薄雲
1720年　8月30日 享保5年　7月27日 晴 （堀越組境関村船場の深所で33・4男死亡、同組取上村の林内で37・8男縊死）　下から続く　蕨根を掘る道具を作る木を伐りたいと願う・承認、油川組津軽坂村で行方不明1人）
1720年　8月31日 享保5年　7月28日 晴　未の刻過ぎ雷一度発す （三之丸御屋敷で歌舞伎高覧、御家中が熟瓜差し上げる、尾崎組岩館村の弥助・大鰐組大鰐村の加賀助が初米上げる、飯詰組570軒・深浦町65軒が　上に続く
(*) ・当時の煎茶は現代の常識と異なるのかもしれない、元禄7年にはお茶の後で花火を見ている・これは隅田川の花火より古く日本最古の記録かな？）

1720年　9月1日 享保5年　7月29日 寅の下刻雨少し　それより晴　午の下刻より雨降
1720年　9月2日 享保5年　7月30日 辰の中刻より巳の刻雨　時々止む　午の下刻過ぎ雷発す
1720年　9月3日 享保5年　8月1日 曇　巳の刻より晴　その(夫)前雨　今朝四方虹見る（人事異動、百沢寺が苔の実差上げる）
1720年　9月4日 享保5年　8月2日 曇
1720年　9月5日 享保5年　8月3日 快晴　酉の后刻雨少し降
1720年　9月6日 享保5年　8月4日 快晴（手作りの熟瓜差上げる）
1720年　9月7日 享保5年　8月5日 快晴
1720年　9月8日 享保5年　8月6日 快晴
1720年　9月9日 享保5年　8月7日 陰晴
1720年　9月10日 享保5年　8月8日 陰晴　午の下刻より雨降
1720年　9月11日 享保5年　8月9日 晴（西瓜4差上げる）
1720年　9月12日 享保5年　8月10日 曇　午の下刻より雨　終日に及ぶ　大雨なり（当7月中大間越:出45・入り32人）
1720年　9月13日 享保5年　8月11日 昨巳の上刻よりの雨　終日に及ぶ　未の下刻より大雨に及ぶ
1720年　9月14日 享保5年　8月12日 終日時々雨降　未の下刻雷発す
1720年　9月15日 享保5年　8月13日 晴
1720年　9月16日 享保5年　8月14日 晴（十三より初鮭1尺上る）
1720年　9月17日 享保5年　8月15日 晴
1720年　9月18日 享保5年　8月16日 快晴（米値段1俵に付き23匁2分6厘:150俵で3貫489匁）
1720年　9月19日 享保5年　8月17日 快晴　夜に入り雨少し降る（米相場1俵に付き27匁3分）
1720年　9月20日 享保5年　8月18日 晴　夜に入り雨
1720年　9月21日 享保5年　8月19日 曇　終日雨降る（当7月中野内:出107・入り138人）
1720年　9月22日 享保5年　8月20日 曇　時々小雨
1720年　9月23日 享保5年　8月21日 晴（16日夜八時後潟組野田村で火災1軒(5間×3間:百姓)・火元村預け、当7月中碇関:出182・入り239・都合421人）
1720年　9月24日 享保5年　8月22日 晴
1720年　9月25日 享保5年　8月23日 晴
1720年　9月26日 享保5年　8月24日 午の下刻より時々雨降る　夜に入り同
1720年　9月27日 享保5年　8月25日 晴
1720年　9月28日 享保5年　8月26日 晴
1720年　9月29日 享保5年　8月27日 陰晴
1720年　9月30日 享保5年　8月28日 晴　辰の中刻雨少々　則止む（薬王院より西瓜差上げる）
1720年　10月1日 享保5年　8月29日 夜中雨　申の下刻丸雪降（12日駒越組田代村の清右衛門・23日駒越組で(同人か)熊取る・大きさ等記述なし）
1720年　10月2日 享保5年　9月1日 今朝五過ぎより雨　終日に及ぶ　申の下刻氷降
1720年　10月3日 享保5年　9月2日 晴　岩木山初雪見る（深浦で熊の獅子猿が田畑を食い荒らす・番筒の稽古に打たせる）
1720年　10月4日 享保5年　9月3日 晴（御馬廻り与力佐々木某を深浦に派遣・30匁筒など持参:普通は3匁半?猛獣?対策として大きな玉を持ち込んだか）
1720年　10月5日 享保5年　9月4日 昨夜八過ぎより風　終夜に及ぶ
1720年　10月6日 享保5年　9月5日 昨夜中の雨終日に及ぶ（当8月中大間越:出20・入り26・都合46人）
1720年　10月7日 享保5年　9月6日 終日時々雨
1720年　10月8日 享保5年　9月7日 晴
1720年　10月9日 享保5年　9月8日 晴
1720年 10月10日 享保5年　9月9日 陰晴
1720年 10月11日 享保5年　9月10日 晴
1720年 10月12日 享保5年　9月11日 巳の刻より雨降る　亥の上刻雷発す
1720年 10月13日 享保5年　9月12日 辰の中刻小雨　則止む　下から続く　255匁7分・野内川215匁5分・才蔵川2匁・新田川173匁5分5厘・広瀬川22匁8分9厘）
1720年 10月14日 享保5年　9月13日 昨夜の雨終日に及ぶ　巳の下刻雷発す　今朝卯の中刻西の方虹見る　夜に入り雷　下から続く　鮭川入札:荒川57匁5分5厘・横内前川50匁・原別川375匁5分・網不知川　上に続く
1720年 10月15日 享保5年　9月14日 小雨（9日昼頃広須新田川端村とその付近で6女・13男・3男・44男・26女・69男が熊に喰い殺され1人負傷、9日夜油川組孫内村で火災2軒(3間×5間・3間×4間)・火元他村預け、　上に続く
1720年 10月16日 享保5年　9月15日 曇　辰の中刻小雨　岩木山に雪八分降（工藤嘉左衛門の惣領三之助(31)を碇関越山）
1720年 10月17日 享保5年　9月16日 快晴　夜に入り少し雨　それより晴ル（神明宮で日和上げ御神事）
1720年 10月18日 享保5年　9月17日 快晴
1720年 10月19日 享保5年　9月18日 快晴
1720年 10月20日 享保5年　9月19日 曇　二の御丸いてう(銀杏)ノ葉不残落ル（土手町に1歳女子捨子、深浦に熊猿打ちに派遣の佐々木某あまり役に立たずに……）
1720年 10月21日 享保5年　9月20日 快晴（今朝赤田組板屋野木村の川原に60男倒死）
1720年 10月22日 享保5年　9月21日 陰晴　夜九つ前雷発す　夜中雨（8月中野内:出102・入り115・都合出入り217人、深浦から熊皮などを持ち佐々木某が帰る・沢山傷を付け逃げられる）
1720年 10月23日 享保5年　9月22日 快晴　小風（当8月中碇関:出226・入り226・出入り都合452人、下鍛冶町川原に倒死1人）
1720年 10月24日 享保5年　9月23日 岩木山へ雪三度　但中程迄降　遠山迄少々見ル
1720年 10月25日 享保5年　9月24日 曇　終日小風　午の刻丸雪降る
1720年 10月26日 享保5年　9月25日 夜中雨　今日も時々小雨
1720年 10月27日 享保5年　9月26日 晴
1720年 10月28日 享保5年　9月27日 快晴　下から続く　10日堀越組の誰か・3日飯詰組半兵衛がそれぞれ熊取る）
1720年 10月29日 享保5年　9月28日 晴　夜に入り雨（12日駒越組大秋村の新兵衛・11日油川組津軽坂村の助之丞・12日広須新田の助左衛門・13日赤石組小森村の山次郎・29日堀越組一野渡村の彦次郎・　上に続く
1720年 10月30日 享保5年　9月29日 晴（27日七半過ぎ堀越組一野渡村の猟師彦次郎家(4間×12間)火災・類火(4間×8間:百姓)・火元他村預け）
1720年 10月31日 享保5年　10月1日 快晴（三馬屋梨子67今別町奉行より到来）

1720年　11月1日 享保5年　　10月2日 時々雨降　夜に入り雷発す
1720年　11月2日 享保5年　　10月3日 曇 （御家中が庭前の梨子差上げる、先月古懸で御出汗・今日五ヶ寺より御守り札上る）
1720年　11月3日 享保5年　　10月4日 快晴　今朝大雪（雪に見えるが初雪はまだであり快晴だから霜か） 夜に入り雨 （松前の家老衆から乾金2千両分の米欲しいとの便り・千俵ほどまでなら……・断っている）
1720年　11月4日 享保5年　　10月5日 辰の刻より小雨　則止む　夜に入り雨雪
1720年　11月5日 享保5年　　10月6日 曇
1720年　11月6日 享保5年　　10月7日 曇　四山雪見　夜に入り雨
1720年　11月7日 享保5年　　10月8日 曇
1720年　11月8日 享保5年　　10月9日 晴
1720年　11月9日 享保5年　　10月10日 快晴
1720年 11月10日 享保5年　　10月11日 曇　終日小雨　夜に入り雷発す （先月29日一野渡の火元の村預け赦免）
1720年 11月11日 享保5年　　10月12日 巳の刻きりふる　夜に入り雷　風雨強 （米1俵値段27匁5分）
1720年 11月12日 享保5年　　10月13日 晴
1720年 11月13日 享保5年　　10月14日 曇 （昨晩堀越組堀越村の大坊川原に54・5男道心倒死、9月中大間越:出48・入り18人、9月中野内:出74・入り97人）
1720年 11月14日 享保5年　　10月15日 時々小雨 （御能）
1720年 11月15日 享保5年　　10月16日 晴
1720年 11月16日 享保5年　　10月17日 曇　午の刻雨 （9月中碇関:出187・入り178人）
1720年 11月17日 享保5年　　10月18日 終日雨　四ノ御郭御堀薄氷はる （16日鯵ヶ沢出来嶋で破船1艘、先月26日大間越町同心が熊2疋取る）
1720年 11月18日 享保5年　　10月19日 曇　昨夜初雪　終日に及ぶ　四寸程フル （今日明け方より雪降屋根にたまり候ほどある）
1720年 11月19日 享保5年　　10月20日 終日小雪　午の刻晴
1720年 11月20日 享保5年　　10月21日 時々雪 （稲がまだ田にある内に雪が積った）
1720年 11月21日 享保5年　　10月22日 昨夜雪三寸ほど降　今朝少し雪　辰の刻晴 （去る20日より雪昨日までも降り続く・田畑が片付かないので天気明けの祈祷を仰せ付ける）
1720年 11月22日 享保5年　　10月23日 曇　今朝御堀氷張る （御家中が庭前の梨子差上げる）
1720年 11月23日 享保5年　　10月24日 曇　今朝少々雪
1720年 11月24日 享保5年　　10月25日 辰の刻より雪　巳の刻に及ぶ　則止む
1720年 11月25日 享保5年　　10月26日 今朝雪
1720年 11月26日 享保5年　　10月27日 晴 （御表方に御金銭ないので……、十三町中人数858人）
1720年 11月27日 享保5年　　10月28日 快晴　夜中雪
1720年 11月28日 享保5年　　10月29日 晴　午の下刻小雨　夜中山鳴
1720年 11月29日 享保5年　　10月30日 晴　未の中刻山鳴　同下刻小雪 （9月29日駒越組桜庭村の次郎三郎・同日同村茂助・4日広須新田大館村の金助などが熊取る）
1720年 11月30日 享保5年　　11月1日 陰晴　今朝より雨雪時々　夜中雨雪
1720年　12月1日 享保5年　　11月2日 晴
1720年　12月2日 享保5年　　11月3日 晴　夜中小雪
1720年　12月3日 享保5年　　11月4日 晴 （10月22日飯詰組飯詰村・福岡村で2人が縊死）
1720年　12月4日 享保5年　　11月5日 曇　時々小雪
1720年　12月5日 享保5年　　11月6日 今朝より終日雪降　夜中雪
1720年　12月6日 享保5年　　11月7日 時々雪降
1720年　12月7日 享保5年　　11月8日 曇　時々雪 （白鳥1羽の値段:活き20目・〆（大13匁・中10匁・下7匁）、6日八幡田村で雪たを連(雪倒れ？)男1人、ラッコ皮1枚新金2両から2両3歩）
1720年　12月8日 享保5年　　11月9日 快晴　夜中小雪
1720年　12月9日 享保5年　　11月10日 曇
1720年 12月10日 享保5年　　11月11日 曇 （10月中大間越:出50・入り16人・都合66人）
1720年 12月11日 享保5年　　11月12日 晴
1720年 12月12日 享保5年　　11月13日 快晴　夜中小雨
1720年 12月13日 享保5年　　11月14日 快晴
1720年 12月14日 享保5年　　11月15日 時々小雪
1720年 12月15日 享保5年　　11月16日 曇　終日大雪
1720年 12月16日 享保5年　　11月17日 辰の下刻より雪降　終日に及ぶ
1720年 12月17日 享保5年　　11月18日 晴　今朝時々雨
1720年 12月18日 享保5年　　11月19日 晴 （青森より初鱈3本差上げる、松前から米無心・青森と浪岡御蔵から300俵出すこととする・(松前で1俵70匁でも買えない?というが)値段不明）
1720年 12月19日 享保5年　　11月20日 快晴　戌の下刻より風雨 （昨夜六過ぎ藤代組浮田村で火災（2間×1間半:高無）・火元村預け）
1720年 12月20日 享保5年　　11月21日 昨夜より雨　巳の下刻まで　それより晴 （御能）
1720年 12月21日 享保5年　　11月22日 曇　巳の下刻より雪　終日に及ぶ （大豆も過半が雪下になる）
1720年 12月22日 享保5年　　11月23日 陰晴
1720年 12月23日 享保5年　　11月24日 快晴
1720年 12月24日 享保5年　　11月25日 快晴　未の下刻より雨 （19日夜の藤代組の火元の村預け赦免、6日夜後方組蓬田村で蟹田町の女倒死）
1720年 12月25日 享保5年　　11月26日 快晴
1720年 12月26日 享保5年　　11月27日 曇　夜に入り雪
1720年 12月27日 享保5年　　11月28日 曇　終日雨
1720年 12月28日 享保5年　　11月29日 今朝より時々小雨降 （大間越町の庄屋から御蔵米30俵払い出し願い・10俵許す）
1720年 12月29日 享保5年　　12月1日 晴 （工藤嘉左衛門に養子孫太郎、先月17日駒越組の新兵衛・25日利兵衛・12日彦左衛門がそれぞれ熊取る）
1720年 12月30日 享保5年　　12月2日 陰晴　夜中雨 （先月28日朝後潟組広瀬村に破船1艘）
1720年 12月31日 享保5年　　12月3日 昨夜之雨終日降

1721年　1月1日 享保5年　12月4日 昨夜より今朝迄雨降　それより終日吹雪　午の刻より大風　亥の刻まで大風雪　(塩1俵(3斗入り)代銭5匁2分8厘)
1721年　1月2日 享保5年　12月5日 晴　昨夜の雪巳の刻まで降　(昨日の風被害あり)
1721年　1月3日 享保5年　12月6日 快晴　(4日七つ過ぎ古懸山不動尊御出汗・5日に御神楽・今日五山で祈祷、なぜか急に「一粒金丹」)
1721年　1月4日 享保5年　12月7日 陰晴　夜に入り雪四五寸ほど降
1721年　1月5日 享保5年　12月8日 昨夜より雪　終日に及ぶ　小寒戌の五刻に入る　夜中雪降
1721年　1月6日 享保5年　12月9日 快晴　昨夜の雪辰の下刻まで降　(後方組松ヶ崎等の渇命狀(12軒42人)に御救い米、深浦大善院に御救い米、後方組細越村で11月に時疫・死絶え家あり、27日上磯の兵郎濱に破船1艘)
1721年　1月7日 享保5年　12月10日 曇　昨夜少し雪　(和徳組堅田村の橋下に60余男倒死?犬狼に喰われた痕あり)
1721年　1月8日 享保5年　12月11日 快晴
1721年　1月9日 享保5年　12月12日 曇　今朝寅の上刻地震　巳の刻より時々雪　(12月7日十三潟氷張る・船の往来相止む、去年は11月1日で今年は36日遅い・節に引合い去年より26日遅い)
1721年　1月10日 享保5年　12月13日 快晴
1721年　1月11日 享保5年　12月14日 晴　(3日赤石組森山に破船1艘、9日金木組金木村に56・7男縊死、雑穀値段1匁に付き:米1升5合8夕7歳・次大豆2升8合・大麦2升・小麦1升)
1721年　1月12日 享保5年　12月15日 陰晴　(弘前御蔵米1俵30匁6分2厘5毛内沖役3匁(平米27匁6分2厘5毛)・青森御蔵米37匁9分4厘8毛内沖役3匁駄賃1匁8分1厘2毛(平米33匁1分3厘6毛)・両替73匁5分)
1721年　1月13日 享保5年　12月16日 陰晴　(3日岩木川洪水・川欠け、三新田の者共に蕨根堀のための杣取を許す)
1721年　1月14日 享保5年　12月17日 曇　夜に入り雪　下から続く　火災51軒・11と7歳の娘2人小荷駄1疋牛3疋焼死・火元入庵)
1721年　1月15日 享保5年　12月18日 曇　昨夜より雪　今朝辰の刻まで六寸ほど　それより時々　下から続く　蕎麦8.3・8.8・9.0、大麦13.3・14.0・14.4、小麦33.3・35.1・36.2、稗6.4・6.7・6.9、15日金木組小泊村で　上に続く
1721年　1月16日 享保5年　12月19日 曇　今朝より時々小雪　(米雑穀1俵値段(近在・金木外浜・西浜十三の順):米25匁7分・27匁9分・27匁1分、次大豆14.3・15.1・15.5、小豆18.2・--・19.8、粟10.0・10.5・10.9、　上に続く
1721年　1月17日 享保5年　12月20日 晴　昨夜より吹雪　今朝午の刻まで大吹雪　それより晴
1721年　1月18日 享保5年　12月21日 陰晴　(年貢を銭で納める場合:米1俵に付き26～29匁6分、御囃子)
1721年　1月19日 享保5年　12月22日 曇　時々雪　(昨晩駒越町に3斗男子捨子)
1721年　1月20日 享保5年　12月23日 晴　(渇命の座当4軒13人に御救い米)
1721年　1月21日 享保5年　12月24日 曇　昨夜より雪　巳の刻まで降　夜中雪降　(御用人間宮蔵人役儀召し放ち閉門)
1721年　1月22日 享保5年　12月25日 終日雪降
1721年　1月23日 享保5年　12月26日 晴　(渇命救いの調査指示)
1721年　1月24日 享保5年　12月27日 晴　下から続く　・16日同村喜右衛門(2寸2歩3寸9歩)それぞれ熊取る、27日夜金木組高根村で火災1軒雑駄2疋焼失)
1721年　1月25日 享保5年　12月28日 陰晴　下から続く　・19日同組大秋村の新兵衛(3寸7歩5寸8歩)・7日同組田代村の藤右衛門(3寸8歩5寸2歩)・26日同組相馬村の左衛門三郎(4寸8歩7寸2歩)　上に続く
1721年　1月26日 享保5年　12月29日 快晴　昨夜雪六寸ほど降　(碇関:出231・入り149・都合380人、21日駒越組中畑村の仁助(胆長4寸5歩廻り7寸5歩)・12日同組相馬村の左衛門次郎(6寸4寸1歩と5寸8歩3寸9歩)　上に続く
1721年　1月27日 享保5年　12月30日 終日雪降
1721年　1月28日 享保6年　正月1日　陰晴　(12月17日江戸で初雪)
1721年　1月29日 享保6年　正月2日　雪時々　巳の中刻晴
1721年　1月30日 享保6年　正月3日　晴　夜中雪　(御謡初)
1721年　1月31日 享保6年　正月4日　陰晴　終日雪　(江戸への年始飛脚・御吉例として200両登)
1721年　2月1日 享保6年　正月5日　快晴　(大鰐村より七種差上げる:せり・夏な・祢ふか・毛屋し・すすな・蕗乃とう)
1721年　2月2日 享保6年　正月6日　快晴
1721年　2月3日 享保6年　正月7日　晴
1721年　2月4日 享保6年　正月8日　曇　卯の刻より雪　節分
1721年　2月5日 享保6年　正月9日　晴
1721年　2月6日 享保6年　正月10日　曇　昨夜より雪　終日に及ぶ　(去月21日松前志摩守御遠行)
1721年　2月7日 享保6年　正月11日　快晴　(人事異動)
1721年　2月8日 享保6年　正月12日　曇　今朝雪　(御能)
1721年　2月9日 享保6年　正月13日　午の下刻より時々小雪　(御家中が福寿草差上げる)
1721年　2月10日 享保6年　正月14日　曇　昨夜より大雪　終日に及ぶ
1721年　2月11日 享保6年　正月15日　晴　昨夜中雪　(工藤嘉左衛門役料50俵の御礼)
1721年　2月12日 享保6年　正月16日　曇　今朝巳の刻過ぎまで雪フル
1721年　2月13日 享保6年　正月17日　快晴
1721年　2月14日 享保6年　正月18日　午の刻雪降
1721年　2月15日 享保6年　正月19日　快晴
1721年　2月16日 享保6年　正月20日　晴　(12月1日浦町組勝田村・12月27日金木組高根村の火元の村預け差免、尾太山より去年12月までに出:銅57固(16貫目入り)と10貫500目・鉛502固と4貫目・鉛(プラチナか)19200貫目)
1721年　2月17日 享保6年　正月21日　晴　(去年12月碇関:出124・入り92・出入り都合216人、大間越:出36・入り15・都合51人、松前の米値段(1升)123文・金子1歩に付き1貫70文位)
1721年　2月18日 享保6年　正月22日　曇　終日雪
1721年　2月19日 享保6年　正月23日　曇　終日雪
1721年　2月20日 享保6年　正月24日　曇　時々小雪　(野内:出72・入り57・出入り都合129人)
1721年　2月21日 享保6年　正月25日　曇　時々小雪
1721年　2月22日 享保6年　正月26日　曇　終日小雪　小風　夜中雨
1721年　2月23日 享保6年　正月27日　終日大雪　夜中小雪　(大間越より氷塩(なんじゃこれ)到来・差上げる)
1721年　2月24日 享保6年　正月28日　曇　終日小雪　下から続く　次右衛門(4寸3歩7寸4歩)・15日猿賀組袋村の助左衛門(4寸5寸1歩)それぞれ熊取る)
1721年　2月25日 享保6年　正月29日　陰晴　(4日尾崎組唐竹村の惣助(胆長3寸2歩廻り4寸7歩と3寸7歩4寸8歩)・6日同組切明村の衛門作(4寸4寸7歩)・駒越組桜庭村の喜右衛門(4寸7歩6寸4歩)・同組田代村の　上に続く
1721年　2月26日 享保6年　2月1日 終日雪降　(御家中が花が咲いた福寿草を差上げる)
1721年　2月27日 享保6年　2月2日 陰晴　夜中小雪　雷発す　(去年中野内:出109・入り112・出入り都合221人、去年尾太から出た銅は57固ト10貫500目・鉛は502固ト14貫目)
1721年　2月28日 享保6年　2月3日 陰晴　(正月26日後潟組杉の前浜で破船1艘、12日夜板屋野木の御蔵の壁を盗人が切り破る)

1721年　3月1日 享保6年　2月4日 快晴
1721年　3月2日 享保6年　2月5日 陰晴　午の中刻より少し雨 （各地で蕨根掘りのための杣取の申し出、12月15日の小泊村の火元の村預け赦免）
1721年　3月3日 享保6年　2月6日 今朝之雪巳の刻まで降　午の下刻より又雪
1721年　3月4日 享保6年　2月7日 晴 （正月中大間越:出5・入り20・出入り都合25人）
1721年　3月5日 享保6年　2月8日 酉の刻より小風　夜中雨少々降
1721年　3月6日 享保6年　2月9日 陰晴　終日小風 （正月中碇関:出73・入り115・出入り都合188人、3日より青森町下堤町の1軒（男3女1）行方不明）
1721年　3月7日 享保6年　2月10日 陰晴
1721年　3月8日 享保6年　2月11日 昨夜より之雨終日に及ぶ　暮頃より風雪　夜に入り風 （正月中野内:出41・入り27・出入り都合68人、9日夜赤田組山道村で火災1軒）
1721年　3月9日 享保6年　2月12日 今朝より終日吹雪　夜に入り風
1721年　3月10日 享保6年　2月13日 終日雪
1721年　3月11日 享保6年　2月14日 午の下刻より雨降　小風
1721年　3月12日 享保6年　2月15日 陰晴
1721年　3月13日 享保6年　2月16日 快晴
1721年　3月14日 享保6年　2月17日 曇　雨終日に及ぶ　亥の下刻地震
1721年　3月15日 享保6年　2月18日 陰晴
1721年　3月16日 享保6年　2月19日 陰晴
1721年　3月17日 享保6年　2月20日 曇　終日小雪
1721年　3月18日 享保6年　2月21日 終日雪降
1721年　3月19日 享保6年　2月22日 陰晴 （藤代組飯田村に70不明道心倒死、12月（15日）に小泊火災の類火が50軒）
1721年　3月20日 享保6年　2月23日 曇　終日雪
1721年　3月21日 享保6年　2月24日 今朝より時々小雪 （正月7日・13日広須新田加納村・入江村で2軒走る）
1721年　3月22日 享保6年　2月25日 晴
1721年　3月23日 享保6年　2月26日 曇　昨夜より之雨終日に及ぶ　四ノ御堀南ノ方氷トクル （十三の潟が21日に舟通用できるように明ける:全体が明けたのではないらしい）
1721年　3月24日 享保6年　2月27日 快晴 （金木新田神原村の川端に男死亡・狼喰骨斗残る）
1721年　3月25日 享保6年　2月28日 今朝より時々風雨　未の中刻より風甚雨　夜中風烈シク
1721年　3月26日 享保6年　2月29日 陰晴　昨夜の風終日に及ぶ （油川組油川村の男が刺され27日死亡、一昨7日夜広田組長橋村で火災、24日十三潟の大川湊より十三までの川筋潟明・彼岸と比較すると去年より15日早い）
1721年　3月27日 享保6年　2月30日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ　今朝御堀氷張ル （駒越組中畑村の彦右衛門（たて当たり胆なし）・杉ヶ沢村の惣左衛門（胆長4寸3歩廻り5寸8歩）・18日浦町組合子沢村の　下に続く
1721年　3月28日 享保6年　3月1日 陰晴　巳の刻前暫時雪　上から続く　弥左衛門（6寸6寸5歩）・新町野村の助兵衛（4寸6寸）それぞれ熊取る）
1721年　3月29日 享保6年　3月2日 晴　夜中少々雨
1721年　3月30日 享保6年　3月3日 卯の上刻より雨降　終日に及ぶ
1721年　3月31日 享保6年　3月4日 曇　昨夜中より雨　巳の刻まで降続く （大間越で狼荒れる・町同心に打たせるようにする）
1721年　4月1日 享保6年　3月5日 曇　昼の内少々雪振
1721年　4月2日 享保6年　3月6日 晴 （福士甚左衛門を成敗、去年入牢の男牢死）
1721年　4月3日 享保6年　3月7日 陰晴　午の下刻雨少振　昨今より御城の内並町々そうり（草履）道ニ成ル之
1721年　4月4日 享保6年　3月8日 快晴　今朝霜
1721年　4月5日 享保6年　3月9日 快晴
1721年　4月6日 享保6年　3月10日 寅の下刻少々雨　それより晴 （参勤江戸登り費用が2760両余・2003両不足して御内分金より借りる）
1721年　4月7日 享保6年　3月11日 快晴
1721年　4月8日 享保6年　3月12日 快晴　小風 （今別狄四郎三郎が善知鳥19羽持参する:狄が日本名を名乗っている）
1721年　4月9日 享保6年　3月13日 昨夜中より雨　今朝辰の上刻に及ぶ　則止む （屋形様今朝五時過ぎ御発駕）
1721年　4月10日 享保6年　3月14日 辰の下刻より小雨終日降 （昨日富田町の道筋で参勤の屋形様に藤崎組藤崎村の男が不届きあり・預け）
1721年　4月11日 享保6年　3月15日 陰晴　昨夜中より風　終日に及ぶ　巳の刻小雨　午の刻小雪　則止む
1721年　4月12日 享保6年　3月16日 曇　終日小風　昼の内少々小雪 （御内分より530両借りて春の御切米として渡す）
1721年　4月13日 享保6年　3月17日 今朝巳の刻過ぎ雨　未の刻晴　終日小風　午の刻雷少し発す （16日和徳組大久保村で火災1軒駒4疋、2月中野内:出64・入り54・出入り合118人）
1721年　4月14日 享保6年　3月18日 陰晴　終日小風
1721年　4月15日 享保6年　3月19日 曇　終日小風　辰の中刻小雪　則止む
1721年　4月16日 享保6年　3月20日 快晴 （魚油相場:1升が2匁4分1厘）
1721年　4月17日 享保6年　3月21日 曇　終日小風
1721年　4月18日 享保6年　3月22日 晴 （松前の米値段:1升が70文・金子1分が1貫140文、、3日・4日江戸で火災）
1721年　4月19日 享保6年　3月23日 今朝卯の上刻より雨降　終日に及ぶ　申の4刻土用に入る　十方くれ（十方暮:空がどんより曇って暗いことだろう:福眞）
1721年　4月20日 享保6年　3月24日 曇　今朝より雨　午の下刻晴 （16日の和徳組の火元の村預け御免）
1721年　4月21日 享保6年　3月25日 晴　終日小風
1721年　4月22日 享保6年　3月26日 曇　午の上刻より小風　それより少しこれあり風雨（夫より少有之風雨）
1721年　4月23日 享保6年　3月27日 晴　終日小風 （2月中碇関:出112・入り256・出入り合368人）
1721年　4月24日 享保6年　3月28日 晴　午の中刻より風 （25日・26日油川組津軽坂村で野火（100間×80間・200間×150間））　下から続く　・?日堀越組一野渡村の彦次郎・子三郎（5寸5歩6寸5歩・4寸5歩4寸）が熊取る）
1721年　4月25日 享保6年　3月29日 巳の刻より曇 （19日晩より25日まで鯵ヶ沢町で8・9度抛火、23日尾崎組唐竹村の惣助（胆長4寸周り5寸）・9日同村の甚左衛門（3寸5寸）・12日同組切明村の右衛門作（3寸4寸）　上に続く
1721年　4月26日 享保6年　4月1日 今朝卯の刻より終日小雨 （藤代組鬼沢村からの米俵に石を入れたものがあった）
1721年　4月27日 享保6年　4月2日 曇　巳の刻まで時々丸雪振　則止む　終日小風　夜中雨降 （去月27日広田組長橋村で火災・火元押し込め・耕作の時分であり免）
1721年　4月28日 享保6年　4月3日 小風　卯の上刻雷発す （炭5貫目入り1俵に付き1匁5分）
1721年　4月29日 享保6年　4月4日 晴　小風
1721年　4月30日 享保6年　4月5日 晴 （1日赤石組追良瀬村で火災（2間×3間:高無）・火元村預け）

1721年　5月1日 享保6年　4月6日 曇　午の刻過ぎより小風　(3月中碇関:出263・入り251・外に御供登りの人数)
1721年　5月2日 享保6年　4月7日 陰晴　終日小風　夜に入り亥の刻雨　則止む
1721年　5月3日 享保6年　4月8日 晴　午の下刻より小風　(切支丹類族福士甚左衛門が3月6日死罪になる、3月中大間越:出11・入り58人)
1721年　5月4日 享保6年　4月9日 今朝卯の上刻より雨降　終日に及ぶ(終日及)
1721年　5月5日 享保6年　4月10日 晴　終日小風　(3月中野内:出78・入り77人、鯵ヶ沢米値段10両に付き23俵9歩)
1721年　5月6日 享保6年　4月11日 晴
1721年　5月7日 享保6年　4月12日 曇　辰の中刻より雨　終日に及ぶ　(10日昼八半時駒越組五所川原村(後日の記述で五所村)で火災1軒・火元村預け)
1721年　5月8日 享保6年　4月13日 快晴
1721年　5月9日 享保6年　4月14日 快晴　夜中雨振
1721年　5月10日 享保6年　4月15日 昨夜中雨　未の下刻晴れる　それより風立つ　夜に入り大雨　雷数発す
1721年　5月11日 享保6年　4月16日 曇　昼の内雨少し振　終日小風
1721年　5月12日 享保6年　4月17日 快晴
1721年　5月13日 享保6年　4月18日 曇　(6日・8日飯詰組羽野木沢村に野火・松1万本焼失)
1721年　5月14日 享保6年　4月19日 快晴
1721年　5月15日 享保6年　4月20日 快晴　終日小風
1721年　5月16日 享保6年　4月21日 快晴
1721年　5月17日 享保6年　4月22日 快晴　巳の刻前曇　それより晴
1721年　5月18日 享保6年　4月23日 快晴　(10日五所村の火元の村預け赦免)
1721年　5月19日 享保6年　4月24日 快晴　今朝大霜
1721年　5月20日 享保6年　4月25日 曇
1721年　5月21日 享保6年　4月26日 快晴　午の刻より小風　(御蔵米値段:10両に付き沖御役とも24俵半)
1721年　5月22日 享保6年　4月27日 晴　昨夜中強風　今日終日小風　(24日夜浦町組浜田村で火災1軒雑駄2疋)
1721年　5月23日 享保6年　4月28日 晴　小風　(切支丹類族小泉半三郎病死64歳)
1721年　5月24日 享保6年　4月29日 快晴　今朝大霜
1721年　5月25日 享保6年　4月30日 快晴
1721年　5月26日 享保6年　5月1日 辰の中刻より小雨　終日に及ぶ　下から続く　(250間×100間程)、4月10日夜金木新田豊岡村で火災・火元の村預け赦免)
1721年　5月27日 享保6年　5月2日 卯の中刻より雨　午の刻より晴　(4月27日後潟組今別町金ヶ宇田で火災1軒(7間×4間:狄家)、同29日蟹田町黒山に野火(6・70間程)、同28日横内組久栗坂村で野火　上に続く
1721年　5月28日 享保6年　5月3日 晴　午の刻より小風　(先月20日後潟組平館山で翌30日まで野火(20丁四方)、先月26日後潟組清水村で野火(100間×4・50間程)
1721年　5月29日 享保6年　5月4日 晴
1721年　5月30日 享保6年　5月5日 快晴
1721年　5月31日 享保6年　5月6日 快晴　(追良瀬村・浜田村の火元の村預かり御免、4月中大間越:出36・入り38人)
1721年　6月1日 享保6年　5月7日 快晴　(4日昼後潟組小国沢で火災1軒(4間×8間:庄屋家)・火元村預け)
1721年　6月2日 享保6年　5月8日 快晴
1721年　6月3日 享保6年　5月9日 快晴
1721年　6月4日 享保6年　5月10日 快晴
1721年　6月5日 享保6年　5月11日 晴　午の中刻過ぎ小雨　則止む
1721年　6月6日 享保6年　5月12日 曇　度々小雨　午の刻過ぎ東風　(4月中碇関:出入り人数606人、4月中野内:出入り136人)
1721年　6月7日 享保6年　5月13日 晴　(11日転び切支丹類族小泉長次郎弟藤八当月3日より傷寒・今朝四時時疫病死21歳、12日浪岡組浪岡村で47・8不明道心倒死)
1721年　6月8日 享保6年　5月14日 快晴　(11日深浦で御城米船破船1艘)
1721年　6月9日 享保6年　5月15日 陰晴　(11日より赤石組種里村で田植え初め、浪岡組三崎村で火災2軒(2間×3間:高無・3間×5間:百姓)・火元他村預け)
1721年　6月10日 享保6年　5月16日 陰晴
1721年　6月11日 享保6年　5月17日 今朝卯の刻より雨　終日に及ぶ
1721年　6月12日 享保6年　5月18日 曇　終日雨降
1721年　6月13日 享保6年　5月19日 曇　午の刻より晴
1721年　6月14日 享保6年　5月20日 晴　夜に入り雨降　稲光見る　(小泉長次郎家内残らず時疫・その看護に行った転び切支丹類族の女も13日に傷寒・今朝20日五時に病死)
1721年　6月15日 享保6年　5月21日 晴　夜中雨　雷発す
1721年　6月16日 享保6年　5月22日 曇　終日雨
1721年　6月17日 享保6年　5月23日 曇
1721年　6月18日 享保6年　5月24日 陰晴　午の刻過ぎ雷発す
1721年　6月19日 享保6年　5月25日 陰晴　午の刻過ぎ雨少し
1721年　6月20日 享保6年　5月26日 晴　午の刻雷発す　小雨　小風
1721年　6月21日 享保6年　5月27日 陰晴
1721年　6月22日 享保6年　5月28日 晴
1721年　6月23日 享保6年　5月29日 午の刻より曇　夜に入り大雨
1721年　6月24日 享保6年　5月30日 陰晴　(16日磯松村の火元の村預け御免)
1721年　6月25日 享保6年　6月1日 快晴　(5月中所々御関所出人38人、昨5月30日晩八半過ぎ転び切支丹矢野玄周疫病死・22日より風気)
1721年　6月26日 享保6年　6月2日 曇　卯の下刻より雨時々振　午の中刻より夜中雨　(密通男牢死、4月30日にも男牢死)
1721年　6月27日 享保6年　6月3日 曇　終日雨　(牢で3人大病、先月29日晩広須新田坂元村で火災2軒(3間×4間:百姓・不明:庄屋)・火元の他村預けは赦免)
1721年　6月28日 享保6年　6月4日 晴
1721年　6月29日 享保6年　6月5日 快晴
1721年　6月30日 享保6年　6月6日 快晴　申の下刻地震少　(先月中大間越:出28・入り38人)

1721年　7月1日 享保6年　6月7日 快晴 （先月中野内:出80・入り79人）
1721年　7月2日 享保6年　6月8日 快晴
1721年　7月3日 享保6年　6月9日 快晴　申の下刻雷発す
1721年　7月4日 享保6年　6月10日 快晴　午の下刻雷一度発す （8日昼後潟組小国沢村で火災2軒・火元他村預け）
1721年　7月5日 享保6年　6月11日 晴　午の下刻雷 （大鰐村より初胡瓜5差上げる）
1721年　7月6日 享保6年　6月12日 陰晴　巳の刻より小雨　午の刻過ぎ雷
1721年　7月7日 享保6年　6月13日 曇　午の下刻小雨　終夜に及ぶ　申の刻地震少 （時疫御祈祷札3693枚を家中に配る）
1721年　7月8日 享保6年　6月14日 曇　昨夜よりの雨　巳の下刻まで振
1721年　7月9日 享保6年　6月15日 快晴 （5月中碇関:出入り合374人）
1721年　7月10日 享保6年　6月16日 陰晴
1721年　7月11日 享保6年　6月17日 卯の刻より小雨　終日に及ぶ （4月4日後潟組浜名村の沖で漁師2人が流され11日に松前の積丹半島の西側(さねない)に流れ寄る・多くの助けで生還）
1721年　7月12日 享保6年　6月18日 曇　卯の刻過ぎ雷度々発す　それより小雨　午の刻過ぎ雷　未の刻大雷一度発す （8日小国村の火元の他村預け赦免）
1721年　7月13日 享保6年　6月19日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　昼の内雷少し発す
1721年　7月14日 享保6年　6月20日 陰晴
1721年　7月15日 享保6年　6月21日 快晴
1721年　7月16日 享保6年　6月22日 曇　申の刻雨　卯の刻に及ぶ　又午の中刻より雨　終夜に及ぶ
1721年　7月17日 享保6年　6月23日 曇　終日雨　岩木川洪水 （茂森町に3・4歳子供倒死）
1721年　7月18日 享保6年　6月24日 曇　昨日より雨　午の刻過ぎまで
1721年　7月19日 享保6年　6月25日 昨日の雨　終日に及ぶ　申の二刻土用に入る （初真瓜5大鰐村より上る）
1721年　7月20日 享保6年　6月26日 晴
1721年　7月21日 享保6年　6月27日 晴
1721年　7月22日 享保6年　6月28日 晴
1721年　7月23日 享保6年　6月29日 快晴 （大鰐村から初茄子5上る　馬廻り番頭の妻縊死、17日大鰐組早瀬野村の長五郎が熊取る）
1721年　7月24日 享保6年　7月1日 快晴　今朝霧　午の刻雨　則止む （6月中所々御関所出人43人）
1721年　7月25日 享保6年　7月2日 曇　小雨　夜に入り雨 （4月28日大間越で青海苔取の11歳娘水死）
1721年　7月26日 享保6年　7月3日 陰晴
1721年　7月27日 享保6年　7月4日 快晴　暑気甚だしい （6月中大間越:出22・入り35・都合57人）
1721年　7月28日 享保6年　7月5日 快晴 （先月27日より時疫の古切支丹類族今朝病死）
1721年　7月29日 享保6年　7月6日 曇　午の刻過ぎ少し雨 （去月29日大鰐村より初茄子5差上げる）
1721年　7月30日 享保6年　7月7日 陰晴
1721年　7月31日 享保6年　7月8日 曇　午の刻小風
1721年　8月1日 享保6年　7月9日 陰晴 （6日昼過ぎ長勝寺入り口枡形に3斗女子捨子）
1721年　8月2日 享保6年　7月10日 曇　午の刻小雨 （5月に百石町に倒れていた女が9日に病死）
1721年　8月3日 享保6年　7月11日 陰晴
1721年　8月4日 享保6年　7月12日 晴　卯の刻過ぎ雨
1721年　8月5日 享保6年　7月13日 晴 （大鰐村の加賀助が5月13日に四十日早稲を植付・11日に出穂）
1721年　8月6日 享保6年　7月14日 晴　夜に入り雨 （本行寺の家来が縊死）
1721年　8月7日 享保6年　7月15日 曇　卯の刻より辰の刻前雨
1721年　8月8日 享保6年　7月16日 晴　申の中刻雨
1721年　8月9日 享保6年　7月17日 快晴　卯の刻より雨　それより晴 （先月中野内:出92・入り71人）
1721年　8月10日 享保6年　7月18日 陰晴
1721年　8月11日 享保6年　7月19日 陰晴　午の中刻小雨
1721年　8月12日 享保6年　7月20日 曇　辰の刻小雨
1721年　8月13日 享保6年　7月21日 快晴 （6月碇関:出224・入り172・都合394人、大鰐組八幡館村に55・6不明道心倒死）
1721年　8月14日 享保6年　7月22日 快晴
1721年　8月15日 享保6年　7月23日 陰晴 （一昨日猿賀組追子野木村の川原に50斗男倒死、土手町の切支丹類族が19日より引き風・今朝時疫の様子……）
1721年　8月16日 享保6年　7月24日 曇
1721年　8月17日 享保6年　7月25日 快晴　夜中雷発す
1721年　8月18日 享保6年　7月26日 快晴
1721年　8月19日 享保6年　7月27日 曇　今朝東風
1721年　8月20日 享保6年　7月28日 快晴　夜中雨
1721年　8月21日 享保6年　7月29日 晴
1721年　8月22日 享保6年　7月30日 快晴
1721年　8月23日 享保6年　閏7月1日　快晴　午の刻小雨 （7月中所々御関所出人25人）
1721年　8月24日 享保6年　閏7月2日　曇　小風
1721年　8月25日 享保6年　閏7月3日　曇 （類族が時疫で渇命・手を打つ）
1721年　8月26日 享保6年　閏7月4日　晴 （先月21日御扶持米を渡す・似せの受取人が……）
1721年　8月27日 享保6年　閏7月5日　快晴
1721年　8月28日 享保6年　閏7月6日　曇
1721年　8月29日 享保6年　閏7月7日　陰晴　申の下刻より雨　それより晴
1721年　8月30日 享保6年　閏7月8日　快晴
1721年　8月31日 享保6年　閏7月9日　快晴

1721年　9月1日 享保6年 閏7月10日 快晴
1721年　9月2日 享保6年 閏7月11日 陰晴 午の刻過ぎ晴 (油川組大谷村などで熊荒れ・御手筒足軽出す、大鰐組加賀助・岩館村弥助が初米3箱ずつ上げる)
1721年　9月3日 享保6年 閏7月12日 曇 時々小雨 残暑強し 夜中雨
1721年　9月4日 享保6年 閏7月13日 陰晴 午の刻小雨 小風 (御家中の家来が下女を切り殺す・この家来を成敗、和徳組原ヶ平村で34・5男縊死)
1721年　9月5日 享保6年 閏7月14日 晴 申の下刻小雨
1721年　9月6日 享保6年 閏7月15日 曇 卯の上刻小雨
1721年　9月7日 享保6年 閏7月16日 曇 時々小雨
1721年　9月8日 享保6年 閏7月17日 陰晴
1721年　9月9日 享保6年 閏7月18日 曇 時々雨降 (男牢死)
1721年　9月10日 享保6年 閏7月19日 晴 朝の内曇
1721年　9月11日 享保6年 閏7月20日 曇 昼の内雨
1721年　9月12日 享保6年 閏7月21日 晴 夜に入り雨
1721年　9月13日 享保6年 閏7月22日 快晴 辰の刻前雨 則止む (田舎館組境松村に乳児の捨子・村中で介護したが19日晩死亡、金木組の村々で狼荒れ御持足軽2人出す)
1721年　9月14日 享保6年 閏7月23日 晴 (切支丹類族が先月14日より時疫……・今朝六半病死、大間越町で熊狼あれる・町同心に鉄砲打たせるようにする)
1721年　9月15日 享保6年 閏7月24日 快晴
1721年　9月16日 享保6年 閏7月25日 快晴 (大型金1両に付き銭75匁・米値段古米1俵に付き23匁)
1721年　9月17日 享保6年 閏7月26日 快晴
1721年　9月18日 享保6年 閏7月27日 快晴 (昨七時過ぎ水木村で火災・火元押籠)
1721年　9月19日 享保6年 閏7月28日 快晴 (24日金木新田桜井村で60男倒死)
1721年　9月20日 享保6年 閏7月29日 陰晴 (油川組岩渡村で葛西勘兵衛が熊を打つ)
1721年　9月21日 享保6年　8月1日 快晴 岩木山雲懸り虹見る 亥の刻大雨 雷発す 戌の刻過ぎより晴る (閏7月中所々御関所出人33人)
1721年　9月22日 享保6年　8月2日 卯の下刻より大雨 雷発す それより時々雨 戌の下刻雨 雷発す
1721年　9月23日 享保6年　8月3日 陰晴 小風
1721年　9月24日 享保6年　8月4日 陰晴 午の刻過ぎ小雨少々 (先月中大間越:出28・入り31・都合59人)
1721年　9月25日 享保6年　8月5日 時々小雨 小風
1721年　9月26日 享保6年　8月6日 快晴
1721年　9月27日 享保6年　8月7日 陰晴 夜に入り雨振 (赤石組舞戸村などで127軒が渇命・7月13日より閏7月10日まで木津屋から米6石余取らせる)
1721年　9月28日 享保6年　8月8日 曇 時々雨降 (三之丸南大手之御門……)
1721年　9月29日 享保6年　8月9日 快晴
1721年　9月30日 享保6年　8月10日 晴 (閏7月中野内:出85・入り61人)
1721年　10月1日 享保6年　8月11日 晴
1721年　10月2日 享保6年　8月12日 晴 終日小風
1721年　10月3日 享保6年　8月13日 快晴 午の中刻より陰晴
1721年　10月4日 享保6年　8月14日 晴 小風
1721年　10月5日 享保6年　8月15日 曇 終日小風 (追良瀬村より初鮭1尺差上げる)
1721年　10月6日 享保6年　8月16日 曇 終日雨 小風 巳の下刻西の方虹見る
1721年　10月7日 享保6年　8月17日 晴 今朝岩木山頂上に雪見る (2日・3日江戸発の御徒目付に山上羽右衛門)
1721年　10月8日 享保6年　8月18日 晴 (先月26日増館組水木村火災の火元の押込め赦免)
1721年　10月9日 享保6年　8月19日 晴
1721年 10月10日 享保6年　8月20日 晴 申の下刻より小雨
1721年 10月11日 享保6年　8月21日 終日小雨
1721年 10月12日 享保6年　8月22日 曇 時々小雨 夜中雨　下から続く　83・25・21・4・8)・下女224(132・58・19・9・2・4)・家屋敷143軒・屋敷18軒・下屋敷3軒・乗馬2疋・牛なし)
1721年 10月13日 享保6年　8月23日 曇 今朝雨 午の刻晴 (切支丹宗門改め:惣人数2567人・上男1063(禅643・浄土229・法花86・門徒71・天台10・真言24)・上女904(536・192・86・56・11・23)・下男376(235・　上に続く
1721年 10月14日 享保6年　8月24日 曇 終日時々雨降 (脇元村・十三町より二番・三番鮭差上げる)
1721年 10月15日 享保6年　8月25日 晴
1721年 10月16日 享保6年　8月26日 晴 未の刻より雨 夜中雨 (閏7月中碇関:出172・入り213人)
1721年 10月17日 享保6年　8月27日 終日雨 岩木山に雪見る (誓願寺後・浜の町前川崩)
1721年 10月18日 享保6年　8月28日 なし(天気の記述がない)
1721年 10月19日 享保6年　8月29日 陰晴 岩木山6歩位まで雪降 (赤石・油川・駒越・横内組で当月中熊10疋取る)
1721年 10月20日 享保6年　8月30日 終日雨 今朝遠山に雪見る 未の刻初雪降 (当月中所々関所出人32人)
1721年 10月21日 享保6年　9月1日 晴 巳の中刻より曇 小雨少し 雷2度発す 夜中雨 (天気快晴の祈祷)
1721年 10月22日 享保6年　9月2日 雨降 午の下刻より晴
1721年 10月23日 享保6年　9月3日 小風 (打ち続く雨降 近山まで雪降る)
1721年 10月24日 享保6年　9月4日 陰晴 巳の中刻過ぎより晴 (先月中大間越:出41・入り32人)
1721年 10月25日 享保6年　9月5日 晴
1721年 10月26日 享保6年　9月6日 陰晴 未の下刻より曇 (殺人男斬罪・獄門各1人)
1721年 10月27日 享保6年　9月7日 曇 時々小雨 小風 午の下刻雪振
1721年 10月28日 享保6年　9月8日 陰晴 (4日金木組深郷田村で火災1軒・火元村預け・時分ゆえ直ぐ赦免)
1721年 10月29日 享保6年　9月9日 晴 今朝雨少し
1721年 10月30日 享保6年　9月10日 曇
1721年 10月31日 享保6年　9月11日 晴 (3日紙漉沢村で男が妻子を切り殺す・入牢)

1721年　11月1日 享保6年　　9月12日 曇　申の刻より夜中風雨
1721年　11月2日 享保6年　　9月13日 終日雨風　雷度々　(10日朝広須新田吹畑村に70位乞食道心倒死)
1721年　11月3日 享保6年　　9月14日 晴　(12日後潟組蓬田村で50男縊死)
1721年　11月4日 享保6年　　9月15日 快晴　夜中雨　(10日金木組喜良市村で鉄砲打ち足軽が狼(長さ3尺6寸高さ2尺4寸5歩)を打ち留める)
1721年　11月5日 享保6年　　9月16日 終日雨　(津軽中務閉門、13日赤石組正道尻で破船1艘)
1721年　11月6日 享保6年　　9月17日 終日雨降　(当8月中碇関:出182・入り218人、同8月中野内:出85・入り90人)
1721年　11月7日 享保6年　　9月18日 曇　時々小雨　(国上寺より出汗の注進・古懸で神事申付ける、大角豆屋うかん(長8寸・横2寸5歩・厚1寸)1本代銭5匁7分2厘、十三町中人数822人)
1721年　11月8日 享保6年　　9月19日 晴　夜五つ過ぎ地震　(13日赤石組岩崎で破船1艘)
1721年　11月9日 享保6年　　9月20日 晴　申の下刻より夜中時々雨
1721年 11月10日 享保6年　　9月21日 晴
1721年 11月11日 享保6年　　9月22日 陰晴　午の中刻小雨　則止む　小風　夜中雨　(類族まん昨日より時疫、長柄足軽某先月27日より時疫・今日病死)
1721年 11月12日 享保6年　　9月23日 終日雨　夜中雨降
1721年 11月13日 享保6年　　9月24日 終日雨　申の刻雪　夜に入り雪少々降
1721年 11月14日 享保6年　　9月25日 快晴　(24日田舎館組堂野前村で52・3女倒死)
1721年 11月15日 享保6年　　9月26日 晴　(浪岡組竹ヶ鼻村で60男倒死)　　下から続く　　11日唐牛村の次兵衛(4寸5寸)それぞれ熊取る)
1721年 11月16日 享保6年　　9月27日 晴　午の刻少し雨　酉の刻震動　戌の刻より雨　夜に及ぶ　　下から続く　　9日大秋村の新兵衛(3寸4寸3歩)・?日大鰐組虹貝村の長右衛門(5寸7寸5歩)・　　上に続く
1721年 11月17日 享保6年　　9月28日 晴　(和徳組清野袋村で22男縊死)　　下から続く　一野坪村の彦次郎(立当り胆なし)・13日駒越組桜庭村の喜右衛門(4寸4歩7寸5歩)・18日中畑村の仁助(2寸5歩3寸)・　　上に続く
1721年 11月18日 享保6年　　9月29日 晴　(当月中所々出人35人、4日金木組宮ノ沢村の喜三兵衛(胆長2寸5歩廻り4寸)・9日金木村の三郎右衛門(5寸3寸)・4日飯詰組若山村の半兵衛(4寸5歩3寸2歩)・　　上に続く
1721年 11月19日 享保6年　　10月1日 晴　午の下刻より小風
1721年 11月20日 享保6年　　10月2日 晴
1721年 11月21日 享保6年　　10月3日 晴
1721年 11月22日 享保6年　　10月4日 陰晴　夜に入り大雨　終夜に及ぶ
1721年 11月23日 享保6年　　10月5日 昨夜より雨　午の刻まで振　それより晴
1721年 11月24日 享保6年　　10月6日 晴
1721年 11月25日 享保6年　　10月7日 曇　亥の刻雨　終夜に及ぶ
1721年 11月26日 享保6年　　10月8日 曇　巳の刻より雨
1721年 11月27日 享保6年　　10月9日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1721年 11月28日 享保6年　　10月10日 曇　少々小雪　(9月中大間越:出68・入り16・合84人)
1721年 11月29日 享保6年　　10月11日 曇　午の刻より終日雨　(大鰐組石川村に男倒死・狼に喰われている)
1721年 11月30日 享保6年　　10月12日 曇　終日小雪　(代官岩渕某の倅乱心火付け自害)
1721年　12月1日 享保6年　　10月13日 陰晴　御堀の氷張り　時々小雪
1721年　12月2日 享保6年　　10月14日 曇　午の中刻より雨降
1721年　12月3日 享保6年　　10月15日 曇　今朝より雨　午の下刻まで　それより晴　(何故か一位様への献上品に梨子20)
1721年　12月4日 享保6年　　10月16日 曇　雨夜に入り降
1721年　12月5日 享保6年　　10月17日 曇　寅の刻より風雨
1721年　12月6日 享保6年　　10月18日 快晴
1721年　12月7日 享保6年　　10月19日 快晴　夜に入り雨風
1721年　12月8日 享保6年　　10月20日 晴　夜中雨降　(昨日まで二七日の時疫消除の御祈祷を長勝寺で行った)
1721年　12月9日 享保6年　　10月21日 昨夜中より雨　終日に及ぶ　(野内:出60・入り80人、17日青森で破船1艘)
1721年 12月10日 享保6年　　10月22日 曇　昨夜より之雪少々白之　(昨日より雪降り候而消え申さず候)
1721年 12月11日 享保6年　　10月23日 晴　(田舎館組境松村で34・5男倒死、長柄組足軽某13日より時疫・21日死亡)
1721年 12月12日 享保6年　　10月24日 曇　(先月碇関:出134・入り127人)
1721年 12月13日 享保6年　　10月25日 昨夜雨　辰の下刻雪時々降
1721年 12月14日 享保6年　　10月26日 晴　(22日昼油川組古川村に60不明乞食道心倒死)
1721年 12月15日 享保6年　　10月27日 曇
1721年 12月16日 享保6年　　10月28日 陰晴　時々小雨少々降　(桧皮(長4尺幅5寸)100枚値段12匁)
1721年 12月17日 享保6年　　10月29日 曇　午の中刻より雪
1721年 12月18日 享保6年　　10月30日 曇　辰の下刻雪時々　(当月中御関所出人6人、初鱈第二とも今日青森より差上げる)
1721年 12月19日 享保6年　　11月1日 終日雪降　(青森より三番鱈差上げる)
1721年 12月20日 享保6年　　11月2日 曇　終日雨降
1721年 12月21日 享保6年　　11月3日 曇　夜中小雨
1721年 12月22日 享保6年　　11月4日 晴
1721年 12月23日 享保6年　　11月5日 曇　昨夜より雨　辰の刻前雷発す　巳の刻過ぎ雷度々　雨終日
1721年 12月24日 享保6年　　11月6日 今朝雷発す　辰の刻より雪　それより晴　未の刻より曇　(5日土手町の土蔵で縊死)
1721年 12月25日 享保6年　　11月7日 曇　少々小雪　(享保元年より時疫煩いの者共今以て相止み申さず、4日十三潟氷張る・昨年12月7日より31日早く節に引合わせても15日早い、12月中大間越:出80・入り47人)
1721年 12月26日 享保6年　　11月8日 快晴
1721年 12月27日 享保6年　　11月9日 晴　夜に入り雨　卯の刻止む
1721年 12月28日 享保6年　　11月10日 陰晴
1721年 12月29日 享保6年　　11月11日 晴
1721年 12月30日 享保6年　　11月12日 曇
1721年 12月31日 享保6年　　11月13日 曇　終日小雪

1722年　1月1日 享保6年　11月14日 曇　終日小雪
1722年　1月2日 享保6年　11月15日 陰晴　時々雨
1722年　1月3日 享保6年　11月16日 時々雪降　(昨夜徒町橋脇に者倒死)
1722年　1月4日 享保6年　11月17日 陰晴　時々小雪　(11日夜金木組尾別村で火災(家7軒・借家7軒・淨心庵1軒・1歳男子・9歳18歳娘の3人焼死・馬8疋・牛1疋・稲3770束・米21俵等焼失、10月中野内:出79・入り47人)
1722年　1月5日 享保6年　11月18日 陰晴　今朝より少々雪降　則止む
1722年　1月6日 享保6年　11月19日 陰晴　丑の刻寒に入る
1722年　1月7日 享保6年　11月20日　(日記が存在しない)
1722年　1月8日 享保6年　11月21日 曇　時々雪
1722年　1月9日 享保6年　11月22日 快晴　(諸手六番組並足軽山上源六老年・その子源次郎新規召抱え)
1722年　1月10日 享保6年　11月23日 晴　(昨夜子の刻過ぎ新町(江戸町)で火災・火元法源寺に入寺)
1722年　1月11日 享保6年　11月24日 曇　時々小雨　夜に入り小雪　(10月中碇関:出147・入り169・出入り合316人)
1722年　1月12日 享保6年　11月25日 晴
1722年　1月13日 享保6年　11月26日 曇　時々雪降
1722年　1月14日 享保6年　11月27日 晴　卯の刻より晴　巳の刻より晴　夜中大雪
1722年　1月15日 享保6年　11月28日 晴　時々雪
1722年　1月16日 享保6年　11月29日 陰晴　(6日金木組宮野沢村の専助・19日赤石組種里村の介左衛門・25日駒越組大秋村の新兵衛(2疋)それぞれ熊とる)
1722年　1月17日 享保6年　12月1日 陰晴　時々小雪
1722年　1月18日 享保6年　12月2日 晴
1722年　1月19日 享保6年　12月3日 陰晴
1722年　1月20日 享保6年　12月4日 陰晴　夜に入り雪降　(鉛の採掘量・値段などの記述あり)
1722年　1月21日 享保6年　12月5日 快晴　(9日(広須新田)三館村で火災1軒、11月中大間越:出50・入り39人、雉子雄鳥1羽3匁・雌鳥2匁5分・無傷は1倍(当時の言い方で2倍の意))
1722年　1月22日 享保6年　12月6日 陰晴
1722年　1月23日 享保6年　12月7日 時々小雪　(4日夜広須新田土瀧村で火災1軒(4間×8間:百姓)・馬4疋・稲千束ほど・米10俵等焼失・火元他村預け)
1722年　1月24日 享保6年　12月8日 曇　時々雪　(5日夜飯詰組高野村で火災1軒(2間×4間:高無)・火元村預け)
1722年　1月25日 享保6年　12月9日 終日雪降　(6日常盤組水沼村に60男倒死)
1722年　1月26日 享保6年　12月10日 曇　時々小雪　(時疫今以て相やまず……)
1722年　1月27日 享保6年　12月11日 晴　(弘前御蔵米10両に付き沖役込み36俵・米1俵が21匁2分5厘内3匁が沖役・平米18匁2分5厘、青森御蔵米は平米19匁4分7厘3毛、一粒金丹29剤半御丸薬4055粒差上げる)
1722年　1月28日 享保6年　12月12日 終日雪降　(11月中野内:出67・入り90人、11月中碇関:出169・入り123人)
1722年　1月29日 享保6年　12月13日 曇　終日雪
1722年　1月30日 享保6年　12月14日 晴　(11日夜油川組岡町村で馬屋焼失馬1疋焼死)
1722年　1月31日 享保6年　12月15日 曇　時々雪降
1722年　2月1日 享保6年　12月16日 曇　夜に入り雪　(先月22日新町火災の火元赦免、9日振りの申付けに大雪で13日振りに到着の飛脚押込め)
1722年　2月2日 享保6年　12月17日 晴
1722年　2月3日 享保6年　12月18日 陰晴　夜に入り雪
1722年　2月4日 享保6年　12月19日 快晴
1722年　2月5日 享保6年　12月20日 曇　終日雪降　夜中雪
1722年　2月6日 享保6年　12月21日 曇　(3日夜三館村・5日夜高野村・11日夜岡町村の火元の村預けをそれぞれ赦免)
1722年　2月7日 享保6年　12月22日 曇　時々雪　(19日後方組奥内村で火災1軒(5間×11間:庄屋)・籾51俵・馬2疋等焼失、17日三馬屋沖で破船1艘)
1722年　2月8日 享保6年　12月23日 陰晴
1722年　2月9日 享保6年　12月24日 快晴
1722年　2月10日 享保6年　12月25日 終日雪降
1722年　2月11日 享保6年　12月26日 晴　今朝雪　(先月23日江戸発で22日に着いた荷物運びの宰領・19日振りに着いた飛脚それぞれ押込め)
1722年　2月12日 享保6年　12月27日 曇　午の下刻より雪降
1722年　2月13日 享保6年　12月28日 晴
1722年　2月14日 享保6年　12月29日 曇
1722年　2月15日 享保6年　12月30日 なし(天気の記述がない)
1722年　2月16日 享保7年　正月1日　快晴
1722年　2月17日 享保7年　正月2日　曇　終日雪降
1722年　2月18日 享保7年　正月3日　陰晴　雪
1722年　2月19日 享保7年　正月4日　曇　雪終日
1722年　2月20日 享保7年　正月5日　晴
1722年　2月21日 享保7年　正月6日　晴　(三新田代官岩間某病死)
1722年　2月22日 享保7年　正月7日　陰晴　申の刻過ぎ小雪降
1722年　2月23日 享保7年　正月8日　晴　巳の中刻より終日吹雪
1722年　2月24日 享保7年　正月9日　晴
1722年　2月25日 享保7年　正月10日　晴　朝の内少々雪降　それより時々小雪
1722年　2月26日 享保7年　正月11日　曇　昨夜よりの雪終日に及ぶ
1722年　2月27日 享保7年　正月12日　陰晴　昨夜吹雪
1722年　2月28日 享保7年　正月13日　曇　小雨時々

1722年　3月1日 享保7年 正月14日　晴 （広須新田桑木田村の大川堤に男倒死）
1722年　3月2日 享保7年 正月15日　曇 （秋登りの御徒歩に山上長太夫、16日・26日の遅れ足軽等を差許す）
1722年　3月3日 享保7年 正月16日　曇 時々雪降
1722年　3月4日 享保7年 正月17日　陰晴
1722年　3月5日 享保7年 正月18日　快晴
1722年　3月6日 享保7年 正月19日　曇 終日丸雪 夜中に及ぶ
1722年　3月7日 享保7年 正月20日　晴 夜に入り雪七八寸ふる 戌の上刻雷二三度発す
1722年　3月8日 享保7年 正月21日　曇 吹雪時々 （19日藤崎組川部村に44・5男倒死、後潟組三馬屋村の山師が喧嘩・1人死亡、報恩寺念仏堂出火、茂森町で49歳男縊死）
1722年　3月9日 享保7年 正月22日　曇 時々小雪 昨夜中七時報恩寺念仏堂焼失 （今朝七時前報恩寺念仏堂焼失）
1722年　3月10日 享保7年 正月23日　晴
1722年　3月11日 享保7年 正月24日　晴 （3尺柾千枚9匁5分・4尺柾千枚11匁5分）
1722年　3月12日 享保7年 正月25日　快晴
1722年　3月13日 享保7年 正月26日　快晴
1722年　3月14日 享保7年 正月27日　曇 丑の刻より雨終日 （赤石組立木村に36・7男倒死）　下から続く　村の定右衛門(4寸6寸5歩)それぞれ熊取る）
1722年　3月15日 享保7年 正月28日　終日雪降　下から続く　3寸3歩4寸:たての傷あり)・8日大鰐村の喜左衛門(6寸6寸8歩)・6日と14日赤石組の孫右衛門(5寸5歩6寸5歩と5寸3歩6寸3歩)・15日浪岡組徳才子　上に続く
1722年　3月16日 享保7年 正月29日　曇 昨夜の雪午の刻迄降 （17日駒越組中畑村の仁助(胆長4寸3歩廻り7寸2歩)・26日田代村の次右衛門(たて当たり胆なし)・6日と14日大鰐組唐牛村の次兵衛(2寸5歩2寸8歩と　上に続く
1722年　3月17日 享保7年　2月1日 陰晴 （笹森勘解由左衛門御役御免）
1722年　3月18日 享保7年　2月2日 晴
1722年　3月19日 享保7年　2月3日 晴　下から続く　・1尺1寸角(11.6・9・6)・1尺2寸角(13・11・8)・1尺3寸角(15.2・12・9)・1尺4寸角(19.3・14・10)）
1722年　3月20日 享保7年　2月4日 晴 夜に入り風雨 （2日昼赤石組舞戸村で火災1軒(2間半×2間:無高)）　下から続く　(43・34・24)・1尺4寸角(49・38・27)、1丈もの9寸角(7.4・6・5)・1尺角(9.7・7.7・6)　上に続く
1722年　3月21日 享保7年　2月5日 曇 小風小雪 （足軽夫婦自害、材木1本値段(上・中・下):2間半もの9寸角(15.1・11.7・8.3匁)・1尺角(25・17・12匁)・1尺1寸角(29・23・12)・1尺2寸角(36.5・28・20)・1尺3寸角　上に続く
1722年　3月22日 享保7年　2月6日 晴
1722年　3月23日 享保7年　2月7日 晴 （昨晩常源寺坂下に41歳男倒死）
1722年　3月24日 享保7年　2月8日 曇 少しばかり小雪 夜中風(曇少斗小雪夜中風)
1722年　3月25日 享保7年　2月9日 曇 小風
1722年　3月26日 享保7年　2月10日 曇 午の刻より小風
1722年　3月27日 享保7年　2月11日 曇 卯の刻より風 丸雪時々
1722年　3月28日 享保7年　2月12日 卯の下刻より雪降 午の下刻より晴 申の中刻雪降 （2月10日十三潟上川大湊より十三まで明ける・節との比較あり）
1722年　3月29日 享保7年　2月13日 晴 巳の刻より曇 同下刻より吹雪
1722年　3月30日 享保7年　2月14日 陰晴
1722年　3月31日 享保7年　2月15日 快晴
1722年　4月1日 享保7年　2月16日 晴
1722年　4月2日 享保7年　2月17日 陰晴 夜中雨
1722年　4月3日 享保7年　2月18日 晴 小風
1722年　4月4日 享保7年　2月19日 陰晴 （昨日大鰐組蔵館村で縊死）
1722年　4月5日 享保7年　2月20日 陰晴 （2日舞戸村の火元の他村預け免ず、10月25日広須新田中蒄村庄屋が逐電と見られていたが藤代組廻関村で狼に喰われ骨ばかりになり発見される）
1722年　4月6日 享保7年　2月21日 卯の刻前雷発す 雨降 巳の下刻より晴 夜に入り雪少し降
1722年　4月7日 享保7年　2月22日 曇 辰の刻小雪少々降 それより晴 小風
1722年　4月8日 享保7年　2月23日 陰晴 昨夜雪1寸ほど降
1722年　4月9日 享保7年　2月24日 快晴 昨夜中雪少々見る
1722年　4月10日 享保7年　2月25日 陰晴 小風
1722年　4月11日 享保7年　2月26日 快晴
1722年　4月12日 享保7年　2月27日 快晴
1722年　4月13日 享保7年　2月28日 陰晴 午の下刻より雨
1722年　4月14日 享保7年　2月29日 快晴
1722年　4月15日 享保7年　2月30日 快晴 （12月19日奥内村の火元の村預け差免）
1722年　4月16日 享保7年　3月1日 曇 朝の内少し雨降
1722年　4月17日 享保7年　3月2日 曇 今朝より小雨 巳の中刻より晴 （昨晩岩木川洪水水渡留め・今日四頃から船渡し）
1722年　4月18日 享保7年　3月3日 曇 今朝丸雪少々
1722年　4月19日 享保7年　3月4日 晴 午の下刻小風
1722年　4月20日 享保7年　3月5日 快晴 今朝霜 夜中小雪少し （昨3日夜堀越組小栗山村で外馬屋火災・火元村預け）
1722年　4月21日 享保7年　3月6日 快晴 今朝霜
1722年　4月22日 享保7年　3月7日 陰晴 今朝小雪 則止む 終日小風 （土手町で女房自害）
1722年　4月23日 享保7年　3月8日 快晴 （当2月中大間越:出60・入り57人）
1722年　4月24日 享保7年　3月9日 曇 未の刻より雨ちりちり 夜中少し降
1722年　4月25日 享保7年　3月10日 快晴
1722年　4月26日 享保7年　3月11日 快晴
1722年　4月27日 享保7年　3月12日 快晴 （高杉組高杉村に野火(60間×18間)、後潟組相内村に野火(300間×170～180間)
1722年　4月28日 享保7年　3月13日 快晴 今朝雪
1722年　4月29日 享保7年　3月14日 晴 午の刻過ぎ風吹 （12日夜油川組羽白村で火災2軒(3間×6間:百姓、2間×3間:高無)・小荷駄1疋、?日広須新田下古川村に70余男道心倒死）
1722年　4月30日 享保7年　3月15日 快晴

1722年　5月1日 享保7年　3月16日 今朝辰の刻雨　雷発す　時々小雪　申の刻丸雪
1722年　5月2日 享保7年　3月17日 晴　今朝霜　小風
1722年　5月3日 享保7年　3月18日 晴　午の刻過ぎより小風
1722年　5月4日 享保7年　3月19日 昨夜寅の刻より雨　今朝終日風（2月中碇関:出146・入り149人）
1722年　5月5日 享保7年　3月20日 曇　昨夜よりの雨　終日に及ぶ
1722年　5月6日 享保7年　3月21日 快晴　小風
1722年　5月7日 享保7年　3月22日 快晴（先月中野内:出46・入り44人、18日昼赤石組目内崎村で大火災(20軒)・火元(他:後日記述)村預け）
1722年　5月8日 享保7年　3月23日 快晴
1722年　5月9日 享保7年　3月24日 快晴
1722年　5月10日 享保7年　3月25日 晴　今朝少し雨
1722年　5月11日 享保7年　3月26日 曇　昨夜より雨　巳の刻止む　それより風（妻子を切り殺した山方役人・馬盗人・役人詐称・盗人の4人を斬罪・扶持米盗人1人を獄門）
1722年　5月12日 享保7年　3月27日 今朝巳の刻過ぎまで時々雨　それより晴　終日小風
1722年　5月13日 享保7年　3月28日 晴　未の上刻雨少し降（12日羽白村の火元を差免）　下から続く　それぞれ熊取る、当月中所々御関所出人78人）
1722年　5月14日 享保7年　3月29日 なし(天気の記述がない)（13日駒越組田代村の藤右衛門(胆長4寸廻り6寸2歩)・6日同組中畑村の彦左衛門(4寸3歩6寸)・11日浦町組新町野村の助兵衛(4寸5歩5寸）　上に続く
1722年　5月15日 享保7年　4月1日 晴
1722年　5月16日 享保7年　4月2日 晴　午の下刻より雨風
1722年　5月17日 享保7年　4月3日 曇　巳の中刻より雨降　下から続く　外馬屋2間×4間・馬4疋:類火百姓))
1722年　5月18日 享保7年　4月4日 曇　卯の刻過ぎより風　午の刻より雨降（3日駒越組で火災2軒(柾家3間×2間半・加屋家4間×9間・外馬屋2間半×4間:火元百姓、柾家2間×2間半・加屋家4間×9間・　上に続く
1722年　5月19日 享保7年　4月5日 曇　終日小風
1722年　5月20日 享保7年　4月6日 晴　卯の刻より時々小雨　巳の刻より晴（大間越町で狼荒れ鉄砲打ちを出す）
1722年　5月21日 享保7年　4月7日 陰晴　午の刻過ぎ雨降（6日夜和徳組富田村で火災1軒(柾家3間×11間・加屋家4間×5間:庄屋)・火元村預け、江戸御留守詰めの御徒に山上長太夫）
1722年　5月22日 享保7年　4月8日 曇　時々雨
1722年　5月23日 享保7年　4月9日 曇　時々雨
1722年　5月24日 享保7年　4月10日 曇　小風
1722年　5月25日 享保7年　4月11日 晴（先月18日目内崎村・以下日時不明津軽坂村・赤川村・大釈迦村の火元がそれぞれ村預け赦免）
1722年　5月26日 享保7年　4月12日 晴　今朝霜
1722年　5月27日 享保7年　4月13日 快晴　今朝霜　申の下刻より時々風雨少
1722年　5月28日 享保7年　4月14日 曇　終日時々雨降
1722年　5月29日 享保7年　4月15日 陰晴　巳の刻過ぎ少し雨
1722年　5月30日 享保7年　4月16日 晴（13日新町で16歳男縊死）
1722年　5月31日 享保7年　4月17日 快晴（2日堀越組松木平村・6日富田村の火元それぞれ村預け差免）
1722年　6月1日 享保7年　4月18日 陰晴
1722年　6月2日 享保7年　4月19日 曇　終日雨（大間越町で足軽目付縊死）
1722年　6月3日 享保7年　4月20日 曇　卯の刻よりきり雨　巳の刻より晴（赤石組で狼荒れる・御手筒足軽両人に申付ける）
1722年　6月4日 享保7年　4月21日 陰晴　午の刻少し雷
1722年　6月5日 享保7年　4月22日 曇　終日雨　辰の刻雷発す
1722年　6月6日 享保7年　4月23日 曇（五山に天気上げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1722年　6月7日 享保7年　4月24日 晴
1722年　6月8日 享保7年　4月25日 晴　終日風吹
1722年　6月9日 享保7年　4月26日 快晴
1722年　6月10日 享保7年　4月27日 晴　小風
1722年　6月11日 享保7年　4月28日 快晴
1722年　6月12日 享保7年　4月29日 快晴
1722年　6月13日 享保7年　4月30日 快晴
1722年　6月14日 享保7年　5月1日 曇　今朝より雨　終日に及ぶ　雨晴　午の下刻過ぎより風吹く
1722年　6月15日 享保7年　5月2日 陰晴
1722年　6月16日 享保7年　5月3日 快晴
1722年　6月17日 享保7年　5月4日 陰晴
1722年　6月18日 享保7年　5月5日 晴
1722年　6月19日 享保7年　5月6日 晴　小風
1722年　6月20日 享保7年　5月7日 晴（3月中碇関:出215・入り187人、3月中大間越:出37・入り46人、3月中野内:出84・入り73人）
1722年　6月21日 享保7年　5月8日 陰晴
1722年　6月22日 享保7年　5月9日 陰晴（屋形様5月12日に江戸発駕・6月2日に着城予定）
1722年　6月23日 享保7年　5月10日 快晴
1722年　6月24日 享保7年　5月11日 快晴（御歩行召抱え9人:5尺3寸9歩～5尺5寸5歩）
1722年　6月25日 享保7年　5月12日 快晴（米値段金10両で30俵・他に御役1俵に付き3匁）
1722年　6月26日 享保7年　5月13日 快晴　午の刻より曇　同中刻過ぎより雨降
1722年　6月27日 享保7年　5月14日 陰晴　巳の刻より雨降
1722年　6月28日 享保7年　5月15日 曇　巳の下刻より雨風暫くふる　午の刻雷発す　終日小風
1722年　6月29日 享保7年　5月16日 快晴
1722年　6月30日 享保7年　5月17日 曇　今朝より雨時々降

1722年　7月1日 享保7年　5月18日 陰晴　時々小雨 （大鰐村加賀助より初木瓜差上げる）
1722年　7月2日 享保7年　5月19日 曇　昨夜より雨　午の刻前少々宛降る
1722年　7月3日 享保7年　5月20日 快晴 （増館組の田に虫が付いたので虫除け御札を求められる）
1722年　7月4日 享保7年　5月21日 陰晴　午の中刻過ぎ小風　夜に入り雨風 （関札打ち到着）
1722年　7月5日 享保7年　5月22日（日付が前日と同様21日となっている・干支は丙午で22日に相当する・従って22日を21日と誤記したものと考える）曇　終日小風
1722年　7月6日 享保7年　5月23日 快晴　夜寅の刻過ぎ雨　雷発す
1722年　7月7日 享保7年　5月24日 快晴 （阿芙蓉を採る時節と報告あり）
1722年　7月8日 享保7年　5月25日 晴
1722年　7月9日 享保7年　5月26日 快晴
1722年　7月10日 享保7年　5月27日 快晴
1722年　7月11日 享保7年　5月28日 快晴 （大鰐村利左衛門より初茄子5差上げる）
1722年　7月12日 享保7年　5月29日 快晴
1722年　7月13日 享保7年　6月1日 晴 （当5月中所々御関所出人50人、大鰐村助十郎初真瓜5差上げる）
1722年　7月14日 享保7年　6月2日 陰晴 （屋形様御着城）
1722年　7月15日 享保7年　6月3日 晴 （一昨20日（先月のこと:飛脚持参書状内容）江戸で大風被害少々・今晩（22日か）江戸で火災1町ほど焼失）
1722年　7月16日 享保7年　6月4日 陰晴 （金木・飯詰組にも稲虫・御札を求められる）
1722年　7月17日 享保7年　6月5日 快晴
1722年　7月18日 享保7年　6月6日 快晴　午の刻過ぎ雷三四度発す
1722年　7月19日 享保7年　6月7日 陰晴　今朝雨少し　暑気甚だしい　亥の刻より土用入り （飯詰組金山村に44・5男倒死）
1722年　7月20日 享保7年　6月8日 晴
1722年　7月21日 享保7年　6月9日 陰晴　時々小雨 （御家中の剣術高覧）
1722年　7月22日 享保7年　6月10日 晴 （和徳・堀越・猿賀組で稲虫・御札587枚）
1722年　7月23日 享保7年　6月11日 快晴 （御能・狂言）
1722年　7月24日 享保7年　6月12日 晴　小風 （常盤・冨柳・中野村の稲に胴虫付く・虫除け札250枚）
1722年　7月25日 享保7年　6月13日 晴　小風 （江戸まで7日振りの急御用の飛脚立てる）
1722年　7月26日 享保7年　6月14日 曇　昨夜寅の中刻雨　則止む　午の刻より雨
1722年　7月27日 享保7年　6月15日 陰晴　暑気甚だしい　昨夜中雨 （昨14日昼頃より小雨　夜中も余程雨降候　頃日日照り雨乞い仰せ付けられ候に付きこれを記す、御家中の弓御覧）
1722年　7月28日 享保7年　6月16日 曇　午の后刻より時々雨 （御初米(四十日早稲)を4月26日に植付6月14日に出穂・昨年は5月13日植付7月12日出穂）
1722年　7月29日 享保7年　6月17日 晴
1722年　7月30日 享保7年　6月18日 曇　午の刻少々雨降　夜中大雨　終夜に及ぶ
1722年　7月31日 享保7年　6月19日 陰晴 （太刀仕合高覧）
1722年　8月1日 享保7年　6月20日 陰晴　今朝雨少し
1722年　8月2日 享保7年　6月21日 快晴 （御囃子）
1722年　8月3日 享保7年　6月22日 晴　巳の刻より段々晴 （和術高覧）
1722年　8月4日 享保7年　6月23日 なし(天気の記述がない)
1722年　8月5日 享保7年　6月24日 曇　終日小雨ふる
1722年　8月6日 享保7年　6月25日 陰晴　終日風　夜に入り雨　今日マテ岩木山雪少々見ユル
1722年　8月7日 享保7年　6月26日 陰晴　小風
1722年　8月8日 享保7年　6月27日 曇　終日小風　綿入袷着申候程寒候事
1722年　8月9日 享保7年　6月28日 陰晴　小風
1722年　8月10日 享保7年　6月29日 快晴 （21日昼から大東風・蟹田町で荷打ち9艘）
1722年　8月11日 享保7年　6月30日 晴 （2日駒越組桜庭村の喜右衛門2疋(胆長1寸廻り8歩・1寸2歩廻り9歩)熊取る）
1722年　8月12日 享保7年　7月1日 快晴 （真桑瓜1鉢差上げる）
1722年　8月13日 享保7年　7月2日 晴
1722年　8月14日 享保7年　7月3日 晴　今朝きり雨 （大間越:出47・入り29人）
1722年　8月15日 享保7年　7月4日 快晴　今朝五つ過ぎ迄きり降り申し候 （報恩寺より熟瓜差上げる）
1722年　8月16日 享保7年　7月5日 陰晴　巳の刻過ぎ少し雨はらはら(読みは「パラパラ」でしょうか)　それより晴　　下から続く　　・広田組で6月24日より28日まで東風昼夜吹き続く・晩稲の出穂なしなど……）
1722年　8月17日 享保7年　7月6日 快晴　残暑悉く強い （今日四つ半過ぎ織座で祢ふた(「ねぶた」と読むのでしょうか)高覧、初米大鰐組大鰐村の加賀助・尾崎組岩楯村の弥助から上る、油川・飯詰・金木・赤田・広須　　上に続く
1722年　8月18日 享保7年　7月7日 快晴　残暑甚だしく強い
1722年　8月19日 享保7年　7月8日 快晴　殊の外暑い （神宮寺より真桑瓜差上げる）
1722年　8月20日 享保7年　7月9日 快晴 （三之丸御屋敷で歌舞伎・今晩夜九時過ぎ御帰り）
1722年　8月21日 享保7年　7月10日 快晴
1722年　8月22日 享保7年　7月11日 曇　午の中刻より雨　それより晴 （御慰みの御能）
1722年　8月23日 享保7年　7月12日 快晴 （浪岡組中野村の鍛冶が時疫）
1722年　8月24日 享保7年　7月13日 晴　夜に入り丑の刻過ぎ雨降 （昨朝広須新田木作村で火災4軒(4間×11間:百姓、2間半×4間・3間×5間・2間半×4間:高無)・火元庄屋預け）
1722年　8月25日 享保7年　7月14日 陰晴　時々小雨
1722年　8月26日 享保7年　7月15日 晴　昨夜子の刻より雨　今朝辰の刻に及ぶ　それより晴
1722年　8月27日 享保7年　7月16日 曇 （狂言）
1722年　8月28日 享保7年　7月17日 陰晴
1722年　8月29日 享保7年　7月18日 晴
1722年　8月30日 享保7年　7月19日 快晴
1722年　8月31日 享保7年　7月20日 晴　午の刻雨少 （8月中野内:出72・入り52人）

1722年　9月1日 享保7年　7月21日 曇　寅の刻より雨　終日に及ぶ （最勝院より青森毘沙門堂の現状報告）
1722年　9月2日 享保7年　7月22日 今朝より終日雨
1722年　9月3日 享保7年　7月23日 陰晴　巳の下刻より雨時々　午の刻より雷数度発す
1722年　9月4日 享保7年　7月24日 晴
1722年　9月5日 享保7年　7月25日 曇　午の刻雷二三度　底なり （御城付足軽警固が5月に時疫で死亡）
1722年　9月6日 享保7年　7月26日 曇
1722年　9月7日 享保7年　7月27日 快晴
1722年　9月8日 享保7年　7月28日 曇　午の下刻より雨夜中 （米値段1俵18匁2分が頃日は16匁8分）
1722年　9月9日 享保7年　7月29日 今朝巳の刻過ぎ小雨少々　それより晴　小風
1722年　9月10日 享保7年　7月30日 快晴 （金木組の四郎三郎が熊1疋(胆長なし廻り4寸)取る）
1722年　9月11日 享保7年　8月1日 陰晴　巳の刻過ぎより時々雨降
1722年　9月12日 享保7年　8月2日 快晴
1722年　9月13日 享保7年　8月3日 快晴
1722年　9月14日 享保7年　8月4日 快晴
1722年　9月15日 享保7年　8月5日 陰晴
1722年　9月16日 享保7年　8月6日 快晴
1722年　9月17日 享保7年　8月7日 快晴
1722年　9月18日 享保7年　8月8日 曇　辰の刻過ぎより小雨時々　申の刻より夜に入り大雨
1722年　9月19日 享保7年　8月9日 今朝五前大雨　四過ぎより雨　申の刻刻雷数度　稲荷夜に入る(刻は多すぎ稲荷は稲光か:福眞） （7月12日の木作村の火元の他村預け差許す）
1722年　9月20日 享保7年　8月10日 曇　午の中刻より小雨　酉の下刻過ぎ地震少
1722年　9月21日 享保7年　8月11日 陰晴　小風 （十三より初鮭1尺(この場合は長さ)差上げる、御小納戸金4月が240両・1年間で1000両、近年覚え無きほど照り続き候故用水続きかね渇水に及び候……）
1722年　9月22日 享保7年　8月12日 晴　夜中雷発す
1722年　9月23日 享保7年　8月13日 陰晴　今朝雷発す　午の中刻より雨
1722年　9月24日 享保7年　8月14日 晴
1722年　9月25日 享保7年　8月15日 曇　昨夜より雨降　終日に及ぶ （雨天に付八幡宮祭礼延期）
1722年　9月26日 享保7年　8月16日 晴 （八幡宮祭礼）
1722年　9月27日 享保7年　8月17日 晴 （十三より二番鮭1尺差上げる）
1722年　9月28日 享保7年　8月18日 晴　午の刻より北風
1722年　9月29日 享保7年　8月19日 快晴 （人事異動）
1722年　9月30日 享保7年　8月20日 快晴 （油川組村々で狼荒れる・狼打ちのお手筒足軽1人を申付ける、15日の大風で小泊で破船2艘）
1722年　10月1日 享保7年　8月21日 晴　午の刻より小風 （18日浦町組(横内組の誤り)平新田で火災2軒(4間×11間:百姓、3間×6間:百姓、外馬屋2間×5間)・火元他村預け）
1722年　10月2日 享保7年　8月22日 晴 （一昨20日新田高野村で百姓が百姓の子を討殺す・殺人者入牢）
1722年　10月3日 享保7年　8月23日 曇　終日雨降　夜中雨降
1722年　10月4日 享保7年　8月24日 晴
1722年　10月5日 享保7年　8月25日 晴　小風終日
1722年　10月6日 享保7年　8月26日 晴
1722年　10月7日 享保7年　8月27日 陰晴　夜に入り雨降　　下から続く　　・35・19・9・6)・下女240(140・58・28・7・4・3)・家屋敷150軒・屋敷16・下屋敷3軒・乗馬3疋・牛なし）
1722年　10月8日 享保7年　8月28日 快晴 （支配切支丹人数改めの覚え:惣人数2635人・上男1085(禅668・浄土225・法花93・門徒63・真言24・天台12)・上女916(551・179・93・54・27・12)・下男394(239・86　　上に続く
1722年　10月9日 享保7年　8月29日 快晴　辰の下刻少し雨　則止む
1722年 10月10日 享保7年　9月1日 快晴
1722年 10月11日 享保7年　9月2日 快晴
1722年 10月12日 享保7年　9月3日 晴　午の刻より小風 （御薬御用に付き生まれこのえな(生連子の゛な)を藩医に差し出せとの指示あり:臍帯血・胎盤を使えるのか）
1722年 10月13日 享保7年　9月4日 陰晴　今朝卯の刻前小雨降
1722年 10月14日 享保7年　9月5日 陰晴 （8月8日(多分18日の誤り)横内組平新田の火元の村預け差免）
1722年 10月15日 享保7年　9月6日 曇　午の下刻より小雨 （当月中大間越:出44・入り41・出入り合85人）
1722年 10月16日 享保7年　9月7日 曇　時々小雨　殊の外寒し （一粒金丹4050粒差上げる）
1722年 10月17日 享保7年　9月8日 曇　昨昼過ぎより岩木山雪見ゆる
1722年 10月18日 享保7年　9月9日 曇　辰の刻より雨少々
1722年 10月19日 享保7年　9月10日 快晴 （去月18日より痢病の代官が9日に病死）
1722年 10月20日 享保7年　9月11日 曇　昨夜中大雨　雷電仕り候　午の中刻より大雨 （9日の風で八幡宮の鳥井(鳥居でしょうがこのように書いてある)倒れ候）
1722年 10月21日 享保7年　9月12日 終日雨 （11日晩柏木組柏木村で百姓が百姓を突き殺す・犯人入牢）
1722年 10月22日 享保7年　9月13日 晴 （一両年時疫不退……）
1722年 10月23日 享保7年　9月14日 晴 （10日朝大間越沖に無人船流れ寄せる）
1722年 10月24日 享保7年　9月15日 快晴
1722年 10月25日 享保7年　9月16日 今朝辰の刻より雨　それより晴 （去年は古い熊で不味かったので今年は若い熊を取って差し上げろとの指示）
1722年 10月26日 享保7年　9月17日 晴 （10日大間越に流れ寄せた無人船の持ち主分る・秋田鹿渡沖で乗り捨てたもの）
1722年 10月27日 享保7年　9月18日 快晴
1722年 10月28日 享保7年　9月19日 陰晴　辰の下刻雨暫く振　午の刻より晴
1722年 10月29日 享保7年　9月20日 曇　午の下刻雨少 （先月中野内:出76・入り82人）
1722年 10月30日 享保7年　9月21日 晴　今朝大霜
1722年 10月31日 享保7年　9月22日 快晴　今朝大霜 （8月中碇関:出292(御家中乗馬2疋)・入り301人）

1722年　11月1日 享保7年　9月23日 曇　今朝霜　巳の下刻より大風雨
1722年　11月2日 享保7年　9月24日 曇　時々初雪　巳の刻過ぎ雷数度発す　(今日少々の雪も振り寒く候に付き御用所に火鉢出す)
1722年　11月3日 享保7年　9月25日 曇　午の刻より段々晴　四方山の初雪見ユル
1722年　11月4日 享保7年　9月26日 晴　(御囃子)
1722年　11月5日 享保7年　9月27日 晴
1722年　11月6日 享保7年　9月28日 晴
1722年　11月7日 享保7年　9月29日 晴　(勘定奉行が又御内分金を借りている、三尺柾千枚9匁5分・四尺柾千枚11匁5分)
1722年　11月8日 享保7年　9月30日 晴　(24日の風で長勝寺門前の木戸が吹き倒れる(吹たを連))
1722年　11月9日 享保7年　10月1日 晴　(小鹿某に一粒金丹10粒下し置かれる:御家中が貰ったと記載された最初か)
1722年 11月10日 享保7年　10月2日 今朝卯の刻過ぎより雨　雷時々発す　午の下刻より晴
1722年 11月11日 享保7年　10月3日 晴　(昨2日藤代組床舞村に落雷・稲焼く)
1722年 11月12日 享保7年　10月4日 晴　辰の刻過ぎ小雨　則止む　夜に入り小雨　(2日明六つ時分床舞村の落雷で「にう」仕候稲350束焼く、飯詰・金木組で狼荒れる・(鉄砲打ちでなく)薩摩犬と2人出す)
1722年 11月13日 享保7年　10月5日 晴　夜に入り大風雨
1722年 11月14日 享保7年　10月6日 曇　終日雨時々　小丸雪少々降
1722年 11月15日 享保7年　10月7日 今朝初雪1寸程降る　終日時々小雪　(今朝初雪降り候に付き……)
1722年 11月16日 享保7年　10月8日 陰晴　時々雪
1722年 11月17日 享保7年　10月9日 晴　(6日朝六つ頃鯵ヶ沢で大風・破船1艘)
1722年 11月18日 享保7年　10月10日 快晴　今朝霜
1722年 11月19日 享保7年　10月11日 陰晴　巳の下刻雨少し降　それより晴
1722年 11月20日 享保7年　10月12日 陰晴　午の刻少し雨降
1722年 11月21日 享保7年　10月13日 快晴　今朝霜
1722年 11月22日 享保7年　10月14日 曇　小丸雪少々降
1722年 11月23日 享保7年　10月15日 晴
1722年 11月24日 享保7年　10月16日 時々小雪
1722年 11月25日 享保7年　10月17日 巳の刻過ぎ雨　今朝南の御堀水氷
1722年 11月26日 享保7年　10月18日 曇　昨夜亥の刻より風　今朝迄吹く　終日雪
1722年 11月27日 享保7年　10月19日 曇　時々雪　下から続く　小橋村で火災1軒(4間×7間:高無)・火元村預け、6日朝赤石組広戸村で破船1艘、高杉組高杉村で60位男道心倒死)
1722年 11月28日 享保7年　10月20日 曇　時々雪　(先月24日夜宇鉄崎で破船1艘、昨朝六つ前猿賀組猿賀村で火災1軒(2間×6間:高無)・阿ら米3俵・蕎麦2俵・大豆1俵焼失・火元村預け、18日夜八つ時分後潟組　上に続く
1722年 11月29日 享保7年　10月21日 晴　御堀氷張　(三の丸御屋敷で歌舞伎)
1722年 11月30日 享保7年　10月22日 曇　時々雪降
1722年　12月1日 享保7年　10月23日 曇　終日小風　(12日夜金木新田芦野村で火災1軒稲千束焼失・火元五人組預け、18日十三町中川原番所近所に破船の船柄寄せる)
1722年　12月2日 享保7年　10月24日 陰晴　今朝雪少し降　(20日十三に寄せた船柄の近くに死骸2人)
1722年　12月3日 享保7年　10月25日 曇　午の刻より雪降　(当9月中野内:出80・入り55・都合135人)
1722年　12月4日 享保7年　10月26日 晴　(表祐筆に一粒金丹5粒下し置かれる)　下から続く　押込めそれぞれ差免・収納時節ゆえ)
1722年　12月5日 享保7年　10月27日 曇　雨終日降　(24日夜九過ぎ藤代組種市村で火災1軒(3間半×9間:高無)・稲500束・米8俵・籾3俵・大豆9俵等焼失、12日芦野・18日小橋・猿賀及び24日種市村の火元の　上に続く
1722年　12月6日 享保7年　10月28日 晴　昼の内少々雪　則止む　(御慰みの御能)
1722年　12月7日 享保7年　10月29日 曇　時々小雪　(当月中所々御関所出人17人)
1722年　12月8日 享保7年　11月1日 曇
1722年　12月9日 享保7年　11月2日 快晴
1722年 12月10日 享保7年　11月3日 陰晴　(御家中が庭前の熟柿差上げる)
1722年 12月11日 享保7年　11月4日 晴　夜中雪
1722年 12月12日 享保7年　11月5日 今朝より終日雪　(妙心院様(信政公)十三回忌に伴い多数(武田源左衛門の子息など)御免)
1722年 12月13日 享保7年　11月6日 陰晴　昨夜雪降
1722年 12月14日 享保7年　11月7日 曇　今朝小雪
1722年 12月15日 享保7年　11月8日 曇　午の刻過ぎより雨
1722年 12月16日 享保7年　11月9日 曇　時々雨　夜中に及ぶ　(御能)
1722年 12月17日 享保7年　11月10日 曇　今朝より終日雪　(10月中大間越:出38・入り49人、一昨7日夜四つ頃より今別町で火災・町中家三ヶ二ほど焼失)
1722年 12月18日 享保7年　11月11日 陰晴　時々小雪　(7日夜五半時今別町で火災152軒・馬4疋焼失・御救い米10日分渡す)
1722年 12月19日 享保7年　11月12日 陰晴
1722年 12月20日 享保7年　11月13日 陰晴　(青森より初鱈二番鱈上る、11月10日夜金木組高根村より十三大湊まで氷張る・昨年は3日より張る・節に引き合わせると昨年より4日遅い)
1722年 12月21日 享保7年　11月14日 曇　時々吹雪　(今昼九つ過ぎ大光寺組金屋村で火災1軒(4間×13間:百姓)稲など焼失、昨夜同組日沼村で40男乞食倒死・狼に足などを喰いちぎられる)
1722年 12月22日 享保7年　11月15日 曇　終日吹雪
1722年 12月23日 享保7年　11月16日 晴
1722年 12月24日 享保7年　11月17日 曇　終日小雨
1722年 12月25日 享保7年　11月18日 陰晴　時々吹雪
1722年 12月26日 享保7年　11月19日 今朝より巳の刻まで時々雪　それより晴　(10月中碇関:出170・入り143人)
1722年 12月27日 享保7年　11月20日 曇　時々小雪
1722年 12月28日 享保7年　11月21日 晴　(表許(俵元)新田末広村で火災1軒(8尺×8尺:高無)当主と娘の2人焼死)
1722年 12月29日 享保7年　11月22日 晴
1722年 12月30日 享保7年　11月23日 晴　(14日大光寺組の火災で焼けた稲束の数などあり)
1722年 12月31日 享保7年　11月24日 曇　辰の刻小雪　(時疫よけの御祈祷先達て五山で行った)

1723年　1月1日 享保7年　11月25日 晴
1723年　1月2日 享保7年　11月26日 曇　吹雪　(7日今別の火災で類火の585人に1日4合の御救い米)
1723年　1月3日 享保7年　11月27日 晴　小雪時々　(当10月中野内:出61・入り58・都合119人)
1723年　1月4日 享保7年　11月28日 晴　　下から続く　　・相馬村の左衛門三郎(4寸6寸5歩)それぞれ熊取る)
1723年　1月5日 享保7年　11月29日 陰晴　時々雪　　下から続く　　・居土村の弥左衛門(6寸7寸3歩)・唐竹村の惣介(4寸8歩6寸5歩)・駒越組大秋村の新兵衛2疋(3寸5歩4寸5歩・4寸5歩5寸6歩)　　上に続く
1723年　1月6日 享保7年　11月30日 快晴　(今日より寒に入る、27日夜広須新田蓮川村で火災1軒(2間半×5間:借家)馬2疋焼失、(多分今月中・日付なし)大鰐組苦木村の仁兵衛(胆長3寸6歩廻り6寸5歩)　　上に続く
1723年　1月7日 享保7年　12月1日 陰晴　時々雪
1723年　1月8日 享保7年　12月2日 曇　終日雪降
1723年　1月9日 享保7年　12月3日 曇　辰の刻過ぎ小雪
1723年　1月10日 享保7年　12月4日 晴
1723年　1月11日 享保7年　12月5日 曇　時々雪
1723年　1月12日 享保7年　12月6日 曇　時々雪
1723年　1月13日 享保7年　12月7日 陰晴　午の下刻より小雪　(当11月中大間越:出28・入り48・都合76人)
1723年　1月14日 享保7年　12月8日 陰晴　今朝小雪
1723年　1月15日 享保7年　12月9日 陰晴　申の刻過ぎより雨降
1723年　1月16日 享保7年　12月10日 曇　終日雨霰雪降
1723年　1月17日 享保7年　12月11日 曇　昨夜一尺程雪降　(当11月分野内:出53・入り34・都合87人、米値段(沖役込み):弘前御蔵10両で44俵・鯵ヶ沢御蔵41俵半)
1723年　1月18日 享保7年　12月12日 晴　(追い鳥狩りに出た与力に山上仁右衛門)
1723年　1月19日 享保7年　12月13日 晴
1723年　1月20日 享保7年　12月14日 陰晴
1723年　1月21日 享保7年　12月15日 晴　(……数ヵ年打ち続く時疫……)
1723年　1月22日 享保7年　12月16日 陰晴
1723年　1月23日 享保7年　12月17日 陰晴
1723年　1月24日 享保7年　12月18日 陰晴
1723年　1月25日 享保7年　12月19日 快晴　(御小姓組の妻に一粒金丹5粒)
1723年　1月26日 享保7年　12月20日 快晴
1723年　1月27日 享保7年　12月21日 曇　雪降　(正月11日より12月9日まで鷹匠が捕えた鳥の総数240羽・半分強は雲雀、(月不明)碇関:入り91・出137・都合228人)
1723年　1月28日 享保7年　12月22日 曇　吹雪
1723年　1月29日 享保7年　12月23日 曇　辰の刻雪時々
1723年　1月30日 享保7年　12月24日 曇　終日雪
1723年　1月31日 享保7年　12月25日 曇　終日吹雪　(小鼓打に一粒金丹5粒)
1723年　2月1日 享保7年　12月26日 辰の刻雪止み晴　夜に入り雪　(御囃子:御能の曲の重要部分だけ行うことかな)
1723年　2月2日 享保7年　12月27日 陰晴　午の中刻より雪　　下から続く　　・大秋村の新兵衛(3寸4歩4寸5歩)それぞれ熊取る)
1723年　2月3日 享保7年　12月28日 陰晴　時々小雪　終夜雪　(3日駒越組田代村の次右衛門と藤右衛門(胆長3寸5歩廻り5寸5歩)・?日桜庭村の茂助(4寸6寸5歩)・17日田代村の藤右衛門(3寸4寸)　　上に続く
1723年　2月4日 享保7年　12月29日 曇　昨夜よりの雪終日に及ぶ　(当月中御関所出人都合6人)
1723年　2月5日 享保8年　正月1日　晴
1723年　2月6日 享保8年　正月2日　曇　雪降
1723年　2月7日 享保8年　正月3日　曇　雪降　(御謡初・御囃子)
1723年　2月8日 享保8年　正月4日　晴　時々雪
1723年　2月9日 享保8年　正月5日　曇　雪時々降
1723年　2月10日 享保8年　正月6日　曇　時(昨?)夜より之雪三寸ほど　終日に及ぶ
1723年　2月11日 享保8年　正月7日　陰晴　時々雪
1723年　2月12日 享保8年　正月8日　快晴
1723年　2月13日 享保8年　正月9日　陰晴　時々雪
1723年　2月14日 享保8年　正月10日　快晴　(旧冬蔵館村に男倒・6日死)
1723年　2月15日 享保8年　正月11日　快晴　午の下刻より雨　終夜　(人事異動)
1723年　2月16日 享保8年　正月12日　雨　卯の中刻より晴　(御囃子)
1723年　2月17日 享保8年　正月13日　快晴
1723年　2月18日 享保8年　正月14日　曇　終日雪
1723年　2月19日 享保8年　正月15日　快晴
1723年　2月20日 享保8年　正月16日　快晴　(石川・清水森・門外村付近で狼狩り)
1723年　2月21日 享保8年　正月17日　晴　戌の刻雷発す　それより雨　小風　(12月中大間越:出13・入り22人)
1723年　2月22日 享保8年　正月18日　曇　終日夜雪　小風
1723年　2月23日 享保8年　正月19日　晴　卯の刻過ぎより辰の刻過ぎまで時々雪
1723年　2月24日 享保8年　正月20日　晴　(先月27日悪戸村の火元(記述なし)の他村預け御免)
1723年　2月25日 享保8年　正月21日　快晴　(12日転び切支丹類族小泉十五郎(36)病死)
1723年　2月26日 享保8年　正月22日　曇　小雪時々　(森岡八三郎の下屋敷1万坪の中に:梨木18本・桑44本・桜113本・梅ノ木6本・杉38本等がある、去年12月中碇関:出112・入り76・出入り都合188人)
1723年　2月27日 享保8年　正月23日　陰晴　雪時々降　(13・16日の狼狩りの獲物は兎10のみか?)
1723年　2月28日 享保8年　正月24日　陰晴　(御徒に一粒金丹5粒、去年12月中野内:出45・入り44・出入り都合89人)

1723年　3月1日 享保8年 正月25日　晴　小風
1723年　3月2日 享保8年 正月26日　卯の下刻より時々雪　午の刻過ぎより雨ふる （各地で狼が荒れ狼打ち4人出すこととする）
1723年　3月3日 享保8年 正月27日　陰晴　今朝小雨 （18日宇鉄で破船1艘）
1723年　3月4日 享保8年 正月28日　快晴
1723年　3月5日 享保8年 正月29日　陰晴　午の刻過ぎ小風　　下から続く　　2匁・遠いところは運賃を加え2匁2分に仰せ付ける）
1723年　3月6日 享保8年 正月30日　晴　辰の刻過ぎ少し雪 （10日尾崎組尾崎村の十兵衛(胆長4寸6歩廻り5寸5歩)・旧蝋26日駒越組大秋村の新兵衛(4寸5寸7歩)それぞれ熊取る、柏木炭1俵(3貫500目)　　上に続く
1723年　3月7日 享保8年　2月1日 陰晴
1723年　3月8日 享保8年　2月2日 快晴
1723年　3月9日 享保8年　2月3日 快晴 （屋形様が大鰐へ湯治）
1723年　3月10日 享保8年　2月4日 晴 （和徳組堅田村辺りで派遣の与力佐々木某が30目鉄砲(普通の玉は3匁5分でこの8倍余りの重さの玉です)で狼1疋取る）
1723年　3月11日 享保8年　2月5日 昨夜中今朝辰の刻まで雪三寸ほど降
1723年　3月12日 享保8年　2月6日 晴
1723年　3月13日 享保8年　2月7日 辰の刻風暫く　巳の下刻より雨降
1723年　3月14日 享保8年　2月8日 晴 （5日金木組川蔵村で男縊死）
1723年　3月15日 享保8年　2月9日 曇　時々雪
1723年　3月16日 享保8年　2月10日 晴
1723年　3月17日 享保8年　2月11日 晴
1723年　3月18日 享保8年　2月12日 曇 （去ル9日夜派遣された高杉某狼1疋打つ）
1723年　3月19日 享保8年　2月13日 快晴 （今日狩場に於ける獲物5疋・内3疋生け捕り）
1723年　3月20日 享保8年　2月14日 曇　時々小雪 （11日十川村で高杉某1疋・田舎館組豊蒔村で佐々木某狼1疋打つ）
1723年　3月21日 享保8年　2月15日 曇　時々風雪　夜に入り小風
1723年　3月22日 享保8年　2月16日 晴　折々小風
1723年　3月23日 享保8年　2月17日 快晴 （狼の肉を狼狩り中の希望者36人に渡す、15日赤田組赤田村で須藤某狼1疋打つ）
1723年　3月24日 享保8年　2月18日 晴 （15日金木新田豊岡村で火災3軒(6間×4間:百姓・3間×6間:百姓・3間×5間:不明)・米300俵・籾50俵(これだけ6斗入り)・種籾12俵・馬4疋焼死・火元庄屋預け）
1723年　3月25日 享保8年　2月19日 曇　昨夜風雨　終日に及ぶ （16日金木組金木村で火災1軒(3間×7間:高無)・火元村預け）
1723年　3月26日 享保8年　2月20日 曇　終日風 （当正月中碇関:出58・入り147・出入り都合205人、浪岡村付近で狼を2疋打ったが血を流しながら逃げられたとか）
1723年　3月27日 享保8年　2月21日 晴 （三之丸お屋敷で歌舞伎）
1723年　3月28日 享保8年　2月22日 晴　時々小風 （当正月中野内:出24・入り18人、炭3貫500目入り1俵1匁7分）
1723年　3月29日 享保8年　2月23日 晴
1723年　3月30日 享保8年　2月24日 曇　午の刻より雨降 （炭値段5貫目入り1俵1匁2分5厘）
1723年　3月31日 享保8年　2月25日 巳の下刻小雨
1723年　4月1日 享保8年　2月26日 晴　昨夜雪　終日に及ぶ （23日夜金木組金木村で外馬屋火災(2間×3間)・火元村預け、24日夜横内組宮崎村で火災1軒(2間半×4間:高無)・火元村預け）
1723年　4月2日 享保8年　2月27日 陰晴 （25日十三潟明け・船通る）　　下から続く　　・13日横内組浅虫村の弥助(5寸7寸)それぞれ熊取る）
1723年　4月3日 享保8年　2月28日 晴 （御能）　　下から続く　　(4寸3歩7寸)・10日赤石組小森村の小三郎(3寸5寸)・9日浦町組合子(沢)村の弥左衛門(5寸5歩8寸)・3日同組新町野村の助兵衛(6寸6寸5歩)　　上に続く
1723年　4月4日 享保8年　2月29日 晴 （19日尾崎組尾崎村の十兵衛(胆長5寸6歩回り6寸8歩)・9日同人(4寸5歩6寸5歩)・7日大鰐組?森山村の弥左衛門(4寸3歩6寸2歩)・1日同組苦木村の長右衛門　　上に続く
1723年　4月5日 享保8年　3月1日 晴 （先月29日油川湊目付の手付け足軽が自害）
1723年　4月6日 享保8年　3月2日 快晴 （先月28日の大風で赤石組金井ヶ沢沖で水船1艘、金木新田(15日)・金木(16日)の火元の村預け御免）
1723年　4月7日 享保8年　3月3日 晴　時々小風 （関札打役発足）
1723年　4月8日 享保8年　3月4日 晴
1723年　4月9日 享保8年　3月5日 快晴　夜に入り雨
1723年　4月10日 享保8年　3月6日 曇　雨時々
1723年　4月11日 享保8年　3月7日 晴
1723年　4月12日 享保8年　3月8日 曇　昨夜より雨　辰の刻に及ぶ
1723年　4月13日 享保8年　3月9日 快晴 （御囃子、7日七時分東風強く十三潟で破船2艘水船1艘、6日朝赤石湊で破船1艘）
1723年　4月14日 享保8年　3月10日 曇　巳の刻より雨少し　それより晴 （宿取御手廻発足）
1723年　4月15日 享保8年　3月11日 曇　小風
1723年　4月16日 享保8年　3月12日 快晴
1723年　4月17日 享保8年　3月13日 快晴 （御発駕）
1723年　4月18日 享保8年　3月14日 卯の刻より雨　終日時々降 （今夕駒越川洪水、1両が78匁）
1723年　4月19日 享保8年　3月15日 曇　寅の刻風吹　辰の刻過ぎ相止 （昨晩御家中の世倅が乱心・自害）
1723年　4月20日 享保8年　3月16日 曇　午の下刻風雨
1723年　4月21日 享保8年　3月17日 快晴 （今朝明七つ高杉組鶴田村で火災1軒(9軒×3軒半:庄屋)・火元時節柄預け差免、野内:出43・入り42・都合85人、大間越:出20・入り51・都合71人）
1723年　4月22日 享保8年　3月18日 快晴
1723年　4月23日 享保8年　3月19日 晴 （津軽中務知行召し放ち・津軽大蔵預け・苗字紋取上げ、当2月中碇関:出123・入り91人）
1723年　4月24日 享保8年　3月20日 陰晴
1723年　4月25日 享保8年　3月21日 曇
1723年　4月26日 享保8年　3月22日 晴 （昨19日昼後潟組小国村で火災13軒(庄屋の家1軒だけ残る)・火元他村預け、14日秋田県の早口川洪水）
1723年　4月27日 享保8年　3月23日 陰晴　小風
1723年　4月28日 享保8年　3月24日 陰晴 （昨21日夜七時尾崎組尾崎村で火災1軒(3間×2間半と3間×5間・外馬屋3間×3間・馬3疋:百姓)・火元村預け）
1723年　4月29日 享保8年　3月25日 陰晴
1723年　4月30日 享保8年　3月26日 陰晴　昨夜より雨　終夜に及ぶ　今日も時々雨降 （堀越組小比内村に13・4女子の蓙(ござ)包み死体あり）

1723年　5月1日 享保8年　3月27日 陰晴　辰の刻雨　巳の中刻地震 （22日夜九半頃金木新田桜井村で火災1軒、尾崎村(21日)・桜井村(22日)の火元の村預け御免）
1723年　5月2日 享保8年　3月28日 快晴 （鰺ヶ沢と弘前間の駄賃でもめている・昔1駄が3匁5分を4匁4分余に変更したが最近1両年は2匁以上の上乗せもある）
1723年　5月3日 享保8年　3月29日 晴 （22日広須新田野田村で蔵米300俵積みの船破船1艘）
1723年　5月4日 享保8年　3月30日 快晴　午の刻過ぎ小風
1723年　5月5日 享保8年　4月1日 晴　小風
1723年　5月6日 享保8年　4月2日 曇　昨夜中雨　終夜に及ぶ　今朝辰の刻より雨　巳の下刻止む （3月28日鰺ヶ沢町で男道心縊死）
1723年　5月7日 享保8年　4月3日 快晴　時々小風
1723年　5月8日 享保8年　4月4日 快晴 （2日夜増館組水木村で火災1軒・火元同村の親類預け、鉛1貫目の値段が18匁2分(上方では10匁7分?)、大平村(先月19日小国のことか)の火元を差し許す）
1723年　5月9日 享保8年　4月5日 晴　午の刻小風
1723年　5月10日 享保8年　4月6日 快晴　時々小風
1723年　5月11日 享保8年　4月7日 快晴 （3月中野内:出66・入り56・都合122人）
1723年　5月12日 享保8年　4月8日 快晴 （御発駕御供人数931人乗馬4疋の他3月碇関:出195・入り243・都合433人(?)、3月中大間越(野内と書かれている):出22・入り59・都合81人）
1723年　5月13日 享保8年　4月9日 快晴　昼過ぎより時々小風　未の下刻より雨少し （7日夜赤石組中村で火災1軒(2間×3間:高無)・火元村預け）
1723年　5月14日 享保8年　4月10日 曇　今朝より終日雨時々
1723年　5月15日 享保8年　4月11日 なし(天気の記述がない)
1723年　5月16日 享保8年　4月12日 快晴 （6日夜九時より浪岡組五本松村で野火）
1723年　5月17日 享保8年　4月13日 晴 （今日休日とし重役の登城なし・このごろこんな記述が見える）
1723年　5月18日 享保8年　4月14日 陰晴 （2日朝屋形様草下(草加)駅御発駕・千寿(千住)で御装束を召し直され惣御老中様御勤・四半時御着座）
1723年　5月19日 享保8年　4月15日 晴　未の下刻より雨時々 （13日猿賀組尾上村に11歳位の女乞食相果る）
1723年　5月20日 享保8年　4月16日 今朝より時々風雨　辰の中刻過ぎ雷二三度発す
1723年　5月21日 享保8年　4月17日 曇　終日雨　午の刻大雨　則止む （7日中村の火元の村預け赦免）
1723年　5月22日 享保8年　4月18日 卯の上刻少し雨降る　それより晴(卯ノ上刻少雨フル　夫ヨリ晴）
1723年　5月23日 享保8年　4月19日 快晴
1723年　5月24日 享保8年　4月20日 快晴 （御家中に一粒金丹5粒下される）
1723年　5月25日 享保8年　4月21日 快晴
1723年　5月26日 享保8年　4月22日 快晴 （大鰐組大鰐村に42・3男乞食倒死）
1723年　5月27日 享保8年　4月23日 陰晴
1723年　5月28日 享保8年　4月24日 終日小雨
1723年　5月29日 享保8年　4月25日 陰晴
1723年　5月30日 享保8年　4月26日 陰晴 （21日に西風強く竜飛沖などで漂船2艘）
1723年　5月31日 享保8年　4月27日 陰晴 （五穀成就の祈祷申立、25日夜五時赤石組舞戸村で火災5軒(4間×3間・同×同:高無・6間×4間・4間×5間:百姓)・火元他村預け）
1723年　6月1日 享保8年　4月28日 晴　下から続く　次右衛門(3寸2歩2寸6歩)・30日同人(3寸8歩6寸2歩)それぞれ熊取る）
1723年　6月2日 享保8年　4月29日 晴 （当月中御関所出人都合39人・切手紙数26枚、12日飯詰組若山村の半兵衛(胆長6寸廻り7寸)・3月28日横内組横内村の左衛門四郎(4寸4寸)・13日駒越組田代村の　上に続く
1723年　6月3日 享保8年　5月1日 晴 （昨29日金木組喜良市に山火事、赤石組中村で山菜取り55男遭難?3日の記述で自害）
1723年　6月4日 享保8年　5月2日 陰晴 （4月27・28日赤石組小森・金沢村で田植え初め、赤石組で狼等が荒れ御手筒足軽2人(3日の記述では葛西某と木村某)遣わす）
1723年　6月5日 享保8年　5月3日 陰晴　昨夜亥の刻より終夜雨　今朝六過ぎより晴ル
1723年　6月6日 享保8年　5月4日 晴 （30日駒越組駒越村で流死者あり、油川組で狼荒れ御手筒足軽1人(5日の記述で成田某)出す）
1723年　6月7日 享保8年　5月5日 快晴
1723年　6月8日 享保8年　5月6日 晴
1723年　6月9日 享保8年　5月7日 今朝より時々雨降　夜中雨 （4月中大間越:出26・入り21・都合49?人）
1723年　6月10日 享保8年　5月8日 終日雨 （5日昼八時より金木組川倉で山火事）
1723年　6月11日 享保8年　5月9日 陰晴
1723年　6月12日 享保8年　5月10日 快晴 （先月25日舞戸村の火元の村預け差許す、5日川倉の山火事で20町×12町ほど・檜2千本ほど焼ける）
1723年　6月13日 享保8年　5月11日 快晴
1723年　6月14日 享保8年　5月12日 巳の下刻より時々雨降
1723年　6月15日 享保8年　5月13日 陰晴　昨暮前より雨　終夜に及ぶ　今日昼前まで時々小雨
1723年　6月16日 享保8年　5月14日 快晴
1723年　6月17日 享保8年　5月15日 快晴
1723年　6月18日 享保8年　5月16日 今朝より雨時々
1723年　6月19日 享保8年　5月17日 陰晴
1723年　6月20日 享保8年　5月18日 陰晴
1723年　6月21日 享保8年　5月19日 快晴 （一昨16日夜四つ過ぎ浦町組高田村で火災2軒(4間×14間:百姓・4間×8間:高無)・火元他村預け）
1723年　6月22日 享保8年　5月20日 曇 （4月中野内:出71・入り77・都合148人）
1723年　6月23日 享保8年　5月21日 陰晴
1723年　6月24日 享保8年　5月22日 陰晴　午の刻少し雨
1723年　6月25日 享保8年　5月23日 快晴
1723年　6月26日 享保8年　5月24日 快晴 （22日夜九つ頃の高杉村の盗人並びに火付けの三四郎捕まる、碇関:出211・入り380・都合596?人）
1723年　6月27日 享保8年　5月25日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ （けし五反歩の内三ヶ一花おさまり「阿芙蓉」(阿片のこと)を取る）
1723年　6月28日 享保8年　5月26日 今朝より時々小雨 （23日十三沖で破船4艘）
1723年　6月29日 享保8年　5月27日 時々小雨 （昨24日油川組で成田某が狼1疋打ち留める、蟹田町で狼荒れ町同心に鉄砲を持たせる）
1723年　6月30日 享保8年　5月28日 曇　時々雨

1723年　7月1日 享保8年　5月29日 巳の中刻過ぎより雨時々 （当月中御関所出人都合29人・切手紙数22枚、24日油川組岩渡で成田某狼1疋打ち留める）
1723年　7月2日 享保8年　6月1日 時々小雪(小雨の誤りか) （大鰐村より初胡瓜5個上る・3個は粕漬けにして明日の便で江戸に・2個は二の丸の勝之助様に）
1723年　7月3日 享保8年　6月2日 時々雨
1723年　7月4日 享保8年　6月3日 朝の内雨　それより晴
1723年　7月5日 享保8年　6月4日 巳の中刻過ぎ少し雨　それより晴
1723年　7月6日 享保8年　6月5日 快晴
1723年　7月7日 享保8年　6月6日 快晴
1723年　7月8日 享保8年　6月7日 快晴
1723年　7月9日 享保8年　6月8日 曇　卯の刻雨
1723年　7月10日 享保8年　6月9日 快晴 （6月中大間越:出17・入り31・都合48人）
1723年　7月11日 享保8年　6月10日 快晴
1723年　7月12日 享保8年　6月11日 曇　午の刻雨降
1723年　7月13日 享保8年　6月12日 晴　巳の刻まで曇 （5月17日朝江戸の御小姓組久保田数馬自害、鯵ヶ沢で近年鯡漁なし、五穀成就の御祈祷を申し立てる）
1723年　7月14日 享保8年　6月13日 快晴
1723年　7月15日 享保8年　6月14日 快晴 （御台所の井水をかえる作業中の鳶の者が落下・救助に入ったものも含め2人が助かり・翌日の記述で死亡）
1723年　7月16日 享保8年　6月15日 陰晴 （当5月中碇関:出106・入り169・出入り都合275人、痘瘡(天然痘のはず)の娘に熊胆を使っている）
1723年　7月17日 享保8年　6月16日 晴 （昨日冨田村に34・5位の倒女あり・介護し医者に見せたが死亡）
1723年　7月18日 享保8年　6月17日 快晴 （5月分野内:出59・入り74・都合133人、大目付の妻に一粒金丹5粒）
1723年　7月19日 享保8年　6月18日 快晴 （13日大鰐組宿川原村に法躰の60女倒死）
1723年　7月20日 享保8年　6月19日 快晴　土用寅の初刻に入る
1723年　7月21日 享保8年　6月20日 晴
1723年　7月22日 享保8年　6月21日 卯の上刻より大雨　終日に及ぶ　申の中刻雷発す
1723年　7月23日 享保8年　6月22日 陰晴　何茂袷着(何れも袷着る:裏付きを皆が着たということは寒かったか)
1723年　7月24日 享保8年　6月23日 陰晴
1723年　7月25日 享保8年　6月24日 快晴　暑気強
1723年　7月26日 享保8年　6月25日 曇 （今日町同心が時疫で病死）
1723年　7月27日 享保8年　6月26日 曇　午の刻前曇 （昨日三馬屋に荷打ちをした船が4艘入る・何れも21日の大東風によるもの）
1723年　7月28日 享保8年　6月27日 快晴 （22日の大風雨で小泊に刻印付きの材木が寄せる）
1723年　7月29日 享保8年　6月28日 快晴
1723年　7月30日 享保8年　6月29日 快晴　午の刻前曇 （米作の見通しと津出しの可否に悩んでいる）　下から続く　（4間×2間半）・火元他村庄屋預け、先月26日大鰐組苦木村の仁兵衛熊(胆長4寸廻り6寸)取る）
1723年　7月31日 享保8年　6月30日 快晴 （当月中碇関出人都合44人・切手紙数22枚、昨夜広須新田木作村で火災3軒(10間×5間:酒屋・8間×12間:酒屋・5間×6間:無高・他に酒蔵(4間×6間)・長屋　上に続く
1723年　8月1日 享保8年　7月1日 快晴 （大鰐村の加賀助より初穂差上げる）
1723年　8月2日 享保8年　7月2日 快晴 （水あひ(水浴び)の男が革秀寺下の渕で水死）
1723年　8月3日 享保8年　7月3日 陰晴　暑気強し　今朝卯ノ下刻小雨 （大鰐組大鰐村の嘉々助5月6日に四十日早稲植付6月30日出穂・去年は4月26日と6月14日）
1723年　8月4日 享保8年　7月4日 卯の刻より巳の刻まで時々小雨　それより快晴　岩木山雪今日迄見る （当6月中大間越:出21・入り22・都合43人）
1723年　8月5日 享保8年　7月5日 快晴
1723年　8月6日 享保8年　7月6日 快晴　岩木山雪見えず
1723年　8月7日 享保8年　7月7日 快晴　午の中刻過ぎ雨降
1723年　8月8日 享保8年　7月8日 曇　四時前暫く雨降
1723年　8月9日 享保8年　7月9日 快晴
1723年　8月10日 享保8年　7月10日 曇　巳の下刻より雨
1723年　8月11日 享保8年　7月11日 曇 （油川組岩渡村で熊狼荒れる・御手筒足軽1人派遣）
1723年　8月12日 享保8年　7月12日 快晴 （阿芙蓉の薬ができた）
1723年　8月13日 享保8年　7月13日 なし(天気の記述がない)
1723年　8月14日 享保8年　7月14日 なし(天気の記述がない)
1723年　8月15日 享保8年　7月15日 なし(天気の記述がない)
1723年　8月16日 享保8年　7月16日 なし(天気の記述がない)
1723年　8月17日 享保8年　7月17日 曇　終日雨 （当6月中碇関:出185・入り136・出入り人数321人、12日和徳組の道脇に74・5道心者倒死）
1723年　8月18日 享保8年　7月18日 晴
1723年　8月19日 享保8年　7月19日 晴
1723年　8月20日 享保8年　7月20日 快晴 （松前における米値段4斗8升入り1俵が砂金4匁くらいで銭21匁3・4分相当・これは昨年より1俵に付き砂金2匁3分ほど安い）
1723年　8月21日 享保8年　7月21日 晴　午の中刻より曇　雷数度発す （初米大鰐村より上る）
1723年　8月22日 享保8年　7月22日 快晴
1723年　8月23日 享保8年　7月23日 陰晴
1723年　8月24日 享保8年　7月24日 陰晴 （野内:出62・入り98・合160人）
1723年　8月25日 享保8年　7月25日 快晴
1723年　8月26日 享保8年　7月26日 快晴　午の下刻より雨
1723年　8月27日 享保8年　7月27日 快晴
1723年　8月28日 享保8年　7月28日 快晴
1723年　8月29日 享保8年　7月29日 陰晴　申の下刻より雨降 （26日昼八半浪岡組吉内村の大杉に落雷?）
1723年　8月30日 享保8年　7月30日 陰晴
1723年　8月31日 享保8年　8月1日 晴 （4尺柾千枚につき11匁5分・3尺柾9匁5分）

1723年　9月1日 享保8年　8月2日 快晴　朝の内少し雨
1723年　9月2日 享保8年　8月3日 曇 （御馬廻番頭に一粒金丹5粒、7月中御関所出人都合22人・切手紙17枚）
1723年　9月3日 享保8年　8月4日 快晴
1723年　9月4日 享保8年　8月5日 陰晴
1723年　9月5日 享保8年　8月6日 陰晴
1723年　9月6日 享保8年　8月7日 終日雨 （7月中大間越:出26・入り37・都合63人）
1723年　9月7日 享保8年　8月8日 快晴
1723年　9月8日 享保8年　8月9日 晴　夜中雨降
1723年　9月9日 享保8年　8月10日 終日雨ふり　酉の刻より風雨　夜中大風 （6日夜八つ頃後潟組境松(浜松?)村で火災1軒）
1723年　9月10日 享保8年　8月11日 昨夜より風雨　辰の刻過ぎまで　それより晴 （当7月中野内:出70・入り80・出入り都合150人、今朝の大風で禰宜町南の川沿いの亜(再?)杉5本倒れる）
1723年　9月11日 享保8年　8月12日 快晴
1723年　9月12日 享保8年　8月13日 晴　卯の上刻少し雨　それより晴　午の刻大雨 （10日の大東風により三馬屋で日の丸印船が荷打ち・他に水船1艘）
1723年　9月13日 享保8年　8月14日 快晴
1723年　9月14日 享保8年　8月15日 快晴 （10日の風で千年山の物置・屋根破損、碇関海道並木松20本倒れる、大鰐組長峰村で1軒(2間×3間:無高)倒れる、6日後潟組浜松村の火元差許す）
1723年　9月15日 享保8年　8月16日 快晴
1723年　9月16日 享保8年　8月17日 快晴
1723年　9月17日 享保8年　8月18日 快晴
1723年　9月18日 享保8年　8月19日 快晴 （10日の大風で浪岡八幡境内で栗(高さ4間・廻り7尺)等が風倒・栗は修復用に預け他は社司に引取らせる、赤石組で破船5艘・1人死亡）
1723年　9月19日 享保8年　8月20日 快晴 （当7月中碇関:出158・入り237・都合395人、6月29日木造村の火元の村預け御免）
1723年　9月20日 享保8年　8月21日 快晴 （諸手足軽山上源次郎を足軽代目付に）
1723年　9月21日 享保8年　8月22日 快晴 （蟹田に送った狼打ちの鉄砲を交換）　下から続く　・下男428(260・96・35・19・10・8)・下女234(133・62・26・6・4・3)、家屋敷167・屋敷14・下屋敷3軒、乗馬3・小荷駄1・牛0匹）
1723年　9月22日 享保8年　8月23日 曇　昼過ぎより小雨 （御用人支配切支丹宗門改:惣人数2761人・上男1150(禅703・浄土253・法花107・門徒52・真言23・天台12)・上女949(575・205・89・47・22・11)　上に続く
1723年　9月23日 享保8年　8月24日 曇　小雨時々 （木作御蔵米300俵の代銭4貫650目(駄下げ並びに鯵が沢口沖御役とも1俵15匁5分））
1723年　9月24日 享保8年　8月25日 曇　終日小風
1723年　9月25日 享保8年　8月26日 快晴
1723年　9月26日 享保8年　8月27日 快晴 （内東御門番所前の井の釣瓶縄切れ……、大間越町庄屋から9月分60俵の払い出し願い・50俵を先達て申し付けた値段で出す）
1723年　9月27日 享保8年　8月28日 曇　昨夜雨時々 （当月11日赤石組に大風・田畑作毛に風・塩き里当り実法兼(稔りかね)候につき蕨の根掘り道具を作る木の伐り出しを求めている）
1723年　9月28日 享保8年　8月29日 曇 （御家中に一粒金丹5粒、17日大鰐組唐牛村の次兵衛(胆長4寸廻り1寸5歩)・16日駒越組桜庭村の喜右衛門(4寸5歩6寸)それぞれ熊取る、油川組新城村付近で無理心中?）
1723年　9月29日 享保8年　9月1日 快晴 （8月中所々御関所出人切手紙13枚）
1723年　9月30日 享保8年　9月2日 快晴
1723年　10月1日 享保8年　9月3日 晴
1723年　10月2日 享保8年　9月4日 晴　夜に入り雨
1723年　10月3日 享保8年　9月5日 晴　夜中大雨　雷夥しく発す　稲光度々
1723年　10月4日 享保8年　9月6日 今朝より雨時々降　雷四五度発す
1723年　10月5日 享保8年　9月7日 晴 （御持鑓奉行に一粒金丹5粒、先月中大間越:出32・入り62・出入り都合94人、先月10日の大風で青森町の舟が水船になり十三に流れ寄せる・2人行方不明）
1723年　10月6日 享保8年　9月8日 快晴　夜中雷電　雨つよく （十三より初鮭2本差上げる）
1723年　10月7日 享保8年　9月9日 快晴　夜中大雨　雷電 （十三より初鮭2本差上げる）
1723年　10月8日 享保8年　9月10日 晴
1723年　10月9日 享保8年　9月11日 晴
1723年 10月10日 享保8年　9月12日 曇　終日雨降
1723年 10月11日 享保8年　9月13日 快晴　酉の下刻雷雨
1723年 10月12日 享保8年　9月14日 快晴
1723年 10月13日 享保8年　9月15日 陰晴　卯の刻より時々雨　午の刻より晴 （昨13日暮六半頃大鰐組大沢村で火災1軒(4間×6間:百姓)）
1723年 10月14日 享保8年　9月16日 快晴
1723年 10月15日 享保8年　9月17日 快晴 （東照宮御神事の御徒目付に山上羽右衛門）
1723年 10月16日 享保8年　9月18日 快晴　下から続く　鮭留入札値段:荒川78匁6分・横内前川26匁5分・原別村315匁2分6厘・野内川201匁8分5厘・新田川201匁8分5厘・網不知前川229匁9厘・広瀬川18匁8分7厘5毛）
1723年 10月17日 享保8年　9月19日 晴　時々小風 （先月11日の大風で汐霧当り赤石組正道尻・森山・岩渡(岩崎?)・沢部・艫作・月屋・小福浦村の高無82軒に米2斗宛貸す、馬入札値段(1疋3匁分～35匁6分9厘)、　上に続く
1723年 10月18日 享保8年　9月20日 快晴 （先月11日赤石組の風で小福浦・遍なし・月屋・沢部・岩崎・正道尻村で渇命・松神・黒崎村は風当たりが少々弱い）
1723年 10月19日 享保8年　9月21日 快晴 （15日大間越町同心が鉄砲で熊を打ち留める）
1723年 10月20日 享保8年　9月22日 陰晴 （今昼尾崎組町居村で火災1軒(3間×4間:百姓)）
1723年 10月21日 享保8年　9月23日 晴 （当8月中碇関:出277・入り164・出入り都合441人）
1723年 10月22日 享保8年　9月24日 曇　戌の下刻少々降 （御用人に一粒金丹10粒）
1723年 10月23日 享保8年　9月25日 陰晴　夜に入り時々雨 （昨22日横内組矢田前村で火災4軒(2間半×3間:高無・4間×9間:百姓・4間×15間:百姓・2間×3間:高無)・火元は時分柄預け赦免）
1723年 10月24日 享保8年　9月26日 終日雨降
1723年 10月25日 享保8年　9月27日 曇
1723年 10月26日 享保8年　9月28日 快晴
1723年 10月27日 享保8年　9月29日 快晴
1723年 10月28日 享保8年　9月30日 快晴　夜中小雨 （7日・11日・12日堀越組一野渡村の彦次郎が熊3疋(たて当り胆も袋ばかり:年12歳・胆長4寸廻り5寸:年53歳・4寸2歩4寸5歩:年59歳)取る）
1723年 10月29日 享保8年　10月1日 曇　時々小雨　夜中雨 （屋形様9月19日江戸御発駕）
1723年 10月30日 享保8年　10月2日 終日雨降 （関札打ち到着）
1723年 10月31日 享保8年　10月3日 陰晴　昨夜中雨

1723年　11月1日 享保8年　　10月4日 今朝四時過ぎまでは時々小雨　それより晴 （今別より大鰤1本差上げる）
1723年　11月2日 享保8年　　10月5日 午の中刻より雨 （9月13日より時疫の長柄の者が昨夜死亡）
1723年　11月3日 享保8年　　10月6日 陰晴　雨時々　夜中雷発雨
1723年　11月4日 享保8年　　10月7日 陰晴　時々雨降　巳の中刻より晴 （屋形様着城）
1723年　11月5日 享保8年　　10月8日 快晴
1723年　11月6日 享保8年　　10月9日 曇　時々雨　終日に及ぶ
1723年　11月7日 享保8年　10月10日 曇　終日小雨 （当9月中大間越:出94・入り15人、本行寺境内に熊がうろつく）
1723年　11月8日 享保8年　10月11日 快晴　今朝近山マテ雪ミユル （8日夜浦町組金浜村で火災1軒(4間×16間:庄屋・外馬屋4間×6間・9歳女子1人焼死・駄馬と駒焼死・預け赦免）
1723年　11月9日 享保8年　10月12日 曇　昨夜より之雨　及終日ニ （4斗入り1俵米値段16匁3分・両替相場83匁5分）
1723年 11月10日 享保8年　10月13日 曇　終日雨
1723年 11月11日 享保8年　10月14日 終日雨　今朝丸雪降
1723年 11月12日 享保8年　10月15日 曇　時々小雨　終日に及ぶ （先月中野内:出65・入り65、当8月中野内:出93・入り80人）
1723年 11月13日 享保8年　10月16日 曇　終日雨 （御能）
1723年 11月14日 享保8年　10月17日 曇　小雨　材木値段:長1丈1尺角上1本10匁など）
1723年 11月15日 享保8年　10月18日 曇　時々小雨 （14日浦町組荒川村に50余男倒死）
1723年 11月16日 享保8年　10月19日 曇　時々小雨 （御家中野宮某が庭前の梨子1鉢(三馬屋・あるへい・森山の3種)差上げる）
1723年 11月17日 享保8年　10月20日 終日雨　午の刻丸雪 （17日十三町で雑物入れ長屋1軒火災・人馬怪我なし、天気揚げの祈祷を申付ける）
1723年 11月18日 享保8年　10月21日 陰晴　昨夜中雪
1723年 11月19日 享保8年　10月22日 晴
1723年 11月20日 享保8年　10月23日 曇　時々雨　夜中雪　二三寸降 （三之丸御屋敷で歌舞伎）
1723年 11月21日 享保8年　10月24日 曇　巳の刻まで雪 （19日赤石組沢部村前浜に破船1艘・1人死亡）
1723年 11月22日 享保8年　10月25日 なし(天気の記述がない) （21日浪岡組五本松村の神社の松が雪で枝折れ、当9月中碇関:出138・入り180・都合318人）
1723年 11月23日 享保8年　10月26日 快晴
1723年 11月24日 享保8年　10月27日 陰晴
1723年 11月25日 享保8年　10月28日 陰晴　雪時々　夜中雪フル　　下から続く　　2日駒越組の次郎三郎(3寸4寸:3歳)・先月30日同組の喜右衛門(3寸2寸5歩:3歳)それぞれ熊取る）
1723年 11月26日 享保8年　10月29日 陰晴　雪時々　　下から続く　　5寸4寸2歩:63歳)・3日大鰐組の次五兵衛2疋(1寸5歩1寸8歩:当歳・3寸1寸5歩:6歳)・5日赤石組の五郎右衛門(4寸5歩4寸:2歳)・　　上に続く
1723年 11月27日 享保8年　10月30日 曇　小雨時々 （古懸不動尊出汗、6日堀越組取上に斃熊(48歳)・先月29日と今月17日堀越組(一野渡村)の彦次郎3疋(胆長4寸3歩廻り4寸5歩:15歳・5寸4歩4寸2歩:52歳・　　上に続く
1723年 11月28日 享保8年　　11月1日 陰晴　辰の中刻より小雨　午の刻前より晴
1723年 11月29日 享保8年　　11月2日 曇　終日小雨
1723年 11月30日 享保8年　　11月3日 曇
1723年　12月1日 享保8年　　11月4日 晴
1723年　12月2日 享保8年　　11月5日 曇
1723年　12月3日 享保8年　　11月6日 曇
1723年　12月4日 享保8年　　11月7日 曇　昨夜雪　終日に及ぶ （当10月中大間越:出68・入り27人）
1723年　12月5日 享保8年　　11月8日 晴 （御家中村井某に一粒金丹10粒）
1723年　12月6日 享保8年　　11月9日 陰晴　時々雪降　御堀氷張る （薬王院に一粒金丹10粒、3月15日の洪水で石渡仮橋120間の内60間落ちた・元通り幅6尺真ん中に馬除けを作る・所要金額787匁8分）
1723年　12月7日 享保8年　11月10日 終日雪吹　御堀氷張る　夜中雪 （御留守居組頭に一粒金丹10粒、6日暮六半頃常盤組柳村で火災2軒稲1200束焼失・火元他村庄屋預け）
1723年　12月8日 享保8年　11月11日 曇　時々雪降
1723年　12月9日 享保8年　11月12日 曇　時々雪降 （柳村の火元の村預けを御収納最中につき御免）
1723年 12月10日 享保8年　11月13日 陰晴　昨夜雪降 （大阪で米が安く江戸への入金が22257両のはずが18257両になった・10000石追加して出せ……）
1723年 12月11日 享保8年　11月14日 快晴 （10日夜十三潟高根村より大湊まで氷張る・昨年も11月10日）
1723年 12月12日 享保8年　11月15日 晴
1723年 12月13日 享保8年　11月16日 晴
1723年 12月14日 享保8年　11月17日 快晴 （10月中碇関:入り・御供891・その他159・出304人、馬廻り組頭の妹に一粒金丹5粒））
1723年 12月15日 享保8年　11月18日 晴　終日小雪 （今別山で杣子が杣子を打ち殺す）
1723年 12月16日 享保8年　11月19日 晴　時々雪
1723年 12月17日 享保8年　11月20日 陰晴
1723年 12月18日 享保8年　11月21日 快晴 （6日柳村の火災:萱家1軒(4間半×10間半:百姓)・外馬屋(4間×2間:百姓)・萱家(3間半×2軒:高無)・稲1200束:高無、松前藩から米2000俵無心、青森より初鱈1差上げる））
1723年 12月19日 享保8年　11月22日 曇　今朝雪少々
1723年 12月20日 享保8年　11月23日 曇 （8日夜大間越で1軒5人走る）
1723年 12月21日 享保8年　11月24日 曇　水雪降 （青森より二番鱈三番鱈差上げる）
1723年 12月22日 享保8年　11月25日 晴
1723年 12月23日 享保8年　11月26日 曇　時々小雪
1723年 12月24日 享保8年　11月27日 時々小雪
1723年 12月25日 享保8年　11月28日 晴　今朝少々雪 （弘前酒値段:1升につき1匁(一昨年11月8日からは9分)、外の浜・西の浜・金木組は1分増し、深浦町で19日家内3人・21日2軒5人走る、両替85匁6分）
1723年 12月26日 享保8年　11月29日 曇 （広田組唐笠柳村から白鼠上がり御褒美として米2俵下される）
1723年 12月27日 享保8年　　12月1日 晴
1723年 12月28日 享保8年　　12月2日 曇　時々小雪
1723年 12月29日 享保8年　　12月3日 曇　終日雪ふる
1723年 12月30日 享保8年　　12月4日 晴　昨夜時々小雪
1723年 12月31日 享保8年　　12月5日 曇　終日大雪

1724年　1月1日 享保8年　12月6日 陰晴　昨夜中吹雪　今日も時々雪
1724年　1月2日 享保8年　12月7日 時々雪 （無傷の雉子1羽10匁←6匁・同雌8匁←5匁、先月中大間越:出33・入り37人）
1724年　1月3日 享保8年　12月8日 快晴
1724年　1月4日 享保8年　12月9日 晴
1724年　1月5日 享保8年　12月10日 陰晴
1724年　1月6日 享保8年　12月11日 快晴　未の上刻より寒に入る
1724年　1月7日 享保8年　12月12日 快晴
1724年　1月8日 享保8年　12月13日 今朝雷発す　雨時々
1724年　1月9日 享保8年　12月14日 曇　時々雪 （藤崎組林崎村の薬師堂に48・9男乞食死亡）
1724年　1月10日 享保8年　12月15日 快晴
1724年　1月11日 享保8年　12月16日 快晴
1724年　1月12日 享保8年　12月17日 曇　終日雪ふる　夜中雪
1724年　1月13日 享保8年　12月18日 終日雪ふる
1724年　1月14日 享保8年　12月19日 晴 （14日朝宇田湊で松前船1艘破船）
1724年　1月15日 享保8年　12月20日 陰晴 （6月19日牢舎の諏訪の沢村庄屋牢死、親方町宿で南部商人病死）
1724年　1月16日 享保8年　12月21日 晴 （11月中野内:出67・入り45・都合112人）
1724年　1月17日 享保8年　12月22日 晴　終日時々小雪
1724年　1月18日 享保8年　12月23日 曇　昨夜より雪1尺ふる　終日夜中雪 （三之丸で歌舞伎高覧）
1724年　1月19日 享保8年　12月24日 晴
1724年　1月20日 享保8年　12月25日 晴　今朝小雪　則止む
1724年　1月21日 享保8年　12月26日 陰晴 （大川平村の打ち殺し犯・脇差とられた御家中・賭博した5人の7人斬罪・隠し田の庄屋磔）
1724年　1月22日 享保8年　12月27日 陰晴　時々小雪
1724年　1月23日 享保8年　12月28日 晴
1724年　1月24日 享保8年　12月29日 快晴 （11日駒越組相馬村の左門三郎(胆長2寸2歩廻り4寸5歩:2歳)・10日藤右衛門(3寸6歩4寸5歩:2歳)・15日喜右衛門(3寸4寸1歩:2歳)・9日新兵衛(4寸2歩6寸:5歳)それぞれ熊取る）
1724年　1月25日 享保8年　12月30日 快晴
1724年　1月26日 享保9年　正月1日　快晴　朝の内小雨
1724年　1月27日 享保9年　正月2日　晴　夜に入り小雨
1724年　1月28日 享保9年　正月3日　吹雪　時々陰晴 （御謡初）
1724年　1月29日 享保9年　正月4日　晴　昨夜中吹雪　今朝より巳の刻まで少々雪
1724年　1月30日 享保9年　正月5日　快晴
1724年　1月31日 享保9年　正月6日　終日吹雪
1724年　2月1日 享保9年　正月7日　雪 （七種之御祝差上げる）
1724年　2月2日 享保9年　正月8日　晴　今朝雪
1724年　2月3日 享保9年　正月9日　晴　夜中少々雪降 （5日野内町に伊勢参宮の23・4男雪吹倒死(両足とも六つ指あり)）
1724年　2月4日 享保9年　正月10日　快晴
1724年　2月5日 享保9年　正月11日　快晴 （人事異動）
1724年　2月6日 享保9年　正月12日　陰晴
1724年　2月7日 享保9年　正月13日　陰晴
1724年　2月8日 享保9年　正月14日　陰晴 （今朝大鰐組大沢村に52・3男倒死）
1724年　2月9日 享保9年　正月15日　陰晴　午の上刻より快晴
1724年　2月10日 享保9年　正月16日　晴　午の刻過ぎより雪　それより夜に入り風雨　雷発す
1724年　2月11日 享保9年　正月17日　陰晴
1724年　2月12日 享保9年　正月18日　終日小雨 （昨年12月13日夜四つ時分大風で三馬屋湊に破船2艘・死者3人、3日尾太銅山の山小屋と台所の間に雪なて(雪崩)あり12人死亡）
1724年　2月13日 享保9年　正月19日　快晴
1724年　2月14日 享保9年　正月20日　快晴　戌の中刻雨暫く　それより風 （関村より矢柄魚1差上げる）
1724年　2月15日 享保9年　正月21日　曇　巳の下刻より吹雪 （御役者藤田某に一粒金丹5粒）
1724年　2月16日 享保9年　正月22日　陰晴　今夜中雨 （11日夜南袋の田小屋(3間×4間)焼失・火元押込だったが御免）
1724年　2月17日 享保9年　正月23日　曇　終日吹雪　夜に入り吹雪 （御能）
1724年　2月18日 享保9年　正月24日　曇　終日吹雪 （御家中2人(1人は大目付)に一粒金丹5粒宛）
1724年　2月19日 享保9年　正月25日　快晴
1724年　2月20日 享保9年　正月26日　今朝より終日吹雪
1724年　2月21日 享保9年　正月27日　終日雪降
1724年　2月22日 享保9年　正月28日　晴 （桜の木御用につき……）
1724年　2月23日 享保9年　正月29日　終日雪降　　下から続く　　三郎2疋(3寸5歩4寸5歩:5歳・たて当たり流れ)・24日油川組津軽坂村の太兵衛(3寸6歩4寸:3歳)・23日赤石組鬼袋村の孫三郎(3寸5寸:6歳)それぞれ熊取る）
1724年　2月24日 享保9年　正月30日　晴　卯ノ刻より辰ノ刻まで雪降 （川王川者(川わっぱ:河童)を捕え差し出すよう指示、24日大鰐組早瀬野村の猟師(胆長2寸5歩廻り2寸7歩:2歳)・12月27日駒越組桜庭村の次郎　　上に続く
1724年　2月25日 享保9年　2月1日 陰晴 （御馬廻り番頭に一粒金丹5粒、3月江戸登り予定の表坊主に山上古林、去年11月中碇関:出160・入り123・都合283人、同12月碇関:出124・入り90・都合214人、　　下の欄外(*)に続く
1724年　2月26日 享保9年　2月2日 晴
1724年　2月27日 享保9年　2月3日 終日雨降
1724年　2月28日 享保9年　2月4日 陰晴　時々小雨 （人参の単位は「両」か）
1724年　2月29日 享保9年　2月5日 快晴

(*) 当正月中大間越:出29・入り24・都合53人、去年10月中野内:出49・入り77・都合126人、同12月中野内:出30・入り48・都合78人）

1724年　3月1日 享保9年　2月6日 快晴　夜中雨
1724年　3月2日 享保9年　2月7日 曇　巳の刻より雨降
1724年　3月3日 享保9年　2月8日 巳の刻より吹雪（昨年9月より12月までに飯詰組で29人・金木組で16人の高無が死に絶え又は走った、当正月中大間越:出8・入り39人、正月中野内:出20・入り19人）
1724年　3月4日 享保9年　2月9日 快晴（去る11月深浦町の3軒走る）
1724年　3月5日 享保9年　2月10日 晴
1724年　3月6日 享保9年　2月11日 曇　昨夜雪少し降
1724年　3月7日 享保9年　2月12日 晴　昨夜雪降
1724年　3月8日 享保9年　2月13日 晴（御家中秋元某に一粒金丹5粒）
1724年　3月9日 享保9年　2月14日 終日小雪
1724年　3月10日 享保9年　2月15日 曇　昨夜より吹雪　終日に及ぶ
1724年　3月11日 享保9年　2月16日 快晴（去年5月入牢の男牢死）
1724年　3月12日 享保9年　2月17日 快晴　夜中雨
1724年　3月13日 享保9年　2月18日 終日雨降
1724年　3月14日 享保9年　2月19日 晴　夜に入り小雨（岩木川洪水7・8分目、牛嶋村の親子殺人犯磔・その共犯斬罪・盗み火付けを火罪・越山立帰盗人斬罪）
1724年　3月15日 享保9年　2月20日 快晴
1724年　3月16日 享保9年　2月21日 晴　未ノ下刻少し地震（昨19日夜九半頃田舎館組境松村で火災2軒、御家中母に一粒金丹5粒、深浦で湊目付手付けの諸手足軽2人汚職で獄門）
1724年　3月17日 享保9年　2月22日 辰の下刻より雨　終日降（御中小姓に一粒金丹5粒、岩木川洪水・駒越・石渡の往還止める、石渡仮橋4・5間落ちる、駒越町・紺屋町に少々水入る）
1724年　3月18日 享保9年　2月23日 晴（不勝手の高杉組十腰内村の伝馬宿33軒に米59俵渡す、古懸不動尊御出汗）
1724年　3月19日 享保9年　2月24日 曇
1724年　3月20日 享保9年　2月25日 曇　未の刻前雪少々　酉の刻より雪少々降（古懸不動尊出汗:一昨日のことかも）
1724年　3月21日 享保9年　2月26日 曇　今朝より時々雪
1724年　3月22日 享保9年　2月27日 陰晴　昨夜中少し雪（当月24日十三明ける、御用人支配切支丹惣人数2755人:上男1097・上女956・下男434・下女268・家屋敷162軒・屋敷18軒・下屋敷7軒・乗馬3疋・小荷駄1疋）
1724年　3月23日 享保9年　2月28日 快晴（橋雲寺に一粒金丹5粒）
1724年　3月24日 享保9年　2月29日 快晴（勘定人に一粒金丹5粒、19日境松村の火元差免、大鰐組居土村の弥左衛門・同組森山村の弥左衛門・浪岡組徳才子村の定右衛門(2疋)それぞれ熊取る）
1724年　3月25日 享保9年　3月1日 快晴
1724年　3月26日 享保9年　3月2日 快晴
1724年　3月27日 享保9年　3月3日 快晴　卯の上刻小雨　それより晴
1724年　3月28日 享保9年　3月4日 快晴　下から続く　(7間×3間＋3間×2間の馬屋:百姓)・火元村預け）
1724年　3月29日 享保9年　3月5日 終日雨降（昨今の暖気と雨で岩木川十分過ぎ・土手2・3尺越える、駒越町で小屋3軒流れる、大間越:出26・入り112・都合138人、2日高杉組三森村で火災1軒　上に続く
1724年　3月30日 享保9年　3月6日 晴
1724年　3月31日 享保9年　3月7日 快晴（払底につき雉1羽値段:前々2匁(雌1匁5分)→3匁(2匁5分)→8匁(6匁)→10匁(8匁)、日付けはないが一昨日の洪水で流れ家3軒・取り壊し家2軒・屋敷一部崩れ落ち6軒）
1724年　4月1日 享保9年　3月8日 巳の上刻より時々雪降
1724年　4月2日 享保9年　3月9日 曇　時々雨風
1724年　4月3日 享保9年　3月10日 陰晴
1724年　4月4日 享保9年　3月11日 曇（昨夜藤崎組大根子村で火災1軒(4間×9間＋外馬屋3間×4間:百姓)
1724年　4月5日 享保9年　3月12日 快晴（2日三森村の火元の村預け御免）
1724年　4月6日 享保9年　3月13日 快晴
1724年　4月7日 享保9年　3月14日 快晴（昨12日夜猿賀組蒲田村に14・5女子倒死(らい病か))　下から続く　・(9×11＋4×7の酒蔵:庄屋酒屋)・(13×11・5×11:酒屋))・火元他村預け、今朝南溜池に40斗女死亡）
1724年　4月8日 享保9年　3月15日 快晴（昨13日夜九つ過ぎ猿賀組尾上村で火災25軒((6間×11間・9×3半・4×11・7×13・7×6半・6×12・6×8・4×4・4×3・6半×6・4×5・7半×10・4×4・8×9:ここまで高無)　上に続く
1724年　4月9日 享保9年　3月16日 曇　午の上刻過ぎより小雨
1724年　4月10日 享保9年　3月17日 曇　終日小雨　少し風（一昨15日夜横内組作道村領茶屋町に火災3軒・火元他村預け、2月中碇関:出224・入り144・都合368人）
1724年　4月11日 享保9年　3月18日 快晴
1724年　4月12日 享保9年　3月19日 陰晴　午の下刻より雨
1724年　4月13日 享保9年　3月20日 晴
1724年　4月14日 享保9年　3月21日 曇　辰の刻前より小風　午の刻まで小雨（2月中野内:出50・入り35・都合85人、16日金木組磯松村で火災1軒(4間×6間:高無)類火とも7軒・火元他村預け）
1724年　4月15日 享保9年　3月22日 晴　終日小風
1724年　4月16日 享保9年　3月23日 晴　時々小風（江戸え発足の御徒目付に山上羽右衛門・表坊主に山上古林）
1724年　4月17日 享保9年　3月24日 曇
1724年　4月18日 享保9年　3月25日 曇　終日雨
1724年　4月19日 享保9年　3月26日 晴　終日時々小風　下から続く　で55歳男が山で行方不明、2月19日に鯵ヶ沢を出た船が破船・3人行方不明、23日浦町組大野村で火災1軒(4間×5間:百姓)・火元村預け）
1724年　4月20日 享保9年　3月27日 快晴（昨24日明け七つ時横内組浅虫村で火災9軒(5間×13間・5×4半・9×6・9×5・6×7・7×5・8×5:高無・13×9:百姓)・火元他村預け、23日十三で破船1艘、12日赤石組　上に続く
1724年　4月21日 享保9年　3月28日 曇　時々風　午の刻過ぎより大風　丸雪戌の下刻過ぎまで（13日尾上村・16日作道村・18日磯松村の各火元の村預け御免）
1724年　4月22日 享保9年　3月29日 曇　巳の刻雪少し　それより晴（20日駒越組桜庭村の喜右衛門・7日同組中畑村の彦左衛門・4日同組相馬村の左衛門三郎(2疋)・3日同組桜庭村の茂助(3疋)・　下の欄外(*)に続く
1724年　4月23日 享保9年　4月1日 快晴（当月27日夜八時赤石組小福浦に申酉の大風で破船1艘）
1724年　4月24日 享保9年　4月2日 曇　昨夜寅の下刻より雨天　終日降　夜中雨
1724年　4月25日 享保9年　4月3日 昨夜の雨午の刻まで降　それより晴ル
1724年　4月26日 享保9年　4月4日 曇
1724年　4月27日 享保9年　4月5日 曇　時々雨降
1724年　4月28日 享保9年　4月6日 陰晴　巳の刻前小雨　巳の中刻過ぎ晴ル
1724年　4月29日 享保9年　4月7日 快晴（先月中大間越:出38・入り78人、3月28日赤石組金井ヶ沢沖で破船1艘3人死亡）
1724年　4月30日 享保9年　4月8日 快晴　午の下刻より小風（二の丸・西の郭に植えた桜の余りを北の郭に植える）
(*) 1日同組大秋村の新兵衛・2月28日同組田代村の次右衛門・2月27日猿賀組袋村の助左衛門(2疋)・3日同人・10日浦町組合子沢村の弥左衛門・15日同人・2月27日・28日同人・19日油川組津軽坂村の太兵衛・2月29日大鰐組苦木村の仁兵衛それぞれ熊取る）

1724年　5月1日 享保9年　4月9日 曇
1724年　5月2日 享保9年　4月10日 陰晴 (先月28日の風で京徳寺の裏の廻り2尺の杉が倒れる)
1724年　5月3日 享保9年　4月11日 快晴 (去月28日の風で真教寺の杉が2本倒れる)
1724年　5月4日 享保9年　4月12日 晴
1724年　5月5日 享保9年　4月13日 晴 未の下刻雨少し (3月28日(以降)平内領狩場沢村から南部沖に出漁の漁船が破船・5人死亡)
1724年　5月6日 享保9年　4月14日 陰晴
1724年　5月7日 享保9年　4月15日 曇 (3月中碇関:出245・入り220・合465人)
1724年　5月8日 享保9年　4月16日 晴晴(こうなっているのです) (3月21日大阪火災で御屋敷御蔵焼失)
1724年　5月9日 享保9年　4月17日 快晴 (先月28日鯵ヶ沢で破船3艘・濡米1俵入札:3匁1分から3匁5分8厘)
1724年　5月10日 享保9年　4月18日 晴
1724年　5月11日 享保9年　4月19日 晴 夜中少し雨降
1724年　5月12日 享保9年　4月20日 晴
1724年　5月13日 享保9年　4月21日 曇 午の下刻より雨 (御能初)
1724年　5月14日 享保9年　4月22日 快晴 (3月5日藤代組で洪水)
1724年　5月15日 享保9年　4月23日 快晴 (三之丸(屋敷)でかふき初)
1724年　5月16日 享保9年　4月24日 陰晴
1724年　5月17日 享保9年　4月25日 曇 卯の刻風 午の刻過ぎ雨降 終日に及ぶ 夜中雨
1724年　5月18日 享保9年　4月26日 昨日より雨 今日終日に及ぶ (3月中野内:出入り(人の誤りか)61・入り55人)
1724年　5月19日 享保9年　4月27日 快晴
1724年　5月20日 享保9年　4月28日 晴
1724年　5月21日 享保9年　4月29日 陰
1724年　5月22日 享保9年　4月30日 晴 (3月28日駒越組大秋村の新兵衛(胆長5寸廻り7寸5歩:5歳)・11日大鰐組早瀬野村の長五郎(4寸6寸:8歳)それぞれ熊取る)
1724年　5月23日 享保9年　閏4月1日　晴
1724年　5月24日 享保9年　閏4月2日　巳の刻前雨
1724年　5月25日 享保9年　閏4月3日　今朝辰の中刻より雷雨 午(牛と読める)の下刻止(正と読める)む
1724年　5月26日 享保9年　閏4月4日　快晴 (先月27日大間越町で5歳男子川で溺死)
1724年　5月27日 享保9年　閏4月5日　快晴 (3日駒越組中畑村で火災1軒(4間×3間:庵))
1724年　5月28日 享保9年　閏4月6日　快晴 (斬罪6人(追放立帰り傷害・土蔵破り米盗人火付け4人・切手なしの関所入り)・磔1人(追放時に役人に手向かい))
1724年　5月29日 享保9年　閏4月7日　快晴
1724年　5月30日 享保9年　閏4月8日　快晴 (暮六つ半本町二丁目から火災1軒・翌日に記述で入寺)
1724年　5月31日 享保9年　閏4月9日　快晴
1724年　6月1日 享保9年　閏4月10日　曇 巳の刻地震 午の刻少し雨
1724年　6月2日 享保9年　閏4月11日　晴 午の刻小風
1724年　6月3日 享保9年　閏4月12日　快晴 (武田藤右衛門長屋から出火、御家中が牡丹花差上げる)
1724年　6月4日 享保9年　閏4月13日　快晴
1724年　6月5日 享保9年　閏4月14日　終日雨
1724年　6月6日 享保9年　閏4月15日　曇
1724年　6月7日 享保9年　閏4月16日　快晴
1724年　6月8日 享保9年　閏4月17日　晴
1724年　6月9日 享保9年　閏4月18日　曇 辰の刻過ぎより雨
1724年　6月10日 享保9年　閏4月19日　快晴
1724年　6月11日 享保9年　閏4月20日　陰晴 (先月中碇関:出179・入り248人、先月中野内:出47・入り93人)
1724年　6月12日 享保9年　閏4月21日　今朝より小雨時々 巳の下刻より雷数度発ス 暫くのうち雨強し 午の中刻過ぎより少し晴 又大雨
1724年　6月13日 享保9年　閏4月22日　曇
1724年　6月14日 享保9年　閏4月23日　陰晴
1724年　6月15日 享保9年　閏4月24日　巳の下刻より雨
1724年　6月16日 享保9年　閏4月25日　陰晴 終日風
1724年　6月17日 享保9年　閏4月26日　陰晴 午の刻より雨
1724年　6月18日 享保9年　閏4月27日　快晴
1724年　6月19日 享保9年　閏4月28日　陰晴
1724年　6月20日 享保9年　閏4月29日　陰晴 (当月25日松前に向かう野代船が長浜で破船、4月29日金木組金木組村の四郎三郎が熊(胆長6寸廻り1尺1寸:7歳)取る)
1724年　6月21日 享保9年　5月1日 陰晴
1724年　6月22日 享保9年　5月2日 快晴
1724年　6月23日 享保9年　5月3日 快晴
1724年　6月24日 享保9年　5月4日 終日小雨小風
1724年　6月25日 享保9年　5月5日 快晴
1724年　6月26日 享保9年　5月6日 快晴
1724年　6月27日 享保9年　5月7日 曇 きり雨時々ふる
1724年　6月28日 享保9年　5月8日 曇 巳の刻過ぎ晴 (御右筆に一粒金丹5粒、閏4月中大間越:出12・入り27・都合39人)
1724年　6月29日 享保9年　5月9日 快晴 (大鰐村より初きふり(胡瓜)五つ差上げる)
1724年　6月30日 享保9年　5月10日 快晴 午の刻過ぎより小風 (御馬廻りに一粒金丹5粒、野内川鮎留入札:お役銀19匁5分7厘)

1724年　7月1日 享保9年　5月11日 曇　巳の下刻雨少し
1724年　7月2日 享保9年　5月12日 陰晴　巳の中刻より段々晴　(碇関町よりいちご差上げる)
1724年　7月3日 享保9年　5月13日 午の刻過ぎより雨ふる　(御能、外濱下之湯で御家中が養生)
1724年　7月4日 享保9年　5月14日 時々雨　巳の下刻より晴　それより陰晴　(十三より初めて白魚1斗1升上る・代銭1升につき2匁)
1724年　7月5日 享保9年　5月15日 昨夜中より雨　今朝巳の下刻まで　それより晴　(大鰐村より初まふり五つ差上げる)
1724年　7月6日 享保9年　5月16日 昨夜中大雨　雷発す　午の下刻雨少し　終日曇
1724年　7月7日 享保9年　5月17日 晴　(大納戸役に一粒金丹5粒)
1724年　7月8日 享保9年　5月18日 快晴
1724年　7月9日 享保9年　5月19日 終日雨ふる　(阿芙蓉取るに能)
1724年　7月10日 享保9年　5月20日 陰晴
1724年　7月11日 享保9年　5月21日 曇　時々雨
1724年　7月12日 享保9年　5月22日 曇　昨夜雨　(本町内海吉六(閏4月8日の火元)入寺差許す、大鰐村助左衛門より初茄子5差上げる)
1724年　7月13日 享保9年　5月23日 陰晴　昼の内少し雨ふる　(三之丸御屋敷でかふき高覧)
1724年　7月14日 享保9年　5月24日 晴
1724年　7月15日 享保9年　5月25日 快晴　(家老津軽頼母病死、16日赤石組追良瀬村で山役人川流れ・22日海岸に死骸流れ寄せる)
1724年　7月16日 享保9年　5月26日 快晴　午の下刻大雨　(在府町小姓組佐藤某出火・御奉公遠慮)
1724年　7月17日 享保9年　5月27日 曇
1724年　7月18日 享保9年　5月28日 終日雨　(閏4月中野内:出85・入り79人、石渡川水出る)
1724年　7月19日 享保9年　5月29日 陰晴　辰の七刻土用に入る　(28日藤崎組川部村で馬屋焼失(3間×2間)・火元村預け)
1724年　7月20日 享保9年　6月1日 陰晴　今朝霧雨降　(先月23日今別町で洪水・杣小屋8軒流れ4人死亡・橋2大破、油川組横内村の左衛門次郎が熊(胆長6寸廻り3寸5歩:6歳)取る)
1724年　7月21日 享保9年　6月2日 快晴　(今別町奉行工藤杢右衛門死去)
1724年　7月22日 享保9年　6月3日 快晴　午の下刻曇　未の刻雨降　(先月不動尊御出汗に付き……)
1724年　7月23日 享保9年　6月4日 快晴
1724年　7月24日 享保9年　6月5日 快晴　申の刻雷雨暫く降　(5月19日(29日の間違い)より村預けの川部村の火元の日数6日で御免)
1724年　7月25日 享保9年　6月6日 快晴　午の刻陰晴時々村雨　暑気強し
1724年　7月26日 享保9年　6月7日 快晴　暑気強し
1724年　7月27日 享保9年　6月8日 快晴
1724年　7月28日 享保9年　6月9日 快晴　暑気強し　(御能)
1724年　7月29日 享保9年　6月10日 暑気強し
1724年　7月30日 享保9年　6月11日 快晴　申の下刻雨　則止む　(4月27日羽州亀田で129軒焼失)
1724年　7月31日 享保9年　6月12日 陰晴
1724年　8月1日 享保9年　6月13日 快晴　丑の刻より雨降　(閏4月13日赤石組小森村で植え付けた稲が11日に出穂・昨年より2・3日早い)
1724年　8月2日 享保9年　6月14日 曇　昨夜より雨　午の刻に及ぶ
1724年　8月3日 享保9年　6月15日 曇　午の刻(?)過ぎより雨降
1724年　8月4日 享保9年　6月16日 曇　今朝より雨　午の刻
1724年　8月5日 享保9年　6月17日 晴
1724年　8月6日 享保9年　6月18日 晴　未の刻雨　夜に及ぶ
1724年　8月7日 享保9年　6月19日 陰晴　昨夜大雨　辰の刻前晴　(油川組岩渡村で狼荒連狼打ち申し立てる)
1724年　8月8日 享保9年　6月20日 快晴
1724年　8月9日 享保9年　6月21日 曇　(17日鯵ヶ沢に材木流寄せ預け置く)
1724年　8月10日 享保9年　6月22日 曇　夜中雨降　(21日藤崎組藤崎村に70道心倒死)
1724年　8月11日 享保9年　6月23日 陰晴
1724年　8月12日 享保9年　6月24日 曇　巳の中刻より雨降
1724年　8月13日 享保9年　6月25日 曇　昨夜より雨　今朝より午の下刻まで　それより晴　申の刻より夜中降
1724年　8月14日 享保9年　6月26日 曇　少々小雨
1724年　8月15日 享保9年　6月27日 晴　(昨26日飯詰組神山村の高無縊死)
1724年　8月16日 享保9年　6月28日 快晴　(真桑瓜差上げる)
1724年　8月17日 享保9年　6月29日 陰晴
1724年　8月18日 享保9年　6月30日 巳の刻前曇　午の刻より晴
1724年　8月19日 享保9年　7月1日 快晴
1724年　8月20日 享保9年　7月2日 快晴　未の刻小雨　(岩館村弥助・大鰐村加賀助より初米3箱宛差上げる)
1724年　8月21日 享保9年　7月3日 晴　午の刻過ぎ雨少し
1724年　8月22日 享保9年　7月4日 快晴
1724年　8月23日 享保9年　7月5日 快晴
1724年　8月24日 享保9年　7月6日 陰晴　申の刻より雨　戌の刻に及ぶ
1724年　8月25日 享保9年　7月7日 晴　今朝まで岩木山雪少し見ゆル
1724年　8月26日 享保9年　7月8日 晴　(6月大間越:出44・入り35・都合79人)
1724年　8月27日 享保9年　7月9日 快晴　岩木山雪残らず消える　(久渡寺より熟瓜1折り・水瓜(前日と翌日には西瓜と記述)1折差上げる、御嚙子)
1724年　8月28日 享保9年　7月10日 今朝雨　巳の刻まで降　昼頃より晴
1724年　8月29日 享保9年　7月11日 快晴　一昨夜新田木作村で萱葺き1軒(2間×2間半:高無)と外馬屋焼失、先月中野内:出56・入り75人、当時のあり合わせの野菜の例がある)
1724年　8月30日 享保9年　7月12日 快晴　残暑強し　(赤石組より初鮭差上げる、一粒金丹100粒を文庫に入れる、御留守居組頭に一粒金丹5粒・役職不明御家中に3粒)
1724年　8月31日 享保9年　7月13日 快晴

1724年　9月1日 享保9年　7月14日 快晴　夜中雨降
1724年　9月2日 享保9年　7月15日 昨夜中より今日終日雨降
1724年　9月3日 享保9年　7月16日 今朝辰の中刻まで雨　それより晴　(昨15日の洪水で藤崎仮橋流れる、今別八幡宮で60男乞食餓死)
1724年　9月4日 享保9年　7月17日 快晴
1724年　9月5日 享保9年　7月18日 快晴　(9日木作村の火元の村預け御免)
1724年　9月6日 享保9年　7月19日 快晴　残暑甚だしく発す
1724年　9月7日 享保9年　7月20日 快晴　(正月30日に命じた川王つ者(かわわっぱ:河童)がまだ生取できないのだそうな)
1724年　9月8日 享保9年　7月21日 快晴　(先月中碇関:出141・入り262人)
1724年　9月9日 享保9年　7月22日 晴
1724年　9月10日 享保9年　7月23日 曇
1724年　9月11日 享保9年　7月24日 陰晴　巳の中刻小雨
1724年　9月12日 享保9年　7月25日 陰晴　(酒値段1升:去去年9分・当春1匁)
1724年　9月13日 享保9年　7月26日 快晴　(西之御郭で相撲高覧)
1724年　9月14日 享保9年　7月27日 快晴　(当年阿芙蓉正味17文目出来)
1724年　9月15日 享保9年　7月28日 曇　巳の中刻過ぎ雨少し　則止む
1724年　9月16日 享保9年　7月29日 曇　今朝四時雨降　(当月中所々御関所出人16人・切手紙15枚)
1724年　9月17日 享保9年　8月1日 陰晴
1724年　9月18日 享保9年　8月2日 晴
1724年　9月19日 享保9年　8月3日 快晴　(去28日晩金井ヶ沢で破船1艘)
1724年　9月20日 享保9年　8月4日 快晴　(去月29日朝十三川原湊で破船1艘・負傷1人)
1724年　9月21日 享保9年　8月5日 曇　辰の刻少し雨
1724年　9月22日 享保9年　8月6日 曇
1724年　9月23日 享保9年　8月7日 晴　(7月中大間越:出32・入り28・都合60人)
1724年　9月24日 享保9年　8月8日 陰晴
1724年　9月25日 享保9年　8月9日 曇　終日雨　(先月28日夜大泊で破船)
1724年　9月26日 享保9年　8月10日 晴　(切支丹類族:女流は孫きり……男の男は本人を含め5代まで?、日時不明深浦で南部船破船)
1724年　9月27日 享保9年　8月11日 巳の刻雨少し降　それより晴　(5日嵩で行方不明1人)
1724年　9月28日 享保9年　8月12日 晴　(長勝寺和尚など追放)
1724年　9月29日 享保9年　8月13日 晴
1724年　9月30日 享保9年　8月14日 晴
1724年　10月1日 享保9年　8月15日 今朝より終日風雨　(八幡宮御祭礼、三之丸御屋敷北の空き地から見物、二番鮭(初鮭の記述なし)差上げる)
1724年　10月2日 享保9年　8月16日 晴　(須藤要人が梨子1籠差上げる)
1724年　10月3日 享保9年　8月17日 陰晴　(宇田平館湊で荷打ち2艘・内破船1艘)
1724年　10月4日 享保9年　8月18日 快晴
1724年　10月5日 享保9年　8月19日 快晴
1724年　10月6日 享保9年　8月20日 陰晴　(酒値段1升が7分?、7月中碇関:出139・入り227・出入り合327人)
1724年　10月7日 享保9年　8月21日 快晴
1724年　10月8日 享保9年　8月22日 快晴
1724年　10月9日 享保9年　8月23日 快晴　(長尾某庭前の梨子差上げる)
1724年 10月10日 享保9年　8月24日 昨夜中より雨少々　終日に及ぶ　(屋形様御胸痛み家老等登城・早速御快気)
1724年 10月11日 享保9年　8月25日 曇　朝より終日雨　下から続く　下屋敷3軒・乗馬4疋・小荷駄2疋・牛0匹)
1724年 10月12日 享保9年　8月26日 晴　岩木山大霜見ル　下から続く　上女944(579・154・103・79・10・19)・下男402(251・83・30・24・7・7)・下女245(137・70・21・11・4・2)・家屋敷157軒・屋敷14軒・　上に続く
1724年 10月13日 享保9年　8月27日 曇　午の刻過ぎより雨　(当7月中野内:出45・入り99・都合148人、御用人支配切支丹宗門:惣人数2721人・上男1128(禅690・浄土235・法花102・門徒69・天台11・真言21)・　上に続く
1724年 10月14日 享保9年　8月28日 昨夜中より終日雨
1724年 10月15日 享保9年　8月29日 快晴　岩木山頂上ニ初めて雪見ル　(鮭留の入札結果あり)
1724年 10月16日 享保9年　8月30日 終日雨　夜中雨強し　(当月中所々御関所出人23人・切手紙15枚、駒越組桜庭村の喜右衛門(胆長4寸廻り4寸5歩)・油川組岩渡村の鉄砲打ち斉藤某(4寸2寸)それぞれ熊取る)
1724年 10月17日 享保9年　9月1日 今朝時々雨ふる
1724年 10月18日 享保9年　9月2日 晴
1724年 10月19日 享保9年　9月3日 晴
1724年 10月20日 享保9年　9月4日 快晴　辰の中刻雨
1724年 10月21日 享保9年　9月5日 快晴
1724年 10月22日 享保9年　9月6日 陰晴　(大目付に一粒金丹5粒)
1724年 10月23日 享保9年　9月7日 曇　辰の刻過ぎ小雨　終日小風　(先月中大間越:出39・入り29人)
1724年 10月24日 享保9年　9月8日 陰晴　小風
1724年 10月25日 享保9年　9月9日 快晴　八つ半過ぎより雨　夜中　(高利に関し申し渡し・1ないし3歩だぞ)
1724年 10月26日 享保9年　9月10日 陰晴　(先頃古懸不動尊御出汗、7日大鰐加賀助の湯で50余男死亡、先月中碇関:出236・入り262人)
1724年 10月27日 享保9年　9月11日 今朝より終日雨ふる　(7日蟹田町石浜湊で破船1艘)
1724年 10月28日 享保9年　9月12日 曇　(釼術高覧、炭値段3貫500目入り1俵1匁5分・(多分遠いところで)2匁2分)
1724年 10月29日 享保9年　9月13日 晴　(釼術高覧)
1724年 10月30日 享保9年　9月14日 快晴　(今別梨子当年なし)
1724年 10月31日 享保9年　9月15日 快晴　(御能初、7日内真部沖合いで破船1艘)

1724年　11月1日 享保9年　　9月16日 快晴
1724年　11月2日 享保9年　　9月17日 快晴　(松前で1日1軒・5日に23軒焼失、御目付に一粒金丹5粒、大間越で「金偏に男?」を用いて熊を突留る)
1724年　11月3日 享保9年　　9月18日 曇　辰の刻より雨　同中刻過ぎより晴　午の刻過ぎより陰晴　それより雨　夜中に及ぶ
1724年　11月4日 享保9年　　9月19日 終日雨ふる
1724年　11月5日 享保9年　　9月20日 昨夜中より初雪少々　(当8月中野内:出102・入り100・都合202人)
1724年　11月6日 享保9年　　9月21日 陰晴
1724年　11月7日 享保9年　　9月22日 快晴　(大目付に一粒金丹5粒)
1724年　11月8日 享保9年　　9月23日 快晴　小風
1724年　11月9日 享保9年　　9月24日 快晴
1724年 11月10日 享保9年　　9月25日 快晴　今朝明け前雨　則止む
1724年 11月11日 享保9年　　9月26日 快晴　夜に入り雨
1724年 11月12日 享保9年　　9月27日 今朝より終日雨ふる　夜中大風雨
1724年 11月13日 享保9年　　9月28日 快晴
1724年 11月14日 享保9年　　9月29日 午の下刻より雨　　下から続く　　青森の東風で破船1艘)
1724年 11月15日 享保9年　　9月30日 辰の下刻より雨風時々　午の中刻雷雨度々　(当月中所々御関所出人26人・切手紙21枚、広須新田上福原村の彦八熊(胆長3寸4歩廻り5寸3歩:4歳)取る、27日夜四つ時　　上に続く
1724年 11月16日 享保9年　　10月1日 曇
1724年 11月17日 享保9年　　10月2日 快晴
1724年 11月18日 享保9年　　10月3日 陰晴　(27日(先月)青森町奉行所に東風被害あり)
1724年 11月19日 享保9年　　10月4日 曇　辰の刻より小雨　則止む　寅の刻より雨　(両替84匁、先月27日広田組に大風被害・鶴が岡などで田乳13万5500束水湛)
1724年 11月20日 享保9年　　10月5日 小雨　風
1724年 11月21日 享保9年　　10月6日 晴　(人事異動)
1724年 11月22日 享保9年　　10月7日 昨夜より雨雪降る
1724年 11月23日 享保9年　　10月8日 曇
1724年 11月24日 享保9年　　10月9日 晴　辰の刻雨　それより晴
1724年 11月25日 享保9年　　10月10日 曇　時々小雪
1724年 11月26日 享保9年　　10月11日 陰晴
1724年 11月27日 享保9年　　10月12日 晴　午の刻より雨少し
1724年 11月28日 享保9年　　10月13日 陰晴　夜中雨降　(当9月中大間越:出50・入り23・都合73人)
1724年 11月29日 享保9年　　10月14日 曇
1724年 11月30日 享保9年　　10月15日 晴　(酒1升が8分・醤油1升が1匁8分・豆腐1挺が5文・旅籠1人90文宛だったのを米下値なので当月より80文に、当年の米値段は例年の半にも及ばずなどの最近の値段変化を示している)
1724年　12月1日 享保9年　　10月16日 晴　(三之丸御屋敷で歌舞伎)
1724年　12月2日 享保9年　　10月17日 晴
1724年　12月3日 享保9年　　10月18日 曇　昨夜雨　それより水それ(みぞれ:霙)降　夜中小雪
1724年　12月4日 享保9年　　10月19日 曇
1724年　12月5日 享保9年　　10月20日 晴　御堀氷張　(先月中野内:出82・入り110人、7月16日晩金木組徳下村の男が酒に酔い打ち殺される)
1724年　12月6日 享保9年　　10月21日 晴　昨夜中雨
1724年　12月7日 享保9年　　10月22日 陰晴　昨夜雨時々小雪　(9月中碇関:出162・入り106人)
1724年　12月8日 享保9年　　10月23日 曇
1724年　12月9日 享保9年　　10月24日 陰晴
1724年 12月10日 享保9年　　10月25日 晴　夜中雪降
1724年 12月11日 享保9年　　10月26日 陰晴
1724年 12月12日 享保9年　　10月27日 陰晴　時々小雨
1724年 12月13日 享保9年　　10月28日 快晴
1724年 12月14日 享保9年　　10月29日 陰晴　夜に入り小雨　(昨28日駒越組桜庭村で火災1軒)
1724年 12月15日 享保9年　　10月30日 曇　(4日浪岡組徳才子村の定右衛門(胆長3寸2歩廻り5寸5歩:10歳)・7日金木組宮野沢村の専助等(5寸6寸)それぞれ熊取る)
1724年 12月16日 享保9年　　11月1日 快晴　酉の刻より風雨
1724年 12月17日 享保9年　　11月2日 曇　終日雨　丸雪降　(先月29日和徳組向外瀬村で火災・村預けを3日で差許)
1724年 12月18日 享保9年　　11月3日 晴　今朝雪　(百沢寺・国上寺・久渡寺を国外追放)
1724年 12月19日 享保9年　　11月4日 陰晴　未の刻前小雨　酉の刻より雷発ス　夜中雨
1724年 12月20日 享保9年　　11月5日 曇
1724年 12月21日 享保9年　　11月6日 陰晴　午の刻より雪降
1724年 12月22日 享保9年　　11月7日 陰晴　終日雪
1724年 12月23日 享保9年　　11月8日 陰晴　昨夜雪　(先月中大間越:出68・入り37人、御内分から20貫目貸し出す)
1724年 12月24日 享保9年　　11月9日 晴　(青森より二番鱈差上げる)
1724年 12月25日 享保9年　　11月10日 曇　昨夜よりの雨　巳の刻過ぎまで降　それより晴
1724年 12月26日 享保9年　　11月11日 晴
1724年 12月27日 享保9年　　11月12日 曇　雪降
1724年 12月28日 享保9年　　11月13日 晴
1724年 12月29日 享保9年　　11月14日 曇　雪時々降　(11日藤代組北浮田村の十三海道に者倒死)
1724年 12月30日 享保9年　　11月15日 快晴　(今日寒気強し)
1724年 12月31日 享保9年　　11月16日 快晴　(2日赤田組板屋野木村・3日浦町組浜田村・9日浪岡組加連い沢村の火元の村預けそれぞれ御免、雑穀代米米1升に付き:次大豆1升7合8夕5才・上小麦5合1夕・上大麦1升7合2夕)

1725年　1月1日 享保9年　11月17日 快晴 （12日夜十三潟金木組高根村より十三まで氷張る、去年は10日で当年が2日遅く・節に引き合わせても21日遅い、先月中碇関:出206・入り153人、先月中野内:出76・入り108人）
1725年　1月2日 享保9年　11月18日 晴 （16日広田組五所川原村で小火半軒）
1725年　1月3日 享保9年　11月19日 曇 昨夜より終日雨 （16日横内組筒井村で火災1軒）
1725年　1月4日 享保9年　11月20日 終日雪降
1725年　1月5日 享保9年　11月21日 巳の刻前雪降 それより時々降る 小かん(小寒)戌の刻入る （御能・狂言）
1725年　1月6日 享保9年　11月22日 快晴 （16日の筒井村の火元御免）
1725年　1月7日 享保9年　11月23日 晴
1725年　1月8日 享保9年　11月24日 陰晴 時々小雨小風 昨夜より風雨終日
1725年　1月9日 享保9年　11月25日 時々雪降
1725年　1月10日 享保9年　11月26日 今朝より終日小雪降
1725年　1月11日 享保9年　11月27日 陰晴
1725年　1月12日 享保9年　11月28日 晴　下から続く　それぞれ熊取る、当月中所々御関所出人6人）
1725年　1月13日 享保9年　11月29日 陰晴 （21日飯詰村の火元の村預け差免、浪岡組徳才子村の定右衛門(胆長2寸廻り3寸4歩:5歳)・駒越組の7人組(2寸9歩3寸2歩:3歳)と5人組(4寸3歩5寸:4歳)　上に続く
1725年　1月14日 享保9年　12月1日 昨夜より雨 今朝辰の下刻まで それより風吹雪
1725年　1月15日 享保9年　12月2日 曇 時々雪降 （先月27日野内町に破船1艘寄せる・行方不明2人）
1725年　1月16日 享保9年　12月3日 曇 時々小雪
1725年　1月17日 享保9年　12月4日 晴 朝の内小雪
1725年　1月18日 享保9年　12月5日 晴 （江戸を先月23日発の早飛脚(8日振りに付くようにとの指示)が途中の大雪で遅れ11日振りに到着）
1725年　1月19日 享保9年　12月6日 晴
1725年　1月20日 享保9年　12月7日 曇 終日小雪 （16日赤石組一森村の喜六が熊(胆長3寸7歩廻り3寸)取る、11月分大間越:出20・入り21人）
1725年　1月21日 享保9年　12月8日 陰晴
1725年　1月22日 享保9年　12月9日 曇
1725年　1月23日 享保9年　12月10日 快晴 （1日松前で余程の出火の報、漁船が1艘行方不明・1日に南部道目木に寄せる・9人が行方不明）
1725年　1月24日 享保9年　12月11日 快晴
1725年　1月25日 享保9年　12月12日 晴 （先月中碇関:出137・入り139人）
1725年　1月26日 享保9年　12月13日 終日雨
1725年　1月27日 享保9年　12月14日 雪降 （1日松前唐津内町で出火・23軒焼失）
1725年　1月28日 享保9年　12月15日 時々雪 （江戸御供登りのメンバー発表・前より少し減員）
1725年　1月29日 享保9年　12月16日 快晴
1725年　1月30日 享保9年　12月17日 快晴 （十三潟は例年寒中に氷厚く張りその上を人が歩けるが今年は薄く四ヶ一は明けている）
1725年　1月31日 享保9年　12月18日 快晴 （勝之助死亡、棺の大きさ:高2尺1寸・横1尺7寸5歩・長2尺1寸5歩）
1725年　2月1日 享保9年　12月19日 快晴
1725年　2月2日 享保9年　12月20日 快晴 今朝雪
1725年　2月3日 享保9年　12月21日 快晴 今朝雪 （11月中碇関:出75・入り62・合137人）
1725年　2月4日 享保9年　12月22日 陰晴
1725年　2月5日 享保9年　12月23日 陰晴 （御能・狂言）
1725年　2月6日 享保9年　12月24日 陰晴 少々小雪 （先達て古懸不動尊出汗）
1725年　2月7日 享保9年　12月25日 今朝より終日小雪
1725年　2月8日 享保9年　12月26日 曇 時々小雪 （御囃子）
1725年　2月9日 享保9年　12月27日 終日小雪 （23日夜油川組細越村で火災・外馬屋焼失、当月24日葛野村の庄屋が藤崎川原で切腹・同晩死亡）
1725年　2月10日 享保9年　12月28日 晴
1725年　2月11日 享保9年　12月29日 曇 （12日猿賀組の助左衛門・19日駒越組相馬村の左衛門三郎・6日大鰐組居土村の弥左衛門それぞれ熊取る）
1725年　2月12日 享保9年　12月30日 今朝雪 （当月中所々御関所出人12人・切手紙7枚）
1725年　2月13日 享保10年 正月1日　晴
1725年　2月14日 享保10年 正月2日　晴
1725年　2月15日 享保10年 正月3日　晴 申の刻過ぎ小雪 （今晩御揺初）
1725年　2月16日 享保10年 正月4日　快晴 午の刻過ぎより雪時々
1725年　2月17日 享保10年 正月5日　曇 昨夜四つ過ぎより雪 今朝まで1尺降
1725年　2月18日 享保10年 正月6日　晴 昨夜中雪二尺三四寸降
1725年　2月19日 享保10年 正月7日　晴
1725年　2月20日 享保10年 正月8日　なし(天気の記述がない)
1725年　2月21日 享保10年 正月9日　快晴 昨夜雪二三寸降
1725年　2月22日 享保10年 正月10日　晴 昨夜雪四寸ほど降
1725年　2月23日 享保10年 正月11日　快晴 小雪時々
1725年　2月24日 享保10年 正月12日　陰晴 （御能）
1725年　2月25日 享保10年 正月13日　晴 巳の刻過ぎ雪暫く降
1725年　2月26日 享保10年 正月14日　なし(天気の記述がない)
1725年　2月27日 享保10年 正月15日　晴
1725年　2月28日 享保10年 正月16日　快晴 （広須新田上木作村の十三海道に盲目女倒死）

1725年　3月1日 享保10年正月17日　快晴 （15日油川組新城村で火災・家1軒と馬2疋焼失）
1725年　3月2日 享保10年正月18日　曇 辰の刻雪少し （16日夜金木組喜良市村で火災1軒53歳男小荷駄1疋焼失）
1725年　3月3日 享保10年正月19日　快晴
1725年　3月4日 享保10年正月20日　曇 （旧臘12月中碇関:出115・入り95人、同月大間越:出19・入り45人）
1725年　3月5日 享保10年正月21日　陰晴 昨夜中より今昼まで雪2寸ほど降
1725年　3月6日 享保10年正月22日　陰晴 昨夜中より今朝まで少々宛雪降 （平岡町?で女房変死）
1725年　3月7日 享保10年正月23日　晴 （三之丸で歌舞伎）
1725年　3月8日 享保10年正月24日　曇 （去る12月中野内:書付を差し出すと書いてあるが数値なし）
1725年　3月9日 享保10年正月25日　曇 辰の刻過ぎ丸雪少々降
1725年　3月10日 享保10年正月26日　曇 小風 昨夜中雪五六寸降
1725年　3月11日 享保10年正月27日　時々小雪 夜に入り雪1尺ほど降
1725年　3月12日 享保10年正月28日　今朝より時々小雪 （昨26日尾崎組小国村で火災1軒・火元村預け）
1725年　3月13日 享保10年正月29日　曇　下から続く　桜庭村の喜右衛門(4寸5寸:4歳)・26日浦町組合子沢村の弥左衛門(8寸7寸:10歳)それぞれ熊取る）
1725年　3月14日 享保10年正月30日　陰晴 （大鰐組長峰村の助四郎(胆長4寸5歩廻り6寸8歩:9歳)・23日同組蔵館村の弥五兵衛(4寸3歩7寸:5歳)・25日横内組横内村の左衛門四郎(4寸6寸:4歳)・4日駒越組　上に続く
1725年　3月15日 享保10年　2月1日 晴 （先月中所々御関所出人16人切手紙12枚）
1725年　3月16日 享保10年　2月2日 晴 未の刻過ぎ雪降
1725年　3月17日 享保10年　2月3日 晴 酉の中刻過ぎ雷四五度発す （大国村(多分26日の尾崎組小国村の誤り)の火元の村預け差免）
1725年　3月18日 享保10年　2月4日 曇 時々丸雪降
1725年　3月19日 享保10年　2月5日 快晴
1725年　3月20日 享保10年　2月6日 曇 （酒1升値段6分）
1725年　3月21日 享保10年　2月7日 曇 今朝雪時々
1725年　3月22日 享保10年　2月8日 快晴
1725年　3月23日 享保10年　2月9日 晴 （金木組相内村の山王坊の脇から古い鰐口出土）
1725年　3月24日 享保10年　2月10日 陰晴 （大間越町奉行から昨年どおり熊狼対策として鉄砲玉などの要求あり・渡す、先月中大間越:出6・入り115人）
1725年　3月25日 享保10年　2月11日 曇 今朝より雪時々 午の刻より少し晴
1725年　3月26日 享保10年　2月12日 晴 （正月中碇関:出147・入り202・都合349人）
1725年　3月27日 享保10年　2月13日 晴
1725年　3月28日 享保10年　2月14日 曇 昨夜丑の刻雨今日まで 朝辰の刻雷
1725年　3月29日 享保10年　2月15日 晴
1725年　3月30日 享保10年　2月16日 快晴
1725年　3月31日 享保10年　2月17日 快晴 午の刻過ぎより雪 （岩木川洪水・今日七時過ぎより往還相止む）
1725年　4月1日 享保10年　2月18日 晴 昨夜中雨 （今朝五つ時より駒越川長船で通す）
1725年　4月2日 享保10年　2月19日 快晴 （17日夜油川組油川村で火災7軒焼失・火元村預け、正月中野内:出45・入り13人）
1725年　4月3日 享保10年　2月20日 快晴
1725年　4月4日 享保10年　2月21日 晴
1725年　4月5日 享保10年　2月22日 陰晴 （19日金木新田大里村で火災1軒）
1725年　4月6日 享保10年　2月23日 曇 終日雨時々
1725年　4月7日 享保10年　2月24日 陰晴
1725年　4月8日 享保10年　2月25日 晴 （飯詰組で長柄足軽が切腹・死亡）
1725年　4月9日 享保10年　2月26日 晴 小風時々 （今年は正月に入り少々雪降る程度で山中の雪が少ないとのこと）
1725年　4月10日 享保10年　2月27日 陰晴
1725年　4月11日 享保10年　2月28日 陰晴 （三之丸で歌舞伎?）
1725年　4月12日 享保10年　2月29日 曇 終日雨 （当月中所々御関所出人都合19人切手紙13枚、23日赤石組艫作村沖で破船1艘）
1725年　4月13日 享保10年　3月1日 曇 終日小雨 丸雪降 （300目玉鉄砲出来）
1725年　4月14日 享保10年　3月2日 晴 小風 未の下刻より雨風強
1725年　4月15日 享保10年　3月3日 辰の下刻風暫く吹 それより晴
1725年　4月16日 享保10年　3月4日 晴 （関札打ち発足）
1725年　4月17日 享保10年　3月5日 晴 巳の刻過ぎより曇 同刻雨 雷発す 夜に入り雪降
1725年　4月18日 享保10年　3月6日 辰の刻丸雪少々降 それより晴
1725年　4月19日 享保10年　3月7日 晴 時々小風
1725年　4月20日 享保10年　3月8日 快晴 小風 （御手廻組頭に一粒金丹10粒）
1725年　4月21日 享保10年　3月9日 陰晴
1725年　4月22日 享保10年　3月10日 快晴 （宿札打ち御手廻発足、2月中大間越:出22・入り52・都合74人）
1725年　4月23日 享保10年　3月11日 曇 時々小雨ふる （久保田で金1歩が1貫75文位・米1升が13文位、乳井毘沙門の見立て:当作4分6分、長勝寺末寺に法雷山慈雲院あり、10日朝青森湊目付御手廻金子某自害）
1725年　4月24日 享保10年　3月12日 終日曇　下から続く　焼失・東風殊の外強く・町奉行御役所・材木役人役所・同御蔵2軒等々を焼失）
1725年　4月25日 享保10年　3月13日 曇 朝より雨 （屋形様巳の刻前御発駕、10日朝より後潟組石浜村で山火事(14・5丁×10丁ほど)、瓦町で昨日不審小火、一昨11日昼八つ頃十三町で135軒中35・6軒を残し　上に続く
1725年　4月26日 享保10年　3月14日 晴 小風
1725年　4月27日 享保10年　3月15日 快晴
1725年　4月28日 享保10年　3月16日 快晴 終日小風
1725年　4月29日 享保10年　3月17日 曇 今朝より小雨 巳の刻過ぎに及ぶ それより陰晴
1725年　4月30日 享保10年　3月18日 なし(天気の記述がない)

1725年　5月1日 享保10年　3月19日 曇　朝より終日雨　(12日駒越組相馬村で野火(300間×80間ほど)、2月中野内:出67・入り53・都合123人)
1725年　5月2日 享保10年　3月20日 曇　今朝より雨　丸雪時々ふる　(11日十三町で焼失の御蔵米は608俵余、慈雲院は報恩寺東となりに1760坪)
1725年　5月3日 享保10年　3月21日 快晴　今朝霜少々ふる
1725年　5月4日 享保10年　3月22日 陰晴　時々小風　未の刻過ぎ雨降　(御城付足軽頭に一粒金丹3粒、16日松前で火災16軒・10日松前亀田で41軒焼失)
1725年　5月5日 享保10年　3月23日 曇　辰の刻過ぎより小雨
1725年　5月6日 享保10年　3月24日 今朝より時々小雨　(御城付足軽頭(22日とは別人)に一粒金丹3粒、先月中碇関:出116・入り176人)
1725年　5月7日 享保10年　3月25日 陰晴　終日小風
1725年　5月8日 享保10年　3月26日 曇　巳の刻過ぎより雨降
1725年　5月9日 享保10年　3月27日 晴　(魚油1升を3匁5分から4匁に変更)
1725年　5月10日 享保10年　3月28日 快晴
1725年　5月11日 享保10年　3月29日 快晴　(当月中所々御関所出人82人・切手紙48枚、駒越組田代村の次右衛門・藤右衛門・中畑村の仁助・浪岡組徳才子村の定右衛門がそれぞれ熊取る)
1725年　5月12日 享保10年　4月1日 快晴
1725年　5月13日 享保10年　4月2日 晴
1725年　5月14日 享保10年　4月3日 快晴
1725年　5月15日 享保10年　4月4日 快晴
1725年　5月16日 享保10年　4月5日 巳の下刻より午の后刻まで雨　それより風段々強　御家中諸士相詰める　(今日四つ時過ぎより西風吹く・段々大風に・所々小破あり)
1725年　5月17日 享保10年　4月6日 快晴　申の刻雨　雷発す
1725年　5月18日 享保10年　4月7日 晴　小風　(1日昼飯詰組飯詰村で野火(120間×40間ほど))
1725年　5月19日 享保10年　4月8日 晴　時々小風
1725年　5月20日 享保10年　4月9日 陰晴　小風　(5日の西風大風で金木組小泊の袰内崎に破船1艘)
1725年　5月21日 享保10年　4月10日 快晴　(5日の大風で八幡宮に被害、昨8日青森町に男縊死)
1725年　5月22日 享保10年　4月11日 快晴　(5日の大風で深浦に船殻大小38流れ寄せる、大間越町から御蔵米60俵払い出し願い・1俵12匁7分2厘で50俵払出す)
1725年　5月23日 享保10年　4月12日 陰晴　(先月中大間越:出18・入り43人、3月中碇関:出246と発駕の供(851人・馬13疋・御家中乗馬3疋)・入り317人)
1725年　5月24日 享保10年　4月13日 陰晴　時々小風　(一昨夜尾崎組大坊で火災・類火もある)
1725年　5月25日 享保10年　4月14日 快晴　(5日深浦町で父子走る、今晩暮六つ過ぎ薬王院内で火災・寺1軒焼失)
1725年　5月26日 享保10年　4月15日 快晴　昨夜五つ前薬王院構え〇(薬か)王院出火有之　(屋形様当月3日江戸着、先月中野内:出88・入り84人、先日の大風で最勝院の杉数多く折れる)
1725年　5月27日 享保10年　4月16日 快晴
1725年　5月28日 享保10年　4月17日 快晴　(12日七つ時より13日九つ時まで横内山で火事(500間×300間ほど・300間×2間ほど・2間×100間ほど))
1725年　5月29日 享保10年　4月18日 陰晴　午の刻前雨
1725年　5月30日 享保10年　4月19日 曇
1725年　5月31日 享保10年　4月20日 曇　昨夜の雨五つ過ぎまで降　それより晴　駒越川洪水
1725年　6月1日 享保10年　4月21日 陰晴　時々小風
1725年　6月2日 享保10年　4月22日 快晴
1725年　6月3日 享保10年　4月23日 快晴
1725年　6月4日 享保10年　4月24日 快晴　(20日晩藤代組長浜に死骸寄せる)
1725年　6月5日 享保10年　4月25日 快晴
1725年　6月6日 享保10年　4月26日 曇
1725年　6月7日 享保10年　4月27日 快晴
1725年　6月8日 享保10年　4月28日 晴
1725年　6月9日 享保10年　4月29日 晴
1725年　6月10日 享保10年　4月30日 晴　(11日尾崎組大坊村の火元の村預け赦免、野萱1〆(但し五尺縄)＝銀1匁＝米5升)
1725年　6月11日 享保10年　5月1日 曇　終日雨　夜中に及ぶ　(浪岡組徳才子村と大鰐組苦木村の猟師がそれぞれ熊取る)
1725年　6月12日 享保10年　5月2日 快晴　(御手廻・御右筆に一粒金丹3粒宛)
1725年　6月13日 享保10年　5月3日 陰晴　時々小雨
1725年　6月14日 享保10年　5月4日 曇　晴　巳の下刻小雨　則止む　(横内弥助の上屋敷を郡所物書き福眞清右衛門に、1日浅瀬石川洪水)
1725年　6月15日 享保10年　5月5日 快晴
1725年　6月16日 享保10年　5月6日 快晴　(郡所物書きに福眞清右衛門)
1725年　6月17日 享保10年　5月7日 快晴　(草水油(くそうず:原油)の取様あり)
1725年　6月18日 享保10年　5月8日 曇　巳の刻快晴　未の刻より曇
1725年　6月19日 享保10年　5月9日 快晴　(大間越の御蔵米50俵御払い願い・1俵11匁6分2厘で50俵払出す、当4月中大間越:出36・入り43・都合49人、4月中野内:出50・入り180・都合158人)
1725年　6月20日 享保10年　5月10日 快晴
1725年　6月21日 享保10年　5月11日 快晴
1725年　6月22日 享保10年　5月12日 曇
1725年　6月23日 享保10年　5月13日 朝の内風雨　巳の刻雨晴(れる)　終日小風　(昨日東長町で井戸にはまり男死亡)
1725年　6月24日 享保10年　5月14日 曇　(昨日大鰐より胡瓜5つ上る)
1725年　6月25日 享保10年　5月15日 曇　終日雨降
1725年　6月26日 享保10年　5月16日 陰晴
1725年　6月27日 享保10年　5月17日 曇　(4月中碇関:出211・入り395・都合600人)
1725年　6月28日 享保10年　5月18日 曇
1725年　6月29日 享保10年　5月19日 陰晴　(大鰐より初真瓜5つ上る・去々年は6月12日だった)
1725年　6月30日 享保10年　5月20日 晴　巳の刻雨少々降

1725年　7月1日 享保10年　5月21日 晴　午の刻前雨降 （検地御用竿の1間は6尺5寸）
1725年　7月2日 享保10年　5月22日 快晴
1725年　7月3日 享保10年　5月23日 陰晴　午の刻より小雨
1725年　7月4日 享保10年　5月24日 晴 （大間越町に6月分として蔵米50俵払出す）
1725年　7月5日 享保10年　5月25日 快晴　申の刻雨降
1725年　7月6日 享保10年　5月26日 曇　夜中雨
1725年　7月7日 享保10年　5月27日 陰晴 （一昨日藤代組種市村で7歳男子が「川わつは」ニ取られる）
1725年　7月8日 享保10年　5月28日 晴 （大鰐より初茄子5上る）
1725年　7月9日 享保10年　5月29日 曇 （当月中所々御関所出人40人切手紙26枚、江戸より11日振りに申し付けた飛脚が道中所々洪水で14日振りで昨日到着）
1725年　7月10日 享保10年　6月1日 晴
1725年　7月11日 享保10年　6月2日 晴 （伊勢（神宮）で五穀成就の太々神楽料が50両なのだそうな）
1725年　7月12日 享保10年　6月3日 晴
1725年　7月13日 享保10年　6月4日 晴 （当5月中野内:出62・入り62・都合124人、当5月中碇関:出156・入り227・出入り合383人）
1725年　7月14日 享保10年　6月5日 快晴
1725年　7月15日 享保10年　6月6日 快晴
1725年　7月16日 享保10年　6月7日 快晴 （渇水で五穀成就の祈祷、5月中大間越:出29・入り22・都合51人）
1725年　7月17日 享保10年　6月8日 晴
1725年　7月18日 享保10年　6月9日 快晴 （昨日堀越組取上村で火災・火元村預け）
1725年　7月19日 享保10年　6月10日 快晴 （大円寺に雨乞いの祈祷仰せ付ける）
1725年　7月20日 享保10年　6月11日 快晴
1725年　7月21日 享保10年　6月12日 今朝五つ半過ぎより少し雨　それより四つ過ぎ晴 （当4月中油川組油川村で火災7軒焼失、4日南部大膳死亡）
1725年　7月22日 享保10年　6月13日 快晴
1725年　7月23日 享保10年　6月14日 晴 （昨13日昼堀越組取上村で火災1軒（3間×4間:百姓）、一昨11日三馬屋で山火事（3町四方））
1725年　7月24日 享保10年　6月15日 陰晴　昨夜雨　則止む　巳の中刻より雨降　則刻止む （尾崎組尾崎村から手作りのお茶1箱上がる、当月1日（8日か）出火の取上村の火元の村預け赦免）
1725年　7月25日 享保10年　6月16日 快晴
1725年　7月26日 享保10年　6月17日 快晴　酷暑強　夜に入り雨暫く降　則相止む （旱魃につき長勝寺・報恩寺・新宮寺の三ヶ寺に雨祭の御祈祷仰せ付ける、油川組古川村で40斗男縊死）
1725年　7月27日 享保10年　6月18日 陰晴
1725年　7月28日 享保10年　6月19日 快晴 （旱魃に対する雨祭を神明・八幡で、17日の大風で長浜沖に破船1艘）
1725年　7月29日 享保10年　6月20日 快晴 （尾崎組岩館村の弥助が4月22日四十日早稲を植え付け6月18日出穂・昨年は4月12日と6月11日、佐々木武右衛門が作った100目玉（射程20町）・300目玉（射程28町）鉄砲試射）
1725年　7月30日 享保10年　6月21日 陰晴
1725年　7月31日 享保10年　6月22日 陰晴　巳の刻過ぎ雨少々　則止む
1725年　8月1日 享保10年　6月23日 快晴
1725年　8月2日 享保10年　6月24日 快晴　巳の下刻少し地震
1725年　8月3日 享保10年　6月25日 快晴　暑気強し
1725年　8月4日 享保10年　6月26日 快晴　酷暑強し
1725年　8月5日 享保10年　6月27日 快晴　酷暑強し （24日蟹田組中柏木村で野火（500間×100間）
1725年　8月6日 享保10年　6月28日 快晴　今朝霜　残暑強し （24日油川組岩渡村で山火事（200間×100間ほど））　下から続く　:当歳）それぞれ熊取る）
1725年　8月7日 享保10年　6月29日 快晴　今朝きりふる （当月中所々御関所出人34人切手紙22枚、19日大鰐組森山村の弥左衛門（胆長3寸5歩廻り4寸:5歳）・11日駒越組田代村の藤右衛門（2寸3歩2寸4歩　上に続く
1725年　8月8日 享保10年　7月1日 快晴 （長勝寺で井戸かれる）
1725年　8月9日 享保10年　7月2日 快晴
1725年　8月10日 享保10年　7月3日 快晴
1725年　8月11日 享保10年　7月4日 快晴 （2日後潟組平館村で山火事、今朝六半過ぎ本町で小火）
1725年　8月12日 享保10年　7月5日 晴
1725年　8月13日 享保10年　7月6日 快晴　残暑強し
1725年　8月14日 享保10年　7月7日 快晴　残暑強し　申の刻雨　夜中に及ぶ
1725年　8月15日 享保10年　7月8日 陰晴 （昨夜雨で駒越渡し仮橋引く、5日金木組喜良市山で山火事（200間×150間ほど:焼け檜1500本）、先月中大間越:出20・入り40人、同月野内:出73・入り105人）
1725年　8月16日 享保10年　7月9日 快晴
1725年　8月17日 享保10年　7月10日 快晴 （5～7日浪岡組五本松村で野火（500間×300間ほど）、7日油川組三馬屋で山火事（四方5町））
1725年　8月18日 享保10年　7月11日 快晴 （7日今別領算用師に山火事（5町四方）、当6月中碇関:出213・入り235・都合448人、大鰐組大鰐村の加賀助・尾崎組岩館村の弥助より初米各3俵上る）
1725年　8月19日 享保10年　7月12日 快晴 （切支丹類族毛内有助病死・42歳、5日横内組久栗坂で山火事（30間×23・4間）、7日同組瀧澤山で山火事（500間×350間）・雨で消える）
1725年　8月20日 享保10年　7月13日 陰晴
1725年　8月21日 享保10年　7月14日 快晴
1725年　8月22日 享保10年　7月15日 晴
1725年　8月23日 享保10年　7月16日 快晴
1725年　8月24日 享保10年　7月17日 快晴　辰の刻過ぎ雷発す
1725年　8月25日 享保10年　7月18日 曇
1725年　8月26日 享保10年　7月19日 快晴
1725年　8月27日 享保10年　7月20日 陰晴　午の中刻大雨風　申の刻より晴
1725年　8月28日 享保10年　7月21日 快晴
1725年　8月29日 享保10年　7月22日 快晴
1725年　8月30日 享保10年　7月23日 巳の刻過ぎより雨　それより晴　夜中雨　下から続く　御家中樋口某・松田某に一粒金丹2粒宛）
1725年　8月31日 享保10年　7月24日 巳の中刻より雨降 （当年御廻船41艘で47000石余を積み鯵ヶ沢を出る、20日の難風で小泊沖に水船1艘、21日浦町組金浜村で火災1軒・土蔵・外馬屋焼失・火元村預け、　上に続く

1725年　9月1日 享保10年　7月25日 快晴　朝の内雨
1725年　9月2日 享保10年　7月26日 快晴　朝の内雨
1725年　9月3日 享保10年　7月27日 曇　巳の刻より大風雨　申の刻過ぎ岩木川洪水　(当月4日7日外濱の石崎・平館・瀧野沢村で野火・早速火消す、20日の洪水で駒越川から流木が3万本流失)
1725年　9月4日 享保10年　7月28日 晴　(一昨日の雨風で岩木川に九分の洪水・駒越・石渡・藤崎の往還止る、昨日の雨風で薬王院の木が折れる、当月中所々御関所出人31人切手紙25枚)
1725年　9月5日 享保10年　7月29日 陰晴　(一昨日の雨風で新町の家1軒こ路飛(転び)申し候)
1725年　9月6日 享保10年　7月30日 陰晴　夜に入り大雨　雷数度発す　(20日の風雨で国上寺の杉折れる、14日飯詰組若山村の半助が熊(胆長3寸5歩廻り5寸5歩:7才)取る)
1725年　9月7日 享保10年　8月1日 曇　(御馬廻りに一粒金丹2粒、昨夜の雨で駒越川洪水・船渡相止める、20日の大風で革秀寺の杉が倒れる)
1725年　9月8日 享保10年　8月2日 陰晴　(百沢寺より苔之実差上げる、駒越川今朝六つ半頃より長船で通う、先月21日の大風で後潟組奥平部で破船1艘)
1725年　9月9日 享保10年　8月3日 快晴　夜子の刻大風雨　寅の刻相止む
1725年　9月10日 享保10年　8月4日 晴　(昨夜の大風で最勝院・禰宜町の杉8本倒れる、神宮寺・薬王院でも、去月27日の大風で大間越に破船2艘、先月中大間越:出55・入り42人)
1725年　9月11日 享保10年　8月5日 快晴　下から続く　より鯵ヶ沢で南風強く長浜付近・荒浜沖で破船4艘・死亡1人・行方不明13人)
1725年　9月12日 享保10年　8月6日 晴　(3日夜九つ半頃より4日明前まで青森で西南の強風・青森御仮屋・碇関に被害、同日藤代組浮田・妙見堂村で2軒(4間×6間・3間×5間:共に百姓)倒れる、同日夜八つ半　上に続く
1725年　9月13日 享保10年　8月7日 曇　辰の刻過ぎより雨時々ふる　(大間越町に1俵11匁5分で御蔵米50俵払出す、3日深浦町沢部で破船1艘、同夜十三沖で破船3艘)
1725年　9月14日 享保10年　8月8日 快晴　(先月20日久保田渡鹿沖で大風・破船1艘2人死亡、同日紙漉き細工所大破、3日渡鹿沖で大風・1800石余積み込んだ船が破船5人死亡、同日油川組新城村で潰れ家1軒・馬1疋等)
1725年　9月15日 享保10年　8月9日 曇　(3日の大風で十三沖で破船1艘・3人死亡、同日深浦沖で破船6艘・行方不明14人、8日長浜に死骸寄せる)
1725年　9月16日 享保10年　8月10日 陰晴　辰の刻より雨時々ふる
1725年　9月17日 享保10年　8月11日 快晴　(当7月中碇関:出186・入り258・出入り都合444人、3日の大風で大鰐組蔵館大日堂の柴垣大破、同日赤石組村々で4軒潰れる、飛脚が白河の洪水で1日遅れで到着)
1725年　9月18日 享保10年　8月12日 曇　(野内:出87・入り127・都合214人)
1725年　9月19日 享保10年　8月13日 快晴
1725年　9月20日 享保10年　8月14日 曇　未の刻過ぎより雨　夜に及ぶ　(3日夜の風で千歳山施設に被害、同日渡鹿沖で破船1艘・1人死亡)
1725年　9月21日 享保10年　8月15日 曇　時々雨ふる　(3日の大風で町中の木戸2箇所が倒れる、昨夜の雨で岩木川7歩の洪水・往還相止む・4日四つ半頃より長船運行)
1725年　9月22日 享保10年　8月16日 陰晴　時々小雨
1725年　9月23日 享保10年　8月17日 晴　(3日油川組岡町村で北向きに倒木あり1軒潰れる、3日深浦沖で破船3艘・1人死亡、同日飛島沖で破船の船が赤石組沢部に流れ寄せる・11人行方不明)
1725年　9月24日 享保10年　8月18日 巳の刻より雨ふる　夜に入り雨ふる
1725年　9月25日 享保10年　8月19日 晴　(14日朝十三湊で破船1艘)
1725年　9月26日 享保10年　8月20日 晴
1725年　9月27日 享保10年　8月21日 陰晴
1725年　9月28日 享保10年　8月22日 快晴
1725年　9月29日 享保10年　8月23日 快晴　申の刻より雨　雷数度発す
1725年　9月30日 享保10年　8月24日 曇　巳の刻過ぎより雨降　午の刻過ぎに止む　(先月27日浦町組金浜村の火災・火元村預け免許、時疫の祈祷をしている)
1725年　10月1日 享保10年　8月25日 快晴　申の刻雨暫く降
1725年　10月2日 享保10年　8月26日 陰晴　午の下刻より雨ふる　申の刻過ぎ雷　大雨暫く降
1725年　10月3日 享保10年　8月27日 快晴　下から続く　屋敷16軒・下屋敷3軒・乗馬2疋)
1725年　10月4日 享保10年　8月28日 快晴　(8月24日二番鮭・27日三番鮭差上げる)　下から続く　191・87・10・57・18)・下男370(235・83・16・5・25・6)・下女219(133・59・12・2・11・2)・家屋敷151軒・　上に続く
1725年　10月5日 享保10年　8月29日 快晴　(当月中所々御関所出人36人切手紙26枚、御用人支配切支丹宗門改め:惣人数2631人・上男1098(禅680・浄土233・法花88・天台11・門徒65・真言21)・上女944(581・　上に続く
1725年　10月6日 享保10年　9月1日 晴
1725年　10月7日 享保10年　9月2日 曇
1725年　10月8日 享保10年　9月3日 陰晴
1725年　10月9日 享保10年　9月4日 曇　巳の刻過ぎより雨降　(1日猿賀組尾上村で火災(2間×2間:高無)・火元村預け)
1725年　10月10日 享保10年　9月5日 曇　午の下刻より雨少し
1725年　10月11日 享保10年　9月6日 快晴
1725年　10月12日 享保10年　9月7日 曇　終日雨　(8月中野内:出123・入り111・出入り都合234人)
1725年　10月13日 享保10年　9月8日 快晴　(8月中大間越:出89・入り77・都合166人)
1725年　10月14日 享保10年　9月9日 なし(天気の記述がない)
1725年　10月15日 享保10年　9月10日 巳の下刻より雨　(1日尾上の火元の村預け御免、横内組作道で男倒死)
1725年　10月16日 享保10年　9月11日 曇　午の下刻小雨　(牢死男1人)
1725年　10月17日 享保10年　9月12日 快晴
1725年　10月18日 享保10年　9月13日 巳の刻より雨
1725年　10月19日 享保10年　9月14日 曇　終日小雨
1725年　10月20日 享保10年　9月15日 曇　今日初めて岩木山頂上雪見る　(時疫がまだはやっている)
1725年　10月21日 享保10年　9月16日 巳の刻過ぎ雨少し降　それより晴
1725年　10月22日 享保10年　9月17日 曇　(先月中碇関:出368・入り210人)
1725年　10月23日 享保10年　9月18日 陰晴
1725年　10月24日 享保10年　9月19日 陰晴
1725年　10月25日 享保10年　9月20日 晴　(昨夜九時前石渡御蔵町で火災5軒、和徳組高崎村に50余男倒死)
1725年　10月26日 享保10年　9月21日 快晴　今朝雪降
1725年　10月27日 享保10年　9月22日 陰晴　寅の刻少し雨　卯の刻止む
1725年　10月28日 享保10年　9月23日 終日雨　夜に入り雷一両度発す
1725年　10月29日 享保10年　9月24日 曇　昨日より岩木山近山迄雪見る　今朝丸雪　それより時々雨
1725年　10月30日 享保10年　9月25日 曇　小雨
1725年　10月31日 享保10年　9月26日 快晴

1725年　11月1日 享保10年　9月27日 快晴 （19日夜御蔵町の火元の入寺御免）　下から続く　・一向70(20・24・16・10)・法花69(26・14・15・14)・合784人(243・228・184・129))
1725年　11月2日 享保10年　9月28日 快晴 （6月より9月20日までの死者数(死因記載なし:時疫か):天台22(男14・女8)・真言21(男5・女2・男子8・女子6)・禅418(116・124・110・68)・浄土184(62・56・35・31)　上に続く
1725年　11月3日 享保10年　9月29日 なし(天気の記述がない)
1725年　11月4日 享保10年　9月30日 晴 （11日駒越組田代村の次右衛門が熊(胆長3寸7歩廻り3寸5歩:3歳)取る）
1725年　11月5日 享保10年　10月1日 陰晴 昼の内雨 夜に入り雨時々 （屋形様先月21日江戸発駕）
1725年　11月6日 享保10年　10月2日 曇 終日雨 岩木山江雪見る
1725年　11月7日 享保10年　10月3日 陰晴 巳の刻雨 それより晴る
1725年　11月8日 享保10年　10月4日 辰の刻より雨時々降
1725年　11月9日 享保10年　10月5日 晴
1725年 11月10日 享保10年　10月6日 快晴
1725年 11月11日 享保10年　10月7日 快晴 夜中時々雨
1725年 11月12日 享保10年　10月8日 今朝より時々小雨 夜に入り初雪降
1725年 11月13日 享保10年　10月9日 曇 辰の刻前少々雪降 （屋形様七半過ぎ碇関御発駕・午の中刻御着城:交替道中としては早過ぎないか）
1725年 11月14日 享保10年　10月10日 快晴
1725年 11月15日 享保10年　10月11日 晴 （江戸からの飛脚が秋田の豊島川の洪水で2日遅れで到着）
1725年 11月16日 享保10年　10月12日 快晴 （当9月中大間越:出85・入り38・都合123人）
1725年 11月17日 享保10年　10月13日 曇 時々小雨 小風
1725年 11月18日 享保10年　10月14日 陰晴
1725年 11月19日 享保10年　10月15日 快晴 （9月中碇関:出232・入り178・都合410人、10日駒越組中畑村の彦左衛門が熊(胆長3寸5歩廻り5寸6歩:3歳)取る）
1725年 11月20日 享保10年　10月16日 曇 辰の刻より雷数度 巳の刻雨降
1725年 11月21日 享保10年　10月17日 陰晴
1725年 11月22日 享保10年　10月18日 快晴 今朝大霜
1725年 11月23日 享保10年　10月19日 快晴 今朝霜少し
1725年 11月24日 享保10年　10月20日 曇 午の下刻より小雨 （先月中野内:出101・入り111人）
1725年 11月25日 享保10年　10月21日 晴 （御能）
1725年 11月26日 享保10年　10月22日 曇 終日雨 夜に入り風雨 雪1寸ほど降
1725年 11月27日 享保10年　10月23日 曇 時々小雪雨 （三之丸御屋敷で歌舞伎）
1725年 11月28日 享保10年　10月24日 陰晴
1725年 11月29日 享保10年　10月25日 曇 昨夜の雨終日大雨
1725年 11月30日 享保10年　10月26日 陰晴 昨夜中時々雨 （熟柿1籠御家中が差上げる、御家中野宮某が梨子3品(三馬屋・森山・鶴岡)差上げる、昨夜御家中が乱心妻娘切り殺し自害(11月10日死亡)）
1725年　12月1日 享保10年　10月27日 なし(天気の記述がない) （御道中旅籠定め(1人1日に付):上2匁4分6厘・下2匁1分4厘）
1725年　12月2日 享保10年　10月28日 晴 午の刻より曇 夜に入り風雨
1725年　12月3日 享保10年　10月29日 曇
1725年　12月4日 享保10年　10月30日 曇 昨夜より雪時々 終日ふる （駒越組中畑村の猟師が熊(胆長2寸5歩:3才)取る）
1725年　12月5日 享保10年　11月1日 晴
1725年　12月6日 享保10年　11月2日 晴 辰の刻過ぎ小雪少し降 夜中雪 （先月29日青森の町人縊死）
1725年　12月7日 享保10年　11月3日 晴 辰の刻過ぎ小雪少し 夜中雪降
1725年　12月8日 享保10年　11月4日 今朝より時々雪 （深浦町の1家3人走る）
1725年　12月9日 享保10年　11月5日 快晴 （駒越組田代村の火元の村預け赦免）
1725年 12月10日 享保10年　11月6日 曇 時々小雨
1725年 12月11日 享保10年　11月7日 曇 巳の刻前より終日雨降
1725年 12月12日 享保10年　11月8日 曇 時々雨降
1725年 12月13日 享保10年　11月9日 快晴
1725年 12月14日 享保10年　11月10日 時々雨降 夜中雨 （10月26日に乱心の御家中自害男死亡）
1725年 12月15日 享保10年　11月11日 時々小雨 夜に入り雷発す （二番鱈・三番鱈差上げる:初鱈は見えない）
1725年 12月16日 享保10年　11月12日 曇 辰の刻過ぎ小雪 夜に入り雪降 （去春は米14・5匁、秋8匁4・5分、当春11・2匁、只今8匁2・3分）
1725年 12月17日 享保10年　11月13日 陰晴 朝の内少し雪降
1725年 12月18日 享保10年　11月14日 時々少し雪 （12日赤石組小森村で火災・萱家1軒・米20俵・稲1万束・馬5疋焼失・火元村預け）
1725年 12月19日 享保10年　11月15日 陰晴
1725年 12月20日 享保10年　11月16日 陰晴
1725年 12月21日 享保10年　11月17日 陰晴
1725年 12月22日 享保10年　11月18日 曇 終日雨 夜中まで
1725年 12月23日 享保10年　11月19日 時々終日雪降
1725年 12月24日 享保10年　11月20日 曇 昨夜中雪六七寸ほど降 終日雪降
1725年 12月25日 享保10年　11月21日 陰晴 時々小雪 （5月に御家中が青森の町人を切り殺す）
1725年 12月26日 享保10年　11月22日 陰晴 終日雪 （20日の晩飯詰組神山村のはづれで40男乞食倒死、11日赤石組小森村の火元の村預け差免、、無疵の雉子1羽代10匁宛）
1725年 12月27日 享保10年　11月23日 晴 辰の刻過ぎ雪暫く降 （堀越組取上村に50位男倒死）
1725年 12月28日 享保10年　11月24日 終日雪降 夜中少々雪
1725年 12月29日 享保10年　11月25日 曇 終日雪降
1725年 12月30日 享保10年　11月26日 時々終日雪
1725年 12月31日 享保10年　11月27日 曇 時々雪降

1726年　1月1日 享保10年　11月28日 陰晴　朝の内雪降
1726年　1月2日 享保10年　11月29日 陰晴　(22日夜十三潟が高根村より十三湊まで氷張る)
1726年　1月3日 享保10年　12月1日 快晴
1726年　1月4日 享保10年　12月2日 陰晴
1726年　1月5日 享保10年　12月3日 陰晴
1726年　1月6日 享保10年　12月4日 晴　丑の一刻より寒に入る
1726年　1月7日 享保10年　12月5日 晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ
1726年　1月8日 享保10年　12月6日 曇　終日雪降
1726年　1月9日 享保10年　12月7日 曇　終日吹雪　(柾・木舞値段:三尺柾1000枚で7匁(お定めは12匁)・柿(多分柿(こけら)の誤り)柾1000枚で4匁7分(お定め7匁5分)・木舞100枚で2匁7分(お定め3匁))
1726年　1月10日 享保10年　12月8日 陰晴　昨夜中　今朝巳の刻前まで雪降　(雑穀米1升引替:上大豆9合3夕・上黒小豆8合・大納言小豆5合2夕・青つる?大豆8合2夕・黒大豆7合5夕)
1726年　1月11日 享保10年　12月9日 陰晴　(去る6日大風・青森の御制札吹き倒れる)
1726年　1月12日 享保10年　12月10日 曇　時々小雪
1726年　1月13日 享保10年　12月11日 今朝より終日丸雪降　(寒造り酒1升値段7分だったのが2月6日より6分になっている・又7分に戻す)
1726年　1月14日 享保10年　12月12日 晴
1726年　1月15日 享保10年　12月13日 陰晴
1726年　1月16日 享保10年　12月14日 陰晴
1726年　1月17日 享保10年　12月15日 陰晴　酉の刻前より雪少々ふる
1726年　1月18日 享保10年　12月16日 晴　(先月中碇関:出98・入り132人、先月中野内:出61・入り67人、11日青森で西北の強風・破船2艘1人死亡)
1726年　1月19日 享保10年　12月17日 時々雪
1726年　1月20日 享保10年　12月18日 終日雪降
1726年　1月21日 享保10年　12月19日 陰晴　大寒卯の六刻に入る　(5尺縄1〆値段:1匁)
1726年　1月22日 享保10年　12月20日 時々雪　八つ頃地震
1726年　1月23日 享保10年　12月21日 陰晴
1726年　1月24日 享保10年　12月22日 陰晴　　下から続く　　9.227匁・沖役1.2匁・駄賃0.765匁)(10両57俵6歩8厘5毛)・弘前11.127匁(平米9.927匁・沖役1.2匁)、平米平均1俵値段9.927匁)
1726年　1月25日 享保10年　12月23日 陰晴　(12日飯詰組で高無1軒走る、米1俵値段:青森12匁2分9厘4毛(平米9匁2分2厘7毛・沖役1匁2分・駄賃1匁1分6厘7毛)(10両につき55俵8歩)・鰺ヶ沢11.892匁(平米　　上に続く
1726年　1月26日 享保10年　12月24日 陰晴
1726年　1月27日 享保10年　12月25日 陰晴
1726年　1月28日 享保10年　12月26日 晴　(御能)
1726年　1月29日 享保10年　12月27日 曇　時々小雪　寅の刻地震
1726年　1月30日 享保10年　12月28日 晴　(津軽主膳与力山上仁右衛門跡式を倅吉三郎に・幼少の内5人扶持)
1726年　1月31日 享保10年　12月29日 陰晴　(11月大間越:出30・入り22・都合52人)
1726年　2月1日 享保10年　12月30日 快晴
1726年　2月2日 享保11年正月1日　晴
1726年　2月3日 享保11年正月2日　陰晴　時々雪降
1726年　2月4日 享保11年正月3日　快晴　(御謡初)
1726年　2月5日 享保11年正月4日　陰晴
1726年　2月6日 享保11年正月5日　快晴　巳の中刻より雪　終日夜に及ぶ　(金木新田7か村76軒366人(百姓278人・高無88人)渇命・御救い米(籾6合/人日)申し出・先格のとおり対処)
1726年　2月7日 享保11年正月6日　曇　終日之雪
1726年　2月8日 享保11年正月7日　昨夜中より雪終日
1726年　2月9日 享保11年正月8日　昨夜中より終日雪降
1726年　2月10日 享保11年正月9日　陰晴　巳の刻雪降　則止む
1726年　2月11日 享保11年正月10日　陰晴　夜中より今日巳の刻まで雪降
1726年　2月12日 享保11年正月11日　快晴　(人事異動)
1726年　2月13日 享保11年正月12日　陰晴　朝の内雪
1726年　2月14日 享保11年正月13日　昨夜より吹雪　今日巳の刻に及ぶ　それより夜中雪降
1726年　2月15日 享保11年正月14日　快晴
1726年　2月16日 享保11年正月15日　陰晴　昨夜中雪　(12日駒越組国吉村で庵焼失)
1726年　2月17日 享保11年正月16日　陰晴
1726年　2月18日 享保11年正月17日　終日雨降
1726年　2月19日 享保11年正月18日　曇　昨夜中吹雪　時々小雪
1726年　2月20日 享保11年正月19日　曇　終日雪降
1726年　2月21日 享保11年正月20日　終日雪降
1726年　2月22日 享保11年正月21日　晴　(当月20日までに金木組366人に35石7升6合の御救い米を渡したが21日より又渡すようにする、御旗の者4人(5尺4寸9歩～5尺6寸4歩)を召抱える)
1726年　2月23日 享保11年正月22日　快晴
1726年　2月24日 享保11年正月23日　曇　辰の刻より吹雪　それより止む　夜中雪降
1726年　2月25日 享保11年正月24日　曇　今朝より終日雪降
1726年　2月26日 享保11年正月25日　陰晴　夜中小風
1726年　2月27日 享保11年正月26日　晴
1726年　2月28日 享保11年正月27日　曇　終日吹雪　1尺ほど降　夜に入り夥しく降　(金木新田村々91軒424人に御救い米・雪消えるまでお定めのとおり)

1726年　3月1日 享保11年正月28日　曇　時々小雪
1726年　3月2日 享保11年正月29日　陰晴　時々雪　(今別町下中宇田湊で波打ち際に64・5男倒死)　　下から続く　　(3寸3寸5歩:5歳)それぞれ熊取る、27日夜飯詰組前田野目村で薬売り男倒死)
1726年　3月3日 享保11年正月30日　曇　終日雪　(5日駒越組桜庭村の喜右衛門(胆長3寸5歩廻り5寸1歩:5歳)・?日相馬村の左門次郎2疋(2寸7歩3寸8歩:4歳と1寸9歩2寸8歩:2歳)・5日赤石組一森村の喜六　　上に続く
1726年　3月4日 享保11年　2月1日 曇　水雪降　巳の刻過ぎより晴　(深浦町奉行が4尺×3尺の亀差上げる)
1726年　3月5日 享保11年　2月2日 陰晴
1726年　3月6日 享保11年　2月3日 陰晴
1726年　3月7日 享保11年　2月4日 快晴　(俵元新田の3村25軒109人に御救い米・11歳以上に籾6合/人日4歳以上10歳までに籾4合/人日)
1726年　3月8日 享保11年　2月5日 快晴
1726年　3月9日 享保11年　2月6日 陰晴　(岩木川水出る・駒越川の仮橋落ちる)
1726年　3月10日 享保11年　2月7日 陰晴　(三新田10村54軒301人に御救い米、先月中碇関:出42・入り145・都合187人、一昨夜の雨で藤崎川九分ほどの洪水・仮橋流す)
1726年　3月11日 享保11年　2月8日 曇　巳の刻過ぎより終日大雪吹
1726年　3月12日 享保11年　2月9日 陰晴
1726年　3月13日 享保11年　2月10日 なし(天気の記述がない)
1726年　3月14日 享保11年　2月11日 快晴
1726年　3月15日 享保11年　2月12日 曇　巳の刻より雨　それより水雪
1726年　3月16日 享保11年　2月13日 晴　(神明宮の屋根雪走り被害あり)
1726年　3月17日 享保11年　2月14日 晴
1726年　3月18日 享保11年　2月15日 晴　(先月中野内:出22・入り24人)
1726年　3月19日 享保11年　2月16日 晴
1726年　3月20日 享保11年　2月17日 陰晴
1726年　3月21日 享保11年　2月18日 陰晴
1726年　3月22日 享保11年　2月19日 今朝小雪　陰々降る
1726年　3月23日 享保11年　2月20日 陰晴
1726年　3月24日 享保11年　2月21日 曇　巳の刻少々雪　則止む　夜に入り雪少し降　(魚油値段:正味1斗6升入り1樽33匁・1升に付き2匁6厘)
1726年　3月25日 享保11年　2月22日 曇　辰の下刻より巳の刻まで雪暫く降　それより晴
1726年　3月26日 享保11年　2月23日 晴
1726年　3月27日 享保11年　2月24日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ
1726年　3月28日 享保11年　2月25日 陰晴　時々少し風　(当正月米値段12匁くらい)
1726年　3月29日 享保11年　2月26日 快晴
1726年　3月30日 享保11年　2月27日 陰晴　(大間越庄屋が来月分60俵払い出し願い・1俵12匁8分で40俵払出す、18日松前城下で火災17軒焼失、熊・狼対策として大間越町奉行に鉄砲・玉などを渡す)
1726年　3月31日 享保11年　2月28日 晴　　下から続く　　10歳)・6日飯詰組若山村の半助(4寸5寸:3歳)・正月28日浪岡組徳才子村の定右衛門(5寸6寸2歩:7歳)それぞれ熊取る)
1726年　4月1日 享保11年　2月29日 曇　昨夜雪　(弘前の金子値段70目くらいから76・7匁又はそれ以上、正月23日赤石組一森村の兵三郎(胆長4寸5歩廻り5寸9歩:10歳)・17日同組小森村の藤太四郎(3寸5歩4寸:　　上に続く
1726年　4月2日 享保11年　3月1日 陰晴　昨夜中雪3・4寸ふる
1726年　4月3日 享保11年　3月2日 曇　巳の刻より雪ふる　それより午の刻より雨　(昨1日夜浪岡組(本郷村)で火災1軒・火元村預け、郡所物書き福間清右衛門が新町川原に屋敷を拝領)
1726年　4月4日 享保11年　3月3日 陰晴　終日雪　夜中少し雪　(三新田に御救い米:11歳以上1日6合・4歳から10歳1日4合、広須新田21村93軒233人(11歳以上122人・4～10歳111人)・俵元新田5村53軒　　欄外(*)に続く
1726年　4月5日 享保11年　3月4日 陰晴　小風
1726年　4月6日 享保11年　3月5日 曇　午の下刻より時々雪
1726年　4月7日 享保11年　3月6日 快晴
1726年　4月8日 享保11年　3月7日 曇　時々雪
1726年　4月9日 享保11年　3月8日 陰晴　昨夜中より今朝辰の下刻まで雪3・4寸降　終日雪
1726年　4月10日 享保11年　3月9日 快晴　(1日本郷村の火元の村預け御免)
1726年　4月11日 享保11年　3月10日 快晴　(平岡町で男が縊死、8日横内組作道村に鯨寄せる、8日夜金木組中里村で火災2軒・火元他村預け)
1726年　4月12日 享保11年　3月11日 曇　昨夜雨　終日に及ぶ
1726年　4月13日 享保11年　3月12日 陰晴　辰の刻過ぎ少々の内雨
1726年　4月14日 享保11年　3月13日 陰晴
1726年　4月15日 享保11年　3月14日 快晴
1726年　4月16日 享保11年　3月15日 快晴　(当年道中雪厚く江戸交替の発足23日を来月3日に延期、御家中屋敷に付け火)
1726年　4月17日 享保11年　3月16日 晴
1726年　4月18日 享保11年　3月17日 巳の刻より時々小雨
1726年　4月19日 享保11年　3月18日 快晴
1726年　4月20日 享保11年　3月19日 陰晴　　下から続く　　・20・4)・下女229(136・57・16・4・14・2)・家屋敷152軒・屋敷26軒・下屋敷3軒・乗馬2疋・牛0疋)
1726年　4月21日 享保11年　3月20日 快晴　(切支丹御用人支配人数:惣人数2643人・上男1092(禅678・浄土231・門徒64・真言24・法花86・天台9)・上女936(570・187・62・20・88・9)・下男386(236・86・30・10　　上に続く
1726年　4月22日 享保11年　3月21日 快晴
1726年　4月23日 享保11年　3月22日 曇　午の刻風少し　七つ時分より雨　(一昨20日夜九つ過ぎ広田組吹畑村で火災2軒・火元村預け)
1726年　4月24日 享保11年　3月23日 曇　終日大雨
1726年　4月25日 享保11年　3月24日 曇　終日雨　(8日中里村の火元の他村預け差免)
1726年　4月26日 享保11年　3月25日 曇　終日雨
1726年　4月27日 享保11年　3月26日 陰晴　(誓願寺北方の木に者縊死)
1726年　4月28日 享保11年　3月27日 晴　卯の中刻小雨　則止む　(25日夜赤田組石野村で火災1軒・火元(庄屋)村預け)
1726年　4月29日 享保11年　3月28日 快晴
1726年　4月30日 享保11年　3月29日 曇　巳の中刻より小雨　(20日吹畑村の火元の村預け御免、御家中の母が水汲み中に井戸に落ち死亡)
(*)　261人(209・52)・金木新田7村76軒366人(287・79))

1726年　5月1日 享保11年　3月30日 曇　時々雨
1726年　5月2日 享保11年　4月1日 快晴　(大間越町から蔵米50俵の払い出し願い・40俵の払い出しを申付ける)
1726年　5月3日 享保11年　4月2日 陰晴
1726年　5月4日 享保11年　4月3日 陰晴　夜に入り雨
1726年　5月5日 享保11年　4月4日 曇　昨夜よりの雨今朝迄
1726年　5月6日 享保11年　4月5日 晴
1726年　5月7日 享保11年　4月6日 朝の内曇　巳の刻より晴
1726年　5月8日 享保11年　4月7日 快晴　(当月中大間越:出21・入り65・都合86人、3月25日石野村の火元の村預け御免)
1726年　5月9日 享保11年　4月8日 快晴
1726年　5月10日 享保11年　4月9日 陰晴
1726年　5月11日 享保11年　4月10日 晴　小風
1726年　5月12日 享保11年　4月11日 晴　朝の内少々曇　(先月中碇関:出143・入り146・合289人、先月中野内:出59・入り67・合126人)
1726年　5月13日 享保11年　4月12日 晴　午の刻過ぎ少し雨　則止む
1726年　5月14日 享保11年　4月13日 終日小雨時々降　(郡方物書き福眞清右衛門の屋敷は長屋作りにしろとのこと、赤田組板屋野木村で男が縊死)
1726年　5月15日 享保11年　4月14日 曇　巳の中刻過ぎ雨少し降
1726年　5月16日 享保11年　4月15日 快晴
1726年　5月17日 享保11年　4月16日 快晴
1726年　5月18日 享保11年　4月17日 曇　午の下刻小風　夜に入り雨降　(一昨15日夜和徳組高崎村で火災1軒・火元村預け)
1726年　5月19日 享保11年　4月18日 曇　昨夜よりの雨　終日時々降
1726年　5月20日 享保11年　4月19日 晴　昨夜中雨　今朝迄降　(17日和徳組悪戸で野火(60間×50間・漆40本焼失)、去夏小畑沢村で町人を切り殺した御家中を阿方払、先月21日無提燈者を切り殺した目明し清次郎を斬罪)
1726年　5月21日 享保11年　4月20日 陰晴
1726年　5月22日 享保11年　4月21日 晴　小風　(御能)
1726年　5月23日 享保11年　4月22日 晴　(16日浪岡組大釈迦村で野火2か所(300間×130間・100間×50間)
1726年　5月24日 享保11年　4月23日 晴
1726年　5月25日 享保11年　4月24日 快晴
1726年　5月26日 享保11年　4月25日 曇　今朝少し雨　則止み曇
1726年　5月27日 享保11年　4月26日 快晴
1726年　5月28日 享保11年　4月27日 快晴　下から続く　(2寸9歩3寸5歩:3歳)それぞれ熊取る)
1726年　5月29日 享保11年　4月28日 快晴　(10日横内組駒籠村で野火(3軒×150間))　下から続く　(2寸4寸:5歳)・6日駒越組田代村の治右衛門(3寸9歩5寸5歩:3歳)・3月30日同組大秋村の新兵衛　上に続く
1726年　5月30日 享保11年　4月29日 快晴　(1日駒越組桜庭村の茂助(胆長3寸廻り4寸3歩:4歳)・同日と10日浦町組合子沢村の弥左衛門(4寸6寸:7歳と4寸7寸:6歳)・先月27日浪岡組徳才子村の定右衛門　上に続く
1726年　5月31日 享保11年　5月1日 晴　午の刻少し曇　夜中雨
1726年　6月1日 享保11年　5月2日 巳の刻小雨　則止む　午の刻より晴　(4月28日昼八時大鰐組古懸で山火事(150間×70間:杉346本焼失、大円寺下土渕川橋脇に55・6男倒死)
1726年　6月2日 享保11年　5月3日 快晴　午の刻風少し　(御能、御家中が牡丹花差上げる)
1726年　6月3日 享保11年　5月4日 晴
1726年　6月4日 享保11年　5月5日 陰晴　(先月20日藤代組藤代村の17歳男行方不明)
1726年　6月5日 享保11年　5月6日 曇　卯の刻過ぎ雨
1726年　6月6日 享保11年　5月7日 快晴　(4月中碇関:出237・入り184・合421人、4月中大間越:出14・入り27・合41人)
1726年　6月7日 享保11年　5月8日 快晴
1726年　6月8日 享保11年　5月9日 晴　午の刻雨　(今夜寅の刻土手鍛冶町で火災1軒・後日の記述で本行寺に入寺)
1726年　6月9日 享保11年　5月10日 晴　(今晩七時御書院の御庭で御旗の者の力ためしを高覧)
1726年　6月10日 享保11年　5月11日 快晴
1726年　6月11日 享保11年　5月12日 曇　今朝雨少し
1726年　6月12日 享保11年　5月13日 曇　終日雨　(西之御郭で相撲高覧)
1726年　6月13日 享保11年　5月14日 晴　午の刻より曇　それより雷発す　(3月20日広須新田遠山里村村の百姓2人走る、御蔵の赫土100目値段:上1匁2分5厘・中7分5厘)
1726年　6月14日 享保11年　5月15日 陰晴
1726年　6月15日 享保11年　5月16日 曇　巳の刻小雨
1726年　6月16日 享保11年　5月17日 快晴
1726年　6月17日 享保11年　5月18日 晴　(後潟組石濱村小湯沢に出湯あり)
1726年　6月18日 享保11年　5月19日 晴　(三之丸で歌舞伎)
1726年　6月19日 享保11年　5月20日 快晴
1726年　6月20日 享保11年　5月21日 晴
1726年　6月21日 享保11年　5月22日 快晴
1726年　6月22日 享保11年　5月23日 快晴
1726年　6月23日 享保11年　5月24日 陰晴　(西之郭で相撲高覧)
1726年　6月24日 享保11年　5月25日 晴　(大間越町から御蔵米50俵払い出しを求められる・1俵12匁6分2厘で40俵を申付ける)
1726年　6月25日 享保11年　5月26日 快晴
1726年　6月26日 享保11年　5月27日 快晴
1726年　6月27日 享保11年　5月28日 快晴
1726年　6月28日 享保11年　5月29日 快晴
1726年　6月29日 享保11年　5月30日 快晴　今朝雨　夜中亥の刻地震　(大鰐から初胡瓜5差上げる)
1726年　6月30日 享保11年　6月1日 陰晴　辰の中刻雨時々　午の刻より晴　暮れ合い少々雨　(9日夜の土手町火元の入寺御免)

1726年　7月1日 享保11年　6月2日 曇　終日小雨 （5月29日金木組尾別村で火災5軒・火元(高無:3間半×9間)他村預け）
1726年　7月2日 享保11年　6月3日 陰晴
1726年　7月3日 享保11年　6月4日 快晴 （西之御郭で御相撲）
1726年　7月4日 享保11年　6月5日 晴 （5月中大間越:出44・入り88人）
1726年　7月5日 享保11年　6月6日 陰晴　時々小雨　則止む　午の刻より小雨
1726年　7月6日 享保11年　6月7日 曇　昨夜中雨　終日時々雨
1726年　7月7日 享保11年　6月8日 快晴
1726年　7月8日 享保11年　6月9日 快晴 （大鰐より初真瓜五つ差上げる、5月29日尾別村の火元の他村預け免許）
1726年　7月9日 享保11年　6月10日 快晴
1726年　7月10日 享保11年　6月11日 晴　巳の刻小雨　則止む　夜中大雨　申の下刻雷発す
1726年　7月11日 享保11年　6月12日 曇　終日雨
1726年　7月12日 享保11年　6月13日 快晴
1726年　7月13日 享保11年　6月14日 快晴 （大鰐より初茄子5差上げる）
1726年　7月14日 享保11年　6月15日 快晴
1726年　7月15日 享保11年　6月16日 快晴
1726年　7月16日 享保11年　6月17日 快晴 （昨夜藤代組外瀬で火災・28日の記事によると向外瀬村）
1726年　7月17日 享保11年　6月18日 快晴
1726年　7月18日 享保11年　6月19日 快晴　申の刻より雨　夜に入る （同役と喧嘩し切殺した米留(長柄足軽)死罪）
1726年　7月19日 享保11年　6月20日 曇　昨夜よりの雨　終日　時々に及ぶ
1726年　7月20日 享保11年　6月21日 晴
1726年　7月21日 享保11年　6月22日 快晴 （11日夜尾太銅山で洪水被害、江戸への飛脚に山上源次郎）
1726年　7月22日 享保11年　6月23日 快晴　　下から続く　　・村中16軒に320目(20目ずつ)・舮作と月屋の村中29軒に580目(20目ずつ)・庄屋120目・五人組50目）
1726年　7月23日 享保11年　6月24日 曇　辰の中刻より雨時々　午の刻より止む （昨年舮作沖で拾い上げ保管・売却した帆柱50両の分配:沖での発見者750目・拾い上げ手伝いの村人11人に1貫450目(130目ずつ)　　上に続く
1726年　7月24日 享保11年　6月25日 晴 （4斗8合入り1俵が10匁8分?・金1両に付代銭65匁）
1726年　7月25日 享保11年　6月26日 快晴
1726年　7月26日 享保11年　6月27日 陰晴
1726年　7月27日 享保11年　6月28日 快晴 （16日和徳組向外瀬村の火元(庄屋)の村預け免許、昨27日朝金木組相内村で男縊死）
1726年　7月28日 享保11年　6月29日 快晴 （当月中所々御関所切手紙35通・47人）
1726年　7月29日 享保11年　7月1日 快晴 （鯵ヶ沢で川渡中の男水死）
1726年　7月30日 享保11年　7月2日 快晴
1726年　7月31日 享保11年　7月3日 曇　今朝辰の刻より雨
1726年　8月1日 享保11年　7月4日 陰晴 （米値段10両に39俵）
1726年　8月2日 享保11年　7月5日 曇　雨終日 （御切米渡しのための金銭が表方にない・御内分より869両3歩と銭10貫目を貸し出す）
1726年　8月3日 享保11年　7月6日 曇　雨終日降
1726年　8月4日 享保11年　7月7日 昨夜中雨　今朝も少し雨　辰の刻晴
1726年　8月5日 享保11年　7月8日 陰晴
1726年　8月6日 享保11年　7月9日 午の刻過ぎより曇　小雨
1726年　8月7日 享保11年　7月10日 陰晴　昨夜より小雨 （初熟瓜差上げる）
1726年　8月8日 享保11年　7月11日 申の下刻東の方虹見る （赤石組松神村で火災12軒）
1726年　8月9日 享保11年　7月12日 陰晴
1726年　8月10日 享保11年　7月13日 陰晴　卯の刻過ぎ雨　暫くして止む
1726年　8月11日 享保11年　7月14日 晴
1726年　8月12日 享保11年　7月15日 快晴　午の刻過ぎ地震
1726年　8月13日 享保11年　7月16日 快晴
1726年　8月14日 享保11年　7月17日 晴 （先月碇関:出入り493人）
1726年　8月15日 享保11年　7月18日 曇　今朝大雨　午の刻より晴
1726年　8月16日 享保11年　7月19日 陰晴 （岩崎村(多分岩館村の誤り)弥助と大鰐村嘉々介より初米上る）
1726年　8月17日 享保11年　7月20日 陰晴
1726年　8月18日 享保11年　7月21日 快晴
1726年　8月19日 享保11年　7月22日 快晴 （西之御郭で相撲高覧、21日暮御家中の妻乱心自害）
1726年　8月20日 享保11年　7月23日 巳の下刻曇　それより快晴
1726年　8月21日 享保11年　7月24日 快晴　残暑強し
1726年　8月22日 享保11年　7月25日 快晴
1726年　8月23日 享保11年　7月26日 快晴　残暑強し
1726年　8月24日 享保11年　7月27日 陰晴　終日小風
1726年　8月25日 享保11年　7月28日 快晴
1726年　8月26日 享保11年　7月29日 陰晴 （27日夜尾崎組庄屋家より火災・3軒焼失）
1726年　8月27日 享保11年　8月1日 昨夜中より余程の風　終日に及ぶ　夜中雨 （7月中所々御関所出人27人切手紙20枚）
1726年　8月28日 享保11年　8月2日 陰晴
1726年　8月29日 享保11年　8月3日 曇　卯の刻より雨　巳の刻過ぎまで　それより陰晴 （兄を打ち殺した男獄門）
1726年　8月30日 享保11年　8月4日 快晴　朝の内ちり雨降
1726年　8月31日 享保11年　8月5日 快晴　午の下刻雷発す （7月6日松神村の火元の他村預け差免）

1726年　9月1日 享保11年　8月6日 晴　今朝雨
1726年　9月2日 享保11年　8月7日 晴　夜中雨 （今日相撲高覧）
1726年　9月3日 享保11年　8月8日 陰晴 （悪芙蓉30目出来・表医から大納戸に）
1726年　9月4日 享保11年　8月9日 晴 （7月中大間越:出75・入り51・都合130人）
1726年　9月5日 享保11年　8月10日 曇　夜中より雨　今日巳の下刻まで　それより少し風 （三馬屋村の勘兵衛方の御用梨子は当年一切なし、代官割替え）
1726年　9月6日 享保11年　8月11日 申の中刻より夜中雨
1726年　9月7日 享保11年　8月12日 曇　小雨 （先月中碇関:出184・入り290・都合481人:9日の大間越もそうだが数値が合わないのも普通です）
1726年　9月8日 享保11年　8月13日 快晴
1726年　9月9日 享保11年　8月14日 曇
1726年　9月10日 享保11年　8月15日 曇　時々雨終日 （八幡宮祭礼）
1726年　9月11日 享保11年　8月16日 晴
1726年　9月12日 享保11年　8月17日 曇　終日雨 （御茶道頭が煎茶茶碗15を求めている:平成・昭和の煎茶と異なるものかもしれない）
1726年　9月13日 享保11年　8月18日 曇　昼の内雨少し　暫くして止む （大間越町から30俵の払い出し願い・20俵払出す、7月27日唐竹村の火元の庄屋の村預け免許）
1726年　9月14日 享保11年　8月19日 曇　巳の刻雨少し降 （当7月中野内:出90・入り103・都合193人）
1726年　9月15日 享保11年　8月20日 曇
1726年　9月16日 享保11年　8月21日 終日雨 （西之御郭で御厩の御馬共高覧）
1726年　9月17日 享保11年　8月22日 陰晴　午の刻より雨 （大鰐組長峰村で火災1軒(2間×3間:高無)・村預け）
1726年　9月18日 享保11年　8月23日 快晴 （御用人が梨子1籠差上げる、西之御郭で相撲高覧）
1726年　9月19日 享保11年　8月24日 朝の内小雨　それより晴
1726年　9月20日 享保11年　8月25日 曇　雨少し　雷時々発す
1726年　9月21日 享保11年　8月26日 曇
1726年　9月22日 享保11年　8月27日 曇　昨夜中雨　終日降 （天気上げの御祈祷を大円寺に仰せ付ける）
1726年　9月23日 享保11年　8月28日 快晴 （当月1日松前の吉岡村で火災34軒中24軒焼失・16日松前の江差町で70軒中60軒余焼失。駒越川6分程の洪水・仮橋引取り長船で往来、24日晩九つ頃金井が沢沖で破船1艘）
1726年　9月24日 享保11年　8月29日 晴
1726年　9月25日 享保11年　8月30日 曇　時々雨降 （7月中大間越:出38・入り46・都合84人）
1726年　9月26日 享保11年　9月1日 晴　昨夜中雨降　今朝迄 （8月中所々御関所出人切手紙17枚25人、かほちゃ御薬園より差し上げる、大間越御蔵御払い米代銭上納滞る・米を渡さないよう指示）
1726年　9月27日 享保11年　9月2日 快晴
1726年　9月28日 享保11年　9月3日 曇　終日雨
1726年　9月29日 享保11年　9月4日 晴 （鮭留入札:野内川御役銀228匁5分・横内前川22匁2分5厘・網不知川52匁5分・荒川65匁1分5厘）
1726年　9月30日 享保11年　9月5日 晴　午の刻少し雨
1726年　10月1日 享保11年　9月6日 晴
1726年　10月2日 享保11年　9月7日 晴　午の刻より小風時々 （8月中大間越:出入り74人）
1726年　10月3日 享保11年　9月8日 快晴 （西之御郭で相撲高覧、一粒金丹を藩医松山某が調合している、3日大間越町同心弥三郎が鉄砲で熊を打ち留める）
1726年　10月4日 享保11年　9月9日 陰晴 （御慰の御囃子）
1726年　10月5日 享保11年　9月10日 曇　小風
1726年　10月6日 享保11年　9月11日 曇 （御慰御能）
1726年　10月7日 享保11年　9月12日 晴　夜中雨少々　雷発す （7日昼八つ頃大間越町同心儀兵衛鉄砲で熊打ち留める）
1726年　10月8日 享保11年　9月13日 晴
1726年　10月9日 享保11年　9月14日 快晴
1726年　10月10日 享保11年　9月15日 快晴
1726年　10月11日 享保11年　9月16日 快晴　夜中少し雨 （大円寺境内に捨子:まもなく欲しいというものに引き取られる）
1726年　10月12日 享保11年　9月17日 陰晴 （袋町より三番鮭差上げる）
1726年　10月13日 享保11年　9月18日 終日雨降
1726年　10月14日 享保11年　9月19日 陰晴　今朝岩木山初雪見ゆる　午の刻過ぎ小雨　則止む
1726年　10月15日 享保11年　9月20日 晴
1726年　10月16日 享保11年　9月21日 快晴
1726年　10月17日 享保11年　9月22日 快晴 （当月8日松前城下小松前で火災6軒）
1726年　10月18日 享保11年　9月23日 曇　時々小雨　夜に入り雨
1726年　10月19日 享保11年　9月24日 曇　昨夜よりの雨巳の刻過ぎまで　それより陰晴　夜中雨 （8月中野内:出入り181人）
1726年　10月20日 享保11年　9月25日 曇　朝の内雨降 （24日朝古懸・愛宕御本尊御出汗、24日夜中鯵ヶ沢で大風・大波のため11軒破損・3軒は住めない）
1726年　10月21日 享保11年　9月26日 曇 （御自身御能）
1726年　10月22日 享保11年　9月27日 陰晴 （24日夜鯵ヶ沢で破船2艘）
1726年　10月23日 享保11年　9月28日 曇　終日雨降　　下から続く　　・駒越組田代村の次右衛門3疋(4寸5寸:3歳・3寸5歩4寸:2歳・4寸3寸:4歳)それぞれ熊取る）
1726年　10月24日 享保11年　9月29日 終日雨 （後潟組中沢村と四戸橋村の境に60男倒死、4斗入り1俵10匁、大鰐組森山村の弥左衛門(胆長3寸廻り3寸2歩:4歳)・堀越組一野渡村の小三郎(5寸4寸:43歳）　　上に続く
1726年　10月25日 享保11年　10月1日 曇　夜中雨 （当9月中所々御関所出人16人切手紙12枚）
1726年　10月26日 享保11年　10月2日 晴
1726年　10月27日 享保11年　10月3日 晴　小風 （袰月で帆柱(4尋4尺檜)1本拾い上げる）
1726年　10月28日 享保11年　10月4日 晴
1726年　10月29日 享保11年　10月5日 陰晴 （先月27日夜中より29日朝まで大風雨により広須・金木新田で被害）
1726年　10月30日 享保11年　10月6日 晴 （西御郭で相撲高覧）
1726年　10月31日 享保11年　10月7日 晴　昨夜少し雨　則止む （9月中大間越:出34・入り32・都合66人）

1726年　11月1日 享保11年　 10月8日 陰晴　辰の后刻ヨリ雨　則止む （9月中碇関:出166・入り159・都合325人）
1726年　11月2日 享保11年　 10月9日 陰晴　夜中雨風 （御能、本寺町で40余男自害）
1726年　11月3日 享保11年　10月10日 曇　時々小風
1726年　11月4日 享保11年　10月11日 曇　夜中雨　今朝辰の刻ヨリ初雪降る
1726年　11月5日 享保11年　10月12日 曇　昨夜より終日雪　今朝雪1寸ほど
1726年　11月6日 享保11年　10月13日 雨時々雪降り
1726年　11月7日 享保11年　10月14日 陰晴
1726年　11月8日 享保11年　10月15日 曇　今朝水雪　それより雨
1726年　11月9日 享保11年　10月16日 曇　朝の内霰雪 （天気揚げ御祈祷を五山に仰せ付ける、10日晩袰月湊の内で破船1艘）
1726年 11月10日 享保11年　10月17日 陰晴 （10日古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷仰せ付ける）
1726年 11月11日 享保11年　10月18日 快晴
1726年 11月12日 享保11年　10月19日 曇　昨夜雨　終日 （7日・8日大間越町同心清兵衛・弥三郎それぞれ鉄砲で熊打ち留める）
1726年 11月13日 享保11年　10月20日 陰晴 （9月中野内:出78・入り61・都合139人）
1726年 11月14日 享保11年　10月21日 快晴 （御能）
1726年 11月15日 享保11年　10月22日 陰晴　折節(おりふし)雨降
1726年 11月16日 享保11年　10月23日 終日雨降
1726年 11月17日 享保11年　10月24日 なし(天気の記述がない)
1726年 11月18日 享保11年　10月25日 曇　朝の内雪少し （9月28日より10月6日まで金木組尾別村で水湛・8町2反7畝の稲10713束(1反に230束)中1395束流失・同組高根村でも同様）
1726年 11月19日 享保11年　10月26日 昨夜雪6・7寸降 （三之丸御屋敷で(歌舞伎だろうか)見物）
1726年 11月20日 享保11年　10月27日 曇
1726年 11月21日 享保11年　10月28日 曇　氷張 （人事異動）
1726年 11月22日 享保11年　10月29日 曇　終日雨
1726年 11月23日 享保11年　10月30日 曇　終日小雪
1726年 11月24日 享保11年　 11月1日 曇　昨夜雪1寸ほど　終日雪 （当10月中所々御関所出人30人切手紙25枚）
1726年 11月25日 享保11年　 11月2日 曇　小雨時々
1726年 11月26日 享保11年　 11月3日 陰晴　時々雪
1726年 11月27日 享保11年　 11月4日 晴　昨夜中よりの雪今朝迄 （昨日野内より初鱈差上げる、妙心院(信政)様13回忌に伴い出牢9人(内2人は解死人)）
1726年 11月28日 享保11年　 11月5日 晴　午の刻過ぎより曇
1726年 11月29日 享保11年　 11月6日 曇　終日雪
1726年 11月30日 享保11年　 11月7日 晴 （大間越:出194・入り34人）
1726年　12月1日 享保11年　 11月8日 晴
1726年　12月2日 享保11年　 11月9日 曇　時々雪 （先月10日より16日までの大風雪で三新田では稲こぼれ被害）
1726年　12月3日 享保11年　11月10日 快晴
1726年　12月4日 享保11年　11月11日 快晴
1726年　12月5日 享保11年　11月12日 曇
1726年　12月6日 享保11年　11月13日 曇
1726年　12月7日 享保11年　11月14日 曇　卯の下刻雨　それより時々雪
1726年　12月8日 享保11年　11月15日 曇　終日雪降　夜中雪 （御囃子）
1726年　12月9日 享保11年　11月16日 陰晴　今朝雪
1726年 12月10日 享保11年　11月17日 曇　終日雪
1726年 12月11日 享保11年　11月18日 曇　終日雪
1726年 12月12日 享保11年　11月19日 曇
1726年 12月13日 享保11年　11月20日 曇　時々雪 （十三潟が当月15日夜氷張る）
1726年 12月14日 享保11年　11月21日 時々雪
1726年 12月15日 享保11年　11月22日 陰晴 （野内:出83・入り83人、今別町で熊・狼が畑作食い散らし30軒111人(4～10歳22人:2合/日・11歳以上94人:3合/日)に御救い米）
1726年 12月16日 享保11年　11月23日 晴　終日雪降
1726年 12月17日 享保11年　11月24日 曇　夜中より今朝迄終日雪降
1726年 12月18日 享保11年　11月25日 晴
1726年 12月19日 享保11年　11月26日 晴
1726年 12月20日 享保11年　11月27日 快晴 （昨夜八つ時金木新田豊岡村で火災2軒・火元他村預け）
1726年 12月21日 享保11年　11月28日 快晴 （猟師共の内猟が不得手な者40人を百姓にする）
1726年 12月22日 享保11年　11月29日 快晴
1726年 12月23日 享保11年　 12月1日 快晴
1726年 12月24日 享保11年　 12月2日 快晴
1726年 12月25日 享保11年　 12月3日 終日雨 （11月24日豊岡村の火元・同27日大光寺と大坊村の火元の他村預け免許・11月中碇関:出118・入り134人）
1726年 12月26日 享保11年　 12月4日 終日雨
1726年 12月27日 享保11年　 12月5日 快晴 （11月中の平均では米1俵に付き銭9匁2分・金1両に付き61匁2分6厘）
1726年 12月28日 享保11年　 12月6日 曇　時々小雪
1726年 12月29日 享保11年　 12月7日 曇　昨夜中雪
1726年 12月30日 享保11年　 12月8日 曇　昨夜よりの風雪終日に及ぶ （先月中大間越:出25・入り33・都合58人）
1726年 12月31日 享保11年　 12月9日 晴

1727年　1月1日 享保11年　12月10日 陰晴 （先月中野内:出79・入り78人）
1727年　1月2日 享保11年　12月11日 晴
1727年　1月3日 享保11年　12月12日 晴
1727年　1月4日 享保11年　12月13日 晴
1727年　1月5日 享保11年　12月14日 晴
1727年　1月6日 享保11年　12月15日 曇　今朝より終日雨降　辰の上刻より小寒に入る
1727年　1月7日 享保11年　12月16日 陰晴　辰の刻過ぎ小雪
1727年　1月8日 享保11年　12月17日 晴　時々小雪
1727年　1月9日 享保11年　12月18日 曇　終日小雪
1727年　1月10日 享保11年　12月19日 陰晴 （16日後潟組前田村で火災1軒(3間×4間:高無)・村預け・時分柄免許）
1727年　1月11日 享保11年　12月20日 晴 （表方に金銭なく御内分より1140両余を貸し渡す）
1727年　1月12日 享保11年　12月21日 曇　辰の刻雪降　巳の中刻より晴
1727年　1月13日 享保11年　12月22日 曇　時々雪
1727年　1月14日 享保11年　12月23日 快晴
1727年　1月15日 享保11年　12月24日 曇　昨夜よりの雨終日　大雨 （所々町端で投げ火あり）
1727年　1月16日 享保11年　12月25日 陰晴
1727年　1月17日 享保11年　12月26日 曇　時々小雪
1727年　1月18日 享保11年　12月27日 曇
1727年　1月19日 享保11年　12月28日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ （時疫煩いの者共……）
1727年　1月20日 享保11年　12月29日 陰晴　夜中雪
1727年　1月21日 享保11年　12月30日 終日吹雪
1727年　1月22日 享保12年正月1日　曇　辰の刻夜吹雪　巳の中刻に及ぶ　それより晴
1727年　1月23日 享保12年正月2日　晴
1727年　1月24日 享保12年正月3日　陰晴　時々雪 （御謡初め）
1727年　1月25日 享保12年正月4日　陰晴　時々雪 （?日飯詰組前田野目村に30男倒死）
1727年　1月26日 享保12年正月5日　晴
1727年　1月27日 享保12年正月6日　曇　昨夜雪 （大鰐より七種差し上げる）
1727年　1月28日 享保12年正月7日　晴
1727年　1月29日 享保12年正月8日　なし(天気の記述がない) （御用人棟方作右衛門に一粒金丹15粒下し置かれる）
1727年　1月30日 享保12年正月9日　陰晴　昼より晴　夜中風
1727年　1月31日 享保12年正月10日　晴 （御用人笠原八郎兵衛に一粒金丹15粒下し置かれる）
1727年　2月1日 享保12年正月11日　曇　時々風　申の下刻地震 （大幅な役替えあり）
1727年　2月2日 享保12年正月12日　曇　時々雪　夜中に及ぶ
1727年　2月3日 享保12年正月13日　曇　時々雪
1727年　2月4日 享保12年正月14日　晴　小風 （夜中に在府町・代官町・若党町等の町裏に狼が出る）
1727年　2月5日 享保12年正月15日　曇　今朝より終日吹雪 （御旗の者に2人を召抱える・1人の勢は5尺7寸3歩）
1727年　2月6日 享保12年正月16日　陰晴　昨夜中雪　巳の刻晴
1727年　2月7日 享保12年正月17日　陰晴
1727年　2月8日 享保12年正月18日　曇　終日小風 （御家中の家来が御家中?を闇討ちにし欠け落ち）
1727年　2月9日 享保12年正月19日　快晴
1727年　2月10日 享保12年正月20日　快晴 （去12月中大間越:出23・入り32・都合55人）
1727年　2月11日 享保12年正月21日　曇　終日吹雪
1727年　2月12日 享保12年正月22日　晴 （大間越の者共御蔵米から閏正月分30俵の払い出し願い・申付ける）
1727年　2月13日 享保12年正月23日　快晴
1727年　2月14日 享保12年正月24日　なし(天気の記述がない) （去12月中野内:出60・入り53・都合113人、碇関:出112・入り92・都合202人）
1727年　2月15日 享保12年正月25日　快晴
1727年　2月16日 享保12年正月26日　晴
1727年　2月17日 享保12年正月27日　陰晴
1727年　2月18日 享保12年正月28日　晴　朝の内少し雪
1727年　2月19日 享保12年正月29日　晴　　下から続く　　(4寸5歩5寸5歩:4才)・21日藤崎組馬(場)尻村の左次兵衛(1寸1寸:2才)それぞれ熊取る)
1727年　2月20日 享保12年正月30日　曇　巳の刻迄雪降　夜中雪 （10日駒越組中畑村の彦左衛門(胆長5寸5歩廻り6寸:8才)・24日同組田代村の藤左衛門(3寸6歩4寸9歩:3才)・2日同組田代村の藤右衛門　　上に続く
1727年　2月21日 享保12年閏正月1日　曇　時々小雪
1727年　2月22日 享保12年閏正月2日　快晴
1727年　2月23日 享保12年閏正月3日　陰晴
1727年　2月24日 享保12年閏正月4日　曇　昨夜よりの雨終日 （去月30日碇関で大風・道筋の杉1本倒れる、先月19日弘前から飯詰組飯詰村に出かけた2人が行方不明）
1727年　2月25日 享保12年閏正月5日　晴 （去月29日赤石組岩崎村で火災7・8軒・火元村預け・御免）
1727年　2月26日 享保12年閏正月6日　曇　去月29日駒越組各村から山江薪取りに入り大吹雪で9人死亡）
1727年　2月27日 享保12年閏正月7日　晴 （昨日堀越組取上村で36・7男縊死、先月中碇関:出32・入り86・都合118人）
1727年　2月28日 享保12年閏正月8日　陰晴

1727年　3月1日 享保12年閏正月9日 午の下刻より小雨降 (御能)
1727年　3月2日 享保12年閏正月10日晴 (先月中大間越:出8・入り24・都合32人)
1727年　3月3日 享保12年閏正月11日晴
1727年　3月4日 享保12年閏正月12日晴
1727年　3月5日 享保12年閏正月13日陰晴 未の下刻小雪降
1727年　3月6日 享保12年閏正月14日曇
1727年　3月7日 享保12年閏正月15日陰晴 (正月中野内:出11・入り20・都合31人)
1727年　3月8日 享保12年閏正月16日陰晴
1727年　3月9日 享保12年閏正月17日快晴
1727年　3月10日 享保12年閏正月18日快晴 (御馬廻菊地某自害)
1727年　3月11日 享保12年閏正月19日曇
1727年　3月12日 享保12年閏正月20日陰晴 (鰺ヶ沢町惣船数26艘・水主116人、青森の水主189人)
1727年　3月13日 享保12年閏正月21日曇 終日小風 (一昨年巳の年10月赤石組沢部村に流れ寄せた古帆柱(10尋2尺・元口2尺末口5寸6歩)は6ヶ月過ぎで村の財産となる・6両を適宜分配)
1727年　3月14日 享保12年閏正月22日快晴
1727年　3月15日 享保12年閏正月23日快晴 夜中小雪
1727年　3月16日 享保12年閏正月24日陰晴 時々小雪 (一昨22日夜木造新田広岡村で火災1軒(3間×5間:百姓)・耕作の時節で預け免許)
1727年　3月17日 享保12年閏正月25日曇 昨夜中雪5寸ほど降 終日小雪 夜中雪降
1727年　3月18日 享保12年閏正月26日終日雪降 (大光寺組大光寺村と小和森村の境に31・2男倒死)
1727年　3月19日 享保12年閏正月27日晴
1727年　3月20日 享保12年閏正月28日曇 時々雨
1727年　3月21日 享保12年閏正月29日晴　下から続く　長右衛門2疋(たてあたり破損・3寸3寸5歩)・猿賀組袋村の助左衛門(4寸3歩7寸2歩)それぞれ熊取る)
1727年　3月22日 享保12年閏正月30日曇 巳の下刻迄雪降 夜中に及ぶ (浦町組新町野村の勘兵衛(胆長4寸5歩廻り5寸)・駒越組田代村の次右衛門(5寸7寸)・後潟組津軽坂村の太兵衛(5寸4寸)・大鰐組苦木村の　上に続く
1727年　3月23日 享保12年　2月1日 巳の下刻より雪降 夜中小雪 (先月中所々御関所出人23人切手紙18枚、大鰐で相撲高覧)
1727年　3月24日 享保12年　2月2日 曇 終日小雪時々 (24日夜浦町組岡野村で13女子病死)
1727年　3月25日 享保12年　2月3日 陰晴 時々小雪
1727年　3月26日 享保12年　2月4日 陰晴 昨夜時々雪 今日小風 (閏正月30日十三潟大川口より十三湊まで明ける)
1727年　3月27日 享保12年　2月5日 快晴
1727年　3月28日 享保12年　2月6日 陰晴
1727年　3月29日 享保12年　2月7日 終日小雨時々
1727年　3月30日 享保12年　2月8日 終日雨 (熊狼荒れ用の玉などを大間越町に例年通り渡す、閏正月中碇関:出77・入り249・都合326人、閏正月中大間越:出12・入り65・都合77人、6日十三潟舟通用に明ける)
1727年　3月31日 享保12年　2月9日 陰晴 小風
1727年　4月1日 享保12年　2月10日 快晴 (昨晩弘前町新町で男縊死)
1727年　4月2日 享保12年　2月11日 陰晴 (三之丸で(歌舞伎?)見物)
1727年　4月3日 享保12年　2月12日 晴 夜中より今日巳の刻過ぎまで雪 それより晴 (大間越町の熊打ち町同心の弥三郎・清兵衛・茂兵衛に褒美、7日朝御蔵切破られる)
1727年　4月4日 享保12年　2月13日 晴 小風
1727年　4月5日 享保12年　2月14日 陰晴
1727年　4月6日 享保12年　2月15日 快晴 (閏正月中野内:出79・入り35・都合114人)
1727年　4月7日 享保12年　2月16日 晴 小風時々 申の刻過ぎ大風
1727年　4月8日 享保12年　2月17日 曇 時々小雪降
1727年　4月9日 享保12年　2月18日 晴 小風終日
1727年　4月10日 享保12年　2月19日 今朝より雪降 終日風強 昨夜中雪5・6寸降 (御自身能)
1727年　4月11日 享保12年　2月20日 曇 終日時々雨降 (元禄8年から遅れていた日記が加勢等により清書出来)
1727年　4月12日 享保12年　2月21日 晴 (19日赤田組板屋野木村で42歳男縊死)
1727年　4月13日 享保12年　2月22日 曇 辰の中刻小雨
1727年　4月14日 享保12年　2月23日 曇 雨時々降 夜中雨
1727年　4月15日 享保12年　2月24日 曇 終日小雨
1727年　4月16日 享保12年　2月25日 晴 巳の中刻より陰晴
1727年　4月17日 享保12年　2月26日 終日小風 (西之御郭で相撲高覧)
1727年　4月18日 享保12年　2月27日 陰晴
1727年　4月19日 享保12年　2月28日 快晴
1727年　4月20日 享保12年　2月29日 辰の刻より小雨 それより小風 (駒越組杉ヶ沢村の惣左衛門(胆長3寸2歩廻り4寸8歩:2歳)・尾崎組唐竹村の惣助(5寸2歩5寸8歩:5歳)それぞれ熊取る)
1727年　4月21日 享保12年　3月1日 晴 (先月中所々御関所出人24人切手紙15枚、先月28日金木組原子村で火災1軒・火元村預け)
1727年　4月22日 享保12年　3月2日 快晴
1727年　4月23日 享保12年　3月3日 晴 今朝霜
1727年　4月24日 享保12年　3月4日 陰晴
1727年　4月25日 享保12年　3月5日 晴 (2月中碇関:出146・入り104・都合205人)
1727年　4月26日 享保12年　3月6日 快晴 (御能)
1727年　4月27日 享保12年　3月7日 陰晴 朝の内雨 終日小風 夜中風強 (2月中大間越:出7・入り46・都合55人)
1727年　4月28日 享保12年　3月8日 陰晴 終日風吹 (6日油川組油川村に海入死男流れ寄せる)
1727年　4月29日 享保12年　3月9日 快晴 (昨8日昼浪岡組上十川村で火災9軒)
1727年　4月30日 享保12年　3月10日 曇 午の刻より雨降

1727年　5月1日 享保12年　3月11日 晴
1727年　5月2日 享保12年　3月12日 陰晴　夜中雨
1727年　5月3日 享保12年　3月13日 陰晴
1727年　5月4日 享保12年　3月14日 陰晴
1727年　5月5日 享保12年　3月15日 陰晴　未の下刻過ぎ雨　雷一度発す　夜に入り雨 （屋形様辰の中刻江戸へ御発駕）
1727年　5月6日 享保12年　3月16日 曇　時々小雨
1727年　5月7日 享保12年　3月17日 晴 （2月中野内:出35・入り53・都合88人）
1727年　5月8日 享保12年　3月18日 晴　小風 （貞昌寺で隠居が縊死）
1727年　5月9日 享保12年　3月19日 晴
1727年　5月10日 享保12年　3月20日 快晴
1727年　5月11日 享保12年　3月21日 快晴
1727年　5月12日 享保12年　3月22日 陰晴　夜中雨降
1727年　5月13日 享保12年　3月23日 曇　小風
1727年　5月14日 享保12年　3月24日 巳の下刻過ぎ雨
1727年　5月15日 享保12年　3月25日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ
1727年　5月16日 享保12年　3月26日 曇　昨夜中よりの雨終日に及ぶ
1727年　5月17日 享保12年　3月27日 陰晴　時々小風
1727年　5月18日 享保12年　3月28日 陰晴　時々小風雨
1727年　5月19日 享保12年　3月29日 陰晴　巳の刻過ぎ小雨
1727年　5月20日 享保12年　3月30日 曇　昨夜よりの雨終日終夜
1727年　5月21日 享保12年　4月1日 晴　小風　午の下刻地震少し （3月中所々御関所出人92人切手紙56枚）
1727年　5月22日 享保12年　4月2日 今朝霜　終日小雨　夜中雨降 （1日和徳組湯口村で火災1軒・火元村預け）
1727年　5月23日 享保12年　4月3日 今朝卯の中刻雪降ル　辰の中刻止む （打ち続き天気悪しく候に付き天気揚げ並びに五穀成就の御祈祷を五山に申付ける）
1727年　5月24日 享保12年　4月4日 晴　小風 （3月中大間越:出28・入り67・都合95人）
1727年　5月25日 享保12年　4月5日 晴
1727年　5月26日 享保12年　4月6日 快晴
1727年　5月27日 享保12年　4月7日 晴 （3月22日(後日の記録)後潟組平館村の郷蔵出火、後潟組砂ヶ森村の三左衛門が殺人・欠落ち、3月中碇関:出232・入り322・御家中の出888・都合1442人）
1727年　5月28日 享保12年　4月8日 快晴
1727年　5月29日 享保12年　4月9日 快晴
1727年　5月30日 享保12年　4月10日 曇　辰の刻過ぎ雨少し降
1727年　5月31日 享保12年　4月11日 晴　夜中雨雷
1727年　6月1日 享保12年　4月12日 昨夜中よりの雨終日降
1727年　6月2日 享保12年　4月13日 曇　終日雨　卯の刻過ぎ地震
1727年　6月3日 享保12年　4月14日 陰晴　今朝より時々小雨
1727年　6月4日 享保12年　4月15日 快晴
1727年　6月5日 享保12年　4月16日 快晴 （3日屋形様御着府、3日の雪降りに関し各代官より状況報告・苗損も多くない）
1727年　6月6日 享保12年　4月17日 快晴
1727年　6月7日 享保12年　4月18日 朝の内曇　少々小雨　巳の刻過ぎより快晴
1727年　6月8日 享保12年　4月19日 晴
1727年　6月9日 享保12年　4月20日 曇　午の中刻過ぎより雨降　夜中小雨時々
1727年　6月10日 享保12年　4月21日 快晴　朝の内小雨 （去年小泊に寄せた帆柱代が8両1分5匁となる・小泊村の者どもに下される）
1727年　6月11日 享保12年　4月22日 快晴
1727年　6月12日 享保12年　4月23日 快晴
1727年　6月13日 享保12年　4月24日 快晴 （3月22日平館村の御蔵出火の番人2人の他村預け免許）
1727年　6月14日 享保12年　4月25日 曇　巳の中刻過ぎより晴
1727年　6月15日 享保12年　4月26日 晴
1727年　6月16日 享保12年　4月27日 陰晴 （先月中野内:出75・入り57・都合132人、24日後潟組浜名村で水主が入水死、広須組掛落林村の33歳男が4日に行方不明、25日金木組高根村の庄屋から火災7軒・庄屋他村預け）
1727年　6月17日 享保12年　4月28日 快晴
1727年　6月18日 享保12年　4月29日 晴　酉の刻より雨降
1727年　6月19日 享保12年　5月1日 陰晴 （先月中所々御関所出人49人切手紙枚数不明）
1727年　6月20日 享保12年　5月2日 曇　申の刻より雨　夜中に及ぶ
1727年　6月21日 享保12年　5月3日 曇　昨夜中雨　巳の刻まで時々　それより晴
1727年　6月22日 享保12年　5月4日 曇　午の刻小風
1727年　6月23日 享保12年　5月5日 曇　巳の刻過ぎより晴
1727年　6月24日 享保12年　5月6日 曇
1727年　6月25日 享保12年　5月7日 曇 （4月中碇関:出237・入り409人、4月中大間越:出50・入り58人）
1727年　6月26日 享保12年　5月8日 曇
1727年　6月27日 享保12年　5月9日 なし(天気の記述なし) （常小屋の者鳶の甚九郎が6日より行方不明、4月中野内:出110・入り89人）
1727年　6月28日 享保12年　5月10日 なし(天気の記述なし)
1727年　6月29日 享保12年　5月11日 なし(天気の記述なし)
1727年　6月30日 享保12年　5月12日 快晴 （4月25日高根村の火元庄屋の他村預け免許）

1727年　7月1日 享保12年　5月13日 陰晴　申の下刻小雨　夜中に及ぶ
1727年　7月2日 享保12年　5月14日 陰晴
1727年　7月3日 享保12年　5月15日 快晴
1727年　7月4日 享保12年　5月16日 快晴　(阿ふ屋うは江戸で作った?、50年ほど前に鯵ヶ沢弘前間の運河計画があった?)
1727年　7月5日 享保12年　5月17日 曇　今朝きり雨　則止む
1727年　7月6日 享保12年　5月18日 快晴
1727年　7月7日 享保12年　5月19日 快晴
1727年　7月8日 享保12年　5月20日 陰晴　寅の刻より雨　卯の刻過ぎ止む　申の下刻雷二三度発す
1727年　7月9日 享保12年　5月21日 終日雨　今朝酉の刻雷数度発す　西の方〇(虹か)見る
1727年　7月10日 享保12年　5月22日 曇　時々雨降　(大鰐より初胡瓜差し上げる)
1727年　7月11日 享保12年　5月23日 陰晴
1727年　7月12日 享保12年　5月24日 快晴
1727年　7月13日 享保12年　5月25日 陰晴
1727年　7月14日 享保12年　5月26日 晴
1727年　7月15日 享保12年　5月27日 曇　(先達て出火の今別町の火元(日記に見えない)入寺御免)
1727年　7月16日 享保12年　5月28日 曇　時々雨　(21日黒石領で4人組の追いはぎあり)
1727年　7月17日 享保12年　5月29日 曇　昨夜中雨
1727年　7月18日 享保12年　5月30日 陰晴
1727年　7月19日 享保12年　6月1日 陰晴
1727年　7月20日 享保12年　6月2日 陰晴　戌の刻雨少し　土用丑の刻入る
1727年　7月21日 享保12年　6月3日 晴
1727年　7月22日 享保12年　6月4日 晴
1727年　7月23日 享保12年　6月5日 曇　終日大雨　(和徳組原ヶ平村で24・5男縊死)
1727年　7月24日 享保12年　6月6日 快晴
1727年　7月25日 享保12年　6月7日 快晴　(5月中碇関:出233・入り190人、5月中大間越:出37・入り45人、5月30日横内組大矢沢村で婿が女房を藁打ち槌で叩く・4日死亡)
1727年　7月26日 享保12年　6月8日 快晴
1727年　7月27日 享保12年　6月9日 快晴　暑気強し
1727年　7月28日 享保12年　6月10日 快晴　暑気強し　(先月中所々御関所出人31人切手紙12枚)
1727年　7月29日 享保12年　6月11日 快晴　暑気強し
1727年　7月30日 享保12年　6月12日 快晴　暑気強し
1727年　7月31日 享保12年　6月13日 快晴　暑気強し
1727年　8月1日 享保12年　6月14日 快晴　暑気強し
1727年　8月2日 享保12年　6月15日 陰晴　未の刻小雨少し　(広田組長橋村の百姓から出火・時節柄村預け差免)
1727年　8月3日 享保12年　6月16日 曇　昨夜より雨　今朝辰の刻過ぎまで　それより晴
1727年　8月4日 享保12年　6月17日 快晴　(銭10匁で銑6貫600目)
1727年　8月5日 享保12年　6月18日 快晴
1727年　8月6日 享保12年　6月19日 快晴　午の中刻雷発す　申の中刻過ぎ雨雷発す　(5月中野内:出61・入り124・都合185人)
1727年　8月7日 享保12年　6月20日 晴　昨夜中雨時々　今朝迄
1727年　8月8日 享保12年　6月21日 晴　昨夜申の刻雨暫く　則止む　未の刻大雨　雷数度発す　(大谷沢村の女房殺しの婿は解死人として女房の実父・親類に任される、郡所物書福間清右衛門が昨日病死)
1727年　8月9日 享保12年　6月22日 陰晴
1727年　8月10日 享保12年　6月23日 快晴
1727年　8月11日 享保12年　6月24日 快晴　午の中刻雷少し　小雨則止む
1727年　8月12日 享保12年　6月25日 晴　午の下刻より大雨　則刻止む
1727年　8月13日 享保12年　6月26日 晴　残暑強し
1727年　8月14日 享保12年　6月27日 快晴　残暑強し
1727年　8月15日 享保12年　6月28日 快晴　残暑甚だ強し
1727年　8月16日 享保12年　6月29日 晴　残暑強し
1727年　8月17日 享保12年　7月1日 快晴　(6月中所々御関所出人30人切手紙19枚)
1727年　8月18日 享保12年　7月2日 快晴
1727年　8月19日 享保12年　7月3日 快晴　残暑強し
1727年　8月20日 享保12年　7月4日 快晴　残暑強し　(6月中碇関:出176・入り251・都合427人)
1727年　8月21日 享保12年　7月5日 快晴　残暑強し
1727年　8月22日 享保12年　7月6日 快晴　残暑強し
1727年　8月23日 享保12年　7月7日 快晴　残暑強し
1727年　8月24日 享保12年　7月8日 快晴　残暑強し
1727年　8月25日 享保12年　7月9日 快晴　残暑強し　(大鰐村加賀介岩館村弥助から初米差し上げる)
1727年　8月26日 享保12年　7月10日 快晴　(郡所物書福間清右衛門去月19日病死・同人弟又次郎筆算も御座候間清右衛門御擬作金3両2分2人扶持被下置跡江新規召抱え、先月中大間越:出33・入り31人)
1727年　8月27日 享保12年　7月11日 晴　午の刻より曇　(7日大円寺溜池で御家中が溺れ・10日見出す)
1727年　8月28日 享保12年　7月12日 曇　未の刻雨暫く　則刻止む　(6月中野内:出99・入り136・都合235人)
1727年　8月29日 享保12年　7月13日 晴
1727年　8月30日 享保12年　7月14日 晴
1727年　8月31日 享保12年　7月15日 快晴

1727年　9月1日 享保12年　7月16日 晴
1727年　9月2日 享保12年　7月17日 晴
1727年　9月3日 享保12年　7月18日 快晴
1727年　9月4日 享保12年　7月19日 快晴 （初米差し上げの弥助に2貫文加賀助に1貫文下さる）
1727年　9月5日 享保12年　7月20日 快晴
1727年　9月6日 享保12年　7月21日 陰晴 卯の刻雨 それより時々
1727年　9月7日 享保12年　7月22日 晴 今朝曇 それより晴
1727年　9月8日 享保12年　7月23日 晴 未の刻より雨 夜に及ぶ
1727年　9月9日 享保12年　7月24日 晴
1727年　9月10日 享保12年　7月25日 晴 未の下刻雷 夜中雨
1727年　9月11日 享保12年　7月26日 晴
1727年　9月12日 享保12年　7月27日 曇 夜中雨
1727年　9月13日 享保12年　7月28日 曇 終日雨 （切支丹宗門改めを秋にはしないことになる、阿芙蓉115匁4分和田玄仙・松山道円が蓋茶壷に入れて大納戸に上げる）
1727年　9月14日 享保12年　7月29日 晴 昨夜雨 巳の刻に及ぶ それより晴
1727年　9月15日 享保12年　8月1日 曇 （当7月中所々御関所出人22人切手紙19枚）
1727年　9月16日 享保12年　8月2日 晴 申の刻過ぎ雨 夜に入り雷発す
1727年　9月17日 享保12年　8月3日 晴
1727年　9月18日 享保12年　8月4日 陰晴
1727年　9月19日 享保12年　8月5日 なし(天気の記述なし)
1727年　9月20日 享保12年　8月6日 晴
1727年　9月21日 享保12年　8月7日 晴 （当7月中大間越:出30・入り36・都合66人、当7月中碇関:出144・入り203・都合347人、蟹田町で殺人・男死亡）
1727年　9月22日 享保12年　8月8日 曇 昼の内小雨
1727年　9月23日 享保12年　8月9日 曇 終日雨
1727年　9月24日 享保12年　8月10日 曇
1727年　9月25日 享保12年　8月11日 晴
1727年　9月26日 享保12年　8月12日 陰晴 午の刻小風
1727年　9月27日 享保12年　8月13日 陰晴 午の下刻小風 夜に入り雨
1727年　9月28日 享保12年　8月14日 陰晴
1727年　9月29日 享保12年　8月15日 曇 昨夜より雨 今朝辰の刻まで
1727年　9月30日 享保12年　8月16日 晴 巳の刻過ぎより陰晴
1727年　10月1日 享保12年　8月17日 快晴
1727年　10月2日 享保12年　8月18日 陰晴 夜中雨降
1727年　10月3日 享保12年　8月19日 終日雨降
1727年　10月4日 享保12年　8月20日 曇 昨夜中雨 今朝に及ぶ
1727年　10月5日 享保12年　8月21日 陰晴 卯の刻雨少 午の刻雨少
1727年　10月6日 享保12年　8月22日 陰晴 午の刻より時々小雨
1727年　10月7日 享保12年　8月23日 夜中亥の上刻より雨 終夜時々
1727年　10月8日 享保12年　8月24日 曇 小雨 今朝岩木山雪見る
1727年　10月9日 享保12年　8月25日 晴 昼の内雨少し
1727年 10月10日 享保12年　8月26日 快晴 （寺町の下女今夜五つ時分縊死）
1727年 10月11日 享保12年　8月27日 快晴
1727年 10月12日 享保12年　8月28日 曇 寅の下刻雷三四度発す 午の刻過ぎより大雨
1727年 10月13日 享保12年　8月29日 曇 午の刻過ぎより小雨降
1727年 10月14日 享保12年　8月30日 陰晴 岩木山二度目雪見る
1727年 10月15日 享保12年　9月1日 陰晴 （先月中所々御関所出人32人切手紙24枚）
1727年 10月16日 享保12年　9月2日 曇 時々小風
1727年 10月17日 享保12年　9月3日 曇 午の刻より雨降
1727年 10月18日 享保12年　9月4日 曇 午の刻より雨 雷三四度発す
1727年 10月19日 享保12年　9月5日 陰晴
1727年 10月20日 享保12年　9月6日 曇 夜中雨
1727年 10月21日 享保12年　9月7日 曇 終日雨降不止 夜中風雨 （先月上旬より天気悪敷候に付四社に天気快晴の御祈祷を仰せ付ける、当8月中大間越:出14・入り30・都合44人）
1727年 10月22日 享保12年　9月8日 陰晴 昨夜よりの風雨巳の刻止む
1727年 10月23日 享保12年　9月9日 晴 （当8月中野内:出128・入り96・都合224人）
1727年 10月24日 享保12年　9月10日 曇 時々雨 （当8月中碇関:出326・入り185・都合511人）
1727年 10月25日 享保12年　9月11日 快晴
1727年 10月26日 享保12年　9月12日 曇 辰の刻より雨終日降
1727年 10月27日 享保12年　9月13日 陰晴 辰の下刻より雨風 強雨時々 夜中雨 雷発す
1727年 10月28日 享保12年　9月14日 曇 午の上刻より雨降 則止む
1727年 10月29日 享保12年　9月15日 快晴 （6日赤石組追良瀬川の川口で破船1艘、古懸山不動尊と百沢の地蔵尊御出汗・五山に御祈祷仰せ付ける）
1727年 10月30日 享保12年　9月16日 晴 午の中刻雨
1727年 10月31日 享保12年　9月17日 快晴 （13日小泊沖で破船1艘・1人死亡）

1727年　11月1日 享保12年　9月18日 曇　卯の刻より雨　終日に及ぶ （13日より昨日まで三新田・油川・後潟組で大風・苅残し稲夥しくこぼれる）
1727年　11月2日 享保12年　9月19日 陰晴　未の刻前雨　夜中風雨 （7日赤田組中野村で洪水・稲流失）
1727年　11月3日 享保12年　9月20日 今朝より終日丸雪
1727年　11月4日 享保12年　9月21日 晴
1727年　11月5日 享保12年　9月22日 晴　午の中刻より曇　同下刻より雨
1727年　11月6日 享保12年　9月23日 晴　夜に入り雨少々時々
1727年　11月7日 享保12年　9月24日 曇　午の刻前より雨降
1727年　11月8日 享保12年　9月25日 曇　昨夜より雨　終日時々
1727年　11月9日 享保12年　9月26日 晴　小風
1727年 11月10日 享保12年　9月27日 快晴
1727年 11月11日 享保12年　9月28日 陰晴　午の刻より曇 （屋形様先月20日?江戸御発駕）
1727年 11月12日 享保12年　9月29日 昨夜酉の刻より雷雨　それより雨　大雷数度
1727年 11月13日 享保12年　10月1日 晴　今朝大霜　戌の中刻雨　則止む
1727年 11月14日 享保12年　10月2日 晴
1727年 11月15日 享保12年　10月3日 快晴 （1日横内組平新田で火災5軒・火元村預け・時分柄村預け御免）
1727年 11月16日 享保12年　10月4日 陰晴　申の中刻より雨　夜中に及ぶ （先月中所々御関所出人15人切手紙12枚、当月（先月か）26日駒越組桜庭村の茂助熊（胆長4寸7歩廻り8寸：11歳）取る）
1727年 11月17日 享保12年　10月5日 曇
1727年 11月18日 享保12年　10月6日 曇　巳の刻より時々丸雪降　夜中雪少し
1727年 11月19日 享保12年　10月7日 晴
1727年 11月20日 享保12年　10月8日 曇　時々小雨　申の刻過ぎ雷発す　夜中風雨
1727年 11月21日 享保12年　10月9日 晴 （屋形様九過ぎ御着城）
1727年 11月22日 享保12年　10月10日 陰晴　時々小雨
1727年 11月23日 享保12年　10月11日 晴　午の刻過ぎより陰晴ニ成 （9月中大間越：出36・入り19・都合55人）
1727年 11月24日 享保12年　10月12日 晴　八時過ぎより雨降　夜中強風 （御能）
1727年 11月25日 享保12年　10月13日 陰晴　今朝小雪
1727年 11月26日 享保12年　10月14日 陰晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ
1727年 11月27日 享保12年　10月15日 曇　今朝少々雨
1727年 11月28日 享保12年　10月16日 曇　夜中雨 （昨日の雨にて岩木川四尺ほど洪水・仮橋引取り船で渡したがこれもだめになった）
1727年 11月29日 享保12年　10月17日 曇　時々小雨 （9月中野内：出69・入り88・都合157人、9月中碇関：出165・入り112・都合277人）
1727年 11月30日 享保12年　10月18日 曇　今朝雨少々
1727年　12月1日 享保12年　10月19日 曇
1727年　12月2日 享保12年　10月20日 曇　終日小雨
1727年　12月3日 享保12年　10月21日 晴
1727年　12月4日 享保12年　10月22日 晴
1727年　12月5日 享保12年　10月23日 昨夜中より雪　巳の中刻過ぎまで降　屋根石の加く連候程降（やねいしのかくれそうろうほどふる） （三之丸御屋敷で御見物）
1727年　12月6日 享保12年　10月24日 巳の刻より三そ連（霙）雪降る　則刻止む　未の刻より雨降 （御献上の塩鮭高覧）
1727年　12月7日 享保12年　10月25日 晴
1727年　12月8日 享保12年　10月26日 曇　終日雨降　申の刻過ぎより雪強風
1727年　12月9日 享保12年　10月27日 陰晴　巳の刻前少し雪降 （7月14日蟹田町で流木盗人と称して男が打殺される）
1727年 12月10日 享保12年　10月28日 曇
1727年 12月11日 享保12年　10月29日 快晴 （青森より初鱈差し上げる、26日鯵ヶ沢で鰯漁船遭難・2人行方不明）
1727年 12月12日 享保12年　10月30日 陰晴 （青森より二番鮭差し上げる、当月中所々御関所出人19人切手紙14枚、駒越組田代村の次右衛門が狼に喰われたか傷8箇所付の熊（胆長3寸6歩廻り4寸9歩：2歳）拾う）
1727年 12月13日 享保12年　11月1日 快晴
1727年 12月14日 享保12年　11月2日 曇　御堀氷張ル　午の中刻過ぎより曇雨降
1727年 12月15日 享保12年　11月3日 晴 （御徒目付山上羽右衛門が当年鯵ヶ沢相勤候節行跡宜しからず役儀召上げ遠慮）
1727年 12月16日 享保12年　11月4日 快晴　今朝霜　夜に入り小雨　則止む
1727年 12月17日 享保12年　11月5日 曇　夜に入り雨
1727年 12月18日 享保12年　11月6日 曇　辰の刻過ぎ雨少々
1727年 12月19日 享保12年　11月7日 曇
1727年 12月20日 享保12年　11月8日 今朝辰の刻過ぎより雪　夜中雪降 （当10月中碇関：出173・入り147・都合420人、10月中大間越：出85・入り19・都合104人）
1727年 12月21日 享保12年　11月9日 終日吹雪小風 （金木組尾別村で時疫の影響）
1727年 12月22日 享保12年　11月10日 晴　時々小雪　冬至に入る
1727年 12月23日 享保12年　11月11日 陰晴　時々小雪　夜中に及ぶ
1727年 12月24日 享保12年　11月12日 晴　巳の刻前時々雪 （10月中野内：出71・入り72・都合143人）
1727年 12月25日 享保12年　11月13日 晴　昨夜雨降　夜中雪
1727年 12月26日 享保12年　11月14日 終日雪降 （11月11日十三潟残らず氷張る）
1727年 12月27日 享保12年　11月15日 曇　小雪少々降
1727年 12月28日 享保12年　11月16日 快晴
1727年 12月29日 享保12年　11月17日 陰晴　今朝より時々小雪 （昨朝赤田組中野村で火災1軒・米42俵稲2500束焼失・火元村預け）
1727年 12月30日 享保12年　11月18日 陰晴　夜中雨 （足軽山上源次郎が江戸からの飛脚中秋田で足踏み損）
1727年 12月31日 享保12年　11月19日 曇　終日雨

1728年　1月1日 享保12年　11月20日 曇　辰の刻過ぎ小雪　(先月25・26日の大風で後潟組奥内村に破船・3人行方不明)
1728年　1月2日 享保12年　11月21日 曇　終日小雪　夜中雪
1728年　1月3日 享保12年　11月22日 曇　今朝雪降
1728年　1月4日 享保12年　11月23日 晴　夜に入り小雪　　下から続く　　上蕎麦6合2夕・上餅粟1升2合7夕)
1728年　1月5日 享保12年　11月24日 晴　(雑穀代米(対米1升):上大豆7合6夕・次大豆1升2合7夕・青鶴大豆7合6夕・上小豆6合4夕・黒大豆6合4夕・上大麦1升7合5夕・上小麦7合・上大納言小豆3合5夕・　　上に続く
1728年　1月6日 享保12年　11月25日 晴　午の刻より雪降　午の八刻より小かんニ入る
1728年　1月7日 享保12年　11月26日 陰晴　時々雪
1728年　1月8日 享保12年　11月27日 晴
1728年　1月9日 享保12年　11月28日 快晴
1728年　1月10日 享保12年　11月29日 晴
1728年　1月11日 享保12年　12月1日 陰晴　(11月中所々御関所出人14人切手紙11枚)
1728年　1月12日 享保12年　12月2日 曇　時々小雪　(今日南溜池で男縊死)
1728年　1月13日 享保12年　12月3日 陰晴
1728年　1月14日 享保12年　12月4日 晴　(2日柏木組横蒔村で火災1軒、先月28日浦町組荒川村で火災1軒)
1728年　1月15日 享保12年　12月5日 曇　時々小雪　未の刻吹雪　夜中に及ぶ
1728年　1月16日 享保12年　12月6日 晴　朝の内小雪　(11月16日中野村の火元預け免許)
1728年　1月17日 享保12年　12月7日 晴　朝の内曇
1728年　1月18日 享保12年　12月8日 曇　巳の中刻過ぎより雨　未の下刻より雷　夜中雪　(先月中大間越:出97・入り43人)
1728年　1月19日 享保12年　12月9日 陰晴　吹雪時々
1728年　1月20日 享保12年　12月10日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ　寒強し　(先月中野内:出64・入り59人、先月中碇関:出144・入り179人)
1728年　1月21日 享保12年　12月11日 陰晴　時々雪　(8日夜八時頃浪岡組中野村で火災1軒・火元村預け)
1728年　1月22日 享保12年　12月12日 陰晴
1728年　1月23日 享保12年　12月13日 陰晴
1728年　1月24日 享保12年　12月14日 陰晴　午の刻過ぎ小雪
1728年　1月25日 享保12年　12月15日 陰晴
1728年　1月26日 享保12年　12月16日 晴
1728年　1月27日 享保12年　12月17日 曇
1728年　1月28日 享保12年　12月18日 今朝より時々吹雪　夜中に及ぶ　(2日横蒔村の火元の預け差免)
1728年　1月29日 享保12年　12月19日 曇　時々小雪　(先頃古懸山不動尊御出汗に付五山へ御祈祷仰せ付ける)
1728年　1月30日 享保12年　12月20日 晴　夜中雪　(荏粒油3升8合で銭1匁)
1728年　1月31日 享保12年　12月21日 曇
1728年　2月1日 享保12年　12月22日 快晴
1728年　2月2日 享保12年　12月23日 午の中刻過ぎより小雨　申の刻過ぎ雨降　(8日中野村の火元の村預け差免)
1728年　2月3日 享保12年　12月24日 午の中刻より雪降　夜中雪少々降
1728年　2月4日 享保12年　12月25日 陰晴　雪時々夜に入り降
1728年　2月5日 享保12年　12月26日 曇　昨夜よりの雪三四寸降　今朝より終日に及ぶ
1728年　2月6日 享保12年　12月27日 曇　今朝小雪
1728年　2月7日 享保12年　12月28日 曇　昨夜中雪　終日降　　下から続く　　正月より酒1升を7分より8分にする)
1728年　2月8日 享保12年　12月29日 曇　吹雪終日　(13日浪岡組徳才子村の定右衛門(胆長2寸6歩廻り4寸)・24日駒越組桜庭村の喜右衛門(3寸3歩4寸)・20日同組中畑村の仁助(6寸3寸5歩)それぞれ熊取る、　　上に続く
1728年　2月9日 享保12年　12月30日 曇　時々小雪　(山上羽右衛門が御留守居三番組支配に)
1728年　2月10日 享保13年　正月1日　今朝辰の中刻より雪降　巳の下刻より吹雪
1728年　2月11日 享保13年　正月2日　曇　午の刻過ぎ少し晴　その前時々雪降　夜中雪
1728年　2月12日 享保13年　正月3日　曇　今朝より吹雪　(御謡初)
1728年　2月13日 享保13年　正月4日　曇　昨夜中大吹雪　終日吹雪
1728年　2月14日 享保13年　正月5日　陰晴　時々雪
1728年　2月15日 享保13年　正月6日　快晴
1728年　2月16日 享保13年　正月7日　陰晴　夜中小雪
1728年　2月17日 享保13年　正月8日　陰晴　(5日油川組孫内村で火災1軒(4間×8間:高無)・馬6疋焼失)
1728年　2月18日 享保13年　正月9日　快晴　(去12月中碇関出人5人切手紙4枚)
1728年　2月19日 享保13年　正月10日 陰晴　時々小雪
1728年　2月20日 享保13年　正月11日 晴　巳の刻過ぎより雪時々　(隈部伊織を家老になどの人事異動)
1728年　2月21日 享保13年　正月12日 晴　朝の内時々小雪
1728年　2月22日 享保13年　正月13日 晴　昨夜少々小雪
1728年　2月23日 享保13年　正月14日 陰晴　時々小雪　夜中雪一尺ほど降
1728年　2月24日 享保13年　正月15日 陰晴　辰の刻過ぎ少し雪　それより晴
1728年　2月25日 享保13年　正月16日 曇　昨夜中より雪
1728年　2月26日 享保13年　正月17日 曇　昨夜中雪　終日雪
1728年　2月27日 享保13年　正月18日 快晴
1728年　2月28日 享保13年　正月19日 陰晴　巳の中刻より晴
1728年　2月29日 享保13年　正月20日 曇　終日雨　(去12月中野内:出48・入り59人、去12月大間越:出29・入り34人)

1728年　3月1日 享保13年　正月21日 曇　終日小風
1728年　3月2日 享保13年　正月22日 曇　(御能)
1728年　3月3日 享保13年　正月23日 陰晴　辰の刻過ぎ吹雪　それより時々雪
1728年　3月4日 享保13年　正月24日 曇　終日小雪　(去12月中碇関:出193・入り147・都合340人)
1728年　3月5日 享保13年　正月25日 晴
1728年　3月6日 享保13年　正月26日 快晴　(金井沢より太刀魚上る)
1728年　3月7日 享保13年　正月27日 陰晴　巳の刻過ぎより雨降　夜中雨
1728年　3月8日 享保13年　正月28日 曇　時々小雨　(貞昌寺に金丹5粒)
1728年　3月9日 享保13年　正月29日 曇　(5日孫内村の火元の村預け御免)　下から続く　兵三郎と孫右衛門(3寸3寸5歩:5歳)それぞれ熊取る)
1728年　3月10日 享保13年　正月30日 快晴　(駒越組大秋村の新兵衛(胆長2寸9歩廻り4寸:3歳)・尾崎組切明村の右衛門作(1寸7歩1寸5歩:3歳)・同組唐竹村の惣助(2寸5歩2寸:3歳)・赤石組一森村の　上に続く
1728年　3月11日 享保13年　2月1日 曇　巳の刻より雨降　(所々御関所出人14人切手紙10枚)
1728年　3月12日 享保13年　2月2日 曇　夜に入り小雪
1728年　3月13日 享保13年　2月3日 陰晴
1728年　3月14日 享保13年　2月4日 晴　巳の下刻より雨時々
1728年　3月15日 享保13年　2月5日 陰晴　昼の内小雪少々　(先頃古懸不動尊御出汗・五山御祈祷、2日夜赤石組舞戸村で40男自殺)
1728年　3月16日 享保13年　2月6日 晴
1728年　3月17日 享保13年　2月7日 晴　子の刻地震二度　同刻小雨　(昨6日昼九つ頃富田町でひさし出火、正月中碇関:出75・入り203・都合278人、同大間越:出21・入り76・都合97人)
1728年　3月18日 享保13年　2月8日 陰晴　(名の知らない魚が昨日今日と市場に出ている)
1728年　3月19日 享保13年　2月9日 晴　(先月22日柏木組夕顔関村の火災(本日記に記述なし)に関し火元の村預け御免)
1728年　3月20日 享保13年　2月10日 晴
1728年　3月21日 享保13年　2月11日 快晴
1728年　3月22日 享保13年　2月12日 晴　今朝小雨　則止む　申の刻より雨
1728年　3月23日 享保13年　2月13日 曇　昨夜中よりの吹雪終日に及ぶ
1728年　3月24日 享保13年　2月14日 陰晴　午の刻より曇　申の刻より雨　夜中に及ぶ
1728年　3月25日 享保13年　2月15日 陰晴　時々小雪　風烈しい　終日に及ぶ　夜中雪　(昨夜の雨で岩木川駒越渡し往還止まる、当正月中野内:出34・入り43・都合77人)
1728年　3月26日 享保13年　2月16日 終日風雪　(2月13日十三潟明ける)
1728年　3月27日 享保13年　2月17日 終日雪降
1728年　3月28日 享保13年　2月18日 陰晴　夜に入り雨
1728年　3月29日 享保13年　2月19日 陰晴　今朝巳の刻過ぎまで雨降　(阿ふやう御用に付年々大作人へけしまきつけられ候・当年も……)
1728年　3月30日 享保13年　2月20日 陰晴　昨夜中より雪　今朝辰の刻まで　(当春御切米金銭渡高:995両・銀銭17貫450目:御内分より御貸出)
1728年　3月31日 享保13年　2月21日 曇　酉の刻より雨　終夜に及ぶ　(西之郭で相撲高覧)
1728年　4月1日 享保13年　2月22日 陰晴
1728年　4月2日 享保13年　2月23日 曇
1728年　4月3日 享保13年　2月24日 陰晴　今朝雨少々
1728年　4月4日 享保13年　2月25日 快晴　(6日富田町の火元の押込め赦免)
1728年　4月5日 享保13年　2月26日 陰晴　夜に入り雨
1728年　4月6日 享保13年　2月27日 曇　終日雨降　(石渡川昨日洪水・誓願寺裏の土居破れる)
1728年　4月7日 享保13年　2月28日 陰晴
1728年　4月8日 享保13年　2月29日 晴　(27日鯵ヶ沢七ツ石町で火災1軒)
1728年　4月9日 享保13年　3月1日 曇　終日雨　(先月中所々御関所出人29人切手紙20枚、鯵ヶ沢町の火元の入寺差免)
1728年　4月10日 享保13年　3月2日 陰晴　小風
1728年　4月11日 享保13年　3月3日 晴　今朝大霜
1728年　4月12日 享保13年　3月4日 快晴　寅の中刻地震　(鯵ヶ沢七ツ石の火元の入寺差免)
1728年　4月13日 享保13年　3月5日 陰晴　(十三町で春までに時疫で死に絶えた家あり)
1728年　4月14日 享保13年　3月6日 曇　午の中刻より雨　夜中大風
1728年　4月15日 享保13年　3月7日 陰晴　小風　午の刻小雨暫く　(一昨4日夜広須新田福富村で火災1軒(7尺×4間:高無)・78歳盲母焼死)
1728年　4月16日 享保13年　3月8日 晴　小風終日　(昨日の荒れで鯵ヶ沢で16男溺死、大間越町奉行に熊狼対策用鉄砲玉等を渡す、6日の南大風で深浦間で破船1艘・死亡1人・行方不明7人、先月中大間越:出14・入り48人)
1728年　4月17日 享保13年　3月9日 快晴　(西之郭で相撲高覧)
1728年　4月18日 享保13年　3月10日 曇　昨夜中寅の刻より雨　午の刻に及ぶ　それより晴ル
1728年　4月19日 享保13年　3月11日 快晴　小風　申の后刻過ぎより雨　雷二三度発す　(6日夜の風にて秋田領八森で破船1艘)
1728年　4月20日 享保13年　3月12日 今朝より風雨時々　(当2月中碇関:出92・入り134・都合226人、当2月中野内:出53・入り45・都合98人)
1728年　4月21日 享保13年　3月13日 陰晴　終日小風　(西之郭で相撲高覧)
1728年　4月22日 享保13年　3月14日 快晴
1728年　4月23日 享保13年　3月15日 晴　巳の刻過ぎより曇　小風　午の下刻より雨風強し　夜中雨少々　(11日昼尾崎組新館村に野火(190間×4～18間)松木230焼失)
1728年　4月24日 享保13年　3月16日 今朝より終日雨降
1728年　4月25日 享保13年　3月17日 曇
1728年　4月26日 享保13年　3月18日 陰晴
1728年　4月27日 享保13年　3月19日 晴　(4日福富村の火元の押込め御免)
1728年　4月28日 享保13年　3月20日 快晴
1728年　4月29日 享保13年　3月21日 快晴
1728年　4月30日 享保13年　3月22日 陰晴　酉の刻雨　則止む　(14日木作新田館岡村で火災1軒・耕作の時節に付火元他村預け御免)

1728年　5月1日 享保13年　3月23日 曇　辰の中刻過ぎ雨　終日に及ぶ
1728年　5月2日 享保13年　3月24日 陰晴　(昨日の洪水で碇関方面流木あり)
1728年　5月3日 享保13年　3月25日 晴　小風
1728年　5月4日 享保13年　3月26日 晴　小風
1728年　5月5日 享保13年　3月27日 快晴　巳の中刻より曇雨降　酉の刻前暫くみぞ連(霙)降
1728年　5月6日 享保13年　3月28日 陰晴
1728年　5月7日 享保13年　3月29日 曇　子の刻よりの雨　終日に及ぶ
1728年　5月8日 享保13年　3月30日 快晴　今朝大霜
1728年　5月9日 享保13年　4月1日 陰晴　小風
1728年　5月10日 享保13年　4月2日 晴
1728年　5月11日 享保13年　4月3日 陰晴　(先月27日青森で難風2人死亡)
1728年　5月12日 享保13年　4月4日 陰晴
1728年　5月13日 享保13年　4月5日 曇　終日雨降　(1日暮六時過ぎ後潟組浜名村派で火災15軒(残り3軒)男1人焼死)
1728年　5月14日 享保13年　4月6日 巳の刻過ぎ雨時々降
1728年　5月15日 享保13年　4月7日 陰晴　(茂森横鍛冶町で男縊死)
1728年　5月16日 享保13年　4月8日 晴　朝の内曇　巳の刻より快晴
1728年　5月17日 享保13年　4月9日 陰晴　申の刻過ぎより雨少し降　雷一度発す
1728年　5月18日 享保13年　4月10日 陰晴　(先月中野内:出112・入り82人、大間越:出35・入り62人、先月中碇関:出165・入り185人)
1728年　5月19日 享保13年　4月11日 快晴
1728年　5月20日 享保13年　4月12日 快晴　今朝キリ(霧)　(西之郭で相撲高覧)
1728年　5月21日 享保13年　4月13日 陰晴
1728年　5月22日 享保13年　4月14日 陰晴
1728年　5月23日 享保13年　4月15日 曇　時々雨
1728年　5月24日 享保13年　4月16日 快晴
1728年　5月25日 享保13年　4月17日 曇　辰の中刻より雨暫く降　終日小風　(3月27日南部領木浪沖で青森の漁船が西日潟風で遭難・5人行方不明)
1728年　5月26日 享保13年　4月18日 晴　小風　(後潟組瀬戸子村より広瀬村の内で狼荒れる・御持ち筒足軽2人出す)
1728年　5月27日 享保13年　4月19日 晴
1728年　5月28日 享保13年　4月20日 曇　終日小風　時々小雨　夜に入り大雨　終夜に及ぶ
1728年　5月29日 享保13年　4月21日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1728年　5月30日 享保13年　4月22日 曇　終日時々雨降　(米250俵を青森で売ると20両(以上)になる)
1728年　5月31日 享保13年　4月23日 曇　午の刻過ぎより雨降　(四社へ天気上げ御祈祷仰せ付ける、大間越町から5月分飯米として御蔵米70俵払い願い・60俵を申し付ける)
1728年　6月1日 享保13年　4月24日 晴　(大間越で帆柱(長4尋3尺元口2尺末口1尺5寸拾う)
1728年　6月2日 享保13年　4月25日 快晴
1728年　6月3日 享保13年　4月26日 快晴
1728年　6月4日 享保13年　4月27日 快晴　(西之御郭で相撲高覧)
1728年　6月5日 享保13年　4月28日 晴
1728年　6月6日 享保13年　4月29日 快晴　朝の内霞　巳の刻過ぎより晴
1728年　6月7日 享保13年　4月30日 快晴
1728年　6月8日 享保13年　5月1日 快晴　(先月中所々御関所出人52人切手紙37人)
1728年　6月9日 享保13年　5月2日 快晴
1728年　6月10日 享保13年　5月3日 曇　時々雨降　(浪岡組田方の苗が先月中の東風に当り消える)
1728年　6月11日 享保13年　5月4日 曇　終雨降　(先月中大間越:出27・入り32・都合59人)
1728年　6月12日 享保13年　5月5日 晴　今朝辰の刻前曇　それより快晴
1728年　6月13日 享保13年　5月6日 快晴　(西之郭で角力高覧、当月1日後潟組下中宇田沢で山火事・三・四丁焼く)
1728年　6月14日 享保13年　5月7日 曇　未の刻過ぎ雨降　それより晴ル　(先月中碇関:出300・入り274・合574人)
1728年　6月15日 享保13年　5月8日 快晴
1728年　6月16日 享保13年　5月9日 快晴
1728年　6月17日 享保13年　5月10日 快晴
1728年　6月18日 享保13年　5月11日 陰晴　夜中八つ時分より大雨　(西之御郭で御馬高覧、4月26日青森上新町で男行方不明)
1728年　6月19日 享保13年　5月12日 曇　昨夜より雨　巳の刻過ぎまで降　それより小雨　(9日油川組鹿渡沼村で火災1軒・火元村預け)
1728年　6月20日 享保13年　5月13日 曇　(西之御郭で相撲高覧)
1728年　6月21日 享保13年　5月14日 曇　巳の中刻より晴　(隈部伊織に一粒金丹20粒)
1728年　6月22日 享保13年　5月15日 陰晴　申の刻より雨
1728年　6月23日 享保13年　5月16日 晴
1728年　6月24日 享保13年　5月17日 陰晴　酉の刻より雨　夜中に及ぶ
1728年　6月25日 享保13年　5月18日 快晴　(先月中野内:出114・入り187・合301人)
1728年　6月26日 享保13年　5月19日 快晴　(御手廻りに一粒金丹3粒、9日鹿渡沼村の火元は時分柄村預け御免)
1728年　6月27日 享保13年　5月20日 寅の刻雷雨　卯の刻過ぎ止む　申の下刻雷二度発す
1728年　6月28日 享保13年　5月21日 終日雨　(戸田山城守家来に一粒金丹10粒下し置かれる、大間越町から来月分飯米として蔵米60俵御払い願い・50俵を申付ける)
1728年　6月29日 享保13年　5月22日 快晴　夜に入り雨時々　(阿芙蓉御用表医者松山・和田に申付ける)
1728年　6月30日 享保13年　5月23日 曇　巳の中刻より雨

1728年　7月1日 享保13年　5月24日 曇
1728年　7月2日 享保13年　5月25日 陰晴
1728年　7月3日 享保13年　5月26日 曇　卯の中刻より雨 （大鰐より初胡瓜上る、昨25日牢死の馬盗人を今日獄門にする）
1728年　7月4日 享保13年　5月27日 曇　小雨
1728年　7月5日 享保13年　5月28日 曇　朝の内雨少し （昨日赤石組舞戸川夥しく洪水）
1728年　7月6日 享保13年　5月29日 快晴 （このたびの洪水で田畑水湛・水引き申さぬ間作毛不明）
1728年　7月7日 享保13年　6月1日 今朝辰の上刻より雨降　巳の中刻南の方虹見る （御手廻りに一粒金丹3粒、横内・浦町組で雨降続き稲も成長しない・杣取に出ないよう注意）
1728年　7月8日 享保13年　6月2日 曇　午の刻雨少し （先月中所々御関所出人48人切手紙35枚、阿芙蓉は南袋上の畑に・御用済み後少々を医者の個人利用にする）
1728年　7月9日 享保13年　6月3日 曇　巳の中刻より段々晴 （御内分より貸し出し・度々）
1728年　7月10日 享保13年　6月4日 晴　今朝雨少し　夜中大雨　雷発す （5月26日後潟組中沢村で破船1艘）
1728年　7月11日 享保13年　6月5日 陰晴　時々小雨
1728年　7月12日 享保13年　6月6日 陰晴
1728年　7月13日 享保13年　6月7日 陰晴
1728年　7月14日 享保13年　6月8日 曇　昼頃より晴
1728年　7月15日 享保13年　6月9日 曇 （日和揚げご祈祷を五山に申付ける）
1728年　7月16日 享保13年　6月10日 陰晴 （天気悪敷稲への筒虫・葉虫付く・虫除けお札を申付ける）
1728年　7月17日 享保13年　6月11日 快晴 （三之丸で見物事）
1728年　7月18日 享保13年　6月12日 陰晴 （誰かに金丹3粒、西之御郭で相撲高覧）
1728年　7月19日 享保13年　6月13日 陰晴　辰の四刻土用に入る　今朝雨少々　則止む　辰の后刻雷発す　則止む
1728年　7月20日 享保13年　6月14日 終日曇　申の刻雨　則止む
1728年　7月21日 享保13年　6月15日 曇　今朝卯の中刻より雨　巳の刻過ぎより晴　それより陰晴 （御本城北の御門……）
1728年　7月22日 享保13年　6月16日 陰晴　申の刻より雨　それより夜中雨 （先月中碇関:出277・入り193・都合470、先月中野内:出104・入り240・都合344人）
1728年　7月23日 享保13年　6月17日 陰晴　未の刻前雷数度発す
1728年　7月24日 享保13年　6月18日 陰晴　午の中刻雷発す
1728年　7月25日 享保13年　6月19日 快晴
1728年　7月26日 享保13年　6月20日 快晴　少風 （昨19日昼九つ時分油川組夏井(田)村で火災1軒(4間×9間:高無)）
1728年　7月27日 享保13年　6月21日 曇　辰の刻より雨 （西郭で御角力）
1728年　7月28日 享保13年　6月22日 陰晴
1728年　7月29日 享保13年　6月23日 陰晴　今朝大霧降 （御家中?に一粒金丹3粒）
1728年　7月30日 享保13年　6月24日 晴
1728年　7月31日 享保13年　6月25日 陰晴
1728年　8月1日 享保13年　6月26日 陰晴　朝より雨少々宛降　終日曇
1728年　8月2日 享保13年　6月27日 曇
1728年　8月3日 享保13年　6月28日 曇
1728年　8月4日 享保13年　6月29日 陰晴
1728年　8月5日 享保13年　6月30日 晴　朝の内大曇　巳の刻より晴
1728年　8月6日 享保13年　7月1日 辰の下刻より雨降　午の上刻雷発す　則止む
1728年　8月7日 享保13年　7月2日 曇　昨夜中より雨時々降　暑気強し
1728年　8月8日 享保13年　7月3日 晴　残暑強し　申の刻小雨 （御能）
1728年　8月9日 享保13年　7月4日 快晴　残暑強し （大間越町同心が鉄砲で熊を打ちとめる・胆皮とも打った同心に）
1728年　8月10日 享保13年　7月5日 晴　未の刻前より曇　残暑強し　未の中刻大雨雷発す　則刻止む （西之御郭で相撲）
1728年　8月11日 享保13年　7月6日 快晴　残暑甚だしい （先月中大間越:出39・入り44・合83人、先月中碇関:出174・入り250・合424人、「祢むた流し」(ねぶた流し)あり）
1728年　8月12日 享保13年　7月7日 快晴　昼過ぎより八つ過ぎまで大雨　雷数発す （熟瓜七つ差し上げる）
1728年　8月13日 享保13年　7月8日 陰晴　昼前雷一度発す　未の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ
1728年　8月14日 享保13年　7月9日 曇　今朝より雨降　終日に及ぶ
1728年　8月15日 享保13年　7月10日 曇　辰の后刻より終日雨降
1728年　8月16日 享保13年　7月11日 陰晴
1728年　8月17日 享保13年　7月12日 陰晴 （6月中野内:出100・入り172・都合272人）
1728年　8月18日 享保13年　7月13日 快晴　申の刻雨 （10日朝七つ時赤石組田野沢沖で破船2艘）
1728年　8月19日 享保13年　7月14日 陰晴　午の刻より大風雨　雷数度発す
1728年　8月20日 享保13年　7月15日 快晴　残暑強し （大間越町庄屋が御蔵米15俵御払い願い・申立の通り払出す）
1728年　8月21日 享保13年　7月16日 晴
1728年　8月22日 享保13年　7月17日 晴　亥の上刻小雨
1728年　8月23日 享保13年　7月18日 陰晴 （9日暮れ過ぎ青森堤川洪水）
1728年　8月24日 享保13年　7月19日 曇　昨夜中雨　辰の刻過ぎまで　それより晴 （大鰐村嘉賀助と岩館村弥介より初米6箱差し上げる、10日の大風雨にて長浜で破船1艘）
1728年　8月25日 享保13年　7月20日 曇　巳の刻小雨　それより陰晴　少し風
1728年　8月26日 享保13年　7月21日 快晴
1728年　8月27日 享保13年　7月22日 快晴
1728年　8月28日 享保13年　7月23日 曇　辰の中刻小雨 （藤代組青女子村から「川和川者」(川わっぱ:河童)の子にて之有るべきかの旨申し出で・差出候）
1728年　8月29日 享保13年　7月24日 朝より小雨　辰の刻過ぎ大雨　巳の刻止む　夜に入り雨 （漆目2貫100目で金1両）
1728年　8月30日 享保13年　7月25日 辰の刻過ぎ大雨風　それより終日雨降
1728年　8月31日 享保13年　7月26日 昨夜中よりの雨終日降り続く

1728年　9月1日 享保13年　7月27日 曇　終日大雨昨夜中より降り続く（去24日より打ち続く雨に付岩木川洪水・御本城西方の石垣崩れ南の溜池樋之口破損）
1728年　9月2日 享保13年　7月28日 大曇　昨日よりの雨降続（御領分中百姓年中の休み：正月1～7・16～20日、2月1日、春彼岸の内3日、3月3日、田打ち仕舞に1日、4月8日、5月5日、田植え仕廻に2日、　欄外(*)に続く
1728年　9月3日 享保13年　7月29日 晴（駒越組田代村の藤右衛門(胆長2寸3歩廻り3寸6歩生目形14匁4分)・1日堀越組一野渡の小三郎(3寸2歩3寸16匁5分)それぞれ熊取る）
1728年　9月4日 享保13年　8月1日 曇　今朝卯の刻前より雨　巳の刻まで降　それより晴
1728年　9月5日 享保13年　8月2日 晴（百沢寺より苔実差し上げる）
1728年　9月6日 享保13年　8月3日 快晴（「川王川者に濁点」（川わっぱ：河童）の子塩詰め箱入り封印の間々にて作右衛門差し上げ候：これまでも濁点は稀にあったが半濁点はなし・濁点が半濁音を示す最初の例）
1728年　9月7日 享保13年　8月4日 晴（7月中野内：出18・入り32人）
1728年　9月8日 享保13年　8月5日 陰晴（西之郭で相撲高覧、広田組茂川・鶴ヶ岡・高瀬村でこのたびの洪水で水湛まだ引かず・米50俵拝借願いに半分を利息2割で申し渡す）
1728年　9月9日 享保13年　8月6日 晴
1728年　9月10日 享保13年　8月7日 快晴（山上古林宅で喧嘩・その弟たち弘前追放）
1728年　9月11日 享保13年　8月8日 快晴
1728年　9月12日 享保13年　8月9日 快晴　夜中雨　雷発す
1728年　9月13日 享保13年　8月10日 曇　午の上刻小雨
1728年　9月14日 享保13年　8月11日 曇　夜中雨（金木組脇本・磯松村で7月26～27日朝塩きり上げ稲黒くなり枯れ候：塩風害だろうな）
1728年　9月15日 享保13年　8月12日 曇　今朝より小雨（初米上納の弥介・嘉々介に500文ずつ下さる・昨年までは2貫文・1貫文だったのに）
1728年　9月16日 享保13年　8月13日 曇　今朝より雨（7月中碇関：出125・入り316人、7月中野内：出90・入り130人）
1728年　9月17日 享保13年　8月14日 曇　今朝小雨　則止む（7月23～28日の大雨で50年以来の大洪水）
1728年　9月18日 享保13年　8月15日 晴
1728年　9月19日 享保13年　8月16日 晴　午の刻より陰晴　子の刻より雨降（碇関で頃日熊獅子里へ出候、昨暮頃碇関町同心が鉄砲で熊を打ち止める・胆皮も打ち留めた者に）
1728年　9月20日 享保13年　8月17日 曇　昨夜中の雨　卯の中刻止む
1728年　9月21日 享保13年　8月18日 快晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ（御中小姓の子供が痢病で一粒金丹3粒、赤石組金井沢・鴨・関村で熊荒れる・大組足軽2人の鉄砲打ち派遣）
1728年　9月22日 享保13年　8月19日 曇（三之丸で御慰事）
1728年　9月23日 享保13年　8月20日 陰晴　小風　終日に及ぶ（青森上浜町前浜に者倒死）
1728年　9月24日 享保13年　8月21日 曇　昨夜よりの雨時々降
1728年　9月25日 享保13年　8月22日 快晴（西之郭で相撲）
1728年　9月26日 享保13年　8月23日 陰晴　辰の刻過ぎ小雨　則止む　小風（油川組油川村で腹切り死男1人）
1728年　9月27日 享保13年　8月24日 陰晴（流木割付：御家老衆139本←198本（去年）……・御旗頭より御日記役まで17本←25本（去年））
1728年　9月28日 享保13年　8月25日 曇　終日雨降
1728年　9月29日 享保13年　8月26日 快晴　午の刻より陰晴に成　未の下刻雨　申の刻過ぎ止む（西之郭で相撲、土手町で27歳男切腹死）
1728年　9月30日 享保13年　8月27日 陰晴
1728年　10月1日 享保13年　8月28日 陰晴　今朝岩木山へ初雪見る　午の下刻過ぎ雨　則止む（御能）
1728年　10月2日 享保13年　8月29日 晴　小風　今朝霜（当7月の洪水で蟹田湊の番所押し流される）
1728年　10月3日 享保13年　9月1日 陰晴　小風（先月中御関所出人41人切手紙24枚）
1728年　10月4日 享保13年　9月2日 曇　終日雨　夜中時々雨
1728年　10月5日 享保13年　9月3日 陰晴（油川組新田川より二番鮭差し上げる）
1728年　10月6日 享保13年　9月4日 晴　卯の刻少し雨　則止む　午の刻より曇　それより時々雨（金木組今泉・小泊村・浦町組合子沢村の各猟師に熊狼荒れ対策として玉・筒薬などを渡す、御旗の者1人（5尺8寸5歩）召抱える）
1728年　10月7日 享保13年　9月5日 曇　巳の刻過ぎより雨
1728年　10月8日 享保13年　9月6日 陰晴　時々雨（四社に於いて日和揚げの御祈祷申付ける）
1728年　10月9日 享保13年　9月7日 晴（先月中大間越：出29・入り63・都合92人、先月中碇関：出175・入り246・都合521人）
1728年　10月10日 享保13年　9月8日 晴（御台所頭より三番鮭差し上げる、横内組に8月29日夜四時分より当月2日昼八つ時まで南大東風吹く・稲吹き切れる）
1728年　10月11日 享保13年　9月9日 時々小雨（三新田は7月27日の何十年もない大洪水で219人に25俵6升5合下される）
1728年　10月12日 享保13年　9月10日 晴
1728年　10月13日 享保13年　9月11日 晴
1728年　10月14日 享保13年　9月12日 曇　終日雪降（先月中野内：出105・入り106人）
1728年　10月15日 享保13年　9月13日 晴
1728年　10月16日 享保13年　9月14日 曇　午の下刻小風
1728年　10月17日 享保13年　9月15日 快晴
1728年　10月18日 享保13年　9月16日 曇　今朝小雨　則止む
1728年　10月19日 享保13年　9月17日 曇
1728年　10月20日 享保13年　9月18日 快晴
1728年　10月21日 享保13年　9月19日 曇
1728年　10月22日 享保13年　9月20日 陰晴　小風　終日に及ぶ（15日後潟組石濱村に7月末に漁に出た丸木舟寄せる・2人死亡）
1728年　10月23日 享保13年　9月21日 終日雨降
1728年　10月24日 享保13年　9月22日 曇
1728年　10月25日 享保13年　9月23日 陰晴　辰の刻過ぎ小雨　則刻止む（人参値段1両に付き4匁宛）
1728年　10月26日 享保13年　9月24日　（日記がない）
1728年　10月27日 享保13年　9月25日 快晴　今朝大霜　夜に入り雨降
1728年　10月28日 享保13年　9月26日 曇　巳の刻過ぎ小雨　夜に入り雷発す（碇関に熊の獅子居るを見る・一昨暮町同心警固が鉄砲で親子熊打ち留める）
1728年　10月29日 享保13年　9月27日 曇　四方山々雪見ゆる（西之郭で相撲高覧）
1728年　10月30日 享保13年　9月28日 陰晴　寅の刻雨少し
1728年　10月31日 享保13年　9月29日 曇　辰の刻過ぎ雨少し　夜中雨

(*) 6月1日・15日、7月7日、盆14～16日、8月15日、9月・10月稲村納仕舞候て2日の計31日）

1728年　11月1日 享保13年　 9月30日 曇　時々小雨　夜に入り雨
1728年　11月2日 享保13年　 10月1日 曇　時々雨　夜に入り雨
1728年　11月3日 享保13年　 10月2日 曇　時々雨　(御内分より金を借りている)
1728年　11月4日 享保13年　 10月3日 曇　小風
1728年　11月5日 享保13年　 10月4日 快晴
1728年　11月6日 享保13年　 10月5日 快晴　終日小風　(先月24日横内組瀧澤村で火災・火元村預けが12日になり御免)
1728年　11月7日 享保13年　 10月6日 快晴
1728年　11月8日 享保13年　 10月7日 快晴　今朝霜降　(西之郭で相撲高覧)
1728年　11月9日 享保13年　 10月8日 巳の上刻より雨　それより終日　(先月30日大間越町同心が鉄砲で熊打ち留める、9月中碇関:出183・入り116人、9月中大間越:出27・入り31人)
1728年 11月10日 享保13年　 10月9日 曇　小雨　申の刻より初雪　夜中時々　至今朝一寸程降溜
1728年 11月11日 享保13年　10月10日 陰晴
1728年 11月12日 享保13年　10月11日 快晴　(辻道郭(一粒金丹を作っている表医者か)が何故か百人小人を療治するため一粒金丹3粒をもらって(買って)いる)
1728年 11月13日 享保13年　10月12日 時々雨ふる
1728年 11月14日 享保13年　10月13日 時々雨降　(当月2日昼七つ過ぎ大間越町松神に破船1艘流れ寄せる)
1728年 11月15日 享保13年　10月14日 曇　時々阿ら連(あられ)少し　(西郭相撲御覧、御手廻が一昨12日夜行方不明)
1728年 11月16日 享保13年　10月15日 快晴　今朝霜　(先月中野内:出93・入り60・都合153人)
1728年 11月17日 享保13年　10月16日 陰晴　今朝霜　(13日夜本町に2つ斗男子捨子)
1728年 11月18日 享保13年　10月17日 曇　今朝より雨　巳の刻暫く晴　同下刻より雨
1728年 11月19日 享保13年　10月18日 曇　時々雪降
1728年 11月20日 享保13年　10月19日 曇　夜に入り時々雨
1728年 11月21日 享保13年　10月20日 陰晴　(西之郭で相撲高覧)
1728年 11月22日 享保13年　10月21日 快晴　(御用人大石庄司身上召上げ御暇)
1728年 11月23日 享保13年　10月22日 晴　巳の中刻過ぎより曇　雨時々降
1728年 11月24日 享保13年　10月23日 陰晴　夜に入り小雨　(西之郭で相撲高覧)
1728年 11月25日 享保13年　10月24日 陰晴　(23日堀越組取上村で20位男変死・切り傷8ヶ所)
1728年 11月26日 享保13年　10月25日 晴　午の中刻過ぎより雨　(19日後潟組野田村でいおり焼失)
1728年 11月27日 享保13年　10月26日 陰晴　今朝大雪
1728年 11月28日 享保13年　10月27日 曇　朝の内小雨
1728年 11月29日 享保13年　10月28日 晴　小風
1728年 11月30日 享保13年　10月29日 陰晴　今朝大雪　巳の刻過ぎ雨　午の中刻晴
1728年　12月1日 享保13年　 11月1日 曇　夜中小雪　(10月中所々御関所出人10人切手紙8枚)
1728年　12月2日 享保13年　 11月2日 曇　時々小雨
1728年　12月3日 享保13年　 11月3日 快晴
1728年　12月4日 享保13年　 11月4日 昨夜中時々雨　今日も終日に及ぶ
1728年　12月5日 享保13年　 11月5日 晴　時々小風　夜に入り小雪
1728年　12月6日 享保13年　 11月6日 陰晴
1728年　12月7日 享保13年　 11月7日 晴　今朝御城水氷張る　夜中雨　(西之郭で相撲高覧)
1728年　12月8日 享保13年　 11月8日 終日小雨
1728年　12月9日 享保13年　 11月9日 時々小雪　(御能、先月中大間越:出61・入り41人)
1728年 12月10日 享保13年　11月10日　 (日記がない)
1728年 12月11日 享保13年　11月11日 曇　時々小雪
1728年 12月12日 享保13年　11月12日 曇　終日雪
1728年 12月13日 享保13年　11月13日 陰晴　夜中雪　(10月中野内:出64・入り61人)
1728年 12月14日 享保13年　11月14日 晴　(10月中碇関:出228・入り140人)
1728年 12月15日 享保13年　11月15日 陰晴　(初鱈2大濱より到来)
1728年 12月16日 享保13年　11月16日 陰晴　昨夜中雨
1728年 12月17日 享保13年　11月17日 曇　時々小雪　(三番鱈2青森より指上げる、米1俵12匁7分相当)
1728年 12月18日 享保13年　11月18日 晴
1728年 12月19日 享保13年　11月19日 曇　昨夜丑の刻過ぎ地震　則止む
1728年 12月20日 享保13年　11月20日 陰晴　今朝雪少し
1728年 12月21日 享保13年　11月21日 曇　今朝雪少々降
1728年 12月22日 享保13年　11月22日 曇　昨夜中雨
1728年 12月23日 享保13年　11月23日 曇終日　巳の刻雪　それより雨
1728年 12月24日 享保13年　11月24日 曇
1728年 12月25日 享保13年　11月25日 快晴
1728年 12月26日 享保13年　11月26日 快晴
1728年 12月27日 享保13年　11月27日 晴　午の下刻小雨
1728年 12月28日 享保13年　11月28日 終日雪
1728年 12月29日 享保13年　11月29日 陰晴　夜中雨降
1728年 12月30日 享保13年　11月30日 終日雨降　(11月中所々御関所出人6人切手紙4枚)
1728年 12月31日 享保13年　 12月1日 終日雪

1729年　1月1日 享保13年　12月2日 陰晴　時々雪　夜中雪
1729年　1月2日 享保13年　12月3日 曇
1729年　1月3日 享保13年　12月4日 辰の刻過ぎより大雪吹く（広田組藻川村・藻川新田・鶴(ヶ)岡村・高瀬村で御救い米願い・11歳以上1日3合4～10歳1日2合で20日分申付ける、1日夜金木新田豊岡村で火災・火元村預け御免）
1729年　1月4日 享保13年　12月5日 晴
1729年　1月5日 享保13年　12月6日 晴　寒に入る　酉の七刻に入る
1729年　1月6日 享保13年　12月7日 曇　時々小雨（大間越町庄屋から当月分御蔵米50俵御払い願い・40俵出す、11月中碇関:出101・入り127人、11月中大間越:出53・入り38人）
1729年　1月7日 享保13年　12月8日 陰晴　時々雪　夜中雪少々
1729年　1月8日 享保13年　12月9日 晴
1729年　1月9日 享保13年　12月10日 晴
1729年　1月10日 享保13年　12月11日 曇　終日雨
1729年　1月11日 享保13年　12月12日 曇　時々小雪（御馬廻に一粒金丹3粒、一昨10日夜藤崎組藤崎村の小見せの内に60余男倒死）
1729年　1月12日 享保13年　12月13日 曇　終日小雪
1729年　1月13日 享保13年　12月14日 曇　午の刻過ぎ雪少し降
1729年　1月14日 享保13年　12月15日 雪ふる（当月7月洪水で水湛の藻川新田の者共へ17町2反歩の種籾23石2斗の拝借を仰せ付ける）
1729年　1月15日 享保13年　12月16日 晴　辰の刻過ぎ小雪　則止む
1729年　1月16日 享保13年　12月17日 陰晴　時々雪（酢1升につき3分・米高値になったため）
1729年　1月17日 享保13年　12月18日 曇　午の刻小雨少し降
1729年　1月18日 享保13年　12月19日 晴　今朝少々雪
1729年　1月19日 享保13年　12月20日 陰晴（今別町の五人組共御蔵米200俵小売願い・了）
1729年　1月20日 享保13年　12月21日 終日雪降（午ノ刻御拍子初）
1729年　1月21日 享保13年　12月22日 晴　少々小雪降
1729年　1月22日 享保13年　12月23日 晴　少々小雪降（酒値段8分を9分にする）
1729年　1月23日 享保13年　12月24日 晴（御切米998両余を御内分より貸出し仰せ付ける）
1729年　1月24日 享保13年　12月25日 陰晴
1729年　1月25日 享保13年　12月26日 晴
1729年　1月26日 享保13年　12月27日 曇
1729年　1月27日 享保13年　12月28日 曇　小雪
1729年　1月28日 享保13年　12月29日 陰晴
1729年　1月29日 享保14年正月1日　夜中雪　卯の刻前より雪吹　辰の刻より終日雪
1729年　1月30日 享保14年正月2日　陰晴　時々雪
1729年　1月31日 享保14年正月3日　晴（御謡初）
1729年　2月1日 享保14年正月4日　終日雪吹
1729年　2月2日 享保14年正月5日　陰晴　時々雪
1729年　2月3日 享保14年正月6日　陰晴
1729年　2月4日 享保14年正月7日　陰晴
1729年　2月5日 享保14年正月8日　快晴（今別町奉行より御救い米願い・了）
1729年　2月6日 享保14年正月9日　曇　吹雪
1729年　2月7日 享保14年正月10日　今朝雪　それより晴
1729年　2月8日 享保14年正月11日　陰晴
1729年　2月9日 享保14年正月12日　晴
1729年　2月10日 享保14年正月13日　晴
1729年　2月11日 享保14年正月14日　終日吹雪
1729年　2月12日 享保14年正月15日　昨夜中より大吹雪　夜中雪
1729年　2月13日 享保14年正月16日　終日雪降（今日狼狩り）
1729年　2月14日 享保14年正月17日　陰晴
1729年　2月15日 享保14年正月18日　巳の刻より曇　雪降
1729年　2月16日 享保14年正月19日　曇　時々雪
1729年　2月17日 享保14年正月20日　陰晴（野内:出86・入り78人、大間越:出17・入り23人）
1729年　2月18日 享保14年正月21日　終日吹雪
1729年　2月19日 享保14年正月22日　曇　水そ連(みぞれ)時々雪降る
1729年　2月20日 享保14年正月23日　晴（16日狼狩りに出た面々が狼の肉頂戴）
1729年　2月21日 享保14年正月24日　晴
1729年　2月22日 享保14年正月25日　曇　夜中雨雪
1729年　2月23日 享保14年正月26日　曇　今朝少々小雪
1729年　2月24日 享保14年正月27日　晴　夜中雪
1729年　2月25日 享保14年正月28日　曇　終日雪　夜に入り風（大間越町庄屋から2月分御蔵米60俵払い出し願い・その通り申付ける）
1729年　2月26日 享保14年正月29日　曇　時々小風雪　　下から続く　　21匁:10歳)・金木組金木村の三喜右衛門?(4寸6寸5歩64匁)それぞれ熊取る)
1729年　2月27日 享保14年正月30日　陰晴（駒越組田代村の藤左衛門(胆長4寸5歩廻り7寸3歩生目形90目:5歳)・大鰐組虹貝村の長右衛門(2寸8歩2寸6歩20目8歳)・同組居土村の弥左衛門(5寸2歩5寸8歩　　上に続く
1729年　2月28日 享保14年　　2月1日 曇　終日小雪（御関所出人6人切手紙2枚）

1729年　3月1日 享保14年　2月2日 陰晴 (御家老津軽校尉昨夜病死)
1729年　3月2日 享保14年　2月3日 陰晴
1729年　3月3日 享保14年　2月4日 陰晴
1729年　3月4日 享保14年　2月5日 快晴 (去12月中碇関:出105・入り188人)
1729年　3月5日 享保14年　2月6日 陰晴　辰の刻過ぎより小雪時々
1729年　3月6日 享保14年　2月7日 晴　昨夜雪降 (馬廻組頭に一粒金丹5粒)
1729年　3月7日 享保14年　2月8日 晴　昨夜中雨
1729年　3月8日 享保14年　2月9日 快晴
1729年　3月9日 享保14年　2月10日 快晴 (当正月中大間越:出10・入り23・都合33人)
1729年　3月10日 享保14年　2月11日 晴 (当正月中野内:出23・入り25・都合48人)
1729年　3月11日 享保14年　2月12日 晴　申の刻より雪　夜中に及ぶ
1729年　3月12日 享保14年　2月13日 曇　昨夜より雪　今朝に及ぶ (当正月中碇関:出46・入り140・都合186人)
1729年　3月13日 享保14年　2月14日 曇　終日小風 (御家老津軽校尉病死に付き香典白銀3枚下される)
1729年　3月14日 享保14年　2月15日 曇　時々吹雪
1729年　3月15日 享保14年　2月16日 曇　今朝雪時々 (御能)
1729年　3月16日 享保14年　2月17日 晴
1729年　3月17日 享保14年　2月18日 曇　時々小風
1729年　3月18日 享保14年　2月19日 快晴
1729年　3月19日 享保14年　2月20日 曇　辰の刻小雨　則止む
1729年　3月20日 享保14年　2月21日 陰晴
1729年　3月21日 享保14年　2月22日 晴
1729年　3月22日 享保14年　2月23日 曇　終日吹雪
1729年　3月23日 享保14年　2月24日 曇
1729年　3月24日 享保14年　2月25日 晴　彼岸に入る
1729年　3月25日 享保14年　2月26日 曇　巳の刻過ぎより雨　終日 (三の丸で御見物事)
1729年　3月26日 享保14年　2月27日 陰晴 (熊・狼荒れ対策として当年も昨年同様大間越に6匁玉50・筒薬100目等を渡す)
1729年　3月27日 享保14年　2月28日 快晴
1729年　3月28日 享保14年　2月29日 晴　昨夜中小雨
1729年　3月29日 享保14年　3月1日 陰晴　小風 (去月15日夜丑の刻過ぎ江戸浅草聖天町より出火で大火・藩の屋敷に別状なし)
1729年　3月30日 享保14年　3月2日 陰晴
1729年　3月31日 享保14年　3月3日 陰晴
1729年　4月1日 享保14年　3月4日 曇　午の刻小雨
1729年　4月2日 享保14年　3月5日 晴　昨夜中雨 (4日御馬廻りの母が縊死)
1729年　4月3日 享保14年　3月6日 晴　終日小風 (西之郭で相撲高覧、御馬廻りの倅が不行跡で五里四方追放)
1729年　4月4日 享保14年　3月7日 晴 (5日夜御馬廻りの子31歳が自害)
1729年　4月5日 享保14年　3月8日 陰晴
1729年　4月6日 享保14年　3月9日 陰晴　朝の内小風　夜に入り小雨 (12月に広須新田千歳村と堅固村でそれぞれ百姓が走る)
1729年　4月7日 享保14年　3月10日 快晴 (西之郭で相撲高覧、江戸への関札打ち発足)
1729年　4月8日 享保14年　3月11日 曇　今朝雨少々　則止む
1729年　4月9日 享保14年　3月12日 曇　終日雨 (横内組で狼荒れ男子女子各1人喰殺され・鉄砲猟師4人派遣、十三潟10日夜大湊より十三の方明ける・去年より15日遅い、大間越:出9・入り52・都合61人)
1729年　4月10日 享保14年　3月13日 曇　終日小風 (昨日洪水・石渡川橋40間余落ち流れる)
1729年　4月11日 享保14年　3月14日 曇　終日雨 (石川村大橋壊れる)
1729年　4月12日 享保14年　3月15日 快晴
1729年　4月13日 享保14年　3月16日 陰晴
1729年　4月14日 享保14年　3月17日 陰晴 (14日飯詰組高根村で火災・耕作の節であり村預け御免)
1729年　4月15日 享保14年　3月18日 曇　午の刻より雨 (頃日の洪水で金木新田大川堤破損・富野御蔵に水2尺5寸ほど上る)
1729年　4月16日 享保14年　3月19日 快晴　小風　　下から続く　　三新田被害:死者9(男4女5)人・家流失9・潰れ家11・馬斃死20疋)
1729年　4月17日 享保14年　3月20日 快晴 (巳の上刻御発駕、12日よりの洪水で広須新田繁田村の大川堤30間余押破・兼館村より下22村が床上浸水・舟派遣人馬を助け・救い米を出す、金木新田でも同様、　　上に続く
1729年　4月18日 享保14年　3月21日 快晴 (当2月中碇関:出85・入り265・合350人)
1729年　4月19日 享保14年　3月22日 快晴 (13日の洪水で鯵ヶ沢舞戸川の橋流失)
1729年　4月20日 享保14年　3月23日 曇　夜に入り雨
1729年　4月21日 享保14年　3月24日 陰晴
1729年　4月22日 享保14年　3月25日 曇 (13日今別町の大川橋が洪水で流失)
1729年　4月23日 享保14年　3月26日 晴 (大間越の者共飯米入用に付き蔵米50俵払い出し願い・その通り申し付ける、4日堀越組境関村で火災・火元村預け)
1729年　4月24日 享保14年　3月27日 晴 (三新田代官から御救い米願い・申立の通り申しつける、8日松前の小松前町で火災10間(軒?)ほど焼失)
1729年　4月25日 享保14年　3月28日 快晴　今朝大霜
1729年　4月26日 享保14年　3月29日 快晴　少々小風
1729年　4月27日 享保14年　3月30日 晴　時々小風
1729年　4月28日 享保14年　4月1日 晴　小風
1729年　4月29日 享保14年　4月2日 今朝辰の下刻まで曇　巳の刻より快晴　申の下刻雨暫く降　則止む
1729年　4月30日 享保14年　4月3日 晴　小風 (先月13日昼四時頃江戸本所から出火・早速鎮め申し候)

1729年　5月1日 享保14年　4月4日 晴　昼の内小風
1729年　5月2日 享保14年　4月5日 快晴
1729年　5月3日 享保14年　4月6日 曇　暮六つ過ぎ雷数度発す　雨降　則止む　南風吹
1729年　5月4日 享保14年　4月7日 曇　南風吹
1729年　5月5日 享保14年　4月8日 晴　(3月中大間越:出25・入り68・都合93人)
1729年　5月6日 享保14年　4月9日 快晴　(3月晦日蟹田町で火災本家78・借家93軒焼失・583人に10日分の米拝借、当3月分野内:出58・入り62・都合120人)
1729年　5月7日 享保14年　4月10日 曇　時々雨
1729年　5月8日 享保14年　4月11日 曇　午の下刻小雨　申の刻過ぎ雨　夜中に及ぶ
1729年　5月9日 享保14年　4月12日 曇　小風
1729年　5月10日 享保14年　4月13日 快晴
1729年　5月11日 享保14年　4月14日 終日雨
1729年　5月12日 享保14年　4月15日 快晴
1729年　5月13日 享保14年　4月16日 曇　時々小雨
1729年　5月14日 享保14年　4月17日 陰晴
1729年　5月15日 享保14年　4月18日 晴
1729年　5月16日 享保14年　4月19日 晴　(郡所物書福眞又次郎(3両2人扶持)病者に付き永の暇・その弟福眞清兵衛を召抱える)
1729年　5月17日 享保14年　4月20日 快晴　(3月中碇関:出790(御家中)その他193・入り188人)
1729年　5月18日 享保14年　4月21日 晴　小風　午の刻過ぎより曇　夜に入り雨　(昨夜子の刻前福村で出火、4月20日飯詰組高野村で火災1軒・火元村預け・耕作の節ゆえ早速免許)
1729年　5月19日 享保14年　4月22日 曇　時々小雨　(御用人に一粒金丹5粒)
1729年　5月20日 享保14年　4月23日 なし(天気の記述なし)　(屋形様8日江戸着府)
1729年　5月21日 享保14年　4月24日 晴
1729年　5月22日 享保14年　4月25日 陰晴
1729年　5月23日 享保14年　4月26日 陰晴
1729年　5月24日 享保14年　4月27日 なし(天気の記述なし)
1729年　5月25日 享保14年　4月28日 快晴
1729年　5月26日 享保14年　4月29日 快晴
1729年　5月27日 享保14年　4月30日 昨夜雨　午の刻前小雨時々　午の刻過ぎ陰晴　小風
1729年　5月28日 享保14年　5月1日 快晴　(紺屋町に投げ火?)
1729年　5月29日 享保14年　5月2日 陰晴　午の刻過ぎより雷　それより未の刻まで雷雨数度発す　夜中雨　(法立寺の松葉が出火・打消す)
1729年　5月30日 享保14年　5月3日 曇　時々雨
1729年　5月31日 享保14年　5月4日 曇
1729年　6月1日 享保14年　5月5日 陰晴
1729年　6月2日 享保14年　5月6日 晴
1729年　6月3日 享保14年　5月7日 終日雨　(男牢死、4月中大間越:出30・入り42人、4月29日小泊鳥居崎で破船1艘、30日昼頃より深浦で南風強く御城米舟助ける)
1729年　6月4日 享保14年　5月8日 晴
1729年　6月5日 享保14年　5月9日 晴
1729年　6月6日 享保14年　5月10日 晴
1729年　6月7日 享保14年　5月11日 晴　未の刻過ぎ雷数度　夜に入り小雨　(五穀成就の御祈祷を四社に仰せ付ける)
1729年　6月8日 享保14年　5月12日 曇
1729年　6月9日 享保14年　5月13日 快晴
1729年　6月10日 享保14年　5月14日 晴
1729年　6月11日 享保14年　5月15日 陰晴　(4月中碇関:出218・入り267・都合485人)
1729年　6月12日 享保14年　5月16日 陰晴
1729年　6月13日 享保14年　5月17日 快晴
1729年　6月14日 享保14年　5月18日 快晴
1729年　6月15日 享保14年　5月19日 快晴　(大坂で払い鉄砲1挺に付21匁宛、広田組広田村で人買い事件、今昼平岡丁に投げ火)
1729年　6月16日 享保14年　5月20日 曇　今朝より申の下刻まで雨　(大鰐組大沢村で火災1軒)
1729年　6月17日 享保14年　5月21日 陰晴　東風　(大間越町庄屋より来月分50俵払い出し願い・その通り申付ける)
1729年　6月18日 享保14年　5月22日 快晴
1729年　6月19日 享保14年　5月23日 快晴　(大円寺内で50位男縊死)
1729年　6月20日 享保14年　5月24日 晴　小風　未の刻より雨降
1729年　6月21日 享保14年　5月25日 曇　巳の刻過ぎより午の刻まで雨
1729年　6月22日 享保14年　5月26日 陰晴
1729年　6月23日 享保14年　5月27日 曇　小雨
1729年　6月24日 享保14年　5月28日 曇　(4月中野内:出179・入り88・都合267人)
1729年　6月25日 享保14年　5月29日 陰晴　朝の内小雨
1729年　6月26日 享保14年　6月1日 陰晴
1729年　6月27日 享保14年　6月2日 曇　時々小雨
1729年　6月28日 享保14年　6月3日 陰晴　朝霧
1729年　6月29日 享保14年　6月4日 快晴
1729年　6月30日 享保14年　6月5日 快晴

1729年　7月1日 享保14年　6月6日 陰晴
1729年　7月2日 享保14年　6月7日 陰晴
1729年　7月3日 享保14年　6月8日 曇　巳の上刻より雨　終日に及ぶ （5月中碇関:出198・入り202・都合400人、5月中大間越:出43・入り35・都合75人、五山に五穀成就の御祈祷仰せ付ける）
1729年　7月4日 享保14年　6月9日 終日雨
1729年　7月5日 享保14年　6月10日 雨天
1729年　7月6日 享保14年　6月11日 陰晴 （亜芙蓉御用を表医者2人・御中小姓2人に仰せ付ける）
1729年　7月7日 享保14年　6月12日 快晴
1729年　7月8日 享保14年　6月13日 快晴
1729年　7月9日 享保14年　6月14日 陰晴　昨夜子の刻前地震
1729年　7月10日 享保14年　6月15日 快晴　亥の刻前地震 （5月中野内:出87・入り207人）
1729年　7月11日 享保14年　6月16日 快晴
1729年　7月12日 享保14年　6月17日 曇　申の中刻過ぎ雷発す
1729年　7月13日 享保14年　6月18日 快晴 （昨夜一番町に投げ火）
1729年　7月14日 享保14年　6月19日 陰晴
1729年　7月15日 享保14年　6月20日 快晴
1729年　7月16日 享保14年　6月21日 快晴
1729年　7月17日 享保14年　6月22日 晴
1729年　7月18日 享保14年　6月23日 晴　午の刻過ぎ雷発す
1729年　7月19日 享保14年　6月24日 快晴　土用未の刻に入る　大暑 （屋形様御不快、3月晦日の蟹田町の火災家数116軒・借家108軒・町蔵4つ・鉄蔵1つ焼失）
1729年　7月20日 享保14年　6月25日 晴
1729年　7月21日 享保14年　6月26日 陰晴　卯の刻雨　則止む
1729年　7月22日 享保14年　6月27日 快晴
1729年　7月23日 享保14年　6月28日 快晴
1729年　7月24日 享保14年　6月29日 陰晴
1729年　7月25日 享保14年　6月30日 今朝卯の刻小雨　則止む　午の刻少し雨　則止む （昨29日夜茂森町に捨子1人）
1729年　7月26日 享保14年　7月1日 快晴 （6月中所々御関所出人38人切手紙23枚、祢ふた……）
1729年　7月27日 享保14年　7月2日 快晴 （今別町に小売米200俵払出す、1日青森町で変死男女2人）
1729年　7月28日 享保14年　7月3日 快晴　夜に入り雨
1729年　7月29日 享保14年　7月4日 曇　雨降
1729年　7月30日 享保14年　7月5日 卯の刻より雨　午の刻より晴 （昨夜の雨で岩木川洪水・水4尺ほど・橋引き取り舟渡しとする、昨年5月1日に植え付け6月25日出穂が今年は5月6日植え付け7月5日出穂）
1729年　7月31日 享保14年　7月6日 快晴
1729年　8月1日 享保14年　7月7日 快晴
1729年　8月2日 享保14年　7月8日 快晴　朝の内霧 （先達て(3月30日蟹田町)の火災の火元の押込めを差免）
1729年　8月3日 享保14年　7月9日 快晴 （6月中碇関:出128・入り202・都合310人、大間越:出41・入り34・都合75人、十三新水戸出来・大船出入り自由になる:それまで十三から鰺ヶ沢へは小舟で送っていた）
1729年　8月4日 享保14年　7月10日 快晴 （浅虫で徒党を組んで庄屋に物申した者共を五里四方追放など）
1729年　8月5日 享保14年　7月11日 快晴 （昨2日昼九時御前様御遠行）
1729年　8月6日 享保14年　7月12日 快晴
1729年　8月7日 享保14年　7月13日 晴
1729年　8月8日 享保14年　7月14日 晴
1729年　8月9日 享保14年　7月15日 陰晴
1729年　8月10日 享保14年　7月16日 陰晴　申の刻下刻より雨
1729年　8月11日 享保14年　7月17日 陰晴　午の刻過ぎ雨 （6月中野内:出104・入り90・合194人）
1729年　8月12日 享保14年　7月18日 晴　朝の内霧
1729年　8月13日 享保14年　7月19日 快晴
1729年　8月14日 享保14年　7月20日 快晴 （5月・6月に後潟組で5人走る、当3月の洪水で十三の湊が埋まったりして変わった）
1729年　8月15日 享保14年　7月21日 快晴
1729年　8月16日 享保14年　7月22日 快晴　朝の内霧 （初米上がる(今年植え付け5月6日・初米7月22日、昨年5月1日・7月15日)、大間越町から8月分御蔵米70俵払い出し願い・60俵出す）
1729年　8月17日 享保14年　7月23日 快晴　朝の内曇
1729年　8月18日 享保14年　7月24日 快晴　朝の内霧
1729年　8月19日 享保14年　7月25日 快晴 （御家中の下女縊死）
1729年　8月20日 享保14年　7月26日 陰晴　朝の内霧
1729年　8月21日 享保14年　7月27日 快晴 （阿芙蓉の御用済み差し出す）
1729年　8月22日 享保14年　7月28日 快晴　残暑強し
1729年　8月23日 享保14年　7月29日 陰晴　卯の中刻地震　午の刻雷数発す （日照り打ち続き在々水に差し支え・五穀成就の御祈祷を大円寺に仰せ付ける、藤代組に倒死者1人）
1729年　8月24日 享保14年　8月1日 快晴 （7月28広須新田筒木坂村・牛嶋村で山火事・早速消し留める）
1729年　8月25日 享保14年　8月2日 快晴 （7月中所々御関所出人都合81人切手紙43枚）
1729年　8月26日 享保14年　8月3日 曇 （広須新田の山火事1000間余と800間余・29日夜消し留める、1日浦町組大野村で火災1軒(4間×9間:百姓)）
1729年　8月27日 享保14年　8月4日 晴　午の中刻雨　暫くして止む （男牢死）
1729年　8月28日 享保14年　8月5日 曇　雨天　終日雨
1729年　8月29日 享保14年　8月6日 陰晴
1729年　8月30日 享保14年　8月7日 快晴 （小泊村にて殊の外熊荒れる・猟師仰せ付ける）
1729年　8月31日 享保14年　8月8日 曇　辰の下刻より雨　同刻雷発す （当7月中大間越:出47・入り39・都合86人、当7月中碇関:出193・入り253・都合446人）

1729年　9月1日 享保14年　8月9日 晴　朝の内曇
1729年　9月2日 享保14年　8月10日 晴
1729年　9月3日 享保14年　8月11日 陰晴
1729年　9月4日 享保14年　8月12日 陰晴　(5日暮六つ過ぎ赤石組正道尻に秋田の渡賀から流れた破船1艘)
1729年　9月5日 享保14年　8月13日 快晴
1729年　9月6日 享保14年　8月14日 晴
1729年　9月7日 享保14年　8月15日 終日曇　(7月中野内:出243・入り208人)
1729年　9月8日 享保14年　8月16日 曇
1729年　9月9日 享保14年　8月17日 子の下刻より雨　午の下刻より晴　(昨夜男牢死)
1729年　9月10日 享保14年　8月18日 曇　巳の刻過ぎより終日雨
1729年　9月11日 享保14年　8月19日 陰晴　午の刻過ぎ小雨
1729年　9月12日 享保14年　8月20日 曇　雨終日に及ぶ
1729年　9月13日 享保14年　8月21日 陰晴　昨夜亥の刻より風雨　今朝巳の刻より少々止む　終日小風雨　(昨夜の大風で御本城など多くに被害、今朝六つ過ぎ男牢死)
1729年　9月14日 享保14年　8月22日 曇　時々小雨
1729年　9月15日 享保14年　8月23日 陰晴　(殺人男斬罪)
1729年　9月16日 享保14年　8月24日 快晴　(一昨晩の大風で南袋御菜園の梨子風落、御家中の弟が中間を手討ち、一昨夜鯵ヶ沢で大荒れ・小家潰れ8軒その他破損も、一昨日暮れ頃より20日暮五つ時の大雨　欄外(*)に続く
1729年　9月17日 享保14年　8月25日 快晴
1729年　9月18日 享保14年　8月26日 快晴
1729年　9月19日 享保14年　8月27日 晴　(大間越町庄屋来月分飯米70俵御払い願い・1俵につき15匁6分2厘5毛上納で払出す、明油払底1升に付き5匁に)
1729年　9月20日 享保14年　8月28日 快晴　(20日赤石組岩崎などで大風雨・塩きり吹き付け70町歩の田畑に実りなし・家流失7軒破損14軒、大間越で破船5艘)
1729年　9月21日 享保14年　8月29日 終日雨　夜に入り大風　(20日の大風で千年山御仮屋破損、11日後潟組奥平部で高波・通行中の女4人行方不明)　下から続く　の代官が20日の大風被害を報告)
1729年　9月22日 享保14年　8月30日 陰晴　辰の刻より時々小雨　(駒越組中畑村の彦左衛門(胆長2寸8歩廻り3寸5歩生目11匁)・同組田代村の次右衛門(4寸5歩廻り虫50匁)それぞれ熊取る、三新田・広田等10組　上に続く
1729年　9月23日 享保14年　9月1日 陰晴　今朝卯の刻前より雨　則刻止む
1729年　9月24日 享保14年　9月2日 陰晴　(昨夜増館組目鹿沢村で馬屋焼失・火元村預け・農業の節であり一両日で差免すべく指示する)
1729年　9月25日 享保14年　9月3日 晴
1729年　9月26日 享保14年　9月4日 曇　(昨日一番鮭上がる)
1729年　9月27日 享保14年　9月5日 晴
1729年　9月28日 享保14年　9月6日 快晴
1729年　9月29日 享保14年　9月7日 晴　(8月中大間越:出入り合116人、先月25日油川組沖館村で火災1軒・火元村預け・差免)
1729年　9月30日 享保14年　9月8日 快晴　(高岡で熊狼荒れ鉄砲などを出す)
1729年　10月1日 享保14年　9月9日 曇　時々小雨
1729年　10月2日 享保14年　9月10日 晴
1729年　10月3日 享保14年　9月11日 曇　夜中雨
1729年　10月4日 享保14年　9月12日 曇　昨夜中雨　午の刻より雨　終日に及ぶ
1729年　10月5日 享保14年　9月13日 陰晴
1729年　10月6日 享保14年　9月14日 曇　終日雨
1729年　10月7日 享保14年　9月15日 陰晴　昨夜雨　時々風　(野内:入り119・出入り合223人)
1729年　10月8日 享保14年　9月16日 陰晴　時々小雨
1729年　10月9日 享保14年　9月17日 晴
1729年　10月10日 享保14年　9月18日 陰晴
1729年　10月11日 享保14年　9月19日 晴
1729年　10月12日 享保14年　9月20日 陰晴
1729年　10月13日 享保14年　9月21日 陰晴
1729年　10月14日 享保14年　9月22日 曇　終日雨
1729年　10月15日 享保14年　9月23日 曇　巳の刻過ぎ雨
1729年　10月16日 享保14年　9月24日 巳の刻過ぎ雨　それより風
1729年　10月17日 享保14年　9月25日 陰晴
1729年　10月18日 享保14年　9月26日 陰晴　寅の刻過ぎ雨　卯の刻止む
1729年　10月19日 享保14年　9月27日 快晴
1729年　10月20日 享保14年　9月28日 陰晴
1729年　10月21日 享保14年　9月29日 晴　(24日赤石組上磯で東大風・稲吹きこぼれる)
1729年　10月22日 享保14年閏9月1日　快晴　今朝大霜
1729年　10月23日 享保14年閏9月2日　晴　今朝大霜
1729年　10月24日 享保14年閏9月3日　曇　(屋形様先月20日江戸発駕)
1729年　10月25日 享保14年閏9月4日　曇　昨夜八つ時頃より少し雨　今日少し雨
1729年　10月26日 享保14年閏9月5日　曇　時々雨　丸雪降　少し風　寒し　(関札打ち江戸16日発今日着、朔日夜九つ頃と今朝六つ頃十三町で火災46軒・火元入寺)
1729年　10月27日 享保14年閏9月6日　曇　今朝初めて岩木山へ雪見る　巳の刻より雨降
1729年　10月28日 享保14年閏9月7日　四方山雪見る　時々雨
1729年　10月29日 享保14年閏9月8日　陰晴　山々雪見る　(5日夜三新田(13日に記述によると広須新田冨岡村)で火災1軒(3間×5間:百姓)・諸道具と稲500束焼失)
1729年　10月30日 享保14年閏9月9日　陰晴　昨夜雨降　(四つ半過ぎ御着城)
1729年　10月31日 享保14年閏9月10日　曇　今朝霜　巳の刻より雨降　(4日後潟組石崎村で破船1艘)
(*)　で蟹田川洪水・流木流失、8月5・8・9日の大雨で金木組脇本村で塩水吹きかかり作毛塩枯れ、20日の風で野内明神の木等折れる、鮭留め入札:新田川123匁5分5厘・広瀬川3匁7分5厘)

1729年　11月1日 享保14年閏9月11日 曇 終日小雨
1729年　11月2日 享保14年閏9月12日 曇 昨夜中雨 今朝辰の刻過ぎより晴候てまた雨
1729年　11月3日 享保14年閏9月13日 晴 今朝大霜 未の刻過ぎ曇 (5日広須新田冨岡村の火元の百姓村預け御免)
1729年　11月4日 享保14年閏9月14日 陰晴 時々雨 夜に入り時々雨 丸雪降
1729年　11月5日 享保14年閏9月15日 曇 時々雨 午の刻前小雪 (西之御郭で相撲)
1729年　11月6日 享保14年閏9月16日 終日雨雪 (御能)
1729年　11月7日 享保14年閏9月17日 快晴 午の刻少し前より曇 小雨
1729年　11月8日 享保14年閏9月18日 晴 今朝大霜
1729年　11月9日 享保14年閏9月19日 曇 (13日蝦夷地から出船の飛脚行方不明)
1729年 11月10日 享保14年閏9月20日 快晴 今朝大霜 初めて地凍る
1729年 11月11日 享保14年閏9月21日 曇 (三之丸で御慰事)
1729年 11月12日 享保14年閏9月22日 今朝酉の刻より雨 終夜風雨 今日も終日風雨
1729年 11月13日 享保14年閏9月23日 曇 終日雨 (享保15年の小納戸金年間927両の計画あり)
1729年 11月14日 享保14年閏9月24日 陰晴 寅の下刻より卯の刻小雪
1729年 11月15日 享保14年閏9月25日 曇 今朝初雪 終日小雪
1729年 11月16日 享保14年閏9月26日 陰晴 昨夜中 今朝迄雪五六寸積る
1729年 11月17日 享保14年閏9月27日 曇 (24日赤石組田浦村で火災2軒・火元村預け)
1729年 11月18日 享保14年閏9月28日 晴
1729年 11月19日 享保14年閏9月29日 陰晴 (御家中の家来が洗湯で頓死)
1729年 11月20日 享保14年閏9月30日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ (大鰐組居土村の弥左衛門(胆長3寸廻り5寸目形21匁)・駒越組桜庭村の喜右衛門(たてあたり胆なし)それぞれ熊取る)
1729年 11月21日 享保14年　10月1日 晴 午の刻過ぎより曇
1729年 11月22日 享保14年　10月2日 陰晴 時々雨ふり (閏9月朔日の十三町の火元の入寺御免)
1729年 11月23日 享保14年　10月3日 曇 終日雨 昨夜中雨
1729年 11月24日 享保14年　10月4日 曇 昨夜よりの雪風 終日に及ぶ 御堀の水初めて氷る
1729年 11月25日 享保14年　10月5日 朝の内曇 それより晴
1729年 11月26日 享保14年　10月6日 曇 夜中時々雨
1729年 11月27日 享保14年　10月7日 陰晴 今朝霜 (閏9月晦日青森本町で男縊死、先月24日赤石組舞戸村の火元村預け御免)
1729年 11月28日 享保14年　10月8日 曇 終日雨 (9月中大間越:出41・入り26人)
1729年 11月29日 享保14年　10月9日 陰晴 今朝雨 少し風 (先月中大間越:出41・入り26・都合67人)
1729年 11月30日 享保14年　10月10日 晴 (浦町組大野村に30斗男倒死、7日広須新田再賀村で火災・火元五人組預け)
1729年　12月1日 享保14年　10月11日 曇 巳の刻雨 (閏9月中野内:出58・入り64・合122人)
1729年　12月2日 享保14年　10月12日 曇 少し風 (11日和徳組高崎村の水溜池に7つくらいの女子赤裸死亡)
1729年　12月3日 享保14年　10月13日 快晴
1729年　12月4日 享保14年　10月14日 曇 昨夜より雪 終日終夜に及ぶ (閏9月中碇関:入り189・出204・合393人)
1729年　12月5日 享保14年　10月15日 吹雪 終日に及ぶ
1729年　12月6日 享保14年　10月16日 雪 (9日広須新田再賀村の火元の村預け御免)
1729年　12月7日 享保14年　10月17日 陰晴 時々小雨
1729年　12月8日 享保14年　10月18日 陰晴 時々小雨 (一粒金丹200粒お出し遊ばされる・このうち10粒を御用人に、、今別町勘兵衛に梨子の褒美として米5俵)
1729年　12月9日 享保14年　10月19日 陰晴 時々小雨 (10月16日夜に十三潟高根より大湊まで氷張る・昨年より25日早く節引き合いで6日早い)
1729年 12月10日 享保14年　10月20日 晴
1729年 12月11日 享保14年　10月21日 時々小雨 終夜雨 雷発す
1729年 12月12日 享保14年　10月22日 終日雨 (小姓組に一粒金丹3粒)
1729年 12月13日 享保14年　10月23日 曇
1729年 12月14日 享保14年　10月24日 晴 (御家老に一粒金丹20粒)
1729年 12月15日 享保14年　10月25日 曇 終日雨 (昨夜の雨で駒越川7歩ほど水出る)
1729年 12月16日 享保14年　10月26日 陰晴 夜に入り小雪 (大目付に一粒金丹5粒、当月21日洪水で舞戸川柱4本流失)
1729年 12月17日 享保14年　10月27日 今朝晴 午の刻より曇 それより雪 夜に入り吹雪 (御用人に一粒金丹10粒)
1729年 12月18日 享保14年　10月28日 曇 今朝辰の刻過ぎまで雪
1729年 12月19日 享保14年　10月29日 陰晴 (当月15日赤石組驫木村の火元の村預け御免)
1729年 12月20日 享保14年　11月1日 陰晴 (先月中所々御関所出人13人切手紙11枚)
1729年 12月21日 享保14年　11月2日 陰晴 時々小雨 冬至に入る
1729年 12月22日 享保14年　11月3日 陰晴 時々小雪 夜に入り雪 (御用人に一粒金丹10粒、10月29日深浦町の町医者縊死)
1729年 12月23日 享保14年　11月4日 陰晴 (10月29日十三より高根まで半分明ける)
1729年 12月24日 享保14年　11月5日 曇 時々雪
1729年 12月25日 享保14年　11月6日 昨夜より吹雪 終日に及ぶ 午の中刻地震 (三之丸で御慰事)
1729年 12月26日 享保14年　11月7日 曇 昨夜中吹雪 今朝雪 (御用人に一粒金丹10粒、後潟組600石・赤石組500石の銭納願い・了とはしていない、10月中大間越:出50・入り43・都合93人)
1729年 12月27日 享保14年　11月8日 終日小雪
1729年 12月28日 享保14年　11月9日 晴 (6日夜大鰐組居土村の新田で火災2軒(6間×2間・3間×2間半:高無)4人焼死・雑駄1疋焼死・火元村預け)
1729年 12月29日 享保14年　11月10日 快晴 (4日赤石組久田村で火災1軒・馬4疋焼失、去暮の御米1俵値段14匁2分1厘3毛・粕2貫550目入り1樽1匁2分5厘)
1729年 12月30日 享保14年　11月11日 陰晴 (石渡仮橋出来)
1729年 12月31日 享保14年　11月12日 晴 (今別の畑に「こんじょ虫」)

1730年　1月1日 享保14年　11月13日 曇　時々吹雪　昨夜雨風雷発す　(御家中の誰かに一粒金丹3粒、8日夜十三潟残らず氷張る)
1730年　1月2日 享保14年　11月14日 晴　(御内分より度々貸出し・返した記録なし、先達て(6日)居土村の火元の村預け御免、(高源院様の)100回忌法要・7人牢舎御免)
1730年　1月3日 享保14年　11月15日 曇　終日雪
1730年　1月4日 享保14年　11月16日 晴
1730年　1月5日 享保14年　11月17日 曇　小雨　午の刻晴
1730年　1月6日 享保14年　11月18日 小寒子の六刻入る　夜中吹雪　終日雪　(当10月中野内:出82・入り67・都合149人)
1730年　1月7日 享保14年　11月19日 陰晴　吹雪
1730年　1月8日 享保14年　11月20日 陰晴
1730年　1月9日 享保14年　11月21日 快晴　(今日例年の通り塩鱈御献上のお荷物差し上げる、三新田木作村で15日夜火災1軒・稲800束馬4疋焼失)
1730年　1月10日 享保14年　11月22日 晴
1730年　1月11日 享保14年　11月23日 晴　(御能)
1730年　1月12日 享保14年　11月24日 快晴　(15日金木組金木村で火災・火元村預け御免、御内分より10貫目貸し出す、先月中碇関:出205・入り151人)
1730年　1月13日 享保14年　11月25日 曇　(24日夜東長町に盗人)
1730年　1月14日 享保14年　11月26日 曇　小雪
1730年　1月15日 享保14年　11月27日 なし(天気の記述なし)
1730年　1月16日 享保14年　11月28日 晴　(15日木作村の火元の村預け御免)
1730年　1月17日 享保14年　11月29日 曇　終日小雪
1730年　1月18日 享保14年　11月30日 陰晴　(大鰐組居土村の弥左衛門(胆長3寸廻り2寸7歩生目20目)・駒越組相馬村の左門三郎(たてで付立胆なし)それぞれ熊取る)
1730年　1月19日 享保14年　12月1日 曇　昨夜中吹雪　終日雪　(御家老に一粒金丹20粒)
1730年　1月20日 享保14年　12月2日 曇　夜中吹雪　時々雪
1730年　1月21日 享保14年　12月3日 曇　昨夜中吹雪　時々雪　(煎茶茶碗という用語)
1730年　1月22日 享保14年　12月4日 陰晴　時々雪　(御家中2人に一粒金丹3粒宛)
1730年　1月23日 享保14年　12月5日 陰晴　時々雪　夜に入り雪　(4日夜土手町に盗人・捕える)
1730年　1月24日 享保14年　12月6日 陰晴
1730年　1月25日 享保14年　12月7日 晴　(先月中大間越:出25・入り20・都合45、御内分より10貫目貸し出す)
1730年　1月26日 享保14年　12月8日 曇　終日雪　(御献上雉子1羽の値段:雄10文目・雌8文目、菟油(原油でしょうか)取が病死)
1730年　1月27日 享保14年　12月9日 曇　終日雨
1730年　1月28日 享保14年　12月10日 快
1730年　1月29日 享保14年　12月11日 快晴　(粒油払底につき5匁から5匁5分に)
1730年　1月30日 享保14年　12月12日 快晴
1730年　1月31日 享保14年　12月13日 晴
1730年　2月1日 享保14年　12月14日 曇
1730年　2月2日 享保14年　12月15日 快
1730年　2月3日 享保14年　12月16日 晴　(人事異動、14日昼油川組六枚橋村で寺焼失、御切米として御内分より999両余御借出)
1730年　2月4日 享保14年　12月17日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ
1730年　2月5日 享保14年　12月18日 陰晴　時々雪
1730年　2月6日 享保14年　12月19日 終日雪
1730年　2月7日 享保14年　12月20日 陰晴　終日雪　夜に入り雪　(郡奉行に一粒金丹3粒、御内分より銭20貫目御貸出)
1730年　2月8日 享保14年　12月21日 終日小雪
1730年　2月9日 享保14年　12月22日 陰晴
1730年　2月10日 享保14年　12月23日 快晴
1730年　2月11日 享保14年　12月24日 曇　終日雪
1730年　2月12日 享保14年　12月25日 終日雪
1730年　2月13日 享保14年　12月26日 時々小雪　(御能・狂言)
1730年　2月14日 享保14年　12月27日 快晴
1730年　2月15日 享保14年　12月28日 快晴
1730年　2月16日 享保14年　12月29日 なし(天気の記述なし)
1730年　2月17日 享保15年 正月1日　晴
1730年　2月18日 享保15年 正月2日　曇　時々雪降
1730年　2月19日 享保15年 正月3日　曇　大吹雪　(御謡初)
1730年　2月20日 享保15年 正月4日　曇　雪降　夜に入り雪
1730年　2月21日 享保15年 正月5日　曇　終日小雪
1730年　2月22日 享保15年 正月6日　曇　時々小雪　(青森博労町に60位男倒死)
1730年　2月23日 享保15年 正月7日　昨夜中雪　今朝雪時々　終日に及ぶ
1730年　2月24日 享保15年 正月8日　曇　午の刻雪降
1730年　2月25日 享保15年 正月9日　陰晴　昨夜中吹雪　(阿芙蓉2匁御用に付差し上げる)
1730年　2月26日 享保15年 正月10日　快晴
1730年　2月27日 享保15年 正月11日　快晴
1730年　2月28日 享保15年 正月12日　快晴　(御能)

1730年　3月1日 享保15年正月13日　快晴 (昨夜中薬王院内で男縊死)
1730年　3月2日 享保15年正月14日　陰晴 辰の刻過ぎみそれ降
1730年　3月3日 享保15年正月15日　曇 雪 終日に及ぶ
1730年　3月4日 享保15年正月16日　快晴
1730年　3月5日 享保15年正月17日　快晴
1730年　3月6日 享保15年正月18日　陰晴
1730年　3月7日 享保15年正月19日　快晴
1730年　3月8日 享保15年正月20日　曇 終日小雪
1730年　3月9日 享保15年正月21日　陰晴 (12月中大間越:出入り合15・入り14人、野内:出49・入り106人、碇関:出109・入り82人)
1730年　3月10日 享保15年正月22日　快晴
1730年　3月11日 享保15年正月23日　曇 昨夜より小雨 終日に及ぶ
1730年　3月12日 享保15年正月24日　昨夜雨 辰の刻に及ぶ それより雨雪 終日に及ぶ
1730年　3月13日 享保15年正月25日　快晴 (米4斗入り1俵11匁7分・1両87匁8分)
1730年　3月14日 享保15年正月26日　陰晴 (三之丸で御慰事)
1730年　3月15日 享保15年正月27日　陰晴
1730年　3月16日 享保15年正月28日　快晴
1730年　3月17日 享保15年正月29日　快晴
1730年　3月18日 享保15年正月30日　陰晴 (御家中に一粒金丹3粒、大鰐組長峰村の助四郎熊(胆長2寸5歩廻り2寸生目19匁)取る)
1730年　3月19日 享保15年　2月1日 快晴 (碇関:出141・入り99人、野内:出75・入り69人、大間越:出139・入り36人)
1730年　3月20日 享保15年　2月2日 曇 昨夜雨 時々雨
1730年　3月21日 享保15年　2月3日 曇 昨夜より吹雪 終日に及ぶ　下から続く　伊織(家老)江達之申立通申付之:現代語訳は欄外(*)に)
1730年　3月22日 享保15年　2月4日 晴 (大作人五右衛門申立候者阿芙蓉御用之芥子蒔付最早時分能御座候間例年之通上野畑反歩南袋3反歩都合7反歩芥子蒔付候儀奉伺候旨申出ニ付勘定方詮議之上　上に続く
1730年　3月23日 享保15年　2月5日 陰晴
1730年　3月24日 享保15年　2月6日 陰晴
1730年　3月25日 享保15年　2月7日 晴 (大間越町奉行が熊狼対策の6匁玉50個などを申立・渡す、一昨夜百年山の松4本盗伐)
1730年　3月26日 享保15年　2月8日 曇 昨夜より雨時々 (碇関:出186・入り234・都合420人、大間越:出8・入り79・都合87人)
1730年　3月27日 享保15年　2月9日 晴
1730年　3月28日 享保15年　2月10日 晴 (御家中に一粒金丹3粒)
1730年　3月29日 享保15年　2月11日 曇 午の刻前より吹雪
1730年　3月30日 享保15年　2月12日 終日丸雪 それより雨 雷数度発す
1730年　3月31日 享保15年　2月13日 陰晴 昨夜雪降 (2月12日夜より十三潟大湊まで明ける・大湊より高根村の方へは明けない・昨年より9日早い)
1730年　4月1日 享保15年　2月14日 晴 午の刻過ぎ時々小雪
1730年　4月2日 享保15年　2月15日 曇 巳の刻前小雪ふる 夜に入り雪 (当正月中野内:出32・入り22・都合54人、(尾太?)正月出高:銅60固(16貫目入り)8貫目・鉛172固(16貫目入り)12貫目)
1730年　4月3日 享保15年　2月16日 晴
1730年　4月4日 享保15年　2月17日 快晴
1730年　4月5日 享保15年　2月18日 快晴 (大間越町庄屋から御蔵米60俵払い出しの申し出で・50俵申付ける)
1730年　4月6日 享保15年　2月19日 晴
1730年　4月7日 享保15年　2月20日 曇 今朝より時々小雨 (西之郭で御角力)
1730年　4月8日 享保15年　2月21日 曇 終日小雪 (7日大間越町の町同心甚兵衛が6匁鉄砲で熊打ち留める)
1730年　4月9日 享保15年　2月22日 晴
1730年　4月10日 享保15年　2月23日 晴
1730年　4月11日 享保15年　2月24日 陰晴
1730年　4月12日 享保15年　2月25日 晴 (狂言(を担当する)坊主に一粒金丹3粒、西之御郭で相撲高覧)
1730年　4月13日 享保15年　2月26日 快晴
1730年　4月14日 享保15年　2月27日 曇 辰の刻より雨時々ふる
1730年　4月15日 享保15年　2月28日 晴 昨夜子の中刻過ぎより風雨小雪 寅の刻止む
1730年　4月16日 享保15年　2月29日 晴 終日小風 (駒越・浦町・増館組で猟師が熊取る)
1730年　4月17日 享保15年　3月1日 快晴 (昨29日藤崎組葛野村で64・5の厄?倒死、1月24日より頃日の雪水で藤代組大川で川欠崩4軒避難、御初米差上げ役岩楯村孫助を大坊村茂左衛門に変更)
1730年　4月18日 享保15年　3月2日 曇 時々小風
1730年　4月19日 享保15年　3月3日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ
1730年　4月20日 享保15年　3月4日 曇 終日小雨 西の方虹(表記は手偏に帯)見ゆる
1730年　4月21日 享保15年　3月5日 陰晴 (西之御郭で相撲高覧、2日昼九つ半頃後潟組六枚橋村で火災、3日青森町下浜町磯際に者倒死)
1730年　4月22日 享保15年　3月6日 曇 小風 (深浦御蔵米500俵を平米1俵に付き14匁7分)
1730年　4月23日 享保15年　3月7日 晴 (金値段去る酉の年(去年のこと)85匁替え・同年米値段1俵9匁)
1730年　4月24日 享保15年　3月8日 曇
1730年　4月25日 享保15年　3月9日 曇 昨夜より雨降 (添田儀左衛門がご家老に、7日昼金木組毘沙門村で67・8男打殺される)
1730年　4月26日 享保15年　3月10日 昨夜より雨 巳の刻前時々 それより晴 (2日六枚橋村の火元の村預け御免)
1730年　4月27日 享保15年　3月11日 快晴
1730年　4月28日 享保15年　3月12日 晴 夜に入り小雨
1730年　4月29日 享保15年　3月13日 曇 小雨 午の刻より晴
1730年　4月30日 享保15年　3月14日 晴

(*) 大作人五右衛門が申し立てるには、阿芙蓉(一粒金丹の原料)に用いる芥子の蒔き付けに適当な時期になり、例年通り上野畑に4反南袋に3反の合計7反に蒔き付けて宜しいかを伺ってきたので、勘定方が詮議し家老に報告し、申立のとおり申付ける

1730年　5月1日 享保15年　3月15日 曇　今朝小雨 （大道寺宇左衛門亭に御成・御出九つ時御帰城丑の刻過ぎ、十三湊口が大船入りかねるよう狭まる）
1730年　5月2日 享保15年　3月16日 曇　今朝より小風
1730年　5月3日 享保15年　3月17日 晴　巳の刻前曇　それより晴 （12日岩崎村沖で3人水死）
1730年　5月4日 享保15年　3月18日 快晴 （弘前御蔵米1400俵値段:沖役入り1俵13匁5分）
1730年　5月5日 享保15年　3月19日 快晴 （武家屋敷に盗人入る・搦捕る、駒越町に投げ火）
1730年　5月6日 享保15年　3月20日 快晴
1730年　5月7日 享保15年　3月21日 陰晴　卯の刻小雨　則止む　小風
1730年　5月8日 享保15年　3月22日 快晴
1730年　5月9日 享保15年　3月23日 快晴
1730年　5月10日 享保15年　3月24日 曇　辰の刻過ぎ小雨　終日に及ぶ （22日夜九つ頃飯詰組羽野木沢村で火災1軒・火元村預け）
1730年　5月11日 享保15年　3月25日 快晴
1730年　5月12日 享保15年　3月26日 快晴
1730年　5月13日 享保15年　3月27日 曇 （御手廻に一粒金丹3粒）
1730年　5月14日 享保15年　3月28日 午の刻過ぎより雨　それより夜中に及ぶ　下から続く　（3寸5歩1寸5歩2匁3分:3歳）・同村彦次郎(4寸3寸7匁:9歳)それぞれ熊取る）
1730年　5月15日 享保15年　3月29日 曇　終日雨　下から続く　十兵衛(胆長2寸7歩廻り2寸5歩生目形20目:4歳)・油川組津軽坂村の太兵衛(6寸5寸35匁:8歳)・和徳組一野渡村の佐門四郎　上に続く
1730年　5月16日 享保15年　3月30日 雨　夜中に及ぶ （西之御郭で相撲高覧、24日後潟組石崎御山(60間×30間)・26日同山(100間×35間)焼ける・27日碇関御山(100間×50間)山火事、大鰐組尾崎村の　上に続く
1730年　5月17日 享保15年　4月1日 快晴 （先月中三箇所御関所出人231人内他国者109人）
1730年　5月18日 享保15年　4月2日 陰晴　巳の刻小雨
1730年　5月19日 享保15年　4月3日 晴
1730年　5月20日 享保15年　4月4日 快晴 （昨昼藤代組出来嶋村で火災1軒(2間半×5間:後日の報告で百姓)・火元村預け、去月26日駒越組五代村で野火）
1730年　5月21日 享保15年　4月5日 快晴
1730年　5月22日 享保15年　4月6日 晴
1730年　5月23日 享保15年　4月7日 陰晴　未の刻小雨　則刻止む （4日横内組長森村で火災2軒焼失・火元他村預け）
1730年　5月24日 享保15年　4月8日 陰晴　未の下刻雷発す （5日深浦町浜町で火災6軒焼失・火元寺に欠込む、3月14日飯詰組金山村の大溜池・4月2日野里村の長橋溜池が雪水?で破損）
1730年　5月25日 享保15年　4月9日 晴　午の下刻雨降　雷発す （2日出来嶋村の火元の村預け御免）　下から続く　（5町×1町半)・3日同組今別山でも山火事、3月分野内:出177(御印紙)36(御切手)・入り70・都合283人）
1730年　5月26日 享保15年　4月10日 曇　終日雨 （深浦町から御蔵米払出し願・申立の内100俵申付ける、4日後潟組奥平部山(桧生木2500本焼失)・5日昼同組石浜村(6町×4町)・4日同組石崎と奥平部の境　上に続く
1730年　5月27日 享保15年　4月11日 晴 （盗み・博打で男斬罪）
1730年　5月28日 享保15年　4月12日 快晴 （後潟組三馬屋で山火事・5日同組石浜で野火(6町×4町)、大間越町庄屋が御蔵米の御払い申立・申立の通り申しつける、3月分吹高:銅134箇15貫目・鉛189箇12貫目）
1730年　5月29日 享保15年　4月13日 快晴 （昨夜平岡町で出火）
1730年　5月30日 享保15年　4月14日 快晴
1730年　5月31日 享保15年　4月15日 曇　丑の刻より雨 （2月出高:銅118箇6貫目・鉛164箇9貫目(1箇は16貫目入り)）
1730年　6月1日 享保15年　4月16日 快晴
1730年　6月2日 享保15年　4月17日 陰晴 （楮町の楮畑に32歳男倒れている、2月22・27日広須新田遠山里村で百姓2人走る、14日7半頃より下中宇田沢と茂内沢の境に山火事(100間×45間）
1730年　6月3日 享保15年　4月18日 晴
1730年　6月4日 享保15年　4月19日 快晴　午の中刻地震暫く （広須新田冨岡村で火災2軒(2間×4間・4間×9間:共に百姓)・火元五人組預け、4日長森村の火元の他村預け赦免）
1730年　6月5日 享保15年　4月20日 晴
1730年　6月6日 享保15年　4月21日 曇　辰の刻小雨　則止む　雷発す （去る4日夜後潟組石崎御山出火、17日記載の倒者病死）
1730年　6月7日 享保15年　4月22日 晴
1730年　6月8日 享保15年　4月23日 晴
1730年　6月9日 享保15年　4月24日 晴
1730年　6月10日 享保15年　4月25日 曇　今朝雨
1730年　6月11日 享保15年　4月26日 陰晴
1730年　6月12日 享保15年　4月27日 曇　終日曇　夜に入り雨 （12日?平岡町の火元の慎み御免、18日冨岡村の火元の他村預け御免）
1730年　6月13日 享保15年　4月28日 曇　今朝雨 （袋町で投げ火）
1730年　6月14日 享保15年　4月29日 曇　時々小風雨 （4月27日野内町に馬盗人・縄下にして弘前に）
1730年　6月15日 享保15年　5月1日 曇　終日小風
1730年　6月16日 享保15年　5月2日 快晴 （先月29日新寺町新町派に投げ火）
1730年　6月17日 享保15年　5月3日 陰晴 （野内町奉行が町同心が取った白魚3升3合差し上げる・500文下し置かれる）
1730年　6月18日 享保15年　5月4日 曇
1730年　6月19日 享保15年　5月5日 陰晴
1730年　6月20日 享保15年　5月6日 晴
1730年　6月21日 享保15年　5月7日 快晴
1730年　6月22日 享保15年　5月8日 曇　今朝雨 （大間越町庄屋が御蔵米60俵お払い願い・50俵を申付ける、青森町の鉄砲20挺中15挺が使用不能など、西之郭で相撲高覧）
1730年　6月23日 享保15年　5月9日 晴 （昨8日大光寺組大光寺村で火災・時節柄火元の村預け御免、先月5日深浦町の火元の寺への欠け込み御免、7日石渡北御蔵奉行(御馬廻り)逐電・指名手配）
1730年　6月24日 享保15年　5月10日 曇　終日雨
1730年　6月25日 享保15年　5月11日 曇　午の下刻小雨少々 （生蝋値段金1両に付き4貫900目・水漆金1両に付き3貫300目）
1730年　6月26日 享保15年　5月12日 陰晴　昨夜雨　夜に入り雨
1730年　6月27日 享保15年　5月13日 快晴 （御能、大鰐より初きふ里差上げる）
1730年　6月28日 享保15年　5月14日 快晴　朝の内霧 （御中小姓の小泉・山内を阿ふやう御用に）
1730年　6月29日 享保15年　5月15日 陰晴 （堀越組取上村で50男縊死、阿ふやう取り候人数:表坊主7・百人小人20・町人足1人・他に御薬製法の節足軽2・小人2・町人足1人を要す）
1730年　6月30日 享保15年　5月16日 晴　巳の刻雨　夜中雨　雷数発す

1730年　7月1日 享保15年　5月17日 曇　今朝より雨終日　申の刻過ぎ雷発す （今朝方より駒越渡し洪水・往還相留める）
1730年　7月2日 享保15年　5月18日 曇　卯の下刻より小雨　巳の刻に及び止む　申の刻過ぎより雨　終夜に及ぶ （阿芙蓉御用の表医者に伊崎・和田）
1730年　7月3日 享保15年　5月19日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ （尾崎組町居村の内の蒲などから蒲油を取る）
1730年　7月4日 享保15年　5月20日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　今朝雷発す （夜中より大雨・岩木川洪水・石渡橋少々流れる・駒越渡今朝より止める・藤崎川も橋板引取り往還留める）
1730年　7月5日 享保15年　5月21日 陰晴　夜に入り雨
1730年　7月6日 享保15年　5月22日 昨夜より雨　終日に及ぶ　　下から続く　　出43人、大間越:出入り53人）
1730年　7月7日 享保15年　5月23日 曇　昼頃より晴 （大間越町奉行から蔵米10俵追加払い出し願い・了、3月中碇関:出176・入り241人、大間越:出入り91人、4月中碇関:出300・入り190人、野内:入り176・　　上に続く
1730年　7月8日 享保15年　5月24日 晴　朝の内曇 （御旗奉行に一粒金丹3粒、20日広田組藻川村で大川洪水・水除け堤3箇所破損）
1730年　7月9日 享保15年　5月25日 曇　辰の刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り大雨 （諸手足軽山上源次郎を金井が沢湊方手附に、19日夜から20日碇関で終日洪水）
1730年　7月10日 享保15年　5月26日 時々小雨　夜に入り雨
1730年　7月11日 享保15年　5月27日 快晴 （初茄子大鰐より上がる）
1730年　7月12日 享保15年　5月28日 快晴 （西郭で相撲高覧）
1730年　7月13日 享保15年　5月29日 晴
1730年　7月14日 享保15年　5月30日 快晴 （大間越町に御払い米60俵・値段先達ての通）
1730年　7月15日 享保15年　6月1日 快晴
1730年　7月16日 享保15年　6月2日 快晴　暑気強し （御用人に一粒金丹10粒・御小姓に3粒、5月中碇関:出201・入り181人）
1730年　7月17日 享保15年　6月3日 快晴　暑気強 （1日青森町安定寺の杉林に倒死者）
1730年　7月18日 享保15年　6月4日 快晴　大暑 （御用人に一粒金丹10粒、びなん・ぶあくとの記述あり）
1730年　7月19日 享保15年　6月5日 快晴　土用に入る　戌の上刻より入る
1730年　7月20日 享保15年　6月6日 陰晴　寅の下刻雨暫く　雷発す
1730年　7月21日 享保15年　6月7日 終日雨　雷数発す （5月中大間越:出25(印紙14枚18人・切手紙7枚7人)・入り38・都合63人）
1730年　7月22日 享保15年　6月8日 曇　雨終日に及ぶ
1730年　7月23日 享保15年　6月9日 陰晴 （青森へ屋形様発駕、5月中野内:出85(御印紙32枚41人・御切手紙35枚44人)・入り82・都合167人）
1730年　7月24日 享保15年　6月10日 曇
1730年　7月25日 享保15年　6月11日 曇　昨夜よりの雨　終日に及ぶ　夜に入り雨降 （今別町御蔵米200俵御払い願い・1俵14匁1厘5毛で払出す）
1730年　7月26日 享保15年　6月12日 曇
1730年　7月27日 享保15年　6月13日 曇
1730年　7月28日 享保15年　6月14日 曇
1730年　7月29日 享保15年　6月15日 陰晴　今朝霧
1730年　7月30日 享保15年　6月16日 快晴　朝の内霧 （不動尊今日午の刻御出汗、小泊村から飯米払い出し願い・半分ずつ払出す）
1730年　7月31日 享保15年　6月17日 快晴　暑気強 （15日朝六つ頃藤崎御蔵(長20間幅4間)潰れる）
1730年　8月1日 享保15年　6月18日 快晴　大暑　申の刻過ぎ三四度雷発す
1730年　8月2日 享保15年　6月19日 快晴
1730年　8月3日 享保15年　6月20日 快晴　巳の下刻雷少し発す
1730年　8月4日 享保15年　6月21日 快晴　朝の内曇 （他領に越山の儀は公儀より御法度の節にてまかりならず御領内で追放する）
1730年　8月5日 享保15年　6月22日 快晴　大暑 （大間越町奉行から7月分60俵御払い願い・代銭先達ての通りで申し付ける）
1730年　8月6日 享保15年　6月23日 快晴　残暑強し
1730年　8月7日 享保15年　6月24日 陰晴　午の刻より大雨
1730年　8月8日 享保15年　6月25日 快晴　未の刻大雨　雷度々発す （深浦町奉行から先月の100俵に続く御払い米願い・既に700俵出しており断る、5月20・25日の雨で浪岡組十川欠崩れ）
1730年　8月9日 享保15年　6月26日 大雨　終日に及ぶ　雷数度発す
1730年　8月10日 享保15年　6月27日 陰晴　申の刻大雨　夜時々雨
1730年　8月11日 享保15年　6月28日 陰晴　午の下刻雷発す
1730年　8月12日 享保15年　6月29日 陰晴　午の刻雷発す
1730年　8月13日 享保15年　6月30日 陰晴　雷度々発す （今朝御家中の妻縊死）
1730年　8月14日 享保15年　7月1日 陰晴　卯の后刻雨　暫くして止む　巳の上刻小雨　則止む （屋形様着城）
1730年　8月15日 享保15年　7月2日 陰晴
1730年　8月16日 享保15年　7月3日 晴 （御馬廻り組頭に一粒金丹5粒・同番頭に3粒）
1730年　8月17日 享保15年　7月4日 晴　辰の中刻雨降
1730年　8月18日 享保15年　7月5日 陰晴
1730年　8月19日 享保15年　7月6日 曇　申の刻前雨　則止む
1730年　8月20日 享保15年　7月7日 陰晴　辰下の刻雨　則止む
1730年　8月21日 享保15年　7月8日 曇　今朝辰の刻雨　それより晴 （今晩西郭で角力御覧）
1730年　8月22日 享保15年　7月9日 晴 （大鰐・大坊村より初米上る、山崎幸斎?に花火御用仰せ付ける）
1730年　8月23日 享保15年　7月10日 快晴
1730年　8月24日 享保15年　7月11日 快晴　夜中時々小雨
1730年　8月25日 享保15年　7月12日 陰晴
1730年　8月26日 享保15年　7月13日 晴　未の刻雷数度発す　夜に入り雷数度　大雨
1730年　8月27日 享保15年　7月14日 晴
1730年　8月28日 享保15年　7月15日 快晴
1730年　8月29日 享保15年　7月16日 快晴
1730年　8月30日 享保15年　7月17日 曇　巳の刻小雨
1730年　8月31日 享保15年　7月18日 陰晴　夜に入り風雨 （一昨晩土手町に火事）

1730年　9月1日 享保15年　7月19日 曇　昨夜よりの雨　終日に及ぶ （今暁より雷雨・岩木川洪水・八時過ぎ往来可能に）
1730年　9月2日 享保15年　7月20日 快晴　二百十日
1730年　9月3日 享保15年　7月21日 陰晴
1730年　9月4日 享保15年　7月22日 快晴
1730年　9月5日 享保15年　7月23日 陰晴　残暑強し （あふ屋う正目81匁6分製法出来・伊崎三陸?・和田玄春?両印にて之を差し上げる・則大納戸へ預け置く）
1730年　9月6日 享保15年　7月24日 曇　巳の刻より大雨　終日に及ぶ （深浦町年寄りが御蔵米100俵御払い願い・70俵を申付ける）
1730年　9月7日 享保15年　7月25日 陰晴　夜中風雨 （馬の三尺縄に金ばく(恐らく金箔を)と書いている）
1730年　9月8日 享保15年　7月26日 陰晴
1730年　9月9日 享保15年　7月27日 曇　巳の刻過ぎより雨　終日に及ぶ （一昨夜中風雨強・川々洪水、斉藤某に一粒金丹3粒）
1730年　9月10日 享保15年　7月28日 曇　辰の下刻雨　夜中雨 （20日入内牧で狼に鉄砲打つ・壊れる）
1730年　9月11日 享保15年　7月29日 曇　時々雨
1730年　9月12日 享保15年　8月1日 晴
1730年　9月13日 享保15年　8月2日 快晴 （御手廻り組頭西舘内記病死）
1730年　9月14日 享保15年　8月3日 快晴
1730年　9月15日 享保15年　8月4日 曇　時々小雨
1730年　9月16日 享保15年　8月5日 曇 （西之郭で相撲高覧）
1730年　9月17日 享保15年　8月6日 陰晴
1730年　9月18日 享保15年　8月7日 曇　巳の中刻過ぎより雨　午の中刻より大雨 （馬廻り組頭に一粒金丹3粒、1文目に付き大豆4升5合、藤田某に一粒金丹3粒）
1730年　9月19日 享保15年　8月8日 晴
1730年　9月20日 享保15年　8月9日 晴 （西之郭で相撲高覧）
1730年　9月21日 享保15年　8月10日 曇　辰の刻より雨　雷風発す　夜に入り雨
1730年　9月22日 享保15年　8月11日 曇
1730年　9月23日 享保15年　8月12日 曇
1730年　9月24日 享保15年　8月13日 曇　時々雨 （米値段沖御役入り12匁5分・平米にて12匁1分）
1730年　9月25日 享保15年　8月14日 陰晴　小雨時々
1730年　9月26日 享保15年　8月15日 曇　昨夜中少し雨　今朝五つ過ぎ小雨 （八幡宮御祭礼・御月見・御帰城七半前）
1730年　9月27日 享保15年　8月16日 曇 （西之郭で相撲高覧）
1730年　9月28日 享保15年　8月17日 晴 （流木17280本を御家中に割り付け御払い、昨15日大光寺組大光寺村で火災1軒・火元村預け）
1730年　9月29日 享保15年　8月18日 曇
1730年　9月30日 享保15年　8月19日 曇　夜に入り雨 （西之郭で御馬乗り方高覧）
1730年　10月1日 享保15年　8月20日 晴
1730年　10月2日 享保15年　8月21日 快晴
1730年　10月3日 享保15年　8月22日 陰晴
1730年　10月4日 享保15年　8月23日 曇　時々小雨 （大間越町の者共来月分飯米55俵御払い願い・申立の通払出す、金1両につき漆目方3貫400目）
1730年　10月5日 享保15年　8月24日 曇　時々小雨 （御留守居一番組支配山上吉三郎17歳袖止め）
1730年　10月6日 享保15年　8月25日 曇　終日雨
1730年　10月7日 享保15年　8月26日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ （15日大光寺組大光寺村の火元の村預け赦免、御自身御能）
1730年　10月8日 享保15年　8月27日 陰晴 （蟹田御蔵の赤米1俵5升1合代銭8文目8分8厘5毛）
1730年　10月9日 享保15年　8月28日 陰晴 （青森御蔵米沖御役入り1俵13匁）
1730年 10月10日 享保15年　8月29日 曇　午の刻過ぎより雨　夜中雨
1730年 10月11日 享保15年　8月30日 曇　終日雨
1730年 10月12日 享保15年　9月1日 曇　昨夜中より風雨　巳の刻止む （人事異動）
1730年 10月13日 享保15年　9月2日 晴 （一昨一日夜鯵ヶ沢も大荒れで破船1艘）
1730年 10月14日 享保15年　9月3日 晴　今朝霜 （深浦町で火災59軒?・1軒に5斗宛御貸し米）
1730年 10月15日 享保15年　9月4日 晴
1730年 10月16日 享保15年　9月5日 晴　夜中雨
1730年 10月17日 享保15年　9月6日 陰晴
1730年 10月18日 享保15年　9月7日 晴　小風終日に及ぶ （鮭留め入札：広瀬川御役銭3匁2分5厘・新田川39匁9分8厘）
1730年 10月19日 享保15年　9月8日 快晴 （先月晦日古懸山不動尊と愛宕山地蔵尊御出汗・五山に御祈祷仰せ付ける、今朝男牢死）
1730年 10月20日 享保15年　9月9日 曇 （去月晦日三馬屋で破船1艘）
1730年 10月21日 享保15年　9月10日 陰晴　今朝岩木山江雪見る （8日晩後潟組津軽坂村で53・4男倒死・連れの5歳女子は村預け）
1730年 10月22日 享保15年　9月11日 晴 （19日御屋形様御発駕予定、蟹田町御蔵米30俵を1俵11匁5分で買受願い・申立のとおり、当月6日夜九時より南部野辺地町で出火・400軒中250～260軒焼失）
1730年 10月23日 享保15年　9月12日 晴
1730年 10月24日 享保15年　9月13日 晴
1730年 10月25日 享保15年　9月14日 晴　今朝霜
1730年 10月26日 享保15年　9月15日 曇 （御関札役相立）
1730年 10月27日 享保15年　9月16日 晴 （御囃子）
1730年 10月28日 享保15年　9月17日 晴
1730年 10月29日 享保15年　9月18日 快晴 （御用人に一粒金丹10粒）
1730年 10月30日 享保15年　9月19日 曇
1730年 10月31日 享保15年　9月20日 曇　辰の刻少し雨

1730年　11月1日 享保15年　9月21日 曇　雨終日に及ぶ （御留守居一番組支配山上吉三郎など10人を津軽大学(家老)与力に）
1730年　11月2日 享保15年　9月22日 陰晴　今朝霜
1730年　11月3日 享保15年　9月23日 晴　今朝岩木山萱立迄雪降　昨夜中雨
1730年　11月4日 享保15年　9月24日 曇　昨夜中雨　岩木山江雪降 （御用人に一粒金丹5粒）
1730年　11月5日 享保15年　9月25日 曇　時々雨
1730年　11月6日 享保15年　9月26日 陰晴
1730年　11月7日 享保15年　9月27日 曇　辰の刻雨　夜に入り風雨 （今朝古懸不動尊御出汗・御祈祷を仰せ付ける）
1730年　11月8日 享保15年　9月28日 曇　午の下刻晴　夜中雨　雷発す （堀越組千年山で男縊死、米値段只今9匁9分）
1730年　11月9日 享保15年　9月29日 曇　里江初めて雪降
1730年 11月10日 享保15年　10月1日 曇　昨夜雪　今日雪雨　終日に及ぶ
1730年 11月11日 享保15年　10月2日 曇　昨夜よりの雪　終日に及ぶ （十三町の人数814人）
1730年 11月12日 享保15年　10月3日 陰晴　終日雨雪
1730年 11月13日 享保15年　10月4日 陰晴　今朝少し雨 （御発駕御用の金額?が見える・2000両余?）
1730年 11月14日 享保15年　10月5日 晴
1730年 11月15日 享保15年　10月6日 快晴　今朝大霜　夜中雨
1730年 11月16日 享保15年　10月7日 陰晴 （笹森伝右衛門に一粒金丹3粒）
1730年 11月17日 享保15年　10月8日 曇
1730年 11月18日 享保15年　10月9日 曇　終日雨　夜中雨 （昨夜横内組作道村で38・9男倒死）
1730年 11月19日 享保15年　10月10日 曇
1730年 11月20日 享保15年　10月11日 快晴　今朝大霜　夜中雨　雷発す （9日夜八つ時飯詰組飯詰村で火災1軒(2間半×3間:高無)）
1730年 11月21日 享保15年　10月12日 曇　終日雨
1730年 11月22日 享保15年　10月13日 陰晴　時々雨
1730年 11月23日 享保15年　10月14日 曇　時々雨　夜中雨
1730年 11月24日 享保15年　10月15日 陰晴 （9日飯詰村の火元の村預け免許）
1730年 11月25日 享保15年　10月16日 晴
1730年 11月26日 享保15年　10月17日 快晴　昨夜中雨暫く降 （昨夜柏木組常海橋村に男倒死）
1730年 11月27日 享保15年　10月18日 晴
1730年 11月28日 享保15年　10月19日 快晴　今朝大霜
1730年 11月29日 享保15年　10月20日 曇　今朝六半頃地震少し　午の刻より雷度々発す　小雨
1730年 11月30日 享保15年　10月21日 曇　今朝小雪　終日に及ぶ
1730年　12月1日 享保15年　10月22日 曇　今朝小雪
1730年　12月2日 享保15年　10月23日 曇 （10日屋形様江戸御着座、?日尾太銅山の中小屋の下に40男倒死）
1730年　12月3日 享保15年　10月24日 昨夜雪五寸ほど降
1730年　12月4日 享保15年　10月25日 陰晴 （赤石組代官から400石の銭納願い・了承）
1730年　12月5日 享保15年　10月26日 陰晴　小雪
1730年　12月6日 享保15年　10月27日 陰晴　昨夜中吹雪　今朝雪
1730年　12月7日 享保15年　10月28日 陰晴　小雪
1730年　12月8日 享保15年　10月29日 陰晴　小雪 （後潟組上磯の米63石の銭納願い・了承、一粒金丹の作成道具あり）
1730年　12月9日 享保15年　10月30日 陰晴　夜中雨　雷発す
1730年 12月10日 享保15年　11月1日 陰晴　終日雨　夜に入り風 （当12月中所々御関所出人111人(御印紙45・切手紙17枚)、10月28日夜十三潟高根村より大湊まで氷張る・昨年は12日、参勤供登りの諸手足軽に山上源次郎）
1730年 12月11日 享保15年　11月2日 曇　終日吹雪　小風 （青森より初鱈1本差し上げる）
1730年 12月12日 享保15年　11月3日 陰晴　終日吹雪 （今日四つ過ぎ男牢死）
1730年 12月13日 享保15年　11月4日 陰晴　昨夜中雪　終日雪 （堀越組取上村で男道心倒死、2日増館組女鹿沢村・飯詰組飯詰村で火災各1軒(4間×15間米50俵余・5間×13間:共に百姓)焼失）
1730年 12月14日 享保15年　11月5日 陰晴　終日雪　夜に入り雪
1730年 12月15日 享保15年　11月6日 曇　夜中雨
1730年 12月16日 享保15年　11月7日 終日雨 （昨夜男牢死、尾太出高:銅209固(16貫目入り)7貫目・鉛251固15貫目）
1730年 12月17日 享保15年　11月8日 曇 （江戸からお金4000両早く送れとの催促:渡良瀬川の工事か）
1730年 12月18日 享保15年　11月9日 快晴　亥の刻地震 （1日古懸山不動尊御出汗・五山に御祈祷を仰せ付ける、1日に青森で強風被害あり）
1730年 12月19日 享保15年　11月10日 快晴 （今朝六つ過ぎ男牢死、1日後潟組後潟村で火災・村預け免許）
1730年 12月20日 享保15年　11月11日 快晴 （2日出火の松枝村(4日には女鹿沢村と記述)と飯詰村の火元の村預け免許）
1730年 12月21日 享保15年　11月12日 快晴
1730年 12月22日 享保15年　11月13日 終日雪　卯の刻冬至 （江戸御用金4千両差登）
1730年 12月23日 享保15年　11月14日 晴　今朝小雪
1730年 12月24日 享保15年　11月15日 晴
1730年 12月25日 享保15年　11月16日 曇　雪終日に及ぶ　夜中雪 （米1升に付き:上小麦5合7夕(1俵18匁8分)・上蕎麦7合9夕・上黒小豆8合3夕・上青鶴大豆1升1夕・上大豆9合1夕・次大豆1升4合）
1730年 12月26日 享保15年　11月17日 陰晴　時々雪終日　夜中に及ぶ
1730年 12月27日 享保15年　11月18日 陰晴　時々雪
1730年 12月28日 享保15年　11月19日 陰晴　時々雪
1730年 12月29日 享保15年　11月20日 曇　昨夜中雪
1730年 12月30日 享保15年　11月21日 陰晴　今朝少し雪
1730年 12月31日 享保15年　11月22日 曇　時々雪

1731年　1月1日 享保15年　11月23日 陰晴　吹雪　夜中雪
1731年　1月2日 享保15年　11月24日 曇　吹雪
1731年　1月3日 享保15年　11月25日 陰晴　時々雪
1731年　1月4日 享保15年　11月26日 陰晴
1731年　1月5日 享保15年　11月27日 吹雪　(鮭値段:長1尺8寸より2尺1寸迄1本に付き11匁2分・1尺6寸より1尺7寸5歩迄8匁4分1厘)
1731年　1月6日 享保15年　11月28日 曇　卯ノ五刻寒に入る
1731年　1月7日 享保15年　11月29日 陰晴　(11月中碇関:出99・入り329人、11月中野内:出54・入り39人、11月中大間越:出28・入り35人)　下から続く　の衛門作・駒越組杉ヶ沢村の惣右衛門それぞれ熊1疋(計4疋)取る)
1731年　1月8日 享保15年　12月1日 曇　小雪　夜中大吹雪　(当11月中碇関:他国者43人(御印紙37枚)御国人37人(切手紙16枚)出る、大鰐組虹貝村の長右衛門・赤石組一森村の喜六と孫右衛門・尾崎組切明村　上に続く
1731年　1月9日 享保15年　12月2日 曇　雪降
1731年　1月10日 享保15年　12月3日 晴　夜中雨　終夜に及ぶ
1731年　1月11日 享保15年　12月4日 曇　夜中より雨　終日に及ぶ　(青森米1俵11匁4厘3毛・弘前10匁2分5厘・金1両に付き88匁8分替)
1731年　1月12日 享保15年　12月5日 晴　(昨夜中の洪水で石渡仮橋破損)
1731年　1月13日 享保15年　12月6日 雪
1731年　1月14日 享保15年　12月7日 昨夜より大吹雪　終夜に及ぶ　(藤崎川仮橋流失、大光寺組追子野木村で女乞食倒死、2日の北大風で野内御関所の柵破損)
1731年　1月15日 享保15年　12月8日 陰晴　下から続く　10両に付き71俵4歩8厘5毛、11月中尾太出高:銅201固1貫目・鉛199固11貫目)
1731年　1月16日 享保15年　12月9日 陰晴　時々小雪　(若殿様先月25日麻疹で御遠行、3月の洪水で破れた十三新湊が浅まり20日頃より塞がる、米値段1俵10匁2分5厘・駄賃等2匁2分・都合12匁4分5厘・　上に続く
1731年　1月17日 享保15年　12月10日 曇
1731年　1月18日 享保15年　12月11日 陰晴　小雪　(去月22日今別町で火災・火元入寺御免)
1731年　1月19日 享保15年　12月12日 陰晴　昨夜小雪　(先月15日夜柏木組館野越村の百姓逐電、1日赤石組赤石村で火事・火元村預け御免)
1731年　1月20日 享保15年　12月13日 曇　終日雪　甚寒
1731年　1月21日 享保15年　12月14日 快晴　大寒入り
1731年　1月22日 享保15年　12月15日 曇
1731年　1月23日 享保15年　12月16日 終日雪
1731年　1月24日 享保15年　12月17日 陰晴
1731年　1月25日 享保15年　12月18日 晴
1731年　1月26日 享保15年　12月19日 曇　終日雪
1731年　1月27日 享保15年　12月20日 快晴
1731年　1月28日 享保15年　12月21日 陰晴
1731年　1月29日 享保15年　12月22日 陰晴
1731年　1月30日 享保15年　12月23日 快晴
1731年　1月31日 享保15年　12月24日 快晴　(茂森町に遊女隠し置いている)
1731年　2月1日 享保15年　12月25日 晴
1731年　2月2日 享保15年　12月26日 陰晴
1731年　2月3日 享保15年　12月27日 快晴　夜に入り雪　下から続く　:6歳)・桜庭村の茂助(たて当り胆なし:当歳)・中畑村の彦左衛門(3寸4歩4寸3歩18匁5分:6歳)それぞれ熊取る)
1731年　2月4日 享保15年　12月28日 陰晴　時々雪　(21日広須新田森田村で火災・火元村預け御免、駒越組田代村の藤右衛門(胆長3寸4歩廻り4寸2歩生目形21匁:4歳)・大秋村の新兵衛(3寸4歩5寸6歩47匁　上に続く
1731年　2月5日 享保15年　12月29日 陰晴　昨夜雪　今朝茂吹
1731年　2月6日 享保15年　12月30日 陰晴　(当12月中碇関:出224・入り101人、当12月中野内:出24・入り36人)
1731年　2月7日 享保16年正月1日　曇　時々雪
1731年　2月8日 享保16年正月2日　曇
1731年　2月9日 享保16年正月3日　陰晴
1731年　2月10日 享保16年正月4日　曇
1731年　2月11日 享保16年正月5日　陰晴　辰の刻過ぎ雷初めて発す　東風終日　申の刻雨少し降
1731年　2月12日 享保16年正月6日　曇　今夜中大雪八・九寸
1731年　2月13日 享保16年正月7日　曇　終日雪　(昨今の大雪で土居廻りの松木枝折れ)
1731年　2月14日 享保16年正月8日　曇
1731年　2月15日 享保16年正月9日　快晴
1731年　2月16日 享保16年正月10日　曇　雪降　(大光寺組大光寺の日月林堂で50斗男倒死)
1731年　2月17日 享保16年正月11日　陰晴　夜中少し雪
1731年　2月18日 享保16年正月12日　陰晴　今朝雪少し　(青森で御蔵米1俵10文目3・4分)
1731年　2月19日 享保16年正月13日　陰晴
1731年　2月20日 享保16年正月14日　快晴
1731年　2月21日 享保16年正月15日　晴
1731年　2月22日 享保16年正月16日　晴
1731年　2月23日 享保16年正月17日　快晴
1731年　2月24日 享保16年正月18日　晴
1731年　2月25日 享保16年正月19日　晴　夜中少し雪
1731年　2月26日 享保16年正月20日　曇　終日雪　(去る戌(去年)12月大間越:出21・入り16・都合37人)
1731年　2月27日 享保16年正月21日　快晴
1731年　2月28日 享保16年正月22日　曇　昨夜より雪　終日に及ぶ

1731年　3月1日 享保16年正月23日　曇　終日雪
1731年　3月2日 享保16年正月24日　快晴　夜中雪
1731年　3月3日 享保16年正月25日　陰晴　終日雪
1731年　3月4日 享保16年正月26日　陰晴
1731年　3月5日 享保16年正月27日　晴
1731年　3月6日 享保16年正月28日　曇　小雪
1731年　3月7日 享保16年正月29日　陰晴　(当月中碇関:出37・入り163人)
1731年　3月8日 享保16年　2月1日 曇　雨　(当正月中碇関出人97人(御国人87・他国者10)・御印紙10枚内13人御国の者・切手紙7枚)
1731年　3月9日 享保16年　2月2日 曇　小風　夜中風
1731年　3月10日 享保16年　2月3日 陰晴
1731年　3月11日 享保16年　2月4日 曇　小雪　(昨夜中長勝寺位牌堂が本堂屋根よりの雪なて(雪崩のこと)で被害)
1731年　3月12日 享保16年　2月5日 陰晴
1731年　3月13日 享保16年　2月6日 陰晴　時々雪
1731年　3月14日 享保16年　2月7日 陰晴　(正月中大間越:出13(御印紙4人4枚・御切紙9人4枚)・入り40人・都合53人)
1731年　3月15日 享保16年　2月8日 曇　終日雨
1731年　3月16日 享保16年　2月9日 曇　今朝小雪　(正月中野内:出17(御印紙7人・御切紙10人)・入り31・都合48人)
1731年　3月17日 享保16年　2月10日 曇　昨夜中小雪　終日に及ぶ　(阿芙蓉御用芥子例年共南袋町畑3反歩・上野畑4反歩、大間越町庄屋が当月分御蔵米50俵御払い願い・1俵11匁4分2厘で払出す)
1731年　3月18日 享保16年　2月11日 曇　終日雪　(当正月尾太出高:銅128固2貫目・鉛183固6貫目)
1731年　3月19日 享保16年　2月12日 陰晴　(深浦町から500俵駄下げ願い・400俵を出す、一粒金丹製法に酒2升と焼酒2升)
1731年　3月20日 享保16年　2月13日 快晴　(昨夜歌舞伎芝居で中間2人が酒狂い・共に弘前追放)
1731年　3月21日 享保16年　2月14日 晴
1731年　3月22日 享保16年　2月15日 晴　今朝卯の中刻少し雪　則止む
1731年　3月23日 享保16年　2月16日 曇　小風
1731年　3月24日 享保16年　2月17日 曇　辰の刻前雪
1731年　3月25日 享保16年　2月18日 快晴　彼岸に入る
1731年　3月26日 享保16年　2月19日 陰晴
1731年　3月27日 享保16年　2月20日 快晴　(大間越で熊狼荒れ・今年も玉薬など渡す)
1731年　3月28日 享保16年　2月21日 晴　(18日赤石組沢部沖に鯨の子・浜にあげる・半分は土地に)
1731年　3月29日 享保16年　2月22日 曇　時々小雪　夜中小雪
1731年　3月30日 享保16年　2月23日 陰晴　時々雪
1731年　3月31日 享保16年　2月24日 陰晴　小風　(御手弓頭樋口切腹自害)
1731年　4月1日 享保16年　2月25日 曇　昨夜中少し雨　午の刻過ぎ雪　(24日藤代組小友村で火災・外馬屋1軒家2軒焼失)
1731年　4月2日 享保16年　2月26日 晴　終日小雪　(23日朝より十三潟明ける)
1731年　4月3日 享保16年　2月27日 陰晴　少し雨
1731年　4月4日 享保16年　2月28日 陰晴
1731年　4月5日 享保16年　2月29日 陰晴　夜中小雪　　下から続く　　それぞれ熊取る、24日藤代組三世寺村で火災・火元村預かり御免)
1731年　4月6日 享保16年　2月30日 陰晴　今朝より雪　午の刻過ぎ晴　(28日夜十三湊川口より高根村まで明ける・去年12日(彼岸7日)・先年28日(彼岸18日)・大鰐組唐牛村の次兵衛・尾崎組尾崎村の十兵衛　　上に続く
1731年　4月7日 享保16年　3月1日 曇　終日雨　夜に入り雨降　(先月中所々御関所出人67人・御印紙22枚切手紙18枚)
1731年　4月8日 享保16年　3月2日 晴　小風
1731年　4月9日 享保16年　3月3日 陰晴
1731年　4月10日 享保16年　3月4日 晴
1731年　4月11日 享保16年　3月5日 陰晴
1731年　4月12日 享保16年　3月6日 曇　(3日明け前青森で町人切腹自害)
1731年　4月13日 享保16年　3月7日 曇　巳の刻前より小雨　終日に及ぶ　夜中雨
1731年　4月14日 享保16年　3月8日 陰晴　(7日松森町で男縊死)
1731年　4月15日 享保16年　3月9日 晴
1731年　4月16日 享保16年　3月10日 快晴
1731年　4月17日 享保16年　3月11日 陰晴
1731年　4月18日 享保16年　3月12日 晴　小風　(当2月中碇関:出90・入り121・都合211人、当2月中大間越:出21・入り55・都合75人)
1731年　4月19日 享保16年　3月13日 晴　小風
1731年　4月20日 享保16年　3月14日 快晴
1731年　4月21日 享保16年　3月15日 快晴　(昼時分楮(町)派に火事、当2月中野内:出17・入り30・都合66人)
1731年　4月22日 享保16年　3月16日 陰晴
1731年　4月23日 享保16年　3月17日 快晴　(金値段去る戌の年まで85匁・近年金子高等に付き仮値段90目・米は戌の年も同じく1俵10匁、尾太2月出高:銅144固13貫目・鉛295固4貫目)
1731年　4月24日 享保16年　3月18日 快晴
1731年　4月25日 享保16年　3月19日 曇　終日雨　(新田福山村の嘉茂介溜池が9日の雪水で堤破損、御堀藻取りさんぱ(三羽:さんぱ:当時は濁点で半濁音を示していた例)舟)
1731年　4月26日 享保16年　3月20日 曇　雨降　小風　夜中雨
1731年　4月27日 享保16年　3月21日 曇　(今朝板の間者縊死、新田下中野村の鯵ヶ沢海道の橋が7日の大雨で流れる)
1731年　4月28日 享保16年　3月22日 陰晴　午の刻より小風　夜に入り雨
1731年　4月29日 享保16年　3月23日 曇　昨夜よりの雨巳の刻に及び止む
1731年　4月30日 享保16年　3月24日 曇　(4日赤石組舞戸村で火事・火元他村預け免許)

1731年　5月1日 享保16年　3月25日 曇　時々雨　夜に入り雨
1731年　5月2日 享保16年　3月26日 曇　雨終日に及ぶ
1731年　5月3日 享保16年　3月27日 晴　申の上刻地震　(15日楮町で火事・火元寺入り免許)
1731年　5月4日 享保16年　3月28日 快晴　(今別から狼夥しく荒れ鉄砲打ちの派遣を求められる・御手筒足軽1人を申付ける)
1731年　5月5日 享保16年　3月29日 快晴
1731年　5月6日 享保16年　4月1日 曇　(当3月中碇関・野内御関所出人都合140人・内37人御国者58人他国者・御印紙29枚他は切手紙)
1731年　5月7日 享保16年　4月2日 陰晴
1731年　5月8日 享保16年　4月3日 快晴
1731年　5月9日 享保16年　4月4日 快晴
1731年　5月10日 享保16年　4月5日 晴
1731年　5月11日 享保16年　4月6日 快晴
1731年　5月12日 享保16年　4月7日 陰晴　(3月27日赤石組館前村で火災・火元村預かり免許、尾太3月出高:銅157固5貫目・鉛283固(1固は16貫目)15貫目)
1731年　5月13日 享保16年　4月8日 晴
1731年　5月14日 享保16年　4月9日 曇　終日雨
1731年　5月15日 享保16年　4月10日 曇　小雨
1731年　5月16日 享保16年　4月11日 曇　終日小風
1731年　5月17日 享保16年　4月12日 曇　午の刻より少々晴　(新田長浜に鯨寄せる・長さ2尋・ひけ(ひげ)だけ献上他は下し置かれる)
1731年　5月18日 享保16年　4月13日 快晴　今朝霧
1731年　5月19日 享保16年　4月14日 陰晴　申の刻より雨
1731年　5月20日 享保16年　4月15日 曇　雨夜中より終日に及ぶ　(7日大鰐組長峰村で火災・火元他村預け免許)
1731年　5月21日 享保16年　4月16日 陰晴　昨夜中時々雨　小風時々　申の下刻あら連(あられ)
1731年　5月22日 享保16年　4月17日 曇　昨夜中雨　それより雨時々　終日に及ぶ　(3間半四方の中牢・3間×3間半の女牢あり)
1731年　5月23日 享保16年　4月18日 晴
1731年　5月24日 享保16年　4月19日 快晴
1731年　5月25日 享保16年　4月20日 快晴　(大間越に鯨寄せる・長さ1丈2尺・たけり(意味不明)があれば差し上げ・残りは下し置かれる)
1731年　5月26日 享保16年　4月21日 快晴　(12日御部屋様御死去)
1731年　5月27日 享保16年　4月22日 晴
1731年　5月28日 享保16年　4月23日 快晴　申の下刻より雷電雨　終夜に及ぶ
1731年　5月29日 享保16年　4月24日 陰晴　昨夜中より雷電雨　卯の刻に及び止む
1731年　5月30日 享保16年　4月25日 晴
1731年　5月31日 享保16年　4月26日 快晴　今朝霜
1731年　6月1日 享保16年　4月27日 快晴　(入札:古米1俵7升が8匁1分2厘・古米4升が5分・大麦1俵3斗6升3合が4匁、16日金木新田藤枝村で火災・火元村預け赦免)
1731年　6月2日 享保16年　4月28日 快晴　夜に入り雨
1731年　6月3日 享保16年　4月29日 曇　終日雨
1731年　6月4日 享保16年　4月30日 晴
1731年　6月5日 享保16年　5月1日 快晴
1731年　6月6日 享保16年　5月2日 曇　時々小雨　夜に入り雨
1731年　6月7日 享保16年　5月3日 巳の刻雨　(青森在番寄合の妻変死)
1731年　6月8日 享保16年　5月4日 晴　午の刻より大雨　(先月8日赤田組板屋野木村で男変死)
1731年　6月9日 享保16年　5月5日 快晴
1731年　6月10日 享保16年　5月6日 快晴　今朝辰の刻過ぎ霞
1731年　6月11日 享保16年　5月7日 快晴　(尾太4月出高:銅174固10貫目・鉛312固6貫目)
1731年　6月12日 享保16年　5月8日 快晴
1731年　6月13日 享保16年　5月9日 晴
1731年　6月14日 享保16年　5月10日 快晴
1731年　6月15日 享保16年　5月11日 曇　今朝より小雨　終日に及ぶ
1731年　6月16日 享保16年　5月12日 快晴　小風
1731年　6月17日 享保16年　5月13日 陰晴
1731年　6月18日 享保16年　5月14日 快晴
1731年　6月19日 享保16年　5月15日 晴　(今朝新鍛冶町で小火)
1731年　6月20日 享保16年　5月16日 曇　辰の中刻雨　則止む
1731年　6月21日 享保16年　5月17日 曇　夜に入り雨　(今別町年寄りから御蔵米200俵払い出し願い・古米払出す、5月3・4日高杉組で植え付け・去年は4月18日・節に引合去年より5日遅い)
1731年　6月22日 享保16年　5月18日 曇　今朝辰の刻前小雨
1731年　6月23日 享保16年　5月19日 陰晴
1731年　6月24日 享保16年　5月20日 快晴　(4月中野内:出149・入り125・都合274人、屋形様御隠居)
1731年　6月25日 享保16年　5月21日 曇　(男牢死)
1731年　6月26日 享保16年　5月22日 曇　終日小雨
1731年　6月27日 享保16年　5月23日 曇　今朝雨少ふ累(今朝雨少し降る)
1731年　6月28日 享保16年　5月24日 晴　昨夜雨　雷数度発す　(旧冬仰せ付けられた菟油取を止める、昨晩新町で小火)
1731年　6月29日 享保16年　5月25日 快晴　(16日屋形様御隠居・若殿様御家督)
1731年　6月30日 享保16年　5月26日 快晴　(22日碇関山で山火事(10間×5間))

1731年　7月1日 享保16年　5月27日 快晴 （今別御蔵の古米1俵を8匁4分5厘の入札、24日新田吉見村で火災・火元村預け・耕作最中の時節なので早速御免）
1731年　7月2日 享保16年　5月28日 曇 終日雨
1731年　7月3日 享保16年　5月29日 陰晴 （28日青森で男自殺）
1731年　7月4日 享保16年　6月1日 曇
1731年　7月5日 享保16年　6月2日 晴 朝の内曇 午の中刻雷数度発す 申の刻地震 則止む （魚油2石8斗4升3合2夕で852匁9分6厘、大鰐組代官縊死）
1731年　7月6日 享保16年　6月3日 曇 昨夜雨 雷数発す それより今朝巳の刻過ぎまで雨 申の刻過ぎ大雨
1731年　7月7日 享保16年　6月4日 晴 （去月23日の新町の火元の慎み御免）
1731年　7月8日 享保16年　6月5日 快晴
1731年　7月9日 享保16年　6月6日 快晴 （当5月中大間越:出27・入り25・都合52人）
1731年　7月10日 享保16年　6月7日 快晴
1731年　7月11日 享保16年　6月8日 陰晴 （一粒金丹の薬味に男女の蚕蛾）
1731年　7月12日 享保16年　6月9日 晴 辰の刻過ぎまで雨 （尾太5月出高:銅219固・鉛283固2貫目）
1731年　7月13日 享保16年　6月10日 陰晴 時々小雨
1731年　7月14日 享保16年　6月11日 晴 （昨夜中石渡川水出馬船も止める・今朝水落ちる、入内・雲谷牧に狼打ち入用の筒薬等を渡す、5月中碇関:出163・入り215人、船積みの1俵が3斗7升入りになっている）
1731年　7月15日 享保16年　6月12日 快晴 終日小風 夜中雨
1731年　7月16日 享保16年　6月13日 曇 今朝雨 丑の刻大雨 （11日浪岡組下十川で倒死男の骨）
1731年　7月17日 享保16年　6月14日 曇 終日小雨
1731年　7月18日 享保16年　6月15日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ （石渡川水出馬船など止める、5月中野内:出89・入り183人）
1731年　7月19日 享保16年　6月16日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ
1731年　7月20日 享保16年　6月17日 陰晴 昨夜中より雨 巳の刻前雨 それより晴 土用丑の二刻 （2日夜満姫様御遠行）
1731年　7月21日 享保16年　6月18日 大暑
1731年　7月22日 享保16年　6月19日 快晴 昨夜小雨 （15～17日赤田・広須・広田組で洪水・水湛、藤代組小友・新田藻川でも）
1731年　7月23日 享保16年　6月20日 曇 今朝卯の上刻雨 （六つ半頃男牢死、一粒金丹を御用人50・大目付20粒頂戴）
1731年　7月24日 享保16年　6月21日 快晴
1731年　7月25日 享保16年　6月22日 曇 辰の中刻雨 巳の下刻地震 則止む 雨時々 （去る20日飯詰組飯詰村で火災・火元村預け・時節柄御免、日和明五穀成就の御祈祷）
1731年　7月26日 享保16年　6月23日 快晴 （14日の洪水で柏木組大俵・高増・館野越村などで100町歩ほど水湛）
1731年　7月27日 享保16年　6月24日 曇 昨夜七つ過ぎより小雨 終日に及ぶ （一粒金丹を報恩寺に10粒、19日不知綱(今別の東)湊口で破船1艘）
1731年　7月28日 享保16年　6月25日 昨夜中より雨時々
1731年　7月29日 享保16年　6月26日 晴 今朝大霧
1731年　7月30日 享保16年　6月27日 晴 朝の内曇 （26日神明宮で日和揚げ五穀成就の御祈祷・御神事）
1731年　7月31日 享保16年　6月28日 晴 夜中雨 （木作御蔵の米沖御役入りで1俵10匁5分5厘、森岡内蔵介の母に一粒金丹10・齋藤某に5粒）
1731年　8月1日 享保16年　6月29日 今朝明より悉甚雷数発す 雨終日に及ぶ （飯詰・金木組で稲虫発生・最勝院で御祈祷、24～26日の雨で飯詰組野里村で水湛）
1731年　8月2日 享保16年　6月30日 晴 申の刻雨暫く
1731年　8月3日 享保16年　7月1日 晴 朝の内曇
1731年　8月4日 享保16年　7月2日 陰晴 巳の刻少々雨降
1731年　8月5日 享保16年　7月3日 快晴
1731年　8月6日 享保16年　7月4日 快晴 （当月(先月の意)25日晩秋田方面から大間越に流木1302本寄せる、5月6日植付の稲今日出穂・去年は4月24日植付6月18日出穂）
1731年　8月7日 享保16年　7月5日 極快晴
1731年　8月8日 享保16年　7月6日 快晴 残暑強し
1731年　8月9日 享保16年　7月7日 快晴 残暑強し （当月渡し御切米637両余を御内分より貸る）
1731年　8月10日 享保16年　7月8日 快晴
1731年　8月11日 享保16年　7月9日 快晴
1731年　8月12日 享保16年　7月10日 快晴 残暑強し （一粒金丹3粒を外崎喜六に）
1731年　8月13日 享保16年　7月11日 快晴 今朝霞 （青森御蔵米値段沖役入りで1俵12匁2分、御役者の下女縊死）
1731年　8月14日 享保16年　7月12日 曇 今朝霧
1731年　8月15日 享保16年　7月13日 快晴
1731年　8月16日 享保16年　7月14日 快晴
1731年　8月17日 享保16年　7月15日 快晴 （6寸角材2間もの3本で14匁4分6厘）
1731年　8月18日 享保16年　7月16日 快晴
1731年　8月19日 享保16年　7月17日 晴 巳の下刻雨雷 申の下刻大雨
1731年　8月20日 享保16年　7月18日 晴
1731年　8月21日 享保16年　7月19日 晴 （一粒金丹10粒を竹内源太夫に）
1731年　8月22日 享保16年　7月20日 快晴 朝曇 残暑強し （一粒金丹3粒を御目付竹内弥右衛門に）
1731年　8月23日 享保16年　7月21日 曇 昨夜中大雨雷 今朝巳の刻まで （9日岩崎村の久太郎が沖で古杉帆柱(長4丈4尺・本丸2尺7寸末丸1尺4寸5歩)拾う・半年持ち主が現れなければ拾った者の物となる）
1731年　8月24日 享保16年　7月22日 晴 巳の刻小雨 雷少し
1731年　8月25日 享保16年　7月23日 晴 （尾太6月出高:銅178固12貫目・鉛323固11貫目）
1731年　8月26日 享保16年　7月24日 晴 （大鰐・大坊村から初米6箱上がる・植付5月6日で78日間・去年は4月24日植付75日の7月9日、一粒金丹3粒田中与左衛門に、御留守居支配山上羽右衛門が御番入り）
1731年　8月27日 享保16年　7月25日 曇 昨夜中雨少し
1731年　8月28日 享保16年　7月26日 曇 昨夜雷大雨 終日に及ぶ 夜中大雨(曇 昨夜雷大雨及終日夜中大雨 となっている）
1731年　8月29日 享保16年　7月27日 陰晴 時々小雨 （3日岩木川で足軽溺死）
1731年　8月30日 享保16年　7月28日 曇 昨夜中大雨 午の刻過ぎまで （去年7月弟を切り殺した男斬罪）
1731年　8月31日 享保16年　7月29日 陰晴 午の下刻より雨 終夜に及ぶ

1731年　9月1日 享保16年　8月1日 曇　昨夜より雨　午の刻に及ぶ　それより晴　夜に入り雷数発す(曇　昨夜与里雨及午ノ刻夫より晴夜ニ入雷数発ス)
1731年　9月2日 享保16年　8月2日 陰晴　未の刻前小雨
1731年　9月3日 享保16年　8月3日 陰晴
1731年　9月4日 享保16年　8月4日 陰晴
1731年　9月5日 享保16年　8月5日 晴
1731年　9月6日 享保16年　8月6日 快晴
1731年　9月7日 享保16年　8月7日 晴　未の刻過ぎより雨　夜に入り甚だしい雷雨　辰の刻過ぎ止む　(御隠居様御摘髪・竹翁様という、7月中大間越:出27・入り29人、尾太7月出高:銅129固2貫目・鉛173固)
1731年　9月8日 享保16年　8月8日 曇
1731年　9月9日 享保16年　8月9日 曇　酉の刻大雨　それより午の刻小雨　同中刻雷雨　(小泊村で熊荒れる・御手筒足軽出す)
1731年　9月10日 享保16年　8月10日 曇　昨夜中雨
1731年　9月11日 享保16年　8月11日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1731年　9月12日 享保16年　8月12日 曇　終日雨　夜中雨　子の刻より風　丑の刻大風　(天気揚げの御祈祷を四社に仰せ付ける)
1731年　9月13日 享保16年　8月13日 晴　(古懸不動尊が昨酉の刻御出汗・御神楽・五山で御祈祷)
1731年　9月14日 享保16年　8月14日 快晴
1731年　9月15日 享保16年　8月15日 快晴　(唐内坂御茶屋・織座御物見・大鰐御仮屋・温湯御仮屋取毀しの方向・千年山の長楽亭御茶屋は修復)
1731年　9月16日 享保16年　8月16日 快晴
1731年　9月17日 享保16年　8月17日 快晴
1731年　9月18日 享保16年　8月18日 陰晴　今朝卯の中刻少し地震　午の中刻雷発す　夜中雨
1731年　9月19日 享保16年　8月19日 晴　今朝辰の刻まで雨　それより晴
1731年　9月20日 享保16年　8月20日 晴
1731年　9月21日 享保16年　8月21日 陰晴
1731年　9月22日 享保16年　8月22日 曇　巳の刻小雨　(12日夜薬王院裏の柵が大風で3間ほど倒れる)
1731年　9月23日 享保16年　8月23日 曇　終日雨　彼岸に入る
1731年　9月24日 享保16年　8月24日 晴　(佐藤有右衛門に一粒金丹3粒、鰺ヶ沢御蔵の色付き米入札:1俵に付き7匁6分)
1731年　9月25日 享保16年　8月25日 快晴
1731年　9月26日 享保16年　8月26日 晴　　下から続く　　7月中碇関:出119・入り263人)
1731年　9月27日 享保16年　8月27日 陰晴　酉の刻過ぎより風雨　(油川組孫内・大谷村で熊荒れ・御手筒足軽出す、大間越町から9月分飯米に御蔵米60俵御払い願い・1俵11匁6分2厘5毛(駄賃等込み)で払出す、　　上に続く
1731年　9月28日 享保16年　8月28日 曇　辰の刻過ぎ雨　それより止む　(金木組小泊で御手筒足軽野沢藤介熊打つ)
1731年　9月29日 享保16年　8月29日 陰晴
1731年　9月30日 享保16年　8月30日 陰晴
1731年　10月1日 享保16年　9月1日 快晴　(当8月中三ヶ所御関所並びに鰺ヶ沢湊口出人343人(他国者94・御国者249)、当7月中大間越:出入り70人、当3月中野内:出入り121人)
1731年　10月2日 享保16年　9月2日 陰晴
1731年　10月3日 享保16年　9月3日 曇　小風
1731年　10月4日 享保16年　9月4日 辰の下刻小雨　則止む　終日小風　(薬王院に一粒金丹10粒)
1731年　10月5日 享保16年　9月5日 快晴
1731年　10月6日 享保16年　9月6日 快晴　　下から続く　　・同村治右衛門(2寸5歩1寸8歩9匁:3歳)・堀越組一野渡村の小三郎(5寸2歩5寸5歩2匁5分:12歳)それぞれ熊取る)
1731年　10月7日 享保16年　9月7日 快晴　(南袋の(残り?)梨子を大作人に下される、当8月中大間越:出28・入り25・都合53人、高杉組田代村の藤右衛門(胆長2寸5歩廻り2寸生目15匁:5歳)　　上に続く
1731年　10月8日 享保16年　9月8日 快晴　昨夜辰の刻過ぎ地震　それより雨　(今別から御蔵米200俵払い出し願い・1俵12匁2分1厘8毛で払出す)
1731年　10月9日 享保16年　9月9日 快晴
1731年　10月10日 享保16年　9月10日 晴　酉の下刻より雨　則止む
1731年　10月11日 享保16年　9月11日 晴　(油川組岡町村で熊荒れる、鮭留役銭入札:広瀬川2匁1分5厘・荒川37匁1分・新田川51匁3分5厘・横内前川6匁1分8厘、当8月中野内:出入り都合208人)
1731年　10月12日 享保16年　9月12日 陰晴　(高岡御払い米1俵に付き10匁2分、佐藤有右衛門に一粒金丹3粒)
1731年　10月13日 享保16年　9月13日 快晴
1731年　10月14日 享保16年　9月14日 快晴
1731年　10月15日 享保16年　9月15日 曇　午の刻より小雨　終夜に及ぶ　(尾太8月出高:銅203固10貫目・鉛205固4貫目)
1731年　10月16日 享保16年　9月16日 曇　風雨　終日に及ぶ
1731年　10月17日 享保16年　9月17日 曇　(田中与左衛門・野呂忠左衛門に一粒金丹1粒づつ、天気悪しく岩木嵩湯入り停止)
1731年　10月18日 享保16年　9月18日 晴
1731年　10月19日 享保16年　9月19日 陰晴　(須藤要人に一粒金丹10粒、8月中碇関:出203・入り206・都合409人)
1731年　10月20日 享保16年　9月20日 陰晴　巳の刻過ぎより晴
1731年　10月21日 享保16年　9月21日 陰晴　辰の刻前より巳の刻過ぎまで小雨　(初鮭石川村平川より上がる、川元貞右衛門に一粒金丹3粒、小泊村で熊猿打留めの御手筒足軽に褒美1貫文、碇関村で火災・火元五人組預け)
1731年　10月22日 享保16年　9月22日 陰晴　(浅利八右衛門に一粒金丹3粒)
1731年　10月23日 享保16年　9月23日 曇
1731年　10月24日 享保16年　9月24日 曇　今朝辰の刻前に北南の方にじ見る　雨終日に及ぶ　夜に入る　(三馬屋村勘兵衛取の梨子87御台所に)
1731年　10月25日 享保16年　9月25日 今朝少し雨　則止む　夜中雨　雷発す　小雨
1731年　10月26日 享保16年　9月26日 陰晴　今朝雨
1731年　10月27日 享保16年　9月27日 陰晴　今朝岩木山に雪降
1731年　10月28日 享保16年　9月28日 陰晴　夜中雨　(御家中屋敷に投げ火?)
1731年　10月29日 享保16年　9月29日 今朝少し雨　それより止む　午の刻過ぎより小雨
1731年　10月30日 享保16年　9月30日 陰晴　今朝雨　夜に入り雪　終夜に及ぶ　(和徳組一野渡村の猟師が5疋・大鰐組居土村・長峰村の猟師が2疋・駒越組で3疋それぞれ熊取る)
1731年　10月31日 享保16年　10月1日 曇　今日里江初めて(雪)1寸余降　終日に及ぶ　未の刻雷発す

1731年　11月1日 享保16年　10月2日 陰晴　夜に入り雨降
1731年　11月2日 享保16年　10月3日 晴
1731年　11月3日 享保16年　10月4日 晴　(去る晦日昼過ぎより一昨1日までの大雪・風雨で三新田の稲こぼれるなどの被害)
1731年　11月4日 享保16年　10月5日 快晴　申の刻小雨降
1731年　11月5日 享保16年　10月6日 快晴
1731年　11月6日 享保16年　10月7日 曇　今朝より雨　午の刻過ぎまで　それより止む　(今弥五左衛門・永井三郎兵衛に一粒金丹3粒づつ、3日夜深浦で火災・78軒焼失、昨3日赤田組板屋野木村で60位男乞食倒死)
1731年　11月7日 享保16年　10月8日 快晴　(9月中大間越:出104・入り13人、9月中野内:出84・入り68人)
1731年　11月8日 享保16年　10月9日 陰晴　今朝小雨　夜亥の下刻より夜中雨降　(三馬屋村勘兵衛に梨子の御褒美として米2俵下し置かれる、尾太9月出高:銅272固3貫目・鉛151固8貫目)
1731年　11月9日 享保16年　10月10日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ
1731年 11月10日 享保16年　10月11日 晴　(昨夜御城代津軽大蔵病死、工藤五右衛門に一粒金丹3粒)
1731年 11月11日 享保16年　10月12日 曇　今朝より時々小雨　未の刻より雨時々　(2日飯詰組飯詰村で29男倒・10日死・弘前追払いの者、浪岡組五本松の加茂明神は夜中にどんどんと鳴り渡る)
1731年 11月12日 享保16年　10月13日 曇
1731年 11月13日 享保16年　10月14日 曇　今朝より小雪
1731年 11月14日 享保16年　10月15日 快晴　(9月中碇関:出入り合450人、深浦火災の類焼10軒に10俵・55軒に6俵づつの米拝借願い・それぞれ3俵・2俵づつの外雑木の杣取を許す)
1731年 11月15日 享保16年　10月16日 快晴　夜中雨
1731年 11月16日 享保16年　10月17日 陰晴　(浅利八右衛門・湯元伝左衛門に一粒金丹3粒)
1731年 11月17日 享保16年　10月18日 快晴　今朝大霜
1731年 11月18日 享保16年　10月19日 曇　辰の刻小雨　(先月19日碇関の火元の五人組預け御免、3日深浦村火災の焼失稲65507束など)
1731年 11月19日 享保16年　10月20日 快晴　申の刻より雨
1731年 11月20日 享保16年　10月21日 曇　昨夜中より雨水そ連(雨霙)　終日に及ぶ
1731年 11月21日 享保16年　10月22日 曇　終日小雪
1731年 11月22日 享保16年　10月23日 昨夜中より雪　巳の刻に及ぶ　それより晴
1731年 11月23日 享保16年　10月24日 陰晴
1731年 11月24日 享保16年　10月25日 快晴
1731年 11月25日 享保16年　10月26日 快晴
1731年 11月26日 享保16年　10月27日 曇　昨夜中より雪　終日に及び風添える　夜に入り吹雪
1731年 11月27日 享保16年　10月28日 曇
1731年 11月28日 享保16年　10月29日 陰晴　小雨　　下から続く　　9厘(分?)7厘、大鰐組大鰐村の喜左衛門(胆長5寸5歩廻り5寸2歩生目形10匁2分:7歳)・常盤組徳才子村の定右衛門2疋(3寸5歩2寸　　下の欄外(*)に続く
1731年 11月29日 享保16年　11月1日 陰晴　昨夜中より四時過ぎまで雨降　(碇関御関所出人101人(御国人27・他国者74)御印紙50枚・碇関口御関所出御国人31人切手紙19枚・出入り都合132人、金1両に付き88匁　　上に続く
1731年 11月30日 享保16年　11月2日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　(御姫様10月14日御遠行、十三町に34・5男倒死、大円寺土渕川に45・6女道心倒死、金木新田で26日火災(3間×8間:百姓)・米3俵稲1100束駒1疋焼失)
1731年　12月1日 享保16年　11月3日 曇　昨夜中より雨
1731年　12月2日 享保16年　11月4日 陰晴　昨夜小雪　終日に及ぶ
1731年　12月3日 享保16年　11月5日 晴　今朝小雨
1731年　12月4日 享保16年　11月6日 晴
1731年　12月5日 享保16年　11月7日 快晴　酉の刻より夜中雨　(10月中大間越:出入り72人、3日深浦町の火元の医者を押込めにもしていない、先月27日板屋野木村の男が弘前道で狼に喰れて死ぬ)
1731年　12月6日 享保16年　11月8日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　(和徳組黒滝村の先達ての火元の村預け御免、昨晩独鈷村あたりで夜盗あり)
1731年　12月7日 享保16年　11月9日 晴
1731年　12月8日 享保16年　11月10日 晴　(尾太10月出高:銅217固7貫目・鉛193固13貫)
1731年　12月9日 享保16年　11月11日 快晴　(常盤・増館・浪岡組小使4人中3人風気・時疫のよう、米代銭12匁5分)
1731年 12月10日 享保16年　11月12日 晴　今朝雨　(今朝男牢死)
1731年 12月11日 享保16年　11月13日 快晴
1731年 12月12日 享保16年　11月14日 曇　時々小雨　夜中雨
1731年 12月13日 享保16年　11月15日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　(10月中野内:出70・入り124・都合194人)
1731年 12月14日 享保16年　11月16日 晴　辰の中刻地震
1731年 12月15日 享保16年　11月17日 快晴　大霜　(松田長左衛門妻に一粒金丹3粒、13日古懸不動尊御出汗・五山御祈祷・神明八幡両社で御神楽、表坊主山上古林が江戸へ)
1731年 12月16日 享保16年　11月18日 陰晴　夜中雨　(鮭留から期待通り鮭が上らない)
1731年 12月17日 享保16年　11月19日 曇　今朝雨　(百姓九郎介の財産内訳あり)
1731年 12月18日 享保16年　11月20日 陰晴　昨夜中雪　(18日油川組津軽坂村で火災・4軒焼失・火元他村預け)
1731年 12月19日 享保16年　11月21日 曇　昨夜中雪三寸ほど　(三上仁右衛門に一粒金丹3粒)
1731年 12月20日 享保16年　11月22日 陰晴　雪時々　夜中に及ぶ
1731年 12月21日 享保16年　11月23日 陰晴　今朝雪　(和徳町で昨夜火災1軒)
1731年 12月22日 享保16年　11月24日 晴　(米1升に付き:上大豆7分4夕・次大豆1升4分6夕・上黒小豆7分・上青鶴大豆8合1夕・上蕎麦9分6夕、18日の津軽坂村の火元の村預け赦免、深浦大火の火元の遠慮赦免)
1731年 12月23日 享保16年　11月25日 快晴　(22日出火の和徳町の火元の入寺赦免)
1731年 12月24日 享保16年　11月26日 曇　(23日夜十三潟高根村より十三水戸まで氷張る・昨年は10月28日・節に引き合い14日遅い、今日四過ぎ男牢死、大鰐組早瀬野村に60位男六十六部相果)
1731年 12月25日 享保16年　11月27日 陰晴　夜中雪少し　(18日津軽坂村の焼失家屋全部高無:4間×8間・4間×6間・4間×9間・4間×4間)
1731年 12月26日 享保16年　11月28日 陰晴　時々小雪　(今朝明前青森で破船1艘、ミツバチの飼育方法等の記述あり:蜜の巣10枚あれば4枚ほど取残り6枚は蜂の飼料に残し置くべし……)
1731年 12月27日 享保16年　11月29日 快晴　(昨晩大鰐組大鰐村に殺人事件あり)
1731年 12月28日 享保16年　11月30日 快晴　(横内組横内村の左衛門四郎が熊2疋(胆長5寸廻り4寸生目形68匁:6歳と5寸3寸5歩15匁:10歳)取る)
1731年 12月29日 享保16年　12月1日 陰晴　未の刻過ぎより雪　(11月中碇関出人都合97人(他国者69御印紙46・御国人28切手紙16))
1731年 12月30日 享保16年　12月2日 晴　未の刻より雪　夜中に及ぶ　(成田忠兵衛に一粒金丹3粒)
1731年 12月31日 享保16年　12月3日 曇　終日雪　夜に入り少し雪

(*)　15匁:10歳と4寸6寸67匁:10歳)・駒越組田代村の惣左衛門(2寸5歩2寸7匁5歩:3歳)・同組中畑村の彦左衛門(3寸5歩2寸5歩5匁5歩:9歳)・同組桜場村の次郎三郎(3寸2寸2歩6匁:3歳)・同組田代村の藤右衛門(2寸5歩3寸5歩5匁5歩:4歳)・堀越組一野渡村の彦次郎(2寸7歩3寸6匁:2歳)それぞれ熊取る)

1732年　1月1日 享保16年　12月4日 曇　終日小雪 （先月晦日夜七頃赤石組中村で火災・火元村預け）
1732年　1月2日 享保16年　12月5日 曇　終日雪　夜に入り丸雪
1732年　1月3日 享保16年　12月6日 曇　終日雪
1732年　1月4日 享保16年　12月7日 曇　時々雪 （斬罪男3人（洗湯で衣類盗み取る・去る冬大赦で許されたのに名を改め所々で盗み・博打の宿））
1732年　1月5日 享保16年　12月8日 曇　昨夜小雪 （御献上の鱈見分、先月中大間越:出入り都合37人）
1732年　1月6日 享保16年　12月9日 晴　午の四刻小寒に入る （和徳組百田村の高無共から御米願い・1軒に1俵出す、尾太12月出高:銅206固3貫目・鉛257固14貫目）
1732年　1月7日 享保16年　12月10日 陰晴　　下から続く　　:出63・入り80・出入り都合143人）
1732年　1月8日 享保16年　12月11日 曇　終日雪 （御蔵米1俵（沖役夫々1匁込み）:弘前12匁4分5厘6毛・鯵ヶ沢13匁3分5厘7毛・青森13匁7分3厘、9日赤田組赤田村で火災（2間×2間:借家）、11月中野内　　上に続く
1732年　1月9日 享保16年　12月12日 曇　終日雪 （米4斗6合が12匁1分8厘・1両80目5分替え、御目付葛西半三郎に一粒金丹3粒、大間越町から御蔵米50俵お払い願い・駄賃運賃込みで1俵13匁4分9厘で払出す）
1732年　1月10日 享保16年　12月13日 陰晴
1732年　1月11日 享保16年　12月14日 曇
1732年　1月12日 享保16年　12月15日 曇 （蟹田御蔵米1俵12匁8分）
1732年　1月13日 享保16年　12月16日 陰晴
1732年　1月14日 享保16年　12月17日 曇　終日雪
1732年　1月15日 享保16年　12月18日 曇　終日雪
1732年　1月16日 享保16年　12月19日 曇　終日雪 （大間越町で9月より時疫）
1732年　1月17日 享保16年　12月20日 曇　終日雪　夜中に及ぶ
1732年　1月18日 享保16年　12月21日 陰晴　終日雪　夜中に及ぶ
1732年　1月19日 享保16年　12月22日 陰晴　夜に入り雪
1732年　1月20日 享保16年　12月23日 曇　終日雪　それより吹雪　暮まで
1732年　1月21日 享保16年　12月24日 晴　酉の一刻大寒に入る （当11月中碇関:出入り都合113人）
1732年　1月22日 享保16年　12月25日 曇　終日雪　夜中に及ぶ
1732年　1月23日 享保16年　12月26日 曇　終日雪 （昨日に雪にて西之郭土蔵に被害）
1732年　1月24日 享保16年　12月27日 快晴 （御台所よりの下り雉子・山鳥1羽値段:雄雉2匁5分・雌雉2匁・雄山鳥1匁5分・雌山鳥1匁、青森御蔵米1俵に付き13匁7分3厘）
1732年　1月25日 享保16年　12月28日 晴 （高杉組大秋村の新兵衛が熊（胆長4寸廻り6寸目形15匁:7歳）取る、26日油川組油川村で火災（3間×4間:高無））
1732年　1月26日 享保16年　12月29日 曇　終日小雪
1732年　1月27日 享保17年正月1日　陰晴
1732年　1月28日 享保17年正月2日　快晴
1732年　1月29日 享保17年正月3日　快晴
1732年　1月30日 享保17年正月4日　快晴
1732年　1月31日 享保17年正月5日　晴
1732年　2月1日 享保17年正月6日　曇　時々小雪　午の刻過ぎ少し吹雪
1732年　2月2日 享保17年正月7日　晴
1732年　2月3日 享保17年正月8日　陰晴　時々小雪
1732年　2月4日 享保17年正月9日　曇　時々小雪　節分
1732年　2月5日 享保17年正月10日　快晴　立春
1732年　2月6日 享保17年正月11日　時々小雪　夜に及ぶ （関五郎右衛門に一粒金丹3粒）
1732年　2月7日 享保17年正月12日　晴
1732年　2月8日 享保17年正月13日　曇　時々小雪
1732年　2月9日 享保17年正月14日　時々小雪
1732年　2月10日 享保17年正月15日　曇　雪 （去年12月中野内:出70・入り90・都合160人）
1732年　2月11日 享保17年正月16日　快晴
1732年　2月12日 享保17年正月17日　晴　夜に入り大雪
1732年　2月13日 享保17年正月18日　曇　時々雪　夜中雪 （柳原御普請出精に付き山上源次郎等に褒美）
1732年　2月14日 享保17年正月19日　曇　小雪
1732年　2月15日 享保17年正月20日　快晴
1732年　2月16日 享保17年正月21日　曇　時々小雨　終日に及ぶ
1732年　2月17日 享保17年正月22日　小雪　終日に及ぶ
1732年　2月18日 享保17年正月23日　曇　昨夜より終日雪　殊の外寒気
1732年　2月19日 享保17年正月24日　陰晴　時々雪　夜に入る
1732年　2月20日 享保17年正月25日　晴
1732年　2月21日 享保17年正月26日　快晴
1732年　2月22日 享保17年正月27日　曇　時々小雪
1732年　2月23日 享保17年正月28日　陰晴　巳の刻前小雪 （酒1升に付き8分・浦々1分増）
1732年　2月24日 享保17年正月29日　快晴 （深浦町奉行より米500俵大豆150俵払い出し願い・400俵100俵を申付ける、古物御蔵受払い役人に御留守居組山上羽右衛門）
1732年　2月25日 享保17年正月30日　快晴 （駒越組中畑村の仁助（胆長4寸5歩廻り6寸8歩生目16匁）・尾崎組の十兵衛（5寸5歩5寸8歩21匁）・赤石組一森村の喜六と孫右衛門（3寸5歩3寸3歩21匁）それぞれ熊取る）
1732年　2月26日 享保17年　2月1日 曇　時々雪 （正月中碇関出:他国者85御印紙21枚・御国人20切手紙13枚、大間越出:御国人2切手紙1枚、出人都合107人）
1732年　2月27日 享保17年　2月2日 陰晴
1732年　2月28日 享保17年　2月3日 晴　雷発す　未の刻過ぎ雨暫く
1732年　2月29日 享保17年　2月4日 曇　未の中刻より雪　夜に入り雪風 （油川組新田村で百姓2軒10人渇命・御救い米20日分出す、赤石組広戸村に亀（頭より尾まで3尺8寸甲幅2尺5寸）上がる）

1732年　3月1日 享保17年　2月5日 曇　昨夜よりの雪7・8寸程降　午の下刻より陰晴　吹雪　夜に入り吹雪
1732年　3月2日 享保17年　2月6日 曇　終日吹雪
1732年　3月3日 享保17年　2月7日 晴　(下湯口で百姓の子と下女が自殺もどき・ともに生存・養生するように)
1732年　3月4日 享保17年　2月8日 晴　夜に入り小雨
1732年　3月5日 享保17年　2月9日 陰晴　昼の内雨
1732年　3月6日 享保17年　2月10日 陰晴　未の中刻より吹雪　酉の刻風強く雪降
1732年　3月7日 享保17年　2月11日 巳の刻前雪少し　それより陰晴　(尾太正月出高:銅136固13貫目・鉛185固9貫目)
1732年　3月8日 享保17年　2月12日 曇　卯の中刻過ぎより吹雪　それより雨風　(今日古懸不動尊御出汗)
1732年　3月9日 享保17年　2月13日 陰晴
1732年　3月10日 享保17年　2月14日 快晴
1732年　3月11日 享保17年　2月15日 快晴
1732年　3月12日 享保17年　2月16日 快晴
1732年　3月13日 享保17年　2月17日 終日雨　未の中刻雷発す　(鉛1固16貫を53匁で200固買いたいとの話あり)
1732年　3月14日 享保17年　2月18日 快晴
1732年　3月15日 享保17年　2月19日 陰晴　時々小雪　夜に入り雪
1732年　3月16日 享保17年　2月20日 晴
1732年　3月17日 享保17年　2月21日 快晴
1732年　3月18日 享保17年　2月22日 快晴
1732年　3月19日 享保17年　2月23日 快晴　(ただ今男牢死)
1732年　3月20日 享保17年　2月24日 快晴　(御切米金892両余御内分より御貸出)
1732年　3月21日 享保17年　2月25日 快晴
1732年　3月22日 享保17年　2月26日 終日雨　(赤石組石動村で男道心倒死、斬罪男4人(追放立帰り盗2・盗2)・死罪男3人)
1732年　3月23日 享保17年　2月27日 快晴　(蟹田御蔵米1俵値段12匁8分、9日奥平辺湊で大風雪・破船1艘)
1732年　3月24日 享保17年　2月28日 快晴　(13日夜金木組中里村で火災・火元村預け・免許)　下から続く　10日藤代組小友村で富田御蔵の升取吹き倒れ死亡)
1732年　3月25日 享保17年　2月29日 終日雨雪　夜に入り風　(駒越組田代村の藤右衛門(胆長5寸廻り7寸5歩生目18匁:5歳)・大秋村の新兵衛2疋(4寸6寸16匁:3歳・4寸5寸5歩12匁:3歳)それぞれ熊取る、　上に続く
1732年　3月26日 享保17年　3月1日 晴　(先月中碇関・野内口出人114人・御印紙24枚切手紙19枚)
1732年　3月27日 享保17年　3月2日 快晴　(1日35・6男湯満く連(ゆまくれ:湯あたり)で死亡)
1732年　3月28日 享保17年　3月3日 晴　(1日九度寺山中で24・5男死亡)
1732年　3月29日 享保17年　3月4日 晴　(大間越町奉行から熊狼対応鉄砲を例年通り求められる・出す)
1732年　3月30日 享保17年　3月5日 快晴
1732年　3月31日 享保17年　3月6日 曇　時々雨　それより雨　夜中に及ぶ
1732年　4月1日 享保17年　3月7日 晴　(和徳組代官が百田の高無に下し米願い・1軒に1俵下す)
1732年　4月2日 享保17年　3月8日 陰晴
1732年　4月3日 享保17年　3月9日 晴　(6日夜十三潟が十三より大湊まで明ける・昨年は2月28日潟明け(彼岸が2月18日)今年の彼岸が2月28日でこれと比べると3日早い:グレゴリオ暦で比較していることになる)
1732年　4月4日 享保17年　3月10日 曇　雨　終日に及ぶ
1732年　4月5日 享保17年　3月11日 陰晴　(2月中大間越:出14・入り81・都合95人、2月中野内:出60・入り30・都合90人)
1732年　4月6日 享保17年　3月12日 晴　夜に入り雪雪1寸ほど降
1732年　4月7日 享保17年　3月13日 曇　辰の刻過ぎより雪　それより雨降
1732年　4月8日 享保17年　3月14日 曇
1732年　4月9日 享保17年　3月15日 晴　(2月中碇関:出80・入り177・都合157人)
1732年　4月10日 享保17年　3月16日 晴　夜に入り雨
1732年　4月11日 享保17年　3月17日 曇　時々雨　(佐野吉郎兵衛が人事に不足を言っている)
1732年　4月12日 享保17年　3月18日 快晴
1732年　4月13日 享保17年　3月19日 曇　酉の刻より戌の刻まで時々小雨　(富田御蔵奉行変死、御徒新規召抱え9人(5尺3寸5歩～5尺8寸)
1732年　4月14日 享保17年　3月20日 快晴　(尾太2月出高:銅150箇10貫目・鉛278箇11貫目)
1732年　4月15日 享保17年　3月21日 快晴
1732年　4月16日 享保17年　3月22日 曇　午の下刻雨少し　それより夜中に及ぶ　(18日黒石領平内の小湊村で火災・31軒焼失、和徳組取上村に倒死者)
1732年　4月17日 享保17年　3月23日 曇　雨　午の刻より晴
1732年　4月18日 享保17年　3月24日 快晴　(19日十三沖で強風・荷打ち、23日大光寺組蒲田村で火災・火元村預け、御小納戸金送金予定あり・年間1000両)
1732年　4月19日 享保17年　3月25日 快晴　今朝霜
1732年　4月20日 享保17年　3月26日 快晴
1732年　4月21日 享保17年　3月27日 陰晴　巳の刻前小雨
1732年　4月22日 享保17年　3月28日 曇　時々雨　(竹内孫右衛門に一粒金丹3粒)
1732年　4月23日 享保17年　3月29日 快晴　今朝霜　(21日出火の蒲田村の火元の村預け御免、横内組宮崎村で変死者あり・注進せずに死骸片付け庄屋役召し放ち)
1732年　4月24日 享保17年　3月30日 陰晴　辰の刻より小雨　巳の中刻止む　小風　(磯谷安之丞に一粒金丹3粒)　下から続く　都合249人、浦町組合子沢村の弥左衛門(胆長3寸5歩廻り5寸生目形　下の欄外(*)に続く
1732年　4月25日 享保17年　4月1日 快晴　時々小雨　(碇関口御関所出人160人(御国人126他国者32)御印紙29枚・碇関口御関所御国人81人切手紙40枚、野内口御関所出御国人8人切手紙2枚、所々御関所出人　上に続く
1732年　4月26日 享保17年　4月2日 快晴　(大鰐組早瀬野山に野火(10間×7間))
1732年　4月27日 享保17年　4月3日 快晴
1732年　4月28日 享保17年　4月4日 快晴　(2日常盤組葛野村で外馬屋火災・火元村預け)
1732年　4月29日 享保17年　4月5日 快晴　少し風　下から続く　・都合63人、先月28日柏木組瀬良沢村の百姓の妻が自害)
1732年　4月30日 享保17年　4月6日 曇　時々小雨　(一昨4日飯詰組高野村で火災、昨3日駒越組湯口で野火(2町×50間)、先月25日浪岡組高館で野火(5町×10町)、当3月中大間越:出6・入り57　上に続く
(*)　59匁:5歳)・駒越組相馬村の左衛門三郎2疋(4寸5歩6寸5歩16匁:15歳・3寸5歩6寸5歩15匁:7歳)・浪岡組徳才子村の定右衛門2疋(3寸5歩6寸50目:7歳・2寸5歩4寸5歩25匁:2歳)・
堀越組一野渡村の小三郎(3寸5歩4寸1歩27問目:5歳)・大鰐組苦木村の仁兵衛(2寸5歩4寸5歩30目:2歳)それぞれ熊取る)

1732年　5月1日 享保17年　4月7日 曇　時々小雨　夜に入り雨
1732年　5月2日 享保17年　4月8日 曇　今朝小雨 （4日今別山で山火事(1町×60間)、尾太3月出高:銅185箇9貫目・鉛271箇1貫目）
1732年　5月3日 享保17年　4月9日 陰晴　酉の中刻より雨　終夜に及ぶ （1日(4日の記述では2日)葛野村の火元の村預け差免、御城の大修理?）
1732年　5月4日 享保17年　4月10日 曇　昨夜より雨　巳の刻まで （5日相内山で山火事(3町×17町)）
1732年　5月5日 享保17年　4月11日 陰晴　午の中刻より小雨
1732年　5月6日 享保17年　4月12日 晴　今朝大霜 （4日高野村の火元百姓の預け差免）
1732年　5月7日 享保17年　4月13日 曇　今朝小雨　暫くして止む
1732年　5月8日 享保17年　4月14日 曇　辰の下刻より雨時々　終日に及ぶ
1732年　5月9日 享保17年　4月15日 曇　朝の内少し雨 （広須新田長浜村で4月11日に全9軒焼失）
1732年　5月10日 享保17年　4月16日 曇　時々雨
1732年　5月11日 享保17年　4月17日 快晴 （当3月碇関:出178・入り98・都合270人、同野内:出109・入り40・都合149人）
1732年　5月12日 享保17年　4月18日 陰晴　申の刻より風　酉の刻雨降 （今朝大鰐組大沢村の平沢川沿いに60男倒死）
1732年　5月13日 享保17年　4月19日 曇　終日雨 （長浜村の火元庄屋の他村預け差免）
1732年　5月14日 享保17年　4月20日 快晴　終日小風 （17日油川組津軽坂村で野火(70間×60間)）
1732年　5月15日 享保17年　4月21日 快晴 （斬罪男1人(盗みと脇道通)）
1732年　5月16日 享保17年　4月22日 快晴 （一昨20日大鰐組もちのき村(漢字で書いてあるが漢和辞典になし)で火災・火元村預け、20日金木組松野木村で火災・火元村預け）
1732年　5月17日 享保17年　4月23日 快晴　今朝霞
1732年　5月18日 享保17年　4月24日 快晴　今朝霞 （23日鰺ヶ沢お雇船の船頭が病死）
1732年　5月19日 享保17年　4月25日 快晴
1732年　5月20日 享保17年　4月26日 快晴
1732年　5月21日 享保17年　4月27日 快晴 （昨26日高岡境内で野火(50間×80間)）
1732年　5月22日 享保17年　4月28日 快晴
1732年　5月23日 享保17年　4月29日 快晴 （駒越組桜庭村の茂助(胆長3寸廻り6寸目形13匁:4歳)・同組田代村の藤右衛門(3寸5歩5寸5歩15匁:3歳)それぞれ熊取る、土手鍛冶町へ放火あり・消す）
1732年　5月24日 享保17年　5月1日 快晴 （碇関出人49人(御国人5他国者44)御印紙37枚、大間越口出人1人御印紙1、碇関口出御国人391人切手紙103枚、大間越口出御国人1切手紙1、野内口出御国人1　下に続く
1732年　5月25日 享保17年　5月2日 曇　終日雨　上から続く　切手紙1、去月25日碇関山で野火(100間×20間)）
1732年　5月26日 享保17年　5月3日 陰晴 （先月20日赤田組板屋野木村で大風・御蔵廻り破損、3月28日江戸大火・与一様・黒石様の屋敷類焼）
1732年　5月27日 享保17年　5月4日 曇　午の刻より快晴　丑の刻雷発す （先月29日駒越組大森で野火）
1732年　5月28日 享保17年　5月5日 陰晴　巳の中刻過ぎ雨　午の刻雷発す
1732年　5月29日 享保17年　5月6日 曇
1732年　5月30日 享保17年　5月7日 晴
1732年　5月31日 享保17年　5月8日 曇　申の刻より小雨　終夜に及ぶ
1732年　6月1日 享保17年　5月9日 晴　朝の内曇 （6日夜相馬山に野火）
1732年　6月2日 享保17年　5月10日 晴 （尾太4月出高:銅196箇12貫目・鉛275箇13貫目）
1732年　6月3日 享保17年　5月11日 快晴 （目明し半六牢死）
1732年　6月4日 享保17年　5月12日 晴 （馬入札3疋:44匁5分7厘～99匁3分7厘、4月中大間越:出35・入り47人）
1732年　6月5日 享保17年　5月13日 快晴 （山上古林が母大病で江戸下がり）
1732年　6月6日 享保17年　5月14日 曇
1732年　6月7日 享保17年　5月15日 陰晴　時々小雨 （13年前に越山の男立ち返り入牢、12日に大鰐組乳井村で初植え）
1732年　6月8日 享保17年　5月16日 晴　入梅に入る
1732年　6月9日 享保17年　5月17日 晴
1732年　6月10日 享保17年　5月18日 晴
1732年　6月11日 享保17年　5月19日 晴 （塩2斗5升入り1俵3匁3分5厘）
1732年　6月12日 享保17年　5月20日 陰晴
1732年　6月13日 享保17年　5月21日 晴
1732年　6月14日 享保17年　5月22日 快晴
1732年　6月15日 享保17年　5月23日 快晴　今朝巳の刻まで大霞
1732年　6月16日 享保17年　5月24日 陰晴
1732年　6月17日 享保17年　5月25日 曇　巳の刻より小雨時々
1732年　6月18日 享保17年　5月26日 晴
1732年　6月19日 享保17年　5月27日 曇　巳の刻雨　それより止む　午の刻雨　それより止む
1732年　6月20日 享保17年　5月28日 陰晴
1732年　6月21日 享保17年　5月29日 曇 （野内:出277・入り63・都合378人、碇関:出403・入り111・510人）　下から続く　切手紙1枚・5月中所々御関所出人都合168人、先月26日夜大鰐組嶋田脇道番所が強風で破損）
1732年　6月22日 享保17年閏5月1日　曇 （碇関口出88人(御国人36他国者52)御印紙38枚・野内口出他国者4人御印紙2枚・碇関口出御国人65人切手紙33枚・野内口出御国人7人切手紙2枚・青森湊口出御国人4人　上に続く
1732年　6月23日 享保17年閏5月2日　陰晴　今朝大き里(大霧)
1732年　6月24日 享保17年閏5月3日　快晴
1732年　6月25日 享保17年閏5月4日　快晴 （駒越組田代村で者が川流れ死亡、男牢死）
1732年　6月26日 享保17年閏5月5日　陰晴　卯の中刻小雨　それより晴
1732年　6月27日 享保17年閏5月6日　曇　巳の刻過ぎより雨　それより午の刻過ぎまで　それより時々雨 （南溜池で2歳ほどの子供死亡）
1732年　6月28日 享保17年閏5月7日　曇
1732年　6月29日 享保17年閏5月8日　快晴 （大鰐村より初木瓜上がる）
1732年　6月30日 享保17年閏5月9日　快晴

1732年　7月1日 享保17年閏5月10日 晴　未の刻雷発す （5月中大間越:出42・入り36・出入り78人、先月中野内:出46・入り256・人数343人、浦町組八役村の百姓の子変死、尾太5月出高:銅184箇1貫目・鉛276箇）
1732年　7月2日 享保17年閏5月11日 曇　昼の内雷数度発す　午の中刻より雨
1732年　7月3日 享保17年閏5月12日 曇　寅の刻過ぎ雷発す　終日雨　夜に入り数度雷発し小雨 （報恩寺に一粒金丹10粒、深浦町から2300俵下し置き願い・200俵下す、鰺ヶ沢町で39男落雷死?）
1732年　7月4日 享保17年閏5月13日 曇　巳の刻過ぎより午の刻まで雷数度 （松山・矢野が阿芙蓉御用人数を求める）
1732年　7月5日 享保17年閏5月14日 晴　午の刻雷数々発す （表坊主山上古林に褒美・金100疋）
1732年　7月6日 享保17年閏5月15日 晴
1732年　7月7日 享保17年閏5月16日 晴
1732年　7月8日 享保17年閏5月17日 快晴　暑気強く帷子着る　申の下刻小雨 （一粒金丹相馬長兵衛に3粒・渡辺次太夫に10粒、先月中碇関:出入り314人馬5疋）
1732年　7月9日 享保17年閏5月18日 快晴
1732年　7月10日 享保17年閏5月19日 陰晴　時々小雨
1732年　7月11日 享保17年閏5月20日 快晴　辰の下刻より巳の刻過ぎまで雨
1732年　7月12日 享保17年閏5月21日 晴
1732年　7月13日 享保17年閏5月22日 曇　寅の刻より雨　それより時々雨　夜に入り大雨　雷数度
1732年　7月14日 享保17年閏5月23日 曇　時々雨　未の刻より大雨　夜に入る
1732年　7月15日 享保17年閏5月24日 曇
1732年　7月16日 享保17年閏5月25日 晴　朝の内霧
1732年　7月17日 享保17年閏5月26日 晴
1732年　7月18日 享保17年閏5月27日 快晴　朝之霧 （当13日後潟組小国村で火災・火元村預け15日になり差免、一粒金丹の調合内容あり）
1732年　7月19日 享保17年閏5月28日 快晴　土用辰の一刻に入る
1732年　7月20日 享保17年閏5月29日 快晴
1732年　7月21日 享保17年閏5月30日 快晴
1732年　7月22日 享保17年　6月1日 快晴　未の刻過ぎ雷数発
1732年　7月23日 享保17年　6月2日 快晴　大暑 （木作御蔵大豆入札:1俵10匁8分3厘・沖役除く）
1732年　7月24日 享保17年　6月3日 快晴　大暑
1732年　7月25日 享保17年　6月4日 陰晴　午の刻より雨　終日に及ぶ
1732年　7月26日 享保17年　6月5日 陰晴　大暑
1732年　7月27日 享保17年　6月6日 快晴　酷暑
1732年　7月28日 享保17年　6月7日 快晴　酷暑
1732年　7月29日 享保17年　6月8日 陰晴 （5月11日植付の稲が57日で出穂・去年は5月6日植付7月1日に58日で出穂）
1732年　7月30日 享保17年　6月9日 晴
1732年　7月31日 享保17年　6月10日 快晴
1732年　8月1日 享保17年　6月11日 陰晴 （一粒金丹の調合道具あり）
1732年　8月2日 享保17年　6月12日 快晴
1732年　8月3日 享保17年　6月13日 曇
1732年　8月4日 享保17年　6月14日 快晴　下から続く　・出人都合139人、和徳組百田村の高無から御米願い・1人に2斗申付ける、青森町で男自害、先月中大間越:出入り都合92人・野内187人）
1732年　8月5日 享保17年　6月15日 快晴 （碇関口出他国者63人御印紙51枚・野内口出他国者2人御印紙1枚・三馬屋湊口出他国者2人御印紙1枚・碇関口出御国人71人切手紙34枚・野内口出御国人1人切手紙1枚　上に続く
1732年　8月6日 享保17年　6月16日 快晴　今朝霜 （表坊主山上古林御扶持切米召し上げ・弟大吉が死罪になったため）
1732年　8月7日 享保17年　6月17日 快晴 （今朝男牢死）
1732年　8月8日 享保17年　6月18日 晴　残暑
1732年　8月9日 享保17年　6月19日 陰晴
1732年　8月10日 享保17年　6月20日 晴
1732年　8月11日 享保17年　6月21日 晴
1732年　8月12日 享保17年　6月22日 晴
1732年　8月13日 享保17年　6月23日 陰晴
1732年　8月14日 享保17年　6月24日 陰晴　辰の刻小雨　午の刻過ぎ止む （先月24日以来照り続く・大円寺に御祈祷を申付ける、鰺ヶ沢御蔵米入札値段1俵15匁2分6厘）
1732年　8月15日 享保17年　6月25日 陰晴　残暑強し
1732年　8月16日 享保17年　6月26日 快晴
1732年　8月17日 享保17年　6月27日 陰晴　残暑強し （旱魃に付き百沢寺に五穀成就の御祈祷を申付ける）
1732年　8月18日 享保17年　6月28日 快晴　残暑強し （大鰐村加賀助・大坊村茂左衛門より初米上がる）
1732年　8月19日 享保17年　6月29日 快晴　残暑強し （男牢死、御初米は当年は5月11日植付日数77日で6月28日上げ・昨年は5月6日植付日数78日で7月24日上げる、昨28日百沢寺寺庵1坪ほど焼失）
1732年　8月20日 享保17年　7月1日 陰晴　残暑強し　午の刻より大雨　終日に及ぶ　未の下刻止む
1732年　8月21日 享保17年　7月2日 陰晴
1732年　8月22日 享保17年　7月3日 晴
1732年　8月23日 享保17年　7月4日 快晴　申の刻雨　則止む （先月24日尾崎組吹上村の庄屋から出火・他村預け御免、算筆御座なしと御蔵奉行を辞退する者あり・認められない）
1732年　8月24日 享保17年　7月5日 曇　時々雨
1732年　8月25日 享保17年　7月6日 快晴
1732年　8月26日 享保17年　7月7日 快晴　残暑甚だしい （男牢死、御内分より527両余御切米として貸し出す・御内分にも差し支えるので10両以上は2/3渡し）
1732年　8月27日 享保17年　7月8日 快晴　残暑甚だしい
1732年　8月28日 享保17年　7月9日 曇　今朝明け前雨暫く （米1俵沖御役入り16匁5分3厘、深浦御蔵米沖御役入り17匁6分6厘）
1732年　8月29日 享保17年　7月10日 快晴 （外崎喜六に一粒金丹3粒）
1732年　8月30日 享保17年　7月11日 快晴
1732年　8月31日 享保17年　7月12日 陰晴　午の中刻雨少々 （9日赤石組沢部村沖で破船1艘）

1732年　9月1日 享保17年　7月13日 晴　巳の中刻大雨　則相止む （和徳組百田村の御伝馬宿の高無に各2斗渡す）
1732年　9月2日 享保17年　7月14日 晴
1732年　9月3日 享保17年　7月15日 快晴
1732年　9月4日 享保17年　7月16日 快晴
1732年　9月5日 享保17年　7月17日 快晴　午の中刻過ぎ地震暫く
1732年　9月6日 享保17年　7月18日 陰晴　小風
1732年　9月7日 享保17年　7月19日 晴　小風 （竹内源太夫(御留守居組頭?)に一粒金丹10粒、1日広須新田で洪水被害、1日鯵ヶ沢の七つ石町で川欠け）
1732年　9月8日 享保17年　7月20日 陰晴
1732年　9月9日 享保17年　7月21日 快晴 （昨日広田新田掛落林村の男道心縊死）
1732年　9月10日 享保17年　7月22日 曇　未の刻前より少し雨
1732年　9月11日 享保17年　7月23日 曇　昨夜より雨　午の刻過ぎまで
1732年　9月12日 享保17年　7月24日 曇 （渡良瀬普請料金996両・1両につき88匁9分7厘、去年892両・1両につき80目9分6厘）
1732年　9月13日 享保17年　7月25日 快晴
1732年　9月14日 享保17年　7月26日 曇　時々小雨　巳の刻　夜小雨
1732年　9月15日 享保17年　7月27日 晴　　下から続く　　6月出高:銅196箇15貫目・鉛317箇4貫目）
1732年　9月16日 享保17年　7月28日 陰晴 （6月中碇関口出他国者68人御印紙44枚・大間越口出御国人50人切手紙24枚・野内口出御国人3人切手紙1枚、尾太閏5月出高:銅175箇8貫目・鉛310箇1貫目、　　上に続く
1732年　9月17日 享保17年　7月29日 快晴　夜に入り寅の下刻より雨
1732年　9月18日 享保17年　7月30日 陰晴　夜に入り小雨　それより大雨
1732年　9月19日 享保17年　8月1日 曇　時々小雨
1732年　9月20日 享保17年　8月2日 陰晴 （百沢寺より例年の苔実上がる、岩木山参詣の34・5男種蒔苗代下で倒死）
1732年　9月21日 享保17年　8月3日 快晴
1732年　9月22日 享保17年　8月4日 曇　終日雨 （1日の岩木山の倒死は大組足軽・他にも行方不明者あり、広須新田蓮沼村で僧・長勝寺にも不明者縊死、藤崎組藤崎村に乞食坊主倒死）
1732年　9月23日 享保17年　8月5日 晴　昨夜中雨
1732年　9月24日 享保17年　8月6日 晴
1732年　9月25日 享保17年　8月7日 曇　今朝小雨　午の刻より雨　終日に及ぶ
1732年　9月26日 享保17年　8月8日 曇　時々小雨 （4日油川港の強風で水船1艘）
1732年　9月27日 享保17年　8月9日 晴 （5日十三沖で難風・破船1艘、齋藤新五兵衛に一粒金丹3粒）
1732年　9月28日 享保17年　8月10日 晴 （田中与左衛門に一粒金丹3粒）
1732年　9月29日 享保17年　8月11日 快晴 （7月17日阿部隠岐守様御奥様御逝去、津軽帯刀に3000石、当5月野内:出入り都合343人・6月中(閏5月?):出入り188・6月中:404人、閏5月中碇関:474・7月中碇関:出入り452人）
1732年　9月30日 享保17年　8月12日 曇　卯の中刻雨
1732年　10月1日 享保17年　8月13日 晴
1732年　10月2日 享保17年　8月14日 陰晴　卯の中刻小雨
1732年　10月3日 享保17年　8月15日 晴　今朝小雨　酉の刻より時々雨
1732年　10月4日 享保17年　8月16日 陰晴　時々小雨
1732年　10月5日 享保17年　8月17日 曇　時々小雨 （碇関口御関所出人146人(御国人76・他国者70)御印紙52枚・碇関口御関所出人御国人66人切手紙33枚・7月中出人都合212人）
1732年　10月6日 享保17年　8月18日 曇　時々小雨　夜に入り小雨
1732年　10月7日 享保17年　8月19日 曇　今朝岩木山御肩の下まで初雪見ゆる　時々小雨　終日およふ （赤田組板屋野木村で狼に食われて死者1人）
1732年　10月8日 享保17年　8月20日 陰晴
1732年　10月9日 享保17年　8月21日 曇　終日雨　夜中に及ぶ （御薬園畑にて冬瓜40出来）
1732年 10月10日 享保17年　8月22日 曇
1732年 10月11日 享保17年　8月23日 快晴
1732年 10月12日 享保17年　8月24日 陰晴 （一粒金丹御用として3年酒1升・焼酒2升5合）
1732年 10月13日 享保17年　8月25日 曇　終日雨
1732年 10月14日 享保17年　8月26日 晴 （冬瓜大が3文・小が2文で売り出す、橋雲寺の地蔵尊出汗・御神事）
1732年 10月15日 享保17年　8月27日 晴 （初鮭上がる、大間越町奉行より9月分御米55俵御払い願い・1俵17匁1分2厘6毛で払出す）
1732年 10月16日 享保17年　8月28日 快晴
1732年 10月17日 享保17年　8月29日 陰晴　夜中小雨
1732年 10月18日 享保17年　8月30日 曇　今朝小雨　夜に入り大雨　雷度々発す
1732年 10月19日 享保17年　9月1日 晴
1732年 10月20日 享保17年　9月2日 快晴
1732年 10月21日 享保17年　9月3日 晴
1732年 10月22日 享保17年　9月4日 晴
1732年 10月23日 享保17年　9月5日 晴　夜戌の下刻小雨
1732年 10月24日 享保17年　9月6日 快晴 （御掃除小人の女房変死）
1732年 10月25日 享保17年　9月7日 陰晴　時々小雨　　下から続く　　・大間越1人1枚、8月中出人都合155人）
1732年 10月26日 享保17年　9月8日 曇　卯の上刻小雨　則止む　雨終夜に及ぶ （碇関口御関所出他国者107人御印紙60枚・大間越1人1枚・野内7人3枚・青森湊8人1枚、碇関口出御国者31人切手紙22枚　　上に続く
1732年 10月27日 享保17年　9月9日 曇　昨夜よりの雨　終日に及ぶ （流木割付:御家老142本←去年196本・御用人82本←113・大目付58本←80・四奉行41本←59・御目付26本←36……）
1732年 10月28日 享保17年　9月10日 曇　終日雨　昼申の刻過ぎ地震
1732年 10月29日 享保17年　9月11日 晴
1732年 10月30日 享保17年　9月12日 晴
1732年 10月31日 享保17年　9月13日 快晴

1732年　11月1日 享保17年　9月14日 陰晴 （黒石阿ら連20袋御買上げ）
1732年　11月2日 享保17年　9月15日 曇 時々雨 （尾太8月出高:銅184箇（16貫目入り）・鉛328箇2貫目）
1732年　11月3日 享保17年　9月16日 晴 酉の下刻より雨 雷電数度発す
1732年　11月4日 享保17年　9月17日 曇 雨終日に及ぶ
1732年　11月5日 享保17年　9月18日 快晴 今朝岩木山萱立まで雪降
1732年　11月6日 享保17年　9月19日 晴 今朝大霜降 （篠塚典膳組（諸手）足軽に福眞左兵衛を新規召抱え）
1732年　11月7日 享保17年　9月20日 快晴 今朝霜
1732年　11月8日 享保17年　9月21日 快晴 今朝霜
1732年　11月9日 享保17年　9月22日 曇 小雨時々 夜に入る
1732年 11月10日 享保17年　9月23日 曇 巳の下刻過ぎ地震 （国上寺不動尊御出汗・神楽申付ける、本行寺で道心縊死）
1732年 11月11日 享保17年　9月24日 曇 昨夜中雪降
1732年 11月12日 享保17年　9月25日 快晴 午の刻過ぎより雨 （西国・四国・中国筋で作毛虫付く、去月晦日法門院様?薨去）
1732年 11月13日 享保17年　9月26日 快晴
1732年 11月14日 享保17年　9月27日 快晴
1732年 11月15日 享保17年　9月28日 快晴
1732年 11月16日 享保17年　9月29日 快晴 今朝霜
1732年 11月17日 享保17年　9月30日 曇 夜に入り雨
1732年 11月18日 享保17年　10月1日 陰晴 時々雨　下から続く　出人都合146人、（先月）22日夜小泊前沖で難風・破船1艘）
1732年 11月19日 享保17年　10月2日 晴 （碇関口出人84人（御国人12・他国者72）御印紙48枚・野内口出他国者1人御印紙1枚、碇関口出御国人58人切手紙30枚・野内口御国人3人切手紙1枚、9月中所々御関所　上に続く
1732年 11月20日 享保17年　10月3日 晴 今朝大霜
1732年 11月21日 享保17年　10月4日 快晴 大霜 （館山善左衛門に一粒金丹5粒）
1732年 11月22日 享保17年　10月5日 陰晴
1732年 11月23日 享保17年　10月6日 曇 昨夜中より雨
1732年 11月24日 享保17年　10月7日 曇
1732年 11月25日 享保17年　10月8日 快晴 （齋藤新五兵衛に一粒金丹3粒）
1732年 11月26日 享保17年　10月9日 快晴 （9月中大間越:出入り合133人）
1732年 11月27日 享保17年　10月10日 曇 夜に入り雨
1732年 11月28日 享保17年　10月11日 曇 時々雨
1732年 11月29日 享保17年　10月12日 快晴
1732年 11月30日 享保17年　10月13日 曇 昨夜中より雨 今朝辰の刻過ぎ地震
1732年　12月1日 享保17年　10月14日 曇 夜中雪降 終日 夜中に及ぶ
1732年　12月2日 享保17年　10月15日 陰晴
1732年　12月3日 享保17年　10月16日 陰晴
1732年　12月4日 享保17年　10月17日 陰晴 昨夜亥の中刻より雨 今朝卯の下刻に止む （松田長左衛門に一粒金丹3粒）
1732年　12月5日 享保17年　10月18日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ 辰の中刻過ぎ地震
1732年　12月6日 享保17年　10月19日 曇 雨雪 （久栗坂より初鱈1尾上がる）
1732年　12月7日 享保17年　10月20日 曇 終日雪
1732年　12月8日 享保17年　10月21日 陰晴 昨夜中雪
1732年　12月9日 享保17年　10月22日 晴
1732年 12月10日 享保17年　10月23日 陰晴
1732年 12月11日 享保17年　10月24日 陰晴 小雪 御堀へ氷張る
1732年 12月12日 享保17年　10月25日 曇 午の刻より時々小雪
1732年 12月13日 享保17年　10月26日 曇 昨夜雪三寸ほど降 巳の刻より終日雪
1732年 12月14日 享保17年　10月27日 曇 昨夜より雪 終日に及ぶ
1732年 12月15日 享保17年　10月28日 陰晴 小雪
1732年 12月16日 享保17年　10月29日 曇 終日雪 （成田彦左衛門に一粒金丹3粒、9月中碇関:出入り都合292人、古大豆1俵に付き7匁5分）
1732年 12月17日 享保17年　11月1日 陰晴 （雑穀1升当り:上蕎麦8合2夕・上黒小豆5合5夕・上青鶴大豆7合7夕・次大豆1升3合5才）
1732年 12月18日 享保17年　11月2日 晴 （荏粒油平均1匁に3升3合5夕）
1732年 12月19日 享保17年　11月3日 陰晴
1732年 12月20日 享保17年　11月4日 晴 昨夜雨 （雉子1羽値段:11月10日まで雄6匁雌5匁・11日から20日まで5匁5分4匁5分・21日以降5匁4匁）
1732年 12月21日 享保17年　11月5日 曇 冬至 卯の刻より雨 終日に及ぶ夜に入る
1732年 12月22日 享保17年　11月6日 曇 夜中より雨 終日に及ぶ （不行跡者処分）
1732年 12月23日 享保17年　11月7日 晴 夜に入り雪 （碇関口御関所出人78人(御国人4他国者74)御印紙49枚・碇関御関所出御国人28人切手紙12枚、御金3000両を御内分より御貸出）
1732年 12月24日 享保17年　11月8日 曇 午の刻より時々小雪
1732年 12月25日 享保17年　11月9日 晴 昨夜中雪
1732年 12月26日 享保17年　11月10日 陰晴 昨夜より雪 終日に及ぶ （唐牛刑部左衛門に一粒金丹5粒）
1732年 12月27日 享保17年　11月11日 陰晴 昨夜より雪 終日に及ぶ （一粒金丹御用に膃肭臍（オットセイ)150本、和徳町に50余道心倒死）
1732年 12月28日 享保17年　11月12日 陰晴 時々小雪
1732年 12月29日 享保17年　11月13日 陰晴 時々雪
1732年 12月30日 享保17年　11月14日 曇 卯の刻雪 午の刻より晴 夜中雪三四寸降
1732年 12月31日 享保17年　11月15日 晴 時々雪 未の刻より大吹雪 夜中に及ぶ （不行跡者処分に関連した中規模人事異動、立石村に男倒死）

1733年　1月1日 享保17年　11月16日 曇　終日大吹雪　夜に入り雪1尺余降
1733年　1月2日 享保17年　11月17日 曇　終日雪（10日横内組作道村で火災・火元村預け御免、尾太10月出高:銅205箇13貫目・鉛335箇2貫目）
1733年　1月3日 享保17年　11月18日 晴
1733年　1月4日 享保17年　11月19日 曇　終日雪（十三屋敷物成米駄賃込み1俵17匁5分6厘1毛）
1733年　1月5日 享保17年　11月20日 晴　酉の刻より小寒入り　午の刻過ぎより雪
1733年　1月6日 享保17年　11月21日 陰晴　時々小雪
1733年　1月7日 享保17年　11月22日 快晴
1733年　1月8日 享保17年　11月23日 陰晴　雪終日に及ぶ
1733年　1月9日 享保17年　11月24日 曇　午の刻より雪
1733年　1月10日 享保17年　11月25日 快晴
1733年　1月11日 享保17年　11月26日 快晴
1733年　1月12日 享保17年　11月27日 陰晴
1733年　1月13日 享保17年　11月28日 曇（後潟組・赤石組代官から当作虫付き対策、20日駒越組で火災・火元村預け差免）
1733年　1月14日 享保17年　11月29日 曇（太田権左衛門・浅利八右衛門に一粒金丹各3粒）
1733年　1月15日 享保17年　11月30日 曇　午の刻より小雪（21日駒越組大秋村の新兵衛が熊（胆長3寸廻り3寸生目9匁:2歳）取る、11月中大間越:出16・入り14・都合30人）
1733年　1月16日 享保17年　12月1日 陰晴　昨夜中より雪　終日夜に及ぶ（青森津出し米御役入りで1俵21匁）
1733年　1月17日 享保17年　12月2日 陰晴　小雪時々（当10月中碇関:出入り316人、10月中野内:出入り203人、11月中大間越:出入り52人）
1733年　1月18日 享保17年　12月3日 陰晴
1733年　1月19日 享保17年　12月4日 晴（成田彦左衛門に一粒金丹3粒）
1733年　1月20日 享保17年　12月5日 陰晴　子の初刻大寒
1733年　1月21日 享保17年　12月6日 曇　時々雪　夜に入る
1733年　1月22日 享保17年　12月7日 曇　終日吹雪
1733年　1月23日 享保17年　12月8日 曇　終日雪　夜に入り大雪
1733年　1月24日 享保17年　12月9日 陰晴（田中与左衛門に一粒金丹3粒）
1733年　1月25日 享保17年　12月10日 曇　終日雪
1733年　1月26日 享保17年　12月11日 曇　終日雪　夜に入る
1733年　1月27日 享保17年　12月12日 陰晴　時々雪（当暮渡御切米として778両余を御内分より御貸出）
1733年　1月28日 享保17年　12月13日 晴　雪夜中に及ぶ
1733年　1月29日 享保17年　12月14日 陰晴　終日雪　夜に及ぶ
1733年　1月30日 享保17年　12月15日 晴
1733年　1月31日 享保17年　12月16日 陰晴
1733年　2月1日 享保17年　12月17日 陰晴　雪（8日小泊村に鯨が流れ寄せる・同所の者へ下し置かれる旨申し遣わす、尾太11月出高:銅171固12貫目・鉛332固12貫目）
1733年　2月2日 享保17年　12月18日 陰晴
1733年　2月3日 享保17年　12月19日 陰晴　昨夜中より今朝巳の刻まで大吹雪
1733年　2月4日 享保17年　12月20日 陰晴　時々雪　終日に及ぶ　夜中寒気甚だしい（12月4日金木組不動林村に男道心倒死）
1733年　2月5日 享保17年　12月21日 曇　寒気甚だしい　時々吹雪
1733年　2月6日 享保17年　12月22日 曇　時々吹雪　寒気甚だしい
1733年　2月7日 享保17年　12月23日 曇　時々雪
1733年　2月8日 享保17年　12月24日 曇　時々小雪
1733年　2月9日 享保17年　12月25日 晴
1733年　2月10日 享保17年　12月26日 晴
1733年　2月11日 享保17年　12月27日 曇　終日雪
1733年　2月12日 享保17年　12月28日 曇　時々雪
1733年　2月13日 享保17年　12月29日 陰晴　時々小雪
1733年　2月14日 享保18年正月1日　陰晴　夜に入り雪
1733年　2月15日 享保18年正月2日　快晴
1733年　2月16日 享保18年正月3日　曇　卯の中刻より小雨　終日夜に及ぶ
1733年　2月17日 享保18年正月4日　陰晴
1733年　2月18日 享保18年正月5日　陰晴
1733年　2月19日 享保18年正月6日　曇　小雪　午の刻より大吹雪　夜中に及ぶ(夜中及)
1733年　2月20日 享保18年正月7日　晴
1733年　2月21日 享保18年正月8日　晴
1733年　2月22日 享保18年正月9日　曇（今夏秋西国筋作毛夥しく虫付き大飢饉にて餓死の者夥しい）
1733年　2月23日 享保18年正月10日　陰晴
1733年　2月24日 享保18年正月11日　晴
1733年　2月25日 享保18年正月12日　晴
1733年　2月26日 享保18年正月13日　晴
1733年　2月27日 享保18年正月14日　陰晴　時々小雪
1733年　2月28日 享保18年正月15日　曇　今朝小雪

1733年　3月1日 享保18年正月16日　陰晴
1733年　3月2日 享保18年正月17日　曇　雨 （去る秋西国中国筋残らず稲に虫付き米穀皆無のところ多し）
1733年　3月3日 享保18年正月18日　曇　終日小雪
1733年　3月4日 享保18年正月19日　陰晴　今朝雪
1733年　3月5日 享保18年正月20日　陰晴　終日雪　夜に及ぶ （当月中大間越:出8・入り92人）
1733年　3月6日 享保18年正月21日　陰晴
1733年　3月7日 享保18年正月22日　曇　時々雪 （尾太12月出高:銅136箇3貫目・鉛366箇8貫目）
1733年　3月8日 享保18年正月23日　曇　雪風　終日に及ぶ
1733年　3月9日 享保18年正月24日　陰晴 （報恩寺に一粒金丹5粒）
1733年　3月10日 享保18年正月25日　陰晴
1733年　3月11日 享保18年正月26日　陰晴　酉の刻より小雨
1733年　3月12日 享保18年正月27日　曇　昨夜中より吹雪　終日に及ぶ　申の刻地震　　下から続く　（3寸5寸3歩20匁）それぞれ熊取る、駒越組駒越村に男倒死）
1733年　3月13日 享保18年正月28日　陰晴　昨夜中より吹雪 （12月19日後潟組の孫四郎（胆長3寸廻り3寸4歩生目25匁:6歳）・12月1日駒越組田代村の治右衛門（25匁）・12月5日大鰐組森山村の弥左衛門　　上に続く
1733年　3月14日 享保18年正月29日　晴
1733年　3月15日 享保18年正月30日　曇 （10日駒越組大秋村の新兵衛（胆長4寸5歩廻り6寸生目55匁）・7日広須新田芦沼村の者3人（3寸5歩3寸7歩）・19日大鰐組早瀬野村の長五郎（4寸2歩6寸8歩25文目）それぞれ熊取る）
1733年　3月16日 享保18年　2月1日 晴
1733年　3月17日 享保18年　2月2日 快晴
1733年　3月18日 享保18年　2月3日 陰晴　午の刻過ぎより雨　夜に入り亥の刻過ぎ晴
1733年　3月19日 享保18年　2月4日 曇　終日小雪　夜中に及ぶ
1733年　3月20日 享保18年　2月5日 晴
1733年　3月21日 享保18年　2月6日 陰晴　戌の刻より雨　終夜に及ぶ
1733年　3月22日 享保18年　2月7日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1733年　3月23日 享保18年　2月8日 晴　昨夜中雨
1733年　3月24日 享保18年　2月9日 快晴 （去る月27日宇鉄で破船1艘）
1733年　3月25日 享保18年　2月10日 快晴　今朝霜
1733年　3月26日 享保18年　2月11日 快晴 （9日夜深浦町で火災5軒）
1733年　3月27日 享保18年　2月12日 曇　雨終日　夜に入り風
1733年　3月28日 享保18年　2月13日 曇
1733年　3月29日 享保18年　2月14日 快晴
1733年　3月30日 享保18年　2月15日 快晴 （十三潟が13日に明ける（2月9日皮岸入り）・昨年は2月28日飛かん入りで3月6日明ける:彼岸にもいろいろ書き方がある）
1733年　3月31日 享保18年　2月16日 曇　時々小雨 （尾太正月出高:銅78箇14貫目・鉛238箇4貫目）
1733年　4月1日 享保18年　2月17日 曇　辰の刻少し雨 （上十川の米留として諸手足軽山上源次郎）
1733年　4月2日 享保18年　2月18日 曇　昨夜中小雪　夜に入り雪
1733年　4月3日 享保18年　2月19日 晴 （9日深浦町の火災で火元とされた2軒の入寺御免、金木新田蒔田村・高杉組独鈷村の火元（共に出火日不明）の村預け御免）
1733年　4月4日 享保18年　2月20日 晴
1733年　4月5日 享保18年　2月21日 晴 （18日十三潟が舟が通るように明ける、当正月4日男牢死）
1733年　4月6日 享保18年　2月22日 晴
1733年　4月7日 享保18年　2月23日 快晴
1733年　4月8日 享保18年　2月24日 陰晴　未の刻過ぎより雨　終夜に及ぶ （当春渡御切米（10ヶ1差し引き）のため御内分より903両余御貸出）
1733年　4月9日 享保18年　2月25日 快晴
1733年　4月10日 享保18年　2月26日 快晴
1733年　4月11日 享保18年　2月27日 陰晴　辰の刻より風　終日に及ぶ （昨昼七時藤代組小友村で火災1軒・火元村預け）
1733年　4月12日 享保18年　2月28日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ （浦町組・駒越組・大鰐組・堀越組でそれぞれ熊取る）
1733年　4月13日 享保18年　2月29日 晴 （22日夜御家中の娘行方不明・同時に割付中間も）
1733年　4月14日 享保18年　3月1日 曇　卯の刻より雨　午の刻に止む （碇関口御関所出他国者39人御印紙32枚・野内口1人1枚、碇関口出御国人24人切手紙16枚・野内口2人1枚、2月中所々御関所出人都合66人）
1733年　4月15日 享保18年　3月2日 陰晴
1733年　4月16日 享保18年　3月3日 曇
1733年　4月17日 享保18年　3月4日 快晴 （今別町から御蔵米200俵小売米願い・半分申し付ける）
1733年　4月18日 享保18年　3月5日 晴
1733年　4月19日 享保18年　3月6日 快晴
1733年　4月20日 享保18年　3月7日 快晴　昨夜中小雨 （先月17日鬼沢村狼長根で盗賊?）
1733年　4月21日 享保18年　3月8日 陰晴　今朝霜　夜に入り風 （藤代組小友村(26日)の火元の村預け御免）
1733年　4月22日 享保18年　3月9日 陰晴　午の刻より未の刻まで雨風　酉の刻雷発す （先達て長浜に死人が流れ寄せる）
1733年　4月23日 享保18年　3月10日 陰晴　酉の刻より雨
1733年　4月24日 享保18年　3月11日 曇　卯の中刻まで雨　それより風 （御蔵町の男の死骸検分相すむ、昨晩の雨で岩木川駒越渡止める）
1733年　4月25日 享保18年　3月12日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ （尾太2月出高:銅180箇8貫目・鉛379箇3貫目）
1733年　4月26日 享保18年　3月13日 曇　雨終日に及ぶ
1733年　4月27日 享保18年　3月14日 陰晴　巳の刻より雨　夜に入り大雨
1733年　4月28日 享保18年　3月15日 陰晴　昨夜中より雨辰の中刻まで　夜に入り大雨 （田畑虫付き対策のお触れ、9日岩崎村浜中に松前船破船1艘、五山に日和上げ御祈祷を仰せ付ける）
1733年　4月29日 享保18年　3月16日 陰晴　時々雨
1733年　4月30日 享保18年　3月17日 快晴

1733年　5月1日 享保18年　3月18日 快晴
1733年　5月2日 享保18年　3月19日 曇　時々小雨 （深浦町から御蔵米の小売願い・代銭は相場に駄賃と運賃を加え1俵に付き20目3分9厘）
1733年　5月3日 享保18年　3月20日 陰晴　昨夜酉の刻過ぎ雨 （4日夜猿賀組猿賀村で火災・火元押込め）
1733年　5月4日 享保18年　3月21日 快晴 （賭博宿・越山立帰り・盗人等7人斬罪）
1733年　5月5日 享保18年　3月22日 陰晴 （大間越町同心が熊打ち留める）
1733年　5月6日 享保18年　3月23日 曇　午の刻より小雨
1733年　5月7日 享保18年　3月24日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ　申の刻より止む
1733年　5月8日 享保18年　3月25日 快晴
1733年　5月9日 享保18年　3月26日 快晴
1733年　5月10日 享保18年　3月27日 快晴
1733年　5月11日 享保18年　3月28日 陰晴　戌の刻より雨
1733年　5月12日 享保18年　3月29日 陰晴　申の刻雨　雷数度発す　亥の刻地震暫く強し
1733年　5月13日 享保18年　3月30日 晴
1733年　5月14日 享保18年　4月1日 晴
1733年　5月15日 享保18年　4月2日 陰晴 （関五郎右衛門に一粒金丹3粒）
1733年　5月16日 享保18年　4月3日 晴　亥の刻より雨　終夜に及ぶ
1733年　5月17日 享保18年　4月4日 曇　小雨　午の刻より風
1733年　5月18日 享保18年　4月5日 晴
1733年　5月19日 享保18年　4月6日 晴　巳の刻少々曇　それより晴　夜中風雨
1733年　5月20日 享保18年　4月7日 晴 （3日深浦で佐渡船に病死者、3日（月か）中大間越:出入り都合86人、尾太3月出高:銅185箇5貫目・鉛398箇2貫目）
1733年　5月21日 享保18年　4月8日 晴　申の下刻より雨　夜中に及ぶ
1733年　5月22日 享保18年　4月9日 陰晴
1733年　5月23日 享保18年　4月10日 快晴 （油川組沖館村の野合いに者倒死）
1733年　5月24日 享保18年　4月11日 快晴 （先月26日久栗坂村で野火（60間×40間）、水木惣左衛門に一粒金丹3粒）
1733年　5月25日 享保18年　4月12日 陰晴
1733年　5月26日 享保18年　4月13日 曇　終日雨　夜に入り小雨
1733年　5月27日 享保18年　4月14日 曇　時々小雨
1733年　5月28日 享保18年　4月15日 晴　昨夜中より小風　終日に及ぶ
1733年　5月29日 享保18年　4月16日 陰晴
1733年　5月30日 享保18年　4月17日 陰晴　未の刻過ぎより時々雨
1733年　5月31日 享保18年　4月18日 陰晴　巳の刻前少し雨　未の刻過ぎ雷発す （15日深浦で播州船頭病死、7日夜蟹田町で火災9軒）
1733年　6月1日 享保18年　4月19日 曇　卯の刻時分より少し雨時々 （一粒金丹の調合用具の要求）
1733年　6月2日 享保18年　4月20日 晴　申の中刻過ぎ小雨 （和徳町で田植え初め）
1733年　6月3日 享保18年　4月21日 陰晴
1733年　6月4日 享保18年　4月22日 晴 （18日青森付近で越前の船に落雷）
1733年　6月5日 享保18年　4月23日 快晴
1733年　6月6日 享保18年　4月24日 快晴
1733年　6月7日 享保18年　4月25日 快晴 （昨夜亀甲町に投げ火）
1733年　6月8日 享保18年　4月26日 快晴
1733年　6月9日 享保18年　4月27日 快晴
1733年　6月10日 享保18年　4月28日 曇
1733年　6月11日 享保18年　4月29日 今朝霧　午の刻より快晴
1733年　6月12日 享保18年　5月1日 晴 （去月20日御馬廻り組小山内（長内）市太郎逐電）
1733年　6月13日 享保18年　5月2日 快晴 （26日小国山で野火（60間×30間））
1733年　6月14日 享保18年　5月3日 快晴
1733年　6月15日 享保18年　5月4日 快晴 （4月26日飯詰組福岡村で火災・火元村預け・日数8日で差免）
1733年　6月16日 享保18年　5月5日 晴
1733年　6月17日 享保18年　5月6日 晴
1733年　6月18日 享保18年　5月7日 晴　午の刻より小風 （昨年大雪で……）
1733年　6月19日 享保18年　5月8日 晴 （石江岡徳左衛門に一粒金丹3粒）
1733年　6月20日 享保18年　5月9日 曇　巳の刻より時々小雨
1733年　6月21日 享保18年　5月10日 陰晴　昨夜中より時々雨
1733年　6月22日 享保18年　5月11日 曇　小雨 （尾太4月分出高:銅204固と5貫目・鉛413固と5貫目、?日飯詰組持子沢村で火災・火元村預け御免）
1733年　6月23日 享保18年　5月12日 曇　亥の刻より小雨 （?日小国山で野火（50間×30間））
1733年　6月24日 享保18年　5月13日 曇
1733年　6月25日 享保18年　5月14日 陰晴
1733年　6月26日 享保18年　5月15日 快晴
1733年　6月27日 享保18年　5月16日 晴
1733年　6月28日 享保18年　5月17日 晴
1733年　6月29日 享保18年　5月18日 晴
1733年　6月30日 享保18年　5月19日 晴　夜子の刻より雨　雷発す

1733年　7月1日 享保18年　5月20日 曇　昨夜中より雨　辰の刻過ぎ雷発す　午の刻より晴　(16日小泊で加賀船水主が病死)
1733年　7月2日 享保18年　5月21日 曇　卯の刻過ぎ大雨　雷発す　巳の中刻過ぎ雨止む　(大円寺に一粒金丹5粒)
1733年　7月3日 享保18年　5月22日 曇
1733年　7月4日 享保18年　5月23日 曇
1733年　7月5日 享保18年　5月24日 晴　(先頃(4月7日)の蟹田町の火元の遠慮赦免、先頃の鰺ヶ沢町の火元の入寺赦免)
1733年　7月6日 享保18年　5月25日 晴　朝霧
1733年　7月7日 享保18年　5月26日 陰晴
1733年　7月8日 享保18年　5月27日 陰晴　午の中刻過ぎより小雨　(亜芙蓉の花昨日より咲く、野内町で火災・火元入寺)
1733年　7月9日 享保18年　5月28日 晴　(当月6日大組足軽自害)
1733年　7月10日 享保18年　5月29日 晴　今朝霧　(亜芙蓉御用での受取り物品一覧)
1733年　7月11日 享保18年　6月1日 陰晴
1733年　7月12日 享保18年　6月2日 陰晴　(深浦町奉行石江岡徳左衛門に一粒金丹3粒)
1733年　7月13日 享保18年　6月3日 曇　辰の刻より雨　巳の刻止む　夜に入り雨
1733年　7月14日 享保18年　6月4日 晴　(先月28日金木組脇本村浜で越後船破船)
1733年　7月15日 享保18年　6月5日 晴
1733年　7月16日 享保18年　6月6日 晴　(鰺ヶ沢で摂州船の水主病死)
1733年　7月17日 享保18年　6月7日 晴　(4日朝秋田渡鹿沖の雨風で赤石組沢部村の磯で越後船破船)
1733年　7月18日 享保18年　6月8日 快晴
1733年　7月19日 享保18年　6月9日 曇　未の初刻土用　(江戸の貸し金100両に1割半の利息)
1733年　7月20日 享保18年　6月10日 晴　(先月の野内町の庵寺火元の退落?御免、尾太5月出高:銅209箇8貫目・鉛309箇10貫目)
1733年　7月21日 享保18年　6月11日 晴　(当5月中大間越:出入り43人)
1733年　7月22日 享保18年　6月12日 曇　暑気強
1733年　7月23日 享保18年　6月13日 晴
1733年　7月24日 享保18年　6月14日 快晴
1733年　7月25日 享保18年　6月15日 快晴　酷暑　(大鰐村より初真瓜5・初茄子5上がる、一粒金丹調合用に三年酒3升・焼酒7升)
1733年　7月26日 享保18年　6月16日 快晴
1733年　7月27日 享保18年　6月17日 快晴　夜に入り雨　(7日夜浪岡組柳久保村の高無1軒(2間半×3間)3人走る)
1733年　7月28日 享保18年　6月18日 曇　巳の刻より時々少し雨
1733年　7月29日 享保18年　6月19日 晴
1733年　7月30日 享保18年　6月20日 曇　昨夜酉の刻より雨　終日に及ぶ
1733年　7月31日 享保18年　6月21日 快晴
1733年　8月1日 享保18年　6月22日 晴
1733年　8月2日 享保18年　6月23日 快晴
1733年　8月3日 享保18年　6月24日 晴
1733年　8月4日 享保18年　6月25日 快晴　甚だしく暑い
1733年　8月5日 享保18年　6月26日 快晴　小風　夜に入り大雨　雷発す
1733年　8月6日 享保18年　6月27日 晴
1733年　8月7日 享保18年　6月28日 晴　(唐牛刑部左衛門を御用人に等の人事異動、4月26日植付の稲が60日で今日出穂、深浦町に250軒の住民あり)
1733年　8月8日 享保18年　6月29日 晴　申の後刻少し雨　則止む　(紀州から昨年田畑不作(虫付きの飢饉)・米2000俵津出願い・800俵を出す)
1733年　8月9日 享保18年　6月30日 晴　(唐牛刑部左衛門に一粒金丹10粒、坂田の役人が南部に行く・料理・材料・値段等あり)
1733年　8月10日 享保18年　7月1日 陰晴
1733年　8月11日 享保18年　7月2日 陰晴
1733年　8月12日 享保18年　7月3日 陰晴
1733年　8月13日 享保18年　7月4日 陰晴　未の刻雷発す　(入札:朽ち米22俵代300匁3分・長4尋丸木舟(帆かい付)21匁1分9厘9毛、昨日阿芙蓉を取終る、2日以前に後潟組六枚橋村に2歳女子の死骸上がる・親の過失)
1733年　8月14日 享保18年　7月5日 晴
1733年　8月15日 享保18年　7月6日 晴
1733年　8月16日 享保18年　7月7日 快晴　(御切米渡し方のため御内分より571両余御貸出:これ以外にも度々貸し出しているが返済の記録なし)
1733年　8月17日 享保18年　7月8日 快晴　残暑強い　(紅花を御払い、尾太6月出高:銅276固と1貫目・鉛428固と9貫目、昨7日金木組川倉村で火災・火元村預け)
1733年　8月18日 享保18年　7月9日 曇　巳の刻より大雨　雷度々発す
1733年　8月19日 享保18年　7月10日 晴　(大間越町に飯米なく御払い米70俵願い・御用米も不足に付き駄賃運賃込み1俵20匁1分3厘で10俵払出す)
1733年　8月20日 享保18年　7月11日 曇
1733年　8月21日 享保18年　7月12日 快晴
1733年　8月22日 享保18年　7月13日 曇　終日小雨
1733年　8月23日 享保18年　7月14日 晴
1733年　8月24日 享保18年　7月15日 曇
1733年　8月25日 享保18年　7月16日 晴　(男牢死)
1733年　8月26日 享保18年　7月17日 晴　夜に入り小雨　(御用人市川吉左衛門に一粒金丹10粒)
1733年　8月27日 享保18年　7月18日 晴
1733年　8月28日 享保18年　7月19日 晴　(明珍与兵衛に一粒金丹5粒、大坊村茂左衛門と大鰐村加賀助から御初米3箱ずつ上がる)
1733年　8月29日 享保18年　7月20日 快晴　酉の刻より雨　終夜に及ぶ
1733年　8月30日 享保18年　7月21日 曇　未の中刻より雨　申の刻に及び止む　又夜に入り雨
1733年　8月31日 享保18年　7月22日 晴　(御家老3人風邪・御用人も)

1733年　9月1日 享保18年　7月23日 陰晴
1733年　9月2日 享保18年　7月24日 快晴　残暑強い　辰の中刻小雨　則止む
1733年　9月3日 享保18年　7月25日 晴　残暑強い
1733年　9月4日 享保18年　7月26日 晴　残暑強い
1733年　9月5日 享保18年　7月27日 快晴　(病人が多い)
1733年　9月6日 享保18年　7月28日 曇　辰の中刻過ぎ小雨　則止む　巳の刻より晴
1733年　9月7日 享保18年　7月29日 晴　(御手廻組・寄合などが病気で町廻りができない・病死者も多い)
1733年　9月8日 享保18年　8月1日 曇　終日雨
1733年　9月9日 享保18年　8月2日 陰晴　(御内分御金奉行が1人役になり同役が欲しいと申し立てる・御馬廻りに申付ける、御家中の娘が御隠居様御小姓に召出される)
1733年　9月10日 享保18年　8月3日 快晴
1733年　9月11日 享保18年　8月4日 陰晴
1733年　9月12日 享保18年　8月5日 晴
1733年　9月13日 享保18年　8月6日 晴　(先月19日赤石組で大雨・20・21日追良瀬川・赤石川で洪水)
1733年　9月14日 享保18年　8月7日 陰晴　小雨　夜に入り小風　(深浦町奉行が糧米650俵駄下げ願い・30俵申付ける)
1733年　9月15日 享保18年　8月8日 晴　(西瓜は当年散々不出来、尾太出高:6月銅鉛704箇10貫目・7月銅鉛520箇6貫目)
1733年　9月16日 享保18年　8月9日 陰晴
1733年　9月17日 享保18年　8月10日 晴
1733年　9月18日 享保18年　8月11日 陰晴　未の刻より雨　終日に及ぶ
1733年　9月19日 享保18年　8月12日 曇　時々小雨　(郡所小遣6人中5人病気)
1733年　9月20日 享保18年　8月13日 晴
1733年　9月21日 享保18年　8月14日 曇　申の下刻より雨　終夜に及ぶ
1733年　9月22日 享保18年　8月15日 陰晴　(昨12日蟹田の大風で越前船破船)
1733年　9月23日 享保18年　8月16日 晴　午の下刻より小雨　彼岸
1733年　9月24日 享保18年　8月17日 快晴　残暑甚だしい　夜に入り雨　(流木割付23905本:御家老衆191本宛・組頭109・四奉行55・御手廻り21・御馬廻り21・代官18・御徒18本など)
1733年　9月25日 享保18年　8月18日 陰晴　巳の上刻より雨　則止む　残暑甚だしい
1733年　9月26日 享保18年　8月19日 曇　辰の刻より雨　終夜に及ぶ
1733年　9月27日 享保18年　8月20日 陰晴
1733年　9月28日 享保18年　8月21日 快晴　(土手町で少々火事・火元押込め)
1733年　9月29日 享保18年　8月22日 晴　(6月中碇関:出入り630人、6月中野内:出入り235人、7月中大間越:出入り60人)
1733年　9月30日 享保18年　8月23日 巳の中刻より雨時々　(当年は天気悪しく……)
1733年　10月1日 享保18年　8月24日 快晴
1733年　10月2日 享保18年　8月25日 陰晴
1733年　10月3日 享保18年　8月26日 快晴
1733年　10月4日 享保18年　8月27日 快晴
1733年　10月5日 享保18年　8月28日 曇　巳の下刻より小雨
1733年　10月6日 享保18年　8月29日 快晴　下から続く　・野内川235匁5分・荒川(部分)40目4分、御用人支配切死丹惣人数2684人:上男1118(禅695・浄土245・法花85・天台10・真言19・門徒64)　下の欄外(*)に続く
1733年　10月7日 享保18年　8月30日 曇　申の中刻より雨　終夜に及ぶ　(入札値段:朽米1俵5匁7分・町米1俵7匁8分・土米6俵39匁6分・大豆14俵102匁9分・鮭留御役銭:原別川101匁5分・綱不知川30目5分　上に続く
1733年　10月8日 享保18年　9月1日 曇　昨夜中より雨　辰の刻止む　未の刻より雨　夜中に及ぶ
1733年　10月9日 享保18年　9月2日 晴　(先月20日土手町で火が少々漏れた火元の相慎み御免)
1733年　10月10日 享保18年　9月3日 晴
1733年　10月11日 享保18年　9月4日 快晴　(9日御馬廻り組頭の家来が自害)
1733年　10月12日 享保18年　9月5日 陰晴
1733年　10月13日 享保18年　9月6日 晴　(昨晩土手町に投げ火)
1733年　10月14日 享保18年　9月7日 陰晴
1733年　10月15日 享保18年　9月8日 曇　巳の刻より小雨　(昨夜初鮭1番2番上がる)
1733年　10月16日 享保18年　9月9日 晴　申の刻過ぎ雨
1733年　10月17日 享保18年　9月10日 快晴　(先月晦日油川組石神村で火災・村預け赦免、平均両替:一昨亥の12月80匁9分6厘・昨子の12月75匁2分6厘3毛、尾太8月出高:銅330箇2貫目・鉛425箇4貫目)
1733年　10月18日 享保18年　9月11日 曇　午の刻雷数発す　同刻過ぎ雨
1733年　10月19日 享保18年　9月12日 曇　昨夜中雨　午の刻より晴
1733年　10月20日 享保18年　9月13日 曇　昨夜雨　今朝岩木山下野まで雪　田山雪見る　(入札値段:押米6俵が90目9分・土米11俵7升が88匁6分6厘・町米2俵30目6分・土米1斗2匁4分・新田川鮭留31匁3分5厘)
1733年　10月21日 享保18年　9月14日 晴　今朝霜
1733年　10月22日 享保18年　9月15日 陰晴　時々小雪　(江戸詰めに役替え)
1733年　10月23日 享保18年　9月16日 晴
1733年　10月24日 享保18年　9月17日 陰晴　未の中刻小雨　則止む　(男牢死)
1733年　10月25日 享保18年　9月18日 陰晴
1733年　10月26日 享保18年　9月19日 晴　夜に入り雨
1733年　10月27日 享保18年　9月20日 曇　時々小雨　(入札値段:大豆33俵1斗6升1合1夕が257匁2分(沖御役1俵につき7匁7分を含む))
1733年　10月28日 享保18年　9月21日 曇　雨　丸雪時々降　風添　終日に及ぶ
1733年　10月29日 享保18年　9月22日 陰晴　時々小雨　田山雪見る　(板屋野木村で医者の女房縊死)
1733年　10月30日 享保18年　9月23日 快晴
1733年　10月31日 享保18年　9月24日 晴　酉の刻雨　雷数々発す　(20日夜より22日まで三新田で風雨並びに氷張る)
(*)　・上女946(574・209・76・7・23・53)・下男392(250・92・22・2・7・19)・下女228(142・58・11・1・1・15)、家屋敷142軒・屋敷10軒・下屋敷3軒・小荷駄1疋)

1733年　11月1日 享保18年　 9月25日 曇
1733年　11月2日 享保18年　 9月26日 曇　辰の刻雷発す　時々小雨
1733年　11月3日 享保18年　 9月27日 晴　(21日浅虫で大風･御番所吹きはげる)
1733年　11月4日 享保18年　 9月28日 晴
1733年　11月5日 享保18年　 9月29日 快晴
1733年　11月6日 享保18年　 9月30日 快晴　酉の刻小雨
1733年　11月7日 享保18年　 10月1日 晴　(1両が77匁7分･米1俵が16匁6分、上納金?が高100石に付き1匁2分7厘2毛･俵子100俵に7分4厘･金10両に4分･10人扶持に3分7厘)
1733年　11月8日 享保18年　 10月2日 晴　(28日十三沖で松前船破船･2人死亡、昨30日堀越村で火災(1間半×2間:高無)･火元村預け)
1733年　11月9日 享保18年　 10月3日 晴　今朝霜　夜に入り雨　雷度々発す
1733年 11月10日 享保18年　 10月4日 晴
1733年 11月11日 享保18年　 10月5日 晴　今朝霜
1733年 11月12日 享保18年　 10月6日 陰晴　夜に入り風雨　(青森町で水主が艀に乗り出し死亡)
1733年 11月13日 享保18年　 10月7日 曇　終日雨雪
1733年 11月14日 享保18年　 10月8日 曇　昨夜中雪風強し　時々小雪　(尾太10月出高:銅302箇2貫目･鉛99箇14貫目)
1733年 11月15日 享保18年　 10月9日 曇　雪終日に及ぶ　(先月30日堀越村の火元の村預け8日で御免、7日の大風で五所川原御蔵廻り破損)
1733年 11月16日 享保18年　10月10日 曇　雪終日に及ぶ
1733年 11月17日 享保18年　10月11日 陰晴　昨夜雪　(大風で藤崎御蔵屋根吹きはげる、尾太9月出高:銅290固10貫目･鉛409固11貫目)
1733年 11月18日 享保18年　10月12日 晴　(5日夜八つ過ぎより6日朝後潟組後方村で火災12軒、津出御役は1石に2匁5分を4匁に、大湯彦八に一粒金丹5粒、9日夜赤石組風合瀬村で火災1軒･火元村預け)
1733年 11月19日 享保18年　10月13日 陰晴　昨夜中時々雪　(昨12日新町洗湯屋で湯まくれの死者1人、7日小泊湊の大荒れで破船1艘、7日夜宇鉄で破船1艘)
1733年 11月20日 享保18年　10月14日 陰晴
1733年 11月21日 享保18年　10月15日 快晴
1733年 11月22日 享保18年　10月16日 快晴
1733年 11月23日 享保18年　10月17日 晴　(9日風合瀬村の火元の村預け御免)
1733年 11月24日 享保18年　10月18日 陰晴
1733年 11月25日 享保18年　10月19日 晴　昨夜雨　雷二三度発す　(10日後方組内真部村で60余男道心倒･後死、米4斗入り1俵に付き14匁8分、15日朝金木組小泊村で60くらいの六十六部倒死)
1733年 11月26日 享保18年　10月20日 曇　終日雨雪　(5日夜後潟村で火事)
1733年 11月27日 享保18年　10月21日 晴　(津軽大学に一粒金丹30粒、御徒の妻が兄に殺害される･兄も縊死)
1733年 11月28日 享保18年　10月22日 陰晴　(大光寺組新山村に18歳男乞食倒･活きる)
1733年 11月29日 享保18年　10月23日 曇　昨夜中より雨時々　終日に及ぶ
1733年 11月30日 享保18年　10月24日 陰晴　(馬場六郎兵衛に一粒金丹3粒)
1733年　12月1日 享保18年　10月25日 晴　夜に入り小雪
1733年　12月2日 享保18年　10月26日 晴　夜に入り雪
1733年　12月3日 享保18年　10月27日 晴
1733年　12月4日 享保18年　10月28日 快晴　今朝大霜　寒強し　(森岡内蔵介に一粒金丹15粒、5日後潟村の火元の村預け御免)
1733年　12月5日 享保18年　10月29日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ
1733年　12月6日 享保18年　 11月1日 曇　昨夜中より吹雪　(成田彦左衛門に一粒金丹3粒)
1733年　12月7日 享保18年　 11月2日 快晴　(10月27日夜金木組薄市村で道心の庵火災)
1733年　12月8日 享保18年　 11月3日 快晴
1733年　12月9日 享保18年　 11月4日 晴　(10月29日夜十三潟残らず氷張る･昨年は10月26日･節に引き合い8日早い)
1733年 12月10日 享保18年　 11月5日 快晴
1733年 12月11日 享保18年　 11月6日 曇　今朝暁方より雨　終日に及ぶ　(種里村の女の子の死骸を片付けるよう申付ける)
1733年 12月12日 享保18年　 11月7日 快晴
1733年 12月13日 享保18年　 11月8日 曇　雪終日に及ぶ
1733年 12月14日 享保18年　 11月9日 曇　時々雪
1733年 12月15日 享保18年　11月10日 晴　(御用人市川吉左衛門と笠原八郎兵衛に一粒金丹10粒宛)
1733年 12月16日 享保18年　11月11日 陰晴　時々小雪　(9日高杉組高杉村で火災1軒)
1733年 12月17日 享保18年　11月12日 陰晴　雪時々　終日に及ぶ
1733年 12月18日 享保18年　11月13日 陰晴　時々小雪　申の下刻吹雪
1733年 12月19日 享保18年　11月14日 曇
1733年 12月20日 享保18年　11月15日 陰晴　(高岡に18日に鱈を献上の予定)
1733年 12月21日 享保18年　11月16日 晴　冬至酉の六刻
1733年 12月22日 享保18年　11月17日 陰晴　昨夜中より雨　(御用人棟方作右衛門に一粒金丹10両、昨夜駒越組中畑村で火災1軒･火元村預け)
1733年 12月23日 享保18年　11月18日 快晴　昨夜雪
1733年 12月24日 享保18年　11月19日 曇　夜に入り雨　(酒･粕値段:酒1升に付き1匁9分1厘3毛･粕1匁6分2厘5毛)
1733年 12月25日 享保18年　11月20日 晴
1733年 12月26日 享保18年　11月21日 陰晴　昨夜中より雪　終日に及ぶ　(三戸伝九郎に一粒金丹3粒、大間越町で火災･馬2疋等焼失･火元五人組預け、横内組桑原村で火災･火元村預け)
1733年 12月27日 享保18年　11月22日 曇　時々雪
1733年 12月28日 享保18年　11月23日 曇　時々雪
1733年 12月29日 享保18年　11月24日 晴
1733年 12月30日 享保18年　11月25日 陰晴　昨夜中より吹雪
1733年 12月31日 享保18年　11月26日 曇

1734年　1月1日 享保18年　11月27日 快晴　夜中雪 （大目付木村孫十郎に一粒金丹7粒、田舎館組堂野前村に男が倒れている・乞食小屋に入れる）
1734年　1月2日 享保18年　11月28日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ （御献上の塩鱈見分、当月16日夜赤石組大間越町で火災（既報：1軒小荷駄2疋牛1疋焼失）、27日夜堀越組大久保村で火災1軒・火元村預け）
1734年　1月3日 享保18年　11月29日 陰晴　昨夜中大雪
1734年　1月4日 享保18年　11月30日 曇　昨夜雨 （藤代組で11歳ほどの女の子死亡・川流れか）
1734年　1月5日 享保18年　12月1日 陰晴
1734年　1月6日 享保18年　12月2日 曇　雪終日に及ぶ
1734年　1月7日 享保18年　12月3日 曇
1734年　1月8日 享保18年　12月4日 陰晴 （菊池源太左衛門に一粒金丹3粒、先月16日の大間越町の火元の預り御免）
1734年　1月9日 享保18年　12月5日 快晴
1734年　1月10日 享保18年　12月6日 晴
1734年　1月11日 享保18年　12月7日 曇 （深浦町で米を銭納とする・1俵に付き17匁1分とする）
1734年　1月12日 享保18年　12月8日 曇 （尾太10月出高：銅302箇2貫目・同11月：316箇10貫目・10月より来年3月まで鉛を止める）
1734年　1月13日 享保18年　12月9日 快晴
1734年　1月14日 享保18年　12月10日 曇　辰の刻より雨　終日に及ぶ （1667両1歩と銭8分2厘を米渡しにすると6931俵2斗6升）
1734年　1月15日 享保18年　12月11日 曇　終日雪 （牢賄1日は白米4合と銭2分・3人1ヶ月なら白米3斗6升と銭18匁となる）
1734年　1月16日 享保18年　12月12日 陰晴
1734年　1月17日 享保18年　12月13日 晴　今朝少しの内小雨
1734年　1月18日 享保18年　12月14日 晴　時々小雪 （藤代組八代村に44・5男倒死）
1734年　1月19日 享保18年　12月15日 曇　終日大吹雪
1734年　1月20日 享保18年　12月16日 陰晴　夜中雪
1734年　1月21日 享保18年　12月17日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ （工藤五右衛門に一粒金丹3粒）
1734年　1月22日 享保18年　12月18日 曇　昨夜中より吹雪　終日に及ぶ
1734年　1月23日 享保18年　12月19日 陰晴
1734年　1月24日 享保18年　12月20日 陰晴　昨夜中雪 （平岡町で男・津軽山三郎家来がそれぞれ縊死）
1734年　1月25日 享保18年　12月21日 陰晴　昨夜中雪
1734年　1月26日 享保18年　12月22日 曇　雪時々 （16日後潟組郷沢村で火災1軒・火元村預け）
1734年　1月27日 享保18年　12月23日 晴
1734年　1月28日 享保18年　12月24日 晴 （家老添田儀左衛門・津軽大学御役御免）
1734年　1月29日 享保18年　12月25日 晴
1734年　1月30日 享保18年　12月26日 晴 （10月中碇関御関所出人45人（御国人7・他国者38）御印紙28枚・碇関御関所出御国人18人切手紙13枚・出人都合63人）
1734年　1月31日 享保18年　12月27日 陰晴　巳の刻小雨　則止む （後潟組瀬戸子村に道心倒死）
1734年　2月1日 享保18年　12月28日 快晴　下から続く　（5寸5歩6寸25匁：5歳と2寸8歩3寸6匁：当歳）それぞれ熊取る）
1734年　2月2日 享保18年　12月29日 陰晴 （駒越組大秋村の新兵衛（胆長3寸廻り5寸5歩生目方5匁：4歳と2寸5歩3寸5歩10匁：3歳）・赤石組種里村の三郎次郎（4寸5歩5寸90目：5歳）・大鰐組居土村の弥左衛門　上に続く
1734年　2月3日 享保18年　12月30日 晴
1734年　2月4日 享保19年正月1日　陰晴
1734年　2月5日 享保19年正月2日　陰晴
1734年　2月6日 享保19年正月3日　曇　昨夜中より雪
1734年　2月7日 享保19年正月4日　曇　終日雪
1734年　2月8日 享保19年正月5日　曇　夜中より雪終日
1734年　2月9日 享保19年正月6日　陰晴　雪時々
1734年　2月10日 享保19年正月7日　曇　辰の刻前より巳の刻まで過ぎまで時々雪
1734年　2月11日 享保19年正月8日　曇　昨夜中より吹雪　終日に及ぶ
1734年　2月12日 享保19年正月9日　快晴　今朝雪降
1734年　2月13日 享保19年正月10日　陰晴　昨夜中雪
1734年　2月14日 享保19年正月11日　晴
1734年　2月15日 享保19年正月12日　陰晴
1734年　2月16日 享保19年正月13日　曇　終日雪
1734年　2月17日 享保19年正月14日　曇　昨夜中より雪
1734年　2月18日 享保19年正月15日　曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ （4日後潟組阿弥陀川村と7日増館組佐野村で火災・それぞれの火元の村預け赦免）
1734年　2月19日 享保19年正月16日　曇　雪終日に及ぶ
1734年　2月20日 享保19年正月17日　晴　夜中雪
1734年　2月21日 享保19年正月18日　曇　小雪時々 （江戸からの飛脚が道中の大雪で12日振りの仰せ付けに対し15日振りに到着）
1734年　2月22日 享保19年正月19日　曇
1734年　2月23日 享保19年正月20日　快晴 （葛西半三郎に一粒金丹3粒、尾太12月出高：銅295固7貫目）
1734年　2月24日 享保19年正月21日　快晴
1734年　2月25日 享保19年正月22日　曇　午の刻より雨　それより夜に入り吹雪
1734年　2月26日 享保19年正月23日　曇　巳の刻前より吹雪
1734年　2月27日 享保19年正月24日　晴 （田中与左衛門に一粒金丹3粒、御留守居組山上羽右衛門を千年山役に）
1734年　2月28日 享保19年正月25日　曇　小雪時々

1734年　3月1日 享保19年正月26日　陰晴　時々小雪
1734年　3月2日 享保19年正月27日　曇　終日雪
1734年　3月3日 享保19年正月28日　曇　終日雪
1734年　3月4日 享保19年正月29日　曇　時々小雪
1734年　3月5日 享保19年　2月1日 快晴　夜に入り小雪
1734年　3月6日 享保19年　2月2日 快晴
1734年　3月7日 享保19年　2月3日 陰晴
1734年　3月8日 享保19年　2月4日 快晴　申の下刻より雨 （当正月中御関所出人183人御印紙19枚切手紙11枚）
1734年　3月9日 享保19年　2月5日 曇　終日雨　丸雪
1734年　3月10日 享保19年　2月6日 曇
1734年　3月11日 享保19年　2月7日 快晴
1734年　3月12日 享保19年　2月8日 曇　巳の刻過ぎより雨　終日に及ぶ
1734年　3月13日 享保19年　2月9日 晴　辰の刻小雪　則刻止む
1734年　3月14日 享保19年　2月10日 快晴
1734年　3月15日 享保19年　2月11日 陰晴
1734年　3月16日 享保19年　2月12日 曇　卯の刻過ぎ雨　巳の刻前止む （御用人唐牛刑部左衛門と御手廻り組頭津軽千之助に一粒金丹各10粒、尾太12月出高:銅295箇7貫目・同正月出高:195箇7貫目）
1734年　3月17日 享保19年　2月13日 陰晴 （御馬廻りの家来が黒石で縊死）
1734年　3月18日 享保19年　2月14日 陰晴 （当正月中野内:出入り93人）
1734年　3月19日 享保19年　2月15日 快晴
1734年　3月20日 享保19年　2月16日 陰晴　巳の刻過ぎ小雪時々
1734年　3月21日 享保19年　2月17日 陰晴　夜に入り雨 （後潟組中沢・長科村の者共が去作宜しからず候につき根穿道具の杣取り願い）
1734年　3月22日 享保19年　2月18日 快晴
1734年　3月23日 享保19年　2月19日 快晴 （渡部次太夫に一粒金丹5粒・今定右衛門に3粒）
1734年　3月24日 享保19年　2月20日 快晴　夜に入り雨
1734年　3月25日 享保19年　2月21日 曇　皮岸入り　昨夜より雨　終日に及ぶ
1734年　3月26日 享保19年　2月22日 曇
1734年　3月27日 享保19年　2月23日 快晴
1734年　3月28日 享保19年　2月24日 快晴　夜に入り雨　則止む （安い塩消の売り込みあり・1斤につき5匁6分5厘を4匁5分に、十三潟が22日に明ける・彼岸が21日・昨年は13日に明け9日に彼岸入り）
1734年　3月29日 享保19年　2月25日 快晴 （昨夜緑町の足軽方で出火）
1734年　3月30日 享保19年　2月26日 晴　申の下刻より夜中雨
1734年　3月31日 享保19年　2月27日 曇　時々小雨 （御切米の金銭874両余を御内分より御貸出）
1734年　4月1日 享保19年　2月28日 曇
1734年　4月2日 享保19年　2月29日 快晴　　下から続く　　それぞれ熊取る、29日土手町で大館町の者倒・生）
1734年　4月3日 享保19年　2月30日 晴　酉の刻地震 （尾崎組唐竹村の惣介等(胆長3寸廻り3寸5歩生目9匁5分:2歳)・大鰐組長峰村の介四郎(2寸5歩4寸8歩13匁:10歳)・駒越組の次右衛門(2寸5歩2寸5匁:2歳）　上に続く
1734年　4月4日 享保19年　3月1日 晴　昨夜より今朝辰の刻まで小雨時々
1734年　4月5日 享保19年　3月2日 曇　小雨時々　夜中に及ぶ　　下から続く　　切手紙3枚・2月中所々御関所出人都合118人）
1734年　4月6日 享保19年　3月3日 晴 （碇関口御関所出人75人(御国人37他国者38)御印紙33枚・野内口出人他国者2人御印紙1枚、碇関口御関所出御国人40人切手紙28枚・野内口御関所出御国人6人　上に続く
1734年　4月7日 享保19年　3月4日 快晴
1734年　4月8日 享保19年　3月5日 陰晴　時々小雨 （日付けが正月五辛巳日とある・三月の誤り、 前日が三月四庚辰日・翌日が正月六壬午日翌々日が三月七癸未と正月を除き干支が連続している:古文書的な誤り）
1734年　4月9日 享保19年　3月6日 快晴
1734年　4月10日 享保19年　3月7日 晴 （小泊村に鯨寄せる・村中に下し置かれる、5日大光寺組館田村に火災・火元村預け）
1734年　4月11日 享保19年　3月8日 快晴 （2月中野内:出入り104人）
1734年　4月12日 享保19年　3月9日 晴 （昨7日御隠居様従弟堀右五郎母55歳にて病死・7月15日より風気(この場合風邪:インフルエンザか)）
1734年　4月13日 享保19年　3月10日 快晴
1734年　4月14日 享保19年　3月11日 曇　終日雨
1734年　4月15日 享保19年　3月12日 晴
1734年　4月16日 享保19年　3月13日 曇　辰の下刻より風雨　巳の刻過ぎ止む　それより風
1734年　4月17日 享保19年　3月14日 陰晴　小風
1734年　4月18日 享保19年　3月15日 晴
1734年　4月19日 享保19年　3月16日 晴　午の刻より雨
1734年　4月20日 享保19年　3月17日 曇
1734年　4月21日 享保19年　3月18日 快晴
1734年　4月22日 享保19年　3月19日 快晴　申の下刻地震 （白取弥兵衛に一粒金丹3粒、上方稲の種籾昨年散々で御免申出、大間越に熊狼荒れ対策として鉄砲玉など、11日夜内間部村で破船）
1734年　4月23日 享保19年　3月20日 晴　昨夜風雨 （岩木川昨夜中の洪水で往還なりかねる）
1734年　4月24日 享保19年　3月21日 晴 （広須新田桜井村で川流れ死亡者あり）
1734年　4月25日 享保19年　3月22日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1734年　4月26日 享保19年　3月23日 晴
1734年　4月27日 享保19年　3月24日 晴
1734年　4月28日 享保19年　3月25日 晴
1734年　4月29日 享保19年　3月26日 晴
1734年　4月30日 享保19年　3月27日 曇　巳の刻過ぎより小雨終日 （仮値段即去年値段:米1俵13匁・1両78匁、尾崎組岩館村で73男縊死）

1734年　5月1日 享保19年　3月28日 陰晴　　下から続く　　藤右衛門など(楯当たり胆なし:2歳)それぞれ熊取る)
1734年　5月2日 享保19年　3月29日 快晴 (白鳥弥兵衛に一粒金丹3粒、4日尾崎組唐竹村の甚左衛門(胆長5寸3歩廻り6寸生目25匁:5歳)・17日同村惣助(2寸5歩2寸8匁5分:4歳)・21日駒越組大秋村の　　上に続く
1734年　5月3日 享保19年　4月1日 晴 (郡奉行工藤嘉左衛門に50石加増・者頭格に、多分先月9日横内組浅虫村で野火2件(60間×20間・30間×20間)、10日同組久栗坂村で野火(200間×150間))
1734年　5月4日 享保19年　4月2日 陰晴 (昨1日昼九つ頃三新田富野村で火災7軒)
1734年　5月5日 享保19年　4月3日 陰晴 昨夜小雨
1734年　5月6日 享保19年　4月4日 晴 (昨晩の風で御本城被害)
1734年　5月7日 享保19年　4月5日 快晴
1734年　5月8日 享保19年　4月6日 陰晴　　下から続く　　・4月中出高:鉛6箇9貫目)
1734年　5月9日 享保19年　4月7日 快晴 (碇関口野内口御関所3月中出人170人、今9日の昼七時頃早瀬野村で野火(70間×30間)、広田組二本柳村の百姓が母親を踏む・重科、尾太3月出高:銅200箇2貫目　　上に続く
1734年　5月10日 享保19年　4月8日 晴 (米千石の御国相場:514両3歩と銭20目3分1厘3毛)
1734年　5月11日 享保19年　4月9日 快晴
1734年　5月12日 享保19年　4月10日 曇 巳の刻より雷電数度発す
1734年　5月13日 享保19年　4月11日 晴 未の中刻雨 雷度々発す 申の下刻止む
1734年　5月14日 享保19年　4月12日 晴 午の刻より時々小雨 (9日青森で筑前船の水主が病死)
1734年　5月15日 享保19年　4月13日 曇 未の下刻より小雨時々
1734年　5月16日 享保19年　4月14日 晴 昨夜大雨 雷度々発す
1734年　5月17日 享保19年　4月15日 晴
1734年　5月18日 享保19年　4月16日 快晴
1734年　5月19日 享保19年　4月17日 陰晴 (今八半頃御蔵町で小火・火元押込)
1734年　5月20日 享保19年　4月18日 快晴
1734年　5月21日 享保19年　4月19日 曇 辰の刻より雨 (十三町796人分の米買い調え願い・了承、深浦町の物書き追放:どんな能力を持つメンバーが町奉行所に勤めていたか分る)
1734年　5月22日 享保19年　4月20日 曇 小雨時々 申の刻より風雨 (15日夜和徳組百田村に盗人)
1734年　5月23日 享保19年　4月21日 曇 風雨時々
1734年　5月24日 享保19年　4月22日 晴
1734年　5月25日 享保19年　4月23日 陰晴 (昨夜四つ過ぎ蟹田町で火災の速報届く)
1734年　5月26日 享保19年　4月24日 快晴 (和徳組悪戸村に倒者1人、22日昼四つ過ぎより九つ過ぎまで蟹田町で火災(本家94軒借家56軒小荷駄2疋)・火元入寺)
1734年　5月27日 享保19年　4月25日 快晴 (24日碇関で火災・日方にて烈しい風で大火(62軒)・火元は国上寺に寺落、昨日柏木組牡丹森村で火災3軒・火元他村預け、19日藤代組廻関村に倒死2人　　欄外(*)に続く
1734年　5月28日 享保19年　4月26日 陰晴 午の刻より快晴
1734年　5月29日 享保19年　4月27日 晴 未の刻より小雨 夜中に及ぶ (今別町から御蔵米売出しの申し出・1俵18匁5分4厘で御払い、26日後潟組左関村で火災1軒(4間×9間:百姓))
1734年　5月30日 享保19年　4月28日 曇 今朝辰の刻まで小雨
1734年　5月31日 享保19年　4月29日 曇 未の刻より雨 終日に及ぶ
1734年　6月1日 享保19年　4月30日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ (碇関口当3月中出入り342人・大間越出入り49人・野内出入り159人、4月9・10日の大風雨に荷打ちして船川に入港した船の始末状況)
1734年　6月2日 享保19年　5月1日 快晴 (所々御関所出人都合602人(御国人29他国者72・御印紙49枚))
1734年　6月3日 享保19年　5月2日 快晴
1734年　6月4日 享保19年　5月3日 快晴
1734年　6月5日 享保19年　5月4日 快晴 (3日より和徳村で田植え初め・去年は4月20日)
1734年　6月6日 享保19年　5月5日 晴
1734年　6月7日 享保19年　5月6日 曇 辰の刻前より雨 終日に及ぶ
1734年　6月8日 享保19年　5月7日 陰晴 巳の刻より午の刻まで小雨 (1日十三で小回り船からてんま船に乗り移る際1人行方不明、尾太4月出高:銅215固と4貫目・鉛263箇と11貫目)
1734年　6月9日 享保19年　5月8日 陰晴 暑気強く帷子着る
1734年　6月10日 享保19年　5月9日 晴 暑気強 (当4月中大間越:出入り79人)
1734年　6月11日 享保19年　5月10日 快晴 暑気 (御郡方物書き福眞林右衛門の弟左兵衛を篠塚典膳が足軽に推すが認められない)
1734年　6月12日 享保19年　5月11日 快晴 暑気
1734年　6月13日 享保19年　5月12日 快晴 暑気
1734年　6月14日 享保19年　5月13日 快晴 暑気
1734年　6月15日 享保19年　5月14日 晴 巳の刻前より小雨 則止む
1734年　6月16日 享保19年　5月15日 快晴 (4月中野内:出(切手紙で29御印紙で151)入り182人、4月中碇関:出(御印紙83御切手紙504)入り761人)
1734年　6月17日 享保19年　5月16日 快晴
1734年　6月18日 享保19年　5月17日 曇 辰の中刻より小雨時々 (谷口利介に一粒金丹5粒、横内組で狼荒れ・筒薬などを追加・玉の追加はなし、青森で乱心男自害)
1734年　6月19日 享保19年　5月18日 曇 昨夜中より小雨 終日に及ぶ
1734年　6月20日 享保19年　5月19日 曇 今朝辰の刻過ぎより雨
1734年　6月21日 享保19年　5月20日 曇
1734年　6月22日 享保19年　5月21日 陰晴 (去月27日(27日の記録で26日)の左関村の火元の油川村への押し込め免許)
1734年　6月23日 享保19年　5月22日 陰晴 巳の刻過ぎ小雨 則止む (飯詰組平町村・金山村・朝日沢村の5人が盗み杣)
1734年　6月24日 享保19年　5月23日 陰晴 小雨時々
1734年　6月25日 享保19年　5月24日 陰晴 未の下刻小雨 則止む (盗み杣の5人入牢)
1734年　6月26日 享保19年　5月25日 陰晴 (今別町から杣飯米等に御蔵米200俵御払い願い・相場に駄賃運賃を加え1俵17匁1分5厘で60俵払い出し)
1734年　6月27日 享保19年　5月26日 快晴
1734年　6月28日 享保19年　5月27日 快晴 (大円寺に一粒金丹5粒)
1734年　6月29日 享保19年　5月28日 快晴
1734年　6月30日 享保19年　5月29日 快晴

(*) (44・5男とその背中の2歳ほどの女子)、21日藤崎組藤崎村で30男縊死、19日夜広須新田越水村で70余不明道心倒死)

1734年　7月1日 享保19年　6月1日 曇　昨夜中より雨時々　終日に及ぶ
1734年　7月2日 享保19年　6月2日 陰晴　夜中雨　(けしの花2・3日以前より咲く)
1734年　7月3日 享保19年　6月3日 快晴　暑気
1734年　7月4日 享保19年　6月4日 快晴　(男牢死)
1734年　7月5日 享保19年　6月5日 晴　午の刻地震
1734年　7月6日 享保19年　6月6日 晴
1734年　7月7日 享保19年　6月7日 陰晴　(昨夜座当町で小火、尾太5月出高:銅147箇15貫目・鉛322箇15貫目)
1734年　7月8日 享保19年　6月8日 曇　午の中刻より雨
1734年　7月9日 享保19年　6月9日 曇　折々雨　未の刻より雨　終日に及ぶ
1734年　7月10日 享保19年　6月10日 曇　昨夜中より雨時々
1734年　7月11日 享保19年　6月11日 陰晴　(森岡内蔵助に一粒金丹10粒)
1734年　7月12日 享保19年　6月12日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1734年　7月13日 享保19年　6月13日 陰晴
1734年　7月14日 享保19年　6月14日 晴
1734年　7月15日 享保19年　6月15日 快晴　(今別町から杣飯米として御蔵米100俵御払い願い・1俵16匁8分5厘で払出す)
1734年　7月16日 享保19年　6月16日 快晴
1734年　7月17日 享保19年　6月17日 晴　(御徒頭白取弥兵衛に一粒金丹3粒)
1734年　7月18日 享保19年　6月18日 晴
1734年　7月19日 享保19年　6月19日 快晴　暑気　酉の七刻土用入り　(十三の押え米入札:1俵に付き10匁2分)
1734年　7月20日 享保19年　6月20日 晴　(報恩寺に一粒金丹5粒)
1734年　7月21日 享保19年　6月21日 快晴　(笠原八郎兵衛に一粒金丹10粒)
1734年　7月22日 享保19年　6月22日 快晴　夜に入り雨　(御馬廻中畑喜右衛門に一粒金丹3粒)
1734年　7月23日 享保19年　6月23日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1734年　7月24日 享保19年　6月24日 晴
1734年　7月25日 享保19年　6月25日 曇　小雨時々
1734年　7月26日 享保19年　6月26日 曇　辰の刻過ぎ小雨　則止む　未の刻過ぎ雷発す
1734年　7月27日 享保19年　6月27日 晴
1734年　7月28日 享保19年　6月28日 晴　(六十六部を村送りで返す:度々捕えられている)
1734年　7月29日 享保19年　6月29日 晴　午の中刻過ぎ雷発す　小雨時々　(当月中野内:入り116・出入り合210人、6月中大間越:(入り?)人数合39・出入り合55人、6月中碇関:入り251・出入り人数合437人)
1734年　7月30日 享保19年　7月1日 快晴　未の下刻大雨暫く　即止む　甚だしく暑い　(碇関御関所出89人(御国人10他国者79)御印紙59枚・野内口他国者2人御印紙1・碇関御国人90人切手紙39枚　欄外(*)に続く
1734年　7月31日 享保19年　7月2日 快晴　申の刻小雨　雷発す
1734年　8月1日 享保19年　7月3日 陰晴　午の刻より晴
1734年　8月2日 享保19年　7月4日 晴
1734年　8月3日 享保19年　7月5日 曇　昨夜よりの雨　終日に及ぶ
1734年　8月4日 享保19年　7月6日 曇　昨夜終雨　午の刻雨　(男牢死、男斬罪(御蔵の腰板盗み))
1734年　8月5日 享保19年　7月7日 曇　辰の刻前小雨時々　(4日尾太銅山で怪我人死亡)
1734年　8月6日 享保19年　7月8日 晴　(先達て(4月24日)碇関の火元の入寺免許)
1734年　8月7日 享保19年　7月9日 晴　(阿芙蓉取仕舞、5日よりの大雨で増館組各村で108町5反歩・藤代組で21町歩それぞれ水湛、6日昼より7日朝に青森で洪水・堤橋破損・床上浸水)
1734年　8月8日 享保19年　7月10日 快晴　残暑強し　(御崎組大坊村の茂左衛門と大鰐村の加賀助の稲出穂・5月3日植付で66日昨年は4月26日植付で6月28日・節に引合い同じ、尾太6月出高:銅136箇14貫目・鉛382箇14貫目)
1734年　8月9日 享保19年　7月11日 快晴　残暑強し　(先月29日の風雨に高岡で所々破損、7日の洪水で浦町・横内組で橋等破損、6日十三・鯵ヶ沢で破船それぞれ1艘)
1734年　8月10日 享保19年　7月12日 快晴　残暑強し
1734年　8月11日 享保19年　7月13日 快晴　残暑強し
1734年　8月12日 享保19年　7月14日 晴　残暑強し
1734年　8月13日 享保19年　7月15日 快晴　残暑強し
1734年　8月14日 享保19年　7月16日 快晴　残暑強し　巳の刻過ぎ雨　則止む
1734年　8月15日 享保19年　7月17日 快晴　残暑強し
1734年　8月16日 享保19年　7月18日 快晴　残暑強し
1734年　8月17日 享保19年　7月19日 快晴　夜に入り雨　雷発す
1734年　8月18日 享保19年　7月20日 陰晴　未の刻雨暫く　(葛西園次?に一粒金丹3粒、昨夜中の大雨により今朝駒越組で洪水・馬船相立ちかね長船越に往還仕る)
1734年　8月19日 享保19年　7月21日 晴　夜に入り小雨
1734年　8月20日 享保19年　7月22日 晴　未の下刻雷　夜に入り雨
1734年　8月21日 享保19年　7月23日 晴
1734年　8月22日 享保19年　7月24日 快晴　(昨夜百石町で火災、20日木作村で乱心者(4人負傷)・溺られ・死亡)
1734年　8月23日 享保19年　7月25日 快晴
1734年　8月24日 享保19年　7月26日 晴　申の刻より雨　夜中に及ぶ
1734年　8月25日 享保19年　7月27日 陰晴
1734年　8月26日 享保19年　7月28日 快晴
1734年　8月27日 享保19年　7月29日 曇　巳の刻過ぎ雨時々　夜中小雨　下から続く　3寸6歩15匁:51歳?)それぞれ熊取る、当月中大間越:出25(御印紙20枚人数23人御切手紙2枚2人)・入り53人)
1734年　8月28日 享保19年　7月30日 陰晴　(23日駒越組桜庭村の茂助(胆長4寸廻り6寸生目45匁:6歳)・15日同組田代村の藤右衛門(1寸5歩2寸5歩32匁:3歳)・27日和徳組一野渡の彦次郎(3寸5歩　上に続く
1734年　8月29日 享保19年　8月1日 晴
1734年　8月30日 享保19年　8月2日 晴　(4月22日蟹田町の火元の入寺赦免)
1734年　8月31日 享保19年　8月3日 晴
(*)・大間越出御国人2人切手紙1・小泊湊口出御国人2人切手紙1・6月中出人都合187人)

1734年　9月1日 享保19年　8月4日 曇　終日雨（7月中碇関口出(他国者84人御印紙53枚・御国人39人切手紙23枚)・野内口出他国者1人御印紙1枚・大間越口出他国者1人御印紙1枚）
1734年　9月2日 享保19年　8月5日 快晴
1734年　9月3日 享保19年　8月6日 快晴
1734年　9月4日 享保19年　8月7日 快晴　午の上刻地震（今別御蔵米1俵に付き15文め5厘）
1734年　9月5日 享保19年　8月8日 曇　時々小雨（昨年流木高:331980本・当年299173本）
1734年　9月6日 享保19年　8月9日 晴　未の刻より申の刻まで小雨
1734年　9月7日 享保19年　8月10日 快晴
1734年　9月8日 享保19年　8月11日 快晴
1734年　9月9日 享保19年　8月12日 晴
1734年　9月10日 享保19年　8月13日 曇　時々小雨
1734年　9月11日 享保19年　8月14日 快晴　下から続く　・御中小姓16・代官(歩行)15、尾太7月出高:銅70箇・鉛264箇1貫目）
1734年　9月12日 享保19年　8月15日 曇　辰の中刻より時々小雨（高岡御神領米1俵につき13匁・両替84匁、流木御払い:御家老衆166本(去年191)・御用人94・四奉行48・各町奉行21・御手廻(御馬廻)18　上に続く
1734年　9月13日 享保19年　8月16日 曇　小雨　終日に及ぶ
1734年　9月14日 享保19年　8月17日 陰晴　時々小雨
1734年　9月15日 享保19年　8月18日 晴
1734年　9月16日 享保19年　8月19日 快晴
1734年　9月17日 享保19年　8月20日 晴（18日秋田阿仁の男土手町で病死、高岡に狼をとし(狼おどし)鉄砲玉などを渡す）
1734年　9月18日 享保19年　8月21日 曇　昨夜中より雨（嵩湯本で火災・貸し小屋15軒焼失、飯詰組高野村付近で青森の女と男の子が男2人組の追剥?に合う・助かる）
1734年　9月19日 享保19年　8月22日 晴
1734年　9月20日 享保19年　8月23日 快晴
1734年　9月21日 享保19年　8月24日 晴（鮭留入札:野内川267匁6分・綱不知川22匁4分6厘・原別73匁5分・荒川の一部30目）
1734年　9月22日 享保19年　8月25日 晴
1734年　9月23日 享保19年　8月26日 晴　彼岸に入る　夜中小雨時々
1734年　9月24日 享保19年　8月27日 陰晴（笹森勘解由左衛門に一粒金丹5粒）
1734年　9月25日 享保19年　8月28日 晴　下から続く　・田代村の次右衛門(2寸5歩4寸5歩12匁:4歳)・金木組宮野沢村の専助(たて当たり胆なし)それぞれ熊取る）
1734年　9月26日 享保19年　8月29日 晴　卯の刻過ぎ小雨（駒越組田代村の藤右衛門(胆長3寸5歩廻り6寸5歩生目18匁:3歳)・中畑村の彦右衛門(2寸5歩5寸15匁:3歳)・中野村の仁助(2寸5歩6寸15匁:5歳)　上に続く
1734年　9月27日 享保19年　9月1日 陰晴（8月中碇関出人164人(他国者107御印紙66枚御国者57切手紙27枚)、西瓜六つ下される）
1734年　9月28日 享保19年　9月2日 曇　夜中風雨（去年6月湯段温泉発見?、御用人支配切支丹宗門改め惣人数2746人・上男1264(禅783・法花93・浄土287・門徒73・真言17・天台11)・上女1043(634・77　欄外(*)に続く
1734年　9月29日 享保19年　9月3日 曇　昨夜中より風雨　終日に及ぶ
1734年　9月30日 享保19年　9月4日 曇　昨夜より雨　少し風添う（昨日より駒越渡少々洪水・橋板等引取り長船馬船で往還す）
1734年　10月1日 享保19年　9月5日 晴（入札値段:土米9斗5升が15匁2分3厘・大豆72俵8升1合5夕が779匁8分）
1734年　10月2日 享保19年　9月6日 曇　巳の中刻より小雨時々（昨4日青森御仮屋に南風被害）
1734年　10月3日 享保19年　9月7日 快晴（8月中碇関:出入り都合403人・8月中野内:出入り都合196人、尾太8月中出高:銅73箇11貫目・鉛306箇13貫目）
1734年　10月4日 享保19年　9月8日 陰晴（明珍与兵衛に一粒金丹3粒）
1734年　10月5日 享保19年　9月9日 快晴
1734年　10月6日 享保19年　9月10日 曇　午の中刻より小雨　終夜に及ぶ
1734年　10月7日 享保19年　9月11日 晴　昨夜中雨　辰の刻に及ぶ（流木が値上がりし……）
1734年　10月8日 享保19年　9月12日 晴　昨夜雨時々　雷発す　辰の下刻より雨　午の上刻止む（当月5日大間越前浜に帆柱(長10尋3尺元口6尺5寸廻り)流れ寄せる）
1734年　10月9日 享保19年　9月13日 晴（牢舎で左右の手縄すれ医者呼ぶ）
1734年　10月10日 享保19年　9月14日 快晴（諸手六番組山上源次郎を黒石口米留に）
1734年　10月11日 享保19年　9月15日 晴
1734年　10月12日 享保19年　9月16日 晴
1734年　10月13日 享保19年　9月17日 快晴
1734年　10月14日 享保19年　9月18日 曇
1734年　10月15日 享保19年　9月19日 晴　昨夜中より雨　巳の刻過ぎ止む（金木組今泉村で頃日熊猿(熊と猿か特別な猿か等は不明)荒れて作毛被害・鉄砲玉などを猟師に渡す）
1734年　10月16日 享保19年　9月20日 快晴
1734年　10月17日 享保19年　9月21日 快晴　今朝大霜（十三町人数820人）
1734年　10月18日 享保19年　9月22日 快晴（流木割付:御家老衆83本・御用人47・大目付33・四奉行24・御目付14・:武官(御手廻りなど)が見えない）
1734年　10月19日 享保19年　9月23日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1734年　10月20日 享保19年　9月24日 陰晴（今朝男牢死）
1734年　10月21日 享保19年　9月25日 晴
1734年　10月22日 享保19年　9月26日 快晴
1734年　10月23日 享保19年　9月27日 陰晴　辰の刻雨　即止む（鮭留入札:新田川御役銭41匁5分5厘・広瀬川1匁8分5厘）
1734年　10月24日 享保19年　9月28日 快晴　今朝大霜
1734年　10月25日 享保19年　9月29日 快晴（昨夜本町で火災13軒、昨夜御家中が変死(自害)）
1734年　10月26日 享保19年　9月30日 曇　終日雨（去月20日赤石組一森村の孫右衛門(胆長2寸廻り2寸5歩生目11匁:5歳)・9月11日飯詰組金木村?の三郎右衛門(4寸3歩5寸5歩38匁:6歳)それぞれ熊取る）
1734年　10月27日 享保19年　10月1日 晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ
1734年　10月28日 享保19年　10月2日 曇　昨夜中より雨　終夜に及ぶ（9月中碇関口出他国者78人御印紙57枚・野内口他国者4人御印紙1枚・大間越口他国者3人御印紙1枚、碇関口出御国人61人　欄外(**)に続く
1734年　10月29日 享保19年　10月3日 曇　昨夜風雨　今朝岩木山下野迄雪見る
1734年　10月30日 享保19年　10月4日 晴　今朝大霜（赤田組野木村で50余男倒死、25日藤代組上藤代村で20歳程の男道心倒れ・今朝死亡、先月23日の大風で新城村・油川村に被害）
1734年　10月31日 享保19年　10月5日 晴　夜に入り風雨　雷発す

(*)　・241・59・21・11)・下男284(178・21・62・17・5・1)・下女155(99・8・35・10・2・1)・家屋敷146軒・屋敷14軒・下屋敷2軒・乗馬1疋・小荷駄3疋）
(**)　切手紙27枚・野内5人1枚・青森湊口1人1枚:出人都合152人）

1734年　11月1日 享保19年　10月6日 晴　下から続く　銅61箇5貫目・鉛233箇14貫目）
1734年　11月2日 享保19年　10月7日 陰晴　午の刻より少し雨 （7月中野内:出53人切手紙33人・入り174・出入り合260人、7月中碇関:御印紙出人87切手紙出人53人・入り235・出入り合375人、尾太3月出高:　上に続く
1734年　11月3日 享保19年　10月8日 快晴　今朝大霜
1734年　11月4日 享保19年　10月9日 曇　雨終日　西の方に虹見る （9月11日初鮭・26日二番鮭・30日三番鮭、三馬屋梨子100を江戸に登す）
1734年　11月5日 享保19年　10月10日 晴　子の刻地震
1734年　11月6日 享保19年　10月11日 晴
1734年　11月7日 享保19年　10月12日 曇
1734年　11月8日 享保19年　10月13日 曇
1734年　11月9日 享保19年　10月14日 晴
1734年 11月10日 享保19年　10月15日 曇　昨夜亥の刻小雨　午の刻過ぎ丸雪 （当9月中碇関:出入り332人・野内177人・大間越85人）
1734年 11月11日 享保19年　10月16日 丸雪　終日に及ぶ　申の下刻雪
1734年 11月12日 享保19年　10月17日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ　三寸ほど降る
1734年 11月13日 享保19年　10月18日 曇　丸雪終日
1734年 11月14日 享保19年　10月19日 曇　時々雪
1734年 11月15日 享保19年　10月20日 曇　時々小雪
1734年 11月16日 享保19年　10月21日 陰晴
1734年 11月17日 享保19年　10月22日 陰晴 （入札値段:米1俵10匁・大豆1俵7匁5分）
1734年 11月18日 享保19年　10月23日 曇　巳の刻過ぎより雨　終日に及ぶ
1734年 11月19日 享保19年　10月24日 曇　終日吹雪
1734年 11月20日 享保19年　10月25日 晴
1734年 11月21日 享保19年　10月26日 晴　未の刻雪　それより雨
1734年 11月22日 享保19年　10月27日 曇　時々雪　夜に入り5寸程 （碇関御蔵米50俵を杣飯米に願い・古米1俵当り14匁8分で御払い）
1734年 11月23日 享保19年　10月28日 陰晴 （先月15日江戸で岩田又五郎出奔）
1734年 11月24日 享保19年　10月29日 晴
1734年 11月25日 享保19年　11月1日 晴　酉の中刻より雨　終夜に及ぶ
1734年 11月26日 享保19年　11月2日 陰晴 （9月4日内真部村の船が南部で破船、当9月23日南部の船が久栗坂前沖で破船）
1734年 11月27日 享保19年　11月3日 快晴
1734年 11月28日 享保19年　11月4日 曇　夜に入り丸雪 （赤石組鴨村から初鱈差し上げる、荏粒油1匁値段2升2合5夕）
1734年 11月29日 享保19年　11月5日 曇　時々丸雪
1734年 11月30日 享保19年　11月6日 快晴　戌の下刻より雨　終夜に及ぶ
1734年　12月1日 享保19年　11月7日 曇　昨夜より雨終日 （11月4日夜八時金木組喜良市村で火災(3間半×14間:高無)・火元村預け、10月27日小泊で破船2人行方不明、当10月中出入り:碇関287人・大間越73人・野内213人）
1734年　12月2日 享保19年　11月8日 晴
1734年　12月3日 享保19年　11月9日 晴　卯の刻過ぎより雪暫く （4日金木組中里村(7日には喜良市村とある)の火元の村預け免許）
1734年　12月4日 享保19年　11月10日 曇　昨夜戌の刻より雨時々
1734年　12月5日 享保19年　11月11日 曇　昨夜酉の刻雷発す　雨終夜に及ぶ(及雨終夜)　時々小雪終日 （一昨9日藤崎組辻村で火災(2間×3間)・火元村預け）
1734年　12月6日 享保19年　11月12日 快晴 （9日横内組田屋敷村で火災(3間×9間:百姓)・駄馬3疋など焼失）
1734年　12月7日 享保19年　11月13日 快晴　夜中雨暫く　下から続く　（1升1合5才)・上青鶴大豆11匁1分1厘(1升2合1才)）
1734年　12月8日 享保19年　11月14日 晴　夜に入り雪 （雑穀の御蔵納め値段1俵:上大豆17匁7分7厘(米1升当り7合6夕)・次大豆9匁1分9厘(1升4合7夕)・上蕎麦18匁1分8厘(7合4夕)・上黒小豆11匁7分6厘　上に続く
1734年　12月9日 享保19年　11月15日 曇　昨夜よりの小雪時々 （9日藤崎組辻村と横内組田屋敷村の火元の村預け免許、柏木組高増村で火災・火元村預け）
1734年 12月10日 享保19年　11月16日 晴　昨夜より小雪　巳の刻過ぎ迄時々
1734年 12月11日 享保19年　11月17日 晴　酉の刻より戌の中刻迄大吹雪　暫くして止む （昨夜藤代組藤代村で火災(2間×4間:高無)・火元村預け）
1734年 12月12日 享保19年　11月18日 曇　昨夜中より雪　終日　夜に及ぶ
1734年 12月13日 享保19年　11月19日 曇　時々小雪 （13日高増村と14日藤代村の火元の村預け免許、10月20日夜後潟組奥平部村で帆柱(長さ17尋本口差渡2尺2寸)拾う、田舎館組高樋村で60男倒死）
1734年 12月14日 享保19年　11月20日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ （十三潟が11月18日朝に氷る、18日夜広須新田大畑村で火災・家1軒小荷駄1疋焼失・火元五人組預け）
1734年 12月15日 享保19年　11月21日 曇　雪時々
1734年 12月16日 享保19年　11月22日 曇　雪時々 （雉1羽値段:上り始めより10日の内雄6匁雌5匁・それより10日の内は5分下げ・さらに10日の内は1匁下げ）
1734年 12月17日 享保19年　11月23日 陰晴　時々小雪　下から続く　18日広須新田大畑村の火元の村預け免許、21日高杉組高杉村で火災・火元村預け、尾太10月出高:銅74箇7貫目・鉛159箇11貫目）
1734年 12月18日 享保19年　11月24日 快晴　申の刻過ぎより小雨暫く （今別御蔵米1俵を14匁5分に駄賃運賃加えて60俵を杣飯米に払出す、物成銭納(駄賃運賃を含む)1俵当り今別15匁5分2厘・十三14匁7分、　上に続く
1734年 12月19日 享保19年　11月25日 陰晴　夜に入り風雨　酉の中刻雷発す
1734年 12月20日 享保19年　11月26日 陰晴
1734年 12月21日 享保19年　11月27日 曇　終日吹雪　夜中に及ぶ （米入札1俵値段:弘前御蔵米15匁6分1厘(内沖役1匁2分以下同額)・鰺ヶ沢16匁1分3厘・青森16匁5分5厘、25日夜駒越川洪水、時疫で年貢に苦労している）
1734年 12月22日 享保19年　11月28日 曇　小雪時々　冬至子の五刻入る （21日高杉村の火元の村預け免許、18日十三町の寺の小屋焼失）
1734年 12月23日 享保19年　11月29日 陰晴
1734年 12月24日 享保19年　11月30日 晴 （20日飯詰組若山村の半助(胆1つと記述)・26日(多分)相馬村の左門三郎(胆生目35匁)それぞれ熊取る）
1734年 12月25日 享保19年　12月1日 曇　昨夜中より小雨終日
1734年 12月26日 享保19年　12月2日 曇　昨夜中より雪終日
1734年 12月27日 享保19年　12月3日 曇　時々小雪
1734年 12月28日 享保19年　12月4日 曇　小雪時々　夜に入り風 （先月16日十三の大風で馬船流失、先月25日の洪水で赤田組木筒村の渡し船流失）
1734年 12月29日 享保19年　12月5日 曇　小雪時々
1734年 12月30日 享保19年　12月6日 曇　昨夜中より雪終日　下から続く　:出130(御印紙91往来証文4切手紙35)・入り110人、大間越:出23(御印紙20切手紙3)・入り21人、野内:出93(御印紙61切手紙32)・入り129人）
1734年 12月31日 享保19年　12月7日 曇　昨夜中より雪時々 （所々御関所出入り人数99人、11月16日引取りの材木場付近の倒女死亡、谷口利助に一粒金丹3粒、富田町御蔵立会いの御手廻自害、11月中碇関　上に続く

1735年　1月1日 享保19年　12月8日 曇　昨夜中より吹雪終日
1735年　1月2日 享保19年　12月9日 晴
1735年　1月3日 享保19年　12月10日 曇　小雪時々　夜中吹雪
1735年　1月4日 享保19年　12月11日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ　(弘前御蔵米(沖役入り)1俵15匁3分では買ってくれない・大坂の米値段は下がり2俵で22匁8分……)
1735年　1月5日 享保19年　12月12日 曇　昨夜中雪
1735年　1月6日 享保19年　12月13日 晴　卯の三刻より小寒　(浪岡組中野村で者倒死)
1735年　1月7日 享保19年　12月14日 曇　時々雪　(三馬屋村勘兵衛に梨子代褒美米2俵下し置かれる)
1735年　1月8日 享保19年　12月15日 陰晴　昨夜中より小雪　(鯵ヶ沢御蔵米(沖役入り)1俵15匁9分で申付ける、太田権左衛門に一粒金丹3粒)
1735年　1月9日 享保19年　12月16日 曇　小雪時々　夜に入り吹雪
1735年　1月10日 享保19年　12月17日 曇　雪終日に及ぶ　(当暮渡し御切米865両余を御内分より御貸出、竹内弥右衛門に一粒金丹3粒)
1735年　1月11日 享保19年　12月18日 晴　昨夜中雪七八寸ほど降る
1735年　1月12日 享保19年　12月19日 陰晴　夜に入り小雨暫く　(12月11日小泊で松前船破船・1人死亡)
1735年　1月13日 享保19年　12月20日 晴
1735年　1月14日 享保19年　12月21日 快晴
1735年　1月15日 享保19年　12月22日 曇　小雨終日
1735年　1月16日 享保19年　12月23日 快晴
1735年　1月17日 享保19年　12月24日 曇　夜に入り小雨暫く
1735年　1月18日 享保19年　12月25日 曇　雪時々
1735年　1月19日 享保19年　12月26日 雪時々　寒気甚だしい
1735年　1月20日 享保19年　12月27日 曇　昨夜中より吹雪　(22日東風で後潟組後方沖で破船1艘・2人死亡、10日龍浜(竜飛)で破船1艘)
1735年　1月21日 享保19年　12月28日 曇　小雪時々
1735年　1月22日 享保19年　12月29日 陰晴　(27日油川組油川村で40男倒死)
1735年　1月23日 享保19年　12月30日 陰晴　小雪時々
1735年　1月24日 享保20年正月1日　陰晴　時々小雪
1735年　1月25日 享保20年正月2日　晴　時々小雪
1735年　1月26日 享保20年正月3日　曇　時々小雪
1735年　1月27日 享保20年正月4日　晴
1735年　1月28日 享保20年正月5日　晴
1735年　1月29日 享保20年正月6日　晴
1735年　1月30日 享保20年正月7日　曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　申の刻より余程の風　子の刻止む
1735年　1月31日 享保20年正月8日　曇　昨夜中より雪時々
1735年　2月1日 享保20年正月9日　晴　時々小雪　(7日の風雨で石渡橋破損、昨朝男牢死)
1735年　2月2日 享保20年正月10日　曇　昨夜中より雪
1735年　2月3日 享保20年正月11日　曇　強寒　昨夜よりの雪終日夜中に及ぶ
1735年　2月4日 享保20年正月12日　陰晴　(御用人唐牛刑部左衛門に一粒金丹10粒、7日浪岡組浪岡村に倒者・9日死亡)
1735年　2月5日 享保20年正月13日　曇　時々小雪
1735年　2月6日 享保20年正月14日　曇　時々雪
1735年　2月7日 享保20年正月15日　曇　時々雪　強寒
1735年　2月8日 享保20年正月16日　曇　時々雪　強寒
1735年　2月9日 享保20年正月17日　曇　時々雪　終日に及ぶ　寒強し
1735年　2月10日 享保20年正月18日　晴
1735年　2月11日 享保20年正月19日　快晴　夜に入り雪
1735年　2月12日 享保20年正月20日　曇　時々夜中より雪　終日に及ぶ
1735年　2月13日 享保20年正月21日　曇　昨夜中より吹雪
1735年　2月14日 享保20年正月22日　晴　昨夜中より雪時々　終日に及ぶ　(笠原八郎兵衛に一粒金丹10粒、一戸茂右衛門に3粒)
1735年　2月15日 享保20年正月23日　陰晴　夜中雪
1735年　2月16日 享保20年正月24日　曇　時々小雪　(21日赤石組関村に破船が流れ寄せる)
1735年　2月17日 享保20年正月25日　陰晴
1735年　2月18日 享保20年正月26日　曇　時々雪
1735年　2月19日 享保20年正月27日　快晴
1735年　2月20日 享保20年正月28日　曇　午の刻過ぎ雪降　(12月中出入り人数:碇関178人・野内169人・大間越27人)
1735年　2月21日 享保20年正月29日　曇　時々雪降　下から続く　2疋(胆長4寸廻り5寸5歩生目75匁:5歳と4寸5歩6寸90目:6歳)・赤石組一森村の喜六(3寸7寸70目:4歳)それぞれ熊取る、今別町の　欄外(*)に続く
1735年　2月22日 享保20年正月30日　曇　時々雪　(22日赤石組に死人3人(25・6余男・40余男・50余男)破船1艘分寄せる、18日藤代組出来嶋村に56・7男出家倒死・13日逐電の女と一緒、高杉組大秋村の新兵衛　上に続く
1735年　2月23日 享保20年　2月1日 陰晴　時々雪　(明珍与兵衛に一粒金丹3粒)
1735年　2月24日 享保20年　2月2日 晴　(青森町で女縊死)
1735年　2月25日 享保20年　2月3日 曇　午の刻前より小雨時々　(30日に牢死した男を斬罪)
1735年　2月26日 享保20年　2月4日 晴　今朝卯の刻過ぎ迄小雨
1735年　2月27日 享保20年　2月5日 陰晴
1735年　2月28日 享保20年　2月6日 晴
(*)　杣飯米100俵を1俵15匁8分7厘で払出す、今朝男牢死、当月御関所出入り:大間越出7入り24人・野内出20人(御切手紙10御印紙10)入り32人、碇関出38入り45人)

1735年　3月1日 享保20年　2月7日 陰晴　巳の刻前雪　それより小雨時々
1735年　3月2日 享保20年　2月8日 快晴　(12月25日(今別町赤根沢に破船1艘)
1735年　3月3日 享保20年　2月9日 快晴
1735年　3月4日 享保20年　2月10日 快晴
1735年　3月5日 享保20年　2月11日 陰晴　小雨時々　(大間越町庄屋から御蔵米60俵を3月分飯米として御払い願い・40俵を1俵15匁4分3厘で払出す)
1735年　3月6日 享保20年　2月12日 曇　巳の刻より小雨
1735年　3月7日 享保20年　2月13日 陰晴
1735年　3月8日 享保20年　2月14日 快晴
1735年　3月9日 享保20年　2月15日 曇　時々小雪　午の刻より丸雪
1735年　3月10日 享保20年　2月16日 快晴
1735年　3月11日 享保20年　2月17日 快晴
1735年　3月12日 享保20年　2月18日 快晴
1735年　3月13日 享保20年　2月19日 晴
1735年　3月14日 享保20年　2月20日 晴　明け七時頃より小雨　卯の中刻止む
1735年　3月15日 享保20年　2月21日 快晴　(一昨晩の大風で長勝寺に被害、十三潟2月20日朝早川まで明ける)
1735年　3月16日 享保20年　2月22日 快晴
1735年　3月17日 享保20年　2月23日 晴
1735年　3月18日 享保20年　2月24日 曇　昨夜亥の下刻より雪雨　終日に及ぶ
1735年　3月19日 享保20年　2月25日 曇　時々雪
1735年　3月20日 享保20年　2月26日 晴
1735年　3月21日 享保20年　2月27日 晴　時々小雪　(十三潟が23日舟通路明ける)
1735年　3月22日 享保20年　2月28日 陰晴　(当春渡御切米(10ヶ1差し引き)として864両余を御内分より御貸渡)
1735年　3月23日 享保20年　2月29日 晴　下から続く　(4寸2歩5寸1歩32匁)それぞれ熊取る、藤代組小友村に男倒死)
1735年　3月24日 享保20年　3月1日 晴　昨夜中小雪　(2月中碇関・野内御関所出人51人(御印紙20切手紙16枚)、大鰐組森山村の弥左衛門(胆長2寸7歩廻り2寸5歩生目2匁5分)・堀越組一野渡村の彦次郎　上に続く
1735年　3月25日 享保20年　3月2日 陰晴
1735年　3月26日 享保20年　3月3日 晴　(人事異動)
1735年　3月27日 享保20年　3月4日 陰晴
1735年　3月28日 享保20年　3月5日 陰晴
1735年　3月29日 享保20年　3月6日 快晴
1735年　3月30日 享保20年　3月7日 快晴　(当2月中大間越:出入り93人、今日西風強く広須新田大畑村で火災(4間×7間:高無)死者1人小荷駄1疋怪我)
1735年　3月31日 享保20年　3月8日 晴　終日小風
1735年　4月1日 享保20年　3月9日 快晴　(9月5日に大間越に流れ着いた帆柱(長さ10尋3尺・元口6尺5寸)を6ヶ月保存したので拾った者共に)
1735年　4月2日 享保20年　3月10日 陰晴　(大間越町奉行に熊狼荒れ対策として六匁玉などを渡す)
1735年　4月3日 享保20年　3月11日 陰晴　子の刻より雨　終夜に及ぶ　(新町で19歳男縊死、男牢死・その男斬罪)
1735年　4月4日 享保20年　3月12日 曇　昨夜より雨　午の刻より晴　(9日夜後潟組上小国村で火災(2軒・50余女房焼死・馬2疋)・火元他村預け)
1735年　4月5日 享保20年　3月13日 曇　巳の刻より雨終日
1735年　4月6日 享保20年　3月14日 快晴
1735年　4月7日 享保20年　3月15日 曇　寅の刻雨雪　卯の刻雷発す　(9日上小国村の火元の他村預け免許、11日金木組深郷田村で火災・火元村預け、12日三新田米田村で火災2軒・火元五人組預け)
1735年　4月8日 享保20年　3月16日 曇　今朝小雪　(40俵2人扶持の足軽目付が拝借金返済の20俵差し引き中病死・弟が20俵2人扶持で跡・差し引き継続で2人扶持のみの生活1年・15俵2人扶持にしてもらう)
1735年　4月9日 享保20年　3月17日 快晴　(新町で小火)
1735年　4月10日 享保20年　3月18日 快晴
1735年　4月11日 享保20年　3月19日 晴　今朝霜降　(11日深郷田村・12日米田村の火元がそれぞれ村預け免許、今朝明け六つ過ぎ男牢死、阿芙蓉は去年どおり3反歩植付)
1735年　4月12日 享保20年　3月20日 曇　巳の刻過ぎより雨終日　(大間越町庄屋が来閏3月分70俵御払い願い・1俵15匁1分3厘(駄賃運賃入り)で40俵払出す、18日御手廻組御武具奉行逐電)
1735年　4月13日 享保20年　3月21日 晴　(6日大畑村の火元の村預け免許、昨19日暮れ六過ぎ青森たはこ町で火災・北東風少々吹き本家2軒・半在家1軒焼失・火元入寺)
1735年　4月14日 享保20年　3月22日 快晴
1735年　4月15日 享保20年　3月23日 快晴
1735年　4月16日 享保20年　3月24日 快晴　(21日夜後潟組後潟村で火災10軒・火元他村預け)
1735年　4月17日 享保20年　3月25日 晴
1735年　4月18日 享保20年　3月26日 晴　下から続く　25日夜大光組荒田村で火災2軒、成田〇益に一粒金丹3粒、24日赤石組舞戸村に火災4軒・火元他村預け)
1735年　4月19日 享保20年　3月27日 晴　(家老大道寺宇左衛門に一粒金丹30粒、22日金木組嘉瀬村で野火(100間×100間)、23日尾崎組尾崎村で野火(40間×60間)、23日高杉組大森村で野火(200間×70間)、　上に続く
1735年　4月20日 享保20年　3月28日 曇　辰の刻小雨　(瓦1枚3分6厘7毛、25日藤代組笹館村で野火(170尋×90間)、当2月中野内:出入り都合120人)
1735年　4月21日 享保20年　3月29日 快晴　(今朝鯵ヶ沢で後家入水死)
1735年　4月22日 享保20年　3月30日 晴　今朝霜下　(市川吉左衛門病死、尾崎組唐竹村の甚左衛門・堀越組一野渡村の小三郎・赤石組岩崎村の弥十郎それぞれ熊取る、21日後潟村・24日舞戸村の火元それぞれ他村預け免許)
1735年　4月23日 享保20年閏3月1日　晴　(唐人参値段:人参1両(約36gか)に付代銀上58匁並28匁)
1735年　4月24日 享保20年閏3月2日　快晴　霜降　(先月中碇関出人98人内他国者39人御国人10人御印紙3枚外49人御国者切手紙32枚・野内他国者1人御印紙1枚御国者1人切手紙1枚、先月29日十三湊で南部船破船1艘)
1735年　4月25日 享保20年閏3月3日　晴　今朝大霜　未の下刻小雨　則止む
1735年　4月26日 享保20年閏3月4日　快晴　今朝霜　(馬場六郎兵衛に一粒金丹3粒、先月晦日夜油川組内真辺村・左関村で野火(各150間×100間)、先月15日広須新田広田村の庄屋行方不明)
1735年　4月27日 享保20年閏3月5日　陰晴
1735年　4月28日 享保20年閏3月6日　曇　巳の刻小雨時々
1735年　4月29日 享保20年閏3月7日　晴　昨夜中より雨　巳の刻まで　(水木惣左衛門に一粒金丹3粒、今朝板屋野木村の道心縊死)
1735年　4月30日 享保20年閏3月8日　晴

1735年　5月1日 享保20年閏3月9日　晴　酉の刻より小雨時々 （去年江戸御払い米平均1両に付き1石5斗8升7合5夕8才、昨7日朝長磯浜で破船1艘）
1735年　5月2日 享保20年閏3月10日　晴 （2日碇関相乗沢で野火（100間×50間））
1735年　5月3日 享保20年閏3月11日　晴　朝の内曇　酉の刻より雨　終夜に及ぶ
1735年　5月4日 享保20年閏3月12日　晴　昨夜中より雨　今朝まで少し雨 （12日飯詰組飯詰村に男縊死、8日駒越組桜庭村で野火（60間×40間）、御家中屋敷に投げ火）
1735年　5月5日 享保20年閏3月13日　陰晴　午の中刻過ぎ小雨
1735年　5月6日 享保20年閏3月14日　陰晴　巳の中刻地震暫く　午の刻小雨時々　　下から続く　　正月銅30箇6貫目・2月銅50箇1貫目鉛20箇9貫目・3月銅109箇13貫目鉛216箇15貫目）
1735年　5月7日 享保20年閏3月15日　快晴　霜降 （9日碇関山碇沢付近で野火（500間×50間）、去月19日青森の火元の入寺免許、昨日の大風で百沢寺破損、尾太出高：12月銅79箇3貫目鉛125箇15貫目・　　上に続く
1735年　5月8日 享保20年閏3月16日　快晴 （昨朝五時過ぎ頃青森町で縊死男1人と咽喉に傷の女死亡）
1735年　5月9日 享保20年閏3月17日　陰晴　風　夜中小雨 （15日?今朝六つ頃広須新田大畑村で火災（4間×10間：百姓）・火元五人組預け、当3月中出入り：碇関223・大間越69・野内221人）
1735年　5月10日 享保20年閏3月18日　陰晴 （信政の25回忌と大赦）
1735年　5月11日 享保20年閏3月19日　快晴 （今昼九つ頃広須新田林村で火災4軒・火元他村五人組預け、一昨17日津軽坂村で野火（300間×150間））
1735年　5月12日 享保20年閏3月20日　快晴 （神勘太郎と佐藤弥五右衛門に一粒金丹3粒づつ）
1735年　5月13日 享保20年閏3月21日　快晴 （18日夜赤石組関村で庄屋家から火災・28軒小荷駄1疋焼失・火元他村預け、20日昼駒越組二本木村で火災・火元呵置く、昨五つ時本寺町に投げ火）
1735年　5月14日 享保20年閏3月22日　快晴
1735年　5月15日 享保20年閏3月23日　陰晴
1735年　5月16日 享保20年閏3月24日　晴　小風 （9日今別町で大風・井戸小屋破損、17日飯詰組持子沢村で野火（300間×40間））
1735年　5月17日 享保20年閏3月25日　快晴　未の下刻小雨　則止む　夜に入り雨
1735年　5月18日 享保20年閏3月26日　快晴 （斬罪2人（謀判・越山立帰り2度）、今夜亀甲町で火災3軒）
1735年　5月19日 享保20年閏3月27日　快晴　風添う （今日昼四つ過ぎ碇関山で山火事（130間×70間）、亀甲町火災は投火か、今別町の杣飯米に御蔵米100俵を1俵15匁3分で払出す、22日飯詰組金山村で野火（300間×400間））
1735年　5月20日 享保20年閏3月28日　晴　風添う （浪岡御蔵の米入札：2俵2斗8升1合が14匁8分5厘、今日碇関津苅沢で山火事、15日大畑村の火元の村預け赦免、天気悪しく四社で御祈祷）
1735年　5月21日 享保20年閏3月29日　曇　小雨時々　風添う　夜中小雨 （1日駒越組田代村の次右衛門（胆長3寸5歩廻り5寸生目50匁：3歳）・浦町組合子（沢）村の弥十郎2疋（52匁と22匁）それぞれ熊取る、　　欄外(*)に続く
1735年　5月22日 享保20年　　4月1日 晴 （閏3月出人：碇関79人（御国人2他国者77御印紙53枚）・野内他国者4人御印紙1枚・碇関御国人69人切手紙49枚・野内御国人1人切手紙1枚・出人都合151人、　　欄外(**)に続く
1735年　5月23日 享保20年　　4月2日 晴
1735年　5月24日 享保20年　　4月3日 晴
1735年　5月25日 享保20年　　4月4日 快晴 （弘前御蔵米値段沖御役入れ14匁5分、唐牛刑部左衛門に一粒金丹10粒）
1735年　5月26日 享保20年　　4月5日 快晴
1735年　5月27日 享保20年　　4月6日 晴
1735年　5月28日 享保20年　　4月7日 晴　夜に入り雷　風　則止む （去27日木作出火、11日の大風で赤石組関村の御制札破損、先月18日の関村の火元庄屋の他村預け御免）
1735年　5月29日 享保20年　　4月8日 曇　卯の刻雨 （尾太閏3月出高：銅110箇1貫目・鉛312箇14貫目）
1735年　5月30日 享保20年　　4月9日 晴　2日に十三で水主3人行方不明、赤石組田浦村で34・5男倒死）
1735年　5月31日 享保20年　4月10日 快晴 （昨28日昼八つ時頃後潟組杉村に野火（150間×100間）、先月28日浅虫御山で野火（100間×50間））
1735年　6月1日 享保20年　4月11日 晴 （和徳組百田村の伝馬勤め方の高無42軒に去年どおり2斗宛渡す、昨10日男牢死）
1735年　6月2日 享保20年　4月12日 晴 （今朝男牢死・同人を斬罪）
1735年　6月3日 享保20年　4月13日 快晴
1735年　6月4日 享保20年　4月14日 陰晴　風強し　午の中刻より小雨時々　夜に及ぶ （昨日より堀越組大和沢で大火・御手廻御馬廻等が消火に走る、11日宇田湊で越中船の水主病死）
1735年　6月5日 享保20年　4月15日 陰晴　午の下刻より小雨時々 （昨日の風で籾御蔵の屋根はげる）
1735年　6月6日 享保20年　4月16日 曇　卯の刻過ぎより雨時々
1735年　6月7日 享保20年　4月17日 晴 （大間越町庄屋が当月分70俵払い出し願い・50俵を駄賃運賃加え1俵14匁6分3厘で払出す、14日朝深浦町で火災（百姓2軒高無43・4軒））
1735年　6月8日 享保20年　4月18日 晴
1735年　6月9日 享保20年　4月19日 晴　申の刻より小雨時々　終夜に及ぶ （12日広須新田小林村で火災・火元の村預け免許）
1735年　6月10日 享保20年　4月20日 曇　小雨　午の刻より止む　　下から続く　　新田丸山村で火災・火元村預け御免）
1735年　6月11日 享保20年　4月21日 陰晴　申の下刻小雨　則止む （蟹田御蔵米100俵を1俵14匁6分1厘で杣飯米に、平館村中百姓12高無111軒、閏3月27・28日の木作村・舞戸村で火災・火元村預け、14日広須　　上に続く
1735年　6月12日 享保20年　4月22日 晴 （先月28日の風で青森御仮屋所々破損）
1735年　6月13日 享保20年　4月23日 快晴 （元代官所手代・元表坊主が乞食小屋入り）
1735年　6月14日 享保20年　4月24日 晴 （21日夜後潟組小橋村で火災3軒）
1735年　6月15日 享保20年　4月25日 晴
1735年　6月16日 享保20年　4月26日 快晴 （今朝男牢死・同人を斬罪）
1735年　6月17日 享保20年　4月27日 晴　未の上刻小雨　夜中に及ぶ （先月27日木作村の類焼が百姓・高無・借家とも73人）
1735年　6月18日 享保20年　4月28日 曇　雨　午の刻雷発す
1735年　6月19日 享保20年　4月29日 陰晴
1735年　6月20日 享保20年　4月30日 晴　未の刻より雷度々発す　それより雨　　下から続く　　・所々御関所出人都合552人）
1735年　6月21日 享保20年　　5月1日 陰晴　午の刻より雷度々発す　小雨 （去月21日後潟組小橋村の火元の他村預け御免）　　下から続く　　切手紙103枚・野内2人切手紙1枚・大間越御国人1人切手紙1枚　　上に続く
1735年　6月22日 享保20年　　5月2日 曇 （4月中出人：碇関119人(御国人53他国者66)御印紙42枚・野内他国者1人御印紙1枚・大間越他国者5人御印紙2枚・青森湊口他国者1人御印紙1枚・碇関御国人423人　　上に続く
1735年　6月23日 享保20年　　5月3日 曇
1735年　6月24日 享保20年　　5月4日 晴
1735年　6月25日 享保20年　　5月5日 曇　巳の刻過ぎ小雨
1735年　6月26日 享保20年　　5月6日 晴
1735年　6月27日 享保20年　　5月7日 晴 （先月29日赤石組・同30日広須新田越水村と横内村の火元の村預け赦免、4月中出入り：碇関688・野内453・大間越58人）
1735年　6月28日 享保20年　　5月8日 快晴
1735年　6月29日 享保20年　　5月9日 晴
1735年　6月30日 享保20年　　5月10日 陰晴 （今6日夜尾崎組新館村の庄屋家に盗人）
(*) 28日赤石組舞戸村・田浦村に火災(百姓9・高無88・借家6軒・馬3疋・庵1軒(2間×3間)・道心1人焼死・火元赤石村預け、昨夜土手町・今晩一番町に投げ火)
(**) 昨29日横鍛冶町・土手町・土手鍛冶町にそれぞれ投げ火)

1735年　7月1日 享保20年　5月11日 快晴 (十三潟が浅くなった、大間越町奉行が当月分御蔵米60俵払出し申立・駄賃運賃加え1俵14匁2分3里で払出す、尾太4月出高:銅154箇2貫目・鉛384箇13貫目)
1735年　7月2日 享保20年　5月12日 曇 午の刻より小雨 夜中に及ぶ
1735年　7月3日 享保20年　5月13日 曇
1735年　7月4日 享保20年　5月14日 晴 (昨夜岩木川洪水)
1735年　7月5日 享保20年　5月15日 曇 (4月5日飯詰組大泉寺前の火元入寺免許、4日浮田村の火元の村預け免許)
1735年　7月6日 享保20年　5月16日 晴
1735年　7月7日 享保20年　5月17日 晴 (深浦町の火元の入寺免許、12日朝より13日夜中の雨で蟹田川洪水、今朝より駒越渡しが船渡しとなる)
1735年　7月8日 享保20年　5月18日 晴 (今日昼頃藤崎組川部村に36・7男道心倒死)
1735年　7月9日 享保20年　5月19日 曇 卯の刻より雨 終日に及ぶ 未の下刻雷発す
1735年　7月10日 享保20年　5月20日 曇 未の下刻小雨
1735年　7月11日 享保20年　5月21日 曇
1735年　7月12日 享保20年　5月22日 晴 午の下刻雷発す 雨暫く (新田2町歩1人扶持の青森御仮屋常付足軽あり)
1735年　7月13日 享保20年　5月23日 晴 (阿芙蓉人数不足・小人10人に申付ける)
1735年　7月14日 享保20年　5月24日 晴 (亀甲町の火元(閏3月26日か)入寺赦免)
1735年　7月15日 享保20年　5月25日 快晴
1735年　7月16日 享保20年　5月26日 快晴 (男牢死・同人斬罪(酒狂い殺人)、別の男牢死)
1735年　7月17日 享保20年　5月27日 陰晴 未の刻前小雨 則止む (十三湊水戸堀人足が働く前に深くなり舟が通る、3月20日十三前浜で破船1艘、今朝蟹田湊で破船1艘)
1735年　7月18日 享保20年　5月28日 曇 巳の上刻より小雨 夜中に及ぶ (3尺縄の例あり:普通は5尺のものです)
1735年　7月19日 享保20年　5月29日 曇 巳の中刻より小雨　　下から続く　碇関79人切手紙43枚・野内14人10枚・大間越2人1枚、先月24日後潟組郷沢村前浜に破船1艘)
1735年　7月20日 享保20年　6月1日 晴 子の六刻土用に入る 甚暑 (5月中出人:碇関159人(御国人39他国者119)御印紙49枚・大間越他国者8人御印紙2枚・青森湊口他国者2人御印紙1枚、出人御国人:　　上に続く
1735年　7月21日 享保20年　6月2日 晴 夜に入り小雨
1735年　7月22日 享保20年　6月3日 曇 甚暑 巳の刻過ぎより小雨時々 (5月28日男牢死・御蔵の腰板取り同人斬罪)
1735年　7月23日 享保20年　6月4日 晴 暑気強 (2日南溜池で11歳男水死)
1735年　7月24日 享保20年　6月5日 晴 暑気 辰の刻より小雨時々
1735年　7月25日 享保20年　6月6日 快晴 甚暑
1735年　7月26日 享保20年　6月7日 晴 暑気 夜に入り雨 雷電 (昨4日朝赤田組菖蒲川村で火災1軒・火元村預け)　　下から続く　　:銅115箇13貫目・鉛371箇4貫目)
1735年　7月27日 享保20年　6月8日 晴 甚暑 夜に入り雨 (5月中野内:出360・入り272人、同月中碇関:出607・入り347人、大手の橋御修復出来、御牧の狼荒れ対策に筒薬150匁等を渡す、尾太5月出高　　上に続く
1735年　7月28日 享保20年　6月9日 陰晴 甚暑 (隈部伊織に一粒金丹30粒・長尾戸左衛門に5粒)
1735年　7月29日 享保20年　6月10日 晴 甚暑 (4日菖蒲川村の火元の村預け免許)
1735年　7月30日 享保20年　6月11日 晴 甚暑 夜に入り小雨 (男2人斬罪(勘定所帳面盗み取り))
1735年　7月31日 享保20年　6月12日 晴 甚暑
1735年　8月1日 享保20年　6月13日 晴 甚暑
1735年　8月2日 享保20年　6月14日 晴 甚暑
1735年　8月3日 享保20年　6月15日 快晴 甚暑
1735年　8月4日 享保20年　6月16日 快晴 甚暑 (尾崎組大坊村の茂左衛門と大鰐組同村の加賀助が初穂差上げる・4月15日植付今日まで61日・去年は5月3日植付で7月10日出穂・当年5日早く節に引合ても4日早い)
1735年　8月5日 享保20年　6月17日 快晴 甚暑
1735年　8月6日 享保20年　6月18日 快晴 甚暑
1735年　8月7日 享保20年　6月19日 快晴 残暑強
1735年　8月8日 享保20年　6月20日 快晴 残暑強
1735年　8月9日 享保20年　6月21日 快晴 残暑強 (薬王院に一粒金丹5粒)
1735年　8月10日 享保20年　6月22日 快晴 残暑強 (水不足につき四社に御祈祷仰せ付ける)
1735年　8月11日 享保20年　6月23日 快晴 残暑強 (5月14日広須新田桑野木田村で洪水)
1735年　8月12日 享保20年　6月24日 曇 残暑強 午の刻より雨時々 (去月12日蟹田村で洪水)
1735年　8月13日 享保20年　6月25日 快晴 残暑強
1735年　8月14日 享保20年　6月26日 晴 残暑強 未の刻過ぎ小雨 雷数度発す 夜に入り小雨 雷発す
1735年　8月15日 享保20年　6月27日 曇 巳の刻過ぎより小雨時々 雷発す (大間越町奉行が御蔵米7月分70俵御払い申立・駄賃運賃加え1俵を14匁6分3厘で50俵払出す)
1735年　8月16日 享保20年　6月28日 曇 巳の下刻小雨 則止む 夜に入り雨 雷度々発す
1735年　8月17日 享保20年　6月29日 曇 昨夜よりの雨終日終夜に及ぶ (10日飯詰組若山村の半助が熊(胆長3寸2歩廻り5寸生目方12匁:4歳)取る)
1735年　8月18日 享保20年　7月1日 晴 (6月中所々御関所出人都合78人・他国者碇関口41人御印紙33枚野内口2人2枚・御国人碇関口35人切手紙23枚野内口1人1枚)
1735年　8月19日 享保20年　7月2日 晴 未の下刻小雨 則止む
1735年　8月20日 享保20年　7月3日 晴 申の刻雨 夜中に及ぶ
1735年　8月21日 享保20年　7月4日 曇 昨夜よりの雨 巳の刻止む (昨夜の大雨で長勝寺黒門の柵吹き倒れる、15日報恩寺帳付けに山上羽右衛門)
1735年　8月22日 享保20年　7月5日 晴 午の刻より曇 小雨夜に入る
1735年　8月23日 享保20年　7月6日 晴 未の刻過ぎ雷発す (昨5日昼赤田組喰川村で落雷・火災1軒(6間×16間))
1735年　8月24日 享保20年　7月7日 晴 (大鰐村・大坊村より初米上がる・去年は7月28日・去年より22日早く節に引合2日早い)
1735年　8月25日 享保20年　7月8日 快晴 夜に入り雨
1735年　8月26日 享保20年　7月9日 陰晴 巳の刻過ぎ小雨 午の刻大雨 雷発す (明珍与兵衛に一粒金丹5粒)
1735年　8月27日 享保20年　7月10日 快晴 残暑甚 (紅花1斤につき11匁値段)
1735年　8月28日 享保20年　7月11日 晴 残暑甚
1735年　8月29日 享保20年　7月12日 曇 辰の刻小雨 巳の刻過ぎより晴 (木村庄之助の弟子になった御旗小頭がいる)
1735年　8月30日 享保20年　7月13日 快晴
1735年　8月31日 享保20年　7月14日 快晴

1735年　9月1日 享保20年　7月15日 快晴 （6月中野内:出78･入り82人）
1735年　9月2日 享保20年　7月16日 曇 辰の下刻より雨 夜中に及ぶ
1735年　9月3日 享保20年　7月17日 曇 昨夜より雨終日 夜に及ぶ （山田喜右衛門に一粒金丹3粒、野内川鮭留御役銭入札:279匁9分5厘、10日赤石組森山の間口（湊の入り口）で破船1艘）
1735年　9月4日 享保20年　7月18日 晴
1735年　9月5日 享保20年　7月19日 晴
1735年　9月6日 享保20年　7月20日 陰晴
1735年　9月7日 享保20年　7月21日 曇 辰の刻前より小雨
1735年　9月8日 享保20年　7月22日 曇 昨夜より雨時々 （入札:科料米8俵が84匁･ただし1俵に付き10匁5分）
1735年　9月9日 享保20年　7月23日 曇
1735年　9月10日 享保20年　7月24日 晴 （森岡内蔵助に一粒金丹10粒･木村忠衛門に3粒、18日の洪水で薬王院の橋･和徳稲荷の橋被害）
1735年　9月11日 享保20年　7月25日 晴 辰の刻前小雨 即止む 申の刻より小雨 終夜に及ぶ
1735年　9月12日 享保20年　7月26日 曇 終日小雨
1735年　9月13日 享保20年　7月27日 晴 巳の刻小雨 則止む （米相場1俵につき13匁･両替83匁5分、西瓜七つ御薬園に下される）
1735年　9月14日 享保20年　7月28日 快晴
1735年　9月15日 享保20年　7月29日 快晴 （長尾戸左衛門に一粒金丹5粒、当月17日横内組筒井村の荒川の橋が洪水でかけ落ちる）
1735年　9月16日 享保20年　7月30日 曇 卯の刻過ぎより雨 （天気悪しく岩木嵩への湯治を停止）
1735年　9月17日 享保20年　8月1日 陰晴 卯の刻過ぎ小雨 （7月中所々御関所出人都合99人:碇関出人52人（御国人2他国者50）御印紙36枚･野内口他国者3人2枚･碇関御国人42人切手紙22枚･大間越御国人2人2枚）
1735年　9月18日 享保20年　8月2日 晴 卯の中刻小雨暫く
1735年　9月19日 享保20年　8月3日 晴
1735年　9月20日 享保20年　8月4日 曇 辰の刻小雨 則止む （蟹田御蔵米を相場に駄賃運賃加え1俵14匁7分7毛で払出す、四社へ五穀成就の御祈祷を申付ける）
1735年　9月21日 享保20年　8月5日 快晴
1735年　9月22日 享保20年　8月6日 快晴 下から続く ･代官など15、7月中野内:出98･入り217人、7月中大間越:出31･入り19人）
1735年　9月23日 享保20年　8月7日 快晴 彼岸に入る （十三湊口が先達ての洪水で変わる、流木割付20051本（御家老166本･御用人94･大目付67･武頭48･四奉行など29･御番頭22･御馬廻等18･御中小姓16 上に続く
1735年　9月24日 享保20年　8月8日 快晴
1735年　9月25日 享保20年　8月9日 晴 申の刻過ぎ雨 則止む
1735年　9月26日 享保20年　8月10日 晴 卯の中刻雨 即止む
1735年　9月27日 享保20年　8月11日 陰晴
1735年　9月28日 享保20年　8月12日 晴 明六過ぎ地震 （8月12日朝六時飯詰組一野坪村で火災1軒（4間×12間:百姓（23日の記述で））
1735年　9月29日 享保20年　8月13日 晴
1735年　9月30日 享保20年　8月14日 晴
1735年　10月1日 享保20年　8月15日 快晴 （冬瓜五つ上がる、入札:大豆9俵3升5合が81匁5厘･押米19俵が220目7分8厘･朽米27俵1斗2升が260目7分1厘5毛･古米14俵2斗5升が110目7分8厘4毛）
1735年　10月2日 享保20年　8月16日 快晴 未の中刻より夜中小雨時々
1735年　10月3日 享保20年　8月17日 曇 今朝寅の中刻より大雨 終日夜に及ぶ （木立次郎三郎に一粒金丹3粒）
1735年　10月4日 享保20年　8月18日 曇
1735年　10月5日 享保20年　8月19日 晴
1735年　10月6日 享保20年　8月20日 曇 （赤石組追良瀬村･大鰐組大沢村の火元（月日?）村預け御免、大間越町奉行が御蔵米9月分50俵御払い申し出で･相場に駄賃運賃を加え1俵15匁4分3厘で払出す）
1735年　10月7日 享保20年　8月21日 陰晴 酉の下刻より小雨 （尾太6月出高:銅178固（6貫目入り?:普通はこれまで16貫目入り）･鉛457固4貫目、7月出高:銅116固10貫目･鉛446固10貫目）
1735年　10月8日 享保20年　8月22日 曇 終日小雨 夜に入り雷発す （11日壱野坪村の火元の預け赦免）
1735年　10月9日 享保20年　8月23日 陰晴 （今井源五右衛門･棟方作右衛門を家老に･各300石加増）
1735年　10月10日 享保20年　8月24日 晴 巳の后刻小雨 早速晴 （今23日油川組油川村に54･5女乞食倒死）
1735年　10月11日 享保20年　8月25日 晴
1735年　10月12日 享保20年　8月26日 快晴
1735年　10月13日 享保20年　8月27日 快晴 （御徒小頭木村次郎左衛門に一粒金丹3粒、20日駒越組五所村に火災2軒･類火あり火元他村預け･免許）
1735年　10月14日 享保20年　8月28日 雨天 （初鮭かな、一粒金丹調合所の御用が今日までに相済む）
1735年　10月15日 享保20年　8月29日 晴 巳の刻過ぎより雨
1735年　10月16日 享保20年　9月1日 晴 （8月中碇関出人都合127人（他国者83御印紙57枚･御国人44人切手紙22枚）、先月20日駒越組五所村で火災2軒･火元他村預け、13日大鰐組大沢村で火災1軒･火元村預け）
1735年　10月17日 享保20年　9月2日 陰晴 夜に入り雨降 （家老大道寺宇左衛門が16日江戸で病死）
1735年　10月18日 享保20年　9月3日 陰晴
1735年　10月19日 享保20年　9月4日 曇 霰少々 時雨少々
1735年　10月20日 享保20年　9月5日 晴 大霜
1735年　10月21日 享保20年　9月6日 晴 大霜 （初鮭8月24日、二番三番鮭9月4日）
1735年　10月22日 享保20年　9月7日 曇
1735年　10月23日 享保20年　9月8日 快晴
1735年　10月24日 享保20年　9月9日 曇 未の刻より雨 夜中に及ぶ
1735年　10月25日 享保20年　9月10日 曇 （6日夜横内組桑畑（桑原かな）村で火災1軒雑駄1疋焼失･火元村預け、今朝男牢死）
1735年　10月26日 享保20年　9月11日 晴 （十三潟水戸口が瀬になりぢょ連ん（鋤簾:じょれん）で掘る）
1735年　10月27日 享保20年　9月12日 晴
1735年　10月28日 享保20年　9月13日 快晴 今朝大霜
1735年　10月29日 享保20年　9月14日 快晴 今朝大霜
1735年　10月30日 享保20年　9月15日 快晴 今朝霜 （野内:出入り都合153人、6日桑畑村の火元の村預け免許）
1735年　10月31日 享保20年　9月16日 快晴

1735年　11月1日 享保20年　9月17日 晴
1735年　11月2日 享保20年　9月18日 曇　風雨　夜中に及ぶ
1735年　11月3日 享保20年　9月19日 曇　雪時々　(今朝男牢死、昨17日大和沢山で山火事(8間×2間))
1735年　11月4日 享保20年　9月20日 曇　昨夜より雨降　(高岡に狼が出るとして鉄砲玉などを渡している、一昨18日暮六時広田組五所川原村で60余男倒死)
1735年　11月5日 享保20年　9月21日 曇
1735年　11月6日 享保20年　9月22日 陰晴　(尾太8月出高:銅112箇6貫目・鉛451箇3貫目(1箇は16貫目入り))
1735年　11月7日 享保20年　9月23日 曇　昨夜中より雨時々
1735年　11月8日 享保20年　9月24日 曇　時々雨　(人参植え様のマニュアルが届きその後各地に植えている)
1735年　11月9日 享保20年　9月25日 曇　昨夜強風　雨雪ふる(婦留)　今朝時々雪ふる(婦流)
1735年 11月10日 享保20年　9月26日 曇　時々小雨　夜に入り霰
1735年 11月11日 享保20年　9月27日 快晴
1735年 11月12日 享保20年　9月28日 曇　夜に入り小雨
1735年 11月13日 享保20年　9月29日 晴
1735年 11月14日 享保20年　9月30日 曇　終日雨降る　夜中雷一度発す　(24日駒越組桜庭村の喜右衛門熊(胆長3寸5歩廻り6寸生目14匁)取る)　　下から続く　　:出入り26人、入札:土米7俵が28匁3分9厘7毛)
1735年 11月15日 享保20年　10月1日 時々雪降　午の中刻雷発す　(9月中所々御関所出人都合90人(碇関:他国者56御印紙45・御国人33切手紙17・青森湊口御国人1切手紙1、8月中碇関:出入り386・大間越　　上に続く
1735年 11月16日 享保20年　10月2日 曇　終日雪　夜風強し　(近年雉子払底)
1735年 11月17日 享保20年　10月3日 陰晴　雪風　(高岡の担当寄合・御蔵奉行など8人召し放ち)
1735年 11月18日 享保20年　10月4日 快晴　夜に入り雨降
1735年 11月19日 享保20年　10月5日 曇　時々雨
1735年 11月20日 享保20年　10月6日 陰晴　雪
1735年 11月21日 享保20年　10月7日 曇　昨夜より雪降
1735年 11月22日 享保20年　10月8日 晴　昨夜雪1尺ほど降　(五山に天気上げの御祈祷を仰せ付ける、9月中大間越:出26・入り20人)
1735年 11月23日 享保20年　10月9日 昨夜中より雨　終日に及ぶ
1735年 11月24日 享保20年　10月10日 快晴　昨夜小雪風　夜に入り雷発す
1735年 11月25日 享保20年　10月11日 曇　小雨時々
1735年 11月26日 享保20年　10月12日 曇　時々小雪　(尾太9月出高:銅154箇・鉛330箇14貫目)
1735年 11月27日 享保20年　10月13日 晴　夜に入り雷雨数発す　(代官の総入れ替えあり)
1735年 11月28日 享保20年　10月14日 曇　終日雨　巳の刻震動
1735年 11月29日 享保20年　10月15日 晴
1735年 11月30日 享保20年　10月16日 曇　午の上刻雪
1735年　12月1日 享保20年　10月17日 晴　(13日夜柏木組館野越村で50位男縊死、14日金木組相内村で火災16軒(百姓1高無等15)馬2疋焼死・火元他村預け)
1735年　12月2日 享保20年　10月18日 陰晴　未の刻より小雪
1735年　12月3日 享保20年　10月19日 曇
1735年　12月4日 享保20年　10月20日 晴
1735年　12月5日 享保20年　10月21日 晴　未の刻過ぎより雪　夜中に及ぶ
1735年　12月6日 享保20年　10月22日 曇　雪時々　巳の刻過ぎ雷発す
1735年　12月7日 享保20年　10月23日 快晴　(9月24日深浦で破船1艘)
1735年　12月8日 享保20年　10月24日 快晴
1735年　12月9日 享保20年　10月25日 曇　昨夜より雨時々
1735年 12月10日 享保20年　10月26日 晴
1735年 12月11日 享保20年　10月27日 快晴　夜に入り雨
1735年 12月12日 享保20年　10月28日 晴　巳の刻より雨　(去16日晩三番鱈も上がる)
1735年 12月13日 享保20年　10月29日 曇　昨夜より強い吹雪　終日に及ぶ　(大間越から御蔵米50俵御払い願い・40俵を払出す(今回は値段なし))
1735年 12月14日 享保20年　11月1日 快晴　夜に入り小雨時々　(10月中所々御関所出人都合88人(碇関:他国者59御印紙45・御国人27切手紙6・野内:御国人2切手紙1))
1735年 12月15日 享保20年　11月2日 晴　(成田伝八に一粒金丹?粒)
1735年 12月16日 享保20年　11月3日 曇
1735年 12月17日 享保20年　11月4日 陰晴　朝の内雪降　夜に入り小雪
1735年 12月18日 享保20年　11月5日 陰晴
1735年 12月19日 享保20年　11月6日 陰晴
1735年 12月20日 享保20年　11月7日 晴
1735年 12月21日 享保20年　11月8日 曇　終日小雪　(渡部次太夫に一粒金丹5粒・成田伝八に3粒、先月中碇関:出131(60御印紙・11往来証文・60切手紙)・入り190人)
1735年 12月22日 享保20年　11月9日 陰晴　冬至卯の四刻に入る　(7日油川組新城村で火災1軒(3間×4間:高無)・火元村預け、10月中野内:出54・入り107人)
1735年 12月23日 享保20年　11月10日 曇　夜に入り小雨　(田村源太兵衛に一粒金丹3粒)　　下から続く　　(5匁5分4匁5分)・末10日(5匁4匁)、銭納願いが多い)
1735年 12月24日 享保20年　11月11日 陰晴　昨夜より雨時々　(11月4日晩より5日朝高根村より十三湊まで氷張る・去年の11月18日より14日早いが節に引合い4日遅い、雉子代銭:初10日(雄6匁雌5匁)・中10日　　上に続く
1735年 12月25日 享保20年　11月12日 陰晴　(荏粒油御買上げ値段:1匁に1升7合5勺、馬の薬か「たんばん」)
1735年 12月26日 享保20年　11月13日 曇　終日雪　未の上刻雷発す　それより雨
1735年 12月27日 享保20年　11月14日 晴
1735年 12月28日 享保20年　11月15日 終日雪　(10月中大間越:出入り60人、7日新城村の火元の村預け御免、尾太10月出高:銅162箇9貫目・鉛342箇13貫目)
1735年 12月29日 享保20年　11月16日 晴　夜に入り小雪
1735年 12月30日 享保20年　11月17日 曇　時々小雪　(御仏前の前に欠字)
1735年 12月31日 享保20年　11月18日 曇

1736年　1月1日 享保20年　11月19日 曇 （高瀬直?右衛門に一粒金丹3粒）
1736年　1月2日 享保20年　11月20日 曇 時々小雨 夜に入り吹雪
1736年　1月3日 享保20年　11月21日 陰晴 未の刻前より雪降
1736年　1月4日 享保20年　11月22日 陰晴 雪降 夜に及ぶ
1736年　1月5日 享保20年　11月23日 曇 雪時々
1736年　1月6日 享保20年　11月24日 曇 午の一刻寒入り （去21日広田組七館村で火災1軒・火元村預け）
1736年　1月7日 享保20年　11月25日 曇 午の刻過ぎより雪
1736年　1月8日 享保20年　11月26日 曇 雪時々 （御目付田中与左衛門と御徒小頭木村須?左衛門に一粒金丹各3粒、20日奥平部浜に南部船1艘破船3人死亡）
1736年　1月9日 享保20年　11月27日 快晴 夜に入り雪 （21日七ツ館の火元の村預け免許）
1736年　1月10日 享保20年　11月28日 曇 雪終日 （明珍与兵衛に一粒金丹5粒）
1736年　1月11日 享保20年　11月29日 陰晴
1736年　1月12日 享保20年　11月30日 陰晴　　下から続く　　廻り1寸3歩生目7文目5分:4歳）取る）
1736年　1月13日 享保20年　12月1日 曇 （11月中所々御関所出人都合90人（他国者碇関62御印紙42・野内1人1枚・御国人碇関25人切手紙18枚・野内2人1枚）、駒越組杉ヶ沢村の惣左衛門熊（胆長1寸5歩　　上に続く
1736年　1月14日 享保20年　12月2日 曇 雪時々 （田村源太兵衛に一粒金丹3粒）
1736年　1月15日 享保20年　12月3日 晴
1736年　1月16日 享保20年　12月4日 陰晴 （十三町屋敷物成りとして1俵につき14文目6分、先月17日大鰐組早瀬野に40男倒死、先月27日浪岡組高館村で59歳高無男が百姓の家の前で自害）
1736年　1月17日 享保20年　12月5日 曇 雪降 申の刻より吹雪 （11月中碇関:入り94・出人合206人・大間越:出入り人数合23・出入り人数合35人・野内:出入り人数合77人・出入り人数合143人:意味が解らず書いている）
1736年　1月18日 享保20年　12月6日 曇 雪降
1736年　1月19日 享保20年　12月7日 曇 雪降 （大間越町奉行から当月分60俵来正月分60俵の御蔵米払い出し願い・80俵を当時値段に駄賃運賃加え1俵14匁5分3厘で申付ける、和徳組堅田村に者倒死）
1736年　1月20日 享保20年　12月8日 曇 雪時々降
1736年　1月21日 享保20年　12月9日 曇 時々雪 未の六刻大寒に入る （鮭値段1尺8寸以上は15匁6分）
1736年　1月22日 享保20年　12月10日 曇 時々雪
1736年　1月23日 享保20年　12月11日 陰晴 （齋藤兵左衛門に一粒金丹3粒）
1736年　1月24日 享保20年　12月12日 曇 時々雪
1736年　1月25日 享保20年　12月13日 晴 時々雪
1736年　1月26日 享保20年　12月14日 陰晴
1736年　1月27日 享保20年　12月15日 陰晴
1736年　1月28日 享保20年　12月16日 陰晴 雪 （今朝男牢死）
1736年　1月29日 享保20年　12月17日 曇 終日雪降 （尾太11月出高:銅163箇2貫目・鉛349箇13貫目）
1736年　1月30日 享保20年　12月18日 陰晴 時々雪
1736年　1月31日 享保20年　12月19日 陰晴 夜に入り雪 （16日牢死の男を斬罪）
1736年　2月1日 享保20年　12月20日 曇 吹雪
1736年　2月2日 享保20年　12月21日 曇
1736年　2月3日 享保20年　12月22日 陰晴 時々雪
1736年　2月4日 享保20年　12月23日 陰晴 今朝雪 亥の上刻節分
1736年　2月5日 享保20年　12月24日 陰晴 立春 申の中刻より雨 夜中
1736年　2月6日 享保20年　12月25日 曇 終日雨 夜に入り小雪 （昨晩堀越組境関村で40位男倒死）
1736年　2月7日 享保20年　12月26日 陰晴 時々小雪
1736年　2月8日 享保20年　12月27日 曇 時々雪降 （25日夜藤崎・駒越・堀越組唐で洪水・仮橋流失、19日に青森を出た松前の船が宇田沖で破船・3人死亡、同所で南部船・宇田船が破船）
1736年　2月9日 享保20年　12月28日 陰晴 時々雪 （24から25日の大雨で鯵ヶ沢町舞戸川の大橋柱流れる）
1736年　2月10日 享保20年　12月29日 晴 時々小雪 （駒越・大鰐・後潟組で熊4・2・1疋取る、20日夜今別で松前船破船1艘）
1736年　2月11日 享保20年　12月30日 晴
1736年　2月12日 享保21年正月1日　晴 （12月中碇関出人都合95人（他国者87御印紙60・御国人8切手紙6））
1736年　2月13日 享保21年正月2日　快晴
1736年　2月14日 享保21年正月3日　陰晴
1736年　2月15日 享保21年正月4日　快晴 （今月1日御馬口取りが焼死）
1736年　2月16日 享保21年正月5日　快晴
1736年　2月17日 享保21年正月6日　陰晴 時々雪
1736年　2月18日 享保21年正月7日　曇 雪
1736年　2月19日 享保21年正月8日　晴
1736年　2月20日 享保21年正月9日　陰晴 夜中時々雨 （旧冬浪岡組下十川村で50男倒死、今朝見当てる・狼が顔などに傷つける）
1736年　2月21日 享保21年正月10日　曇 雨
1736年　2月22日 享保21年正月11日　晴
1736年　2月23日 享保21年正月12日　曇 終日雨降
1736年　2月24日 享保21年正月13日　陰晴
1736年　2月25日 享保21年正月14日　陰晴
1736年　2月26日 享保21年正月15日　曇 東風 雨降 午の刻過ぎより雪降
1736年　2月27日 享保21年正月16日　晴
1736年　2月28日 享保21年正月17日　曇 辰の刻より小雨
1736年　2月29日 享保21年正月18日　快晴 今朝大霜 （15日の風で木作東御蔵の屋根が吹きはげる）

1736年　3月1日 享保21年正月19日　快晴　夜に入り小雨
1736年　3月2日 享保21年正月20日　陰晴　夜に入り雨降
1736年　3月3日 享保21年正月21日　快晴　(尾太11月出高:銅127固10貫目・鉛350固4貫目)　(日付けが20日にしか見えないが、干支が21日であることを示している)
1736年　3月4日 享保21年正月22日　快晴　(15日の大風で内真部湊前に破船1艘、明23日立ちの飛脚の御状箱が3貫800目・800目多くお手当てを出す)
1736年　3月5日 享保21年正月23日　陰晴　夜に入り風雨
1736年　3月6日 享保21年正月24日　曇　終日雪
1736年　3月7日 享保21年正月25日　曇　小雪
1736年　3月8日 享保21年正月26日　晴　夜に入り雨
1736年　3月9日 享保21年正月27日　曇　終日雨
1736年　3月10日 享保21年正月28日　曇　時々雨　申の刻過ぎ雪降
1736年　3月11日 享保21年正月29日　曇　小雪　時々小風　(男牢死)
1736年　3月12日 享保21年　2月1日 曇　卯の中刻より雪時々　(正月中御関所出人都合184人(碇関口出人174(御国人157他国者17)碇関口出御国人10人切手紙6枚、正月27日朝までに十三より早川口まで氷明ける)
1736年　3月13日 享保21年　2月2日 快晴
1736年　3月14日 享保21年　2月3日 晴　今朝霜
1736年　3月15日 享保21年　2月4日 曇　午の下刻より小雨　夜中に及ぶ　(十三潟が当月1日より船が通用するほど開ける、御城代森岡内蔵介が病死)
1736年　3月16日 享保21年　2月5日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　未の刻より雪五寸ほど降
1736年　3月17日 享保21年　2月6日 曇
1736年　3月18日 享保21年　2月7日 曇
1736年　3月19日 享保21年　2月8日 晴
1736年　3月20日 享保21年　2月9日 陰晴
1736年　3月21日 享保21年　2月10日 陰晴　今朝霜　夜に入り小雨時々
1736年　3月22日 享保21年　2月11日 陰晴　辰の刻過ぎより小雨時々　(大間越町奉行から熊狼対策として去年通り6匁玉等の要求、正月中大間越:出入り177人・?月碇関:出入り160人)
1736年　3月23日 享保21年　2月12日 陰晴　(9日油川前沖で船乗りが事故死)
1736年　3月24日 享保21年　2月13日 陰晴　彼岸入り　申の刻東風
1736年　3月25日 享保21年　2月14日 曇　辰の刻前より終日雨　申の刻過ぎより小雪時々
1736年　3月26日 享保21年　2月15日 陰晴　昨夜より小雪時々　(十三中川原番人に山上羽右衛門が病気でなれない、一粒金丹調合に三年酒2升、正月中野内:出22・入り48人)
1736年　3月27日 享保21年　2月16日 陰晴
1736年　3月28日 享保21年　2月17日 陰晴　夜に入り雪一尺ほど降　(尾太正月出高:銅78固10貫目・鉛181固2貫目)
1736年　3月29日 享保21年　2月18日 陰晴
1736年　3月30日 享保21年　2月19日 晴
1736年　3月31日 享保21年　2月20日 曇
1736年　4月1日 享保21年　2月21日 晴　辰の刻地震　(人事異動)
1736年　4月2日 享保21年　2月22日 曇　卯の刻過ぎより小雪　終日に及ぶ
1736年　4月3日 享保21年　2月23日 快晴
1736年　4月4日 享保21年　2月24日 快晴　(当春渡御切米801両余を御内分より御貸出)
1736年　4月5日 享保21年　2月25日 快晴
1736年　4月6日 享保21年　2月26日 曇　卯の刻より小雨時々　辰の刻過ぎ止む
1736年　4月7日 享保21年　2月27日 昨夜の雨終日に及ぶ　申の刻過ぎ雪水ふる
1736年　4月8日 享保21年　2月28日 晴
1736年　4月9日 享保21年　2月29日 快晴　(27日赤石組小森村の善太四郎と小三郎が熊(胆長2寸廻り3寸生目方10匁:2歳)取る)
1736年　4月10日 享保21年　2月30日 晴
1736年　4月11日 享保21年　3月1日 快晴　今朝霜降　(2月中所々御関所出人都合71人(碇関:他国者39御印紙34枚・御国者24切手紙13枚、野内:御国人8切手紙3枚))
1736年　4月12日 享保21年　3月2日 曇　卯の刻過ぎより雨降　巳の下刻止む　(郡奉行工藤嘉左衛門病死)
1736年　4月13日 享保21年　3月3日 快晴　今朝霜降
1736年　4月14日 享保21年　3月4日 曇　巳の刻過ぎより雨　申の刻過ぎまで
1736年　4月15日 享保21年　3月5日 曇　(1日金木組金木村の山に野火、先月29日横内組宮田村に野火、2月中碇関:出入り合220人、2月中大間越:出入り人数44人)
1736年　4月16日 享保21年　3月6日 曇
1736年　4月17日 享保21年　3月7日 晴　(大間越町奉行から3月分御蔵米70俵御払い願い・相場に駄賃運賃加え1俵につき14匁3厘で40俵申付ける)
1736年　4月18日 享保21年　3月8日 快晴
1736年　4月19日 享保21年　3月9日 曇　寅の刻より雨　酉の刻過ぎより水雪　(先月中野内:出62・入り54人)
1736年　4月20日 享保21年　3月10日 曇
1736年　4月21日 享保21年　3月11日 曇　午の中刻過ぎ雨暫く　則刻止む　(一昨7日大鰐組石川村の山で野火(小松300本ほど焼く))
1736年　4月22日 享保21年　3月12日 晴　(田中与左衛門に一粒金丹3粒)
1736年　4月23日 享保21年　3月13日 快晴　夜に入り雨
1736年　4月24日 享保21年　3月14日 陰晴　時々小雪
1736年　4月25日 享保21年　3月15日 晴　夜に入り雨
1736年　4月26日 享保21年　3月16日 小雨時々　卯の刻過ぎより大風曇　未の刻過ぎより止む　(今暁より風強く休養のはずの御用人が登城し火の用心を命ず)
1736年　4月27日 享保21年　3月17日 陰晴　小雨時々　(御用炭4斗入り1俵に付1匁、14日野内町で火災2軒・火元庵寺入り、15日夜和徳組堀越村で火災1軒・火元村預け、尾太2月出高:銅127固6貫目・鉛224固3貫目)
1736年　4月28日 享保21年　3月18日 曇　小雨時々　下から続く　庄屋が8日から行方不明、16日の大風で駒越組貝沢村で1軒が吹き倒れ・焼失)
1736年　4月29日 享保21年　3月19日 曇　昨夜雨時々　(地行所の米を藩が買い入れる仮値段は去年の1俵12匁4分を今年は11匁4分とする、16日の大風で御本城廻り・碇関で御仮屋の外破損、金木組金山村の　上に続く
1736年　4月30日 享保21年　3月20日 晴　(16日?の大風で大和沢脇道番所破損・長勝寺で杉3本倒れる)

1736年　5月1日 享保21年　3月21日 晴 （16日龍濱崎(竜飛崎)で破船1艘2人死亡、15日堀越村の火元の村預け免許）
1736年　5月2日 享保21年　3月22日 曇 （昨21日青森町博労町で小火、昨夜桶屋町で小火）
1736年　5月3日 享保21年　3月23日 晴 夜に入り風雨暫く強
1736年　5月4日 享保21年　3月24日 曇 （先達て(14日)野内町の火元の庵寺入り免許、16日の大風で高杉村などの御制札倒れる・千年山の松21本碇関道松並木108本倒れる）
1736年　5月5日 享保21年　3月25日 曇 午の中刻前小雨 （18日夜四頃金木組小泊村で火災89軒(百姓6・高無81・神主1・庵1)・折節東風強）
1736年　5月6日 享保21年　3月26日 晴
1736年　5月7日 享保21年　3月27日 晴 夜に入り雨 （16日の大風で各地の神社で柳など倒れる、赤石組岩崎村で火災59軒(庄屋1・百姓25・御山方役所1・高無31・庵1・他に土蔵5)
1736年　5月8日 享保21年　3月28日 曇 昨夜より雨 午の刻過ぎまで
1736年　5月9日 享保21年　3月29日 曇 （27日金木組宮野沢村で火災1軒(3間×4間)雑駄1疋焼死）
1736年　5月10日 享保21年　3月30日 快晴 （3月中大間越:出40・入り54人、同碇関:出106・入り130人、同野内:出44・入り112人）
1736年　5月11日 享保21年　4月1日 陰晴 （3月中御関所出人都合156人(碇関:御国人12他国者51御印紙41枚・御国人87切手紙48枚、野内:御国人3切手紙2枚、鯵ヶ沢湊:御国人3切手紙2枚)）
1736年　5月12日 享保21年　4月2日 晴 （田村源太左衛門に一粒金丹5粒）
1736年　5月13日 享保21年　4月3日 曇 巳の上刻より小雨時々
1736年　5月14日 享保21年　4月4日 曇 巳の刻前より雨終日
1736年　5月15日 享保21年　4月5日 晴 風立 （白戸八郎左衛門組足軽山上源次郎が江戸への飛脚に）
1736年　5月16日 享保21年　4月6日 晴
1736年　5月17日 享保21年　4月7日 快晴 （去月24日出火の岩崎村の被災者にお定めの通り御救い米を申付ける）
1736年　5月18日 享保21年　4月8日 曇 終日雨 夜に及ぶ （先月16日の大風で浦町組代官役所の屋根が破損、先月17日須後?山崎(秋田県境か)に破船1艘7人死亡、尾太3月出高:銅156箇1貫目・鉛218箇1貫目）
1736年　5月19日 享保21年　4月9日 曇
1736年　5月20日 享保21年　4月10日 快晴 今朝霜 未の下刻小雨 則刻止む
1736年　5月21日 享保21年　4月11日 快晴 今朝霜 （大間越町奉行から御蔵米60俵御払い願い・50俵を申付ける、先月18日小泊村の火元の村預け免許）
1736年　5月22日 享保21年　4月12日 曇 巳の刻より雨降
1736年　5月23日 享保21年　4月13日 晴
1736年　5月24日 享保21年　4月14日 曇 昨夜より雨
1736年　5月25日 享保21年　4月15日 曇 巳の刻より晴
1736年　5月26日 享保21年　4月16日 晴
1736年　5月27日 享保21年　4月17日 晴 午の刻過ぎ小雨 則刻止む （14日蟹田町杉村に鯨寄せる・所の者共に下される）
1736年　5月28日 享保21年　4月18日 快晴
1736年　5月29日 享保21年　4月19日 快晴 （先月27日記述の岩崎村の火元の他村預け免許）
1736年　5月30日 享保21年　4月20日 快晴 未の下刻曇 雷一度少し発す(雷一度少発)
1736年　5月31日 享保21年　4月21日 晴 （今朝五頃男牢死、一昨19日茂森町で男自害、御内分から貸し出しがまたまた:返した記録がないが1万両くらいは出ているか）
1736年　6月1日 享保21年　4月22日 晴 申の刻より雨
1736年　6月2日 享保21年　4月23日 陰晴 午の刻より小風
1736年　6月3日 享保21年　4月24日 曇
1736年　6月4日 享保21年　4月25日 晴 風立つ
1736年　6月5日 享保21年　4月26日 快晴
1736年　6月6日 享保21年　4月27日 晴 小風
1736年　6月7日 享保21年　4月28日 入梅 快晴 （20日江戸立ち今日着の飛脚に山上源次郎、尾太5月出高:銅187固10貫目・鉛334固3貫目）
1736年　6月8日 享保21年　4月29日 陰晴 今朝明け方少し雨　下から続く　切手紙4枚・小泊湊口:御国人2切手紙1枚、1日早着の山上に褒美300疋など）
1736年　6月9日 享保21年　5月1日 曇 雨 （4月中所々御関所出人831人(碇関:出382(御国人140他国者242御印紙86枚)・野内:他国者1御印紙1枚・碇関:御国人449切手紙118枚・大間越:御国人5　上に続く
1736年　6月10日 享保21年　5月2日 曇 雨
1736年　6月11日 享保21年　5月3日 曇 小雨時々 午の刻より晴
1736年　6月12日 享保21年　5月4日 快晴 （田中世左衛門に一粒金丹3粒、昨日岩木川洪水・石渡仮橋水切り柱折損）
1736年　6月13日 享保21年　5月5日 曇 巳の中刻より雨
1736年　6月14日 享保21年　5月6日 快晴
1736年　6月15日 享保21年　5月7日 曇 辰の刻より雨 夜に及ぶ
1736年　6月16日 享保21年　5月8日 曇
1736年　6月17日 享保21年　5月9日 曇
1736年　6月18日 享保21年　5月10日 曇
1736年　6月19日 元文元年　5月11日 曇 雨
1736年　6月20日 元文元年　5月12日 晴
1736年　6月21日 元文元年　5月13日 曇 雷暫く
1736年　6月22日 元文元年　5月14日 曇 今朝霧雨ふる
1736年　6月23日 元文元年　5月15日 曇 （尾太4月分出高:銅160箇2貫目・鉛329箇1貫目）
1736年　6月24日 元文元年　5月16日 陰晴 未の刻過ぎ雷数発す 雨暫く
1736年　6月25日 元文元年　5月17日 陰晴 （白戸八郎左衛門に一粒金丹3粒、五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、天気悪しく嵩湯治停止）
1736年　6月26日 元文元年　5月18日 曇 巳の刻より雨 午の中刻晴
1736年　6月27日 元文元年　5月19日 晴 昨夜中大雨
1736年　6月28日 元文元年　5月20日 晴 （屋形様19日発駕・途中日光へ）
1736年　6月29日 元文元年　5月21日 陰晴
1736年　6月30日 元文元年　5月22日 快晴 （7日から元文に改元、山形まで300両を御内分から貸し出して送る、先月中大間越:出25・入り41人、足軽の警固と並では羽織が異なる）

1736年　7月1日 元文元年　5月23日 晴
1736年　7月2日 元文元年　5月24日 曇　卯の刻より雨　(御徒5人新規召出し(5尺4寸1歩～5尺5寸1歩))
1736年　7月3日 元文元年　5月25日 晴
1736年　7月4日 元文元年　5月26日 晴　(金銀吹き替えの話がある、阿芙蓉の花咲き立てる)
1736年　7月5日 元文元年　5月27日 陰晴　(大鰐組大鰐村から初胡瓜五つ上がる、金銀吹き改め)
1736年　7月6日 元文元年　5月28日 晴
1736年　7月7日 元文元年　5月29日 陰晴
1736年　7月8日 元文元年　5月30日 快晴　下から続く　野内口御国人5切手紙2枚))
1736年　7月9日 元文元年　6月1日 曇　辰の下刻雨　巳の刻晴　(5月中所々御関所出人都合142人(碇関92:御国人38他国者54御印紙41枚・青森湊口:他国者1御印紙1枚・碇関:御国人44切手紙21枚・　上に続く
1736年　7月10日 元文元年　6月2日 曇　未の刻前より小雨
1736年　7月11日 元文元年　6月3日 晴　夜に入り小雨　則止む　(茶道役齋藤李朴が「御煎茶」3斤を申し立てている、豊島孫次郎に一粒金丹5粒)
1736年　7月12日 元文元年　6月4日 陰晴　(当月16日の大風で宇田湊御番所破損、和徳組原ヶ平で55・6男縊死)
1736年　7月13日 元文元年　6月5日 晴
1736年　7月14日 元文元年　6月6日 曇　午の刻過ぎ小雨　(御家中の妻が弟と口論・殺す)
1736年　7月15日 元文元年　6月7日 陰晴　巳の刻小雨
1736年　7月16日 元文元年　6月8日 晴　(大間越町奉行から御蔵米60俵払い出し願い・50俵申付ける)
1736年　7月17日 元文元年　6月9日 快晴　(御着城)
1736年　7月18日 元文元年　6月10日 快晴
1736年　7月19日 元文元年　6月11日 陰晴　昨夜少し雨　巳の刻より雨　土用
1736年　7月20日 元文元年　6月12日 雨　昨夜大雨　午の刻より晴
1736年　7月21日 元文元年　6月13日 快晴　(大鰐村より初なすひ指上げる、昨夜中よりの雨で駒越渡し洪水・長船で往還)
1736年　7月22日 元文元年　6月14日 陰晴
1736年　7月23日 元文元年　6月15日 晴
1736年　7月24日 元文元年　6月16日 陰晴　午の刻より雨
1736年　7月25日 元文元年　6月17日 快晴　甚暑　雷一度発す
1736年　7月26日 元文元年　6月18日 曇　辰の刻前より小雨時々　(10日後潟組奥平部で火災11軒・内3軒狀)
1736年　7月27日 元文元年　6月19日 晴　未の刻前大雨　午の刻雷発す
1736年　7月28日 元文元年　6月20日 陰晴　巳の刻まで小雨
1736年　7月29日 元文元年　6月21日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　(白戸八郎左衛門に一粒金丹3粒、駒越渡しが長雨で洪水・長船馬舟とも相止める、四社に天気揚げの御祈祷を申付ける)
1736年　7月30日 元文元年　6月22日 陰晴　午の刻より晴　(今朝より岩木川洪水)
1736年　7月31日 元文元年　6月23日 雨　午の刻より晴　それより未の刻前小雨　(10日の奥平部の火元の他村預け免許)
1736年　8月1日 元文元年　6月24日 晴　巳の中刻小雨　(増館組十川村などで狼が荒れ御手筒足軽の内切れ者1人出す)
1736年　8月2日 元文元年　6月25日 快晴　今朝冷(?)く之有　(20・21日大雨・蟹田川洪水で材木など流れる・広田組村々水湛、狼打ち鉄砲筒尺3尺3寸5歩・筒薬100目・口薬10匁・玉50ただし3匁5分玉・竹火縄7曲)
1736年　8月3日 元文元年　6月26日 快晴
1736年　8月4日 元文元年　6月27日 晴　(21日に長浜に木357本寄せる)
1736年　8月5日 元文元年　6月28日 晴
1736年　8月6日 元文元年　6月29日 晴　(大鰐組早瀬野村の長五郎が熊(胆長2寸5歩廻り1寸7歩:2歳)取る、大間越町奉行が御蔵米70俵お払い願い・代銭上納の上50俵申付ける)
1736年　8月7日 元文元年　7月1日 快晴　(阿芙蓉の跡に大根・かぶを蒔き付ける)
1736年　8月8日 元文元年　7月2日 曇　時々小雨　(尾崎組大坊・大鰐組大鰐村から初稲上がる・4月28日植付け・昨年は4月15日植付6月16日出穂・当年は2日遅く節に引き合いでも7日遅い)
1736年　8月9日 元文元年　7月3日 快晴　暑気強　(当年別て天気相勝申さず……)
1736年　8月10日 元文元年　7月4日 陰晴　昨夜五つ頃より夜中雨　残暑強　(大間越にある鉄砲20挺(関所に5御仮屋に15)鑓48本(関所に6御仮屋に42)、砂金152匁6分2厘7毛を御国銭に替えると1貫678匁8分9厘9毛)
1736年　8月11日 元文元年　7月5日 快晴
1736年　8月12日 元文元年　7月6日 曇　未の刻小雨　則止む
1736年　8月13日 元文元年　7月7日 曇　(6月中所々御関所出人都合528人(碇関出392(御国人55他国者335)御印紙68枚・野内口出他国者2御印紙1枚・碇関出御国人134切手紙58枚))
1736年　8月14日 元文元年　7月8日 曇　巳の刻より晴　下から続く　尾太6月出高:銅206箇1貫目・鉛343箇)
1736年　8月15日 元文元年　7月9日 快晴　(郡奉行工藤嘉左衛門の跡に孫太郎(御手廻組)、長尾戸左衛門と田中与左衛門に一粒金丹3粒、当月渡し御切米(10ヶ1差引)として御内分より635両余を御貸出、　上に続く
1736年　8月16日 元文元年　7月10日 快晴　残暑強　(入札値段:朽ち米11俵が47匁1分・赤米7升2合が1匁6分・町米2斗6升が5匁3分・野内川鮎止め御役銭が20目3分8厘)
1736年　8月17日 元文元年　7月11日 快晴　残暑強　巳の刻前雨　則止む　(先月21日に長浜に寄せた357本の材木の持ち主が現れる・10部1を残して渡す)
1736年　8月18日 元文元年　7月12日 快晴　残暑強
1736年　8月19日 元文元年　7月13日 快晴　残暑甚
1736年　8月20日 元文元年　7月14日 快晴　残暑強
1736年　8月21日 元文元年　7月15日 残暑強
1736年　8月22日 元文元年　7月16日 快晴　残暑甚
1736年　8月23日 元文元年　7月17日 晴　午の中刻雷発す　(大組足軽頭大湯彦八に一粒金丹3粒)
1736年　8月24日 元文元年　7月18日 快晴　残暑強
1736年　8月25日 元文元年　7月19日 快晴　残暑強　(御用人唐牛瀬左衛門に一粒金丹10粒、当月7日畏月湊に空船流れ寄せる)
1736年　8月26日 元文元年　7月20日 陰晴　巳の刻より小雨時々　午の刻より大雨　雷三四度発す
1736年　8月27日 元文元年　7月21日 晴　巳の刻過ぎ小雨　則止む
1736年　8月28日 元文元年　7月22日 快晴　残暑強　(土米入札:1俵に付き6匁9分1厘、6月中野内:出入り都合212人)
1736年　8月29日 元文元年　7月23日 陰晴　辰の刻過ぎ小雨　即止む　(大鰐村・大坊村より初米上がる、稲虫対策始まる?)
1736年　8月30日 元文元年　7月24日 快晴　残暑強
1736年　8月31日 元文元年　7月25日 雨天　寅の中刻大雨　雷発す　巳の下刻止む　夜に入り雨

1736年　9月1日 元文元年　7月26日 曇　辰の刻前より雨　雷発す数
1736年　9月2日 元文元年　7月27日 陰晴　巳の刻過ぎより快晴
1736年　9月3日 元文元年　7月28日 晴
1736年　9月4日 元文元年　7月29日 晴　暑気強 （10日夜横内組長森村で火災2軒(2間×1間半:借地・3間×5間:百姓)・馬1疋焼死・火元村預け、当月分野内:出入り都合330人）
1736年　9月5日 元文元年　8月1日 快晴
1736年　9月6日 元文元年　8月2日 快晴
1736年　9月7日 元文元年　8月3日 快晴　申の下刻より小雨　終夜に及ぶ　　下から続く　　御印紙1枚・碇関口出御国人47人切手紙23枚))
1736年　9月8日 元文元年　8月4日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ （7月中所々御関所出人都合229人(碇関口出178(御国人100他国者70)御印紙48枚・野内口出他国者3御印紙2枚・三馬屋湊口他国者1　　上に続く
1736年　9月9日 元文元年　8月5日 陰晴 （大間越町庄屋から当月分御払い米70俵申し出で・50俵申付ける）
1736年　9月10日 元文元年　8月6日 陰晴 （不行跡等で14人に処分）
1736年　9月11日 元文元年　8月7日 快晴 （鮭留入札:原別川27文目9分9厘・綱不知川7文目6分9厘、炭値段:4貫500目入り1俵が8分5厘）
1736年　9月12日 元文元年　8月8日 曇　巳の下刻より小雨 （あふやう出来・大納戸江渡す）
1736年　9月13日 元文元年　8月9日 曇　巳の上刻より雨ふり
1736年　9月14日 元文元年　8月10日 陰晴　夜に入り雨 （白取弥兵衛に一粒金丹3粒）
1736年　9月15日 元文元年　8月11日 陰晴　夜に入り雨
1736年　9月16日 元文元年　8月12日 晴　明六つ過ぎ地震 （田村源太兵衛に一粒金丹3粒）
1736年　9月17日 元文元年　8月13日 晴
1736年　9月18日 元文元年　8月14日 晴
1736年　9月19日 元文元年　8月15日 快晴 （八幡祭礼）
1736年　9月20日 元文元年　8月16日 快晴　未の中刻より夜中小雨時々 （御用人唐牛瀬左衛門病死）
1736年　9月21日 元文元年　8月17日 曇　寅の中刻より大雨　終夜に及ぶ （御菜園より西瓜12上がる・かぼちゃ4は担当者に下される）
1736年　9月22日 元文元年　8月18日 曇 （痢病の小山内三益の妻に一粒金丹?粒、昨晩より駒越渡仮橋の板を取り船も通らず往還止まる）
1736年　9月23日 元文元年　8月19日 晴 （今朝藤崎組前田屋敷村に者倒死）
1736年　9月24日 元文元年　8月20日 曇 （藤崎川が洪水だったが昨日より往還、7月29日大間越町同心が鉄砲で熊2疋取る・享保13年7月4日以来のこと）　　下から続く　　四ツ谷村の平川に流死者あり）
1736年　9月25日 元文元年　8月21日 陰晴　酉の下刻より小雨 （大間越町庄屋から9月分御蔵米70俵払い願・当時相場に駄賃運賃加え1俵13匁3厘で50俵申付ける、原七郎右衛門に一粒金丹?粒、尾崎組　　上に続く
1736年　9月26日 元文元年　8月22日 曇　終日小雨　夜に入り雷 （水木惣左衛門の痢病の妻に一粒金丹?粒）
1736年　9月27日 元文元年　8月23日 陰晴
1736年　9月28日 元文元年　8月24日 晴　巳の下刻小雨　早速晴 （金平三太夫に一粒金丹3粒・真教寺に5粒、無筆の大組足軽が検見算者辞退・了解、16・17日の洪水で油川組新城村に被害）
1736年　9月29日 元文元年　8月25日 晴
1736年　9月30日 元文元年　8月26日 快晴
1736年　10月1日 元文元年　8月27日 快晴
1736年　10月2日 元文元年　8月28日 雨天 （大幅な人事異動）
1736年　10月3日 元文元年　8月29日 晴　巳の刻過ぎより雨 （22日終夜の洪水で青森町堤川で洪水・流木・碇関町で白沢川御門前橋が流失・相乗川も）
1736年　10月4日 元文元年　8月30日 晴 （米1俵が11匁3分値段・両替81匁）
1736年　10月5日 元文元年　9月1日 陰晴 （8月中出人350人他国者(碇関276人印紙145枚・野内2人1枚・大間越2人1枚・青森湊1人1枚)・御国人(碇関41人切手紙23枚・野内27人10枚))
1736年　10月6日 元文元年　9月2日 雨　巳の刻より晴　未の下刻より小雨　風添
1736年　10月7日 元文元年　9月3日 晴
1736年　10月8日 元文元年　9月4日 快晴
1736年　10月9日 元文元年　9月5日 曇　　下から続く　　・中小姓・御日記役14←18・代官・御歩行・牢奉行など12←15）
1736年 10月10日 元文元年　9月6日 雨終日 （流木(15031本)割付:御家老中132本←昨年166本・御城代・組頭・用人75←94・大目付53←69・者頭・4奉行38←48・御目付・御歩行頭17←22・御手廻・馬廻　　上に続く
1736年 10月11日 元文元年　9月7日 快晴 （棟方作右衛門に一粒金丹30粒・大円寺に一粒金丹?粒）
1736年 10月12日 元文元年　9月8日 陰晴　未の下刻より小雨　夜中に及ぶ （2日西風強く大間(深浦?)で破船1艘、8月中大間越:出23・入り20・.出入り合43人）
1736年 10月13日 元文元年　9月9日 陰晴　卯の中刻まで小雨 （赤石組より一番鮭差上げる）
1736年 10月14日 元文元年　9月10日 快晴 （近習小姓北原伝六に一粒金丹3粒）
1736年 10月15日 元文元年　9月11日 陰晴　未の下刻より雨　雷発す
1736年 10月16日 元文元年　9月12日 陰晴　岩木山に雪見る （6日岩崎村に破船1艘）
1736年 10月17日 元文元年　9月13日 晴　昨夜雨
1736年 10月18日 元文元年　9月14日 陰晴　時々雨
1736年 10月19日 元文元年　9月15日 晴
1736年 10月20日 元文元年　9月16日 曇　小雨時々 （三番鮭上がる、10日の大風で長浜に破船1艘、尾太7月出分:銅162固2貫目・鉛331固13貫目、8月出分:銅206固6貫目・鉛394固9貫目）
1736年 10月21日 元文元年　9月17日 曇　風吹　夜中に及ぶ （楠美嘉兵衛に一粒金丹3粒、8月中野内:御印出74人・切手紙出33人・入り人94人・出入り都合201人、碇ヶ関(これまで碇関)が多分初出、　　欄外(*)に続く
1736年 10月22日 元文元年　9月18日 陰晴　午の刻より風吹く　夜中雨 （17日の洪水で大鰐組大沢村の橋が落ちる）
1736年 10月23日 元文元年　9月19日 曇 （昨晩の大風で八幡宮の杉等が倒れる）
1736年 10月24日 元文元年　9月20日 陰晴 （五山に天気揚げの御祈祷を仰せ付ける、13日大間越町同心が鉄砲で熊1疋打留める）
1736年 10月25日 元文元年　9月21日 曇　亥の刻過ぎ地震
1736年 10月26日 元文元年　9月22日 晴 （昨日尾太銅山の山小屋見分のものが谷に落下死亡、17・18日の大風で飯詰・金木組で作毛が大分吹きこほれる）
1736年 10月27日 元文元年　9月23日 陰晴 （17日朝長浜に・18日朝風合瀬村に・16日鰺ヶ沢三ツ屋濱に破船計3艘）
1736年 10月28日 元文元年　9月24日 快晴 （17日の大荒れで小泊大間の濱に破船3艘）
1736年 10月29日 元文元年　9月25日 快晴 (?日奥平部に破船1艘)
1736年 10月30日 元文元年　9月26日 曇　時々雨　夜に入り雨 （入札:大豆15俵3斗9升が80目、17日夜の大風で袰月湊に破船2艘）
1736年 10月31日 元文元年　9月27日 陰晴　昨夜より初めて里江雪降　今日巳の刻止む
(*) 三馬屋村勘兵衛方の梨子が当年は少々なる・勤番が立会い16個を取り台所に差上げる)

1736年　11月1日 元文元年　9月28日 陰晴 (浪岡組徳才子村の定右衛門などが各組で熊33疋取る、新文字金銀しかと通用致さず)
1736年　11月2日 元文元年　9月29日 快晴 昨夜中大霜 (18日赤石組関村に破船1艘、17日の風で稲穂吹きこぼれる)
1736年　11月3日 元文元年　10月1日 曇 午の中刻より小雨
1736年　11月4日 元文元年　10月2日 曇 今朝大霜 午の中刻より雨 (9月中出人:碇関106人(御国者16・他国者90)御印紙51枚・大間越他国者1御印紙1枚・碇関御国人34切手紙21枚)
1736年　11月5日 元文元年　10月3日 晴 昨夜中雨 (御家老隈部伊織に一粒金丹30粒)
1736年　11月6日 元文元年　10月4日 晴 昨夜中より大霜
1736年　11月7日 元文元年　10月5日 曇 昨夜中よりの雨終日に及ぶ (8月中碇関:出408・入り470人)
1736年　11月8日 元文元年　10月6日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ
1736年　11月9日 元文元年　10月7日 曇 昨夜中より風強 終日風雨 (兵庫屋某が庭前の梨子・ぶとふ(葡萄)・青柚差上げる、昨年一昨年作りのの酒値段:1升につき1匁3分5厘・粕1樽が1匁2分2厘)
1736年 11月10日 元文元年　10月8日 曇 小雨 (昨日の大風で尾太銅山の小屋吹き倒れ焼ける・1人焼死、同じ風・浪で鰺ヶ沢の御蔵大被害・八幡宮の屋根はげる)
1736年 11月11日 元文元年　10月9日 陰晴 昨夜中より午の刻まで小雨雪 (9月中大間越:出入り63人)
1736年 11月12日 元文元年　10月10日 晴 申の下刻地震
1736年 11月13日 元文元年　10月11日 曇
1736年 11月14日 元文元年　10月12日 快晴 (11日御家中の門前にその家来の父が縊死、6日夜小泊で破船3艘、藤代組南北浮田村で6町9反余13946束中7611束が流失等の被害、尾太9月出分:銅232箇12貫目・鉛330固7貫目)
1736年 11月15日 元文元年　10月13日 晴 (6日夜四時大風で田舎館組境松村の百姓家(4間×12間)潰れる・雑駄3疋死亡、同じ風で馬屋町の屋根破損・深浦御仮屋破損・深浦で破船1艘)
1736年 11月16日 元文元年　10月14日 快晴
1736年 11月17日 元文元年　10月15日 曇 卯の刻より辰の下刻まで雨 午の中刻より雨 申の刻雷数度発す (油川より初鱈差上げる)
1736年 11月18日 元文元年　10月16日 陰晴 風吹
1736年 11月19日 元文元年　10月17日 晴 今朝大霜 (駒越組駒越村で昨夜56・7男倒死)
1736年 11月20日 元文元年　10月18日 晴
1736年 11月21日 元文元年　10月19日 陰晴 時々小雪 (9月中碇関:出入り287人・同野内:226人)
1736年 11月22日 元文元年　10月20日 曇 時々雨 (四社で日和上げ御祈祷、当年御蔵米不足・米を一万俵御用立てに骨を折った者に褒美・時服)
1736年 11月23日 元文元年　10月21日 曇 終日小雪 (三馬屋梨子を取持つ者を探す・ない、弘前の虎屋彦三郎が出火(いつか不明)に付き押込めを赦免、和徳組代官が庭前の三馬屋梨子9つ差上げる、昨夜御家中宅に投げ火)
1736年 11月24日 元文元年　10月22日 晴
1736年 11月25日 元文元年　10月23日 陰晴 昨夜小雪
1736年 11月26日 元文元年　10月24日 陰晴 時々小雪 御堀氷張る (4日に多者粉(たはこ:煙草)売りに出た男が岩木川で死亡して見つかる)
1736年 11月27日 元文元年　10月25日 曇 時々小雪
1736年 11月28日 元文元年　10月26日 快晴
1736年 11月29日 元文元年　10月27日 晴
1736年 11月30日 元文元年　10月28日 陰晴
1736年　12月1日 元文元年　10月29日 陰晴 (大間越町庄屋が11月分御蔵米70俵御払い願い・50俵を当時相場に駄賃運賃加え1俵につき11匁1分3厘で払出す、25日猿賀組林子野木村に男倒死)
1736年　12月2日 元文元年　11月1日 陰晴 時々小雨 夜に入り雪 (10月中所々御関所出人都合152人(他国者:碇関口106人御印紙58枚・野内口3人2枚、御国人:碇関口41人切手紙22枚・野内口2人1枚)、　欄外(*)に続く
1736年　12月3日 元文元年　11月2日 曇 昨夜中より雪終日 (当月(先月)6日の大風で油川組津軽坂村の神社の松の木が倒れる、10月28日藤崎組毘沙門林に60くらい男倒死)
1736年　12月4日 元文元年　11月3日 陰晴 昨夜中より巳の刻まで雪
1736年　12月5日 元文元年　11月4日 陰晴
1736年　12月6日 元文元年　11月5日 快晴 (3日朝高根村より十三大湊まで氷張る・当年は16日早く節に引き合い28日早い)
1736年　12月7日 元文元年　11月6日 陰晴 (赤石組から銭納願い・3ヶ2認める)
1736年　12月8日 元文元年　11月7日 陰晴 雪
1736年　12月9日 元文元年　11月8日 晴
1736年 12月10日 元文元年　11月9日 晴
1736年 12月11日 元文元年　11月10日 曇 小雪時々 (先月27日晩鉄山炭小屋より出火、10月中碇関:出入り合283人)
1736年 12月12日 元文元年　11月11日 陰晴 (矢沢村の庄屋変死)
1736年 12月13日 元文元年　11月12日 晴 (深浦町から屋敷物成銭納願い・仮値段で1俵につき11匁6分9厘で認める、11月8日金木組高根村で火災・4軒稲3751束焼失)
1736年 12月14日 元文元年　11月13日 曇 時々小雪
1736年 12月15日 元文元年　11月14日 曇 時々雪
1736年 12月16日 元文元年　11月15日 晴 昨夜中雪 (入札値段:押え米4俵が20目・大豆1俵1斗が3匁)
1736年 12月17日 元文元年　11月16日 晴 雪時々
1736年 12月18日 元文元年　11月17日 陰晴 雪 (雑穀代米値段1升に付き:蕎麦6合6夕・次大豆1升3合・上籾大麦6合8夕・小麦3合5夕・青鶴豆6合9夕・上大豆7合・大納言赤豆4合4夕・黒小豆6合3夕・上籾餅粟8合1夕)
1736年 12月19日 元文元年　11月18日 曇 雪時々
1736年 12月20日 元文元年　11月19日 快晴
1736年 12月21日 元文元年　11月20日 快晴 午の中刻冬至
1736年 12月22日 元文元年　11月21日 陰晴 小雪 (10月中大間越:出入り200人)
1736年 12月23日 元文元年　11月22日 晴 (8日高根村の火元の村預け免許)
1736年 12月24日 元文元年　11月23日 快晴
1736年 12月25日 元文元年　11月24日 曇 寅の中刻雷三度発す 巳の刻前より雨 終日に及ぶ (十三町から屋敷物成銭納願い・仮値段で1俵につき11匁5分4厘とする)
1736年 12月26日 元文元年　11月25日 曇 昨夜中より雪
1736年 12月27日 元文元年　11月26日 陰晴 時々雪 (9日横内組後苞地村で火災・火元村預けを免許)
1736年 12月28日 元文元年　11月27日 陰晴
1736年 12月29日 元文元年　11月28日 曇 終日雪
1736年 12月30日 元文元年　11月29日 陰晴 夜に入り風吹
1736年 12月31日 元文元年　11月30日 曇 昨夜中より風吹 今朝辰の刻止む 時々雪

(*) 油川組津軽坂村の太兵衛(胆長4寸8歩廻り5寸5歩生目52匁:9歳)・堀越組一ノ渡村の小三郎(4寸5歩3寸5歩15匁:15歳)・高杉組相馬村の左門三郎(生目7匁:3歳)それぞれ熊取る)

1737年　1月1日 元文元年　12月1日 陰晴
1737年　1月2日 元文元年　12月2日 快晴 （昨晦日田茂木町で住家が雪潰れ、先月28日夜飯詰組尾別村で火災1軒小荷駄2疋焼失、三新田以外の古田は収納皆済）
1737年　1月3日 元文元年　12月3日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ （昨27日今別町に60余男倒死）
1737年　1月4日 元文元年　12月4日 曇 雪時々 （大間越町庄屋が当月分60俵と来正月分60俵御払い願い・80俵を申付ける）
1737年　1月5日 元文元年　12月5日 雪天 酉の刻より寒に入る （荏粒油値段:1匁に2升1合）
1737年　1月6日 元文元年　12月6日 陰晴 （先月28日尾別村の火元の村預け赦免）
1737年　1月7日 元文元年　12月7日 晴 辰の下刻雪 則刻晴 （(切支丹)類族すてに町医を呼ぶ）
1737年　1月8日 元文元年　12月8日 曇 卯の刻より雪 終日に及ぶ
1737年　1月9日 元文元年　12月9日 晴
1737年　1月10日 元文元年　12月10日 晴 （8日赤田組石野村で火災・火元村預け）
1737年　1月11日 元文元年　12月11日 晴 （笠原八郎兵衛に一粒金丹5粒、酒値段1升を7分に下げる、11月中大間越:出入り都合160人）
1737年　1月12日 元文元年　12月12日 快晴 （8日夜横内組濱館村で火災1軒(4間×8間:百姓)・火元村預け、8日石野村・濱館村の火元の村預け赦免、尾太11月出分:銅225固4貫目・鉛416固2貫目）
1737年　1月13日 元文元年　12月13日 晴
1737年　1月14日 元文元年　12月14日 曇 雨 （明珍与兵衛に一粒金丹3粒、先月29日浪岡組竹鼻村・当月10日夜田舎館組田舎館村で各1軒4人・9人走る、11日新田蒔田村で火災(4間×6間:百姓)・火元村預け）
1737年　1月15日 元文元年　12月15日 晴
1737年　1月16日 元文元年　12月16日 晴
1737年　1月17日 元文元年　12月17日 晴 （15日大光寺組(2間×3間:無高)と浦町組大野村(2間×2間半:無高)で火災・各村預かり、11日蒔田村の火元の村預け赦免、江戸への飛脚に山上源次郎）
1737年　1月18日 元文元年　12月18日 曇 雨
1737年　1月19日 元文元年　12月19日 快晴 辰の刻まで雪
1737年　1月20日 元文元年　12月20日 快晴 （当春渡御切米(10ヶ1差引)の928両余を御内分より御貸出、15日の大光寺村と大野村の火元の村預け差免）
1737年　1月21日 元文元年　12月21日 晴 （御能）
1737年　1月22日 元文元年　12月22日 曇 時々小雪 （11月中野内:出入り人数228人、碇関:出入り人数301人）
1737年　1月23日 元文元年　12月23日 陰晴 夜に入り雪
1737年　1月24日 元文元年　12月24日 昨夜中より雪 終日に及ぶ
1737年　1月25日 元文元年　12月25日 曇 終日吹雪 寒気強し （先代藩主信寿様の7回忌法事・2人出牢申付ける・ただし1人はその直前朝牢死）
1737年　1月26日 元文元年　12月26日 晴
1737年　1月27日 元文元年　12月27日 快晴
1737年　1月28日 元文元年　12月28日 快晴 （今朝茂森町で男縊死）
1737年　1月29日 元文元年　12月29日 快晴 （14日和徳組堅田村の男行方不明、5日赤石組種里村の三郎四郎(胆長4寸1歩廻り3寸1歩目形27匁:2歳)・駒越組大秋村の新兵衛(3寸5寸5歩15匁:3歳)それぞれ熊取る）
1737年　1月30日 元文元年　12月30日 快晴 （碇関:出入り人数合251人）
1737年　1月31日 元文2年　正月1日　快晴
1737年　2月1日 元文2年　正月2日　晴 （御謡い初）
1737年　2月2日 元文2年　正月3日　曇 時々雪
1737年　2月3日 元文2年　正月4日　快晴 申の下刻より雪
1737年　2月4日 元文2年　正月5日　陰晴 時々小雪 儺名之(これついな？:豆まきでもしたのかな) （大鰐より例年の通り七種差上げる）
1737年　2月5日 元文2年　正月6日　陰晴 辰の刻より巳の刻まで雪
1737年　2月6日 元文2年　正月7日　晴
1737年　2月7日 元文2年　正月8日　晴 （6日の暮六つ半目鹿沢村で大雪吹き・交替の青森在番が一宿）
1737年　2月8日 元文2年　正月9日　曇 小雪 巳の刻より晴
1737年　2月9日 元文2年　正月10日　陰晴
1737年　2月10日 元文2年　正月11日　陰晴 （大幅な人事異動）
1737年　2月11日 元文2年　正月12日　陰晴 （お慰みの御能）
1737年　2月12日 元文2年　正月13日　曇 小雪時々
1737年　2月13日 元文2年　正月14日　晴 午の刻より雪 夜中吹雪 （昨朝男牢死）
1737年　2月14日 元文2年　正月15日　曇 終日吹雪
1737年　2月15日 元文2年　正月16日　曇 時々雪 申の刻過ぎより雪 （9日朝赤石組岩崎村沖で漁船遭難1人死亡）
1737年　2月16日 元文2年　正月17日　陰晴 時々吹雪
1737年　2月17日 元文2年　正月18日　晴
1737年　2月18日 元文2年　正月19日　陰晴
1737年　2月19日 元文2年　正月20日　陰晴 今朝より時々小雪 （尾太12月分:銅213固・鉛357箇11貫目）
1737年　2月20日 元文2年　正月21日　陰晴 （古金65両で文金110両）
1737年　2月21日 元文2年　正月22日　晴
1737年　2月22日 元文2年　正月23日　陰晴 昨夜中より巳の刻まで雪 それより晴 （飛脚の御状箱3貫800目あり増金、和徳組大久保村に60女倒死）
1737年　2月23日 元文2年　正月24日　陰晴 終日雪
1737年　2月24日 元文2年　正月25日　陰晴
1737年　2月25日 元文2年　正月26日　陰晴 昨夜子の上刻地震 （12月中大間越:出入り人数都合95人・同野内:出入り都合129人）
1737年　2月26日 元文2年　正月27日　陰晴 終日雪 （大間越町庄屋が来2月分御蔵米60俵払い出し願い・1俵を12匁2分3厘で40俵申付ける、古金1両が56匁5分6厘・文金1両が34匁2分8厘3毛か）
1737年　2月27日 元文2年　正月28日　陰晴 今朝より雪 終日に及ぶ （駒越組中畑村の彦左衛門(胆長3寸廻り4寸5歩生目14匁:3歳)・同組桜場村の茂助(2寸8歩4寸5歩15匁:5歳)・尾崎組唐竹村の　下の欄外(*)に続く
1737年　2月28日 元文2年　正月29日　晴
(*) 惣助(4寸2寸5歩13匁:2歳)それぞれ熊取る）

1737年　3月1日 元文2年　2月1日 晴
1737年　3月2日 元文2年　2月2日 晴　昨夜中より大吹雪
1737年　3月3日 元文2年　2月3日 曇　終日雪降
1737年　3月4日 元文2年　2月4日 晴　昨夜雪少々降（8日清水森で狼狩り）
1737年　3月5日 元文2年　2月5日 快晴
1737年　3月6日 元文2年　2月6日 曇　雪時々
1737年　3月7日 元文2年　2月7日 曇　雪時々（御用人大湯彦八に一粒金丹10粒、正月中大間越:入り2・出35人）
1737年　3月8日 元文2年　2月8日 陰晴　時々小雪
1737年　3月9日 元文2年　2月9日 快晴　今朝卯の下刻より辰の中刻まで小雨　それより晴
1737年　3月10日 元文2年　2月10日 快晴
1737年　3月11日 元文2年　2月11日 快晴（7日尾太銅山でなて(雪崩)で行方不明1人）
1737年　3月12日 元文2年　2月12日 快晴（尾太銅山の死骸を11日に掘り出す）
1737年　3月13日 元文2年　2月13日 晴（御家老与力に山上吉三郎）
1737年　3月14日 元文2年　2月14日 快晴（先月中碇関:出12・入り202人）
1737年　3月15日 元文2年　2月15日 快晴（御囃子）
1737年　3月16日 元文2年　2月16日 晴　申の刻より雨（活白鳥1羽20目・〆白鳥大13匁・中10匁・小7匁、先月21日に出た駒越組中畑村の猟師彦左衛門等12人が山小屋で雪なて(雪崩)築き死亡）
1737年　3月17日 元文2年　2月17日 曇　昨夜中雨　巳の中刻止む（尾太正月出分:銅142箇2貫目・鉛181固7貫目）
1737年　3月18日 元文2年　2月18日 陰晴
1737年　3月19日 元文2年　2月19日 快晴（今朝門外で狼狩り、6年前に妻が乱心自害し御印切れ切れにしたのを届けなかった御家中の知行・御役召し放ち・お情けで100俵を貰い謹慎）
1737年　3月20日 元文2年　2月20日 陰晴　未の刻より小雨　夜中雨降（正月中野内:出入り都合75人）
1737年　3月21日 元文2年　2月21日 曇　終日雨（浪岡組柳久保・山里村(65人)と広田組藻川新田(23軒112人)に御救い米）
1737年　3月22日 元文2年　2月22日 晴
1737年　3月23日 元文2年　2月23日 晴　申の刻過ぎより小雨
1737年　3月24日 元文2年　2月24日 曇　昨夜中よりの雨終日に及ぶ（三新田で不作・渇命・見分を命ずる）
1737年　3月25日 元文2年　2月25日 陰晴
1737年　3月26日 元文2年　2月26日 陰晴（御慰みの御能、大間越町庄屋から3月分御払い蔵米70俵申し出で・当時相場に駄賃運賃加え1俵12匁3分3厘で40俵を申付ける）
1737年　3月27日 元文2年　2月27日 晴　昨夜中雨（当春渡お切米文金995両余を御内分より御貸出、昨日尾太で雪なて(雪崩)で小屋潰れ死亡5・行方不明1・怪我1人、昨晩岩木川洪水、25日朝十三より早川口まで明ける）
1737年　3月28日 元文2年　2月28日 快晴
1737年　3月29日 元文2年　2月29日 晴　今朝霜（狼皮7枚の工作を穢多にさせている）
1737年　3月30日 元文2年　2月30日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ（尾太銅山の行方不明1人の死骸が見つかる、猿賀組袋村の助左衛門・金木組宮野沢村の専助がそれぞれ熊(4歳と5歳)取る）
1737年　3月31日 元文2年　3月1日 曇　時々小雨（2月中所々御関所出人都合131人(碇関口102(御国人83他国者19御印紙18枚)・同口御国人26切手紙16枚・野内口御国人3人切手紙1枚、27日十三潟の船通路明ける）
1737年　4月1日 元文2年　3月2日 晴
1737年　4月2日 元文2年　3月3日 晴
1737年　4月3日 元文2年　3月4日 快晴（先達て高岡小人出火・押籠を御免）
1737年　4月4日 元文2年　3月5日 曇　辰の中刻より雨（昨4日富田町の御蔵奉行が同役に切り殺される・殺人者切腹）
1737年　4月5日 元文2年　3月6日 快晴（無辺流の鑓使いに御家老与力山上吉三郎、御蔵奉行の殺し合いで通過した者の身上召上げ・親が殺されて仇討に動かなかった子を5里四方追放）
1737年　4月6日 元文2年　3月7日 快晴（船岡より杉峠(矢立峠)までの雪の深さ4尺5寸より2尺5寸、先月中野内:出31人・出人18人・入り人50人・都合99人）
1737年　4月7日 元文2年　3月8日 晴　申の下刻より雨（大間越に熊狼対策として6匁玉などを渡す）
1737年　4月8日 元文2年　3月9日 曇　昨夜中より雨　終夜に及ぶ（1日油河組細越村で火災・火元村預け・9日経ち赦免、今朝赤田組板屋の木村で25歳男縊死）
1737年　4月9日 元文2年　3月10日 陰晴（駒越渡が昨日の雨で洪水・馬船通れず長船で）
1737年　4月10日 元文2年　3月11日 快晴（御馬廻組まで氏名あり）
1737年　4月11日 元文2年　3月12日 曇　卯の上刻より雨　終日に及ぶ（発駕御祝儀の御能、2月中大間越:出入り都合183人）
1737年　4月12日 元文2年　3月13日 曇　辰の刻より雨　巳の刻まで（昨晩和徳組悪戸村の寺に盗人・追いかけた僧が殺される）
1737年　4月13日 元文2年　3月14日 快晴（後潟組中師村の人参植付場所・監視小屋がなてで潰れる・春になって判明した）
1737年　4月14日 元文2年　3月15日 快晴（文金50両=古金31両）
1737年　4月15日 元文2年　3月16日 快晴（御屋形様御発駕）
1737年　4月16日 元文2年　3月17日 曇　昨夜中より雨　終夜に及ぶ（今朝六時男牢死）
1737年　4月17日 元文2年　3月18日 曇（駒越岩木川渡水少々落ち長船で通用する）
1737年　4月18日 元文2年　3月19日 曇
1737年　4月19日 元文2年　3月20日 陰晴（長尾戸左衛門に一粒金丹5粒）
1737年　4月20日 元文2年　3月21日 陰晴（19日夜四つ頃青森安方町で出火・本町16軒・安方町39・米町53・浜町19・新町31・土蔵1・町奉行所も焼く(都合177軒と潰れ家2軒との記述)・1人死亡・火元入寺）
1737年　4月21日 元文2年　3月22日 陰晴　辰の下刻雨　丸雪降　小風　夜に入り雨（2月中碇関:入り194・出56・合250人）
1737年　4月22日 元文2年　3月23日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1737年　4月23日 元文2年　3月24日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1737年　4月24日 元文2年　3月25日 曇　昨夜中より雨（酸ヶ湯勤番足軽目付が23日に湯に入り病死）
1737年　4月25日 元文2年　3月26日 曇（和徳組高崎村腰巻川の水門が雪水で大破）
1737年　4月26日 元文2年　3月27日 晴（白鳥弥兵衛に一粒金丹3粒、今別町の者共から御蔵米御払い願い・弘前一番値段に駄賃運賃加え1俵を13匁2厘2毛で、大間越町には1俵を12匁3厘で御払い）
1737年　4月27日 元文2年　3月28日 晴
1737年　4月28日 元文2年　3月29日 晴　下から続く　(4寸2歩8寸40目:3歳)・同組尾崎村の十兵衛(2寸5歩4寸5歩・5寸6寸45匁)・油川組津軽坂村の太兵衛(1寸2歩9歩11匁・3寸5歩4寸25匁5分)　欄外(*)に続く
1737年　4月29日 元文2年　3月30日 陰晴　昼過ぎより雨降　夜に入り晴（駒越組中野村の仁介(胆長3寸廻り6寸生目10文目)・堀越組一ノ渡村の彦次郎(4寸2歩6寸35匁:8才)・尾崎組唐竹村の甚右衛門　上に続く
1737年　4月30日 元文2年　4月1日 快晴　小風立（3月中碇関出人49(御国人12・他国者37・御印紙26枚)・野内口他国者1人御印紙1枚・碇関口出御国人126人切手紙62枚・野内口御国人7人切手紙1枚）
(*)・浪岡組徳才子村の定右衛門(4寸4寸5歩24匁)それぞれ熊取る）

1737年　5月1日 元文2年　4月2日 晴　小風立　夜に入り小雨
1737年　5月2日 元文2年　4月3日 陰晴
1737年　5月3日 元文2年　4月4日 晴　(先月26日大間越で役人が鉄砲で熊打ち留める)
1737年　5月4日 元文2年　4月5日 陰晴　風立　雨　(大鰐組早瀬野村に70位男倒死、先月29日増館組吉野田村に野火(800間×500間)、誓願寺前に投げ火)
1737年　5月5日 元文2年　4月6日 曇　午の刻より小雨
1737年　5月6日 元文2年　4月7日 晴　今朝霜　(大間越町庄屋が御蔵米4月分70俵御払い願い・12匁3厘で50俵申付ける)
1737年　5月7日 元文2年　4月8日 快晴　(昨5日夜大光寺組本町村に60男倒死)
1737年　5月8日 元文2年　4月9日 曇　辰の上刻より中風　終日に及ぶ　(当月2日大鰐組もちのき村で火災・類火あり村預け8日で差免、昨晩和徳組清野袋村で56男縊死)
1737年　5月9日 元文2年　4月10日 曇　雨　午の上刻より小風立　(狼の頭7つ(工作)……、昨9日油川組安田村で火災1軒(4間×7間:百姓)・駄馬1疋焼失・火元村預け)
1737年　5月10日 元文2年　4月11日 快晴　(先月19日の青森の大火に伴い350俵を無利子で貸す)
1737年　5月11日 元文2年　4月12日 快晴　(金木組今泉村で火災30軒・火元他村に村預け)
1737年　5月12日 元文2年　4月13日 曇　辰の下刻より小雨　巳の刻過ぎまで　午の中刻丸雪降る　午の下刻雷発す
1737年　5月13日 元文2年　4月14日 快晴　巳の下刻まで霧　(まだ古金で支払い)
1737年　5月14日 元文2年　4月15日 快晴　(狼生皮出来、9日安田村の火元の村預け差許)
1737年　5月15日 元文2年　4月16日 快晴　午の刻前地震　則止む　　下から続く　　・鉛429箇5貫目)
1737年　5月16日 元文2年　4月17日 快晴　(12日金木組中里村で火災1軒(2間×3間:高無)・駒1疋焼失、3月中野内:出入り都合226人、3月中碇関:出入り合472・但し入り262人、尾太3月出分:銅205箇13貫目　　上に続く
1737年　5月17日 元文2年　4月18日 曇　辰の上刻小雨　則止む　午の刻より雨　終日に及ぶ　(屋形様5日に江戸着)
1737年　5月18日 元文2年　4月19日 陰晴
1737年　5月19日 元文2年　4月20日 陰晴　時々小雨　申の刻雨　終日に及ぶ　(3月26日大間越町同心が熊打ち留める)
1737年　5月20日 元文2年　4月21日 晴　巳の刻前雨　辰の刻雷発す　(今昼頃常盤組徳下村に50男乞食倒死)
1737年　5月21日 元文2年　4月22日 晴　(米値段当時1俵につき10匁5分、横内組に筒薬150目と内薬15匁火縄9房を狼対策として渡す:玉の記述なく音のみか)
1737年　5月22日 元文2年　4月23日 快晴　(昼八つ半頃東長町で小火)
1737年　5月23日 元文2年　4月24日 陰晴
1737年　5月24日 元文2年　4月25日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1737年　5月25日 元文2年　4月26日 陰晴
1737年　5月26日 元文2年　4月27日 陰晴　(12日中里村の火元の呵置(しかりおき)を差免、昨25日青森堤川大橋15間落ちる・堤町・下米町などで水が3尺余上がる)　　下から続く　　東大風強く野内御番所の屋根破損)
1737年　5月27日 元文2年　4月28日 曇　午の刻より雨　(四社に天気上げ御祈祷仰せ付ける、今泉村の火元の他村預け赦免、25日横内組で洪水・橋3箇所押流す、25日金木組毘沙門新田溜池堤押流す、25日昼　　上に続く
1737年　5月28日 元文2年　4月29日 陰晴　小雨時々　(25日東大風で浅虫御番所破損、当年只今まで寒、尾崎組尾崎村の十兵衛(胆長2寸廻り3寸生目方14匁:2歳)・唐竹村の甚右衛門(4寸3寸5歩　　欄外(*)に続く
1737年　5月29日 元文2年　4月30日 陰晴　午の下刻より小雨時々　(25日三馬屋湊で破船2艘)
1737年　5月30日 元文2年　5月1日 陰晴　(4月中御印紙出205人(碇関:御国人32・他国者172・84枚、野内:他国者1人1枚)・切手紙出御国人91人(碇関:82人38枚・野内:1人1枚・大間越:8人3枚)、　　欄外(**)に続く
1737年　5月31日 元文2年　5月2日 快晴
1737年　6月1日 元文2年　5月3日 陰晴　申の下刻より雨　夜中に及ぶ
1737年　6月2日 元文2年　5月4日 晴　(文金1両:丁銀51匁1分:銭3貫10文・切賃(きりちん:両替の手数料)32文、古金1両:丁銀57匁:4貫980文・切賃16文)
1737年　6月3日 元文2年　5月5日 快晴
1737年　6月4日 元文2年　5月6日 晴　酉の刻過ぎより雨　終夜に及ぶ
1737年　6月5日 元文2年　5月7日 曇　昨夜中雨　終夜に及ぶ　(4月中大間越:人数合56人・出入り人数69人)
1737年　6月6日 元文2年　5月8日 晴　酉の下刻小雨
1737年　6月7日 元文2年　5月9日 陰晴
1737年　6月8日 元文2年　5月10日 陰晴
1737年　6月9日 元文2年　5月11日 晴　辰の刻前小雨　　下から続く　　今夜五時過ぎ在府町に小火)
1737年　6月10日 元文2年　5月12日 陰晴　(4月中野内:出入り合394人(出298・御切手紙20人・入り76人)、同月碇関:都合468人(御印紙出160人69枚他に往来証文2人1枚御切手紙出96人46枚・入り人213)、　　上に続く
1737年　6月11日 元文2年　5月13日 快晴
1737年　6月12日 元文2年　5月14日 快晴
1737年　6月13日 元文2年　5月15日 陰晴　申の刻雨　夜中に及ぶ　(和徳組堅田村で田植え初め、尾太4月出分:銅239固14貫目・鉛430固12貫目、3月19日青森の火元の入寺御免)
1737年　6月14日 元文2年　5月16日 曇　酉の刻過ぎより雨　夜半まで
1737年　6月15日 元文2年　5月17日 曇　(打ち続き天気悪しく大円寺に御祈祷を申付ける、15日朝野内町番所役人宅火災、打ち続き天気悪しく岩木嵩への湯治を停止)
1737年　6月16日 元文2年　5月18日 陰晴
1737年　6月17日 元文2年　5月19日 陰晴　巳の刻過ぎより雨時々　(四社へ五穀成就の御祈祷を申付ける)
1737年　6月18日 元文2年　5月20日 快晴
1737年　6月19日 元文2年　5月21日 快晴　頃日温暖なし　(3月13日悪戸村の強盗殺人犯を斬罪)
1737年　6月20日 元文2年　5月22日 快晴
1737年　6月21日 元文2年　5月23日 快晴
1737年　6月22日 元文2年　5月24日 快晴　(昨19日暮六つ過ぎ十三町で小屋焼失・火元押込)
1737年　6月23日 元文2年　5月25日 快晴
1737年　6月24日 元文2年　5月26日 晴　(今日四半時頃御家中宅に投げ火)
1737年　6月25日 元文2年　5月27日 快晴　(先月24日亀甲町の男が行方不明、当月1日鍛冶町の男が行方不明、大間越町に御蔵米今20俵を1俵13匁6分3厘で払出す)
1737年　6月26日 元文2年　5月28日 曇　辰の下刻より雨　即止む　申の下刻より小雨　夜に入り止む　(3日江戸下谷佐久間町から火災・上野にも火が移る)
1737年　6月27日 元文2年　5月29日 陰晴　時々小雨　(26日十三町で小屋焼失(24日の記述とは異なると思うが……)・火元押込)
1737年　6月28日 元文2年　6月1日 快晴　(5月中印紙出56人(碇関他国者56人38枚)・切手紙出25人(碇関18人12枚・野内2人1枚・大間越4人1枚・十三湊1人1枚))
1737年　6月29日 元文2年　6月2日 曇　巳の刻より快晴
1737年　6月30日 元文2年　6月3日 陰晴

(*) たて当り目形なし)それぞれ熊取る)
(**) 25日東風大鰐組で倒木、25・26日浦町・横内組野洪水で苗代が川なり)

1737年　7月1日 元文2年　6月4日 曇　昨夜中より雨　巳の刻まで　午の刻より晴
1737年　7月2日 元文2年　6月5日 曇　(御家老(江戸)津軽帯刀御役御免)
1737年　7月3日 元文2年　6月6日 快晴　下から続く　去る6日飯詰組一野坪村で火災・火元村預け・免許)
1737年　7月4日 元文2年　6月7日 曇　卯の刻過ぎより雨　終日に及ぶ　(去月19日十三町の火元の押込赦免、4月22日寺小路町の小火の火元の呵置き赦免、大間越町に御蔵米50俵を1俵13匁7分3厘で払出す、　上に続く
1737年　7月5日 元文2年　6月8日 曇　小雨時々　小風立
1737年　7月6日 元文2年　6月9日 晴　未の刻小雨時々　(阿芙蓉花咲く)
1737年　7月7日 元文2年　6月10日 曇　午の刻過ぎ小雨　則止む　申の刻過ぎ小雨
1737年　7月8日 元文2年　6月11日 曇　巳の刻より陰晴　(尾太5月出分:銅201箇5貫目・鉛352固8貫目、6月分?出分:銅242固11貫・鉛498固3貫目)
1737年　7月9日 元文2年　6月12日 曇　卯の刻より雨　巳の刻より晴
1737年　7月10日 元文2年　6月13日 曇　巳の刻小雨　巳の中刻より晴　(俵元新田浅井村で田に虫の報告)
1737年　7月11日 元文2年　6月14日 快晴　(昨晩和徳組富田村で蕎麦こやし焼く)
1737年　7月12日 元文2年　6月15日 快晴　(当月2日悪戸村で男が行方不明、5月中大間越:人数合28・出入り人数合47人、野内:入り104・出230人、碇関:入り239・出367人、6月3日帯刀閉門)
1737年　7月13日 元文2年　6月16日 曇
1737年　7月14日 元文2年　6月17日 快晴　午の下刻小雨　則止む　(俵元新田の虫:1株に1～4匹・根に付く・一切動かず)
1737年　7月15日 元文2年　6月18日 陰晴
1737年　7月16日 元文2年　6月19日 快晴
1737年　7月17日 元文2年　6月20日 快晴　(文金400両代古金248両)
1737年　7月18日 元文2年　6月21日 曇　昨夜寅の刻より雨　終日に及ぶ
1737年　7月19日 元文2年　6月22日 快晴　午の后刻土用に入る
1737年　7月20日 元文2年　6月23日 陰晴
1737年　7月21日 元文2年　6月24日 陰晴　(文金400両この代古金240両)
1737年　7月22日 元文2年　6月25日 曇　辰の刻より雨
1737年　7月23日 元文2年　6月26日 快晴　(代官9人を御役召放・遠慮)
1737年　7月24日 元文2年　6月27日 快晴　(増館組代官から3か村68軒中60軒に各米1俵拝借願い・各1斗で申付ける、24日朝大間越支配松神村前洠に破船1艘、19日飯詰山に山火事(80間×20間))
1737年　7月25日 元文2年　6月28日 快晴　(御隠居名を栄翁とする)
1737年　7月26日 元文2年　6月29日 快晴　(常盤組俵升村に50余位道心倒死)
1737年　7月27日 元文2年　6月30日 快晴
1737年　7月28日 元文2年　7月1日 快晴　(6月中御印紙出72人(碇関71人52枚・野内1人1枚)・切手紙出58人(碇関56人37枚・大間越2人1枚)・出人都合130人)
1737年　7月29日 元文2年　7月2日 快晴
1737年　7月30日 元文2年　7月3日 快晴
1737年　7月31日 元文2年　7月4日 晴　(長尾戸左衛門に7粒・田村源太兵衛に3粒の一粒金丹、田村源太兵衛に一粒金丹7粒、6月29日猿賀組浅瀬石村で木小屋焼失・火元村預け)
1737年　8月1日 元文2年　7月5日 快晴　(今朝男牢死)
1737年　8月2日 元文2年　7月6日 快晴　申の刻小雨　則刻止む　(金木組今泉村で40男縊死)
1737年　8月3日 元文2年　7月7日 陰晴　昨夜より小雨　巳の下刻より快晴　夜半雷　少し雨　(文金200両が古金にて124両)
1737年　8月4日 元文2年　7月8日 曇　巳の中刻より雷雨　亥の刻雷雨　夜終
1737年　8月5日 元文2年　7月9日 晴　申の下刻大雨　雷発す　則止む　(当月渡御切米文金635両余を御内分より御貸出、先月29日浅瀬石村の火元の村預け相赦す)
1737年　8月6日 元文2年　7月10日 なし(天気の記述がない)　(浪岡組代官より浪岡村の百姓28軒に当月より8月までの飯米を1ヶ月に2斗づつ拝借願い・当月のみ申付ける)
1737年　8月7日 元文2年　7月11日 陰晴　(蟹田町の祢ふた流美々しく無益と叱られる、和徳・藤崎組の代官が御蔵米拝借願い・1軒に2斗づつ申付ける)
1737年　8月8日 元文2年　7月12日 快晴　(阿芙蓉のけしからは管理人の工藤某に・跡地には去年の通大根を蒔きつける)
1737年　8月9日 元文2年　7月13日 寅の刻地震少し　申の刻雨　夜中に及ぶ
1737年　8月10日 元文2年　7月14日 卯の下刻雨　辰の刻より巳の下刻雷発す　午の刻止む
1737年　8月11日 元文2年　7月15日 快晴　午の刻より雨
1737年　8月12日 元文2年　7月16日 雨　終日　終夜に及ぶ　(駒越川洪水)
1737年　8月13日 元文2年　7月17日 晴　(和徳組津軽野村(後の津賀野)で男流死、16日の大雨で石渡・田茂木町通・駒越村等に洪水被害、青森町で13日夜より雨・大雨・堤川仮橋・本橋落ちる)
1737年　8月14日 元文2年　7月18日 晴
1737年　8月15日 元文2年　7月19日 陰晴　(16日の洪水で北横町大橋の水切り柱2本流失、碇関御境までの橋被害・蟹田川流木8万本ほど・駒込川・荒川にも被害、8月中碇関:出入り人数合470人)
1737年　8月16日 元文2年　7月20日 晴　(16日晩南風で岩崎湊に破船1艘、18日朝岩崎村に男の死骸が流れ寄せる)
1737年　8月17日 元文2年　7月21日 曇　小雨　(自分で才覚できなかった成田伝八に一粒金丹3粒、19日夜中までに駒越川往還が差し支えなくなる、14・16日大鰐村で洪水)
1737年　8月18日 元文2年　7月22日 曇　時々雨　(16日岩木川洪水・悪戸村から中崎村まで欠け崩れ多数)
1737年　8月19日 元文2年　7月23日 寅の下刻より雨　巳の中刻より晴　申の刻雨　則止む
1737年　8月20日 元文2年　7月24日 快晴　(17日夜金木新田蒔田村で堤破損、18日蟹田川洪水、15日から16日に中柏木新田で水湛、14日より16日大光寺組六羽川で4軒流失、先月召放の代官の後任で御代官揃う)
1737年　8月21日 元文2年　7月25日 快晴
1737年　8月22日 元文2年　7月26日 快晴　未の刻雷発す　雨暫くして止む　丑の刻雷発す
1737年　8月23日 元文2年　7月27日 曇　辰の下刻より雨　午の刻より快晴　戌の刻過ぎより雨　雷暫く発す　雨夜中に及ぶ
1737年　8月24日 元文2年　7月28日 曇　昨夜雨　終日に及ぶ　(真言五山に天気揚げ御祈祷申付ける、当月7日油川組津軽坂村で太兵衛が熊(10歳)取る)
1737年　8月25日 元文2年　7月29日 快晴　下から続く　・大間越2人1枚)、　7月19日飯詰山で山火事)
1737年　8月26日 元文2年　8月1日 曇　辰の刻より雨　巳の刻まで　(7月中出入り都合121人(御印紙出95人59枚(碇関88人56枚・野内3人1枚・大間越4人2枚)・切手紙出26人19枚(碇関22人17枚・野内2人1枚　上に続く
1737年　8月27日 元文2年　8月2日 曇　昨夜中より雨時々　終日に及ぶ　戌の刻小雨　則止む　(今朝平岡町で井戸に落ち56女死亡)
1737年　8月28日 元文2年　8月3日 曇　辰の刻小雨　則止む
1737年　8月29日 元文2年　8月4日 快晴　(先月26日新田豊川村で僧が住民に刺し殺される、小笠原与左衛門に一粒金丹5粒、御用人杉山市一郎に10粒、伊勢の永代太々神楽の神楽料が50両・他に6両余)
1737年　8月30日 元文2年　8月5日 快晴　昨夜中より今朝殊の外冷(殊外冷)
1737年　8月31日 元文2年　8月6日 快晴

1737年　9月1日 元文2年　8月7日 快晴 （当月1日深浦町で大雨・洪水、昨25日誓願寺前に投げ火、7月15日金木村の大川川欠け）
1737年　9月2日 元文2年　8月8日 快晴 残暑甚 （屋敷内の花火に規制）
1737年　9月3日 元文2年　8月9日 晴 寅の下刻より大雨 辰の中刻より止む 雷少々 （御家中の小屋焼失・遠慮）
1737年　9月4日 元文2年　8月10日 快晴 夜中雨 巳の刻より止む （尾太7月分出方:銅189箇4貫目・鉛512固4貫目）
1737年　9月5日 元文2年　8月11日 曇 辰の刻より雨 終日に及ぶ　下から続く　・洪水被害(橋45ヶ所・131か村で水湛・5軒潰れ流れなど)）
1737年　9月6日 元文2年　8月12日 陰晴 （来る15日高岡江御初米差上げる、1両が3貫60文替え、大間越町名主が当月分御蔵米70俵払い出し願い・1俵15匁5分3厘で40俵御払い、7月14～16日の大雨　上に続く
1737年　9月7日 元文2年　8月13日 陰晴
1737年　9月8日 元文2年　8月14日 曇 昨夜中より雨 巳の刻より止む 午の刻より時々雨
1737年　9月9日 元文2年　8月15日 快晴
1737年　9月10日 元文2年　8月16日 快晴　下から続く　・切手紙27人20枚・入り228・都合376人）
1737年　9月11日 元文2年　8月17日 快晴 （14日飯詰組原子村に47・8道心倒死、貞昌寺に一粒金丹?粒、先月中野内:出36・御切手紙出12・入り67・都合115人、同碇関:御印紙87人55枚・往来証文34人　上に続く
1737年　9月12日 元文2年　8月18日 曇 辰の刻より雨 巳の刻より快晴
1737年　9月13日 元文2年　8月19日 曇 辰の刻より雨 （諸手足軽頭小笠原与左衛門に一粒金丹5粒）
1737年　9月14日 元文2年　8月20日 快晴
1737年　9月15日 元文2年　8月21日 曇 雨 終日に及ぶ （鮭留入札:野内川御役262匁5分・原別川51匁8分7厘・不知綱川5匁1分5厘）
1737年　9月16日 元文2年　8月22日 快晴 （阿芙蓉御用終了）
1737年　9月17日 元文2年　8月23日 快晴
1737年　9月18日 元文2年　8月24日 快晴
1737年　9月19日 元文2年　8月25日 快晴 小風
1737年　9月20日 元文2年　8月26日 晴 昨夜中より雨 終日に及ぶ （天気揚げ御祈祷を大円寺に申付ける）
1737年　9月21日 元文2年　8月27日 晴 （大間越の者共当月分を今30俵御蔵米御払い願い・15俵を15匁7分3厘で払出す、24日六十六部を掴まえる）
1737年　9月22日 元文2年　8月28日 曇 辰の刻より雨 巳の刻より快晴
1737年　9月23日 元文2年　8月29日 快晴 彼岸入り 午の上刻より小風 （尾崎組切明村の甚左衛門(胆長5寸廻り1寸5歩生目形9文目:4才)・堀越組市野渡村の左衛門四郎(4寸5歩5歩40目:15歳)それぞれ熊取る）
1737年　9月24日 元文2年　9月1日 快晴 （8月中碇関他国者89人御印紙58枚・御国人47人切手紙28枚・野内御国人1人切手紙1枚、7月16日の風雨で大間越に多数の物が流れ寄せる）
1737年　9月25日 元文2年　9月2日 快晴　下から続く　10人・切手紙2枚2人)・入り13人)）
1737年　9月26日 元文2年　9月3日 快晴 暖気甚 終日 夜入まで かたひら着　下から続く　願い・1俵13匁1分3厘2毛で30俵申付ける、田村理右衛門に一粒金丹3粒、先月大間越:出入り12人(御印紙6枚　上に続く
1737年　9月27日 元文2年　9月4日 快晴 暖気甚 終日 夜入まで かたひら着 （入札町米5俵1升5合:50目4分3厘、米200俵:2貫600目(1俵13匁)、8月1日深浦町で洪水被害、今別町年寄りが御蔵米50俵御払い　上に続く
1737年　9月28日 元文2年　9月5日 快晴 朝五時前霧 残暑甚
1737年　9月29日 元文2年　9月6日 曇 昨夜中より雨 巳の刻より陰晴
1737年　9月30日 元文2年　9月7日 快晴 （尾太8月出分:銅229箇10貫目・鉛599箇4貫目）
1737年　10月1日 元文2年　9月8日 快晴 （大間越町庄屋から当月分御蔵米70俵御払い願い・1俵15匁7分3厘で40俵申付ける、六十六部3人を野内口送り、江戸で御家中に半知・御暇10人ほど）
1737年　10月2日 元文2年　9月9日 快晴
1737年　10月3日 元文2年　9月10日 曇 巳の下刻より小雨降 晴 未の下刻より小雨 終夜に及ぶ
1737年　10月4日 元文2年　9月11日 曇 巳の下刻より晴 （この春の参勤に2080人の人夫で雪切をした）
1737年　10月5日 元文2年　9月12日 陰晴 （隈部伊織と大円寺に一粒金丹?粒）
1737年　10月6日 元文2年　9月13日 快晴
1737年　10月7日 元文2年　9月14日 快晴
1737年　10月8日 元文2年　9月15日 晴 （赤石組より初鮭）
1737年　10月9日 元文2年　9月16日 快晴 （今日二番鮭上がる）　下から続く　・入り65・都合128人）
1737年 10月10日 元文2年　9月17日 快晴 今朝霜 （藤代組青女子村で伊勢参り途中の50男病死、先月中碇関:出入り143人(御印紙93・切手紙50)・入り160・都合303人、先月中野内:出53(御印紙29・切手紙34)　上に続く
1737年 10月11日 元文2年　9月18日 晴
1737年 10月12日 元文2年　9月19日 快晴 今朝霜 （18日(鉄砲の)筒薬調合事故・5人負傷、今日初めて御米が御蔵に収まる）
1737年 10月13日 元文2年　9月20日 快晴 今朝霜
1737年 10月14日 元文2年　9月21日 曇 時々雨 岩木山に雪見る （外浜三新田頃日霧にて稲宜しからず、米8俵入札:106匁1分6厘(1俵13匁2分7厘)、18日筒薬事故の足軽死亡）
1737年 10月15日 元文2年　9月22日 晴 （20日夜から21日朝に新田で大風雨・時々ひゃう(雹)降る）
1737年 10月16日 元文2年　9月23日 快晴
1737年 10月17日 元文2年　9月24日 快晴 今朝霧 （21日昼八つ頃十三湊で風強く破船1艘）
1737年 10月18日 元文2年　9月25日 快晴
1737年 10月19日 元文2年　9月26日 快晴
1737年 10月20日 元文2年　9月27日 陰晴 申の下刻より夜中雨 （24日後方組石浜村で火災9軒）
1737年 10月21日 元文2年　9月28日 快晴 （油川組羽白村で狼荒れ・鉄砲打ち派遣(30日の記述では大組足軽1人)、18日の筒薬事故の足軽死亡・2人目）　下から続く　助四郎(4寸5寸15匁:5歳　欄外(*)に続く
1737年 10月22日 元文2年　9月29日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ　下から続く　・3寸5歩6寸13匁)・同組桜庭村の茂助(4寸2寸2歩3匁:6歳)・飯詰組若山村の半助(3寸4寸20目:2歳)・大鰐組長峰村の　上に続く
1737年 10月23日 元文2年　9月30日 陰晴 昨夜中雨 （駒越組田代村の藤右衛門(胆長3寸5歩廻り2寸5歩生目3匁:3歳)・同組中畑村の彦左衛門(4寸5歩8寸20目:4歳)・同組田代村の次右衛門(4寸3寸2匁:4歳　上に続く
1737年 10月24日 元文2年　10月1日 快晴 （大間越町庄屋が11月分の御蔵米55俵払い出し願い・15匁6分3厘で40俵申付ける、所々御関所出人137人(碇関他国者93・御国人34、野内3・5、大間越2・0)）
1737年 10月25日 元文2年　10月2日 快晴
1737年 10月26日 元文2年　10月3日 陰晴 申の下刻より雨 子の刻まで
1737年 10月27日 元文2年　10月4日 快晴
1737年 10月28日 元文2年　10月5日 快晴
1737年 10月29日 元文2年　10月6日 陰晴 巳の下刻より雨 （後潟組代官から去月24日の火災に遭った者に御救い米願い、4日横内組古館村に50余男倒死）
1737年 10月30日 元文2年　10月7日 曇 入夜少丸雪降 （十三町中人数897人）
1737年 10月31日 元文2年　10月8日 曇 岩木山雪見る （津軽大学病死）
(*) ・5寸1寸5歩15匁:8歳)それぞれ熊取る）

1737年　11月1日 元文2年　　10月9日 曇　卯の刻過ぎより初雪降（報恩寺・明珍与兵衛に一粒金丹各3粒、殺人があった富田御蔵の調査あり、尾太9月分出分:銅206固12貫目・鉛493固）
1737年　11月2日 元文2年　10月10日 卯の上刻より晴（10日元家老佐藤帯刀病死、天気揚げ御祈祷を五山に申付ける）
1737年　11月3日 元文2年　10月11日 陰晴　巳の后刻より小雨（3日深浦町横磯村で破船1艘）
1737年　11月4日 元文2年　10月12日 陰晴（先月24日石浜村の火元の村預け免許）
1737年　11月5日 元文2年　10月13日 快晴　夜に入り時々小雨
1737年　11月6日 元文2年　10月14日 卯の刻過ぎまで小雨　巳の刻過ぎより晴　昨寅の刻雷小音数発
1737年　11月7日 元文2年　10月15日 快晴　今朝大霜　申の刻より小雨時々　夜に入り雨（活き白鳥上がる）
1737年　11月8日 元文2年　10月16日 晴
1737年　11月9日 元文2年　10月17日 陰晴　巳の刻過ぎ雨暫く（貞昌寺に一粒金丹5粒）
1737年 11月10日 元文2年　10月18日 快晴
1737年 11月11日 元文2年　10月19日 曇　時々雨　丸雪（8月中碇関:入り153・出162・合315人、17日本町で六十六部2人捕まる・野内口から送り返す）
1737年 11月12日 元文2年　10月20日 快晴
1737年 11月13日 元文2年　10月21日 快晴（油川組羽白村に出した狼打ち引取る、2日夜浪岡組本郷村で火災・火元呵置き・赦免）
1737年 11月14日 元文2年　10月22日 晴　昨夜中雨　巳の下刻より晴
1737年 11月15日 元文2年　10月23日 曇　辰の刻より雨
1737年 11月16日 元文2年　10月24日 陰晴
1737年 11月17日 元文2年　10月25日 曇　昨夜中より雨　辰の下刻より雪　終日に及ぶ
1737年 11月18日 元文2年　10月26日 晴
1737年 11月19日 元文2年　10月27日 陰晴（21日後潟組広瀬村で火災・火元村預け・免許、24日飯詰組金山村で61歳男村送り中死亡）
1737年 11月20日 元文2年　10月28日 陰晴　今朝霜　　下から続く　　種里村の彦十郎(2寸5歩3寸13匁:2才)・同村の三郎次郎(3寸2寸5歩15匁:5才)・浪岡組徳才子村の定右衛門(3寸5歩3寸12匁:6才　　欄外(*)に続く
1737年 11月21日 元文2年　10月29日 晴　今朝霜（大鰐組苦木村の仁兵衛(胆長5寸廻り5寸5歩目方30匁:5才)・堀越組一野渡村の彦次郎(3寸1歩3寸5歩16匁:5才)・飯詰組若山村の半助(35匁:5才)・赤石組　　上に続く
1737年 11月22日 元文2年　　11月1日 今朝霜　巳の刻過ぎより小雨（10月中御関所出人碇関76人(他国者61御印紙39・御国人15切手紙10)・野内2人(御国人切手紙1)、先月29日男牢死、先月18日新寺町に　　下に続く
1737年 11月23日 元文2年　　11月2日 曇　雨　　上から続く　　2才男子捨子、牢舎に20人が衣類薄い）
1737年 11月24日 元文2年　　11月3日 曇　昨夜中雪　終日時々雪
1737年 11月25日 元文2年　　11月4日 曇　辰の刻より雪　終日に及ぶ（入札:米1俵に付き17匁2分7厘(170俵代2貫935匁9分)・朽ち米1俵7匁・土米2斗8升代3匁5分5厘・大豆2斗1升代3匁5分）
1737年 11月26日 元文2年　　11月5日 曇　時々雪
1737年 11月27日 元文2年　　11月6日 快晴　申の刻雪　終夜に及ぶ
1737年 11月28日 元文2年　　11月7日 曇　雨（4日高杉組住吉村(高杉村の北の支村)に火災・火元村預け、文金300両代古金186両、尾太10月出高:銅232固7貫目・鉛332固10貫目）
1737年 11月29日 元文2年　　11月8日 晴　昨夜中より雪　終日に及ぶ
1737年 11月30日 元文2年　　11月9日 晴
1737年　12月1日 元文2年　11月10日 曇　雨　終日に及ぶ
1737年　12月2日 元文2年　11月11日 曇　昨夜中より雨　午の刻に及ぶ　それより陰晴（一昨晩富田町で家が潰れる、先月中大間越:出42(御印紙39人15枚・御切手紙3人2枚)・入り14・都合56人）
1737年　12月3日 元文2年　11月12日 曇　巳の刻過ぎ雷発す　即刻より小雨時々（先月20日野内町で火災・火元入寺・免許、先月中碇関:出89(御印紙62・御切手紙27)・入り84・都合173人、野内:出81　　下に続く
1737年　12月4日 元文2年　11月13日 曇　終日吹雪　　上から続く　　(御印紙49・御切手紙32)・入り76・都合157人）
1737年　12月5日 元文2年　11月14日 曇　昨夜中より雪風強　終日に及ぶ　寒甚だしく(寒甚敷)（飯詰組原子村に男倒死）
1737年　12月6日 元文2年　11月15日 晴（赤石組代官が銭納願い・3ヶ2は認める、13日夜後潟組山本村で火災1軒(3間×4間:高無)・稗11俵馬3疋焼失・火元村預け）
1737年　12月7日 元文2年　11月16日 快晴（14日夜広須新田桜井村で稲など焼失）
1737年　12月8日 元文2年　11月17日 陰晴（今日藤代組三世寺村で火災(2間×1間半:高無)・火元村預け、14日桜井村で火災(3間×7間:百姓)・稲1700束米4俵2斗雑駄1疋焼失・火元五人組預け）
1737年　12月9日 元文2年　11月18日 陰晴　夜に入り小雪
1737年 12月10日 元文2年　11月19日 曇（入札:古米20俵代204匁）
1737年 12月11日 元文2年　11月20日 曇　午の刻より雪降（11月19日十三潟早川口より高根村まで氷張る・去年11月2日で当年は17日遅く・節に引き合い7日遅い、17日大鰐組の山で男縊死）
1737年 12月12日 元文2年　11月21日 晴　昨夜中雪（13日山元村・14日桜井村・16日三世寺村の火元の村預け差免）
1737年 12月13日 元文2年　11月22日 曇　雪時々
1737年 12月14日 元文2年　11月23日 曇　時々小雨雪
1737年 12月15日 元文2年　11月24日 曇　昨夜中より雪風　終日に及ぶ　巳の中刻地震（22日後潟組後潟村で60位男乞食倒死）
1737年 12月16日 元文2年　11月25日 曇　時々雪
1737年 12月17日 元文2年　11月26日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ
1737年 12月18日 元文2年　11月27日 晴（金箔600枚代文金1両1歩332文・48文遣い）
1737年 12月19日 元文2年　11月28日 曇（24日の大風で鯵ヶ沢御蔵の屋根が吹きはげる）
1737年 12月20日 元文2年　11月29日 陰晴
1737年 12月21日 元文2年　11月30日 曇　雪時々　酉の刻冬至
1737年 12月22日 元文2年　閏11月1日 晴　今朝小雪（11月中所々御関所出人都合131人(碇関御印紙101人44枚(他国者78・御国人21)・切手紙24人16枚・野内切手紙4枚御国人6人)）
1737年 12月23日 元文2年　閏11月2日 晴
1737年 12月24日 元文2年　閏11月3日 快晴
1737年 12月25日 元文2年　閏11月4日 晴（11月30日後潟組後潟村で火災3軒(柾4間×4間半と萱4間×7間:百姓・柾4間半×3間と萱4間×6間:不明・柾4間半×7間:百姓)・火元他村預け、1日金木組高根村で火災・火元村預け）
1737年 12月26日 元文2年　閏11月5日 晴　昨夜中雨
1737年 12月27日 元文2年　閏11月6日 晴　申の下刻より雨
1737年 12月28日 元文2年　閏11月7日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ（一粒金丹調合に焼酒8升・3年酒2升、大間越町庄屋が閏11月分御蔵米50俵御払願い・1俵13匁9分で40俵申付ける、岩木川洪水6分ほど・船渡し往還留める）
1737年 12月29日 元文2年　閏11月8日 快晴（1日高値村の火元の村預け差免、11月中大間越:人数36・出入り人数77人、岩木川水落・今朝より船渡し、江戸から飛脚が16日振りで到着・途中洪水・大雪）
1737年 12月30日 元文2年　閏11月9日 陰晴
1737年 12月31日 元文2年　閏11月10日快晴　昨夜雪（文金200両の代古金124両）

(*)・5寸6寸21匁:8才・4寸?寸1匁2分:10才・4寸3寸5歩8匁5分:6才)・横内組横内村の左衛門四郎(3寸3寸5歩24匁:5才・4寸5寸55匁:10才)・浦町組合子沢村の弥左衛門(3寸5歩4寸6歩:10才・3寸2寸15匁:7才)それぞれ熊取る)

1738年　1月1日 元文2年 閏11月11日快晴 （10日浦町組高田村で火災(3間×4間:百姓・2間半×5間:借地)・火元他村預け、3日猿賀組八幡崎村で火災・火元村預け・免許、6日夜より7日終日の雨で広須　　欄外(*)に続く
1738年　1月2日 元文2年 閏11月12日曇 辰の刻より雨 終日に及ぶ （深浦町から屋敷物成の銭納願い・14文目値段で申付ける）
1738年　1月3日 元文2年 閏11月13日雲 午の刻より雨 終日に及ぶ （広須新田の水湛段々水引く）
1738年　1月4日 元文2年 閏11月14日曇 （10日尾崎組大坊村に60位男乞食裸で倒死、1日金木組高根村で火災(3間×5間:高無)・火元村預け）
1738年　1月5日 元文2年 閏11月15日快晴 小寒 亥の八刻に入る
1738年　1月6日 元文2年 閏11月16日晴　　下から続く　　藤代組中畑村で2軒7人走る、閏11月11日藤代組石渡村の家守が妻子置き行方不明、藤代組石渡に所払い男倒死、大鰐組大鰐村に70位男倒死）
1738年　1月7日 元文2年 閏11月17日曇 雪 （先月中碇関:出142・他に往来証文10・御指図1・入り117・出入り人数都合174人、先月中野内:出73(御印紙48・御切手紙25)・入り66・出入り都合139人、11月29日　　上に続く
1738年　1月8日 元文2年 閏11月18日快晴 夜に入り小雪
1738年　1月9日 元文2年 閏11月19日曇 辰の刻過ぎより雪 巳の下刻晴 （尾太11月出分:銅246固1貫目・鉛380固11貫目）
1738年　1月10日 元文2年 閏11月20日陰晴 夜に入り小雪 （雑穀等を手当て(ボランティアで雑穀等を供出:一寸苦しいのか)した者に褒美）
1738年　1月11日 元文2年 閏11月21日陰晴 辰の刻過ぎまで小雨 （広田組代官が御救い米申し立てる、先月30日後潟村・今月10日高田村の火元の他村預け差免、関五郎右衛門に一粒金丹3粒）
1738年　1月12日 元文2年 閏11月22日雲 申の下刻より小雨 （後潟組代官が上磯村の高無に御救い米願い、広田組代官も）
1738年　1月13日 元文2年 閏11月23日晴 昨夜中より小雨 （岩木川が昨夜中よりの雨で7歩ほどの洪水・駒越渡しが長船馬船とも不通、金木組代官より御救い米願い）
1738年　1月14日 元文2年 閏11月24日陰晴 夜に入り小雨 （駒越川水落ちる・昨暮頃より船通う）
1738年　1月15日 元文2年 閏11月25日曇
1738年　1月16日 元文2年 閏11月26日曇
1738年　1月17日 元文2年 閏11月27日陰晴 昨夜中より雪 終日に及ぶ （御内分より古金3470両・文金433両御貸し出し）
1738年　1月18日 元文2年 閏11月28日快晴 （20日駒越組大秋村の新兵衛熊(胆長2寸5歩廻り5寸生目15匁:3歳)取る）
1738年　1月19日 元文2年 閏11月29日快晴 （十三町奉行・今別町奉行が屋敷物成の銭納申し立てる・認める、藤代組大川村に53・4男倒死、目明しを10俵で雇う）
1738年　1月20日 元文2年　12月1日 陰晴 （閏11月中出76人・他国者49(碇関47御印紙38枚・野内2人1枚)・御国人30(碇関25御切手紙11枚・野内4人2枚・大間越1人1枚)）
1738年　1月21日 元文2年　12月2日 陰晴 大寒に入る （江戸から御家中への借金取りが来ている）
1738年　1月22日 元文2年　12月3日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ 夜に入り小雪
1738年　1月23日 元文2年　12月4日 曇 巳の刻過ぎまで小雪降 （病人多し、1日後潟組内真部村で破船1艘、油川組代官が銭納等の願い・1俵14匁1分で認める、1日金木新田富野村で火災(3間×7間:百姓)・火元五人組預け）
1738年　1月24日 元文2年　12月5日 快晴 巳の刻より小雪 未の刻より晴
1738年　1月25日 元文2年　12月6日 曇 昨夜中より雪 終日に及ぶ 時々吹雪
1738年　1月26日 元文2年　12月7日 晴 昨夜中雪 （1日の富野村の火元赦免）　　下から続く　　・御切手紙22枚41人)・入り89・都合200人）
1738年　1月27日 元文2年　12月8日 晴 （先月中大間越:出112(御印紙34枚99人・御切手紙9枚12人・松前へ往来1人)・入り59・都合171人、同碇関:出111(御印紙42枚53人・往来証文で17人　　上に続く
1738年　1月28日 元文2年　12月9日 陰晴 （尾太閏11月出分:銅272固13貫目・鉛507固2貫目）
1738年　1月29日 元文2年　12月10日 快晴 昨夜七つ過ぎ地震
1738年　1月30日 元文2年　12月11日 晴 午の刻過ぎ雪少々 夜に入り大雪吹
1738年　1月31日 元文2年　12月12日 晴 昨夜より吹雪 巳の中刻止む
1738年　2月1日 元文2年　12月13日 曇 辰の刻より雪降 則刻相止む （広須村庄屋変死、油川・後方・三新田代官から御救い米願いの見分を命ずる）
1738年　2月2日 元文2年　12月14日 晴 （当年雪薄く雉子払底）
1738年　2月3日 元文2年　12月15日 雪 （阿芙蓉70目を一粒金丹御用のために和田玄春に）
1738年　2月4日 元文2年　12月16日 曇 昨夜中より雪吹 終日に及ぶ 寒気甚 節分之
1738年　2月5日 元文2年　12月17日 曇 時々雪 寒気甚
1738年　2月6日 元文2年　12月18日 陰晴
1738年　2月7日 元文2年　12月19日 晴 （ひょっとして御内分に文金1509両を返しているか）
1738年　2月8日 元文2年　12月20日 快晴 （大野村の火元の村預け差免、今年の農作物の被害(4月25・26日と7月13・14・15日の)報告・米損耗3万5千石余）　　下から続く　　与左衛門に一粒金丹10粒）
1738年　2月9日 元文2年　12月21日 曇 巳の刻より雨 終日に及ぶ （外浜・金木・飯詰・広田・広須・赤田・三新田に御救米、当暮渡御切米(10ヶ1差引)として御内分より文金720両余御貸出、御用人小笠原　　上に続く
1738年　2月10日 元文2年　12月22日 晴 （各代官に交替で正月休みを命ずる・御救い米などがあるので:御救い米の手続きは御代官(2人が勤務する)が行う・今年は不作・正月だからといって休んで入られない）
1738年　2月11日 元文2年　12月23日 曇 辰の刻より雪 午の刻より快晴
1738年　2月12日 元文2年　12月24日 曇 昨夜より雪 巳の刻過ぎまで降 （大湯彦八に一粒金丹10粒）
1738年　2月13日 元文2年　12月25日 曇 午の刻より雪降
1738年　2月14日 元文2年　12月26日 晴 （24日青森浦町村で火災2軒）
1738年　2月15日 元文2年　12月27日 晴 （先月中野内:出36(御印紙29・御切手紙7)・入り74・出入り都合110人）
1738年　2月16日 元文2年　12月28日 晴　　下から続く　　24日浦町組堤村の火元の呵置差免）
1738年　2月17日 元文2年　12月29日 曇 昨夜中より雪 （駒越組大秋村の新兵衛(胆長3寸廻り5寸生目17匁:5才・3寸4歩5寸3歩23匁:9才)・同組田代村の藤右衛門(4寸5寸5歩18匁:2才)それぞれ熊取る、　　上に続く
1738年　2月18日 元文2年　12月30日 曇 時々雪 （御小納戸金が滞っている・古金のはずが文金……等の苦情が江戸から来ている、(刑の問い合わせに)殺人の2人は斬罪に等の指示あり）
1738年　2月19日 元文3年 正月1日 快晴
1738年　2月20日 元文3年 正月2日 曇 今朝時々小雪
1738年　2月21日 元文3年 正月3日 快晴 昨夜時々小雨
1738年　2月22日 元文3年 正月4日 曇 時々小雪 小雨
1738年　2月23日 元文3年 正月5日 晴
1738年　2月24日 元文3年 正月6日 陰晴
1738年　2月25日 元文3年 正月7日 陰晴 未の刻より雪 時々雨 （4日朝より十三潟の大川口より十三湊まで明ける・船通用・昨年2月25日で当年は50日早い・節に引合でも31日早い）
1738年　2月26日 元文3年 正月8日 晴 夜に入り小雪
1738年　2月27日 元文3年 正月9日 曇 時々雪
1738年　2月28日 元文3年 正月10日 晴 酉の刻より雨 夜中に及ぶ （12月中碇関出:他国者42人御印紙29枚・御国者28人切手紙15枚、野内出:御国人1人切手紙1枚）
(*) 新田でざい水(氷が流れたものでしょう)・水湛等あり、相馬村の留山で盗杣の犯人等の所払いの申し渡し）

1738年　3月1日 元文3年 正月11日　曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ
1738年　3月2日 元文3年 正月12日　快晴
1738年　3月3日 元文3年 正月13日　曇 辰の刻雨
1738年　3月4日 元文3年 正月14日　曇 雪
1738年　3月5日 元文3年 正月15日　快晴 （今別町年寄りから今別の高無36軒124人に御救い米願い・御救い米はほとんど代官から要求が出されほとんどすべてが実行される）
1738年　3月6日 元文3年 正月16日　晴
1738年　3月7日 元文3年 正月17日　晴
1738年　3月8日 元文3年 正月18日　曇 時々雪
1738年　3月9日 元文3年 正月19日　陰晴 時々雪
1738年　3月10日 元文3年 正月20日　快晴 申の刻過ぎより雪 （5日猿賀組袋村で火災・火元村預け・差免）
1738年　3月11日 元文3年 正月21日　快晴 未の刻より雨風 夜中に及ぶ （去る12月野内:出入り人都合92人、去る12月碇関:出入り人都合162人、去る12月大間越:出入り人都合42人）
1738年　3月12日 元文3年 正月22日　陰晴 戌の上刻地震 （野内町・柏木組の73軒243人に御救い米願い・その通り申付ける）
1738年　3月13日 元文3年 正月23日　快晴 昨夜より雪 辰の刻まで
1738年　3月14日 元文3年 正月24日　晴 昨夜中雪 （赤田・後方・三新田・油川組代官から1929軒9033人の御救い米願い・申立のとおり、当時相場15匁1分）
1738年　3月15日 元文3年 正月25日　晴 午の中刻より小雨 夜に入り止む （弘前土渕川に5才くらいの男子の死骸が流れてくる）
1738年　3月16日 元文3年 正月26日　曇 時々丸雪 風立つ 終日に及ぶ （杉山八兵衛が家老に、赤田・広須・広田・柏木・増館・藤代組の559軒2837人に御救い米願い・申立のとおり）
1738年　3月17日 元文3年 正月27日　曇 昨夜中より雪 巳の刻より時々雪 （青森町・金木・浦町・藤代・赤田・広田・広須・猿賀・柏木・浦町・横内組代官から1561軒6551人に御救い米願い）
1738年　3月18日 元文3年 正月28日　快晴 （青森町奉行が9軒36人に御救い米願:これは書類が不備で蹴られた?）
1738年　3月19日 元文3年 正月29日　曇 辰の刻雨 雷数度発す 雨時々 （大鰐組早瀬野村の長五郎2疋・駒越組中畑村の彦左衛門1疋それぞれ熊取る）
1738年　3月20日 元文3年　2月1日 陰晴 午の下刻小雨 （正月中出42人碇関40(他国者13御印紙12・御国人27切手紙17)・野内御国人2切手紙1、赤石組金井ヶ沢で火災68軒・舟4艘）
1738年　3月21日 元文3年　2月2日 曇 夜中より雪 今朝辰の上刻より雨 終日に及ぶ
1738年　3月22日 元文3年　2月3日 晴 昨夜中雪
1738年　3月23日 元文3年　2月4日 快晴
1738年　3月24日 元文3年　2月5日 陰晴 卯の中刻より小雪 辰の刻晴
1738年　3月25日 元文3年　2月6日 快晴 彼岸に入る （新田作人十川村の者火災・火元村預け赦免、先月28日赤石組の火災内容(家68軒・丸木舟6艘・火元村預け）
1738年　3月26日 元文3年　2月7日 陰晴 申の中刻より小雪 （尾太正月分:銅171固9貫目・鉛284箇5文目(多文貫目)）
1738年　3月27日 元文3年　2月8日 快晴 （当時相場15匁3分）
1738年　3月28日 元文3年　2月9日 快晴 今朝大霜　下から続く　火災(2間×4間:百姓)・火元村預け）
1738年　3月29日 元文3年　2月10日 晴 今朝大霜 （閏11月7日より12月晦日までの御救い米願い:1590石8斗8升5合・23287人(11歳以上(3合/日)が18092・4～10才(2合/日)が5195)、5日飯詰組原子村で　上に続く
1738年　3月30日 元文3年　2月11日 晴 （飢饉であろう言葉を「きぎん」とした例あり）
1738年　3月31日 元文3年　2月12日 快晴 （油川組岩渡村の田の中に5・6歳女子倒死）
1738年　4月1日 元文3年　2月13日 快晴
1738年　4月2日 元文3年　2月14日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ
1738年　4月3日 元文3年　2月15日 晴
1738年　4月4日 元文3年　2月16日 快晴 今朝霜
1738年　4月5日 元文3年　2月17日 晴 （一粒金丹御用として胡桃?）
1738年　4月6日 元文3年　2月18日 曇 辰の刻より雨 巳の刻より晴
1738年　4月7日 元文3年　2月19日 晴 （先月28日金井ヶ沢村の火元の他村預け差免、昨夜新田木作村で18・9乞食女時疫死）
1738年　4月8日 元文3年　2月20日 快晴 今朝大霜 夜に入り雨 （高岡境内の狼対策として鉄砲玉(3匁5分)20などを渡す、17日後潟組内真部山で野火(200間×100間)）
1738年　4月9日 元文3年　2月21日 曇 雨終日に及ぶ （大間越町奉行から熊狼対策に6匁玉など・稽古用の鉄砲玉(3匁5分)350などの願い・共に出す）
1738年　4月10日 元文3年　2月22日 曇 巳の刻より雨時々 午の刻より晴 （18日猿賀組浅瀬石村(50間×30間)・13日高杉組立石村(25間×20間)・15日新田富谷内蒔村(長400間)・12日十三町で(長400間)それぞれ野火）
1738年　4月11日 元文3年　2月23日 晴
1738年　4月12日 元文3年　2月24日 快晴 （16日夜横内組で寺全焼、18日新田車力村で野火(400間×200間)）
1738年　4月13日 元文3年　2月25日 曇 今朝辰の刻小雨 則止む
1738年　4月14日 元文3年　2月26日 快晴 酉の刻地震少し　下から続く　大目付76・四奉行41・御目付25・その他19・14・12本、百沢寺に一粒金丹5粒、俵元新田豊成村の庄屋が正月15日より行方不明）
1738年　4月15日 元文3年　2月27日 快晴 （蔵館村彦右衛門が目明しに、当暮渡し御切米(10ヶ1差引)のため御内分より文金882両余を御貸出し、流木4236本を御目見以上に御払い:御家老165本・御用人100・　上に続く
1738年　4月16日 元文3年　2月28日 快晴 （米金仮値段:米1俵11匁・文金1両が50目・古金1両が78匁、男牢死）
1738年　4月17日 元文3年　2月29日 快晴 今朝大霜　下から続く　7寸92匁:15才)それぞれ熊取る、26日金木組嘉瀬村に野火）
1738年　4月18日 元文3年　2月30日 快晴 （大鰐組居土村の弥左衛門(胆長1寸5歩廻り2寸生目形5匁5歩:2歳)・浪岡組徳才子村の定右衛門(3寸5歩5寸60目:7才)・堀越組一野渡村の彦次郎(5寸5歩　上に続く
1738年　4月19日 元文3年　3月1日 曇 夜に入り雨 （所々御関所出人107人:碇関105(他国者35御印紙31枚・御国人70切手紙47枚)・野内御国人1切手紙1枚・青森湊御国人1切手紙1枚）
1738年　4月20日 元文3年　3月2日 曇 昨夜中よりの雨終日に及ぶ （岩木川水6分半の出・往還とどまる、当用銭15貫目を(御内分より)御貸出・先月15日の15貫目を払いきり）
1738年　4月21日 元文3年　3月3日 快晴 昨夜中小雨
1738年　4月22日 元文3年　3月4日 快晴
1738年　4月23日 元文3年　3月5日 快晴
1738年　4月24日 元文3年　3月6日 晴 少々風立つ 申の刻丸雪降る
1738年　4月25日 元文3年　3月7日 晴 昨夜中丸雪降る 大風吹 （對馬武助に一粒金丹3粒、對馬武右衛門に一粒金丹、4日後潟組小国沢で火災4軒・火元村預け、2月中大間越:出入り57人）
1738年　4月26日 元文3年　3月8日 快晴
1738年　4月27日 元文3年　3月9日 曇 巳の中刻より小雨 則止む （大間越町の者共が御蔵米70俵払い出し願い・40俵を申付ける）
1738年　4月28日 元文3年　3月10日 曇 辰の刻より雨時々 終日に及ぶ （昨夜より岩木川洪水・通用なりかねる）
1738年　4月29日 元文3年　3月11日 曇 辰の刻より雨時々 終日に及ぶ （尾太2月出分:銅266箇4貫目・鉛534箇12貫目）
1738年　4月30日 元文3年　3月12日 快晴 今朝霜

1738年　5月1日 元文3年　3月13日 快晴 （御下向金として文金1500両を御内分より御貸し出し）
1738年　5月2日 元文3年　3月14日 曇 昨夜中より雨 巳の刻まで それより止む
1738年　5月3日 元文3年　3月15日 快晴
1738年　5月4日 元文3年　3月16日 曇 午の刻より雨
1738年　5月5日 元文3年　3月17日 快晴 （尾崎組柏木町村の畑から古銭32匁でる、8日赤石組黒崎村の塩釜で乞食が1人怪我・死亡、石渡橋上流に男の死骸）
1738年　5月6日 元文3年　3月18日 陰晴 酉の刻より雨
1738年　5月7日 元文3年　3月19日 晴 午の刻地震 酉の下刻右同断 （17日夜浦町組大野村で火災・火元村預け）
1738年　5月8日 元文3年　3月20日 陰晴 終日小風
1738年　5月9日 元文3年　3月21日 快晴 （4日後潟組小国沢村の火元の他村預け差免）
1738年　5月10日 元文3年　3月22日 快晴
1738年　5月11日 元文3年　3月23日 晴
1738年　5月12日 元文3年　3月24日 曇 昨夜中雨 （表方に御銭なく御内分より銭16貫500目御貸し出し、17日大野村の火元の村預け差免）
1738年　5月13日 元文3年　3月25日 曇 昨夜中小雨 今朝辰の中刻止む 巳の中刻より晴 先月中碇関:出107（御印紙32枚36・往来証文4・切手紙48枚67）・入り110・出入り都合217人）
1738年　5月14日 元文3年　3月26日 快晴
1738年　5月15日 元文3年　3月27日 晴 （2月5日原子村の火元の村預け差免、御内分より2貫目御貸出、昨5日?田舎館組八反田村で火災・多分報告の遅れが問題になっている）
1738年　5月16日 元文3年　3月28日 曇 卯の刻小雨 巳の下刻より晴
1738年　5月17日 元文3年　3月29日 陰晴 （昨27日青森虹貝町の乞食小屋焼失、江戸のぼり要員の足軽逐電）
1738年　5月18日 元文3年　3月30日 快晴 （今朝五半男牢死） 下から続く :碇関281人102枚・野内1人1枚・大間越1人1枚）
1738年　5月19日 元文3年　4月1日 陰晴 未の刻雨 雷発す 則止む （山上羽右衛門が隠居・倅久次郎に、3月中御関所出人365人（御印紙:碇関81人（御国人34・他国者47）39枚・野内2人1枚）・切手紙283人 上に続く
1738年　5月20日 元文3年　4月2日 陰晴 申の刻過ぎ小雨 夜中に及ぶ （先月御内分から両度17貫目の御貸出・これも使い切り5貫目御貸出、先月25日八反田村の火元の村預け差免、大鰐組早瀬野村 欄外(*)に続く
1738年　5月21日 元文3年　4月3日 曇 昨夜中より小雨時々 巳の刻過ぎまて
1738年　5月22日 元文3年　4月4日 晴 （大間越町の者共から当月分御蔵米御払い願い・50俵を駄賃運賃加え1俵16匁3分3厘で御払い、米入札:17俵（3斗5升入り）が213匁5分2厘:4斗入り1俵が14匁3分5厘余に相当）
1738年　5月23日 元文3年　4月5日 曇 小雨時々 終日に及ぶ
1738年　5月24日 元文3年　4月6日 陰晴
1738年　5月25日 元文3年　4月7日 曇 今朝霜 申の下刻より小雨 （一粒金丹調合出来・20箱2300粒と1箱分115粒・20箱は江戸送り、蟹田町深泊で碇（長さ8尺5寸鉄目形80貫目）拾う、雲谷牧で狼が荒れ玉などを願う・出す）
1738年　5月26日 元文3年　4月8日 快晴 （堀越組清水森村に70斗男倒死、先月晦日新法師村の火元の村預け赦免）
1738年　5月27日 元文3年　4月9日 快晴
1738年　5月28日 元文3年　4月10日 快晴 （7日赤田組板屋野木村で火災（家34軒土蔵7つ）・火元他村預け、3日転び切支丹類族毛内嘉次郎病死）
1738年　5月29日 元文3年　4月11日 快晴 （田中伴右衛門に一粒金丹3粒、御内分より文金30両3歩と銭1貫500目を御貸出）
1738年　5月30日 元文3年　4月12日 快晴 （津軽外記に一粒金丹5粒）
1738年　5月31日 元文3年　4月13日 快晴 卯の刻前小雨 即止む
1738年　6月1日 元文3年　4月14日 快晴
1738年　6月2日 元文3年　4月15日 曇 巳の刻過ぎより雨時々
1738年　6月3日 元文3年　4月16日 快晴 巳の下刻より雨 それより晴 （今朝六半頃男牢死・ただし牢前で死罪とする）
1738年　6月4日 元文3年　4月17日 快晴 （明石組松神村で火災14軒・火元村預け）
1738年　6月5日 元文3年　4月18日 快晴
1738年　6月6日 元文3年　4月19日 快晴 （御下向23日発駕、11日大和沢山で野火(100間×100間)、17日内真部山で山火事(200間×60間)、18日大鰐組薬師堂村で火災・火元村預け）
1738年　6月7日 元文3年　4月20日 晴
1738年　6月8日 元文3年　4月21日 陰晴 午の下刻より雨時々
1738年　6月9日 元文3年　4月22日 曇 昨夜中より雨 巳の刻過ぎ晴 午の刻より雨時々
1738年　6月10日 元文3年　4月23日 陰晴 （亀甲町紺屋町境の大橋の長さ9間幅1丈、2月28日青森安方町の2人乗り船が行方不明）
1738年　6月11日 元文3年　4月24日 快晴 酉の刻より小雨時々 （赤石組代官から狼荒れ鉄砲打ち願い・御手筒足軽2人出す、米入札:色つき米2俵が17匁5分）
1738年　6月12日 元文3年　4月25日 陰晴
1738年　6月13日 元文3年　4月26日 曇 昨夜中より雨 午の刻より晴 それより雨時々
1738年　6月14日 元文3年　4月27日 晴 昨夜中より今朝辰の刻まで雨 （紺屋町へ投げ火、昨夜御家中の木小屋(2間×1間)焼失・火元遠慮、時疫の御祈祷）
1738年　6月15日 元文3年　4月28日 快晴 （青海源兵衛に一粒金丹5粒、酒1升につき7分5厘に申付ける、高岡境内に狼荒れ3匁5分玉などを渡す）
1738年　6月16日 元文3年　4月29日 晴 羊の下刻少し地震 （尾太3月出分:銅265箇13貫目・鉛546箇6貫目） 下から続く 赤田組沖村に者倒死・時節柄直ぐ片付け）
1738年　6月17日 元文3年　5月1日 晴 午の下刻より小雨 則止む （4月中出112人・御印紙53人（碇関御国人10他国者40人35枚・野内1人1枚・大間越2人1枚）切手紙59人（碇関53人29枚・深浦湊6人2枚）、 上に続く
1738年　6月18日 元文3年　5月2日 快晴 （今月分当用銭として御内分より15貫目御貸出願い・10貫目申付ける、4月29日藤代組に50位男倒死、26日赤田組沖村に60男倒死（多分前日の者））
1738年　6月19日 元文3年　5月3日 快晴 午の刻より時々雨 夜中に及ぶ
1738年　6月20日 元文3年　5月4日 曇 昨夜中より小雨 巳の刻過ぎまで （3月中碇関:入り96・出入り470人、深浦湊で水主が参詣中に病死、大坂表の御米2俵に付き45匁・文金1両につき56匁）
1738年　6月21日 元文3年　5月5日 晴 巳の刻より雨 午の刻前止む 夜七時過ぎ岩木川大洪水 （4月中大間越:出入り46人、鰺ヶ沢の米400俵を1俵14匁6分に駄賃運賃加え15匁3分宛……）
1738年　6月22日 元文3年　5月6日 陰晴 （御荷物駄賃金として御内分より文金23両3歩御借出し）
1738年　6月23日 元文3年　5月7日 快晴 （先月7日板屋野木村と（多分11日）松神村の火元の村預け免許）
1738年　6月24日 元文3年　5月8日 晴 戌の刻より小雨 （芥子咲立、明珍与兵衛に一粒金丹5粒）
1738年　6月25日 元文3年　5月9日 陰晴 辰の刻より小雨 即止む （後藤李朴が御煎茶600目を渡すよう申し立てる:当時の茶道方が抹茶でなく煎茶を用いるのか）
1738年　6月26日 元文3年　5月10日 快晴 昨夜酉の刻大風 亥の刻過ぎ止む （大鰐村より初木瓜5つ差上げる、報恩寺・城内等に風被害）
1738年　6月27日 元文3年　5月11日 快晴 （御家中宅に投げ火）
1738年　6月28日 元文3年　5月12日 晴 昨夜亥の刻より雨 今朝辰の刻まで それより晴 （屋形様御着城）
1738年　6月29日 元文3年　5月13日 陰晴 午の刻より雨 申の下刻まで （御内分より15貫目の御貸出願い・10貫目を申付ける、尾太4月出分:銅280箇13貫目・鉛560箇13貫目）
1738年　6月30日 元文3年　5月14日 陰晴 巳の刻過ぎより時々雨 （御手筒足軽貝森弥五郎が赤石組舞戸村で狼1を打ち取る）
(*) の長五郎熊取る、先月晦日駒越組で火災（2間半×2間:高無）・火元村預け）

1738年　7月1日 元文3年　5月15日 快晴 （大鰐村より初真瓜差上げる）
1738年　7月2日 元文3年　5月16日 快晴 半夏 （先月27日板屋野木村の小火の火元の呵置免許、並煎茶碗を下さるよう申し立てる、御内分より文金77両余御貸出）
1738年　7月3日 元文3年　5月17日 陰晴 未の下刻より雨
1738年　7月4日 元文3年　5月18日 曇 昨夜中より雨 午の刻過ぎまで （御内分より文金15両御貸出）
1738年　7月5日 元文3年　5月19日 快晴 卯の刻霧 （大鰐村より初茄子差上げる、大間越町庄屋から30俵御払い願い・駄賃運賃加え1俵15匁9分3厘で10俵払出す）
1738年　7月6日 元文3年　5月20日 晴 （赤石組で狼が荒れなくなり鉄砲打ちを引取る、今晩暮頃茂森新町で女が井戸に落ち死亡）
1738年　7月7日 元文3年　5月21日 快晴 （御能、御内分より金21両御貸出）
1738年　7月8日 元文3年　5月22日 晴
1738年　7月9日 元文3年　5月23日 快晴 （御内分より文金200両御貸出）
1738年　7月10日 元文3年　5月24日 快晴 （尾太銅山の荒物蔵焼失）
1738年　7月11日 元文3年　5月25日 晴 巳の刻より雨 午の刻前止む 七時過ぎ岩木川大洪水 （耕春院林の内に古い首懸かり死骸、御内分より10貫目御貸出願い・5貫目申付ける）
1738年　7月12日 元文3年　5月26日 陰晴 昨夜中雨 丑の刻過ぎ止む （25日晩駒越川洪水・船往還も止る）
1738年　7月13日 元文3年　5月27日 快晴 午の刻雨 則刻止む （一昨晩南袋の御薬薗へ水が押入る）
1738年　7月14日 元文3年　5月28日 晴 （今晩暮六時亀甲町に投げ火） 下から続く 25日の洪水で赤石・広田・藤代・大光寺組等で田畑に浸水・水湛60町歩ほど）
1738年　7月15日 元文3年　5月29日 曇 今朝寅の刻より雨 未の刻より大風 申の下刻止む 午の刻岩木川大洪水 （25日夜石川大橋柱2本流失、天気揚げの御祈祷を五山に仰せ付ける、駒越川洪水、 上に続く
1738年　7月16日 元文3年　5月30日 快晴 （方々の渡が止る・一部は通行できるようになる） 下から続く ・野内2人1枚・大間越7人2枚・小泊湊2人1枚））
1738年　7月17日 元文3年　6月1日 快晴 未の刻より雨 （5月中出145人他国者69人御印紙47枚（碇関60人44枚・野内2人1枚・大間越4人1枚・三馬屋湊3人1枚）・御国人76人切手紙42枚（碇関65人38枚 上に続く
1738年　7月18日 元文3年　6月2日 曇 昨夜中より雨 巳の下刻止む （御内分より15貫目御貸出願い・10貫目申付ける、4月中大間越：出19（御印紙9枚14・御切手紙4枚5）・入り27・出入り合46人、野内：出34 下に続く
1738年　7月19日 元文3年　6月3日 曇 昨夜中より雨 午の刻止む 酉の四刻土用入り 上から続く （御印紙28・御切手紙16人）・入り72・都合116人））
1738年　7月20日 元文3年　6月4日 晴 昨夜中小雨 卯の刻まで 申の刻地震 （十三町から当月分70俵御払い願い・当時相場に駄賃運賃加え1俵16匁2分3厘で40俵払出す）
1738年　7月21日 元文3年　6月5日 快晴
1738年　7月22日 元文3年　6月6日 晴 申の下刻より小雨
1738年　7月23日 元文3年　6月7日 陰晴 酉の下刻地震 子の刻地震 （先月29日の南大風で深浦に破船流れ寄せる・1人死亡、赤田組五幾形村で男縊死、5月中大間越：出55・入り55人）
1738年　7月24日 元文3年　6月8日 快晴 甚暑 酉の刻地震 （昨夜桶屋町で出火、当年所々時疫）
1738年　7月25日 元文3年　6月9日 曇 辰の中刻雨 則刻止む 巳の中刻より快晴 （御内分より63両3歩・銭654匁御貸出、5月25日小泊浜で破船1艘、4日十三町で伝馬船（5尋×2尺）拾う）
1738年　7月26日 元文3年　6月10日 快晴 （後潟組から狼荒れ鉄砲打ち願い・2人出す）
1738年　7月27日 元文3年　6月11日 快晴 （金井ヶ沢沖で古船（3尋×3尺5寸）拾う、津軽頼母に一粒金丹10粒、先月中野内出：御印紙35・御切手紙16・入り85・出入り都合137人）
1738年　7月28日 元文3年　6月12日 快晴 （尾太5月出分：銅215箇2貫目・鉛593箇10貫目）
1738年　7月29日 元文3年　6月13日 快晴 夜中小雨時々 （御城代山田十郎兵衛に一粒金丹10粒）
1738年　7月30日 元文3年　6月14日 快晴 午の下刻小雨
1738年　7月31日 元文3年　6月15日 快晴
1738年　8月1日 元文3年　6月16日 快晴 （4月中碇関：入り109・出106・出入り都合215人）
1738年　8月2日 元文3年　6月17日 快晴
1738年　8月3日 元文3年　6月18日 晴 夜に入り風雨 （転び切支丹類族小泉某に子出生）
1738年　8月4日 元文3年　6月19日 晴 （廻船に乗り込み作業中の米を抜取る者がある、先月29日駒越組駒越村で家（1間半×2間）流失、5月晦日十三町に船殻流寄せる・沖で破船2艘、四社に五穀成就の御祈祷を申付ける）
1738年　8月5日 元文3年　6月20日 快晴
1738年　8月6日 元文3年　6月21日 快晴 夜に入り小雨少々
1738年　8月7日 元文3年　6月22日 陰晴 （御内分より5貫目御貸出）
1738年　8月8日 元文3年　6月23日 晴 （昨夜八時頃新寺町に盗人・捕える、大間越町奉行から今月分払い出し願い追加30俵・駄賃運賃加え1俵15匁9分3厘で10俵払出す）
1738年　8月9日 元文3年　6月24日 陰晴 （家老・用人の病休多い、鰺ヶ沢町七つ石の下浜に5・6歳女子の死体流寄せる）
1738年　8月10日 元文3年　6月25日 晴
1738年　8月11日 元文3年　6月26日 晴
1738年　8月12日 元文3年　6月27日 晴 （御用人大湯彦八に一粒金丹10粒、御内分より1000両を御貸出・江戸送り）
1738年　8月13日 元文3年　6月28日 晴 （25日赤石組に大雨・26日浸水あり）
1738年　8月14日 元文3年　6月29日 快晴
1738年　8月15日 元文3年　7月1日 快晴 残暑強 （6月中所々出人都合111人：碇関108（御印紙56枚76人・切手紙19枚32人）・野内切手紙2枚2人・大間越切手紙1枚1人）
1738年　8月16日 元文3年　7月2日 曇 辰の下刻より雨時々 雷二度発す 巳の下刻晴 残暑強
1738年　8月17日 元文3年　7月3日 晴 午の下刻より雨 終日に及ぶ 夜に入り晴 （御慰みの御能、御内分より70両御貸出、昨七半過ぎ藤崎組藤崎村に70位尼倒死、尾太銅山で口論・他人の女房を切り殺す）
1738年　8月18日 元文3年　7月4日 曇 昨夜中より風雨 終日に及ぶ （大坊・大鰐村から初米、大間越町庄屋から当月分70俵御払い願い・1俵16匁1分3厘で50俵申付ける、5月中碇関：入り141・出入り都合1090人）
1738年　8月19日 元文3年　7月5日 曇 時々雨
1738年　8月20日 元文3年　7月6日 曇 昨夜中雨 卯の下刻止む （久渡寺より熟瓜差上げる）
1738年　8月21日 元文3年　7月7日 晴
1738年　8月22日 元文3年　7月8日 陰晴 午の下刻より小雨 夜に入り雨 （今朝俵元新田水野尾村に24・5男倒死、先だっての出火の竹内某押籠赦免）
1738年　8月23日 元文3年　7月9日 曇 昨夜より雨 午の下刻まで （御内分より御切米（10ヶ1差引）として金637両2歩銭15貫507匁4分御貸出）
1738年　8月24日 元文3年　7月10日 曇 昨夜より大雨 午の下刻小雨
1738年　8月25日 元文3年　7月11日 晴 （御内分より12貫目御貸出、8日小泊湊に入津中の水主病死、10日の洪水で石渡・駒越渡し不通・その後水が引き長船・馬船で往還可能）
1738年　8月26日 元文3年　7月12日 快晴 （10日の洪水で鰺ヶ沢町七つ石の鮫戸川・鰺ヶ沢の舞戸川橋破損）
1738年　8月27日 元文3年　7月13日 晴
1738年　8月28日 元文3年　7月14日 陰晴 昨夜雨
1738年　8月29日 元文3年　7月15日 曇 今朝辰の下刻より雨 午の刻雷発す 終日に及ぶ 申の下刻止む （大円寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1738年　8月30日 元文3年　7月16日 陰晴 辰の刻過ぎより雨 午の刻止む
1738年　8月31日 元文3年　7月17日 晴 申の下刻雨 戌の刻止む

1738年　9月1日 元文3年　7月18日 快晴 （馬医者宅でその弟縊死、男牢死）
1738年　9月2日 元文3年　7月19日 快晴 （御内分より文金200両御貸出）
1738年　9月3日 元文3年　7月20日 曇 巳の刻より雨時々 夜に入り小雨 （5月29日の大風で大間越のくぐり戸倒れる）
1738年　9月4日 元文3年　7月21日 晴 今朝巳の刻前まで時々小雨 下から続く （御印紙28・御切手紙24）・入り86・都合138人）
1738年　9月5日 元文3年　7月22日 曇 昨夜中雨 今朝巳の刻まで （15・14日に深浦に入津船の水主2人死亡:14日は痢病、御内分より当用金文金29両1歩御貸出） 下から続く 都合87人、野内:出52 上に続く
1738年　9月6日 元文3年　7月23日 曇 昨夜中雨 今朝巳の刻まで （先月中碇関:出126(御印紙56枚76・御切手紙30枚46)・入り138・都合260人、大間越:出51(御印紙28枚43・御切手紙7枚8)・入り36・ 上に続く
1738年　9月7日 元文3年　7月24日 晴 （鯵ヶ沢町奉行が痢病、深浦町年寄から蕨根堀道具の杣取願・3ヶ1申付ける、尾太6月出分:銅246固5貫目・鉛448固14貫目）
1738年　9月8日 元文3年　7月25日 快晴 （御内分より小納戸金として文金50両御貸出）
1738年　9月9日 元文3年　7月26日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ 夜に入り小雨
1738年　9月10日 元文3年　7月27日 晴
1738年　9月11日 元文3年　7月28日 曇 未の下刻より小雨
1738年　9月12日 元文3年　7月29日 陰晴 午の刻雨 （15日平館村で大荒れ・破船1艘、男牢死）
1738年　9月13日 元文3年　7月30日 快晴 （浦町組に狼荒れ対策用筒薬など出す、大間越町庄屋から来8月分御蔵米70俵御払い願・当時相場に駄賃運賃加え1俵15匁2分3厘で50俵申付ける）
1738年　9月14日 元文3年　8月1日 陰晴 午の後刻より雨 （小さな人事異動）
1738年　9月15日 元文3年　8月2日 曇 昨夜より雨 終日終夜に及ぶ
1738年　9月16日 元文3年　8月3日 曇 昨夜より雨 巳の下刻より少し止む 終日に及ぶ （御内分より当用銭15貫目御貸出・先月は20貫目）
1738年　9月17日 元文3年　8月4日 晴 夜に入り雨 （一戸弥源太に一粒金丹3粒・母痢病）
1738年　9月18日 元文3年　8月5日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ （大円寺に一粒金丹7粒）
1738年　9月19日 元文3年　8月6日 快晴 （板屋野木村で縊死1人）
1738年　9月20日 元文3年　8月7日 晴 午の刻小雨 則止む （今日田舎館組畑中村に60斗男倒死・持ち物に「曲ヶわつは」、5日鯵ヶ沢で水主病死）
1738年　9月21日 元文3年　8月8日 晴 下から続く 大納言小豆5升・黒大豆3升5合・大麦1斗、7月中野内:出54・入り91・都合145人、大円寺の墓地に54・5男縊死）
1738年　9月22日 元文3年　8月9日 陰晴 巳の刻より小雨 則止む （御扶持方御蔵の御払い値段1匁当たり:餅米3升・上大豆5升・蕎麦1斗5升・小麦4升・次大豆6升・青鶴大豆4升・籾高きび1斗・黒小豆5升 上に続く
1738年　9月23日 元文3年　8月10日 快晴
1738年　9月24日 元文3年　8月11日 快晴 辰の上刻地震少し 夜に入り雨
1738年　9月25日 元文3年　8月12日 陰晴 卯の中刻暫く雨 午の下刻雨 終日に及ぶ 夜に入り雨 （江戸から金の催促、先月22日江戸で風雨強・屋敷少し破損、尾太7月出分:銅198箇15貫目・鉛409箇16貫目）
1738年　9月26日 元文3年　8月13日 曇 昨夜中より雨 終日に及ぶ （尾太銅山の出高が合わずもめている、2日朝浪岡組大釈迦村に50程男倒死）
1738年　9月27日 元文3年　8月14日 曇 辰の中刻小雨 即止む 午の中刻より晴
1738年　9月28日 元文3年　8月15日 快晴 （八幡宮御祭礼）
1738年　9月29日 元文3年　8月16日 快晴 （一粒金丹御薬味:桜花龍脳・麝香・水飛?辰砂・三寸金箔・オットセイたけ里、12日大鰐村で70程男倒死、14日浦町組荒川村で男倒死）
1738年　9月30日 元文3年　8月17日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ （12日の洪水で石川の橋に被害、小笠原與左衛門に一粒金丹10粒、家中の下屋敷に出家倒死）
1738年　10月1日 元文3年　8月18日 曇 昨夜より雨 午の中刻晴 下刻より降 （大間越町庄屋が8月分追加30俵御払い願・10俵を1俵15匁2分3厘で御払い申付ける）
1738年　10月2日 元文3年　8月19日 曇 昨夜中より大雨 巳の刻より晴 （初茸差上げる）
1738年　10月3日 元文3年　8月20日 晴 （13日深浦湊で船頭痢病死、17日赤石組佐山村の塩釜焼失、18日富田町で潰れ家・11歳女子死亡、男牢死）
1738年　10月4日 元文3年　8月21日 快晴 （尾太銅山御引渡し:多分民営から藩直営になる）
1738年　10月5日 元文3年　8月22日 快晴 （7月中大間越:出入り合43人）
1738年　10月6日 元文3年　8月23日 曇 昨夜丑の刻より雨 終日夜に及ぶ
1738年　10月7日 元文3年　8月24日 曇 昨夜より雨 午の刻止む （先月中碇関:入り153・出236人、報恩寺に盗人）
1738年　10月8日 元文3年　8月25日 晴 午の下刻より小雨 申の刻止む （御内分より小納戸金50両御貸出）
1738年　10月9日 元文3年　8月26日 快晴
1738年　10月10日 元文3年　8月27日 快晴
1738年　10月11日 元文3年　8月28日 快晴 （初鮭差上げる、御慰の御能、高岡に狼寄る・玉など渡す）
1738年　10月12日 元文3年　8月29日 快晴 （19日の洪水で和徳組津軽野村で神社境内の木が川に落ちる、27日青森町正覚寺で出火(7軒焼失)）
1738年　10月13日 元文3年　9月1日 曇 巳の中刻より小雨 （御内分より当月分当用銭15貫目申し出る・半分御貸出）
1738年　10月14日 元文3年　9月2日 快晴 （阿芙蓉出来・和田玄春より大納戸役に渡す、男牢死、赤石組赤石村に倒者・南部に送る途中の十面沢村で死亡）
1738年　10月15日 元文3年　9月3日 晴 小風 （御内分より文金20両銭6貫461匁7分御貸出、1日横内組作道村に八戸の1家4人倒・村送りで返す、他に類似のもの2人あり）
1738年　10月16日 元文3年　9月4日 陰晴 戌の刻より雨 （3日大光寺組李平村に60余男倒死）
1738年　10月17日 元文3年　9月5日 晴 昨夜より雨 卯の刻まで （昨日浦町組八つ役村で50余道心縊死）
1738年　10月18日 元文3年　9月6日 快晴 （尾太銅山奉行相勤候砌煙毒強相当久々胸痛……、先月9日鯵ヶ沢で波風・御用船押流し痛める）
1738年　10月19日 元文3年　9月7日 快晴 （明珍與兵衛に一粒金丹5粒、今日昼七半過ぎ男牢死）
1738年　10月20日 元文3年　9月8日 陰晴 今朝大霜 午の下刻過ぎより小雨 夜中に及ぶ （鮭留御役銭入札:原別川50目2分5厘・綱不知川4匁・荒川15匁2分）
1738年　10月21日 元文3年　9月9日 曇 昨夜中より雨 辰の刻まで
1738年　10月22日 元文3年　9月10日 快晴 （2歩23匁1分=1貫386文:1歩=11匁2分5厘）
1738年　10月23日 元文3年　9月11日 晴 卯の刻小雨 則刻止む 夜に入り風雨 雷発す （昨9日夜広田組七館村で殺人・犯人男自害、8日晩飯詰組飯詰村で男倒病死）
1738年　10月24日 元文3年　9月12日 曇 今朝岩木嵩初雪見る 昨夜より西風 終日に及ぶ （8日に今別町奉行より三馬屋の勘兵衛梨子が下げ時分との報告・今日255を御台所に差上げる、男牢死）
1738年　10月25日 元文3年　9月13日 曇 昨夜中風雨 午の刻まで 今朝岩木嵩迄雪降 （男牢死2人）
1738年　10月26日 元文3年　9月14日 陰晴
1738年　10月27日 元文3年　9月15日 快晴 今朝霜 （御内分より文金20両御貸出）
1738年　10月28日 元文3年　9月16日 陰晴 （11日夜中より13日まで三新田で風雨・ひやうにて苅残吹溢・風損調査する）
1738年　10月29日 元文3年　9月17日 快晴 （11日より13日の大風で三新田南北浮田村で6町歩20750束が海より水押し上げ水湛:高潮?）
1738年　10月30日 元文3年　9月18日 昨夜より雨 卯の刻快晴 午の刻過ぎより雨
1738年　10月31日 元文3年　9月19日 曇 昨夜雨 辰の刻丸雪 終夜に及ぶ

1738年　11月1日 元文3年　　9月20日 晴　今朝大霜 （御内分より10貫目御貸出を申立・半分御貸出仰せ付ける、十三町中894人、今朝俵元新田広末村に70位道心倒死）
1738年　11月2日 元文3年　　9月21日 晴　今朝霜　巳の刻より時々小雨 （昨夜大鰐組宿川原村で火災(2間×2間:借家)・火元村預け）
1738年　11月3日 元文3年　　9月22日 陰晴　午の刻より雨時々　未の刻より晴 （御内分より600両御貸出か?）
1738年　11月4日 元文3年　　9月23日 曇　昨夜中より雨　巳の刻まて　それより晴
1738年　11月5日 元文3年　　9月24日 晴　午の刻過ぎ小雨 （19日宿川原村の火元の村預け免許、米1俵に付き12匁・両替45匁、尾太銅山の惣稼ぎの者当春より払いなし）
1738年　11月6日 元文3年　　9月25日 陰晴
1738年　11月7日 元文3年　　9月26日 昨夜中初雪三寸ほど降　巳の刻より快晴
1738年　11月8日 元文3年　　9月27日 辰の刻地震　夜に入り雨時々 （昼七過ぎ男牢死、御内分より御当用銭5貫目御貸出）
1738年　11月9日 元文3年　　9月28日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ （御内分より44両御貸出）
1738年 11月10日 元文3年　　9月29日 快晴　今朝大霜
1738年 11月11日 元文3年　　9月30日 曇　昨夜中より雨時々　終日夜に及ぶ(終日及夜)　　下から続く　　駒越渡が洪水で船渡しも止る）
1738年 11月12日 元文3年　　10月1日 曇　夜に入り雪 （9月中所々御関所出人都合145人(碇関135(御印紙35枚御国人62他国者35・切手紙22枚38)・大間越8(御印紙1枚2・切手紙3枚6・野内1切手紙1枚)、　　上に続く
1738年 11月13日 元文3年　　10月2日 曇　巳の刻過ぎより雨　終夜に及ぶ （御内分より20両7貫目御貸出、一昨夜中藤崎川洪水で橋落ちる）　　下から続く　　32・都合54人、野内:出54(御印紙36・切手紙18)・入り55・都合109人）
1738年 11月14日 元文3年　　10月3日 曇　昨夜より雪巳の刻まで　それより晴 （8月中碇関:出150(御印紙62枚103・往来証文2・切手紙31枚45)・入り160・都合310人、大間越:出22(御印紙11枚15・切手紙5枚7)・入り　　上に続く
1738年 11月15日 元文3年　　10月4日 晴 （一昨日増館組洪水・村々水湛）
1738年 11月16日 元文3年　　10月5日 快晴　夜に入り時々雨 （御内分より1貫910匁御貸出、先月晦日田舎館組高樋村で稲流失、尾太9月出高:銅196固7貫目・鉛418固10貫目、8月出高:銅240箇12貫目・鉛359箇15貫目）
1738年 11月17日 元文3年　　10月6日 曇
1738年 11月18日 元文3年　　10月7日 曇　昨夜中小雪　昼の内時々小雪　夜に及ぶ （先月晦日の洪水で石川橋流失）
1738年 11月19日 元文3年　　10月8日 快晴
1738年 11月20日 元文3年　　10月9日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　夜に入り雷発す （天気揚げ御祈祷を五社に申付ける）
1738年 11月21日 元文3年　　10月10日 曇　昨夜中より風雨　卯の刻より雪 （御内分より7貫目御貸出）
1738年 11月22日 元文3年　　10月11日 曇　昨夜より雪　巳の刻より晴　申の刻より雪　終夜に及ぶ （昨日の洪水で増館・浪岡・常盤組で水湛）
1738年 11月23日 元文3年　　10月12日 曇　昨夜より雪 （先月晦日の洪水で流失した者の物成差引、8日飯詰組飯詰村で縊死）
1738年 11月24日 元文3年　　10月13日 晴
1738年 11月25日 元文3年　　10月14日 快晴 （10日の水湛は吉野田村で8尺）
1738年 11月26日 元文3年　　10月15日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ （藤代組船水村に者倒死、鯵ヶ沢御蔵米値段:沖御役入り文金10両で32俵・弘前御蔵米35俵、11日広須新田菊川村に3・4歳女子倒死）
1738年 11月27日 元文3年　　10月16日 曇　昨夜中より雪時々 （9日の洪水による常盤・増館組の流失稲690束・田乳(稲のにおか)に8920束残る）
1738年 11月28日 元文3年　　10月17日 曇　雪 （御内分より1貫113匁8分6厘7毛御貸出）
1738年 11月29日 元文3年　　10月18日 陰晴
1738年 11月30日 元文3年　　10月19日 曇　雪　終日に及ぶ （18日朝十三潟早川口まで氷張る・去年11月19日で32日早く節に引き合い12日早い、青森御蔵米沖御役入り1俵が14匁8分）
1738年　12月1日 元文3年　　10月20日 陰晴　昨夜雪　午の刻より晴
1738年　12月2日 元文3年　　10月21日 晴 （御内分より50両御貸出、弘前御蔵米沖御役入り文金10両で34俵・1俵12匁8分5厘、青森御蔵米沖御役入り文金10両で26俵・1俵15匁）
1738年　12月3日 元文3年　　10月22日 陰晴 （御内分より45両7貫目御貸出）
1738年　12月4日 元文3年　　10月23日 快晴 （御能）
1738年　12月5日 元文3年　　10月24日 陰晴 （増館組吉野田村に50男倒死、19日六つ半頃大風で赤田組板屋野木村の大川渡しで2人・馬2疋死亡、干せない稲続出）
1738年　12月6日 元文3年　　10月25日 快晴 （昨朝男牢死・今朝男牢死、21日新田大館村で飯詰村の男吹き倒れ、倹約を仰せ付ける）
1738年　12月7日 元文3年　　10月26日 快晴 （男牢死、2日の大風で十三の御用船破損）
1738年　12月8日 元文3年　　10月27日 快晴 （11日鯵ヶ沢海道の大吹雪で男倒死(15日の記事か)、22日増館組吉野田村の八幡宮に50男倒死(24日の記事か)）
1738年　12月9日 元文3年　　10月28日 快晴　今朝大霜 （21日横内組八幡林村で火災・火元村預け・村預け差免、郡所小火・関係者遠慮）
1738年 12月10日 元文3年　　10月29日 快晴　今朝大霜 （御用人笠原武右衛門に一粒金丹10粒、田舎館組大根子村に40男倒死、深浦町奉行から米納を銭納願い・1俵を15匁と仮に定める）
1738年 12月11日 元文3年　　11月1日 快晴　今朝大霜
1738年 12月12日 元文3年　　11月2日 快晴　今朝大霜 （御内分より7貫目御貸出、藤崎組林崎村に40男倒死）
1738年 12月13日 元文3年　　11月3日 曇　昨夜より雨　巳の刻より小雪 （青森町甲屋の横町に倒死(22日の記事で22日に60男)）
1738年 12月14日 元文3年　　11月4日 曇　昨夜中より小雪　巳の中刻より晴　申の下刻より雪 （今朝男牢死、和徳組百田村に70男倒死）
1738年 12月15日 元文3年　　11月5日 陰晴 （御内分より2500両御貸出）
1738年 12月16日 元文3年　　11月6日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ （岡文左衛門姉痢病一粒金丹3粒、今別町が銭納願・1俵15匁5分、先月中大間越:出66(御印紙24枚58・切手紙6枚8)・入り52・出入り都合118人）
1738年 12月17日 元文3年　　11月7日 快晴　今朝大霜 （稲を干すための「はさ木」杣取り願、増館組下十川村に犬に喰われたらしい50男倒死）
1738年 12月18日 元文3年　　11月8日 曇　辰の刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り雨大風 （時疫対策御祈祷を最勝院に申付ける）
1738年 12月19日 元文3年　　11月9日 晴　辰の刻過ぎより雪時々 （10月中野内:出入り都合121人）
1738年 12月20日 元文3年　　11月10日 快晴 （今朝男牢死）
1738年 12月21日 元文3年　　11月11日 晴 （22日青森町本町に60余男倒死(3日の記事の補足)）
1738年 12月22日 元文3年　　11月12日 冬至　昨夜より雪　申の刻より小雨 （木村兵四郎に一粒金丹3粒、8日駒越川洪水で橋板流失、4日油川組新城村に道心倒死、新鍛冶町の商人行方不明）
1738年 12月23日 元文3年　　11月13日 昨夜より雪　巳の刻過ぎ晴 （赤田・浪岡・増館組の一部から銭納願:仮値段14匁5分）
1738年 12月24日 元文3年　　11月14日 快晴 （棟方作右衛門に一粒金丹30粒、長尾戸左衛門・三上常左衛門に各7粒、御内分より7貫目御貸出、尾太10月出高:銅205固13貫目・鉛314固1貫目）
1738年 12月25日 元文3年　　11月15日 晴 （10月中碇関:出入り都合222人）
1738年 12月26日 元文3年　　11月16日 陰晴　巳の刻過ぎより雪時々 （10日油川組で青森男倒死）　　下から続く　　分(1匁2分・14匁9分)・鯵ヶ沢文金10両で26俵・16匁3分4厘6毛(1匁2分・15匁1分4厘6毛)、　　欄外(*)に続く
1738年 12月27日 元文3年　　11月17日 曇　昨夜時々小雪　辰の刻過ぎより雪 （16日朝十三潟早川口まで氷張る、米入札値段:弘前文金10両で28俵・1俵14匁7分5厘(沖役1匁2分・平米13匁5分5厘)、青森1俵16匁1　　上に続く
1738年 12月28日 元文3年　　11月18日 陰晴　昨夜より雪　辰の刻より時々雪
1738年 12月29日 元文3年　　11月19日 曇　時々雪 （御内分より1500両御貸出、15日広須新田に30男倒死）
1738年 12月30日 元文3年　　11月20日 曇　卯の刻より小雪 （御内分より8貫500目御貸出）
1738年 12月31日 元文3年　　11月21日 晴　昨夜より雪　巳の刻晴

(*) 3ヵ所平米平均値段1俵に付き14匁5分1厘7毛）

1739年　1月1日 元文3年　11月22日 快晴 （御内分より7貫目御貸出）
1739年　1月2日 元文3年　11月23日 晴
1739年　1月3日 元文3年　11月24日 快晴
1739年　1月4日 元文3年　11月25日 曇 雪 終日に及ぶ
1739年　1月5日 元文3年　11月26日 昨夜より雪 午の刻より晴 （増館組樽沢村に倒死者、時疫流行）
1739年　1月6日 元文3年　11月27日 晴 昨夜より小雪 辰の刻止む 寅の七刻寒に入る （雑穀代米1升:上籾餅粟7.5合・上蕎麦6.8・上小麦2.2・上大納言小豆6.4・上大豆6.2・次大豆11.3・上黒小豆4.8）
1739年　1月7日 元文3年　11月28日 晴 （今朝御家中屋敷で50余男縊死、御内分より23両2歩御貸出）
1739年　1月8日 元文3年　11月29日 曇 雪終日に及ぶ
1739年　1月9日 元文3年　11月30日 晴 時々小雪 （増館組樽沢村に今朝50男倒死）
1739年　1月10日 元文3年　12月1日 快晴 （11月中出人:碇関口64(御国人28・他国者36:御印紙27枚)・野内口他国者4御印紙3枚・碇関御国人21切手紙15枚・野内御国人4切手紙2枚・都合93人）
1739年　1月11日 元文3年　12月2日 快晴 午の下刻より雪 （御内分より7貫目御貸出）
1739年　1月12日 元文3年　12月3日 晴
1739年　1月13日 元文3年　12月4日 快晴 （隈部伊織に一粒金丹30粒）
1739年　1月14日 元文3年　12月5日 快晴 （十三町屋敷物成銭納:1俵が14匁3分）
1739年　1月15日 元文3年　12月6日 曇 昨夜中より雨 巳の中刻より晴 時々雪 （御内分より16両3歩と銭10匁御貸出）
1739年　1月16日 元文3年　12月7日 曇 時々小雪
1739年　1月17日 元文3年　12月8日 陰晴 時々雪 （御内分より20両御貸出、11月3日夜9時分より松前城下で出火）
1739年　1月18日 元文3年　12月9日 快晴 （11月3日松前で火災41軒土蔵1焼失）
1739年　1月19日 元文3年　12月10日 晴 （5日夜宇田村付近の浜に船流寄せる・乗員行方不明）
1739年　1月20日 元文3年　12月11日 曇 昨夜雪 今朝時々小雪 （御追放者1人が増館村で死亡、御蔵米払い出し:弘前沖役入り金10両に28俵半・青森1俵に16匁2分・鰺ヶ沢1俵に15匁8分）
1739年　1月21日 元文3年　12月12日 陰晴 時々小雪 （先月24日本町に5才ほどの女子が捨子・今朝病死、11月中碇関:出入り都合169人）
1739年　1月22日 元文3年　12月13日 曇 昨夜中より雪1尺程 時々雪 丑の刻地震
1739年　1月23日 元文3年　12月14日 曇 雪終日 （金木組下岩崎村の寺に64・5坊主倒死、昨13日男牢死、倒者2人あり乞食小屋に入れる）
1739年　1月24日 元文3年　12月15日 快晴 酉の上刻地震 （小さな人事異動、御内分より100両御貸出）
1739年　1月25日 元文3年　12月16日 曇 雪降 （御内分より7貫目御貸出、倒者2人乞食小屋に入れる）
1739年　1月26日 元文3年　12月17日 晴
1739年　1月27日 元文3年　12月18日 陰晴 時々小雪 （藤崎組柏木村に60位男倒死、油川組沖館村に50男倒・のち死、御内分より文金30両2歩銭1貫296文目5分・古金25両3歩御貸出）
1739年　1月28日 元文3年　12月19日 快晴 未の刻より雨 （御慰の狂言・御囃子、御内分より当春御切米(10ヶ1差引)として826両と銭15貫740目並びに御小納戸御用に15両御貸出）
1739年　1月29日 元文3年　12月20日 晴 巳の下刻より雨雪少々 それより晴 （尾太11月出高:銅214箇2貫目・鉛458箇15貫目）
1739年　1月30日 元文3年　12月21日 快晴 （御能、郡奉行から各代官に御救い米の申込を早めに出すよう指示、御内分より7貫目と5貫527文目御貸出）
1739年　1月31日 元文3年　12月22日 快晴 （御内分より正月吉例金200両御貸出）
1739年　2月1日 元文3年　12月23日 快晴 （?月中野内:都合36人・惣人数99人）
1739年　2月2日 元文3年　12月24日 快晴 （山田十郎兵衛に一粒金丹10粒、大間越町警固から来正月分御蔵米70俵払い出し申出・60俵を当時相場に駄賃運賃加えて、猿賀組新山村に倒者・乞食小屋に入れる）
1739年　2月3日 元文3年　12月25日 陰晴 辰の刻前より雪 節分也
1739年　2月4日 元文3年　12月26日 曇 辰の刻より雪 午の刻より晴 申四刻より立春 （御内分より360両御貸出）
1739年　2月5日 元文3年　12月27日 陰晴 昨夜より雪 大風吹 （御内分より114両2歩御貸出、赤田組から4178俵の籾納願・了、御内分より29両1歩と9貫目御貸出）
1739年　2月6日 元文3年　12月28日 快晴 昨夜より雪 大風吹 （藤代組264俵の籾納願・了、御内分より300両御貸出、1ヶ月の利息が100両に1両2歩宛、広須・広田組などの41軒189人に御救い米）
1739年　2月7日 元文3年　12月29日 曇 昨夜中より雪 大風吹 余寒強 （文金が普通に通用するようになり引替所閉じる）
1739年　2月8日 元文4年　正月1日 曇 昨夜中より雪 終日に及ぶ
1739年　2月9日 元文4年　正月2日 晴
1739年　2月10日 元文4年　正月3日 曇 昨夜雪 辰の下刻より雪 終日に及ぶ （御謡初）
1739年　2月11日 元文4年　正月4日 曇 昨夜中より雪時々 終日に及ぶ
1739年　2月12日 元文4年　正月5日 陰晴 （土手鍛冶町に男死亡）
1739年　2月13日 元文4年　正月6日 曇 昨夜中より雪時々 卯の刻過ぎ雷発す
1739年　2月14日 元文4年　正月7日 陰晴 時々雪
1739年　2月15日 元文4年　正月8日 曇 （広田組真黒屋敷村に48・9男倒死）
1739年　2月16日 元文4年　正月9日 陰晴 今朝小雪
1739年　2月17日 元文4年　正月10日 曇 昨夜より雪 巳の刻まで 午の刻晴
1739年　2月18日 元文4年　正月11日 晴 時々小雪 （人事異動）
1739年　2月19日 元文4年　正月12日 晴 今朝少々の内小雪 （御能、昨11日夜大光寺組本町村に60余道心者倒死）
1739年　2月20日 元文4年　正月13日 快晴
1739年　2月21日 元文4年　正月14日 曇 今朝より雪時々
1739年　2月22日 元文4年　正月15日 曇 今朝より時々雪
1739年　2月23日 元文4年　正月16日 曇 巳の中刻より雪時々 （蟹田町で渇命・馬の飼料なく19疋死亡）
1739年　2月24日 元文4年　正月17日 晴 昨夜雪少々
1739年　2月25日 元文4年　正月18日 曇 昨夜より雪 終日に及ぶ
1739年　2月26日 元文4年　正月19日 曇 雪終日
1739年　2月27日 元文4年　正月20日 曇 時々小雪
1739年　2月28日 元文4年　正月21日 晴 今朝小雪 （今朝七つ過ぎ男牢死、16日昼横内組横内村(後日の記事)で火災1軒・雑駄1疋焼死、御内分より150両御貸出、米相場14匁4分）

1739年　3月1日 元文4年 正月22日　快晴 （12月中碇関:入り98・出216人、野内:入り45・出32人、大間越:出18・入り48人）
1739年　3月2日 元文4年 正月23日　快晴 （御慰の御囃子・狂言）
1739年　3月3日 元文4年 正月24日　曇 今朝小雨 未の刻過ぎより小雪 夜に及び時々（及夜時々）（今朝男牢死、常盤組中野目村で道心が縊死）
1739年　3月4日 元文4年 正月25日　陰晴 今朝小雪
1739年　3月5日 元文4年 正月26日　晴 （16日横内村の火元の村預け免許、尾太12月出高:銅189固5貫目・鉛259固8貫目）
1739年　3月6日 元文4年 正月27日　陰晴 （南溜池土手下に50男縊死）
1739年　3月7日 元文4年 正月28日　陰晴 今朝霜 土手後町・新楮町間に30余男倒・死、駒越組中畑村の彦左衛門(胆長3寸廻り5寸生目45匁:3歳)・大鰐組早瀬野村の長十郎(2寸5歩1寸8歩10匁8分:6歳)それぞれ熊取る）
1739年　3月8日 元文4年 正月29日　晴 今朝より雪時々
1739年　3月9日 元文4年 正月30日　陰晴 辰の刻過ぎ小雨 （昨29日大鰐組で火災1軒(2間×3間)・男1女2人と雑駄1疋焼死）
1739年　3月10日 元文4年　2月1日 陰晴 時々雪 （正月中碇関口出89(御印紙22枚75(御国人38・他国者37)・切手紙9枚御国人14人)、多くの町奉行・代官が薪の杣取(樹木の伐取:農民の生活のため)を申し立てる）
1739年　3月11日 元文4年　2月2日 曇 昨夜小雪 今朝より雪 （今朝男牢死、先月29日油川組新城村に60男倒・昨日死亡）
1739年　3月12日 元文4年　2月3日 陰晴 昨夜中より雪 時々雪 （盗み杣で7人入牢・見つからなかった跡もたくさんある）
1739年　3月13日 元文4年　2月4日 晴
1739年　3月14日 元文4年　2月5日 陰晴 （油川組31軒116人・金木組692人(11歳以上636と4～10歳61)・広田組560人(406と154)・赤田組90人(66と24)・増館組198人(144と54)が渇命・御救い米）
1739年　3月15日 元文4年　2月6日 曇 昨夜中より雪 終日に及ぶ （飯詰組49軒221人(156と67)・金木組74軒307人(257と50)・横内組74軒319人(263と88)浦町組22軒88人(59と29)・増館組31軒127人　欄外(*)に続く
1739年　3月16日 元文4年　2月7日 晴 （御家中屋敷前に倒者、先月18日江戸で強風・屋敷破損）
1739年　3月17日 元文4年　2月8日 陰晴
1739年　3月18日 元文4年　2月9日 陰晴 （関札は84枚なのだ）
1739年　3月19日 元文4年　2月10日 陰晴 （寄合山本三郎左衛門に一粒金丹3粒・母痢病、広須組31軒155人(114と41)・赤田組135軒621人(456と166)が渇命・御救い米）
1739年　3月20日 元文4年　2月11日 陰晴 昨夜雪 時々風 （正月中野内:御関所入り人数合34・出入り都合61人、碇関:入り135・出入り都合190人、浪岡組25軒99人(77と22)・高杉組7軒32人(26と6)が渇命・御救い米）
1739年　3月21日 元文4年　2月12日 快晴 （御内分より44両2歩御貸出、後潟組10軒30人(21と9)が渇命・御救い米）
1739年　3月22日 元文4年　2月13日 陰晴 今朝小雨 （今朝男牢死、今別町33軒113人(89と29)・後潟組139軒722人(537と185)・赤田組32軒136人(93と43)・増館組22軒89人(63と23)が渇命・御救い米）
1739年　3月23日 元文4年　2月14日 晴 申の刻過ぎ小雨
1739年　3月24日 元文4年　2月15日 晴 今朝より小雨時々
1739年　3月25日 元文4年　2月16日 快晴 彼岸に入る　下から続く　61人(50と11)に4度目、赤田・藤代・広田組の10村146軒585人(422と163)に5度目の御救い米）
1739年　3月26日 元文4年　2月17日 曇 卯の下刻より雨 巳の刻晴　下から続く　の4村108軒526人(396と130)に2度目の御救い米、金木組の2村37軒182人(168と14)に3度目の御救い米、金木組今泉村の14軒　上に続く
1739年　3月27日 元文4年　2月18日 快晴 申の下刻小雨 則刻晴 （16日松森町に投げ火、飯詰・金木・増館・後潟・高杉・浦町・横内組の38村525軒2393人(1809と574)が渇命・多分最初の御救い米、後潟・金木組　上に続く
1739年　3月28日 元文4年　2月19日 快晴 （蟹田町で餌がなく馬56疋死亡、10日金木組中里村で火災2軒(2間半×3間半:借家・3間×3間半:高無)・火元他村預け免許、新鍛冶町に60乞食男倒・死）
1739年　3月29日 元文4年　2月20日 快晴 今朝大霜 （高杉組の2村100軒446人(348と98)が渇命・御救い米）　下から続く　、油川組油川村の76軒305人(232と73)に2度目の御救い米）
1739年　3月30日 元文4年　2月21日 陰晴 卯の中刻より雨時々 午の刻より風 （大間越町庄屋が当月分御蔵米70俵御払い願・1俵15匁3分3厘で40俵出す、横内組など13村234軒957人(711と246)が渇命・御救い米　上に続く
1739年　3月31日 元文4年　2月22日 晴 （今別町の32軒129人(102と27)に1度目・赤田・広須組の140軒586人(425と169)に2度目・横内組原別村の14軒57人(43と14)に3度目の御救い米）
1739年　4月1日 元文4年　2月23日 晴 （大間越町奉行に熊狼荒れ対策として6匁玉50個などを渡す、大納戸4人に勤め方不〆につき遠慮）　下から続く　(636と61)に2度目の御救い米）
1739年　4月2日 元文4年　2月24日 晴 夜に入り小雨 （後潟・増館・油川・藤代組の294軒1289人(1009と279)に1度目・油川・後潟・金木組の225軒727人(757と163)に2度目の御救い米）　下から続く　697人　上に続く
1739年　4月3日 元文4年　2月25日 曇 卯の下刻より雨 午の刻前少し晴 時々雨 （22日より十三湖明く、深浦御蔵米1俵17匁1分7厘(平米14匁7分9厘)・今別1俵16匁7分6厘(平米15匁4分8厘1毛)、金木組153軒　上に続く
1739年　4月4日 元文4年　2月26日 快晴
1739年　4月5日 元文4年　2月27日 快晴 （22日油川組新田村に25・6男倒死）　29日から続く　1度目・赤田・広田・後潟組18村223軒986人(691と295)に2度目の御救い米）
1739年　4月6日 元文4年　2月28日 晴 （御内分より文金67両御貸出、一粒金丹2300粒出来、昨夜飯詰組で火災1軒(3間×9間:高無)小荷駄1疋焼失・火元村預け、今朝新鍛冶町で40余男縊死）
1739年　4月7日 元文4年　2月29日 晴 夜に入り雨 （春の御切米半分渡し・御内分より554両余御切米として御貸出、午後最勝院で50男縊死、横内・浦町・高杉・後潟・金木組22村180軒781人(650と172)に　27日に続く
1739年　4月8日 元文4年　3月1日 晴 （浪岡組4村で212人(161と51)が渇命・御救い米）　下から続く　:4歳)・杉が沢村の惣左衛門(3寸5寸18匁:3歳)・相馬村の左衛門四郎(3寸5歩6寸5歩35匁:4歳)・　欄外(**)に続く
1739年　4月9日 元文4年　3月2日 曇 午の刻過ぎより小雨 同下刻より雨 夜に入る （当月26日夜横内組横内村で火災(2間半×3間:高無)・火元村預け、駒越組大秋村の新兵衛(胆長2寸8歩廻り6寸5歩生目35匁　上に続く
1739年　4月10日 元文4年　3月3日 曇 今朝より雪少し時々 （3月16日御発駕、御内分より22両2歩御貸出）
1739年　4月11日 元文4年　3月4日 陰晴 （高杉組高杉村に46・7男吹き倒れ、高杉組高屋村に男倒死）
1739年　4月12日 元文4年　3月5日 曇 時々丸雪 （朔日土手町に投火、船岡より峠までの所要雪切り人足1640人、2日赤石組驫木村で火災5軒・火元他村預け、後潟組4村273人(204と69)・今別町81人(64と17)渇命・御救い米）
1739年　4月13日 元文4年　3月6日 陰晴 （御内分より1059両1歩御貸出、先月29日駒越組鳥井野村で火災・火元村預け・御免、大納戸役4人全員をあほうばらい御召し物数多く取失せ……:流用して私腹を肥やしたのかな）
1739年　4月14日 元文4年　3月7日 曇 未の刻より小雨 （飯詰組4村37軒125人(85と40)・後潟組3村20軒115人(92と23)渇命・御救い米）
1739年　4月15日 元文4年　3月8日 曇 時々小雨 （古米入札:鯵ヶ沢の8俵が65匁2分(1俵8匁1分5厘)・2俵が16匁4分4厘、後潟組8村78軒376人(311と65)・油川組4村46軒182人(152と30)渇命・共に2度目の御救い米）
1739年　4月16日 元文4年　3月9日 曇 午の刻より快晴 （今日御能、しゃちほこ?の魚を御台所より差し上げる、先月24日最勝院門前で火災・火元戸締め免許、藤代組八代村に50男倒死）
1739年　4月17日 元文4年　3月10日 晴 辰の刻前雨暫く （喜多村監物・田村源太兵衛に一粒金丹10粒宛、昨6日夜大光寺組大光寺村に23・4男倒死）
1739年　4月18日 元文4年　3月11日 陰晴 （ミニ人事異動、御内分より11両1歩御貸出）
1739年　4月19日 元文4年　3月12日 快晴 （2月中碇関:入り94・出入り人数合192人、2月中野内:人数合40・出入り都合64人、2月中?:人数99・出入り人合148人、金木組薄市村10軒50人(43と7)渇命・御救い米）
1739年　4月20日 元文4年　3月13日 晴 （8日青森で大風・制札柱倒れる、金木組27軒127人に5度目・117軒599人に4度目・117軒449人に3度目・330軒1473人に2度目の御救い米）
1739年　4月21日 元文4年　3月14日 曇 辰の刻過ぎより雨 終日に及ぶ （御内分より文金1226両御貸出、後潟組127軒659人に3度目・後潟組14軒58人と油川組11軒64人に御救い米、蟹田町178軒775人に御救い米）
1739年　4月22日 元文4年　3月15日 曇 時々雨 （御救い米が手違い?でとどかず・蟹田町奉行工藤太左衛門が独自判断で支給）
1739年　4月23日 元文4年　3月16日 曇 昨夜中より雨時々 （御発駕、昨日岩木川洪水・橋板引取る、今日八時より人馬往来、御内分より文金80両御貸出）
1739年　4月24日 元文4年　3月17日 快晴 （蟹田町奉行が病気代理願・了）
1739年　4月25日 元文4年　3月18日 快晴
1739年　4月26日 元文4年　3月19日 晴 今朝寅の刻少し雨 則止む 2日轟木村と22日?広須組新田川泊村?の火元の村預け免許、1丈縄初見(普通の縄は5尺のものです)、3月19日御本城金蔵より足軽が銭を盗み出す）
1739年　4月27日 元文4年　3月20日 快晴 今朝霜 （昨晩紺屋町で小屋火災・火元押し込め）
1739年　4月28日 元文4年　3月21日 快晴 （弘前町の座当72・盲女29・在の座当229・盲女157人、和徳組高崎村の溜池に50男死亡）
1739年　4月29日 元文4年　3月22日 快晴
1739年　4月30日 元文4年　3月23日 曇 辰の上刻より雨時々 夜に入る　下(欄外)から続く　油川組7村242人(85と57)渇命・御救い米）
(*) （88と?)・油川組58軒267人(196と46)・松ヶ崎狄11軒47人(36と11)・後潟組(松ヶ崎を除く)8軒41人(30と11)が渇命・御救い米）　下から続く　の飯詰村・横内村の火元免許、　上に続く
(**) 横内組長森村の孫四郎(3寸5歩4寸8歩:7歳)・横内村の左門四郎(4寸6寸5歩65匁:9歳)・広須新田芦沼村の助左衛門(5寸5歩5寸40目:3歳)夫々熊取る、2月21日・26日　上に続く

1739年　5月1日 元文4年　3月24日 陰晴　昨夜より小雨　巳の刻まで時々小雨　(14日岩木川洪水・藤代組町田村で古川戻り、柏木組柏木村に倒死者、19日紺屋町の火元に道具を返す、十三町人数894人、14日　下に続く
1739年　5月2日 元文4年　3月25日 陰晴　今朝辰の刻過ぎ小雨時々　(駒越川洪水・仮橋引取り船も不通・その後仮橋とおる)　上から続く　暮六半瀧澤山で野火(100間×50間)、21日駒越組百沢村で野火(50間×30間))
1739年　5月3日 元文4年　3月26日 晴　(25日間宮求馬死去)　下から続く　・尾崎組唐竹村の甚左衛門(3寸5歩6寸50目:5歳)・惣助(5寸7寸70目:4歳)それぞれ熊取る)
1739年　5月4日 元文4年　3月27日 晴　(23日後潟組左堰村で火災2軒)　下から続く　(4寸2歩5寸30目:5歳)・大鰐組長峰村の清兵衛(4寸6寸30目:5歳)・居土村の孫左衛門(3寸2寸8歩10匁:2歳)　上に続く
1739年　5月5日 元文4年　3月28日 陰晴　(23日田舎館組八反田村で火災1軒(4間×8間:百姓)と外馬屋焼失・火元村預け差免)　下から続く　(4寸5寸38匁:25歳)・猿賀組袋村の十兵衛　上に続く
1739年　5月6日 元文4年　3月29日 晴　下から続く　(3寸5歩7寸5歩:4歳)・何処かの彦左衛門(2寸3寸2歩7文目:3歳)・田代村の藤右衛門(3寸7歩5寸2歩36匁:3歳)・堀越組一野渡村の小三郎　上に続く
1739年　5月7日 元文4年　3月30日 曇　午の中刻過ぎ小雨時々　夜に入り雨　(駒越組大秋村の新兵衛(胆長2寸2歩廻り4寸5歩生目15匁:4歳・2寸8歩4寸9歩15匁:3才・2寸3寸2歩9文目:2歳)・桜庭村の次郎三郎　上に続く
1739年　5月8日 元文4年　4月1日 陰晴　時々雨　(3月中出人都合172人碇関169(他国者21御印紙16枚・御国人148切手紙72枚)野内御国人3切手紙3枚、湯まくれで男死亡、大間越町庄屋が飯米御払い願　欄外(*)に続く
1739年　5月9日 元文4年　4月2日 曇　昨夜中時々風雨　(先月30日以前に常盤組葛野村に男倒死、先月27日後方組清水村・柏木組滝井村の火元の呵置き・村預け免許)
1739年　5月10日 元文4年　4月3日 快晴　昨夜雨
1739年　5月11日 元文4年　4月4日 快晴　(浦町組小館村に先達て男倒死、　藤代組八代村に60男倒死)
1739年　5月12日 元文4年　4月5日 陰晴　(御内分より元金56両3歩・銭4貫129匁1分御貸出、昨4日朝本町の木挽き縊死)
1739年　5月13日 元文4年　4月6日 晴　(5時半男牢死、昨4日夜青森町浜町で投げ火)
1739年　5月14日 元文4年　4月7日 晴　(4日昼常盤組水沼村に60男縊死)
1739年　5月15日 元文4年　4月8日 陰晴
1739年　5月16日 元文4年　4月9日 陰晴　辰の下刻より小雨　午の中刻に及ぶ　(藤代組藤代村の高無が今日昼家内で縊死、3月中野内:出入り人数合90人、3月中大間越:出入り人数80人)
1739年　5月17日 元文4年　4月10日 快晴　(御内分より400両御貸出)
1739年　5月18日 元文4年　4月11日 陰晴　申の刻より雨　終日に及ぶ　(先月21日田代村･23日左堰村の火元共の他村預け御免)
1739年　5月19日 元文4年　4月12日 陰晴　時々小雨　(尾太3月出高:銅202箇12貫目・鉛395固10貫目)
1739年　5月20日 元文4年　4月13日 晴　昨夜中風雨時々　今朝辰の刻過ぎまで　(昨晩西之郭の若い丹頂が卵を産む)
1739年　5月21日 元文4年　4月14日 快晴
1739年　5月22日 元文4年　4月15日 快晴　(3日草加泊まりを千住泊まりに変更･上杉様と鉢合わせの結果)
1739年　5月23日 元文4年　4月16日 快晴　(4日朝屋形様江戸御着座)
1739年　5月24日 元文4年　4月17日 晴　(蟹田町174軒699人(580と119)に御救い米5日分)
1739年　5月25日 元文4年　4月18日 晴　下から続く　1俵12匁7分・沖役入れて13匁9分)
1739年　5月26日 元文4年　4月19日 陰晴　巳の下刻より午の刻まで時々小雨　申の刻過ぎより雨　終日に及ぶ　(大間越町庄屋から飯米30俵追加願･1俵15匁2分3厘で10俵申付ける、青森赤米:平米　上に続く
1739年　5月27日 元文4年　4月20日 曇　昨夜より雨時々　午の刻晴　(御用人佐和与左衛門に一粒金丹10粒、今月中碇関:御供出人724人・御印紙7枚22・往来証文5・切手紙75枚151・入り人128・出入り都合　欄外(**)に続く
1739年　5月28日 元文4年　4月21日 曇　昨夜中より雨時々　(大目付竹内又市に一粒金丹5粒)
1739年　5月29日 元文4年　4月22日 陰晴　(米入札:町米8斗1升が21匁3分5厘)
1739年　5月30日 元文4年　4月23日 晴　終日風吹　申の刻止　下から続く　堰奉行手代自害、十三町人数894人、高岡に狼用の玉など遣わす、青森御蔵の赤米1000俵を1俵12匁7分で出す)
1739年　5月31日 元文4年　4月24日 陰晴　夜に入り雨　(御留守居組頭笹森勘解由左衛門に一粒金丹5粒、18日下中野村の火元の村預け免許、御内分より文金300両御貸出、20日大鰐組岩館村の　上に続く
1739年　6月1日 元文4年　4月25日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1739年　6月2日 元文4年　4月26日 曇　昨夜より辰の刻まで雨
1739年　6月3日 元文4年　4月27日 曇　辰の下刻より小雨　終日に及ぶ
1739年　6月4日 元文4年　4月28日 曇　(御内分より当春渡し御切米(半分)残り分として364両2歩・銭6貫425匁8分2厘御貸出)
1739年　6月5日 元文4年　4月29日 曇　時々雨　下から続く　入札:1貫770目:1俵17匁7分)
1739年　6月6日 元文4年　5月1日 晴　(4月中出碇関93人(御国人33他国者60御印紙41枚)・野内他国者3人3枚・大間越他国者1人1枚・御国人切手紙碇関67人32枚・野内12人5枚・出人都合176人、米100俵　上に続く
1739年　6月7日 元文4年　5月2日 快晴　(4月28日尾崎組柏木町村で火災2軒(ともに2間×4間)・火元他村預け、油川組孫内村に変な馬(4足ともけ爪が2つ宛有る)が生まれる、駒越組で六十六部が捕まり村送りで野内に)
1739年　6月8日 元文4年　5月3日 快晴　(赤田組山道村に60余男倒死)
1739年　6月9日 元文4年　5月4日 快晴　(4月28日柏木村の火元免許、先月広須新田長浜村の百姓が逐電)
1739年　6月10日 元文4年　5月5日 快晴
1739年　6月11日 元文4年　5月6日 快晴
1739年　6月12日 元文4年　5月7日 陰晴　巳の中刻小雨　即止む
1739年　6月13日 元文4年　5月8日 晴　夜に入り雨　(御国元黒石で芥子丸雪出来、御内分より130両御貸出、6日夜飯詰組松木村で高無家火災)
1739年　6月14日 元文4年　5月9日 陰晴　辰の刻前より雨　巳の刻過ぎ晴　小風　(昨8日大光寺組館田村で54・5男倒死、尾太4月出高:銅231固2貫目・鉛508箇5貫目)
1739年　6月15日 元文4年　5月10日 快晴
1739年　6月16日 元文4年　5月11日 曇　(昨夜岩木嵩で小屋27軒火災、6日飯詰組松野木村の火元の村預け免許、昨10日朝鞘師町で井戸に転落死)
1739年　6月17日 元文4年　5月12日 晴　申の刻過ぎより雨　終夜に及ぶ　(10日青森町に投げ火)
1739年　6月18日 元文4年　5月13日 曇　雨　終日に及ぶ　(22日嵩の火元の慎み免許、駒越仮橋の幅5尺長さ34間、御家中の中間縊死)
1739年　6月19日 元文4年　5月14日 陰晴
1739年　6月20日 元文4年　5月15日 晴　(4月中碇関:出入り人数325人、野内:出入り人数124人)
1739年　6月21日 元文4年　5月16日 曇
1739年　6月22日 元文4年　5月17日 陰晴　(御持足軽4月18日より時疫23日に病死)
1739年　6月23日 元文4年　5月18日 曇　午の刻過ぎ雨　(今朝和徳組で油売りが喉を突き相果てる、鯵ヶ沢の船中で水主変死)
1739年　6月24日 元文4年　5月19日 今朝方より雨　巳の刻前晴
1739年　6月25日 元文4年　5月20日 陰晴　午の中刻より小雨時々　夜に入り小雨　(蟹田御蔵の赤米60俵を1俵13匁で杣飯米として御払い)
1739年　6月26日 元文4年　5月21日 曇　昨夜より雨　辰の刻過ぎまで　午の刻過ぎより陰晴　(昨19日晩新町に4歳女子捨子)
1739年　6月27日 元文4年　5月22日 曇　辰の下刻より雨時々　(後潟組瀬戸子村の道心が縊死)
1739年　6月28日 元文4年　5月23日 晴　(21日鯵ヶ沢で加賀船の水主病死)
1739年　6月29日 元文4年　5月24日 陰晴　(22日夜青森町本町に投げ火)
1739年　6月30日 元文4年　5月25日 晴

(*)　・50俵を申付ける、先月23日青森町の毘沙門堂に盗人入る、尾太2月出高:銅167固8貫目・鉛232箇1貫目)
(**)　306人、3月18日新田下中野村で火災(3間×5間:高無)・火元五人組預け)

1739年　7月1日 元文4年　5月26日 快晴　今朝霧 （23日夜飯詰組松野木村(2間×3間半:高無)・一野坪村(8間×3間:百姓)で火災・火元村預け）
1739年　7月2日 元文4年　5月27日 晴　今朝霧 （4月中大間越:出入り人数合86人）
1739年　7月3日 元文4年　5月28日 晴　今朝霧 （御内分より36両3歩御貸出、23日松野木村と一野坪村の火元の村預け免許、五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1739年　7月4日 元文4年　5月29日 快晴　今朝霧 （蟹田町の49軒190人(163と29)に御救い米10日分）
1739年　7月5日 元文4年　5月30日 晴　午の下刻小雨　即刻止む （星場における野稽古の火の不始末あり）　下から続く　大間越4人2枚・出人都合90人）
1739年　7月6日 元文4年　6月1日 快晴　今朝霧 （5月中他国者出:碇関41人御印紙3枚・野内1人1枚・大間越2人1枚・青森湊1人1枚・三馬屋湊4人1枚、御国人出:碇関36人切手紙27枚・野内1人1枚・　上に続く
1739年　7月7日 元文4年　6月2日 陰晴　今朝小雨
1739年　7月8日 元文4年　6月3日 快晴 （阿芙蓉段々花咲く）
1739年　7月9日 元文4年　6月4日 曇　今朝辰の刻過ぎ小雨　巳の中刻過ぎより雨 （御内分より609両御貸出）
1739年　7月10日 元文4年　6月5日 陰晴　午の刻過ぎ小雨　即刻止む
1739年　7月11日 元文4年　6月6日 快晴
1739年　7月12日 元文4年　6月7日 快晴 （御用人津軽頼母に一粒金丹10粒、御内分より20両1歩余御貸出）
1739年　7月13日 元文4年　6月8日 快晴 （3月29日大和沢山で雪なて(雪崩のこと)……、一粒金丹作成道具あり）
1739年　7月14日 元文4年　6月9日 快晴　暑気甚
1739年　7月15日 元文4年　6月10日 快晴　暑気強
1739年　7月16日 元文4年　6月11日 快晴　下から続く　火葬時に飛び火火災・火元村預け・御免、尾太5月出高:銅264箇13貫目・鉛475箇5貫目）
1739年　7月17日 元文4年　6月12日 曇　昨卯の刻より雨　終日に及ぶ　夜丑の刻雷発す （長尾戸左衛門・三上常左衛門に一粒金丹7粒づつ、昨日最勝院門前で火災・火元入寺、3日増館組久井名館村で　上に続く
1739年　7月18日 元文4年　6月13日 曇　昨夜中より雨　巳の刻より晴　午の刻より雨
1739年　7月19日 元文4年　6月14日 曇　巳の刻より雨　午の下刻より晴
1739年　7月20日 元文4年　6月15日 陰晴 （大間越町の者共が御払い米30俵願・10俵申付ける）
1739年　7月21日 元文4年　6月16日 曇　辰の下刻より雨　終日に及ぶ
1739年　7月22日 元文4年　6月17日 陰晴　午の刻過ぎより雨　終日夜に及ぶ （時疫の御祈祷を最勝院に申付ける）
1739年　7月23日 元文4年　6月18日 晴　今朝卯の中刻より小雨　巳の刻より晴
1739年　7月24日 元文4年　6月19日 晴　申の刻より小雨　暫くして止む （異国船近づくとの6月9日の聞き役からの廻状が届く、五穀成就・日和揚げの御祈祷を大円寺に申付ける）
1739年　7月25日 元文4年　6月20日 曇　今朝辰の刻小雨　則止む　未の上刻地震少し （異国船対策を下達）
1739年　7月26日 元文4年　6月21日 曇　辰の刻過ぎより小雨時々
1739年　7月27日 元文4年　6月22日 快晴 （仙台沖に唐船が50艘?正確な情報か尾鰭がついたのか、山上吉三郎の知行所が青森町安方等、11日最勝院門前で火災・火元入寺・赦免）
1739年　7月28日 元文4年　6月23日 快晴　暑気甚
1739年　7月29日 元文4年　6月24日 陰晴　巳の下刻小雨　則止む　暑気甚 （御用人笠原武左衛門に一粒金丹10粒、杣飯米として蟹田御蔵米50俵を1俵13匁で御払い）
1739年　7月30日 元文4年　6月25日 快晴
1739年　7月31日 元文4年　6月26日 快晴
1739年　8月1日 元文4年　6月27日 陰晴　卯の中刻雨　即止む
1739年　8月2日 元文4年　6月28日 快晴　酷暑　下から続く　大間越町から来月分飯米70俵御払い願・駄賃運賃加イ1俵を15匁8分3厘で申付ける）
1739年　8月3日 元文4年　6月29日 晴　甚暑強 （大鰐組森山村の弥左衛門熊(胆長1寸3歩廻り1寸5歩生目形5匁5分:2才・たて当たりこほれる)取る、5月中出入り都合:碇関208人・野内200人・大間越36人、　上に続く
1739年　8月4日 元文4年　6月30日 快晴　甚暑強
1739年　8月5日 元文4年　7月1日 快晴　甚暑 （6月中出人御印紙80人(碇関43枚71(御国人10他国者61)・野内3枚他国者6・大間越2枚3)・切手紙60人(碇関27枚56・三馬屋湊口1枚4)・都合140人、青森安方で男自害）
1739年　8月6日 元文4年　7月2日 快晴 （5月22日青森町本町で投げ火を受けた家代の押し込め免許、和徳町で小火・火元押籠、先月28日深浦に入津中の船の水主病死、尾崎組大坊村で植付5月3日・出穂7月2日）
1739年　8月7日 元文4年　7月3日 陰晴　辰の刻前小雨　即止む
1739年　8月8日 元文4年　7月4日 快晴 （浪岡組浪岡村の後家自害、貞昌寺に50余男縊死、南部の尻谷に唐船2艘、1日と4日駒越組蒔苗村(4間×8間:百姓)と小嶋村(3間半×8間:百姓)で火災・火元村預け）
1739年　8月9日 元文4年　7月5日 快晴 （昨夜和徳町で小火・火元押し込め）
1739年　8月10日 元文4年　7月6日 快晴
1739年　8月11日 元文4年　7月7日 快晴　残暑強 （青森・油川の8軒から御米拝借願・了、銅座買受値段:1箇(多分16貫)に付き170目宛）　下から続く　6月出高:銅357固・鉛512固）
1739年　8月12日 元文4年　7月8日 曇　卯の刻前より雨終日　酉の刻強く降る　雷発す （1日蒔苗村・4日小嶋村の火元の村預け免許、昨夜鍛冶町に投げ火、16日大鰐組長峰村に火災・火元他村預け免許、尾太　上に続く
1739年　8月13日 元文4年　7月9日 快晴　昨夜中より時々雨　辰の中刻過ぎ相止む （岩木川今朝明け方7歩余の洪水・被害少し、茂森町で69歳大工自害、9日油川組新城村で男倒死）
1739年　8月14日 元文4年　7月10日 晴　辰の刻より雨時々 （6月中野内:入り70・出入り合144人、6月中大間越:人数合32・出入り人数合56人）
1739年　8月15日 元文4年　7月11日 曇　時々雨
1739年　8月16日 元文4年　7月12日 残暑強　酉の中刻地震暫く強　同刻少し過ぎ又地震少シ （7日夜赤石組晴山に破船1艘）
1739年　8月17日 元文4年　7月13日 晴　卯の中刻地震少シ　申の刻より雷暫く発す　同下刻大雨　則止む
1739年　8月18日 元文4年　7月14日 快晴　残暑甚
1739年　8月19日 元文4年　7月15日 快晴　残暑強　亥の下刻地震暫く
1739年　8月20日 元文4年　7月16日 快晴　残暑甚 （蟹田町奉行から御救い米願:82軒299人(11歳以上が50?・4-10歳が49)・足軽目付立会い見届けの上願いの通申付ける）
1739年　8月21日 元文4年　7月17日 快晴　残暑甚 （6月中碇関:入り180・出322人）
1739年　8月22日 元文4年　7月18日 快晴　残暑甚
1739年　8月23日 元文4年　7月19日 快晴　残暑甚 （袋宮寺境内に若い男女変死(男はまだ活きている)、今朝男牢死）
1739年　8月24日 元文4年　7月20日 快晴　丑寅方にて酉の下刻より鳴響時々
1739年　8月25日 元文4年　7月21日 小雨時々　南風立つ　昨夜中より鳴響　昼夜相止まず （昨19日大鰐組虹貝村の山中で33・4男倒死）
1739年　8月26日 元文4年　7月22日 陰晴　午の刻より小雨　鳴響昼夜数度　相止まず
1739年　8月27日 元文4年　7月23日 快晴　今朝霧　鳴動　昼夜時々
1739年　8月28日 元文4年　7月24日 快晴　残暑強　鳴響　昼夜時々 （先だって鯵ヶ沢町に倒死者）
1739年　8月29日 元文4年　7月25日 晴　鳴動　昼夜時々
1739年　8月30日 元文4年　7月26日 快晴　鳴動強　夜丑の刻まで
1739年　8月31日 元文4年　7月27日 陰晴 （23日夜明け方大鰐組八幡崎村で仮馬屋(1間半×2間)火災・火元村預け・免許、22日蟹田湊で破船1艘）

1739年　9月1日 元文4年　7月28日 快晴 （これまでの御救い米に返済なく強硬姿勢に転ず）
1739年　9月2日 元文4年　7月29日 快晴 （19日昼後潟組中師村で山火事(100間×30間)）
1739年　9月3日 元文4年　8月1日 快晴 （7月中御印紙出人(碇関他国者51人34枚・野内3人2枚・大間越1人1枚)・切手紙出碇関御国人25人16枚）
1739年　9月4日 元文4年　8月2日 快晴 （先達て出火で押し込めの和徳町の2人に免許、大間越町庄屋が8月分70俵御払い願・駄賃運賃加え1俵14匁1分3厘で50俵を申付ける）
1739年　9月5日 元文4年　8月3日 快晴
1739年　9月6日 元文4年　8月4日 快晴 （赤米を1俵13匁で御貸出）
1739年　9月7日 元文4年　8月5日 陰晴 （蟹田町の81軒296人(247と49)への御救い米201石3斗6升(503俵1斗6升が6貫40目8分(1俵が12匁)・当月より来3月中まで240日分の御救い米）
1739年　9月8日 元文4年　8月6日 晴 （八幡境内で男が縊死）
1739年　9月9日 元文4年　8月7日 曇 昨夜中より雨時々　終日に及ぶ　風立つ （油川組津軽坂村に女倒死、3日堀越組大和沢で野火）　下から続く　（東)と申す大風で田に浪押し込む、7月中大間越:出15・入り19人）
1739年　9月10日 元文4年　8月8日 晴 午の中刻地震少し （明六時新町で井戸に67女落下死亡、昨日9時已前山王宮の神木・、薬王院・最勝院・大鰐組蔵館の大日堂・白銀町にも倒木あり、赤石組舞戸村に西たは　上に続く
1739年　9月11日 元文4年　8月9日 晴 （一昨7日の風雨で城門二つ破損）
1739年　9月12日 元文4年　8月10日 曇 巳の下刻より雨　終日に及ぶ （7日の大風で深浦に破船19艘・船乗り死者8・9人か）
1739年　9月13日 元文4年　8月11日 陰晴 （三新田で7日の風被害あり、広須新田で潰れ家2軒、駒越組相馬の山に62・3男縊死、大鰐組大沢の松並木4本倒木）
1739年　9月14日 元文4年　8月12日 曇 辰の下刻より雨時々　酉の刻より夜に及ぶ （7日の風による深浦の死亡6人、木作新田長浜に破船1艘）
1739年　9月15日 元文4年　8月13日 快晴
1739年　9月16日 元文4年　8月14日 陰晴 （藤代組川村に乞食40男倒死）
1739年　9月17日 元文4年　8月15日 快晴 （油川組津軽坂村に女倒死、7日の風で高杉組熊島村の並木倒木、十三町で口論殺人、後潟組の田83町歩に虫・本行寺より虫除け札・7月6日蚊のような虫発生）
1739年　9月18日 元文4年　8月16日 陰晴 午の刻小雨　夜に入り雨
1739年　9月19日 元文4年　8月17日 陰晴
1739年　9月20日 元文4年　8月18日 晴
1739年　9月21日 元文4年　8月19日 陰晴 辰の刻より雨時々　巳の刻丸雪　それより雨時々
1739年　9月22日 元文4年　8月20日 陰晴 （大間越町奉行が熊荒れ対策として6匁玉などを求める）　下から続く　・馬屋:給地百姓)・火元村預け）
1739年　9月23日 元文4年　8月21日 曇 彼岸入り　申の刻前より雨　夜中に及ぶ （7月中野内:出入り都合122人(御印紙の表34・御切手紙の表16・入り切手の表72)、17日横内組浅虫村で火災(5間4尺×10間　上に続く
1739年　9月24日 元文4年　8月22日 曇 昨夜より雨　終日に及ぶ （7日の大荒れで大間越に破船1艘）
1739年　9月25日 元文4年　8月23日 曇 昨夜中雨　午の下刻小雨　則刻止む　下から続く　出高:銅340固1貫目・鉛471固2貫目）
1739年　9月26日 元文4年　8月24日 曇 （大間越町庄屋から9月分御蔵米70俵払い出し願・50俵申付ける、米入札値段:土米19俵3斗が145匁4分3厘5毛(1俵9匁3分6厘)・町米5石7斗1升が125匁1分、尾太7月　上に続く
1739年　9月27日 元文4年　8月25日 快晴
1739年　9月28日 元文4年　8月26日 巳の刻少し雨　申の中刻雨　則止む　戌の刻より雷度々 （斬罪4人所払い7人）
1739年　9月29日 元文4年　8月27日 晴 未の下刻雨暫く （平岡町に押込の3人赦免、20日深浦に入船中の1人病死）
1739年　9月30日 元文4年　8月28日 晴 （7日の大風で十三町奉行所被害・各地の神社に倒木）
1739年　10月1日 元文4年　8月29日 快晴 （12日夜田舎館組代官手代が御用中行方不明）
1739年　10月2日 元文4年　8月30日 曇 辰の下刻より雨 （昨夜大光寺組高木村に者倒・死）
1739年　10月3日 元文4年　9月1日 曇 申の刻過ぎより雨　夜中時々 （7月中碇関:御印紙出8枚の表58人・御切手紙出22枚33人・入り219・都合307人）
1739年　10月4日 元文4年　9月2日 陰晴 時々小雨　夜中に及ぶ （金140両3歩と4匁7分毛の代米190石6斗3升8合5夕3才(1俵12匁)・両替40目6分、日和揚げの御祈祷を大円寺に仰せ付ける）
1739年　10月5日 元文4年　9月3日 快晴
1739年　10月6日 元文4年　9月4日 曇 午の刻雷雨　同刻過ぎ晴　未の刻雷雨
1739年　10月7日 元文4年　9月5日 快晴
1739年　10月8日 元文4年　9月6日 快晴
1739年　10月9日 元文4年　9月7日 快晴 （初鮭後潟組より差上げる、報恩寺に一粒金丹5粒、鰺ヶ沢御蔵米12俵3斗5升が75匁7分6厘）
1739年 10月10日 元文4年　9月8日 快晴 （御内分より文金10両余御貸出、1月3日駒越組相馬村の左門三郎がたて当り胆ない熊取る）
1739年 10月11日 元文4年　9月9日 快晴 酉の刻地震
1739年 10月12日 元文4年　9月10日 曇 辰の刻より雨終日
1739年 10月13日 元文4年　9月11日 晴 （御内分より100両御貸出）（20日分が11日分より先に綴じられている）
1739年 10月14日 元文4年　9月12日 晴
1739年 10月15日 元文4年　9月13日 曇 昨夜中雨　辰の下刻より小雨時々　申の刻地震少し
1739年 10月16日 元文4年　9月14日 晴
1739年 10月17日 元文4年　9月15日 曇 午の刻より雨　未の刻に及び晴　申の刻過ぎ雨　終夜に及ぶ （9日後潟組中師村で火災・火元村預け・赦免）
1739年 10月18日 元文4年　9月16日 曇 時々雨
1739年 10月19日 元文4年　9月17日 曇 昨夜中より雨　巳の刻まて　それより陰晴 （8月中碇関:入り人数197・出入り人数合336人）
1739年 10月20日 元文4年　9月18日 快晴 （16日高杉組薬師堂村の薬師堂内に50男倒死）　下から続く　碇関町に男倒死、尾太8月出高:銅328箇4貫目・鉛216箇5貫目）
1739年 10月21日 元文4年　9月19日 快晴 （15日頃御家中の家来が相馬山で倒死、7月19日青森を出た舟不明・3人死亡らしい、御内分より26両余御貸出）　下から続く　7日鰺ヶ沢湊で破船19艘、昨暮六過ぎ　上に続く
1739年 10月22日 元文4年　9月20日 晴 午の中刻雨　酉の刻地震暫く　即刻止む　酉の上刻過ぎ地震暫く （所々御関所出人都合129人(御印紙(碇関44枚84人・野内2枚2人)・御国人(碇関20枚36人野内7人3枚)、　上に続く
1739年 10月23日 元文4年　9月21日 陰晴 （北横町の用水堰に死者）
1739年 10月24日 元文4年　9月22日 曇 昨夜中より雨　終日に及ぶ
1739年 10月25日 元文4年　9月23日 晴 今朝岩木山に甫(はじめて？)上に雪見え候 （江戸から帰りの掃除小人行方不明）
1739年 10月26日 元文4年　9月24日 晴 （町米入札値段:10俵が45匁、21日茂森町に六十六部・追放）
1739年 10月27日 元文4年　9月25日 曇
1739年 10月28日 元文4年　9月26日 曇 昨夜中より終日雨天　夜に入る
1739年 10月29日 元文4年　9月27日 快晴 （今朝大鰐組鯖石村に40男倒死、20・21日大間越町同心が6匁玉で熊2疋取る、板屋野木川渡の馬船(長さ8間幅8尺深さ1尺2寸)・長船(長さ6間幅2尺8寸深さ1尺)）
1739年 10月30日 元文4年　9月28日 快晴 子の刻過ぎ地震
1739年 10月31日 元文4年　9月29日 快晴 卯の上刻地震 （飯詰組若山村の半助熊(胆長4寸廻り3寸生目形7匁:4歳)取る、25・26日の大雨で飯詰組高野村で水湛9町歩余・藤代組・常盤組でも被害）

1739年　11月1日 元文4年　　10月1日 快晴　酉の刻地震 （9月中出75人・御印紙47（碇関46人32枚・青森湊1人1枚）・切手紙28（碇関23人12枚・野内1人1枚・大間越4人2枚）、大間越町庄屋が今月分70俵　　下に続く
1739年　11月2日 元文4年　　10月2日 曇　申の下刻より雨　夜に入り時々 （27日朝藤崎村に70道心倒死）　　上から続く　　御払い願・1俵14匁3分3厘で60俵御払い）
1739年　11月3日 元文4年　　10月3日 晴
1739年　11月4日 元文4年　　10月4日 晴　申の下刻より雨　夜に及ぶ　午の下刻より風強
1739年　11月5日 元文4年　　10月5日 曇　今朝水雪雨　終日に及ぶ　夜に入り風強雪
1739年　11月6日 元文4年　　10月6日 晴
1739年　11月7日 元文4年　　10月7日 晴 （昨日初雪の御機嫌伺い、広須新田吉出村に40男乞食倒死、今別御蔵米入札値段:300俵が3貫825匁（1俵12匁7分5厘））
1739年　11月8日 元文4年　　10月8日 快晴 （先月26日赤石組深谷村黒森山で小屋焼失・火元村預け・赦免）
1739年　11月9日 元文4年　　10月9日 快晴　夜に入り少し雨
1739年 11月10日 元文4年　10月10日 曇　夜に入り少し雨 （4日の大風で千年山の御門番所に被害）
1739年 11月11日 元文4年　10月11日 曇　雪少し降る （広須新田差出?に40男倒死）
1739年 11月12日 元文4年　10月12日 快晴
1739年 11月13日 元文4年　10月13日 曇　時々雨 （御内分より120両御貸出）
1739年 11月14日 元文4年　10月14日 曇　昨夜中雨　辰の上刻より終日に及ぶ
1739年 11月15日 元文4年　10月15日 快晴　今朝雪霜
1739年 11月16日 元文4年　10月16日 快晴　今朝雪霜 （昨日駒越に男倒死）
1739年 11月17日 元文4年　10月17日 晴　昨夜中雨　昼八時より曇
1739年 11月18日 元文4年　10月18日 曇　今朝辰の刻過ぎより雨　巳の刻晴　午の刻より雨　夜中降
1739年 11月19日 元文4年　10月19日 曇　終日雨 （11日柏木組夕顔堰村に50乞食倒死、尾太9月出高:銅298箇12貫目・鉛88箇12貫目）
1739年 11月20日 元文4年　10月20日 曇　昨夜中より雪時々　午の刻より晴
1739年 11月21日 元文4年　10月21日 曇　辰の刻より雪 （刻印は鉄より唐金の方が減らないとか）
1739年 11月22日 元文4年　10月22日 曇　辰の刻より雪　終日に及ぶ （御内分より45両余御貸出、御馬廻り番頭齋藤甚五兵衛に一粒金丹3粒）
1739年 11月23日 元文4年　10月23日 快晴
1739年 11月24日 元文4年　10月24日 曇　明七時より雨　終日に及ぶ （米入札値段:3斗5升入り3俵が23匁5分5厘・3斗6升2合入り2俵が15匁5分6厘・赤米86俵が624匁3分6厘）
1739年 11月25日 元文4年　10月25日 曇　雨　　下から続く　　銅280箇8貫目・鉛262箇5貫目）
1739年 11月26日 元文4年　10月26日 快晴　夜に入り雨 （5日赤石組松神村で火災・火元他村預け・免許、17日飯詰組飯詰村で殺人・犯人行方不明・親に縄）　　下から続く　　留切り押し切る、尾太10月出高:　　上に続く
1739年 11月27日 元文4年　10月27日 曇　昨夜中雨　巳の刻まで　午の刻晴　夜に入り風雨 （古懸不動尊御出汗・五山に祈祷仰せ付ける、飯詰組持子沢村に倒死者、25日朝岩木川洪水・藤代組中崎村で古川の　　上に続く
1739年 11月28日 元文4年　10月28日 晴　午の刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り小雪風　巳の刻雪
1739年 11月29日 元文4年　10月29日 曇　時々雪　小風 （堀越組一野渡の彦次郎が熊（胆長3寸5歩廻り5寸5歩生目形30目:15才）取る）
1739年 11月30日 元文4年　10月30日 曇　未の刻より雪　夜に入る （後潟・金木・赤石組の代官等から当御収納米の銭納・籾納願・半分強の1350石の銭納を認める、広須組鶴田村に倒死・狼が喰ったか　　欄外（*）に続く
1739年　12月1日 元文4年　　11月1日 曇　時々雪　終日に及ぶ （10月中御印紙出89（碇関御国人37人・他国者43人38枚）野内9人2枚・御切手紙48（碇関47人25枚・野内1人1枚）、先月17日後潟組大平村で火災　　下に続く
1739年　12月2日 元文4年　　11月2日 陰晴　辰の刻過ぎ小雪　　上から続く　　・類火あり他村預け・免許）
1739年　12月3日 元文4年　　11月3日 快晴
1739年　12月4日 元文4年　　11月4日 曇　昨夜子の刻より卯の刻まで雨　申の刻より丸雪　夜に入り小雪
1739年　12月5日 元文4年　　11月5日 陰晴
1739年　12月6日 元文4年　　11月6日 快晴　申の下刻より雨　暮に及ぶ
1739年　12月7日 元文4年　　11月7日 陰晴 （深浦町の代銭納:仮値段1俵14匁、1日昼七半頃小泊前浜で破船1艘・負傷1人か、2日藤崎組辻村で火災）
1739年　12月8日 元文4年　　11月8日 陰晴　卯の刻より小雨 （高森太郎兵衛に一粒金丹3粒、先月29日後潟組川崎村で火災・火元村預け・赦免）
1739年　12月9日 元文4年　　11月9日 陰晴　昨夜中風雨 （御内分より15両余御貸出）
1739年 12月10日 元文4年　11月10日 曇　昨夜中より雪 （2日辻村の火元の村預け赦免）
1739年 12月11日 元文4年　11月11日 陰晴　時々雪 （1日の小泊の破船の負傷者死亡）
1739年 12月12日 元文4年　11月12日 晴　昨夜より卯の刻過ぎまで雨 （藤代組三世寺村に道心倒死）
1739年 12月13日 元文4年　11月13日 晴　申の中刻より雨　夜に入り風雨　雷度々発す （南溜池の東の土居脇に12・3男子倒死）
1739年 12月14日 元文4年　11月14日 曇　昨夜中より終日雨 （青森より初鱈差上げる、御内分より100両余御貸出）
1739年 12月15日 元文4年　11月15日 晴
1739年 12月16日 元文4年　11月16日 晴　時々小雨　夜に入り雷発す （藤崎組藤崎村に50男倒死）
1739年 12月17日 元文4年　11月17日 曇　時々雨 （青森より2番鱈差上げる）
1739年 12月18日 元文4年　11月18日 晴
1739年 12月19日 元文4年　11月19日 陰晴　時々小雨 （押さえ米入札:10俵が65匁5分）
1739年 12月20日 元文4年　11月20日 晴　今朝大霜　申の下刻より小雨　夜に入り時々 （昨夜柏木組瀬良沢村で火災・火元百姓預け、土手鍛冶町で昨朝男縊死）
1739年 12月21日 元文4年　11月21日 快晴　午の中刻より曇 （当時の食べ物の表）
1739年 12月22日 元文4年　11月22日 陰晴　時々小雨　卯の一刻冬至入り （19日夜柏木組瀬良沢村の火災（2間半×6間:高無））
1739年 12月23日 元文4年　11月23日 曇　未の刻丸雪
1739年 12月24日 元文4年　11月24日 晴　夜に入り雪
1739年 12月25日 元文4年　11月25日 曇　雪
1739年 12月26日 元文4年　11月26日 晴
1739年 12月27日 元文4年　11月27日 曇　雨 （23日夜飯詰組野里村の給地百姓火災、19日今別村で火災・火元村預け、尾太10月?出高:銅280箇8貫目・鉛262箇5貫目）
1739年 12月28日 元文4年　11月28日 曇　夜に入り雪 （19日今別町の火元の村預け免許、水油1升が4匁を4匁5分に、弘前御蔵米を1俵13匁1分で御払い申付ける）
1739年 12月29日 元文4年　11月29日 陰晴　時々小雪　夜に入り雪 （27日沖館村の鱈漁師が舟から落ち1人死亡）
1739年 12月30日 元文4年　　12月1日 曇　雪終日に及ぶ　夜に入り雪 （11月中御印紙出人（碇関48人39枚・野内3人1枚）切手紙出17人（碇関11人6枚・野内6人6枚）、19日瀬良沢村の火元の百姓預け免許、取上村は狼多く……）
1739年 12月31日 元文4年　　12月2日 晴　朝の内雪小降り （取上村に15歳女子と13歳男子の兄弟がうろつくのを対処（百姓に預け）する）
（*）　男女不明、浪岡組浪岡村に42・3男倒死、当月大間越:出入り124人、9月中野内:出入り120人、9月中碇関:出入り237人）

1740年　1月1日 元文4年　12月3日 晴 （大光寺組本町村に男倒死）
1740年　1月2日 元文4年　12月4日 陰晴 （御内分より700両御貸出、飯詰組で狼荒れ・鉄砲打ち申付ける）
1740年　1月3日 元文4年　12月5日 曇 昨夜中より雪時々 終日に及ぶ （高杉組貝沢村に男倒死、昨5日夜駒越組紙漉沢村で火災（4間半×11間：給地百姓）馬2疋焼死）
1740年　1月4日 元文4年　12月6日 曇 昨夜より雪 終日に及ぶ　下から続く　伊織に一粒金丹30粒、大鰐組石川村に乞食男倒死、大光寺組石郷村に男倒死、弘前御蔵米1俵13匁2分6厘・鯵ヶ沢14匁1厘）
1740年　1月5日 元文4年　12月7日 曇 昨夜中よりの雪終日に及ぶ （先月23日野里村の火元の村預け赦免、先月29日夜俵元新田富升村で火災・火元村預け・赦免、大鰐組石川村で馬が狼に喰われる、隈部　上に続く
1740年　1月6日 元文4年　12月8日 晴 巳の六刻より雪 終日に及ぶ （3日浪岡組竹鼻村に22・3男倒死）
1740年　1月7日 元文4年　12月9日 陰晴 今朝少し雨 終日雪時々 （3日高杉組鬼沢村に46・7男倒死）
1740年　1月8日 元文4年　12月10日 陰晴
1740年　1月9日 元文4年　12月11日 陰晴
1740年　1月10日 元文4年　12月12日 陰晴 （御内分より35両2歩御貸出、男牢死・謀判に付き牢前で斬罪とする、今夕類族矢野某の祖母病死、尾太11月出高：銅222固1貫目・鉛378固8貫目）
1740年　1月11日 元文4年　12月13日 晴 未の下刻雷発す
1740年　1月12日 元文4年　12月14日 曇 雪終日に及ぶ
1740年　1月13日 元文4年　12月15日 晴 （5日紙漉沢村の火元の押込め赦免）
1740年　1月14日 元文4年　12月16日 陰晴 （10日柏木組梅田村に倒死?狼に喰われたか肉骨なし・荷物散らばる、大鰐組八幡館村に60余男倒・死、高杉組独鈷村に男倒死）
1740年　1月15日 元文4年　12月17日 曇 （昨13日内真部村で火災・1軒馬1疋焼死、大間越町庄屋から当月分御蔵米70俵払い出し願・当月分30俵と正月分60俵を駄賃運賃加え1俵13匁5分3厘で申付ける）
1740年　1月16日 元文4年　12月18日 陰晴 今朝より雪風時々 （御内分より24両1歩御貸出、浪岡・増館組に狼打ち出す、藤代組廻関村に男倒死、油川組沖館村に男倒死）
1740年　1月17日 元文4年　12月19日 陰晴 （12日朝油川で破船）
1740年　1月18日 元文4年　12月20日 晴 （16日赤石組舞戸村で火災・火元村預け・赦免、飯詰組の殺人者の父の縄を許し村預けとする）
1740年　1月19日 元文4年　12月21日 晴 （酒1升を1匁1分1厘・粕2貫550目入り1樽を9分9厘1毛に申付ける、昨日の風で千年山の松が吹き折れる、弘前御蔵米沖御役入り1俵14匁・同青森15匁2分）
1740年　1月20日 元文4年　12月22日 曇 雪時々 終夜に及ぶ （13日夜後潟組内真部村で火災（柾家1軒雑駄1疋）・火元村預け・免許、昨夜藤崎組木作海道に54・5男倒死）
1740年　1月21日 元文4年　12月23日 終日雪 申の三刻ヨリ大寒 夜に入り小雪 （御内分より594両3歩余を御切米として御貸出）
1740年　1月22日 元文4年　12月24日 曇 時々雪 夜に入る （御内分より500両を年始吉例などとして御貸出、18日昼油川組青森海道脇に40位男倒・死）
1740年　1月23日 元文4年　12月25日 昨夜中より雪 終日終夜に及ぶ
1740年　1月24日 元文4年　12月26日 曇 雪終日に及ぶ （栢（かや）町に男倒死）
1740年　1月25日 元文4年　12月27日 快晴
1740年　1月26日 元文4年　12月28日 曇 （当11月中碇関：出入り237人・大間越：出入り64人・野内：出入り96人、広須組大性村の14軒59人（11歳以上40人と4～10才19人）に御救い米）
1740年　1月27日 元文4年　12月29日 快晴 （先月27日親方町で家出・行方不明、24日昼飯詰組壱野坪村に男倒死）
1740年　1月28日 元文4年　12月30日 陰晴 未の刻より雪 雨少々
1740年　1月29日 元文5年　正月1日　曇 今朝卯の刻より雨 終夜に及ぶ
1740年　1月30日 元文5年　正月2日　曇 甚寒 今朝寅の刻より大吹雪 終日夜に及ぶ
1740年　1月31日 元文5年　正月3日　陰晴 甚寒 辰の下刻より小雪時々 終日に及ぶ
1740年　2月1日 元文5年　正月4日　曇 甚寒 小雪時々 終日に及ぶ
1740年　2月2日 元文5年　正月5日　曇 甚寒 終日吹雪 終日夜に及ぶ
1740年　2月3日 元文5年　正月6日　曇 甚寒 雪時々 終日夜に及ぶ
1740年　2月4日 元文5年　正月7日　曇 雪終日に及ぶ （1日夜岩木川にざい（氷）水で橋の柱11本折流す、岩松様二の丸屋敷前御出遊ばされる）
1740年　2月5日 元文5年　正月8日　曇 時々雪 亥の刻より立春
1740年　2月6日 元文5年　正月9日　曇 余寒甚 今朝吹雪 終日夜に及ぶ
1740年　2月7日 元文5年　正月10日　陰晴 餘寒甚
1740年　2月8日 元文5年　正月11日　陰晴
1740年　2月9日 元文5年　正月12日　曇 餘寒甚 時々雪 （御内分より200両御貸出、10日駒越組大秋村の新兵衛が小熊取る・まるむき（どうも剥製を作ったようだ）にする）
1740年　2月10日 元文5年　正月13日　曇 餘寒甚 時々吹雪
1740年　2月11日 元文5年　正月14日　陰晴 餘寒甚 時々吹雪
1740年　2月12日 元文5年　正月15日　陰晴 時々雪 餘寒甚
1740年　2月13日 元文5年　正月16日　陰晴 餘寒甚
1740年　2月14日 元文5年　正月17日　陰晴 （赤田組沖村に40男倒死）
1740年　2月15日 元文5年　正月18日　陰晴
1740年　2月16日 元文5年　正月19日　快晴 巳の刻より雪時々
1740年　2月17日 元文5年　正月20日　曇 時々雪 終日に及ぶ （昨夜猿賀組追子野木村に27・8男倒死）
1740年　2月18日 元文5年　正月21日　曇 時々雪
1740年　2月19日 元文5年　正月22日　曇 時々雪 （赤石組の山々に昔見なかった鹿が出て難儀・1年に2度子を生むとか）
1740年　2月20日 元文5年　正月23日　曇 時々雪 夜に入り時々 （蟹田町83軒329人（277と52）・赤田組の29軒119人（83と36）に20日分（これが普通です）の御救い米）
1740年　2月21日 元文5年　正月24日　曇 終日雪
1740年　2月22日 元文5年　正月25日　曇 昨夜中雪1尺2・3寸降る それより時々雪 （御内分より500両御貸出）
1740年　2月23日 元文5年　正月26日　陰晴 時々小雪　下から続く　広須組106軒472人（341と131）・赤田組40軒174人（130と44）・広須組41軒189人（133と56）に御救い米）
1740年　2月24日 元文5年　正月27日　曇 夜に入り小雪　下から続く　2寸2寸5歩1匁5分：2歳）・相馬村の左衛門三郎（3寸5歩7寸33匁：10歳）それぞれ熊取る、尾太12月出高：銅270固4貫目・鉛345固12貫目、　上に続く
1740年　2月25日 元文5年　正月28日　晴 （大間越町庄屋から来2月分飯米70俵御払い願・1俵14匁6分3厘で50俵申付ける、駒越組杉沢村の惣左衛門（胆長3寸4歩廻り6寸3歩生目31匁3分：5歳）・大秋村の新兵衛（　上に続く
1740年　2月26日 元文5年　正月29日　陰晴 （昨夜紺屋町の大久保堰橋に4歳くらいの女子捨子、増館組の36軒150人（110と40）に御救い米）
1740年　2月27日 元文5年　2月1日 陰晴 時々雪 大吹雪 終日に及ぶ （正月中碇関出39人（御印紙18人12枚・切手紙21人11枚）、横内組の31軒157人（115と42）に御救い米）
1740年　2月28日 元文5年　2月2日 陰晴 （先月28日広田組喰川村に63・4男倒死、御旗奉行長尾戸左衛門と諸手足軽頭三上常左衛門に一粒金丹5粒宛）
1740年　2月29日 元文5年　2月3日 晴 午の刻過ぎより雪

1740年　3月1日 元文5年　2月4日 曇　雪終日に及ぶ （在在浦々に徒者多く浪人のうわさも、増館組59軒245人(185と60)・浦町組27軒117人(90と27)・横内組18軒81人(51と30)に御救い米）
1740年　3月2日 元文5年　2月5日 陰晴　辰の刻小雪 （野内町41軒141人(124と17)・増館組37軒160人(119と41)・赤田組66軒271人(187と84)・横内組9軒34人(29と5)に御救い米）
1740年　3月3日 元文5年　2月6日 陰晴
1740年　3月4日 元文5年　2月7日 快晴 （木作代官役所に御救い願の百姓・高無百四五十人ばかり罷り越す、尾太正月出高:銅148固6貫目・鉛107固11貫目）
1740年　3月5日 元文5年　2月8日 快晴　夜に入り雪 （飯詰組239軒1157人(869と288)・高杉組56軒184人(165と19)・浦町組39軒149人(113と36)に御救い米）
1740年　3月6日 元文5年　2月9日 快晴　夜に入り雪
1740年　3月7日 元文5年　2月10日 昨夜より雪　終日に及ぶ （御用人津軽頼母に一粒金丹10粒、飯詰組26軒129人(98と31)に御救い米）
1740年　3月8日 元文5年　2月11日 晴　未の刻過ぎより雪時々　夜に及ぶ （浪岡組69軒272人(207と65)・増館組36軒158人(112と46)・柏木組25軒113人(80と33)に御救い米）
1740年　3月9日 元文5年　2月12日 曇　昨夜中より雪時々
1740年　3月10日 元文5年　2月13日 陰晴　昨夜雪 （赤田組板屋野木村に23・4男倒死、藤崎組10軒50人(33と17)に御救い米）
1740年　3月11日 元文5年　2月14日 陰晴 （広須新田川除村に60男倒死、12日夜油川組油川村に70道心(同心と記す)倒死、柏木・藤崎・広田組161軒720人(487と182:51人は不詳)に御救い米）
1740年　3月12日 元文5年　2月15日 曇　時々雪　余寒甚 （青森町105軒387人・柏木組37軒162人(114と48)・高杉組24軒89人(65と24)に御救い米）
1740年　3月13日 元文5年　2月16日 快晴 （15日朝飯詰組飯詰村に32・3男縊死、飯詰・柏木組105軒531人(404と127)に御救い米）
1740年　3月14日 元文5年　2月17日 晴 （15日大鰐組大沢村に50男倒死、広須新田出野里村に7・8歳女子倒死、熊皮1枚1分5厘から5分、油川・柏木・浪岡・高杉・藤崎・赤田組541軒2468人(1888と580)に御救い米）
1740年　3月15日 元文5年　2月18日 陰晴　午の刻過ぎ雨暫く　時々小雪 （正月12日駒越組枯木平村の庄屋が雪中で行方不明）
1740年　3月16日 元文5年　2月19日 陰晴 （正月中出入り:碇関131人・大間越82人、18日北横町に50余男倒死、油川・高杉・藤代組154軒702人(549と153)に御救い米）
1740年　3月17日 元文5年　2月20日 曇　午の下刻より雪時々 （10日油川組油川村に50女倒死、金木・高杉・油川・藤代・後潟・広須組と青森安方・蟹田町の761軒3223人(2579と647)に御救い米）
1740年　3月18日 元文5年　2月21日 曇　時々小雪　午の刻小風吹 （岩木川の乱杭14本が盗み取られる、飯詰村の10月18日の殺人犯の親の村預け免許、金木・赤田組93軒480人(365と95)に御救い米）
1740年　3月19日 元文5年　2月22日 晴 （広田組149軒683人(506と177)・飯詰・増館組37軒238人(年齢不詳)に御救い米）
1740年　3月20日 元文5年　2月23日 快晴 （赤田組9軒41人・油川組15軒96人・常盤組14軒59人・横内組68軒328人・浦町組11軒56人・浪岡組32軒164人に御救い米）
1740年　3月21日 元文5年　2月24日 曇　雪水終日に及ぶ　夜に入り雪 （高杉組八幡村11軒52人・飯詰組20軒167人・後潟組83軒398人に御救い米）　下から続く　・藤崎組13軒64人に御救い米）
1740年　3月22日 元文5年　2月25日 曇　昨夜よりの雪六七寸に及ぶ　雪時々終日 （御内分より当春渡御切米として891両と銭13貫516文目9分御貸出、和徳町で小火、和徳町に40余男倒死、金木組211軒1110人　上に続く
1740年　3月23日 元文5年　2月26日 夜に入り雪　亥の刻過ぎ雷暫く発す （増館組樽沢村の喜平次狼3疋取る、浪岡組10軒35人に御救い米）
1740年　3月24日 元文5年　2月27日 晴 （大間越町に御蔵米50俵をお払い申付ける、和徳町に40余男倒・死、広須組7軒34人・増館組32軒140人・浦町組103軒472人に御救い米）
1740年　3月25日 元文5年　2月28日 晴 （赤田組185軒756人・藤代組11軒38人・横内組99軒375人に御救い米）
1740年　3月26日 元文5年　2月29日 快晴
1740年　3月27日 元文5年　2月30日 陰晴　申の上刻より雨　亥の刻過ぎまで雪少し （飯詰組飯詰村の4軒30人に御救い米）
1740年　3月28日 元文5年　3月1日 晴 （湯銭5文を3文にしたが4文にとの願・4文に申付ける、広田・浦町組10軒45人(33と12)に御救い米15日分）
1740年　3月29日 元文5年　3月2日 曇　辰の下刻より雨　未の刻雷発す　夜に入り水雪　風強し （今朝男牢死、西鍛冶町に男女すら不明の死人、狼除けの空鉄砲を打たせる）
1740年　3月30日 元文5年　3月3日 曇　辰の刻過ぎまで丸雪 （御印紙出32人(碇関31人24枚・野内1人1枚)・切手紙38人(碇関35人17枚・野内3人2枚)、藤崎組林崎村に60男倒死）
1740年　3月31日 元文5年　3月4日 陰晴
1740年　4月1日 元文5年　3月5日 快晴 （油川・飯詰・柏木・藤崎・横内・浦町組525軒2411人(1820と586)に2度目の御救い米15日分）
1740年　4月2日 元文5年　3月6日 快晴 （今朝男牢死、金木組92軒337人(285と51)に2度目の15日分・駒越組19軒80人(64と16)に5日分・後潟組3軒14人(14と0)に御救い米）
1740年　4月3日 元文5年　3月7日 快晴 （金木組41軒161人(127と34)・油川組20軒87人(74と13)に2度目の御救い米15日分）
1740年　4月4日 元文5年　3月8日 快晴 （青森大工町の8軒31人(24と9)に15日分の御救い米、広田・藤代・金木・浦町・常盤・浪岡・油川組518軒2364人(1787と577)に多分2度目の15日分の御救い米）
1740年　4月5日 元文5年　3月9日 快晴 （赤田組18軒115人(80と35)・浦町組3軒10人(8と2)に御救い米15日分）
1740年　4月6日 元文5年　3月10日 曇　昨夜中より雨時々　夜に入り風 （4日赤石組中村で火災・火元村預け・赦免、駒越・金木・油川・後潟・柏木組266軒1235人(996と239)に15日分の御救い米）
1740年　4月7日 元文5年　3月11日 陰晴　昨夜より雨　辰の刻過ぎまで （昨夜七つ前岩木川5分余の洪水・水切り柱1本押倒す、男牢死、藤崎川の舟守3人行方不明、駒越・飯詰・浦町組24軒81人(53と28)に御救い米）
1740年　4月8日 元文5年　3月12日 晴 （10日朝十三と早川間が明ける・昨年2月21日で19日遅く節に引合い8日遅い、広須組菖蒲川村に男倒死、藤崎川の舟守が下流で無事）
1740年　4月9日 元文5年　3月13日 陰晴　巳の中刻より雨風　申の刻過ぎより雨 （御内分より244両御貸出、赤田・広須組6か村130軒572人(413と159)に3度目・赤田組大性村の14軒59人(40と19)に4度目10日分の御救い米）
1740年　4月10日 元文5年　3月14日 曇　午の刻より小雨　夜に入り小雪
1740年　4月11日 元文5年　3月15日 晴 （屋形様の居住区に西湖の間あり、尾太銅山の道に者倒死、金木・増館・後潟・浪岡・広須・常盤組8か村約452軒1959人(1577と382)に御救い米）
1740年　4月12日 元文5年　3月16日 快晴　今朝大霜　酉の刻より雨　夜中に及ぶ
1740年　4月13日 元文5年　3月17日 曇　今朝雨　辰の刻過ぎ止む　午の刻より晴 （藤代組船水村に40男倒死）
1740年　4月14日 元文5年　3月18日 曇　昨夜より雪　夜に入り吹雪 （常盤組水沼村の3軒18人(11と7)に御救い米10日分）　下から続く　尾太2月出高:銅146固9貫目・鉛215固10貫目）
1740年　4月15日 元文5年　3月19日 曇　昨夜より雪時々　終日に及ぶ （五山に五穀成就の御祈祷を仰付ける、油川組古川村の7軒29人(28と1)に御救い米10日分）　下から続く　(4と2)に2度目の御救い米、　上に続く
1740年　4月16日 元文5年　3月20日 晴　巳の刻より時々小雪　未の下刻よりはれる （2月中野内:人数29人・出入り人数都合74人、御内分より78両御貸出、19日昼広須新田玉水村に60男坊主倒死、浦町組2軒6人　上に続く
1740年　4月17日 元文5年　3月21日 晴 （御内分より御下向御用金2500両御貸出、御用人佐和與左衛門に一粒金丹10粒、18日奥平部村で破船1艘・岩上で1人死亡、飯詰・高杉・油河組154余軒768人(602と158)に御救い米）
1740年　4月18日 元文5年　3月22日 晴 （17日俵元新田富川村で火災・火元村預け・赦免、青森上濱町に男倒死）
1740年　4月19日 元文5年　3月23日 晴 （男牢死、御内分より120両御貸出）
1740年　4月20日 元文5年　3月24日 曇　辰の刻過ぎより　午の中刻止む （蟹田町・広田組等14か村157軒721人に10日分の御救い米）
1740年　4月21日 元文5年　3月25日 陰晴　夜に入り雨
1740年　4月22日 元文5年　3月26日 曇　時々雨
1740年　4月23日 元文5年　3月27日 晴 （青森虹貝町49軒227人(155と72)・高杉組十面沢村9軒43人(29と14)に御救い米5日分）
1740年　4月24日 元文5年　3月28日 晴
1740年　4月25日 元文5年　3月29日 辰の刻より雨　巳の刻過ぎより雷暫く発す　午の刻過ぎまで時々発す　午の刻丸雪　同中刻より晴 （諸手足軽土岐彦六が妻35歳と同僚23歳を女敵打ち）
1740年　4月26日 元文5年　4月1日 晴 （藤崎組藤崎村に50男倒死、3月21日後潟組左関村・3月22日常盤組中野目村で火災・共に類火あり他村預け・共に赦免）
1740年　4月27日 元文5年　4月2日 快晴 （鰺箇沢町奉行が飯米として御蔵米80俵御払い申し立てる・60俵を申付ける）
1740年　4月28日 元文5年　4月3日 快晴 （3月中碇関御印紙出人104人46枚(御国人48・他国者56)・切手紙277人102枚）
1740年　4月29日 元文5年　4月4日 快晴 （御留守居組頭大湯彦八に一粒金丹5粒、土岐彦六が出勤、1日赤石組館前村で火災・類火2軒・火元他村預け、1日浦町組高田村で火災・火元村預け）
1740年　4月30日 元文5年　4月5日 快晴 （熊野宮先大久保堰で40女倒死、柏木組瀬良沢村に50男倒死、3日浪岡組竹鼻村で火災(6間×6間が2軒:郷侍)）

1740年　5月1日 元文5年　4月6日 快晴
1740年　5月2日 元文5年　4月7日 快晴 (3月27日深浦で破船、6日大鰐組大沢村で火災11軒、1日館前村・高田村の他村預け・村預け免許)
1740年　5月3日 元文5年　4月8日 曇 (熊野宮前に14・5女子倒死、藤代組南浮田村に60男倒死、6日油川組飛鳥村で火災3軒・火元他村預け、横内組で火災・火元他村預け)
1740年　5月4日 元文5年　4月9日 晴 巳の下刻雨少々　下から続く　御内分より15両余御貸出、蟹田町56軒229人(88?と41)に御救い米5日分)
1740年　5月5日 元文5年　4月10日 快晴　下から続く　木作新田車力村(100間×1里余)で野火、4日夜金木組毘沙門村で野火(350間×300間)、10日高杉組十面沢村で野火(100間×200間)、　上に続く
1740年　5月6日 元文5年　4月11日 快晴 (3月中野内:出入り91人・大間越:47人、先達て高根村の火元の村預け赦免、7日飯詰御山で山火事・桧70本焼失、5日木作新田大開村で野火・松1689本、4日蟹田山・　上に続く
1740年　5月7日 元文5年　4月12日 快晴 (木作新田長浜村に腹が破れた鯨が寄せる・ひけたけり(ひげ・たけり:要するに鯨で大事な部分です)だけを差上げるようにする)
1740年　5月8日 元文5年　4月13日 曇 巳の下刻より雨
1740年　5月9日 元文5年　4月14日 快晴 (13日広須新田川添村で火災・火元五人組預け)
1740年　5月10日 元文5年　4月15日 晴 卯の刻過ぎ小雨 則刻止む (3日鼻和(竹鼻の誤り?)・?日横内組の火元の村預け赦、12日昼碇関町大落前沢で山火事(14・5丁四方))
1740年　5月11日 元文5年　4月16日 晴 時々雨 (御内分より婚礼御用金として400両御貸出、6日大沢村・飛鳥村の火元の他村預け免許)
1740年　5月12日 元文5年　4月17日 陰晴 昨夜より雨時々 巳の中刻止む (3月中碇関:出入り人数506人、今朝亀甲町に投げ火、7日大鰐組大沢村に火災11軒・火元他村預け)
1740年　5月13日 元文5年　4月18日 晴 (今朝男牢死、尾太3月出高:銅149固7貫目・鉛110固3貫目)
1740年　5月14日 元文5年　4月19日 陰晴 (藤崎組藤崎村に50男倒死、16日飯詰組宮野沢村で火災5軒(4間×12間:給地百姓・5間×10間・5間×9間・4間×8間:御蔵百姓・3間×5間:借地))
1740年　5月15日 元文5年　4月20日 快晴
1740年　5月16日 元文5年　4月21日 快晴 (大間越町奉行が町飯米御払い申立・断られる)
1740年　5月17日 元文5年　4月22日 快晴 (10日磯松村・11日堂野前村の火元に免許、赤石組風合瀬村・13日広須新田川添村の火元に免許、柏木組館野山に火事)
1740年　5月18日 元文5年　4月23日 快晴 (今別町年寄りが飯米として御蔵米200俵御払い願・代銭引替で100俵申付ける、浪岡組新立山に野火(10町×2町))
1740年　5月19日 元文5年　4月24日 快晴
1740年　5月20日 元文5年　4月25日 快晴 (22日富田村・小沢村・原ヶ平村・大和沢村・柏木立山(25丁×4丁)・一野渡村に山火事、22日久渡寺山に40女縊死、22日枯木平村の庄屋(正月12日行方不明)の死骸発見)
1740年　5月21日 元文5年　4月26日 曇 時々雨 未の刻雷発す
1740年　5月22日 元文5年　4月27日 曇 時々小雨 辰の刻雷発す (20日広須新田芦沼村で火災・22日大光寺組李平村で火災・ともに村預け・免許)
1740年　5月23日 元文5年　4月28日 曇 時々雨 巳の下刻大雨暫く ((多分御内分より)御下向御用金として500両御貸出、猿賀組袋村の介左衛門熊取る)
1740年　5月24日 元文5年　4月29日 陰晴 (大間越町奉行が来月分飯米80俵御払い申し出・60俵を申付ける、内真部山(50間×10間)・三馬屋山(25間×10間)で野火)
1740年　5月25日 元文5年　5月1日 曇 巳の下刻小雨 則止む
1740年　5月26日 元文5年　5月2日 陰晴
1740年　5月27日 元文5年　5月3日 陰晴 巳の刻過ぎ小雨暫く (碇関出194人(他国者106御印紙57・御国人88切手紙53)・野内出御国人8人切手紙4枚・鯵ヶ沢湊口1人1枚、4月24日前坂村で火災・火元村預け・免許)
1740年　5月28日 元文5年　5月4日 陰晴 (先月22日瀧澤山に野火、去月16日金木組宮野沢村の火元の押し込め免許)
1740年　5月29日 元文5年　5月5日 快晴
1740年　5月30日 元文5年　5月6日 陰晴 (田舎館組東光寺村に34・5男倒死)
1740年　5月31日 元文5年　5月7日 曇(日雲のように日偏に雲:12・16・21日も同じ) 辰の刻小雨 (柏木組梅田村に男倒死)
1740年　6月1日 元文5年　5月8日 陰晴 今朝雨 巳の刻より晴 申の中刻雨 則止む (赤石組広戸と深浦に破船2艘)
1740年　6月2日 元文5年　5月9日 晴 (去月24日昼駒込山に野火(200間×180間))
1740年　6月3日 元文5年　5月10日 快晴 (4月中大間越:出入り人数60人、同月野内:都合134人)
1740年　6月4日 元文5年　5月11日 快晴 (6日後潟組で火災・火元他村預け・赦免)
1740年　6月5日 元文5年　5月12日 曇 辰の中刻より雨時々 (昨10日十三を出た鯵ヶ沢への小廻り舟13艘中3艘が荷打ち、尾太4月出高:銅260固6貫目・鉛275固10貫目)
1740年　6月6日 元文5年　5月13日 曇 時々小雨 (今日者之風候間御城廻り……(今日は風があるので御城廻りに気を付けろとの指示)、10日長浜に破船2艘・鯵ヶ沢着16艘・行方不明1艘)
1740年　6月7日 元文5年　5月14日 晴
1740年　6月8日 元文5年　5月15日 快晴 (12日夜三新田野末村に強盗・2人負傷)
1740年　6月9日 元文5年　5月16日 曇 今朝霧 (昨晩も土手町に投げ火)
1740年　6月10日 元文5年　5月17日 快晴
1740年　6月11日 元文5年　5月18日 快晴 (大間越の山に野火(3・4間×5・6町)、13日の濡米入札:202俵で1貫536匁8分3厘6毛(1俵7匁6分8毛))
1740年　6月12日 元文5年　5月19日 快晴
1740年　6月13日 元文5年　5月20日 快晴 (広須新田玉水村に男倒死)
1740年　6月14日 元文5年　5月21日 曇 午の刻過ぎより小雨 (御馬廻組頭桜庭病死、去月29日青森上新町に火災・火元遠慮・御免、今日の雨で岩木川6歩余の洪水)
1740年　6月15日 元文5年　5月22日 晴 (21日夜石渡仮橋の水切り柱3本・駒越仮橋水切り柱16本折流す、蟹田御蔵米200俵御払い願・駄賃運賃加え1俵16匁3分7厘で申付ける)
1740年　6月16日 元文5年　5月23日 快晴
1740年　6月17日 元文5年　5月24日 曇 辰の下刻より小雨時々 (21日土手町の御制札に強風被害)
1740年　6月18日 元文5年　5月25日 快晴 (濡米入札:72俵が239匁7分6厘(1俵3匁3分3厘)、24日油川組油川村に57男倒・死)
1740年　6月19日 元文5年　5月26日 快晴 (21日夜舞戸川洪水、13日黒石領平内の田沢村沖で漁船遭難・6人死亡)
1740年　6月20日 元文5年　5月27日 快晴 (22日晩帆柱が折れた船が深浦に入津・もう1艘も深浦に入る)
1740年　6月21日 元文5年　5月28日 快晴
1740年　6月22日 元文5年　5月29日 曇 卯の中刻より雨 終日夜に及ぶ (碇関御仮屋内で火災、27日増館組杉村で火災(5間×9間半:百生)・火元村預け)
1740年　6月23日 元文5年　5月30日 陰晴 午の刻小雨 則止む 夜に入り小雨時々
1740年　6月24日 元文5年　6月1日 (10日まで10日間日記が存在しない)
1740年　6月25日 元文5年　6月2日
1740年　6月26日 元文5年　6月3日
1740年　6月27日 元文5年　6月4日
1740年　6月28日 元文5年　6月5日
1740年　6月29日 元文5年　6月6日
1740年　6月30日 元文5年　6月7日

1740年　7月1日 元文5年　6月8日
1740年　7月2日 元文5年　6月9日
1740年　7月3日 元文5年　6月10日 (1日から10日間日記が存在しない)
1740年　7月4日 元文5年　6月11日 晴 (男牢死、御内分より御途中まで200両御貸出、6日鯵ヶ沢に入津中の水主行方不明・9日鯵ヶ沢八幡で縊死)
1740年　7月5日 元文5年　6月12日 晴　下から続く　野内:出109(御印紙74・御切手紙35)・入り70・合180人、阿芙蓉段々咲立つ、(12日)元寺町に2ヶ月ほどの捨子)
1740年　7月6日 元文5年　6月13日 快晴 (5月中碇関:出184(御印紙74枚126人・御切手紙34枚58人)・入り136・出入り人都合297人、大間越:出31(御印紙15枚21人・御切手紙6枚10人)・入り70・合101人、　上に続く
1740年　7月7日 元文5年　6月14日 快晴 (広須新田蓮沼村に50男倒死)
1740年　7月8日 元文5年　6月15日 陰晴 卯の刻過ぎより小雨 巳の刻より晴 (12日横内組駒込村で火災・火元相百姓預け、4月中碇関:入り228・出210・合438人)　下から続く　銅294箇13貫目・鉛174箇2貫目)
1740年　7月9日 元文5年　6月16日 曇 (御内分より10両余御貸出、大間越町庄屋が当月分飯米30俵追加願・当時相場に駄賃運賃加え1俵17匁4分3厘で15俵申付ける、藤崎組藤崎村に男倒死、尾太5月出高:　上に続く
1740年　7月10日 元文5年　6月17日 曇 午の下刻雨時々
1740年　7月11日 元文5年　6月18日 陰晴
1740年　7月12日 元文5年　6月19日 曇 卯の刻過ぎ小雨 即止む 辰の刻より雨 午の刻まで (御中小姓布川儀介・葛西万太郎を阿芙蓉御用に、屋形様11日江戸発・29日着城予定)
1740年　7月13日 元文5年　6月20日 陰晴 (日和上げ御祈祷を四社に仰せ付ける)
1740年　7月14日 元文5年　6月21日 快晴
1740年　7月15日 元文5年　6月22日 快晴 (油川組津軽坂山中に70尼倒死、郡方物書き福眞林右衛門など4人に鳥目500文の御褒美)
1740年　7月16日 元文5年　6月23日 快晴 (12日駒籠村の火災2軒(3間×13間と外馬屋2間×4間:百姓・3間×8間:高無)、5日江戸発の関札打ち到着、21日小細工人留守宅小火・倅遠慮)
1740年　7月17日 元文5年　6月24日 快晴 (御用人笠原武左衛門に一粒金丹10粒)
1740年　7月18日 元文5年　6月25日 快晴 卯の下刻より土用に入る (今朝男牢死)
1740年　7月19日 元文5年　6月26日 快晴 (御用人佐和與左衛門に御役御免、土手町後ろ(住吉)社地に者倒死、当月12日晩寺町一番町の捨子病死)
1740年　7月20日 元文5年　6月27日 曇 昨夜に入り時々雨
1740年　7月21日 元文5年　6月28日 快晴 (蟹田町の米400俵を1俵17匁4分で御払い)
1740年　7月22日 元文5年　6月29日 快晴 夜に入り雨 (御屋形様御着城)
1740年　7月23日 元文5年　6月30日 陰晴 小雨 巳の刻まで時々 (26日十三から鯵ヶ沢への小廻り船36艘中の1艘が十三で破船・濡れ米291俵)　下から続く　御国人2人切手紙1枚・都合出人181人)
1740年　7月24日 元文5年　7月1日 陰晴 巳の刻過ぎ小雨 則止む (6月中碇関出173(御国人65・他国者64・御印紙49枚・切手紙44人27枚)・野内:他国者3人御印紙2枚・大間越:他国者3人御印紙2枚・　上に続く
1740年　7月25日 元文5年　7月2日 晴 今朝霧 夜に入り雨
1740年　7月26日 元文5年　7月3日 晴 卯の下刻小雨 夜に入る (青森御蔵土米入札:15俵1斗2升5夕が194匁5分、流木100本が21目2分5厘、6月中大間越:出入り98・野内:出入り203人)
1740年　7月27日 元文5年　7月4日 陰晴 小雨時々 夜に及ぶ (御内分より御下向金315両御貸出)
1740年　7月28日 元文5年　7月5日 陰晴 時々雨 (時疫で死に絶えの家あり、3日鯵ヶ沢で破船1艘)
1740年　7月29日 元文5年　7月6日 曇 時々雨 (3日金木組尾別村で火災2軒(4間×11間:庄屋・2間×3間半:百姓)と馬屋(4間×5間)・火元他村預け)
1740年　7月30日 元文5年　7月7日 陰晴
1740年　7月31日 元文5年　7月8日 快晴 (7月渡御切米として御内分より560両余(当面高給者は4ヶ1支給残しあり)御貸出)
1740年　8月1日 元文5年　7月9日 快晴
1740年　8月2日 元文5年　7月10日 快晴 (和田玄春に辻道郭と相談して一粒金丹の調合を仰せ付ける)
1740年　8月3日 元文5年　7月11日 晴 (尾太6月出高:銅297固・鉛567固7貫目)
1740年　8月4日 元文5年　7月12日 陰晴 辰の下刻より小雨 (藤崎組藤崎村に7才程女子倒死、五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1740年　8月5日 元文5年　7月13日 陰晴
1740年　8月6日 元文5年　7月14日 陰晴 午の刻まで時々雨 (今朝男牢死)
1740年　8月7日 元文5年　7月15日 快晴 (鯵ヶ沢入津中の水主に丹後者(丹後者は天候が悪くなるとして入国禁止)3人・大間越口から返すよう手配する、12日尾太銅山の山小屋7軒焼失)
1740年　8月8日 元文5年　7月16日 快晴
1740年　8月9日 元文5年　7月17日 今朝霧 巳の刻より快晴　下から続く　御用立ちかね……・今以て出穂に至り申さず……、御内分より700両御貸出)
1740年　8月10日 元文5年　7月18日 曇 卯の刻過ぎ大雨 暫くして止む 残暑甚だしい 今朝寅の刻雷発す (……(例年)高岡に真桑瓜差上げ申し候えども当年は殊の外前方(まえかたと読み未熟のことか)にて　上に続く
1740年　8月11日 元文5年　7月19日 快晴
1740年　8月12日 元文5年　7月20日 快晴
1740年　8月13日 元文5年　7月21日 曇 時々雨 午の下刻雷発す
1740年　8月14日 元文5年　7月22日 晴 (濡れ米入札:291俵代2貫444目4分(1俵に付き8目4分宛))
1740年　8月15日 元文5年　7月23日 曇 辰の下刻より雨 終日に及ぶ 辰の刻過ぎより風 夜に及ぶ 申の刻甚だしい雨 雷発す 風添う (御内分より御切米4ヶ1渡残38両3歩と銭331目4分4厘(8日の支給残)御貸出)
1740年　8月16日 元文5年　7月24日 陰晴 夜に入り小雨 (道中旅籠定め(1日賄上・中・下):銀2目8分1厘・2目5分8厘・2目2分、江戸在勤の者に病死・行方不明多し)
1740年　8月17日 元文5年　7月25日 曇 卯の下刻より時々雨
1740年　8月18日 元文5年　7月26日 陰晴
1740年　8月19日 元文5年　7月27日 晴 (広須新田隠里村に男倒死)
1740年　8月20日 元文5年　7月28日 曇 辰の刻過ぎより雨 午の刻過ぎ晴 (御能)
1740年　8月21日 元文5年　7月29日 晴 午の中刻雨 暫くして止む (米1俵15目8分・両替48匁8分、26日赤石組金井ヶ沢で火災3軒・火元他村預け、弘前でも病死者多い)
1740年　8月22日 元文5年 閏7月1日 曇 今朝より雨時々 夜に入る (7月中出人213人(他国者185(碇関182人御印紙56枚・大間越2人1枚・野内1人1枚)・御国人28人(碇関26人切手紙18枚・野内1人1枚・小泊湊1人1枚))
1740年　8月23日 元文5年 閏7月2日 曇 巳の刻前雨時々 終日に及ぶ
1740年　8月24日 元文5年 閏7月3日 快晴 残暑甚
1740年　8月25日 元文5年 閏7月4日 快晴 (大間越町から当月分御蔵米70俵御払い願・当時相場に駄賃運賃加え1俵17匁5分3厘で50俵申付ける)
1740年　8月26日 元文5年 閏7月5日 陰晴 酉の刻雨少し降る
1740年　8月27日 元文5年 閏7月6日 快晴 残暑甚 (東長町に2歳斗女子捨子、大目付竹内源太夫に一粒金丹5粒、男牢死・それを斬罪)
1740年　8月28日 元文5年 閏7月7日 快晴 残暑甚 未の下刻雷発す 酉の刻止む(どう見ても「正」に見える・古文書らしい間違い) (先月26日金井ヶ沢の火元の他村預け免許)
1740年　8月29日 元文5年 閏7月8日 晴 残暑甚 未の刻より申の刻まで雷発す 大雨 (江戸から金の無心、藤代組町田村に男倒死)
1740年　8月30日 元文5年 閏7月9日 曇 辰の刻より午の刻まで雨 (6月中碇関:出入り人数303人)
1740年　8月31日 元文5年 閏7月10日 陰晴 辰の刻過ぎ小雨 即止む(これも正) (尾崎組大坊村・大鰐組大鰐村より初米上がる、御家老隈部伊織に一粒金丹30粒)

1740年　9月1日 元文5年 閏7月11日 晴 （林檎明日差上げる、御用人落合大右衛門に一粒金丹?粒）
1740年　9月2日 元文5年 閏7月12日 晴
1740年　9月3日 元文5年 閏7月13日 曇 未の中刻より雨 夜に及ぶ
1740年　9月4日 元文5年 閏7月14日 曇 昨夜中より 終日に及ぶ(おそらく雨のこと)
1740年　9月5日 元文5年 閏7月15日 晴 申の下刻より雨 夜に入り降る （増館組下十川村に60程道心倒死）
1740年　9月6日 元文5年 閏7月16日 曇 （五山に日和揚げの御祈祷を申付ける）
1740年　9月7日 元文5年 閏7月17日 曇
1740年　9月8日 元文5年 閏7月18日 晴 未の中刻曇 小雨時々 （久渡寺が境内の西瓜差上げる）
1740年　9月9日 元文5年 閏7月19日 晴 辰の下刻まで小雨 巳の刻より晴
1740年　9月10日 元文5年 閏7月20日 晴
1740年　9月11日 元文5年 閏7月21日 曇
1740年　9月12日 元文5年 閏7月22日 晴 （今朝男牢死）
1740年　9月13日 元文5年 閏7月23日 曇 辰の下刻より雨 終日に及ぶ 辰の刻過ぎより風 夜中に及ぶ 申の刻激雨 雷発す
1740年　9月14日 元文5年 閏7月24日 曇 夜入小雨
1740年　9月15日 元文5年 閏7月25日 曇 卯の下刻より小雨
1740年　9月16日 元文5年 閏7月26日 陰晴 （赤田組板屋野木村に12・3男子倒死、広須新田上木作村に4歳男子倒死、23日昼4時より夜8時まで浦町・横内組で大東風・小家潰れ作毛吹きこぼれる）
1740年　9月17日 元文5年 閏7月27日 曇 （赤石組支配?出来嶋に破船2艘・金井ヶ沢に破船1艘、25日百沢村で殺傷事件あり）
1740年　9月18日 元文5年 閏7月28日 曇 辰の刻過ぎより雨 午の刻まで晴 （石渡川下流に20斗女倒死）
1740年　9月19日 元文5年 閏7月29日 晴 午の中刻雨 暫くして止む(これも正) （不明日時に浦町組八つ役村・駒越組五所村で火災・火元の村預け赦免）
1740年　9月20日 元文5年 閏7月30日 曇 夜中大雨時々 （御旗奉行長尾戸左衛門に一粒金丹5粒、御内分より12両御貸出、藤代組藤代村の川原に13・4女子倒死）
1740年　9月21日 元文5年　8月1日 陰晴 （7月中出149人(他国者86(碇関78人御印紙57枚・野内3人2枚・大間越5人2枚)・御国人63(碇関61人切手紙35枚・野内1人1枚・大間越1人1枚)）
1740年　9月22日 元文5年　8月2日 快晴 夜に入り雨 （藤代組藤代村川原に13・4女倒死:30日と同じか）
1740年　9月23日 元文5年　8月3日 快晴 （八幡祭礼の通行のためのいろいろな申立て）
1740年　9月24日 元文5年　8月4日 陰晴 （7月中野内:出入り都合189人、昨夜駒越組五所村で物置火災）
1740年　9月25日 元文5年　8月5日 雨終日 （一昨朝駒越組五所村で火災(2間×3間:百姓)・火元村預け、長勝寺入り口枡形内に13斗男子倒死）
1740年　9月26日 元文5年　8月6日 曇 雨終日に及ぶ （人事異動あり、長勝寺境内に男倒死）
1740年　9月27日 元文5年　8月7日 陰晴 辰の下刻雨少し それより陰晴
1740年　9月28日 元文5年　8月8日 晴 夜に入り雨 （流木御払い:御家老衆75本宛……茶道頭～7本宛、藤代組石渡村に女倒死）
1740年　9月29日 元文5年　8月9日 曇 今朝より雨時々 （3日駒越組五所村の物置火災の火元免許、藤代組石渡村の川原に11歳女子・三世寺村に男倒死）
1740年　9月30日 元文5年　8月10日 快晴 （御家中の弓高覧、先月中大間越:出16・入り25・都合41人、広須新田木作村に女子倒死、田舎館組高樋村に男倒死）
1740年　10月1日 元文5年　8月11日 快晴 （藤代組石渡村の川原に50女倒死、田舎館組高樋村に50男倒死、尾太閏7月出高:銅365固・鉛515固12貫目）　下から続く　で男・紺屋町で男子それぞれ倒死）
1740年　10月2日 元文5年　8月12日 晴 （御内分より100両御貸出、御隠居様の小納戸金が遅れご立腹、松田長左衛門・御台所頭宮館五郎右衛門に一粒金丹3粒、駒越組熊島村・常盤組矢沢村・油川組岩渡村　上に続く
1740年　10月3日 元文5年　8月13日 晴 未の刻より雨
1740年　10月4日 元文5年　8月14日 曇 辰の中刻より雨
1740年　10月5日 元文5年　8月15日 曇 辰の刻過ぎに小雨時々 （八幡御祭礼）
1740年　10月6日 元文5年　8月16日 曇 卯の刻過ぎ雷発す 小雨 巳の刻過ぎ晴 （入札:鯵ヶ沢御蔵籾1俵が12匁5分・小麦5斗4升が18匁6分2厘、御用人落合大右衛門に一粒金丹15粒）
1740年　10月7日 元文5年　8月17日 曇 卯の下刻雷発す 雨終日に及ぶ 夜に入り岩木山頂上雪少々見る （駒越組一町田村に男倒死）
1740年　10月8日 元文5年　8月18日 陰晴 辰の刻より雨 巳の中刻止む （一町田村に倒死の男74・5歳、御内分より36両御貸出）
1740年　10月9日 元文5年　8月19日 快晴
1740年　10月10日 元文5年　8月20日 晴 大霜
1740年　10月11日 元文5年　8月21日 快晴
1740年　10月12日 元文5年　8月22日 快晴 今朝大霜 夜に入り小雨 （閏7月5日夜東長町に2歳ばかりの女子捨子・病死）
1740年　10月13日 元文5年　8月23日 曇 巳の下刻より雨 午の刻雷発す 雨終日に及ぶ
1740年　10月14日 元文5年　8月24日 曇 辰の刻過ぎより雨 終日に及ぶ
1740年　10月15日 元文5年　8月25日 曇 昼夜雨 東西南山雪降る 夜に入り雷発す （平井亀之丞に一粒金丹3粒、柳原小納戸金として御内分より200両御貸出、五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1740年　10月16日 元文5年　8月26日 陰晴 昨夜中雨 辰の中刻止む （御手廻り番頭藤田八太夫に金丹3粒、初鮭1尺十三より上がる）
1740年　10月17日 元文5年　8月27日 曇 昨夜中雨 巳の刻雷発す 巳の刻より未の刻まで大雨 （25日夜横内組藤沢村で火災(3間×4間:高無)・火元村預け）
1740年　10月18日 元文5年　8月28日 陰晴 申の下刻より雪時々 （赤石組鴨村より2番鮭上がる、御隠居様に金が届かず機嫌悪い）
1740年　10月19日 元文5年　8月29日 快晴 今朝霜 亥の刻より雨 終夜に及ぶ （26日朝長浜に佐渡の船が破船）
1740年　10月20日 元文5年　8月30日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ （閏7月中碇関:入り183・出144人、大間越町庄屋が来9月分御蔵米70俵御払い願・当時相場に駄賃運賃加え1俵21匁1分3厘で仰せ付ける）
1740年　10月21日 元文5年　9月1日 晴 夜に入り雨暫く （8月中出227人(碇関200(御国者10・他国者190・御印紙96枚)・青森湊口1人切手紙1枚・碇関出御国人26人切手紙16枚)、増館組水湛3尺5寸など）
1740年　10月22日 元文5年　9月2日 晴 （東長町橋下に50余男倒死、昨晩亀甲町に2つばかりの女子捨子、御家中が家来の子供を折檻死させる）
1740年　10月23日 元文5年　9月3日 晴 今朝霜 未の刻より雨時々 （御目付高瀬直?右衛門に一粒金丹3粒、御内分より35両御貸出）
1740年　10月24日 元文5年　9月4日 陰晴 時々雨 酉の中刻過ぎ霰 雨終夜に及ぶ （鯵ヶ沢町七石村で火災）
1740年　10月25日 元文5年　9月5日 陰晴 （十三町奉行に一粒金丹3粒、七石村の火災は7軒焼失・潰れ家2軒・蔵3軒）
1740年　10月26日 元文5年　9月6日 晴 風立 （大鰐組大沢村に42・3男倒死）
1740年　10月27日 元文5年　9月7日 晴 （8月中大間越:人数合40人・出入り人別64人・碇関:入り人数294・出入り人数合527人、御手廻り組楠見甚之助に一粒金丹3粒）
1740年　10月28日 元文5年　9月8日 晴
1740年　10月29日 元文5年　9月9日 快晴
1740年　10月30日 元文5年　9月10日 快晴 （上方の借金が20万両に及ぶ）
1740年　10月31日 元文5年　9月11日 曇 昨夜より雨 終日に及ぶ （亀甲町の2歳ほどの捨て女子病死、痢病多い）

1740年　11月1日 元文5年　9月12日 陰晴　時々小雪　夜に入り雨 （長柄奉行貴田長太夫に一粒金丹3粒、8月中野内:出78・入り70人、藤代組大川村に3歳女子倒死）
1740年　11月2日 元文5年　9月13日 曇　辰の刻より雨　終日に及ぶ　夜中時々雨 （大坂御蔵元茨城屋安五郎と手代久兵衛が御目見え・御用人が挨拶?御囃子・狂言、御内分より23両余御貸出）
1740年　11月3日 元文5年　9月14日 晴 （油川組新城村に60男倒死、鰺ヶ沢七石村の火元入寺・免許）
1740年　11月4日 元文5年　9月15日 快晴　今朝大霜 （高杉組高杉村で18歳女縊死）
1740年　11月5日 元文5年　9月16日 陰晴　今朝霜
1740年　11月6日 元文5年　9月17日 陰晴　卯の刻より小雨　辰の上刻止む （十三町人数932人、表坊主小頭を縄付きで江戸から下げる）
1740年　11月7日 元文5年　9月18日 快晴
1740年　11月8日 元文5年　9月19日 陰晴　巳の中刻より雨　終夜に及ぶ
1740年　11月9日 元文5年　9月20日 曇　雨終日に及ぶ　辰の刻雷発す　午の中刻雷発す （今朝男牢死）
1740年 11月10日 元文5年　9月21日 晴　夜に入り雨 （13日の雨で町田村の古川出水）
1740年 11月11日 元文5年　9月22日 晴　巳の刻大雨　暫く降り止む　それより晴
1740年 11月12日 元文5年　9月23日 晴　夜に入り雨 （隈部伊織が最近登城なし・申しつけをしたことになっている）
1740年 11月13日 元文5年　9月24日 曇　辰の下刻英雨(霙の意か)時々　夜に入り雪 （大鰐組鯖石村に50男倒死）
1740年 11月14日 元文5年　9月25日 晴 （昨日初雪につき……、去る21日夜金木組中柏木村で火災(3間×8間:高無)・雑駄5匹・火元村預け）
1740年 11月15日 元文5年　9月26日 曇　午の下刻より雨　申の刻より雪　夜に入る （藤代組妙堂崎村に44・5女倒死、御能）
1740年 11月16日 元文5年　9月27日 曇　昨夜中より雪時々 （油川組浄満寺に13男子倒死、21日中柏木村の火元の村預け差免）
1740年 11月17日 元文5年　9月28日 曇 （常盤組中野目村に女・増館組水木村に男・広須新田桜井村に男それぞれ倒死）
1740年 11月18日 元文5年　9月29日 陰晴　申の刻過ぎより小雨　夜中に及ぶ　雷発す(夜中に及び雷発す・かもしれない) （28日藤崎組藤崎村に54・5道心倒死、広須新田玉水村に60男倒死）
1740年 11月19日 元文5年　10月1日 晴
1740年 11月20日 元文5年　10月2日 曇　巳の下刻より雨 （青森御蔵大豆入札:6俵が51匁4分、今朝男牢死）
1740年 11月21日 元文5年　10月3日 快晴 （広須新田桜井村に35・6男倒死、新町に2歳ほどの女子捨子・死亡）
1740年 11月22日 元文5年　10月4日 曇　時々雨 （9月中碇関:入り102・出210人）
1740年 11月23日 元文5年　10月5日 曇　時々雨　申の刻雷発す　同刻大雨
1740年 11月24日 元文5年　10月6日 晴　夜に入り雪 （猿賀組林子野木村で火災）　下から続く　24両2分御貸出、銅1固(16貫目)に付き平均190目位・鉛が125匁余だったものが上方で鉛払底に付き1固代銭325匁余）
1740年 11月25日 元文5年　10月7日 曇　昨夜より雪　巳の刻より雨 （2日和徳組和徳村で火災・火元村預け免許、先月中大間越:出58・入り82・都合190人、同月野内:出66・入り82・往来10・都合163人、御内分より　上に続く
1740年 11月26日 元文5年　10月8日 曇　昨夜より雪終日に及ぶ （和徳組富田村に23・4男・広須新田吉岡村に50男それぞれ倒死、尾太9月出高:銅223固11貫目・鉛265箇5貫目）
1740年 11月27日 元文5年　10月9日 曇　雪終日 （2日の和徳村火災の詳細あり、男牢死・同人を斬罪）
1740年 11月28日 元文5年　10月10日 陰晴　昨夜より雪
1740年 11月29日 元文5年　10月11日 快晴 （駒越組枯木平村で当作一切実法(実り)無……・(各組代官から)当作別而不宜……、5日林子野木村の火元の村預け免許、今朝男牢死、和徳組和徳村に男倒死）
1740年 11月30日 元文5年　10月12日 曇　昨夜より小雨時々
1740年　12月1日 元文5年　10月13日 曇　昨夜中より雨　午の刻過ぎ止む　夜に入り少し雨
1740年　12月2日 元文5年　10月14日 曇　卯の刻雪　辰の刻より晴 （当月3日青森安方沖で漁船遭難・6人行方不明、7日小泊湊で大風のため破船5艘、御内分より49両3歩余御貸出）
1740年　12月3日 元文5年　10月15日 晴　今朝雪 （赤石組代官から1365石6斗・後潟組代官からも1560石銭納の申出で・1俵18匁の仮値段で）
1740年　12月4日 元文5年　10月16日 晴
1740年　12月5日 元文5年　10月17日 晴　夜に入り小雨 （両替48匁5分、駒越組近名村に50男倒死、十三潟が10日朝迄に氷張る・節に引き合い32日早い、藤代組土堂村に者倒死・狼に食散らされて、御内分より30両余御貸出）
1740年　12月6日 元文5年　10月18日 晴 （7日の大風で浅虫村の御番所に被害）
1740年　12月7日 元文5年　10月19日 快晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ （青森より二番鱈上がる）
1740年　12月8日 元文5年　10月20日 曇　今朝より雨時々　夜に及ぶ （牢奉行が牢舎の36人に衣類申し立てる・宿無しの14人に衣類を下し置かれる、飯詰組畑中村に60男倒死）
1740年　12月9日 元文5年　10月21日 曇　時々雪 （18日柏木組柏木村に30男倒死、大鰐組大沢村に14・5男子倒死）
1740年 12月10日 元文5年　10月22日 曇　昨夜中より雪時々　午の中刻より晴 （7日の大風で十三御蔵破損、相良町南溜池脇に6・7歳女子倒死）
1740年 12月11日 元文5年　10月23日 曇　未の刻雪 （21日大鰐組大沢村に44・5男倒死、20日広須組大姓村に10歳女子倒死）
1740年 12月12日 元文5年　10月24日 陰晴　寅の刻地震 （23日金木組浪岡村(浪岡は金木組ではないが)に50余男倒死、22日赤田組板屋野木村に5・6歳女子倒死、御内分より金12両余(銭730目)御貸出）
1740年 12月13日 元文5年　10月25日 快晴　未の上刻地震
1740年 12月14日 元文5年　10月26日 晴　夜に入り雨 （此の度御倹約仰せ出され候に付き申し渡す）
1740年 12月15日 元文5年　10月27日 晴　夜に入り雨 （21日広須新田本増村で火災・火元村預け赦免、東長町に袖乞い毎夜20人・その1人の50余男倒死）
1740年 12月16日 元文5年　10月28日 曇　巳の刻より雪時々 （大円寺裏門の西で42・3男縊死）　30日から続く　廻り6寸生目形40目:15才)それぞれ熊とる、今日昼駒越組五所村に10歳男川流れ死亡）
1740年 12月17日 元文5年　10月29日 曇　今朝より雪　夜に入り雪時々 （御用人竹内源太夫に一粒金丹10粒、一昨夜東長町の袖乞い20余女倒死、藤崎組藤崎村の50道心倒死）
1740年 12月18日 元文5年　10月30日 曇　今朝より時々小雪 （昨夜藤崎組町居村で火災・火元給地百姓を呵(しかり)置く、金木組今泉村の助右衛門(玉当り胆皮のみ:7才)・浦町組会子沢村の弥十郎(胆長3寸5歩　28日に続く
1740年 12月19日 元文5年　11月1日 曇　時々雪　辰の三刻日そく(日食) （去月27日に和徳町に当年生の男子捨子、今朝男牢死）
1740年 12月20日 元文5年　11月2日 陰晴
1740年 12月21日 元文5年　11月3日 晴　午の初刻より冬至　未の刻より雪　夜中に及ぶ
1740年 12月22日 元文5年　11月4日 晴 （先月26日油川組岡町村で火災・火元村預け赦免）
1740年 12月23日 元文5年　11月5日 快晴 （先月28日町居村の火元の押し込め免許、東長町に50男袖乞い倒死）
1740年 12月24日 元文5年　11月6日 快晴 （馬に倹約があり飼育制限）　下から続く　赤石組から1365石余の銭納申し立て・400石を1俵20匁の仮値段で）
1740年 12月25日 元文5年　11月7日 曇　卯の刻より大雨　巳の刻過ぎ風立つ　午の刻より雨止む （東長町に60男袖乞い・藤崎組藤崎村に35・6道心(狼の傷あり)倒死)、今日男牢死、永井三郎兵衛に一粒金丹3粒、　上に続く
1740年 12月26日 元文5年　11月8日 曇　巳の下刻より小雪降 （2日広須組懸落野林村(赤田組か)に火災・火元村預け免許、御内分より36両御貸出、尾太10月出高:銅鉛合449固6貫目）
1740年 12月27日 元文5年　11月9日 曇　巳の刻より雪 （御用人田村源太兵衛に一粒金丹10粒、10月中碇関出:御印紙46枚57人・往来証文15人・切手紙34枚53人・入り人113人・出入り合238人、野内10月:出入り都合216人）
1740年 12月28日 元文5年　11月10日 曇　昨夜中より雪 （10月中大間越:出入り196人、親方町に40男袖乞い・和徳町に者・9日亀甲町に13・4男袖乞い・東長町橋下に50余男・本町に30余男袖乞い倒死）
1740年 12月29日 元文5年　11月11日 晴　夜に入り雪
1740年 12月30日 元文5年　11月12日 晴　時々雪　夜に入り少々雪
1740年 12月31日 元文5年　11月13日 快晴　夜に入り少々雪 （今別町・浦町・横内組から銭納申し立て・仮値段1俵21匁に）